

# 京都府遺跡調査報告書

第 36 冊

市 田 齊 当 坊 遺 跡

<本文編>

2 0 0 4

財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター



(1)A 調査区(3次調査)弥生時代遺構面全景



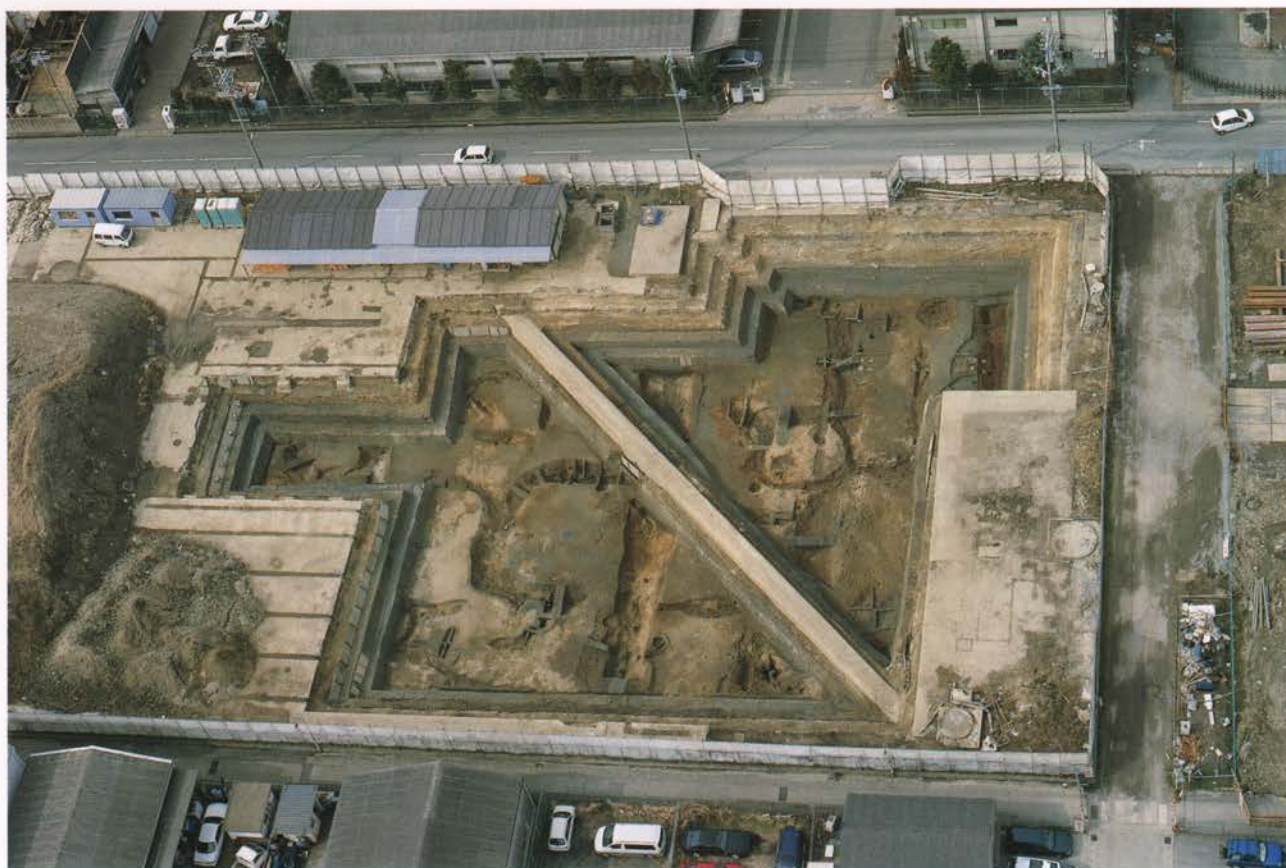
(2)B・C 調査区(1次調査)弥生時代遺構面全景



(1)B 調査区弥生時代遺構面全景



(2)C 調査区(1次調査)弥生時代遺構面全景



(1)D調査区弥生時代遺構面全景



(2)C調査区S E 453検出状況



(1)磨製石剣



(2)玉作り関連遺物



(1)碧玉



(2)碧玉ほか



B調査区出土双鳥草花鏡

## 序

京都府久世郡久御山町大字市田小字齊当坊に所在する市田齊当坊遺跡に関する報告書を『京都府遺跡調査報告書』第36冊として刊行します。

市田齊当坊遺跡の発掘調査は、第二京阪道路および京都南道路建設に伴い、国土交通省近畿地方整備局の依頼を受けて、(財)京都府埋蔵文化財調査研究センターが主体となって、平成10年度以降、継続して実施したものであります。

各年度の調査成果の概要については、逐次『京都府遺跡調査概報』・『京都府埋蔵文化財情報』に掲載してきたところですが、本書は、それら概要報告で果たせなかった詳細な事実報告を行ったものであります。

現地での発掘調査の実施から本書の刊行に至るまで、国土交通省近畿地方整備局に、多大のご理解とご協力を賜りました。また、京都府教育委員会・久御山町教育委員会をはじめ、関係各方面から、有益なご指導ならびに、ご助言を頂くことができました。この場を借りまして厚く御礼申し上げます。

最後に、この仕事にかかわった担当職員諸君の労苦をねぎらうとともに、本書が京都府のみならず、わが国の考古学研究の進展に寄与することを、心から願ってやみません。

平成16年3月

財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター  
理事長 上田正昭



# 例 言

1. 本書は、京都府久世郡久御山町大字市田小字齊当坊・新珠城地内に位置する市田齊当坊遺跡の発掘調査報告書である。本調査は、国土交通省(旧建設省)・日本道路公団が建設している京都南道路・第二京阪自動車道の建設に先立ち、国土交通省近畿地方整備局の依頼を受けて実施した。
2. 現地調査および本報告書作成に係るすべての経費は、国土交通省近畿地方整備局が負担した。
3. 実測に用いた測量基準は、国土座標平面直角座標系第6系(日本測地系)および東京湾海拔(T. P.)で、方位は座標の北を指す。また、国土地理院発行地形図の方位は真北を指す。
4. 本報告書で使用した遺構番号は、『京都府遺跡調査概報』第90・95・105冊に所収された市田齊当坊遺跡の概報に準拠したが、各調査区で同じ遺構番号も存在するため、文章中および挿入図中では遺構種類略号のあとに調査区(A～D)を補って示した。遺物番号は土器・石器・玉ごとに1から付し、遺物自体にも同番号を記した。遺構平面図は空撮測量図を基準とした。このため、平面図は遺構の最終掘削状況を示しており、遺構の先後関係を示してはいない。
5. 観察表において、遺物重量を示す場合、0～50gまでは1mg単位(小数点第2位)、50～300gは1/10g単位(小数点第1位)、300g～1kgは1g単位、1kg以上は100g単位で示した。0～300gは電子振動式秤(㊤新光電子DJM-300)、300g～1kgは料理用バネ秤、1kg以上は電子体重計を使用した。
6. 執筆分担は、第1章を奥村清一郎、第2章および第3章第2節井戸の項を岩松保・野島永・高野陽子、第3・4・6章を野島永のほかに、第4章第1節土器の項および第5章第1節を松野元宏、第4章第1節石庖丁・磨製石器未成品・砥石の項および第5章第2節を土屋みづほ、第4章第1節穿孔具ほか・玉・第5章第3節を野島永・望月誠子、第4章第2節土器・埴輪の項を丸吉繁一、第5章第4節を高野陽子、第5章第5節を岩松保が、それぞれ分担した。また、第4章第3節草花双鳥鏡の項は、京都大学大学院文学研究科中川あや氏に、付論1については、東京大学総合研究博物館吉田邦夫氏に玉稿を賜った。記して感謝したい。
7. 現地調査の遺構撮影は、現地調査担当の調査第2課調査員がそれぞれ行ない、出土遺物の写真撮影は、調査第1課資料係主任調査員田中彰が行った。
8. 本書の編集は、調査第2課課長補佐兼調査第3係長(平成14年度)奥村清一郎の指導・監督のもと、調査第2課調査第3係調査員野島永が行った。
9. 調査・整理報告に係わる実測図・写真などの記録は、当分の間、(財)京都府埋蔵文化財調査研究センターが保管している。

# 本文目次

第1章 調査の経緯-----	1
第1節 調査にいたる経過-----	1
第2節 調査体制-----	6
第2章 遺跡の環境-----	8
第1節 歴史・地理的環境-----	8
第2節 地震による曲隆-----	11
第3節 堆積層序-----	11
(1) A調査区	(2) B調査区
(3) C調査区	(4) D調査区
第3章 検出遺構-----	16
第1節 弥生時代の検出遺構-----	16
1. 竪穴式住居跡・掘立柱建物跡-----	16
(1) A調査区	(2) B調査区
(3) C調査区	(4) D調査
2. 土坑-----	41
(1) A調査区	(2) B調査区
(3) C調査区	(4) D調査区
3. 井戸-----	59
(1) C調査区	(2) D調査区
4. 方形周溝墓-----	62
(1) A調査区	(2) C調査区
(3) D調査	
5. 大溝・溝-----	75
(1) B調査区	(2) C調査区
第2節 古墳時代の検出遺構-----	76
1. 墳墓-----	76
2. 井戸-----	76
3. 溝-----	77
第3節 平安時代以降の検出遺構-----	77

1. 井戸-----	77	
2. 条里型地割に規制された素掘り溝群-----	77	
3. 坪内遺構-----	81	
 第4章 出土遺物-----	 83	
第1節 弥生時代の遺物-----	83	
1. 弥生土器-----	83	
(1)土器分類	(2)出土土器の概要	
2. 石器-----	95	
(1)石剣	(2)石鏃	(3)石斧
(4)石庖丁	(5)磨製石器不明品	(6)砥石
(7)敲石ほか	(8)玉砥石	(9)石鋸
(10)穿孔工具ほか	(11)楔状石器	(12)石錐・石小刀ほか
(13)打製石器ほか	(14)石材・台石など	
3. 玉-----	118	
(1)碧玉剥片・素材石核	(2)碧玉角柱体(形割未成品)	
(3)管玉未成品	(4)碧玉管玉製品ほか	
(5)そのほかの碧玉製品	(6)翡翠勾玉ほか	
(7)チャート・水晶未成品	(8)滑石製白玉	
4. 鉄製品-----	122	
5. 木製品-----	122	
(1)井戸側木材	(2)手斧木柄	
第2節 古墳時代の遺物-----	123	
1. 土器-----	123	
(1)土師器	(2)須恵器	
2. 埴輪-----	125	
3. 石器-----	125	
紡錘車		
第3節 平安時代以降の遺物-----	125	
1. 土器-----	125	
2. 金属製品-----	125	
銅鏡		
3. 石製品-----	127	
(1)空風輪	(2)石臼	(3)硯

第5章 考察-----	128	
第1節 市田斉当坊遺跡出土弥生土器の検討-----	128	
1. はじめに-----	128	
2. 型式設定と型式変遷の検討-----	128	
(1)型式設定の方法	(2)甕の検討	
(3)壺の分類		
3. 一括資料による検証-----	141	
4. 各時期の様相-----	141	
(1)市田1期	(2)市田2期	(3)市田3期
(4)市田4期	(5)市田5期	(6)市田6期
(7)市田7期		
5. 市田斉当坊遺跡における推移と画期-----	147	
6. まとめ-----	147	
第2節 市田斉当坊遺跡における石器製作-----	148	
1. 各器種のライフヒストリー-----	148	
(1)石庖丁	(2)石剣	(3)磨製石鎌
(4)片刃石斧	(5)太型蛤刃石斧	
2. 石材からみたライフヒストリーとその比較-----	152	
(1)粘板岩	(2)火成岩	
3. 周辺遺跡との比較-----	155	
4. 結語-----	157	
第3節 市田斉当坊遺跡における玉作り用穿孔工具について-----	158	
1. サマカイト製磨製石針の製作方法とその特質-----	158	
(1)石針の製作方法	(2)石針製作の技術的特徴	
2. サマカイト製磨製石針の先端部形態の形成とその使用をめぐって-----	160	
(1)石針の先端部形態の形成	(2)石針軸受けの有無について	
3. 管玉の製作工程-----	162	
(1)工程1：荒割	(2)工程2：形割	
(3)工程3：全面研磨加工	(4)工程4：長さ調節	
(5)工程5：穿孔	(6)工程6：最終研磨	
4. 玉作り関連遺物の遺構間比較-----	164	
第4節 市田斉当坊遺跡の井戸と弥生時代の木組井戸-----	169	
1. 市田斉当坊遺跡の井戸-----	169	
2. 井戸掘削の背景-----	169	
3. 汲み上げ式と降下取水式-----	172	

4. 木製井戸側木枠の構造と地域的展開-----	174
(1) 北部九州                    (2) 山陽                    (3) 山陰	
(4) 近畿                        (5) 北陸                    (6) 中部・東海	
5. 東アジアの井戸と市田齊当坊遺跡の井戸の系譜-----	181
第5節 市田齊当坊遺跡の方形周溝墓—特に周溝を掘り直す行為；京都府内の事例を含めて—	184
1. はじめに-----	184
2. 市田齊当坊弥生集落における周溝墓の様相-----	184
(1) 周溝墓概観                    (2) A調査区の周溝墓	
(3) C調査区の周溝墓                (4) D調査区の周溝墓	
3. 周溝の“再掘削”行為の種類-----	190
(1) 四周の周溝の再掘削                (2) 周溝の共有による再掘削溝	
(3) 不定形の溝による再掘削            (4) 溝状の土坑による再掘削	
(5) 大溝による周溝の再掘削	
4. 周溝を掘り直すということ-----	195
5. おわりに-----	197
第6章 総括-----	199
1. 集落の様相-----	199
(1) 住居の変遷                    (2) 墓域の形成とその変遷	
(3) 弥生集落の終焉	
2. 生業に関して-----	201
(1) 玉作り                        (2) 石器生産	
3. 弥生時代の市田齊当坊遺跡と地域間関係-----	202
4. 古代・中世の市田齊当坊遺跡-----	203
付論1 穿孔途中の管玉と玉錐-----	219
1. はじめに                            2. 一般機器でも観察が可能	
3. X線CT                              4. CT画像から読みとれること	
5. 玉錐の形と穿孔方法                6. 材質	
7. 研磨法	
付論2 竪穴式住居跡S HC453における碧玉玉材等の産地分析(抄)-----	227
1. はじめに                            2. 非破壊での産地分析の方法と手段	
3. 碧玉原石の蛍光X線分析                4. 碧玉の原産地と原石の分析結果	
5. 市田齊当坊遺跡出土の碧玉玉材と国内産碧玉原材との比較	
6. 蛍光X線法による産地分析            7. ESR法による産地分析(抄)	

8. 結 論	
付論3 井戸出土木材による放射性炭素年代測定-----	239
1. はじめに	2. 試料と方法
3. 結果	4. 暦年代較正
5. 考察	
付論4 井戸S EC453における樹種同定-----	241
1. はじめに	2. 試料
3. 方法	4. 結果
5. 所見	
付論5 井戸S EC453有機物包含層における種実同定-----	245
1. はじめに	2. 試料
3. 方法	4. 結果
5. 種実同定から推定される植生と農耕	
付論6 竪穴式住居跡および井戸・大溝における花粉分析-----	251
1. はじめに	2. 試料
3. 方法	4. 結果
5. 花粉分析から推定される植生と環境	6. まとめ
付論7 井戸および大溝から出土した大型植物化石-----	263
1. はじめに	2. 試料
3. 方法	4. 出土した大型植物化石
5. まとめ	6. 主な大型植物化石の形態などの記載
付論8 大溝(環濠)埋土土壌の花粉化石-----	268
1. 試料と分析方法	2. 分析結果
3. 産出花粉化石の特徴	
付論9 市田齊当坊遺跡の寄生虫卵-----	273
1. 試料と分析方法	2. 寄生虫卵分析結果
3. トイレ遺構について	
付論10 B調査区土坑S KB911から出土した焼土塊について-----	276
1. はじめに	2. 試料と方法
3. 分析結果	4. 考察
5. おわりに	
付論11 市田齊当坊遺跡出土花草双鳥鏡の鏡箱蓋の塗膜について-----	289
1. 使用機器および分析条件	2. 分析結果

## 付表目次

付表1	市田齊当坊遺跡調査体制-----	6
付表2	竪穴式住居跡S HC451地区別遺物出土状況-----	38
付表3	甕口頸部形態関係表-----	132
付表4	甕B胴部上半外面調整-----	135
付表5	甕B胴部上半内面調整-----	135
付表6	広口壺における口縁端部形態と装飾の関係-----	139
付表7	各遺構の形式組成-----	142
付表8	主要遺構別石針未成品出土状況-----	166
付表9	主要遺構別石針出土状況-----	167
付表10	弥生時代～古墳時代初頭の木組井戸-----	174
付表11	竪穴式住居跡一覧-----	291
付表12	土坑ほか一覧-----	295
付表13	方形周溝墓一覧-----	313
付表14	土器観察表(弥生時代)-----	316
付表15	土器観察表(古墳時代以降)-----	381
付表16	石剣観察表-----	383
付表17	石鏃観察表-----	386
付表18	石斧観察表-----	390
付表19	石庖丁観察表-----	394
付表20	磨製石器不明品観察表-----	400
付表21	砥石観察表-----	402
付表22	敲石ほか観察表-----	404
付表23	玉砥石観察表-----	405
付表24	石鋸観察表-----	407
付表25	穿孔工具ほか観察表-----	409
付表26	石錘・石小刀・打製石器観察表-----	431
付表27	石材観察表-----	434
付表28	台石ほか観察表-----	434
付表29	玉観察表-----	435

# 挿 図 目 次

第1図	市田斉当坊遺跡・佐山遺跡・佐山尼垣外遺跡の各年度の調査区配置図-----	2
第2図	調査区配置図-----	3
第3図	市田斉当坊遺跡 調査区と遺構略図-----	4
第4図	調査地周辺の歴史的環境略図-----	8
第5図	市田斉当坊遺跡調査地位置図-----	9
第6図	調査地周辺遺跡分布図-----	10
第7図	各調査区の壁面土層図(1)-----	12
第8図	各調査区の壁面土層図(2)-----	14
第9図	A調査区市田3期(山城Ⅲ様式期)の竪穴式住居跡-----	17
第10図	B調査区竪穴式住居跡群とその呼称-----	20
第11図	B調査区市田3・4期(山城Ⅲ様式期)の竪穴式住居跡-----	23
第12図	B調査区市田5～7期(山城Ⅳ様式期)の竪穴式住居跡-----	24
第13図	C調査区竪穴式住居跡群とその呼称-----	31
第14図	C調査区市田2期(山城Ⅱ様式期)の竪穴式住居跡-----	33
第15図	C調査区市田3・4期(山城Ⅲ様式期)の竪穴式住居跡-----	34
第16図	C調査区市田5～7期(山城Ⅳ様式期)の竪穴式住居跡-----	35
第17図	竪穴式住居跡S HC451出土遺物位置図-----	39
第18図	D調査区市田2期(山城Ⅱ様式期)の竪穴式住居跡-----	40
第19図	A調査区市田1・2期(山城Ⅱ様式期)の土坑-----	42
第20図	A調査区市田3・4期(山城Ⅲ様式期)の土坑-----	43
第21図	A調査区市田5～7期(山城Ⅳ様式期)の土坑-----	44
第22図	B調査区市田2期(山城Ⅱ様式期)の土坑-----	48
第23図	B調査区市田3・4期(山城Ⅲ様式期)の土坑-----	49
第24図	B調査区市田5～7期(山城Ⅳ様式期)の土坑-----	50
第25図	C調査区市田2期(山城Ⅱ様式期)の土坑-----	56
第26図	C調査区市田3・4期(山城Ⅲ様式期)の土坑-----	57
第27図	C調査区市田5～7期(山城Ⅳ様式期)の土坑-----	58
第28図	井戸S EC453木材の遺物番号-----	60
第29図	井戸S EC31の木材の遺物番号-----	62
第30図	A調査区方形周溝墓S DA59とS DA68の先後関係を示す断面図-----	64
第31図	C調査区方形周溝墓築造状況模式図-----	67



第32図	市田齊当坊遺跡における古代・中世遺構と条里型地割による坪並	78
第33図	A調査区中世大溝S DA51・S DA52土層断面図	79
第34図	弥生土器形式分類(1)	84
第35図	弥生土器形式分類(2)	85
第36図	弥生土器形式分類(3)	86
第38図	粘板岩製石剣と石庖丁の残存長比較	96
第39図	粘板岩・サヌカイト製磨製石剣破片の扁平片刃石斧への再加工想定図	97
第40図	打製石鏃各形式別規模比較	99
第41図	粘板岩製扁平片刃石斧の再利用想定図	101
第42図	石針未成品の形状と剥離方法による厚さの相違	112
第43図	石針未成品の平面形状と剥離方法	113
第44図	サヌカイト製石針先端部形態図	114
第45図	サヌカイト製石針の類型別直径比較	115
第46図	水晶加工片	122
第47図	小形板状鉄斧	122
第48図	井戸S ED31出土斧柄	123
第49図	平安時代花鳥紋鏡	126
第50図	弥生時代中期の主要遺跡分布図	129
第51図	甕形土器分類コード一覧	130
第52図	壺形土器分類コード一覧	131
第53図	甕Aの口径/頸部径比分布	133
第54図	甕Aの口径/頸部径比分布(近江地域)	133
第55図	甕Aの口径/頸部径比分布(大和地域)	133
第56図	甕Aの口径/頸部径比分布(摂津地域)	134
第57図	甕Aの口径/頸部径比分布(乙訓地域)	134
第58図	甕A諸形式の胴部最大径/口径比分布	134
第59図	甕Aaの口径法量分布	136
第60図	甕Abの口径法量分布	136
第61図	甕Bの口径法量分布	136
第62図	広口壺の口頸部係数比	138
第63図	広口壺の口縁部要素と器形の関係	140
第64図	弥生土器形式変遷図(1)	144
第65図	弥生土器形式変遷図(2)	145
第66図	粘板岩製扁平片刃石斧の法量分布	151
第67図	扁平片刃石斧の法量分布	151

第68図	粘板岩製石器のライフヒストリー	153
第69図	火成岩製石器のライフヒストリー	154
第70図	石針製作工程想定図	158
第71図	石針未成品の遺構別規模分布図	164
第72図	サヌカイト製石針の直径比較	165
第73図	玉作りを行った竪穴式住居跡と小形竪穴遺構	168
第74図	管玉未成品の遺構別規模分布図	168
第75図	集落における井戸の位置(市田2～3期)	171
第76図	市田斉当坊遺跡の井戸の取水位置	172
第77図	掘形にテラスを有する井戸	173
第78図	木製井戸側木枠をもつ井戸集成(1)	177
第79図	木製井戸側木枠をもつ井戸集成(2)	178
第80図	木製井戸側木枠をもつ井戸集成(3)	179
第81図	井戸の波及	182
第82図	市田斉当坊遺跡A調査区の周溝墓	186
第83図	A調査区 周溝墓の築造順位	187
第84図	市田斉当坊遺跡C調査区の周溝墓	188
第85図	C調査区 周溝墓の築造順位	189
第86図	市田斉当坊遺跡D調査区の周溝墓	190
第87図	D調査区 周溝墓の築造順位	191
第88図	東京都豊島馬場遺跡の周溝墓と連結溝	192
第89図	長岡京市神足遺跡の周溝墓と連結溝	194
第90図	京都市南区東土川遺跡の周溝墓と連結溝	195

# 第1章 調査の経緯

## 第1節 調査にいたる経過

市田斉当坊遺跡は、京都府久世郡久御山町大字市田小字斉当坊ほかに所在する。この遺跡が周知されるに至ったいきさつは、おおよそ以下のとおりである。

平成9年度、第二京阪・京都南道路の新設計画に伴い、旧巨椋池以南、木津川以北の南北総延長約1.4kmにおよぶ事業予定地内を対象とする試掘調査が、2次にわたって実施された。その結果、事業予定地の北端部付近、旧巨椋池に近接する地点に設けられた、第14・15の各トレンチから、弥生時代と中世の遺構・遺物が検出され、新発見の遺跡として周知されることとなった。その後、当該遺跡の名称について、久御山町教育委員会と京都府教育委員会との間で協議が行われ、大字・小字名をとって市田斉当坊遺跡と命名された。

各年度の発掘調査は、京都府教育委員会の指導のもと、京都府教育委員会・原因者(建設省・国土交通省・日本道路公団)・当調査研究センターの三者による事前協議を経て、原因者からの依頼にもとづき、当調査研究センターが主体となって実施してきた。各年度の発掘調査のあらましは、以下のとおりである。

### 平成9年度

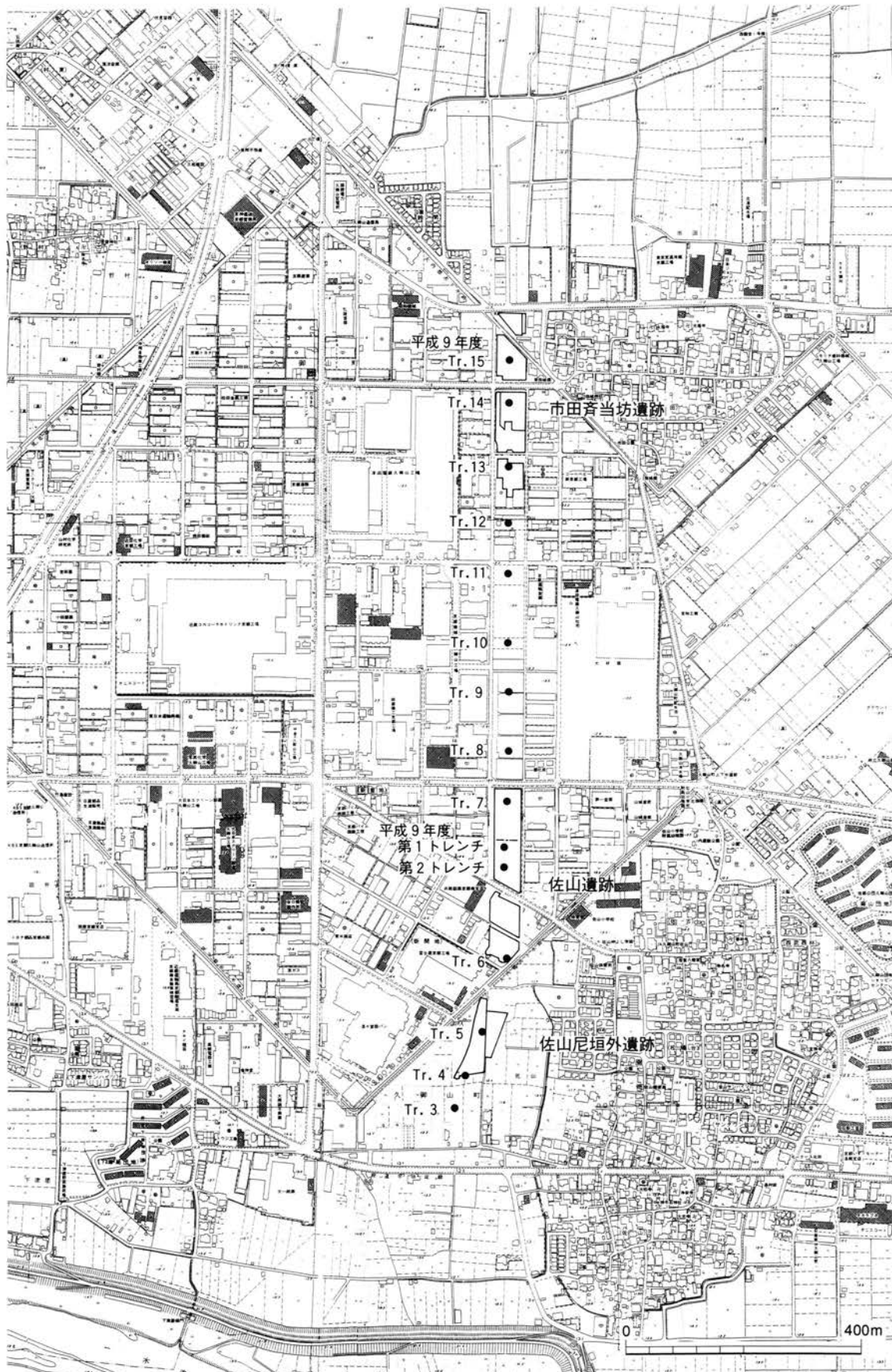
平成9年度の時点において、旧巨椋池干拓田以南、木津川以北の事業地内に所在する周知の遺跡としては、唯一、佐山遺跡が知られているのみであった。

第1次試掘調査は、この佐山遺跡を対象として実施されたもので、周知の遺跡の範囲内に限定して、第1・第2トレンチが設定された(第1図)。その結果、古墳時代の竪穴式住居跡・溝などの集落にともなう遺構・遺物が検出され、遺跡は周知の遺跡の範囲外にも拡散していることが明らかとなった。

第2次試掘調査は、旧巨椋池干拓田以南、木津川以北の、南北総延長約1.4kmの事業地内の13か所(第3～15トレンチ)に試掘坑を配置し、遺構・遺物の堆積状況の把握に努めた。市田斉当坊遺跡関係では、第14トレンチで弥生時代と中世の溝・土坑・掘立柱建物跡などを、第15トレンチでは弥生土器を含む遺物包含層などをそれぞれ検出した。遺跡は、第14・15トレンチを含み、さらに四方へ展開している可能性が考えられたため、次年度以降計画的に本調査が実施されるはこびとなった。

### 平成10年度

本調査を実施するに当たって、道路や水路によって区画された調査対象地を、便宜上、北からA・B・C・Dの4調査区に分割して事業を進めることとし(第2・3図)、平成10年度はA・B・Cの3調査区において本調査を行った。なお、府道八幡宇治線以北のエリアについては、旧



第1図 市田齐当坊遺跡・佐山遺跡・佐山尼垣外遺跡の各年度の調査区配置図

巨椋池汀線と市田齊当坊遺跡の北限との関係を確認するためにも、調査の必要性が認められたが、平成9年度の第2次試掘調査の段階ですでに、京滋バイパス側からの工事が進捗してきており、事前協議の対象外という取り扱いとなった。

A調査区は、北を府道八幡宇治線、南を大内都市下水路に画された三角形プランの調査対象地である。このうち平成10年度は、用地買収の都合により東辺寄りの位置に南北方向に長いトレンチを設定した(A調査区1次調査)。調査の結果、上層からは中世の素掘り溝、下層からは弥生中期の溝・土坑などの遺構が全面的に展開していることが明らかとなった。

B調査区は、北を大内都市下水路、南を町道に画された調査対象地である。上層からは、中世の条里型地割に関係する東西・南北方向の素掘り溝群、側溝をともなう南北坪境道、

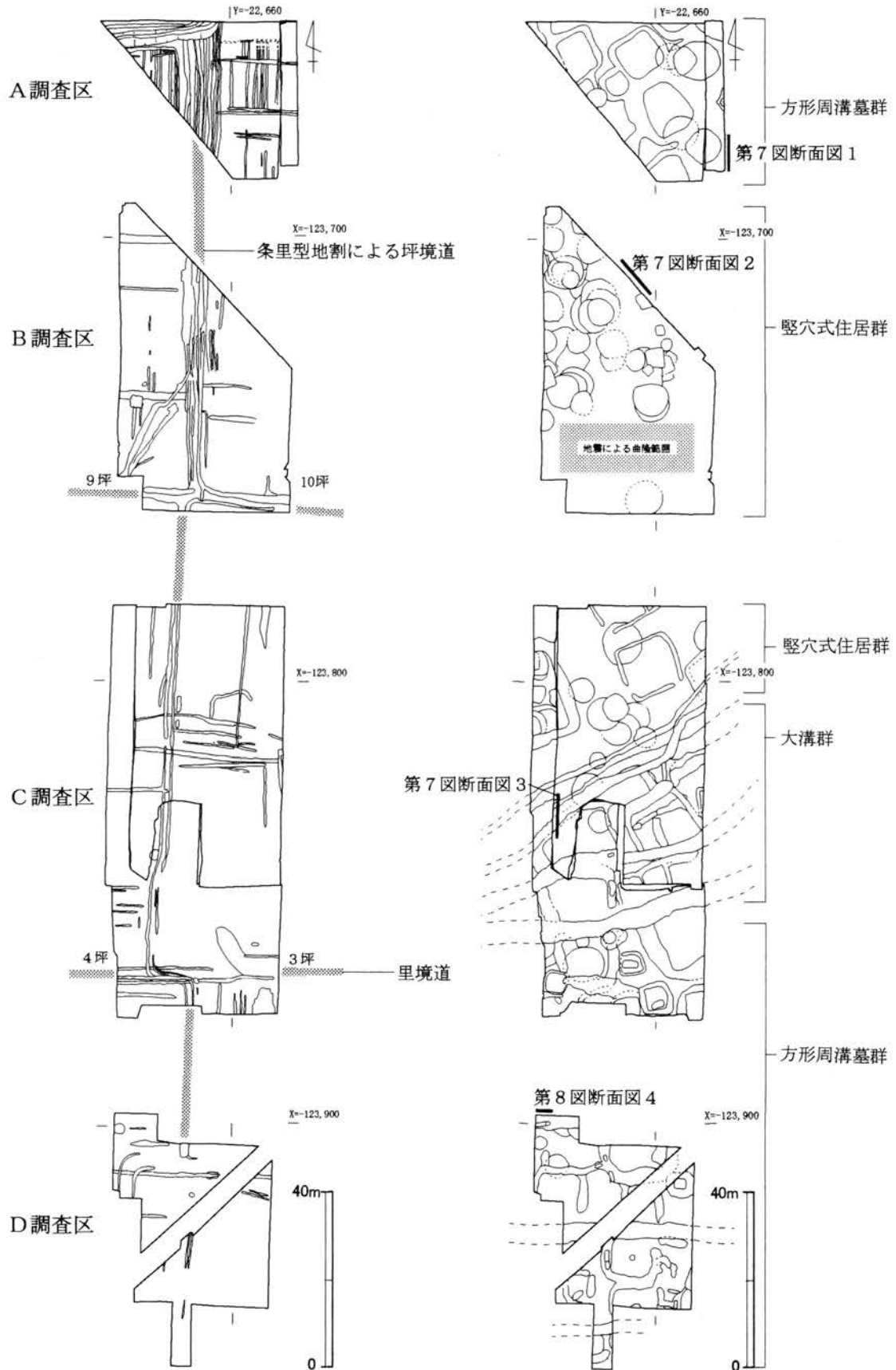
東西坪境道、池状遺構、条里型地割を斜めに横切る道路状遺構、平安時代末頃の井戸跡などの遺構が検出された。下層からは、弥生時代中期に属する竪穴式住居跡が、50基以上検出された。住居跡の平面形は、円形のものが多いが、一部方形のものも見られる。残りは全体に悪く、周壁の立ち上がり完全に削平され、中央土坑や柱穴のみが残存する例も見られた。7～8基の住居跡が重複して検出される地点が、6～7か所で確認されており、弥生時代中期に一定期間存続した集落の中心部に該当していることが判明した。

C調査区は、B調査区の南接地、南北を町道に画された調査区で、その北半部に当たるC-1調査区(C調査区1次調査)において面的調査を実施した。上層からは、条里型地割に関係する側溝をともなう南北坪境道(12～13世紀)、東西方向の溝(10世紀以降)などの遺構が検出された。このうち、南北坪境道の痕跡は、B調査区検出のものとの延長部に相当し、現地表面にも農道として存続している地割りである。下層からは、古墳時代の方墳の一部と思われる「L」字状に曲折する溝、調査区を斜めに横切る環濠と想定される大溝、井戸などの遺構のほか、弥生時代中期に属する竪穴式住居跡11基、井戸1基、方形周溝墓群などの遺構が、複雑に重複した状態で検出された。出土遺物の中で、とくに注目されるものとして、緑色凝灰岩を素材とする管玉未製品や、石針・石鋸・サヌカイト剥片などの玉作りや石器製作に関連する遺物が、土砂の水洗作業によって採取され、集落内で玉や石器を作っていたことが明らかとなった。<sup>(注1)</sup>

平成11年度



第2図 調査区配置図



第3図 市田齊当坊遺跡 調査区と遺構略図(左.古代・中世 右.弥生・古墳時代)

平成11年度は、C調査区とD調査区で調査を実施した。C調査区では、平成10年度に調査したC-1調査区の南接地と、西側の通路状部分からなる変則「L」字状平面のC-2調査区(C調査区第2次調査)の全面調査を実施した。その際、遺構はC調査区南限の町道以南にも広がっていることが確認されたので、現地協議を経て、道路の南側のエリアをD調査区として試掘調査を行い、遺構の分布密度の高いD調査区北半部の面的調査を引き続き実施した。

C-2調査区上層からは、条里型地割に関係する東西・南北方向の坪境道とそれらにともなう側溝や、井戸・小溝群などを検出した。いずれも、C-1調査区検出のものと類似のもの、または連続するものである。年代は、平安時代から鎌倉時代に属する。

C-2調査区下層からは、弥生時代中期の大溝(環濠)・竪穴式住居跡・井戸・方形周溝墓、古墳時代の方墳の周濠・井戸などを検出した。大溝は、集落の南限を画するものと見られ、大溝を境に北側には竪穴式住居跡などの集落関係遺構が、南側には方形周溝墓群からなる墳墓関係遺構がそれぞれ展開していることが判明した。これらの遺構のうち、井戸S EC453は弥生時代中期前葉に属する方形木枠組みの井戸で木枠組みの井戸としては、わが国でも最古級のものとして注目された。また、竪穴式住居跡S HC451からは、玉作りに関係する遺物が一括出土している。

D調査区は、C調査区の南接地に新たに設けた調査区である。上層からは、C調査区と同様、条里型地割に関係する溝、小溝群などを検出した。これらの遺構は、坪内部の地割りや耕作にともなうものと推定される。下層からは、弥生時代中期の方形周溝墓14基以上、竪穴式住居跡4基、大溝、井戸などの遺構が検出された。方形周溝墓と竪穴式住居跡の存続年代については、遺構の切り合い関係で確認できたものは、いずれも竪穴式住居跡が古く、方形周溝墓のほうが新しいことが判明しており、D調査区では弥生時代中期の中で、居住域から墓域へと変遷したことが窺える。竪穴式住居跡のうち、調査区の北西部で検出された竪穴式住居跡S HD23からは、C-2調査区検出の竪穴式住居跡S HC451と同様、玉作りに関係する遺物が一括出土している。<sup>(注2)</sup>

#### 平成12年度

平成12年度は、A調査区の面的調査(A調査区2次調査)を実施した。調査の対象となったのは、平成10年度の発掘調査地の西側、三角形プランの調査地である。上層からは、近世に属する東西方向の溝2条のほか、平安時代から鎌倉時代にかけての条里型地割に関係する、坪境道・溝などの遺構を検出した。下層については、一部で先行する断ち割り調査を行い、弥生中期の竪穴式住居跡・溝などの存在を示す遺物包含層の落ち込みを検出した。ところが、調査には着手したものの、期間の都合により、上層の一部と下層の遺構の掘削・記録作成業務は、次年度にもちこすこととなった。<sup>(注3)</sup>

#### 平成13年度

平成13年度は、平成12年度に着手したA調査区2次調査を継続して実施した(A調査区3次調査)。上層からは、平安時代から中・近世に至る各時代の素掘り溝群を検出した。このうち、調査区の北西部で検出されたS DA51は、幅約3mの規模をもち、逆「L」字状に曲折して調査地外に延びていることが確認された。この曲折部は、久世郡条里地割りの16坪の南東隅に該当して

いることから、条里地割りに規制された屋敷又は集落の南東隅を画する環濠の可能性が考えられた。内部から、室町時代の空輪が出土しており、この屋敷または集落の存続年代の一端を室町時代に求めることができる。

下層からは、弥生時代中期の方形周溝墓9基、竪穴式住居跡6基、溝、土坑などを検出した。方形周溝墓群は、周溝を接続させて調査区全域を覆うように営まれていることが判明した。竪穴式住居跡は、円形プランのものや隅丸方形プランのもののがみられ、いずれも弥生時代中期前葉に属する。このうち、竪穴式住居跡S HA74は、床面直上におびただしい量の炭化材・炭化物が散布した状態で検出された、焼失家屋の良好な一例である。埋土の中から、土器のほか、碧玉製管玉の未成品や、石鋸、石針などの玉作りに関係する遺物が出土した。これらの竪穴式住居跡は、いずれも方形周溝墓の周溝に破壊されており、弥生時代中期の段階で、A調査区の土地利用が居住域から墓域へと変遷したことが判明した。<sup>(注4)</sup>

## 第2節 調査体制

今回実施した市田齊当坊遺跡発掘調査(試掘を含む)の調査体制は、付表1のとおりである。

整理作業は、各調査年度のほか、平成14・15年度に報告書作成のための土器実測、図版作成、製図、遺物写真撮影、原稿執筆、編集などの作業を行った。この整理・報告書作成作業は、野島永を主担当とし、各年度の調査担当者がこれを助けた。

現地調査および報告書の作成にあたっては、多くの作業員・調査補助員・整理員の方々<sup>(注5)</sup>に参加

付表1 市田齊当坊遺跡調査体制

年度	調査区	調査主体者 (理事長)	調査責任者 (事務局長)	事務局 (総務課長)	調査担当責任者 (調査第2課長)	調査担当	
平成9 (1997)	第1次試掘 (佐山遺跡)	樋口隆康	木村英男	福嶋利範	安藤信策	課長補佐兼 調査第3係長	奥村清一郎
	調査員					森下 衛	
	第2次試掘 (市田齊当坊 遺跡ほか)	同上	同上	同上	同上	課長補佐兼 調査第3係長	奥村清一郎
	調査員					岩松 保	
平成10 (1998)	A調査区 (1次調査)	同上	同上	同上	同上	主幹調査第3 係長事務取扱	平良泰久
	B調査区					主任調査員	竹原一彦
	C-1調査区 (1次調査)					調査員	森島康雄 柴 暁彦
平成11 (1999)	C-2調査区 (2次調査)	同上	同上	同上	平良泰久	調査第3係長	辻本和美
	D調査区					主任調査員	岩松 保
						調査員	森島康雄 高野陽子
平成12 (2000)	A調査区 (2次調査)	同上	同上	同上	同上	調査第3係長	辻本和美
						主任調査員	竹原一彦
						調査員	高野陽子
平成13 (2001)	A調査区 (3次調査)	同上	中谷雅治	同上	同上	調査第3係長	辻本和美
						調査員	野島 永 高野陽子



協力していただいた。また、調査開始以来、本報告書の完成に至るまでの間、京都府教育委員会・久御山町教育委員会をはじめ下記の方々からご指導・ご協力をいただいた。記して謝意に替えたい。

(奥村清一郎)

**調査協力者**(敬称略・五十音順)

青木勘時・赤澤徳明・秋山浩三・荒川史・池田保信・石野博信・伊藤淳史・伊庭功・宇野隆夫・大賀克彦・鐘方正樹・河森一浩・川畑和弘・楠正勝・國下多美樹・國分政子・篠宮正・菅榮太郎・杉原和雄・鈴木とし江・鈴木重治・谷口恭子・辰巳和弘・塚本敏夫・富山正明・中川要之助・中川渉・長友朋子・中塚良・中島信親・濱野俊一・濱田延充・肥後弘幸・広瀬時習・広瀬和雄・深澤芳樹・福海貴子・藤田三郎・堀大介・松田順一郎・松井潔・松本洋明・光谷拓実・森浩一・森岡秀人・門田誠一・安英樹・山中章・湯尻修平・米田美恵子・李弘鐘・若林邦彦

## 第2章 遺跡の環境

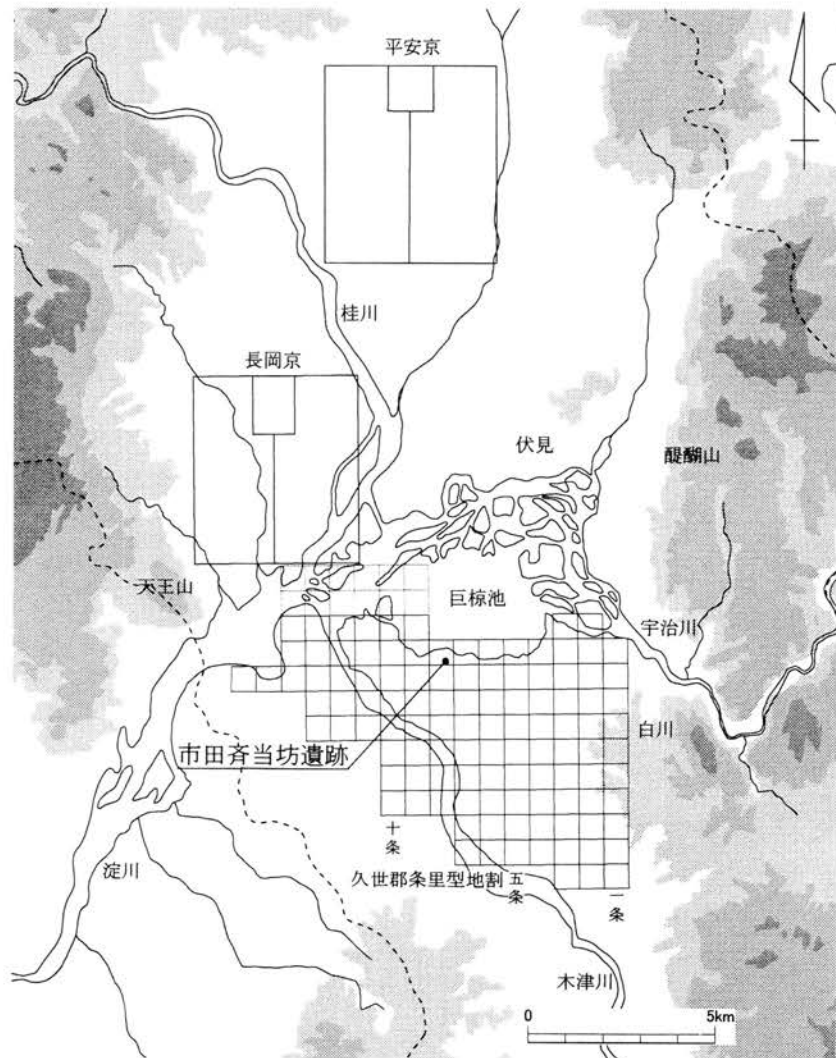
### 第1節 歴史・地理的環境

京都府南部は令制旧山背国にあたり、北部は京都盆地となる。巨椋池の南方から北流する木津川によって形成された河岸段丘を中心とした地勢をもつ(第4図)。市田齐当坊遺跡の所在する久御山町は、北は京都市伏見区、東は宇治市、西は八幡市、南は城陽市に隣接している。南山城を北流する木津川と琵琶湖に水源を発した宇治川が、淀川に合流する狭隘な氾濫源を中心的な地勢としており、山城地方でも最も低湿な<sup>(注6)</sup>地域である。

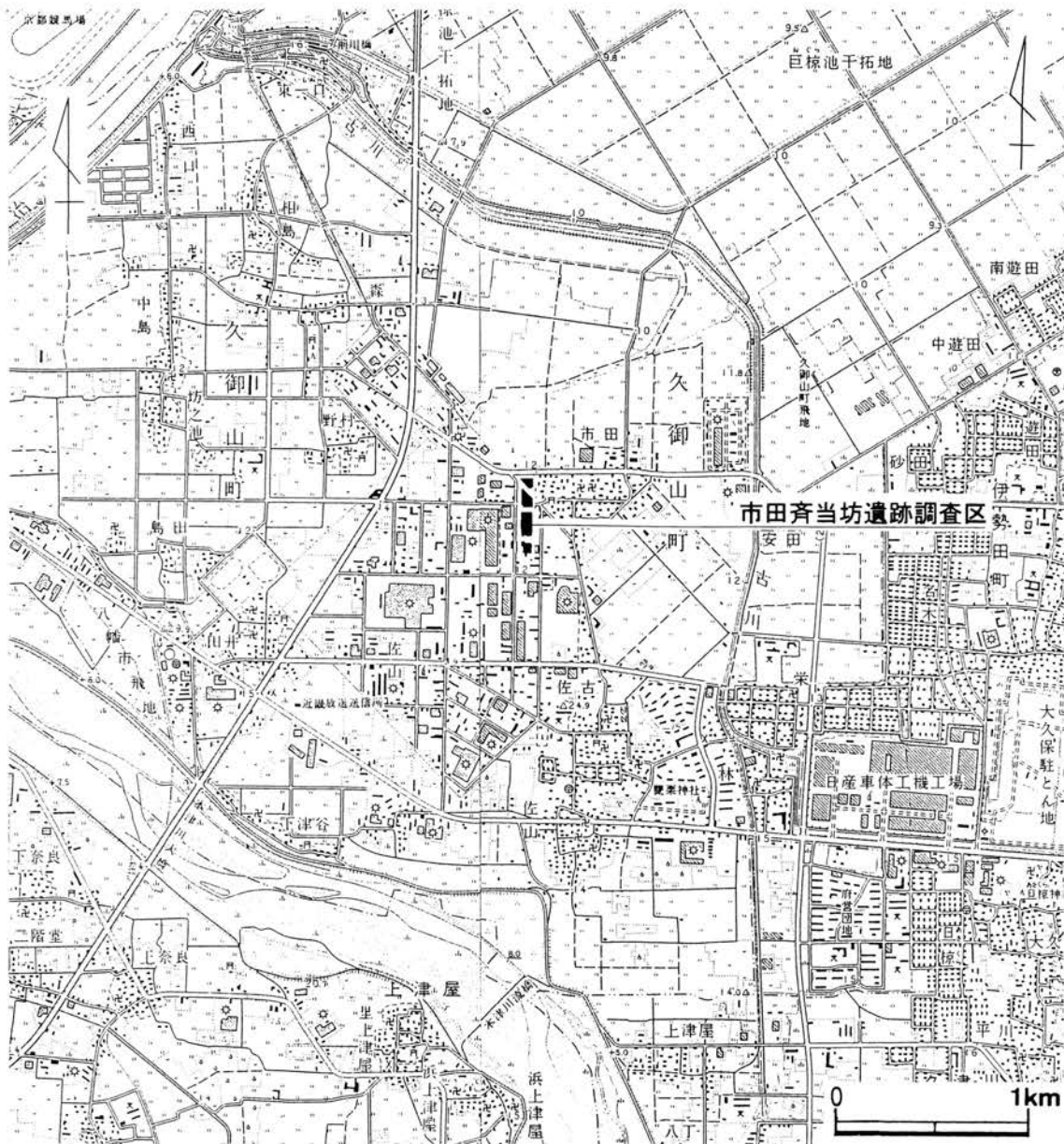
以前は、久御山町の北東に800ヘクタールにもおよぶ巨椋池が存在し、桂川・宇治川・木津川の遊水池として機能していた。巨椋池は万葉集にも詠まれ、文人が好む花鳥豊かな景観を呈していたことがわかる。しかし近世以降、巨椋池周辺の河川改修が進むにしたがって、河川から独立した池沼と

なった。近代以降、水位が低下し、水質が著しく悪化したようである。大正時代には付近の水害と近隣集落における衛生状態の改善のために、干拓が計画された。大正から昭和年間には、巨椋池の干拓事業が幾度か行われ、およそ7000ヘクタールにおよぶ水田が整備されることとなった。しかし、昭和に入っても、台風などの水害によって、幾度か旧巨椋池の地域は水没したことがあった。

市田齐当坊遺跡は、木津川の池岸三角州を

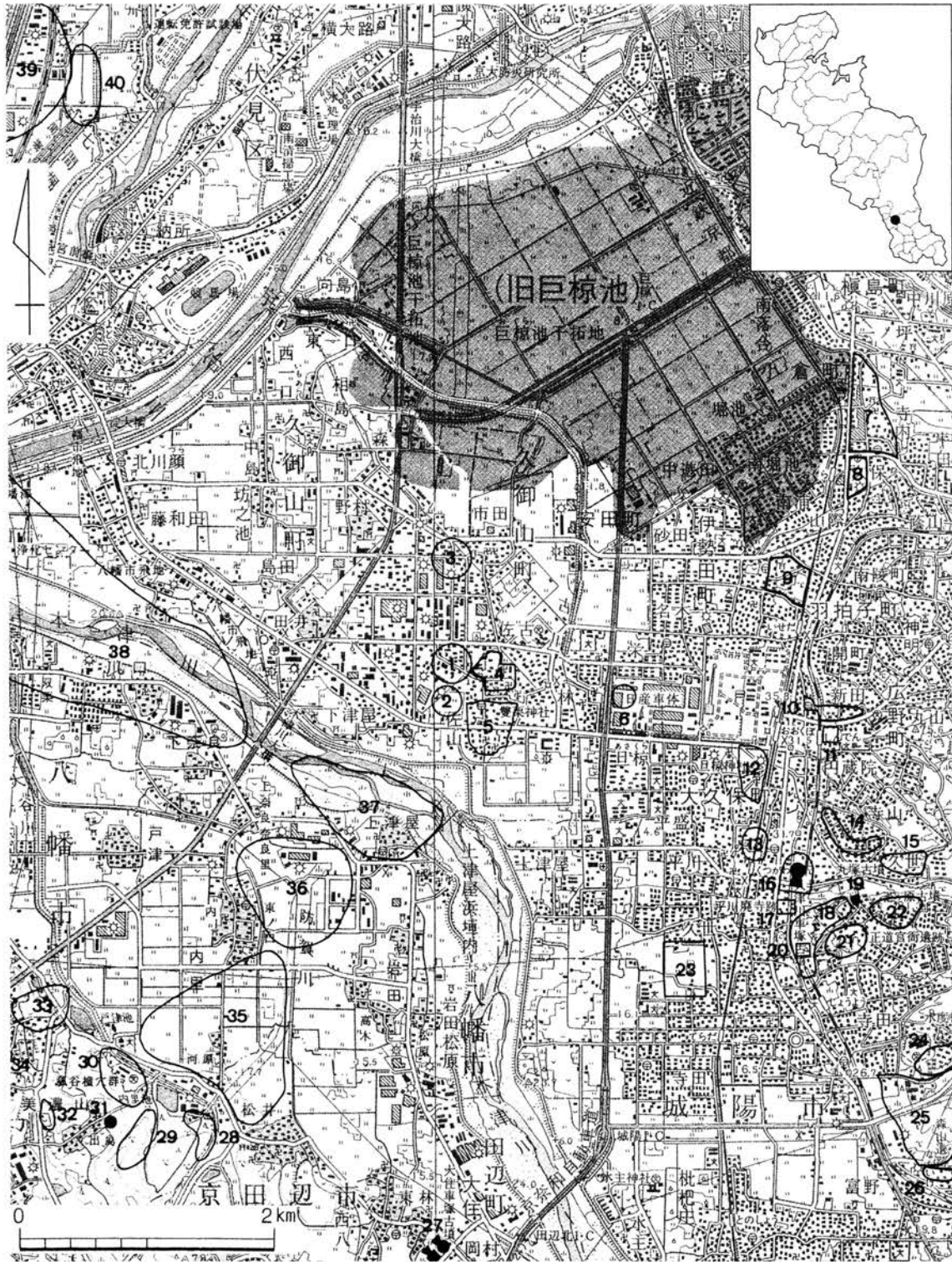


第4図 調査地周辺の歴史的環境略図



第5図 市田齊当坊遺跡調査区位置図(1/30,000)

形成していた巨椋池南西域に立地している。巨椋池南西域は、南山城を北流してきた木津川が、西に屈曲して淀川へと合流する氾濫原で、幾度かの氾濫が土地利用の様子から容易に読み取れる(第5図)。その東側には、条里型の遺存地割に沿って直線的に北流し、旧巨椋池に流入する古川があるが、これはもとあった木津川支流を南北に配置させた人為的な灌漑流路と想定することもできる。『日本書紀』には、仁徳天皇十二年、山背国栗隈県に大溝を開削して灌漑に用いた記事がみられるが、これを現古川に比定する意見もみられる。だとすれば、7世紀以前から遺跡周辺が水田として利用されていた状況を窺うことができる。『日本書紀』天智天皇七年二月条には、栗隈首徳萬が黒媛娘を采女として貢進していることから、栗隈氏は大領か小領の家柄であり、久世郡の郡司クラスとみて間違いない。正史に登場する栗隈大溝掘削の記事は、そのような郡司クラス主導による灌漑が少なくとも7世紀以前に行われていたことを示している。後述するように、



第6図 調査地周辺遺跡分布図

(国土地理院1/50,000京都西南部・京都東南部、佐山報告(注11文献)第8図から転載)

- |             |               |              |                |            |
|-------------|---------------|--------------|----------------|------------|
| 1. 佐山遺跡     | 2. 佐山尼垣外遺跡    | 3. 市田齐当坊遺跡   | 4. 佐古環濠集落      | 5. 佐山環濠集落  |
| 6. 林寺跡      | 7. 小倉遺跡       | 8. 神楽田遺跡     | 9. 若林遺跡        | 10. 一里山遺跡  |
| 11. 広野廃寺    | 12. 且椋遺跡      | 13. 室木遺跡     | 14. 西山古墳群      | 15. 上大谷古墳群 |
| 16. 久津川車塚古墳 | 17. 平川廃寺      | 18. 芝ヶ原遺跡    | 19. 芝ヶ原古墳      | 20. 久世廃寺   |
| 21. 正道遺跡    | 22. 尼塚古墳群     | 23. 塚本東遺跡    | 24. 宮ノ平古墳群     | 25. 芝山遺跡   |
| 26. 森山遺跡    | 27. 大住車塚・南塚古墳 | 28. 荒坂・女谷横穴群 | 29. 美濃山廃寺・下層遺跡 |            |
| 30. 狐谷横穴群   | 31. 美濃山王塚古墳   | 32. 宮ノ背遺跡    | 33. 幸水遺跡       | 34. 西ノ口遺跡  |
| 35. 新田遺跡    | 36. 内里八丁遺跡    | 37. 上津屋遺跡    | 38. 木津川河床遺跡    | 39. 雲宮遺跡   |
|             |               |              |                | 40. 水垂遺跡   |

市田齊当坊遺跡では200点を超える石庖丁が出土した。弥生時代中期以前からすでに水田耕作がさかんであったものと推測されるのである。

市田齊当坊遺跡は、旧山城国久世郡にある。久世郡は、8世紀初頭には成立していたもの<sup>(注10)</sup>とみられる。市田の地名は、康応二(1390)年正月「佐古郷東明寺領田畠坪付注進状案」(称名寺所蔵)に東明寺領とされるもののほか、文明十一(1475)年には「山城国久世郡市田郷」(『続史料大成』五月十二日条)がみられることがわかる。

なお、巨椋池の地質的環境の変遷や、周辺の埋蔵文化財包蔵地の分布とその調査状況については、市田齊当坊遺跡の南方に隣接する佐山遺跡の報告<sup>(注11)</sup>に準じることとするため、本稿では詳述しない。調査地周辺の遺跡の分布図(第6図)を掲載しておきたい。

(野島 永)

## 第2節 地震による曲隆

B調査区の南半部では、遺構検出面に黄色砂が一面に分布しており、遺構はほとんど検出されていない。これは、中世以前、弥生時代にいたる遺構面の下位に堆積した砂層が地震によって液状化し、広範囲に盛り上がったためである。このような、液状化によって下位の砂層が大きく盛り上がり(=曲隆)、中世・平安時代から弥生時代の遺構が消失したと推定される。かろうじて遺存している遺構を観察すると、黒灰色土系の弥生時代の遺構埋土は、遺構のベースとなる黄色砂との境界面がはっきりとしていない。地震時に遺構内の埋土も周囲の黄色砂とともに液状化し、層界面が乱れてしまったためと判断された。残存している遺構には、竪穴式住居跡の残欠と考えられる円形に近い黒灰色土の分布や土坑があるが、先述した液状化による輪郭の溶解のほか、遺構の底面が波打ったり、砂脈の噴出で遺構が切り裂かれていたため、元々の形状を復原することは不可能であった。この曲隆現象はB調査区の南半からC調査区の北半にかけて観察され、C調査区北半もB調査区と同様、弥生時代の遺構は大きく損壊を受けていた。

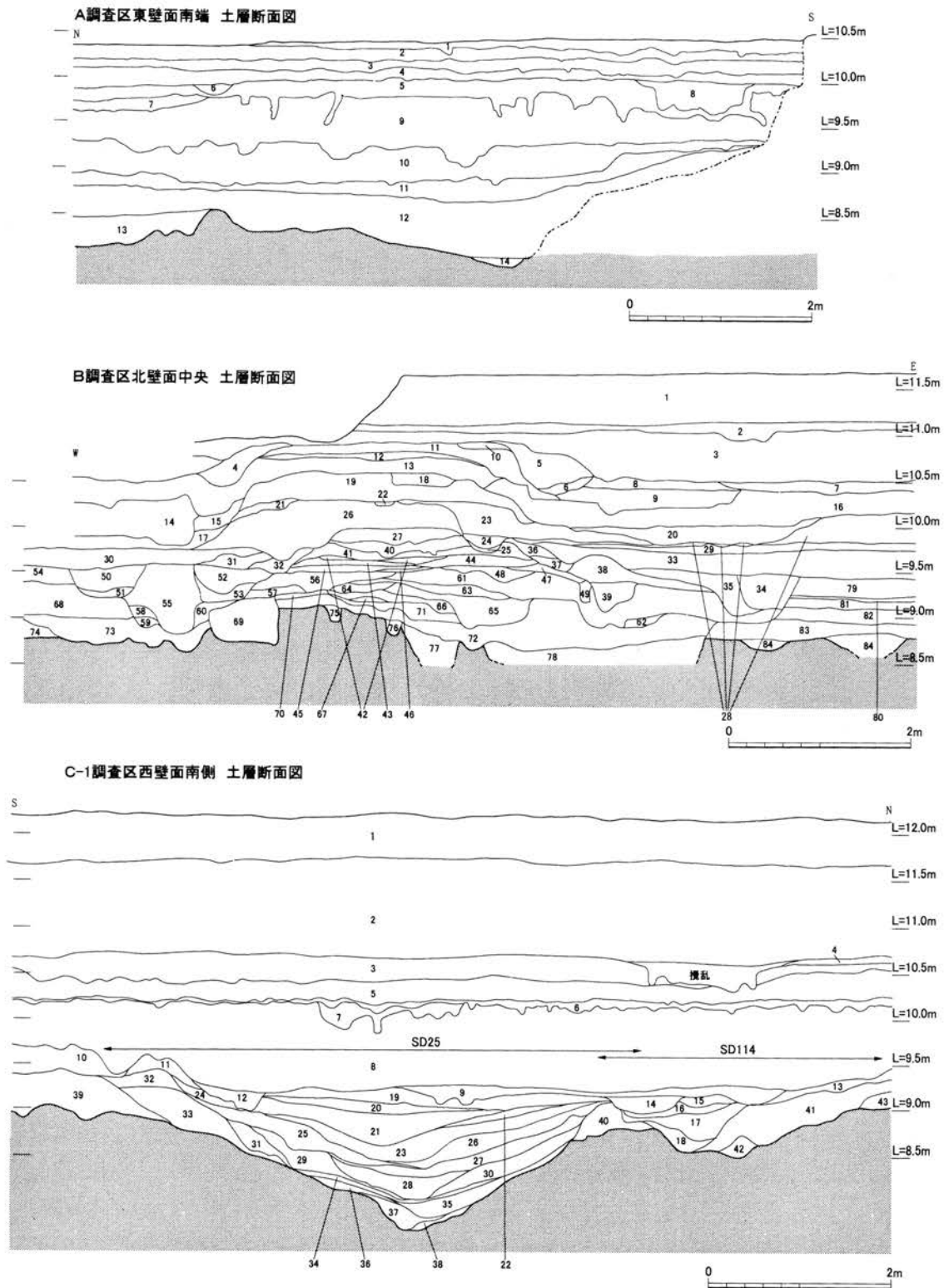
曲隆した砂層の上から平安時代末頃の坪境溝が掘削されているので、曲隆現象を引き起こしたのは、法勝寺九重塔などが倒壊した文治元(1185)年の地震と考えられる。しかし、噴砂の一部は、中世堆積層と判断される層を切り裂いているものも観察されるので、伏見城が損壊した文禄五(1592)年の地震に際しても液状化が起り、影響を受けたものと思われる。結局、2度にわたる地震によって弥生時代の遺構は破壊されたものとみられる。

(岩松 保)

## 第3節 堆積層序

### (1) A調査区(第7図、土層断面図1)

A調査区の土層では、現地表下約1.25mまでは京都飛行場および久御山工業団地の造成土で、旧地表面は海拔10.4m<sup>(注12)</sup>付近である。以下、暗灰色粘土(第7・8図、第2層)・暗灰青色シルト混じり粘土(第3層)・暗緑灰色細砂(第4層)・灰緑色シルト(第5層)とほぼ水平な堆積が続くが、



第7図 各調査区の壁面土層図(1)

この間には明瞭な遺構面は確認できなかった。この下に堆積する緑灰色シルト層(第6層)の上からは、杭や土坑状の掘り込みがみとめられるほか、乳青灰色や暗灰色の粘土をブロック状に含む青灰色シルト混じり粘土を埋土とする掘削深0.2m以下の皿状の掘り込み(第12層)が数か所み

とめられることから、遺構面と判断できるが、時期は特定できない。この面の標高は、調査区南端付近でおよそ9.85mである。この緑灰色シルト層の下層には、暗青灰色シルト混じり粘土層(第7層)があるが、この、上面から中世の遺構が掘り込まれている。この面の標高は、調査区南端付近で約9.35mである。弥生時代の遺構は、この層の下約20cmで検出した。黒灰色シルト層(第9層)は、弥生時代の遺構埋土となる。

(森島康雄)

## (2) B調査区(第7図、土層断面図2)

北壁中央付近のもので、久世郡条里型地割りの坪境道を中心にした実測図である。同実測図のうち、右辺は通有の堆積層序をなしており、水平堆積を基本とする。現地表下約1.3mまでは京都飛行場および久御山工業団地の造成土(第1～3層)で、旧地表面(第7・8層)は標高10.4m付近にある。旧地表面から約2m下位には、弥生時代の包含層である黄色混じり灰褐色土(第83層)が厚さ20～30cmで堆積しており、弥生時代の遺構は第83層を除去した下面で検出した。遺構を検出した標高は8.8m付近である。重機により、ほぼこの面までを除去し、以後、人力により土砂を除去した。

この面から旧地表面までは、基本的に水平堆積をなしており、7～10層程度に分層できるが、それぞれの層より遺物の出土は皆無で、その堆積時期を決めうる資料は得られなかった。

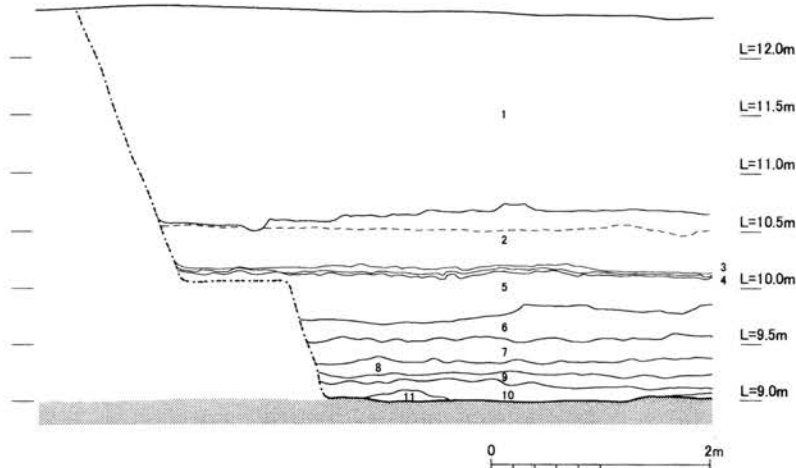
中央やや左側、上方に凸形に順次堆積しているのは、坪境道路面とその両側の側溝である。弥生時代の包含層の上位より、中世遺構面で検出した坪境道の両側溝(SDB04・05およびSDB07・18)が掘削されており、その間は道路面を成している。この道路面は幾条もの側溝が掘り返されていることから、長期間にわたって、同じ標高で補修・造り替えがなされていたものと推測される。その後、ある時点から河川由来の堆積が進み、周囲の地盤が上がっていくにつれて、道路面の上位に土砂を盛り上げて、両側には側溝を掘り込んで、坪境道が順々に造り替えられているのが観察された。

(岩松 保)

## (3) C調査区(第7図、土層断面図3)

現地表下約1.5mまでは久御山工業団地の造成土(第1層)および京都飛行場の造成土(第2層)で、旧地表面は標高10.7m付近である。基準層位は、上層から暗灰褐色細砂質土(第3層)、淡緑灰色細砂質土(第5層)、暗緑灰色シルト(第8層)がほぼ水平に堆積する。第5層と第8層の間には、黄灰色細砂を多量に含む淡青灰色シルト(第6層)が幅約5～10cmの厚さで堆積しており、洪水砂層と判断される。第5層からは、染付などの陶磁器片が出土しており、近世後期と推定される。また第6層は、広範囲に確認することができる層位であり、D調査区第3・4層に対応するとみられる。この第6層およびそれ以降の堆積層には、C調査区北東部で検出されたいわゆる慶長地震(1596年)に由来するとみられる地震墳砂の立ち上がりは達しておらず、第8層中位で留まっている。こうしたことから、第8層はおおよそ中世末～近世前期の堆積層と推定される。坪境道および里道側溝群などの中世の遺構群は、第8層の直下の標高約9.3～9.4m付近で検出した。

D調査区北壁面西端 土層断面図



**A 調査区断面図土層名**

1. 整地土
2. 暗灰色粘土
3. 暗青灰色粘土+シルト
4. 暗緑灰色細砂
5. 淡緑灰色シルト
6. 青灰色シルト+粘土
7. 青灰色シルト+粘土
8. 青灰色シルトを含む粘土
9. 緑灰色シルト
10. 暗青灰色粘土+シルト
11. 淡緑灰色粘土
12. 黒灰色シルト
13. 淡褐色シルト
14. 淡灰色シルト (SD01最下層)

**B 調査区断面図土層名**

1. 黄褐色砂質土 (整地土)
2. 暗褐色土
3. 淡灰色シルト (黒灰色土ブロックを含む)
4. 黄灰色砂質土
5. 灰褐色粗砂
6. 淡青灰色砂質土+褐色砂
7. 淡灰色土+黄褐色砂
8. 淡灰色砂質土+黄褐色砂
9. 淡灰色砂質土+明黄褐色砂
10. 淡灰褐色粗砂
11. 暗黄褐色粗砂
12. 黄褐色粗砂
13. 黄灰色土 (礫を含む)
14. 黄褐色+黄灰色砂質土
15. 淡灰色砂
16. 淡青灰色細砂
17. 灰色砂質土+黄白色砂
18. 褐色+淡灰色砂質土
19. 灰褐色+白色+黄色砂
20. 層名不明
21. 淡灰色粗砂
22. 淡灰色粘質土
23. 淡青灰色砂質土+黄色砂
24. 淡青灰色砂質土
25. 淡青灰色砂質土+黄褐色砂
26. 淡青灰色砂質土
27. 青灰色砂質土
28. 淡青灰色砂質土+黄色砂
29. 淡青灰色粗砂 (しまり強)
30. 淡青灰色粘質土+黄褐色砂
31. 淡青灰色粘質土
32. 黄褐色砂+淡褐色砂
33. 淡青灰色粘質土+黄褐色砂
34. 淡青灰色砂質土 (しまり強)

35. 灰褐色土 (しまり弱)
36. 淡灰色砂質土+黄色砂
37. 灰褐色土
38. 淡灰色砂質土
39. 灰褐色土
40. 青灰色砂質土+黄褐色砂
41. 層名不明
42. 黄褐色砂
43. 淡灰色砂質土+黄色砂
44. 灰色+黄褐色砂
45. 淡青灰色砂質土
46. 淡灰色砂質土+黄褐色砂
47. 淡青灰色砂質土
48. 淡灰色砂質土
49. 淡灰色砂質土
50. 淡青灰色砂質土+黄褐色砂
51. 灰褐色砂質土
52. 淡青灰色砂質土+黄褐色砂
53. 灰褐色砂質土
54. 淡青灰色砂質土
55. 淡青灰色砂質土 (しまり弱)
56. 暗淡灰色砂質土+黄色砂
57. 淡灰色土+褐色砂
58. 暗褐色粘質土
59. 暗灰褐色砂質土
60. 褐色砂 (しまり強)
61. 暗淡灰色砂質土+褐色砂
62. 暗灰色粘質土
63. 黄色砂+明褐色砂+淡灰色砂質土
64. 淡灰色砂質土
65. 淡灰褐色砂質土+明褐色砂
66. 淡灰色砂質土+黄褐色砂 (しまり強)
67. 暗淡灰色砂質土+暗黄褐色粗砂
68. 淡青灰色粘質土+褐色砂
69. 暗灰色砂質土
70. 黄褐色粗砂
71. 淡灰色砂質土+褐色砂
72. 暗淡灰色砂質土+褐色砂+明褐色砂
73. 淡灰色砂質土
74. 暗灰褐色土
75. 暗褐色土
76. 暗褐色土
77. 淡青灰色+暗褐色土
78. 淡灰色シルト
79. 青灰色砂質土
80. 淡青灰色土
81. 暗灰褐色土
82. 淡灰褐色土
83. 黄色+灰褐色土
84. 淡灰褐色土

**C 調査区断面図土層名**

1. 淡緑灰褐色砂質土
2. 灰褐色砂質土 (2-3mm大の礫を含む)
3. 暗灰褐色細砂質土
4. 暗灰褐色砂質土 (礫を含む)
5. 淡緑灰色細砂質土
6. 暗灰褐色粘質土 (礫を含む)
7. 暗灰褐色砂質土+粘土
8. 暗緑灰色シルト
9. 緑灰色シルト
10. 暗褐色砂質土
11. 暗褐色砂質土+粘土 (2-3mm大の礫を含む)
12. 灰褐色粘質土 (2-3mm大の礫を含む)
13. 層名不明
14. 暗灰褐色粘質土 (礫を含む)
15. 灰褐色細砂質土
16. 灰褐色細砂質土 (2-3mm大の礫を含む)
17. 黄灰褐色砂質土
18. 緑青灰色シルト
19. 暗灰褐色砂質土
20. 暗灰褐色細砂
21. 暗褐色粗砂
22. 暗灰褐色細砂+シルト
23. 暗緑灰色砂質土
24. 灰褐色粘質土
25. 暗灰褐色粘質土
26. 暗灰褐色砂質土
27. 灰褐色砂質土
28. 暗緑灰色砂質土 (礫を含む)
29. 暗緑灰色砂質土+黄褐色粗砂
30. 暗黄灰褐色細砂質土+黄褐色粗砂
31. 暗青灰褐色細砂質土
32. 灰褐色細砂質土
33. 淡黄褐色細砂
34. 暗青灰褐色

**D 調査区断面図土層名**

1. 近代盛り土
2. 淡灰色細砂
3. 暗灰色細砂
4. 黄灰色細砂+シルト
5. 淡灰色粘質土+シルト
6. 淡灰色土
7. 淡暗灰色砂質土
8. 淡暗灰色砂質土+細砂
9. 暗灰色砂礫土
10. 淡暗灰色シルト
11. 淡褐色細砂

第8図 各調査区の壁面土層図(2)

弥生時代の遺物包含層はみとめられず、弥生時代中期後葉の大溝 S DC25(第19~38層)および S DC114の土層(第15~18・41・42層)などの弥生時代遺構群は、鳥島にともなう素掘り溝群(第12・14層)などの中世遺構群とほぼ同一レベルで検出した。標高9.0m前後の酸化鉄の沈着がみら



れる基盤層の上層には、約0.3～0.4m程度、青灰色砂質土が堆積しており、弥生時代中期の遺構はその上位から掘削されている。またA～D調査区の各地点の深く掘削された溝・井戸などの埋土上層では、掘形に沿って弧を描いて堆積する緑灰色シルト層を検出した。C調査区溝S DC401中の同層位のサンプルを花粉分析にかけた結果(付論7・8参照)、葦や藻類など低湿地性植物の花粉が多量に検出され、水性堆積によることが判明した。この層位の検出によって、遺跡周辺一帯が一時的に低湿地となった時期があることが明らかである。帰属時期は、第8層直上で庄内式甕が出土したことから、古墳時代初頭以降と推定される。なお、C調査区南部では、重機による基盤層の一部断割調査を行った結果、弥生時代遺構検出面(標高約9.3m)から下層に少なくとも約3m以上にわたって、花崗岩起源の砂層が堆積していることを確認した。

(高野陽子)

#### (4) D調査区(第8図)

土層図は、調査地北壁のうち、西端部のものである。第1層は、工場敷地内のアスファルトおよび工業団地造成土、飛行場の盛土で、2mの厚さにわたって堆積している。旧地表面は、標高10.6m付近である。

第2層以下は、淡灰色～淡暗灰色の砂質土～土がほぼ水平な堆積をなしている(2・5～8層)。8層中には、わずかながら瓦器片が混じっており、中世段階の堆積層と判断される。弥生時代の包含層はみとめられなかった。中世・弥生時代の遺構は、ともに8層下面である黄褐色砂上面で検出した。この土層を記録した北壁に沿ってS DD28が東西に掘削されており、その埋土は図中の9～11層が相当するため、遺構面である黄褐色砂は8層下面に現れていない。また、遺構面は調査地の北から南に向けて緩傾斜面をなしているため、調査地北端では標高9.2m付近であるが、調査地南端付近では標高8.8～8.7mとなる。

(岩松 保)

## 第3章 検出遺構

### 第1節 弥生時代の検出遺構

#### 1. 竪穴式住居跡・掘立柱建物跡(図版第17～33・244～258)

竪穴式住居跡は、わずかな痕跡や建て替えと考えられる遺構も含めて都合96基確認された。地震の局所的な液状化による遺構の消失を考慮すれば、さらに多くの竪穴式住居跡が存在したものと考えられる。森岡秀人氏による山城地域の弥生土器編年、山城Ⅱ-3様式併行期、すなわち本稿では市田<sup>(注13)</sup>2期までには、竪穴式住居が造営されていた。竪穴式住居は市田3期(山城Ⅲ-1様式併行期)から4期(山城Ⅲ-2様式併行期)には増加するものの、その後漸減していき、市田6期(山城Ⅳ-2様式併行期)から7期(山城Ⅳ-3様式併行期)をもって終焉する。

##### (1) A調査区(図版第17・18・234・244～246)

A調査区で検出した竪穴式住居跡は、それと推定されるわずかな遺構を含めても7基にしかない。その多くは、方形周溝墓周溝の掘削に際して破壊されているため、方形周溝墓が接続した墓域になる以前には、竪穴式住居跡が散在していたものと考えられる。しかし、竪穴式住居跡が造営される以前、市田1期から市田2期の土坑や方形周溝墓もみついている。よって、A調査区では、市田1・2期、土坑群の掘削と一部の方形周溝墓の構築にはじまって、市田3期の竪穴式住居の造営に引き続くが、方形周溝墓の構築にともなう墓域の拡大とともに、短期間の内に住居域としての土地利用を終える。市田5期以降、方形周溝墓周溝の再掘削が始まり、その後、当該調査区域の土地利用を放棄するという変遷を想定することができる。出土土器から判断した竪穴式住居跡の時期を示した(第9図)。

A調査区では竪穴式住居跡S HA74・A90・A98において埋土土壌の洗浄を行ない、玉作りに関連した多数の碧玉や紅簾片岩・サヌカイトの破片など微細遺物の検出に努めた。

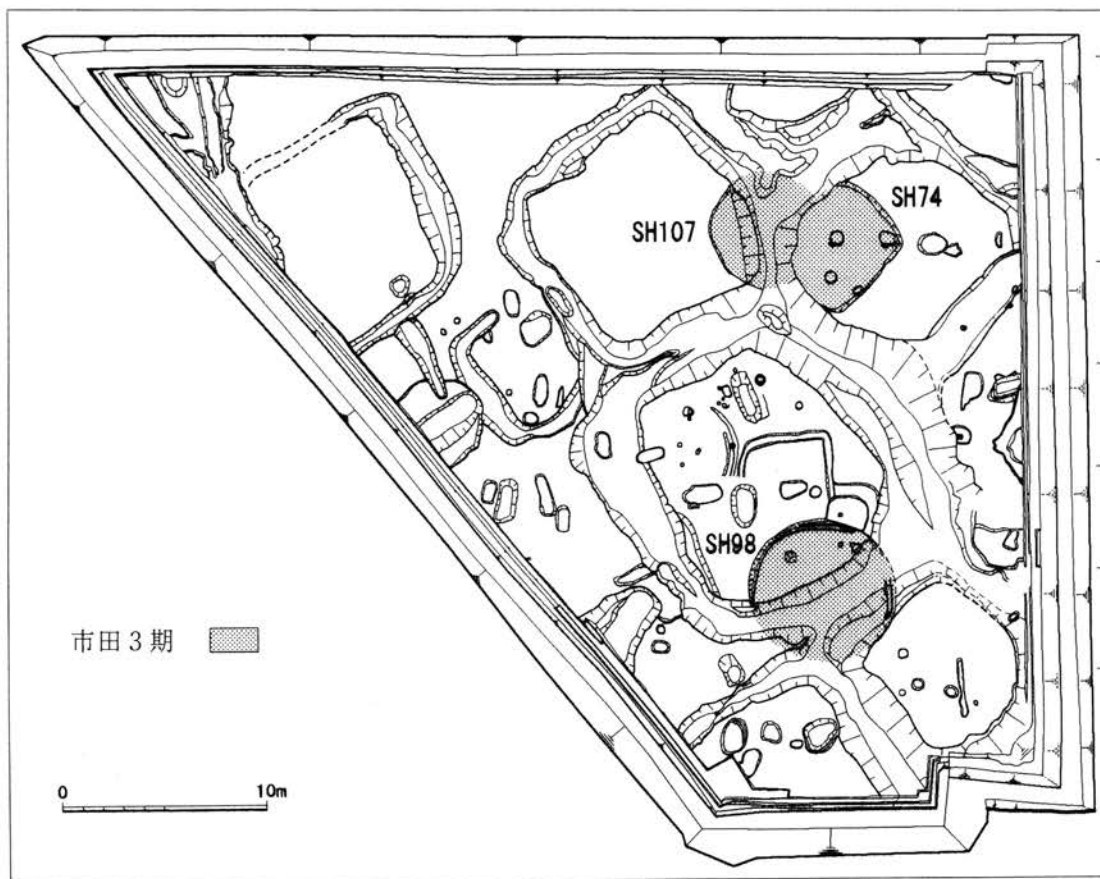
**竪穴式住居跡 S HA74**(図版第17・244-(1)・245) 調査区北東、方形周溝墓S TA59の墳丘部分で検出した。南北5.6m、東西4.6m以上を測る隅丸方形の竪穴式住居跡である。遺構面下20cm前後で多量の炭化物や焼土を検出した。住居の南側では、炭化物が床面から10cm程度堆積していた。床面に周壁溝は検出できず、屋材を支える柱の痕跡も明瞭ではなかった。北東側では4本の炭化木材が竪穴式住居跡掘形壁面に直交するように並んで出土した。上屋を支える柱材とみれば、外壁をもつ住居であった可能性がある。床面で検出された炭化木材・炭化物・焼土の上層には暗黄褐色の単質な砂質土層が厚く堆積していた。住居南西側を中心に床面から5cm程浮いた状態で土器(1～10)が出土した。撰津形水差(5)は市田3期の様相を示す。S HA74出土土器片の一部が、土坑S KA77出土土器片(325)と接合した。このほかに、石剣(1・6)や磨製石器未成品(605)・砥石(674)・玉砥石(803)・玉鋸(849)・石針や石針未成品を含めた石針関連石製品(1051～1136)・

u. i. 1~33)・碧玉玉材やその破片と管玉未成品(75~117)も出土した。碧玉には被熱した痕跡が見られるもの(87)があることから、火災によって焼失した可能性が高い。

**竪穴式住居跡周壁溝 S DA81(図版第1)** 調査区中央、S TA68墳丘中央部分で、円形の竪穴式住居跡の周壁溝を検出した。幅10cmあまり、長さ2m以上を検出した。掘削深10cm前後しか遺存していなかったため、図化する遺物は出土しなかった。

**竪穴式住居跡周壁溝 S DA82(図版第1)** 調査区中央、S TA68墳丘中央部分、周壁溝 S DA81の東側に、円形の竪穴式住居跡の周壁溝を検出した。幅20cm、長さ3m前後で、周壁溝 S DA81に並んで掘削されている。円形竪穴式住居跡の拡幅にともなう周壁溝の再掘削と考えることができる。同様に検出面からの掘削深10cm程度のものであったが、そこから使用痕のある玉鋸(850)が出土した。竪穴式住居跡 S HA74同様、当該住居跡においても玉作りを行った可能性がある。

**竪穴式住居跡 S HA90(図版第18・246-(1))** 調査区中央東側、後述する竪穴式住居跡 S HA98の北側で検出した一辺2mあまりの小形隅丸方形の竪穴遺構である。住居とするには躊躇を覚えるが、方形の竪穴の床面に柱穴と考えられる小土坑6基を検出した。南北1m、東西1.5m前後遺存していたが、南側は竪穴式住居跡 S HA98と重複していたものかと思われる。S HA98に付設していた可能性もある。床面から土器蓋片(11)が出土したほか、埋土土壌を採取、洗浄して、多量の石針(1212・u. i. 34~136)やスクレイパー(1357)のほか、碧玉・紅簾片岩・サヌカイトなど



第9図 A調査区 市田3期(山城Ⅲ様式期)の竪穴式住居跡

の微細な破片を得た。床面中央には炭化木材および炭化物が厚さ10cm前後遺存していた。後述するようにS HA98は市田3期に属しており、S HA90もおそらく市田3期に属するものと考えることができる。

**竪穴式住居跡 S HA98**(図版第17・244-(2)) 調査区中央東側、S TA68の墳丘南端部分で検出した。竪穴式住居跡 S HA90の南側に隣接する。S TA68の周溝によって南側半分が大幅に破壊されているため、全体の様相は不明だが、遺存部分から、直径7m以上の大形の円形竪穴式住居跡になると考えられる。検出面からの掘削深は20cmを超えない。床面まで均質な暗褐色粘質土が堆積していた。床面には硬化したような部分もみられず、ほぼ平坦であった。小形の甕底部(12・13)および打製石鏃(124)・石斧(266)・砥石(663)・玉砥石(804)・使用痕のある玉鋸(851～854)・石針や石針未成品を含めた石針関連石製品(1137～1198・u. i. 137～140)・石錐(1314)のほか、碧玉玉材や管玉未成品(118～129)などが出土した。市田3期に属するものと考えられ、竪穴式住居跡 S HA74とほぼ同時期とすることができる。S HA74同様、玉作りのための竪穴式遺構と考えられる。

**竪穴式住居跡 S HA107**(図版第18) 調査区中央北側、S TA73の墳丘東端部分で検出した円形の竪穴式住居跡である。検出長南北4.8m、東西最大1.6m、検出面からの掘削深20cm前後を測る。床面から広口壺(14)および碧玉玉材(142)が出土した。床面のレベルは竪穴式住居跡 S HA74のそれより10cm程低くなる。炭化木材や焼土が遺存しており、出土した土器細片からも S HA74に近い時期のものともみることができる。

**竪穴式住居跡 S HA127**(図版第1) 方形周溝墓 S TA68墳丘部西端で検出した。検出長南北4.8m、東西95cm前後、検出面からの掘削深15cm前後である。わずかに検出しただけなので、明確な竪穴式住居跡の全容は不明である。図化しうる出土遺物もみられなかった。

## (2) B調査区(図版第19～27・235～237・246～250)

B調査区では、竪穴式住居跡50基以上を検出した。しかし、遺構の遺存状況は概して悪く、多くの竪穴式住居跡は、検出面からの掘削深が10～20cm前後とわずかであった。したがって、掘形全体が削平された竪穴式住居跡もあったものと想定できる。竪穴式住居跡でも壁溝の一部や住居内の中央土坑のみが遺存したと考えられるものも多い。調査区南半部分は第2章第2節で述べたように、地震による曲隆のために遺構の検出が不可能であった。

竪穴式住居跡は、数基重複しているものが認められる。竪穴式住居跡 S HB139・B152・B341・B529・B690・B691などを中心として、幾度かの建替えによる掘形の重複がみられる。しかし、掘形埋土の遺存状況が悪いことや、複数の竪穴式住居跡の埋土が単一な色調であること、時間的制約もあって、重複した竪穴式住居跡を検出した場合、その先後関係を見極めるのは非常に困難であった。さらに床面の柱穴や土坑の所属が不分明なまま、掘削を進めざるを得なかったため、重複した竪穴式住居跡内の床面で検出した柱穴や土坑の所属が明確にはできなかったものも少なくない。

当該調査区では、方形周溝墓は認められず、竪穴式住居の造営が引き続いたものとみられる。

市田2期に土坑が掘削され始める。市田3期以降には竪穴式住居跡が造営され、市田7期に終焉した。以下に建替えが行なわれた竪穴式住居跡を群単位(I～Ⅷ群)で呼称し、群ごとに説明する(第10図参照)。また、出土土器によって所属時期を判断し、その時期別に竪穴式住居跡を示した(第11・12図)。

#### A. I群(図版第19・246-(2))

**竪穴式住居跡 S HB149(図版第19)** 調査区北端、S HB699の南東側に位置する。検出面ですでに周壁溝を検出したため、薄い竪穴式住居跡埋土からは凶化しうる土器はみられなかった。円形あるいはやや隅丸方形に近い平面形の周壁溝や中央土坑と考えられるS KB436・B985・B1160を検出した。幾度か中央土坑が作り替えられたものと考えられる。土坑内には下層に炭層が堆積していた。断面土層の観察から北接する土坑S KB712の掘削以前に廃棄されたようである。S HB149からは磨製石鏃(103)・打製石鏃(132・133)・石針(1223～1225)および石針未成品(1231・1237・1239)・碧玉玉材(159～161)・翡翠製勾玉(162)などが出土した。土坑S KB436からは石庖丁(389)が出土した。翡翠の勾玉162は完成後に破損しており、竪穴式住居跡S HB147から出土した翡翠の破片157と接合する。

**竪穴式住居跡 S HB699(図版第19)** 竪穴式住居跡S HB149の北側、竪穴式住居跡の南西隅部分を確認した。部分的な検出であったために、支柱穴や中央土坑は確認できなかった。土坑S KB1103が周壁溝辺に付設される模様である。土坑S KB623にその埋土が掘削される先後関係がある。ともに凶化しうる土器はみられなかった。

**竪穴式住居跡 S HB982(図版第19))** 竪穴式住居跡S HB149の南側、周壁溝のみを検出した。S HB982に所属すると考えられる土坑S KB1099からは、市田3期から4期前後と考えられる弥生土器甕・鉢・壺(142～145)、玉砥石(808)などが出土した。

#### B. II群(図版第20・246-(2)・247-(1)・249-(1))

**竪穴式住居跡 S HB146(図版第20)** 調査区北西部、竪穴式住居跡東端の一部のみをわずかに確認した。検出面からの掘削深は15cm程度で、全容は不明である。竪穴式住居跡S HB642の埋土を掘削する先後関係がある。直口壺(44)・石剣(7)・石庖丁(384)・砥石(670・675)・石針(1218・1219)・石針未成品(1235・1238)・管玉(155)など比較的多くの遺物が出土した。玉作りに関連する遺物が多いことに特徴がある。出土土器からは市田5期に属する。

**竪穴式住居跡 S HB147(図版第20)** 竪穴式住居跡S HB146の北側、直径5mを超える中形の円形竪穴式住居跡である。中央土坑S KB1100と支柱穴S KB760などを確認した。遺構検出面からの掘削深が10cm前後とわずかであったため、凶化しうる土器はみられなかったが、石針(1220～1222・u. i. 141・142)・管玉の未成品や翡翠勾玉破片(156・157)のほか、土坑S KB1100からは石斧(269)などが出土した。

**竪穴式住居跡 S HB152(図版第20)** 竪穴式住居跡S HB146の南東側、重複する竪穴式住居跡群の中でも最も小さく、直径およそ4mたらずの小形の竪穴式住居跡である。注目できる出土遺物として打製石鏃7点(135～141)がある。このほか、甕の口縁部(58)や石剣(5)・磨製石器未成品



第10図 B調査区 竪穴式住居跡群とその呼称

(606)・石針(1226・1227)・碧玉玉材(163)・管玉(164・165)などが出土した。中央土坑S KB616が設置される。土層断面の観察からはS HB151・B667・B675の埋土を掘削する先後関係が確認できた。Ⅱ群中、最も新しく構築された住居と考えられる。

**竪穴式住居跡 S HB642(図版第20)** 竪穴式住居跡 S HB146に重複する小形方形の竪穴式住居跡である。中央土坑・支柱穴などは確認できなかった。竪穴式住居跡 S HB146によってその埋土が掘削される先後関係がある。なお、図化する土器はみられなかったが、石剣(12)・打製石鏃(154～156)などが出土した。当該調査区では、方形掘形の竪穴式住居跡には大形円形竪穴式住居跡よりも後出するものが多いことから、当該遺構もおそらく、市田5期前後のものと考えてよさそう。

**竪穴式住居跡 S HB667(図版第20)** 竪穴式住居跡 S HB152の南側、およそ直径8m前後となる竪穴式住居跡の周壁溝のみを確認した。Ⅱ群のなかでは最も大きい円形竪穴式住居跡となるようである。竪穴式住居跡 S HB151によって、その埋土が掘削される先後関係がある。石針未成品(1243)が出土した。周壁内に位置する柱穴 S KB994では、管玉未成品(223)もみつかり、玉作りの痕跡を窺うことができる。また、S HB706の周壁溝に重複する土坑 S KB705からは石剣(11)が出土した。

**竪穴式住居跡 S HB675(図版第20・250-(4))** 竪穴式住居跡 S HB152の北西側、S HB152同様の小形竪穴式住居跡の周壁溝である。中央土坑は S KB495と想定される。S KB495からは甕や壺の一部(64～66)が出土した。市田6期あるいはそれ以降と想定できる。

**竪穴式住居跡 S HB706(図版第20)** 竪穴式住居跡 S HB667にほぼ重複する周壁溝を確認した。S HB667の周壁溝の北東側、東西直径7mを超える周壁溝である。S HB667よりもわずかに規模が小さいものと思われる。検出面からの掘削深は10cm未満とわずかなものである。遺存状態が悪いため、打製石鏃(171)や石針(1229)・石針未成品(1246)・碧玉玉材(176)など石製品や玉材以外遺存しなかった。S HB706に付設する可能性もある土坑 S KB705からは、石剣(11)が出土した。

**竪穴式住居跡 S HB709(図版第20)** 竪穴式住居跡 S HB147の南東側に遺存するわずかな円形の窪み状遺構である。S HB147・S HB667周壁溝によってその埋土が掘削される先後関係がある。検出面からの掘削深が10cm未満のわずかなものであったが、甕(112～114)や、石針未成品(1247・1248)・碧玉玉材(174)が出土した。発掘調査時には、中央土坑と考えた土坑 S KB422からは、広口壺・蓋・甕(111・115・116)と石庖丁(391)が出土した。市田2期に属するものであり、S HB709埋土からは市田4期前後の土器もみられることから、土坑 S KB422とは別の遺構である可能性が高い。

**竪穴式住居跡 S HB742(図版第20)** 竪穴式住居跡 S HB675の東側に、ややずれて重複する周壁溝である。検出面からほとんど埋土がみられなかった。石針(1230)・管玉(171)が出土した。

**竪穴式住居跡 S HB990(図版第20)** 竪穴式住居跡 S HB675のさらに西側にわずかにみられた周壁溝である。ほとんど埋土がみられなかった。S HB706の周壁溝と同一の遺構とすれば、S HB706は東西に長い長軸をもつ楕円形の竪穴式住居跡となり、不自然さが残る。竪穴式住居跡 S H

B642によってその埋土が掘削される先後関係がある。顕著な遺物は出土しなかった。

C. III群(図版第21・247-(1)・249-(2))

**竪穴式住居跡 S HB150(図版第21)** 竪穴式住居跡 S HB529に一部重複する径約8mあまりの円形竪穴式住居跡である。竪穴式住居跡 S HB529と同じく地震動による液状化の影響のために床面や柱穴が明確に認識できなかった。竪穴の壁付近が幅50~80cm、長さ約5m範囲でゆるやかに掘り窪められていた。遺構検出面からの掘削深おおよそ15cm程度となる。S HB150に重複する竪穴式住居跡として S HB151・B528・B529・B778・B1008があるが、竪穴式住居跡 S HB528・B778の埋土を掘削し、かつ S HB529・B1008によって当該遺構の埋土が掘削されるという先後関係がある。S HB150からは市田5期の土器(45・46)や石剣(4・8)、打製石鏃(134)・石庖丁(393)・石錐(1320)が出土した。

**竪穴式住居跡 S HB151(図版第21)** II群とIII群の間に位置する。検出面からの掘削深がほぼ10cm前後の周壁溝である。円形竪穴式住居跡とすれば、その規模は推定直径4.8~5.0m前後となる。周壁溝からは顕著な遺物は出土しなかった。竪穴式住居跡 S HB150・B152・B528によってその埋土が掘削される。また、II群の竪穴式住居跡 S HB667・土坑 S KB822の埋土を掘削する先後関係がある。III群のなかでは最も古い時期、市田4期以前のものと考えられる。

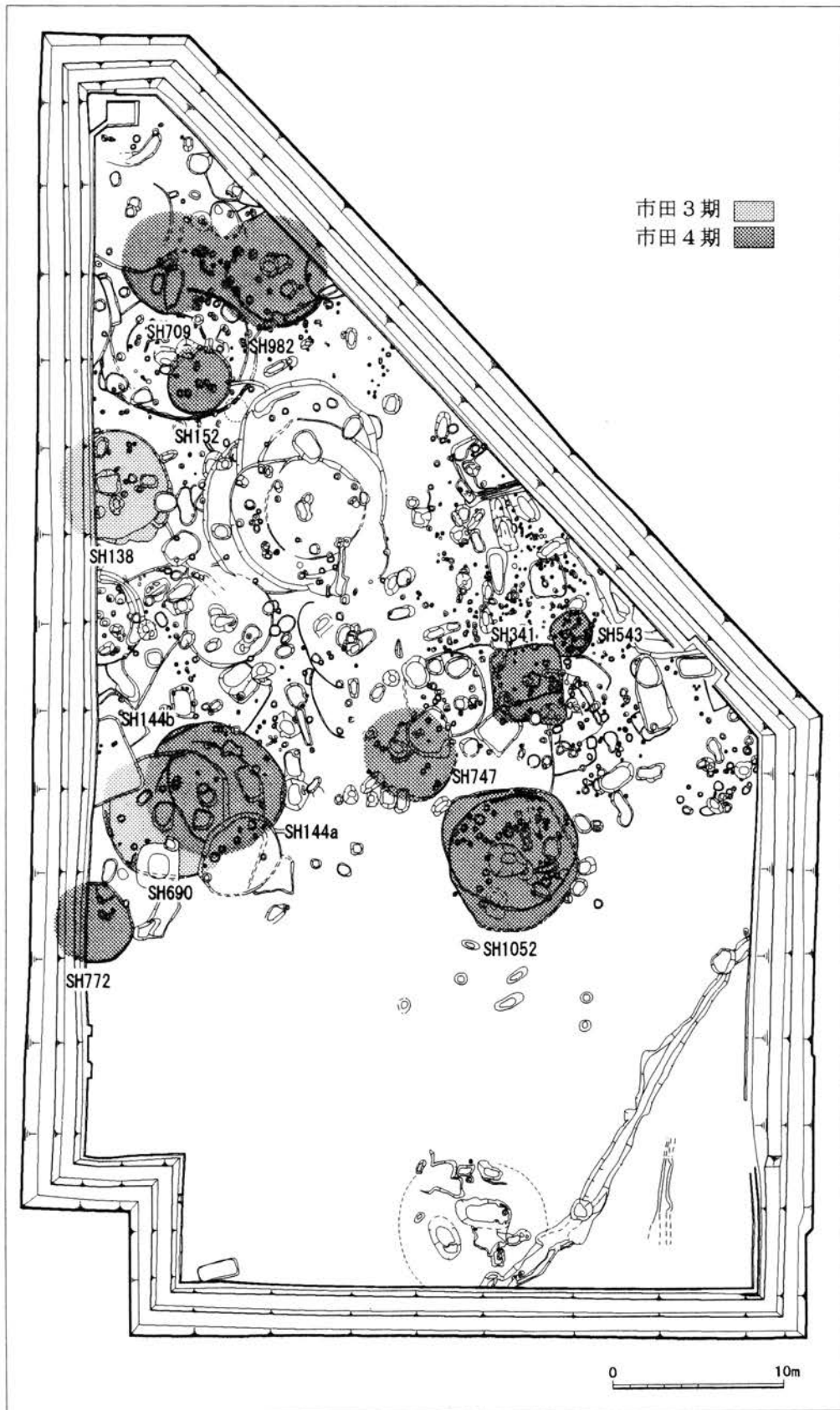
**竪穴式住居跡 S HB521(図版第21)** III群の南東隅、わずかに掘形を検出した。後述する竪穴式住居跡 S HB530南西隅の掘形の可能性が高いものである。

**竪穴式住居跡 S HB528(図版第21)** 竪穴式住居跡 S HB529の西側、ほぼ重複する円形の竪穴式住居跡である。復原すれば直径約9.5m以上になろう。III群のなかでも最も規模の大きいものとなる。竪穴式住居跡 S HB151の周壁溝を掘削・破壊し、S HB150・B529によってその埋土が掘削される先後関係がある。土器(67~69)・石鏃(143~144)・磨製石器未成品(608)・石小刀(1343)・スクレイパー(1351)・碧玉玉材(166)などが出土した。この住居にともなうと思われる土坑 S KB845では、石鏃(145)・石針未成品(1241)・碧玉玉材(221)が出土した。

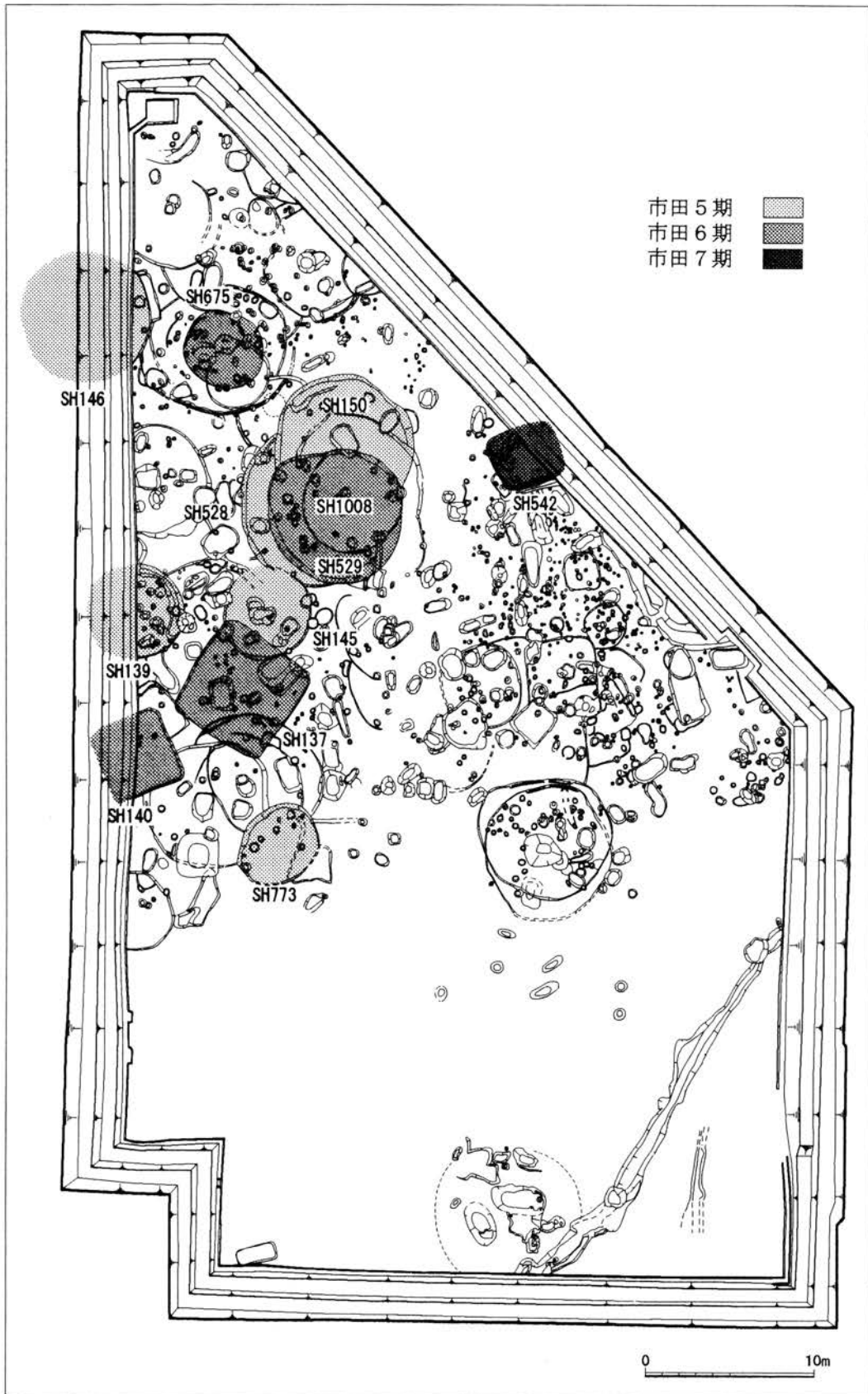
**竪穴式住居跡 S HB529(図版第21)** III群の中心、竪穴式住居跡 S HB1008に重複して検出した円形の竪穴式住居跡である。遺構の切り合い関係からみて、7~8基の重複した竪穴式住居跡のなかでも最後に掘削・構築されたものとみられる。東半は上層の坪境道の西側溝群によって削平を受けている。直径約8m前後のいびつな円形に復原できる。床面は、地震動による液状化のために不定形に波打ち、融解しており、支柱穴や土坑を十分には検出できなかった。埋土から出土した土器群(86~104)は市田6期に属するものである。このほか石剣(9・10)・打製石鏃(146)・石斧(267・270~272)・石庖丁(390)・砥石(671)・玉砥石(810)・石針(1228・u. i. 143・144)など多くの石製品が出土した。

**竪穴式住居跡 S HB530(図版第21)** III群の南東隅、深さわずか床面を検出した。小形隅丸方形に近い形状と思われるが、遺存部分が少ない。竪穴式住居跡 S HB532の埋土を掘削し、かつ S HB529にその埋土が掘削される先後関係がある。図化しうる顕著な遺物は石斧(273)以外みられなかった。竪穴式住居跡 S HB521と同一遺構の可能性はある。





第11図 B調査区 市田3・4期(山城Ⅲ様式期)の竪穴式住居跡



第12図 B調査区 市田5～7期(山城Ⅳ様式期)の竪穴式住居跡

竪穴式住居跡 S HB532(図版第21) III群の南西隅、竪穴式住居跡 S HB529の南側で検出され、ほぼ重複する竪穴式住居跡である。竪穴式住居跡 S HB528と同一のものとも考えられるが、当該遺構の床面は4cm程度低かった。砥石(681)以外、図化しうる顕著な遺物はみられなかった。

竪穴式住居跡 S HB778(図版第21) III群中央、竪穴式住居跡 S HB1008の北東側に重複して検出した円形の竪穴式住居跡である。ややいびつな平面形であるが、おおよそ直径8m前後の円形の竪穴式住居跡に復原できる。竪穴式住居跡 S HB150・B529によってその埋土が掘削される先後関係がある。蓋(136)以外、図化しうる顕著な遺物はみられなかった。

竪穴式住居跡 S HB1008(図版第21) III群中央、竪穴式住居跡 S HB529の下層で検出した直径6mほどの小形の円形竪穴式住居跡である。中央土坑に S KB1006bをもつ。S HB529によって埋土の上層部分を掘削される先後関係がある。口縁部に凹線文を施す壺(129)が出土した。III群のなかでは最も新しい市田6期に属する。

#### D. IV群(図版第22・23・247-(2)・249-(3)(4))

竪穴式住居跡 S HB137(図版第22・23) IV群南東隅、一辺6.5m前後になる大形の方形竪穴式住居跡である。遺存状況は悪く、検出面からの掘削深10cmにも満たなかった。周辺の竪穴式住居跡は埋土の堆積が20cm前後と検出面からの掘削深が相対的に深いため、平面図では遺構掘形が当該遺構を破壊するように表現されているが、周辺の竪穴式住居跡 S HB144・B145・B153・B690などすべての竪穴式住居跡の埋土を掘削する先後関係がある。柱穴などからの出土土器(15~17)も市田6期と考えられ、B調査区の重複する竪穴式住居跡のなかでも最も新しい様相を示している。このほか、石斧(268)・石庖丁(383)・砥石(666)・碧玉玉材や管玉(143~148)などが出土した。

竪穴式住居跡 S HB139(図版第22・23・249-(5)) IV群西端で検出された直径5.5m前後に復原される小形円形の竪穴式住居跡である。東側半分のみであったが、周壁溝や住居内の柱穴なども検出された。検出面からの掘削深は15cm前後と浅いものの、床面の遺存状態はなかでも良好なほうであった。竪穴式住居跡 S HB153埋土を掘削する先後関係がある。市田5期以降の土器(70~77)や、石針(1216)・石針未成品(1234)・碧玉玉材(153)が出土した。また、床面上の土坑 S KB684からは石剣(2)が出土した。

竪穴式住居跡 S HB140(図版第22) IV群南西、V群に重複する部分で検出された一辺4m前後の方形竪穴式住居跡である。床面から主柱穴や土坑などを検出できなかったが、検出面からの掘削深20cmにおよび、かつ明瞭な方形掘形をもつことから竪穴式住居跡と考えた。出土土器(48・49)はおそらく市田6期、あるいはそれ以降となる。竪穴式住居跡 S HB141あるいはV群の竪穴式住居跡 S HB690の埋土を掘削して構築されているところからも新しい時期のものであることがわかる。このほか、磨製石鎌(102)・打製石鎌(129~131)・石針(1217)・石錐(1317)が出土した。

竪穴式住居跡 S HB141(図版第22) IV群南西、先述した竪穴式住居跡 S HB140に重複する一辺3.5m前後の小形の方形竪穴式住居跡である。竪穴式住居跡 S HB140に埋土が掘削される先後関係がある。図化しうる出土土器(78)は少ないが、ほかの細片からも市田6期を中心とする時期が考えられる。土器以外では、石剣(3)・石錐(1318)・石小刀(1341)・スクレイパー(1349)・碧玉

玉材(154)など種類の豊富な遺物が出土した。

**竪穴式住居跡 S HB145**(図版第22・23) IV群北東隅、直径5 mあまりの小形円形の竪穴式住居跡である。西側に重複する竪穴式住居跡 S HB153にその埋土を掘削される先後関係がある。中央土坑と考えられる S KB768・B769・B893などは、床面よりもやや上層から検出したため、当該遺構にともなわない可能性もあるが、S KB769・B893は下層に灰を含んだ層が堆積していたため、竪穴式住居跡 S HB145の中央炉とも想定できる。IV群のなかでは最も古い段階の竪穴式住居跡といえる。柱穴などからの出土土器(50～53)から当該遺構は市田5期に属するようである。

**竪穴式住居跡 S HB153**(図版第22・23) IV群中央、直径8.2mの大形円形竪穴式住居跡である。円形の掘形周囲には幅1 m前後の周壁溝がめぐる。住居内の土坑がすべて当該遺構にともなうものかどうかは検出面からの掘削深が浅かったので明確ではない。図化するものはみられないが、出土した土器細片は市田4期前後かと考えられるものである。S HB153にともなう可能性のある S KB775からは磨製石器未成品(617)・砥石(667)が出土した。

#### E. V群(図版第22・23・249-(6)(7))

**竪穴式住居跡 S HB144**(図版第22・23) V群は6基以上の竪穴式住居跡で構成される。直径8 mあまりの大形円形の竪穴式住居跡である。北西の一部の掘形が重複するように掘削、埋没しているところから、S HB144aとS HB144bに分離した。S HB144bがS HB144aに掘削される先後関係があり、またS HB144はS HB969の埋土を掘削する先後関係がある。中央土坑と判断される S KB1065b・B1209は切り合い関係があり、土坑S KB1209が土坑S KB1065bを破壊する先後関係がある。住居跡の重複関係を勘案すると、土坑S KB1209は竪穴式住居跡S HB144、土坑S KB1065bは竪穴式住居跡S HB969の中央土坑に属すると判断される。これらの中央土坑の壁面は、被熱のために赤変・硬化しているわけではないが、底部近くに凹状に炭層が堆積していた。炭層には土や砂が筋状に入り込んでおり、数回にわたって堆積したことがわかる。その上位には住居跡の埋土と類似した土壌が堆積していた。S KB1209からは市田4期かと考えられる広口壺(47)や砥石(716)が出土した。この住居跡からはほかに磨製石器未成品(607)が出土した。遺構の切り合いからみた先後関係から、概ね竪穴式住居跡S HB969→S HB144→S HB690→S HB773→S HB774・S HB1041と変遷するものとみられる。わずかな出土土器からは市田4期に下る可能性があるため、その場合、市田3期に属するS HB690との先後関係は逆転する。

**竪穴式住居跡 S HB690**(図版第22) 竪穴式住居跡S HB144の南西に重複する直径8 mたらずの大形の円形竪穴式住居跡である。平面形は隅丸に近い円形といえる。中央土坑S KB846をもつ。先述したように遺構検出面での切り合い関係は確認できなかったが、S HB773以前に構築されたものと考えられる。S HB690およびS KB846・B1034などからはともに市田3期に属する土器(79～85)が出土している。83は土坑S KB403(市田4期)出土土器片と接合した。このほか、石剣(13・14)・磨製石鏃(107)・打製石鏃(157～169)・石斧(276)・石庖丁(392)・砥石(676)・玉砥石(806)・石針未成品(1244)・碧玉玉材(172・175)など石製品や碧玉玉材などが出土したことが注目できる。

なお、床面で弧状になる段状の掘形を検出しており、掘削時には確認できなかった竪穴式住居がさらに数基存在していたものと想像される。

**竪穴式住居跡 S HB773**(図版第22) 竪穴式住居跡 S HB690の南東側、長径5.3m、短径4.3m前後のやや楕円形に近いびつな平面形をもつ竪穴式住居跡である。遺存状況は悪い。市田5期前後の土器(132・133)が出土しており、S HB690に後続する竪穴式住居跡であるといえる。このほか、磨製石器未成品(609)が出土した。

**竪穴式住居跡 S HB774**(図版第22) 竪穴式住居跡 S HB773の南東側、一辺2.4m前後の小形の竪穴式住居跡である。図化しうるような遺物は出土しなかったが、おそらくは市田5期以降に属するものであり、V群のなかで最も新しい時期のものと考えられる。

**竪穴式住居跡 S HB969**(図版第22・250-(6)) V群の中央、竪穴式住居跡 S HB144に重複する竪穴式住居跡である。北東側を中心に周壁掘形のみ確認できたものである。土坑 S KB972は周壁に付設された可能性がある。S KB972出土土器(588~590)は市田3期前後に属するものと考えられることから、土坑 S KB972が竪穴式住居跡 S HB969に属するものであれば、出土土器からもV群では最も古い竪穴式住居跡と考えることができる。

**竪穴式住居跡 S HB1041**(図版第22) 竪穴式住居跡 S HB773に重複する形で検出した方形竪穴式住居跡の東側の掘形である。検出面からの掘削深は10cm未満とわずかでほとんど削平されていたものだが、竪穴式住居跡 S HB774同様、V群では、最も新しい時期の竪穴式住居跡と考えられる。砥石(679)が出土した。

#### F. IV群(図版第24・248-(1))

**竪穴式住居跡 S HB341**(図版第24・250-(8)) VI群は小形の竪穴式住居跡が重複するもので、その中央で検出した一辺約4.1m以上、方形の竪穴式住居跡である。検出面からの掘削深も床面まで10cmあまりとわずかであった。この竪穴式住居跡は遺構の重複の状況から新しい時期に属するようである。出土した土器(54~57)は、概ね市田4期に属する。砥石(683・684・687)・石針未成品(1240)が出土した。土坑 S KB819からは打製石鏃(142)・石庖丁(388)・石錐(1321)・スクレイパー類(1350)などが出土した。

**竪穴式住居跡 S HB538**(図版第24) 調査区の中央部やや東で検出した円形の竪穴式住居跡で、径約5mを測る。重複する竪穴式住居跡や土坑のすべての埋土を掘削する先後関係があり、VI群では、最も新しい竪穴式住居跡と考えられる。このほか、磨製石鏃(104)・打製石鏃(147~150)・砥石(669)・石錐(1328)・碧玉玉材(167)が出土した。

**竪穴式住居跡 S HB539**(図版第24) 竪穴式住居跡 S HB341の南西に重複する小形の竪穴遺構である。一辺2mあまりのもので、検出面からの掘削深も10cmあまりとわずかしこ遺存していなかった。竪穴式住居跡 S HB341にその埋土を掘削される先後関係がみられた。甕(105)・打製石鏃(151)・碧玉玉材(168・169)が出土した。市田4期以前に属する可能性が高い。

**竪穴式住居跡 S HB543**(図版第24・249-(8)) VI群北東、直径3mたらずの、小形円形の竪穴式住居跡である。出土土器(59~61)は市田4期と考えられる。このほか、磨製石鏃(106)が出土

した。

**竪穴式住居跡 S HB724**(図版第24) 竪穴式住居跡 S HB543に南接する隅丸方形の壁をもつ掘形である。検出面からの掘削深10cmにも満たない。出土遺物も明瞭ではなく、ほかの遺構との切り合い関係や所属時期については不明といわざるを得ない。

**竪穴式住居跡 S HB921**(図版第24) 竪穴式住居跡 S HB341の南東で重複する方形の小形竪穴式住居跡である。一辺はおそらく3m以上と考えられる。ほかの重複する遺構との切り合い関係が検出面では不明瞭であったこと、出土遺物は少なかったことなどから、遺構規模や明確な所属時期については不明である。

#### G. VII群(図版第25・248)

**竪穴式住居跡 S HB691**(図版第25) 調査区中央やや南東側で検出した円形の竪穴式住居跡で、短径7.1m～長径8.1mを測る。複数の住居跡が重複しているが、地震の曲隆により南側が急激に隆起していた。遺構面の土壌と遺構埋土の融解もみられ、通常の掘削は不可能であった。床面あるいは柱穴などから市田5期前後かと思われる土器(106～110)が出土している。このほか、石剣(15)・砥石(673)・玉砥石(807)・石針未成品(1245)・碧玉玉材(173)が出土した。住居内の柱穴 S KB1164からは石剣(33)が出土した。

**竪穴式住居跡 S HB747**(図版第25) 竪穴式住居跡 S HB691に重複する竪穴式住居跡の一つである。市田4期の土器(117～122)が出土している。

**竪穴式住居跡 S HB1052**(図版第25) 竪穴式住居跡 S HB691に重複する竪穴式住居跡の一つである。VII群は竪穴式住居跡が2基重複していると考えた場合、S HB1052は、S HB691の南側周壁と考えたほうがよいかもしいが、検出面からの掘削深が非常に浅いことや、地震による液状化で明確な切り合い関係は確定できなかった。石斧(280)が出土した。土坑 S KB1051など柱穴からはわずかな土器片(134・135)や石剣(22)・石庖丁(386)が出土した。柱穴 S KB1042からは石斧(277・288)や石庖丁(385)が出土した。重複する竪穴式住居跡からも市田4期を前後する時期が与えられる。

このほか、住居跡の重複が認められず、単独で検出した竪穴式住居跡について述べる。

**竪穴式住居跡 S HB138**(図版第26・250-(1)) 調査区北西側、直径6.8m前後の円形の竪穴式住居跡である。住居内の土坑などから市田3期の土器(18～43)が出土しており、住居もその時期に所属するものとみられる。このほか、打製石鏃(125～128)・砥石(665)・石針未成品や石針(1213～1215・1232・1233・u. i. 145・146)・石錐(1315・1316)、S KB939から砥石(703)・スクレイパー類(1347・1348)・碧玉玉材や管玉(149～152)などが出土した。

**竪穴式住居跡 S HB148**(図版第3) 調査区の最も北端で検出した。直径5mたらず中規模の円形竪穴式住居跡で幅広の周壁溝がみられたが、遺存状況が悪かった。検出面からの掘削深5cm程度で床面を検出した。このため図化しうる遺物は石針未成品(1236)・石錐(1319)・石小刀(1342)・管玉未成品(158)などわずかな遺物以外みられなかった。土坑 S KB1000・B1001などが主柱穴と考えられる。

竪穴式住居跡 S HB535(図版第3) 調査区中央、鎌倉時代から室町時代に掘削された久世郡条里遺存地割の南北方向の素掘り溝によってその埋土が掘削され、大半が破壊されていた。西側の周壁部分の掘形が検出されたが、砥石(672)や玉砥石(805)以外、出土遺物はみられなかった。竪穴式住居跡内の付設土坑の可能性のある土坑 S KB1021からは市田3期と考えられる土器(578～580)が出土したが、当該遺構はこれ以降の時期と考えるべきであろう。

竪穴式住居跡 S HB542(図版第26) 調査区北東、周溝 S DB785・B787によって画される一辺3.5m前後の小形方形の竪穴式住居跡である。土坑 S KB335の埋土を掘削する先後関係がある。近江形の甕など市田7期の土器(62・63)が出土した。このほか、磨製石鏃(105)・打製石鏃(152・153)・石斧(275)・石針未成品(1242)・管玉(170)が出土した。土坑 S KB157からは石斧(278)、S DB787からは砥石(708)が出土した。

竪穴式住居跡 S HB718(図版第6) VI群の東側、土坑 S KB909に重複する一辺2mたらずの小形の方形竪穴遺構である。打製石鏃(172)以外、図化しうる出土遺物はほとんどないが、出土土器の細片は市田6期以降に属するものと考えられる。遺構床面までの掘削深も5cmたらずであり、土坑 S KB909との切り合い関係も明確ではなかった。

竪穴式住居跡 S HB772(図版第5) B調査区南西、V群の南西で東側半分が検出された直径5mたらずの円形竪穴式住居跡である。隣接する土坑 S KB782にその埋土がわずかに掘削される先後関係がある。市田4期に属する簾状文をもつ把手付水差(127)や高杯(126)のほか、甕・底部(123～125)・石斧(279)・砥石(682・688・689)などがみられた。また、土坑 S KB1167からは一部研磨された石鏃(170)が出土した。

竪穴式住居跡 S HB796(図版第26・250-(2)) 竪穴式住居跡 S HB718と同様にVI群の北側に存在する一辺2mあまりの小形の方形竪穴遺構である。同様に遺存の状況が悪く、図化しうる遺物がみられない。

竪穴式住居跡 S HB888(図版第5) 調査区中央、鎌倉時代から室町時代に掘削された久世郡条里遺存地割の南北方向の素掘り溝によってその埋土が掘削され、大半が破壊されていた。西側の周壁部分の掘形が検出された。市田3期以降と考えられる竪穴式住居跡 S HB535に削平されており、それ以前と考えられる。打製石鏃(173)が出土した。

竪穴式住居跡 S HB910(図版第27) 調査区の南端で検出した竪穴式住居跡であるが、地震動により、竪穴式住居跡全体が遺構面の黄色砂の土壤に融解している。とくに竪穴西半部は黄色砂と埋土が混じりあってしまい、通常の掘削は不可能であった。東半部の掘形はかろうじて認識できたが、実際に埋土のみを除去することができなかった。また、大形の土坑状の遺構も、竪穴内部で確認したが、正確な掘削は不可能であった。内部からは市田6期を中心とする土器(137～140)のほかに埋土上層(第6層付近)から後期中葉前半以前の手焙型土器(141)が出土している。石剣破片4点(16～19)や石庖丁(387)・砥石(677・678)・石小刀(1344)など多くの石製品が出土した。

竪穴式住居跡 S HB1078(図版第5) 調査区中央、鎌倉時代から室町時代に掘削された久世郡条里遺存地割の南北方向の素掘り溝によってその埋土が掘削され、大半が破壊されていた。南東

側の周壁部分の掘形が検出されたが、砥石(680)以外、ほかに出土遺物はみられなかった。

**竪穴式住居跡 S HB1129(図版第3)** 竪穴式住居跡 S HB138の南側に重複する円形と考えられる竪穴式住居跡である。図化しうる出土遺物はないが、その埋土が S HB138や S HB139・S HB153などによって掘削される先後関係があるため、市田3期以前に属する可能性が高い。

(3) C調査区(図版第28～32・235・236・238・239・251～257)

C調査区では、方形周溝墓と切り合い関係がある竪穴式住居跡は、すべて方形周溝墓周溝の掘削によって破壊される先後関係がある。また、大溝 S DC90や大溝 S DC25・S DC114、あるいは大溝 S DC93なども、竪穴式住居跡を破壊し、方形周溝墓周溝を再掘削する先後関係がある。

C調査区北半では竪穴式住居跡が重複しており、市田3期以降、長期間にわたって建替えられた様相を呈している。それに対して、市田2期から3期に造営されたと思われる竪穴式住居跡 S HC450や S HC451は、それぞれ単独で検出されたもので、竪穴式住居跡の重複が認められない。概ね、南半の竪穴式住居跡の構築が古く、新しい竪穴式住居跡は建替えが行なわれる北半に集中するようである。方形周溝墓もその周溝から出土する土器のみからみれば、南半の方形周溝墓に古い様相がみられる傾向にあるといつてよい。C調査区の南半では、市田2期までには居住域として利用されたが、それほど時を経ずして方形周溝墓の周溝掘削と墳丘構築が行われ始めたものとみられる。これに対して、北半は方形周溝墓の構築以後も居住域として利用されていたと思われる。

B調査区ではほとんど実施できなかったが、C調査区では竪穴式住居跡の埋土土壌の洗浄を行ない、微細遺物の検出に努めた。その結果、検出量の多寡はあるが、大半の遺構においてサヌカイトや紅簾片岩・碧玉の剥片あるいは石針片が検出されており、少なからず一定の割合の人々が石器や玉の生産に携わっていたと考えられる。

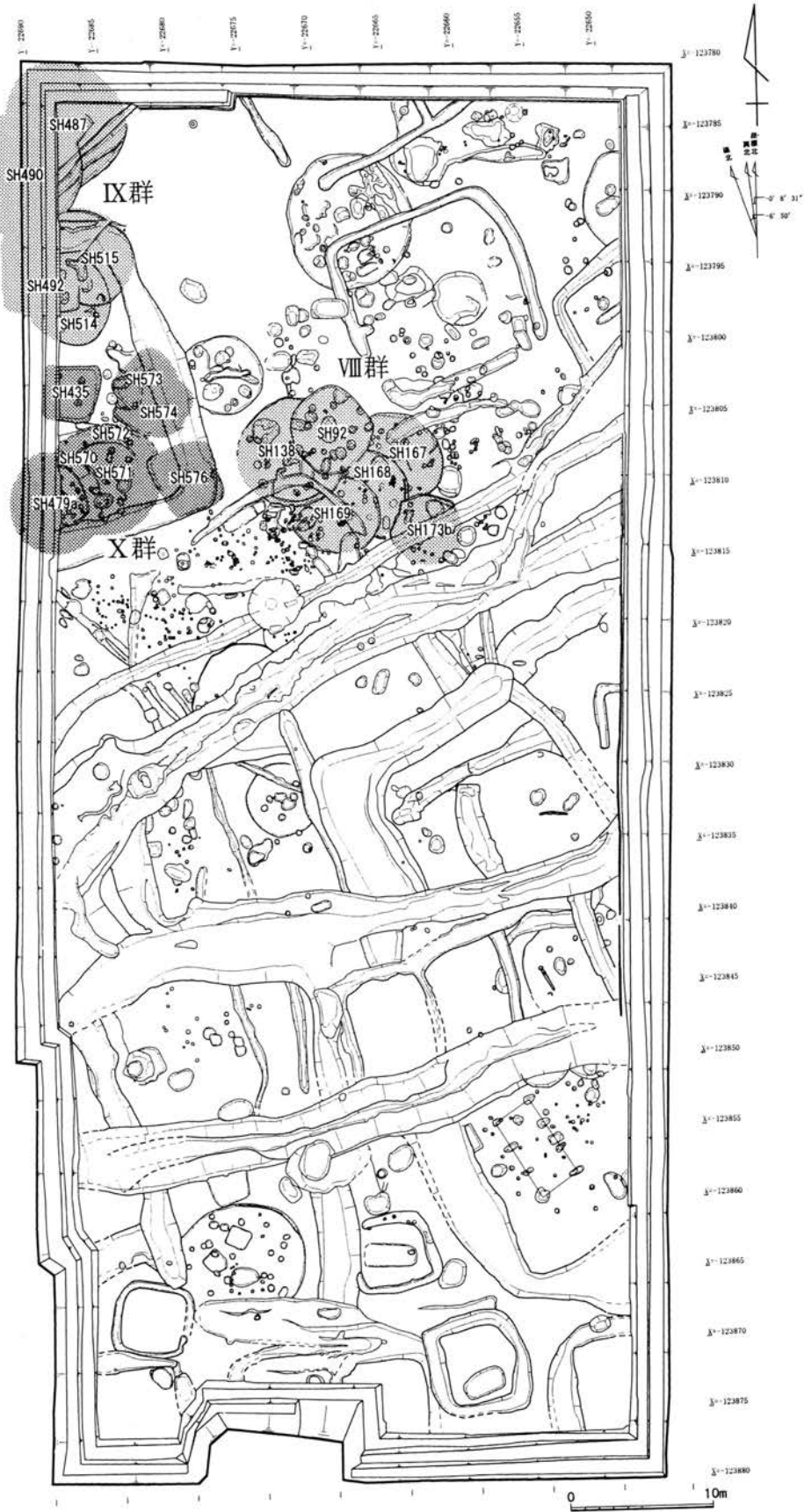
B調査区と同様に、掘形埋土の遺存状況が悪いことや、複数の竪穴式住居跡の埋土が単一な色調の土色であること、さらに時間的制約もあって、重複した竪穴式住居跡を検出した場合、その重複の先後関係を見極めるのは困難であった。建替えが行なわれた竪穴式住居跡は、群単位(Ⅷ・Ⅸ・Ⅹ群)で呼称し、群ごとに説明する(第13図参照)。また、出土土器のみによって所属時期を判断し、その時期別に竪穴式住居跡を示した(第14～16図)。

A. Ⅷ群(図版第28・254-(1)(2))

**竪穴式住居跡 S HC92(図版第28・251-(1)・254-(3)・255-(5)(6))** C調査区中央北半、最も竪穴式住居跡が重複した一群のなかでも最後に掘削されたと考えられる一辺5mを超えるややいびつな円形竪穴式住居跡である。竪穴式住居跡 S HC168・C138の埋土を掘削する先後関係がある。床面上には、広範囲に炭化物・灰・焼土が遺存していたため、焼失住居跡と判断される。床面上の土坑内部からは、ほぼ完形の高杯(159)、水差形土器(152・153)をはじめ、各種土器(152～159)が出土した。市田6期に帰属する。このほか、打製石鏃(175～177)・石斧(281・287)・石庖丁(399)・砥石(690)・石針未成品(1251)が出土した。

**竪穴式住居跡 S HC138(図版第28)** 竪穴式住居跡 S HC92の西側に重複する直径8mたらずの





第13図 C調査区 竪穴式住居跡群とその呼称

大形円形竪穴式住居跡である。竪穴式住居跡 S HC168・C169の埋土を掘削し、竪穴式住居跡 S HC92あるいは S DC170にその埋土が掘削される先後関係がある。竪穴掘形の南側に沿って、幅約 30cm、掘削深10cm内外の周壁溝を検出している。柱穴などから市田 6 期の土器片(160～166)が出土している。このほか、石庖丁(397)・磨製石器未成品(612)・砥石(686)・石針(u. i. 145・146)が出土した。

**竪穴式住居跡 S HC167**(図版第28・256-(5)) 竪穴式住居跡 S HC168などに重複する直径推定 6 m前後の円形竪穴式住居跡である。竪穴式住居跡 S HC168や竪穴式住居跡 S HC92によってその埋土が掘削される先後関係がある。わずかだが土器(213・214)や玉砥石(811)・石針未成品(1252・1253)・石錐(1324・1325)・碧玉玉材(180)が出土した。重複する竪穴式住居跡のなかでは古い様相の遺物群をもつ。市田 3 期に属すると思われる。

**竪穴式住居跡 S HC168**(図版第28・256-(4)) 竪穴式住居跡 S HC169などに重複する直径推定 6 m前後の円形竪穴式住居跡である。竪穴式住居跡 S HC169によって破壊される先後関係がある。市田 5 期の土器(207～209)が出土した。このほか、磨製石鏃(109)や石針(1254～1258・u. i. 147・u. i. 148)・碧玉玉材(179・181～183)が出土した。

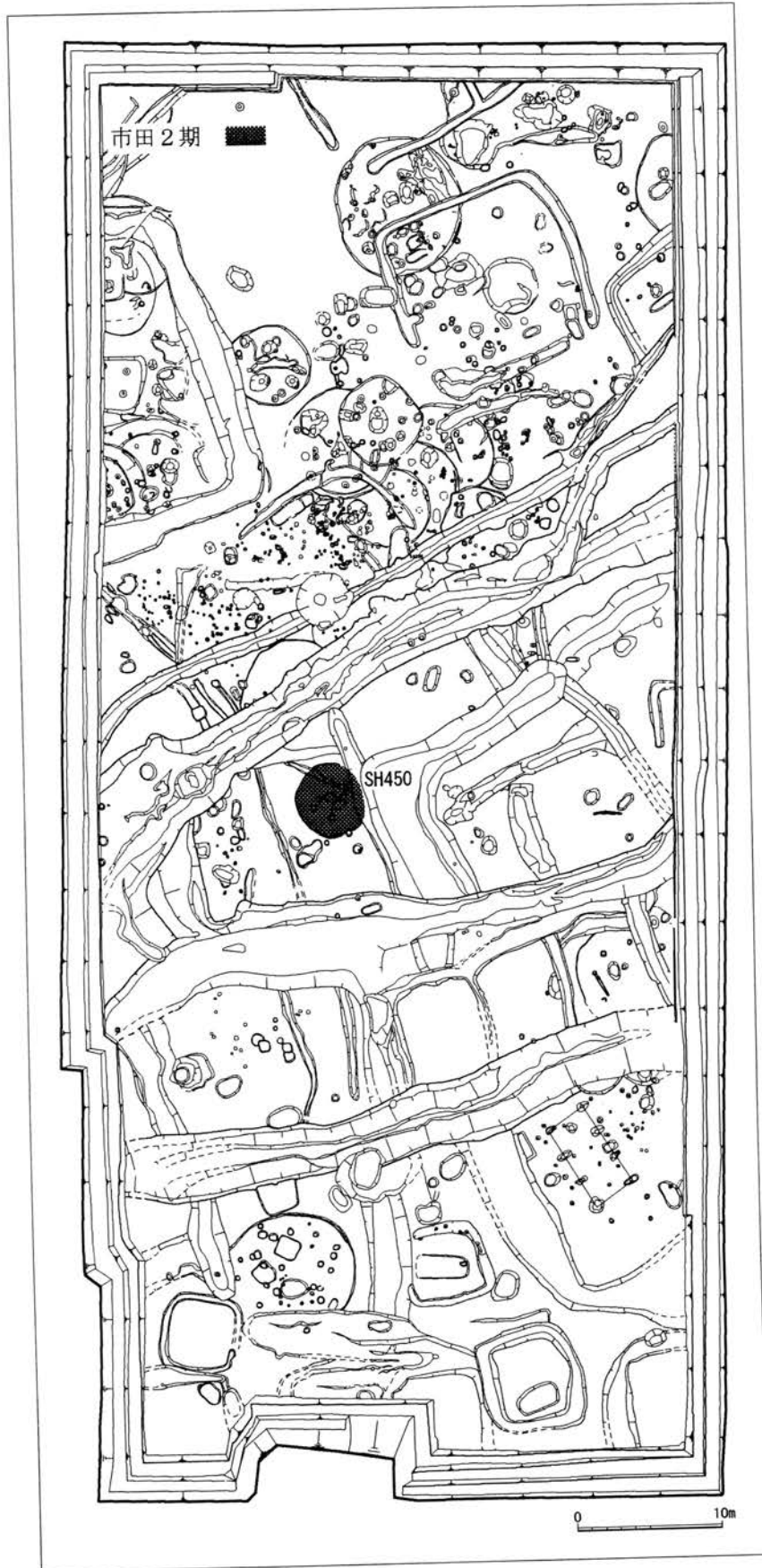
**竪穴式住居跡 S HC169**(図版第28・254-(4)(5)・255-(7)) 竪穴式住居跡 S HC138の南東側に重複する直径 6 m前後の円形竪穴式住居跡である。中央土坑 S KC338をもつが、方形周溝墓周溝 S DC170に破壊される。土坑 S KC218にもその埋土が掘削される先後関係がある。わずかではあるが市田 5 期をあるいはそれ以降の土器細片(210～212)が出土している。このほか、打製石鏃(179)・石斧(282・286)・石庖丁(411・412)・玉砥石(812)・石針(1259)・碧玉玉材(184)が出土した。

**竪穴式住居跡 S HC173b**(図版第28・254-(5)) 竪穴式住居跡 S HC168の南東側に重複する小形の円形竪穴式住居跡である。竪穴式住居跡 S HC168にその埋土が掘削され、かつ大溝 S DC93によっても破壊される先後関係がある。Ⅷ群では最も古い時期の竪穴式住居跡といえる。わずかだが、小形の甕(215)や磨製石器未成品(613)・碧玉玉材(185)などが出土した。市田 3 期に属する。

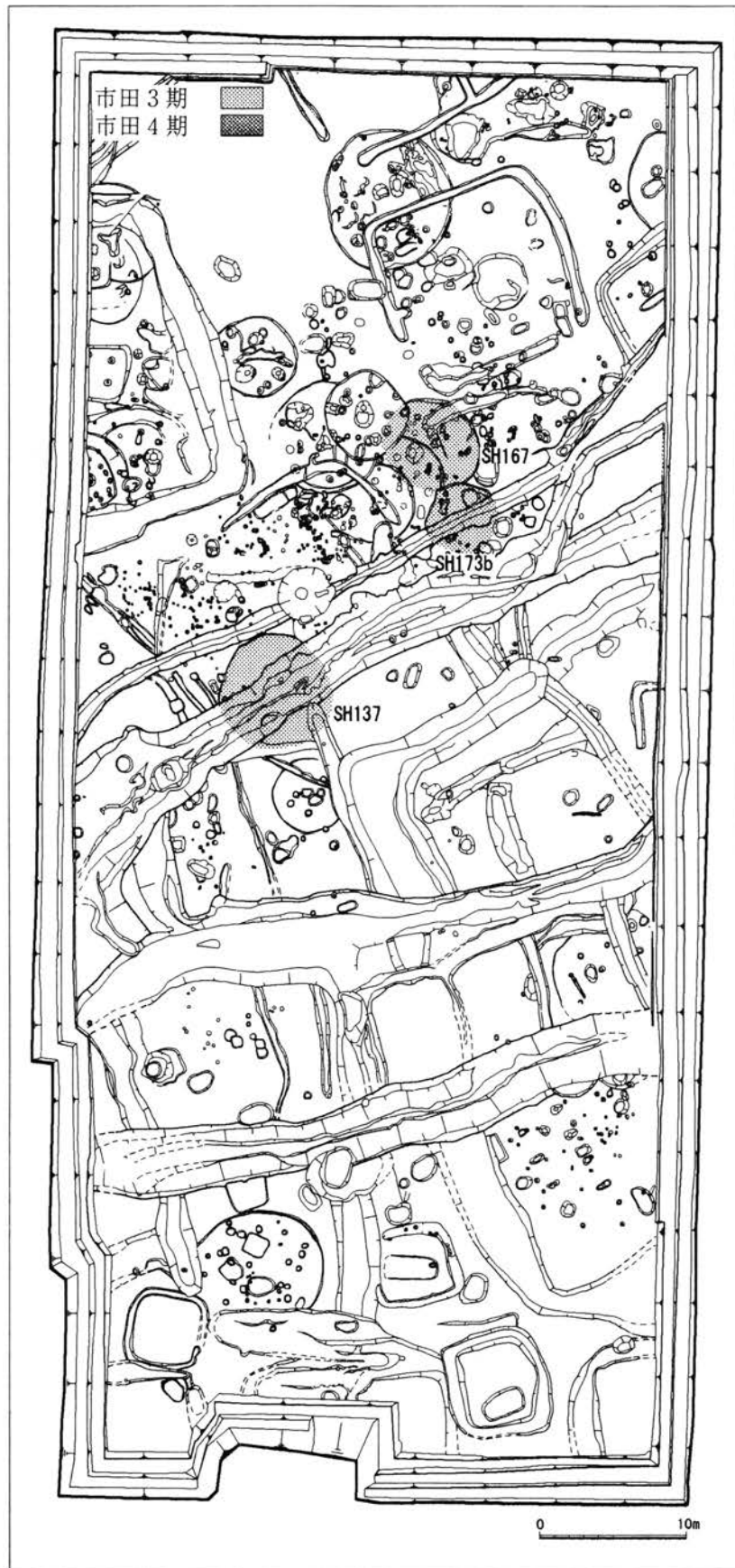
#### B. IX群(図版第29・254-(6))

**竪穴式住居跡 S HC487・C490**(図版第 8・254-(6)) C 調査区北西隅、弧状を呈する周壁の一部を検出した。方墳周濠 S DC67によって破壊されているだけでなく、地震の曲隆と噴砂によって破壊されており、その存在が窺い得るのみであった。ともに 7～8 mを超える円形竪穴式住居跡と推定されるが詳細は不明である。付近からはわずかに土器細片などが出土したが、その所属遺構は確実ではない。埋土土壌の洗浄の結果、S HC487の床面上からは打製石鏃(192～194)・石庖丁(413)・石針(1264・1265・u. i. 411～415)・石針未成品(1271・1272)・石錐(1326)・碧玉玉材(195～197)が出土した。

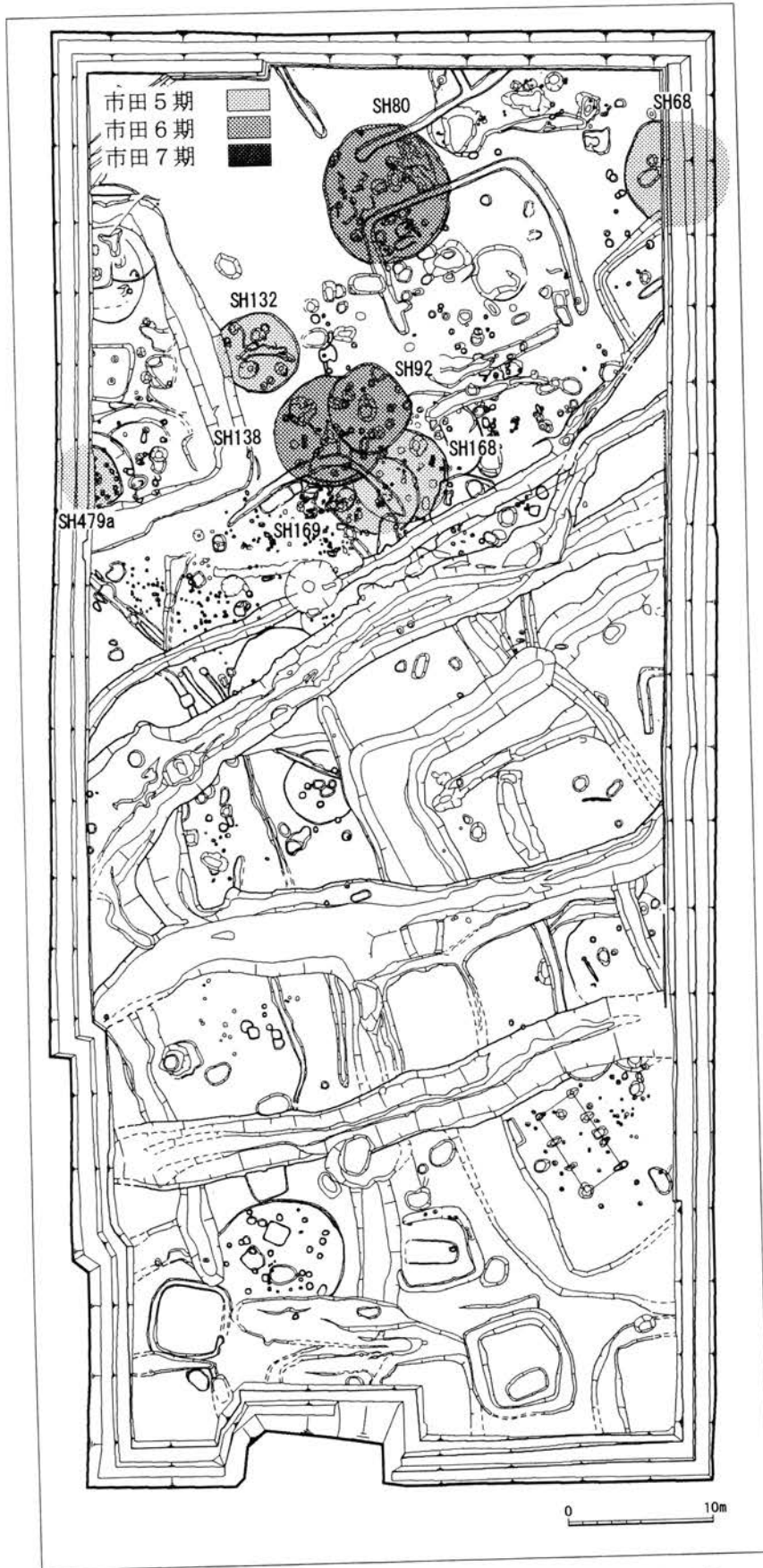
**竪穴式住居跡 S HC492・C514・C515**(図版第29) C 調査区の北西で検出した竪穴式住居跡群で、少なくとも 3 基以上の竪穴式住居跡が重複している。これらの住居跡群の北側は、古墳時代の方墳周濠 S DC67の北辺周濠によって破壊される先後関係がある。いずれもわずかに残る周壁



第14図 C調査区 市田2期(山城Ⅱ様式期)の竪穴式住居跡



第15図 C調査区 市田3・4期(山城Ⅲ様式期)の竪穴式住居跡



第16図 C調査区 市田5～7期(山城Ⅳ様式期)の竪穴式住居跡

掘形からその存在が確認できたものである。埋土土壌の洗浄の結果、S HC492からは石剣(24)・打製石鏃(195・196)・石針(1274~1276・u. i. 419・420)・石針未成品(1273)・石錐(1327)・碧玉玉材(198~200)が出土した。S HC515から砥石(695)が出土した。

C. X群(図版第29・254-(7)(8))

竪穴式住居跡 S HC435(図版第29) C調査区北西、古墳時代の方墳周濠 S DC67の内側に検出された重複する竪穴式住居跡の一つである。一辺4mたらずの小さな方形の竪穴式住居跡で、遺存状況も悪かった。市田3期から4期前後の土器と石庖丁(410)や砥石(685)以外、顕著な遺物は出土しなかった。

竪穴式住居跡 S HC479a・C570~C572・C576(図版第8・29) C調査区の北西で検出した竪穴式住居跡群で、少なくとも4基以上の竪穴式住居跡が重複している。すべて平面形は円形である。これらの住居跡群の南側は、古墳時代の方墳周濠 S DC67の南辺周濠によって破壊される先後関係がある。最も残りのよいもので、検出面からの掘削深は20cm前後であった。S HC479aは復原径5m前後、S HC570はおそらく、復原径7m以上となるであろうか。S HC479aからは、器台(227)など市田5期の土器(224~229)や、石剣(23)・磨製石鏃(111)・打製石鏃(185~191)・石斧(285・289・290)・石庖丁(394~396)・磨製石器未成品(610・611)・砥石(693)・石針や石針未成品を含めた石針関連石製品(1199~1211・u. i. 395~411)など石製品が多量に出土している。さらに碧玉玉材や管玉未成品(130~141)など、玉作り資料が得られた。また、竪穴式住居跡 S HC570からは図化しうる土器はみられなかったが、市田5期に属する土器細片が出土している。S HC570はS HC479aによってその埋土が掘削される先後関係があるようである。埋土土壌の洗浄の結果、竪穴式住居跡 S HC571からは石針(1278・1279・u. i. 421・422)あるいは石針未成品(1277・1280~1282)・碧玉玉材(201・202)が出土した。玉作りに消費された遺物である。とくに後述するように管玉未成品202は、穿孔途中のものであり、穿孔に使われた石針が挿入されたまま検出された稀有な例といえる(付論1参照)。竪穴式住居跡 S HC572からも壺胴部(230)・砥石(694・696・698)のほか、碧玉玉材(203~205)が出土した。このほかに顕著な遺物はみられなかった。

竪穴式住居跡 S HC573・C574(図版第29) C調査区の北西で検出した竪穴式住居跡状の平坦な床面をもつ遺構群で、少なくとも2基以上の竪穴式住居跡が重複しているものと思われる。周壁掘形と考えられた遺構は歪んで小形方形の掘形をもつ竪穴式住居跡となるか、単なる土坑となる可能性も捨てきれない。これらの住居跡群の南側は、方墳周濠 S DC67東辺周濠によって破壊される先後関係がある。あきらかに当該遺構に所属すると考えられる遺物はみられなかった。

このほか、住居跡の重複が認められず、単独で検出した竪穴式住居跡について述べる。

竪穴式住居跡 S HC68(図版第9・254-(1)・255-(1)) C調査区の北東端で検出した直径推定6.5m以上の円形竪穴式住居跡である。床面は地震の曲隆によってやや乱れていたが、土坑と柱穴が検出された。方形周溝墓周溝 S DC62にその埋土が掘削される先後関係がある。出土土器(146~151)から市田5期に所属すると考える。

竪穴式住居跡 S HC80(図版第30・251-(2)・255-(2)・256-(1)~(3)) C調査区の北端で検出した直径9m前後の円形竪穴式住居跡である。床面は地震の曲隆によって凸凹に隆起していた。また、ベースの河川堆積土壌に含まれた砂層が液状化し、一部で噴砂が確認された。方形周溝墓周溝と考えられる S DC64・C65などによってその埋土が掘削される先後関係がある。市田6期を中心とした土器群(167~191)が床面から出土した。このほか、石剣(20・25・26)・磨製石鏃(108)・打製石鏃(174)・石庖丁(400・401)・磨製石器未成品(614)・石錐(1323)が出土した。

竪穴式住居跡 S HC132(図版第30・252-(1)・254-(2)) C調査区北西、竪穴式住居跡 S HC92とほぼ同規模の直径5.5m前後の円形竪穴式住居跡である。床面は地震の曲隆によって凸凹に隆起し、ベースの河川堆積土壌に含まれた砂層が液状化していたため、柱穴や土坑などの付属遺構の検出は十分ではない。古墳時代の方墳周濠 S DC67にその埋土が掘削されている。床面や柱穴などから市田5期を中心とした土器群(196~206)や砥石(691)、スクレイパー(1352)が出土した。また、土坑 S KC152からは管玉(234)が出土した。

竪穴式住居跡 S HC135b(図版第11・255-(3)) C調査区南東、環濠と考えられる大溝 S DC90と S DC401の間に挟まる直径推定7.8m以上の隅丸円形の竪穴式住居跡である。大溝 S DC90および S DC401、さらに方形周溝墓周溝と考えられる S DC94・C116などにその埋土が掘削される先後関係がある。切り合い関係から市田3期以前に遡る可能性がある。打製石鏃(178)や碧玉玉材(177・178)以外、図化しうるほどの遺物はみられなかった。

竪穴式住居跡 S HC137b(図版第8・255-(4)) C調査区中央、環濠と考えられる大溝 S DC114に破壊される直径推定8mたらずの円形竪穴式住居跡である。遺存状況が悪く、かつ遺構床面からは土坑や柱穴などの所属遺構は検出できなかった。市田3期を中心とした土器(192~195)が出土した。このほか、石剣(21)が出土した。

竪穴式住居跡 S HC340(S XC340)(図版第7) 竪穴式住居跡 S HC80の北側に存在する。地震の際の曲隆と噴砂によって掘形が確認できなかったが、埋土の広がりから円形の竪穴式住居跡を想定することができる。

竪穴式住居跡 S HC450(図版第31・252-(2)) 竪穴式住居跡 S HC137bの南側に位置する直径5mあまりの円形竪穴式住居跡である。床面からは中央土坑および柱穴なども検出した。楕円形になる中央土坑の長軸ライン上の両側で、それぞれ1基の柱穴を確認した。ほかの竪穴式住居跡同様に方形周溝墓構築以前のものであり、方形周溝墓周溝 S DC112や溝 S DC507にその埋土が掘削される先後関係がある。わずかながら市田2期を中心とした土器(231~235)・砥石(699)・石針(1260)および石針未成品(1261)や玉作りに供されたとおぼしき台石(1464)・碧玉玉材(186・187)などが出土した。

竪穴式住居跡 S HC451(図版第31・253・257) C調査区南端で検出した直径9mにもなる大形円形竪穴式住居跡である。検出面からの掘削深15cm程度となる。床面では長径約1.9m、短径1.4m、掘削深40cmになる大形の中央土坑や隣接する柱穴、方形の掘形をもつ土坑や掘削深約40cmの楕円形の土坑などを検出した。竪穴式住居跡 S HC450と同様に、その中央土坑長軸ラインの両側

付表2 竪穴式住居跡S HC451地区別遺物出土状況

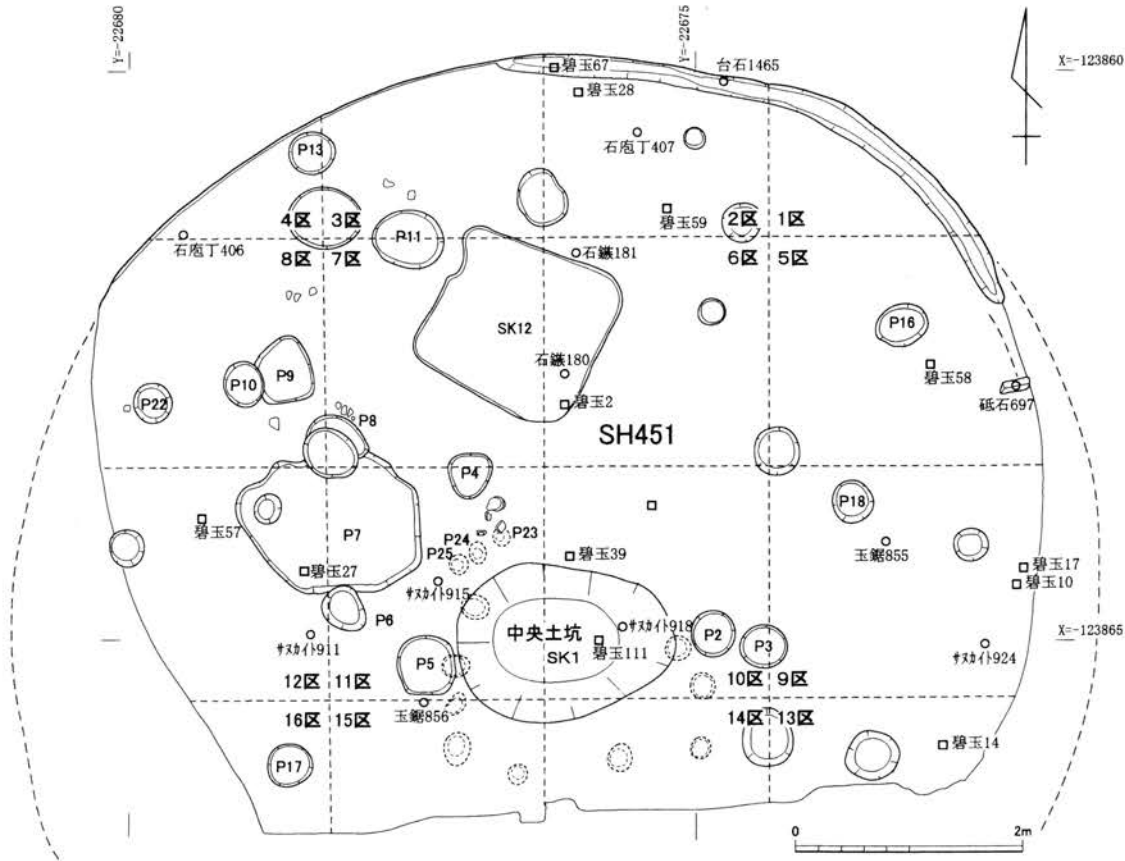
地区・柱穴	石器遺物番号	玉遺物番号
1区	813.1001	
2区	181.940.989.1465	23.28.59.67
3区	182.407.409.816.936.1035	9.20.21.43.46.70
4区	406.408.815.857.919.920.938.953.954	25.42.53
5区	697.909.931.942.1005	19.29.33.45.55.58
6区	180.181.1008	2.48.72
7区	949.1006.1013.1023.1031.1034	7.24.56
8区	814.1020.1029.1040.1041.1042	30.31.47.64
9区	855.1011	10.16.17.73
10区	914.918.948.998	4.22.34.39.40.111
11区	915.926.928.988.1032	12.50.69
12区	911.955.996.997.1012.1014.1016.1022.1024	27.35.49.57
13区	924	14
14区	858	
15区	856.987.994.1015.1025	
16区	911.937.986.1000.1002.1019.1045	52
中央土坑	863.917.923.925.935.939.945.960~963.966.982.1004	6.11.13.26.60.63
中央土坑(第3層)	183.402.403.913.916.921.922.946.951.956.990.1028.1036	1.3.8.32.37
P2	932	
P5	930.970.979.1017	5.38.54
P6	933.1003	44.66.68
P7	864.947.1007	51
P9	964.971	
P12	967	18
P14	184.858.943.978.1038.1043	65
P16	284	
P19	1010	
P21	944.1027	15
P23-25	993.995	
P25	1039	
P26	1018	
P27	927	

で、それぞれ2基の小さな柱穴が確認された。主柱穴は、周壁に沿って配されていた。第17図、波線で表示した柱穴は、床面削平後に検出したもので、竪穴式住居の構築時に利用されたものかも知れない。方形周溝墓S TC469の西辺周溝S DC470、および土坑S DC454によってその埋土が掘削される先後関係がある。床面あるいは中央土坑や柱穴などから打製石鏃(180~184)・石斧(283・284)・石庖丁(402~409)・砥石(692・697)・玉砥石(813~816)・石鋸(855~858・862~864)・石針や石針未成品を含めた石針関連石製品(909~1048・u. i. 149~372)・楔形石器(1049・1050)・台石(1465)などが出土した。このほか、碧玉製の管玉未成品をはじめ、碧玉玉材や形割未成品・管玉未成品・管玉製品など(1~74)が多数出土した。サヌカイト製磨製石針の出土によって、専ら碧玉製管玉作りを行った住居跡であることが判明した。このため、床面上の約20cmの埋土土壌(土納約800袋)を採取し、洗浄作業を行った結果、碧玉やサヌカイトの微細な剥片類や、200点以上のサヌカイト製磨製石針(折損した石針を含む)やその未成品など多量の遺物を回収した。凹線

をめぐらす細頸壺(218)以外の出土土器(217・219~223)は市田4期に下るものではないことや、S HC451の埋土を掘削する先後関係をもつ方形周溝墓周溝S DC470の掘削時期は、その出土土器からみて市田5期に下るものではない。217は土坑S KB1167(市田3期)出土土器片と接合した。このことから、市田3期に造営されたものと考えるのが妥当かと考える。細頸壺(218)はS HC451埋土を掘削するピットなどのほか遺構に含まれていたものか、あるいは調査時に手違いから混入した可能性も考えられる。

竪穴式住居跡S HC460(図版第10) 竪穴式住居跡S HC451の北側に隣接する一辺2.5mあまりの方形の竪穴遺構である。環濠と考えられる大溝S DC401にその埋土が掘削される先後関係がある。埋土土壌の洗浄の結果、床面からは石針(1266~1270・u. i. 373~394)・石針未成品(1262・1263)・碧玉玉材(188~194)など玉作りに消費された遺物が出土した。図化し得なかったが、小





第17図 竪穴式住居跡 S HC451出土遺物位置図

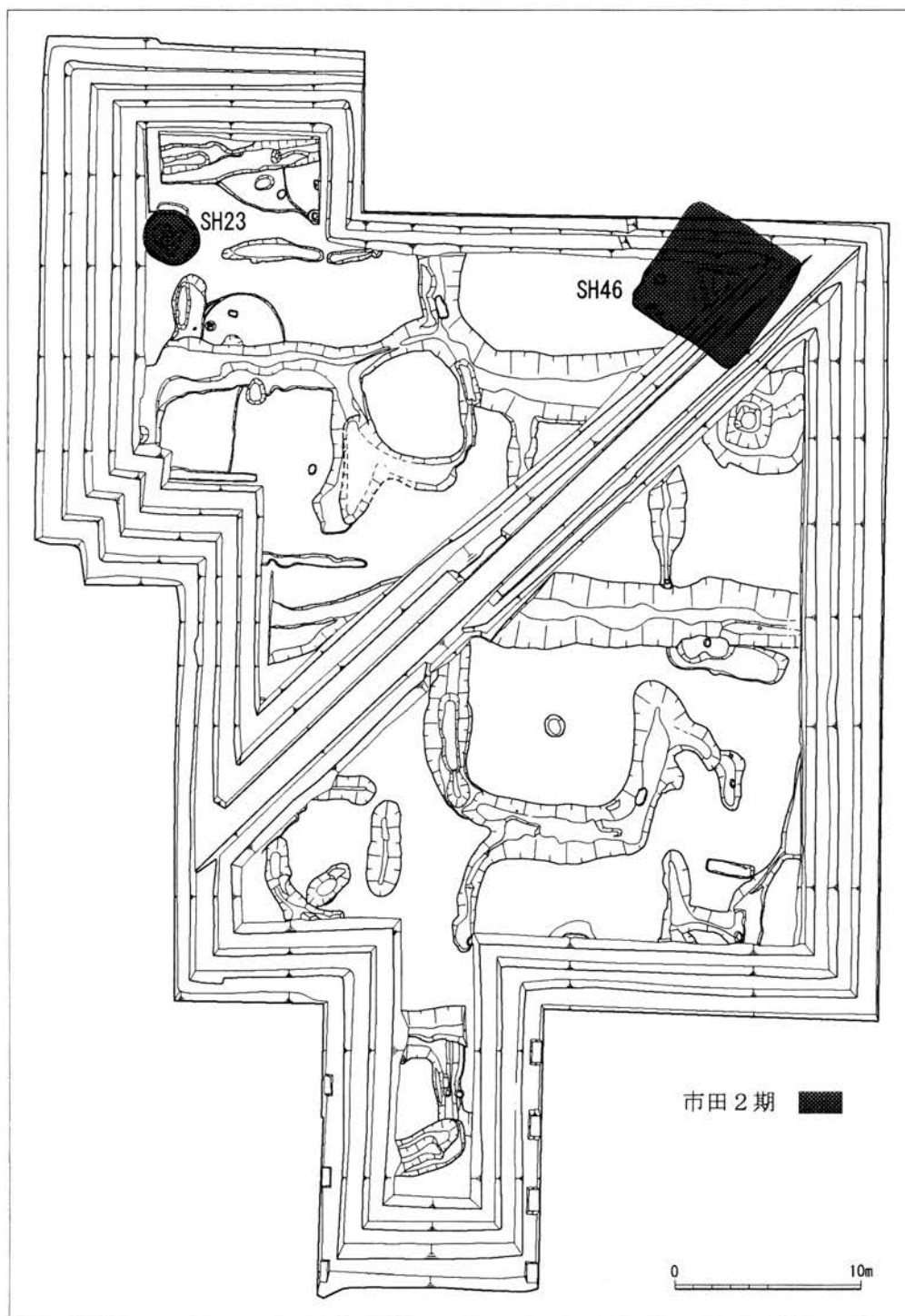
形甕の細片が出土した。その時期は市田 2 期から 3 期に属するものである。

竪穴式住居跡 S HC517(図版第11) C 調査区の南東、大溝 S DC401に破壊される弧状の掘形を検出した。わずかではあるが、床面と考えられる平坦面を検出し、竪穴式住居跡の可能性が高いものとした。

掘立柱建物跡 S BC521(図版第32) C 調査区南東隅、方形周溝墓 S TC410上で検出した梁間 1 間×桁行 3 間の小規模な掘立柱建物跡である。梁間 2.8~2.9m、桁行 6.05m 前後を測る。柱穴からは時期を明確に確定する遺物は出土していないが、おそらく方形周溝墓築造以前の弥生時代中期前半に位置づけられるものとみられる。梁間方向にのびる長楕円形の掘形(S KC523・S KC528・S KC562)がある。遺構検出当初、柱据え付けに際して都合のよいように掘形に傾斜面をもたせる類の柱穴と判断したが、土層断面を観察する限り、そのような明瞭な痕跡を確認することはできなかった。付近の土坑 S KC520からは市田 2 期の近江形甕(722)が出土した。おそらくは、S BC521も市田 2 期前後のものと考えられ、このような掘立柱建物跡がほかにも存在していたものと思われる。

(4) D 調査区(図版第12・33・240・258)

D 調査区では、竪穴式住居跡を 5 基検出したが、その分布は当該調査区の北半に偏っている。C 調査区同様、これらの住居跡もすべて方形周溝墓周溝掘削に先行するものである。竪穴式住居跡からは土器がほとんど出土しなかったが、わずかに出土した竪穴式住居跡 S HD23および S H



第18図 D調査区 市田2期(山城Ⅱ様式期)の竪穴式住居跡

D46は、市田2期と判断できる(第18図)。ほかの竪穴式住居跡からは出土土器が乏しいため、確実ではないが、その構築時期は市田2期から3期頃と想定できる。廃絶も市田4期以降には至らなかったためか、竪穴式住居跡の建替えによる重複がみられない。A調査区に類似した様相であるといえる。

竪穴式住居跡 S HD23(図版第33・258-(2)~(4)) D調査区の北西で検出した直径わずか3mの小形の円形竪穴式住居跡である。検出面からの掘削深は約10cmである。床面中央には、長軸

55cm、短軸35cm、検出面からの掘削深約25cmのいびつな楕円形を呈した中央土坑がある。その周囲には、直径1m前後で弧状にめぐら幅6～9cmの周溝を検出した。土器片(236～245)や、打製石鏃(197)・石庖丁(414・415)・砥石(700)・玉砥石(817)・石鋸(860)が出土したほか、埋土土壌を洗浄し、微細遺物の検出に努めた結果、石針・石針未成品(1283～1292・1300・1301・u. i. 423～425)・碧玉玉材(206～209)も出土した。出土土器は概ね市田2期に帰属する。

**竪穴式住居跡 S HD39**(図版第33・258-(5)) D調査区の北西で検出した直径5mたらずの小形の円形竪穴式住居跡である。方形周溝墓 S DD37・S DD42・S DD44と重複し、それらによって破壊される先後関係がある。このため北半の1/2が残存しているにすぎなかった。中央やや西側に中央土坑を設けている。埋土土壌の洗浄の結果、石鋸(859)や石針(1294・u. i. 426～434)・石針未成品(1293)と碧玉玉材(210・211)などが出土した。

**竪穴式住居跡 S HD40**(図版第12・258-(6)) D調査区の北端で検出した。直径8mを超える大形の円形竪穴式住居跡に復原できる。大半の部分を方形周溝墓周溝と考えられる S DD28や竪穴式住居跡 S HD41によって破壊される先後関係がある。砥石(705)以外、図化しうる遺物はみられなかった。

**竪穴式住居跡 S HD41**(図版第12・258-(6)) D調査区北端、竪穴式住居跡 S HD40に重複する円形の竪穴式住居跡である。S HD40の埋土を破壊し、溝 S DD28によって破壊される先後関係がある。石庖丁(416)が出土した。

**竪穴式住居跡 S HD46**(図版第33・258-(7)(8)) D調査区の北東端で検出した方形と考えられる竪穴式住居跡である。方形周溝墓 S TD33の東辺溝 S DD33によって破壊される先後関係がある。床面直上、ほぼ水平に甕形土器の破片が散乱して出土した。1個体の大形甕(246)に接合できた。市田2期と考えられる。このほかに石針(1295)以外、図化しうる遺物はみられなかった。

(野島 永)

## 2. 土坑(図版第34～42)

### (1) A調査区(図版34～36・259～264)

A調査区では、長軸が短軸の2倍あるいはそれ以上の細長い隅丸長方形や楕円形を呈した単独土坑が散在していた。それらの多くが甕など数種類の土器を出土するものであった。出土土器は市田2期から市田3期を前後するものが多く、市田4期になると、円形あるいは涙滴形に近い平面形をもつようになる(第19～21図)。最終年度に調査されたA調査区(3次調査)では、以前の調査の経験から土坑埋土も一部洗浄を行ない、微細遺物の検出に努めた。その結果、市田2期から市田3期に属する土坑埋土から玉作りに関する微細な碧玉破片や石針、紅簾片岩破片などを検出することができた。これらの土坑は下層に炭・灰を含んだ薄いレンズ状の粘土質の土層を堆積させている。哺乳類の骨細片が出土した土坑も多い<sup>(注14)</sup>。土坑 S KA66以外は竪穴式住居跡に付属するものとは考えにくく、墓壙の可能性は捨てきれない。これらの土坑は、竪穴式住居跡 S HA74や S HA98にやや先行するようであり、単独土坑群・方形周溝墓構築→竪穴式住居の造営→方形周

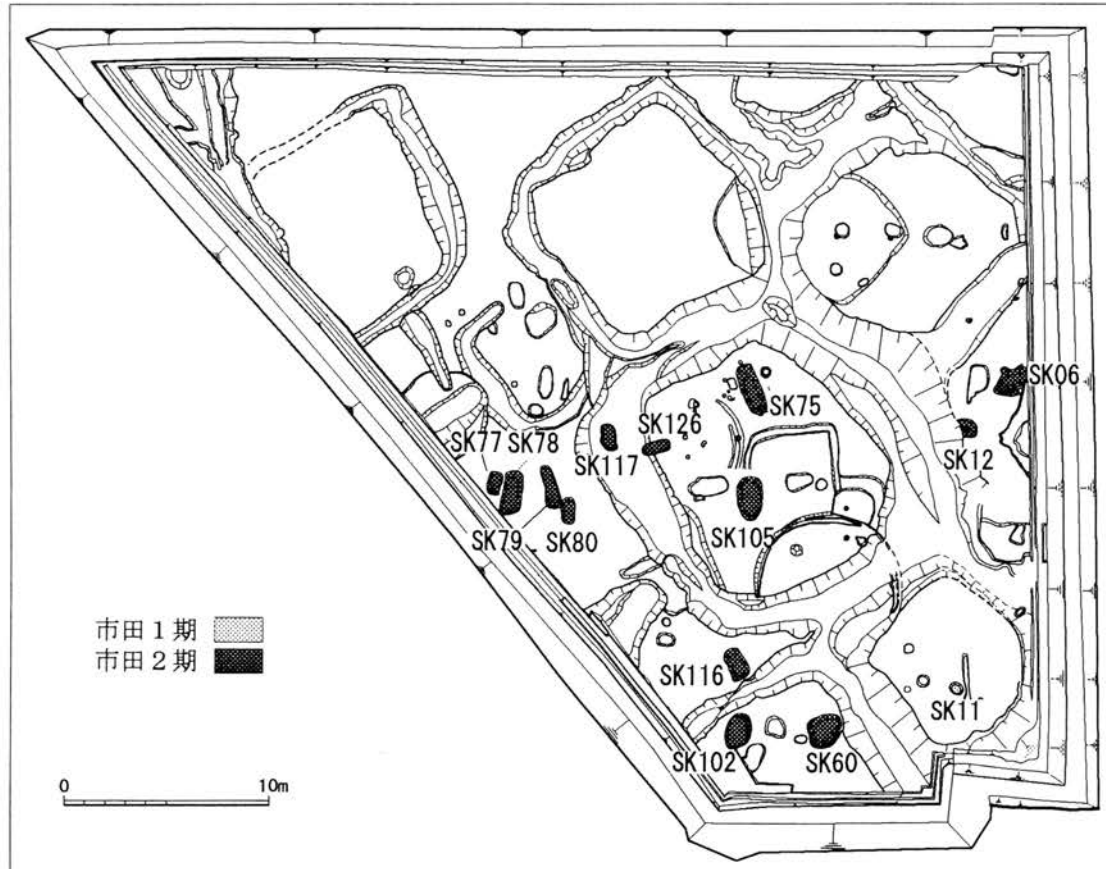
溝墓周溝再掘削・接続した周溝墓群の成立、と推移するようである。出土土器によって所属時期を判断し、その時期別に土坑を示した(第19～21図)。以下、主要な土坑のみ、その調査状況について記述する。

土坑S KA6(図版第35・259-(1)) A調査区中央東端で検出した長辺1.6m以上、短辺1.1mの方形の土坑である。検出面からの掘削深は約0.8mを測る。東側は調査区外にのびるため、全容は不明である。方形周溝墓周溝と考えられる溝S DA05によって破壊される先後関係がある。埋土は暗褐色粘質土で、埋土中に小片となった炭を含む。市田2期の土器(247～256)や打製石鏃(198)が出土した。

土坑S KA11(図版第35) A調査区南東部で検出した長軸約0.7m前後の楕円形土坑である。検出面からの掘削深約45cmを測る。埋土は褐色シルト・細砂で充填されており、その埋土中から市田1期の土器(264)が出土した。市田斉当坊遺跡のなかでも最も古相を示す土器といつてよい。

土坑S KA12(図版第35) A調査区中央東端で検出した長軸約0.9m以上、短軸0.9m前後の楕円形土坑である。検出面からの掘削深は18cm程度と浅い。埋土中から市田2期の土器(257・258)が出土した。

土坑S KA16(図版第1) A調査区中央東端で検出した半径およそ1m前後の扇形の土坑である。土坑の掘り込みはゆるやかで、掘削深も検出面から9cm程度と浅い。土坑底には凹凸がみられ、平坦ではない。わずかに市田3期の土器(259～263)や翡翠製勾玉(214)・管玉(212・213)が



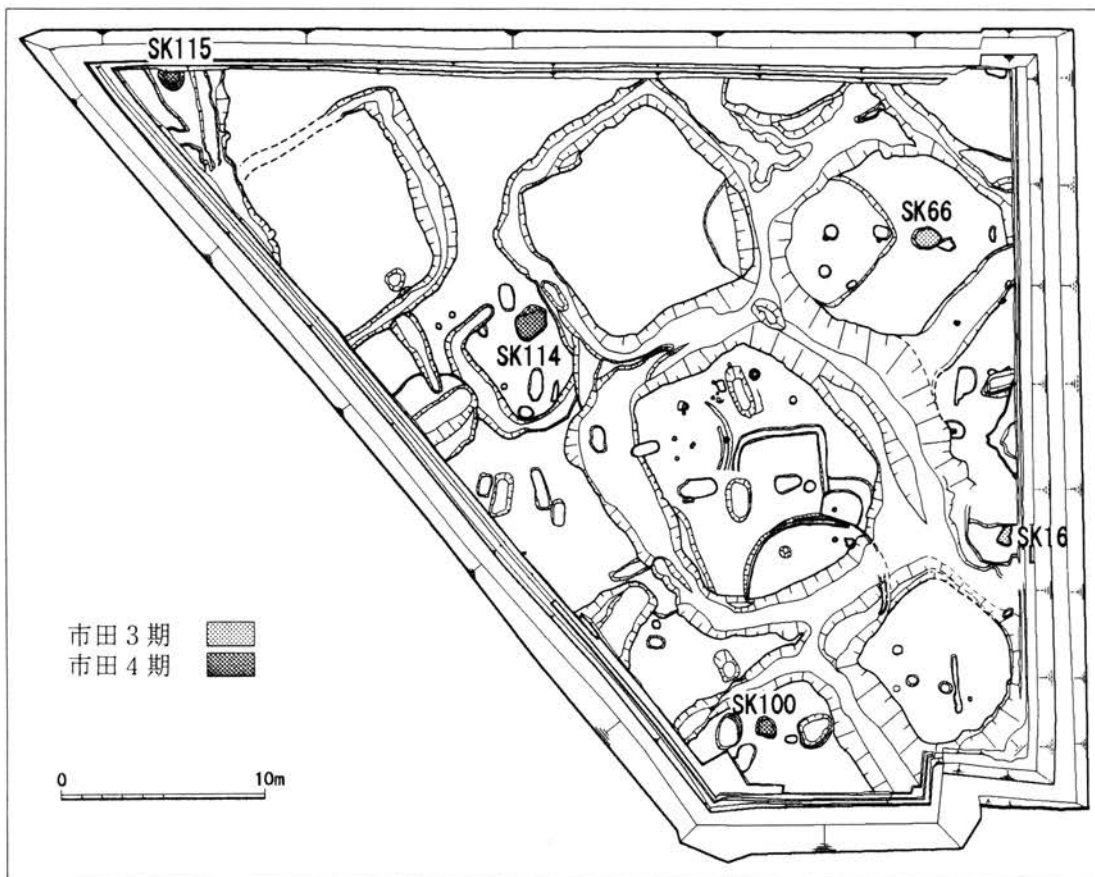
第19図 A調査区 市田1・2期(山城Ⅱ様式期)の土坑

出土した。この遺構の埋土の上位に散在していた土器片から考えれば、この遺構は、上面で検出できなかった竪穴式住居跡の土坑である可能性がある。

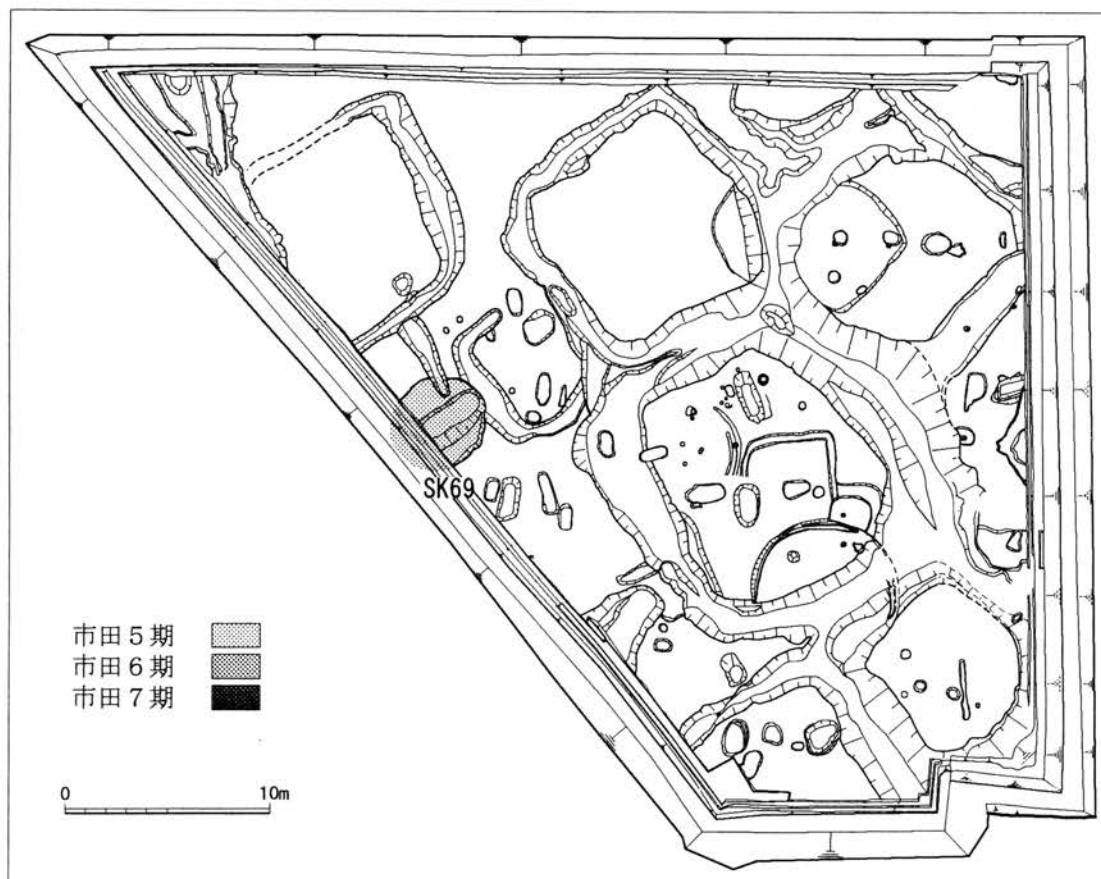
土坑 S K A50(図版第34・259-(2)) A調査区中央、方形周溝墓 S T 68の墳丘部分で検出したやや水滴形に近い長軸1.4m、最大幅0.9mあまりの不整円形の土坑である。検出面からの掘削深30cm前後を測る。炭化物・焼土・灰が層状に堆積しており、床面近くから土器片(275)が出土した。市田3期に属すると思われるが、土器がほとんど見られず、明確な時期が確定できない。

土坑 S K A60(図版第34) A調査区南端、方形周溝墓 S T 49墳丘部分で検出した長径1.7m、短径最大1.3m、水滴形に近い不整円形の平面形をもつ土坑である。検出面からの掘削深30cm前後を測る。埋土上層から土器(267~274)や石剣(28)・打製石鏃(199)・石鋸(867)が出土した。市田2期に位置付けられる。

土坑 S K A66(図版第35・259-(3)(4)) A調査区の北東、竪穴式住居跡 S H A74東側で検出した南北1m、東西約1.4m程の楕円形の土坑である。掘形東端部分は攪乱のため確認し得なかったが、北側部分の掘形下半部分が外側に抉り込まれており、フラスコ形貯蔵穴に類した掘形をもっている。検出面からの掘削深53cmを測る。埋土は概ね砂質土壌の堆積で、層状の水成堆積などはみられないため、人為的に埋められたと思われる。炭化物粒を多く含む埋土中層(第3~5層)から弥生土器片・碧玉玉材(215)・石鋸(861)・石針(u. i. 435~438)などが出土した。埋土土壌を一部洗浄したところ、上述したもののほかに碧玉やサヌカイトの微細な破片や紅簾片岩破片を多



第20図 A調査区 市田3・4期(山城Ⅲ様式期)の土坑



第21図 A調査区 市田5～7期(山城Ⅳ様式期)の土坑

数検出した。玉作りを行っていた竪穴式住居跡S HA74に付属する貯蔵穴と考える。出土土器細片などからも市田3期と考えることができよう。

土坑S KA69(図版第18・259-(5)～(8)) A調査区西端、直径4.2mの半円形に近い浅い土坑である。検出面からの掘削深20cm前後を測る。土器や石斧(291)・石庖丁(417～420)・砥石(701・702)・玉砥石(818・819)・スクレイパー類(1354～1356)など、比較的多くの遺物が出土した。市田5期以降と考えられる。埋土の土壤を一部洗浄したところ、石針(u. i. 739・440)や多量の微細な碧玉破片とともに、碧玉玉材(216)・石鋸(870)破片・サヌカイト破片・骨片などを検出した。

土坑S KA70(図版第1) A調査区の北西部、方形周溝墓S TA62の南辺周溝S DA62-3区の北側に隣接する長軸1m前後の浅い楕円形の土坑である。検出面からの掘削深わずか10cmあまりである。皿状の底部からはわずかに土器片(265・266)が出土したのみであった。

土坑S KA75(図版第34・261-(7)・262-(1)・263(1)～(5)) A調査区中央、方形周溝墓S TA68墳丘部分北側で検出した全長2.5m、幅1mたらず、掘削深52cmを測る舟底状の大形土坑である。木棺の痕跡は検出できず、掘形横断面「U」字状の有機質を多く含むシルト質土壌の層状堆積が確認できた。人為的に埋められたというよりも幾度かの浸水の後に埋没した状況が想定できる。埋土から土器細片(280)や打製石鏃(200)が出土した。また、玉砥石(821)・石鋸(876)・石針

(u. i. 441)や、底面近くでは骨細片が出土した。埋土土壤を一部洗浄したところ、上述したもののほかにさらに碧玉やサヌカイトの微細な破片、紅簾片岩破片などを検出した。木蓋で覆うような簡単な施設をもった墓壙の可能性が高い。市田2期の可能性が高い。

土坑S KA77(図版第35・260-(1)・261-(1)~(4)) A調査区中央西端の一群で、隅丸長方形の土坑である。長辺1mあまり、短辺0.7m、検出面からの掘削深44cmを測る。上層から比較的大きな甕片(320~327)が数点出土した。市田2期に属する。竪穴式住居跡SHA74(市田3期)出土土器片に甕325が接合した。

土坑S KA78(図版第35・260-(1)(2)・261-(5)(6)(8)) A調査区中央西端の一群で、大形隅丸長方形の土坑である。長辺2mあまり、短辺1mたらず、検出面からの掘削深75cm前後を測る。土坑の最下層(第9・10層)南西側から市田2期に属する土器(335~347)や打製石鏃(201・202)・石鋸(865)が出土した。この土器片が廃棄された後に炭化物粒を多量に含む有機質土層(第6・7層)(図版第261-(6))が堆積する。人為的なものではなく、自然な埋没が想定できる土層堆積状況である。

土坑S KA79(図版第35・262-(2)・263-(6)) A調査区中央西端の一群で、隅丸長方形の深い土坑である。長辺2mあまり、短辺最大0.7m、検出面からの掘削深68cmを測る。埋土上層から甕数点(312~319)や砥石(664)が出土した。市田2期に属する。埋土土壤を一部洗浄したところ、石針(u. i. 442・443)のほか、微細な碧玉破片・サヌカイト破片・骨片などを検出した。埋土下層の第4層に炭化物、第5層に炭化物と焼土ブロックを多量に含む。

土坑S KA80(図版第35) A調査区中央西端の一群で、小判型ともいえる楕円形の小土坑である。長径1.3m、短径0.7m前後、検出面からの掘削深50cm前後を測る。市田2期に遡る甕(279)以外、比較的大きな遺物は出土しなかったが、埋土土壤を一部洗浄したところ、打製石鏃(203)のほか、微細な碧玉破片・サヌカイト破片・紅簾片岩破片などを検出した。

土坑S KA100(図版第36・263-(7)(8)) A調査区南端、方形周溝墓STA49墳丘部で検出した卵形土坑である。長径1mあまり、短径1mたらずとなる。検出面からの掘削深は41cmである。床面近くから市田4期に下るとされる土器細片(281・282)や石鋸(866・868)などが数点出土した。埋土下層は砂質土で、炭化物を含む有機質土は確認できなかった。

土坑S KA101(図版第36・263-(7)・264-(1)) A調査区南端、方形周溝墓STA49墳丘部で検出した楕円形土坑である。南側の一端を排水溝掘削のために破壊した。長径推定1.5mあまり、短径1mたらずを測る。検出面からの掘削深は20cm内外の浅いものである。調査時の掘削中、埋土から遺物はほとんど出土しなかったが、埋土土壤を一部洗浄した際、石鋸(869)とともに、微細なサヌカイト破片や、紅簾片岩破片をわずかに検出した。

土坑S KA102(図版第36・263-(7)・264-(2)) A調査区南端、方形周溝墓STA49墳丘部で検出した楕円形土坑である。長径推定2mたらずとなろう、短径1.2m、検出面からの掘削深42cm前後となる。市田2期となる中形の甕(310・311)が出土した。埋土土壤の一部を洗浄し微細遺物の検出に努めた結果、打製石鏃(204)や7点の石針(1296・u. i. 444~449)のほか、微細な碧

玉破片やサヌカイト・紅簾片岩破片などを多量に検出した。

土坑 S KA105(図版第36) A調査区中央、方形周溝墓 S TA68墳丘部で検出した楕円形土坑である。長径2mあまり、短径1.2m前後を測り、検出面からの掘削深は50cmを超える。埋土最下層(第5層)には直径1~2cm前後の炭を多く含む粘質土の堆積があり、その上面には2~3cm前後の炭の堆積(第4層)がみられた。広口壺(276)・玉砥石(820)・石鋸(871)などが出土した。市田2期に属するであろう。このほか、埋土土壌を一部洗浄したところ、上述したもののほかにさらに碧玉やサヌカイトの微細な破片・紅簾片岩破片・骨片などを検出した。

土坑 S KA106(図版第36) A調査区中央、方形周溝墓 S TA68墳丘部で検出した不整楕円形の土坑である。一部東西方向の中世素掘り溝に破壊されるが、長径2mあまり、短径1mあまり、検出面からの掘削深14cm前後を測る。土器細片(352)や石針(1297)・剥片などが出土した。埋土下層(第5層)には1.5~2.0cmの厚さの焼土が堆積していた。このほか埋土土壌を一部洗浄したところ、上述したもののほかにさらに碧玉やサヌカイト・紅簾片岩破片を検出した。

土坑 S KA113(図版第36・264-(3)(4)) A調査区中央西側、方形周溝墓 S TA97墳丘上で検出した南北方向に主軸をとる隅丸長方形の小土坑である。長軸1.3m、短軸0.8m前後、検出面からの掘削深51cm前後を測る。石庖丁(423・424)が出土した。このほか埋土土壌を一部洗浄したところ、上述したもののほかにさらに碧玉やサヌカイト・紅簾片岩破片をわずかに検出した。

土坑 S KA114(図版第36・264-(3)(5)) A調査区中央西側、方形周溝墓 S TA97墳丘部で検出した不整円形の土坑である。長径1.8m、短径1.4m前後、検出面からの掘削深54cmを測る。炭化物ブロックを含む下層から市田4期の土器(328・329)が出土した。

土坑 S KA115(図版第1・264-(6)) A調査区北西隅、溝 S DA63掘削後に検出した楕円形の土坑である。長径推定1.6m以上、短径1.3m前後、検出面からの掘削深は42cmを測る。上層から市田4期前後の数点の甕破片など(331~334)や石庖丁(421・422)が出土した。下層はほかの土坑と同様に、炭化物粒を含む有機質粘質土が厚く堆積していた。

土坑 S KA116(図版第36・264-(7)) A調査区南端で検出した長方形の浅い土坑である。長辺1.5m以上、短辺1m前後を測る。検出面からの掘削深は最大で38cm前後を測る。市田2期あるいはその直後と考えられる小形甕など(348~351)や局部磨製の石鋏(1358)が出土した。下層には0.5~1.0cmの炭化物粒を含む有機質土層が堆積していた。

土坑 S KA117(図版第1・53) A調査区中央、方形周溝墓 S TA68西側周溝を掘削した後に検出した楕円形の土坑である。長辺1.4m、短辺0.9m前後を測る。周溝によって削平されていたため、溝 S DA68の底面からの掘削深15cmと浅いものであった。市田2期に遡る広口壺(330)が出土した。

土坑 S KA126(図版第1・264-(8)) A調査区中央、方形周溝墓 S TA68西側周溝を掘削した後に周溝掘形斜面で検出した長方形の土坑である。長辺1.1m、短辺0.6m前後を測る。周溝によってかなり削平されており、検出面からの掘削深16cmに満たない。床面近くから市田2期に遡る甕(353・354)が出土した。



## (2) B調査区(図版第37～40・265～268)

B調査区における土坑はきわめて多い。竪穴式住居跡などが重複しているために、単独土坑であるのか、あるいは竪穴式住居に付属するものであるのか判断できないものも少なくなかった。大形で長楕円形になる土坑のなかには、出土土器からみて市田2期前後に掘削され、埋没したものが多くことがわかる。市田5期から6期以降、土坑さえ掘削されなくなり、集落の終焉を迎える。出土土器によって所属時期を判断し、その時期別に土坑を示した(第22～24図)。数種類の土器が出土したか、あるいは断面図を作成した土坑についてのみ記述し、それ以外の調査結果は観察表で代替したい。

土坑S KB165(図版第37) B調査区中央やや北側、竪穴式住居跡S HB778の東側、鎌倉時代から室町時代に掘削された久世郡条里遺存地割の南北方向の素掘り溝によって破壊された土坑である。1mあまりの隅丸方形を呈している。素掘り溝で掘形の一部が破壊されたにもかかわらず、掘削深70cmにおよんでいる。中層には炭化物を含む第6層が凹面状に堆積している。第2層から市田4期の土器(355～367)が多量に出土した。このほか、打製石鏃(206)や4点の石庖丁(438～441)が出土した。

土坑S KB174(図版第39) B調査区中央やや東側、竪穴式住居跡S HB542の南側、1mほどの不整形の土坑である。周辺の土坑にその埋土が掘削されたもので、炭層(第5層)が下層に堆積する。上層から市田4期の長頸壺(375)や高杯(376)が出土した。

土坑S KB359(図版第37) 竪穴式住居跡S HB921の東、単独で検出した長軸1.4mあまりの瓢箪形の土坑である。炭を含む灰色土の埋土が堆積しており、市田3・4期以前のものかと想定できる。出土遺物に図化しうるものはない。

土坑S KB403(図版第37) B調査区中央東側、竪穴式住居跡S HB921の南東、単独で検出した長軸2.2mあまりの長楕円形の土坑である。大形の土坑で炭を多く含み、掘り返した痕跡が認められる。小形の甕を中心として市田4期あるいは直前の土器(408～423)が出土した。竪穴式住居跡S HB690(市田3期)出土の鉢(83)と接合する土器片が出土した。このほか、石庖丁(426)・砥石(706・714)が出土した。

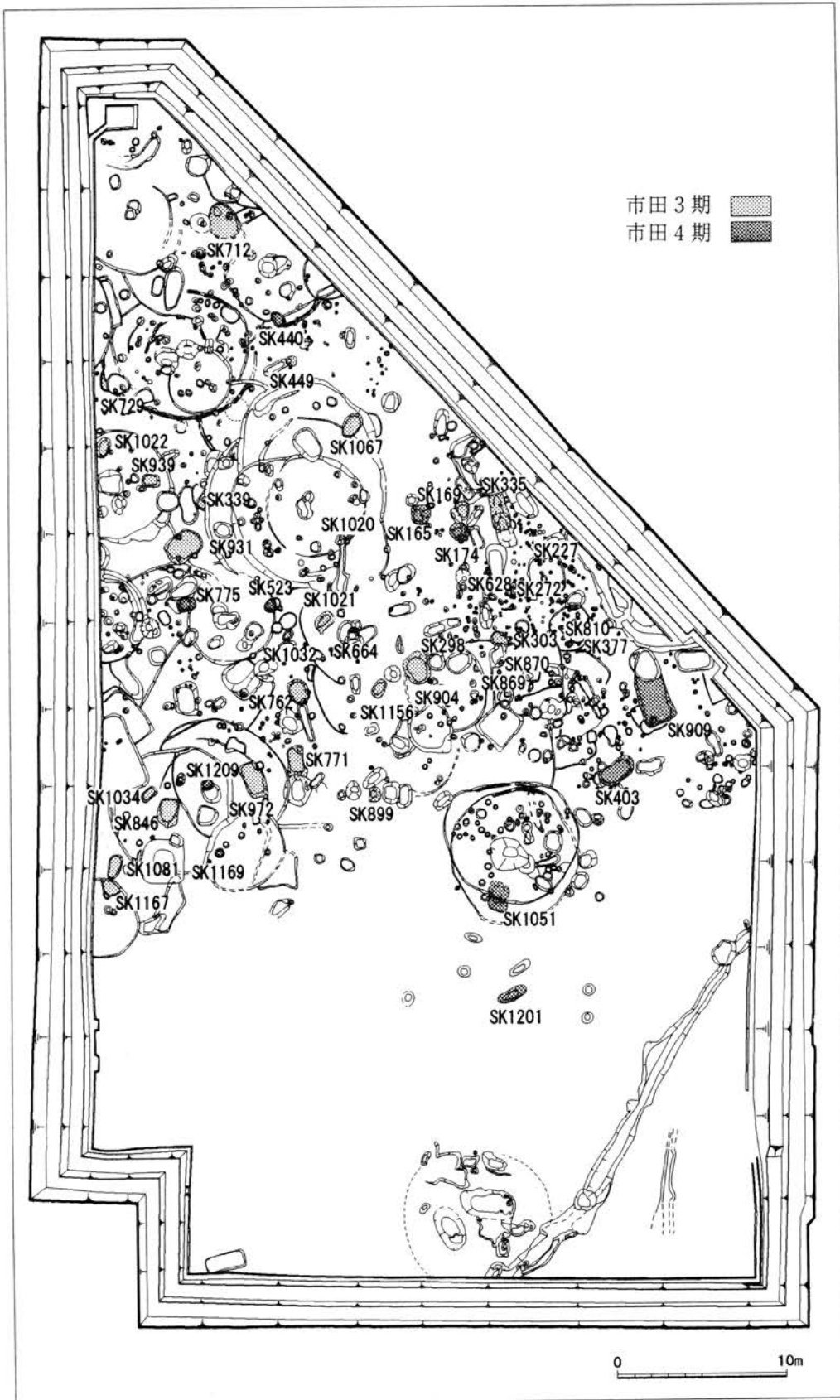
土坑S KB450(図版第37) B調査区中央北側、竪穴式住居跡S HB150の北側、単独で検出した長軸1.4mほどの長楕円形の土坑である。顕著な遺物は検出しなかったが、検出面からの掘削深が68cmにおよぶ深い溝状の土坑であり、多くのものと同様に下層第3層に炭を多く含む。石針未成品(1249)が出土した。

土坑S KB485(図版第37) B調査区中央北端、竪穴式住居跡S HB150の北東、単独で検出した直径1mあまりの円形土坑である。下層に粘土ブロックを多く含む土層が堆積し、炭・炭化物が下層に層状に堆積するものとは異なる。市田6期に下る広口壺(427)などが出土した。

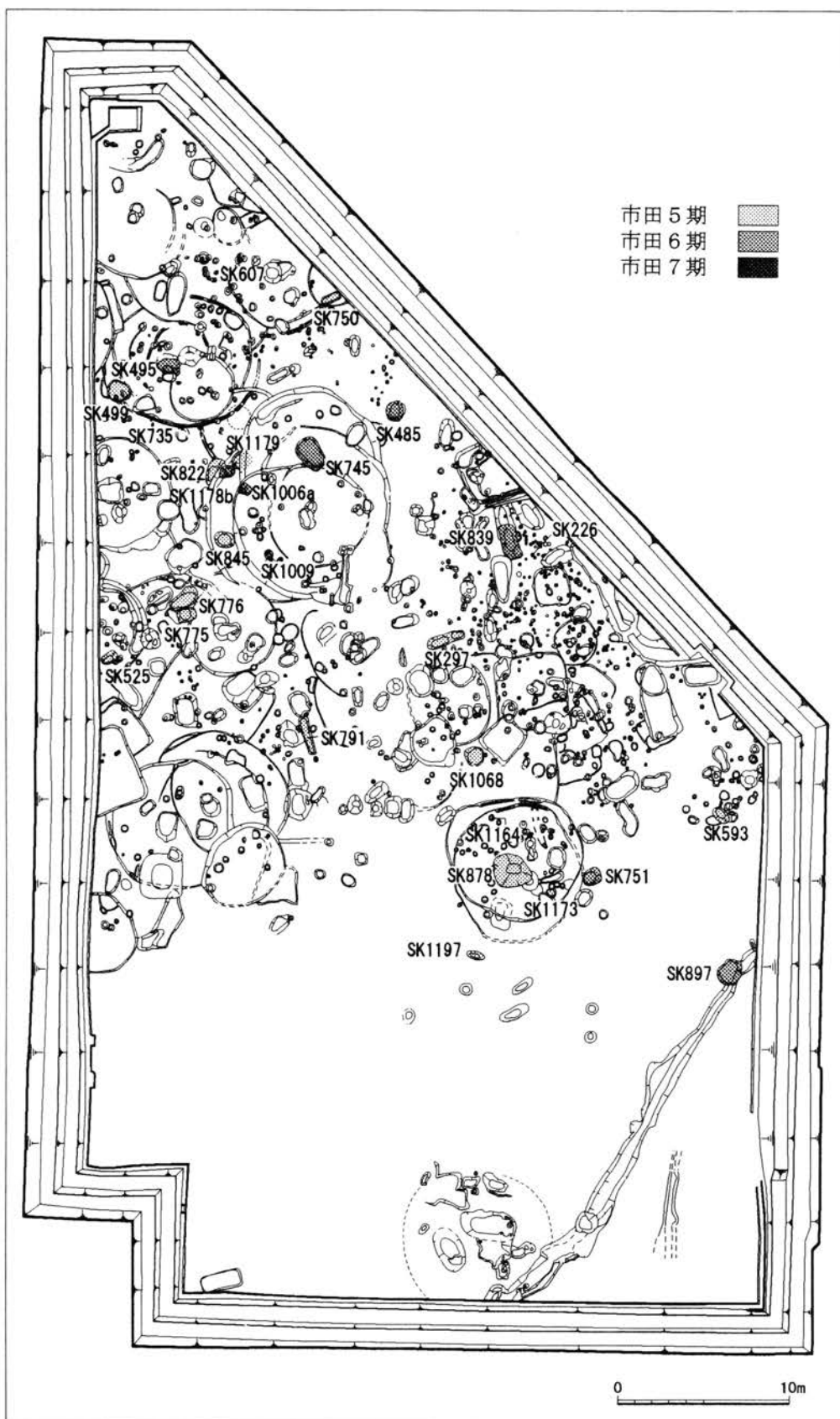
土坑S KB507(図版第37) B調査区中央西端、竪穴式住居跡S HB138の東側に重複する直径1.2mあまりの円形の土坑である。市田3期かと考えられる竪穴式住居跡S HB138の埋土を掘削する先後関係がある。検出面からの掘削深は20cmに満たず、顕著な遺物は出土しなかった。



第22図 B調査区市田2期(山城Ⅱ様式期)の土坑



第23図 B調査区市田3・4期(山城Ⅲ様式期)の土坑



第24図 B調査区 市田5～7期(山城Ⅳ様式期)の土坑

土坑 S KB570(図版第37) B調査区中央東端、土坑群の集中する地点で検出された1 mあまりの不整円形の土坑である。周囲の土坑と同様に出土遺物がほとんどみられず、砂土を含む埋土が堆積している特徴がある。土坑の時期については不明といわざるを得ない。

土坑 S KB656(図版第37) B調査区中央東側、大形方形土坑 S KB909に重複する長軸2 mの楕円形土坑である。土坑 S KB909の埋土を掘削する先後関係があることから、市田5期以降に掘削・埋没したものと考えられる。石庖丁(442・443)が出土した。

土坑 S KB701・B712(図版第38) B調査区北端、竪穴式住居跡 S HB147の東側、鎌倉～室町時代に掘削された久世郡条里遺存地割の東西方向の素掘り溝によって破壊された土坑である。顕著な遺物はみられなかったが、土坑 S KB712は下層に粘質のある炭層を堆積させる特徴のある埋土や、出土した土器細片(434・435)から市田3期頃に掘削・埋没したものと考えられる。また、S KB712からは石針未成品(1250)も出土した。

土坑 S KB762(図版第38) B調査区中央西側、竪穴式住居跡 S HB137の東側、単独で検出された長辺1.5 mあまりの隅丸方形の土坑である。検出面からの掘削深20 cmたらずしか遺存していなかった。下層からは炭を多く含む粘質の土層が堆積しており、わずかに出土した甕片(466・467)とともに市田3期前後のものとして推測できる。

土坑 S KB770(図版第38) B調査区中央南西側、竪穴式住居跡 S HB144の東側に隣接する長辺1.7 mあまりの隅丸方形の土坑である。土坑 S KB762同様に下層に粘質の高い炭層が堆積していた。わずかな土器(462～464)や石庖丁(428)が出土した。土坑 S KB771の埋土を掘削する先後関係がある。市田3期以降に下るものであろう。

土坑 S KB771(図版第38) 土坑 S KB770同様にB調査区南西側、竪穴式住居跡 S HB144の東側に隣接する長辺1.8 m以上の隅丸長方形の土坑である。土坑 S KB770にその埋土が掘削される先後関係がある。砂質土に炭が混入する埋土で、市田3期前後を示す甕を中心とする土器群(468～477)や石庖丁(432・433)やスクレイパー類(1360)・碧玉玉材(218・219)が出土している。比較的早くに掘削・埋没したものと考えられる。

土坑 S KB790(図版第38) B調査区中央西側、竪穴式住居跡 S HB145の東、単独で検出された長軸1.1 mあまりの卵形の土坑である。顕著な遺物はみられなかった。

土坑 S KB791(図版第38・265-(2)・267-(2)～(4)) B調査区南西側、竪穴式住居跡 S HB144の北東、土坑 S KB800に重複した長軸2.3 mほどの長楕円形の土坑である。土坑 S KB800の埋土を掘削する先後関係がある。破碎されて遺棄されていた大形甕一個体(478)が出土した。市田5期に属する。

土坑 S KB800(図版第38・267-(2)) B調査区南西側、竪穴式住居跡 S HB144の北東、土坑 S KB791に重複した長辺1.5 mあまりの長方形土坑である。土坑 S KB791によってその埋土が掘削される先後関係がある。灰褐色砂質土の堆積による埋土はほかの土坑のものとは異なる様相を示す。甕・鉢(502～504)が出土した。市田2期に属する。

土坑 S KB816(図版第38) B調査区東側、竪穴式住居跡 S HB796の北側に隣接した長軸2 mた

らずの長楕円形の土坑である。検出面からの掘削深が90cmにもなる深いもので、下層に細砂土やシルトに炭が混入する土層堆積がみられた。付近からは磨製石斧(304)や石材と考えられる砂岩(1454)が出土した。

土坑 S KB822(図版第3・267-(6)) B調査区北西、竪穴式住居跡 S HB528の西側に重複する長軸1.7mたらずの楕円形の土坑である。竪穴式住居跡 S HB151周壁溝を破壊し、竪穴式住居跡 S HB528に破壊される先後関係がある。市田5期以降の土器片(519・520)が出土した。土坑 S KB1179(市田5期)出土甕(607・608)に接合する土器片が出土した。

土坑 S KB839(図版第39) B調査区北東、竪穴式住居跡 S HB542の南、土坑 S KB335に重複する長軸2.1mの長方形土坑である。炭化物や炭を含む薄い数層の土層の堆積する埋土をもつ。市田3期と考えられる土坑 S KB335の埋土を掘削する先後関係がある。わずかながら市田6期の土器(521・522)が出土した。

土坑 S KB841(図版第39) B調査区北東、竪穴式住居跡 S HB542の南側に重複した、長軸2mあまりの楕円形土坑である。竪穴式住居跡 S HB542に、その埋土が掘削される先後関係がある。細砂土層の堆積する埋土をもつ。検出面からの掘削深は浅いが、図化しうる土器(506~512)が出土した。その切り合い関係から市田5期以前に埋没したものと考えられる。石庖丁(425)が出土した。

土坑 S KB899(図版第39) B調査区中央で検出した東西に配列される土坑群の一つである。1辺80cm前後の小形方形の土坑である。市田3期の甕を中心とした土器群(535~556)が出土した。

土坑 S KB905(図版第39・267-(8)・268-(1)) B調査区中央北側で検出した鎌倉時代から室町時代に掘削された久世郡条里遺存地割の南北方向の素掘り溝によって一部が破壊される。長軸1.8mたらずの長楕円形を呈する土坑である。下層第4層には炭や炭化物の堆積がみられた。市田2期に遡る甕(531・532)が出土した。

土坑 S KB909(図版第39) B調査区北東隅、溝 S DB333の南側の土坑 S KB656と重複する長方形の大形土坑である。市田3期の S KB656を破壊する先後関係がある。砂質土層が堆積する埋土をもつ。検出面からの掘削深は浅かったものの、最下層第8層から市田4期の土器群(557~563)が出土した。

焼土坑 S KB911(図版第40・266・268-(2)) B調査区の中央東端で検出した土坑である。土坑の規模は、南北1.5m前後、東西は焼土の範囲より、2.1m前後と判断される。溝 S DB333や周辺で多く検出している小ピット群にその埋土が掘削される先後関係がある。土坑の壁面は熱を受けて変色・硬化しており、西半部では最大掘削深約20cmを測る。土坑内には焼土塊が充満していた。中には10~20cm弱の大きな焼土塊が入り込んでいたが、片側から熱を受けているのではなく、両側から熱を受けており、土坑の壁面に沿って立ち上げた壁とは考えにくい状況であった。調査区を一部拡張して土坑東半部を検出したが、坑の肩部は削平のためにほとんど検出できず、被熱により変色・硬化した土坑の床面を検出するに留まった(付論10参照)。打製石鏃(209)や石針(u. i. 450・451)が出土した。わずかな出土土器(586・587)と重複する遺構との先後関係からは

おそらく市田2期に属するものと思われる。

土坑S KB931(図版第40) B調査区中央西端、竪穴式住居跡S HB153の北側に重複する長軸2.2mあまりの楕円形土坑である。竪穴式住居跡S HB153に破壊される先後関係がある。下層第3～7層は自然堆積ではなく、床面に貼られたものと考えられる。第1層から市田3期の甕(574～577)が出土した。このほか、打製石鏃(210)・石斧(300)が出土した。

土坑S KB1068(図版第39) B調査区中央東側、竪穴式住居跡S HB539の南西で検出された1mあまりの円形に近い土坑である。市田5期に下る近江形甕(582)が出土した。

土坑S KB1073(図版第39) B調査区中央、竪穴式住居跡S HB1078の南西側に重複する東西に配列される土坑群の一つである。長軸1.5mあまりの楕円形土坑である。検出面からの掘削深40cmほどで、薄い砂質土層が幾重にも堆積する埋土をもつ。市田4期以降の土器細片が出土した。

土坑S KB1090(図版第40) B調査区中央、竪穴式住居跡S HB1078の南側に重複する東西に配列される土坑群の一つで、1mあまりの隅丸方形の土坑である。検出面からの掘削深は40cm程度であった。土坑S KB485と同様、粘土ブロックを含む砂質の土層が堆積していた。遺物は出土しなかったが、おそらく埋土の堆積状況からみて市田4期から5期以降に下るものと考えられる。

土坑S KB1137(図版第40・268-(3)) B調査区中央、竪穴式住居跡S HB538の西に位置する直径1mたらずの円形の土坑である。遺物は砥石(718・725)以外出土していないが、断面からみれば、砂質分の多い土層と、粘土ブロックを含むことから市田5期以降のものと考えられる。

土坑S KB1145(図版第40) B調査区中央北側で検出した鎌倉時代から室町時代に掘削された久世郡条里遺存地割の南北方向の素掘り溝によって破壊された長軸2mを超える長楕円形土坑である。土坑S KB1207を破壊し、かつ土坑S KB664・B665によって破壊される先後関係がある。断面観察からみれば、炭化物を多く含む凹面状をなす土層(第2・5層)が堆積することから、市田3期に遡る可能性がある。石庖丁(427)が出土した。

土坑S KB1156(図版第40・268-(4)) B調査区中央北側で検出した鎌倉時代から室町時代に掘削された久世郡条里遺存地割の南北方向の素掘り溝によって破壊された長軸1mあまりの小形の楕円形土坑である。砂質分の多い薄層に粘土ブロックが含まれる。市田3期の近江系の甕(584)が出土したが、堆積土壌には新しい様相がみられる。

土坑S KB1177(図版第40・268-(5)) B調査区中央西端北側、竪穴式住居跡S HB138の東側に重複する長軸1mあまりの小形の楕円形土坑である。S HB138に破壊される先後関係があることから、市田3期以前の埋没を想定することができる。このほか、打製石鏃(212)が出土した。

土坑S KB1196(図版第40) B調査区中央東側、竪穴式住居跡S HB543の北側に重複する1mあまりの不整形土坑である。S HB543によって一部破壊される先後関係がある。遺物は出土していないが、市田3期以前と考えてよい。

土坑S KB1201(図版第6・268-(7)(8)) B調査区中央南側、竪穴式住居跡S HB691の南で検出した長軸1.8mあまりの長楕円形の土坑で、市田4期の近江系甕(606)が出土した。土層の堆積の傾斜から、この周辺のベース土壌は南側に向けて隆起しているものと推定される。

土坑 S KB1204(図版第3) B調査区北端、竪穴式住居跡 S HB149の東側に重複する直径2mの円形の浅い土坑である。S HB149に破壊される先後関係がある。検出面から掘削深10cm未満ではあったものの、市田2期と考えられる甕(609)・鉢(610)が出土した。このほか、砥石(715)などが出土した。

(3) C調査区(図版第41・42・269～270)

C調査区における土坑はB調査区ほど多くはなかった。当該調査区では、細砂やシルト分の多い土壌がベースとなっているためか埋土土壌も細砂やシルトを包含するものとなっており、B調査区のそれとはやや異なる。

土坑の掘削時期については、竪穴式住居跡の構築開始とほぼ同じ市田2期と考えられるものがある(第25図)。出土土器からみて市田3期から市田4期にかけて掘削され、埋没したものが広い範囲で認められる。B調査区同様、市田5期から市田6期にかけて終焉する。出土土器によって所属時期を判断し、その時期別に土坑を示した(第25～27図)。土器を出土したか、あるいは断面図を作成した土坑についてのみ記述し、以外の土坑の調査結果は観察表で代えたい。

土坑 S KC70(図版第41) C調査区北半、竪穴式住居跡 S HC80の南西、長軸1.4m前後の長方形土坑である。遺物は出土しなかったが、炭・灰を多量に含む埋土の堆積がみられた。

土坑 S KC75(図版第41・269-(1)) C調査区北半、竪穴式住居跡 S HC132の東、長軸1.5m前後の楕円形土坑である。市田3期の土器(629～632)が出土した。このほか、打製石鏃(214～218)・砥石(723)・石針(1298・1299・1302～1304ほか)・石錐(1329)や碧玉玉材(228～233)が出土した。

土坑 S KC81(図版第41) C調査区北半、竪穴式住居跡 S HC80の南、長軸3mを超える大形の長方形土坑である。砂質分の多い土層が堆積している。S DC65の埋土を掘削する先後関係がある。市田4期に下る細頸壺など(625・626)が出土した。このほか、石庖丁(446)が出土した。

土坑 S KC115(図版第9・269-(3)) C調査区中央北東、環濠かとも考えられる大溝 S DC114の南、方形周溝墓 S TC99の北に挟まれた場所に位置する直径1mたらずの長方形の土坑である。検出面からの掘削深は20cmたらずであるが、市田3期の甕など(642～648)が出土した。

土坑 S KC131(図版第41・269-(4)) C調査区北西、竪穴式住居跡 S HC132の北、長軸2.1m前後の楕円形土坑である。これも検出面からの掘削深30cmたらずであるが、市田2期前後に遡る鉢、広口壺や近江形甕など(649・652～654)が出土した。このほか、打製石鏃(219)・石庖丁(445)が出土した。

土坑 S KC141(図版第41) C調査区中央東側、方形周溝墓 S TC110の北辺周溝 S DC101の西端に重複する不整形の土坑である。S DC101によって破壊される先後関係がある。長軸2.1m前後で、播鉢状の掘形をもつ。第3・7層は炭片を多く含む同一層と考えられる。市田2期の近江系の甕(641)や石庖丁(398)が出土した。

土坑 S KC146(図版第41) C調査区中央、S EC111の西、1.7m前後の長軸をもつ不整形の土坑である。断面形「コ」字に近い掘形をもつ。埋土土壌には砂質分が多い。



土坑 S KC155(図版第41・269-(5)) C調査区北半、竪穴式住居跡 S HC80の南、長軸3mを超える不整楕円形の土坑である。第3～5層に炭・灰を多分に含む土層が堆積していた。市田3期の甕や広口壺(656～658)が出土した。

土坑 S KC161(図版第42・269-(6)) C調査区北半、方形周溝墓 S TC65の周溝内にある直径4mたらずの円形土坑である。検出面からの掘削深40cmたらずと浅いもので、砥石(720)以外図化しうる遺物はみられなかった。

土坑 S KC162(図版第42・269-(7)) C調査区北半、土坑 S KC161同様、方形周溝墓 S TC65の周溝内にある長軸1.4m、短軸0.6m前後の楕円形土坑である。埋土下層第2～3層には炭・灰が堆積していた。有段口縁の広口壺など(695～697)、市田7期に下る土器が出土した。有段口縁壺(695)は大溝 S DC99(市田5期以降)出土土器片と接合した。

土坑 S KC163(図版第42) C調査区北半、土坑 S KC161同様、方形周溝墓 S TC65の周溝内にある長軸1.3m、短軸0.6m前後の長楕円形土坑である。掘形横断面「V」字状の深い掘形をもつ。市田5期に属する小形甕(650・651)が出土した。

土坑 S KC164(図版第42) C調査区北半、土坑 S KC161の南、方形周溝墓 S TC65の南辺周溝 S DC65に重複する長軸1.6mあまりの不整円形の土坑である。S DC65に破壊される先後関係がある。砂質分の多い土層の堆積がみられ、中層第4層などから市田3期に属する甕口縁や底部など(665～678)のほか、砥石(721)・スクレイパー(1363)が出土した。

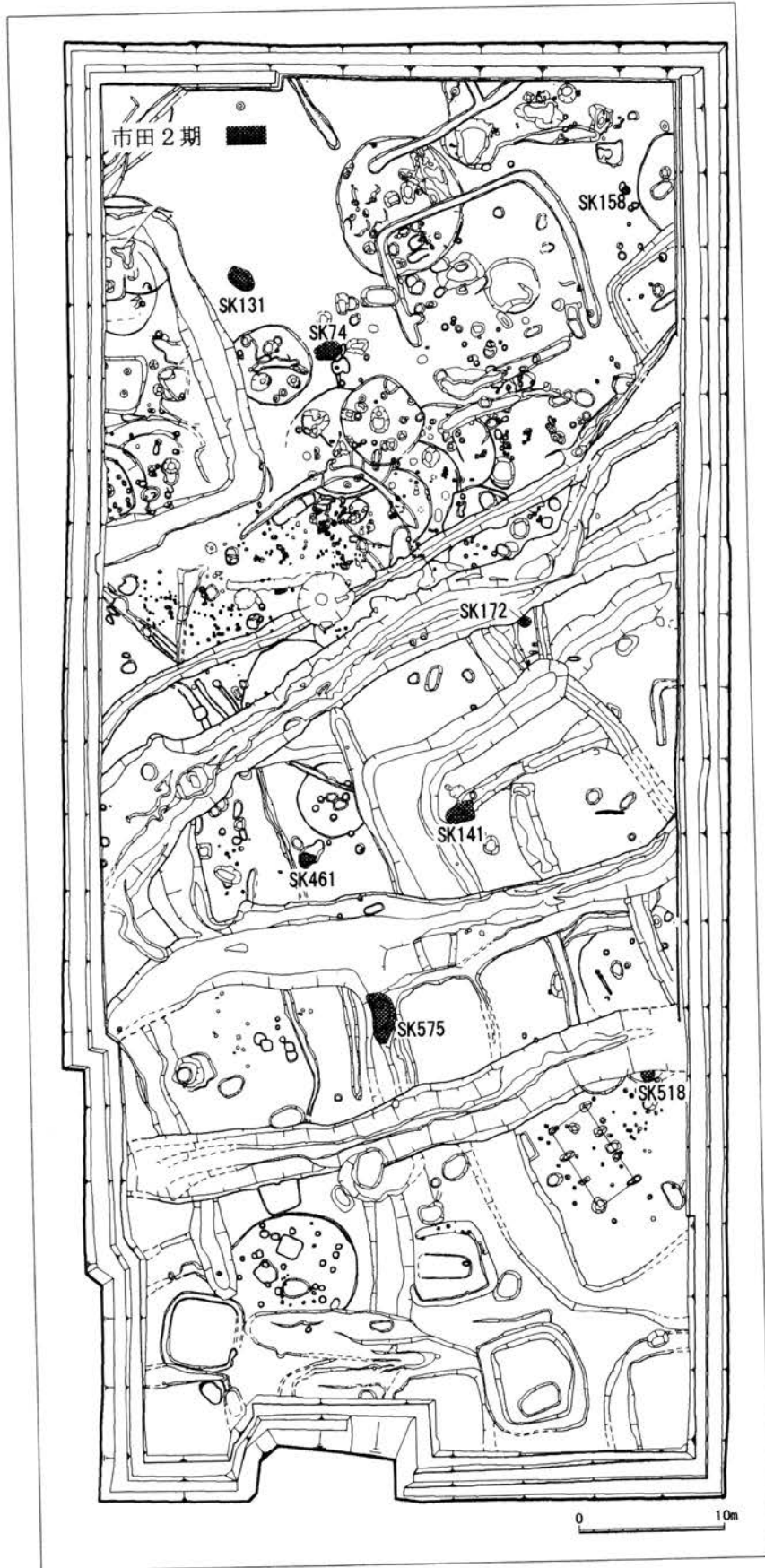
土坑 S KC171(図版第42) C調査区北東、大溝 S DC93と大溝 S DC114の間に挟まれた位置にある直径1.4m前後の円形土坑である。炭・灰の混じる土層が数層堆積する市田3期以前と考えられる埋土をもつが、顕著な遺物は出土しなかった。

土坑 S KC296(図版第42・270-(1)) C調査区中央やや南西、大溝 S DC25と大溝 S DC90の間に挟まれた位置にある長軸2mたらずの楕円形土坑である。検出面からの掘削深40cm程度、砂質分の多い埋土であるが、舟底状の底部の掘形形状や炭混じりの下層第3層の堆積がA調査区の土坑 S KA78・S KA79などに類似するものである。市田3期の典型的な広口壺(689・693・694)・甕(690～692)や石斧(306)なども出土した。

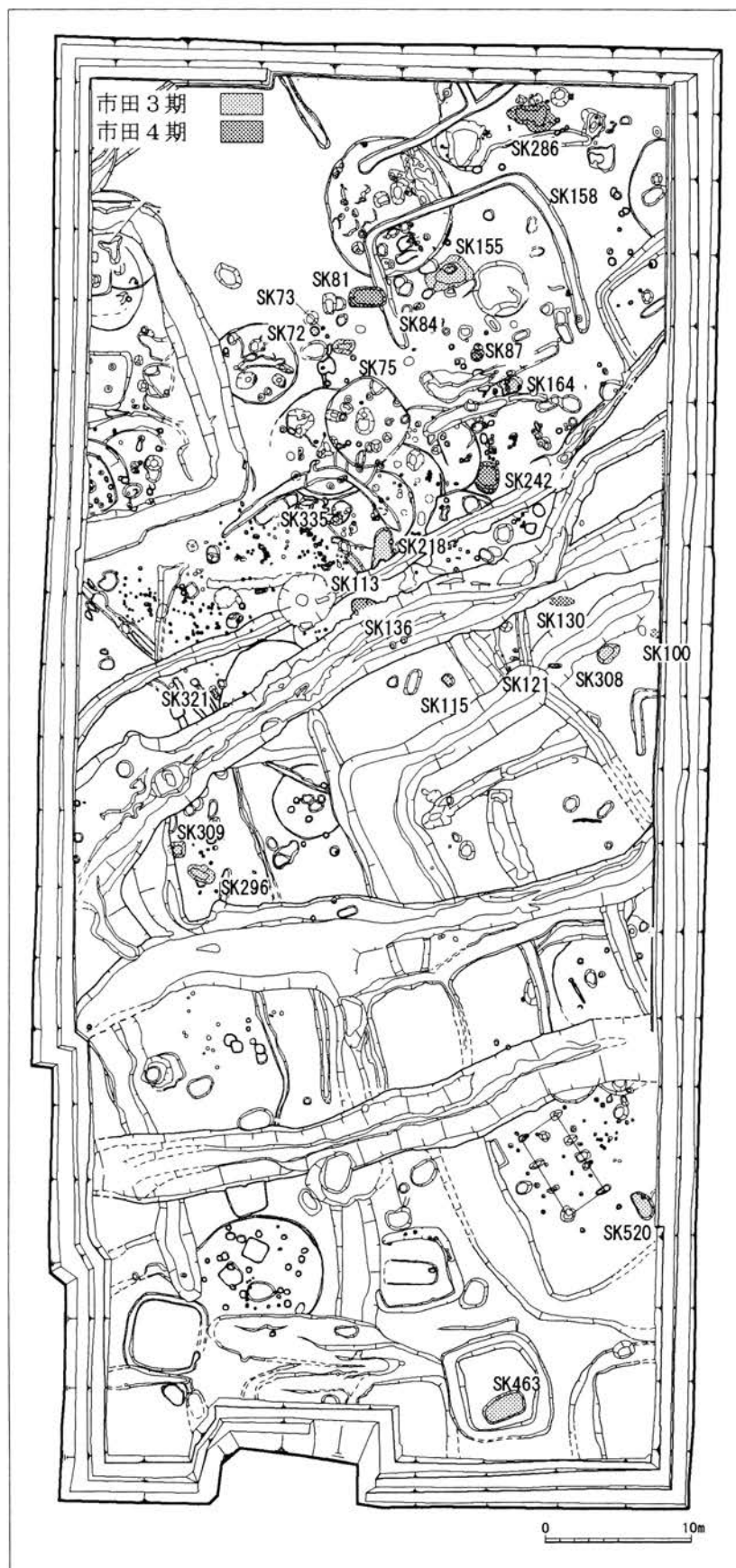
土坑 S KC478a(図版第8) C調査区北西端、竪穴式住居跡 S HC570の東側に重複する土坑である。長軸1.4m前後の卵形の土坑である。検出面からの掘削深40cmたらず、砂質分の多い埋土から市田7期に下る甕(712～714)・鉢(715)・石鋸(874)・石斧(302)とともに碧玉玉材(238・239)も出土した。

土坑 S KC493(図版第42) C調査区南西、大溝 S DC401に重複する長軸2.5m前後の楕円形土坑である。溝 S DC401に一部破壊される先後関係がある。下層第3・5層に炭片が多分に含まれており、市田3期以前の埋土の様相を示している。

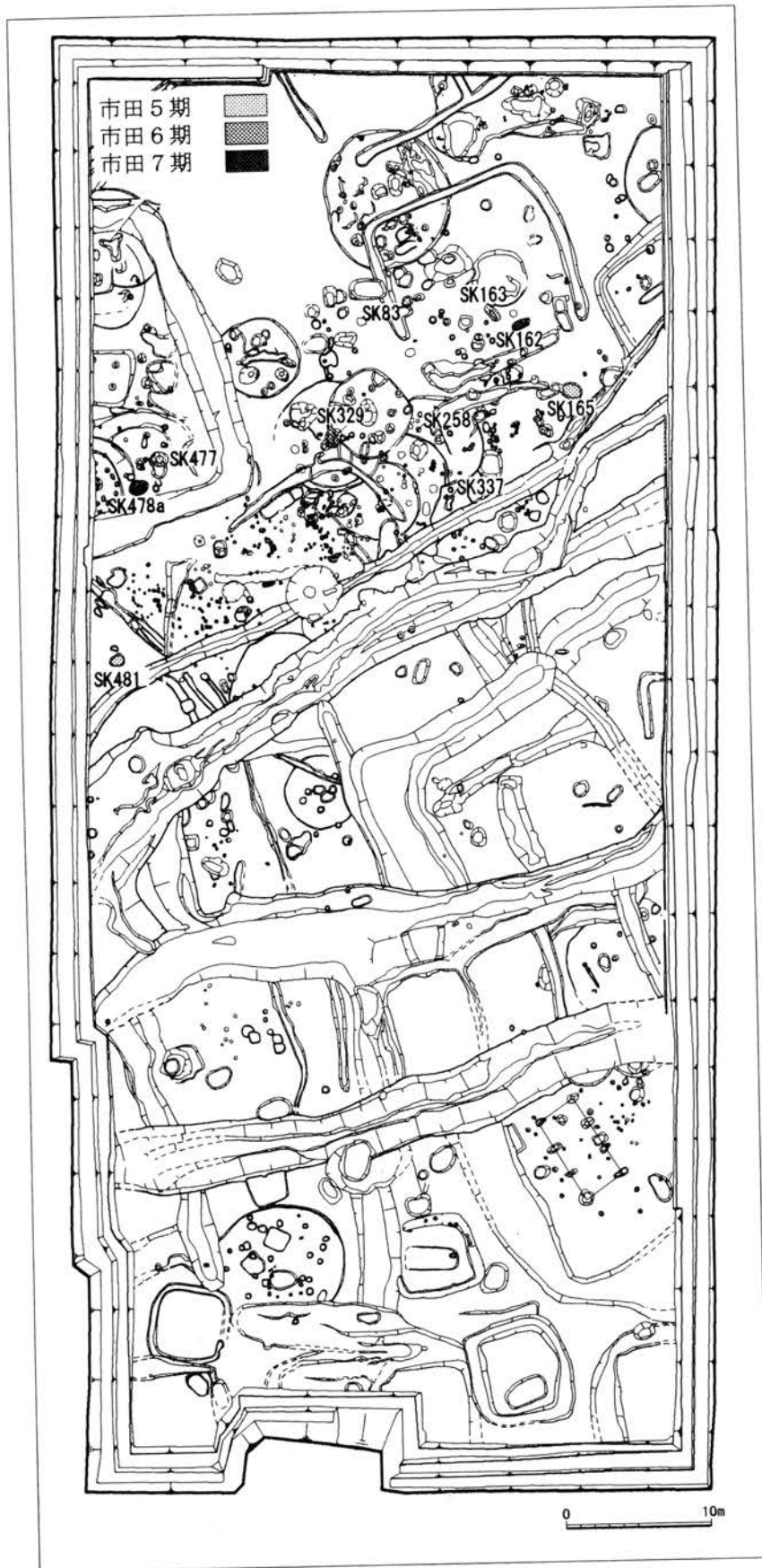
土坑 S KC494(図版第42) C調査区南端方形周溝墓 S TC456の南東側に重複する長軸2m前後の楕円形土坑である。S DC456南東隅部に破壊される先後関係があるが、S DC456埋土とそれほど変わらない埋土のため、それほどの時間的差異はみられないものと思われる。市田5・6期以



第25図 C調査区 市田2期(山城Ⅱ様式期)の土坑



第26図 C調査区 市田3・4期(山城Ⅲ様式期)の土坑



第27図 C調査区 市田5～7期(山城Ⅳ様式期)の土坑

降に下るものとする。

#### (4) D調査区

D調査区で検出した土坑には、方形周溝墓の中心的埋葬施設と判断されるものと、方形周溝墓周溝内で検出した溝中埋葬土壌と判断されるものがある。A～C調査区で確認した通有の土坑は認められなかった。埋葬施設と想定されるものについては、方形周溝墓の項で説明したい。

(野島 永)

### 3. 井戸(図版第43～49・271～277)

#### (1) C調査区(図版第43～45・48・49)

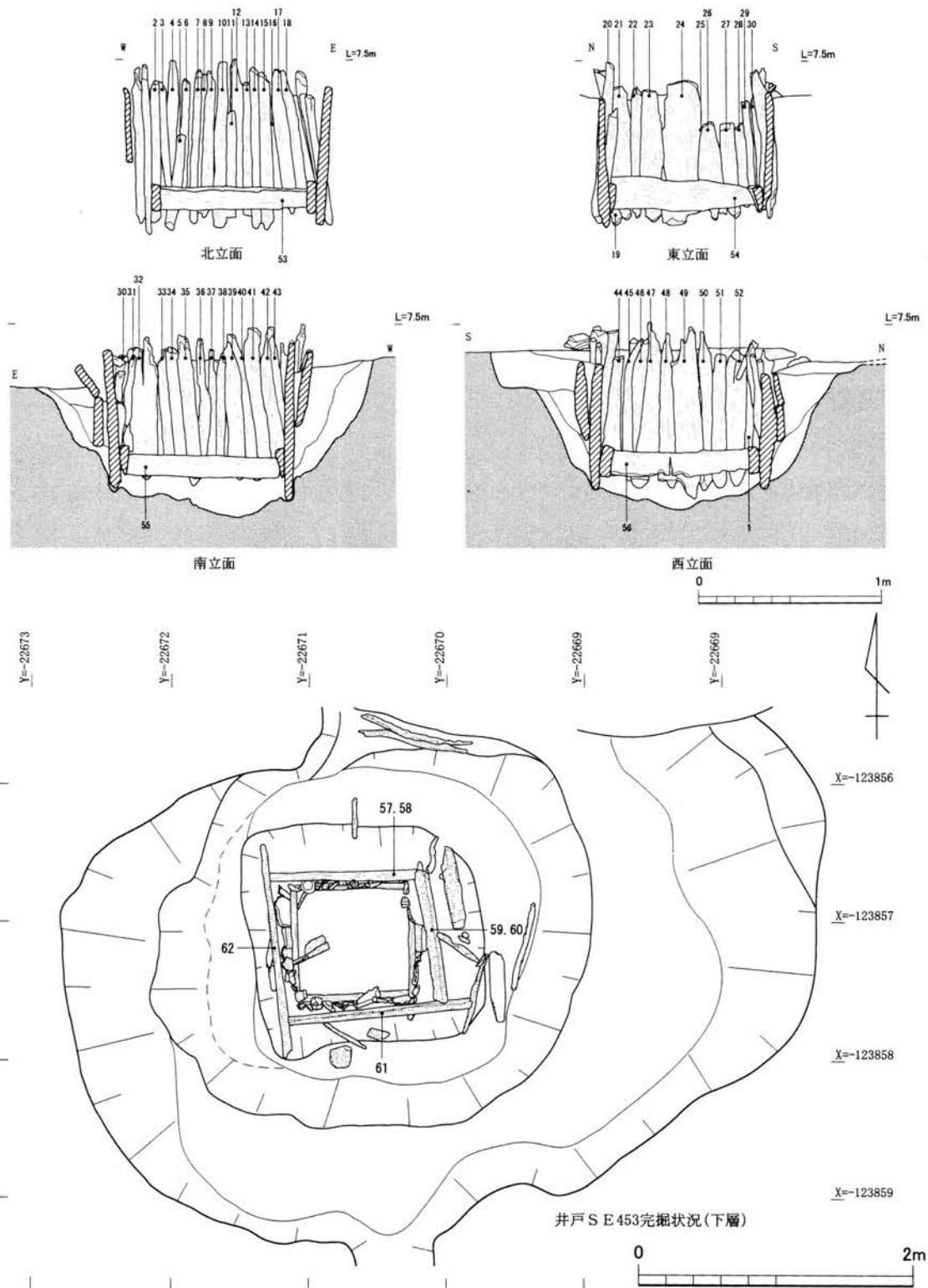
##### 井戸S EC453(図版第43～45・271～274)

C調査区南部の大溝S DC401南側で検出した井戸である。大溝S DC401の掘削によって北半部の掘形の一部が破壊され、南側では方形周溝墓S TC469の東辺周溝S DC426によって上層埋土の一部が削平されている。縦板横棧組の井戸側材をもつ井戸である。掘形の平面形は、楕円形状を呈し、検出面での規模はおおよそ長軸5.4m、短軸4.1mを測る。断面は、逆台形状をなし、検出面から井戸底まで深さは、約2.4mを測る。

掘形の中央西寄りの位置で、検出面から約1.4m掘り下げたところ、方形に組まれた井戸側材を検出した。井戸側は、縦板をほぼ正方形に立て並べたもので、一辺約0.8mを測る。井戸側を設置するための一段目の掘形は、一辺約1.7mを測る。縦板の外周に各辺1～2枚の大形の横板材を用いて方形に組み、これを支持板として内側に縦板材を立て並べ、さらに縦板材下部を内側から横棧で固定した、いわゆる縦板組横棧留め(注16)の構造をもつものである。約50本用いられた縦板材の多くは、長さ約0.7～0.8m前後の板材であるが、断面方形や三角形の杭状の材も部分的に用いられる(第28図、図版第227～230・271-(2)・273・274)。これらの材の多くは、上端部が腐食しているが、一部に材の小口部の加工痕を残していると推定されるものもあり、本来の長さも、現存長と大きく相違はないものとみられる。また、井戸側内部の横棧材には、手斧痕を残す厚さ約3～4cmの規格の揃えられた板材が用いられており、直交する材の両端にはホゾとホゾ穴を作り出し、突き通す単純な組手による結合方法が採用されている。外周に用いられた木材や縦板には、ヒノキなどの針葉樹と広葉樹が含まれ、付論4にもあるように、横棧は広葉樹が用いられている。外周の大形の横板材には、一部に穿孔が施されていることから、転用材とみられる(注17)。

掘形内の埋土土層は、上層にある井戸廃棄後の堆積層(図版第45、廃棄後第1次堆積土・廃棄後第2次堆積土)と、下層にある井戸使用時の堆積層(井戸最終使用時堆積土)、および井戸構築前後の掘形埋め土(構築時裏込め土)とテラス部構築土(構築時盛り土)に分かれる。井戸断面の土層観察では、井戸側材の上端部外周に、水成堆積とみられるシルト層(図版第43、第21層)を確認しており、井戸使用時の堆積層と考えられる。また井戸側外周をめぐる横板材上端にも複数の土器が密着して出土していることから、井戸側上部は大きく開口していたと推定される。井戸側の東

側の井戸使用時堆積層の下には、シルト混じりの粘質土と砂層の互層によって、堅くつき固められた盛土層があり、テラスが造り出される。井戸側木枠の東側に大きく空間が設けてあり、この部分にのみ数層にわたる盛土を行っていることから、取水の際にはこのテラスまで降り、井戸側



第28図 井戸 S E C453 木材の遺物番号(図版第227~230参照)

の東側から汲むように計画的に構築されたものであろう(第5章第4節、第76図参照)。テラス部分の盛土内には、横板材が埋め込まれており、取水位置の足場沈下を防止し、その強化が行われたとみられる。井戸は、花崗岩起源の厚い粗砂のベース土壌を掘り抜いて掘削されていた。井戸側内の堆積土を取り除いたところ、地下水が湧き出し、平常水位で井戸側の1/2程度の高さまで滞水することから、井戸として現在でも機能することが判明した。また井戸掘形および井戸側周辺には、柱穴などは検出されなかったことから、覆屋は存在せず、雨水が流れ込む構造であった可能性が高い。しかし、ある程度の排水を行えば、数日で再び浄水が得られるまでに回復することを調査時に確認した。

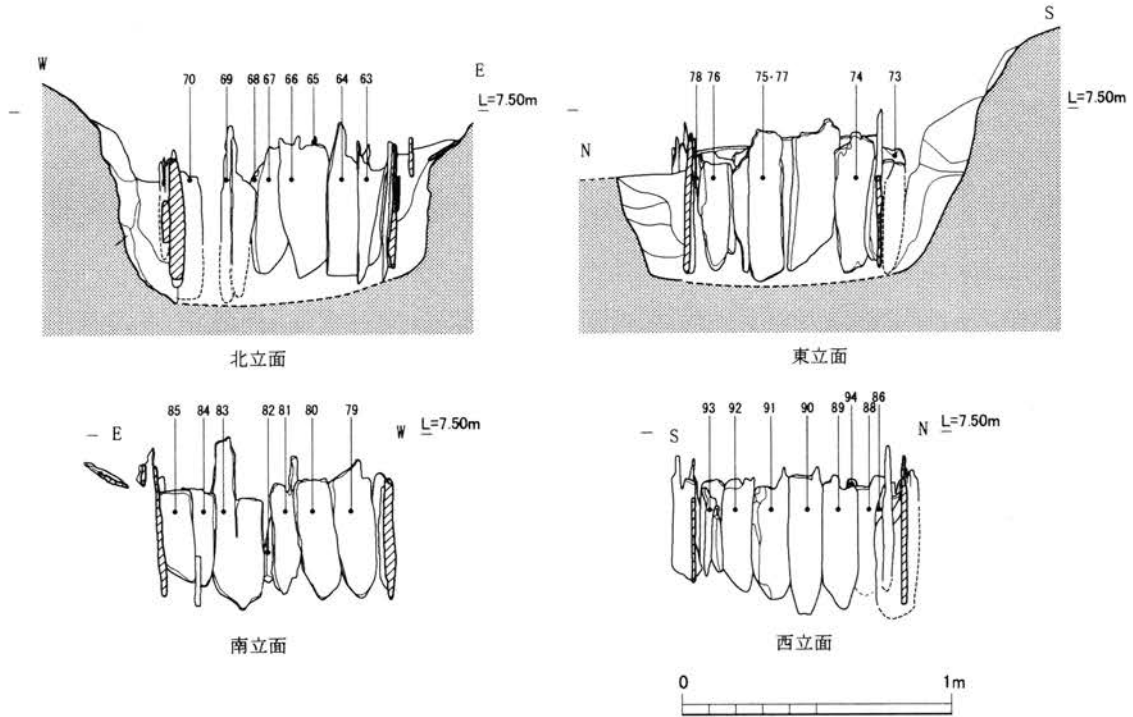
出土遺物は、井戸側上端部あるいは外周する横板材周辺や、使用時堆積土、井戸側内の廃棄直後の第1次堆積土上面(第23層)や第2次堆積土、井戸掘形検出面などから弥生土器(731~803)が出土した。これらの多くは市田3期を中心とするが、井戸側木枠内部下半から出土した土器群(804~809)には市田2期のものが多い。石庖丁(468~471)・磨製石器未成品(615)・砥石(748~751・752・753・754)・敲石(798・799)・玉砥石(831・832・834・835)・玉鋸(887~890)や碧玉玉材(240~242)などは、廃棄後の第1次堆積土および第2次堆積土から出土した。さらに、井戸側内上層の廃棄後第1次堆積土から、炭化米や、桃核、各種種子などの植物遺体を採取している(付論5~8参照)。この土層を分析したところ、多量の寄生虫卵を検出した<sup>(注18)</sup>(付論9参照)。出土土器は、井戸側内から出土する土器と廃棄後堆積土から出土する土器には、大きな時期差は認められず、井戸の掘削時期は市田2期を大きくは遡らないものとみられる。廃絶時期は市田3期と推定される。

(岩松 保・高野陽子・野島 永)

井戸 S EC111(図版第48・277-(5)(6)) C調査区中央、北東から南西に走る大溝 S DC93に重複する素掘りの井戸である。大溝 S DC93を破壊する先後関係がある。平面形はやや崩れた直径3.5m前後、逆台形状に細くなる掘形で、遺構検出面からの掘削深2mを超える。市田5期の土器(833~843)が出土したが、ほかの遺物はほとんどみられなかった。埋土土壌の水洗も行わなかったため、微細遺物の回収もできなかった。

## (2) D調査区

井戸 S ED31(図版第46・47・275・276) D調査区北東で検出した井戸である。建築物の基礎によって北西の一部が削平され、北東の一部が調査区外となり未調査であるが、掘形の平面形は歪な方形を呈し、一辺4.5~5.7mと推定される。掘形の断面形は、上部が大きく開く逆台形状をなし、深さ約1.9mを測る。掘形上部は、一部段掘りされている。C調査区の井戸 S EC453とはほぼ同様の構造をもち、使用時に掘形上部が大きく開放する形態の井戸と考えられる。掘形の最下部で井戸側を検出した。井戸側の平面形は方形で、一辺0.8~0.9m前後、縦板組みの構造をなす(第29図)。井戸側木枠を埋置する下段の掘形は、一辺約1.4mの方形で、深さ約0.6~0.7mを測る。縦板材は、現存長約30~70cmを測り、幅15cm前後の板材を約30枚程度使用している。S ED31は S EC453と異なり、横棧が認められなかった。周辺基盤層は花崗岩起源の粗砂層であり、



第29図 井戸S EC31の木材の遺物番号(図版第231参照)

基盤に粗砂層を打ち込むことなく、井戸側を固定し維持することは困難であることから、縦板材を固定するためにはS EC453と同様、井戸側内側下部に横棧が用いられていた可能性もあろう。また、調査最終段階に縦板材を抜き取る際、縦板外面に横方向の多条の植物繊維痕を検出しており、縦板材外周にツル科の植物繊維が数重に巻かれていたと考えられる。

井戸側は、S EC453とほぼ同様の規模であるが、縦板材の長さが20~30cm短いことから板材上半部が腐食、消失した可能性が高い。井戸側の東側で横板材を検出した。こうした横板材は、S EC453でも検出したもので、足場の補強と地盤の沈下を防ぐ機能を持つものと想定した。土層では確認できなかったが、この板材の上位、井戸側の東側にテラスが設置されていたと推測され、井戸側東側が取水位置であると思われる。この取水位置に向けて、井戸掘形検出面から続く幅約0.9mの浅い溝状の落ち込みを検出しており、これが通路として用いられた可能性が高い(第5章第4節、第76図参照)。

出土遺物は、埋土上層から弥生土器片・玉砥石(833)、井戸側内部から弥生土器の壺5個体(844~848)が出土した。またこれらとともに、鉄斧を装着したとみられる木柄(第48図)が出土している。出土土器からみた井戸の廃絶時期はS EC453よりもやや古い様相をみせ、市田2期あるいはその直後と推定される。

(岩松 保・高野陽子)

#### 4. 方形周溝墓(図版第50~63・278~296)

方形周溝墓は、A・C・D調査区において検出された。D調査区では、周溝区画内の中心的埋



葬施設と考えられる土坑や、周溝内底面あるいはその埋土中に埋葬が想定される土坑を検出した。これらの土坑は円形・長方形・楕円形とさまざまであったが、すべて素掘りで、断面観察では木棺痕跡を確認できなかった。

竪穴式住居跡と重複する方形周溝墓周溝は、すべて竪穴式住居跡を破壊する先後関係がある。このため、方形周溝墓周溝からも市田2期あるいは市田3期の土器片が出土する場合があるが、一部には以前に存在していた竪穴式住居跡や土坑に遺存したものが、周溝掘削によって2次的に堆積したことも想定しなければならない。しかし、南北両端のA調査区とC調査区南半、D調査区では、市田1期から市田2期の土器が良好な状態で周溝底面に遺存していたものがあることから、方形周溝墓の構築は市田2期までにはかなり広い範囲で行われていたとみられる。方形周溝墓は市田1期から7期以降まで存続したことになる。

#### (1) A調査区(図版第50～54・278～282)

方形周溝墓は接続して構築されており、隣接する各辺の周溝は切り合い関係をもつ場合が多い。当該調査区の方形周溝墓周溝の土層断面観察で推測された切り合い関係のみからは、S DA73→S DA95→S DA59→S DA68(再掘削時)(第30図)、S DA97→S DA112といった先後関係をみることができた。出土土器からはS TA62・S TA73→S TA97、S TA58→S TA49・S TA68といった構築順序が想定できそうである。また、S TA49東辺周溝およびS TA58西辺周溝のように、方形周溝墓構築当初は、細くて深い別個の周溝をめぐらせていたものの、幅広の大きな周溝を再掘削することによって両者を一つの大きな溝としたようである(図版第50、断面図3)。後述するようにD調査区でも、隣接した方形周溝墓の2条の周溝が埋没し、再度掘削がなされる際には、一条の幅広の大溝S DD18を掘削することによって、二つの方形周溝墓が一つの周溝を共有した場合があったと想定される。

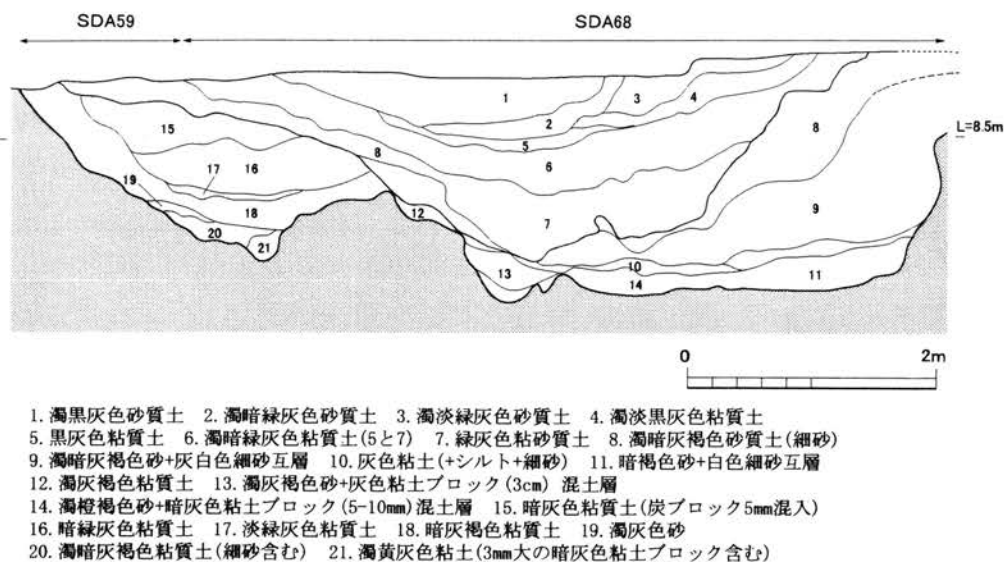
方形周溝墓S TA49(図版第50・279-(1)・280-(1)(2)) A調査区南端、東辺周溝S DA49-1・2区、北辺周溝上層S DA49-3区・下層S DA49bとなる方形周溝墓である。周溝からの高さ1.2mあまりである。東辺周溝S DA49-1・2区はS TA58の西辺周溝と共有している。溝底面には掘形断面「V」字状の掘りこみが2条みられた(図版第50、断面図3)。それぞれに異なる埋土の堆積が認められ、その上層に掘形断面「V」字状の2条の溝を覆うようにゆるやかな層状堆積がみられた。このことから、先述したようにS TA49東辺周溝とS TA58西辺周溝は本来異なるもので、別々に狭くて深い溝が掘削されていたようであるが、ある時期に両溝を連結する大きな周溝が再掘削され、幅広で断面「U」字状の周溝がめぐらされたものとみられる。このS DA49-1・2区などからは市田5期までの各種土器(874～893)が出土した。北辺周溝S DA49-3区からも土器群(859～873)が出土した。このほか、石剣(39・40)・打製石鏃(223・224)・石庖丁(464・466)・磨製石器未成品(624)・砥石(737・738)・敲石(792)・凹石(793)・玉砥石(825)などが出土した。墳丘盛土内からも石庖丁(463・465)が出土した。

方形周溝墓S TA58(図版第50・280-(3)～(5)) A調査区東南隅、東辺周溝S DA01・A07、北辺周溝S DA58-1・2区、西辺周溝S DA49-1・2区となる方形周溝墓である。周溝間で南北9

m前後、やや楕円形に近い周溝墓である。東辺周溝 S DA01・A07からは市田3期を前後する土器(849~854)が出土した。打製石鏃(220)なども得られた。S DA58-1・2区からは市田3期前後の土器群(894~902)のほか、磨製石器未成品(625)・玉砥石(824)・玉鋸(877~879)が出土した。また、S DA07からは玉砥石(822)が出土した。隣接する方形周溝墓 S TA49周溝よりも、古い様相の土器が出土する傾向にある。

**方形周溝墓 S TA59**(図版第51・280-(6)~(8)) A調査区北東、北東辺周溝 S DA59-1区・S DA17・S DA96、北西辺周溝 S DA59-1~3区、南西辺周溝 S DA68-1・2区、南東辺周溝 S DA14となる方形周溝墓である。周溝間で、北東・南西間が11.2m、北西・南東間が10.8mを測る。北西辺周溝 S DA59-1区では、S DA59は、S TA95南東辺周溝の埋土を掘削する先後関係がある。また、S DA59-3区では、S TA73の墳丘盛り土を一部破壊する先後関係が窺える(図版第51、断面図1・2)。S DA14からは小形壺(855~857)や石鏃(221・222)、S DA59-1・2区から甕など(903~914)、3区からは石鏃(225)・石庖丁(452)・磨製石器未成品(626)・砥石(742)・玉鋸(880・882)・石針未成品(1307・1308)などが出土した。碧玉玉材(243・244)もみられるが、竪穴式住居跡 S HA74由来のものといえそうである。S DA59-3区から出土した土器群(916~929)は市田3期から市田4期までのものといえる。

**方形周溝墓 S TA62**(図版第52・279-(2)・281-(1)~(4)) A調査区北西、東辺周溝 S DA62-1・2区、北辺周溝 S DA62、西辺周溝 S DA61、南辺周溝 S DA62-3・4区となる方形周溝墓である。周溝間で南北10mたらず、東西8.5mあまりの長方形に近い方形周溝墓である。北半を東西方向に走る条里型地割に沿った中世素掘り溝 S DA51・A52に破壊される。S DA62-1区と2区の境界周辺で周溝最上層から一括して出土した市田3期の土器群(930~942・944~948)がある。最下層から出土した壺胴部(943)は市田2期以前に遡る資料といえる。このほか、3区から小形壺など(949・950)、1区から磨製石器未成品(627)が出土した。S DA61からは石剣(41)なども出土した。



第30図 A調査区 方形周溝墓 S DA59と S DA68の先後関係を示す断面図

S TA62の北西辺、一部地震の液状化と噴砂によっていびつになった溝S DA63がある。おそらく調査区外に位置する方形周溝墓周溝と考えられる。検出面では1筋の溝として確認したが、下層では2筋に分離した掘形をもつ。おそらく再掘削の際に溝底部がずれたことによるものであろう。上層からは土器群(951~966)が出土した。また、下層ではS DA63西溝およびS DA63東溝それぞれから土器群(967~983)や、石剣(42・43)・石庖丁(453・454)・磨製石器未成品(628・629)・石針未成品(1309)・碧玉玉材(251)などが出土した。市田5期から6期に属する時期の再掘削と埋没が想定できる。

**方形周溝墓 S TA68**(図版第53・278・281-(5)~(8)・282-(1)(2)) A調査区中央東側、東辺周溝S DA68-1区・2区、北辺周溝S DA68-3区・4区、西辺周溝S DA68-5区・6区、南辺周溝S DA58-1区・2区となる最も規模の大きい方形周溝墓である。隅丸の長方形に近い平面形をもつ。周溝間で南北14.2m、東西13.4mを測る。墳丘部分は、周溝底からの高さ1.5m程度残っており、築造当初は、溝底から2mを越えていたものと想像できる。S DA68-2区では、S DA59の埋土を掘削する先後関係がある(第30図)。S DA68からは多量の土器(984~1076)が出土した。とくにS DA68-5区では周溝底面から40cmほどの埋土土壌のなかからおびただしい量の土器(1011~1076)が出土した。市田1期に遡る甕(984)以外は市田3期から6期にかけての資料といえる。このほか、石剣(44・45)・石斧(311~313)・石庖丁(455~462)・磨製石器未成品(630~637)・砥石(726~736)・凹石(794・796)・玉砥石(827)・石鋸(881・883~886)・スクレイパー類(1367~1370)・石材(1434~1453)・碧玉玉材(245~247)なども出土した。市田6期に埋没したものと考えられ、A調査区では、最も新しく再掘削される周溝と考えられる。墳丘上面から玉砥石(826)が出土した。

**方形周溝墓 S TA73**(図版第54・278-(2)・282-(3)~(6)) A調査区中央北端、東辺周溝S DA73-2・3区、北辺周溝S DA73-1・7・8区、西辺周溝S DA73-5・6区、南辺周溝S DA73-4・5区となる正方形に近い平面形をもつ周溝墓である。周溝間で南北11.1m、東西10.9mを測る。墳丘の高さは周溝底から低いところで0.4m、高いところで1.2mを測る。S DA73からは比較的古相の土器(1077~1081・1085)が出土した。S DA73-2区からは砥石(739)、S DA73-5区では土器片(1077~1081)、S DA73-7区では溝底に貼りついた状態で市田2期に遡る広口壺(1085)などが出土した。当該調査区では最もはやくに構築された方形周溝墓である。S DA73-1区ではS TA95南西辺周溝にその埋土が掘削される先後関係がある(図版第54、断面図4)。また南辺周溝S DA73-4・5区はS DA68北辺周溝と共有されるが、墳丘部盛り土の崩落と埋没後、再掘削と再埋没が認められる(図版第54、断面図3)。

**方形周溝墓 S TA95**(図版第51) A調査区北東でわずかに検出した周溝墓である。南西辺周溝S DA95-1区、南東辺周溝上層S DA59-1・2区、下層S DA95-2区となる。調査区外北側に墳丘部分が遺存しているようである。墳丘部分は、やや崩れた楕円形に近い平面形をもつ。高いところで周溝底から1.3mとなる。S DA59にその埋土が掘削される先後関係がある。

**方形周溝墓 S TA96**(図版第51) A調査区北東隅、西辺周溝上層S DA59-1区、下層S DA17・

A96とする方形周溝墓が予想される。S DA96からは、市田6期の台付鉢など(1088~1090)が出土した。

**方形周溝墓 S TA97**(図版第54・282-(7)(8)) A調査区北西、方形周溝墓 S TA73の西辺周溝に付設された小形の方形周溝墓である。東辺周溝 S DA73-6区上層、北辺周溝 S DA97-1区、南辺周溝 S DA97-3区、西辺周溝 S DA97-2区となる。周溝 S DA97-2・3区からは市田3期の甕など(1082~1084)や石庖丁(451)が出土した。S DA97-2区付近、墳丘近くで壺胴部破片(1087)が出土したほか、墳丘部南西端から土器棺と考えられる市田7期に下る甕(1086)が出土した。1086はほぼ完形で横位に出土したが、周囲に掘形を検出することはできなかった。

**方形周溝墓 S TA104**(図版第1) A調査区西端、東辺周溝 S DA68-5区、北辺周溝 S DA112、南辺周溝 S DA104となる方形周溝墓が想定される。厳密には東辺が繋がらないため周溝墓ではないかもしれないが、調査区内では S DA112と S DA104がほぼ平行に走っていること、S DA112に方形周溝墓 S TA62から派出した S DA72が接続することなどから、S DA112が方形周溝墓周溝と想定して差し支えないものと考えられる。S DA104(1091~1097)および S DA112(1098~1109)から土器が出土したが、いずれも市田4期以降に下るものであった。

#### (2) C調査区(図版第55~59・283~290)

大形の方形周溝墓には、S TC99・C410・C469・C486・C488などがある。最も大きい S TC410では、溝の最大幅約4m、検出面からの掘削深1.1m、溝によって画された方形墳丘部は14m以上となる。周溝の四隅部分はやや浅くなっており、陸橋状をなしている。大形方形周溝墓の多くはその南北を大溝 S DC90や大溝 S DC401に挟まれている。方形周溝墓の東辺あるいは西辺周溝との切り合い関係からみれば、S DC90・C401などは大形方形周溝墓の南辺・北辺周溝を破壊し、拡幅して再掘削されたものと考えられる。市田5期から市田6期以降に一斉に掘削されるようである。ただし、このような大溝とほぼ同じ時期までも方形周溝墓 S TC134の東辺周溝 S DC331・C112、北辺周溝 S DC134や、方形周溝墓 S TC99の北辺周溝 S DC99北溝、西辺周溝 S DC99・C112などが掘削されていたようであることから、これらの大溝が、集落の防御や境界の明示を契機として掘削されたというよりは、方形周溝墓周溝の開削と接続を意図した行為であった可能性を指摘することができる。

なお、大形の方形周溝墓にともなう埋葬主体部はことごとく確認できなかった。大形方形周溝墓の墳丘頂部はかなり高かったものと推測される。

また一方、S TC455・C456・C457など小形の方形周溝墓もみられた。小形方形周溝墓の周溝は検出面での幅0.5~1.0m、検出面からの掘削深10~50cm程度、細く深い周溝によって方形に区画される。大形方形周溝墓と異なり、四隅で周溝が浅くなることはない。方形周溝墓 S TC455・C456では、埋葬施設と考えられる土坑(墓壙)を検出した。大形の方形周溝墓の周溝との重複がある部分では、概ね大形の方形周溝墓の周溝が小形方形周溝墓の周溝を破壊あるいは再掘削する場合が多い。小形方形周溝墓が大形方形周溝墓よりもやや古い時期に構築されたものとみられる。

以上の所見から、方形周溝墓は小形や中形のものがまず散在して構築され(第31図1)、それら

の間を埋める大形の方形周溝墓が構築されつつも、隣接した小形方形周溝墓などはその周溝の再掘削を繰り返す(第31図2・3)。最終的には大溝によって東西方向の周溝が再度掘削された後に(第31図4)、方形周溝墓周溝は埋没し、その機能を停止することとなるようである。

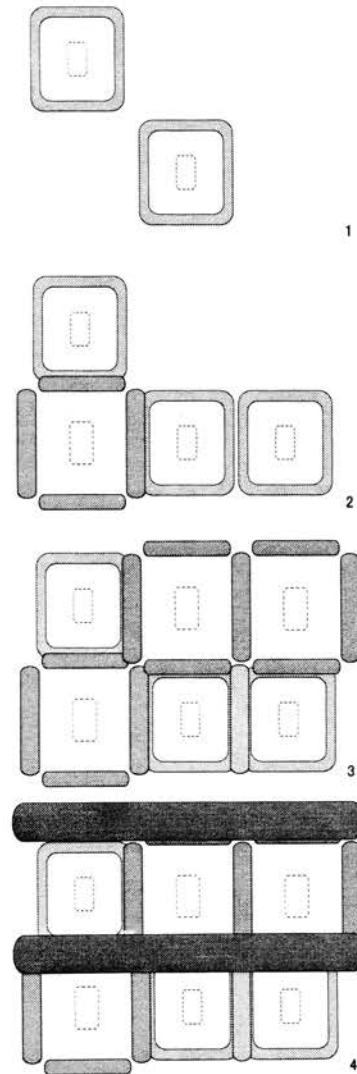
**方形周溝墓 S TC62**(図版第55・286-(3)) C調査区の北東隅で西側部分のみが検出された。北西辺周溝 S DC62北西溝、南西辺周溝 S DC62南西溝とするもので、後述する方形周溝墓 S TC65の東側、ほぼ同規模の方形周溝墓と考えられるが、溝内からの出土遺物はほとんどみられず、市田6期前後の薄い器壁をもつ甕細片や海洋魚の刻文のある高杯脚部(1116)などがわずかに出土したにすぎない。

**方形周溝墓 S TC65**(図版第55・286-(1)(2)(5)) C調査区北東で検出された。周溝 S DC65をもつ方形周溝墓である。竪穴式住居跡 S HC80の廃絶後に掘削されたもので、周溝間で12.2~12.7mを測る。一部周溝が途切れているが、検出時には方形墳丘部を全周していた。台状部で多くの土坑を検出しているが、主体部の一部であるかどうかは不明である。周溝の幅は0.6~1.1m、掘削深15cmで、埋土中には市田4期から5期の広口壺・甕・高杯などの土器片(1110~1112)が出土した。S DC65北溝からは凹線文のある壺口縁が出土しており、市田5期以降となるが、市田6期に属する S HC80よりは古い土器が出土していることになる。

**方形周溝墓 S TC94**(図版第11・57・289-(1)) C調査区中央東端、大溝 S DC90および大溝 S DC401に挟まれた位置にある。大半が調査区外に位置するため、詳細は不明であるが、一応大形の方形周溝墓と考える。北辺周溝 S DC90、西辺周溝 S DC94となる。S DC94からは石庖丁(467)が出土した。

**方形周溝墓 S TC95**(図版第11・57・289-(1)) 方形周溝墓 S TC94の西側に隣接した方形周溝墓と想定される区画である。東辺周溝 S DC94、北辺周溝 S DC96および S DC103・C116、西辺周溝 S DC95、南辺周溝 S DC401となる。S DC94が竪穴式住居跡 S HC135bを破壊する先後関係がある。S DC96からは、市田3期の無頸壺など(1113~1115)が出土した。S DC103からも市田3期に遡る広口壺など(1117~1120)のほか、砥石(743)・玉砥石(836)、S DC95からはスクレイパー(1371)が出土した。

**方形周溝墓 S TC96**(図版第11・57・287-(2)) C調査区中央やや南東で検出した方形周溝墓の一つである。東辺周溝 S DC95、北辺周溝 S DC96、西辺周溝 S DC118東溝、南辺周溝 S DC401



第31図 C調査区方形周溝墓  
築造状況模式図

となるもので、大溝 S DC90にその北辺周溝埋土が掘削される先後関係がある。S DC96からは市田 3 期の土器(1113~1115)が出土した。南北方向に掘削された周溝墓の東西辺の周溝を当初は周溝以外の溝と認識していたが、最終的に方形周溝墓群と判断した。S TC118・C96・C95・C94と周溝墓が 3 基以上東西に連なったものと考えられる。

**方形周溝墓 S TC99**(図版第 9・57・283-(1)・287-(1)~(7)) C 調査区中央東側、東西辺の周溝の溝心々間で 15m になる大形方形周溝墓である。東辺周溝 S DC109、北辺周溝 S DC99北溝、西辺周溝 S DC99西溝・S DC112、南辺周溝 S DC90となる。南辺周溝は大溝 S DC90によって破壊・再掘削されたものと考えてよからう。S DC99からは市田 5 期から 7 期の甕や広口壺など多くの土器群(1137~1197)が出土した。このほか、石剣(53・55・59)・磨製石鏃(114)・打製石鏃(231)・石斧(314)・石庖丁(483~487)・磨製石器未成品(638・639)・砥石(756・758)・スクレイパー類(1372・1373)などが出土した。S DC109からは無文の広口壺(1202・1207)が出土した。また、S DC112からは幅狭の簾状文をもつ鉢(1215)や近江形の受口口縁をもつ長頸壺(1216)などの土器群(1215~1225)が出土した。

**方形周溝墓 S TC103**(図版第 9・57・287-(8)) C 調査区中央東端、方形周溝墓 S TC99の東側に隣接した方形周溝墓である。東辺周溝は削平されたためか不明であるが、北辺周溝 S DC103および S DC144、西辺周溝 S DC109、南辺周溝 S DC90となる。S DC103は市田 3 期の土器(1117~1120)が出土した。S DC144からは市田 4 期を中心とする甕や高杯破片(1121・1122)のほか、石剣(58)・石斧(315)・砥石(741)が出土した。

**方形周溝墓 S TC107**(図版第 8・57・286-(7)(8)) C 調査区中央、方形周溝墓 S TC99の北側に隣接する方形周溝墓である。東辺周溝 S DC107、北辺周溝 S DC114、西辺周溝 S DC112および S DC331、南辺周溝 S DC99北溝となる。北半は S DC114によって再掘削され、大溝 S DC25によって破壊されている模様である。S DC107からは市田 5 期の広口壺(1134)以外、市田 3 期を中心とした土器(1123~1136)や砥石(740)などが出土した。また、S DC331からは甕や有段口縁壺(1212~1214)が出土した。

**方形周溝墓 S TC110**(図版第 11・57・283-(1)・287-(2)) C 調査区中央東側、方形周溝墓 S TC99の方形墳丘の一部南東隅を画する方形周溝墓である。北辺周溝 S DC101、西辺周溝 S DC110、南辺周溝 S DC90となる。南辺周溝は大溝 S DC90による再掘削である。S DC110からは広口壺など(1201・1203~1206)や碧玉玉材(248)が出土した。市田 4 期前後に属する。

**方形周溝墓 S TC118**(図版第 11・57) C 調査区中央南半、方形周溝墓 S TC96の西側に隣接する小形同規模の方形周溝墓である。東辺周溝 S DC118東溝、北辺周溝 S DC118北溝、西辺周溝 S DC118西溝・S DC488、南辺周溝 S DC401となる。東西に隣接するものと同様、大溝 S DC401によってその南辺周溝が再掘削される。S DC118からは土器片(1208~1211)がわずかに出土しただけであった。S DC488からは市田 3 期に遡る壺や鉢(1198~1200)や砥石(747)などが出土した。

**方形周溝墓 S TC134**(図版第 10・57・290-(8)) C 調査区中央西側、方形周溝墓 S TC99の西側に隣接した大形の方形周溝墓である。東辺周溝 S DC331・C112、北辺周溝 S DC134、西辺周溝

S DC513、南辺周溝は大溝 S DC90となる。S TC99と同様に南辺・北辺周溝が大溝 S DC25や大溝 S DC90によって破壊・再掘削される(図版第59、断面図13)。S DC134からは小形の甕(1230・1235~1239)を中心に多くの土器群(1226~1243)・石斧(316)が出土した。また、S DC513からも多くの市田3期以降の土器群(1249~1264)や砥石(745)が出土した。

**方形周溝墓 S TC170**(図版第8・286-(6)) C調査区中央北半、竪穴式住居跡 S HC138など竪穴式住居跡が重複する部分に掘削された方形周溝墓である。後世の削平のため、「く」字状に周溝が遺存するのみであった。東辺周溝 S DC170東溝、北辺周溝 S DC170北溝となる。

**方形周溝墓 S TC410**(図版第11・57・284・290-(1)~(3)) C調査区南東隅、当該調査区では最も大きいもので、溝幅4m、掘削深1.1mの溝によって画されており、墳丘台状部は12m以上を測る。北辺周溝 S DC401、西辺周溝 S DC434、南辺周溝 S DC410をもつ。北辺周溝は S DC434が大溝 S DC401によって再掘削される。周溝隅部は掘り残されてやや浅くなって、陸橋をなしている。

**方形周溝墓 S TC437**(図版第11・285-(2)・288-(3)~(6)) C調査区南東隅、周溝 S DC437北溝および西溝となる一辺10m前後となる方形周溝墓と考えられる。市田1期、山城Ⅱ様式の典型的な広口壺(1244)や土器片が出土した。

**方形周溝墓 S TC455**(図版第56・285・288-(1)~(3)) C調査区南東隅、方形周溝墓 S TC437の西側に位置する一辺6m前後の小形方形周溝墓である。方形墳丘部、南辺溝 S DC455南溝に近接する位置に埋葬施設と考える土坑 S KC463を検出した。長方形に近い平面形で、長軸はおよそ3.0m、最大幅1.7mを測る。検出面における遺存度は著しく悪く、掘削深は20cmに及ばなかった。市田3期の甕(704)が出土した。S DC455からは玉砥石(828)・石針(u. i. 453)が出土した。

**方形周溝墓 S TC456**(図版第56・57・283-(2)・289-(2)) C調査区南端、方形周溝墓 S TC410の西側、一辺5m前後の小形方形周溝墓である。西辺周溝の一部が、大形方形周溝墓 S TC469の東辺周溝 S DC426と重複しており、S DC456の上層埋土が掘削される先後関係がある(図版第59、断面図21)。方形墳丘に長軸3mを超える比較的大きな長方形墓壙 S T456主体部を検出した。また、東辺周溝 S DC456の溝底に楕円形の土坑状の窪みがみられた。埋葬施設の可能性がある。

**方形周溝墓 S TC457**(図版第56・288-(7)(8)・290-(5)) C調査区南西隅、一辺が5m前後の正方形に近い小形方形周溝墓である。東辺周溝 S DC457東溝、北辺周溝 S DC457北溝、西辺周溝 S DC457西溝、南辺周溝 S DC457・S DC467となる。方形周溝墓 S TC469の西辺周溝 S DC470の埋土を掘削し、方形周溝墓 S TC467の北辺周溝 S DC467にその埋土を掘削される先後関係がある。検出面での溝幅は狭く50cm前後、掘削深15cm程度と、遺存状況は悪く、砥石(744)などが出土したのみであった。方形墳丘部に埋葬施設を検出できなかった。

**方形周溝墓 S TC464**(図版第10・11) C調査区南端、方形周溝墓 S TC455の南西に重複するほぼ同規模の小形方形周溝墓である。東辺周溝 S DC464東溝、北辺周溝 S DC464北溝・S DC454、西辺周溝 S DC464西溝となる。南半が調査区外となる。S DC454からは磨製石器未成品(640)が

出土した。

方形周溝墓 S TC467(図版第10・290-(5)(6)) C調査区南西隅、方形周溝墓 S TC457の南側に隣接した大形の方形周溝墓である。北辺周溝 S DC467の北溝埋土は北接する方形周溝墓 S TC457の南辺周溝 S DC457を一部掘削する先後関係がある。

方形周溝墓 S TC469(図版第10・57・289-(3)~(5)) C調査区南西側、竪穴式住居跡 S HC451を破壊して掘削される大形方形周溝墓である。東辺周溝 S DC426、北辺周溝 S DC401、西辺周溝 S DC469・S DC470、南辺周溝 S DC454となる。北辺周溝は大溝 S DC401によって再掘削されるようである。南西隅部は掘り残され、陸橋状になっている。南辺周溝 S DC454は、当初の南辺周溝を再掘削した土坑状の溝で、その底面は船底形を呈しており、中央部が最も深く、最大で31cmの掘削深である。この溝は、S TC469の南辺溝のほかに方形周溝墓 S TC464・C479の北辺溝を再掘削する(図版第59、断面図22)。S DC426からは擦石(797)・碧玉玉材(252)、S DC469からは甕(1248)・敲石(801)、S DC470からも市田4期の広口壺など(1245・1246)や打製石鏃(227)・石斧(317)・石錐(1332)が出土した。

方形周溝墓 S TC473(図版第10・290-(4)) C調査区南端、方形周溝墓 S TC464の西側に隣接する小形の方形周溝墓である。北辺周溝近辺をわずかに検出したにすぎない。北辺周溝 S DC454・C479b、西辺周溝 S DC479bとなる。北辺周溝 S DC454は土坑状の溝で、S DC479bの埋土を掘削する先後関係がある(図版第59、断面図22)。

方形周溝墓 S TC486(図版第10・290-(7)) C調査区南西側、方形周溝墓 S TC488の西側に隣接する南北周溝の溝心々間で18m近くになるものと思われる大形の方形周溝墓である。東辺周溝 S DC469・C470、南辺周溝 S DC486となる。溝 S DC401によって中央を東西に破壊される。また、東辺周溝 S DC469(S DC470下層)は、南辺周溝 S DC486によってその埋土を掘削される先後関係がある(図版第59、断面図18)。このことから、当該遺構は方形周溝墓 S TC469よりも新しく構築されたものである可能性が高く、市田4期以降と考えることができる。方形墳丘の大半は調査区外となるため、その詳細は不明である。

方形周溝墓 S TC488(図版第10・57・289-(3)~(8)) C調査区のほぼ中央南西側で検出した大形方形周溝墓で、東辺周溝 S DC488、北辺周溝 S DC488・S DC90、西辺周溝 S DC470、南辺周溝 S DC401をもつが、S DC470およびS DC488は一部北端を大溝 S DC90に破壊される先後関係がある(図版第59、断面図13)。南辺溝は確認できなかった。S DC488からは市田3期前後に属する土器(1198~1200)が出土した。

### (3) D調査区(図版第12・60~63・291~296)

D調査区の方形周溝墓周溝から出土した土器はC調査区のそれよりも古い様相をもつものが多い。早い段階で調査区全域が墓域へと移行したものと考えることができる。方形周溝墓周溝出土土器については竪穴式住居跡出土のものとはほぼ同じ時期であるが、方形周溝墓が竪穴式住居跡の埋土を掘削する先後関係が多い。

D調査区では、狭いながらも接続した方形周溝墓14基を検出した。方形周溝墓の墳丘部に埋葬



施設5基、方形周溝墓周溝内では埋葬施設と考えられる土坑11基を検出した。溝内埋葬施設の多くは周溝の溝底に掘り込まれており、周溝が埋没していないか、あるいはわずかしか埋土土壌が堆積しないうちに掘削されたものと判断した。周溝からはほとんど土器が出土していないが、市田1期に遡る広口壺がみられるなど、周溝掘削の時期は最も古い時期に属するものとみられる。市田4期以降に下る土器がほとんどみられないことから、市田3期までには方形周溝墓としての機能も停止したものとみられる。

周溝土層断面を観察する限り、多くは1回から3回程度の再掘削がなされていた。例えば、方形周溝墓S TD44の南辺周溝S DD37とそれに南接するS TD42北辺周溝S DD42の2条の周溝が再掘削によって一つの周溝になっていたことが判明した(図版第63、断面図7)。また、方形周溝墓S TD17の南辺周溝S DD17および方形周溝墓S TD32の北辺周溝S DD32もS DD17の再掘削によって1条の周溝として共有化されることとなったようである(図版第61、断面図6)。

先述したように、A調査区における方形周溝墓S TA49の東辺周溝S DA49-2区とS TA58西辺周溝のS DA58の状況(図版第50、断面図3)と同じ再掘削行為といえる。隣接する2条の周溝が埋没し、1条の幅広の溝が再掘削されることによって、隣接した二つの方形周溝墓が一つの周溝を共有することとなる。周溝断面図における埋土の切り合い関係から、D調査区北側では、S TD42→S TD34→S TD33、S TD19→S TD33、南側では、S TD17→S TD32、S TD17→S TD56、S TD07→S TD01という築造順序が想定できる。

S TD17の北辺大溝S DD18や、S TD01およびS TD07の北辺溝S DD02は、C調査区でみた大溝S DC25やS DC401と同様の性格をもつものと思われるが、その掘削時期が市田3期前後と早い。その掘削も東西方向とC調査区の大溝とは異なる点もある。S DD18は竪穴式住居跡の南限に位置しており、居住域との境界を示している可能性もあろう。

D調査区の周溝最上層からは古墳時代初頭の土器片が出土したため、最終的にはC調査区大溝S DC25などと同様に古墳時代に完全に埋没したものと考えることができる。

**方形周溝墓S TD01**(図版第62・258-(1)・294-(1)) D調査区南端に位置する小形の方形周溝墓である。東辺周溝S DD07、北辺周溝S DD02、南辺周溝S DD01をもつ。各辺周溝ともに幾度かの再掘削が行われている。周溝S DD01は周溝S DD07の埋土を掘削する先後関係があることから、方形周溝墓S TD01は方形周溝墓S TD07に後出するものと考えられる。S DD02は試掘調査区で検出した東西溝で、方形周溝墓S TD07の西辺周溝S DD07の埋土を掘削する先後関係が断面観察から推測される。少なくともS TD07西辺周溝の溝底から25cm以上埋没した段階以降に掘削されたものである。また、このS DD02は方形周溝墓S TD01・D07の北辺溝の位置にあたり、これらの周溝を連結して再掘削されたものと判断される。さらに、この溝の東側延長線上の調査範囲外には、方形周溝墓S TD32・D30の南辺周溝が想定され、おそらくこれらの溝もS DD02によって再掘削されたものと想像できる。後述する大溝S DD18と同様の性格を窺うことができることから、S DD18と同じ時期、もしくは相前後して東西方向に大きく掘削された大溝であった可能性が高い。

方形周溝墓 S TD07(図版第62・258-(1)) D調査区南端に位置する小形の方形周溝墓である。北辺周溝 S DD02、西辺周溝・南辺周溝ともに S DD07西・南溝をもつ。各辺周溝ともに幾度かの再掘削が行われていたようである。方形周溝墓 S TD01の項で先述したように、方形周溝墓 S TD07周溝が埋没した後、方形周溝墓 S TD01周溝が掘削されたものと判断した。

方形周溝墓 S TD17(図版第60・61・291-(1)・293-(1)~(4)・293-(5)(6)・294-(2)・296-(1)・301-(1)~(4)) D調査区中央南側、東西に走る溝 S DD18に南接する方形周溝墓である。東辺周溝 S DD17東溝、北辺周溝 S DD18、西辺周溝 S DD17西溝、南辺周溝 S DD17南溝をもつ。南辺周溝 S DD17は方形周溝墓 S TD32の北辺周溝 S DD32によって再掘削される(図版第61、断面図5~7)。方形周溝墓 S TD32は S TD17よりも新しい築造と想定できる。さらにその再掘削された S DD32がある程度埋没した時点で、さらに再掘削した部分(図版第61、断面図5)が認められた。南北に接した両周溝を一つの幅広の溝に掘りなおす行為といえる。溝 S DD18も、元来の方形周溝墓 S TD17の北辺周溝や S TD19の南辺周溝の掘形を大きく破壊して再掘削された大溝と考える。S DD18からはわずかな土器片(1266~1268)しか出土しなかったが、先述したように、市田3期前後に南北に隣接した方形周溝墓の周溝部分を大きく再掘削して東西方向に開削されたものと思われる。この S DD18は方形周溝墓の隣接する二つの周溝を拡幅、再掘削したものとみられる。

S TD17の中心では埋葬施設 S KD55を検出した。また、S TD17の西辺周溝 S DD17西溝からは、埋葬施設 S KD59・D60・D61を検出した。S KD61は、S KD59や S KD60よりも上層から掘削される掘形をもつことから、S KD59→S KD60→S KD61という順序で掘削・埋葬が繰り返されたものとする(図版第61、断面図11・12)。さらに、S TD17東辺周溝、S DD17東溝(東2区)の溝内に、小児の埋葬施設と考えられる小土坑 S KD51を検出した。S DD17からは市田2期の甕(1271)のほかに、埋土最上層付近からV様式の手焙形土器(1270)が出土した。

方形周溝墓 S TD19(図版第12・293-(7)(8)) D調査区中央北東側、東西に走る溝 S DD18に北接する方形周溝墓である。東辺周溝 S DD19、北辺周溝 S DD33、西辺周溝 S DD35、南辺周溝 S DD18をもつ。方形周溝墓 S TD19の西辺周溝 S DD35が埋没してから、方形周溝墓 S TD33の南辺周溝 S DD33が掘削される部分(図版第63、断面図2)があることから、S TD33は S TD19に後出する可能性が高いといえる。S DD19からは市田1期の広口壺(1269)、S DD33からも市田2期の甕(1265)が出土した。また、S DD18-3区からは砥石(771)が出土した。

方形周溝墓 S TD20(図版第62・291-(1)・292-(1)・294-(2)~(5)・296-(2)(3)) D調査区南西隅、周溝四隅が浅くなる小形の方形周溝墓である。東辺周溝 S DD20東溝、北辺周溝 S DD20北溝、西辺周溝 S DD20西溝、南辺周溝 S DD20南溝をもつ。S DD20からは市田2期の広口壺(1274)が出土した。S TD20の埋葬施設として土坑 S KD43を検出した。また、S TD20西辺周溝、S DD20の溝内に土坑 S KD53を検出した。埋葬施設とすることができる。周溝の掘削は、市田2期から市田3期にかけての時期と考えることができる。

方形周溝墓 S TD24(図版第60・61・294-(6)(7)・296-(4)(5))

D調査区南東隅、「コ」字に配される溝S DD24からなる一辺が5mにも満たない小形の方形周溝墓である。東辺周溝S DD24-東1・2区、西辺周溝S DD24-1・2区、南辺周溝S DD24南区をもつ。北西部は意図的に掘り残した陸橋部をなしていたと考えられる。北辺溝は検出されておらず、北接する方形周溝墓S TD56と一連の方形周溝墓の可能性もある。南側は方形周溝墓S TD30の北辺周溝、S DD30北溝を再掘削して南辺周溝を作っており、S TD30に後出するといえる。周溝東南部隅の溝底では土坑S KD52を検出した。埋葬施設の可能性がある。周溝区画内から方形周溝墓S TD24の埋葬施設と判断される土坑S KD22(図版第60・61)を検出した。長軸2.6mを測る東西方向の墓墳である。検出面からの掘削深は20cmあまりを測る。

**方形周溝墓S TD25(図版第60・61・296-(6))** D調査区南東隅、S TD24東辺周溝S DD24と北側のS KD25で隠された区画で、方形周溝墓と想定される。方形周溝墓S TD24やS TD30に接続するものであることから規模はそれほど大きいものではないであろう。

**方形周溝墓S TD30(図版第60・61)** D調査区南東隅、わずかに検出された「コ」字状の小形の方形周溝墓である。東辺周溝S DD30東溝、北辺周溝S DD24南区、西辺周溝S DD30西溝をもつ。東西辺の周溝は調査範囲の制限もあってわずかししか検出できなかったため、その詳細は不明である。

**方形周溝墓S TD32(図版第60・61・292-(2))** D調査区中央南端、方形周溝墓S TD17に南接する周溝溝心々間10mの方形周溝墓である。東辺周溝S DD24-1・2区・S DD30西溝、北辺周溝S DD17南溝・S DD32、西辺周溝S DD32西溝で、南辺周溝はS DD02となるものと推定される。墳丘中央で検出したS KD54は中心の埋葬施設と考えることができる。その大半が南側の調査区外にのびており、詳細は不明である。方形周溝墓S TD17の項で先述したように、方形周溝墓S TD17の南辺周溝S DD17南溝がある程度埋没した段階で、S TD32の北辺周溝S DD32北溝が再掘削される先後関係があるので、S TD17よりもS TD32が後出すると判断できる(図版第61、断面図5～7)。この再掘削はS DD17の南溝の西部(南2区)からS DD17東溝(東2区)の南半部にまでおよんでいるので、S TD32の周溝掘削を契機にS TD17の周溝の再掘削が行われたものと想像できる。北辺周溝の東端から南に向けてのびる東辺周溝の一部が検出できなかったため、方形墳丘の東辺周溝は、S TD24・S TD30の西辺周溝、S DD24西溝およびS DD30西溝を掘削し直さないうで再利用したと推測される。

**方形周溝墓S TD33(図版第63・291-(2)・294-(8)・295-(1)～(3))** D調査区中央北端、方形周溝墓S TD44の東側に隣接する。周溝の溝心々間15mを超える大形の方形周溝墓である。東辺周溝S DD33東溝、西辺周溝S DD14(S DD34北東辺周溝)・S DD33西溝、南辺周溝S DD33南溝をもつ。周溝内墳丘上に埋葬施設は検出できなかったが、S TD33の西辺周溝S DD33西溝の溝内に埋葬施設S KD50を検出した。方形周溝墓S TD34の東北辺周溝S DD14(S DD34)と重複しており、S DD14(S DD34)埋土を一部破壊してS DD33が掘削された部分(図版第63、断面図3)があり、S TD34よりもS TD33の方が後出する可能性がある。S TD33南辺周溝S DD33は、南側に隣接する方形周溝墓S TD19北辺周溝となり、溝を共有している。方形周溝墓S TD19の西辺周溝

S DD35が埋没してから、方形周溝墓S TD33の南辺周溝S DD33が掘削される部分(図版第63、断面図2)があることから、S TD33はS TD19に後出する可能性が高いといえる。なお、S TD33東辺周溝は、竪穴式住居跡S HD46を破壊する先後関係もある。

**方形周溝墓S TD34**(図版第63・291-(2)・295-(4)~(7)・296-(8)) D調査区北半、方形周溝墓S TD33の南西に隣接して付設される小形の方形周溝墓である。北東辺周溝S DD14、北辺周溝S DD37東端、西辺周溝S DD34西溝・S DD42東溝、南辺周溝S DD10をもつ。周溝北東部、S DD14の南側で検出された埋葬施設S KD49がある。S TD33の南西辺周溝S DD33は、S KD49を破壊する先後関係があることから、S TD34にともなう溝内埋葬施設と考えて差し支えない。また、方形周溝墓S TD42の東辺周溝S DD42東溝とS TD34の西辺周溝S DD10西溝(1区)が重複するが、S DD42東溝がほぼ埋没した段階に、S DD34を掘削している(図版第63、断面図5)。さらにまた、S TD34西辺周溝・南辺周溝がほぼ埋まった段階に再度四周の溝の再掘削を行っていることが観察された。溝S DD37の埋土とはまったく異なっており、遺構検出時にはS DD37東溝にS DD10西溝が破壊される先後関係があることから、S TD34はS TD42の周溝掘削後に構築され、S DD37掘削によって一部破壊される先後関係があるものと考えられる。方形周溝墓S TD34北辺周溝S DD14の北西側に溝内埋葬と考えられる土坑S KD58を検出した。また、周溝南東隅にも土坑S KD38が付設される。これも埋葬施設の可能性がある。

**方形周溝墓S TD42**(図版第12・295-(4)(7)) D調査区北西、方形周溝墓S TD34の西側に隣接した周溝墓で、南・北辺周溝の溝心々間13mを超える大形の方形周溝墓である。東辺周溝S DD42東溝・S DD34西溝、西辺周溝S DD42西溝、北辺周溝S DD42北溝・S DD37をもつ。S DD42東辺・北辺周溝はS DD34およびS DD37によって再掘削される部分がある(図版第63、断面図5~7)。S DD42北溝からS DD42・S DD34が隣接する部分にかけて、S DD37が平面「T」字状に再掘削されており、S TD42とS TD34の周辺周溝が共有化され、溝が一つに連結されたものと考えられる。S DD42からは市田3期の甕(1272)、S DD37からは石斧(319)が出土した。南辺の周溝は再掘削され、S DD18が代用していたものと思われる。

**方形周溝墓S TD44**(図版第12・295-(8)) D調査区北西隅、方形周溝墓S TD33の西側に隣接する東・西辺周溝の、溝心々間13mを超える大形の方形周溝墓である。東辺周溝S DD33西溝、北辺周溝S DD28、南辺周溝S DD37、西辺周溝S DD44をもつ。土層による切り合い関係は確認できなかったが、ほかの周溝墓の溝を利用していることから、それらの周溝墓に後出することは明らかである。西辺周溝S DD44溝内で埋葬施設S KD47を検出した。北辺周溝のS DD28の下層では溝中埋葬の墓壙と判断されるS KD48を検出した。このS DD28は東側に隣接するS TD33の北辺周溝の位置にあり、S DD18やS DD02と同じく再掘削された溝の可能性がある。

**方形周溝墓S TD56**(図版第60・61・296-(7)) D調査区南東、方形周溝墓S TD17の東側に隣接する周溝隅が陸橋化した方形周溝墓である。北辺周溝S DD56、西辺周溝S DD17東溝をもつ。南辺周溝が認められないので、南側のS TD24と一連の周溝墓である可能性がある。周溝内からは、S DD17からのびる溝S DD57およびそれに重複する土坑S KD45を検出した。溝S DD57はS

TD17の東辺周溝S DD17の東側に「し」字状に掘削された小さな溝で、S DD17東溝の埋土、S KD45の西北部埋土を掘削する先後関係がある。S KD45は、方形周溝墓S TD56の埋葬施設と判断される土坑である。

(野島 永)

## 5. 大溝・溝

### (1) B調査区(図版第27・301-(6)~(8))

溝S DB333(図版第27・301-(6)~(8)) B調査区中央東辺で検出した幅1~1.8m前後の溝である。焼土坑S KB911を破壊する先後関係がある。調査区内では「L」字もしくは弧状にめぐっているが、両端ともに調査区外にのびており、全体の形状は不明である。溝掘形はほぼ直に掘削されている。埋土土壤には炭・焼土の小片が多く混じり、出土土器(1526~1543)からは市田4期から5期前後に埋没したものと考えられる。石庖丁(502)や碧玉玉材(250)が出土した。

### (2) C調査区(図版第57~59・283・297~300)

C調査区には、大溝S DC25・C90・C93・C114・C401がある。これらの溝群より北側で竪穴式住居跡が分布し、南側では方形周溝墓が主として分布することから、集落の周囲をめぐる環濠と推測することも可能である。ただ、先述したように、これらの溝は中期後葉のやや早い段階、市田5期を前後するもので、大形方形周溝墓の南北どちらかの周溝を再掘削するように東西方向に掘削される。単なる集落防御のための環濠と考えるよりも、方形周溝墓の集合体を視覚的に再認識させる機能をもっていたものと判断できよう。

大溝S DC25(図版第57・58・283-(1)・297・299-(1)(4)・300-(2)~(8)) C調査区中央北側、S DC114と東北側で重複する大溝である。最上層の第1層(図版第58、断面図11)には古墳時代初頭の土器群(1613~1658)が包含されていた。下層は市田5期から6期前後の土器のみが出土した。大溝S DC114の一部を掘削・破壊する先後関係がある(図版第58、断面図3)。このため、おそらくは市田5期以降に掘削されたものとみられる。土器(1275~1388)や石剣(46~51)・打製石鏃(229・230)・石斧(320~327・329・331・333・334)・石庖丁(472~481)・磨製石器未成品(641~645・648)・砥石(755・757)・玉砥石(837)・スクレイパー(1366)などが出土した。

大溝S DC90(図版第57・59) C調査区の中央、大溝S DC25の南側で検出した大溝である。土器(1389~1424)や石剣(52・56)・石斧(332・335~338)・石庖丁(493)・磨製石器未成品(647)・砥石(759~762)・敲石(800)・玉砥石(829・830)などが出土した。方形周溝墓S TC488の北辺周溝S DC488や方形周溝墓S TC134の南辺周溝S DC134を破壊する先後関係がある。S DC134は市田5期の土器を含んでいることから、S DC90は市田5期以降の掘削を想定することができる。

大溝S DC93(図版第57・58・299-(1)(3)(4)) 大溝S DC25の北側で検出した溝で、調査区中央の竪穴式住居跡群のすべてを破壊して掘削された先後関係がある。幅0.8~1.3m、検出面からの掘削深約1mを測る。S DC25やS DC90と比べて規模はやや小さいが、掘形断面「V」字状をなしている。土器(1429~1448)や石剣(57)・石庖丁(501)・磨製石器未成品(649)・砥石(765)が

出土した。市田5期以降に掘削されたものとみられる。

大溝S DC114(図版第57・58・299-(1)~(4)) C調査区中央北側、大溝S DC25と一部北東側で重複する大溝である。S DD114が幅2m以上、検出面からの掘削深1.2m前後を測る。大溝S DC25の掘削によって破壊される先後関係がある。出土遺物から市田4期あるいはそれ以降に掘削された可能性が高い。C調査区西部では、S DC25とほぼ重複している。埋土からは、土器(1449~1513)や石剣(54・60)・磨製石鏃(115)・打製石鏃(232~234)・石斧(328・330)・石庖丁(494~500)・磨製石器未成品(646)・砥石(763・766)・スクレイパー類(1374~1376)が出土した。

大溝S DC401(図版第57・59・298(1)・299(5)~(8)・300(1)) C調査区南端を東西に横断する幅4~5m、深さ1.25m前後の最も大規模な溝である。掘形断面はやや緩慢な「V」字状を呈しており、検出面からの掘削深1.2mを測る。土層は大きく上下2層に分かれるが、遺物はわずかに整理用コンテナ・バットに1~2箱程が出土しただけである。方形周溝墓S TC410・C469の北辺周溝とS TC118・C488などの南辺周溝を再掘削する。これらの方形周溝墓はいずれも市田4期前後に構築されたものとみられることから、S DC401も市田4期以降、おそらくは市田5期前後に掘削されたものとみられる。埋土からは、土器(1514~1525)や石斧(318)・石庖丁(488~490)・砥石(767・769・770)・石鏃(1377)などが出土した。

### (3) D調査区(298-(2)・301-(1)~(4))

先述してきたように、S DD02およびS DD18が方形周溝墓周溝の埋没後、その周溝を破壊して東西方向に大きく再掘削される掘形断面「V」字状に近い大溝である。あるいはS DD28などもその可能性がある。D調査区の方形周溝墓S TD02および方形周溝墓S TD17・S TD42の項を参照されたい。

## 第2節 古墳時代の検出遺構

### 1. 墳 墓(図版第55)

方墳周濠S DC67(図版第55・302) C調査区北西で検出した古墳時代後期の方墳周濠である。一辺38~40mの規模をもつ。墳丘盛土や埋葬施設などはまったく確認できなかった。周濠は検出面での幅約1.7~約3mを測り、須恵器高杯(1670)がほぼ完形で出土した。埴輪片(1667)も周濠底からやや浮いた状態で出土した。

(野島 永)

### 2. 井 戸(図版第48)

井戸S EC108(図版第48・277-(1)~(4)) 大溝S DC25およびS DC114と重複した井戸である。大溝S DC114・C25を破壊して穿たれる先後関係がある。井戸掘形は2段に掘削されており、上段はS DC25との切り合い関係を平面的に確認できなかったが、遺構検出面では、一辺3.4mの方形に復原できる。2段目の掘形は、平面が2.2×2.6mの長方形を呈している。井戸側底までは、検出面より掘削深1.8m前後を測る。井戸側は、復原径1.4m前後の丸木舟<sup>(注19)</sup>を縦に四分分割し、その

うちの2個の側縁部を合わせて構成されている<sup>(注20)</sup>。井戸側内部からは、布留式土器(1659～1661)が出土した。

(岩松 保・高野陽子・野島 永)

### 3. 溝(図版第57)

C調査区の古墳時代に属する遺構には、古墳周濠および溝がある。弥生時代中期後葉の大溝S DC25は、弥生時代には完全に埋没し切らず、埋土の最上層(図版第58、断面図11、第1層)には布留式土器片(1613～1640)が包含されていた。

(野島 永)

## 第3節 平安時代以降の検出遺構

### 1. 井戸(図版第49)

井戸S EB500(図版第49・308-(1)～(4)) B調査区南西に位置し、一辺2.4～2.7mの方形の掘形を有し、掘削深1.8mを測る。掘形は2段に掘られており、下段は1.4～1.5mの方形である。東西方向の素掘り溝S DB39によってその埋土が掘削される先後関係がある。井戸側は縦板組横棧留めで、内部には曲物が2段に組み立てられていた。埋土中より平安時代末葉頃の瓦器碗(1718～1722)が出土した。

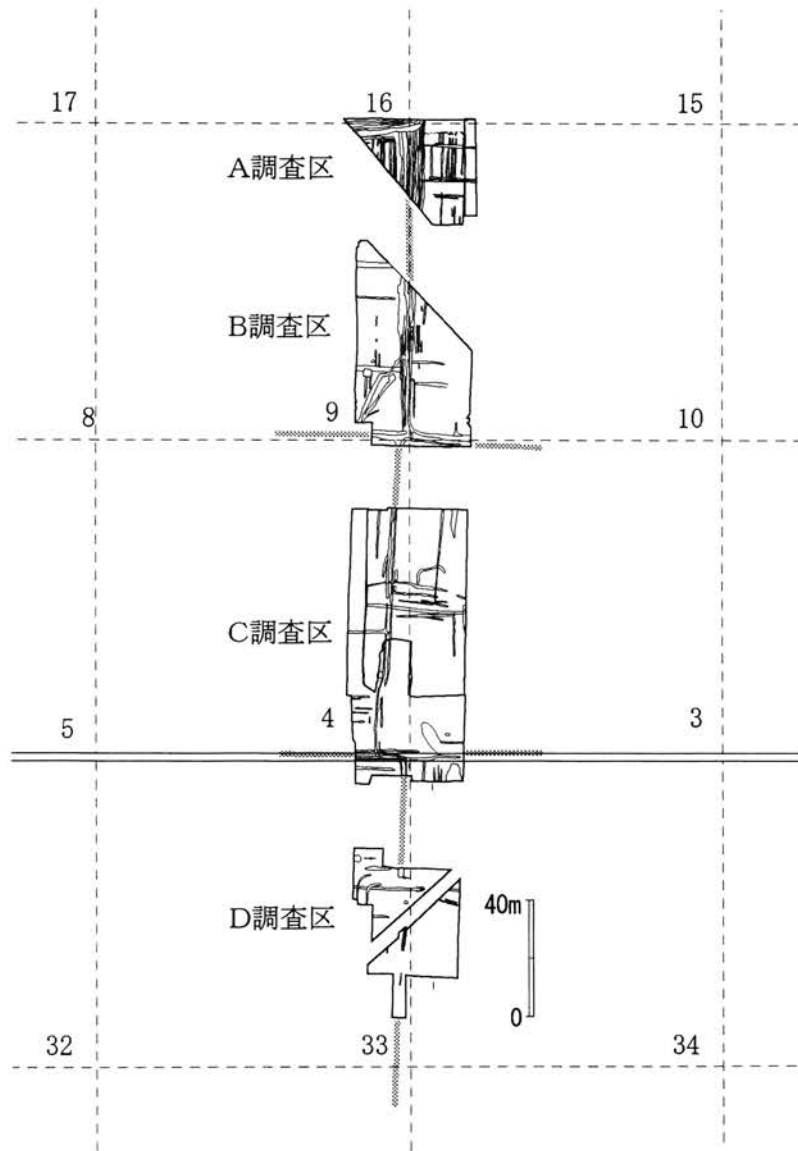
井戸S EC459(図版第49・277-(7)(8)) C調査区南西に位置し、長軸3.3m、短軸2.5m前後の不整形の掘形をもつ井戸である。検出面からの掘削深1.2mを超える。平面形および掘形から幾度かの再掘削が想定された。井戸の埋没による井戸側木材の抜き取りが行われたものとみられる。上層(第1・2層)は再掘削の際の埋土と考えられる。

### 2. 条里型地割に規制された素掘り溝群(図版第13～16・241～243・303～307)

久世郡条里の条については数詞、里は固有名詞で呼ばれていたようであるが、里についてはその固有名詞を同定できないため、数詞で仮称しておきたい。久世郡条里の南限を『和名抄』による綴喜郡との郡境とし、そこを起点とする。調査区域は条里制呼称で八条九里三十三・三十四坪および十里三・四・九・十坪に位置する<sup>(注21)</sup>。近年の高橋美久二氏の久世郡条里の復原案によると、市田斎当坊遺跡調査区域は七条九里三十三・三十四坪および十里三・四・九・十坪に位置することとなる。三十三坪と三十四坪、三坪と四坪、九坪と十坪の坪境が調査地を東西に分けており、北側で十六・十五坪に接する(第32図)。以下に里境道・坪境道側溝と、各坪内遺構にわけてその概要を説明したい。

なお、八(七)条十里十坪の南北間はおよそ108～109m、その南の三坪の南北間およそ106mとなる<sup>(注23)</sup>。

溝S DA51・A52(図版第13・305-(1)(2)(5)(6)(8)) A調査区北端で検出した八(七)条十里九



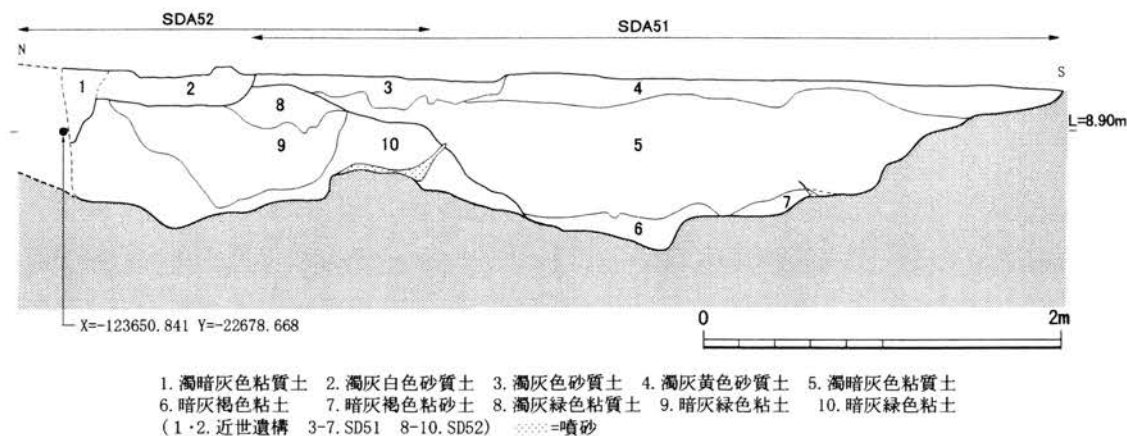
第32図 市田齊当坊遺跡における古代・中世遺構  
と条里型地割による坪並

坪と十六坪を画する東西方向の坪境溝である。S DA51は検出面で、幅3.0～3.6m、同様に底面で幅70cm前後をさらに掘り込む2段の掘形をもつ。溝底心はやや蛇行しながら九坪と十坪の坪境付近で北側に屈折して掘削される。下層では、瓦器椀・青磁などの破片や土師器皿(1683・1684・1708・1709)とともに室町時代の五輪塔の一部、空風輪(1466)が出土した。S DA52は、検出面における幅が約1.5m、椀状に掘り込まれており、底面近くでさらにもう一度幅60cm前後掘り込む2段の掘形をもつ。東で北側に2°程振れており、S DA51同様、九坪と十坪の坪境付近で北側に屈折して掘削される。S DA52の埋没後、南

側にS DA51が掘削されたものとみられる(第33図)。ともに八(七)条十里十六坪の南東隅を区画するように掘削されており、十六坪は、周囲の耕地とは別に環溝をめぐらす居館(孤立荘宅)あるいは、孤立村落が存在していた可能性が指摘できようか。

溝S DA81～A89(図版第13・305-(3)(7)) A調査区中央で検出した八(七)条十里九坪と十坪を画する南北方向の坪境溝群である。B調査区よりも上位で精査したため、より多くの遺構を検出した。東西の掘削範囲は、幅約8.3mにわたって繰り返し掘削されたもので、横断面椀形あるいは逆台形状に深い掘形となる。溝底面には暗灰褐色粘質土が堆積しており、上層に行くにしたがって黄灰褐色に変化する。北端は溝S DA51によって破壊されたようである。少なくともこれらの南北素掘り溝がS DA51埋土を掘削することはなかった。南側では、わずかに蛇行しつつB調査区の溝S DB04～B07・B60・B61などに接続するようである。幅35～100cm、検出面からの掘削深25～35cm程度であった。X=-123,660.0で、S DA81はY=-22,670.4、S DA89はY=-





第33図 A調査区 中世大溝 S DA51・S DA52土層断面図

22,662.6となる。この南北溝群は、十坪の溝 S DA03や溝 S DA20によってその埋土が掘削される先後関係がある。S DA88からは土師器皿(1688)が出土した。

溝 S DB42・B49(図版第14・303-(1)・306-(1)~(5)) B調査区南端西側で検出した。八(七)条十里四坪と九坪を画する東西方向の坪境道の南北両側溝である。S DB49は、幅40~90cm、掘削深20cmに満たない浅い椀形の溝である。ほぼ真東西方向であるが、S DB42は、幅50cm、掘削深20cm内外の素掘り溝である。東で南側に5~6°前後振れる。Y=-22,680.0のとき、X=-123,758.8である。

溝 S DB18(S DB111)(東西方向溝)・B45~B47(図版第14・303・306-(1)~(5)) B調査区南端東側で検出した。八(七)条十里三坪と十坪を画する東西方向の坪境道の南北両側溝である。S DB46は、幅60cm、掘削深20cm前後の素掘り溝で、東で南側に5~6°振れる。S DB42の東側延長線上に位置し、S DB18(S DB111)と対の坪境道の南北両側溝となる可能性が高い。Y=-22,660.0のとき、X=-123,760.9となる。S DB18(S DB111)は、十坪の南西隅を画する素掘り溝である。幅50~60cm、掘削深20cmたらずとなる。須恵器(1669・1673)・土師器皿(1686・1691)・瓦器椀(1715)・羽釜(1732・1733)などが出土した。三坪を画する東西方向は、S DB45にほぼ並走して、東で南側に5~6°振れるが、十坪を画する南北方向は、ほぼ真南北に沿っている。X=-123,740.0のとき、Y=-22,667.6となる。

溝 S DB57・B58(図版第14・303-(1)・306-(1)~(5)) B調査区中央南半で検出した。八(七)条十里九坪と十坪を画する南北方向の坪境道の西側溝群である。ともに幅30cm内外で、掘削深15cmの素掘り溝である。やや蛇行しているが、九坪の東を画する。溝 S DB18(S DB111)と対になって坪境道両側溝となる。S DB57は、X=-123,740.0のとき、Y=-22,670.0となる。

溝 S DB04・B05・B54~B56・B60・B61ほか(図版第14・303-(1)・306-(6)~(8)・309-(2))

B調査区中央北半で検出した。S DB57・B58同様、八(七)条十里九坪と十坪を画する南北方向の坪境道の西側溝群である。S DB57・B58の北側延長線上に位置する。S DB57・B58の埋没後に掘削されているようで、その掘形、幅も不揃いである。S DB05からは土師器皿(1682・1690)・瓦器椀(1710~1712)が出土した。S DB60からも土師器皿(1681)や瓦器椀(1716)が出土した。や

や崩れたS DB54には瓦器碗(1717)などのほかに、皿(1696)や山茶碗(1699)、白磁碗(1701)など新しい時期の遺物が含まれていた。

溝S DB53・B111(S DB18)(図版第14・303-(1)・366-(6)) B調査区中央南半で検出した。八(七)条十里九坪と十坪を画する南北方向の坪境道の東側溝群である。幅60cm、掘削深20cmたらずとなる。ほぼ、真南北方向に沿っており、 $X = -123,740.0$ のとき、 $Y = -22,667.6$ となる。

溝S DB07(図版第14・303-(1)・366-(6)) B調査区中央北半で検出した。S DB111同様、八(七)条十里九坪と十坪を画する南北方向の坪境道東側溝群である。S DB111の東側に位置する。幅50cm、掘削深20cmたらずであった。北端で $X = -123,710.6$ のとき、 $Y = -22,666.0$ となる。青磁碗破片(1697)や瓦器碗(1713・1714)が出土した。

溝S DC418・C419・C424・C425(図版第15・304・307-(7)(8)・310-(1)~(4)) C調査区南西で検出した。八(七)条十里九里三十三坪と十里四坪を画する幅60~70cm、掘削深20cm前後の東西方向の坪境道両側溝群である。 $Y = -22,680.0$ のとき、S DC418は $X = -123,865.4$ 、S DC419は $X = -123,867.5$ 、S DC424は $X = -123,868.4$ 、S DC425は $X = -123,871.5$ となる。

溝S DC403(図版第15・304) C調査区南東で検出した。八(七)条九里三十四坪と十里三坪を画する東西方向の坪境道の南側溝である。幅60cm、掘削深15cm前後、 $Y = -22,659.0$ 付近で「S」字に蛇行する。ほぼ真東西に沿っており、 $Y = -22,652.0$ のとき、 $X = -123,867.3$ となる。三十四坪と十里三坪を画する坪境溝の北側溝は、おそらく溝S DC402になると思われるが、九里三十三坪と十里四坪を隔てる坪境道北側溝よりも2m以上北側に位置する。遺存状況が悪く、出土遺物もみられなかった。

溝S DC05・C06(図版第15・304-(1)・307-(1)~(6)・309-(5)) C調査区の中央で検出した。八(七)条十里三坪と四坪を画する南北方向に走る坪境道の東西両側溝である。C調査区南端では、S DC05は $X = -123,872.0$ のとき、 $Y = -22,669.0$ 、S DC06は $X = -123,872.0$ のとき、 $Y = -22,670.4$ となる。九里三十三坪と十里四坪の坪境付近では、S DC418・C419・C424に並走するように西方向に屈曲したのちに、再度北に向かって屈曲する。C調査区北側では、北で東側に5~6°振れつつ、十里三・四・九・十坪の交差点に向けて掘削される。B調査区の北半部の坪境道と違って、側溝の再掘削はほとんど認められない。B調査区で検出した南北坪境道とは交差点で約3m前後の食い違いが認められる。S DC05からは京都産の緑釉陶器(1695)が出土したが、瓦器碗細片もわずかに含むことから、13世紀代以降となる可能性もある。これらの側溝および路面に相当するトレンチ北壁や東壁には、時期が下るごとに上位に作り替えられており、現地表に残る坪境道が作られるまでの過程が、土層の観察により確認できる。

溝S DC15・C16(図版第16・309-(3)) とともにC調査区の中央付近で検出した。八(七)条十里三坪および四坪のおよそ南北1/2の位置に東西方向に掘削された素掘り溝である。S DC15からは、灰釉陶器皿(1694)が出土した。平安時代前期の遺構といえよう。S DC16からは瓦器碗(1725)・羽釜(1736)などが出土した。

溝 S DD11・D65・D67・D90(図版第16・310-(6)~(8)) D調査区中央北半で検出した。八(七)条十里三十三・三十四坪の南北1/2の地点、やや北側に走る東西方向の素掘り溝である。三十三坪の東側坪境を越え、三十四坪にいたる。S DD65は、S DD67と同一の溝と考えられる。幅90cm、掘削深15cm前後、東で南側に2°あまり振れる。S DD90は幅約60cm、掘削深10cmを測る。S DD65とS DD90の2条の素掘り溝は平行し、それぞれ心々間で9.6mを測る。溝S DD90はS DD65とともに坪内道の南北両側溝となる可能性がある。S DD65は、九里と十里を画する里境道南側溝と考えられるS DC419・C424から43.8mあまり離れている。S DD90の検出部分では、両端で、 $X=-123,921.2$ ・ $Y=-22,680.0$ 、 $X=-123,921.7$ ・ $Y=-22,675.0$ に位置しており、S DC419・C424から53.6m前後、ほぼ南北1/2坪に位置する。いずれの埋土からも遺物は出土しなかったため、明確な時期は不明であるが、三十三坪の坪内道が北側に偏って割き取られていたようである。

溝 S DD03・D04・D73(図版第16) D調査区中央南半で検出した。八(七)条九里三十三坪と三十四坪の南北方向の坪境道両側溝となる。北で東側に6°程振れる。S DD03の北側検出地点で $X=-123,926.0$ ・ $Y=-22,669.5$ を測る。S DD73は、S DD04の西側4.8mに位置していた。S DD03およびS DD04は平行するため、S DD73と対になる道路側溝であった可能性も認められよう。

### 3. 坪内遺構(図版第13~16・309・310)

仮称久世郡条里八(七)条九里三十三坪(図版第16・310-(5)(7)) D調査区西側部分およびC調査区南西の一部にあたる。対になって屈曲する素掘り溝S DD63・D64を検出したが図化しうる遺物は出土しなかった。また、三十三坪の南北1/2の地点ではS DD90を検出した。同じく図化しうる遺物は出土していない。

仮称久世郡条里八(七)条九里三十四坪(図版第16・310-(6)) D調査区東側部分およびC調査区南東の一部にあたる。三十四坪の南北1/2地点、北側で溝S DD68・D69を検出した。図化しうる遺物は出土していない。

仮称久世郡条里八(七)条十里三坪(図版第15・309-(3)(4)) C調査区東側大部分にあたる。九里と十里の里境はC調査区南端東側部分にあたり、三坪の南北1/2地点の付近で土坑や東西方向の素掘り溝を検出した。先述したように溝S DC15は、平安時代前期の遺構といえ、当該調査区でも平安時代前期に遡る条里型地割の痕跡を確認することができた。

仮称久世郡条里八(七)条十里四坪(図版第15・309-(6)) C調査区西側大部分にあたる。九里と十里の里境は、C調査区南端西側部分にあたり、四坪内では、東西方向の素掘り溝数条と井戸S EC459(図版第51・277-(7)(8))を検出した。

仮称久世郡条里八(七)条十里九坪(図版第13・14・309-(1)) AおよびB調査区のほぼ西側半分にあたる。九坪の南辺は、B調査区南端にあたる。

A調査区では、素掘り溝群(溝S DA09・A26~A30・A36~A39・A61)を検出した。やや大きな東西方向の素掘り溝を北側の起点として南北方向に小さな素掘り溝が並ぶ。耕作にともなう暗渠溝

群と考えられる。

仮称久世郡条里八(七)条十里十坪(図版第13・14・305-(4)・308-(8)) AおよびB調査区のほぼ東側半分にあたる。B調査区では、十坪の南西隅、溝S DB19の東端部分から鏡箱に納められた草花双鳥鏡(第48図)が出土した。不運にも重機による遺構面検出の際に発見されたため詳細が不明である。当初、長方形の土坑状の痕跡が想定されたが、掘形を検出することはできなかった。精査によってS DB19を検出した。草花双鳥鏡自体は11世紀に属するものであるが、ほかに時期を示す共伴遺物はみられなかった。

A調査区の溝S DA02・A03は、いずれも東西方向の素掘り溝である。S DA02からは白磁破片(1698)が出土した。15世紀後半を前後する時期に属する暗渠排水のための遺構群であろう。S DA03よりも古い南北素掘り溝が溝S DA31・A34・A38などで、S DA02に取り付く。溝S DA86～A89は、S DA03によってその埋土が掘削される先後関係がある。

(野島 永)

## 第4章 出土遺物

### 第1節 弥生時代の遺物(図版第64～231)

#### 1. 弥生土器(図版第64～137・311～341)

弥生時代の土器は中期に限られており、前期に遡る土器は検出されなかった。中期でも森岡編年<sup>(注24)</sup>山城Ⅱ-1様式から山城Ⅳ-3様式にわたるが、山城Ⅱ-1様式はA調査区土坑S KA11出土のヘラ描き沈線の広口壺形土器(264)(以下、慣例上、通称が一般化されている器形に関しては「形土器」を省略する。)などわずかに限られる。山城Ⅱ-2様式に該当するものはほとんどなく、山城Ⅱ-3～山城Ⅲ-1様式に遺構が急増する。山城Ⅳ-3様式まで存続するが、後期の土器はほとんどみられない。わずかに手焙形土器(141・1270)などがみられるのみである。図化した資料は1612点にのぼり、弥生時代中期の山城弥生土器様式を考えるうえで重要な資料になると考える。以下では出土した弥生土器の器形分類を行ったうえで出土遺物の概要を述べる。出土した土器は破片資料が多く全体の器形を復原できる資料は少なかった。そこで分類にあたっては口縁部から頸部にかけての形態を基準に甕・壺・高杯・鉢を以下のように分類した。

#### (1)土器分類

##### A. 甕の分類

甕は口頸部の形態から以下、A～Dの4つに分類する。なお以下の分類に該当しないものは単に甕とする(第34図)。

##### a. 甕A

口縁部に明瞭な肥厚は認められず、頸部がなだらかに屈曲するもの。外面は縦方向のハケ調整を施し、口縁部内面は横方向のハケ調整、胴部内面は縦方向のナデ調整をするものが大半である。いわゆる大和形・摂津形甕を含む。中期前半の代表的な甕である。口縁端面の施文方法からa～dの4つに大別する。

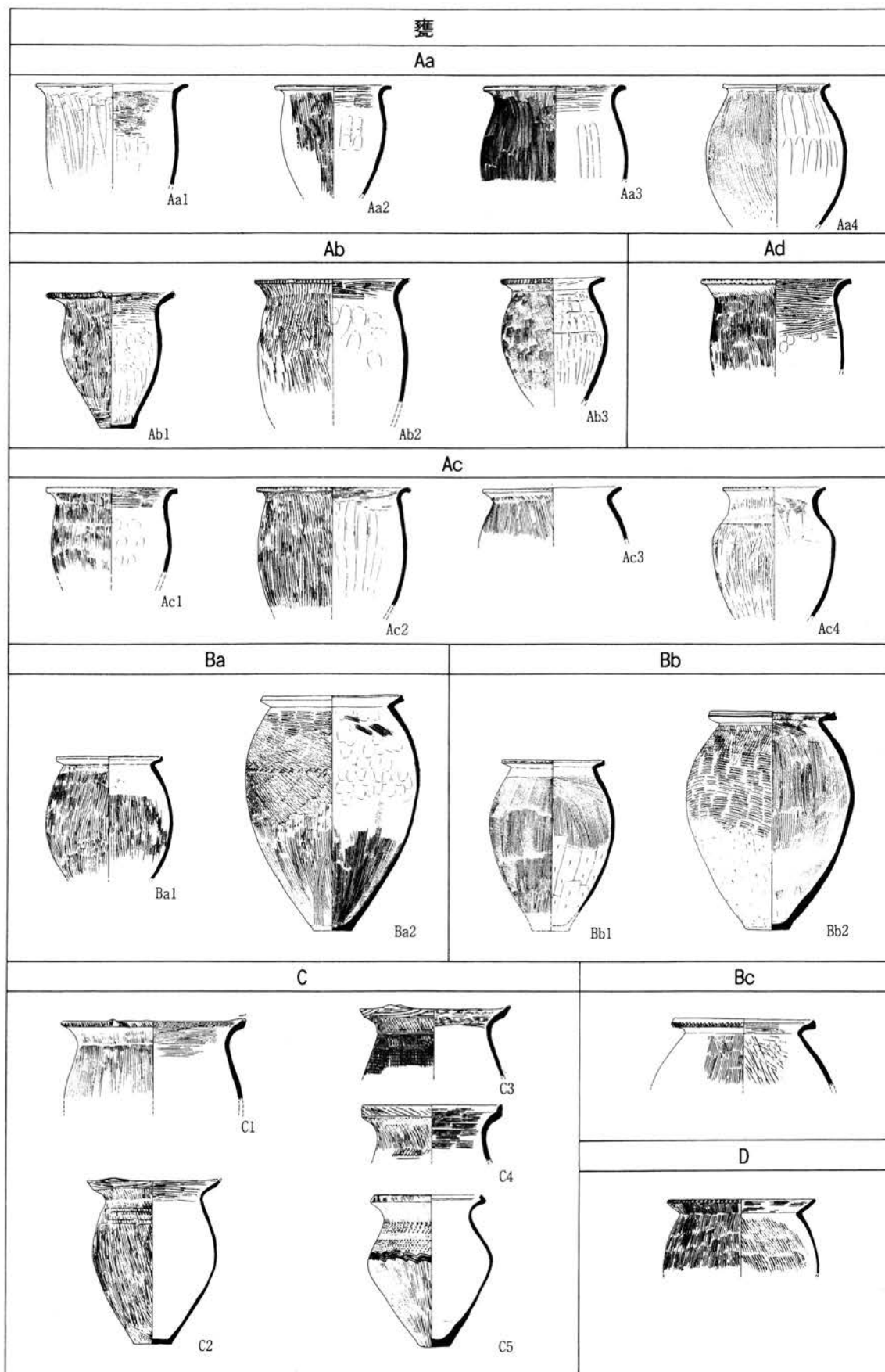
甕Aa：口縁端面に装飾を施さず、ナデ調整をして仕上げるもの。

甕Ab：口縁端面の中位に刻みを施すもの。

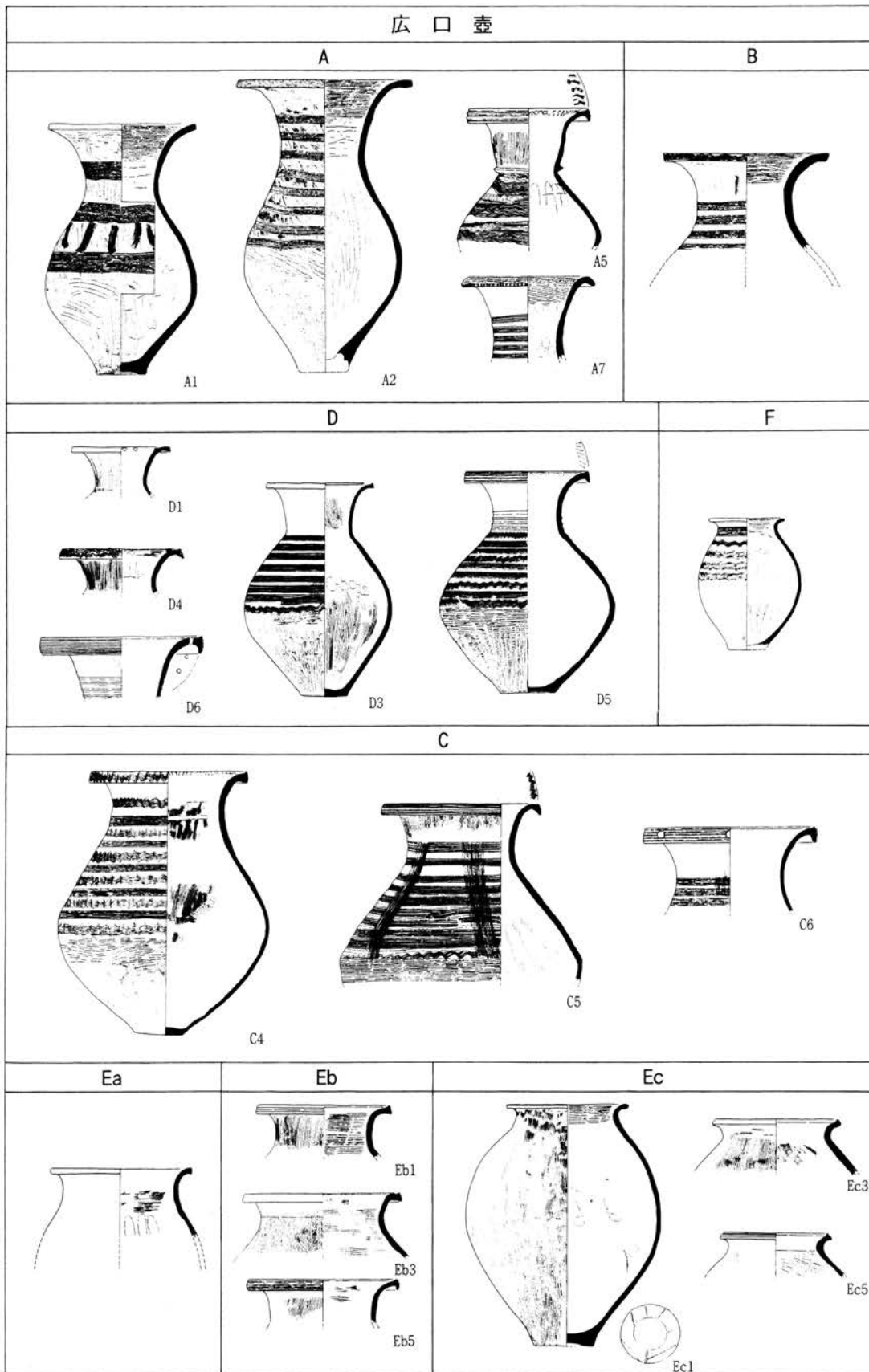
甕Ac：口縁部の上端に刻みを施すもの。

甕Ad：口縁部の上下端に刻みを施すものと下端にのみ刻みを施すものをひとまとめにする。

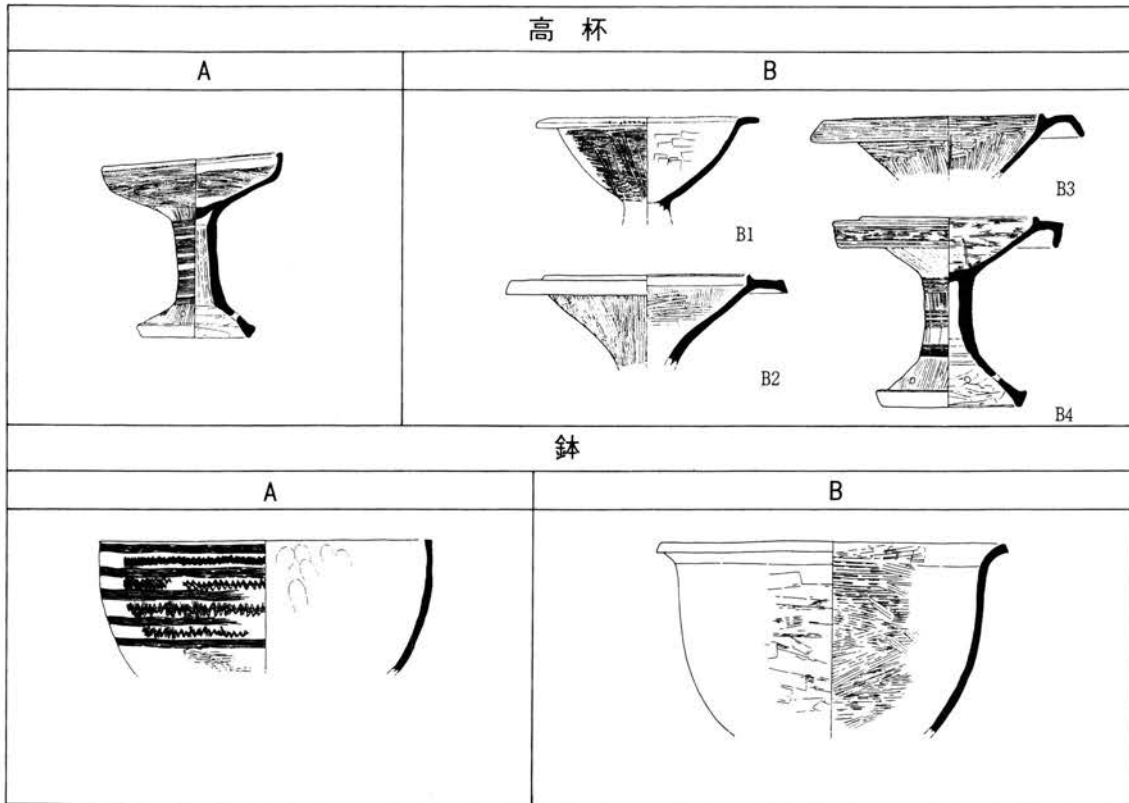
さらに胴径と口径の関係から1～4の4つに細分する。1は胴部が張らず最大径が口縁部にあるもの。口径/胴部最大径比0.8～0.9程度を目安とする。2は口径が胴部最大径に匹敵するもの。口径/胴部最大径比0.9～1.0程度を目安とする。3は胴部最大径が口径を凌駕するもの。口径/胴部最大径比1.0～1.1程度を目安とする。4は口径をはるかに凌駕するもの。口径/胴部最大径比1.2以上を目安とする。



第34図 弥生土器形式分類(1)



第35図 弥生土器形式分類(2)



第36図 弥生土器形式分類(3)

b. 甕B

口縁部が肥厚するか跳ね上がり、頸部が稜をもって屈曲するもの。口縁端面は無文でナデ仕上げするものと凹線文を施すものがある。いわゆる瀬戸内系甕に相当する。口縁端部における施文方法からa～cの3つに大別する。

甕Ba：口縁端面に文様を施さずナデ調整して仕上げるもの。あるいは沈線を施すもの。

甕Bb：口縁端面に凹線文を施すもの。

甕Bc：口縁端面に刻みを施すもの。

さらに甕Ba・甕Bbは胴部上外面の調整方法から1・2の2つに細別する。1は胴部上半外面にハケ調整を施すもの。2は胴部上半外面にタタキの痕跡を残すもの。

c. 甕C

なだらかな頸部をもち口縁部が外上方から上方へ開くものあるいは屈曲するもの。口縁部形態から1～5の5つに細分する(第51図、口縁部形態の項目参照)。

甕C1：口縁部を外上方に肥厚するが、内面は屈曲しないもの。

甕C2：口縁部が外上方に緩やかに開き、内面をやや屈曲させるもの(口縁部形態7)。

甕C3：口縁部が外上方へ屈曲して立ち上がるもの(口縁部形態8)。

甕C4：口縁部が上方に垂直に屈曲して立ち上がるもの(口縁部形態9)。

甕C5：口縁部が上方に屈曲して立ち上がり内傾するもの(口縁部形態10)。

d. 甕D



口縁部に明瞭な肥厚は認められず、頸部が鋭く屈曲し口縁部から胴部まで均質な器壁を有するもの。口縁端部に中位刻みをする、胴部内面に斜め方向のハケ調整をするものが多い。

## B. 広口壺の分類

広口壺は口頸部の形態から6つに大別する。さらに以下の口縁部の要素から7つに細分する(第35図、口縁部形態については第52図参照)。

要素1：口縁部に明確な拡張が認められず(口縁部形態1～3)、口縁端部を無文で仕上げるもの。

要素2：口縁部に明確な拡張が認められず(口縁部形態1～3)、口縁端部に波状文を施すもの。

要素3：口縁部を上あるいは上下に拡張し(口縁部形態4・5)、口縁端部を無文で仕上げるもの。

要素4：口縁部を上あるいは上下に拡張し(口縁部形態4・5)、口縁端部に波状文を施すもの。

要素5：口縁部を上あるいは上下に拡張し(口縁部形態4・5)、口縁端部に凹線文を施すもの。

要素6：口縁部が下方に垂下し(口縁部形態6)、口縁端部に凹線文を施すもの。

要素7：口縁部を下方に拡張し(口縁部形態7・8)、口縁端部に刻みを施すもの。

### a. 広口壺A

やや太めの頸部をもち口縁部が長く漏斗状に広がるもの。口頸間高(以下、各部位の名称については第52図参照)が頸部径に匹敵するか頸部径より長いもの。広口壺Aには要素1・2・7が組み合う。これを広口壺A1・広口壺A2・広口壺A7とする(以下同様に器形と要素の関係の高いもののみを取り上げ器形の末尾に要素番号を付加する)。

### b. 広口壺B

太い頸部をもち口縁部が長く漏斗状に広がるもの。器壁が厚く重量感のあるものが多い。数量が少ないためここではひとまとめにする。

### c. 広口壺C

太い頸部をもち口縁部が短く広がるもの。頸部径に対し口頸間高が半分以下のものを目安とする。広口壺C4・広口壺C5が大半である。

### d. 広口壺D

頸部がしまり口頸部が長く漏斗状にひろがるもの。頸部径に対し口頸間高が半分以上から3/4以下のものを目安とする。広口壺D1・広口壺D3～広口壺D6がある。

### e. 広口壺E

太頸でほとんど頸部を持たずに口縁部が広がるもの。頸部の屈曲の度合いから3つに細分する。

Ea：ゆるやかに屈曲するもの。

Eb：明瞭な段をもって屈曲するもの。

Ec：鋭く屈曲しほとんど頸部をもたずに口縁部がひろがるもの。

広口壺Eaはほとんど要素1のみであり、広口壺Eb・広口壺Ecは要素1・4・5が比較的多い。

### f. 広口壺F

頸部がしまり短い口頸部をもつもの。口径10cm前後の小形のものが多い。

## C. 高杯の分類

口縁部の形態から2つに分ける(第36図)。

高杯A：皿状の口縁をもつ。

高杯B：水平に延びる口縁をもつ。水平口縁の垂下部位の形態から4つに分類する。

B1：口縁部が水平に延び、単純な面を有するもの。

B2：口縁部が水平に延び、やや外方に垂下する。

B3：口縁部が水平に延び、垂直に垂下する。垂下部位は垂直線より外側にある。

B4：口縁部が水平に延び、垂直に垂下する。垂下部位は垂直線より内側にある。

#### D. 鉢の分類

口縁部の形態より2つに分ける(第36図)。

鉢A：直口する口縁を有するもの。

鉢B：外反する口縁を有するもの。

(松野元宏・堀田直志)

#### (2)出土土器の概要(図版第64～137)

個々の土器の詳細については観察表に記載したので省略する。以下では特徴的な事項についてのみ記すことにしたい。

##### A. 竪穴式住居跡出土の土器(図版第64～74・311～314)

竪穴式住居跡から出土した土器は細片が多く、良好な一括資料といえるものは少ない。総図化点数246点のうち残存率1/6以上のものでは計115点を計測した。内訳は甕51点・壺41点・高杯6点・鉢3点などであった。この割合は、中期の土器様式の基本的な構成を示している。近江系の土器も多数出土しており甕では甕全体の2割近く確認できた。

竪穴式住居跡S HA74では床面から数点の土器が出土した。甕Aa3(1)・広口壺A7(3)・広口壺Ea1(4)が出土する。2は目の細かい工具を使用したハケ調整で技法・胎土ともにほかとは異なる。搬入品と考えられる。5は寸高な形の撰津形水差である。S HA74では土坑S KA77などと接合するものもある。

竪穴式住居跡S HB690からはミニチュア形土器が出土した(82)。2対並べて内面突起をつけており、広口壺を模倣したのと考えられる。甕Aa2(81)と甕C1(79)が住居跡内土坑S KB846から共伴した。83の鉢Aは土坑S KB403の破片と接合した。

竪穴式住居跡S HB772からは河内形水差(127)が出土した。褐色を呈するが角閃石は確認できなかった。

竪穴式住居跡S HB1008からは台形土器が出土した(131)。器壁が厚く重量感がある。やや古い様相を呈している。

竪穴式住居跡S HC68からは近江系の土器が比較的多く出土した。甕には甕C2(146)・甕Bb2(148)がある。146・149は断面が黒色を呈しており、近江地域からの搬入品と考えられる。150は先の鋭い工具で鋸歯文・斜格子文を施文している。近江地域からの搬入品である。完形の高杯A(151)が出土している。

堅穴式住居跡 S HC92では完形の土器が多数出土した。甕は小形の甕Bが2点出土している。ほかに水差(152・153)と高杯B4(159)が共伴している。

堅穴式住居跡 S HC80は甕Ba・甕C4(182)・広口壺Cが共伴する。171は胴部に凹線文を施している稀な施文手法を採っている。182は断面黒褐色を呈しており近江地域からの搬入品と考えられる。

堅穴式住居跡 S HC132からは甕C3(198)やミニチュア形土器(205)が出土している。206は脚裾部にヘラ状工具で鋸歯文を施している。

堅穴式住居跡 S HC451出土の217は土坑 S KB1167の破片と接合した。

堅穴式住居跡 S HC479からは比較的大形の土器が出土した。225は甕C2である。近江地域からの搬入品。226は条線の細かい櫛描文を浅く格子状に施文する。227は白色を呈し摂津地域からの搬入品と考えられる。

堅穴式住居跡 S HD23からは多くの甕がまとまって出土した。甕Ab・甕Adが共伴する。口縁部に1対から2対の押圧文を入れ、右端を強く押し付けるようにして肩ハケをする手法のものが多く認められる(238・240・241)。

#### B. 土坑出土の土器(図版第75～96・314～324)

土坑からは遺存状態のよい破片が多数出土した。残存率1/6以上のものは273点確認できた。内訳は甕168点・壺88点・高杯4点・鉢10点などであり、甕が壺の倍近く出土している。中形の甕Aaや壺Aが多く、甕Aa・甕Abを合わせると甕全体の7割近くを占め、中期前半の資料が大半を占めると想定できる。近江系の甕(甕C)は32点で甕全体の2割程度であり住居跡と同様の割合を示す。

土坑 S KA77・78・79からは定形的な甕Aa・甕Abが多く出土している。各土坑間で接合する破片があり時期的に近接した資料といえる。325は堅穴式住居跡 S HA74の破片と接合した。

土坑 S KA115は完形に近い甕Aa・甕Abが出土している。甕Aa4(331)は不均整でハケ調整が粗い。甕Ab3(332)は頸部が強くなっていて口縁部内面もナデ調整している。ともに甕Aの規範からは大きく逸脱している。

土坑 S KA116からは不定形な土器が数点出土した。348は胴部上半に粗めの櫛描直線文を施文している。不均整で器壁が厚く重量感がある。

土坑 S KB165からは近江系の土器が多数出土した(356～359・364)。甕C1から甕C5のものがあがるが甕C2のものが多い。

土坑 S KB289出土の378は甕Ab3。近江地域からの搬入品である。

土坑 S KB297からは遺存状態のよい甕Aaが多数出土した。凹線文を施した有段口縁壺(390)と共伴する。

土坑 S KB403からは甕Aa(416・418・419・422)と甕C1(417)が出土した。広口壺Ea1(408)と共伴する。

土坑 S KB776からは近江地域からの搬入と考えられる甕Cが数点出土した(491～493・495・496)。凹線文を施文する広口壺A5(488)を伴っている。

土坑S KB899からは甕Aa2・甕Aa3(536・537・539・544・545・547・551)が多数出土している。広口壺Ea1(549・550)と共伴している。

土坑S KB905からは完形に近い甕Aa2(532)と高杯B1(530)が共伴している。

土坑S KB1169から出土した壺(611)は粗めのハケ工具で調整している。近江地域からの搬入品である。

土坑S KB1179からは粗めのハケ調整を施した甕Aa4(607・608)が出土している。ともに土坑S KB822出土の破片と接合する。

土坑S KC131からは大形の甕Ab(652)が出土している。ハケ状工具で直線文と波状文を交互に入れていた。外面が白色で断面が黒色を呈している近江地域の土器である。中形の甕Abが2点(653・654)共伴している。いずれも口縁部に押圧文を1対から2対入れている。

土坑S KC115からは甕Aa2が数点出土している(642～645)。

土坑S KC165から出土した甕Bb1(685)は頸部に突帯を貼り付けて刻みを入れている。686は高杯脚部、生駒西麓産である。

土坑S KC296からは甕Aa(690～692)と広口壺A(689・693)・広口壺Ea1(694)が共伴した。689は頸部に突帯を貼り付けている。

土坑S KC162からは有段口縁壺が出土した(695)。頸部に突帯を貼り付けず、刻みのみの施文になっており新しい様相を呈している。周溝S DC99の土器片と接合した。

土坑S KC335からは甕Aa3(718・719)と広口壺Eb7(717)が共伴する。

土坑S KC461からは甕Aa(705・708)が出土した。705は器壁が薄く胴部の張りが強い。

土坑S KC478aからは比較的遺存状態のよい土器数点が出土した。712は甕C5。口縁が強く内面に屈曲し頸部がしまる。近江地域の搬入品である。

土坑S KC518からは大形の鉢Bが出土した(729)。甕Aa1(726・727)と共伴する。727は外面を板ナデ調整している。

#### C. 井戸出土の土器(図版第97～101・324～326)

井戸では残存率1/6以上のもので甕32点・壺19点・鉢1点で高杯は脚部のみ出土となる。個々にみると甕は甕Aaが大半で、30点程ある。壺は広口壺Aが多く、明らかに近江系の甕といえるものは少なかった。

井戸S EC453からは比較的まとまった土器が出土した。層ごとに提示したが各層間でも接合する資料が多く時期差は大きくない(図版第44)。上層は中形の甕Ab1(731・732)や広口短頸壺(738・739)のほか、大形の広口壺A7(741)が出土しているが破片資料が多く器形を推測できるものは少ない。734は近江地域からの搬入品である。中層からは多くの土器が出土した。中形の甕Aa(762～772)が多く遺存状態の良好なものが多い。壺は大形のもものが比較的よく残っている。754は大溝S DC401出土土器片と接合した。底部に横方向や斜め方向のミガキをするものが認められる(781・783)。下層からも中形の甕が出土している。甕Aa3(797)・甕Ab2(795)がある。井戸側木枠内からは破片資料が数点出土した。甕Ac1(805)は断面が黒色を呈しており近江

地域からの搬入品と考えられる。そのほかに出土地点不明のもので生駒西麓産の土器(815)などがある。

井戸S EC111からは山城Ⅳ-1様式の土器が多数出土した。837は甕Aa3、836・843は甕Acである。いずれも頸部までケズリをするなど伝統的な甕Aの手法からは逸脱した製作方法である。

井戸S ED31からは井戸側木枠内で数点の土器が出土した。844は頸部が明瞭でない広口壺Bで口頸部の器壁が厚く重量感がある。山城Ⅱ-3様式である。底部では斜め方向にミガキをするもの(847)と縦方向にミガキをするものがある(848)。

#### D. 方形周溝墓出土の土器(図版第102~123・326~337)

方形周溝墓からは完形に復原できる土器が多く出土した。残存率1/6以上のものでは甕99点・壺111点・高杯8点で鉢は3点のみの出土となる。近江系の甕(甕C)は、27点と3割近く出土した。

周溝S DA14から出土した広口壺F(855)は胴部下半に最大径をもち、細かい櫛描文を垂下して入れる。近江地域に多い形態である。

周溝S DA58からは数点の完形の土器が出土した。895は広口壺D3、その文様構成は大和地域に多い。898は甕Aa2。形態が不均整で頸部以下の器壁が厚く重量感がある。899は近江地域からの搬入品。

周溝S DA59からは器形の復原できる壺が数点出土した。広口壺C4(917)は胴部が直線文のみの構成である。広口壺D4(918)は胴部が球体に近く頸部は無文で胴部に一帯の直線文と以下数帯の波状文を施している。この器形と文様構成の組合せでは類例がない。922は白色を呈し、粗めの砂粒を含む。搬入品と考えられる。

周溝S DA62上層からは頸部の屈曲の不明瞭な広口壺B(931)や横方向にミガキをする底部が認められる(933・946)。941は白色を呈し粗めのハケ調整をする。近江地域からの搬入品と考えられる。943は周溝S DA62最下層から出土した。頸部以上が欠損しており型式は不明であるが胴部下半に最大径をもつ特徴的な器形をしている。斜め方向にミガキをしており第Ⅱ様式の様相を呈している。

周溝S DA68-5区はいわゆる大量廃棄と推測できる出土状況である。時期幅は大きく山城Ⅲ-1様式から山城Ⅳ-3様式の土器を含む。1029・1030は甕C5。色調は白色を呈し、断面黒色を呈する近江地域の搬入品である。1035は撰津形水差。無文で胎土が粗く乳褐色を呈している。広口壺には口縁部に扇形文(1042)や綾杉文(1043)をするもののほか、頸部に突帯を貼り付けるもの(1045)など撰津地域の影響が認められる。1060は生駒西麓産。

周溝S DA73-7区からは、完形の広口壺A1(1085)が出土した。反時計回りで数箇所切り合いを有する櫛描直線文を施した後、縦位の櫛描文を付加する。山城Ⅱ-3様式の所産と考えられる。

S TA97出土の1086は有段口縁壺(1087)を棺蓋とする土器棺である。タタキのあと胴部上半に列点文を施す典型的な瀬戸内系甕である。しかしながら胴部下半はケズリのあとハケ調整をしている点で異なる。1087は胴部上半に絵画を有しているが、欠損のため内容は不明である。

周溝 S DC62からは魚を模したと考えられる絵画土器(1116)が出土した(次項、絵画土器・土製品の項参照)。周溝 S DC103からは広口壺A1(1119・1120)、甕C1(1118)が出土した。甕C1は搬入品である。

周溝 S DC107からは甕C(1128～1132)などの近江系の甕が多数出土した。1124は生駒西麓産、1136は撰津形水差である。ほかに1126・1127など近江系の壺がある。

周溝 S DC99からは大量廃棄と考えられる状況で土器が出土した。甕Bが多く甕Cも多数出土している。甕Cは甕C2～甕C5のもの(1172～1177)がある。1137は甕Ac4。胴部の張りが強く甕Acの最終末の形態と考えることができる。1147は甕Bb2。胴部外面はハケ調整の後からタタキをしている。中期末でも新しい様相と考えられる。壺は広口壺C(1158～1160・1167～1169)が多い。口縁部に波状文をする高杯と凹線文をするものと同程度ある。広口壺Eb3(1181)は大溝 S DC25の土器と接合した。高杯はB3と高杯B4がある。高杯B3(1186)は垂下部に4対の円形浮文を貼り付けている。ほかに台形土器(1183)や多孔鉢(1184)が出土している。

周溝 S DC109からは完形に復原できる広口壺Ec1(1207)が出土した。

周溝 S DC110出土の1203は甕C2。断面黒褐色を呈しており近江地域からの搬入品である。

周溝 S DC112bからは大形の有段口縁壺(1216)などが出土した。断面黒褐色を呈しており近江地域からの搬入品である。1215は簾状文を施している鉢Bである。

周溝 S DC134からは比較的まとまった量の土器が出土した。1228は小形の壺で有段口縁部に凹線文を施している。伊勢湾沿岸から近江地域に多い。甕は甕Baが顕著である。1234は甕C2で搬入品である。

周溝 S DC513からは時期の比較的まとまった土器が出土した。壺は広口壺A(1255)・広口壺D3(1253)のほか、大形の有段口縁壺がある(1264)。甕Dは胴部が張らない形態をしている(1258)。甕C2が数点出土しているがいずれも搬入品の可能性がある(1249・1251)。ほかに高杯B2が出土している(1261)。

周溝 S DD17出土の1270の手焙り形土器は無文で覆部は鉢部を大きく覆っている。

周溝 S DD19からは無文の広口壺A1が出土している(1269)。頸部と胴部の境に稜をもたない古い形態のものである。

周溝 S DD20出土の広口壺A1(1274)は頸部無文で胴部に1帯の直線文と以下数帯の波状文を施している。

#### E. 大溝(環濠)出土の土器(図版第124～133・337～340)

大溝からは大量の土器が出土したが大半は破片資料であり、全体の器形を推測できる個体は少ない。大溝では残存率1/6以上のもので甕52点・壺16点になる。近江系の甕(甕C)は甕全体の3割と比較的多く出土した。中期後半に位置づけられる資料が多い。

大溝 S DC25は3層に分かれているが、それぞれ山城Ⅲ-1様式から山城Ⅳ-3様式の土器が出土しており層位を時期差として捉えることは困難である。甕C(1275～1277・1307・1333・1364～1366)が多数出土しており近江地域の影響が顕著に認められる一方、数列の円形浮文を施す器

形(1324・1368～1370)が多数認められるなど摂津地域以西からの影響も随所に認められる点に特徴的な様相がある。1280は口縁が内湾ぎみに立ち上がり貼り付け突帯下部に2列の刺突文を施している。池上遺跡など丹波地域に多い形態である。1289は小形の有段口縁壺。近江地域からの搬入品である。1363は甕Bb2。ハケ調整の後にタタキをしている。胴部下半にケズリをするがミガキは確認できなかった。

大溝S DC90からは完形に近い土器が多数出土した。甕C(1413～1418)が多く認められる。1418はその形態から甕C5に分類できるが、口縁に波状文を施し、胴部に斜格子文をするなど近江地域にない文様構成を採っている。色調も淡黄褐色と近江地域のものとは異なる。

大溝S DC93からは完形に復原できる土器が数点出土した。1438は甕Aa4。頸部が強く屈曲しており甕Bとの関係がうかがえる。胴部下半にケズリをしている。1439は甕Bb2。典型的な瀬戸内系甕であるが胴部下半にミガキは認められなかった。短頸壺(1441)や高杯A(1448)など中期末の特徴をもつ土器も出土している。

大溝S DC114からは、広口壺C4(1452～1455)や広口壺Eb(1450・1451・1461・1462)が出土している。1456・1457は大形の有段口縁壺である。頸部の突帯にやや古い様相が認められる。1464は簾状文を施しており河内形の土器に近いが、白色を呈しており河内形の土器とは異なる。ほかに多孔鉢(1494)や台形土器(1483)、ミニチュア形土器(1495・1496)など多様な形態のものが出土している。

#### F. 包含層出土の土器(図版第135～137・340・341)

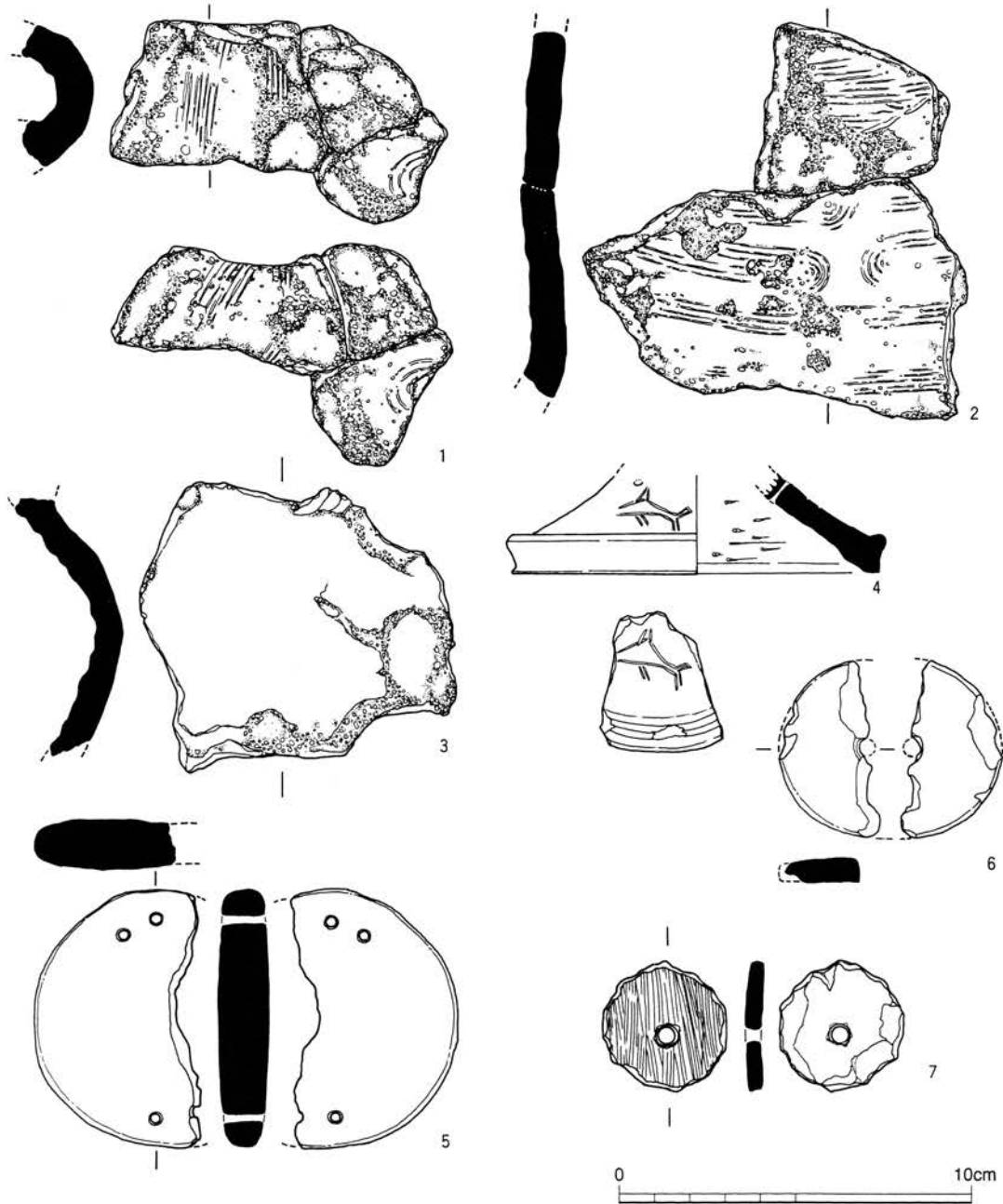
包含層からも多数の土器が出土した。比較的遺存状態のよいものや稀少例を取り上げる。1556・1557・1558・1561は近江地域の搬入品である。1577は壺頸部片。櫛描文と貼付突帯の文様構成である。1580は近江系の広口壺、搬入品である。中期後半に位置づけられる。1586の壺は胴部下半に最大径をもち胴部中位に櫛描直線文を数帯密に施している。近江地域に多い形態である。1593の甕は胴部上半に突帯を貼り付けている。そのほかに凹線文を多条に施す直口壺(1590)や鉢A(1592)などがある。1612は器種不明破片。内面に強いナデが認められる。

(松野元宏)

#### G. 絵画土器・土製品ほか(第37図、図版第363)

1～3は、C調査区土坑S KC520から出土した壺胴部上半部と想定される破片である。いずれも接合はしないが、同一個体と考えられる。器壁は0.8～1cm、被熱のために著しく変形しており、灰色に変色し、表面は発泡した痕跡が認められる。1はとくに被熱による変形が著しく、部位の特定さえできない。1と2にはわずかに流水文を施していることがわかる。1帯の櫛描き直線文上に扇形文を施すもので、市田2期あるいはそれを若干下る時期のものともみてよい。なお、土坑S KC520からは市田2期の近江形甕(722)が出土している。

4は、高杯脚部(1116)である。C調査区方形周溝墓S TC62の北辺周溝S DC62北溝から出土したもので、海洋魚と考えられる刻文が施される。刻文は三角形の体部に背鰭・胸鰭・尾鰭がつく。背鰭は体部を刻んだ後に背鰭の取り付く部位をわずかに消してから、再度、細長く鋭角に交わる



第37図 土製品・絵画土器ほか

2条の刻線で表現する。また、胸鰭と尾鰭も平行する2条の刻線で表現されるが、尾鰭は「V」字状になる。幅0.8mm前後の刻線は、鉄製刀子などの鋭利な刃物の先端を利用したものではなく、木製ヘラの先端のようなやや丸みのある先端を利用したものと思われる。市田5期あるいはそれを下る頃の資料である。

5はB調査区S HB149から出土した円盤状土製品(壺蓋)である。復原直径7.2cmを測る。2孔一对、直径3mm程度の円孔が側縁部2か所に穿たれている。断面は中央が1.2cmとやや厚い餅状になる。1mm前後の石英・長石を多く含み、灰色を呈し、黒斑をもつ。

6・7は紡錘車である。6はC調査区包含層から出土した。破片で復原直径4.9cm、厚さ0.55cm、中央の円孔0.85cmを測る。淡褐色を呈する。7はA調査区方形周溝墓S TA68東辺周溝



S DA68-1区から出土した。やや湾曲しており、甕胴部下半の破片を利用したものとなる。片面に荒いハケが施されている。器壁は4mm程度で淡褐色を呈する。敲打によって周縁が成形され、中央には直径0.55cmの円孔が穿たれる。

(野島 永)

## 2. 石器

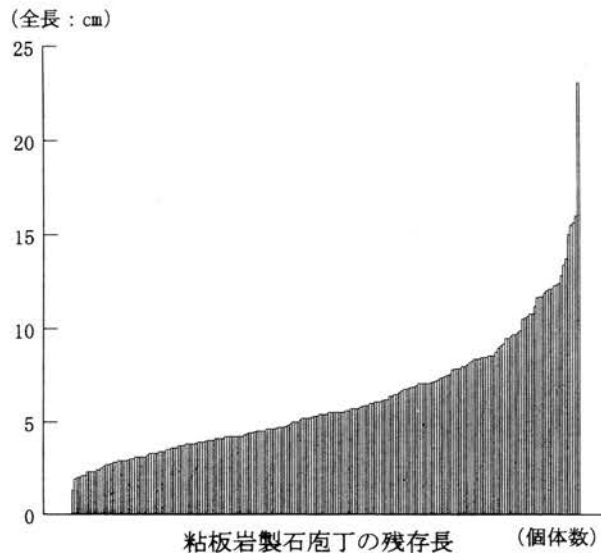
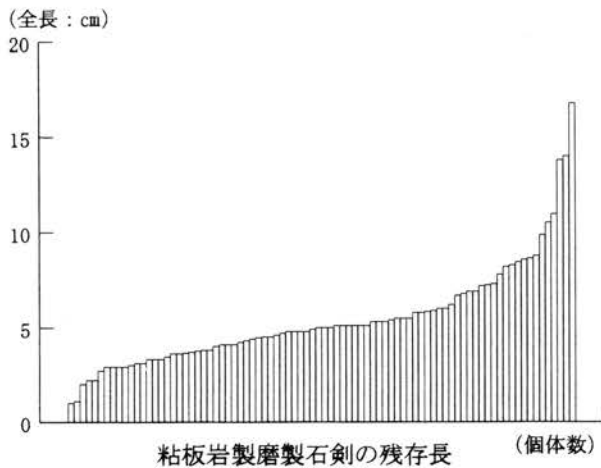
### (1) 石 剣(図版第142~146・343・344)

101点を図化した。粘板岩85点、サヌカイト14点、そのほか2点の内訳となる。包含層から出土したため、帰属時期が不明なものも多い。周溝墓の主体部墓壙に副葬されていたものはなかった。粘板岩製石剣のうち3・10・12・16・40・44・58・80は銅剣形石剣である。製作途中の未成品・遺棄品<sup>(注25)</sup>(1・2・22・43・92・97・101)も存在するが、多くが一部再加工されていたり、破片となったものである。鋒の破片14点(13・15・27・32・38・39・52・53・66~68・81~83)、剣身の破片50点(2~12・16・17・19・23・24・26・28~30・33・35・36・41・44~47・50・51・58~62・64・69・70・72・73・76・84・85・87~92・100)、基部あるいは茎部の破片26点(14・18・25・31・37・40・42・48・49・54~57・63・71・74・75・77~80・95~99)がある。完形に近い状態で出土したものは20や21・34・65・86などわずかであった。また、刃間に双孔を穿つもの(44・79・80・86・99)や茎尻に1孔穿つもの(48・75・78)がある。21・54・78・80は、基部あるいは茎部となるが、基部端面や茎尻端面が剣身と直交せず、斜交する角度をもつことから、石戈の可能性もあろうか。

石剣として再利用するために再加工を施すもの(21・37・86)は少ない。むしろ、石剣としては再生できないほどに小さな破片を再加工するものが多い。破片の側縁を敲打し、剥離を施すもの(6・8・19・25・28~30・35・40・41・45・49・51・53・55・62・64・71・77・82・85・89・91・99)がある。表裏を故意に半截分割して厚さを減じさせたもの(6・8・9・11・12・17・24・28・30・35・45・50・51・62・64・67・72・73・77)も目立つ。サヌカイト素材でも打製石剣については再加工の際、刃部を剥ぎ取るために、剣身破片の破断面部分の刃部端を打点とし、側縁に押圧剥離を施すもの(19・25)もある。以下に特徴のあるものについて個別に概観したい。

7は、剣身の端部に再利用による回転擦痕がみられる。破片の再加工を経ずに錐などに使用されたものであろう。8は、幅広の磨製石剣の関部が表裏半截されたもので、剣身刃部側縁は細かな敲打によってブランディングが施され、長方形に近い平面形態を作り出している。おそらく297のように扁平片刃石斧として再加工される途中に遺棄されたものであろうか。類例の多いものである。竪穴式住居跡S HC80から出土した柄と柄頭が作り分けられる石剣20は、鋒から剣身上半は直接敲打され、刃部が潰されている。その形状からみれば鋒を欠損したために整形加工し、再生させようとしたものとみられる。前期あるいは中期でも比較的古い段階に位置づけられる資料であるが、S HC80は市田6期に下ることから、製作から破損、再加工まで一定の時間幅を想定しなければならないのかもしれない。研磨面に二重パティナのような風化の違いは認められな

い。21は、粗い研磨によって剣身全体の再加工を終えた再生あるいは転用例である。鋒が剣身の中心に位置しない。おそらく区送りも施されているものと思われる。茎尻の端面が剣身にやや斜交することから、石戈として再加工されたものかもしれない。35は、サヌカイト素材ではあるが、粗い研磨で仕上げられた磨製石剣の剣身小破片である。粘板岩の破片同様に剣身の表裏を半截し、側縁に整形のための敲打による剥離を施す。長方形に近い形態を作り上げるもので、8と同様に小形の扁平片刃石斧に再加工する途中に遺棄されたものと思われる。サヌカイト製の磨製石剣も粘板岩製の磨製石剣と同様に扁平片刃石斧へのリダクションを行ったことが推測できる好例である。37は、刃関にある双孔の1つを関部にもってきた区送り品と思われる。茎の側縁部が直接敲打による成形がなされた後、粗い研磨によって再加工されている。基部(関部から茎部)の再加工が行われた例である。38は、52・83と同様にサヌカイト製石剣の鋒であるが、使用による折損破片というよりは故意に分割されたものと思われる。40は、銅剣形石剣茎部の破片である。茎尻には擦切施溝分割痕が認められる。溝状の樋が刻まれる。全体に非常に粗い研磨で仕上げられている。40にみられたような擦切施溝分割痕は、11・42・48・54・60・90にも確認された。44も銅剣

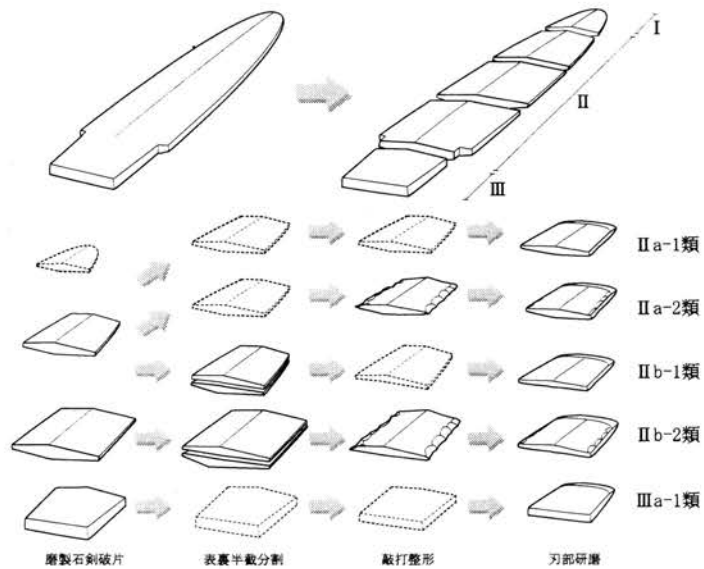


第38図 粘板岩製石剣と石庖丁の残存長比較

形石剣の剣身破片である。刃関の穿孔と樋がみられる。その厚みと長さからみて小形の柱状片刃石斧への再加工にも利用できる破片である。48は、石庖丁からの転用品であろう。58も銅剣形石剣剣身の破片である。脊部分が表裏ともに敲打により剥取され、剣身が平坦に加工される途中に遺棄されたものである。80も穿孔と樋の存在から形骸化した銅剣形石剣の部類に含まれるものである。86は刃関双孔が貫通していない。双孔は石剣製作後、使用中あるいは再加工の際に穿たれたものである。87は、粘板岩の剣身の片面を剥離させ、再加工のために厚さを減じたと考えられる例である。93は、一方の刃部側縁にのみブランディングによる微細な剥離が認められる。石剣以外の用途が推定できる。99は、双孔周囲のみの破片であるが、断面が扁平なため、石庖丁の可能性も捨てきれない。

先述したように、出土した磨製石剣の多くは粘板岩製で破片となったものが多

い。その多くは残存長3 cmから7 cmまでの範疇に入る。今回出土した粘板岩製石剣の残存長と粘板岩製石庖丁の残存長を比較すると一般的に石庖丁よりも全長が長いといえる石剣の方がより「破片化」が進んでいることがわかる(第38図)。粘板岩製磨製石剣や一部のサヌカイト製磨製石剣では、剣身部分が表裏に半截分割される。剥離方向が剣身主軸方向に平行していることや、磨製石剣の鋒や基部については表裏半截分割される例が



第39図 粘板岩・サヌカイト製磨製石剣破片の扁平片刃石斧への再加工想定図

なかったことからみても、横断面が薄い菱形になる剣身のみを故意に半截しているものとみてよいだろう。入手した石剣破損品を小形の扁平片刃石斧に加工するために、手頃な大きさに分割されるといったリダクションの工程を想定できる(第39図)。表裏を半截する場合でも、身幅の狭いものは、半截した後直接研磨を施す(第39図、IIb-1類、16?・17?・297)が、一方で身幅の広いものは、側縁部分を敲打成形(28・30)してから研磨整形に及ぶようである(IIb-2類、309・315)。

このほか、剣身を半截しないものでも、直接研磨が行なわれるもの(IIa-1類、69)や、刃部側縁の調整剥離が施されるもの(IIa-2類、29・53)もあるようだが、扁平片刃石斧としては使用しにくかったのではなかろうか。一方で、剣身基部あるいは茎部の破片と思われる扁平片刃斧もみられる(IIIa-1類、285・331・361・370)が、鋒部(Iの部分)の再加工によると思われるのはみられない。

磨製石剣未成品とみられるものも若干存在する。49・101などは粘板岩素材で、石剣としての薄い菱形の断面形態が形成されておらず、研磨成形途中に破棄されたものとみられる。101はその横断面から石剣への加工を目論んだものと判断した。線状敲打痕が遺存しており、成形工程初期段階のものとみられる。

52・83・96はサヌカイト製ではあるものの、打製によって整形した後に、全体に研磨整形を行ない、磨製石剣としての完成を目指したものである。13・14は剥離整形の後、その大半を部分研磨によって仕上げるサヌカイト素材のものである。いずれにせよ、サヌカイト素材の石剣は、敲打剥離整形を行うだけでなく、粗い研磨による仕上げ整形工程をとる。その際には全面研磨も厭わないようである。専ら粗い擦痕を残す全面的な研磨によって加工成形を行って粘板岩石剣を製作する山城地域に特徴的な製作方法ともいえる。サヌカイトの供給周縁で粘板岩製磨製石剣を製作する地域に散見されるものである。

(2)石 鏃(図版第147～149・344・345)

A. 磨製石鏃(図版第147・344-(2)) 製品のほかに磨製石鏃未成品あるいは破損品を含めて22点を図化した。石鏃の可能性のあるサヌカイト製品(105)以外、全て粘板岩製である。109と120は磨製石鏃未成品と考えられる。完形のものではなく、全て一部あるいは大半を欠損していた。有茎柳葉鏃のなかには、細身の柳葉鏃身に徐々に細くなる直線的な茎部をもつもの(102・105・114・121)と、ややふくらのある鏃身に、湾曲に挟られるような丸鬺を作り出すもの(117・122)がある。このほか腸袂をもつ有茎三角形鏃(106)や細身の柳葉鏃身(115)もみられる。

B. 打製石鏃(図版第147～149・344-(2)・345) 打製石鏃は142点図化した。破片となっているもののなかには石鏃と思われるものもあるが、左右対称な形態に近いことや、石鏃軸部先端のように横断面が厚い菱形にならないものは石鏃とした。松木武彦氏の打製石鏃の分類を援用する。<sup>(註27)</sup>

凹基式(124・126・172・173・177・184・193・206・247・253～255)、平基式(130・134・143・147・171・178・185・192・198・199・202・205・245・246・256)、凸基Ⅰ式(133・137・145・148・168・169・174・180・181・217・219・221・223・228・229・242・244・250)、凸基Ⅱ式(136・139・163～165・182・186・201・204・220・226・232・233・240・241・249)、有茎式A技法(125・127・128・131・138・146・153・157・160・179・183・196・213・234・237～239・248・251・257・260・262)、有茎式B技法(132・135・151・158・159・161・162・166・167・187・194・203・207・209・222・227・230・252・259・261)、有茎式C技法(類例なし)に分類することができる。

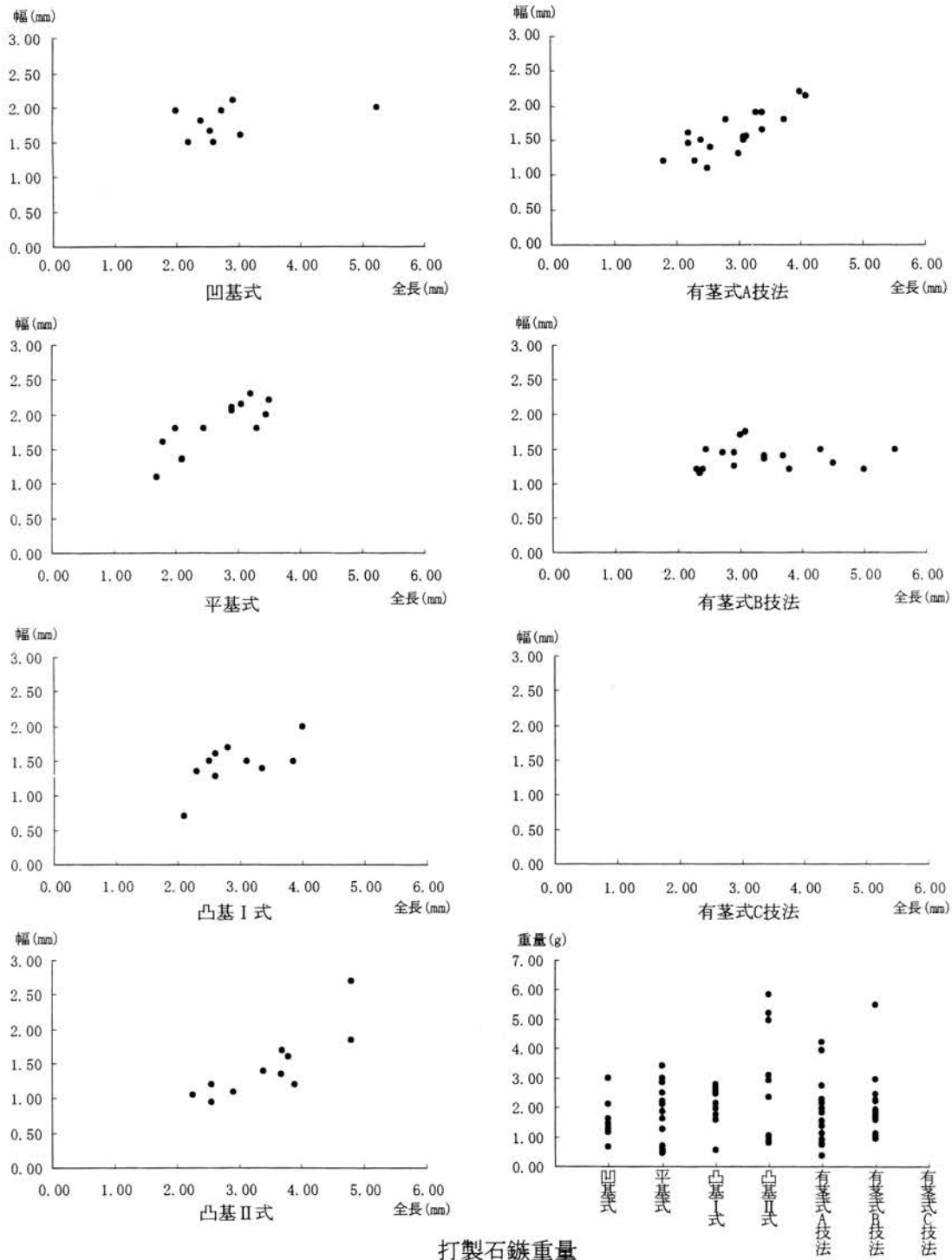
幅広い凹基式、平基式と全長の長いものがみられる凸基式に分かれる(第40図)。有茎式A技法はB技法よりも幅があるが、全長は短い傾向が窺える。大きな剥離によって鬺部を作り出す瀬戸内地域に特徴的なC技法はいまだ採用されないようである。

なお、時期的な特徴であるが、市田2期に属する土坑S KA78・S KA80では、すでに凸基Ⅱ式、有茎式B技法が出現している。有茎式A技法は市田3期に属する竪穴式住居跡S HB138、竪穴式住居跡S HC451などでみられるようになる。Ⅳ様式期に位置づけられる市田5期から市田7期には有茎式が多くなる傾向があるが、著しい差異や較差を見いだすことは難しい。

粘板岩素材の石剣や石庖丁が多量に出土するわりには、粘板岩製石鏃の出土量は少ない傾向にある。むしろ二上山サヌカイトの打製石鏃の出土量の方が圧倒的に多いといえる。微細なサヌカイト剥片も多量に出土しており、二上山サヌカイトが定型化した小形の石材として安定的に供給され、当地で石鏃が製作されていたことを示すものと考えられる。後述する石鏃や石針などの小形石器でも、硬質石材である二上山のサヌカイトが素材として使用されている。石器石材や玉材などへの穿孔にはより硬質の石材を素材とせねばならなかったものと想定される。

(3)石 斧(図版第150～155・346・347)

石斧およびその未成品のほか、太型蛤刃石斧・扁平片刃石斧・柱状片刃石斧・環状石斧については調査区、各種遺構ごと一括して117点図化した。内訳は、太型蛤刃石斧40点、扁平片刃石斧59点、柱状片刃石斧13点、環状石斧4点などとなる。なお、観察表などの石材については肉眼



	凹基式	平基式	凸基I式	凸基II式	有茎式A技法	有茎式B技法	有茎式C技法
平均	1.5575	1.7738	2.0260	2.8140	1.8318	2.0743	—
標準偏差	0.7077	1.0134	0.6611	1.9387	1.0619	1.1280	—

第40図 打製石鏃各形式別規模比較

による判断に頼っており、参考程度のもので考えていただきたい。

#### A. 太型蛤刃石斧

太型蛤刃石斧の多くは弥生時代の遺構外、中世遺構や包含層から出土しているものが多く、堅穴式住居跡やその周辺の土坑から出土しているものは少ない。完形のものも皆無で、すべて基部あるいは刃部を少なからず欠損している。破損した太型蛤刃石斧を再利用したと考えられるものも多い。278・286・288・294・300・342などは敲石として、また310などは磨石として再利用された可能性が高いものである。287は砥石として再利用された可能性もあろう。このほかに320・336・355など、刃部および基部側破損面に敲打痕が遺存することから、太型蛤刃石斧の刃部側破片をクサビ・タガネとして再利用したものとみられる。さらに303は図右側側縁を片刃刃部として使用しており、磨滅した使用痕がみられる。太型蛤刃石斧の表面破片を最小限の加工によって片刃石斧として再利用した例と考えられる。304・373も太型蛤刃石斧の表面剥離破片であるが、破片の側縁を再研磨して一部整形を行ない、片刃石斧として再利用している。太型蛤刃石斧の多くは伐採作業により破損したものが多く、集落内でその手頃な大きさや重さゆえに、太型蛤刃石斧の破片を敲石や磨石、クサビなどとして使用したものとみられる。しかし、太型蛤刃石斧は破損後、再加工して元の太型蛤刃石斧に再生されることはない。

#### B. 扁平片刃石斧

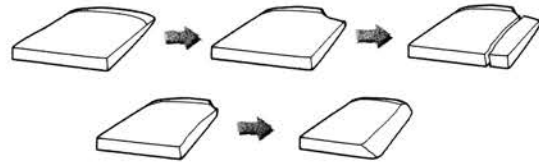
扁平片刃石斧は、市田斉当坊遺跡の石斧のなかで最も多く出土した。多くが粘板岩だが、一部に砂岩や頁岩、緑泥片岩かと考えられるものもみられる。

集落内の堅穴式住居跡やその周辺の土坑から41点の石斧が出土しているが、そのうち半数以上が扁平片刃石斧である。堅穴式住居跡 S HB529では、扁平片刃石斧3点(267・270・272)と柱状片刃石斧1点(271)が出土した。特殊な作業が行われた可能性がある。

石剣の項で述べたように、横断面が薄い菱形・二等辺三角形あるいはレンズ形をなしていることから、磨製石剣の剣身破片を再加工したと推測されるもの(280・297・309・315・329・361・369)がある。さらに両面穿孔の紐孔を残す石庖丁の破片を再加工したと推測されるもの(308)もみられる。太型蛤刃石斧に利用される閃緑岩など班晶の多い深成岩も、少数ながら381のように扁平片刃石斧として加工されている。太型蛤刃石斧の表面剥離片を再加工したものであろうか。このように扁平片刃石斧は小形品ならば、おもに粘板岩製の磨製石剣や石庖丁など他器種からのリダクションによるものが多く、当初から扁平片刃石斧を意図した未成品はみられない。

扁平片刃石斧自体には298のように破損した後に敲打による再加工整形を行なっているものがある。293は、基部側にも片刃の刃部が形成されている。また、301・314・360・378の一方の側縁部は片刃刃部が形成されていたものである。わずかに端面をもつことから刃潰しのために研磨されたものとみられる。これらは元の扁平片刃石斧の側縁部に刃部が再形成されたものと考えられる。つまり、扁平片刃石斧の場合、それ自体が破損すれば、さらに小さな扁平片刃石斧に再生させるようである(第41図)。扁平片刃石斧は、磨製石剣以外にも石庖丁など他の粘板岩製石器の破損品を再利用して製作されたものが少なからず含まれているが、それだけでなくと

くに刃幅が小さなものについてはその大部分が扁平片刃石斧自体の再加工による再生品であったといえる。



第41図 粘板岩製扁平片刃石斧の再利用想定図

### C. 柱状片刃石斧ほか

柱状片刃石斧は、全長8～10cmの大形品と全長4cm前後の小形品に分かれ、なかでも刃幅が

1cm未満の極小品が目立つ。353や375のように色調が漆黒色の粘板岩石材が意図的に選択されていたようである。再加工品の可能性が高い。

このほか、環状石斧も4例出土した。すべて破損しているが再加工の痕跡はみられない。

(野島 永)

### (4) 石庖丁(図版第156～167・348～351)

石庖丁は222点を図化した。うち11点は大型石庖丁で、これについては後述する。以下では大型以外のものを指して石庖丁と呼称する。

石庖丁の石材は粘板岩が199点と大半を占め、片岩が10点、塩田石、閃緑岩が各1点出土している。粘板岩製は未成品が出土しており製作技法の復原が可能である。未成品には、調整剥離を加えて形を整えるもの(465)、敲打により体部の厚みの調整(443)、背潰しや刃潰しを行うもの(443・463・468)、研磨を施すもの(386・393・410・423・424・473・496・513・576・577)、穿孔中のもの(400・405・598)がある。横長剥片を素材とするもの(386)、自然面の残るもの(424・468・576)、円礫素材のもの(513)などより、石材の搬入形態や素材形態を推定することが可能である。製作技法の詳細については原石資料や他器種の様相もふまえて後の考察で詳述することとする。

製品は188点出土している。平面形態は、外湾する背部と直線的な刃部をもつ直線刃半月形のを主体とし、直線的な背部と外湾する刃部をもつ外湾刃半月形のもの(492)、背部・刃部とも外湾する杏仁形(397・398・421・450・493・497)のものも若干出土している。この傾向は未成品についても同様で、直線刃半月形を意図的に製作していたと考えられる。刃付けは片刃のものの方が多いが、刃部形態のわかる未成品資料は少なく、また、使用と研ぎ直しの繰り返しによって最も変形する部分であるため製作時における傾向は不明である。

製品のなかには、素材形態のわかるものや製作時の痕跡が最終研磨や使用によっても完全には消されずに残っているものも多く、製作技法を復原する手がかりとなる。背部に細長い線状敲打痕が残るもの(385・409・419・433・458・494・497・502・561・562・567・578・583・596・599)、体部に円形の敲打痕が残るもの(414・422・431・433・446・452・455・458・490・494・497・500・501・503・507・521・528・544・548・556・557・563・566・602)、穿孔途中痕(回転擦痕のある円形窪み)のあるもの(391・398・420・448・456・458・492・542・550・564・569)などである。また、478は、全面に研磨を施すが素材の形態を残しており、円礫素材と考えられる。547・602は裏面、573・592は表面が自然面で、自然面の残存する剥片素材を用いている。567は

横長剥片を素材としている。なお、製品か未成品かの判断が困難なものもある。製品の破損品か研磨工程の未成品、または石庖丁未成品を他器種へ転用中に遺棄されたと考えられるもの<sup>(注28)</sup>(396・437)である。

使用の痕跡は、肉眼でも明瞭に認められる。背部の磨滅(449・459・492・544・575・585)、刃縁の線状痕(385・401・430・462・479・578・600)、刃部の磨滅(395・425・429・430・440・444・446・453・455～457・459・460・474・477・478・486・494・508・511・523・534・535・538・539・541・545・547・553・554・561・566・567・572・578・581・585・589・592・593)、刃部の小剥離(538・579)、刃部光沢(425・444・486)、紐ずれによる孔の内面や周囲の磨滅あるいは線状痕(388・397・420・429・435・455～458・461・483・486・487・492・494・497・500・506・520・522・524・533・539・540・545・548・565・567・578・579・588・593・600)などである。

以上の穂摘みという石庖丁本来の機能による痕跡のほかに、敲打痕の観察できる資料が多数あり、部位や形状により分類することができる。背部縁辺の丸い敲打痕(521)、背部の細長い線状敲打痕(414・415・421・431・444・451・458・469・470・483・487・494・495・501・506・516・522・532・542・546・548・550・559・564・565・570・579・584・585・600・601・602)、刃部の円形敲打痕(406・421・447・454・487・495・500・501・507・528・559・560・565・586・592)、刃部の線状敲打痕(409・431・451・470・506・548・566・570)、体部の円形敲打痕(415・425・451・454・458・521・523・537・548・563・570・579)である。これらの多くはおそらく石を素材とするものを対象として敲石に転用した結果、残されたものであろう。ただし、背部刃部ともに敲打痕が残るものについてはクサビへ転用した可能性もある。また、後述するように敲打調整によって再生や転用を行っている例があり、そういった再加工途中のものも含まれていよう。体部の敲打痕については、穂摘みに使用する際の手の滑り止めを意図したものとも考えられる。

以下ではそのほかの特徴について個別に述べる。384は、左側破損部に研磨を施し、刃付けを行っている。石庖丁刃部には研磨によって平坦面が形成されており、石庖丁破損品を扁平片刃石斧に転用中のものである。398は、左側破損部を研磨再生する。407は、表面からの擦切施溝分割によって背部を作り出す。408は、背部に両面からの連続的な剥離がみられ、再生または転用中と考えられる。428は、刃部を平坦に研磨しており、刃部の研ぎ直しまたは転用中であろう。430は、右側破損部を研磨しており、再生または転用中である。431は、左側破損部を研磨して刃付けを行っており、扁平片刃石斧に転用中のものである。434は、左側破損部を研磨しており、転用中である。440は、左側破損部を研磨再生する。442は、刃部以外の破損部を平坦に研磨する。磨製石鏃に転用中と考えられるが、両面とも研磨が部分的にしか施されていないこと、石庖丁にしては薄いことより、製品破損品でなく研磨工程の未成品を転用している可能性もある。458は、刃部に両面からの連続的な剥離がみられ、再生または転用中と考えられる。461は、片面より穿孔途中のものである。穿孔工程の未成品とも考えられるが、貫通した孔と穿孔途中の孔との孔間



距離が短いことから転用品の可能性が高い。471は、両面を研磨後、上部に両面から擦切施溝分割を行っている。分割面は研磨しておらず、製品転用中と未成品の両方の可能性が考えられる。474は、右側破損部に調整剥離を加えた後、敲打と研磨を施し、左側には研磨で刃付けを行っている。扁平片刃石斧に転用中のものである。479は、左側破損部を研磨しており、扁平片刃石斧に転用中のものである。482は、背部、左側破損部、右側に線状敲打を加えた後、右側縁を研磨し、刃部も平坦に研磨する。扁平片刃石斧に転用中のものである。485は、破損により剥離した裏面を一部研磨しており、磨製石鏃に転用中のものと考えられる。518は、表面からの擦切施溝分割によって背部を作り出す。524は、左側に両面から擦切施溝分割を行ない、右側および上側破損部、刃部を平坦に研磨する。分割面は研磨していない。扁平片刃石斧に転用中のものである。537は、破損により剥離した裏面を研磨しており、転用中である。543は、表面からの擦切施溝分割によって背部を作り出す。552は、裏面を研磨後、上側に両面から擦切施溝分割を行ない、その後両面とも剥離する。分割面は研磨しておらず、製品転用中と未成品の両方の可能性が考えられる。553は、左側に裏面からの擦切施溝分割を行うが、分割位置、方向とも溝とずれている。分割面は研磨していない。転用のため擦切施溝分割を行ったが溝が浅く失敗したものであろう。557は、左側破損部を研磨しており、転用中である。558は、左側に表面から擦切施溝分割を行っており、転用中である。568は、背部に調整剥離を加えており、より小形の石庖丁へ転用中のものであろう。569は3孔をもつ。孔の位置および孔間距離より、元の2孔の間に新たに1孔を穿孔したと考えられ、再生品である。581は、刃部を平坦に研磨し、左側破損部に調整剥離を加えて片刃状とする。扁平片刃石斧に転用中のものである。582は、円礫を素材として上部に線状敲打を加え、両面とも一部研磨する。研磨工程の未成品として石庖丁に含めたが、石庖丁にしては幅が狭く、他器種の可能性もある。589は、破損により剥離した両面ともを一部研磨しており、転用中である。590も破損により剥離した裏面を研磨しており、転用中である。600は、左側破損部を研磨しており、扁平片刃石斧に転用中である。604は、上側の破損部に両面からの剥離がみられ、石鏃に転用中と考えられる。

390・426・427・441・472・475・499・517・574・580・591は、大型石庖丁で、すべて粘板岩を素材としている。426は、研磨工程の未成品、475は、製品または穿孔工程の未成品である。突出部をもつもの(390・475・580)ともたないもの(472)、直線刃のもの(427)と外湾刃のもの(441・499・580)など平面形態は多様であるが、体部上方の残存するものはすべて2孔をもつこと、刃部の残存するものはすべて両刃であることより、この2点が大型石庖丁に共通する特徴と言えよう。片刃の多い石庖丁とは対照的で、機能の違いによるものと考えられる。個別の特徴としては、441は、刃部が磨滅する。499は、左端部が磨滅し刃部は両面とも線状痕と光沢が顕著である。また、右側破損部を研磨し、裏面に穿孔途中痕が認められる。再生中のものであろう。574は2孔をもつ大型石庖丁であるが、うち1孔は右側破損部の研磨によりほとんど残っていない。上端には両面からの剥離と磨滅が認められ、磨滅は使用時の手擦れによるものである可能性がある。小形の石庖丁に転用中、または転用後に再度破損したものであろう。580は、突出部付

近の左側上方と刃部が磨滅し、両面とも光沢が顕著である。また、右側破損部を研磨しており、再生を行っている。右側下方の穿孔は元の刃部の位置に近く、再生に伴い新たに穿孔された可能性が高い。

#### (5)磨製石器不明品(図版第168・169・352)

磨製石器のうち、器種の不明なもの58点について報告する。製品・未成品・製品の転用品・転用中の未成遺棄品を含んでいる。石材は粘板岩が52点と最も多く、閃緑岩、砂岩が各2点、サヌカイト、片岩が各1点出土している。

605は、破損部を除き全面を研磨しており、製品である。裏面は敲打後に研磨する。右側縁は両刃となり石庖丁刃部に似るが、縁は丸みを帯び、刃部に平行する擦痕が認められる。石鋸の使用痕に類似しているが片岩製のものに比べ厚く、玉ではなく石器を対象とした擦切用工具の可能性が考えられる。石庖丁を転用したものであろう。606は、表面が破損によって剥離し、右側縁および裏面は全面を研磨しており、製品と考えられる。右側縁は明瞭な稜をもち、平面と直交方向に研磨することから磨製石剣の可能性が考えられるが、破片であり断定できない。607は、左側縁に両面からの調整剥離を加えた後、表面を一部研磨する。未成品である。608は、右側縁と下端が両刃状となる。製品破損品の下端に細かい調整剥離を加え、表面を研磨により刃付けして、扁平片刃石斧に転用している途中のものである。断面形より元は磨製石剣であった可能性が考えられる。609は、両面から調整剥離を加え、表面を一部研磨する。未成品である。610は、破損部を除き全面を研磨しており、製品である。左側縁は両刃状になっており磨製石鏃基部の可能性が考えられるが、破片であり断定できない。611は、上端を両面から擦切施溝分割する。分割面を除き全面を研磨すること、右側縁上方に明確な屈曲部があることより、有茎磨製石鏃製品の茎部を分割したものであろう。分割後の加工は認められないが、法量より小形扁平片刃石斧に転用中の可能性が考えられる。612は、表面を研磨した後、両面から調整剥離を加える。製品破損品を磨製石鏃に転用中のものであろう。613は、板状剥片に両面から調整剥離を行い、左側縁を線状敲打し、表面一部に敲打を加えた後、両面を研磨する。石庖丁または磨製石剣の未成品であらう。614は、右側縁に表面から調整剥離を加えた後、表面のみ研磨する。下端は表面から擦切施溝分割を行っているが、垂直方向に分割されていない。分割面は研磨されるが部分的で、未成品の可能性が高い。615は、表面、下端、裏面とも自然面が大きく残存する。円礫の周縁に両面から調整剥離を行った後、側縁に線状敲打を加え、裏面を一部研磨する。磨製石器の未成品である。形態から石庖丁の可能性が考えられるが、法量が小さく断定できない。616は、両面を剥離し、側縁のみ研磨痕が残る。製品破損品であらう。617は、右側縁の研磨後に両面とも剥離し、両面、左側縁、下端を一部研磨する。製品破損品を磨製石鏃に転用中のものであらう。元は磨製石剣であった可能性が考えられる。618は、表面全面と裏面、右側縁の一部を研磨する。下端は研磨で刃付けされており、製品破損品を扁平片刃石斧に転用中のものであらう。表面にやや不明瞭な稜があることから、元は磨製石剣であった可能性が高い。619は、破損部を除き全面を研磨しており、製品である。左側縁は両刃で石庖丁の可能性はあるが、破片であり断定できない。620は、

破損部を除き全面を研磨する。両側縁、上端を平坦に研磨しており、磨製石鏃未成品か小形の扁平片刃石斧の可能性が考えられる。両側縁で厚みの違いが著しいことから転用品であろう。621は、下端と裏面の一部を研磨しており、未成品である。意図的な調整と判断できる微細な剥離は認められず、サヌカイトを研磨のみで加工しようとした珍しい例である。622は、表面を研磨し、裏面は剥離面となる。製品破損品である。623は、表面と右側縁を研磨し、裏面は剥離面である。表面の右縁辺には敲打痕が認められる。製品破損品である。624は、両面を研磨した後、右側縁を両面から擦切施溝分割し、分割面を研磨したもので、磨製石器の未成品である。厚みより石庖丁の可能性が考えられる。調整剥離によって形を整える製作技法のみでなく、両面を研磨した板状素材を擦切施溝分割するという製作技法も存在したことを示す資料として重要である。625は、破損部を除き全面を研磨しており、製品である。閃緑岩であることと法量より、柱状片刃石斧の基部である可能性が考えられる。626は、表面と右側縁に研磨痕が認められ、製品破損品である。627は、破損部を除く全面を研磨しており、製品である。右側縁が片刃となり、刃部縁辺に敲打痕が認められる。刃部縁辺に石庖丁と類似した線状痕があることから、やや幅が狭いが石庖丁の可能性が考えられる。628は、破損部を除く全面を研磨しており、製品である。柱状片刃石斧の可能性が考えられる。629は、両面とも剥離し、一部に研磨痕が残る。右側縁は交互調整剥離が加えられており、製品破損品を転用中のものであろう。630は、表面自然面、裏面は剥離面で、左側縁に線状敲打痕が認められる。敲石の可能性が考えられる。631は、表面に研磨痕が残るが、裏面はほとんど剥離する。1孔が遺存し、左側縁は片刃となる。製品破損品で、石庖丁の可能性が高い。632は、両面の研磨後に両側縁に線状敲打を加える。下端は研磨により刃付けが行われ、縁辺に微小剥離が認められる。磨製石器破損品を転用し、扁平片刃石斧として使用したものであろう。右側縁が片刃となっていることより元は石庖丁であった可能性が考えられる。633は、全面を敲打した後表面一部と両側縁を研磨する。大型蛤刃石斧未成品の可能性が考えられる。634は、破損部を除き全面を研磨し、製品である。下端は片刃となり、敲打痕が認められる。石庖丁にしては薄く、器種を断定できない。635は、破損部を除き全面を研磨する製品である。2孔をもつが、大型石庖丁にしては孔間距離が約1.5cmと短い。636は、表面に研磨痕が残るが、裏面は剥離する製品破損品である。637は、両面とも剥離し、1孔をもつ。製品破損品である。

638は、縦長剥片を素材とし、表面を一部研磨する。右側縁に剥離痕が認められるが、意図的な調整剥離とは断定できない。639は、剥片の周縁に調整剥離を加えた後、両側縁を研磨する。両側とも両刃状になるが、研磨は部分的で、未成品であろう。形態より磨製石鏃と考えられるが、磨製石鏃は両側縁を平坦に研磨してから刃付けを行う例が多く、また磨製石鏃にしては法量がやや大きいことから断定はできない。他器種からの転用品の可能性も考えられる。640は、両面に研磨痕が認められ、製品破損品である。641は、表面は研磨痕が残るが裏面はほとんど剥離し、製品破損品である。右側縁は両刃となっており磨製石剣の可能性が考えられる。642は、両面を研磨しており、製品破損品である。板状で厚みがあることから大型石庖丁の可能性が考えられる。643・644は、表面に研磨痕が残るが裏面は剥離面である。製品か未成品かは判断できない。645

は、表裏全面と右側面一部を研磨する。表面に剥離痕が認められるが、意図的なものかは判断できない。2 cmという厚さで研磨を行っていることから、未成品であろう。646は、板状剥片の両面を一部研磨する。未成品である。647は、表面を研磨するが、裏面は剥離面である。製品か未成品かは判断できない。648は、破損部を除き全面を研磨しており、製品である。右側縁は両刃状に研ぎ出すが、縁辺は平坦面をもつ。裏面一部が窪み、内部に擦痕が認められることから、砥石に転用したものと考えられるが、もとの器種は不明である。649は、表面一部を研磨するが、裏面は剥離面である。意図的な調整と判断できる剥離は認められない。未成品であるが、石器として用いられていない石材であり、器種は不明である。650は、横長剥片で、意図的な調整と判断できる剥離は認められない。石器素材になり得るものである。651は、表面のみ研磨する未成品である。裏面は自然面で縦長剥片を素材とする。652は、表面を全面研磨し、裏面を剥離する。製品破損品である。653は、全面を研磨する製品破損品である。両側縁は両刃状に研ぎ出し、縁辺は狭い平坦面をもつ。磨製石鏃または磨製石剣の可能性が考えられる。654は、表面を研磨し右側縁と下端は両刃状に研ぎ出す。裏面の剥離面と研磨との先後関係は不明で、製品か未成品かは判断できない。655は、右側縁を研磨し、表面と左側縁は剥離面で一部に自然面が残る。柱状片刃石斧または磨製石剣の未成品であろう。656は、表面を一部研磨し、裏面は剥離面である。右側縁に調整剥離を加える。製品か未成品かは判断できない。657は、両面を研磨する製品である。427のような非常に薄いタイプの大型石庖丁である可能性が考えられる。658は、両面を研磨し、下端は片刃状になる。研磨後に左側縁を両面から擦切施溝分割するが、分割面は未研磨である。製品転用品または未成品であろう。659は、表面を研磨、裏面は剥離面である。製品か未成品かは判断できない。660は、破損部を除き全面を研磨する。裏面は破損面を研磨しており、製品破損品を転用したものでであろう。先端は片刃状である。661は、自然面の残る横長剥片の周縁に両面から調整剥離を加え、方形にする。製品か未成品かは判断できない。662は、表面を全面研磨し、裏面は剥離する。製品破損品であろう。

#### (6) 砥石(図版第170～179・352～354)

砥石は129点を図化した。石材は砂岩が118点と最も多く、閃緑岩が7点、粘板岩が3点、チャートが1点出土している。

初めに観察項目について述べる。法量は、基本的に使用頻度の多い面を表面に向け、最大値から順に全長、幅、厚さとする。ただし、使用による擦痕が明確で、一方向のみに使用していることが明らかな場合には、使用方向を全長としたものもある。使用方法により、片手に研ぐ対象物、片手に砥石を持って使用する手持砥と、両手で対象物を持ち砥石上で動かして使用する置砥の2種に分類する。全長20cm以上、幅10cm以上、厚さ10cm以上のいずれかを満たすものを置砥、長さ10cm以下または幅5cm以下を手持砥とするが、形態や使用方向といった感覚的な要素も加味している。また、砥石を使用するうえで粒の細かさが対象物や使用目的にかかわる重要な要素であることから、サンドペーパーを示標として可能な限り客観的に粒度を分類することを試みた。<sup>(注29)</sup> サンドペーパーはJIS規格60・80・100・120・180・240・320・400・600・800・1000・1200・

1500・2000の14種を用意し、肉眼および30倍のルーペを用いて砥石と粒度を比較したうえで、最も近いサンドペーパーの規格値を砥石目として示した。60よりも極端に粒度の粗いものを「粗」とし、15種に分類した。なお、ここでは砥石として使用した痕跡のあるものをすべて報告しているため、敲石としても使用されているものも多い。また、断面形が円弧の一部をなす「U」字形の筋を持つ砥石については玉砥石として報告するが、砥石、玉砥石としたものがそれぞれ玉以外、玉のみを対象として使用されたとは想定していない。

敲打痕は砥石としての使用痕である擦痕を切るものが多く、砥石を敲石に転用したものと考えられる。しかし、少数ながら砥石としての使用以前の敲打痕と判断できるものもあり、敲打により砥石の整形を行った可能性が考えられる。形態は、整った方形を呈するものと不整形のものがみられる。前者は敲打、研磨、擦切施溝分割といった整形加工を施し、後者は無加工で用いるという傾向はあるものの、使用以前の意図的な加工によるのか使用の結果として方形を呈するものであるのかを判断しがたいものも多い。また、使用による破損面を砥面として使用する際に加工された例もある。使用痕は、擦痕や、面が滑らかになること、断面形の窪みといった形で認めることができる。断面形が大きく湾曲していても擦痕の不明瞭なものもあることから、擦痕の有無は使用頻度のみでなく石材の違いにも左右されると考えられる。断面形の窪みの度合いは使用頻度や対象物の違いを反映したものと考えられ、特に、使用方向に平行する縦断面形には使用頻度、使用方向に直交する横断面形には対象物の違いが影響している可能性が高い。また、横断面形が「V」字または「U」字を呈する筋状の窪みが認められるものもある。「V」字溝は幅3.0mm以下のものが多いのに対し、「U」字溝は幅5.0mmを超えるものが多い。また、「V」字溝は砥石の幅広の面に使用方向と平行してみられるものが多い。一方、「U」字溝は、砥石の狭い面にも認められるほか、縁辺に直交して短い溝がみられるものもある。こうした特徴より、「V」字溝のうち幅の狭いものは砥石を面的に使用する際に対象物の縁辺が当たるなどによって擦痕が深く刻まれた痕跡、「U」字溝は石庖丁の背部など幅の狭い部分の研磨に用いた痕跡と想定できる。

以下では個別の特徴について述べる。678は、下側面も砥面であるが、両側面の湾曲より破損後に欠損部を使用したものである。680は、上側面に断面形が半円形を呈する幅7.5mmの溝が1条あり、玉砥石の可能性が高い。682は、有孔の提げ砥石である。2孔のうち上側の孔部で破損し、破損面も砥面として使用していることから、下側の孔は破損後に開けられたものであろう。幅1.5～2mmの鑿状工具で削って穿孔しており、表面にも幅3～3.5mmほどの工具痕が認められることから、古代以降のものと考えられる。699は、表面に擦痕、裏面中央部に敲打痕が認められる。表面は砥石、裏面は台石として使用したものである。700は、径12mmの浅い円形窪みが一か所あり、窪み内部には回転擦痕が認められる。701は、幅11mmと幅広く深い「V」字溝が特徴的である。破損部に敲打痕が顕著で、破損後に敲石として使用したものである。709は、左右側面に線状敲打痕がみられる。719は、円礫を分割して砥石としたものである。表面と分割面である下側面との間に擦痕の認められる狭い平坦面があり、分割後に研磨整形を施した可能性が考えられる。724は、扁平な円礫を使用したものであるが、表面裏面とも一部のみ使用する。726は、裏面と下

側面を破損し、破損面に部分的な擦痕が認められる。破損後に使用したものまたは整形のため研磨を施す途中のものである。732は、右側面を使用した可能性があるが、明瞭な痕跡は確認できない。742は、使用面である表面のみが黒色化しており、被熱ではなく使用にともなう変色である可能性が考えられる。744は、右面も砥面であるが、横断面の湾曲より、破損後に使用したものである。750は、自然面で覆われた稜部に線状敲打痕、砥石として使用していない自然面に「U」・「V」字溝が認められる。752は、自然面にのみ「V」字溝が認められる。758は、すべての面が砥面であるが、下側面は欠損後に使用したものである。764は、径15～20mmの円形窪みが2か所認められる。窪み内部には回転ではなく横方向の擦痕が認められる。767は径15～20mmの円形窪みが5か所認められ、すべて断面形が摺鉢状を呈する。左側面の3か所は内部に擦痕が確認できず、敲打痕が集中したことによって窪んだものであろう。表面の2か所は内面に擦痕は確認できないものの滑らかになっており、敲打以外によって形成されたものである。783は6面すべてが砥面であるが、下側面は破損後に使用したものである。786は、右側面と下側面を表面から浅い溝を入れて折り取る。右側面は使用又は研磨整形を施し、下側面は幅2～3.5mmの工具で削った痕跡が認められる。加工方法より古代以降のものと考えられる。791は、円礫を使用したもので、表面裏面とも一部のみを使用する。

(土屋みづほ)

#### (7) 敲打石ほか(図版第180)

敲打石は、敲打痕の非常に明瞭なもの10点を図化した。小形円形の河原石をそのまま利用したもの(792・796・797・799)と、太型蛤刃石斧や砥石などの破損品を再利用したもの(794・795・800～802)がある。794は、砥石をもちやすい形に分割している。作用部にはわずかだが円形の窪みがあり、細かな敲打を繰り返したものとみられる。795は、太型蛤刃石斧の基部を整形して敲打石に転用している。上下面に敲打痕が残る。796は、花崗岩の河原石の平坦面の2か所に敲打痕がみられる。797や799は、小さな河原石の転石を何らかの作業のために使っていたようである。擦痕や敲打痕、剝離痕などの使用痕跡がみられる。798は、棒状の河原石を利用したものである。上端部分に剝離痕と線状の敲打痕がみられる。801は、太型蛤刃石斧の基部と刃部に著しい敲打痕がみられる。802も破損した石斧の刃部に著しい敲打痕がみられる資料で、太型蛤刃石斧破損品の再利用である。

793は、凹石である。片面は楕円形に近い敲打痕による窪み、もう一方は筋状の窪みがある。周囲側縁部には敲打痕が残る。堅果類の粉碎に利用したものかもしれない。

#### (8) 玉砥石(図版第181～184・354)

管玉未成品を研磨する際に使用される玉砥石は46点を図化した。管玉研磨のための筋溝が形成される以前に、砥面としての使用痕が確認されることから、砥石を再利用したと考えられるもの(803・808・810・812～814・816～820・823・825・826・828～831・835・838・839・841・843・845～848)がある。おそらく、ほかにも砥石としても共用されたか、あるいは砥石を再利用したものがまだあると思われる。多くが破片となっているために元の形状を復原するこ

とは困難である。

玉砥石は定型化したサイズや形態をもっているわけではないが、短冊形に近い形状で、側面に1条から2条前後の筋溝がみられるもの(806・808・811・813・814・824・829・840)と、扁平な形状をもち、平坦な面に多条の筋溝を並べるもの(815・820・821・823・834)に大きく分けることができる。平坦面に多条の使用痕をもつ後者は筋溝の深さは4mm以上と深く、使用による磨耗が著しい。

管玉未成品を回転研磨したために形成された円孔状の使用痕をもつもの(808・822・829)もある。808は、筋溝の形成後、それに重複して2か所に円孔を穿つ。円孔は、直径8～9mm、底面は播鉢状に丸くなる。破損面の一方は貫孔しており、使用中に破断したものかとみられる。822も同様に管玉研磨のための筋溝に円孔が形成されるが、直径10mmの円孔底面の中央部分は凸状をなしている。穿孔された管玉端面を研磨したものかとみられるが、端面に回転擦痕をもつ管玉製品はみつかっていない。829は、円孔直径6.5mm、深さ9.5mmを測る。孔底面はやや丸味をもつ。

さらに、石針未成品を研磨したかと思われる非常に小さな筋溝(幅1～1.5mm前後)が形成されるもの(819・821・839・848)もある。819は、上下両側縁部端面に幅2mm前後の筋溝(上端面4条・下端面8条)が残る。821は剥離面未調整のままの裏面に3条の筋溝を残す。直交する管玉研磨の筋溝の形成によって一部削られる部分がある。839は、側面に10条、幅1～1.5mm前後の筋溝がみられるが、平行には並ばない。擦切施溝によって形割される。839や847にも、幅1mmの浅い筋溝が認められるが、同様に溝自体は並列するものではなく、やや角度を変えながら使用されたものとみられる。

#### (9)石 鋸(図版第185・186・355)

碧玉など管玉石材の擦切施溝分割に使用された玉鋸石材は、和歌山県あるいは徳島県近辺で産出されたと考えられる紅簾片岩である。図化した紅簾片岩の総重量だけでも860gとなる。図化したもののほかにも35点以上の破片を確認した。土壤の水洗作業によって微細遺物を検出すればさらに多くの紅簾片岩の細片が回収されたものと思われる。後述するように、およそ1.2kgを量る紅簾片岩原石(1462)も出土した。転石や剥片を入手したのではなく、おそらく露頭などから採掘された石材を入手したものと思われる。北陸地方の主要な玉造り遺跡においてさえ前例のない出土量であるといえる。<sup>(注30)</sup>

図化したものは60点、素材資料(855・874・875)もみられたが、大半は使用によって刃部が磨耗しており、刃部断面はゆるやかな「U」字状になっている。なかには手擦れによって上端部が磨滅したと思われるものも多い。後述する玉作り関連遺物が多量に出土した竪穴式住居跡S H A74(849)・S HA98(851～854)・S HC451(855～858・862～864)からも出土したが、刃部が著しく磨耗した小さなものが多かった。石材の色調は、結晶質に鈍い光沢をもつ暗赤紫色のもの(867・868・874)、灰赤褐色のもの(893・899)、光沢をもつ結晶質が筋状に変成する黄白色に輝くもの(879・895)、薄い青緑色のもの(865・888)など、さまざまである。先述したように855や874・875は母岩(1462)を薄く剥取した石鋸素材である。左右の側縁部分を敲打して長方形に整えてい

る。このような素材となる大形の剥片を分割して、数点の製品を製作したものと思われる。

(野島 永)

(10)穿孔工具ほか(図版第187~197・355~359)

玉作り関連工具のなかでもサヌカイト製石針、およびその未成品や素材石核となると考えられる整形加工が施された剥片などについては調査区・各種遺構ごとに一括して405点提示した。石針には、瑪瑙製石針(1231)が1点あるほかは、すべてサヌカイト製磨製石針である。石針を中心に計測と分類を行った未図化の石針関連遺物(観察表のu. i. 1~457)457点も提示した。石針製品は回収したものだけでも軸部の細片も加えれば1000点近くになる。

これらのサヌカイト製石針関連遺物は、竪穴式住居跡 S HC451・S HA74・S HA98で多量に出土することが判明した。この3基の竪穴式住居跡は、遺構検出時あるいは埋土掘削当初から石針関連遺物の出土が相次いだため、水洗選別作業に踏み切り、それぞれ床面から15~20cm程度の埋土土壌の水洗選別作業によって微細遺物を採取した。他の竪穴式住居跡ではわずかにコンテナ・バット1箱程度の埋土土壌の洗浄を行ったに過ぎないため、10点未満がほとんどで1点のみの場合も多い。

A. サヌカイト素材

剥片石核(909~934・1051~1054・1137・1199・1201)は、サヌカイトの原石を板状に分割(909~911)し、これを幾度か分割していく(912・923・924・929・930など)ことで石針未成品の大きさへと近づけている。擦切施溝分割は行われず、打割による分割のみである。

サヌカイト素材は、竪穴式住居跡 S HC451、あるいは竪穴式住居跡 S HA74・S HA98でも、多くの玉作り関連のサヌカイト製の石針未成品と考えられる加工品や石針製品などとともに出土しており、サヌカイト製磨製石針やクサビ・タガネなど玉作り関連工具を製作していたものとみられる。よって当該住居跡から出土したサヌカイト加工剥片が磨製石針の素材として利用されるべきものであったと考えられることから図化したが、他の遺構からも多量に出土している。

B. サヌカイト製石針未成品ほか

サヌカイト製石針未成品と考えられるサヌカイト製の細長い打製石器未成品が大量に出土した。これらは小さな直方体の石核や薄い剥片に調整剥離を繰り返して加工されたものである。平面的にはおおよそ以下の5種類の形態に分類できる(第42図左下)。

平面形状Ⅰ：上端と下端がほぼ同じ長さとなり、長方形を呈するもの。側縁の調整剥離は剥離面が小さく何度も繰り返し行われ、その回数が多いといった特徴がある。

平面形状Ⅱ：上端よりも下端の方の幅が短くなり、長二等辺三角形のような形態を示すもの。上端幅広の方が厚く、下端の幅の狭い方に向かって薄くなるものが多い。

平面形状Ⅲ：上端と下端は幅が狭いが、中央部分が幅広のもの。

平面形状Ⅳ：上下端ともに先端が尖り、杏仁形を呈するもの。

平面形状Ⅴ：上端近くに幅広となる部分がある。下端側に向かって幅が狭くなっていくもの。

次に剥離調整の方法について分類したい。これらの石針未成品と考えられるものは、ほぼ全て



左右両側縁に細かい調整剥離が施され、片面一面からのみ剥離を行うものと、両面から交互剥離が行われるものが認められる。さらにその剥離が作業面縁辺(主要剥離面(腹面)あるいは背面)のわずかな部位に留まるものと、作業面全体を覆うことによって鑄を形成するものとに分類できる。このほか、片側の側縁のみは調整剥離を施さないものや、調整剥離と前後して片側を折り取ったものもみられる。それぞれ分類の対象とした(第42図右下)。

**剥離方法 a** : 片面一面の側縁からのみ剥離を行う。剥離の範囲は、作業面となる主要剥離面か背面のわずかな部位に留まるもの。横断面は台形に近くなる。全長が短いものや薄いものにみられる調整剥離である。

**剥離方法 b** : 片面一面の側縁からのみ行われた剥離が作業面全体を覆うことによって鑄を形成するもの。横断面形は薄い三角形となる。

**剥離方法 c** : 両面から交互剥離が行われるが、その剥離が作業面のわずかな部位に留まるもの。横断面は長六角形に近くなる。全長の長いものや厚さの厚いものにみられる調整剥離である。

**剥離方法 d** : 両面からの交互剥離が行われるが、さらにその剥離が作業面全体を覆うことによって両面に鑄を形成するもの。横断面は菱形あるいは四角形に近い平行四辺形に類する。剥離方法c同様に全長の長いものや厚さの厚い剥片分割品にみられる調整剥離である。

**剥離方法 d'** : 両面から交互剥離が両側縁に行われ、槌状剥離によって鑄を形成するが、片側一面からの剥離仰角が小さいもので、横断面が三角形に近くなるもの。

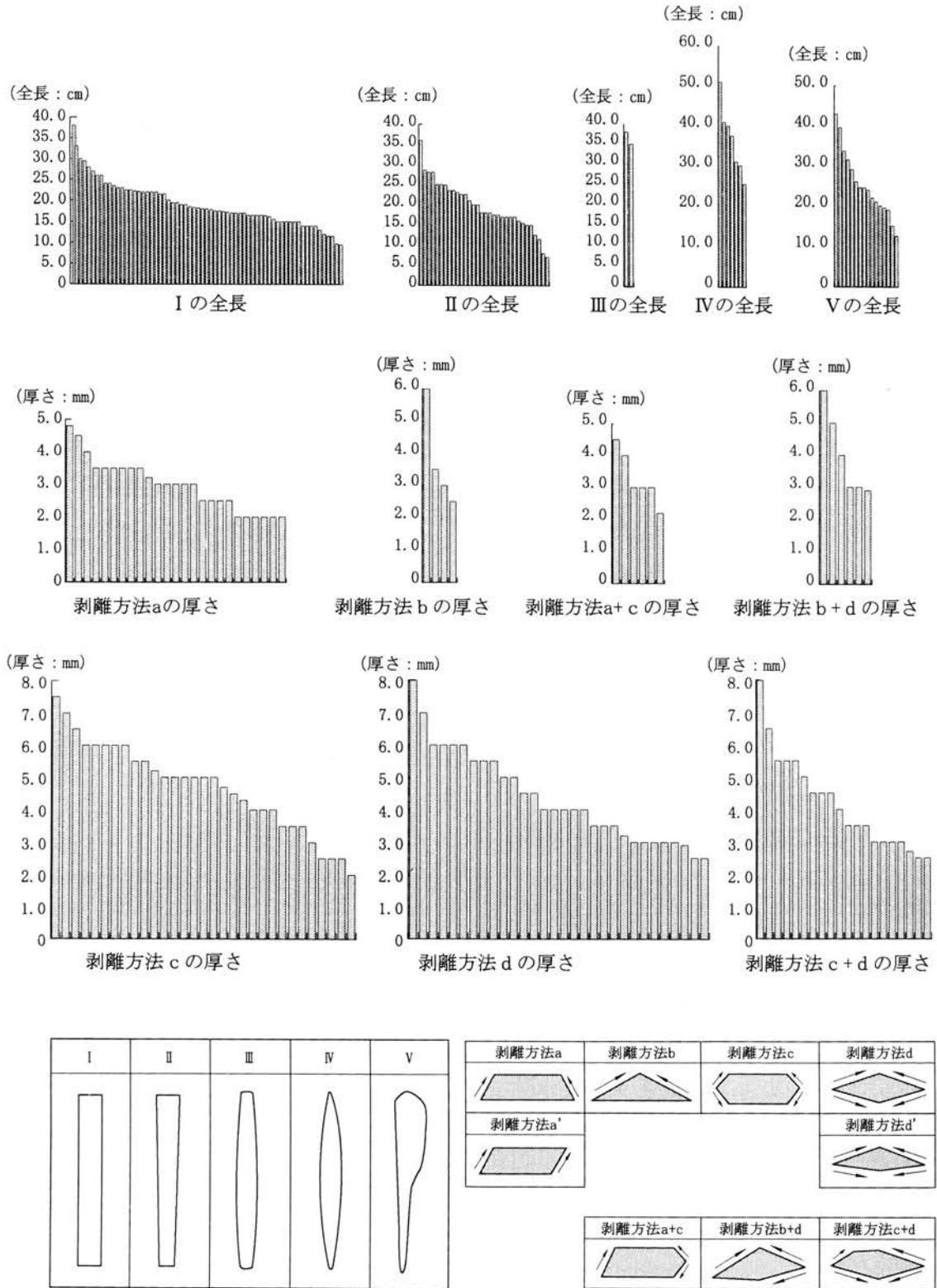
**+le. (leave)** : 側縁のみ調整剥離を施さないもの。横断面は調整剥離を施す残りの側縁部の形状によっても左右される。

**+br. (break)** : 調整剥離と前後して片側側縁部を折り取ったと考えられるもの。

以上の分類案に準拠して説明すれば、まず平面形状はⅠ類が最も多いものであることがわかる(第42図)。次にⅡ類・Ⅴ類となり、Ⅲ類・Ⅳ類は例外的な存在と言えよう。全長から見てもⅠ類は平均1.7cm前後、Ⅱ類も1.8cm前後の小形のものだが、Ⅲ類・Ⅳ類の平面形状を持つものは平均3cm以上の全長をもつことがわかる(第43図)。碧玉素材を擦切施溝分割する際、間接打法に使用されたと思われるタガネ状の小形石器か、もしくは玉材加工以外に使用される石錐未成品が含まれている可能性が高い。しかし、そのような大形のものでも上下の先端部分に使用痕と思えるような微細な階段状剥離痕はみられない。また、大形の石針製品には3cm近くなるもの(1295・1313)があることから、おそらくはⅢ類・Ⅳ類のなかには施溝分割に使用されたタガネ状小形石器未成品や石錐未成品のほかに大形の管玉の穿孔を行う大形石針も含まれるかと思われる。B調査区土坑S KB884では、全長3cmにもなる大形管玉未成品(222)が出土している。直径2.5mm前後の穿孔が施されている。このような大形管玉の穿孔に使用される石針を作るものであった可能性もあろう。

なお、先端部に回転擦痕が認められるもの(1328・1331・1334・1335)は石錐として除去した。

以上から石針未成品には、平面形状とともに調整剥離の方法にもいくつかの種類があることがわかる。剥離方法a～dは、平面形状との組み合わせにおいて、特別な相関は認められないよう



第42図 石針未成品の形状と剥離方法による厚さの相違

である(第43図)。当然ながら、個体の厚さの薄いものは、片面剥離(剥離方法 a・b)が多いが、一方で、厚いものは両面からの交互剥離(剥離方法 c・d およびその複合)が多いといった相関があるようだ(第42図)。もともとの素材の厚さに左右された結果と考えられ、素材の形状によって

柔軟な対応を行いながら、剥離方法を選択していたことがわかる。

その後、全長2cm、幅4～5mm前後に整えられた未成品は、直接粗い研磨が施され、断面多角形の柱状品に整形されることになる。多くは調整剥離を行った両側縁部を研磨し、2mm前後の研磨面を形成するもの(983・988・990・1059・1147ほか)となる。これによって横断面がほぼ六角形あるいは4角形に整形されるようである。引き続き六角形から八角形、10角形に面取り研磨が施され、断面多角形の製品にいたるようである。未成品の先端部分を研磨する例は一部の大形品以外多くはなく、上下端は使用時までそのままであったものと思われる。

資料数の多い竪穴式住居跡S HA74とS HC451を比較すると、ともに平面形状ではI類が半数を占めているが、剥離方法でやや差がみられる。S HA74では、背面あるいは腹面を残したまま側縁部を片面から剥離する資料(1052・1054など)が多い。剥離方法a・cで、かつ未調整面を持つ割合が高い。規模も全長1.0cm～2.5cm前後とばらつく。このため未成品は幅広になりがちであるが、それ以上調整剥離で幅をつめることはない。素材を剥離した際の側辺部分から研磨していくようである。また、かなり工程が進んでも自然面が残る資料(1073)もある。一方、S HC451では、幅1cm程度の板状素材の側縁部に交互剥離を加えることによって細長い直方体に近づけていくようである。素材剥離の際の主要剥離面は幾度かの打割分割と調整剥離によって除去される。厚みのあるものが多い。剥離方法a・cによるものもあるが剥離方法dが中心で、未調整面をもつものは非常に少ない。

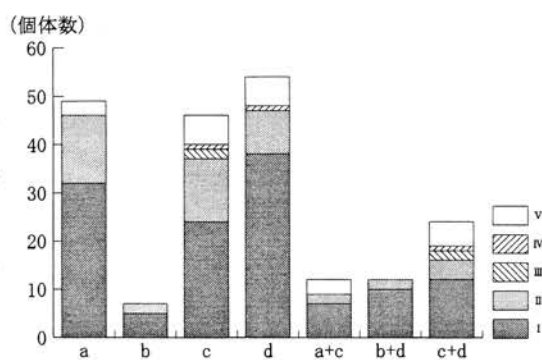
なお、未成品には擦切施溝痕やその分割痕は一切みられなかった。市田齊当坊遺跡の石針製作は、擦切施溝分割を行なわないことは間違いなく、専ら打割による素材剥片の剥取以降、調整剥離と面取り研磨のみで加工が行われている。

以上の分類案を観察表に付記することによって個別遺物の説明に代えたい。また、石針の製作方法や技術的特徴、各遺構の比較については第5章第3節に譲りたい。

### C. 石 針

全側面が研磨され、面取りなど整形研磨痕や使用痕を持つものを石針製品として分類した。石針頭部およびその先端の分類は、煩雑さを避けるため石川県八日市地方遺跡の報告<sup>(註31)</sup>に準拠したが、その分類に当てはまらないものを各分類の組み合わせ(石針先端部複合形態)によって示した。まず、八日市地方遺跡の報告に記載された分類を、一部説明を加筆して転載しておく(第44図上段一部)。

先端部形態a1：先付け。回転擦痕なし。ちょうど鉛筆を削ったような形態(下屋敷D類)。



平面形状	I	II	III	IV	V
個体数	128	46	4	3	23
全長平均	17.69	18.86	31.10	37.33	24.56
標準偏差	6.300	6.041	6.287	4.497	7.702

第43図 石針未成品の平面形状と剥離方法

先端部形態a2：先付け。回転擦痕あり。頭部の先端が潰れて、ここに同心円状または渦巻き状の回転擦痕があるもの。

先端部形態b1：頭部周辺に強い回転擦痕があるが、頭部の先端面中央に及ばないもの。

先端部形態b2：頭部周縁に強い回転擦痕があり、頭部先端面中央に及ぶもの(下屋敷E・F類)。

先端部形態b3：頭部から身部にかけて強い回転擦痕があるもの。

先端部形態c1：頭部周縁に弱い回転擦痕があるが、頭部先端面中央に及ばないもの。

先端部形態c2：頭部全体に弱い回転擦痕のあるもの(下屋敷A・B・F類)。

先端部形態c3：頭部から身部にかけて弱い回転擦痕あり。上述の円柱状になるもの(下屋敷A・B・F類)。

さらに、市田斉当坊遺跡では、このほかにいくつかの新たな石針頭部先端の形態が認められた。以下に記載しておきたい(第44図下段ほか)。

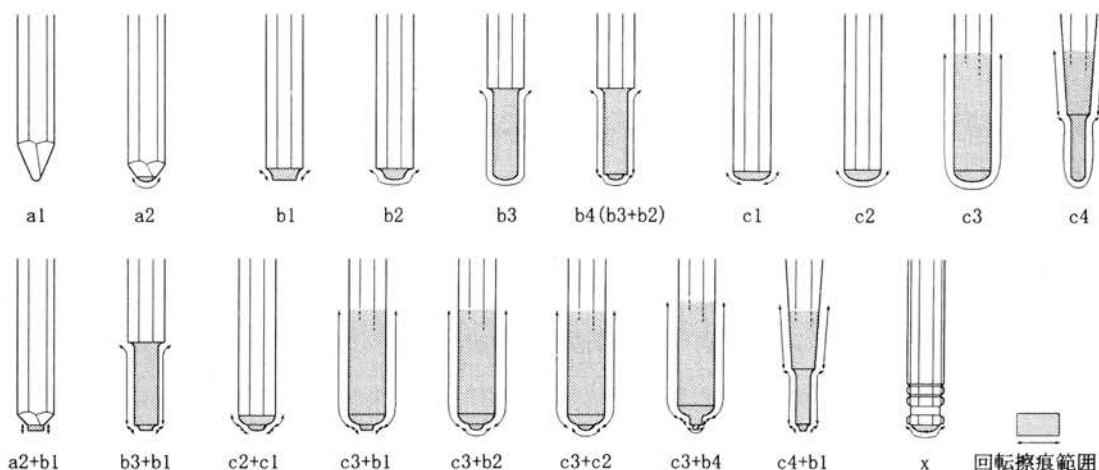
先端部形態b4(b3+b2)：頭部から身部にかけて強い回転擦痕が認められ、擦痕範囲が身部よりも細くなってしまっている。b3類に類するが、先端にさらに強い回転擦痕が確認でき、その部分がb2類の先端と同様の形状を呈するものである。いわば、b3類の先端部分がb2類の形状を呈するものである。

先端部形態c4：身部から頭部に向かって細くなり、一段さらに細くなって先端にいたるもので、c3類と同様の丸い先端部をもつ。

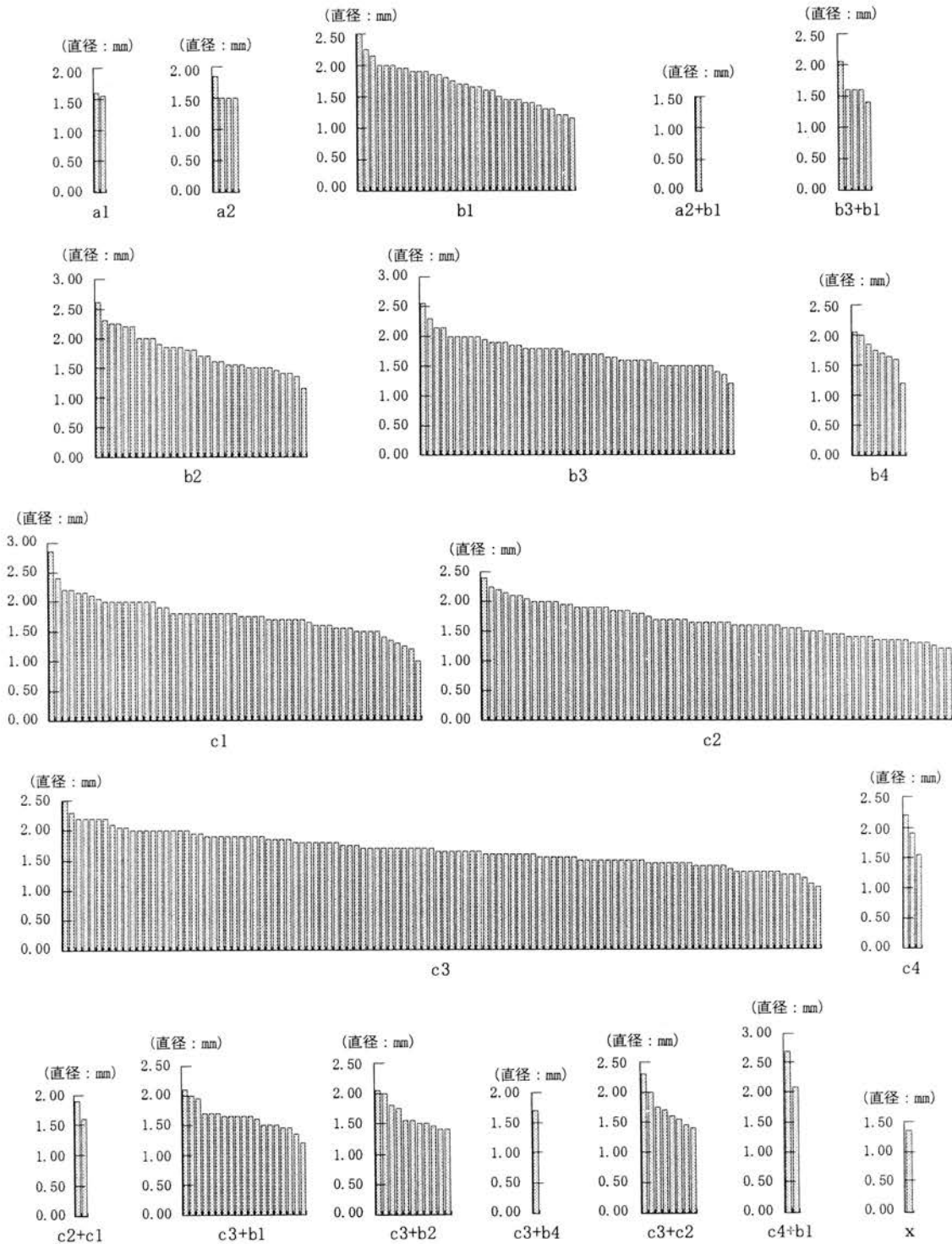
先端部形態a2+b1：頭部は削痕をもつ面で形成されるが、先端部がb1類と同様の形状を呈するもの。

先端部形態b3+b1：頭部は先端から身部にかけて強い回転擦痕が認められ、擦痕範囲が身部よりも細くなってしまっている。b3類に類するが、先端にさらに強い回転擦痕が確認でき、その部分がb1類の先端と同様の形状を呈するもの。

先端部形態c2+c1：頭部先端がc1類のように弱い回転擦痕によって丸くなるが、中心部分がさらに半円状に隆起し、側縁部に弱い回転擦痕が認められるもの。



第44図 サヌカイト製石針先端部形態図



第45図 サヌカイト製石針の類型別直径比較

先端部形態c3+b1：頭部から身部にかけてc3類と同様に、弱い回転擦痕がみられるが、先端中央にb1類と同様、強い回転擦痕が側縁部にみられる円柱状の隆起部分が認められるもの。

先端部形態c3+b2：頭部から身部にかけてc3類と同様に、弱い回転擦痕がみられるが、先端中央にb2類と同様、強い回転擦痕が全体にみられる隆起部分が認められるもの。

先端部形態c3+c2：頭部から身部にかけてc3類と同様に、弱い回転擦痕がみられるが、先端中

中央にc2類と同様、弱い回転擦痕が全体にみられる半円状の隆起部分が認められるもの。

**先端部形態c3+b4**：頭部から身部にかけてc3類と同様に、弱い回転擦痕がみられるが、先端中央にb4類と同様、強い回転擦痕が側縁部にみられる円柱状の隆起部分があり、さらにその中央に回転擦痕のある突起が認められるもの。

**先端部形態c4+b1**：頭部から身部にかけてc4類同様に、弱い回転擦痕がみられ、先端に向かって一段細くなるが、先端中央にb1類同様、強い回転擦痕が側縁部にみられる円柱状の突起が認められるもの。

**先端部形態x**：頭部先端はb2類同様であるが、3重の細い溝がめぐるもの。

また、このほかに石針頭部先端面中心に円形に近い小さな窪みが認められるものを「+dp.」(dimple)と記載し、区別の対象とした。

以上が市田齊当坊遺跡出土石針の頭部およびその先端部分の観察によって認められたものである(第44図参照)。石針の直径は、石川県八日市地方遺跡・福井県下屋敷遺跡<sup>(注33)</sup>に比較して全体的に太いといえる。特に八日市地方遺跡の石針にみられるような直径1mm以下、0.75mm前後の石針は非常に少ない。このような細い石針は、埋土土壌洗浄による選別の際に回収しきれなかった可能性もあるが、石針の径と管玉の孔径が基本的に近い数値を示していることを考えると、もともと石針の直径は八日市地方遺跡に比べ太いものが主流であったといえるだろう。このことが市田齊当坊遺跡における独特な石針製作によるものか時期的な差違かは不明である。以下、特記すべき点のみ記述する。

最も多く出土しているのは石針先端部形態c3類で、c1類・c2類・b3類がこれに続く。これらはどの遺構からも偏ることなく出土している。同一遺構からの出土数が3～10点と少量の場合でも、石針が1つの類型に集中することはない。類による石針径の集中もみられない。また、先端中央に擦痕のある小さな円形の窪み(+dp.)を持つ石針が少なからず存在する。これらも、特定の石針先端部形態と強い相関を示すことはない。

石針先端部形態(b4(b3+b2)類・b3+b1類・c3+b1類・c3+b2類・c3+c2類・c3+c4類・c3+b4類・c4+b1類)など、先端部分が複合した形態をもつ石針は、竪穴式住居跡S HC451・S HA90から多量に出土した。複合形態は複数回の使用により生じた形態と考えられる。複合部分の先端部直径は元の石針径に比べ著しく細く、長さも非常に短いものがほとんどである。これら先端部形態が判明した石針のうち、47点は両端とも使用した痕跡を持つ。両端使用の石針はS HC451で18点、S HA74で6点、S HA90で9点出土している。この中には、「先付け」と考えられる先端部形態a1・a2類を一方にもつ資料(995・1112)も存在するが、一定の組み合わせはみられない。幅は1.20～2.20mm、長さは4.2～12.6mmである。両端を使用している点を除けば、作業面が一端のみの通常の石針に比べ、目だった差違はない。なお、両端使用石針のうち最短の石針(1298)からすれば、全長4mm前後が穿孔を行う際の限界の長さであったものと推測できる。

なお、1231は瑪瑙製で、側面7面のうち6面が研磨され、1面に調整剥離痕が残る。磨製石針未成品と考えられる。竪穴式住居跡S HB149から出土した。

すべてについて個別に説明できないため、上述の分類案を観察表に付記することによって個別遺物の説明に代え、石針使用の実態については、第5章第3節に譲りたい。

#### (11) 楔状石器(図版第192)

竪穴式住居跡S HC451から出土した1049・1050がある。1049は、上端面に自然面が残るが、いずれも上下辺面に両極打法によると思われる細かな階段状剥離痕がみられる。いずれも玉作りを行ったS HC451から出土したため、玉作りに関連する作業に使用された工具の可能性はある。

(野島 永・望月誠子)

#### (12) 石錐・石小刀ほか(図版第198・359)

石錐などは、27点(1314～1340)、石小刀は6点(1341～1346)を図化した。先端部に回転擦痕をもつ石錐とそれに形態が類似し、先端部に磨耗痕(剥離面2面によって形成される稜線が光沢のない湾曲面となる)あるいは磨滅痕(小さな剥離痕が磨滅し、光沢のない面が広がる)をもつものも含めた。石錐には広い扁平な握り部に細い軸部をもち、軸部を中心に左右対称となるもの(1316・1330・1334・1340)と非対称なもの(1314・1321・1338・1339)、中膨らみの円柱状を呈するもの(1315・1328・1331・1335・1337)がある。両先端部とも磨耗しているものが多い。雁又鎌のように、握り部に双角状の突起がみられるもの(1325・1326)などもある。平面形状は定まらないが、サヌカイトの剥片や棒状破片に最低限の調整剥離を行うことによって先端突起部を作り出すもの(1314・1317・1318・1320・1322・1324・1327・1329・1333・1338～1340)などが挙げられる。

1320は、自然面の残る横断面三角形の破片であるが、両端が磨滅している。磨滅範囲は4mm前後で石庖丁の穿孔などに利用されたものとみられる。1328・1331は、石針未成品IVd類であるが、先端が磨耗していることから石錐とした。また、1332も石針未成品II d類だが、下端部分が磨耗しているようにみられることから石錐とした。1334は、石針未成品Vc+br.類である。下端部が軸部として細長く作り出されることから石錐とした。1335・1337は、先端部に直径5～7mm前後に復原できる粗い回転擦痕がみられる。石庖丁の穿孔に使用されたものかもしれない。1338は、石錐未成品かと考えられる。外形は粗い剥離によって整形されている。

石小刀には先端部が著しく湾曲するもの(1341・1344)と、ゆるやかに湾曲するもの(1343～1346)、直線的なもの(1342)がある。1346は、サヌカイトの薄い剥片を素材としたもので、縁辺に調整剥離を行うことで整形している。先端部が屈曲するものほど、入念な調整剥離が施されるようである。

#### (13) 打製石器ほか(図版第198～202・360)

局部磨製の石鋏2点(1377・1391)を含めて打製石器などと考えられるもの53点、打製石器未成品あるいは打製石器未成品や加工剥片、なかにはサヌカイト石核の調整の際に派生する不定形剥片など、34点を図化した。このほか、サヌカイト剥片やチップなどはコンテナ・パットに5箱出土した。

打製石器では、石匙をはじめとして、横剥ぎされたサヌカイト剥片の縁辺を調整剥離すること

によって作り出されたスクレイパーが多くみつまっている。また、石鋏として使用されたと考えられるもの(1358・1377・1391)もみられる。ラウンド・スクレイパーの大形品(1392)や小形品(1370・1375)がある。ともにサヌカイト剥片を素材とする。1392は転石の平滑な表面を利用しているようで、片面に自然面が残る。小形品は平面形がほぼ円形に近いが、縁辺に入念なブラントイングを施して基部平坦部を作り出す定型化したものである。1374・1385・1386など石針未成品に類したのもみられるが、石針未成品としたものの2倍以上の大きさであることから、他の用途を考えざるを得ない。1408はエンド・スクレイパー、1409は石小刀未成品の可能性があり、1421は打製の大型尖頭器未成品であろうか。

#### (14) 石材・台石など(図版第203～206)

市田斉当坊遺跡では、包含層からも石材と考えられる二上山サヌカイト・閃緑岩・花崗岩など火成岩の転石や、砂岩・頁岩・粘板岩などの堆積岩の転石がコンテナ12箱出土した。遺跡に持ち込まれたと思われるチャートや粘板岩、砂岩などの転石は多量におよび、すべてを回収しうる量ではなかった。サヌカイトや碧玉の微細な剥片なども多量に出土した。わずかながら確認したものとして翡翠や瑪瑙の破片などがある。

遺構にともなうもので、人為的な分割が行われたと考えられるものを選択して30点図化した。

方形周溝墓S DA68-5区底面上からは、土器や石器とともに転石分割品(1434～1453)が出土した。いずれも一部を打ち割るか、数度の剥離を行った後に廃棄されていた。砂岩や粘板岩、頁岩などの転石を持ち込み、打ち割って石材として使用しうるかどうか確認していたのであろう。堆積岩がほとんどであるが、閃緑岩(1445)やチャート(1434・1436)などもみられた。先述したように石鋸の素材として利用される紅簾片岩原石(1462)は、他に類例がない。一辺20cm足らず、厚さ2cm前後、1.2kgを測るもので、青銀色に輝く美しいものである。数十個分の石鋸製品が製作できるであろう。

このほか、B調査区竪穴式住居跡S HC450や竪穴式住居跡S HC451では、直方体に近い形状の砂岩が出土した(1464・1465)。いずれも置砥として使用された痕跡がみられない。安定した平坦面に、使用痕と思われるような小さな窪みがあることや、玉作りを行っていた竪穴式住居跡から出土したことから、玉作り作業に使用された台石としての機能が推定できるものである。砂岩製の勢車(1469)は、直径2.9cm、4mmの円孔をもつもので、D調査区竪穴式住居跡S HD39から出土した。

(野島 永)

### 3. 玉(図版第207～226・361・362)

玉材および玉類未成品・玉製品など272点を図化した。翡翠製勾玉2点(162・214)とその破片(157)、チャート素材石核(168)、水晶未成品(第46図)滑石製白玉2点(140・141)、以外は碧玉材・碧玉製管玉やその未成品などである。以下では先に碧玉製管玉関連資料について述べる。

碧玉製管玉関連資料には、素材石核・形割未成品・管玉未成品・管玉などがある。市田斉当坊



遺跡では露頭から直接採取したと思われる原石は認められていない。擦切施溝分割や打割により質の悪い部分を切除し、1辺40～60mm程度の素材石核を作り出している。

#### (1) 碧玉剥片・素材石核

竪穴式住居跡S H451からは多くの碧玉剥片が出土した。しかしそのなかでも全長4～7cm前後の剥片が最も大きいものの部類(1～3)になる。1・3などのように玉材としては使用に耐えない不純物の多い部分として素材選択時に削除されたものでしかなく、大形の素材原石は出土していない。玉質の良い素材石核(172・175・176・203・206など)を分割して四角柱体を形成する段階の未成品を次の工程の形割未成品とする。分割には専ら紅簾片岩の石鋸を用いて擦切溝を施した後に形割りを行う。

#### (2) 碧玉角柱体(形割未成品)

竪穴式住居跡S HC572からは、角柱体を作成する直前の板状剥片破片(205)が出土した。擦切施溝によって分割する際に破碎し、遺棄されたものとみられる。

形割未成品は、基本的には前工程と同様に、紅簾片岩の石鋸を用いて擦切溝を施した後に形割りを行った直方体の未成品をさす。擦切施溝は、長辺に対して平行に行われることが多い。直方体状の素材石核を分割するにあたり、最も面積の小さい面に擦切施溝分割を行うのではなく、面積の広い面を選択して施溝する傾向が強い。その結果、擦切施溝分割は横長の分割が多くなる。一見、溝が頭頂部にあり長辺に直交しているように見えても、縦長に分割することはあまりない。広義の大中の湖技法(注36)に属するとみられるが、施溝分割後に調整剥離されるものもみられる。大半は擦切施溝の痕跡側に打点が認められる。分割の際、打点が著しく潰れるものはない。打点直下のコーンは、半楕円形に近くわずかに肉眼で確認できるほどで発達しない。ポジティブなバルブも顕著にはみられない(注37)。このため分割された作業面は比較的平滑なものである場合が多い。擦切施溝部位に2～3mm幅のマイナス・ドライバー状の軟質のタガネをあて、間接打法によって分割したものと想定される。石針未成品の項で述べたように、石針未成品のなかには先端部分がマイナス・ドライバー状になるものがあるが、これがタガネとして使用された可能性もあるものと考えておきたい。

擦切施溝分割痕が多いほど大きさは小さくなると考えられるが、この施溝分割痕が2か所ある形割未成品の中には施溝分割痕1か所の形割未成品より大きな資料も多い。さらに、施溝分割痕が5か所ありながら、全長37.0mm、幅20.0mm、厚さ11.0mmを測る大形資料(78)もある。目的とする大きさまで施溝分割を繰り返したと考えられるが、78のように、大形の素材石核から分割したものは複数回施溝分割をしても依然大形であっただろう。施溝分割痕の数は素材石核の大きさにも左右されたものとも考えられる。なお、形割未成品における研磨は必要に応じて行われ、必ずしも分割の進んだ段階でのみ認められるものではない。

また、擦切施溝分割痕のない形割未成品には、打割のみによる分割(52・163・188)・節理による分割(碧玉143・206・269)などもあるが例外的である。このほかに全側面に調整剥離痕または研磨痕があるもの(20・45・47・56・57・90・121・130・253・256)がある。これらは全長10mm、

幅5mm、全長20mm・幅5mm前後、全長25～30mm、幅13mm前後に集中域をもつ。それぞれの集中域は後述する管玉未成品の規模と近似する。したがって、これらは施溝痕が調整剥離や研磨によってすでに消された段階のものであるといえる。形割未成品の最終段階と考えられる。

なお、この形割未成品のなかには、穿孔痕をもつ資料(267)がある。この資料は擦切施溝分割痕3か所で一部に研磨が施された直方体状の素材である。側面に穿孔痕が存在する。穿孔深度もごく浅いものの、回転擦痕が明確に認められる。あえて穿孔する必要性は感じられない。石針先端の最終加工や試し穿孔に使用された碧玉素材であったものかもしれない。こうした通常の穿孔とは異なる研磨された板状品などへの浅い穿孔は、他の玉作りの遺構からでも見つかるもので、石針を交換する際に頭部の整形研磨に使用したものとする見解<sup>(注38)</sup>もある。

### (3)管玉未成品

管玉未成品は、形割未成品に粗い再研磨を施すことで多角柱体を作り出した段階のもので、穿孔段階も含めておく。管玉未成品は、おおよそ全長5～8mm・直径4mm前後、全長15mm・直径8mm前後、全長22mm・直径4～10mmの3つの規模に分布し、それぞれに対応する規模の管玉製品が存在する。

竪穴式住居跡S HC451出土管玉未成品61は、整形工程の遺棄品と考えられるが、2条の擦切施溝分割痕跡がみられる。71は、穿孔途中で折損し、破棄されたものと考えられる。多角柱体の帯状の研磨面が形成された外面と同様に、穿孔内壁にも回転擦痕が著しい。穿孔は貫通しておらず、穿孔具の先端が接していた底面は平坦で中央部がわずかに凸状に削り残される。72はやや大きめの直径と孔径をもつ。外面には光沢がある。すでに穿孔内壁も回転擦痕はほとんどみられず、淡い光沢が認められるものとなる。73・74などからすれば、管玉未成品の外面を粗く研磨加工を施した後、さらに光沢を出すまでの最終研磨が行われると同時に、穿孔内壁の粗い回転擦痕を磨き消すことがわかる。

### (4)碧玉管玉製品ほか

穿孔後に光沢の出る最終研磨を施したものを管玉の完成品と考える。管玉製品は、18個体を数える。竪穴式住居跡S HA74(114・115)・S HC451(67)・S HC479a(138・139)・S HC132(S KC152)(234)・S HB137(148)・S HB138(152)・S HB146(155)・S HB152(164・165)・S HB542(170)・S HB742(171)・S HC460(194)から出土している。S HA74やS HB152・S HC479aでは、管玉製品複数例の出土がみられる。また、土坑S KA16(212・213)・S KB884(222)・S KC75(233)などからも出土しているが、竪穴式住居跡から出土する例が圧倒的に多い。S HA74やS HB152・S HC451・S HC479aなどはいずれも碧玉形割未成品や玉作りに使用された石製工具などが出土しているため、これらの管玉製品が竪穴式住居跡などで製作されていたものとみて差し支えない。管玉製品には大形品と中形品および小形品をみることができる。

大形品は土坑S KB884出土の管玉(222)で、全長28.6mm、直径約9.4mmと特大である。土坑S KB1136から出土した研磨途中の未成品(225)もほぼ同様の大きさであることから、当地で製作していたものとみられる。S HC451出土管玉(67)は全長18.35mm、直径3.66mmを測る中形品である。

これ以外は全長4～10mm、直径2～3mm程度の小形品が大半を占めるようである。S HB146からは全長2.90mm、直径1.80mm前後の最も小さな管玉(155)が出土した。土坑S KC152からは孔径の小さな管玉(234)が出土している。全長4.31mm、直径2.11mmと中形規模であるが、穿孔最小径0.7mm前後と非常に小さな孔が貫通していた。それに見合う穿孔具としての石針も作られたのであろう。

なお、穿孔が確認できた管玉未成品と管玉は29個体であり、両面穿孔の資料を上下それぞれ数えれば50例になる。穿孔は両面穿孔が主流であるが、片面穿孔の資料(139・155・164・170・212)も存在する。孔径は0.47～2.56mmに及び4大別されるが、平均値である1.27mm前後の孔径が多い。最小の0.47mmの資料212は、片面穿孔で穿孔を開始した側の孔径は1.40mmである。下端に到達した時点で穿孔を中止したため、孔径が非常に小さくなったものと考えられる。なお、半截された資料をみる限り、孔は円柱状に穿孔され、円錐状のようなものはない。これは石針の使用痕とも一致する。

このほか、全長の極端に短い円柱状の形態をもつ資料(65・66・111・112・116・128・160・182・196・197・223)がある。とくに高さ(幅)が2mm以下の資料(112・182)も存在するなど、円柱状の管玉未成品のような素材を薄く輪切り状に分割している。ほとんどの資料には擦切施溝分割の痕跡がない。従来、これらは管玉の長さを調節するために切除した端面部分と考えられていたが、分割面を研磨した資料(196)や、浅い穿孔痕が残る資料(223)が存在する。223では分割面は未調整であるが、端面は研磨され穿孔が開始されている。穿孔は浅いものの、いわゆる「先付け」による初期段階のものではなく、回転擦痕が明確に認められる。つまり、223が長さ調整のための切除片であるとすれば、一度穿孔を開始しながらも中断し、穿孔を始めていた側から薄く切除したことになり、かなり不自然である。よって、これらの資料は単に長さ調整のための切除片とするものだけでなく、白玉状の玉未成品となる可能性を考慮する必要がある。

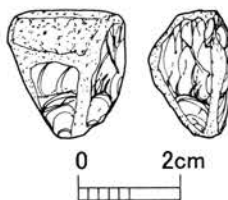
#### (5) そのほかの碧玉製品

このほか、竪穴式住居跡S HC572には、小型の鑿あるいはクサビ状の製品かと思われるもの(204)がある。先端部分は縦断面両刃クサビ状になり、刃線に平行した研磨痕がみられる。片側主面にのみ使用痕がみられる。また、竪穴式住居跡S HD23出土206は玉素材として搬入されたものか考えるが、裏面の使用痕や凹状の面形状からして砥石として使用された可能性が高いものである。

#### (6) 翡翠勾玉ほか

翡翠製勾玉は、竪穴式住居跡S HB149・土坑S KA16から出土した。S HB149出土162は完成後に破損しており、S HB147から出土した破片157と接合する。162は全長12.70mm、幅8.20mm、厚さ3.20mm、214は全長6.40mm、幅3.70mm、厚さ1.40mmである。いずれも片面穿孔である。A調査区から翡翠破片数点、B調査区竪穴式住居跡S HB137から翡翠破片、C調査区井戸S EC108から瑪瑙破片などが出土した。いずれも2～3mm程度の微細な細片であった。

#### (7) チャート・水晶未成品



第46図 水晶加工片

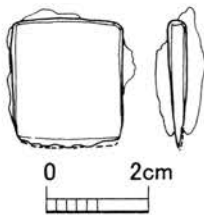
168はS HB539出土、擦切施溝分割痕のあるチャートの素材石核である。深い青緑色を呈し、玉材として利用されたものとみることができる。また、B調査区竪穴式住居跡S HB538から水晶剥片が出土した(第46図)。六角柱結晶体の頭頂部を除去し、半截した後分割を行ったようで、一部結晶面を残している。結晶面全面と稜線に粗い研磨痕がみられる。重量10.28gとなる。

(8) 滑石製白玉

滑石製白玉2点(140・141)はS HC479aから出土した。140は全長4.40mm、径4.64mmで胴部中央に最大径をもち、これを境に研磨の方向が異なる。141は全長2.54mm、径4.50mmである。古墳時代の所産と考える。

(野島 永・望月誠子)

4. 鉄製品(第47図)



第47図 小形板状鉄斧

竪穴式住居跡S HC80から出土した小形の板状鉄斧である。刃部がわずかに欠損するようであるが、全長2.5cm、幅2.2cm、層状に膨らむ銹を含めた重量10.57gを測る。基部側中央でやや膨らみ、厚さ4mmを測る。おそらく銹化による膨張と考えられ、実際には厚さ3mm前後となると思われる。小形粘板岩の扁平片刃石斧などと同様に、大形の板状鉄斧や鉄剣などの破片を再利用したものかもしれない。

5. 木製品

(1) 井戸側木材(図版第227～231・364・365)

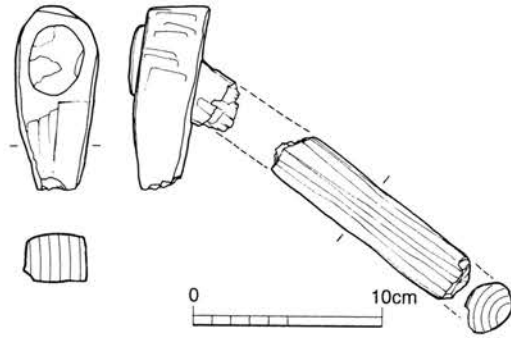
井戸S EC453井戸側木材(図版第227～229・365) C調査区南半で検出した弥生時代中期前半の井戸S EC453の井戸側木杵材(縦板・横棧)および横板材である。S EC453の井戸側材は年輪年代による年代測定と樹種同定を行った。縦板材(1～52)には、一部に柁目取りの板材(8・24)なども存在するが、多くは辺材をミカン割りしたものである。いずれも3～4cm程度の幅の手斧痕が認められる。小形の扁平片刃石斧などで加工したものであろう。横棧材(53～56)も縦板と同様、ミカン割りした材の両端に柄と柄穴を作り出し、突き通す単純な組手による結合方法を採用しているが、柄と柄穴の大きさがあわない。

このほか、井戸側木杵の外側に補強のために板材(57～62)が四角く組まれていた。57～60は柁目材だが、61・62は板目材、62は心材に近い部分を使用している。2～3cm程度の穿孔が数か所にみられる。手斧痕はみられない。これらも転用材の可能性が高いものである。

付論4で説明するように、井戸S EC453の井戸側木杵材および横板材を5点同定した結果、ヒノキ2点(59・62)、コナラ属アカガシ亜属1点(49)、エノキ属1点(54)、ムクロジ1点(23)であった。複数の樹種が混在し、針葉樹と広葉樹が混ざることからも、やはり転用材が利用された可能性は高い。

## 井戸 S ED31 井戸側木材 (図版第230・231・364)

D調査区北東で検出した弥生時代中期前葉の井戸 S ED31の井戸側木杵材である。全長は50cm前後、幅10cmあまりの広葉樹の板材である。下端部分が鋭角に仕上げられる矢板状のもので、井戸 S DC453の縦板よりも規格性の高いものである。上半部分の腐朽が著しかったため、横棧の存在は確認できなかった。あるいは矢板の打ち込み式であった可能性も捨てきれない。



第48図 井戸 S ED31出土斧柄

(2)手斧木柄(第48図、図版第363) 市田2期に属する井戸 S ED31の井戸側木杵内部から出土した。台座部長9.5cm、欠損した先端部の幅2.0cmを測る。もう一方の木柄は残存長12.1cm、柄の断面は楕円形ではなくやや卵形となる。長軸2.8cm前後を測る。袋部をもつ小形鉄斧の装着を想定できるが、横斧の雇柄は大阪府東大阪市鬼虎川遺跡の類例同様、比較的珍しいものといえる。

(野島 永)

## 第2節 古墳時代の遺物

## 1. 土器(図版第138~140・341・342)

## (1)土師器(図版第138・139・341・342)

古式土師器は、大溝 S DC 25・井戸 S EC 108・土坑 S K 465・溝 S DC 67などから出土している。1613~1658は S DC 25から出土したものである。

1613~1635は甕である。このうち、1623と1633は同一個体である可能性が高い。1614は、外面に薄くススが付着する。1615は、頸部内面屈曲部付近に明瞭な指頭圧痕が残る。1616は、体部外面に薄くススが付着する。1617は、螺旋状のタタキの後、縦方向のハケを施す。1618は、口縁部外面に指頭圧痕がみられる。1621もタタキを施した後に非常に細いハケで調整している。1624は、外面にススが付着している。1625は、体部外面に薄くススが付着している。また、口縁部の一部分の内外面に黒斑がみられる。1626は、体部中位外面にススが付着し、内面には炭化物が付着する。1631の口縁端部には折り返しやつまみ上げがみられない。1634は、頸部内面付近に頸部成形時についたと考えられるしぼり痕がみられる。

1636~1639・1642は、直口壺である。そのうち1638・1639・1642は、口縁端部を甕と同様に肥厚させる。1640は、二重口縁壺の口縁部である。一部分に黒斑がみられる。

1643~1647は、高杯である。1644は脚部内面にシボリ痕が残る。また、1644・1646の杯底部には棒状工具による刺突痕がみられる。

1648~658は、埴である。1648~1650・1652・1653は、口径が器高を上回る。1648は、体部内面をヘラケズリした後にナデを施している。口縁部はほぼ直線的に長く広がり、口縁部の径は体部最大径を大きく上回る。1649は、底部内面にスジ状の工具痕が残る。体部内面はていねいにナ

デを施して、滑らかに仕上げられている。体部外面はハケを施した後に横方向のミガキを施している。1650は、体部外面にハケを施した後にナデを施し、体部内面下部はヘラケズリの後にナデを施して器壁を整えている。また、内面にはごく薄く赤色顔料の付着が認められる。1651は、体部外面にハケを施した後にナデを施して器壁を平滑にしている。1652は、鉢状を呈する。体部外面に大きな黒斑がみられる。1653は、器壁が薄く、ていねいに仕上げられている。口縁部径と体部最大径・器高はほぼ等しい。1654は、体部外面にハケを施した後に横方向の細かいミガキを施す。体部下半は器壁が非常に薄い、体部内面はヘラケズリの痕跡を残し、あまり平滑に仕上げられていない。口縁端部内面には爪形の圧痕がみられる。1655は、体部外面にハケの痕跡を明瞭に残し、また内面もヘラケズリ後にナデを施しているが、やや凹凸がある。胎土は精良である。1656は、体部外面下半にススの付着が認められる。底部は剥離しているが、外面にハケ、内面にヘラケズリの痕跡が明瞭に残っている。1657は、外面肩部・内面体部中位に明瞭な屈曲をもつ。器壁は体部下半で非常に薄くなるが、その厚さは均一ではなく、体部上半の器壁は厚い。また、外面にもヘラケズリがみられ、比較的粗雑な作りである。1658は、胎土は精良であるが、外面にハケメが明瞭に残り、器壁は比較的厚い。

1659～1661は、SEC108から出土したものである。3個体とも甕で、体部は球形である。体部外面にはハケ調整を施し、頸部の屈曲部付近でハケメをナデ消す。1659は体部外面の縦方向のハケ調整のうえに、細い筋状の痕跡がみられる。体部外面にはススが付着し、全体に黒色を呈する。肩部から下には特に厚く付着している。1660は、やや肩の張る器形である。外面全体にススがみられ、肩部から下には特に厚く付着している。1661も同様に外面全体にススがみられ、肩部から胴部下半にかけて、とくに厚く付着している。また、体部内面下半部もやや黒変している。

1662は、SDC93から出土した小形の甕である。体部外面はタタキの後にヘラナデを施し、下半部はさらにミガキを施している。製作中に体部の粘土が剥離した部分が補修された痕跡がみられる。

1663は、土坑SKC429から出土した甕である。内外面とも磨滅が著しく、調整は観察できない。口縁部はやや内湾し、口縁端部は内側に屈曲し、上部に明瞭な面をもつ。

1664は、SDC64から出土した甕である。体部外面は磨滅が著しく調整は不明である。口縁端部に折り返しなどの手法はみられない。

1665・1666は、SDC67から出土したものである。1665は、体部内面に明瞭な粘土接合痕がみられる。また、体部外面下半にはススが付着している。1666は、内外面とも、所々に赤色顔料が付着している。

## (2) 須恵器 (図版第140)

古墳時代の須恵器3点を図化した。1668は、杯蓋口縁部1/4程度しか遺存していない。天井部の大半に回転ヘラケズリを施し、回転ナデによってナデ消している。回転ヘラケズリとナデの界線が凸線状に巡る。TK10型式前後、6世紀前半の所産である。1169は、やや乱れた波状文がめぐる広口の壺である。文様区画となる鋭利な2条の沈線を持ち、くすんだ暗青灰色を呈している。1670は、完形の有蓋高杯である。器壁が厚く、脚台部は中実となる。杯部と脚台部はていねいに

接合され、表面にその痕跡を残してはいない。

## 2. 埴輪(図版第139)

1667は、S DC67から出土した円筒埴輪である。口縁部から最上部の突帯までは10cmあり、直径5.5cmの円形の透かし穴をもつ。外面にはわずかながら赤色顔料の付着が認められる。

(丸吉繁一)

## 3. 石器(図版第206)

### 紡錘車(図版第206・363)

直径6.4cmの大形の紡錘車である。B調査区S H1136出土であるが、古墳時代の所産と考える。鋸歯文などの刻文はみられない。

(野島 永)

## 第3節 平安時代以降の遺物

### 1. 土器(図版第140・141・342)

1671～1737まで67点を図化した。1671～1675は、平安時代の須恵器である。やや器壁の厚い壺L(1671)は、D調査区S DD18-4区最上層から出土した。大溝(環濠)や大形の周溝などは平安時代にいたってもやや窪んでいた可能性が高い。杯B(1674)や大形の壺L底部(1675)は、A調査区竪穴式住居跡S HA98の検出面における最上層から出土した。破片であるが、9世紀中葉までは当該調査区の土地利用がなされておらず、放置されていたことを示すものとみることができよう。土師器椀皿類(1679～1691)は、磨耗が著しいものが多い。C調査区を東西に走る溝S DC15の灰釉皿(1694)とC調査区溝S DC05の緑釉椀(1695)がある。1694は、「ハ」の字に踏ん張る高台をもつ。1695は、いわゆるベタ高台で、回転ケズリ整形された円面にも緑釉が施される。S DC15は、S DC05に破壊される先後関係がある。条里型地割りに沿ったS DC05が9世紀中葉以前にまで遡る可能性があるといえる。

このほか、樟葉型瓦器椀(1708～1729)や瓦質羽釜類(1730～1737)、白磁椀C群(1701～1703)、青磁椀底部(1697・1707)、大窯天目茶椀(1704)などが出土した。

(野島 永)

### 2. 金属製品(第49図、図版第366)

**銅鏡(第49図)** B調査区、重機掘削時に、鏡箱に納められたと復原できる草花双鳥鏡が出土した。当初、わずかに確認した掘形輪郭から土坑状のものかと想定されたが(図版第308-(5))、検出面から幾度かの精査の結果、東西方向の素掘り溝S DB19を検出した。S DB19埋土から出土の可能性が高いものといえる。

(野島 永)

二羽の鳥が鈕を中心に旋回し、その間に草花文が位置する草花双鳥鏡である。径10.35～



第49図 平安時代花鳥紋鏡(2/3)

10.40cm、重量125.8g、縁幅0.8~1.0cm、縁高0.35cm、胎厚0.18~0.20cm。鏡形は円形、鈕は円形素鈕、鈕孔断面は円形、縁断面は三角形。鏡面側に若干凸状の反りがあり、両鏡端は0.05cmほど浮く。

本鏡は、素鈕、無界圈、縁断面三角形という特徴から判断して、宋鏡式、または多度鏡式と称される鏡である。平安期鏡の圧倒的主流をなした瑞花双鳳八稜鏡から中世に完成をみる和鏡との過渡期に位置付けられる。宋鏡式のなかでも、鈕を中心に線対称をなす文様構図が瑞花双鳳八稜鏡に通じ、古式のものと考えられる。特に鳥文の形態は、瑞花双鳳八稜鏡に描かれる鳥文と酷似し、草花文も和様というよりも唐様の雰囲気漂わせる。そのため、本鏡は大部分が瑞花双鳳八稜鏡で占め

られていた時代から脱却してまもない頃の鏡であり、これまで宋鏡式鏡の中でも最古例と想定されている鏡群に近い時期の所産と考えられる。ただ、本鏡には細かい区分で年代を与えるる共伴遺物がないため、実年代としては、これまで宋鏡式に与えられている最古の年代—11世紀後半<sup>(注42)</sup>としておく。

本鏡に残る製作時の痕跡について若干述べておく。まず、第二草花文の一部の表出が甘く、その外側の縁に歪みがみられる点が注目される。おそらく、本鏡を鑄造する際の鑄型には、溶銅を流し込むための湯口が鏡の側面方向に設けられ、それが第二草花文の方向にあったために文様表出が甘くなり、さらに、湯口形に凝固した銅を取り除く研磨が過度になされた結果、歪みが生じたと考えられる。また、鈕付近の両草花文方向には乱れがみられ、第一鳥文から第二草花文方向の縁付近には轆轤研磨の際に刻まれた傷が明瞭に残るため、鏡背面の研磨が全体的に粗雑であるといえる。以上から、本鏡は熟練した鏡工人の手によるものとは考え難い。しかし、この「粗雑さ」は、本鏡を非円形・濃密度文様の瑞花双鳳八稜鏡製作から円形・疎密度文様の鏡製作への移行期の所産と考えれば、非常に示唆的である<sup>(注44)</sup>。

最後に、出土状況から本鏡の位置付けを試みる。本鏡はB調査区中央の素掘り溝S DB19から、鏡面・鏡背面の一部を木板に覆われた形で出土した。木板に付着していた塗膜の分析結果から、木板には黒漆が塗布されていた可能性があり(付論11参照)、本鏡は鏡箱に納められた状態で埋没したと推測される。宋鏡式の鏡の出土状況を全国的にみると、経塚から出土するものが多い<sup>(注45)</sup>。また、鏡箱に納められた状態での出土については、平安期~鎌倉期に時期を拡大して眺めてみても、墓からの出土が大多数である<sup>(注46)</sup>。本鏡は、耕作地からの出土であることを積極的に評価すると、祭



祀的な意味を与えることもできるが、<sup>(註47)</sup> 共伴遺物が存在しないことから、日常生活の中で遺失、もしくは廃棄された可能性が高く、鏡箱をともなう資料としては稀有な事例といえる。

(中川あや)

### 3. 石製品(図版第206)

(1)空風輪(図版第206、1466) 斑晶の発達した花崗岩を使用したもので、鑿の痕跡が顕著に残る。空と風が未だ明瞭に分かれないもので、その形態から、室町時代に遡るものとみられる。

(2)石臼(図版第206、1467) 口縁部の細片のみである。復原口径22.4cm前後となる。

(3)硯(図版第206、1470) 近世の硯とみられる。

(野島 永)

## 第5章 考察

### 第1節 市田齊当坊遺跡出土弥生土器の検討

#### 1. はじめに

市田齊当坊遺跡は巨椋池の南に位置し、東西方向や南北方向に大河川が集う水運に恵まれた環境に位置する(第50図)。周辺には佐山尼垣外遺跡(50)や内里八丁遺跡(34)、5km圏内には男山丘陵沿いに広がる幸水遺跡(36)や金衛門垣内遺跡(37)などがある。10km圏内では西北方向に中久世遺跡(15)や神足遺跡(30)といった桂川右岸遺跡群、西南方向に男山丘陵をはさんで招提中町遺跡(72)や田口山遺跡(74)などの淀川左岸の遺跡群、東南方向に田辺遺跡(44)や大切遺跡(42)といった木津川沿いの遺跡群がある。10kmを超えて20km圏付近には烏丸御池遺跡(5)などの京都盆地の遺跡群や安満遺跡(55)や東奈良遺跡(69)などの淀川右岸遺跡群、滋賀里遺跡(82)や南滋賀里遺跡(83)などの琵琶湖湖西沿岸の遺跡群が点在する。20kmを超えたところでは北東方向に宮前遺跡(90)などの琵琶湖湖南の遺跡群があり、西北方向に千代川遺跡(97)などの亀岡盆地の遺跡群が位置する。市田齊当坊遺跡はこのような位置関係にある遺跡とのさまざまな形での関係のうえにあったと考えることができ、それは土器の上にも多かれ少なかれ反映されていると考えることができる。このような遺跡群との関係を考える第一歩として、市田齊当坊遺跡から出土した土器の属性間の相関関係に基づいたデータの提出に努めたい。また、予察的に個々の遺跡群との関係性の抽出を試みていきたい。

#### 2. 型式設定と型式変遷の検討

##### (1) 型式設定の方法

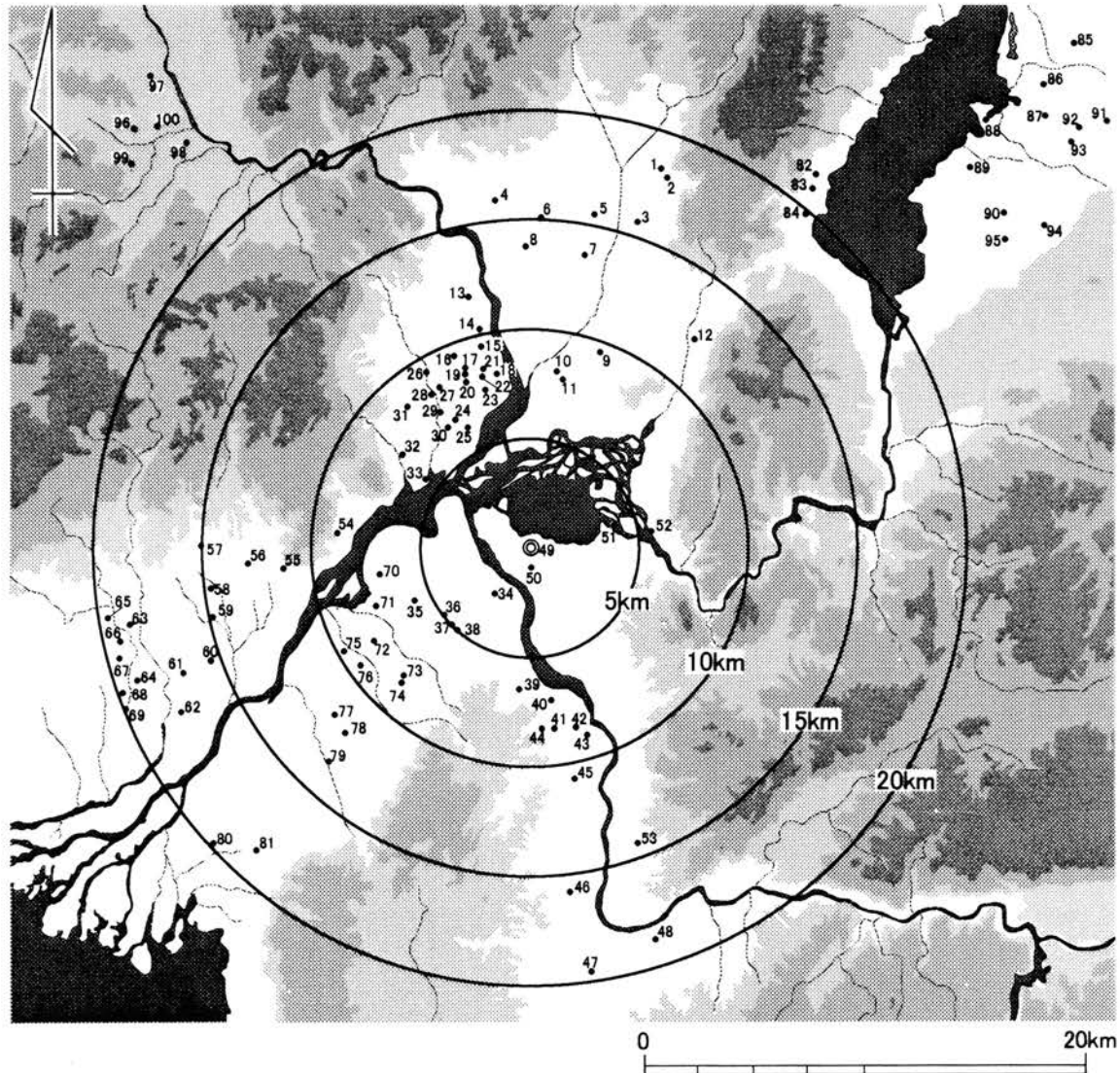
本稿の分類方法は、まず、分類コード(第51・52図)を基に個々の資料を諸属性群に分解した。<sup>(注48)</sup> そのうえで純粋に器形のみ組み合わせで関係の高いものを選んで大別した。次に調整・文様などの要素の中から関係の高い属性の組み合わせにより形式を設定し、さらに時期的な変遷の指標となる属性を抽出し、組み合わせることで型式を設定している。なお相関関係のデータに使用した土器は口縁部残存率1/6以上のものに限った。

##### (2) 甕の検討

###### ① 甕の大別

甕の口縁部形態と頸部形態の組み合わせは付表3のようになる。これをみると大きく4つのグループに分けることができる。まず、最も数が多いものは口縁部形態1～4の条件を満たし、かつ頸部形態1・2の条件を満たすものであった。この条件で総数200点を超え、今回出土した甕の半数以上を占める。これを基に口縁部に明瞭な肥厚は認められず、頸部がなだらかに屈曲する

ものを薨Aと設定する。次に数の多かったものは口縁部形態5・6を満たし、かつ頸部形態3・4を満たすものであった。この条件を満たすものは80点以上あり、全体の2割近くを占める。こ



1. 京大構内I 2. 京大構内II 3. 岡崎 4. 和泉式部町 5. 烏丸御池 6. 壬生 7. 烏丸綾小路
8. 西院 9. 深草 10. 烏羽 11. 下烏羽 12. 中臣 13. 下津林 14. 上久世 15. 中久世
16. 殿長 17. 森本 18. 東土川 19. 内裏下層 20. 沢ノ西 21. 石田 22. 鶏冠井
23. 鶏冠井清水 24. 馬場 25. 雲宮 26. 上里 27. 今里 28. 陶器町 29. 明星野 30. 神足
31. 長法寺 32. 脇山 33. 下植野南 34. 内里八丁 35. 幣原 36. 幸水 37. 金衛門垣内
38. 狐谷 39. 狼谷 40. 稲葉 41. 興戸 42. 大切 43. 南垣内 44. 田辺 45. 三山木 46. 畑前
47. 大畠 48. 燈籠寺 49. 市田齊当坊 50. 佐山尼垣外 51. 巨椋神社東 52. 乙方 53. 涌出宮
54. 神内 55. 安満 56. 天神山 57. 大蔵司 58. 郡家川西 59. 津之江南 60. 芝生 61. 溝咋
62. 目垣 63. 耳原 64. 新庄 65. 中河原 66. 郡・倍賀 67. 春日 68. 中条小学校 69. 東奈良
70. 楠原野田南 71. 船橋 72. 招提中町 73. 長尾谷町 74. 田口山 75. アゼクラ
76. 交北城ノ山 77. 星丘西 78. 村野 79. 藤田山 80. 高宮八丁 81. 太秦 82. 滋賀里
83. 南滋賀 84. 錦織 85. 服部 86. 寺中 87. 赤野井 88. 烏丸崎 89. 支那中 90. 宮前
91. 播磨田東 92. 下之郷 93. 吉身西 94. 下鈎 95. 門ヶ町 96. 太田 97. 千代川 98. 余部
99. 天川 100. 南金岐

第50図 弥生時代中期の主要遺跡分布図

1	2	3	4	5	6	7	8
9	10	(1-6は 藤田三郎1986「土坑SX-101 出土甕の分析」 『昭和59年度唐古・鍵遺跡第20次発掘調査概報』より引用)					

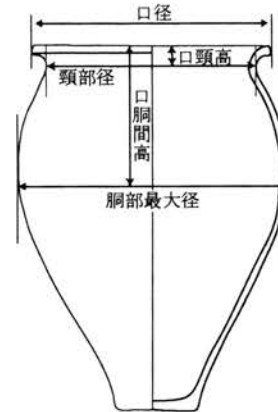
◎口縁部形態

- 1: 口縁端部を下方へ折り曲げ、やや肥厚する。
- 2: 口縁端部をまるく収める。
- 3: 口縁端部に明瞭な面を持つ。
- 4: 口縁端部に面を持つが、あまり発達していない。
- 5: 口縁端部が鋭く上方へ屈曲する。
- 6: 口縁端部が上下に肥厚するが、突出部があまり発達していない。
- 7: 口縁端部が緩やかに外方へ開く。
- 8: 口縁部端面が上方へ屈曲するが、内面には明瞭な屈曲が見られない。
- 9: 口縁部内外面ともにほぼ垂直に屈曲する。
- 10: 口縁部がやや内側へ立ち上がる。

1	2	3	4

◎頸部形態

- 1: 緩やかに屈曲する。器壁の厚さは均質でない。
- 2: 緩やかに屈曲する。口縁部から胴部まで均質な厚さの器壁をもつ。
- 3: 稜をもって屈曲する。器壁の厚さは均質でない。
- 4: 稜を持って屈曲する。口縁部から胴部まで均質な厚さの器壁をもつ。



◎調整(口縁部外面・内面、胴部上半外面・内面、胴部下半外面・内面)

- 1: ハケ 2: ナデ 3: ケズリ 4: ミガキ 5: タタキ
- 6: タタキ+ハケ 7: ナデ+ハケ 8: 不明

◎口縁部装飾

- 1: 上端刻み 2: 中位刻み 3: 下端刻み 4: 波状文 5: 列点文
- 6: 山形文 7: 無文(ナデ) 8: 無文(ハケ) 9: 凹線文 10: 沈線
- 11: 上端+下端刻み 12: 不明

◎口縁部装飾(付加要素)

- 1: 押圧文 2: 波状口縁 3: 部分的刻み

◎口縁部内面装飾

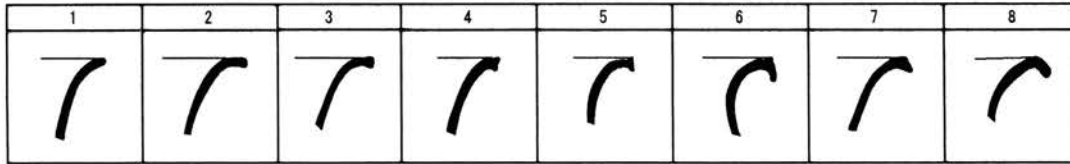
- 0: 無文 1: 波状文 2: 刺突文

◎胴部外面装飾

- 0: 無文 1: 直線文 2: 列点文 3: 頸部に突帯
- 4: 刺突文 5: 波状文 6: 直線文+山形文 7: 穿孔

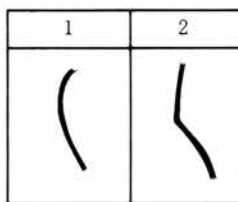
(同一箇所でも複数の要素がみられた場合には併記したが、特に出現頻度の高いものについては独立した番号を与えた)

第51図 甕形土器分類コード一覧



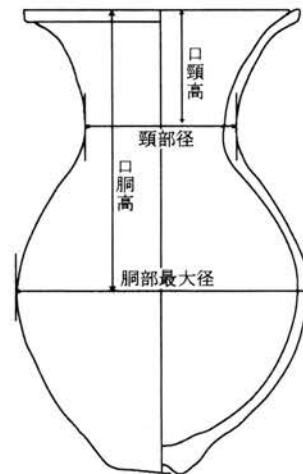
◎口縁端部形態

- 1:口縁端部をまるくおさめる 2:口縁端部をやや肥厚させる  
 3:口縁端部に明瞭な面をもつ 4:口縁端部をやや上下に拡張する  
 5:口縁端部を上下に拡張する 6:口縁端部を下方に垂下させる  
 7:口縁端部を外下方に肥厚させる 8:口縁端部を外下方へ折り曲げる



◎頸部形態

- 1:緩やかに屈曲  
 2:明瞭な段を持って屈曲



◎口縁端部装飾

- 0:無文 1:上端刻み 2:中位刻み 3:下端刻み 4:凹線文  
 5:直線文 6:波状文 7:扇形文 8:列点文 9:綾杉文 10:簾状文  
 11:沈線 12:斜格子文 13:竹管文

◎口縁端部装飾(付加要素)

- 1:部分的刻み 2:円形浮文 3:棒状浮文

◎口縁部内面装飾

- 0:無文 1:波状文 2:扇形文 3:列点文 4:綾杉文 5:垂下文

◎口縁部内面装飾(付加要素)

- 1:瘤状突起 2:穿孔

◎調整(口縁部内面・外面、頸部内面・外面、胴部上半内面・外面、胴部下半内面・外面)

- 1:ハケ 2:ナデ 3:ケズリ 4:ミガキ 5:タタキ 6:ハケ+ナデ 7:不明

◎頸胴部装飾構成

- 0:無文 1:凹線文 2:直線文 3:波状文 4:列点文 5:簾状文  
 6:突帯 7:直線文と波状文の交互 8:直線文+垂下文 9:突帯+刻み  
 10:最上部のみ直線文、残りは波状文 11:最上部のみ簾状文、残りは直線文

(同一箇所では複数の要素が見られた場合には併記したが、特に出現頻度の高いものについては独立した番号を与えた)

第52図 壺形土器分類コード一覧

付表3 甕口頸部形態関係表

れを基に口縁部が肥厚するか跳ね上がり、頸部が稜をもって屈曲するものを甕Bと設定する。甕Bと同程度の数量が確認できたのは口縁部形態7～10の条件を満たし、かつ頸部形

		口縁部形態										総計
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
頸部形態	1	1	23	72	23	0	0	40	8	6	8	181
	2	3	19	59	20	0	1	11	1	2	3	119
	3	0	1	4	1	19	28	3	0	0	0	56
	4	0	1	16	1	11	28	0	0	0	0	57
総計		4	44	151	45	30	57	54	9	8	11	413

態1・2の条件を満たすものであった。この条件を満たす甕は80点近く存在し、甕全体の2割を占める。これを基になだらかな頸部をもち口縁部が外上方から上方へ開くかあるいは屈曲するものを甕Cと設定する。そのほかに若干量ではあるが口縁部形態3を満たし、かつ頸部形態4を満たすものがある。これは16点と全体の5%にも満たない。稀少ではあるが仮にこれを甕Dとする。甕Dは口縁部に明瞭な肥厚は認められず、頸部が鋭く屈曲し口縁部から胴部まで均質な器壁を有するものと設定する。

②甕Aの細別と諸属性との相関関係

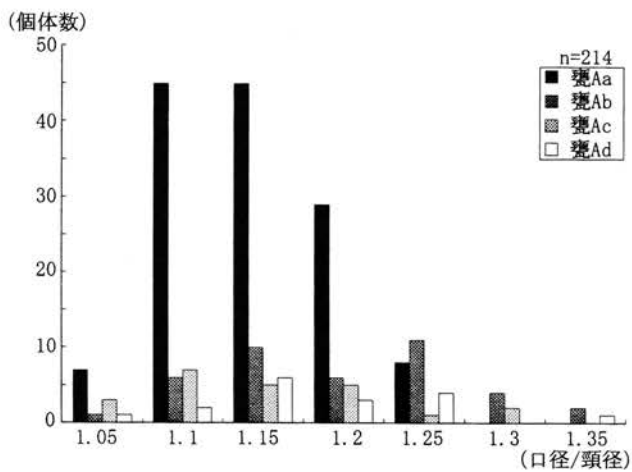
a. 甕Aの細別 甕Aは大半のものが外面を縦方向のハケ調整するものであった。内面は口縁部を横方向のハケ調整、胴部を縦方向のナデ調整するものという点で一致する。これは旧来の説明による大和形・摂津形といった形式を包括する。しかしながらこれ以上の大別は著しく重複しあう分類群となり有効な相関関係をみいだすことができなかつた。そこで便宜上口縁端面の装飾方法によって細分し他の属性との関係を示すにとどめることにする。

市田齊当坊遺跡では、口縁端面が無文でナデ調整するものが多く、150点近くにのぼり、この形態の甕の大半を占める。次におもなものとして中位刻み・上端刻み・上下端刻みがありそれぞれ40点前後・20点前後・10点前後という内訳になる。

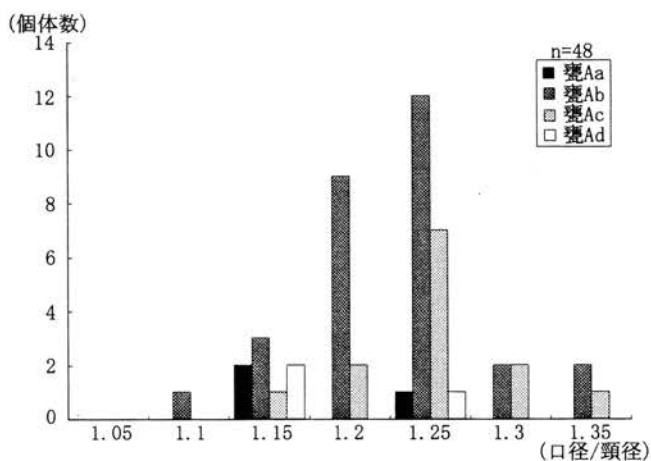
上記4つの施文手法のものを合わせると甕A全体の9割以上を占める。そこで甕Aは口縁端面の装飾方法によってa～dの4つに細分した。

甕Aaは、口縁端面をナデ調整して無文に仕上げるもの。甕Abは、端部中位に刻みを施すもの。甕Acは、上端にのみ刻みを施すもの。甕Adは、下端にのみ刻みをするものと上端と下端の両方に刻みをするものをまとめる。

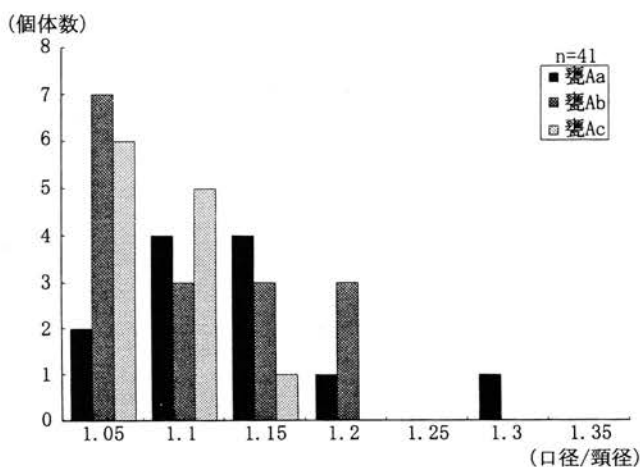
b. 諸形式の属性との関係 それぞれの形式とそのほかの属性との相関関係をみると第一に甕Abには押圧文を施すものが多いという関係が指摘できる。口縁端面に押圧文を施すものは甕A全体で25点確認できたが、そのうち18点が甕Abであった。これは残りが甕Aa 2点・甕Ad 4点、そのほか1点であるのに比べると、かなり強い関係にあるといえる。さらに口縁内面に波状文を施すものは甕A全体で21点あったが、このうち9点が甕Abであった。これに対し甕Aaと甕Acでは3点、甕Adでは4点と甕Abと比べて明らかに少ない。これらの属性は近江地域との関係で語られるものである。よって甕Abは近江地域との関係が強い形式といえることができる。



第53図 甕Aの口径/頸部径比分布



第54図 甕Aの口径/頸部径比分布(近江地域)



第55図 甕Aの口径/頸部径比分布(大和地域)

それぞれの形式は頸部径に対する口径比との関係でも有意な差が認められた(第53図)。甕Aaは口径/頸部径比1.1～1.2のものが多く、1.25以上のものは極端に少なくなるという分布域にある。数量的な制約があるがこの点は甕Acについても同様であるといえる。甕Acでは23点中20点が1.25以下であり、1.25以上はわずか3点のみであった。これら甕Aa・甕Acに対し甕Abは明らかに異なり、口径/頸部径比1.25以上のものが41点中16点と4割近くある。特に他の形式ではほとんど認められない1.3以上のものが6点と確実に存在する点が際だった特徴といえる。よって市田齊当坊遺跡では甕Abは他の形式とは異なる特色を有しているといえる。

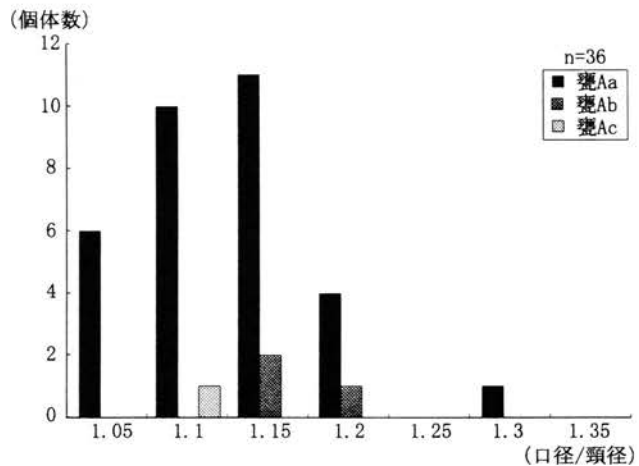
c. 諸形式の地理的勾配 この各形式と口径/頸部径比の関係を他地域のものと比較検討するため、近江地域と大和地域・摂津地域・乙訓地域における同様の条件を満たす甕で同様の分布図を作成した。まず、大和地域をみると、甕Aaと甕Ab・甕Acがそれぞれ十数点あり、同様の割合で存在する(第55図)。甕Adは確認できなかった。それぞれ口径/頸部径比が低いものが多く1.25以下のものが9割近くと大半を占める。口径/頸部径比1.3のものも1点確認できたが近江地域と関係があるものであった。一方、近江地域では、甕Abと甕Acが多く、合わせて全体の9割近くを占める(第54図)。特に、甕Abは全体の5割近くを占めている。口径/頸部径比をみると大和地域と対照的に各器形ともに1.25以上が多く全体の6割近

くを占めている。摂津地域では、甕Aaが多く8割以上が甕Aaであった(第56図)。口径/頸部径比も低いものが多く1.2以下のものが9割を占める。次に乙訓地域では摂津地域と同様に甕Aaが多く7割近くの割合を占めている(第57図)。甕Abと甕Acはいずれも少量であるが甕Abのほうが少ない傾向にあるということがいえる。口径/頸部径比では低いものが多く、1.2以下のものが9割を占める。この傾向は摂津地域と同様であり、両地域の相違は甕Aaの割合にあるといえる。以上の点をまとめると次のようになる。

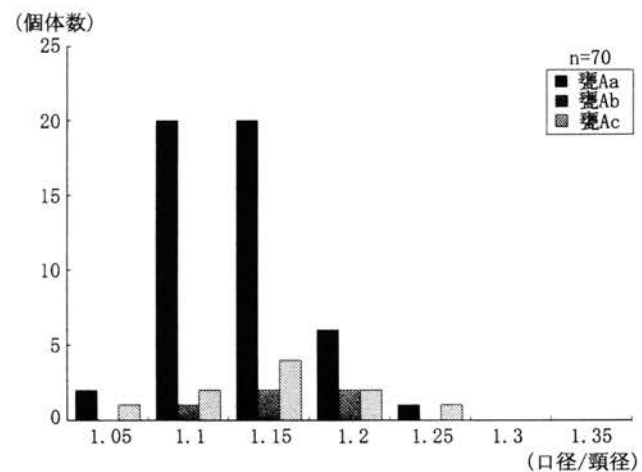
甕Aaは、摂津地域に多く大和地域・近江地域と東にいくにつれ、少なくなるという地理的勾配の関係にある。甕Abと甕Acは、近江地域・大和地域に多く、乙訓地域・摂津地域には比較的少ないという地理的勾配の関係にある。ただし甕Abと甕Acは口径/頸部径比において近江地域と大和地域では異なり、近江地域のほうがやや口頸部が長い器形のものが多い。この点では市田齊当坊遺跡は特に甕Abでは、大和地域よりも近江地域との関係のほうが強いといえることができる。

なおそれぞれの地域と市田齊当坊遺跡との位置関係は上述の通りである(第50図)。これをみると甕A諸形式の分布はこれらの地域との地理的関係を如実に表している。

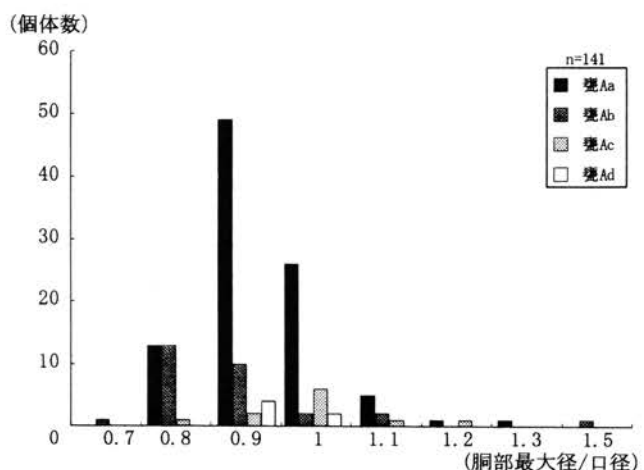
d. 時期的変遷 甕Aの時期的な変遷を示す属性としては胴部の張り<sup>(注53)</sup>と頸部の屈曲が挙げられる。特に、口径と胴部最大径との関係は重要な指標とされている。そこで胴部最大径/口径比の甕A各形



第56図 甕Aの口径/頸部径比分布(摂津地域)



第57図 甕Aの口径/頸部径比分布(乙訓地域)



第58図 甕A諸形式の胴部最大径/口径比分布



式での分布を示した(第58図)。これをみると、甕Aaは、0.9と1.0のものが多く8割近くを占める。甕Abは、0.8と0.9のものが多く1.0以上のものは4点のみであった。甕Abは、甕Aaよりも古い要素を持つものが多いといえる。もちろん前述のように甕Abでは口縁部が長くなる傾向があり口径/胴部径比にもこの影響があると考えられる。しかしながらこの傾向は純粋に胴部の傾きだけとりあげても確認できるものでありそれほど大きい影響があるとは考えない。ここではより明瞭な指標として口径と胴部最大径の関係をとりあげて1～4の4つに分けた(第4章第1節、弥生土器、土器分類の項参照)。

上記の点から型式変遷はそれぞれの形式において1→2→3→4が成り立つと考える。また、口径/胴部最大径比分布の偏りから甕Abは他の形式よりも古い形態のものが多くと想定できる。

### ③甕Bの分類

a. 形式の細分と諸属性との相関関係 甕Bは、口縁部をナデ調整するものが大半であり、胴部はハケ調整するものとタタキを明瞭に残す手法のものがある。瀬戸内系甕に相当する。この形態の甕は口縁端部無文でナデ調整のものと口縁端部凹線文を施すものが顕著である。その数量は前者が50点前後、後者が25点前後あり、前者が倍以上の数量を占める。これはほぼ畿内全域における瀬戸内系甕の割合を踏襲している。

そこで甕Bは口縁端面の施文方法によって大きく3分する。甕Baは口縁端面を無文でナデ調整するもの。あるいは沈線を施すもの。甕Bbは、口縁端面に凹線文を施文するものである。さらに口縁に刻みを施すものを甕Bcとする。なお甕Bcは数点しか確認できなかった。

製作技法にもいくつかのパターンが認められた。胴部上半外面の製作技法のおもなものにハケ調整するものとタタキの痕跡を残す手法とがある。市田齊当坊遺跡出土の甕B71点では前者は7割近く、後者は2割近くあった。これを各形式ごとにみると甕Baと甕Bbでは同様の割合で存在している(付表4)。一方胴部内面調整ではハケ調整とナデ調整が主要であり、38点对35点と同様の割合で存在する(付表5)。

付表4 甕B胴部上半外面調整

		胴部上半外面調整			総計
		ハケ	ナデ	タタキ	
形式	甕Ba	27	4	6	37
	甕Bb	19	0	11	30
	甕Bc	4	0	0	4
総計		50	4	17	71

ケズリ調整は1点しか確認できなかった。<sup>(注54)</sup>各形式ごとにみると、ハケ調整は甕Ba・甕Bbともに同数存在する。一方、ナデ調整のものは甕Ba23点・甕Bb10点と明らかに甕Baのほうが多い。両形式の胴部上半内面調整との関係は重複が大きく現段階では明確な形で指摘できるものではない。ここでは両形式の製作技法に有意な差のある可能性を指摘するに留めたい。

付表5 甕B胴部上半内面調整

		胴部上半内面調整			総計
		ハケ	ナデ	ケズリ	
形式	甕Ba	17	23	1	41
	甕Bb	17	10	0	27
	甕Bc	4	2	0	6
総計		38	35	1	74

b. 時期的変遷 甕Bは、甕Aと同様の形で胴部の張りを時期的変遷の指標とすることは

できない。実際胴部最大径/口径比をみても1.1~1.4のものが時期に関係なく同様の割合で存在する。<sup>(注55)</sup>この傾向は後期の甕においても同様である。この形式のものはむしろ調整がおもな指標となっている。

そこで口縁端部と胴部上半の調整を重視しそれぞれ2つに細分する。1を胴部上半にハケ調整を施すもの、2を胴部上半にタタキの痕跡を残す手法のものとする。

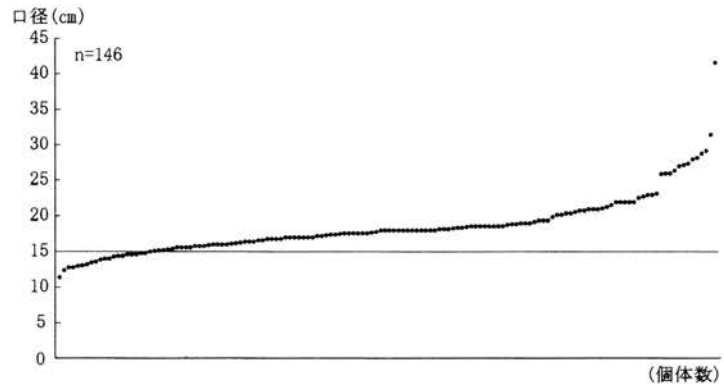
型式変遷は各形式ともに1→2という方向が想定できる。また、従来の説明から甕Baは甕Bbよりも古い形態のものが多くということが考えられる。

c. 甕Bの法量分布 甕Bは、口径の法量分布についても他の形式とは有意な差がある。ここでは資料数の多かった甕Aと甕Bについて検討する。甕Aaは、口径12.5cm~23.2cmのものまで連続的に存在している。口径15cm以下のものは少なく17cm前後のものが主流である(第59図)。これは甕Abについても同様である(第60図)。これに対し甕Bは、口径15cm以下のものが多く

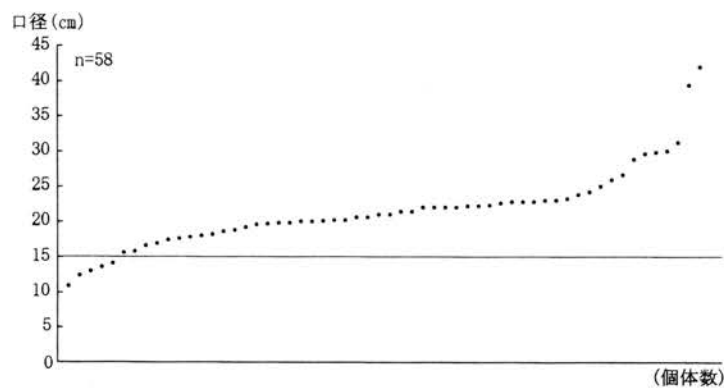
半数近くを占めている(第61図)。つまり甕Aと甕Bでは法量に相違があり、甕Bは甕Aと異なり小形のものが多く製作されたといえることができる。

さらに三者に共通して25cm前後に空隙が確認できた。この点については資料の取捨基準を口縁部残存率1/6以上に設定した点に起因することも考えられるため、ここでは積極的に評価しない。各形式ともに25cm前後で中形と大形に作り分けられていた可能性を指摘するにとどめたい。

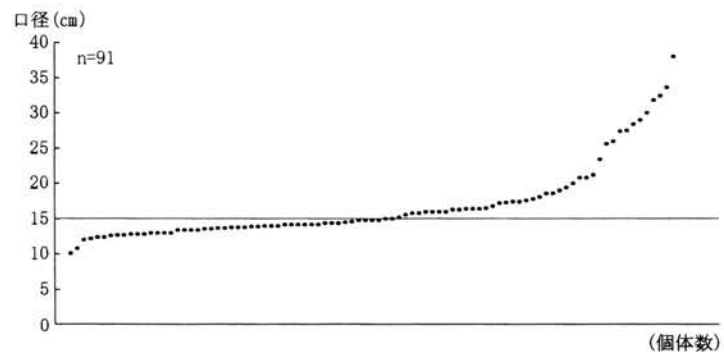
以上のことをまとめると次のようになる。甕Baは胴部上半内面にナデ調整するものが多く、甕Bbはハケ調整するものが多い。つまり、甕Baと甕Bbは大きく重複しあうが、元々異なる製作技法で製作された可能性がある。この場合、甕Ba1はより甕Aaの製作技法に近く、甕Bbは甕Aと



第59図 甕Aaの口径法量分布



第60図 甕Abの口径法量分布



第61図 甕Bの口径法量分布

は全く異なる製作技法であったといえる。甕Bは両形式ともに法量の点で甕Aとは異なり、小形のものが多い。つまり甕Aと甕Bとは異なる製作原理で作られたものであり、異なる系譜にあるものといえる。

#### ④甕Cの分類

甕Cは、いわゆる近江形の甕である。この器形は大半のものが胴部外面ハケ調整・胴部内面ナデ調整であり、強い相関関係にある。口縁部形態の上方への拡張の度合いが時期的変遷の指標となっており、ここでもこれを採用して5つに大別する。

a. 甕Cの各形式と口縁部装飾との関係 甕Cは、口縁部装飾との間に関係が認められた。甕C1は、口縁端部が無文でハケ調整するものが多く13点中8点あった。2点ではあるが中位刻みや押圧文をするものが確認できた。中位刻みや押圧文は甕C2～甕C5はほとんど確認できず、稀少な例といえる。甕C2では口縁端部上端刻みや波状口縁のものが多い。それぞれ10数点存在し、全体の3～4割を占める。ともに口縁端部を横方向あるいは斜め方向のハケ調整するものとの関係が強い。しかしながら波状口縁と口縁端部上端刻みとの関係は弱く、波状口縁をもちかつ上端刻みをするものでは4点とあまり重複しない。上端刻みをするものは近江地域では甕Aに多く、甕Acとの関係が強いと考えられる。しかしながら市田斉当坊遺跡では甕Acは甕A全体の1割程度しかない。しかも前述のように近江地域との関係の深い、口頸部の長い形態のものは甕Acでは3点程度しか確認できなかった。この点は市田斉当坊遺跡から出土する近江系の甕の時期差や地域差を考える上で興味深い点数が稀少のため今後の課題とする。

波状口縁のものは甕C3においても4点確認できるが上端刻みは甕C3では確認できなかった。波状口縁のものは上端刻みよりも後出する要素と考えることができる。この点で甕C2を口縁端部上端刻みのものと波状口縁のものを2つに分ける方法もあるが必要十分条件の関係にないためここではしない<sup>(注56)</sup>。ここでは時期的変遷を示唆する要素であることを指摘するにとどめる。これらの属性は甕C4や甕C5では少なくなり、代わって列点文や山形文をするものが増える。これらの文様は甕C5に特に多く、合わせて甕C5全体の半数近くに及ぶ。

b. 甕Cの各形式と胴部文様との関係 各形式は胴部文様とも相関関係がある。胴部最大径付近まで残っている破片でみると甕C1は5点中3点が無文であった。一方、甕C2には直線文を施すものが多く、16点中11点が直線文のみ施すものであった。これは甕C3と合わせると、7割以上を直線文が占めることになる。甕C4・甕C5では列点文や複数の文様の組み合わせが多くなり、11点すべてがこれらの文様であった。

このように各形式は装飾方法との間に関係があり少飾と多飾という点で甕C1～甕C3と甕C4・甕C5との間で大きく分けることができる。

#### ⑤甕Dにおける属性間の相関関係と広域分布

この器形は13点と極めて稀少である。しかしながら口縁端面に中位刻みをするものが13点中11点と大半を占める。胴部内面はほぼすべてハケ調整で、そのうちの9点は斜め方向にハケ調整を施すものであり、形態から調整まで高い相関関係にあるといえる。この形態の甕は大和瀬戸内折衷形に<sup>(注57)</sup>

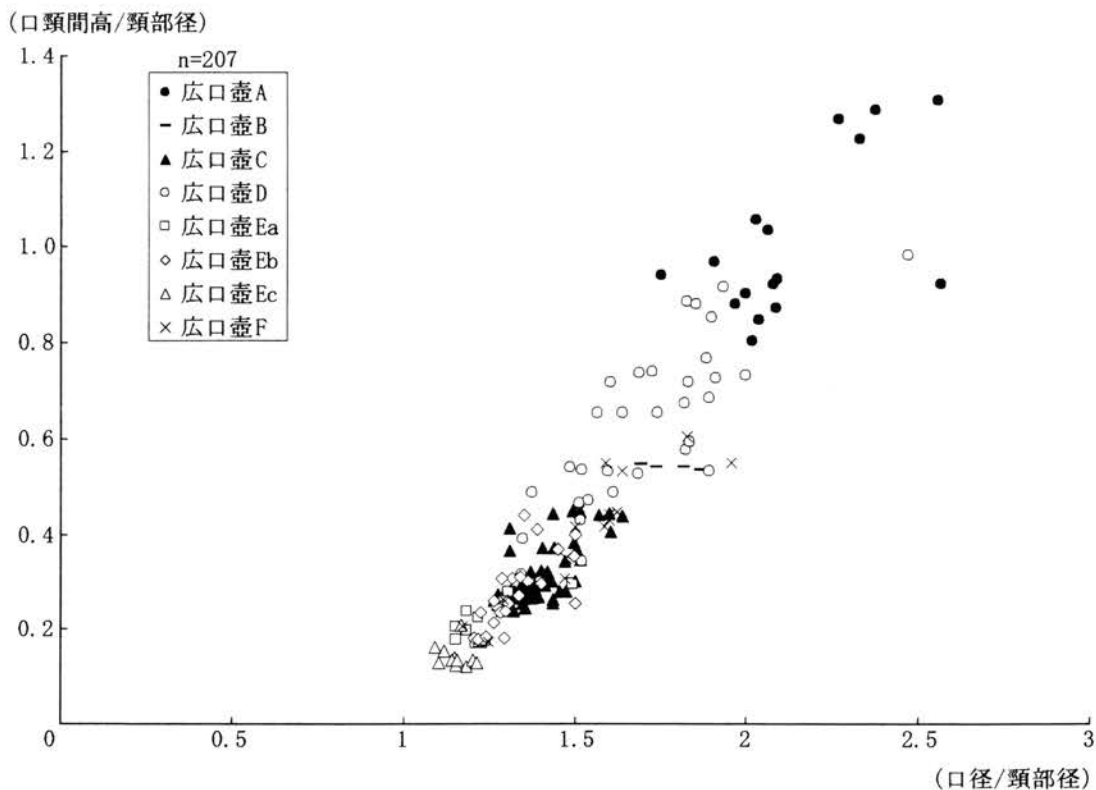
対応する。口頸部の接手法をみると頸部の境目で接合痕が確認できるものが多く、瀬戸内系の甕の接手法とよく似る。製作技法についても甕Bbに近い。しかしながら大きさは13点中11点が口径15cm～20cmの範囲に収まるものであり、甕Aに近い。まさしく大和瀬戸内折衷形といえる。

同様の形式の甕は近江地域の高田館遺跡や丹波地域の池上遺跡・千代川遺跡、大和地域の芝遺跡<sup>(注58)</sup>などで多く出土している。この点で分布の広域性が指摘できるが、局所的でありその分布の中心は指摘できない。多く出土している遺構の大半が方形周溝墓でありその特殊性がうかがえる。市田齊当坊遺跡でも13点中7点が方形周溝墓出土であり、土坑・住居跡出土のものは2点のみであった。いずれにしても稀少であり、ここでは形態と調整・装飾法に高い関係が看取できることを指摘することにとどめこれ以上の細分は試みない。

### (3) 壺の分類

#### ① 器形と口頸部係数比との相関関係

弥生時代中期の代表的な壺に広口壺がある。これは長頸のものから太頸のものまでさまざまな形態のものがああり、設定者によって異なる設定がなされている。その要因は個々の器形が複数の要素を大きく重複していることにあると考えられる。本稿では口頸部形態から大きく6つに大別した。これらの壺は、口径/頸部径比と口頸間高/頸部径比との間に相関関係があり、第62図のように示すことができる。これをみると分布が一か所に偏る器形と偏りがなく分散的に分布する器形があることがわかる。広口壺Ea・広口壺Ecは、前者であり、それぞれ口径/頸部径比1.2付近と1.1付近に偏って分布している。広口壺Cは、口径/頸部径比1.3～1.4付近に偏って分布する傾向にある。一方、広口壺Aや広口壺D・広口壺F・広口壺Ebは、後者であり、一か所に偏ることはな



第62図 広口壺の口頸部係数比

く広域に分散的に分布する。例えば広口壺Dは口径/頸部径比1.5~2.0の間に分散的に分布している。広口壺Aは口径/頸部径比1.9~2.1の間と2.3付近に分布している。

なお巨視的にみると、口頸間高/頸部径比で0.4~0.5前後に空隙が確認できる。0.4~0.5以上のもは広口壺A・広口壺Dが多く、そのほかの形式は0.4~0.5よりも値が下のものが多い。前者は長頸系、後者は太頸系といえる。これより一か所に偏る傾向にある器形は全て太頸系のものであるといえることができる。

これらの広口壺の個数は広口壺A42点・広口壺B4点・広口壺C47点・広口壺D57点・広口壺E52点・広口壺F16点であり、広口壺A・広口壺C・広口壺D・広口壺Eが市田齊当坊遺跡の主要な壺である。

②器形と口縁部属性との相関関係

口縁部形態と口縁端部装飾との間に関係が認められた(付表6)。口縁端部装飾には複数確認できたもので13種類のもが確認できた(第52図)。このうち数量の多いものは無文・下端刻み・波状紋・凹線文で少なくとも20点以上ある。そのほかの装飾はほぼ全て10点満たないものばかりであり、上記4種類の装飾法が市田齊当坊遺跡の主要なものであることがわかる。口縁部形態1は大半のもが無文であり、18点中16点と9割近くを占める。口縁部形態3も同様に無文のもが多く、9割近くが無文のものである。口縁部形態2は無文のもとの波状文のもとの刻みをするものも多く存在する。口縁部形態4・5はそれぞれ無文と波状文と凹線文が多い。口縁部形態6は波状文と凹線文のみであり、特に凹線文の方が多い。口縁部形態7は刻みを施すものと波状文を施すものも多く、刻みと波状文を同時に施すものもあることから両者の密接な関係がうかがえる。逆に口縁部形態8では刻みを施すものだけとなり、波状文のものは少なくなる。これらの結果から口縁部形態と口縁端部文様の関係において口縁部の要素を大きく7つに分類した。(第4章第1節、弥生土器、土器分類の項参照)

これらの7つの要素は各形式と強い関係にある(第63図)。広口壺Aは要素1・2・7と関係が強く、特に要素7は4割近くを占める。これに対し広口壺Cは要素4・5と関係が深く、全体の8割以上を占める。広口壺Fはほとんど要素1であるのに対し、広口壺Dは各要素が同様の割合で存在する。広口壺Dはそのほかの要素のものが多量に存在する。この組み合わせで十数点あるが、

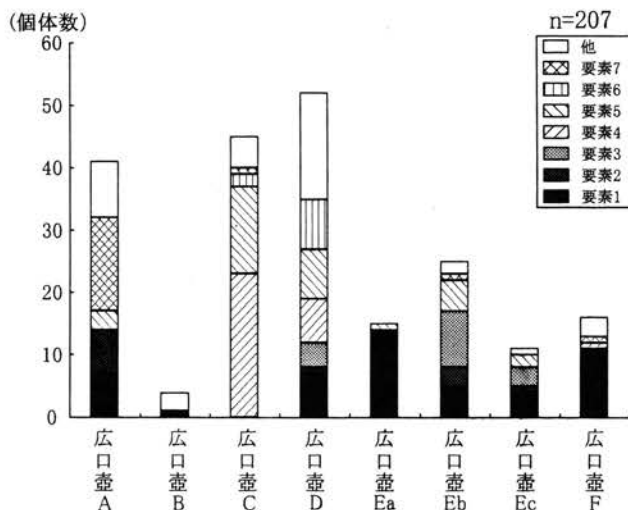
付表6 広口壺における口縁端部形態と装飾の関係

	口縁部形態	端部の文様				総計
		無文	下端刻	波状文	凹線文	
	1	16	2	0	0	18
	2	14	6	13	0	33
	3	33	0	2	0	35
	4	11	1	25	8	45
	5	8	0	10	31	49
	6	0	0	3	11	14
	7	4	6	9	1	20
	8	1	10	2	0	13
	総計	87	25	64	51	227

特に綾杉文や扇形文が多く半数近くを占める。これらの文様は他の形式ではほとんど確認できず広口壺Dとのみ高い相関関係を示す。広口壺Eでは広口壺Eaはほぼ要素1であるのに対し、広口壺Eb・広口壺Ecは要素1と要素3と要素5が同様に存在している。

③各形式と頸部・胴部文様構成との関係

各形式と頸部・胴部文様構成との間にも強い関係がうかがえる。頸部径付近まで残存する個体をみると広口壺Aは、42点中16点となるがこのうち無文のものは3点しかなく大半は直線文などの文様を施文している。広口壺Dは、頸部径付近まで残存するもので32点あるが、そのうちの15点が頸部無文であり、広口壺Aと比べ頸部無文のものと関係が強いということがわかる。そのほかでは14点が頸部に突帯文や凹線文を施すものであった。これらの文様構成は8割近くが広口壺Dと組み合わせ



第63図 広口壺の口縁部要素と器形の関係

うものでありこの形式と関係の強い装飾法であることがわかる。胴部文様まで残存するものとすべて無文のものは3点のみであり、逆に胴部まで無文のものは広口壺Dでは一般的でないことがわかる。一方、広口壺Eでは、胴部まで残存しているもの32点中すべてが無文であり、広口壺Dとは対照的に胴部まで無文のものが大半であった。広口壺Cは、直線文と波状文を交互に施文する構成のものが多く、25点中15点と6割を占める。また、最上部の櫛描文が残る破片40点のうち、2割程度に最上部が波状文のものが認められた。

内面瘤状突起の出現頻度において各形式で差異が確認できた。広口壺A・広口壺D・広口壺Fではそれぞれ2割から3割の出現率で内面に瘤状突起をしている点で共通している。一方で広口壺C・広口壺Ea・広口壺Ecでは内面瘤状突起は全く確認できなかった。これは前述の口頸部係数比(第62図)では前者は分布が分散的であった形式に対応し、後者は分布に偏りが確認できた形式に一致する。内面瘤状突起と口頸部係数比の2つの属性が高い相関関係にあることは極めて興味深い。内面瘤状突起は近江地域との関係が強い属性であり、この地域との関係がうかがえる。一方前述のように広口壺Dは、口縁端部に扇形文や綾杉文を施すものが多く、頸部では凹線文や突帯文をするものが多い。これらの属性はむしろ摂津地域との関係が高い。このようにみると一つの形式に様々な地域の特徴的な要素が混ざり合っている点に分散的形態のものの特徴的があるということが想定できる。分散的形態のものは畿内通有の形態であり逆にいえばその通有性ゆえに形態や属性が一定でないと解釈することができる。

以上のことより、広口壺は以下のようにまとめることができる。

各形式は口縁部の要素の選択や文様あるいは文様施文部位の選択において異なっており、それぞれ強い規範のもとで作られたと想定できる。同時にこの意味でそれぞれの形式を相互に組列化することは困難であるということが出来る。直感的に広口壺Aから広口壺D、あるいは広口壺Dから広口壺Ebへという型式変遷を想定できるが、型式の漸移的変遷を前提としうるような中間的要素は抽出できなかった。この点は数量的保証が得られてからの課題とし、ここでは各口縁部の要

素と形式の組み合わせによって型式を設定する。

それぞれの型式変遷は広口壺A1→A2→A7、広口壺C4→C5→C6、広口壺D1→D3→D4→D5→D6、広口壺Eb・Ecはともに1→3→5という方向が設定できる。なお広口壺Eaと広口壺Fは大半が口縁部の要素1であり古い形態のもの、広口壺Cは口縁部の要素4以上のものが多く新しい形態のものと想定することができる。

### 3. 一括資料による検証

以上の型式学的検討を基に一括資料によって検証を試みる。この場合、一括性の観点から土坑の資料が望ましいことはいうまでもない。本稿では最優先すべき資料として土坑における資料を扱い、さらに住居跡の中でも出土状況の良好な資料を採択する。なお市田斉当坊遺跡では、第Ⅱ様式から第Ⅲ様式にかけて土坑から良好な資料を得ることができた。しかしながら第Ⅳ様式では大溝や方形周溝墓周溝からの大量出土という出土例が多く、一括性の高い資料はほとんど望めない。よって第Ⅲ様式から第Ⅳ様式にかけては、その検証が曖昧にならざるを得ない。この点で山城土器様式において課題として残されていた問題は今回の資料においてもそれほど解消することはできない。集落変遷や土器の廃棄慣習について、より深い理解が必要である。この点は今後の課題とし、ここでは方形周溝墓などの資料を便宜的に使用する。

この観点から各遺構からの出土した土器の共伴関係を示したのが付表7である。なお表においては土坑・住居跡の中で良好な出土状況のもののみを提示した。方形周溝墓や大溝などの資料に関しては補足的に説明する。

まず、甕Ab1・甕Ab2は甕Adと共伴する率が高く、甕Bや甕Cなどと共伴する例はほとんどなかった。広口壺との共伴例では広口壺A・広口壺Eaとが確認できたが、そのほかのものとは共伴しない。甕Aa2は上記の甕Ab1・甕Ab2・甕Ad・広口壺A・広口壺Eaの各型式と共伴するほか、甕Aa3との共伴例も多い。甕Bの諸形式では他の形式との共伴関係における明確な差異は確認できなかった。甕Cは甕C1・甕C2では甕Aaと共伴するものがあつたが、甕C3～甕C5では共伴しなかった。

壺に関しては、方形周溝墓・大溝からの出土が多く明確な形で共伴を確認できるものはすくなくかつた。広口壺A1・広口壺A7・広口壺Ea1は、甕Aa2・甕Aa3や甕Ab・甕Adと共伴するものが多く、甕Bと共伴するものはなかった。広口壺C・広口壺D・広口壺Eb・広口壺Ecは資料的制約があるが甕Bと共伴する例が多く甕Aとは共伴するものが少ない。

以上の結果を基に市田斉当坊遺跡出土土器を7期に区分し型式変遷図を作成した(第64・65図)。

## 4. 各時期の様相

### (1)市田1期

山城Ⅱ-1様式と山城Ⅱ-2様式に相当する。市田斉当坊遺跡ではこの時期の資料はほとんど確認できなかったため、便宜的に両様式を合わせて1時期とした。S KA11出土の264や包含層出土の1577がある。264は頸部にヘラ描沈線文を施している。1577は頸部に櫛描直線文と貼付突帯





の組み合わせの文様構成をしている。南栗ヶ塚遺跡方形周溝墓3911出土広口壺に類例がある。

これよりやや下の資料として、S DC437出土の広口壺A2(1244)やS DD19出土の広口壺A1(1269)がある。ともに頸胴部の屈曲が不明瞭で胴部が張らない。鶏冠井清水遺跡第1号方形周溝墓や中久世遺跡土坑S K20<sup>(注61)</sup>出土資料などに、同形同大のものがあり同時期に位置づけられる。いずれにしても少量であり組成を復原するほどの資料には恵まれていない。

#### (2)市田2期

山城Ⅱ-3様式に相当する。標準資料としてS EC453側木柵内・S HD23・S KA79・S KA77・S DA73などがある。S HD23など住居跡も数例あるが、大半は土坑であった。特にA調査区に多い点が特筆できる。

広口壺Aは、市田1期のものに比べると頸部が短く締まり口頸部が大きく広がる形となる。広口壺A1・広口壺A2が主要な型式である。そのほかに広口壺A7の出土例もあり(111・809)、広口壺Aの型式差は時期的に大きく重複すると考えられる。広口壺ではそのほかに広口壺B・広口壺Ea1・広口壺F1がある。広口壺F1は安満遺跡など撰津地域に顕著にある形式である。<sup>(注62)</sup>甕は甕Aの諸形式がある。いずれも胴部最大径よりも口径のほうが大きい形態である。高杯はS KB905などで高杯B1が共伴している。内面突帯は貼り付けてないものが多い。

#### (3)市田3期

山城Ⅲ-1様式に相当する。S HA74・S KB899・S KC115・S KC335・S KC296・S DC107・S DD20がある。B・C調査区の土坑が多い点と方形周溝墓からの出土例が顕著である。方形周溝墓からは数点の土器が完形に近い形で出土する例が多い。

広口壺Aは頸部が短く締まり頸胴部の境が明瞭になる。広口壺A7が量的に圧倒する点が挙げられる。そのほかに広口壺Ea1・広口壺F1がある。甕Aは甕Aa以外の形式は大幅に減少し主要な形式ではなくなる。甕Aでは甕Aa2・甕Aa3など胴部最大径が口径を上回るものが多い。甕C1・甕C2は土坑・住居跡の資料では確認できなかったが、S DC103・S DC107などの方形周溝墓に比較的多くある。広口壺A2などと共伴しておりこの時期に確実に存在すると考える。S KB899からは甕Ba1が出土している(546)。この形式の甕の初現である。高杯は住居跡・土坑では共伴しなかった。S DC513など方形周溝墓で高杯B2が共伴する程度である。

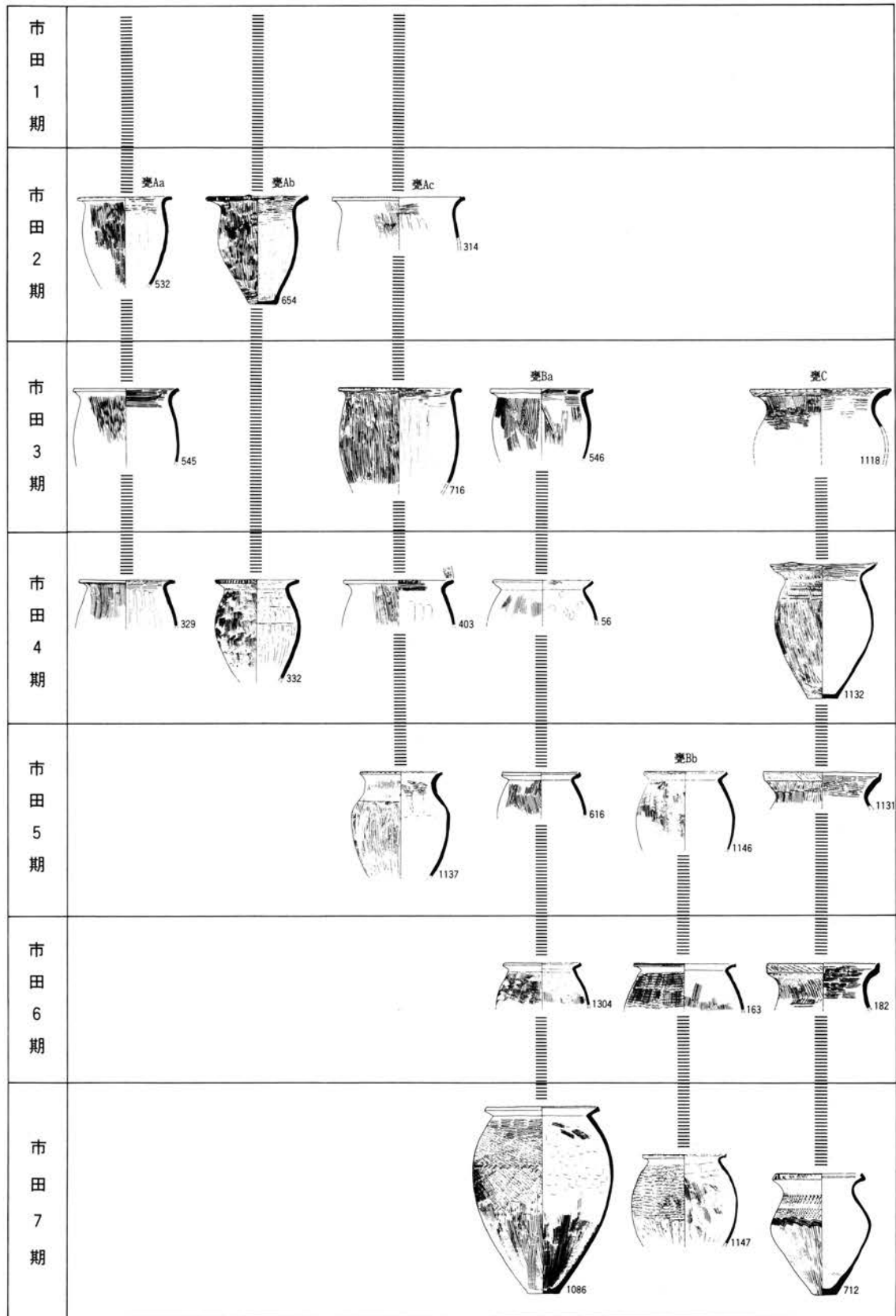
#### (4)市田4期

山城Ⅲ-2様式に相当する。S HB341・S KB403・S KB165などがあるが住居跡・土坑の資料はほとんどなくなり大半は方形周溝墓の資料になる。

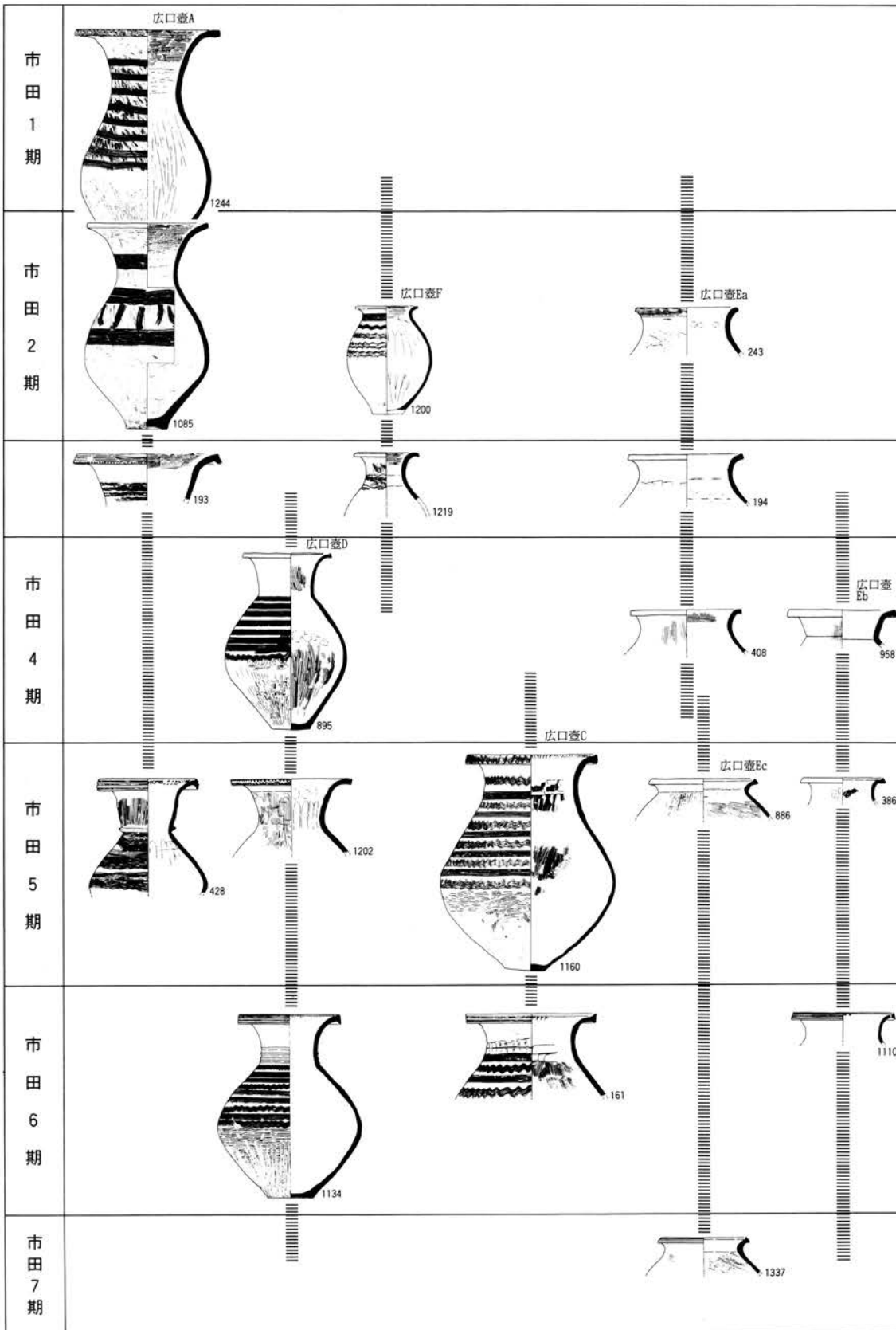
広口壺は、形を復原できる良好な資料はほとんどない。広口壺A・広口壺Ea1・広口壺F1はこの時期以降ほとんど確認できなくなる。広口壺D3(895)や広口壺Ebが方形周溝墓から出土している。有段口縁壺が顕著に存在する。有段口縁壺は特に口径35cm程度の大形のものが多い(366・367)。甕は甕Aa3・甕Aa4・甕C2のほか甕Ba1が顕著になる。

#### (5)市田5期

山城Ⅳ-1に相当する。S KB776・S KB297・S EC111などがあるが大半は大溝や方形周溝墓



第64図 弥生土器形式変遷図(1)



第65図 弥生土器形式変遷図(2)

からの資料となる。方形周溝墓の資料では一箇所から大量の土器が出土する例が多い。

広口壺では広口壺C・広口壺D・広口壺Eb・広口壺Ecがある。いずれも大半が方形周溝墓・大溝からの出土となり具体的な型式の消長は不明である。広口壺A5が確認できた。S KB499出土の広口壺A5(428)は、口縁部に凹線文を施し頸部には突帯を1条貼り付けている。これは広口壺Dの施文方法であり、頸部の長さを除けば広口壺Dと変わらない形態になっている。広口壺Aの系列と考えるよりも広口壺Dの変異体と評価した方がよいかもしい。また、広口壺Dでは口縁端部・口縁内面に扇形文や綾杉文を施し、円形浮文を貼り付けるものが多数確認できた(1316~1318・1343)。この装飾法は、摂津以西の地域に多いものである。ただし内面に瘤状突起を持つものが多い点で摂津以西地域の手法とは異なる。甕では甕Baの他に甕Bbが出現する。甕Aでは甕Aa2・甕Aa3は少なくなるが、方形周溝墓から甕Aa4・甕Ac4が比較的多く確認できた。いずれも甕Bと同程度に胴部が張る。

#### (6)市田6期

山城Ⅳ-2様式に相当する。S HC80・S HC92などがある。土坑にもこの時期に位置づけられるものがあるがいずれも1~2点の出土であり、共伴関係を検証することはできなかった。そのほかにS DC99やS DC25の一部がこの時期に位置づけられる。

広口壺では広口壺C5・広口壺Eb3・広口壺Eb5が確認できる。そのほかに方形周溝墓から広口壺D5・広口壺D6・広口壺Ec5などが出土している。これらの型式がこの時期の主要な型式とみてよいであろう。広口壺D6は、端部に数列の円形浮文をするものが顕著である(1368~1370)。この装飾法も摂津以西の地域に多いものであり、前時期と同様、広口壺Dはこれらの地域からの影響が強かったと考えられる。甕は、甕Bbが一般的と考える。甕Bではいずれの形式でも胴部下半にミガキをするものは少ない。胴部下半にケズリをした後ミガキをする手法はこの形式の甕において一般的な手法である。市田齊当坊遺跡ではこの手法は顕著ではない。この傾向は東土川遺跡<sup>(注63)</sup>などでも確認できるものである。甕Bにミガキを多用しないという点に山城の地域色がみられる。そのほか甕Cでは甕C4が主要型式と考える。

#### (7)市田7期

山城Ⅳ-3様式に相当する。良好な資料はS KC478a・S TA97のみであり、大半がS DC99・S DC25などの方形周溝墓や大溝からの出土資料となる。壺は不明な点が多いがS DC25の広口壺Ec5に古曾部・芝谷遺跡第12号住居跡に形態的に類似するものがあり(1337)、この時期に位置づけられる。S KC478aからは甕C5と甕Ba1が共伴しており、甕Ba1はこの時期まで残ると考えられる。甕Ba1(713)はハケ調整をする甕であるが胴部下半にケズリ後ミガキの手法を採っている。S TA97出土の甕Ba2(1086)はタタキの痕跡を残し、胴部に列点文を施す点で典型的であるが、胴部下半をケズリの後ハケ調整をしており特徴的である。この土器棺の棺蓋には有段口縁壺の胴部片(1087)が利用されている。1087は頸部に突帯を貼り付けず刻みを施す手法であり甕と同様この時期に位置づけることができる。他にS DC99やS DC25からはハケ調整の上にタタキをする甕が確認できた(1147・1363)。この甕の手法は2次タタキと酷似すると考えられる<sup>(注64)</sup>。この手法は新しい

要素といえ、この時期のものと考えられる。

### 5. 市田齊当坊遺跡における推移と画期

以上、甕と広口壺の型式変遷を中心に基本組成の時期的推移をみてきた。これを巨視的にみると市田4期で大きく2つに分けることができる。市田1～3期は長頸系では広口壺Aが主要であり、広口壺A1・広口壺A2・広口壺A7の各型式が大きく重複しながらも漸移的に推移する傾向が確認できた。太頸系では広口壺Ea1が主要な形式であった。これらの形式は市田4期以降ほとんど確認できなくなる。一方、市田4期以降、長頸系では広口壺D、太頸系では広口壺C・広口壺Eb・広口壺Ecが主要な形式となる。型式の漸移的変遷を検証することはできなかったが、これらの形式はすべて市田4～7期の時期に納まり、各型式が大きく重複しながら消長したことが想定できる。それぞれの形式は、口縁部形態・文様構成などをみても前時期から系譜が明確に追える形式ではなかった。この点は甕についても同様である。市田1～3期では甕Aが1→2→3→4と漸移的に推移する。市田4期以降では甕Bが盛行しその各型式が消長する。甕Aと甕Bとは前述のように製作技法や法量の採択の点で明らかに異なった製作原理を採っており系譜の追えるものではない。このように4期を境に器種構成が大きく変容しており、この時期を画期とすることができる。

さらに市田4期を境に土器が出土する遺構の状況も大きくかわる。前述のように市田1～3期では土坑から大量に土器が出土するケースが多かった。遺存状態においても半存の状態のものが10点以上も出土する場合も少なくなかった。一方住居跡から出土するものは口縁部のみの破片が多く、方形周溝墓からは1・2点の完形の土器が出土するケースが多い。4期以降では土坑からの出土資料は少なく、1・2点のみの出土例が多い。最も顕著であるのは方形周溝墓や大溝から大量に出土するケースである。これらの遺構から出土した土器の大半は4期以降の土器であり、それ以前の形式のものとはあまり共伴しない。

このように市田齊当坊遺跡ではこの時期を境に土器の出土する遺構の性格が大きく異なっており、土器の廃棄方法といった慣習行為全般における変容を示している。つまりこの時期を境に土器を取り巻く環境そのものが大きく変容したということが想定できるのである。

この点は山城地域全般に同様の傾向が指摘できる。山城地域の編年において山城Ⅲ-2様式以降は包含層や溝などからの出土のものが多く一括性の乏しい資料が多かった<sup>(注65)</sup>。型式の推移と画期という観点と出土遺構・出土状況の変化という観点の双方において大きな変化が看取できるのがこの時期であり興味深い問題といえる。この点は集落構造の変遷の問題と編年の問題とが複雑に絡んでおり今後の課題である。

### 6. まとめ

市田齊当坊遺跡出土土器を属性の関係の強さによってまとめ、その変遷を通時的にみてきた。その結果、以下のことがわかり、課題として残った。まず、大和形甕として知られる形式の甕は市田齊当坊遺跡の場合、大和よりも近江地域との関係の強い形式であることがわかった。この形

式の甕と摂津形甕との出現率は地理的勾配の関係にあり、この意味で市田齊当坊遺跡は東西土器様式の中立的な様相を呈していることが明らかになった。瀬戸内系甕は大和形甕と異なる法量のもので作られたことが明らかになり、異なる製作原理のものであることが想定できた。また、胴部下半にミガキを施さないなど定型的な瀬戸内系甕とは異なり地域色があることがわかった。

広口壺ではそれぞれの形式は口縁部形態・文様構成などにおいて異なる手法を採っており、異なる規範の基で作られていることが想定できた。長頸系と太頸系があり太頸系のもは同形の形態を指向した形式が多いということが明らかになった。

さらに市田齊当坊遺跡は大きく前半と後半に分けられ、市田4期を境に器種構成などが大きく変わることがわかった。課題としてはこのような器種構成の変容の要因はなにかということである。前述のようにこの問題は市田齊当坊遺跡に特殊であるというよりも山城地域に一般であるといえることができ、山城土器様式における問題点とも絡めた議論が必要であり、改めて検討したい。

(松野元宏)

## 第2節 市田齊当坊遺跡における石器製作

市田齊当坊遺跡では、未成品を含む大量の石器や原石、剥片が出土した。ここでは石材の入手から石器の製作、再生や転用を経て廃棄に至る過程、すなわち石器のライフヒストリーを明らかにすることを目的とする。特に資料の豊富な粘板岩に焦点を当て、磨製石器について考察を進めていく。

### 1. 各器種のライフヒストリー

#### (1) 石庖丁

粘板岩を素材とするものが約95%で、残りの約5%が片岩製である。ここでは、資料の豊富な粘板岩製石庖丁について製作技法の復原を行う。製品176点に対して未成品17点と多くはないが、製品に残る製作痕跡や、不明品、石材として報告した資料も含めて検討した結果、従来報告されてきた調整剥離によって形を整える技法のほかに、擦切施溝分割を行う製作技法が存在することが確認できた。はじめに前者の製作技法について述べる。

a. 素材の獲得 大半が剥片素材であるが、少数ながら円礫素材のもの(478・513)も出土している。剥片素材で形状の確認できるものはすべて横長剥片である。

b. 剥離整形 剥片素材の周縁に調整剥離を加えて形態を整える工程である。<sup>(注66)</sup>剥離整形の後、体部、背部、刃部の一部を垂直方向に敲き、厚みを減らしたり器面を平坦にしたりする資料も認められる。体部の敲打痕は径約1mmの円形で、細い工具の先端部を用いたもの、背部や刃部の敲打痕は幅約0.5mmの線状で、細長い工具を直交方向に用いたものと思われる。<sup>(注67)</sup>円礫素材の場合は剥離整形工程が省略され、敲打も施されない。

c. 研磨 研磨により最終的な整形を行う工程である。体部のみ研磨したもの(386・410・473・576・577)、体部と刃部を研磨したもの(496・513)があることより、体部、刃部、背部の順に研磨を行ったものと考えられる。また、背部は未研磨の状態での刃部の研ぎ出しを行っているも

の(496・513)、背部と刃部とも平坦に研磨したもの(423・424)の両者がある。

d. 穿孔 両面からの回転作業によって紐孔を貫通させる工程である。全面研磨を行っているもの(400・405)と、体部・刃部に未研磨部を残すもの(598)がある。回転穿孔に先立って穿孔部に敲打を施した例は確認できない<sup>(注68)</sup>。

次に、後者の製作技法、擦切施溝分割を行う製作技法について述べる。まず、素材の両面に研磨を施し、平坦面を作出する。擦切施溝分割によりおおまかな形状を作り出し(624・1454)、穿孔を施して製品となる(407・518)。施溝前の研磨を省略したものでは施溝部分が大きく湾曲して擦切施溝に労力を要しており(1454)、平坦面作出の必要性が示されている。擦切施溝分割を行う資料は未成品、製品とも少なく、剥離整形による製作技法の方が一般的であったと考えられる。

石庖丁の再生例では、破損部を研磨するもの(398・440)がある。転用例では扁平片刃石斧への転用が最も多く認められ、転用途中のもの(384・431・474・479・482・524・581・600)、転用後のもの(308・322・632)などがある。また、小形石庖丁に転用したもの(568)、磨製石鏃に転用途中のもの(442・485・604)、磨製石剣に転用したもの(48)も出土している。これらはすべて調整剥離、敲打、研磨といった再加工が施されており、中には擦切施溝分割を併用するもの(48・524)もある。また、破損後に研磨を施したもの(99・430・434・537・589・590)、擦切施溝分割を施したもの(471・552・553・558)など、目的の判断できない再加工品も多数出土している。このほか、事実報告でも述べたように、背部や刃部に線状敲打痕、体部に敲打痕がみられるものが多数ある。特に、背部、刃部に施された線状敲打は石庖丁本来の形態を大きく変形させており、敲石に転用したものと考えられる。こうした敲石への転用にあたっては再加工を行っていない。

一方、大型石庖丁では、破損部を研磨する再生例(499・580)、石庖丁への転用例(574)があるが、石庖丁以外の器種への転用は確認できない。

## (2) 石 剣

約85%が粘板岩製、約15%がサヌカイト製である。まず、磨製石剣の大半を占める粘板岩製のものについて、製品に残る痕跡も検討して製作技法の復原を試みる。

剥片素材が中心であるが、円礫素材のものも1点出土している(71)。研磨より前に施された調整剥離痕の残る製品、未成品があるほか、体部に研磨前に施された敲打痕の残る未成品(92)、側縁部に研磨前に施された線状敲打痕の残る未成品(101)や製品(71・86)の出土より、調整剥離、敲打、研磨によって製作されたものと考えられる<sup>(注70)</sup>。また、基部に擦切施溝分割痕のあるものが出土している(40・54)。素材からの製作段階で施されたものか、再加工にあたって施されたものかは判断できないが、かなり厚みのある板状素材に研磨を施した資料が出土していることから(645・1455・1458)、磨製石剣にも石庖丁と同様、擦切施溝分割によって製作されたものもある可能性が考えられる。

再生例では、刃部を再加工したもの(21・86)、茎部を再加工したもの(37)がある。転用例では、やはり、扁平片刃石斧への転用が多数認められる。転用中のもの(42・75・608・618)、転用後のもの(269・280・297・301・309・326・329・361・369)とも調整剥離、研磨によって再加工され

たものが多いが、擦切施溝分割を施したもの(42)も出土している。このほか、研磨により磨製石鏃に転用中のもの(617)、鏃に転用したもの(7)もある。また、破損後に研磨を施したもの(16・18)、調整剥離を加えたもの(29)、敲打と擦切施溝分割を施したもの(60)、研磨と擦切施溝分割を施したもの(90・614)、擦切施溝分割を施したもの(11)など、目的の判断できない再加工品も多数出土している。

サヌカイト製石剣では、14点のうち7点が部分的に研磨を施すもの、3点が全面を研磨する磨製石剣である。研磨痕の確認できない石剣はすべて破片であり、未成品や部分研磨品である可能性を否定できない。したがって研磨を施したサヌカイト製石剣の割合は極めて高く、全面を研磨するサヌカイト製磨製石剣が複数出土していることとともに、特徴的である。

### (3)磨製石鏃

粘板岩製が多数を占める。サヌカイト製が1点(105)出土しているが破片であり石鏃と断定はできない。

磨製石鏃の未成品は研磨途中のもののみであるが、製品に剥離面の残存するものが多い。これらの特徴も考慮すると、剥片を素材とし、側縁部に研磨を施して平坦面を作出した後(109)、主面を研磨し、最後に刃部を研ぎ出していると想定できる。剥離整形工程の未成品が出土しておらず、また、未成品・製品とも周縁に細かい調整剥離を加えた痕跡は認められないことから、整形は主に研磨によっていたと考えられる。

他器種への転用例は極めて少なく、擦切施溝分割によって小形の扁平片刃石斧に転用中のもの(611)が唯一の例である。また、なんらかの磨製石器から石鏃に転用中の可能性があるものとして、破損品に調整剥離を加えたもの(612)、調整剥離と研磨を加えたもの(639)がある。

### (4)片刃石斧

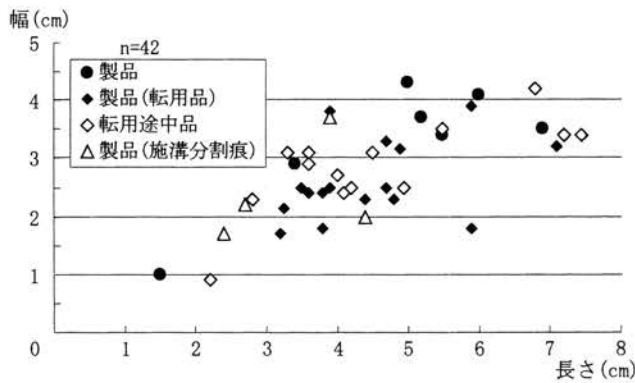
扁平片刃石斧では、粘板岩が約7割と最も多く、閃緑岩、ヒン岩など火成岩も約2割と一定量を占める。柱状片刃石斧も約7割が粘板岩製である。柱状片刃石斧では未成品の可能性のあるものが粘板岩製で1点出土しているが(655)、扁平片刃石斧の未成品と考えられるものは、各石材とも1点もみられない。

粘板岩製では扁平片刃石斧を他器種へ転用中、あるいは転用後の確実な資料は確認できないが、他器種から扁平片刃石斧への転用例は極めて多い。また、再加工を施し、刃部位置を変えて扁平片刃石斧とする転用例(314・378)もある。また、なんらかの磨製石器から扁平片刃石斧へ転用中のもの(285)、転用後のもの(279・293・298・302・360・370)も多く、調整剥離や研磨によるもののほか、擦切施溝分割によって再加工するもの(285・360)もある。

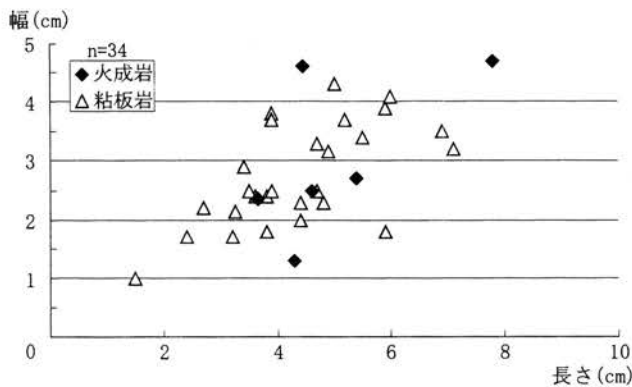
火成岩製扁平片刃石斧でも、太型蛤刃石斧から扁平片刃石斧に転用中のもの(303)、転用後のもの(373)と、やはり転用が認められる。また、再加工により握り部を作出してクサビへ転用したものもある(307)。

また、製品の中に、擦切施溝分割痕があり、かつ明確な転用痕跡は認められない扁平片刃石斧(275・330・331・349)、柱状片刃石斧(353)があり、すべて粘板岩製である。これらが石庖丁と





第66図 粘板岩製扁平片刃石斧の法量分布



第67図 扁平片刃石斧の法量分布

同様、板状素材から擦切施溝分割を用いて製作された製品であるのか、磨製石器破損品を素材とした転用品であるのかを、法量から検討する。第66図は、転用痕跡・擦切施溝分割痕とも確認できない製品、転用品、転用途中品、擦切施溝分割痕があり転用痕跡の確認できない製品のそれぞれの法量分布を示したものである。前三者の分布範囲には差異がみられないのに対し、擦切施溝分割痕があり転用痕跡の確認できない製品はすべて、長さ4.4cm以下の法量の小さいものに集中している。このことは、これらが転用品であることを示しているよう。また、擦切施溝分割痕のない転用途中品や転用品と比較して小さいということは、石剣や石庖丁か

らの転用品のみでなく、より大形の扁平片刃石斧から小形の扁平片刃石斧へと転用したものが含まれていることを示している(第41図)。

擦切施溝分割痕のあるものが転用品であるなら、粘板岩製扁平片刃石斧の大半が転用品ということになる。具体的な点数を挙げると、粘板岩製扁平片刃石斧製品37点のうち、転用痕跡の明確なものが23点、転用痕跡は明確でないが擦切施溝分割痕のあるものが4点に対し、転用痕跡・擦切施溝分割痕とも確認できないものはわずか8点、つまり粘板岩製扁平片刃石斧の約8割は転用品である。また、製品37点のうち7点は両刃に近く、うち5点は明らかな転用品であることから、素材となった器種の形態が刃部形状を規制して両刃となったものと考えられる。一方、転用痕跡・擦切施溝分割痕とも確認できない8点のうち2点は両刃、かつそのうち1点は極小品(354)で、転用品である可能性が高い。擦切施溝分割を施していても施溝部分が明瞭には残らないものも多く(331・349・353)、また、再加工や使用により転用痕跡が完全に消滅する可能性も考慮すると、実際には、粘板岩製扁平片刃石斧における転用品の占める割合はさらに高かったと想定できる。扁平片刃石斧は未成品が出土していないが、扁平片刃石斧への転用途中品は前述のように多数出土する。未成品が出土しないのは遺跡内で製作していないためではなく、転用によってまかなわれていたためと考えられるのである。

このような粘板岩製扁平片刃石斧生産のあり方に対し、火成岩製ではどうであろうか。製品11点中、転用品は大型蛤刃石斧からの1点(373)のみで、転用品の占める割合は1割に満たない。

また、粘板岩製扁平片刃石斧と火成岩製扁平片刃石斧の法量を比較すると、粘板岩製が長さ1.5～7.1cmまで幅広い分布を示すのに対し、火成岩製は4.0cm以上に集中する(第67図)。このような石材による法量の差異は、密度の大きい火成岩には重量を要する大形石斧の機能が求められたこととともに、火成岩製では大形品から小形品への転用が行われなかったことを示している。火成岩製は1点を除き明確な片刃となっていること、擦切施溝分割痕のあるものが1点もみられないことも、火成岩製では転用品の点数が痕跡を確認できる以上には増えないことを傍証する。粘板岩製と火成岩製では、転用品の占める割合に著しい差異が認められるのである。

#### (5) 太型蛤刃石斧

火成岩を主体とし、砂岩など堆積岩も用いられる。未成品の可能性のあるものが1点(633)あるが、ほかはすべて製品である。製品はほぼ全面を研磨するが、基端部周辺に製作時の敲打痕を残すものも多い。素材の形状を明瞭に残し、礫素材と判断できるものもある(310)。

転用例では、扁平片刃石斧の項で挙げた例のほか、破損品を敲石や磨石に転用したもの(278・310・339・342・366・372)、クサビに転用したもの(320・336・355)がある。前者は基端側、後者は刃部側を再利用する傾向が認められる。転用の有無を判断できない破片を除くと約半数が転用されているが、扁平片刃石斧への転用以外は再加工を伴わない。

## 2. 石材からみたライフヒストリーとその比較

ここでは、前章で器種ごとに述べたライフヒストリーの様相を石材の視点からまとめる。磨製石器の素材として主体的に使用される粘板岩と火成岩それぞれのライフヒストリーを明らかにしたうえで比較を行い、その背景を考察したい。第68・69図は、破損後の石器がどのような再生・転用を経るかという概念図で、どの器種で再生が行われるか、どのような器種間で転用が行われるかといった器種間の関係を示している。再生品または転用品は資料番号を丸で囲んでいる。また、特に多数の資料が出土し、頻繁に行われたと想定できる転用のあり方を、太い矢印で表現した。実線で囲んだ資料は製品(再生品・転用品含む)、破線で囲んだ資料は転用途中品である。

### (1) 粘板岩

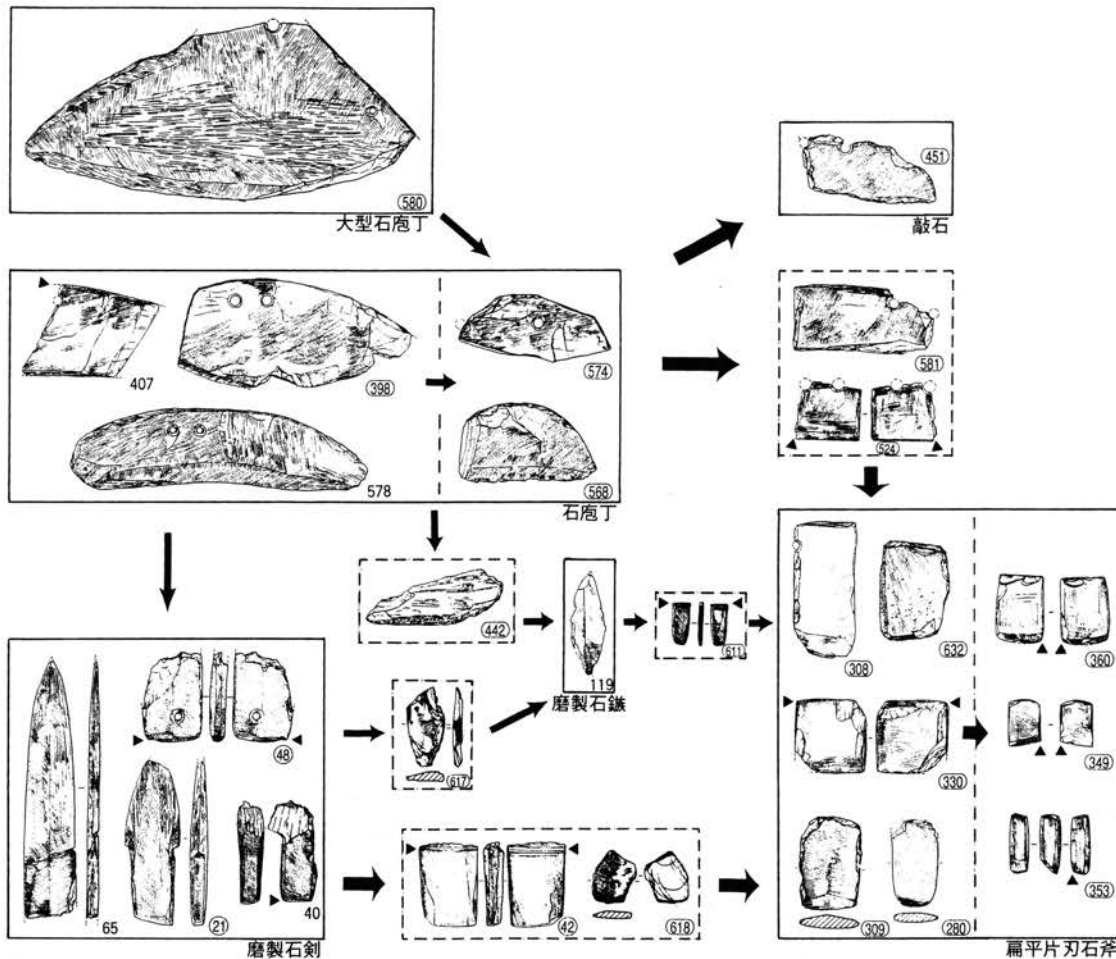
素材の獲得は、素材に足る法量を持つ礫(1439)が出土していることから、原石の状態を持ち込まれたと考えられる。これより法量の小さいものも含め、礫はすべて円礫であること、未成品や製品に残る自然面も大半が水磨を受けていることから、露頭付近ではなく河原や礫層からの採取と考えられる。また、自然面を残す資料の法量より、持ち込まれた原石はあまり大きなものではなかったことも想定できる。こうした原石から素材剥片を得て、石庖丁、磨製石剣、磨製石鏃の製作を行うが、石庖丁、磨製石剣といった大形石器は、原石の法量によっては礫素材からの製作となる。石庖丁では、調整剥離による製作技法と擦切施溝分割を用いる製作技法とが共存する。製作時あるいは使用時に破損したものは再生・転用され、中でも石庖丁破損品を敲石とする転用と、石庖丁、石剣から扁平片刃石斧、大形扁平片刃石斧から小形扁平片刃石斧へと再加工する転

用とが特に頻繁に行われる。再加工にあたっては、破損品の形状に応じ、調整剥離・敲打・研磨のほか、擦切施溝分割といった様々な加工方法を臨機応変に組み合わせる。

(2)火成岩

市田齊当坊遺跡で利用されている火成岩は閃緑岩やヒン岩といった緑色の岩石が大半である。特に扁平片刃石斧、砥石では緑色の岩石にほぼ限定されるが、大型蛤刃石斧は多様な石材を用いる傾向がある。素材の獲得は、原石、砥石も含め自然面が確認できるものでは水磨を受けたものが多く、粘板岩と同様、河原あるいは礫層からの採取が想定できる。確実な未成品は出土しておらず、また、多種の石材それぞれについて生産のあり方を検討することは困難である。しかし、緑色の岩石に関しては、原石や(1459)、大型蛤刃石斧の素材になりうる法量をもつ砥石(699・725)が出土しており、素材入手が可能であったと推測できる。未成品の可能性のある大型蛤刃石斧(633)も同質であり、この石材については素材入手と遺跡内での石器生産を想定しておく。使用により破損したものは、大型蛤刃石斧の基端側を敲石へ、刃部側をクサビへといった、再加工を伴わない転用が頻繁に行われる。

このように、粘板岩製石器と火成岩製石器では、素材の入手の時点では共通性がみられるが、その後のライフヒストリーにはいくつかの違いが指摘できる。器種選択、擦切施溝分割の採用、



第68図 粘板岩製石器のライフヒストリー(▲は擦切施溝分割痕)

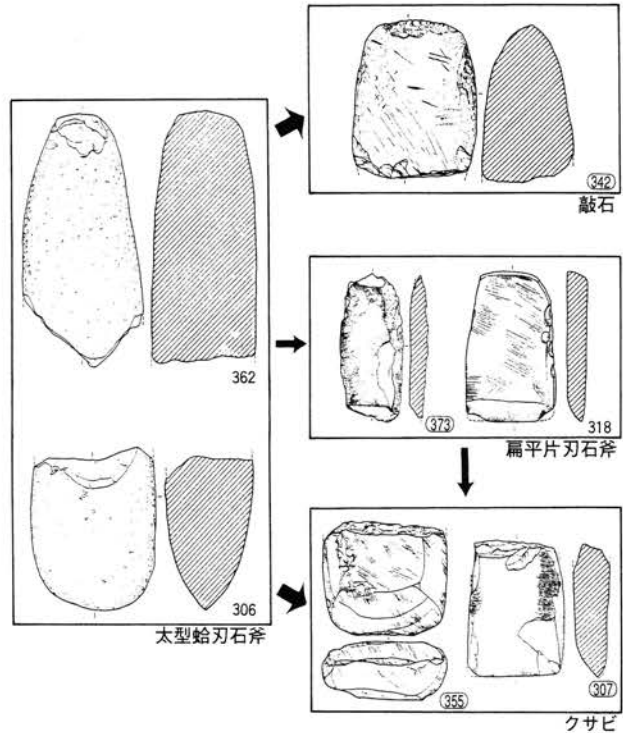
転用にあたっての再加工の有無、大形扁平片刃石斧から小形扁平片刃石斧への転用の有無などである。また、粘板岩は器種間の転用が重層的に行われるが、火成岩では、敲石、クサビへの一度の転用で廃棄されるようである。

こうした粘板岩と火成岩のライフヒストリーの差異は、石材の性質によるものとして理解できよう。太型蛤刃石斧など大形の石斧には火成岩、石剣や石庖丁、小形扁平片刃石斧には粘板岩という石材選択は、密度が大きく堅緻な火成岩、板状素材が得やすい粘板岩といったそれぞれの性質を活かしたものである。転用にあっても、粘板岩と比較すると加工しにくい火成岩は、比重や硬さを生かして

敲石やクサビとして利用の方が合理的であったのだろう。小形扁平片刃石斧の機能は粘板岩製で担うことができ、火成岩をあえて小形の扁平片刃石斧に加工する必要はなかったものと考えられる。

擦切施溝分割についてもやはり、適した石材にのみ用いられたと考えられる。擦切施溝分割では、施溝という工程自体は労力を要するものの、製作の続行が不可能になるほどの失敗は起こりにくく、調整剥離や敲打を施すのと比較して失敗率が低くなると想定できる。粘板岩のように板状の素材が得やすい石材では、素材を有効に使うのに適した方法であろう。特に、再生・転用の際は、製品であればもともと両面に研磨がなされているため、平坦面を作出する工程を省略できる。また、調整剥離や敲打による転用と比べ、最終的な研磨加工に要する労力が小さいという利点もあり、極めて合理的な加工方法と言えるのである。一方、板状剥片が得にくく、また、研磨や施溝に粘板岩以上の労力を要する火成岩では、擦切施溝分割を用いて加工する利点は少ない<sup>(註72)</sup>。擦切施溝分割が粘板岩にのみ施されていることは、偶発的に用いられたのではなく、粘板岩加工におけるひとつの確立した製作技法として存在した結果と評価できよう。

以上より、粘板岩と火成岩におけるライフヒストリーの差異は、市田齊当坊遺跡において、それぞれの石材の質が熟知され、剥片や礫を素材とする石器製作から破損品を素材とする再生・転用まで、石材、加工方法の合理的な選択がなされていたことによるものと考えられる。また、どちらの石材も原石が搬入されているにもかかわらず再生や転用が頻繁に行われていることは、再生・転用の多少が石材の希少性のみに影響されるものではないことを示している。破損品を素材とする石器製作は消費地におけるあり方とされてきたが、市田齊当坊遺跡の事例より、生産地か



第69図 火成岩製石器のライフヒストリー

消費地かということ以外の要因もかかわっていると想定できる。

では、こうした磨製石器のライフヒストリーに、時期差は認められるだろうか。石器の多くは大溝(環濠)など詳細な時期決定の困難な遺構や包含層からの出土であるため、遺構からの時期決定の可能な資料は限られるが、通時的な傾向を<sup>(注74)</sup>検討しておく。

磨製石器は、市田2期から市田7期まで出土するが、全体的な出土点数では、市田2期では少なく、市田3期から市田5期をピークとする。市田6期には減少に転じ、市田7期にはほとんど出土しなくなる。こうした傾向は各器種でも認められ、遺跡の消長と一致する。ただし、石庖丁、石剣は市田2期に出現するのに対し、石斧は市田3期以降にしかみられない。また、市田7期には石庖丁と石剣はみられず、転用品である粘板岩製扁平片刃石斧2点のみが出土しており、出現、消滅には器種による差異が認められる。製作の点では、粘板岩製石庖丁の未成品が市田3期から市田6期の各時期に出土していることから、石器の多い時期にはやはり石器製作もさかんであったと考えられる。また、転用品は市田2期にすでに出土しており、転用品の点数にも比率にも時期による大きな変化は認められない。石器製作がさかんな時期にも転用が行われていることは、転用という行為が、入手素材の減少や特定器種の製作停止といった必要に迫られて行われたものではないことを示していよう。一方、転用品の扁平片刃石斧のみが出土するという市田7期の状況は、剥片や礫を素材とする石器製作が市田6期をもって終了し、転用品のみが残存した結果と解釈できる。遺跡の衰退期における石器生産のあり方の事例として興味深い。

### 3. 周辺遺跡との比較

最後に、市田齊当坊遺跡でみられる磨製石器のライフヒストリーを周辺遺跡と比較する。粘板岩製石器に再加工をとまなう転用を頻繁に行うこと、粘板岩製石器の製作に擦切施溝分割を多用することが市田齊当坊遺跡の特徴のひとつであることから、磨製石器の主な素材として粘板岩を使用する地域を比較対象とする。具体的には、石庖丁に使用される石材の大多数が粘板岩である山城・丹波地域をとりあげる。<sup>(注75)</sup>

京都府における粘板岩の入手と製作については、すでに中川氏の指摘がある<sup>(注76)</sup>。粘板岩は石鏃、石剣、石庖丁、大形を除く石斧といった磨製石器に使用される。原材料としては、前期では長岡京市雲宮遺跡で円礫、亀岡市太田遺跡で亜角礫・角礫、中期では市田齊当坊遺跡で円礫、京都市東土川遺跡で角礫、八木町池上遺跡で円礫・角礫・亜角礫がみられる。これらの遺跡では整形段階の粘板岩製石庖丁未成品も出土しており、「素材の入手から整形、研磨、穿孔の過程が遺跡内で完結していた」とする。また、池上遺跡や中期の長岡京市神足遺跡、長岡京市裕遺跡では整形段階の磨製石剣未成品も出土しており、整形加工から研磨工程まで行われていたと考えられるほか、東土川遺跡と池上遺跡では磨製石剣の素材となりうる法量を持つ礫が出土しているという。

丹波帯の粘板岩産出地と近接する遺跡では素材の入手から製作までが遺跡内で完結していたという中川氏の見解は、市田齊当坊遺跡の資料からも追認できる。石庖丁の未成品は、中川氏が挙げた素材となりうる礫が出土する遺跡以外にも、前期から中期の向日市鶏冠井遺跡や中期の京都

市深草遺跡<sup>(注77)</sup>など、ある程度まとまった資料のある遺跡では出土していることから、各遺跡内での製作を考えてよいだろう。市田齊当坊遺跡でみられる石庖丁製作工程についても、基本的には太田遺跡<sup>(注78)</sup>で報告されたものとかわるものではなく、ほかの遺跡から出土した断片的な資料もこれと矛盾しない。丹波帯隣接地において前期から中期まで普遍的な粘板岩製石庖丁製作技法であると<sup>(注79)</sup>考えられる。

磨製石剣は、現状では石庖丁のように各遺跡で未成品が出土する状況ではないが、磨製石剣と石庖丁の出土点数の差異を考慮すると、未成品が出土しないことのみから磨製石剣を製作していないと想定することは危険であろう。ただし、未成品の出土する遺跡の中でも市田齊当坊遺跡や神足遺跡では磨製石剣の出土量が際立っており、他の遺跡より多量に石剣を製作していた可能性<sup>(注80)</sup>が高い。

火成岩についても、中川氏により、山城や丹波では大形の石斧には閃緑岩・ヒン岩など緑色の岩石が多く用いられていること、これらは丹波帯内で産出し、桂川流域で転石として採取可能であることが指摘されている。また、石斧生産の<sup>(注81)</sup>素材、未成品、工具がそろって出土する唯一の例として池上遺跡を挙げ、礫素材からの整形加工、敲打調整、研磨という工程を明らかにしている。なお、東土川遺跡で加工痕の残る円礫が出土していることにも注意を払っている。

中川氏の指摘のとおり、山城・丹波で太型蛤刃石斧生産にかかわる一連の資料がそろっている遺跡は丹波の池上遺跡のみであるが、今回の検討により、市田齊当坊遺跡でも遺跡内生産の可能性が高いことが指摘できた。また、神足遺跡でも、閃緑岩を素材とする敲打工程の太型蛤刃石斧未成品が出土しており、<sup>(注82)</sup>現時点では未成品出土点数は少ないものの、山城でも遺跡ごとに生産が行われていた可能性が高い。また、扁平片刃石斧の石材組成では、火成岩製が一定量は出土するものの粘板岩が多数を占めるといふ傾向が共通して認められる。確かに太型蛤刃石斧生産を行っていた池上遺跡<sup>(注83)</sup>でさえ、扁平片刃石斧では、粘板岩は製品5点、未成品2点に対し、火成岩製は1点にすぎない。<sup>(注84)</sup>丹波帯隣接地における磨製石器石材利用傾向の共通性がここでも指摘できるのである。

このように、粘板岩産出地である丹波帯の隣接地では、粘板岩製石器の素材入手から製作のあり方のほか、同じく丹波帯に産するとされる閃緑岩・ヒン岩などの利用状況、器種と石材との対応関係についても同様の傾向にあることが確認できた。では、再生・転用、擦切施溝分割の採用についてはどうであろうか。

結論から言うと、再生・転用例はまとまった資料のあるほぼすべての遺跡で出土し、前期から中期まで認められること、特に、石庖丁・太型蛤刃石斧から敲石という転用例、石庖丁・石剣から扁平片刃石斧という再加工をとまなう転用例が複数の遺跡で出土していることが確認できた。以下では再生・転用品の出土数が多い遺跡をとりあげ、具体例を提示する。

神足遺跡<sup>(注85)</sup>では、特に多くの再生・転用例が出土している。磨製石剣、石庖丁から扁平片刃石斧という転用例がそれぞれ複数認められるほか、石庖丁から石剣という例もある。また、擦切施溝分割痕のある粘板岩製磨製石器未成品や扁平片刃石斧製品が出土しており、擦切施溝分割を用い

て石器製作が行われていたことがわかる。太田遺跡<sup>(注86)</sup>でも、石庖丁から扁平片刃石斧への転用例があるほか、太型蛤刃石斧は約半数が敲石へ転用されている。また、擦切施溝中の粘板岩剥片も出土している。池上遺跡でも、石剣の再生例、石庖丁、石剣から扁平片刃石斧への転用例などが出土している。また、山城・丹波以外の遺跡でも、中期の草津市門ヶ町遺跡<sup>(注87)</sup>で石庖丁から石剣への転用例が出土しており、こういった転用が、丹波帯隣接地で広く行われていたことが指摘できる。

このように、丹波帯隣接地では、粘板岩、火成岩を素材とする磨製石器の再生・転用のあり方についても、再加工の有無や方法、器種間の関係、頻繁に行われる転用例などさまざまな共通点が認められる。特に、前期末の太田遺跡でこうした転用が行われていることは、市田齊当坊遺跡の出土資料から提示した磨製石器のライフヒストリーと同様の概念がすでに形成されていたことを示すものと言えよう。

一方、擦切施溝分割による粘板岩の加工については、太田遺跡、神足遺跡などで確認できるものの、現状では類例は多くない。擦切施溝分割痕のある石器製品自体の出土は散見し、地域を広げると片岩製でも認められるが、1、2点の製品出土に限られる遺跡<sup>(注88)</sup>が多い。市田齊当坊遺跡のように未成品や転用品、転用途中品が出土し、ある程度安定して遺跡内で擦切施溝分割が石器製作に用いられていたと思われるのは、管見では神足遺跡、寝屋川市高宮八丁遺跡など数遺跡に限られる。このような石器製作方法が地域差をもって存在するのか、あるいは玉作りとの技術的関連で理解すべきであるのか、またはほかの要因によっているのかは現状では判断しがたく、今後の検討課題としたい。石器に用いられる擦切施溝分割については、北部九州の前期資料を主対象とし、遼東地域や朝鮮半島との関連性を指摘した下條信行氏以降はまとまった検討がなされていない。市田齊当坊遺跡において、近畿地方の1遺跡としてはかなりの量の関連資料が出土したことは、近畿地方におけるこの技法の成立過程やその後の展開を考える糸口になろう。

#### 4. 結 語

本稿では、市田齊当坊遺跡における磨製石器の製作から廃棄に至る過程、ライフヒストリーを明らかにし、石材によって差異があることを指摘、その要因を検討した。さらに、丹波帯近辺の他遺跡との比較を行った結果、少なくとも前期末以降、基本的な点では共通したライフヒストリーが認められることを確認した。

従来、粘板岩製石器の生産や流通のあり方については畿内南部や周辺地域ほどには詳細な研究がなされてこなかった。その原因のひとつは、粘板岩産出地が限定できないことであろうが、石庖丁、石剣といった器種ごとに研究が進められてきたことも、生産にかかわる課題を研究する上では大きな障壁となってきたのではないか。本稿では、器種という分類単位のみでなく石材による分類から分析を行うことで、新たな視点を提示することができたと考える。また、再生・転用の問題は、生産と流通に関する研究のみでなく、石器組成を論じる場合にも常に留意すべき点であることも強調しておきたい。

粘板岩産出地の問題は未解決であるし、擦切施溝分割の位置付けについてもさらに検討を要する。また、今回は類例の概観にとどまったが、山城、丹波のみでなく近江や摂津も含め、丹波帯の隣接地における石器のライフヒストリーをさらに詳細に検討することや、畿内南部など他地域のあり方と比較することも必要である。今後の課題としたい。

(土屋みづほ)

### 第3節 市田齊当坊遺跡における玉作り用穿孔工具について

#### 1. サヌカイト製磨製石針の製作方法とその特質

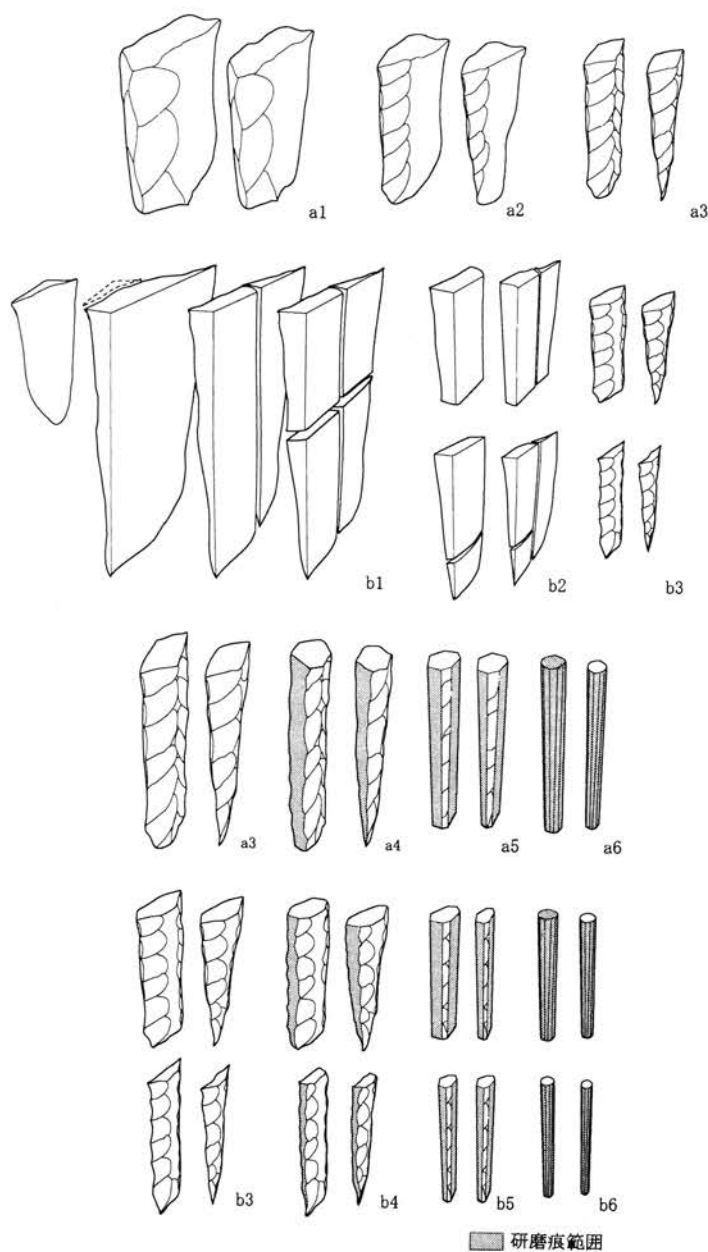
##### (1) 石針の製作方法

第4章第1節、石針未成品の項において、その形態分類と調整剥離の方法について述べてきた。

この観察結果から、石針未成品は2つの製作方法があることが推測された。

まず、第1の製作方法(技法a)としては直方体に近い母岩の稜頂部を剥取し(第70図a1段階)、その側縁を表裏から交互剥離することによってさらに微細な剥離に覆われた細長い直方体に加工する(a2段階)。さらにその直方体の側縁部を交互に調整剥離(剥離方法c・d)を続けることによってより細長く、横断面が厚い菱形に近い形態となる原体1個体を得る(a3段階)。これを側縁部両側から粗い研磨加工を施し、多角柱体に加工する(a4段階)。稜角部分を粗い研磨によって面取りし(a5段階)、より円形に近い多角柱体を作り上げる(a6段階)。比較的全長が長く、直径の大きな石針を得る方法である。

また、この方法(技法a)でa3段階の比較的大きな規格のものには平面形状がⅢ類・Ⅳ類・Ⅴ類(第42図参照)になるものが多い。横断面



第70図 石針製作工程想定図



の厚さが厚くなり、正方形あるいは正六角形に近くなる。これらは石針未成品他の項でも述べたように、石錐として利用されやすい形態を呈しており、石錐未成品の可能性も排除しないでおきたい。

次に薄い剥片を利用した製作方法(技法b)についてみていく。石核から剥取された剥片の打点から打痕付近の隆起・変形した部分を切除する(第70図b1段階)。次に剥片を縦方向に半截するかあるいは、剥片を目的製品に見合った適当な長さに分割するなどして複数の素材を得るようである(b2段階)。分割のための打撃は、遺存する剥離面の観察から、剥片剥離方向と平行な方向に打撃を行う場合と、割り取ったと思われる場合があることが推測できる。この際に整形のため幾度かの細かい剥離が加えられるが、これによっておよそ長さ1.5~3.0cm、幅0.3~0.6mm前後の剥片分割品を数点得るものと思われる。

さらにその剥片分割品に調整剥離を行う(b3段階)。先述したように、剥片分割品の全長や厚さによってその後の調整剥離の方法が異なることが想定される。すなわち、母岩から剥取された剥片でも打面側に近い部分は最も厚くなると想像でき、この部位の分割品は剥離方法c・dが行われたものと想定できる。しかし、フェザー・フラクチャーの剥片先端、薄い部位から得られた分割品では剥離の厚さが比較的安定しており、剥離方法a・a'などで対応したものと思われる。このほか分割による側縁の剥離面形状が調整剥離を要しないものと判断され、片側のみ調整剥離が施されない場合もある。また、調整剥離の失敗によって分割品の幅を再度調整しなければならなかった場合、失敗覚悟で形割が行われたものとみられる。

その後、技法aのものと同様に側縁部の粗い研磨(b4段階)と稜角部分の研磨(b5段階)を経て、多角形の石針を数個(b6段階)作り出すものとみられる。一部には先端部分を研磨整形するものもあるが、多くは使用時まで未調整であったようである。

このように、両技法とも母岩から分割して作出された素材を、できる限り調整剥離加工の繰り返しによって、横断面四角形あるいは台形や正三角形に近い小さな棒状の形態とし、研磨加工による整形工程を最小限に留める工夫が共通している。その製作工程上、研磨加工する以前の段階において、大形品には大形管玉穿孔のための大形石針のほか、タガネ状の小形石器や石錐に転用されたものも含まれていたとみたい。

## (2) 石針製作の技術的特徴

石針の製作方法について、現在までの見解と今回の判明した点を示しておきたい。

まず、福井県下屋敷遺跡の報告において、富山正明氏<sup>(注90)</sup>がはじめて磨製石針を玉錐として評価した。その後、田代弘氏によって石針(玉錐)の変遷が示された<sup>(注91)</sup>。それによると、玉穿孔工具としての石針はまず、打製石針を主体とする前期から中期前葉、磨製石針を主体とする中期中葉から中期後半、さらに鉄針を主体とする後期後半以降といった変遷をするという。磨製石針の製作技法として共通した技法が、板状の石核に擦切施溝分割を行って、製品となる細長い四角柱体を得るというものであった。田代氏は、板状剥片を縦位においた場合、剥片上端面に擦切施溝分割を行う場合(Aタイプ)と、板状石核の主要剥離面に平行した擦切施溝分割を行う場合(Bタイプ)とを

弁別している。これらの加工技術は基本的には碧玉管玉の加工技術と同根のものであり、とくにAタイプの擦切施溝分割技法は石針製作において普遍的に共通した方法として理解されてきた。

市田斉当坊遺跡の玉作りは中期前葉末、市田2期にはすでに始まる。同時期の主要な玉作り遺跡としては、京都府余部遺跡・大阪府八雲遺跡・滋賀県烏丸崎遺跡・福井県甕谷在田遺跡などがある。<sup>(注92)</sup>余部遺跡では玉髓・チャート製の打製石針、八雲遺跡では鉄石英・瑪瑙・サヌカイト製打製石針の可能性のある工具、甕谷在田遺跡では瑪瑙製打製石針がみられる。田代氏によって示された通り、中期前葉の段階では打製石針が主流である。これに対して市田斉当坊遺跡では、市田2期の段階で、サヌカイト製磨製石針が製作され、使用されている。市田2期に属する竪穴式住居跡S HC450やS HD23でもサヌカイト製の石針やその未成品が出土していることから、市田斉当坊遺跡におけるサヌカイト製磨製石針の製作と使用はかなり早いものといえる。中期中葉、市田3期以降、市田斉当坊遺跡の竪穴式住居跡S HA74・S HA98やS HC451などで玉作りが盛んに行われるころ、京都府池上遺跡・兵庫県女代神社南遺跡・福井県下屋敷遺跡・石川県八日市地方遺跡・新潟県下谷地遺跡などでは、ようやくサヌカイト製磨製石針が製作、使用されるようになる。<sup>(注93)</sup>これらの遺跡での石針製作は、Aタイプの擦切施溝分割によって細い角柱体を作成し、調整剥離後研磨して完成させている。

しかし、市田斉当坊遺跡では、碧玉の分割には豊富にもたらされた紅簾片岩製石鋸によって擦切施溝分割を多用する一方で、このような擦切施溝分割の痕跡をもつ石針未成品は皆無である。他の遺跡で擦切施溝分割による石針製作が盛行する時期にも、市田斉当坊遺跡では擦切施溝分割を用いず、従来通り調整剥離による成形と面取り研磨加工を専らとした石針製作を継続する。瑪瑙製石針未成品は1点出土しているが、これにも擦切施溝分割は施されていないようである。前項で述べてきたように、市田斉当坊遺跡の石針未成品は、すべて調整剥離と粗い研磨によって多角柱体に加工するといった、まったく異なった製作方法を採用していたことが判明したのである。このような石針の製作方法を、当面は「市田技法」としておきたい。

今回の調査では、粘板岩製の石剣や石庖丁・磨製石斧の破損品が再加工されて扁平片刃石斧などに頻繁に作り代えられていた実態を目の当たりにしてきた。このような粘板岩製石器の製作工程の基礎的加工方法として粗い全面研磨作業がサヌカイト製石剣などの製作にも援用されていたことも考え合わせれば、当該地域での石針の製作方法がサヌカイト素材に多用される調整剥離技術と粘板岩素材に多用される研磨加工技術を併せ持つものであったと考えても不思議ではあるまい。<sup>(注94)</sup>

## 2. サヌカイト製磨製石針の先端部形態の形成とその使用をめぐって

### (1) 石針の先端部形態の形成

石川県八日市地方遺跡の報告によって指摘されたように、石針は断面多角柱体のまま、使用に供され、碧玉管玉未成品の穿孔を行うことによって、横断面正円形に変化するものであった。つまり、断面多角柱体で両端未調整のものが未使用の石針製品ということになろう。第44図にみら

れたように石針先端部の形態は、a1類を除き、すべて円柱状の石針先端に螺旋状の擦痕を残すものであった。石針先端部形態b1～b3類・c1～c3類ほかは、製品加工にともなうものではなく、穿孔に使用した結果、変形した使用痕であると考えることができる。以下に穿孔の手順について、出土資料を通してみたい。

まず、石川県八日市地方遺跡の報告ですでに指摘されているように、先端部分を鉛筆のように削って尖らせたa類を「先付け」、つまり穿孔する際、軸が振れないように先に管玉未成品の端面に小さなキズ(下孔)を施すものとしておきたい。この「先付け」は穿孔を行いやすくするために施されるが、市田齊当坊遺跡の資料中にこの「先付け」でキズをつけただけの資料は見つからなかった。竪穴式住居跡S HC451出土、全長13.5mm程度の管玉未穿孔品(69)には、一方の端面に深さ1mmにもみえない円形の窪みがみられる。丸く削られた底部には同心円状の擦痕が認められ、その中心には非常に小さな窪みが付けられている。また、竪穴式住居跡S HA74から出土した管玉未成品の破片(117)にも穿孔当初の円形の窪みが遺存していた。中心の三角錐状のキズを中心に円形の回転擦痕がみられる。また、直径5mmを超える管玉の破損品と考えられる土坑S KB994出土管玉製品(223)にも穿孔当初の窪みが遺存している。同様に丸く浅く削られた底部に同心円状の削痕がみられ、その中心に小さな窪みがわずかに認められるものである。

以上の3例からすれば、まず、先端が尖った石針によって三角錐状になるキズを付け、その後、穿孔形状にあった半球状の先端をもつ石針を回転させたものと想定できる。石針先端部形態a1類による「先付け」は非常に浅いもので充分だったようである。しかし、1mmほど穿孔が進んだ管玉未成品192では、穿孔底面が平坦に近いものの、周囲が同心円状に一段深くなり、中心がわずかに窪むような複雑な形態となっている。a1類とは異なる先端形状をもつ石針による穿孔に切り替わったものとみられる。管玉未成品の穿孔部孔底には石針先端面の形態に比べ、かなり複雑な形態のものが存在することがわかる。このような穿孔途中の孔底面はいずれも同心円状に細かく凹凸を繰り返していた。石針先端部端面も外周部分を中心に強く抉られ、擦痕が残ることとなる。研磨剤が石針先端面とともに回転することにより、両者とも微細に切削されていったもの想定することができる(付論1参照)。

先述したように石針のうち、「+dp.」(dimple)とあるものは、石針先端部端面中央に半球状の小さな窪みのあるものである。この窪みは石針先端部形態b類・c類にみられるが、b類とc類とで出現頻度に大きな差異はない。この現象も、研磨剤の作用により生じるものと説明できる。当初、管玉未成品で穿孔部底面中央に小さな「突起」がある資料は、その断面形態から石針先端部中央に半円形の窪みのあるものによって穿孔されたために生じたと考えたが、半円形の窪みが研磨剤との摩擦によって石針に生じるものとするれば、同時に管玉未成品自体も同様に削られ、むしろ中央が窪む可能性が考えられる。

管玉未成品202は、穿孔途中のものであり、玉錐として穿孔に使われた石針が挿入されたまま検出された希有な例である。付論1にあるように、今回、石針が管玉未成品から外れたため、その先端形状や穿孔内部底面に遺存した錐糞あるいは研磨剤を検出することに成功した(付論1、

図5・6参照)。今後、この砥糞あるいは研磨材の分析から新たな情報が抽出されるものと思われる。

石針先端部形態 b4(b3+b2)類・c3+b4類・c4+b1類などを代表とした石針の先端部複合部分の長さは短いものに限られる。両面穿孔の際、貫通したとしても管玉中央部分で通常孔の位置はくいちがう。この場合、孔内壁面研磨修正、いわゆる「孔さらえ」が必要となる。この「孔さらえ」に b3類・c3類を再利用した結果、それぞれ b4(b3+b2)類、c3+c2類などといった石針先端部の複合形態が生じたのではないだろうか。<sup>(注95)</sup> b3類・c3類は穿孔部に挿入された部分が磨滅して円柱状となり、先端も丸く磨滅している。このような摩擦抵抗の少ない形状のままでは新たな穿孔は不可能である。ただし、穿孔部中央付近に挿入して孔内壁面の修正、「孔さらえ」を行うことは可能であろう。孔のくいちがいで生じた段部分を切削することによって石針自体も削られて変形するため、複合形態として認識されるものと考えられる。複合部分の先端部端面径が著しく細いものは、孔のくいちがいが著しく、貫通部分が非常に狭くなっている部分の壁面修正を行ったためと考えることができる。また、複合部分の先端部作業部位が短いのは、孔のくいちがいの部分の孔径を広げるためにのみ使用されたためであると推測できるのである。

#### (2) 石針軸受けの有無について

なお、石針はその規模から、直接手に持って用いたのではなく、軸の先端に装着して使用したものと思われる。石針のなかには一方の先端部端面が平坦に研磨されているにもかかわらず、回転擦痕がみられないものがある。しかし両端面とも平坦になっている例がないこと<sup>(注96)</sup>から、こうした端面の加工は、石針を軸に装着させる際にその「すわり」を良くするために行われたものと想定することができる。ただし、先端部端面が平坦に研磨されていない資料も多い。両端を穿孔に使用した例もあることから、装着する側の端面はある程度平滑であればよかったようである。装着する側の石針端面が未調整でかつ面をなさない場合や、折損した石針を再利用する際に端面を研磨加工したものかもしれない。

### 3. 管玉の製作工程

以下、市田齊当坊遺跡における管玉製作について述べておきたい。

#### (1) 工程1：荒割

原石から不用部分を削除する段階である。主に軟質で色の淡い部分を削除し、碧玉質の部分を取り出す工程である。資料(1456)は直方体に成形された碧玉素材を加工し始めたものである。打割により直方体に整形した後、すでに1面が研磨され、他2面にも剝離による突出部分を中心に研磨痕がみられる。四角柱体から多角柱体を作り出す段階以前にも、作業の効率化をはかるために適宜、研磨加工するようである。

#### (2) 工程2：形割

擦切施溝分割により四角柱体を作成していく段階である。擦切施溝分割は基本的に長軸に対して行われる(先述したBタイプに相当する)。碧玉の分割加工技法はいわゆる大中の湖技法であり、

擦切施溝分割により四角柱体を製作し、研磨によって稜角を潰していく。調整剥離が施されることもあるが、あくまで補助的な使用でしかない。調整剥離は擦切施溝分割された作業面の側面に1～2面行うことが多い。2側面に施される場合には、四角柱体の向かいあう両側面に施されることが多い。調整剥離は稜角を潰して形割未成品を細くしていくために用いられるわけではなく、一度四角柱体として断面四角形に仕上げるために行われていると考えられる。

### (3)工 程 3：全面研磨加工

工程2により作成された四角柱体の側辺稜角を面取りするように研磨し、多角柱体にしていく段階である。多角柱体への加工では調整剥離によって面を増やす例は少なく、四角柱体から研磨により断面多角形へと近づけていく。その際、必ずしも4つの稜角を潰して規則的に4角形→8角形→16角形へと研磨加工されるわけではなく、角柱体の向かいあう両側面を選択し、まずこの2面を細かく研磨している。こうした研磨の順序は、おそらく施溝部分から面取りを行っていったために生じたものと考えられる。なお、研磨痕の方向は長軸に対して縦方向が多く、右上がり・左上がりはほぼ同数であるといつてよい。

上下端面の研磨は、全側面が研磨されるまでに行われるもの(231)もあるが、基本的には全長側面の研磨後に行われる。

### (4)工 程 4：長さ調節

全面研磨加工を施し、ほぼ正多角柱となった段階で、長さを調節する場合がある。管玉未成品197は全側面と一方の端面は研磨されているが、もう一方の端面にはその全周に施溝分割痕が残っており、先端部分は折り取られたものとみられる。このほかに長さ調節のために切除された部位が管玉未成品破片としたもののなかにある。これは福井県下屋敷遺跡の調査報告において「円形チップ<sup>(注97)</sup>」とされたものに相当する。全長1.2～2.8mmで、いずれも幅に対して非常に薄く折り取られている。折り取った破面に研磨を施したものの(196)や穿孔途中のもの(223)もあることから、たんに長さを調節しただけではなく、白玉のような玉とするために再加工を行っていた可能性もある。

また、形割未成品の幅と長さが1：4であるのに対し、管玉未成品では1：2と1：4、管玉では1：2～1：3のものが多い。特に直径の細い小形の管玉や管玉未成品ではこの傾向は顕著である。管玉未成品は全面研磨した段階で、長軸に直交するように2分割した可能性が高い。こうした管玉未成品の長さ調節や分割は、次の穿孔段階と深く係わると考えられる。

### (5)工 程 5：穿 孔

全面研磨を施し、あまい稜角をもつ正多角柱体になると、石針により穿孔される。石針の類型については第44図に挙げたが、a1類で管玉未成品端面に浅いキズをつけた後、穿孔し、貫通させる。穿孔は基本的に両端面から行われるが、長さが短い管玉未成品の一部には、片面からの穿孔で貫通させる場合もある。

碧玉67・138・194を除けば、小形の管玉やその管玉未成品の全長は2.9～6.3mmにおさまる。非常に細く作られる石針は、長くなれば強度が下がる。実際に折損例が多いことから、貫通する

深度に到達するまでには折損する事故が多かったものと考えられる。つまり、確実に貫通させるためには、管玉の長さは短く調節されねばならなかったといえる。両面穿孔が主流であった理由もそこにある。

(6) 工程6：最終研磨

穿孔が完了した管玉未成品を正多角柱体から円形に近くなるよう稜角を潰し、光沢が出るまで研磨する段階である。同時に石針の再利用によって孔内壁面の研磨修正、「孔さらえ」が行われる。この最終研磨が施されたものを完成品(管玉製品)とする。

4. 玉作り関連遺物の遺構間比較(第71～74図、附表8・9)

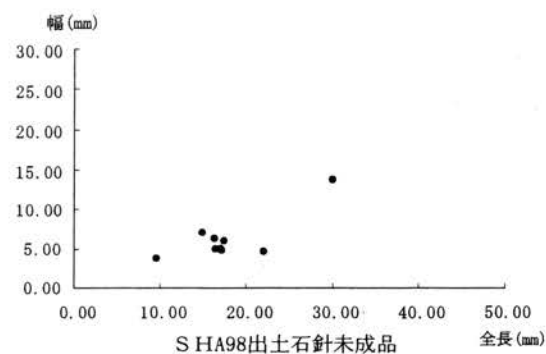
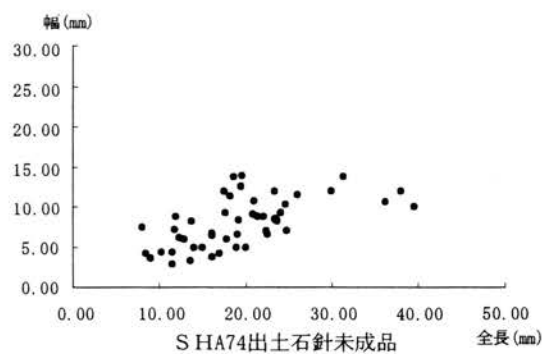
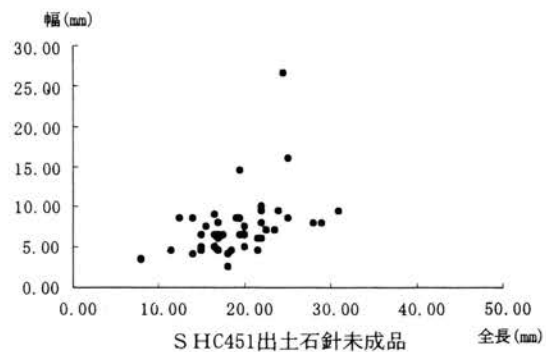
最後に、市田斉当坊遺跡における主要玉作り製作跡である竪穴式住居跡 S HA74・S HA98・S HC451から出土した遺物の比較を通して、遺跡内における玉作りの実態について述べてみたい。

まず、上述した S HA74・S HA98は、市田3期、S HC451は市田3期の可能性が高いという結果を得た。このため、ほぼ同じ時期の製作跡として比較しうる。石針未成品と考えられる小形石器の規模について比較したところ、S HC451では全長15mm前後から25mm、幅4～8mmの間に集中する傾向をみせる(第71図)。一方で S HA74では、およそ全長10～25mm程度、幅3～15mm以下の広い範囲に拡散する傾向があるといえる。S HC451と比較して、ばらつきが多いことがわかる。

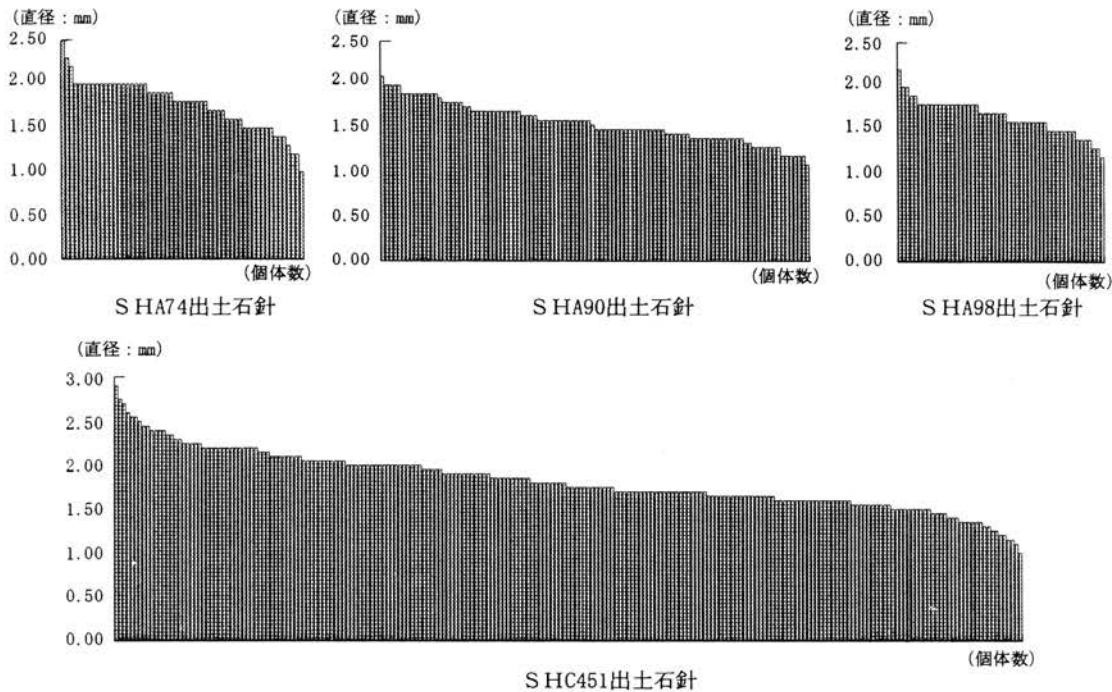
附表8にもみられるように、S HC451では I d類の石針未成品が21点と最も多く、次に I a類9点、あるいは I (c+d)類8点と続く。平面形状にかかわらず、剥離方法 d類が卓越することがわかる。このことからおそらく技法 aによって生産されたものが多かったということが想定できる。

しかし、一方で S HA74では、剥離方法 I a類・I a+1 e. 類・I c+1 e. 類・I a+1 e. 類が多いことからわかるように、明らかに薄い剥片を素材とすることで調整剥離の手間を省いていた様相を窺うことができる。S HA98でも、一方の側縁に調整剥離を施さないものがある。出土量は少ないが、S HA74と同様の傾向を見出すことができよう。

次に石針について見ていきたい(第72図、付



第71図 石針未成品の遺構別規模分布図



類型	a1	a2	b1	b2	b3	b4	c1	c2	c3
個体数	2	4	33	31	46	8	55	66	112
直径平均	1.5750	1.5875	1.6909	1.7371	1.7856	1.7250	1.7764	1.6750	1.6813

類型	c4	a2+b1	b3+b1	c2+c1	c3+b1	c3+b2	c3+b4	c3+c2	c4+b1	x
個体数	3	1	5	2	18	11	1	8	2	1
直径平均	1.8833	1.5000	1.6500	1.7500	1.7194	1.6318	1.7000	1.7188	2.4000	1.3500

第72図 サヌカイト製石針の直径比較

表9)。S HC451では、出土した石針の先端部形態は、我々の分類の組み合わせでみれば、40種類以上に及ぶことがわかる。同様にS HA90もほぼ30種類の先端部形態が認められる。いずれも共通する点として前項でみてきた複合した先端部形態を持つ石針が一定程度含まれていることがわかる。しかし、反対にS HC460やS HA98などは、ある程度の数量を確認したにもかかわらず、この複合した先端部形態の石針をもたない。どの遺構でも石針の直径に著しい偏差がないもの(第72図)と想定した上で前項での仮説を敷衍すれば、S HC451とS HA90では、「孔さらえ」といった管玉完成のための最終工程まで行っているが、S HC460やS HA98ではそのような工程までには行わなかったものと解釈することも一案としてできるのではなかろうか。

この仮定をさらに検討するために、遺構の配置を見てみたい。A調査区では、S HA98とS HA90は隣接して構築される。S HA98が円形の竪穴式住居跡であるのに対して、S HA90は竪穴式住居跡というのではなく、小形隅丸方形の竪穴遺構というべきものである。また、C調査区のS HC451とS HC460も近接しており、S HC451が円形竪穴式住居跡であるのに対して、S HC460は小形方形の竪穴遺構とでも言うべきものである(第73図)。このような一辺2 mほどの小さな竪穴遺構(S HA90・S HC460)から、なぜ数十点、あるいは100点を越える石針が出土するのかは興

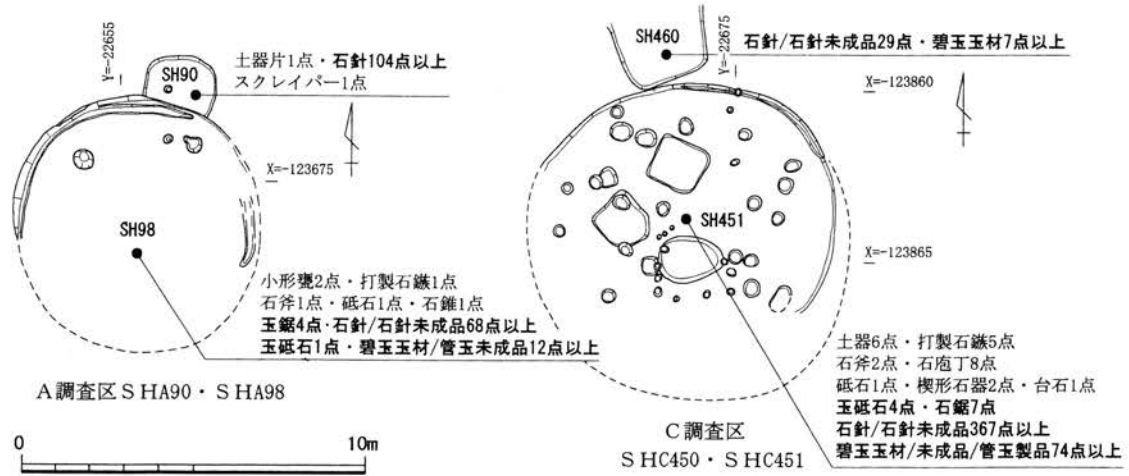
付表8 主要遺構別石針未成品出土状況

	市田 2 期		市田 3 期							市田 4 期	市田 5 期						市田 6 期	市田 7 期	
	SHC450	SHD23	SHA74	SHA98	SHB138	SHC167	SHC451	SHC460	SKB712	SKC75	SHB709	SHB139	SHB146	SHC479a	SKA69	SKB845	SKC477	SHC92	SHB542
I a			8	1			9												
I a'			1				2						1						
I a+le.			6				2												
I a'+le.			1																
I b			1				2												
I b+le.																			
I c			3				7			2									
I c+br.							2												
I c+le.			5				1												
I c+p							1												
I c+p+br.							1												
I d		1	1	2			21			1									
I d'							4												
I d+le.			1																
I d+p			1	1			2				1								
I (a+c)	1		2				2					1	1						
I (b+d)				1			4	1					2				1	1	
I (c+d)			1	2			8												
II a			3																
II a'										1									
II a+le.			4	2			2												
II a変形			1																
II b							2												
II c			1				6						1						
II c+le.			1				1	1											
II d							3												
II d'							1												
II d+p							1												
II (a+c)																1			
II (a+c)+p						1													
II (b+d)							1												
II (b+d')							1												
II (c+d)				1			1												1
II (c+d')							1												
III c														1					
III (c+d)			1																
IV c+br.							1												
IV d													1						
IV (c+d)									1										
V a							1												
V a+le.			1																
V c							2												
V c+br.							1												
V c+le.			1																
V c+p			1			1													
V d			1				4			1									
V (a+c)	1		2																
V (c+d)		1	1				1												
V (c+d)+br.							1												
4角形			2				6												
4角形p1							1												
4角形p3							1												
4角形p4			1				1												
5角形p3			2																
5角形p4			1				1												
8角形p8				1										1					
9角形p9			1																
10角形p10																			
計	2	2	56	11	1	1	109	2	1	3	2	1	2	6	1	1	1	1	1
	4						184				2			12				1	1

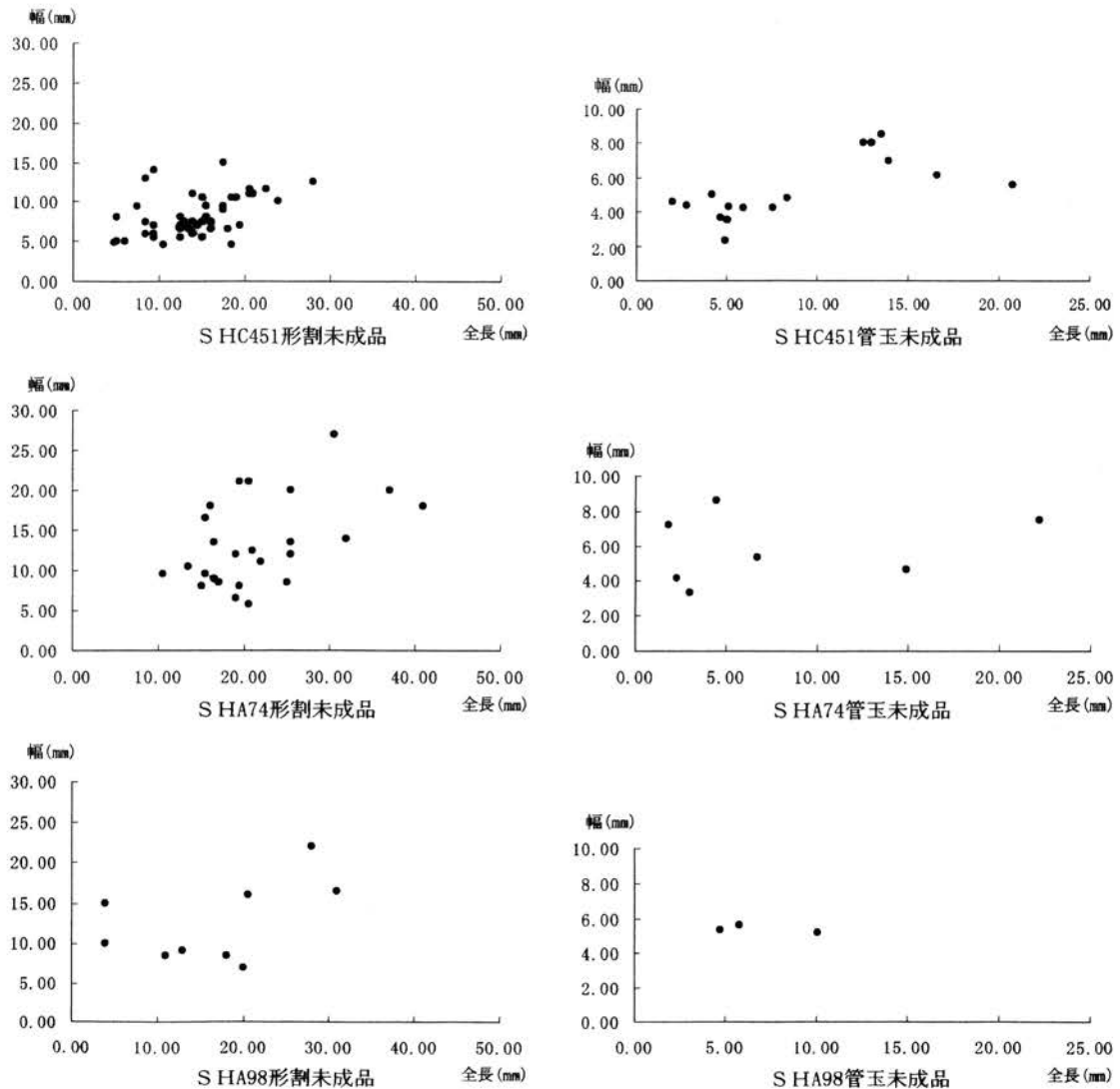


付表9 主要遺構別石針出土状況

	市田2期					市田3期							市田4期	市田5期					市田6期	
	SHC 450	SHD 23	SKA 79	SKA 102	SKB 911	SHA 74	SHA 90	SHA 98	SHC 451	SHC 460	SHB 138	SKC 75	SHB 152	SHB 146	SHC 168	SHC 169	SHC 479a	SKA 69	SHB 529	
a1																			1	
a2							2	1											1	
b1						1	4	1	5											
b1+dp.							4		3										1	
b2						2	2	2	3	3										1
b2+dp.			1			2	2			2	1								1	
b3						4	3	5	2								3			
b3+dp.						3	4	4	6	1										
b4				1					4								1			
b4+dp.							1													
c1		1				4	5	8	9	2							2			
c1+dp.						1		3	6											
c2		1			1	4	7	5	16	3				2						
c2+dp.						1	5		2	1										
c3		4				4	7	2	24	2							1			1
c3?	1						3		19	1			1							
c3+dp.		1				6	5	6	20	2							1			
c4									1											
c4+dp.									1											
x		1																		
a2+b1																				
b2+c2									1											
b3+b1									2											
b3+b1+dp.									2											
b4+b1								1												
c2+b2+dp.						1														
c2+c1									1											
c3+a2								1	1											
c3+b1								4	5											
c3+b1+dp.									5		1									
c3+b2								1	3	1								1		
c3+b2+dp.				1		1									1					
c3+c1								2												
c3+c1+dp.																				
c3+c2							1		2											
c3+c2+dp.									1										2	
c4+b1									1											
c4+b1+dp.									1											
a1/c3						1														
a2/b2									1											
b1/b2+dp.							1													
b1/b3+dp.		1																		
b1+dp./b1									1											
b1+dp./b3+dp.						1		1												
b1+dp./c3								1												
b1/c2+c1								1												
b2/b3+dp.						1														
b2/c1									1											
b2/c2									1											
b2/c3+b2							1		1											
b2+dp./b3																				
b2+dp./c2											1									
b2+dp./c3								1												
b2+dp./c3+dp.								1												
b3/c2								1												
b4+dp./c3+b1+dp.									1											
c1/c1									1	1										
c1+dp./b3																1				
c1+dp./c2									1											
c1/c3									1											
c1/c3+dp.									2											
c2/b1									1											
c2/b1+dp.									1											
c2/b3+b1						1														
c2/c1									1											
c2/c3+b1									1											
c2/c3+b4						1														
c2/c3+c2								1												
c3/c1								1												
c3/c1+dp.												1								
c37/c2									1											
c37/c3									1											
c3+dp./b1+dp.						1														
c3+dp./b3+dp.																1				
c3+dp./c1									1											
c3+dp./c2									1											
c3+dp./c3+dp.															1					1
小計	1	9	1	2	1	40	73	39	164	19	3	1	1	2	3	1	13	2		3
時期別総計	14								299				1			21				3



第73図 玉作りを行った竪穴式住居跡と小形竪穴遺構



第74図 管玉未成品の遺構別規模分布図

味ある問題ではあるが、現在のところ、穿孔あるいは孔さらえを個別に継続的に行っていたものかと想像しておきたい。円形の堅穴式住居跡と小形方形の堅穴遺構が近接して設置され、両者が玉作りの最終作業の相互補完的な工程の分担を行う作業場として理解することができるものと思われる。

最後に碧玉未成品の規模についてもみておきたい(第74図)。S HC451では、形割未成品は全長100～20mm、直径5～15mmの間に収斂するが、S HA74やS HA98ではそれより広い範囲に拡散する。これは管玉未成品にもいえることで、S HC451では、小形と中形、あるいは一部全長20mm以上の大形の管玉製品を作り分けていた状況を垣間見ることができる。S HC451での管玉製作は、他の堅穴式住居における作業よりも、より専門的で規格性の高い製品を作り出していたとすることができよう。

(野島 永・望月誠子)

## 第4節 市田齊当坊遺跡の井戸と弥生時代の木組井戸

### 1. 市田齊当坊遺跡の井戸

市田齊当坊遺跡では、弥生時代中期～古墳時代初頭の4基の井戸を検出した。このうち弥生時代中期前葉の2基の井戸は、国内では最古段階の木組井戸である。2基はいずれも直径3mを超える大形の井戸であり、その掘形断面は上部が大きく開く逆台形状をなし、底部に縦板組の井戸側木枠(井戸枠)が構築されている。土層断面の観察などから、井戸側木枠材の上層は、使用時に大きく開放していたと考えられることから、従来、国内ではその存在を明確に認識されていなかった掘形上部が開放する構造をもつ井戸であることが判明した。小稿では、市田齊当坊遺跡の井戸を中心に、初現期の井戸が掘削された背景や、上部が開放する井戸および弥生時代から古墳時代初頭にかけての木組井戸の展開を中心に考察を加え、市田齊当坊遺跡の井戸の系譜を明らかにし、集落の特質を探る一助としたい。

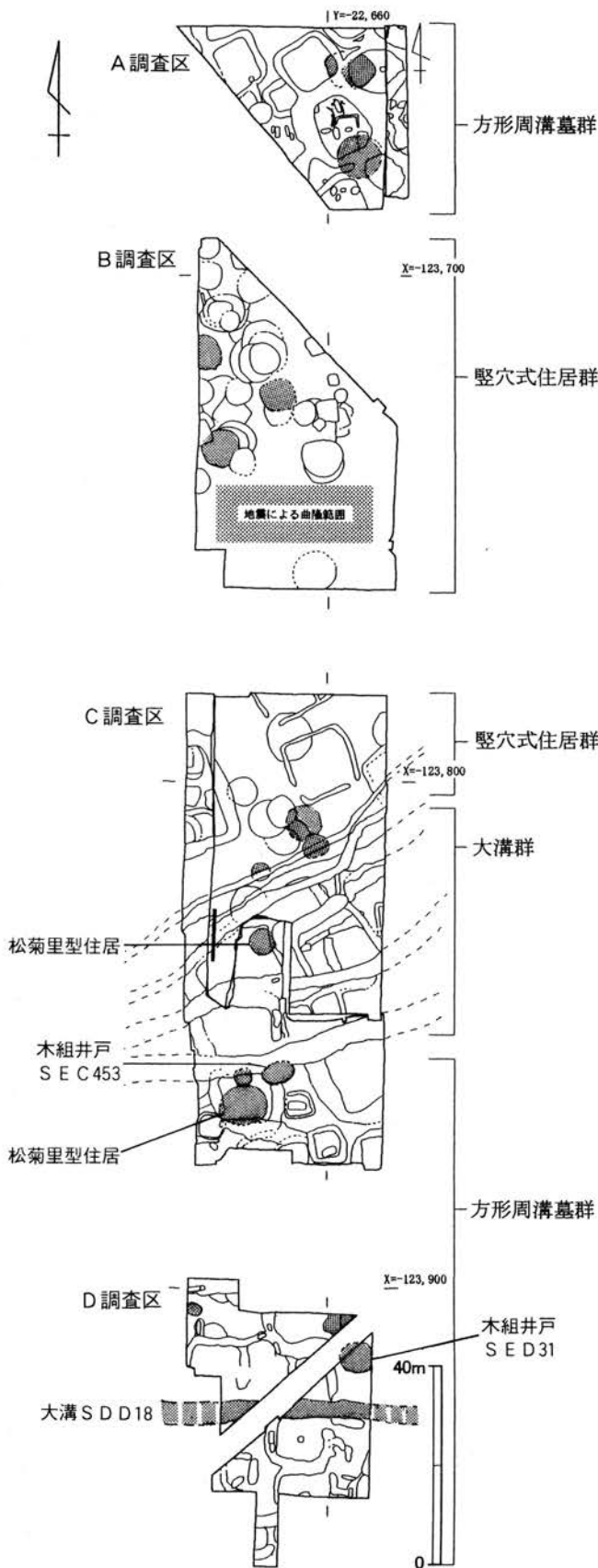
### 2. 井戸掘削の背景

井戸の出現については諸説みられるが、宇野隆夫氏は、弥生時代前期の素掘り井戸と報告される事例があることから前期に遡り、農耕文化を構成する一要素であり、稲作とともに大陸から流入してきたものとされる。<sup>(注98)</sup>これに対して、藤田三郎氏は、農耕文化と関連する点に大過はないものの、弥生時代前期の井戸にまだ良好な資料が乏しいことから、井戸の導入と稲作文化の流入時期とは必ずしも一致しないとする。藤田氏は、大和・河内における最古の井戸の確実な資料は、大和第I-3様式の<sup>(注99)</sup>、唐古・鍵遺跡第22次S K1101の素掘り井戸や、唐古・鍵遺跡第1次調査の際、唐古池西南部で発見された同時期の丸太刳り貫き井戸<sup>(注101)</sup>とし、前期と報告された事例の多くは木器貯蔵用遺構あるいは集水施設であり、完成された形態をもつ井戸の出現は環濠集落の拡大と深く係わり、環濠集落の内側で安全に水を得る必要から中期に至って成立したと考える。<sup>(注102)</sup>また、近年では、堀大介氏が、列島内における井戸の成立について論じ、弥生時代前期

末～中期初頭と中期後半に画期があるとし、青銅器生産の開始に伴い、金属器生産などの大陸系の技術と共に、手工業生産用として井戸が導入されたと結論づけている<sup>(注103)</sup>。井戸の出現時期に関しては、前期の井戸の存在を強く示唆する川上洋一氏の指摘<sup>(注104)</sup>や、既存の資料のうちには前期の井戸と報告されている事例もいくつかある<sup>(注105)</sup>が、確実な事例は今のところ認められない。しかしながら、いわゆる土器埋設遺構のなかには、地下水の取水を意図している点で井戸と認識できるものもあり<sup>(注106)</sup>、本格的な井戸が導入される前段階の状況は再検討が必要である。一方、井戸は、民俗学的には地霊との交信の場として神聖視される例がみられることや、廃絶段階などの祭祀関連遺物の出土などから、しばしば祭祀遺構としての性格が指摘される。大阪府池上曾根遺跡で検出されたヒノキ古木の巨大な一木丸太刳り貫き井戸も、空間的分析から工業用井戸とする見方がある一方で、独立棟持ち柱をもつ大形建物に隣接し、その中軸線上にあることから、祭祀に関連する井戸とする説もある<sup>(注108)</sup>。果たして出現期の井戸は、どういった目的のものに掘削されているのか。市田齊当坊遺跡の井戸は、列島内における井戸導入の背景を探るうえで極めて重要な資料であり、以下にはその性格について考えてみたい。

市田齊当坊遺跡 S EC453の調査から、井戸の構造とその機能をみることにしよう。調査では、井戸内最上層に、一部ラミナ構造をもつ暗褐色シルトの多量の植物遺体を含む堆積層を検出し、井戸廃絶直後の層位と判断した。方形に組まれた井戸側木枠材の周囲には、淡灰色シルト層が堆積しており、この層位内や井戸側木枠材に密着して、井戸使用時のものとみられるいくつかの土器片が出土した。淡灰色シルト層は井戸側木枠内では検出されず、周囲にのみ堆積する一方、暗褐色シルト層はその上層から井戸側木枠中央部にかけて落ち込むように堆積しており、こうした状況から、井戸側木枠内は堆積した土砂除去のため再掘削され、井戸側木枠周辺にのみ井戸使用時の堆積土である淡灰色シルト層が残ったものとみられる。すなわち、井戸は井戸側上層が使用時に大きく開放する構造をなし、一段降りたテラス部で取水する特異な構造のものと判断された。出土遺物は、井戸側木枠内下層からは、明らかな祭祀関連遺物は出土していない。また、井戸側木枠内最上層である暗褐色シルトは、最終的に掘削を止めた段階の層位、すなわち井戸廃絶後の最初の堆積層であると考えられるが、この層位からも明確な祭祀遺物は出土せず、各種の植物遺体と共に、壁玉石核などの玉作り関連遺物やサヌカイト片、石庖丁未成品などの手工業生産にかかわる遺物が土器とともに出土した。注目されるのは、層位のサンプルから多量の寄生虫卵<sup>(注109)</sup>を検出したことである。廃絶直後の層位からの寄生虫卵の検出は、早い段階に廃棄土坑として二次的に利用されたことを示している。

市田齊当坊遺跡の市田2期(弥生時代中期前葉)に帰属する2基の木組井戸は、同時期の環濠の可能性のある大溝 S DD18の北側に位置している(第75図)。S DD18の南では生活遺構を確認していない。この約80m南側では試掘時に谷部となることを確認したことから、S DD18は中期前葉～中葉の集落の南限を画する区画大溝とみられる。筆者は方形周溝墓築造の際、つまり市田3期までにはS DD18は大きく再掘削され、2基の井戸とS DD18は併存していたものとする。2基の井戸は大溝 S DD18によって画された空間の内側に位置していたのである。こうした点から、井



第75図 集落における井戸の位置(市田2～3期)

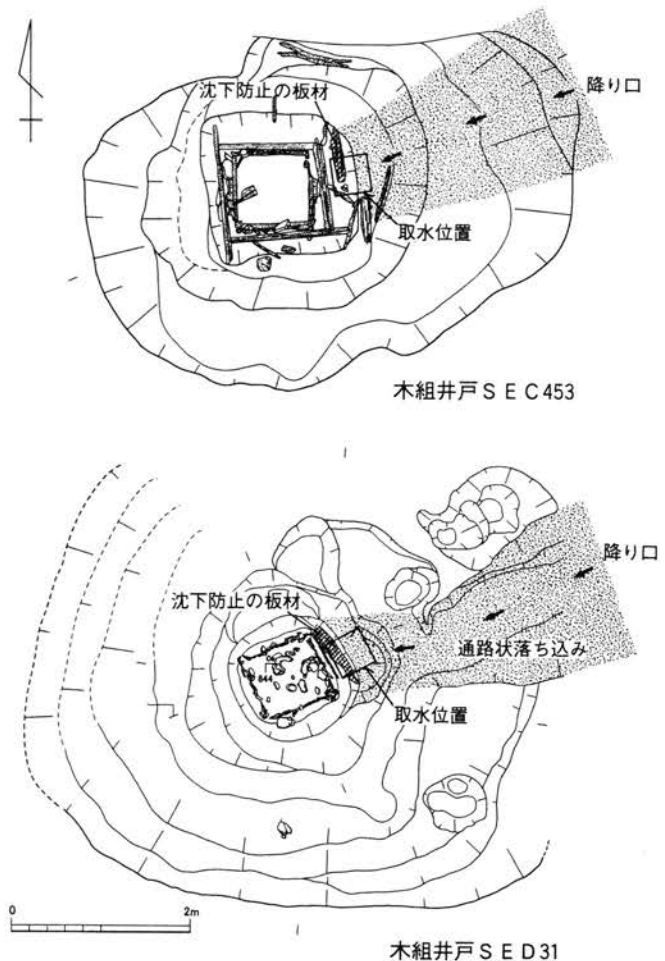
戸掘削による地下水の取水の必然性は、一時的な祭祀や、あるいは短期的に大量の用水を必要とする灌漑にともなう農業用水の確保に求めるよりも、集落の内において、日常的に消費される水の確保が必要とされたことに起因するとみられる。市田齊当坊遺跡は、石剣や石鏃、石庖丁などの各種石器類を製作するとともに、竪穴式住居跡の多くで碧玉製管玉の製作が行われており、畿内では最も早い段階の玉作り遺跡であることが判明した。こうしたことから、用水の確保とは、飲料水の確保よりも、むしろ集落内での手工業生産を効率的に展開するための恒常的な用水の確保であり、そのための水源が必要とされたとみるべきだろう。北陸最古の中期中葉頃の井戸が検出された八日市地方遺跡も大規模な碧玉製管玉製作遺跡<sup>(注110)</sup>であり、その井戸もまた市田齊当坊遺跡と同様の性格を持つものと考えられるべきであろう。初現期の井戸が掘削された背景は、藤田氏が指摘したように、環濠集落内での用水の確保に求めるべきだが、それは具体的には、集落内において大規模化する手工業生産を効率的に展開するためのものであったであろう。堀氏が北部九州における具体的な事例をあげて、朝鮮半島系の金属器生産との関係<sup>(注111)</sup>を指摘したように、玉製品や石器類の生産を含めて、初現期の井戸の掘削は、環濠集落内で拡大する手工業生産の効率化および集約

的生産と密接な関係があるものと考えられる。

### 3. 汲み上げ式と降下取水式

市田齊当坊遺跡の2基の井戸は、垂直方向に深く掘り下げる通常の竪穴状の掘形を持つものと異なり、上部が大きく開く逆台形状の掘形をなし、その最下部に井戸側木枠が設置される。上述したように、埋土や出土遺物などの観察から、使用時に上部が大きく開放していたとして考えられるものである。すなわち取水の際には、井戸側木枠周囲のテラスまで下りる必要があり、S E C453とS E D31のいずれにおいても、取水側と考えられる東側のスペースが広く確保され、基盤砂層の沈下を防ぐためと考えられる埋設された横板が認められた。また、S E C453では、こうした横板の下層が砂層とシルト混じり粘質土の互層によって補強され、S E D31では東側平坦面から井戸側木枠東側のテラス部へ下りる通路状の浅い落ち込みが認められたことなどから、いずれも当初から井戸側木枠東側のテラス部からの取水を考慮し、計画的に構築されたと考えることができる。こうした井戸を、竪坑状の掘形をもつ汲み上げ式井戸に対して、降下取水式井戸と呼称したい。取水のために、一旦、井戸側木枠周囲のテラス部まで下り、湧水点に近いレベルで取水するという点では、従来、集水施設とされてきた遺構の取水方法と類似して<sup>(注112)</sup>おり、市田齊当坊の井戸は、列島内でこれまで明確に認識されていなかった原初的な形態を色濃く残す井戸と考えられよう。

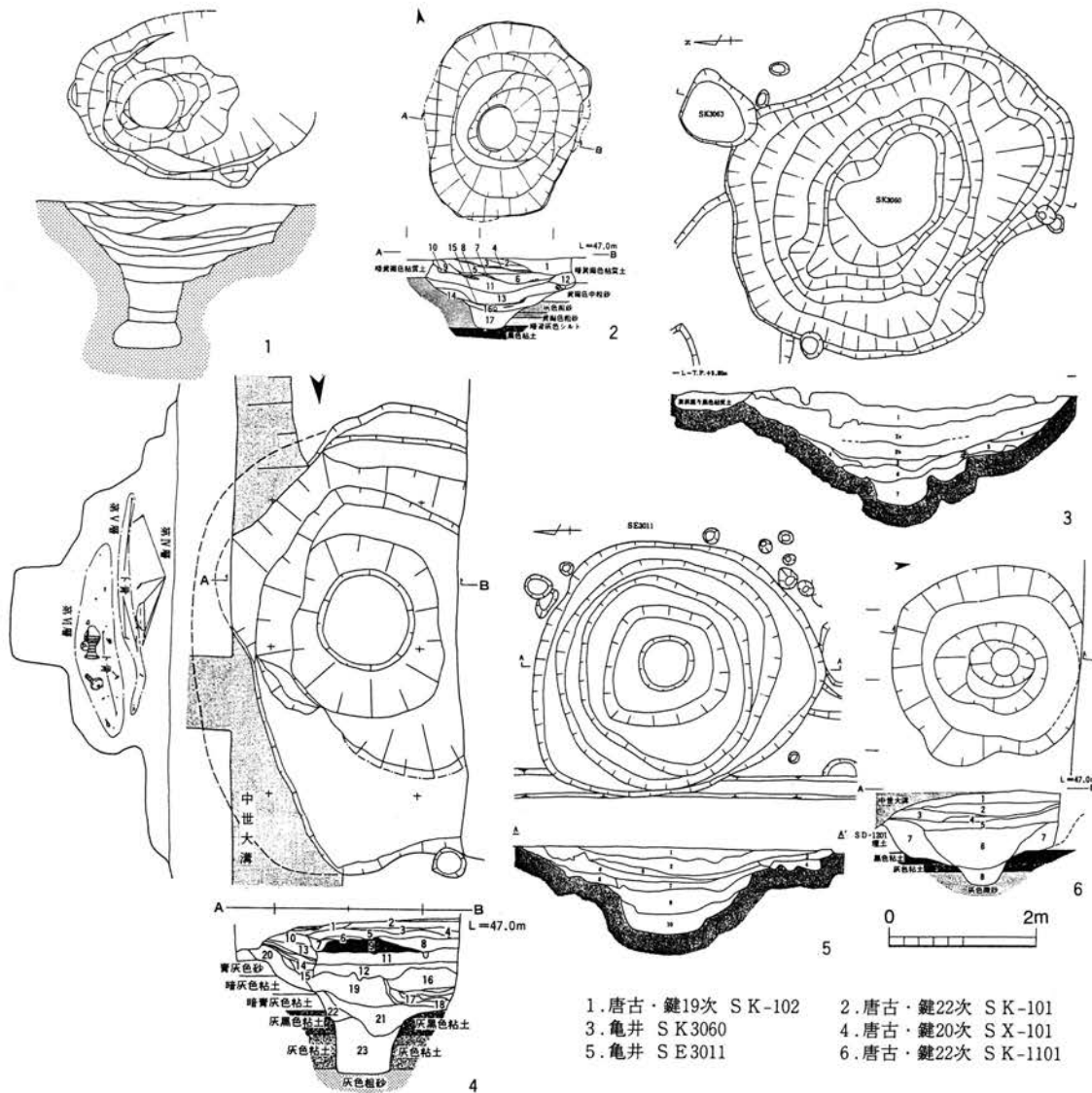
こうした形態の井戸が確認されたことによって、既存遺構のなかにも、再検討されるべき資料がある。特に素掘りの井戸については、掘形が2段掘形をもつ逆台形状を呈する井戸のうち、以下にあげるテラス部が低いレベルに設けられているものは注意されるべきであろう。例えば、唐古・鍵遺跡19次S K 102は、逆台形状の2段掘形をもつ中期後葉の井戸であるが、2段目の掘形の基底となるテラス部が一方にのみ大きく設けられており、水汲み場のスペースを確保する市田S E C453と類似する構造をもち(第77図)、井戸掘形の上部が開放していた可能性が指摘できる。唐古・鍵遺跡では、同様な例として、市田齊当坊遺跡の井戸とほぼ



第76図 市田齊当坊遺跡の井戸の取水位置

同時期中期前葉の第22次SK-1101<sup>(注114)</sup>や、井戸の可能性が高いとされる第22次SK-101、中期後葉の第20次SX-101<sup>(注115)</sup>などをあげることができる。なかでも第20次SX-101は、一部削平・未調査となっているものの、長径約6.5m、短径推定5m、深さ2.4mの規模をもち、掘形上部が大きく開き、掘形中段の北側に1.5mのテラスを設けており、降下取水式の井戸となる可能性がある。こうした例としてほかに、大阪府亀井遺跡SK3060<sup>(注116)</sup>や同SE2201<sup>(注117)</sup>、大阪府喜志遺跡79-1区井戸2<sup>(注118)</sup>にも類例をみることができる。

一方、掘削方法から同様の構造の可能性を指摘できるものがある。上部が大きく開口する掘形をもつもので、段掘りする井戸である。亀井遺跡SE3011<sup>(注119)</sup>は、上部を数段に段掘りしており、掘削深度以上に水平方向に広く掘削するこうした事例は、崩落防止や掘削上の安全性だけでは説明できず、段掘りすることによって、さらに取水点までのアプローチを容易にしたものと考えられよう。また、奈良県四分遺跡(藤原京第80次下層)SE8496<sup>(注120)</sup>の事例では、板材や丸太を敷き並べ、部分的に細杭で固定した井戸に至る通路状の遺構が検出されているが、この井戸では一部の板材



第77図 掘形にテラスを有する井戸

付表10 弥生時代～古墳時代初頭の木組井戸

	遺跡名	遺構名	所在地	掘形平面	掘形断面	枠平面	枠構造	時期	備考
1	鍋島本村南	SE310	佐賀市	楕円形	逆台形2段B	方形	A1	中期初頭	擬朝鮮系無文土器
2	貴別当神社	祭祀遺構	佐賀県千代田町	方形	逆台形2段B	方形	A1か	中期初頭	管玉
3	土生C	—	佐賀県小城郡	楕円形	漏斗形	方形か	A	中期初頭～前葉	—
4	上東	井戸1	岡山県都窪郡	円形	漏斗形	方形	A1	後期初	—
5	鹿田遺跡	井戸2	岡山県岡山市	円形	逆台形B	楕円形	B2	後期中葉	種子
6	百間川原尾島4	井戸7	岡山県岡山市	円形	逆台形B	円形	B2	後期後葉	打製石包丁片
7	百間川米田	井戸114	岡山県岡山市	不整形	逆台形2段Bか	円形	B2	古墳初頭	船材転用
8	姫原西	S K 11	鳥根県出雲市	不整形	逆台形一部2段	円形	B2	古墳初頭	—
9	姫原西	S K 17	鳥根県出雲市	不整形	逆台形2段B	円形	B2	古墳初頭	堅櫛
10	姫原西	S K 19	鳥根県出雲市	不整形	逆台形2段Bか	円形	B2	古墳初頭	—
11	田中谷	SE01	鳥根県松江市	円形	逆台形か	楕円	D	後期後葉	—
12	岩吉	SE03	鳥取県鳥取市	方形か	—	円形	B2+石	古墳初頭	上部石組み
13	池上曾根	大形井戸2	大阪府和泉市	不整形	逆台形2段Bか	—	A	中期中葉～後葉	隅柱留め・飯蛸壺・石鐘
14	池上曾根	大形井戸1	大阪府和泉市	正方形か	逆台形	円形	B1	中期後葉	気泡のある土器・サヌカイト
15	池上曾根	第4地区	大阪府和泉市	正方形	—	方形	A	中期後葉	隅柱留め
16	池上曾根	SG116	大阪府和泉市	方形か	—	円形	B1	中期末～後期初	周囲方形に縦板
17	池上曾根	SG112	大阪府和泉市	方形か	—	方形か	A1か	中期中葉	杭打ち込み
18	池上曾根	SG104	大阪府和泉市	正方形	—	方形	A	中期か	板材残存せず
19	雁屋	A地区井戸	大阪府四條畷市	円形	逆台形か	円形	B1	中期後葉	枠内炭化・鹿下顎骨
20	亀井・城山	SE3006	大阪府八尾市	円形	漏斗形	円形	B2	後期前葉	—
21	中田14次	SE201	大阪府八尾市	円形	逆台形2段B	円形	B1+A3	古墳初頭	枠底に小礫・一部横板
22	唐古・鍵1次	唐古池西南部	奈良県田原本町	—	—	円形	B1	中期前葉	—
23	唐古・鍵23次	SK-113	奈良県田原本町	不整形	漏斗形2段B	円形か	B2	中期中葉	鐙形土製品・ト骨
24	唐古・鍵23次	SK-131	奈良県田原本町	不整形	逆台か漏斗2段	円形	B1	中期中葉	—
25	唐古・鍵69次	SK-1130	奈良県田原本町	楕円形	漏斗形2段A	円形	D	中期中葉	白土に土器2段積み
26	唐古・鍵1次	21号地点堅穴	奈良県田原本町	—	—	円形	C2	後期	—
27	唐古・鍵2次	80号地点堅穴	奈良県田原本町	—	—	方形	C3	後期	—
28	芝18次	SE606	奈良県桜井市	楕円形	逆台形	—	B1	中期中葉	—
29	芝17次	SK-4307	奈良県桜井市	楕円形	逆台形2段B	—	B1	中期中葉	—
30	纏向	第4ビット井戸	奈良県桜井市	円形	—	円形	B1+A3	古墳初頭	—
31	平等坊岩室19次	SK-59	奈良県天理市	楕円形	逆台形	—	B1	中期中葉	—
32	平等坊岩室69次	—	奈良県天理市	—	—	円形	B1	中期後葉	—
33	平等坊岩室23次	—	奈良県天理市	—	—	円形	A	後期	—
34	井辺弥生	—	和歌山市	不整形	逆台形か	円形	B1	古墳初頭	—
35	市田齊当坊	SEC453	京都府久御山町	楕円形	逆台形2段A類	方形	A2	中期前葉	横棧有・碧玉石核
36	市田齊当坊	SED31	京都府久御山町	方形か	逆台形2段A類	方形	A2か	中期前葉	木製 雁い柄
37	市田齊当坊	SEC108	京都府久御山町	円形か	逆台形2段か	レンズ	B2	古墳前期前半	—
38	古殿	SE03	京都府峰山町	楕円形	円筒形か	楕円形	D	古墳初頭	鼓形木製品
39	松ヶ崎	SE01	京都府網野町	楕円形	楕円形か	楕円形	D	古墳初頭	—
40	二ノ畦・横枕	TAB地区SE-1	滋賀県守山市	不整形	逆台形2段B	方形	A1	中期後葉	BC97(年輪)・横棧有
41	二ノ畦・横枕	—	滋賀県守山市	円形	漏斗形	多角形	A1	中期後葉	BC60(年輪)
42	猫橋	SK13	石川県加賀市	円形	逆台形2段B	円形	B2	後期末	船材転用・枠下板材
43	猫橋	SK38	石川県加賀市	円形	逆台形2段Bか	方形	A3	後期末	中段に板材
44	八日市・地方	B-2区	石川県小松市	楕円形	逆台形2段A	円形	C1	中期中葉	—
45	八日市・地方	11区	石川県小松市	—	逆台形2段A	円形	C1	中期中葉～後葉	枠2段組み
46	八日市・地方	17区	石川県小松市	—	—	円形	C1	中期中葉～後葉	—
47	八日市・地方	26区	石川県小松市	—	逆台形2段A	円形	B1	中期中葉～後葉	—
48	大友西	SE14	石川県金沢市	楕円形	逆台形か	方形	A3	後期末前後	AD145(年輪)
49	大友西	SE16	石川県金沢市	楕円形	漏斗形2段B	レンズ	B2	後期後葉～末	赤彩土器
50	大友西	SE15	石川県金沢市	不整形	—	方形	A3	後期末	—
51	大友西	SE13	石川県金沢市	不整形	逆台形2段Bか	楕円形	D	後期後葉	線刻・赤彩土器
52	大友西	SE10	石川県金沢市	不整形	逆台形2段B	方形	A3か	古墳初頭	—
53	大友西	SE18	石川県金沢市	方形か	逆台形	楕円形	D+A3	後期末	AD169(年輪) 中段板材
54	戸水ホコダ	SE 1	石川県金沢市	楕円形	逆台形2段B	—	Aか	後期中葉～後葉	—
55	戸水ホコダ	SE2	石川県金沢市	円形	漏斗形	楕円形	D	後期後葉	桶2段積み
56	藤江C	SE7B004	石川県金沢市	不整形	逆台形2段Aか	楕円形	D	古墳時代初頭	枠内炭化
57	下安原海岸	—	石川県金沢市	—	—	方形	A3	後期末か	—



58	戸水C	D区1号井戸	石川県金沢市	楕円形	—	レンズ	B2	後期末	底に角礫層
59	金石東	—	石川県金沢市	—	—	レンズ	B2	後期後葉～末	—
60	寺中B	SE01	石川県金沢市	円形	逆台形2段B	楕円形	B2	後期末	—
61	西念・南新保	F区井戸	石川県金沢市	楕円形	逆台形2段B	楕円形	D	後期後葉	中段板材・桶逆位
62	大田	6号土坑	石川県羽咋市	円形	漏斗形	円形	B2	後期後葉	—
63	吉崎・次場	I-1号	石川県羽咋市	楕円形	逆台形2段B	楕円形	D	後期末前後	太形蛤刃石斧
64	吉崎・次場	I-2号	石川県羽咋市	楕円形	逆台形2段B	レンズ	B2	後期後葉	太形蛤刃石斧
65	吉崎・次場	S-1号	石川県羽咋市	—	—	楕円形	D	—	—
66	杉野屋ろくばわり	—	石川県志雄町	不整形？	—	方形	A3か	後期後葉	横棧有・縦板6枚
67	二口かみあれた	SE201	石川県志雄町	楕円形	逆台形か	円形か	B2	弥生末前後か	—
68	二口かみあれた	SX208	石川県志雄町	円形	逆台形	方形	A3+A3	古墳初頭	横棧有・縦板上下10枚
69	二口かみあれた	SE301	石川県志雄町	楕円形	逆台形	楕円形	D+A2	古墳初頭	縦板楕円形状に21枚
70	二口かみあれた	SE302	石川県志雄町	楕円形	逆台形	楕円形	D	後期末	—
71	針原東SE01	SE01	富山県小杉町	楕円形	—	円形	B1	後期末	—
72	針原東SE201	SE201	富山県小杉町	不整形	逆台形2段B	円形	D+B2	後期末	—
73	江上A	SE26	富山県上市町	円形	逆台形	円形	B1	後期後葉	鉢形木製品
74	朝日	SE01	愛知県清洲町	—	—	円形	D	後期末	—
75	朝日	SE02	愛知県清洲町	楕円形	—	円形	D	後期末	白3段積み
76	朝日	SE04	愛知県清洲町	楕円形	逆台形A2か	円形	D	150	—
77	朝日	SE03	愛知県清洲町	円形	—	円形	B1	150	—
78	伊場	YG 1	静岡県浜松市	—	—	方形	A2か	後期後葉	ガラス玉
79	下町田遺跡	—	長野県塩尻市	—	—	円形	B2+石	後期末	上部石組み

が井戸掘形中段へ続いており、降下取水式の構造を予想させる。

以上、掘形上部が大きく開口し、湧水点に近い位置で取水する構造をもつ市田齊当坊遺跡にみられた井戸の形態は、必ずしも特殊な形態では無く、中期を通じて存在する可能性が高いことを示した。井戸の構造が大きく変化するのは、大和の井戸を再検討した川北氏が指摘するように中期中葉であり、上部が大きく開く逆台形状2段掘りの掘形をなすものから、円筒形の掘形をなす井戸へと基本的には推移するが、一方で少なくとも降下取水式の井戸は中期後葉まで併存したものと考えられる。<sup>(注122)</sup>

#### 4. 木製井戸側木枠の構造と地域的展開

弥生時代の井戸の基本的な形態は、素掘りの井戸ないしは木製井戸側木枠をもつ井戸である。素掘り井戸については前期に遡る可能性のある資料もみられるが、確実な例ではともに中期初頭～前葉に出現している。木組井戸は、北部九州では中期初頭に出現し、近畿地方では中期前葉の唐古・鍵遺跡の丸太刳り貫き井戸や市田齊当坊遺跡の縦板組井戸が最古段階の資料である。本節では、市田齊当坊遺跡の木組井戸の位置づけを行うために、木製井戸側木枠をもつ井戸を中心に、列島内での地域的展開を明らかにしたい。

弥生時代から古墳時代初頭における木組井戸には、様々な形態があるが、基本的には、〈A類〉板組、〈B類〉刳り貫き材組み合わせ、〈C類〉樹皮・草木巻き、〈D類〉桶(臼)転用の4形態に大別されよう。A類の縦板組井戸には、さらに矢板や杭状の木材を打ち込むもの(A1類)、複数の縦板を並べて組み合わせるもの(A2類)、一枚板を方形に組み合わせるもの(A3類)がある。<sup>(注124)</sup> また、B類の刳り貫き材を使用する井戸については、丸太一木刳り貫き(B1類)と、孤状の刳り貫き材を組み合わせるもの(B2類)に分類できる。C類は樹皮巻きの井戸(C1類)と草木類の編

み物を巻く井戸(C2類)がある。さらにD類の桶転用井戸は、削り貫き材を使用するため広義のB類に含めることも可能だが、地域色が強く系統的に整理できると考えられるため、別類型とする。なお、井戸掘形の断面形態については、逆台形状を呈する井戸のうち、テラスを広く設け、2段目掘形を緩やかに立ち上げる井戸を逆台形2段掘りA類、テラスが狭く、2段目掘形を60°以上の勾配で急激に立ち上げるものを、同B類とする(付表10参照)。

### (1)北部九州

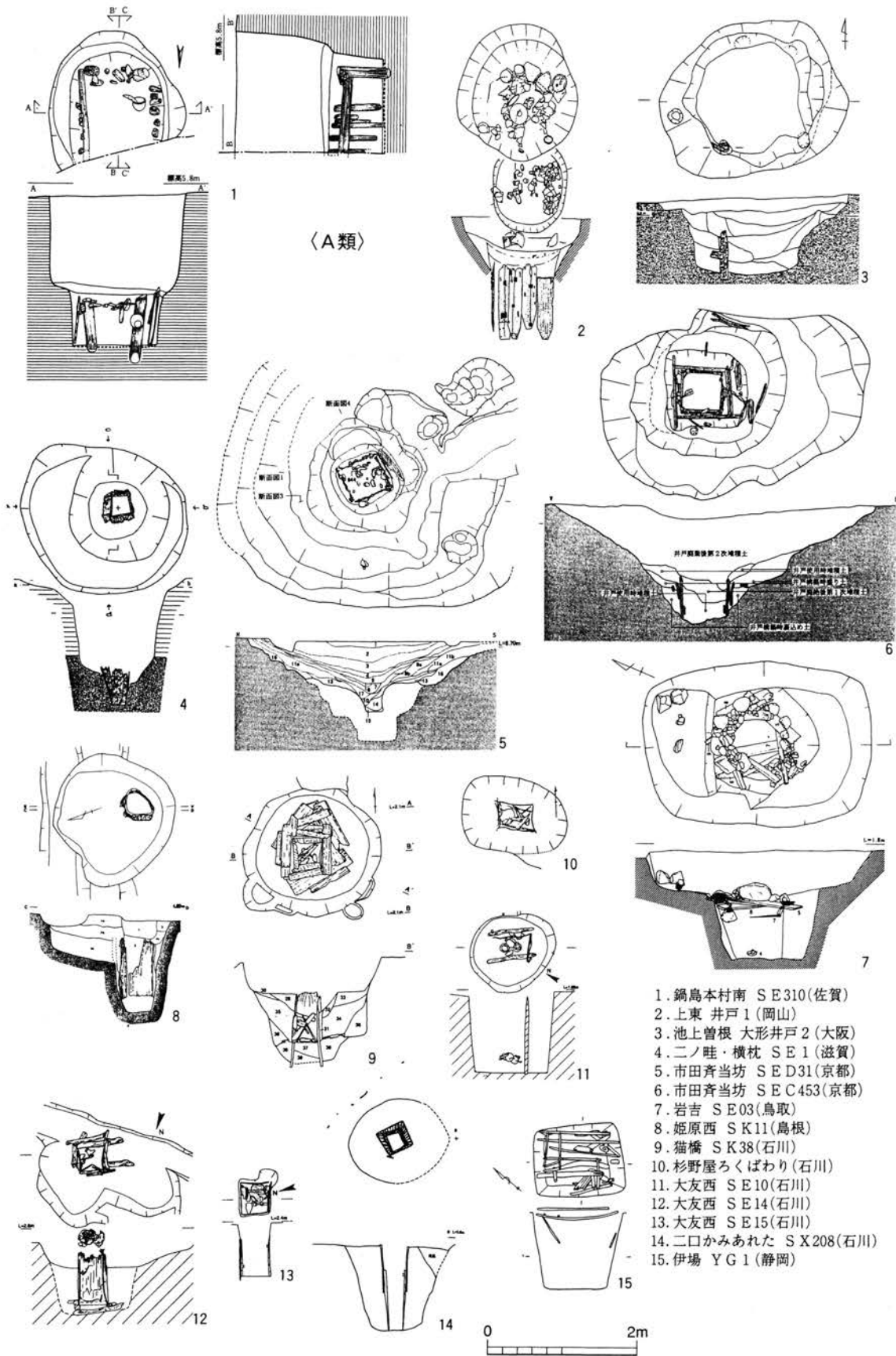
北部九州では、北部九州では、佐賀県に集中しており、鍋島本村遺跡<sup>(注125)</sup>、貴別当神社遺跡<sup>(注126)</sup>、土生遺跡<sup>(注127)</sup>などで中期初頭の木組井戸がみられる。佐賀県鍋島本村遺跡において、中期初頭に2段掘りの掘形をもつ縦板組のA1類であり、2段目の掘形に矢板状の縦板を打ち込み、上部を横棧となる丸太材で留め、井戸としている。井戸内からは、擬朝鮮系無文土器が出土している。また、鍋島本村遺跡に近接する土生遺跡では、中期初頭～前葉の底部に木材を使用した土器転用井戸や、おおよそ同時期とみられる縦板組井戸が検出されている。中期中葉以降の井戸は、鍋島本村遺跡の例をとれば、同一集落内で3基の井戸が検出されているが、いずれも素掘りの井戸である。北部九州では、弥生時代を通じて福岡平野だけでも800基以上の井戸が検出されているが、堀大介氏によれば、出現期を除いてそのほとんどが素掘り井戸とされ、縦板組の井戸は後期以降に継続しないようである。

### (2)山陽

山陽では、弥生時代中期前葉以降、素掘り井戸の検出例がみられ、岡山市百間川今谷遺跡では中期の井戸が10基以上検出されている<sup>(注128)</sup>。木製井戸側木枠を使用するものは、後期に下がり、A類の板組と、C2類の弧状材を組み合わせるものがある。板組の井戸は、後期中葉～後葉の岡山県上東遺跡<sup>(注129)</sup>の事例が早く、矢板状の縦板を打ち込む構造である。削り貫きの弧状の材を組み合わせたC2類の井戸には、丸太を半截して削り貫き合わせた岡山市百間川鹿田遺跡<sup>(注130)</sup>や、弧状の材の一部が検出された百間川原尾島遺跡<sup>(注131)</sup>の後期中葉の事例が認められる。また、古墳時代初頭では、岡山市百間川米田遺跡<sup>(注132)</sup>の例があるが、この井戸側木枠は弧状の材を4枚組み合わせたものであり、掘形中位の井戸側木枠周囲に板材で足場を構築した特色ある井戸である。

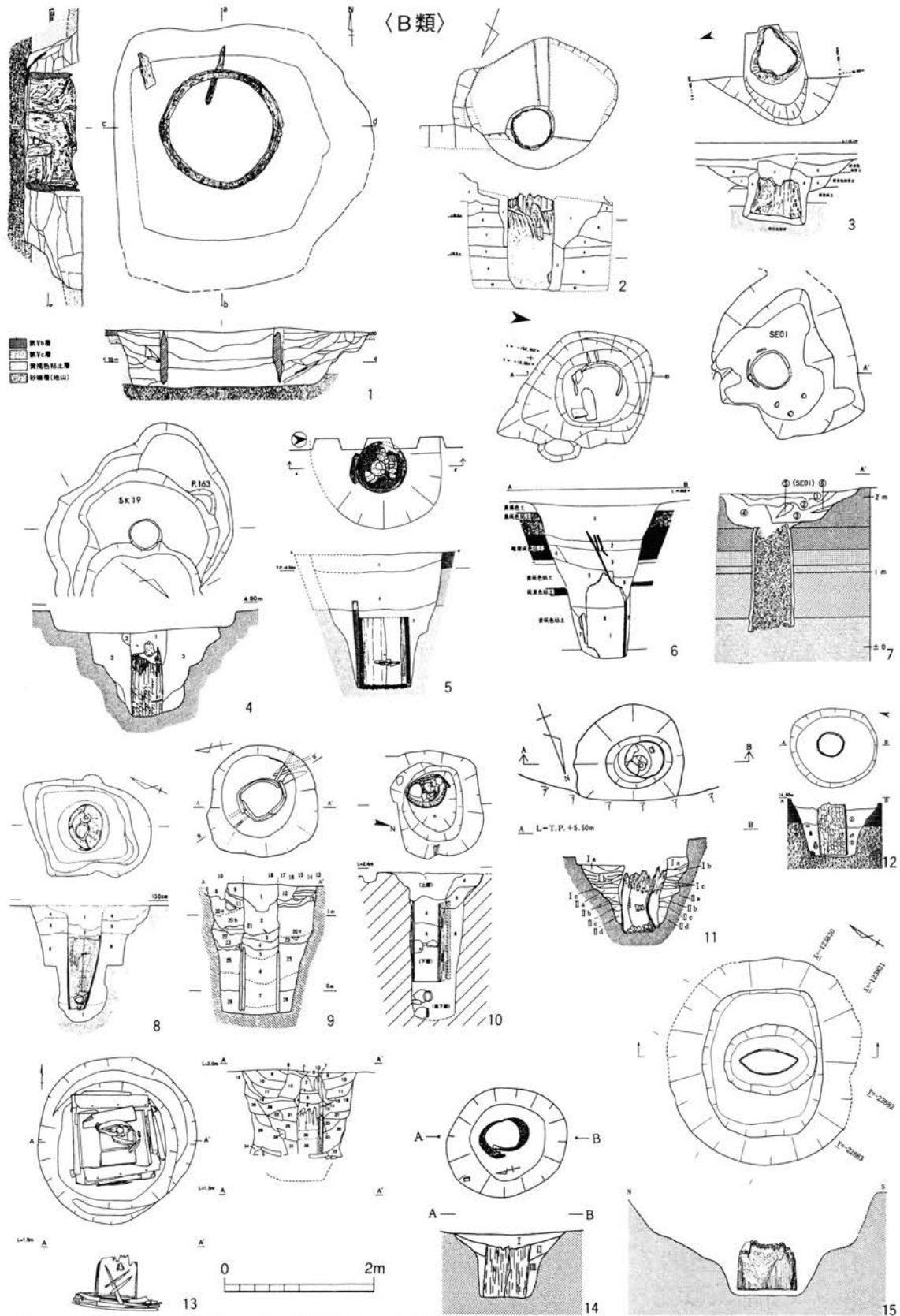
### (3)山陰

平野部の調査が少ないことが反映してか、全般に井戸の検出例は乏しい。井戸のうち、最も古い時期のものは、中期後葉の島根県下古志遺跡<sup>(注133)</sup>の大甕の底部を破碎して据えた土器埋置の井戸であるが、確実な例は、同遺跡の中期末～後期初頭の逆台形状の素掘り井戸である。その後、後期にはほとんど井戸の検出例が認められないが、古墳時代初頭に再び井戸が検出されるようになる。古墳時代初頭の木組井戸は、鳥取県岩吉遺跡<sup>(注134)</sup>で、A2類の縦板組井戸が検出され、島根県姫原西遺跡<sup>(注135)</sup>でも、木製井戸側木枠をもつ3基の井戸が同一集落内で検出された。これらのなかには、弧状材を円形に組み合わせた井戸や、縦板組みの井戸があり、この時期には多様な木組井戸が広く構築されたようである。また、注目されるのは、D類の桶転用井戸が島根県田中谷遺跡<sup>(注136)</sup>で検出されていることであり、この種の井戸が集中的に分布する北陸地方の影響とみられる。



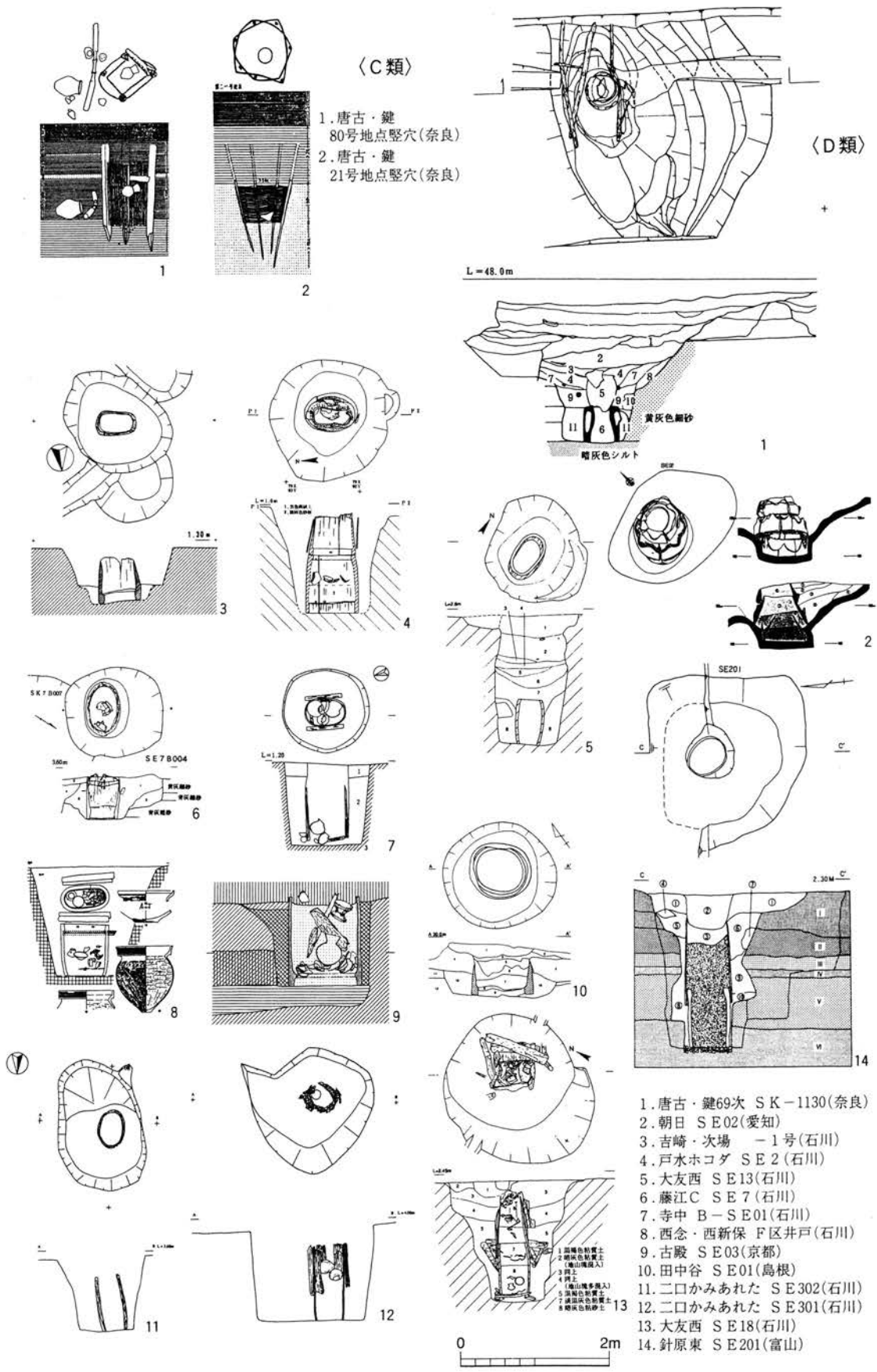
1. 鍋島本村南 SE310(佐賀)
2. 上東 井戸1(岡山)
3. 池上曾根 大形井戸2(大阪)
4. 二ノ畦・横枕 SE1(滋賀)
5. 市田齊当坊 SED31(京都)
6. 市田齊当坊 SEC453(京都)
7. 岩吉 SE03(鳥取)
8. 姫原西 SK11(島根)
9. 猫橋 SK38(石川)
10. 杉野屋ろくばわり(石川)
11. 大友西 SE10(石川)
12. 大友西 SE14(石川)
13. 大友西 SE15(石川)
14. 二口かみあれた SX208(石川)
15. 伊場 YG1(静岡)

第78図 木製井戸側木枠をもつ井戸集成(1)〈A類：板組〉(縮尺1/80、4~7は1/120)



1. 池上曾根 大形井戸1 (大阪) 2. 平等坊岩室19次 SK59(奈良)  
 3. 唐古・鍵23次 SK-131(奈良) 4. 姫原西 SK19(石川) 5. 中田 SE201(大阪) 6. 唐古・鍵 SK-113(奈良)  
 7. 針原東 SE01(富山) 8. 百間川米田 84(岡山) 9. 鹿田 井戸2 (岡山) 10. 大石西 SE16(石川) 11. 亀井・城山(大阪)  
 12. 江上A SE26(富山) 13. 猫橋 SK13(石川) 14. 大田 6号土坑(石川) 15. 市田齊当坊 SEC108(京都)

第79図 木製井戸側木柵をもつ井戸集成(2) < B類: 丸太刳り貫き・刳り貫き材組合わせ > (縮尺1/80)



第80図 木製井戸側木杵をもつ井戸集成(3) <C類：草木類巻き付け・D類：桶(臼)転用> (縮尺1/80)

## (4) 近畿

木組井戸の最も古い例は市田齊当坊遺跡のA 2類の2例と唐古・鍵遺跡の唐古池西南部の調査で検出されたA 1類の丸太刳り貫き井戸<sup>(注137)</sup>の例である。市田齊当坊遺跡の2例はいずれも縦板横棧留めの構造であるが、特にS E 453は、縦板の支持板として、まず横板を組んでいる点や、縦板の基部を横板で留める構造をもつ点で、他地域でも類例の認められないものである。縦板組井戸は、弥生時代中期前葉の市田例のほか、残存状況は悪いが、中期中葉～後葉の大阪府池上曾根遺跡の大形井戸K 2・同73年度調査第4地区井戸<sup>(注138)</sup>の例があり、さらに中期後葉の滋賀県二ノ畦・横枕遺跡<sup>(注140)</sup>の2基の井戸へと続く。二ノ畦・横枕遺跡は、矢板状の縦板を打ち込み、上部を横棧で留めるA 1類で、縦板を並べ、下部を横板で留めるA 2類の市田齊当坊遺跡S E 453とは構築方法が異なる。また、井戸掘形の断面形も、2段掘形の上部分が大きく開かない形態であり、汲み上げ式井戸とみられ、基本構造には大きな違いが認められる。刳り貫き材を使用したB類のうち、一木の丸太刳り貫き材を使用したB 1類は、近畿では中期中葉～後葉の木組井戸の主体をなしており、奈良県唐古・鍵遺跡23次S K 131<sup>(注141)</sup>や、同芝遺跡18次、同平等坊岩室遺跡19次、大阪府雁屋遺跡<sup>(注144)</sup>にみられ、中期後葉には池上曾根遺跡において超大形の刳り貫き材を用いた大形井戸1<sup>(注145)</sup>が検出されている。木組井戸は後期には退潮し、畿内では後期前葉の亀井・城山遺跡<sup>(注146)</sup>のB 1類のほか、草木の菰を巻いたC 2類が唐古・鍵遺跡で2例検出されているのみであり、井戸の基本形態は素掘りの井戸に転換するようである。再び木組の井戸が出現するのは古墳時代初頭以降であり、和歌山市井辺弥生時代遺跡<sup>(注148)</sup>でB類の丸太刳り貫き井戸が検出され、大阪府中田遺跡<sup>(注149)</sup>や纏向遺跡<sup>(注150)</sup>では、B類のなかでも上下2段組の井戸側木枠をもつ井戸が検出されている。一方、市田齊当坊遺跡では弧状の刳り貫き材をレンズ状に組み合わせた古墳時代前期前半のA 2類の事例がみられる。A 2類は、弥生時代後期後葉～末の北陸で数例を認めるが、古墳時代初頭から古墳時代中期にかけて畿内に波及するもので、そのほとんどが船材を転用しており、淀川水系に特色ある分布をみせている<sup>(注152)</sup>。また、木製の底部を刳り貫き井戸側木枠として転用したD類は、中期中葉に奈良県唐古・鍵遺跡で大和形甕と組み合わせたものが検出されている<sup>(注153)</sup>が、例外的な資料に留まり、継続しないようである。D類のうち、桶の底板をはずし井戸として転用する例は、新たに後期中葉以降に北陸で盛行するが、これは後期後葉～末に東海へも波及するとともに、北近畿では丹後にも波及し、京都府古殿遺跡<sup>(注154)</sup>や同松ヶ崎遺跡<sup>(注155)</sup>でも検出されている。

## (5) 北陸

北陸における木製井戸側木枠をもつ最古の例は、弥生時代中期中葉の石川県小松市八日市・地方遺跡の例である。樹皮を円筒形に巻いて井戸側木枠とした特色ある井戸が検出されており、中葉～後葉にかけて同種のものが3例以上確認されている<sup>(注156)</sup>。堀形断面が逆台形2段掘りA類を基本としており、1段目のテラスを広く取るタイプである。後期の資料としては、縦板組横棧留めの井戸や井戸側木枠に桶を転用した井戸、さらに弧状の刳り抜き材組み合わせの井戸など、多様な形態の木製井戸側木枠をもつ井戸が認められる。なかでも桶を転用したD類は、最も多くみられる形態であり、久田正弘氏や出越茂和氏らが指摘するように北陸にみられる特徴的な井戸と

言える。この形態の井戸は、後期後葉にはじまり、古墳時代初頭にかけて、石川県戸水ホコダ遺跡<sup>(注158)</sup>、同大友西遺跡<sup>(注159)</sup>、同西念・南新保遺跡<sup>(注160)</sup>、同吉崎・次場遺跡<sup>(注161)</sup>、同二口かみあれた遺跡<sup>(注162)</sup>、富山県針原東遺跡<sup>(注163)</sup>など北陸の広い地域で認められる。古墳前期の石川県能見遺跡<sup>(注164)</sup>や同藤江CⅦ遺跡<sup>(注165)</sup>でも検出されており、古墳前期前半まで存続するようである。板組のA類は、大友西遺跡と連続する一体の遺跡である後期中葉の戸水ホコダ遺跡例が該当するが、掘形上層から縦板材が多数検出されたもので、詳細な構造は不明である。確実な例では、後期後葉の石川県杉野屋ろくばわり遺跡<sup>(注166)</sup>、後期末の同大友西遺跡、同下安原海岸遺跡<sup>(注167)</sup>、古墳時代初頭の二口かみあれた遺跡などがあげられる。前2者は、板材を方形に組み合わせて井戸側木枠を構築する。また、後者の二口かみあれた遺跡では、完成された2段構造の井戸側木枠を2基検出しており、その系譜が注目される。2段構造の井戸側木枠をもつ井戸は大友西遺跡や針原東遺跡などの後期末の井戸が最も古い事例である。削り貫き材を使用するB類は、石川県戸水C遺跡<sup>(注168)</sup>、同金石東遺跡、同寺中B遺跡<sup>(注169)</sup>、同猫橋遺跡<sup>(注170)</sup>、同大田遺跡<sup>(注171)</sup>、富山県針原東遺跡、同江上A遺跡<sup>(注172)</sup>のように広く分布している。

以上のように、北陸は後期後葉～末に最も木組井戸が盛行する地域であり、同時期に3系統の井戸が構築されている。

#### (6)中部・東海

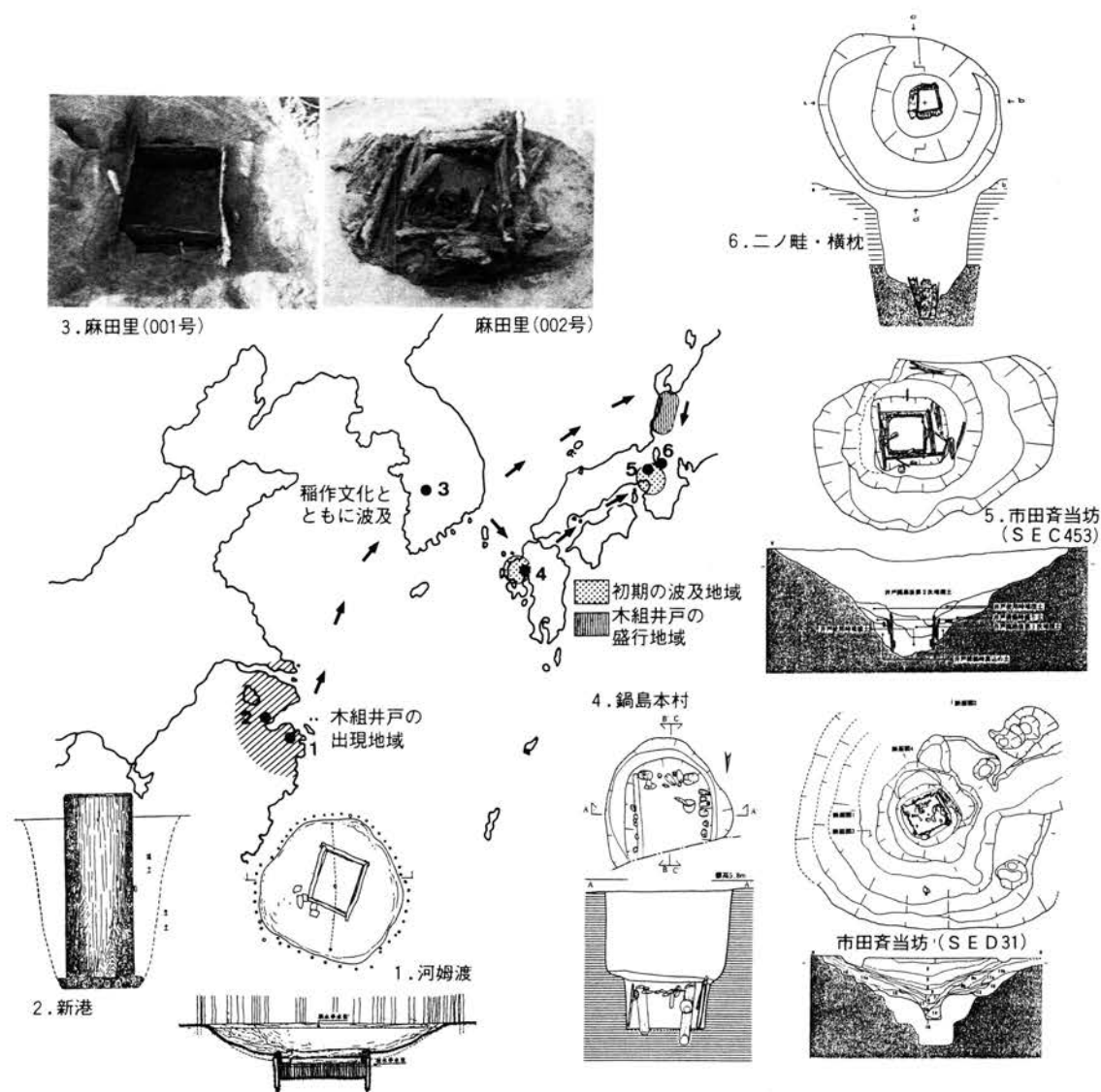
東海地方では、中期に遡る確実な井戸の事例は認められない<sup>(注173)</sup>。後期の井戸としては、静岡県伊場遺跡で、後期中葉頃の棒状木製品を格子状に組んだ井戸状遺構が検出されているが、環濠外にあって、集落との関係が不明である<sup>(注174)</sup>。中期～後期を通じて、東海の西部では、井戸の確実な例は認められないが、後期末には愛知県朝日遺跡で桶(臼)の底板を抜き、井戸側木枠として転用した井戸が複数検出されている<sup>(注175)</sup>。これらは、同時期の北陸から流入した新たな井戸の形式と考えられる。中部地方では、井戸の検出例はこれまで報告されていなかったが、近年、弥生時代後期後葉の長野県下町田遺跡において、削り貫き式の井戸側木枠の周囲を更に石積みして補強した堅固な構造をもつ井戸が検出された。これまで国内で知られている石組の井戸は、いずれも7世紀以降に展開しており、木製井戸側木枠との組み合わせという特異な形態ながら、石積みを一部に用いた最古の井戸として注目される<sup>(注176)</sup>。

### 5. 東アジアの井戸と市田齊当坊遺跡の井戸の系譜

前節で述べたように、弥生時代の木製井戸側木枠をもつ井戸は、4つの形態に大別できる。北部九州で出現する縦板組みを主体とするA類は、中期初頭に北部九州で成立し、中期から後期初頭に中部瀬戸内・近畿のほか一部は東海にも分布する。A類は素掘り井戸が多く分布する地域と重なり、これらの地域では後期には竪坑状の素掘り井戸が主体となる。削り貫き材を使用するB類は、弥生時代中期から古墳時代初頭に広い地域で見られる最も一般的な形態であり、中期中葉～後葉初頭には近畿を中心に分布するが、後期には退潮する。一方、北陸では、B類は後期中葉～古墳時代初頭に盛行しており、対称的である。木製井戸側木枠を有する井戸のうち、特に注目される形態は、中期中葉に北陸で成立する樹皮巻き(C類)の井戸の系譜である。円筒形に巻いた

樹皮を井戸側木枠とするものだが、小松市八日市地方遺跡で集中的に検出されたこの形態の井戸は、50～70cmの高さに曲物状に樹皮を巻いた井戸側木枠を用いる。<sup>(注177)</sup>これらの井戸掘形の形状は、水平方向に広く掘削する逆台形2段B類であり、降下取水式となる可能性が高いものである。現状では、こうした樹皮巻き井戸の系譜は列島内の他地域には求められないことから、独自のルートによる大陸との交流を背景に、在地的な伝統的技法を取り入れつつ、発展させた可能性を考える必要がある。北陸の樹皮巻き井戸は、後期に至ってより強固な井戸側木枠が求められた結果、<sup>(注178)</sup>D類の桶転用井戸の出現に至ったものとみられる。

市田齊当坊遺跡の弥生時代中期の井戸は、前述した4形態のなかでは、前者の板組み井戸の系列に含まれるが、北部九州や中部瀬戸内で見られる縦方向に深く掘削する竪坑状の汲み上げ式の井戸と異なり、掘形中段に大きなテラスを設ける降下取水式の井戸である点に特色がみられる。縦板組み井戸のうち、最古とみられる佐賀県鍋島本村遺跡の中期初頭の井戸は、竪坑状の逆台形2段B類の掘形をもち、逆台形2段A類の市田齊当坊遺跡の井戸とは形態的に異なる。また、上



第81図 井戸の波及



部が大きく開く逆台形2段A類の堀形をもつ中期の素掘り井戸は、主に近畿を中心に分布しており、こうした点からも、市田斉当坊遺跡における木組井戸の出現を竪坑状掘形を主体とする北部九州からの波及として短絡的にとらえることは必ずしも適当ではない。取水方法という視点からみると、むしろ北陸に広がる井戸との共通性を指摘することができ、その系譜は広く東アジア的な視野において検討される必要があるだろう。

東アジアにおける井戸は、中国の初期水稻耕作発祥の地である新石器時代の長江下流域で出現する。中国でこれまで判明している井戸のうち、市田斉当坊遺跡の井戸と構造上の類似性が指摘できるものは、B. C. 4000年頃の中国最古の井戸である浙江省河姆渡遺跡の井戸である。この井戸は、木杭を方形に打ち込み、内側を横棧で留めたもので、上部が大きく開放する構造として復原され、原初的な形態を示す井戸として知られている。市田斉当坊遺跡の井戸と時期的には大きく隔たるが、縦板組横棧留めの系譜にあることや、降下取水式井戸の範疇で理解できる点は、類似した特徴をもつ。長江下流域では、商周代には丸太刳り貫き井戸<sup>(注179)</sup>や草木類を編物状に巻いた井戸も出現しており、堀大介氏や鐘方正樹氏が指摘するように、弥生時代の井戸の系譜を探る上の遡源地の一候補として注目される地域である。木組井戸は周代から戦国時代に黄河流域や山東半島など華北でもみられるが、鐘方氏の研究によれば、これらの地域ではいずれも校倉式建物や木槨墓の建築技術に通じる横板組みの井戸が通例であるとされ、縦板組井戸の系譜は南方系文化の中で理解することができる。中国では、戦国末期から漢代以降は、地下水位の低下とともに石積み井戸・磚積み井戸、瓦積み井戸など竪坑形の深い掘形をもつ井戸に移行しており、河姆渡遺跡にみられるような降下取水式の縦板組井戸は早い段階に終息し、地理的・時間的な時期的な隔たりがみられた。しかし近年、朝鮮半島で井戸の原初的な形態を残すとみられる縦板組井戸が発見された。大韓民国忠清南道論山市麻田里遺跡では、2基の木組み井戸が検出されたが、このうちの1基は、方形に組んだ横板を支持板として、その内側に縦板を組んだ井戸であり、市田斉当坊遺跡の井戸と極めてよく似た構造をなす。井戸は無文土器時代のものとされ、「松菊里型土器」が出土しており、時期的にも市田斉当坊遺跡の井戸に近く、直接的な系譜を求められる資料であり、稲作とともに波及した南方系文化が朝鮮半島を介して列島内に波及したことの証左といえよう。

今回報告した市田斉当坊遺跡の2基の井戸は、国内でも最古級の井戸であり、縦板横棧組みの完成された井戸側木枠構造をもつ例として注目される。井戸のうちの1基から鉄斧の柄とみられる木製品(第48図)が出土しており、間接的ながら列島内における鉄器使用例の最古段階の事例となった。井戸側木枠材のうち、内側最下部に横棧として使用された板材は、ホゾ穴結合で組み合わせる整美に加工された板材で、その表面には鋭利な手斧によるとみられる加工痕を残し、井戸の構築された弥生時代中期前葉に鉄器が使用された可能性を窺わせるものである。こうした朝鮮半島系の先進的な技術をいち早く導入することに加え、井戸S EC453に近接する中期前葉の玉作り関連遺物を出土した竪穴式住居跡S HC450やS HC451は、いずれもいわゆる松菊里型類型<sup>(注184)</sup>に属する住居である。これらもまた朝鮮半島系の住居の系譜を引くものである。こうしたことから、市田斉当坊遺跡における最古段階の縦板組み井戸導入の背景には、環濠集落内で拡大する手工業生産の効率化および集約的生産とともに、朝

鮮半島系の技術導入が深く関与しているものと考えられよう。

(高野陽子)

## 第5節 市田斉当坊遺跡の方形周溝墓

—特に周溝を掘り直す行為；京都府内の事例を含めて—

### 1. はじめに

周溝墓は、一旦造られて埋葬がなされると、そのあと、人間の手が加えられずに、荒れるにまかせたままではなかった。

周溝墓に隣接して新たな周溝墓が造られる場合、周溝墓どうしが大きく重複して造られるものは皆無である。隣接して掘削される場合には、従前に掘られた周溝をそのまま利用したり、周溝を掘り直しているものが認められる。こういった事実から、周溝が長期間にわたって地表で認識できる状態であったことが窺われる。また、周溝墓の周溝から、時期の隔たった土器が、偶然ではない状況で出土する例も認められる。このように、長期間にわたって墓域が利用されていることや、周溝墓がほとんど重複して造られていないという点から、周溝は土砂の堆積によって埋まるにまかせたままのものではなく、人間による管理または関与が継続的になされていたと推測されるのである。周溝内出土の土器に時期差が認められる場合などは、実際、長期間にわたって、死者に対する儀礼が執り行われたと<sup>(注185)</sup>理解されている。

市田斉当坊遺跡の方形周溝墓の特徴の一つは、個々の周溝墓の周溝を環濠状の大溝を掘削することによって、連結している点である。それ以外にも、周溝上に溝状の土坑を掘削したり、不定形の溝を掘削する行為が認められる。こういった行為は、一つの周溝墓を長期間にわたって管理し、利用していたためであろう。この節では、まず、市田斉当坊遺跡の周溝墓について概観した上で、周溝の再掘削行為を類型化し、その掘削の意味について、若干の考察を行いたい。

### 2. 市田斉当坊弥生集落における周溝墓の様相

#### (1) 周溝墓概観

まず、市田斉当坊弥生集落における周溝墓の大まかな特色を見ておきたい。個々の墓から周溝墓の群集に至るまでのそれぞれの呼称に関しては、前稿の内容で<sup>(注186)</sup>理解している。

市田斉当坊弥生集落では、周溝墓は集落の北辺のA調査区と南辺のC・D調査区の2か所に造られている。集落の東西については調査がなされていないので、東辺・西辺に小墓域が分布しているのかどうかは、不明である。北・南の小墓域は、それぞれ北と南にさらに広がっていく様相を示している。北・南小墓域の周溝墓は、竪穴式住居と重複するものはすべて周溝墓が後出している。北・南小墓域の周溝墓の周溝からは、市田2期以降の土器が出土し、一部の周溝の上層からは弥生時代後期～古墳時代前期の土器が出土する。

周溝墓の集塊は、一般的には列状をなすものと市松模様状のものが認められるが、市田斉当坊弥生集落の周溝墓は、北・南小墓域ともに市松模様を呈した配置となっている。それぞれの小墓

域においては、大形の周溝墓と小形の周溝墓が混在している。小形の周溝墓の方台部上では、埋葬施設と判断される土坑が検出されるのに対して、大形の周溝墓では検出されていない。大形の周溝墓と小形の周溝墓で、方台部上の盛り土の高さに違いがあったために、主体部の遺存の有無に違いが現れるものと考えられる。大形の周溝墓は高く盛土がなされているのに対して、小形の周溝墓は低くしか盛土がなされていなかったもので、同程度の深さに埋葬墓の墓壙が掘られたとしても、後世の削平のために、大形の周溝墓の埋葬墓は遺存しておらず、小形の周溝墓には遺存するのであろう。周溝墓の重複関係より、大形周溝墓の周溝が小形周溝墓の周溝埋土に後出する傾向にある。また、周溝内より出土した遺物を見ても、小形周溝墓が大形周溝墓よりも先行して造られる傾向が指摘できる。

市田斉当坊遺跡の周溝墓の大きな特徴は、周溝を連結させて、大溝を掘削している点である。北小墓域では認められないが、南小墓域では、中期中葉以降に大溝が4ないし5条掘削されている。これらの溝は直線的に掘られており、集落をめぐるような湾曲を示さないこと、居住区の北側に位置するA調査区には全く認められないことから、集落の周囲に掘られた環濠とは認めがたい。隣り合う周溝墓の溝を連結するように掘削されている点から、まさに、周溝墓の溝を連結するために掘削された溝と考えられるものである。この大溝は、基本的には東西方向を指向して掘削されており、周溝墓との平面的な配置を見ると、特に大形の周溝墓の南辺周溝もしくは北辺周溝を1条の大溝で連結するために掘削されたものと判断される。これらの大溝の掘削時期は、C調査区のもは市田5・6期以降に掘削されているのに対して、D調査区のS DD18やS DD02からは市田3期の土器片が出土しているので、C調査区の連結大溝よりも古い段階に掘削されたものと考えられる。そして、これらの大溝や周溝墓の周溝の最上層からは、弥生時代後期～古墳時代前期の土器片がわずかながら出土するので、弥生時代中期に掘削されて以後、古墳時代前期に至るまで溝として機能していたものと考えられる。大溝で周溝を連結する以外にも、周溝を土坑や溝で再掘削する行為が認められるが、これについては後述する。

以上のことを踏まえ、周溝墓造営の視点から市田斉当坊弥生集落の展開をまとめると、次のようになる。市田1・2期には、まず、竪穴式住居が集落の全域に散在して造られる。市田斉当坊弥生集落の成立である。B調査区およびC調査区北半の集住区では、竪穴式住居の建て替えが顕著に認められるのに対して、北と南の小墓域では、周溝墓が重複する竪穴式住居に建て替えが見られないので、最初の周溝墓が造られる時点までに、集落の北と南を墓域にすることが取り決められたのであろう。総対的に、D調査区の周溝墓からはC調査区よりも古い様相をもつ土器が出土するので、C調査区に先行して周溝墓が造られたと判断される。各調査区の周溝墓は、最初の段階では小形の周溝墓が造られる傾向が認められる。そして、小形の周溝墓の間を埋める形で、大形の方形周溝墓が構築される。その際には、隣接した周溝墓の周溝は再掘削されて、共有された周溝として利用される。最終的に南小墓域では、まず、D調査区で市田3期以降に大溝で東西方向の周溝が連結され、C調査区では市田5・6期以降に大溝が掘削され、一部の大溝は弥生時代後期から古墳時代前期まで溝として利用されるのである。北の小墓域では、大溝による周溝の

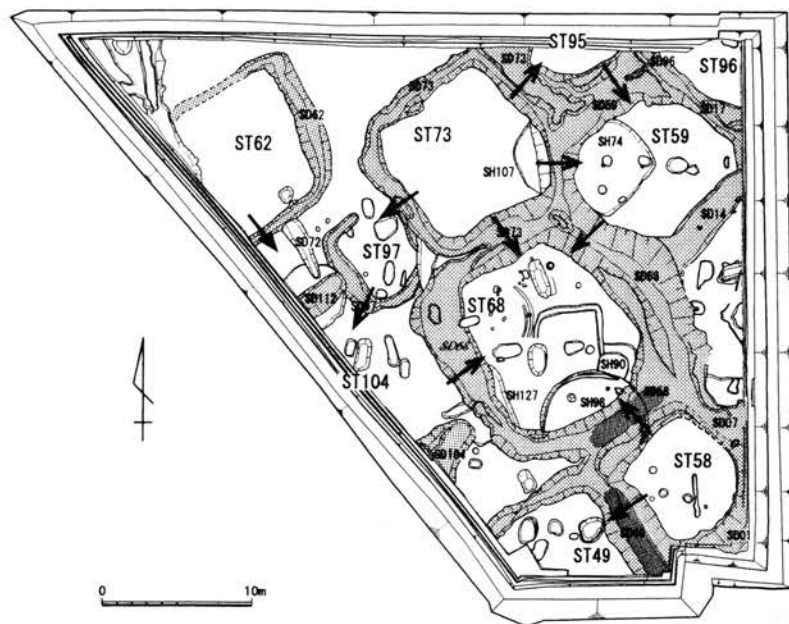
連結は認められない。

(2) A調査区の周溝墓

A調査区では、10基以上の方形周溝墓を確認している(第82図)。周溝墓は市松模様状に配置されており、それぞれの周溝墓が周溝を共有したり、重複関係を有して造られている。平面・土層で重複関係を確認し、先後関係を観察できたのは、STA73→STA95・STA59・STA68、STA95→STA59、STA59→STA68、STA97→STA104がある。また、出土土器の型式より先後関係を認めたのは、STA73→STA97、STA58→STA68・STA49、STA104→STA68がある。最も古い周溝墓はSTA73で、周囲に隣接したすべての周溝墓に周溝が破壊されている。最も新しく造られた周溝墓は、その南に位置しているSTA68である。STA68とSTA58、STA58とSTA49の間は、後出する周溝墓が先行する周溝墓の周溝の窪みをトレースするように周溝を掘削したものと想定されるが、最終的にはその上から幅広の大きな溝状の土坑を掘削している。そのため、周溝の重複による先後関係は不明である(図版第50-3)。

これら周溝の重複関係より、周溝墓の築造順を復原すると、STA73→STA95→STA59→STA68→STA97→STA104となる。STA62、STA49、STA58の重複関係は不明であるが、STA62は出土遺物より市田2期に遡るものである。さらに、周溝内から出土した土器の先後関係より、STA58はSTA49・STA68に先行して造られたものと言える。周溝墓の周溝は、後述のように、何度も再掘削され、儀礼が執り行われているので、埋土中から出土する土器は、必ずしも造営時のものとは限らないし、その周溝墓と直接関係のない土器が、周辺より混入する場合も想定される。しかし、周溝墓や大溝を構築する際に破壊している遺構は、C調査区の北半を除いて、基本的には市田1・2期に構築された住居だけであるので、それ以外の段階の土器が出土した場合には、周溝墓や大溝にともなうものと判断してよからう。周溝あるいは大溝から出土した遺物は、溝さらえや再掘削がなされていることを考慮し、その遺構の使用期間の一点を示すだけのものと理解したい。このように、出土遺物の時期を絶対的なものとは考えず、周溝の切り合い関係を基本にして周溝墓の先後関係を捉えているので、周溝内出土の土器は、必ずしも築造時期を示す必要はないのである。

以上のように考え、多分に類推を交えて周溝墓の築



第82図 市田齊当坊遺跡A調査区の周溝墓

周溝墓	2期	3期	4期	5期	6・7期	後期	遺物時期	再掘削	備 考
STA104						-----	4期		
STA97						-----	3期		7期の土器棺 1086
STA73						-----	2期		
STA95						-----			
STA59						-----	3期		
STA96						-----	6期		
STA68						-----	3～6期	SDA58	
STA49						-----	～5期	SDA49	
STA58						-----	3期	SDA58・ SDA49	
STA62						-----	2期		

第83図 A調査区周溝墓の築造順位(破線は存続の時期を推定)

造順位とその築造時期をまとめると、第83図となる。

### (3) C調査区の周溝墓

C調査区では、ほぼ全域で周溝墓を検出している(第84図)。周溝墓の様相は、SDC25・114の北側と南側で異なっている。SDC25・SDC114の北側の周溝墓には、STC170やSTC65などがあり、SHC138・SHC169やSHC80などの住居跡と重複している。この位置は、住居跡が数多く重複していることから、長期間にわたって人が居を構えた地区と判断でき、いわゆる集住区の一部に位置している。この地区では、住居跡出土の遺物から、市田6期以降に周溝墓が造られたものと推定される。この段階は、遺跡全体から出土する土器の絶対量が減少していることから、市田斉当坊弥生集落がその規模を縮小し、終焉を迎える直前にあたる時期である。そのため、居住域自体がその範囲を縮小し、墓域が従来の居住域にまで及んできたのであろう。一方、A・D調査区、およびC調査区の南端部で検出した周溝墓も住居跡に後出するが、住居跡同志には全く重複が認められないもので、集落成立後の早い段階—市田2期以降—に墓域に編入されている。このように、南小墓域では、周溝墓は大きく見ると南から北に向けて造られていったと判断される。また、SDC25・114の北と南で周溝墓の形状もやや異なっている。南側では不整形な方形であるのに対して、北側ではほぼ方形を呈している。特にSTC65が周溝もほぼ同じ幅で掘削されて、均整のとれた方形を呈している。先に見たように、南から北に向けて周溝墓が造られたと復原できるが、時期的な差が平面形の違いに反映している可能性が指摘できる。

周溝墓の築造順位については、遺構の重複関係が複雑で、整理できた範囲で概述したい。

C調査区では、大溝の掘削により、周溝の連結が顕著に見られる。北から、SDC25、SDC90、SDC401がある。SDC25は、STC107北辺溝・STC134北辺溝・STC170南辺溝・STC62南辺溝を、SDC90はSTC110南辺溝・STC99南辺溝・STC103南辺溝・STC134南辺溝・STC488北辺溝・STC94北辺溝を、SDC401はSTC469北辺溝・STC410北辺溝・STC94南辺溝・STC96南辺溝・STC118南辺溝・STC95南辺溝を連結している。そのほかに、土坑SDC454は、STC469の南辺溝とSTC473・464の北辺溝を再掘削した溝状の土坑である。

土層断面や平面の観察で周溝墓の先後関係を確認できたのは、STC456→STC469、ST

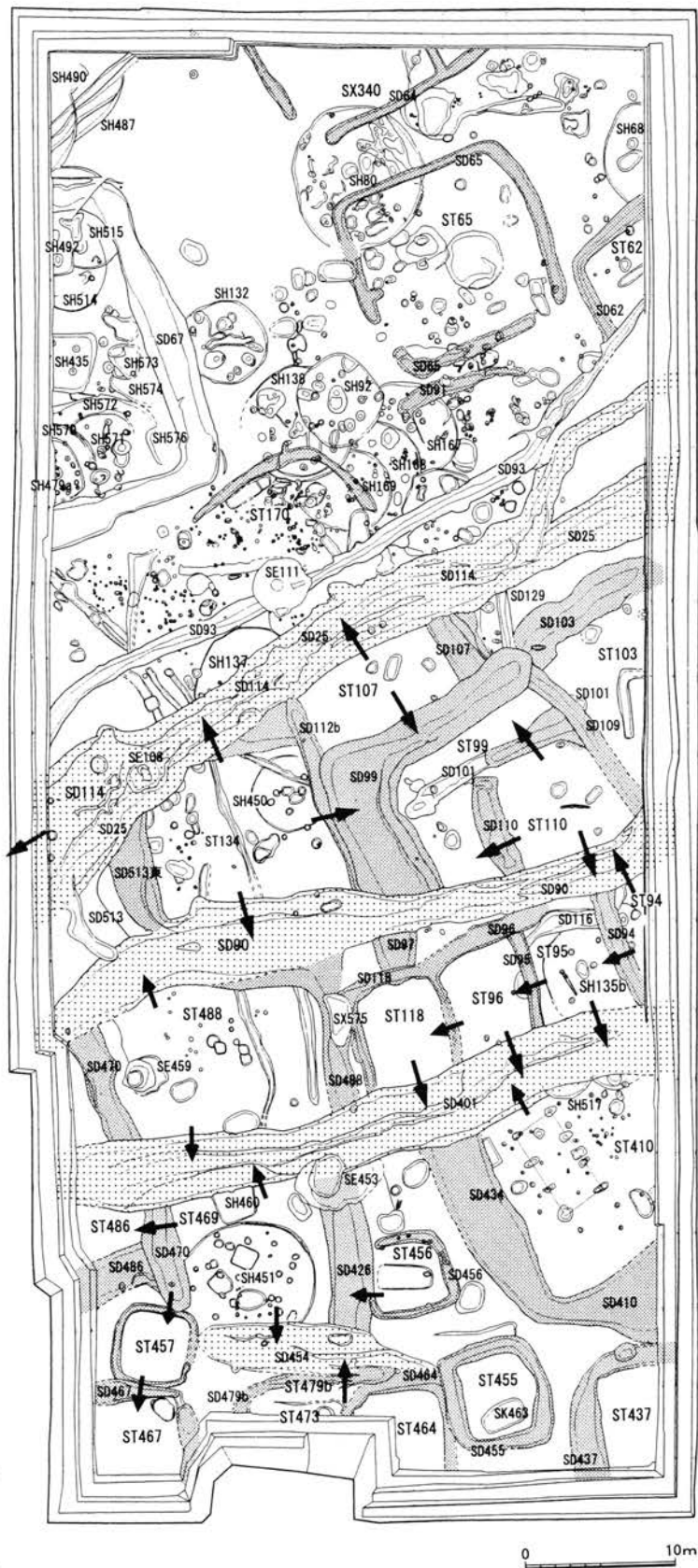
C469・S TC457→S TC467がある。S TC95とS TC96の先後関係は確認できなかったが、S TC118はS TC96の周溝を壊して掘削されていることから、S TC94・95・96・118は、東から西へと順に築造されたと復原できる。

S DC25とS DC90に挟まれた調査区では、周溝の重複関係を確認できていない。周溝内から出土した遺物の先後関係より、S TC103・107・134→S TC99の築造順位が推定される。また、S TC110はS TC99の区画内に位置しており、S TC110の周溝は、S TC99の北・西周溝と平行していること、両周溝墓の東周溝はS DC109を共有していることから、S TC110を拡張してS TC99を造ったものと思われる。

C調査区の周溝墓の築造時期とその順位をまとめたのが、第85図である。

(4) D調査区の周溝墓

D調査区は南小墓域の南端部にあたり、これより南側は調査していないが、周溝墓はさらに南に広がっていく様相を示す。



第84図 市田齊当坊遺跡C調査区の周溝墓

周溝墓	2期	3期	4期	5期	6・7期	後期	遺物時期	再掘削	備 考
STC62					-----	-----	6期		
STC65				-----	-----	-----	5期		
STC170					-----	-----			6期の住居に切り勝つ
STC107		-----	-----	-----	-----	-----	3期	SDC90・SDC25	南辺溝SDC99に再掘削か
STC103		-----	-----	-----	-----	-----	3期		
STC110			-----	-----	-----	-----	4期		
STC99				-----	-----	-----	5～7期	SDC90	STC110を拡張か
STC134		-----	-----	-----	-----	-----	3期	SDC90・SDC25	
STC94	-----	-----	-----	-----	-----	-----		SDC401・SDC90	
STC95		-----	-----	-----	-----	-----	3期	SDC401	
STC96		-----	-----	-----	-----	-----	3期	SDC401	
STC118		-----	-----	-----	-----	-----	3期	SDC401	
STC488		-----	-----	-----	-----	-----	3期	SDC90・SDC401	
STC456		-----	-----	-----	-----	-----			
STC469			-----	-----	-----	-----	4期	SDC401・SDC454	
STC486			-----	-----	-----	-----			SDC401に中央部を破壊
STC457			-----	-----	-----	-----			
STC467			-----	-----	-----	-----			
STC473								SDC454	STC464と溝を共有
STC464								SDC454	STC473と溝を共有
STC455		-----	-----	-----	-----	-----	3期		
STC410								SDC401	
STC437	-----	-----	-----	-----	-----	-----	2期		

第85図 C調査区周溝墓の築造順位(破線は存続の時期を推定)

D調査区では14基の方形周溝墓を確認しており、周溝墓は市松模様状に隙間無く配置されている状況である(第86図)。そのため、遺構が分布していない空間も、実際には周溝墓である可能性が想定される。

溝中埋葬と判断される土坑は他の調査区と較べて多く検出し、その数は11基にのぼる。これらの土坑の多くは周溝の底面に掘りこまれていたが、その深さは最大でも20cm程度で、周溝内に堆積した土砂の上位から掘り込まれたものと判断される。ところが、周溝墓STD17の西辺周溝の

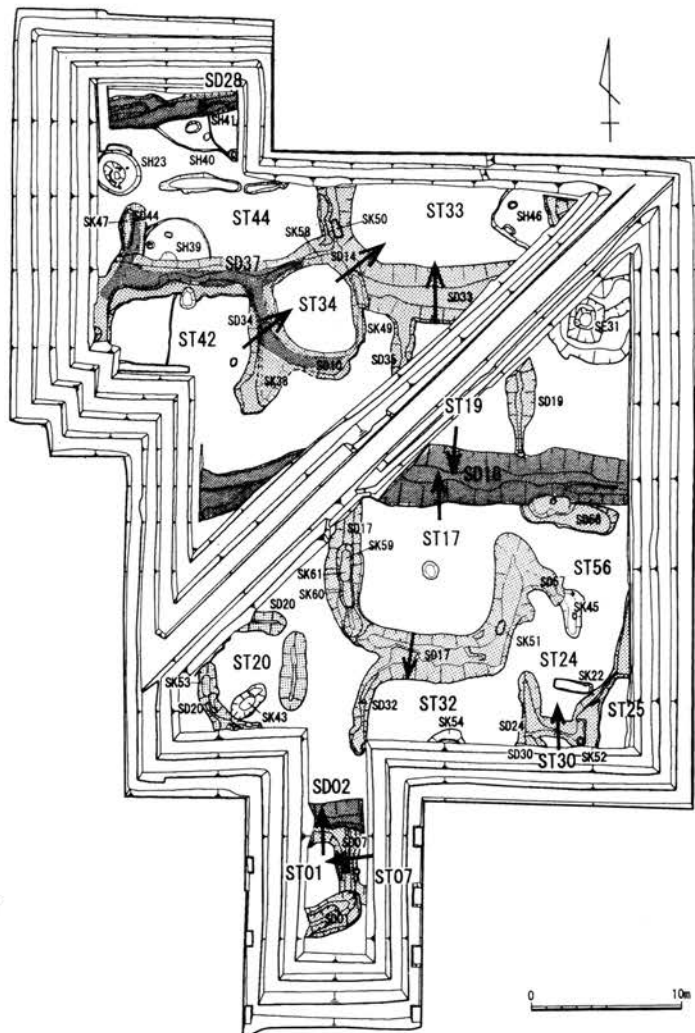
中央部では、土層観察用畦内の埋土中層で3基の土坑S KD59・S KD60・S KD61を確認し、一部、平面的に検出することができた。これら溝中埋葬と判断される土坑は、溝底にまで掘り方が達していないので、溝底で検出した溝中埋葬以外に、より多くの埋葬墓が溝中に埋葬されたと判断される。<sup>(注187)</sup>

S TD17の南辺周溝とそれに南接するS TD32の北辺周溝は、共有溝の関係にある。先行する周溝S DD17南辺周溝がある程度埋まった段階に、S TD32の北辺周溝をその窪地に掘削し、南側にS TD32を作っている(図版第61-6)。

複数辺の周溝に、不定形の溝を掘削している例を確認した。周溝墓S TD42・34の北辺溝とS TD42・44の西辺溝が埋まった段階に、溝S DD37が周溝上に掘削されている。西端はS TD42・44の西辺溝を南北に掘削しており、東端はS TD34の北辺溝の中央付近で終わっている。また、S TD34の西辺溝・南辺溝も同S DD37で再掘削されている。この再掘削は、土層の観察により、2回にわたって行われている。

周溝墓の周溝を連結する大溝には、S DD18がある。この大溝は、S TD42南辺溝・S TD19南辺溝・S TD17北辺溝・S TD56北辺溝を連結している。そして、調査では実際にそうとは確認できていないが、S DD02やS DD28も周溝墓の配置から連結溝と判断される。S DD28はS TD44北辺溝・S TD33北辺溝の位置にあり、S DD02はS TD01北辺溝・S TD07北辺溝・S TD32南辺溝・S TD30南辺溝・S TD25南辺溝に位置している。大溝S DD02・18からは、市田3期の土器片が出土し、C調査区の連結溝よりも古い段階に掘削されたと判断される。

周溝断面における土層の観察から、D調査区北側では、S TD42→S TD34→S TD33、S TD19→S TD33、南側では、S TD17→S TD32、S TD07→S TD01、S TD30→S TD24→S TD25という築造順が想定できる。各周溝から出土した土器の編年観を加味して、築造順位を推定したのが第87図である。



### 3. 周溝の“再掘削”行為の種類

第86図 市田齐当坊遺跡D調査区の周溝墓



周溝墓	1期	2期	3期	4期	5期	6・7期	後期	遺物時期	再掘削	備 考
S TD42	---	---	---	---	---	---	---	3期	S DD10	周溝の切り合いより2期以前
S TD34		---	---	---	---	---	---		S DD37	周溝の切り合いより2期以前
S TD33		---	---	---	---	---	---	2期	S DD28	S DD33は再掘削溝か?
S TD19	---	---	---	---	---	---	---	1・2期	S DD18	
S TD07		---	---	---	---	---	---		S DD02	
S TD01		---	---	---	---	---	---		S DD02	
S TD56									S DD18	
S TD17		---	---	---	---	---	---	2期	S DD18	S DD67がコの字に取り付く・埋土上面からV様式
S TD32			---	---	---	---	---		S DD02	
S TD30		---	---	---	---	---	---		S DD02	
S TD24			---	---	---	---	---		S DD02	
S TD25				---	---	---	---		S DD02	
S TD20			---	---	---	---	---	3期		
S TD44									S DD28・S DD37	

第87図 D調査区周溝墓の築造順位(破線は存続の時期を推定)

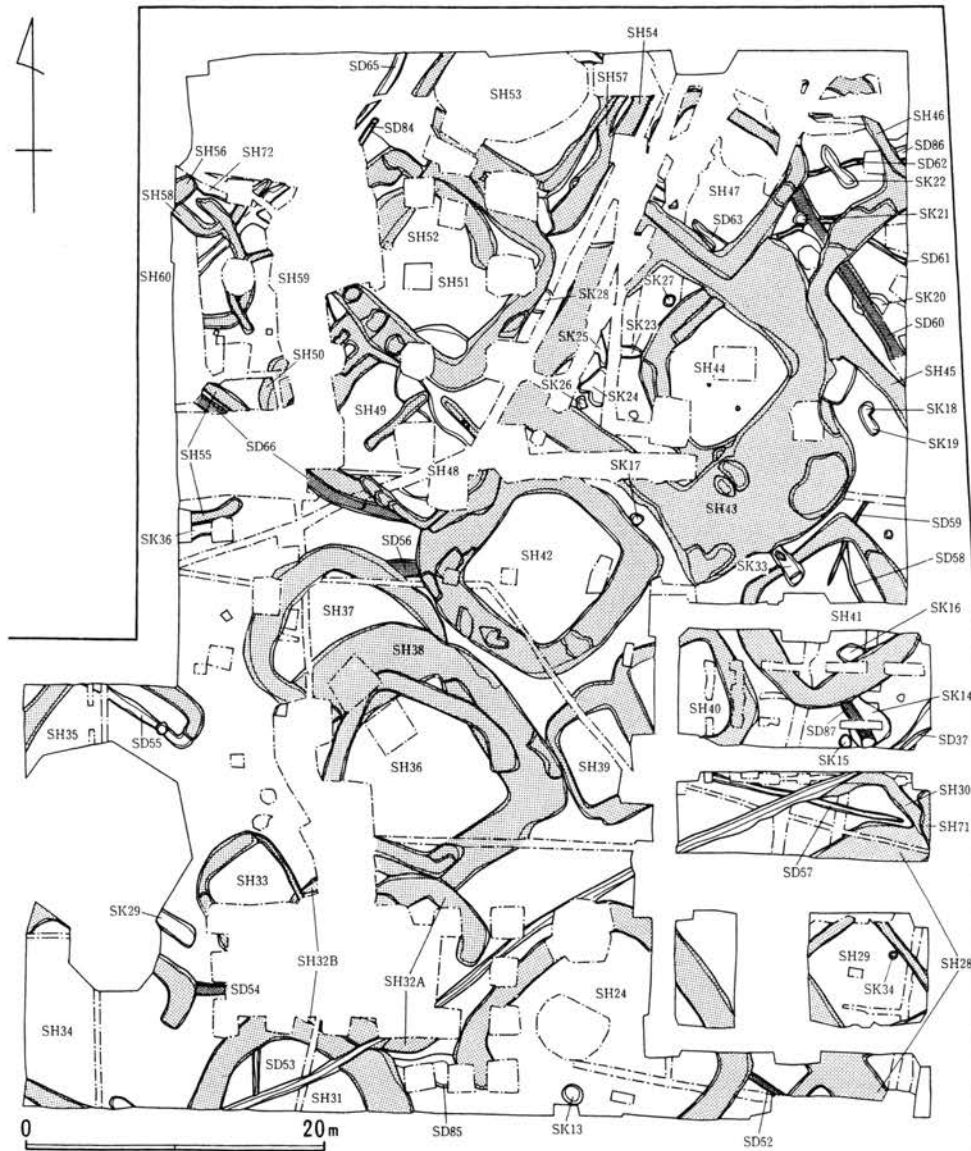
市田齊当坊遺跡における各調査区の周溝墓の様相は、上述したところであるが、周溝の“再掘削”行為に着目すると、市田齊当坊遺跡では4つのパターンが認められる。周溝を共有する際に再掘削するもの、複数の周溝墓が共有した周溝を溝状の土坑で再掘削するもの、複数の周溝墓で共有された複数の周溝を不定形の溝で再掘削するもの、複数の周溝墓の周溝を1条の大溝により一直線に連結するものがある。そして、一つのパターンとして類型化できるかどうか、不明瞭なものとして、不定形な小溝が周溝に取り付くものがある。また、市田齊当坊遺跡では、明確には確認できていないが、京都府大山崎町下植野南遺跡では、四周の周溝を再掘削して掘り返している例が確認されている。

このほかに、東京都豊島馬場遺跡や鍛冶谷・新田口遺跡では、2基の周溝墓の周溝を連結する溝があり、福田聖が<sup>(注188)</sup>考察を加えている。両遺跡の連結溝は、2つの周溝墓を1条の溝で、個別に連結さすもので、豊島馬場遺跡を例にすると、S D52・54・56・60・66・87がそうである(第88図)。こういったタイプの溝は、市田齊当坊遺跡や京都府内では確認されていない。

以下、市田齊当坊遺跡を中心に、京都府内で確認されている再掘削の事例を具体的に見ていきたい。

#### (1) 四周の周溝の再掘削

四周の周溝をすべて掘り直す行為が、下植野南遺跡で確認されている。下植野南遺跡のS T J 89は、幅1.5~2.0mの周溝がめぐっているが、その内側の3辺で、幅0.6m前後の狭い周溝が検出されている。この内部からは供献土器と判断される土器が出土しており、四周の周溝を新たに<sup>(注189)</sup>幅広の溝で再掘削した結果と判断されている。このように、四周の周溝を再掘削する行為は、長年月にわたって周溝内に堆積した土砂をさらえるものと考えられるが、再掘削された溝の掘り方が、当初の溝の掘り方とずれていないと、再掘削を考古学的に認識することは不可能である。市田齊当坊遺跡では、S TD33の南周溝の土層観察で再掘削が認められる程度で(図版第63-1)、



第88図 東京都豊島馬場遺跡の周溝墓と連結溝(注188文献に加筆)

四周が掘り直されているものは確認されていない。何度も述べるように、墓域は長期間にわたって機能していたと判断されるので、それ相当の管理がなされていたと想定できる。周溝を共有しているながらも、埋土の観察では周溝の先後関係を確認できない周溝が大半である。どの周溝墓であっても、そのような溝さらえをはじめとする再掘削が行われたために、周溝の重複関係が土層の観察では確認できないのであろう。

## (2) 周溝の共有による再掘削溝

1条の周溝が、複数の周溝墓の周溝を構成しているものである。ある周溝墓に隣接して新たな周溝墓を作るときに、従前の周溝墓の周溝を利用するもので、この共有溝には2種類が認められる。一つは、共有する溝を掘り直さずに、「コ」の字形もしくは「L」字形の溝を付け加えて、周溝墓を作るものである。共有溝の両端は陸橋状になっている。この例には、S TC456やS TD24がそうと判断される。おそらく、先行する周溝墓の溝が十分に明示されていたために、共有する溝を新たに掘り直す必要がなかったのであろう。もう一つは、共有して利用する溝を掘り直

しているもので、先行する周溝と掘り直した周溝に重複関係が認められる場合がある。この例には、S TD17とS TD32がある。S TD17の南辺溝とS TD32の北辺溝の横断土層を観察する(図版57-6)と、S TD17内の埋土である9層が検出面にまで堆積しているため、S TD17の南辺溝がほぼ埋まった段階でS TD32の北辺溝が掘削されたことが分かる。おそらく、方台部の盛土が地表で視認できたために、溝がほぼ埋まりきっていても周溝の位置を認識できたのであろう。その際には、再掘削されたS TD32の北辺溝がS TD17の南辺溝に重なりつつも、底面における掘り込み位置がずれていることから、地表に残る窪みをなぞるようにして、S TD32北辺溝が掘削されたことと推測される。再掘削された範囲は、東辺溝の南半部とS TD17の南辺溝の西部にまで及んでいる。また、S TD42東溝とS TD34西溝が重複しており、S TD42の周溝がほぼ埋まりきった段階に、S TD34の西周溝を掘削している(図版第63-5)。

A調査区の周溝墓でもこのタイプの再掘削が認められ、S TA59北西溝とS TA95南東溝は周溝が共有されて、掘り直されている(図版第51-1)。

### (3) 不定形の溝による再掘削

このタイプの再掘削溝は、周溝が埋没していく過程の中の、最終段階に堆積した土砂と区別しがたいものである。土層断面の観察を数か所で行い、自然の堆積層とは判断できない土層の堆積を認める必要がある。そのためか、このタイプの再掘削溝は、D調査区のS TD34・S TD42の周溝上に掘削された溝S DD37の一例を確認しただけである。同溝は、方形周溝墓S TD42・34の北辺溝とS TD42・44・34に沿って上位に重ねられて掘削されていることから、それぞれの周溝がほぼ上位まで埋積しているが完全には埋まりきらず、周溝が溝状の痕跡として残っていたり、方台部の盛土が視認できて周溝の位置が知れる段階に掘られたものと考えられる。溝幅は1.2~1.4m程度で、深さは40cm程度を確認したが、周溝の溝底までは達していない。東端はS TD34の北辺溝の中央付近で終わっているが、厳密には確認できなかった。総延長20m程度のものと判断される。断面観察により、2回にわたって掘削されていることが判った(図版第63-5・6・7)。

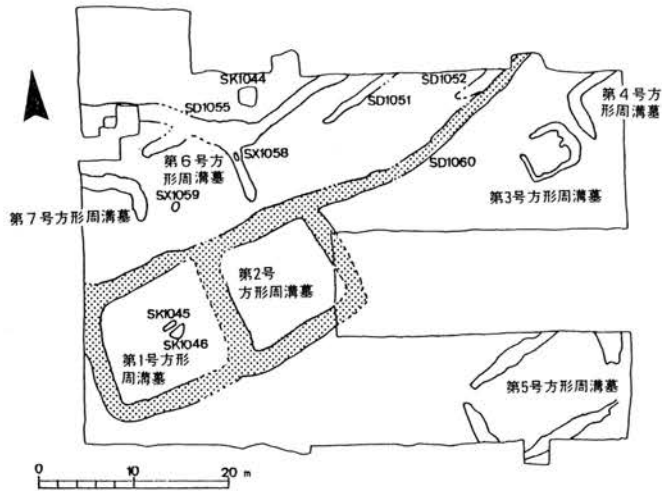
このタイプの周溝の再掘削溝は、京都府大山崎町下植野南遺跡の周溝墓群でも確認されている。

### (4) 溝状の土坑による再掘削

複数の周溝墓が共有した周溝を溝状の土坑で掘り直しているもので、A調査区のS TA58とS TA68、S TA58とS TA49、C調査区のS TC426とS TC479bの間のS DC454がある。A調査区のS TA49とS TA58の掘削状況を見ると、(2)のタイプの共有溝があり、その上位から大きな土坑を掘削しており、その深さは周溝の底部近くにまで及んでいる(図版第50-3)。C調査区のS TC426とS TC479bの間には、S DC454が掘削されている(図版59-22)。確認した事例は三例と少ないが、(3)のタイプと同様、周溝の最終段階の埋積土と混同している場合が想定され、より多くの事例が存在するものと想定される。

### (5) 大溝による周溝の再掘削

ほぼ一列に並んだ周溝墓の周溝を大溝により連結するもので、C・D調査区の南小墓域で見られる。北から、S DC25・114、S DC90、S DC401、S DD18がある。D調査区の北端と南端で検



第89図 長岡京市神足遺跡の周溝墓と連結溝  
(注191文献加筆)

出したS DD28、S DD02も、調査範囲が狭いが、周溝墓の配置から見て、連結溝と判断される。

周溝墓が造られたのは市田2期以降であり、大溝の時期はD調査区が市田3期以降で、C調査区では市田5～6期である。特に、C調査区のS DC25は上層に多量の庄内期～布留期の土器を含んでおり、D調査区S DD01の上層でも古墳時代前期の土器片が出土している。古墳時代前期に至るまで、溝が機能していたものと思われる。また、周

溝墓の溝も、D調査区で検出した周溝墓S T17では、周溝の最上層中から弥生時代後期～終末の土器が出土しており、大溝と同じ様相を示す。このように、周溝墓や大溝は、市田2・3期に掘削されて以後、古墳時代前期に至る時期まで、溝の痕跡が残り、墳丘も遺存していたと判断される。そして、当墓域がその間に他の用途に転用されていないことを考え合わせると、長期間にわたって、墓域として管理され、機能していたものと思われる。

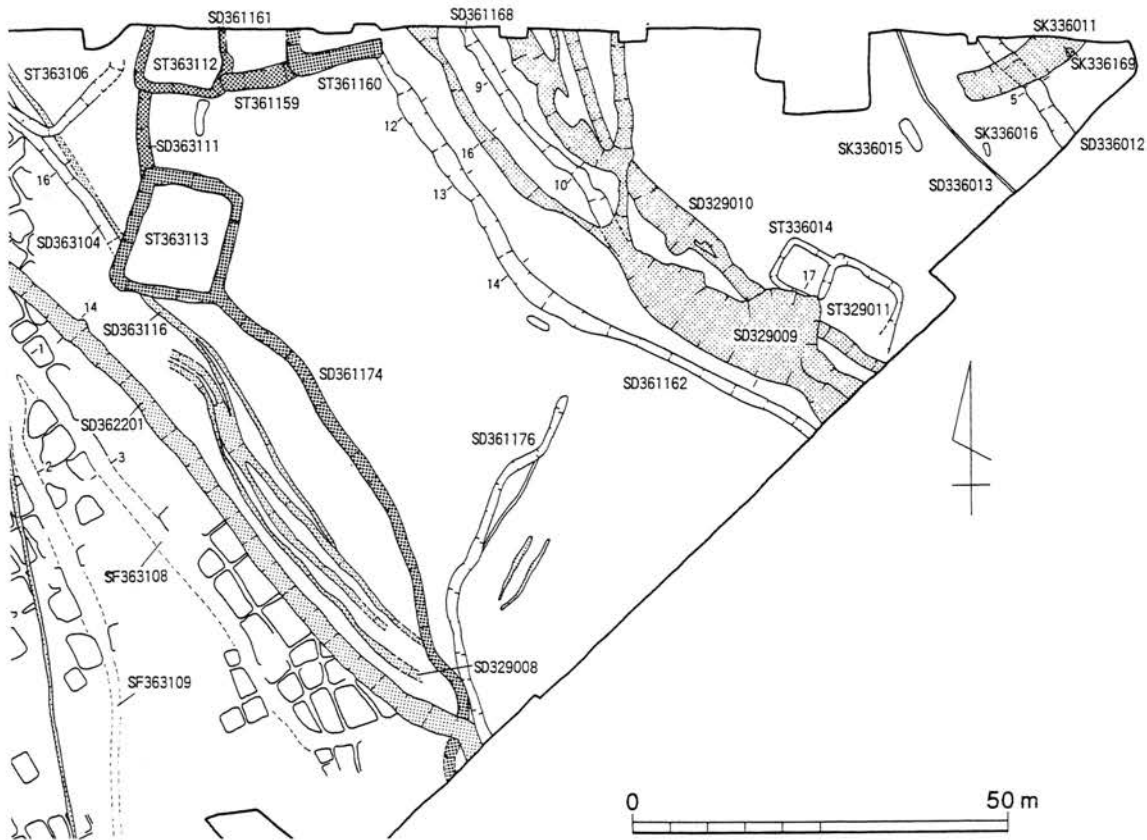
市田齊当坊遺跡以外でも、このタイプの連結溝が確認されている。長岡京市神足遺跡では、S D1060が第2号方形周溝墓の北溝と連結している(第89図)。

市田齊当坊遺跡や神足遺跡の連結溝は、ほぼ一直線に掘削されたものであったが、不定形の大溝で周溝を連結しているものもある。京都市南区の東土川遺跡では、方形周溝墓S T363113およびS T363112の方形周溝墓を連結する溝が検出されている(第90図)。S D361174は、「方形周溝墓(S T363113；引用者注)の溝の掘削時期か、それが埋没するまでに掘削された」と報告されており、連結された周溝墓の数は少ないが、市田齊当坊遺跡と同様の観念に裏打ちされた行為と考えられる。

(1)～(5)の再掘削パターン以外に、一つのパターンとして類型化できるか否かわからないが、不定形な小溝を周溝に取り付けるといった再掘削行為がある。この例には、D調査区の溝S DD57がある。同溝は、方形周溝墓S TD17の東辺溝から東側に「し」の字形に検出した溝で、その西・南端の様相は確認できなかったが、重複関係は一部分だけ確認でき、S TD17の東辺溝が埋まった段階で掘削されている。方形周溝墓S TD56の主体部と判断するS KD45の西北部を一部破壊している。

#### 4. 周溝を掘り直すということ

ロドニー・ニーダムは、「社会的象徴の機能とは、単に象徴されるものの重要性をさし示し、強めることにあるだけでなく、その社会集団で重要であると決められているものへの情緒的関与を喚起し維持することにもある」と述べている。そして、シンボリズムは、「社会的に重要なこ



第90図 京都市南区東土川遺跡の周溝墓と連結溝(注192文献に加筆)

とを明確に指し示すため」と「人々が生活の支えとすべき価値を彼らすべてに認めさせるため」の二重の意味で必要であると指摘している<sup>(注193)</sup>。

溝は空間を分節し、世界を分節するものである。自然にあっては、連続して切れ目のないところに、恣意的な切れ目を入れるものである。人工的に空間が分断されるや、「うち/そと」に構造化される。この「うち/そと」に構造化された空間に、社会集団内の「うち/そと」の構造が対照され、意味が発生するのである。そのため、溝によって切り取られた空間の中に埋葬された人々は、その空間に埋葬されているという点で、そうでない人々に対して、何らかの関係が表象されていると判断される。

周溝墓は、埋葬者数の多さ、男性と女性の性差がないこと、小児から大人までのさまざまな年齢の被葬者が見られる点から、血縁をその結合原理とする家族を単位とした墓と考えられている<sup>(注194)</sup>。このように、家族を単位とした単位墓として周溝墓を捉えた場合、周溝の一辺を連結・共有させて作っていく行為は、その単位墓との強固な関係性を表象したものと考えることができる。周溝を連結し、共有させて、一家族が世代を超えて単位墓を作り続けていった結果としての墓群、いわゆる単位墓群と判断できる。以下、議論を進めたい。

周溝墓で埋め尽くされた墓域は、大溝や土坑によって周溝が再掘削された後も、墓域以外の他の用途に利用された形跡がない。すなわち、墓域は墓域としてそのままに保全されていると判断されるので、様々な再掘削行為は、周溝墓を破壊して墓域を他の用途に利用するための行為でな

いことは明らかである。この場合の“保全”とは、方台部に死者を葬るという積極的な行為をとまなう必要はなく、それらの周溝墓が祖先の魂を鎮めるための奥津城として“ある”ことを認知し、他の用途に振り向けられないように管理しているだけでよいのである。このように、周溝墓の意味をそのままに温存した上で、何らかの価値を付け加えるために、周溝の再掘削を行ったと考えられるのである。

周溝墓を社会的な資源として利用する中で周溝を再掘削した、と理解した場合、周溝の再掘削は、再掘削を行う時点で周溝墓群に表象された関係性に基づいて行われたことは間違いない。関係性の観点から見るとこの行為には二様の方向があり、一つは旧来の関係を肯定することであり、一つはその関係を否定することである。前者は、旧来の関係を再確認し、その絆を強めることを目的としており、後者は、旧来の関係を一旦否定した上で新たに造られた関係を確認・表象することである。この場合、墓域は墓域としてそのまま保全されていることから、旧来の関係の否定といっても、墓域自体を否定するものではなく、墓域という枠組みを温存した上で、墓域の中に表象されたある関係性を否定し、再構築しているのである。いずれにしても、再掘削を行う集団が、周溝墓の示すシンボリズムを社会的な資源として利用するものであり、それまでの意味内容に新たな意味を付加したり、変容させたりするのである。

一方、再掘削溝・土坑の規模により、それをなした主体が、個別の家族であるのか、それを越えた集団であるのか、が類推できよう。それぞれの掘削規模より、(1)～(4)の再掘削行為は個別家族を主体とするものと判断され、(5)の連結溝は個別家族を超えた集団と判断でき、集落全体もしくはそれに近い規模の人員の参加によってなされたものと言えよう。

以上のように掘削行為を整理し、まず、(1)～(4)のタイプの再掘削溝・土坑の意味を検討したい。

(1)のタイプの再掘削行為は、長年月にわたって周溝内に堆積した土砂をさらえるものと判断される。(2)のタイプの再掘削は、周溝を共有させて新たに周溝墓を作るもので、先に見たように、直系・傍系家族が、先の世代が葬られた周溝墓との強い関係性を確認するために、累世的に周溝墓を作っていったものと考えられる。(3)のタイプは、(1)の溝さらえを単位墓群を対象に行ったものと推定できる。このように、(1)～(3)の再掘削行為は、それ以前の関係性を否定するものではなく、旧来の関係を再確認し、その絆を強めるためになされたと言えよう。

(4)のタイプの再掘削溝も、数家族の労働力の範囲を超えないものであろう。これについては、旧来の関係性を否定するためのものか、肯定するものか、一概に決めがたい。福田は、関東の周溝墓に見られる連結溝—この連結溝は個別の周溝墓間を繋ぐもので、(5)のタイプでない—を検討し、同一の単位墓群をつなぐ連結溝は「直系的血縁関係のより強力な表示」とし、異なる単位墓群を連結する溝については「それ以外の家族間のつながりを表示するものであり、元の家族から分かれた直系以外の親子関係や兄弟姉妹の関係などの、同一の出自集団であることを表示する」と考えた。この解釈は、旧来の関係性を肯定してその絆を再確認して強める考えで、(4)のタイプの再掘削行為にそのまま援用できる解釈である。しかし、旧来の関係性を否定し、意味を再構築する行為としても解釈可能である。例えば、方台部に葬られた死者の魂を祖霊へと昇華させた

めの儀礼に伴って、個別の数家族が再掘削行為を行ったと考えることができる。現時点では決め手がないのが実状であるが、後述のように、筆者は、(4)の掘削行為は祖霊へと昇華させるための儀礼に伴って行われた可能性を考えている。

(1)～(4)の再掘削に対して、(5)の大溝は、周溝と周溝の間の何もない空間地を新たに掘削し、しかも、それ以前にあった周溝の形跡を全く残さないほどの規模で掘削している状況から、周溝墓の破壊を部分的にでも伴っていると言わざるを得ない。そのため、それ以前の関係性を維持し、それを確認する行為とは考えにくく、それ以前の関係を否定した上で、新たな関係を構築しているものと考えられる。

また、大溝はその規模が大きく、いわゆる環濠に匹敵するもので、その掘削量は数家族の労働力だけでは到底まかないきれないものである。例えば、S DD18が幅3.3m、深さ1.1mを測り、その断面積は1.8 $\text{m}^2$ 、S DC401が幅3.5m、深さ1.1mで、断面積が1.9 $\text{m}^2$ 、S DC90が幅4.4m、深さ1.15m、断面積が2.5 $\text{m}^2$ を測る。市田齊当坊遺跡の連結溝は、最大で45m程度の長さを確認し(S DC25)、京都市東土川遺跡では総長約85mにわたって連結溝が確認されている。その実際の規模は不明であるが、長さ100mあたり、200 $\text{m}^3$ にも及ぶ土量を掘削・運搬する必要があった。その労働量の大きさから、少なくともこういった連結溝は、数家族の労働力ではまかないきれないもので、一家族や数家族という範囲を越えた労働力を結集する必要があったと言えよう。そのため、このタイプの連結溝を掘削するための動機は、一家族や数家族の利益を越えたものである必要がある。

さらに、D調査区の周溝墓・連結溝がC調査区のものよりも先行して造られている点に注目したい。個々の具体的な時期については不明なところが多いが、大きく見ると、まず、D調査区で周溝墓が造られ、順次、北に向けて、C調査区でも周溝墓が造られていく。そして、出土遺物を詳細に検討すると、まず、D調査区で連結溝が掘削されて、C調査区の連結溝が後出する。同時期に数条の大溝が掘削されたのではなくて、1条ずつの大溝が、その都度、掘削されていったものと考えられる。

以上をまとめると、大溝を掘削する行為は、

(1)墓域の枠組みを守った上で、それ以前の関係を否定し、新たな関係を構築する行為であること。

(2)大溝の掘削は、集落全体で執り行われた。即ち、一家族や数家族の利益を越えたものであること。

(3)1条ずつの大溝がその都度、掘削されていったと判断されること。

とまとめられる。これらの点から、大溝の掘削は集落全体で執り行われた儀礼と考えられ、その内容は、各周溝墓に埋葬された死者の魂を祖霊へと昇華させるための儀礼と考えたい。そして、こういった儀礼は、集落全体で数十年に一度なされたために、D調査区の大溝がC調査区の大溝よりも先行して掘削されたのであろう。大溝が掘削された後は、集落を守護する祖霊が宿る聖地として、集落により管理され、長くそのままの状態に置かれたのであろう。そのため、長期間の時期差が認められる土器が、破片となりながらも周溝や大溝の中から出土するのであろう。

個人の顔が見える死霊から、集落を守る守護霊としての祖霊へと昇華させるために、大溝の掘削が集落の総意の中で執り行われたものとする、同様の趣意を持って、個別の家族によって執り行われた行為が、(4)の再掘削行為であると考えられよう。

## 5. おわりに

この小考では、市田齊当坊遺跡の周溝墓のあり方をまとめた上で、市田齊当坊遺跡で顕著に認められる周溝墓の再掘削行為を、京都府内で見られる周溝墓の再掘削行為と併せて類型化した。そして、それぞれの再掘削行為が意味するところについて、若干の私見を述べた。

市田齊当坊遺跡の調査時点から、南辺の大溝は集落をめぐる環濠なのか、それとも周溝墓の周溝を連結させた溝なのか、ずっと疑問に思ってきたが、報告書を作成するにあたって、考えをまとめる必要があり、結果として上述のように考えるに至った。大溝の掘削を“祖霊へと昇華させる行為”と解釈するのは、かなり突飛であると思われる向きもあるかも知れないが、これについて少し説明を加えさせていただきたい。

筆者は、市田齊当坊遺跡の調査に係わった後、八幡市女谷・荒坂横穴群の調査に携わり、多くの横穴の調査を行った。その際に、人骨の遺存しているものがあり、すべて改葬骨であったこと、状態の良い改葬骨を詳細に検討すると、すべての人骨の配置が2タイプに分けられること、そしてパターンの分析により一方のタイプから他方のタイプへと人骨の配置が変えられたことが分かった。記紀などには改葬の記事が多く見え、こういった改葬は、靈魂を祖霊へと昇華させるための行為と解釈した。<sup>(注195)</sup> こういった観念が古墳時代後期からどのぐらいの過去にまで遡るのか、という疑問の中で、市田齊当坊遺跡の連結溝をこの視点で解釈できないか、と思い、まとめたものである。ここで述べた私見は、府内の数例の事例に基づいただけのものであり、そういった周溝の再掘削行為が普遍的に行われたのかどうかは、今後の調査で同様の事例が各地で確認できるかどうかに係わっている。そのため、将来の類例の増加により、その考えを改めるべきことは論をまたないものである。

(岩松 保)



## 第6章 総括

旧巨椋池南辺の発掘調査は、今までほとんど実施されていなかった。発掘調査の対象としての埋蔵文化財の包蔵地でさえ、佐山遺跡以外周知されていなかったといつてよい。今回、はじめて旧巨椋池南辺での本格的な発掘調査を実施し、弥生時代中期、南山城地域で最大規模となる弥生時代中期の集落遺跡、市田齊当坊遺跡の存在を明らかにした。<sup>(注196)</sup>

### 1. 集落の様相

#### (1) 住居の変遷

今回の調査の北端に位置するA調査区では、竪穴式住居跡S HA74が位置しており、南端のD調査区では、中央付近に竪穴式住居跡S HD39が位置している。ともに市田3期以前に属する。つまり市田3期、すなわち山城Ⅲ-1様式までには、南北250m以上の範囲に竪穴式住居跡が造営されたといつて判断することができる。この南北250mの範囲のなかで、わずかな痕跡や建て替えと考えられる遺構も含めて、竪穴式住居跡が都合96基確認された。地震の局部的な流状化による遺構の消失を考慮すれば、さらに多くの竪穴式住居跡が確認できたものと考えられる。当然ながら調査区の東西方向にも集落は広がっていたはずである。憶測になるが、かりにその範囲を南北範囲と同じ250mとすれば、竪穴式住居の建て替えを含めて単純に533基以上の竪穴式住居の存在を推測することができる。またかりに竪穴式住居に10回前後の建替えを想定したとしても、50基前後の竪穴式住居が同時に併存していたものと想像できる。

市田齊当坊遺跡において、最も早くに確認された遺構は、A調査区、市田1期前半の土坑S KA11である。このような土坑群は市田2期までにはA調査区からC調査区北半に広く分布するようになる。坑底に炭・灰を含む粘土層や粘質土層が幾層か堆積するものが多い。墓壙の可能性も捨てきれない。C調査区南端からD調査区では、市田1期にはすでに方形周溝墓周溝(S D C437やS DD19)が掘削される。市田齊当坊遺跡における当該調査区内の土地利用の当初は、北半では土坑、南半では方形周溝墓の構築であった。竪穴式住居跡の出現はやや遅かったものとみられる。

市田2期には、竪穴式住居(S HC450・S HD23・S HD46)が出現した。市田3期から市田4期には、竪穴式住居がさらに広がりを見せることとなる。単独で見られる円形竪穴式住居の多くはこの市田2期から3期に造営されている。造営開始時期は早かったものの、その存続期間は短かったとみてよい。

この後、市田4期から市田5期までには、B調査区からC調査区北半(B調査区のⅢ群・Ⅳ群・Ⅴ群、C調査区の北半部、Ⅷ群など)において、竪穴式住居の建て替えが行われ始めた。わずかながら遺存した土層断面からみれば、円形竪穴式住居跡は拡幅されるものではなく、ほぼ同

じ場所にもかかわらず、堅穴の再掘削を行って、建て替えを続けたものと推測される。当時の地勢からして、おそらく幾度かの水害に見舞われた可能性があるのではなかろうか。浸水によって埋没した堅穴式住居とほぼ同じ位置に再度構築していたのであろう。多いものでは10回近くの建て替えが行われたものとみられるが、このような状況を考慮すれば、幾度かの水害に見舞われても、集落居住域として存続したのであろう。

以上のような推測から、市田斉当坊遺跡の一地区では、数十基以上の堅穴式住居に住む複数の世帯共同体が1単位として集住していたことが推測される。その存続期間からすれば、山城地域の屈指の拠点集落としての条件を備えているといってもよからう。

### (2) 墓域の形成とその変遷

先述したように、市田1期にはC調査区S DC437・S DD19などの方形周溝墓周溝が掘削される。その後、市田2期の土器のみを出土する周溝はほとんどなく、周溝墓の構築はそれほど進んでいなかったものとみられる。市田3期頃までには、A調査区S DA62・S DA73・S DA97やC調査区S DC96・S DC103・S DC488・S DC513、D調査区S DD20・S DD42なども掘削されるようである。

このように方形周溝墓の周溝掘削は、新しいものではない。少なくとも当該調査区では、方形周溝墓の構築が堅穴式住居の造営よりも早くに行われていたとみられる。ただし、当初それらは接続して構築されていくものではなく、堅穴式住居と同様に散在しており、個々別々に周溝が掘削されていったものとみられる。

市田3期に造営されたC調査区南半の堅穴式住居跡S HC450・S HC451などは建て替えられることなく廃絶し、方形周溝墓周溝S DC112やS DC469・S DC470によって破壊される。市田4期以降、A調査区とC調査区の南半では集落域から墓域として、その土地利用を鮮明にしていったものとみられる。その後、離れて作られていた方形周溝墓の間に新たな方形周溝墓が配置され、隣接する周溝の再掘削による改修が行われ始めたものとみられる。

市田5期以降には、C調査区南半の方形周溝墓では、その南北両辺周溝を南西から北東に向かう5条の大溝によって再掘削され、一つに繋げられることとなる。これらが環濠であるとする、集落の北をめぐる溝が未確認であることや、集落をめぐるような湾曲を示さないこと、方形周溝墓の周溝埋没期にその掘削が特定され、集落の防衛などといった掘削契機を想定しがたいことなど、やや不自然な部分が残ることとなる。現状では、一連の大溝の開削は、接続した方形周溝墓周溝の共有化、あるいは周溝墓の一体化の最終段階において、大規模な区画が明示されたものと考えておきたい。

D調査区の大溝S DD18も市田3期、あるいはそれ以前に集落内の墓域の区画を明示するものであったものかもしれない。第6章考察第5節のなかで、岩松は、周溝墓の示すシンボリズムを社会的な資源として利用するために大溝が掘削されたとしたが、重要な提言と言える。

### (3) 弥生集落の終焉

市田斉当坊遺跡で検出された土坑のなかには、埋土の下層に厚さ数cmの炭化物粒を多く含む粘

質土層の堆積がみられた。水成堆積によると思われるこの泥質の黒色有機土層に、炭化木細片と考えられる炭化物粒が多量に含まれること、竪穴式住居跡 S HA74 が火災によって焼失したと考えられることなどから、集落は火災と浸水に見舞われたものと推測できる。ただし、これらの土坑の多くは市田 2 期から市田 3 期の土器を出土しており、集落廃絶の直接的な原因を説明するものではなからう。

市田 5 期から市田 6 期以降の土坑には、砂質分の強い埋土が多く、洪水による土砂の堆積とみられるものもあるが、やはり、市田 5 期以降、玉作り関連遺物の出土量が極端に少なくなることを考慮に入れるべきかと考える。後述するように玉材や玉作り工具の石材は近隣から産出するものではなく、遠隔地との直接あるいは間接的な取引によってのみ得られる資源であった。玉材や工具石材の供給と、山城地域周辺での碧玉製玉類などの需要のバランスの上に成り立った集落であったともいえる。その存立基盤は盤石なものではなかったのである。

## 2. 生業に関して

### (1) 玉作り

玉作り関連遺物は、竪穴式住居跡などの埋土土壌の洗浄の結果、多くの住居跡から出土することが確認された。すべての竪穴式住居跡の埋土土壌を洗浄し、微細遺物の回収を行ったわけではないため明確ではないが、当該調査区では、市田 2 期から市田 3 期にかけて碧玉を素材とした玉作りを行う竪穴式住居跡(A調査区の S HA74・S HA98、C調査区の S HC450・S HC451、D調査区の S HD23)が営まれたとみてよい。

当該調査区では、居住当初から玉作りは行われていたのである。A調査区では土坑についても可能な限り埋土土壌の洗浄を行った結果、市田 2 期から 3 期の土坑(S KA60・S KA66・S KA75・S KA78・S KA79・S KA80・S KA100・S KA101・S KA102・S KA105・S KA106)で、碧玉や石針あるいは紅簾片岩の石鋸細片などを検出することができた。市田 1 期においても当地で玉作りが行われていた可能性さえも考慮されるべきであろう。しかし、市田 6 期以降には遺構の減少もあってか、玉作り関連遺物は著しく減少することになる。

今回、市田 3 期と想定される竪穴式住居跡 S HC451 においてまとまった玉作り関連資料を得ることができた。第 5 章第 3 節でみてきたように、大形の石核は認められず、原材料を豊富に得ていた状況ではなかったようである。管玉の製作は、直方体の長辺に平行した擦切施溝の後、形割によって角柱体が作り出される。広義の大中の湖技法に属するが、調整剥離も部分的に認められる。

注目されたのは、サヌカイト製石針や、その未成品が出土したことである。管玉の製作と同時に、石針の製作も行われていたことが判明したが、石針未成品には、その後一般的となる成形方法である擦切施溝分割痕跡が一切認められなかった。サヌカイト製磨製石針は小さな直方体に近い石核から 1 点の石針を作り出すものと、扁平な剥片から数点の石針を作り出す 2 種類の方法があったと推測したが、両者とも調整剥離によって整形し、全側面研磨によって仕上げていくといった手間のかかるものであった。このような製作方法は、サヌカイト製石剣でさえ、粘板岩製石

剣と同様に調整剥離後、全面研磨によって仕上げていくといった加工方法と軌を一つにするものであるといえる。粘板岩による研磨整形を得意とし、それをサヌカイトにも援用していく山城地域独自の石器製作技術を基盤としたものである可能性を指摘しておきたい。

また、石針の先端部形態が研磨材によって変化すること、石針先端部形態  $b_4(b_3 + b_2)$  類・ $c_3 + b_4$  類・ $c_4 + b_1$  類などを代表とした「複合した先端部形態」の石針は、孔内壁面研磨修正、いわゆる「孔さらえ」として再利用された結果であるといった推測が成り立つことを示した。

付論1にあるように、玉錐として穿孔に使われた石針が挿入されたまま出土した管玉未成品202に遺存した錐糞あるいは研磨材を検出することに成功した。この錐糞あるいは研磨材の理化学分析から新たな情報が抽出されるものと思われる。今回の報告には間に合わなかったが、今後その分析結果をすみやかに公表したい。

## (2) 石器生産

市田齊当坊遺跡では、多量の粘板岩製石製品や未成品、および二上山サヌカイトの剥片などが出土した。粘板岩製石剣や石庖丁、扁平片刃石斧などの破損品が再加工されて小形の扁平片刃石斧などに頻繁に作り代えられたことが判明した。扁平片刃石斧の大半が粘板岩製石器のリサイクルとして製作されていた実態が明らかとなったといえる。また、粘板岩石材の加工には擦切施溝分割がかなり多用されている点で、周辺の他の遺跡とはやや異なる加工方法であったといえる。

市田齊当坊遺跡独自の石材加工技術の特徴は、やはり碧玉管玉生産などの玉作りで習得された加工技術を援用したものとみることができよう。先述したように、サヌカイト素材の石剣でさえ、敲打剥離整形を行うだけでなく、粗い研磨によって一部あるいは全面を仕上げる工程をとまなう。近畿地方北半部、丹波古生帯の南辺に位置する地質的環境から、近くにも粘板岩産出地<sup>(注197)</sup>がみられる石器製作の技術的基盤が碧玉玉材加工技術と粘板岩加工技術の両者に求められるとすることが妥当であろう。またその一方で、二上山サヌカイト製の打製石鏃や石錐の出土量が多いことから、二上山サヌカイトが定型化した小形の石材として安定的に供給されていたことも指摘しておきたい。

第5章第2節で土屋が説いたように、これまで石器資料は個々の器種ごとに個別に扱われてきたが、製作から廃棄にいたる石器のライフ・サイクルに注目すれば、リサイクルの際に器種替えが起こる資料の割合がかなり高いことが判明した。今後弥生時代石器の研究を進めていく上で、枢要な視座を提供することができたと考える。

なお、B調査区の竪穴式住居跡および土坑の埋土土壌からも植物性食料の花粉化石の抽出を目論んだが、花粉化石を得ることはできなかった。

## 3. 弥生時代の市田齊当坊遺跡と地域間関係

玉作りのための碧玉玉材は、「女代南B群」と推定された(付論2参照)。おそらく琵琶湖から宇治川を経て巨椋池にいたる水上ルートを利用して日本海側からもたらされたものと想定することができる。

多量に出土した石鋸は良質の紅簾片岩であり、紀伊・阿波地域(現在の和歌山県や徳島県の付

近)からもたらされたものとみられる。つまり、当該地域が碧玉と紅簾片岩の両産地の中継地点に位置する地理的条件をもっていたといえる。とくに二上山サヌカイト産地からも近距離であること、さらには近江湖南地域や近畿地方南西部と水運で結ばれていることなども考えあわせれば、当該地域の地勢は近畿地方において碧玉を素材とした玉作りを行う上で、これ以上ない地理的好地であったということができよう。

市田齊当坊遺跡では、日本海側沿岸部や紀伊・阿波地域の土器はみられなかったものの、第5章第1節で松野が指摘したように、近江と摂津地域の小形甕が普遍的に出土した。近江や摂津など東西両地域との密接な日常交流を示すものとみることでもでき、これら東西の隣接地域から玉作りのための必需物資を間接的に入手していたと想定するのが妥当と言える。<sup>(注198)</sup>

このほか注目されるのは、弥生時代の井戸側を有する井戸である。井戸 S EC453・井戸 S ED31は、いずれも縦板で井戸側を形成するもので、列島でも最古級のものといえる。とくに遺存度の良好であった S EC453は、加工した板材を密に並べている点や、井戸側外側に横板材を組み合わせ、内側には縦板の崩壊を防ぐため柵結合による横棧を設けている点、さらに水汲み場としての足場を堅固に構築している点など、技術的に完成されたものとの印象をうける。

第5章第4節で高野が詳説したように、こうした構造的に完成された井戸側は、同時期の日本列島には類例がないものの、紀元前5世紀後半から4世紀前半頃とされる朝鮮半島忠清南道論山市麻田里遺跡にみられる。市田齊当坊遺跡の井戸は、その起源を朝鮮半島にたどれる可能性が高い。さらに東アジアのなかでの弥生文化の系譜を考えるうえで、重要な知見となろう。

#### 4. 古代・中世の市田齊当坊遺跡

市田齊当坊遺跡の南、500mにある佐山遺跡では、10世紀から11世紀にかけての遺構から「政所」と墨書された灰釉陶器や延喜通寶をはじめ、黒色土器や篠窯須恵器・緑釉陶器・灰釉陶器・越州窯青磁などが出土している。

調査報告の一部を担当した森島康雄は、有力寺社勢力の荘政所が近くに存在していたことを示唆している。<sup>(注199)</sup>その後、11世紀後葉までには環濠が掘削され、それに圍繞された遺構は在地領主の居館とも想定された。<sup>(注200)</sup>当該調査区において花草双鳥鏡が鏡箱に納められて埋納された状況は、そのような有力な在地領主の存在から説明できるのかもしれない。A調査区で検出された久世郡条里八(七)条十里十六坪を圍繞する大溝は、単なる耕地排水ではなく、水運や治水を目的とした可能性もある。想像の域をでないが、15世紀以降、十六坪に孤立村落などの成立を想定することも可能かとも考えたが、あるいはA調査区溝 S DA51の空風輪からは、何らかの寺社関連の施設を想定することが小字名からも妥当なのかもしれない。

今回の発掘調査において出土した遺物は、当面久御山町教育委員会に保管される予定である。その一部は、久御山町役場に隣接した中央公民館1階のくみやま遺跡展示室において公開されている。

(野島 永)

参考文献

- 國下多美樹「山城地域の弥生時代石器」(『都城』No.5 (財)向日市埋蔵文化財センター) 1994  
桑原久男「畿内弥生土器の推移と画期」(『史林』第72巻1号 史学研究会) 1989  
酒井龍一「石庖丁の生産と消費をめぐる2つのモデル」(『考古学研究』第21巻第2号 考古学研究会) 1974  
中川和哉「乙訓地域における弥生時代集落と石器生産」(『長岡京跡左京二条三・四坊・東土川遺跡』京都府遺跡調査報告書第28冊 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター) 2000  
中務佐市「自然・地理」(久御山町史編さん委員会『久御山町史』第1巻 久御山町) 1986

- 注1 岩松保・竹原一彦・野々口陽子ほか「国道1号京都南道路関係遺跡発掘調査概要」(『京都府遺跡調査概報』第90冊 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター) 1999  
注2 岩松保・森島康雄・野々口陽子ほか「国道1号京都南道路関係遺跡発掘調査概要」(『京都府遺跡調査概報』第95冊 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター) 2000  
注3 竹原一彦・森島康雄・高野陽子ほか「国道1号京都南道路関係遺跡平成12年度発掘調査概要」(『京都府遺跡調査概報』第101冊 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター) 2001  
注4 竹原一彦・伊賀高弘・野島永・高野陽子ほか「国道1号京都南道路関係遺跡平成13年度発掘調査概要」(『京都府遺跡調査概報』第105冊 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター) 2002  
注5 発掘調査および整理・報告書作成作業参加者

発掘調査参加者(調査補助員)

平成10年度

安達華考・伊豆元みずえ・岡井宏文・小川正志・川嶋聡子・木下亮・嶋原佐和・近藤奈央・才本佳孝・陣内高志・佐伯光祥・澤井亮佑・汐碓誠・洪田和昌・庄司友明・鈴木香織・田中由美・谷口梢・遠山昭登・殿井恵・永田優子・南部勝・馬場順平・福嶋美保・堀大介・村山和幸・横井宏行・李義之

平成11年度

安達華考・伊豆元みずえ・岡井宏文・川嶋聡子・木下亮・近藤奈央・佐伯光祥・澤井亮佑・汐碓誠・洪田和昌・庄司友明・鈴木香織・田中由美・谷口梢・遠山昭登・殿井恵・永田優子・南部勝・馬場順平・福嶋美保・堀大介・村山和幸・横井宏行・李義之

平成12年度

安達華考・伊豆元みずえ・大谷礼子・川嶋聡子・木下亮・近藤奈央・竹村祥子・佐伯光祥・澤井亮佑・汐碓誠・洪田和昌・庄司友明・田中由美・谷口梢・土屋みづほ・殿井恵・南部勝・馬場順平・福嶋美保・村山和幸

平成13年度

伊豆元みずえ・市川創・今林信祐・内田真一郎・奥田美佳・片岡暁美・金成綱太郎・黄瀬桂子・久保山啓成・越奈央子・小牧健太郎・近藤奈央・財前幸一郎・澤井亮佑・汐碓誠・庄司友明・杉浦直子・田中由美・田村和成・土屋みづほ・中村里美・松野元宏・望月誠子・八田尚彦・渡辺今日子  
整理作業参加者(整理員)

平成10年度

東政江・梅本真理子・大島栄美・奥平廣子・繁田真理・関野雅子・竹内和子・辻井和子・寺尾貴美子・栃木道代・西島真由美・西村寛・西脇夏海・服部喜代子・福田玲子・山崎美智子・与十田節

子・山中道代

平成11年度

井上聡・梅本真理子・江口美由紀・奥平廣子・尾崎嘉美・川嶋聡子・小西ひとみ・繁田真理・竹内和子・田中由美・辻井和子・栃木道代・長井謙治・中島恵美子・西島真由美・西村香代子・服部喜代子・福田玲子・松下道子・森田千代子・盛本照代・山崎美智子・山中道代・与十田節子

平成12年度

井上聡・梅本真理子・江口美由紀・荻野富紗子・奥平廣子・尾崎嘉美・川嶋聡子・小西ひとみ・繁田真理・鈴木香織・竹内和子・田中由美・辻井和子・土屋みづほ・栃木道代・長井謙治・中島恵美子・西島真由美・西村香代子・服部喜代子・福田玲子・福島美保・松下道子・森田千代子・盛本照代・山中道代・与十田節子

平成13年度

奥平廣子・尾崎嘉美・久保山啓成・小西ひとみ・近藤奈央・繁田真理・鈴木香織・田中由美・辻井和子・土屋みづほ・栃木道代・中島恵美子・西島真由美・西村香代子・八田尚彦・服部喜代子・福田玲子・堀田直志・松下道子・松野元宏・森田千代子・盛本照代・山崎美智子・山中道代・与十田節子

平成14年度

赤木卓郎・秋山美佳・荒川仁佳子・奥平廣子・鎌田智恵子・久保山啓成・合田美佐子・越奈央子・小西ひとみ・近藤奈央・澤井亮佑・汐碓誠・繁田真理・田中由美・辻井和子・土屋みづほ・栃木道代・福田玲子・藤田久子・堀田直志・松野元宏・丸吉繁一・村本幸美・山中道代・望月誠子・盛本照代・吉岡弘子

平成15年度

赤木卓郎・秋山美佳・東保子・荒尾倫子・荒川仁佳子・有澤明子・岩井俊平・内海操・奥平廣子・木村理恵・木村涼子・黒慶子・合田美佐子・小西ひとみ・財前幸一郎・鈴木浩子・辻井和子・土屋みづほ・筒井由香・栃木道代・西村敏子・福田玲子・藤田久子・堀田直志・松野元宏・丸吉繁一・望月誠子・盛本照代・吉岡弘子・与十田節子

注6 第4図、巨椋池水域の推定は下記文献の挿図を参考とした。

吉田敬市「巨椋池の地理」(『巨椋池干拓誌』(1) 巨椋池土地改良区)1962 184~185頁、平安遷都以降豊公伏見築城頃までの巨椋池およびその沿岸図。

注7 万葉集第1699「巨椋の入江響むなり、射部びとの伏見が田井に雁わたるらし」、また、平安通志に「烟水微茫漁舟其の間に点綴し、雨奇晴好の景西湖二十四景を相見せしむ」あるいは「蓮花無数花時採蓮の舟観花の棹甚だ多し(略)水高ければ舷に拠り座して一面の花をみるべし、若し減水なれば仰いで翠蓋紅粧を望む」とある。

注8 林屋辰三郎・藤岡謙二郎「先史・古代の歴史と景観」(宇治市史編さん委員会『宇治市史』第1巻 古代の歴史と景観 宇治市役所) 1973 181頁

注9 西脇一修「律令制の成立と久世郡」(久御山町史編さん委員会『久御山町史』第1巻 久御山町) 1986 121頁

注10 和銅二(709)年七月二十五日付「弘福寺領田畠流記写」(『大日本古文書』編年文書卷之七)に、「山背国久勢郡田壱拾町式佰参拾捌歩 陸田参拾柒町壱段式佰陸十壱歩」とある。

注11 福岡正春・内田真一郎「遺跡の環境」(『佐山遺跡』京都府遺跡調査報告書第33冊 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター) 2003

- 注12 第7図、A調査区土層断面図は、A調査区1次調査における記録である。1次調査は、細長い調査区となったため、地表下2mに及ぶ近代の造成土を除去してから、調査区の重機掘削を行った。このため、土層図には近代の造成土層は図化されていない。
- 注13 本稿では、弥生時代中期の遺構の時期を示す場合、第5章第1節、松野の考察による編年に準拠している。おおよそ、森岡編年の山城Ⅱ-1様式からⅡ-2様式併行期を市田1期、Ⅱ-3様式併行期を市田2期、Ⅲ-1様式併行期を市田3期、Ⅲ-2様式併行期を市田4期、Ⅳ-1様式併行期を市田5期、Ⅳ-2様式併行期を市田6期、Ⅳ-3様式併行期を市田7期とした。  
森岡秀人「山城地域」(寺沢薫・森岡秀人編『弥生土器の様式と編年』近畿編Ⅱ 木耳社) 1900
- 注14 各遺構の項で述べたように、A調査区では市田2期から3期にかけての土坑から骨片が採取されている。1cm大前後の海綿組織を残すもので、獣骨か人骨か判断することができなかった。  
A調査区土坑S KA75・S KA78から出土した微細な骨片を京都大学霊長類研究所片山一道先生に鑑定いただいたが、人骨としうる根拠はみられないとのご教示を得た。記して感謝したい。
- 注15 焼土坑S KB911では、高温被熱の可能性がある焼土塊が出土したことから、高温を扱う作業が行われていたと推測されていた。現地を見学した方々にも、当該遺構を青銅溶解のための施設と推測される場合があった。  
出土した焼土塊のX線回折分析(付論10)を行っても、高温操作を示す結果はみられず、870°以下の被熱の可能性が高いものと結論されるにいたった。また、蛍光X線分析でも焼土塊からは銅元素がとくに多く検出される兆候はなく、青銅器生産につながる証拠は見出せなかった。  
神崎勝「弥生時代の青銅器鑄造工房とその復原」(『立命館大学考古学論集』Ⅱ 立命館大学考古学論集刊行会) 2001
- 注16 宇野隆夫「井戸」(『弥生文化の研究 弥生集落』第7巻 雄山閣出版) 1986
- 注17 井戸側木枠外側の横板材(図版第229・230の53~62)は、奈良国立文化財研究所(現独立行政法人奈良文化財研究所)の光谷拓実氏に樹種を鑑定していただいたところ、ヒノキであることが判明したため、年輪年代法による伐採年代の測定をお願いした。  
資料は、辺材部分が一部残っており、B.C.424を遡らない年代とされた。なお、この資料には穿孔などの加工痕があり、転用材と推定される。
- 注18 奈良国立文化財研究所の黒崎直氏の分析によれば、井戸廃絶後第1次堆積土から検出された寄生虫卵の量は極めて多く、トイレ遺構と認定するに足る量とされた。  
井戸廃絶後、早い段階に汚物などが廃棄されたとすれば、従来指摘されているような井戸の信仰的位置づけを考えるうえで興味深い資料である(付論9参照)。
- 注19 井戸S EC453同様、奈良国立文化財研究所の光谷拓実氏に年輪年代法による井戸S EC108井戸側木材(丸木舟転用材)の伐採年代の測定を依頼したところ、A.D.132+ $\alpha$ 年という伐採年代の報告を受けた。
- 注20 井戸S EC108では、分割された丸木舟が井戸側として再利用されていた。  
丸木舟の井戸側材への再利用は、大阪府寝屋川市讚良郡条里遺跡の井戸2や同市長保寺遺跡井戸10など淀川水系に見られるものである。なお、四条畷市葦屋北遺跡では準構造船基底部材を転用した井戸側が出土している。  
西口陽一編『都市計画道路国守・黒原線建設工事に伴う讚良郡条里遺跡発掘調査概要』Ⅱ(大阪府教育委員会) 1991



- 寝屋川市教育委員会『長保寺遺跡現地説明会資料』 1993、大阪府教育委員会事務局文化財保護課『葦屋北遺跡現地説明会』 2003
- 注21 藤岡謙二郎・谷岡武雄「山城盆地南部景観の変遷」(『日本史研究』7 日本史研究会) 1948、吉田敬市「巨椋池湖岸変遷考」(『日本史研究』7 日本史研究会) 1948
- 注22 高橋美久二「城陽の条里遺構」(『城陽市史』第1巻 城陽市役所) 2002
- 注23 竹原一彦「京都府久世郡久御山町域の条里型遺構について」(『京都府埋蔵文化財論集』第4集(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター) 2001
- 注24 前掲注13文献参照。なお、山城地域における小様式期を用いる場合、この森岡編年に依拠することとする。
- 注25 未成品としたものは、製作途中の破損など、何らかの理由で遺棄されたものや、次の工程に進むことが可能と思われるものも未成品に含める。また、製品としたもののなかには製品として完成する直前の未使用段階のものも含めている。半製品といった用語は使わない。
- 注26 石器製品を再加工してその規模を縮小、あるいは変形させ作りなおす場合、元の石器と同じ器種の石器とするか別の器種の石器とするかは関係なく、製作・使用のサイクルを繰り返す(リ・サイクル)という意味で「転用・転用品」とした。また、ある種の石器製品を再加工してその規模を縮小、あるいは変形させ、他器種として再利用した場合、「リダクション」・「器種替え」として弁別した。さらに刃部の欠損などによって一部再加工や研ぎ直しが行なわれた場合は「再生・再生品」とした。中川和哉氏からご教示を得た。記して感謝したい。また、下記文献を参考とした。  
澤田敦「石器のライフヒストリー研究と使用痕分析」(『古代』第113号 早稲田大学考古学会) 2003  
Dibble, H.L., The interpretation of Middle Palaeolithic scraper morphology. *American Antiquity*, 52. 1987
- 注27 松木武彦「弥生時代の石製武器の発達と地域性—とくに打製石鏃について—」(『考古学研究』第35巻 考古学研究会) 1989  
なお、有茎式A技法(調整剥離の方向を変化させることによって茎部を作り出すもの。)と有茎式B技法(調整剥離の方向は変えず、その幅、深さ、回数などを調節することによって茎部を作り出すもの)については石鏃1個体の表裏にともにみられる場合も多い。両者の判別について困難なものは、刃縁と茎部の境界点が非常に明瞭なものをA技法の範疇とした。ご了承いただきたい。
- 注28 以下、煩雑さを避けるために「転用中」あるいは「再生中」と表現したものは、転用中、あるいは再生中に「遺棄されたもの」であることを省略した。
- 注29 村田裕一「工具一砥石」(『考古資料大観』9 小学館) 2002
- 注30 福井県教育庁埋蔵文化財調査センター赤澤徳明氏のご教示による。記して感謝したい。
- 注31 宮田明「八日市地方遺跡における管玉製作の技法的特徴」(『八日市地方遺跡—小松駅東土地区画整理事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書—』I 第1分冊 石川県小松市教育委員会) 2003  
なお、浅野良次治氏には石針の分類についてご教示いただいた。記して感謝したい。今回、玉作技術を考察するにあたって、北陸地方における玉作技術との相対的な特徴の差異を示すために、また今後の比較検討をより容易にするためにも八日市地方遺跡の報告における記載内容に準拠しておきたいと思う。
- 注32 基準分類は秋山美佳が提示し、野島永・秋山美佳・望月誠子・財前幸一郎の観察と討議によって修正した。

- 注33 前掲注31文献、富山正明「玉作り関係工具」(『下屋敷遺跡・堀江十楽遺跡』福井県埋蔵文化財調査報告第14集 福井県教育庁埋蔵文化財センター) 1988
- 注34 ピエス・エスキュー1049はサヌカイトの石材同定資料としたため、クリーニングによって全体が研磨されており、上辺面の細かい剥離痕は磨耗している。なお、1049は藁科哲男氏(京都大学原子炉実験所)によって二上山産の可能性が高いことが指摘された。分析結果は、当調査研究センターで保管している。
- 注35 凹基式の縄文時代打製石鏃の可能性もあるが、左右非対称になることから石錐とした。
- 注36 佐藤宗男「大中の湖南遺跡における玉作について」(『古代文化』第22巻第1号 古代学協会) 1977
- 注37 久田正弘・馬場伸一郎「石川県羽咋市東の場タケノハナ遺跡における弥生時代の管玉加工技術と角柱体の形成」(『アルカ研究論集』第1号 (株)アルカ) 2003
- 注38 前掲注31文献、267では細かい凹凸が残ることから研磨剤を使用しているものと思われる。a1類以外の石針先端部形態は使用の結果生じたものであるため、管玉未成品の穿孔を始める時に石針の先端がどのような状態であったのかは不明である。しかし管玉未成品の穿孔前に研磨剤を使用してまで石針先端を摩滅させる必要性は感じられない。
- 注39 富山正明氏はこうした「円形チップ」は、「両端の研磨調整の最初の時に、力の入りかたによって生じるものかも知れない」と述べているが、当該資料の端面はすでに研磨された状態で分割されている。前掲注33富山文献
- 注40 菅原章太編『西の辻遺跡・鬼虎川遺跡』西の辻遺跡第6次、第7次、第8次調査・鬼虎川遺跡第18次調査概要報告書 東大阪市教育委員会・(財)東大阪市文化財協会 1988
- 注41 三重県多度町多度大社経塚で出土した宋鏡式鏡15面のうち、鈕を中心とした対称構図をもつもの。久保智康『日本の美術 中・近世の鏡』(至文堂) 1999
- 注42 久保智康「作品解説 147-1・2」(『特別展覧会 金色のかざり 金属工芸にみる日本美』京都国立博物館) 2003
- 注43 いわゆる「平入れ」である。鏡鑄造のもう一つの方法として、鈕の真上に湯口を設ける「縦入れ」が想定されている。
- 注44 瑞花双鳳八稜鏡と宋鏡式鏡の製作主体が同一であるかは検討を要するが、排他的な関係ではないと考える。
- 注45 久保智康「E1.宋鏡の影響を受けた鏡」(『古鏡の美～出土鏡を中心に～』 福井県立博物館) 1986
- 注46 墓以外の事例として、岩手県平泉町伽羅之御所跡(井戸)、群馬県太田市大塚・間之原遺跡(井戸)がある。
- 注47 例えば、岩手県伽羅之御所跡出土の鏡は、出土地点や周囲の状況から祭祀のために供用されたと解釈されている。
- 注48 第50図の作成には以下の文献を参考している。なお、ここでは特に中期の土器の報告が確認できたもののみを取り上げた。紙幅の都合により、報告書名の掲載は割愛する。  
伊藤淳史「山城地域における集落の動態」(『みずほ』32号 大和弥生文化の会) 2000  
西田敏秀・荒木幸治「淀川左岸地域における弥生集落の動向」(『みずほ』32号 大和弥生文化の会) 2000  
宮崎康雄「淀川北岸の弥生集落」(『みずほ』32号 大和弥生文化の会) 2000

- 伴野幸一「湖南地域における弥生集落の動向」(『みずほ』33号 大和弥生文化の会) 2000
- 注49 各属性の設定にあたっては、野島永・松野元宏・堀田直志の討議によって決定し、松野が一部修正した。その際、松野は分類コードの作成に関して、下記文献を参考とした。  
中尾佐助『分類の発想』(朝日選書409 朝日新聞社) 1990  
また、各属性の分類基準については下記文献を参考とした。  
溝口孝司「土器における属性伝播の研究」(『東アジアの考古と歴史』(中) 岡崎敬先生退官記念論集 同朋舎) 1987  
藤田三郎「土坑S X-101出土甕の分析」(『昭和59年度唐古・鍵遺跡第20次発掘調査概報』 田原本町教育委員会) 1986
- 注50 横山浩一氏によれば、形式は用途に基づく差異を表すもの、型式は時間差に基づく変異を表すものという。では、この場合大和形・摂津形といった器形はどちらに属するであろうか。型式の説明に従う場合、さらなる細分が試みられる昨今、これらの差異が時間差の変異をより大きく包括しつつあることは自明のことである。よってどちらか一方を選択するのであれば大和形・摂津形と表現することになる。しかしながら形式の説明に従う場合、これらの差異が用途を表すものでないこともまた自明のことであり、どちらか一方を選択するのであれば大和型・摂津型と表現せざるをえない。本稿では、時間軸を重視する立場から便宜上型式の説明をより重要と考え、大和形・摂津形という名称を使用する。しかしながら、この場合正式名称は「大和形甕形土器」となり混乱甚だしい名称となる。名称法の問題として重要な課題である。  
横山浩一「型式論」(『岩波講座日本考古学』1 研究の方法 岩波書店) 1985
- 注51 國下多美樹「第3章 近江系土器について」(『京都府弥生土器集成』 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター) 1988
- 注52 使用した資料は第Ⅱ様式後半～第Ⅲ様式前半のものに限った。以下の遺跡の資料を使用した。  
近江地域(宇賀野墓町、烏丸崎、金剛寺・後川、滋賀里、勸学院、大中ノ湖南、錦織、服部、針江南、妙楽寺、湯ノ部、山賀)  
大和地域(多、鴨都波、四分、坪井・大福、平等坊・岩室、面塚、脇田、唐古・鍵)  
摂津地域(安満、郡家川西、東奈良、目垣、田能、高宮八丁)  
乙訓地域(今里、雲宮、下植野南、鶏冠井、神足、中久世、脇山)。
- 注53 森岡秀人ほか『弥生土器の様式と編年』(近畿編Ⅱ 木耳社) 1990  
國下多美樹「鶏冠井遺跡をめぐる諸問題」(『向日市埋蔵文化財調査報告書』第45集 (財)向日市埋蔵文化財センター・向日市教育委員会) 1997  
藤井整「山城地域における弥生時代中期の編年」(『京都府埋蔵文化財論集』第4集 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター) 2001
- 注54 これは摂津地域よりもさらに低い割合である。  
西谷彰「弥生時代における土器の製作技術交流」(『待兼山論叢』第33号 大阪大学文学部) 1999
- 注55 池田保信・藤田三郎ほか『奈良県の弥生土器集成』(大和弥生文化の会) 2003、のデータを基に算出した。
- 注56 資料操作上、口縁残存率1/6程度の場合、その資料が波状口縁の部位を含むか含まないかは偶然の作用が大きいと考えられる。
- 注57 前掲注49藤田文献
- 注58 前掲注53森岡ほか文献、中川和哉「池上遺跡第12次」(『京都府遺跡調査概報』第108冊 (財)京

都府埋蔵文化財調査研究センター) 2003、前掲注55池田・藤田ほか文献

- 注59 広口壺の分類設定には下記文献を参考にした。  
佐原真「畿内地方」『弥生式土器集成』本編2(日本考古学協会弥生式土器文化総合研究特別委員会) 1968  
國分政子「弥生土器地域論—畿内第Ⅱ様式の系譜をめぐって—」(『滋賀考古』第2号 滋賀考古学研究会) 1989  
小林正史「先史時代の器種分類について」(『北越考古学』第2号 北越考古学研究会) 1989
- 注60 規範または畿内通有のニュアンスは下記文献による。  
國下多美樹「弥生土器にみる規範」(『網干先生古希記念考古学論集』上 網干先生古希記念考古学論集刊行事業会) 1998  
若林邦彦「中河内弥生中期土器にみる諸相」(『考古学研究』第43巻第4号 考古学研究会) 1997
- 注61 石井清司「5.長岡京跡左京第400次(7ANEMR-4地区)・鶏冠井清水遺跡発掘調査概要」(『京都府遺跡調査概報』第80冊 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター) 1998  
吉村正親「Ⅶ.中久世遺跡(91MK142)」(『京都市内遺跡立会調査概報』平成3年度 京都市文化観光局) 1992
- 注62 森田克行「安満遺跡発掘調査報告書—9地区の調査—」(『高槻市文化財調査報告書』第10冊 高槻市教育委員会) 1977
- 注63 野島永ほか『長岡京跡左京二条三・四坊・東土川遺跡』(『京都府遺跡調査報告書』第28冊 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター) 2000
- 注64 奈良文化財研究所深澤芳樹氏にご教示いただいた。記して感謝したい。
- 注65 試みに前掲注53森岡ほか文献をみると、山城Ⅲ-1様式までの場合住居跡や土坑出土資料が各時期それぞれ3割以上は提示されているが、山城Ⅳ-1様式~山城Ⅳ-3様式では住居跡や土坑出土資料は224点中わずか10点であり、大半が溝や包含層出土資料がである。この傾向はその後の資料増加においてもそれほど変わっていない。
- 注66 大きく打ち割る段階と細かい調整剥離を加える段階の厳密な区別は困難であるため、両者をまとめて扱い、粗割工程は設定しない。
- 注67 敲打はすべてに施されるものではないため工程としては設定しない。背部や刃部の線状敲打痕には素材剥片を両極剥離によって得た痕跡も含まれている可能性があるが、背部の広い範囲にわたって確認できるものもあることから、剥離整形後の調整によるものも存在すると考えた。また、剥離整形工程の未成品にみられる敲打痕は、製作失敗後の転用である可能性も否定はできない。しかし、転用の際に敲打加工を施す資料があること、石剣加工に側縁への敲打が認められる(第39図参照)ことから、敲打によって器面を平坦にするという加工方法が行われていたことは確実である。
- 注68 孔周辺に敲打痕のある資料は1点(523)あるが、穿孔後の体部敲打痕に連続しており、穿孔にともなうものではないと判断できる。また、孔周辺に穿孔途中痕をもつ製品資料がが多数認められるにもかかわらず、穿孔にともなう敲打痕を確認できないことは、穿孔が回転運動のみによっていたことを傍証するものであろう。
- 注69 なお、片岩製でも擦切施溝分割によって製作された石庖丁が1点(543)出土している。
- 注70 製品では敲打痕の確認できない資料の方が多く、すべての資料に敲打が施されたわけではない。
- 注71 磨製石器不明品としたものも含め、扁平片刃石斧として使用した、あるいは使用可能であるものの点数である。転用途中のものや、転用品かどうかを判断できない破片は除く。

- 注72 粘板岩でも、施溝が浅いために分割部が溝とずれ、放棄されたと考えられるもの(553・614)が出土している。したがって、施溝せずに折り取る(面と垂直に割る)ことは困難で、目的とする位置で分割するにはある程度の深さをもつ溝が必要であったと考えられる。
- 注73 石黒立人「磨製石斧生産をめぐる覚書2000」(『朝日遺跡』VI 愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第83集 (財)愛知県埋蔵文化財センター) 2000  
信里芳紀「讃岐地域における弥生時代前期から中期前半の様相」(『弥生時代前期末・中期初頭の動態』第16回古代学協会四国支部研究大会発表要旨集 古代学協会四国支部) 2002
- 注74 磨製石鏃は市田3期から市田7期まで出土している。ただし、出土土器によってその所属時期の決定できる資料がわずか7点であるため、直接の検討対象とはしない。
- 注75 山城でも南部に位置する精華町畑ノ前遺跡では、石庖丁に用いられる石材は粘板岩と片岩が拮抗している。このように市田齊当坊遺跡とは明らかに異なる石材入手環境にあったと思われる遺跡は直接の比較対象とはしない。  
川西宏幸ほか『(仮称)精華ニュータウン予定地内遺跡発掘調査報告書—煤谷川窯址・畑ノ前遺跡—』精華町教育委員会・(財)古代学協会 1987  
なお、遺跡の所在地については第5章第1節、松野論考(第50図)を参照されたい。
- 注76 中川和哉「京都における石器石材の獲得とその利用」(『京都府埋蔵文化財情報』第89号 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター) 2003
- 注77 國下多美樹・中島信親・清水みき『向日市埋蔵文化財調査報告書』第45集((財)向日市埋蔵文化財センター・向日市教育委員会) 1997  
黒沢浩「弥生時代石器の基礎的研究(I)—京都府深草遺跡出土の石器—」(『明治大学考古学博物館報』No.6) 1991
- 注78 田代弘「石器」(『太田遺跡』京都府遺跡調査報告書第6冊 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター) 1986
- 注79 畿内南部で多く出土する片岩製石庖丁と比較すると、穿孔に敲打をともなう例が確認できないことが大きな違いとして挙げられる。  
秋山浩三・仲原知之「近畿における石庖丁生産・流通の再検討(I)—池上曾根遺跡の石庖丁製作工程—(上)」(『大阪文化財研究』第15号 (財)大阪府文化財調査研究センター) 1998  
秋山浩三・仲原知之「近畿における石庖丁生産・流通の再検討(I)—池上曾根遺跡の石庖丁製作工程—(下)」(『大阪文化財研究』第17号 (財)大阪府文化財調査研究センター) 1999  
なお、穿孔にあたって敲打を施す割合は希少石材ほど低くなるという見解があるが、片岩と粘板岩という石材差、あるいは製作集団の違いによる可能性が指摘できよう。  
高木芳史「畿内地方の石庖丁の生産と流通」(『国家形成期の考古学—大阪大学考古学研究室10周年記念論集—』大阪大学考古学研究室) 1999
- 注80 岩崎誠・木村泰彦・山本輝雄『長岡京市埋蔵文化財調査報告書』第26集 ((財)長岡京市埋蔵文化財センター) 2002
- 注81 前掲注58中川文献
- 注82 報告書では敲打とされている資料であるが、実見により敲打段階の太型蛤刃石斧未成品と判断した。前掲注80文献第157図—491
- 注83 中川和哉・筒井崇史・野々口陽子「池上遺跡第5次発掘調査概要」(『京都府遺跡調査概報』第91冊 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター) 2000

- 田代弘・迫慶喜・谷口悌『池上遺跡発掘調査報告書—第3次・第4次調査—』（八木町教育委員会）  
2000
- 岡崎研一・田代弘「池上遺跡第8次」（『京都府遺跡調査概報』第103冊（財）京都府埋蔵文化財調査研究センター）2002、前掲注81文献
- 注84 なお、市田齊当坊遺跡でみられたような石材による扁平片刃石斧の法量差については、十分な個体数の資料が報告されている遺跡がなく、現状では遺跡間の比較はできない。
- 注85 岩崎誠『長岡京市埋蔵文化財調査報告書』第4集（（財）長岡京市埋蔵文化財センター）1989  
岩崎誠「神足遺跡」（『長岡京市史』資料編一 長岡京市役所）1991  
中島皆夫「右京第494次(7ANWY-6地区)調査概報」（『長岡京市埋蔵文化財センター年報 平成7年度』（財）長岡京市埋蔵文化財センター）1997、前掲注80文献
- 注86 小池寛「太田遺跡第14・15次」（『京都府遺跡調査概報』第107冊（財）京都府埋蔵文化財調査研究センター）2003、前掲注78文献
- 注87 宮崎歩『門ヶ町遺跡第18次発掘調査報告書』（『草津市文化財調査報告43』 草津市教育委員会）  
2001
- 注88 枚方市招提中町遺跡、寝屋川市高宮八丁遺跡、大阪市森小路遺跡などで出土例がある。招提中町遺跡では粘板岩、森小路遺跡は片岩、高宮八丁遺跡では粘板岩、片岩ともに擦切施溝分割痕の認められる石器がある。器種は石庖丁が多い。  
山上弘・山田隆一『招提中町遺跡』（大阪府教育委員会）2002、塩山則之『高宮八丁遺跡 石器編』（寝屋川市教育委員会）1988  
田中清美ほか『森小路遺跡発掘調査報告』I（（財）大阪市文化財協会）2001
- 注89 下條信行「東アジアにおける擦切技法について」（『東アジアの考古と歴史』（上）岡崎敬先生退官記念論集 同朋舎）1987
- 注90 前掲注33富山文献
- 注91 田代弘「石針について」（『京都府埋蔵文化財論集』第4集（財）京都府埋蔵文化財調査研究センター）2001、以下田代氏の指摘した部分についての引用文献はすべて上記の文献である。
- 注92 野々口陽子「余部遺跡第5次発掘調査概要」（『京都府遺跡調査概報』第88冊（財）京都府埋蔵文化財調査研究センター）1999  
西口陽一『八雲遺跡発掘調査概要』I（大阪府教育委員会）1987  
黒坂秀樹「近江における弥生玉作研究ノート」（『滋賀考古』第3号 滋賀考古学研究会）1990  
古川登ほか『甕谷遺跡』（清水町埋蔵文化財発掘調査報告書VI 清水町教育委員会）2002
- 注93 前掲注83田代・迫・谷口文献、潮崎誠「玉作りの里 女代神社南遺跡の調査から」（『歴史講演会参考資料集』 豊岡市教育委員会・豊岡市公民館）1999、前掲注33富山文献、前掲注31文献、斎藤基生「玉作りの工具」（『北陸自動車道埋蔵文化財発掘報告書 下谷地遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書19 新潟県教育委員会）1979
- 注94 近畿地方北部の丹波古生帯では、粘板岩の産出地が非常に多い。市田齊当坊遺跡の位置する久御山町から指呼の八幡市にも粘板岩産出地がみられ、当該地域では、粘板岩石材は豊富に利用できる石材であった。下記文献を参照。  
中川和哉「近畿地方における粘板岩製石器の生産と流通に関する予察」（『考古学に学ぶ』Ⅱ 同志社大学考古学シリーズⅧ 同志社大学）2003
- 注95 近年、寺村光晴氏は、磨製石針がこの孔内壁面研磨修正、いわゆる「孔さらえ」に使用されたとし

た。また、宮田明氏も本穿孔に使用された後の石針の用途として「孔さらえ」があったことを示唆している。今回、石針の先端部形態の観察から「孔さらえ」の根拠を提示した。

寺村光晴「玉作とその流通」(大田区立博物館編『ものづくりの考古学』東京美術) 2001、前掲注31文献注96、1280は両端面を含め全面研磨しているが、石針ではなくサヌカイト製管玉未成品の可能性もある。

注97 前掲注33文献、261頁

注98 宇野隆夫「井戸考」(『史林』第65号第5号 史学研究会) 1982、前掲注16文献

注99 藤田三郎・松本洋明「大和地域」(『弥生土器の様式と編年』近畿編I 木耳社)1989

注100 藤田三郎『昭和60年度 唐古・鍵遺跡 第22・24・25次発掘調査概報』(田原本町埋蔵文化財調査概要4 田原本町教育委員会) 1986

注101 末永雅夫・小林行雄ほか『大和唐古弥生式遺跡の研究』(京都帝国大学考古学研究報告16 京都大学考古学研究室) 1943

注102 藤田三郎「弥生時代の井戸—奈良・大阪の井戸を中心として—」(『考古学と技術』同志社大学考古学シリーズIV 同志社大学) 1988

注103 堀大介「井戸の成立とその背景」(『古代学研究』146 古代学研究会) 1999

なお、弥生時代の井戸の形態や類例については、本調査に参加した堀大介氏から、多大なご教示をいただいたことを記し、謝意を表したい。

注104 川上洋一「大和の井戸とその周辺」(『みずほ』第30号 大和弥生文化の会) 1999

川上氏は、出屋敷遺跡第2次調査土坑7の事例をあげて、井戸としてのいくつかの諸条件を満たすとする

注105 奈良県芝遺跡15次調査SK-15や、同多遺跡17次調査井戸2などは、前期の井戸として報告されている。

注106 秋山浩三氏は、池上曾根遺跡の中期の土器埋設遺構に関して、「土器井戸」とする認識を示している。秋山浩三「池上曾根遺跡の弥生時代井戸諸態」(『みずほ』第30号 大和弥生文化の会) 1999

注107 秋山浩三「池上曾根遺跡中枢部における大形建物・井戸の変遷(上・下)」(『みずほ』第28・30号 大和弥生文化の会) 1999

注108 乾哲也「池上曾根遺跡の調査成果の再検討」(『よみがえる弥生の都市と神殿』批評社) 1999

注109 付論9参照。寄生虫卵の検出量は、トイレ状遺構に匹敵する量とされる。

注110 前掲注31文献

注111 前掲注103文献

注112 集水施設とされる遺構は、弥生前期にもあり、一部には井戸と明確な区分が困難なものがあるが、自然の湧き水を得るものではなく、積極的な地下水の取水を目的としている点で、明確に区分されるべきものである。

集水遺構とされてきたもののうち、例えば、土器と木製臼などを設置する奈良県唐古・鍵遺跡第69次SK1130(中期中葉)のような遺構は、湧水点まで深く掘削しており、降下取水式の井戸の範疇でとらえられるのではないだろうか。

豆谷和之「唐古・鍵遺跡第69次調査の井戸」(『みずほ』第30号 大和弥生文化の会) 1999

注113 藤田三郎編「昭和58年度唐古・鍵遺跡第16・18・19次発掘調査概報」(『田原本町教育委員会埋蔵文化財調査概要』2 田原本町教育委員会) 1984

注114 藤田三郎編「昭和60年度唐古・鍵遺跡第22・24・25次発掘調査概報」(『田原本町埋蔵文化財概報』

- 4 田原本町教育委員会) 1986
- 注115 藤田三郎編「昭和59年度唐古・鍵遺跡第20次発掘調査概報」(『田原本町埋蔵文化財調査概要』3 田原本町教育委員会) 1986
- 注116 中西靖人・酒井龍一ほか『亀井』(大阪府教育委員会・(財)大阪文化財センター) 1983
- 注117 広瀬和雄・赤木克規ほか『亀井(その2)』(大阪府教育委員会・(財)大阪文化財センター) 1986
- 注118 大阪府教育委員会『喜志遺跡・東阪田遺跡発掘調査概要』Ⅲ 1980
- 注119 前掲注116文献
- 注120 奈良国立文化財研究所「西方官衙南地区の調査(第79・80次)」(『飛鳥・藤原宮発掘調査概報』26) 1996
- 注121 前掲注104文献
- 注122 古墳時代初頭の資料には、堀形のなかに階段状の3段のステップをもつ井戸の事例があり、後期以降についても再検討の必要があろう。  
米田美江子・三原一将『下古志遺跡』(出雲市教育委員会) 2001
- 注123 前掲注101文献
- 注124 鐘方正樹氏は、従来縦板組みと一括されてきた井戸の形態を「打ち込み式」と「挿入式」に区分するなど、新たな分類を提示している。  
鐘方正樹『井戸の考古学』(ものが語る歴史8 同成社) 2003
- 注125 木島慎治『鍋島本村南遺跡』(佐賀市文化財調査報告書第35集 佐賀市教育委員会) 1991
- 注126 堤安信『貴別当神社遺跡』Ⅲ(千代田町文化財調査報告書第15集 千代田町教育委員会) 1992
- 注127 木下巧「土生遺跡群」(『佐賀県農業基盤整備事業に係る文化財確認調査報告書』 佐賀県教育委員会) 1977
- 注128 高畑知功・平井泰男ほか『百間川兼基遺跡1・百間川今谷遺跡1』(岡山県埋蔵文化財発掘調査報告51 岡山県教育委員会) 1982
- 注129 伊藤晃・柳瀬昭彦ほか「上東遺跡の調査」(『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告書』第2集 岡山県教育委員会) 1974
- 注130 栄一郎・山本悦世ほか『鹿田遺跡』Ⅰ(岡山大学構内遺跡発掘調査報告第3冊 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター) 1988
- 注131 平井勝・高田恭一郎ほか『百間川原尾島遺跡』4(岡山県埋蔵文化財発掘調査報告97 岡山県教育委員会) 1995
- 注132 岡本寛久ほか『百間川米田遺跡』3(岡山県埋蔵文化財発掘調査報告74 岡山県教育委員会) 1989
- 注133 前掲注122文献
- 注134 谷口恭子・前田均『岩吉遺跡』Ⅲ(鳥取市文化財報告書30 鳥取市教育委員会・鳥取市遺跡調査団) 1991。谷口恭子氏からご教示いただいた。記して感謝したい。
- 注135 足立克己『姫原西遺跡』(一般国道9号出雲バイパス建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告Ⅰ 島根県教育委員会) 1999  
山陰の事例については中川寧氏からご教示いただいた。記して感謝したい。
- 注136 熱田貴保・深田浩ほか「田中谷遺跡」(『田中谷遺跡・塚山古墳・下がり松遺跡・角谷遺跡』 島根県教育委員) 2002
- 注137 前掲注101文献
- 注138 和泉市教育委員会『史跡池上曾根97・98—平成9・10年度史跡池上曾根遺跡整備事業遺跡調査完了



- 報告一』 1999
- 注139 石神怡『池上遺跡発掘調査概要』Ⅲ(大阪府教育委員会) 1974
- 注140 守山市立埋蔵文化財センター『乙貞』第83号 1995、守山市立埋蔵文化財センター『乙貞』第84号 1996
- なお、滋賀県守山市下長遺跡において横板を方形に囲み、四隅を杭によって固定する単純な構造の古墳時代初頭の井戸が検出されており、横板材を使用する最古の事例として注目される。
- 市田斉当坊遺跡においても周辺材の一部に横板を使用しているが、これらは極めて例外的な事例である。中国の華北に源流をもつとされ、列島内では8世紀以降に盛行する横板組井戸は、高度な組み合わせ技法を用いた複数の段組を基本としており、系統的に異なるものである。
- 岩崎茂『下長遺跡発掘調査報告書』Ⅷ(守山市教育委員会) 2001
- 注141 藤田三郎編「唐古・鍵遺跡 第21・23次発掘調査概報」(『田原本町埋蔵文化財調査概要』6 田原本町教育委員会) 1988
- 注142 小池香津江「芝遺跡検出の井戸」(『みずほ』第30号 大和弥生文化の会) 1999
- 注143 天理市教育委員会青木勘時氏のご教示による。記して感謝したい。
- 注144 野島稔『雁屋遺跡発掘調査概要』(四条畷市教育委員会) 1994
- 注145 前掲注108文献
- 注146 高島徹・寺川史郎ほか『亀井・城山』((財)大阪文化財センター) 1980
- 注147 前掲注101文献
- 注148 和歌山市教育委員会『社会教育資料』24 1965
- 注149 岡田清一『中田遺跡』(財団法人八尾市文化財調査研究会報告56 (財)八尾市文化財調査研究会) 1997
- 注150 関川尚功・松永博明「纏向遺跡発掘調査概報」(『奈良県遺跡調査概報1983年度(第一分冊)』 奈良県立橿原考古学研究所) 1984
- 注151 弥生後期後葉に北陸で出現する井戸の形態である。
- 注152 寝屋川市教育委員会濱田延充氏から、準構造船の船材を転用した寝屋川市長保寺遺跡の事例など、周辺に複数の類例があるとのことをご教示をいただいた。記して感謝したい。
- 市田斉当坊遺跡などの淀川水系に主に分布する古墳時代初頭の削り貫き材をレンズ状に組み合わせた井戸は、後期後葉にいち早く陸で出現しており、淀川水系から北陸へのルートに分布する形態として注目される。
- 注153 豆谷和之「唐古・鍵遺跡第69次調査の井戸」(『みずほ』第30号 大和弥生文化の会) 1999
- 注154 平良泰久・奥村清一郎ほか「古殿遺跡発掘調査概要」(『埋蔵文化財発掘調査概報1978』 京都府教育委員会) 1978
- 注155 戸原和人「松ヶ崎遺跡第5次」(『京都府遺跡調査概報』第82冊 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター) 1998
- 注156 小松市教育委員会『北陸における弥生都市—小松市八日市地方遺跡を検証する—』 2002
- 注157 久田正弘「石川県内出土の井戸について」(『米光萬福寺遺跡』 石川県立埋蔵文化財センター) 1987
- 出越茂和「弥生時代の井戸について」(『大友西遺跡』Ⅱ 金沢市埋蔵文化財センター) 2002
- 谷内碩史「石川県内出土の弥生時代井戸について」(『大田遺跡』 羽咋市教育委員会) 1991
- 注158 出越茂和『戸水遺跡群Ⅰ 戸水ホコダ遺跡』(金沢市文化財紀要150 金沢市埋蔵文化財センター)

1999

- 注159 出越茂和・谷口宗治ほか『大友西遺跡』Ⅱ(金沢市文化財紀要180 金沢市埋蔵文化財センター) 2002
- 注169 宮本哲郎・楠正勝ほか『金沢市西念・南新保遺跡』(金沢市文化財紀要40 金沢市教育委員会) 1983
- 注161 福島正美『吉崎・次場遺跡』(石川県立埋蔵文化財センター) 1987  
福島正美『吉崎・次場遺跡』(石川県立埋蔵文化財センター) 1988
- 注162 上野敬・北野博司『二口かみあれた遺跡』(石川県志雄町教育委員会) 1995  
上野敬『二口かみあれた遺跡第2次』(石川県志雄町教育委員会) 1999
- 注163 上野章・原田義範ほか『小杉町針原東遺跡発掘調査報告』(富山県小杉町教育委員会) 1994
- 注164 2002年度調査。
- 注165 大西顕・久田正弘ほか『金沢市藤江C遺跡』Ⅶ(金沢西部地区土地区画整理事業にかかわる埋蔵文化財発掘調査報告書13 石川県教育委員会・(財)石川県埋蔵文化財センター) 2002
- 注166 湯尻修平「志雄町杉野屋ろくばわり遺跡」(石川県教育委員会) 1975。湯尻修平氏から近年の調査事例についてご教示いただいた。記して感謝したい。
- 注167 橋本澄夫「金沢市下安原海岸遺跡の第Ⅰ次調査」(『石川考古学研究会々誌第18号』 石川考古学研究会) 1975
- 注168 河村好光ほか『金沢市戸水C遺跡』(石川県立埋蔵文化財センター) 1986
- 注169 谷口宗治『市内遺跡発掘調査報告書—寺中B遺跡発掘調査報告書』Ⅳ(金沢市文化財紀要158 金沢市教育委員会) 2000
- 注170 谷内碩央『大田遺跡』(羽咋市教育委員会) 1991
- 注171 本田秀生・鈴木三男『加賀市猫橋遺跡』(石川県教育委員会) 2002
- 注172 久々忠義「江上A遺跡」(『北陸自動車道遺跡調査報告—上市町遺構編—』 上市町教育委員会) 1981
- 注173 静岡県登呂遺跡の母村とされる中期中葉～後葉の有由東遺跡で縦板組井戸が検出されているとされるが、これについては鐘方正樹氏から疑問が呈されている(前掲注124文献)。
- 注174 向坂鋼二・川江秀孝『伊庭遺跡遺構編』(伊庭遺跡発掘調査報告書第2冊 浜松市教育委員会) 1977
- 注175 石黒立人・宮腰健二郎ほか『朝日遺跡』Ⅰ(愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第30集 (財)愛知県埋蔵文化財センター) 1991
- 注176 赤澤徳明氏よりご教示いただいた。記して感謝したい。石材を一部に用いる井戸としては、鳥取県岩吉遺跡S E 03(古墳時代初頭)の事例がある。
- 注177 小松市教育委員会福美貴子氏には、八日市地方遺跡の井戸についてご教示いただいた。記して感謝したい。
- 注178 前掲注157文献
- 注179 林華東『河姆渡文化初探』浙江人民出版社1992  
楊鴻勳「河姆渡遺址木構水井鑑定」(『建築考古学論文集』 文物出版社) 1987
- 注180 陸耀華・朱端明「浙江嘉善新港発見良渚文化木筒水井」(『文物』1984年第2期) 1984
- 注181 堀大介「中国における井戸の成立と展開」(『文化学年報』第48輯 同志社大学文学部) 1999
- 注182 前掲注124文献

- 注183 李弘鍾ほか『論山 麻田里遺蹟』（高麗大學校埋蔵文化財研究所） 1999
- 注184 中間研志「松菊里型住居—我国稲作農耕受容期における堅穴住居の研究—」（『東アジアの考古と歴史』（中）岡崎敬先生退官記念論集 同朋舎） 1987
- 注185 福田聖「方形周溝墓と儀礼—鍛冶谷・新田口遺跡第12号方形周溝墓の死者儀礼—」（『埼玉考古学論集—設立10周年記念論文集』（財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団） 1991  
岩松保「区画墓の時空」（『京都府埋蔵文化財論集』第4集（財）京都府埋蔵文化財調査研究センター） 2001
- 注186 岩松保「墓域の中の集団関係—近畿地方の周溝墓群の分析を通じて—前・後」（『京都府埋蔵文化財報』（財）京都府埋蔵文化財調査研究センター） 1992
- 注187 後述のように、周溝の溝さらえが一般的に行われていると想定されるので、溝中埋葬のある場合には、どのように対処したのかは、判断がつかない。
- 注188 福田聖「方形周溝墓と溝—方形周溝墓群に伴う溝について—」（『研究紀要』第12号（財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団） 1996、『豊島馬場遺跡 北区埋蔵文化財調査報告』第16集（東京都北区教育委員会） 1995
- 注189 当調査研究センターの調査による下植野南遺跡は、市田斉当坊遺跡と並行して、現在報告書作成のための整理作業中である。下植野南遺跡の周溝墓の様相については、整理担当の石井清司私信による。詳細は刊行予定の下記報告書を参照されたい。  
石井清司編『下植野南遺跡遺跡』Ⅱ（『京都府遺跡調査報告書』第35冊（財）京都府埋蔵文化財調査研究センター） 2000
- 注190 同遺跡の整理報告を担当した石井清司によると、下植野南遺跡で検出したSDG51は、検出長約116m、溝幅0.8～2.5m、深さ約0.7mの溝で、周溝墓の周溝を利用するかのように掘削されており、その底は周溝底より25～50cm程度上位にある。埋土には古墳時代前期の土器が含まれる。詳細は前掲注189文献参照。
- 注191 山本輝雄ほか「長岡第九小学校建設にともなう発掘調査概要 長岡京跡右京第10・28次調査（7ANMMB地区）」（『長岡京市文化財調査報告書』第5冊 長岡京市教育委員会） 1980
- 注192 前掲注63文献
- 注193 ロドニー・ニーダム『象徴的分類』（吉田禎吾・白川琢磨訳）みすず書房） 1993
- 注194 田代克己「墓制」（『季刊考古学 縄文と弥生を比較する』第23号 雄山閣出版） 1988  
都出比呂志「弥生時代集落の構造」（『日本農耕社会の成立過程』岩波書店） 1989
- 注195 岩松保・上田真一郎「八幡市女谷・荒坂横穴群における改葬の実例」（『京都府埋蔵文化財情報』第87号（財）京都府埋蔵文化財調査研究センター） 2003、岩松保ほか『女谷・荒坂横穴群』（『京都府遺跡調査報告書』第34冊（財）京都府埋蔵文化財調査研究センター） 2004
- 注196 弥生時代の旧巨椋池がどのような状況であったかは、不明である。近年、宇治川・木津川・桂川の三川の合流域が広く帯水するようになったのは、古代から中世にかけて、宮都造営などに水運として利用され始めたからであり、港湾の設置や造営資材・木材などの水没にともなって、池底が上昇したことから広く池沼化していったとする見解がある。しかし、一方で、巨椋池南半部分の池底土壌のボーリング調査では、縄文時代とみられる地層の安定した堆積がみられた。旧巨椋池の北半から西半部分は三川の流路の変化によって、変わってきたとみられるが、南半部分は弥生時代にも存在したものと思われる。前掲注11参照。
- 注197 前掲注76文献、前掲注79高木文献

注198 滋賀県草津市烏丸崎遺跡で出土した弥生時代中期の攻玉関係遺物は、2万点を超えるものとみられる。この烏丸崎遺跡を営んだ集団は、北陸との交易で畿内向けの玉作り原石の供給を一手におさえており、政治的要因のもとで畿内各地に供給していた、とする見解がある。畿内中枢域における当該期の碧玉製品の消費状況が明らかでない以上、不明と言わざるをえない。今後、烏丸崎遺跡の詳細な報告に期待し、今は資料の蓄積を待ちたい。

杉本源造「近江弥生社会の動態」(『古代学研究』第119号 古代学研究会) 1989

注199 森島康雄「古代～近世の遺構の変遷」(『京都府遺跡調査報告書』第33冊 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター) 2003

注200 なお、森島康雄氏は、『石清水文書』(『平安遺文』第2959)の保元三年十二月三日官宣旨に、石清水八幡宮の極楽寺領として「山城国居屋狭山」の名がみえることを重視している。佐山遺跡で検出された環濠SD5で、圍繞された遺構がこの「居屋狭山」そのものである可能性を指摘した。

## 穿孔途中の管玉と玉錐

東京大学総合研究博物館 吉田 邦夫

## 1. はじめに

管玉の穿孔作業中に、途中で玉錐が折れて、そのまま玉錐の先端部分が管玉の中に取り残された遺物(管玉未成品202、図版第220)が持ち込まれた(図1)。直径2.9mm、長さ8.8mmである。竪穴式住居跡S HC571で、玉錐および碧玉の破片などとともに出土した。弥生時代中期とされる。博物館に設置されているX線CT装置を用いて、内部に残された玉錐の形状を明らかにすることができないかという依頼を受けた。X線CTによる断層画像や三次元画像から、玉錐の形状を抽出することができたが、高価なX線CT装置を利用しなくても、単なるX線透過像や、実体顕微鏡による観察でも、十分に玉錐の形状、穿孔の形状が把握できることが明らかになった。

さらに、分析・調査作業中に、管玉から玉錐がはずれるというアクシデントに見舞われた。結果的には、おそらく日本で初めて、「今まで管玉の穿孔の中にはまっていた玉錐と、錐糞が残ったままの管玉のセット」を手に入れることができた。

## 2. 一般機器でも観察が可能

折れて残っている玉錐について、X線CTを用いてその形状を観察するのが目的であったが、一般的な形状観察のためには、必ずしも大げさな装置を使わなくてもすむことが多い。この資料は、玉錐が残る側のみが穿孔されているので適用できないが、数十倍程度の実体顕微鏡で十分に

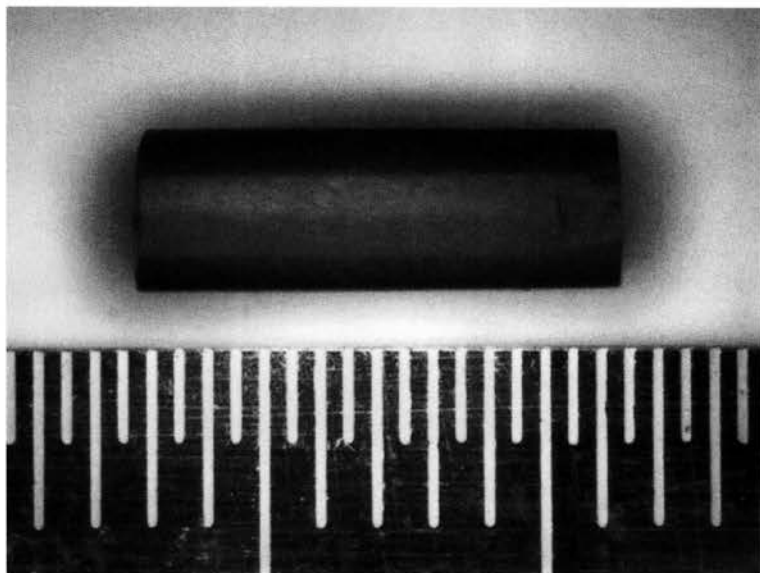


図1 管玉未成品202

観察できることも多い。同時に持ち込まれた京都府与謝郡加悦町の日吉ヶ丘遺跡から出土した管玉は、片側が半分まで穿孔されて、もう一方の途中で折損している資料であった。この場合は、実体顕微鏡により穿孔部を観察すれば、穿孔底が狭くなり、やや段差ができて凹んでいることが確認できるので、玉錐の先端は凸型に近いことが予想される。

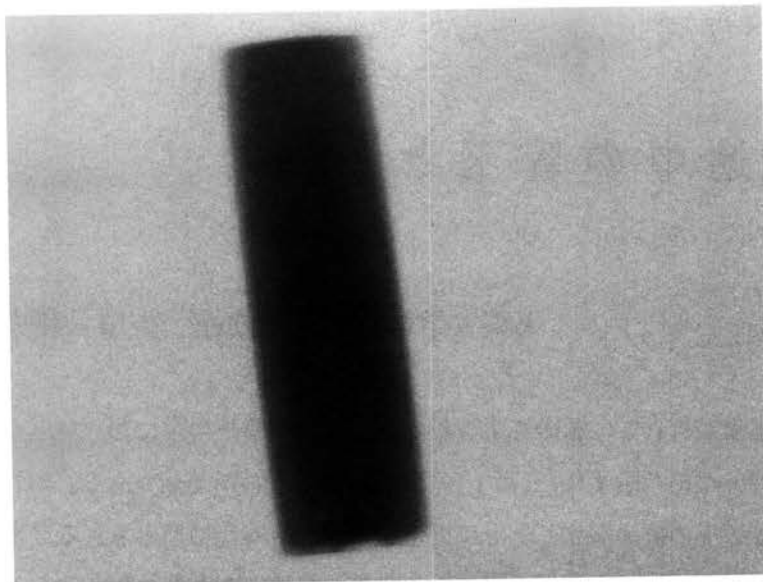


図2 管玉未成品202 X線透過写真

また、最近のデジタル顕微鏡は、深度合成が可能なものもあり、深さ方向に広い範囲でフォーカスをあわせることが可能である。

さらに、X線CTにおけるX線吸収係数を見積もるために、軟X線検査・分析装置を用いて、管玉内部の観察を行った。

軟X線検査・分析装置  
SV-100AW 特型(100kVp・3mA) ソフテックス株式会社

(X線TVカメラ、X線I・Iカメラシステム)

1インチのビジコンカメラを使って、観察・撮影を行ったが、資料のX線吸収は少なく、40kV、2mA程度で、穿孔部の透視、玉錐の構造を観察することができた(図2・3)。

### 3. X線CT

東京大学総合研究博物館に設置されているマイクロフォーカスX線CTシステムは、工業用の高精細CT装置である。医療用のX線CTの解像度は、通常約1mm程度で、最新のものでも0.5mmを切る程度である。これに対して、本館のシステムは、X線管電圧、管電流によるが、10 $\mu$ m以下の微細なX線源をもっている。

マイクロフォーカスX線CTシステム TX225-AC TIS(テスコ株式会社)

X線源; XTEK製 225kV、6~10 $\mu$ m

ソフトウェア; AC TIS+3(BIR製)

資料を回転台の上に固定し、回転させながら、固定したイメージ・インテンシファイア(12インチ)+ビデオカメラシステムで、X線吸収像を記録する。1回転すると、CT画像(断面像)が再構築される。解像度は、512 $\times$ 512としている。資料の大きさは、回転台に制約され、現状では直径200mm程度、高さ250mm以下の資料を扱うことができる。

回転台の上で資料が動いてしまうといけないので、発泡ポリスチロールなどの、X線に対して柔らかい素材と両面テープなどを用いて、管玉を直立させ、固定した。X線管電圧130kV、管電流80 $\mu$ mで、フィルター無しで照射した。X線吸収像は、一定間隔でカメラ信号として入力される。今回は3分間に900ビューを取り込む設定とし、1断面のスライス厚さを16 $\mu$ m、スライスピッチ16 $\mu$ mで、一回の撮影で水平面の上下21スライスを同時に記録する条件で測定した。記録が終わると、ステージを上に移し、資料の全範囲を撮影する。全高を超える約9mmの範囲につい

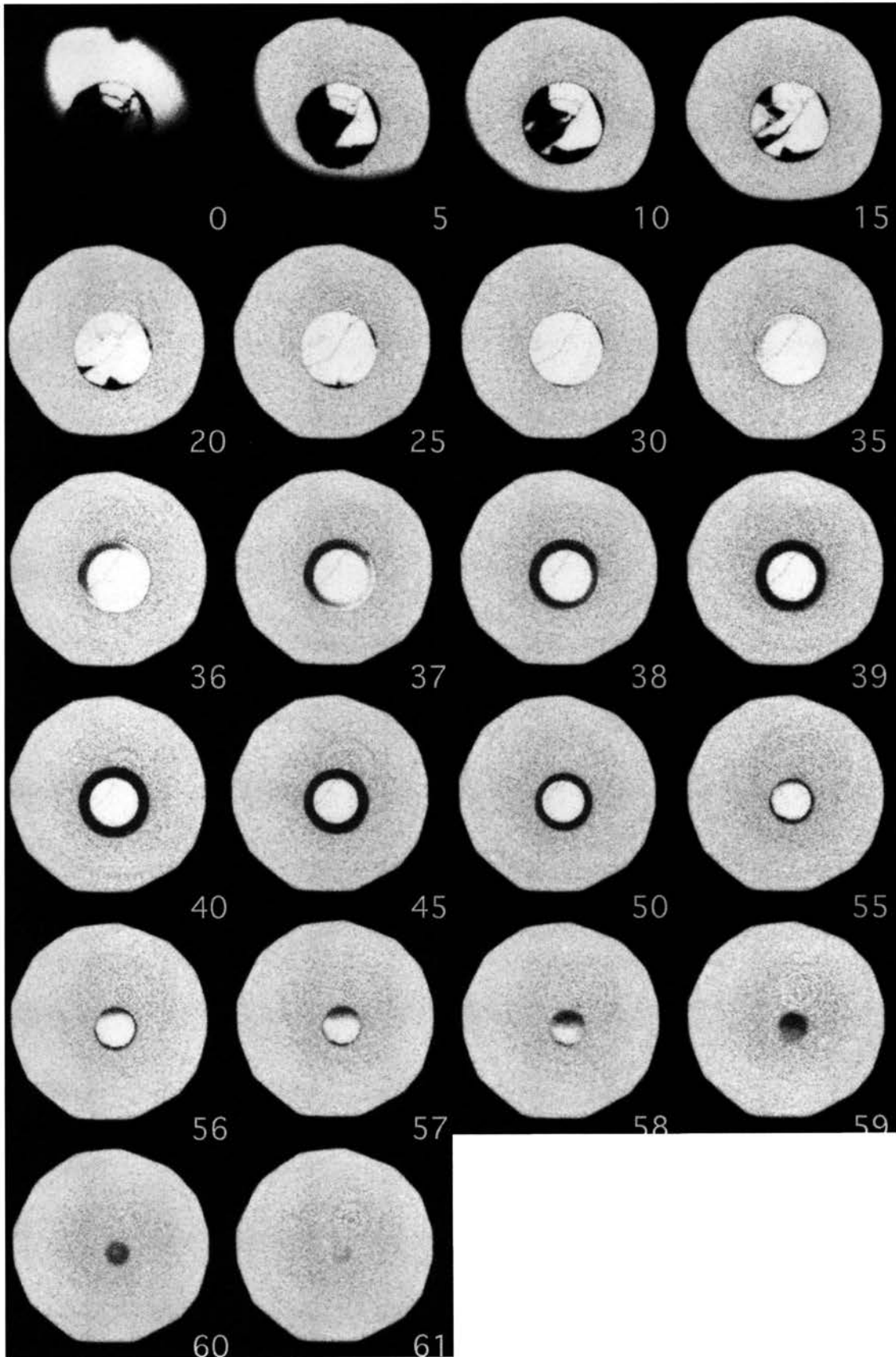


図3 未成品202連続断面画像(各画像の右下の番号は、最上部(0)からの枚数である。したがって、数字の差が5であれば、 $16\mu\text{m} \times 5 = 80\mu\text{m}$ の間隔があいていることになる)



図4 三次元構築画像(上端面)

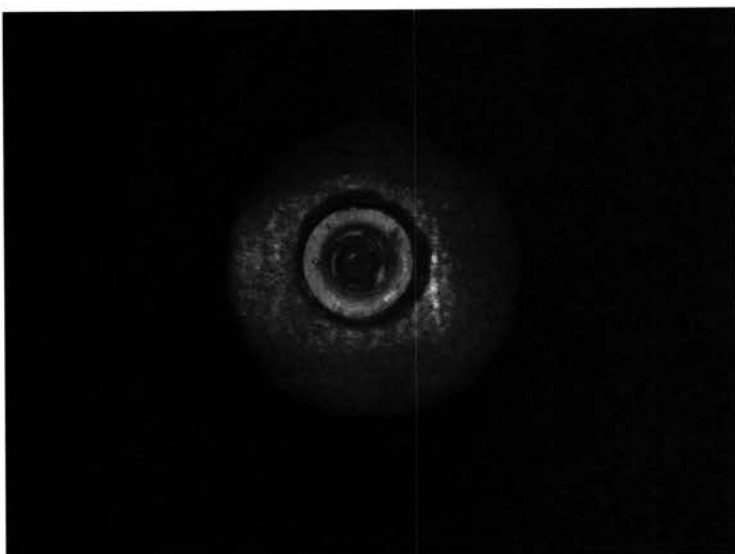


図5 上端面からの画像

構築すれば、玉錐のみの三次元ボリューム表示が可能である。今回は、玉錐がはずれてしまったので、このやっかいな操作は行っていない。

#### 4. CT画像から読みとれること

後述するように、玉錐と管玉の材質を検討するために、蛍光X線装置による元素分析を行っている最中に、玉錐が管玉から脱落した。したがって、ここではごく簡単に、図3から得られる数値を示しておこう。

玉錐の先端部分は写真36から出現し、57～58まで続いている。長さ0.36mmになる。また、写真40で見る、穿孔部の直径は、1.06mmで、その部分での玉錐先端部の直径は、0.70mmである。

X線CT撮影時には、すでに玉錐にヒビが入っており、図3、写真25～30では、1時か8時の方向へと続いているのが明瞭に読みとれる。ヒビは写真50の先端部まで明瞭に続き、写真55にも

て、総数567枚の連続断面画像を作成した。断面画像のピクセルサイズは、 $16\mu\text{m}$ に設定し、スライス厚さ・スライスピッチと同じにした(図3)。したがってこのデータセットでは、三次元ボリュームデータとして取り扱う場合、 $16\mu\text{m}$ ボクセルが基本になる。

三次元画像の再構築については、Analyze4.0(Biomedical Imaging Resource, Mayo Foundation, Rochester, Minnesota; (株)エルエイシステムズ)を用いて行った。空気と管玉のCT値の中間値を閾値として、管玉の表面形状を可視化した(図4)。

図3の中心に白く見える部分が、玉錐の本体である。この部分と、外周に見えるやや灰色がかった管玉の部分とは、分離しているなので、画像処理ソフトを使って、60枚分の管玉部分のみを消した上で、三次元画像を再



それがわずかに見て取れる。脱落した玉錐の内、左上の部分は回収できなかった。写真20～30の状況を見ると、バラバラになってしまったのかも知れない。

先端部分はほぼ真円に近く、基部も写真25～36では真円に近い。基部において錐糞を逃がす部分は、写真35まで右上に見え、下の空間も写真30までは、かろうじて認められるが、写真35では死んでいる。錐糞の逃げ場が

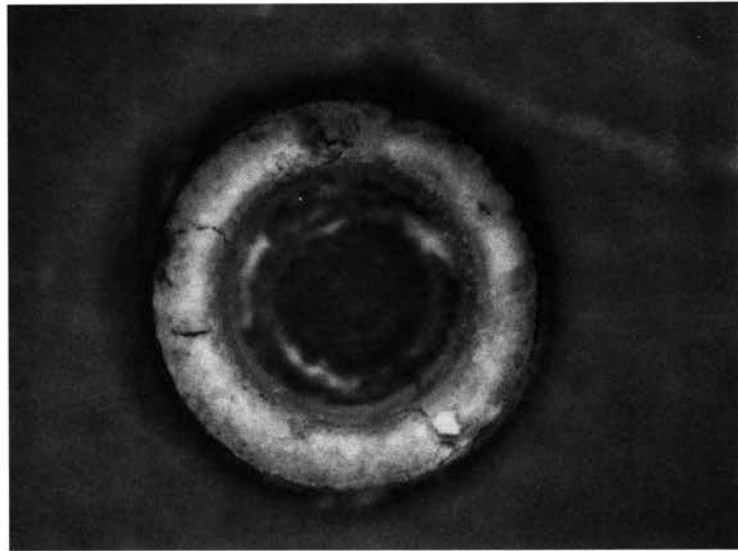


図6 錐糞および研磨材

ないために、折れてしまったのだろうか？ 図3でも確認できることだが、写真59、60では、孔は空いているが先端部分はなく、空間になっているように見える。同様に、写真37～55にかけて、孔は空いているのに、そこに玉錐は見えない。

## 5. 玉錐の形と穿孔方法

基部の根本の部分から先端部のごく一部のところまで欠損した。

その結果、管玉の穿孔部分が露出することとなった。図5・6に見るように、赤茶色の錐糞と思われる物質がドーナツ状に固まっている。また、穿孔端にはこれとはやや異なる白色の結晶がところどころに見え、穿孔痕も見える。図3写真37～55の空隙に見えた部分は、鉍物の結晶または粉末が固まっているため、X線吸収係数が低く、黒く見えていたのだ。

さらに、図7の玉錐先端部は、奇妙な形をしている。図6の錐糞がちょうど収まるような形で、先端部の根本を一周して溝ができています。円周部分はあたかもドリルの刃であるかのように立っている。しかし、直径1mm以下の場所に、このような溝を人為的に掘るのは至難の業である。おそらく、穿孔の結果、管玉と玉錐の間に入った研磨材が、管玉を削ると同時に、玉錐をも切削した結果であると考えられる。かなり使い込んだ玉錐であるかも知れない。

凸部の周囲に、穿孔痕と思われるものが少なくとも2本認められる。また、錐糞の逃げ場は、当初予想した通りのようである。図7で、基部の右側と左側にそれぞれ、赤茶色の錐糞と思われるものが付着している。これは、図3の写真25で下側に見える部分が、図7の左下部分の錐糞付着部に相当する。先端部には、穿孔底部と同じように白っぽい結晶(粉末)が付着している。図7の左下の部分はやや出っ張っていて、すぐに落ち込んでいる。また、先端部分は、やや楕円を描いているように思える。錐糞を逃がす工夫だろうか。前述したが、図3の写真59～60では玉錐が見えないので、この先端表面にはやや厚い付着物が存在するのかも知れない。しかし、それにしても、写真60のような直径が小さいパイロット・ホールが削れていく仕組みがよく理解できない。



図7 石針(玉錐)先端部(1)

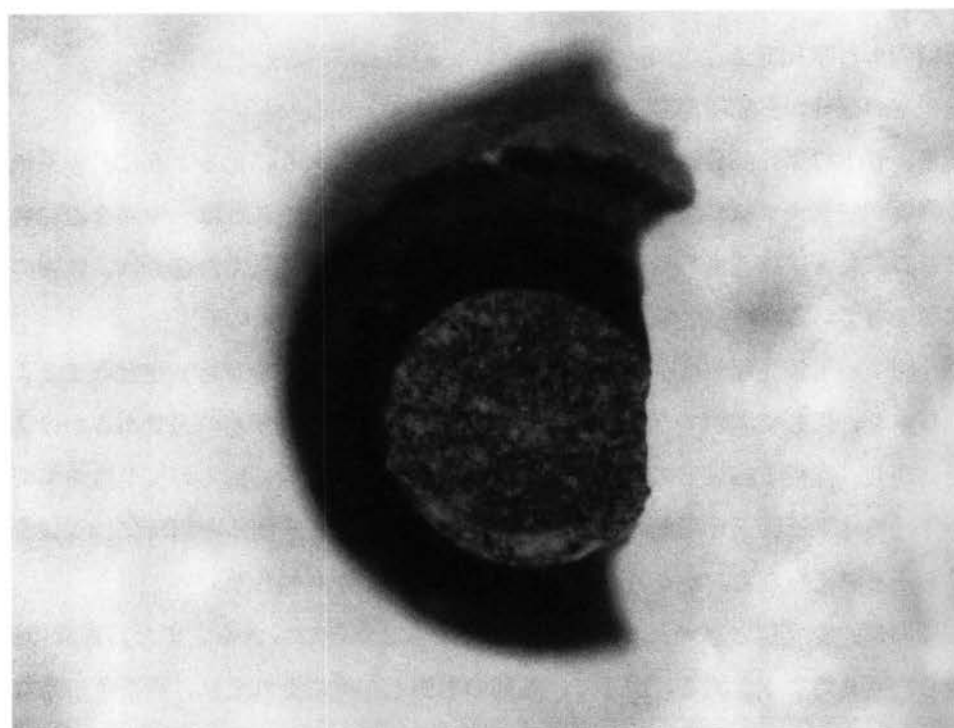


図8 石針(玉錐)先端部(2)

まだまだ、解決できない問題が山積みであるが、このセットは計り知れない情報を引き出せるものといえよう。さらに研究を続ける必要がある。

## 6. 材質

おそらく、玉錐が脱落する原因となった、蛍光X線によるマッピング分析の結果をまとめておきたい(附表1)。

管玉は、いわゆる軟玉(ネフライトNephrite)であろう。透セン石または透緑セン石が顕微鏡的  
微晶になったもので、緑色は鉄によるものである。角セン石のグループは、硬度5～6である。

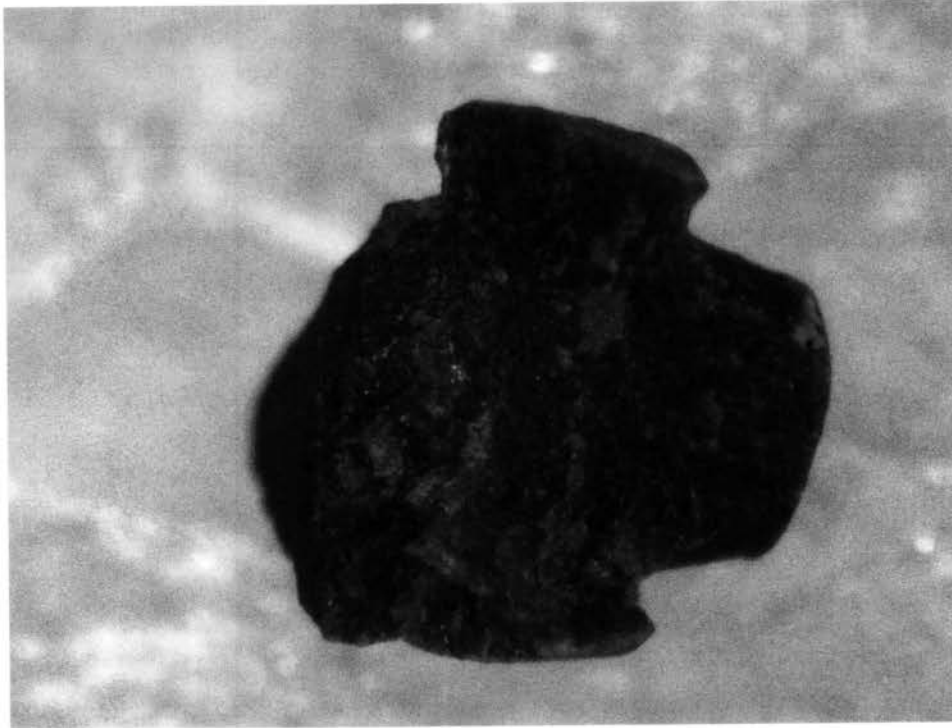


図9 石針(玉錐)先端部破断面

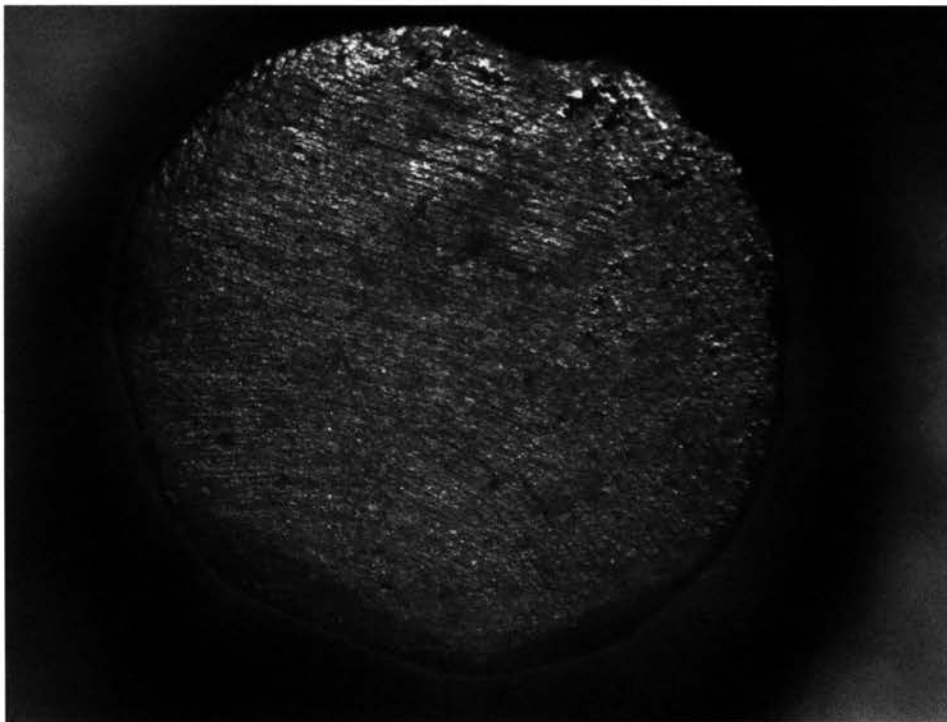


図10 石針(玉錐)先端部端面研磨痕

付表1 元素分析結果

表1 元素分析結果

	サヌカイト文献値		石錐 測定値					管玉測定値		
	I	II	石錐01	石錐02	石錐03	石錐206A	石錐206C	碧玉04	碧玉04	碧玉206B
SiO <sub>2</sub>	63.25	61.05	65.42	67.65	68.73	65.8	65.54	83.55	82.28	84.4
TiO <sub>2</sub>	0.36	0.49	0.85	0.85	0.86	0.88	0.99	0.09	0.13	0.11
Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	17.76	18.22	19.03	18.09	17.77	19.22	19.15	10.19	11.01	9.69
FeO	6.52	7.54	4.96	4.49	4.08	4.37	4.31	0.46	0.45	0.52
MnO	0.11	0.17	0.14	0.13	0.11	0.13	0.15	0.01	0.01	0
MgO	1.8	1.61	-	-	-	-	-	-	-	-
CaO	4.01	4.24	6.82	5.57	4.61	6.52	6.24	0.25	0.28	0
Na <sub>2</sub> O	3.63	3.85	-	-	-	-	-	-	-	-
K <sub>2</sub> O	2.35	2.42	2.74	3.2	3.8	3.04	3.12	5.46	5.84	5.11

I. 香川県高松市白峰山産（地質調査所）

II. 香川県坂出市金山産（地質調査所）

玉錐はサヌカイトと想定されていたが、これも間違いないようである。石基のキ石、および、ハン晶の大部分はシャホウキ石からできている。硬度6のシャチョウ石も含まれている。つまり、玉錐も管玉も、ほぼ同じ硬度のものなので、穿孔できないことはない。

さて、これまでいつも口の端に載ってきた研磨材は、金剛砂(大坂沙)である。金剛砂は、大阪府と奈良県の境、金剛山脈の北端にある二上山周辺の河川でとれるザクロ石を含んだ砂で、研磨材として用いられてきた。ザクロ石はいくつか種類があるが、石英、メノウと同じモース硬度7、または少し硬いもので、7.5である。ザクロ石の色は種類によって多様で、白から赤、黒、黄、緑、などどんな色でもあてはまるものがある。さらに問題なのは、玉錐先端表面に付着している粉末の色と、ドーナツ状付着物の色が異なっていることである。

ドーナツ状付着物を取り出し、破壊分析を行うのであれば、ザクロ石の仲間は、密度が大きいものが多く、水簸などによって他の鉱物と分離した後、X線回折などによって同定することが可能である。

## 7. 研磨法

研磨法については、今後の課題とすることで、一枚の写真を提示しておく(図10)。

なお、装置の使用に当たって、本館の諏訪元助教授、中鉢華子さん、国立科学博物館の河野さんのご協力を頂いた。深く感謝します。

## 竪穴式住居跡 S HC453における碧玉玉材等の産地分析(抄)

京都大学原子炉実験所 藁科哲男

### 1. はじめに

今回分析を行った玉類は勾玉、管玉などで、玉類の原材料としては滑石、軟玉(角閃石)、蛇紋岩、結晶片岩、碧玉、メノウなどが推測される。一般的には肉眼観察で岩石の種類を決定し、それが真実のよう思われているのが実態である。これら玉材については岩石の命名定義に従って岩石名を決定するが、非破壊で命名定義を求めるには限度があり、若干の傷を覚悟して硬度、光沢感、比重、結晶性、主成分組成を求めるくらいであり、非破壊で命名の主定義の結晶構造、屈折率などを正確には求められない。また原石名が決定されたのみでは考古学の資料としては不完全で、どここの産地原石が使用されているかの産地分析が行われて初めて、考古学に寄与できる資料となるのである。遺跡から出土する大珠、勾玉、管玉の産地分析というのは、玉類の製品が何処の玉造遺跡で加工されたということを調査するのではなくて、何か所かあるヒスイ(硬玉、軟玉)や碧玉の原産地のうち、どここの原産地の原石を使用しているかを明らかにするのが、玉類の原産地推定である。玉類の原石産地を明らかにすることは考古学上重要な意味をもっている。糸魚川市でヒスイが発見されるまでは、中国、雲南、ビルマ説であったが、発見後は、専ら国内説で、岩石学的方法<sup>(注1)</sup>および貴重な考古遺物を非破壊で産地分析を行った蛍光X線分析で行う元素比法<sup>(注2、3)</sup>が報告されている。また、碧玉製管玉の産地分析で系統的に行った研究としては蛍光X線分析法と電子スピン共鳴法を併用することで産地分析をより正確に行った例<sup>(注4)</sup>が報告されている。石鏃などの石器と玉類の製品はそれぞれ使用目的が異なるため、それぞれの産地分析で得られた結果の意味も異なる。

今回分析を行った遺物は、京都府久世郡久御山町に位置する市田齊当坊遺跡C調査区竪穴式住居跡 S HC453出土の碧玉素材・角柱体・管玉未成品など合計36個で、これら碧玉玉材の分析結果が得られたので報告する。

### 2. 非破壊での産地分析の方法と手段

原産地推定の第一歩は、原産地間を区別する人間でいえば指紋のような、その原産地だけにしかないという指標を見つけなければならない。その区別をするための指紋は鉱物組成の組み合わせ、比重の違い、原石に含有されている元素組成の違いなどであり、原産地同士を区別できなければ産地分析はできない。成功するかどうかは、とにかく行ってみなければわからない。原産地同士が指紋でもって区別できたならば、次に遺跡から出土する遺物の指紋と原産地の指紋を比較して、

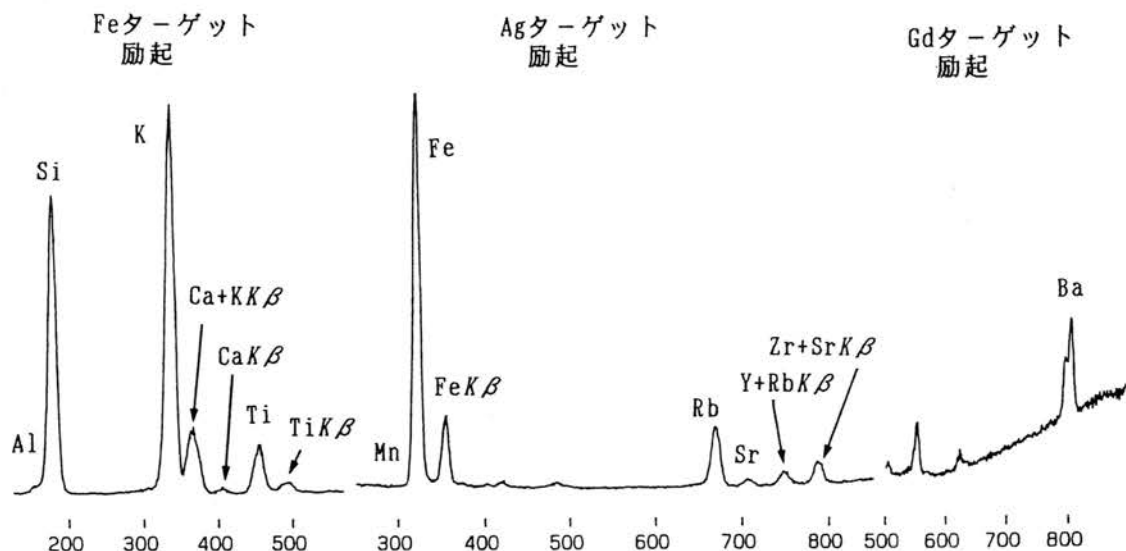


図1 花仙山産碧玉原石の蛍光X線スペクトル

一致しない原産地を消去して一致する原産地の原石が使用されていると判定する。

ヒスイ、碧玉製勾玉、大珠、玉などは、国宝、重要文化財級のものが多くて、非破壊で産地分析が行える方法でなければ発展しない。よって石器の原産地分析で成功している、非破壊で行う<sup>(注5)</sup> 蛍光X線法を用いて玉類に含有されている元素を分析する。

遺跡から出土した大珠、勾玉、管玉などを水洗いして、試料ホルダーに置くだけの、完全な非破壊で産地分析を行った。玉類は蛍光X線分析法で元素の種類と含有量を求め、試料の形や大きさの違いの影響を打ち消すために、分析された元素同士で含有量の比を測り、この元素比の値を、原産地を区別する指紋とした。碧玉製玉類はESR法を併用するが試料を全く破壊することなく、碧玉に含有されている常磁性種を分析し、その信号から碧玉産地間を区別する指標を見つけて、産地分析に利用した。<sup>(注6)</sup>

### 3. 碧玉原石の蛍光X線分析

碧玉の蛍光X線スペクトルの例として鳥根県花仙山産原石を図1に示す。猿八産、玉谷産の原石から検出される蛍光X線ピークも異同はあるものの図1で示されるピークは観測される。土岐、興部の産地の碧玉は鉄の含有量が他の産地のものに比べて大きいのが特徴である。産地分析に用いる元素比組成は、Al/Si、K/Si、Ca/K、Ti/K、K/Fe、Rb/Fe、Fe/Zr、Rb/Zr、Sr/Zr、Y/Zrである。Mn/Fe、Ti/Fe、Nb/Zrの元素比は非常に小さく、小さい試料の場合測定誤差が大きくなるので定量的な判定の指標とはせず、判定のときに、Ba、La、Ceのピークの高さとともに、定性的に原材産地を判定する指標として用いている。

### 4. 碧玉の原産地と原石の分析結果

分析した碧玉の原石の原産地を図2に示す。佐渡猿八原産地は、①新潟県佐渡郡畑野町猿八地区で、産出する原石は地元で青玉と呼ばれている緑色系の石で、良質なものは割れ面がガラス光

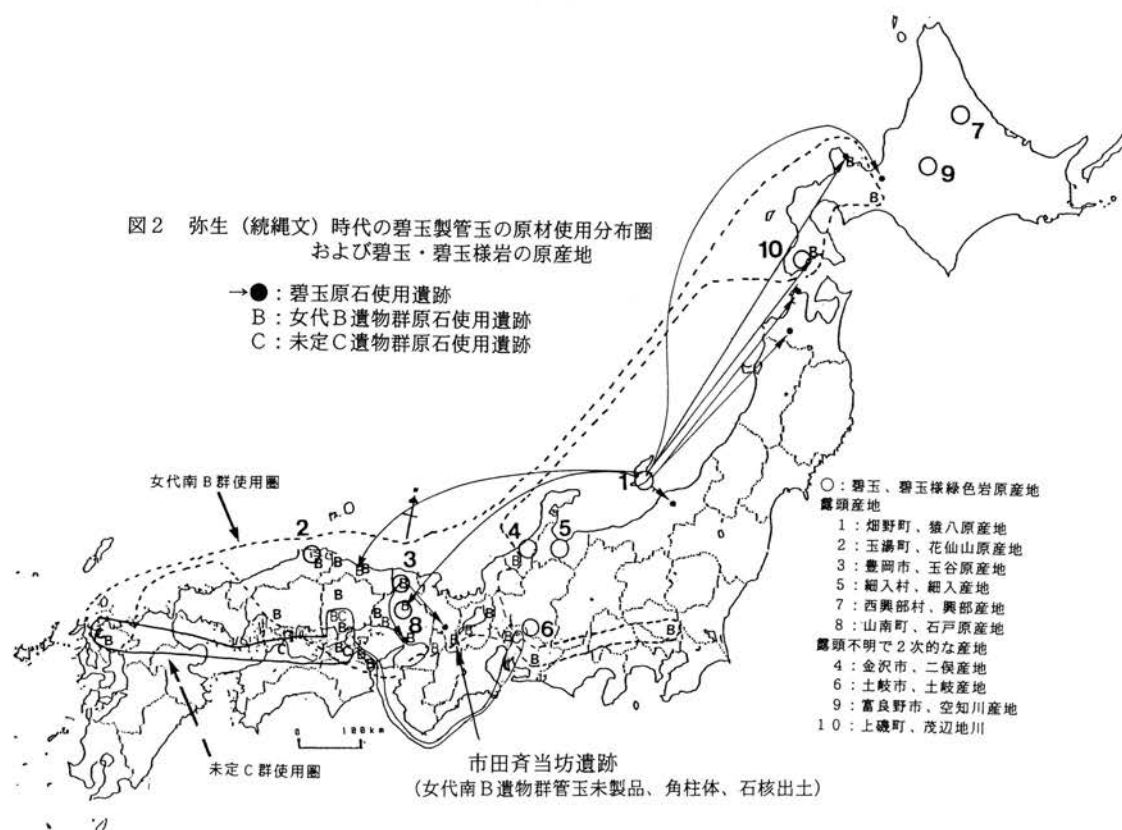


図2 弥生(統縄文)時代の碧玉製管玉の原材使用分布圏および碧玉・碧玉様岩の原産地

沢を示し、質のよくないものは光沢の少ないグリーンタフ的なものである。産出量は豊富であったらしく採石跡が何か所かみられるが、今回分析した原石は猿八の各地点から表採したもの、および地元で提供された原石などであり、また提供されたもののなかには露頭から得られたものがあり、それはグリーンタフ層の間に約7cm幅の良質の碧玉層が挟まれた原石であった。分析した原石の比重と個数は、比重が2.6~2.5の間のは31個、2.5~2.4の間は5個の合計36個で、この中には、茶色の碧玉も2個含まれている。原石の比重が2.6~2.3の範囲で違っても、碧玉の色が茶色、緑色、また、茶系色と緑系色の縞があるなど、多少色の違いがあるが分析した組成上には大きな差はみられなかった。

出雲の花仙山は近世まで採掘が行われた原産地で、所在地は②鳥根県八束郡玉湯町玉造温泉地域である。産出する原石は、濃緑色から緑色の緻密で剥離面が光沢をもつ良質の碧玉から淡緑色から淡白色などいろいろで、他に硬度が低そうなグリーンタフの様な原石もみられる。良質な原石の比重は2.5以上あり、質が悪くなるに従って比重は連続的に2.2まで低くなる。分析した原石は、比重が2.619~2.600の間のは10個、2.599~2.500は18個、2.499~2.400は7個、2.399~2.300は11個、2.299~2.200は11個、2.199~2.104は3個の合計60個である。比重から考えると碧玉からグリーンタフまでの領域のものが分析されているのがわかる。花仙山産原石は色の違い、比重の違いによる分析組成の差はみられなかった。

玉谷原産地は、③兵庫県豊岡市辻、八代谷、日高町玉谷地域で産出する。碧玉の色、石質などは肉眼では花仙山産の原石と全く区別がつかない。また、原石の中には緑系色に茶系色が混じる

ものもみられ、これは佐渡猿八産原石の同質のものに非常によく似ている。比重も2.6以上あり、質は花仙山産、佐渡猿八産原石より緻密で優れた感じのものもみられる。この様な良質の碧玉の採取は、産出量も少ないことから長時間をかけて注意深く行う必要がある。分析した玉谷産原石は、比重が2.644～2.600は23個、2.599～2.589は4個の合計27個で、玉谷産原石は色の違いによる分析組成の差はみられなかった。また、玉谷原石と一致する組成の原石は日高町八代谷、石井、アンラクなどで採取できる。

二俣原産地は、④石川県金沢市二俣町地域で、原石は二俣川の河原で採取できる。二俣川の源流は医王山であることから、露頭は医王山に存在する可能性がある。ここの河原でみられる碧玉原石は、大部分がグリーントフ中に層状、レンズ状に非常に緻密な部分としてみられる。分析した4個の原石の中で、3個は同一塊から3分割したもので、1個は別の塊からのもので、前者の3個の比重は2.42で後者は2.34である。また元素組成は他の産地の組成と異なっており区別できる。しかし、この4個が二俣原産地から産出する碧玉原石の特徴を代表しているかどうか検証するために、さらに分析数を増やす必要がある。

細入村の産地は、⑤富山県婦負郡細入村割山定座岩地区にあり、そのグリーントフの岩脈に団塊として緻密な濃緑の碧玉質の部分がみられる。それは肉眼では、他の産地の碧玉と区別できず、また、出土する碧玉製の玉類とも非常に似た石質である。しかし、比重が分析した8個は2.25～2.12と非常に軽く、この比重の値で他の原産地と区別できる場合が多い。

土岐原産地は、⑥愛知県土岐市地域であり、そこでは赤色、黄色、緑色などが混じり合った原石が産出している。このうち緻密な光沢のよい濃緑で比重が2.62～2.60の原石を碧玉として11個分析を行った。ここの原石は鉄の含有量が非常に大きく、カリウム含有量が小さいという特徴をもち、この元素比の値で他の原産地と区別できる。

興部産地は、⑦北海道紋別郡西興部村にあり、その碧玉原石は鉄の含有量が非常に高く、他の原産地と区別する指標になっている。また、比重が2.6以下のものはなく遺物の産地を特定する指標として重要である。

石戸の産地は、⑧兵庫県氷上郡山南町地区にあり、その安山岩に脈岩として採取されるが産出量は非常に少ない。また、元素組成から他の産地の碧玉と区別できる。

⑨北海道富良野市の空知川流域から採取される碧玉は濃い緑色で比重が2.6以上が4個、2.6～2.5が5個、2.5～2.4が5個である。その碧玉の露頭は不明で河原の礫から採取するため、短時間で良質の碧玉を多数収集することは困難である。また、元素組成から他の産地の碧玉と区別できる。

⑩北海道上磯郡上磯町の茂辺地川の川原で採取される碧玉は不均一な色のものが多く、管玉に使用できる色の均一な部分を大きく取り出せる原石は少ない。

これら原石を原産地ごとに統計処理を行い、元素比の平均値と標準偏差値をもとめて母集団を作り、付表1-1に示す。各母集団に原産地名を付けて、その産地の原石群、例えば花仙山群と呼ぶ。花仙山群は比重によって2個の群に分けて表に示したが比重は異なっても組成に大きな違



付表1-1 各碧玉の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値

原群	石名	分析個数	Al/Si X <sub>av</sub> ±σ	K/Si X <sub>av</sub> ±σ	Ca/K X <sub>av</sub> ±σ	Ti/K X <sub>av</sub> ±σ	K/Fe X <sub>av</sub> ±σ
興空	部	31	0.011±0.003	0.580±0.320	0.123±0.137	0.061±0.049	0.022±0.006
知	A 1	42	0.039±0.006	1.026±0.281	2.728±0.907	0.547±0.119	0.042±0.011
空	A 2	46	0.021±0.008	0.866±0.447	0.797±0.393	0.225±0.050	0.032±0.006
空	B	47	0.064±0.004	3.600±0.328	0.088±0.008	0.101±0.009	0.242±0.037
猿	八岐谷	36	0.046±0.007	3.691±0.548	0.049±0.038	0.058±0.011	0.370±0.205
土	玉	51	0.006±0.004	0.361±0.131	0.072±0.063	0.098±0.063	0.023±0.005
花	山 1	27	0.025±0.009	0.625±0.297	0.110±0.052	0.476±0.104	0.045±0.014
仙	山 2	27	0.019±0.004	0.909±0.437	0.171±0.108	0.222±0.098	0.059±0.019
山	入	33	0.023±0.003	1.178±0.324	0.157±0.180	0.229±0.139	0.055±0.015
花	細	8	0.019±0.003	0.534±0.284	0.991±0.386	0.372±0.125	0.031±0.008
二	侯	4	0.043±0.001	2.644±0.183	0.337±0.079	0.158±0.009	0.312±0.069
石	戸	4	0.019±0.004	0.601±0.196	0.075±0.022	0.086±0.038	0.154±0.072
茂	地	4	0.031±0.002	1.847±0.246	0.077±0.024	0.222±0.052	0.092±0.021
川	川	4	0.031±0.002	1.847±0.246	0.077±0.024	0.222±0.052	0.092±0.021
ケ	マ	44	0.040±0.007	2.745±0.957	0.234±0.139	0.135±0.030	0.067±0.008

原群	石名	分析個数	Rb/Fe X <sub>av</sub> ±σ	Fe/Zr X <sub>av</sub> ±σ	Rb/Zr X <sub>av</sub> ±σ	Sr/Zr X <sub>av</sub> ±σ	Y/Zr X <sub>av</sub> ±σ
興空	部	31	0.070±0.021	174.08±124.9	16.990±13.44	0.668±0.435	1.801±1.434
知	A 1	42	0.124±0.058	3.309±1.295	0.353±0.101	12.485±3.306	0.032±0.045
空	A 2	46	0.039±0.007	25.866±11.50	1.023±0.499	7.433±4.531	0.378±0.198
空	B	47	0.460±0.055	2.137±0.274	0.974±0.110	0.190±0.082	0.137±0.022
猿	八岐谷	36	0.384±0.153	1.860±1.070	0.590±0.185	0.139±0.127	0.165±0.138
土	玉	51	0.096±0.025	43.067±23.28	4.056±2.545	0.271±0.308	0.159±0.180
花	山 1	27	0.151±0.020	6.190±1.059	0.940±0.205	0.192±0.170	0.158±0.075
仙	山 2	27	0.225±0.028	10.633±3.616	2.345±0.693	0.476±0.192	0.098±0.052
山	入	33	0.219±0.028	12.677±2.988	2.723±0.519	0.472±0.164	0.132±0.071
花	細	8	0.073±0.020	12.884±3.752	0.882±0.201	1.879±0.650	0.026±0.032
二	侯	4	0.338±0.039	1.495±0.734	0.481±0.176	0.697±0.051	0.088±0.015
石	戸	4	0.170±0.079	7.242±1.597	1.142±0.315	0.649±0.158	0.247±0.092
茂	地	4	0.190±0.052	5.566±1.549	0.980±0.044	0.300±0.032	0.171±0.051
川	川	4	0.190±0.052	5.566±1.549	0.980±0.044	0.300±0.032	0.171±0.051
ケ	マ	44	0.096±0.007	5.720±0.608	0.543±0.034	0.489±0.184	0.146±0.027

原群	石名	分析個数	Mn/Fe X <sub>av</sub> ±σ	Ti/Fe X <sub>av</sub> ±σ	Nb/Zr X <sub>av</sub> ±σ	比重 X <sub>av</sub> ±σ
興空	部	31	0.004±0.003	0.001±0.001	0.455±0.855	2.626±0.032
知	A 1	42	0.028±0.009	0.020±0.005	0.007±0.010	2.495±0.039
空	A 2	46	0.009±0.003	0.006±0.002	0.118±0.167	2.632±0.012
空	B	47	0.015±0.002	0.022±0.004	0.134±0.024	2.607±0.001
猿	八岐谷	36	0.003±0.001	0.018±0.010	0.032±0.014	2.543±0.049
土	玉	51	0.001±0.001	0.001±0.001	0.072±0.160	2.607±0.009
花	山 1	27	0.006±0.003	0.016±0.003	0.054±0.021	2.619±0.014
仙	山 2	27	0.001±0.001	0.009±0.002	0.042±0.034	2.570±0.044
山	入	33	0.001±0.001	0.009±0.004	0.035±0.025	2.308±0.079
花	細	8	0.003±0.002	0.008±0.002	0.021±0.344	2.169±0.039
二	侯	4	0.007±0.002	0.043±0.010	0.043±0.023	2.440±0.091
石	戸	4	0.007±0.001	0.009±0.002	0.227±0.089	2.598±0.008
茂	地	4	0.003±0.008	0.016±0.001	0.132±0.069	2.536±0.033
川	川	4	0.003±0.001	0.009±0.001	0.035±0.018	2.287±0.013
ケ	マ	44	0.003±0.001	0.009±0.001	0.035±0.018	2.287±0.013

X<sub>av</sub>: 平均値、σ: 標準偏差値

いはみられない。したがって、統計処理は一緒に行い、花仙山群として取り扱った。原石群とは異なるが、例えば、豊岡市女代南遺跡で主体的に使用されている原石産地不明の碧玉製玉の原材料で、玉作り工程途中の遺物が多数出土している。当初、原石産地を探索するという目的で、これら玉、玉材遺物で作った女代南B(女代B)群であるが、同質の材料で作られた可能性がある玉類は最近の分析結果で日本全土に分布していることが明らかになってきた。宇木汲田遺跡の管玉に産地未発見の原石を使用した同質の材料で作られた管玉で作った未定C(未定(C))群をそれぞれ原石群と同じように使用する。また、岐阜県可児市の長塚古墳出土の管玉で作った長塚(1)、(2)の遺物群、多摩ニュータウン遺跡、梅田古墳群、上ノ段遺跡、梅田東古墳群、新方遺跡などから出土した玉類および玉材剥片でそれぞれ遺物群を作り、他の遺跡・墳墓から出土する玉類に組成が一致するか定量的に判定できるようにし、遺物群を付表1-2に示した。このほか、鳥取

付表1-2 各原石産地不明碧玉玉類、玉材の遺物群の元素比の平均値と標準偏差値

遺物群名	分析回数	Al / Si X <sub>av</sub> ± σ	K / Si X <sub>av</sub> ± σ	Ca / K X <sub>av</sub> ± σ	Ti / K X <sub>av</sub> ± σ	K / Fe X <sub>av</sub> ± σ
女代南 B	68	0.045 ± 0.016	3.115 ± 0.445	0.042 ± 0.024	0.107 ± 0.036	0.283 ± 0.099
未定 C	58	0.030 ± 0.028	4.416 ± 0.618	0.013 ± 0.013	0.207 ± 0.034	0.589 ± 0.130
車塚 1	33	0.030 ± 0.015	3.774 ± 0.404	0.015 ± 0.005	0.278 ± 0.043	0.334 ± 0.031
車塚 2	45	0.035 ± 0.015	4.066 ± 0.618	0.012 ± 0.004	0.232 ± 0.025	0.544 ± 0.118
牟田辺	58	0.082 ± 0.042	3.327 ± 0.450	0.853 ± 0.213	0.913 ± 0.178	0.091 ± 0.019
長塚 (1)	47	0.036 ± 0.004	3.525 ± 0.347	0.033 ± 0.005	0.439 ± 0.050	0.204 ± 0.037
長塚 (2)	45	0.028 ± 0.007	2.659 ± 0.122	0.010 ± 0.004	0.064 ± 0.003	0.719 ± 0.065
No.200-1	32	0.042 ± 0.004	0.808 ± 0.025	3.588 ± 0.074	0.639 ± 0.016	0.051 ± 0.002
No.200-2	28	0.037 ± 0.004	0.990 ± 0.021	2.384 ± 0.067	0.605 ± 0.029	0.064 ± 0.003
No.200-3	28	0.039 ± 0.003	0.926 ± 0.020	2.527 ± 0.114	1.085 ± 0.059	0.053 ± 0.002
No.200-4	32	0.047 ± 0.007	0.855 ± 0.025	3.771 ± 0.079	1.228 ± 0.035	0.057 ± 0.003
No.200-6	32	0.040 ± 0.006	4.185 ± 0.162	0.031 ± 0.006	0.103 ± 0.003	0.261 ± 0.019
梅田 1	40	0.021 ± 0.003	1.204 ± 0.094	0.066 ± 0.017	0.143 ± 0.008	0.065 ± 0.005
梅田 2	44	0.032 ± 0.004	2.539 ± 0.246	0.025 ± 0.006	0.522 ± 0.050	0.172 ± 0.035
梅田 3	40	0.027 ± 0.003	1.911 ± 0.062	0.020 ± 0.007	0.518 ± 0.010	0.261 ± 0.012
梅田 4	38	0.081 ± 0.008	7.149 ± 0.288	0.023 ± 0.003	0.082 ± 0.002	0.558 ± 0.020
上ノ段 1	42	0.014 ± 0.002	0.413 ± 0.046	0.054 ± 0.026	0.395 ± 0.040	0.053 ± 0.005
梅田 1	51	0.030 ± 0.007	1.974 ± 0.317	0.026 ± 0.011	0.529 ± 0.061	0.192 ± 0.011
新方 1	67	0.062 ± 0.005	1.868 ± 0.115	1.640 ± 0.137	0.733 ± 0.069	0.078 ± 0.012
新方 2	30	0.056 ± 0.005	4.152 ± 0.162	0.226 ± 0.181	0.313 ± 0.010	0.212 ± 0.019
新方 3	39	0.044 ± 0.008	0.912 ± 0.178	2.416 ± 0.174	0.786 ± 0.267	0.080 ± 0.011
新井 1	51	0.046 ± 0.004	3.875 ± 0.879	0.316 ± 0.009	0.234 ± 0.004	0.146 ± 0.018
新井 3	41	0.112 ± 0.010	3.879 ± 0.431	0.122 ± 0.022	0.668 ± 0.030	0.034 ± 0.004
東船 2	40	0.118 ± 0.001	0.466 ± 0.010	0.376 ± 0.009	0.108 ± 0.004	0.020 ± 0.001
山ノ奥 1	42	0.013 ± 0.002	0.608 ± 0.049	0.080 ± 0.015	0.355 ± 0.018	0.136 ± 0.011
昼飯 3	48	0.028 ± 0.005	2.002 ± 0.046	0.020 ± 0.010	0.442 ± 0.015	0.169 ± 0.009
昼飯 4	48	0.030 ± 0.005	2.078 ± 0.122	0.040 ± 0.018	0.702 ± 0.032	0.132 ± 0.008
斎当坊 6	45	0.045 ± 0.004	3.512 ± 0.108	0.038 ± 0.004	0.090 ± 0.003	0.839 ± 0.059

遺物群名	分析回数	Rb / Fe X <sub>av</sub> ± σ	Fe / Zr X <sub>av</sub> ± σ	Rb / Zr X <sub>av</sub> ± σ	Sr / Zr X <sub>av</sub> ± σ	Y / Zr X <sub>av</sub> ± σ
女代南 B	68	0.267 ± 0.063	2.374 ± 0.676	0.595 ± 0.065	0.214 ± 0.097	0.171 ± 0.047
未定 C	58	0.650 ± 0.113	0.583 ± 0.110	0.369 ± 0.035	0.090 ± 0.030	0.070 ± 0.026
車塚 1	33	0.469 ± 0.030	0.782 ± 0.071	0.365 ± 0.016	0.071 ± 0.012	0.090 ± 0.060
車塚 2	45	0.672 ± 0.112	0.540 ± 0.122	0.350 ± 0.036	0.070 ± 0.280	0.057 ± 0.019
牟田辺	58	0.161 ± 0.018	1.342 ± 0.160	0.214 ± 0.026	2.140 ± 0.412	0.064 ± 0.024
長塚 (1)	47	0.361 ± 0.040	2.756 ± 0.473	0.980 ± 0.110	0.472 ± 0.083	0.379 ± 0.143
長塚 (2)	45	0.832 ± 0.054	0.412 ± 0.038	0.341 ± 0.023	0.036 ± 0.010	0.386 ± 0.242
No.200-1	32	0.042 ± 0.006	1.751 ± 0.149	0.073 ± 0.016	4.665 ± 0.374	0.239 ± 0.026
No.200-2	28	0.072 ± 0.011	1.422 ± 0.075	0.102 ± 0.015	6.680 ± 0.322	0.170 ± 0.017
No.200-3	28	0.053 ± 0.009	1.668 ± 0.093	0.088 ± 0.015	4.455 ± 0.197	0.343 ± 0.031
No.200-4	32	0.118 ± 0.023	1.110 ± 0.129	0.130 ± 0.030	9.626 ± 1.090	0.117 ± 0.025
No.200-6	32	0.692 ± 0.040	0.646 ± 0.037	0.447 ± 0.025	0.207 ± 0.020	0.296 ± 0.026
梅田 1	40	0.220 ± 0.029	12.333 ± 0.882	2.710 ± 0.421	0.273 ± 0.374	0.741 ± 0.134
梅田 2	44	0.299 ± 0.051	3.517 ± 0.603	2.024 ± 0.053	0.316 ± 0.048	0.283 ± 0.066
梅田 3	40	0.430 ± 0.017	3.262 ± 0.209	1.401 ± 0.057	0.338 ± 0.028	0.386 ± 0.048
梅田 4	38	0.473 ± 0.026	1.003 ± 0.046	0.473 ± 0.018	0.222 ± 0.032	0.100 ± 0.013
上ノ段 1	42	0.223 ± 0.020	3.772 ± 0.448	0.833 ± 0.068	0.077 ± 0.037	0.296 ± 0.053
梅田 1	51	0.219 ± 0.019	2.366 ± 0.474	0.512 ± 0.069	0.072 ± 0.024	0.101 ± 0.042
新方 1	67	0.111 ± 0.205	1.610 ± 0.264	0.175 ± 0.018	8.298 ± 0.619	0.078 ± 0.019
新方 2	30	0.297 ± 0.018	3.847 ± 0.314	1.137 ± 0.057	0.649 ± 0.095	0.139 ± 0.053
新方 3	39	0.086 ± 0.018	1.685 ± 0.413	0.144 ± 0.050	7.449 ± 1.605	0.182 ± 0.056
新井 1	51	0.255 ± 0.021	1.874 ± 0.168	0.476 ± 0.020	1.994 ± 0.080	0.077 ± 0.022
新井 3	41	0.073 ± 0.011	9.768 ± 0.951	0.706 ± 0.062	0.117 ± 0.011	0.126 ± 0.022
東船 2	40	0.087 ± 0.004	48.841 ± 6.946	4.250 ± 0.538	0.756 ± 0.136	0.056 ± 0.074
山ノ奥 1H	42	0.278 ± 0.025	1.052 ± 0.082	0.291 ± 0.015	0.083 ± 0.010	0.142 ± 0.015
昼飯 3	48	0.290 ± 0.014	0.967 ± 0.040	0.280 ± 0.010	0.052 ± 0.007	0.062 ± 0.010
昼飯 4	48	0.263 ± 0.009	3.774 ± 0.170	0.991 ± 0.049	0.227 ± 0.035	0.145 ± 0.048
斎当坊 6	45	0.618 ± 0.047	0.849 ± 0.074	0.522 ± 0.020	0.181 ± 0.011	0.984 ± 0.219

県の福部村多鯰池、鳥取市防己尾岬などの自然露頭からの原石を4個分析した。比重は2.6以上あり元素比組成は、興部、玉谷、土岐石に似るが、他の原産地の原石とは組成で区別される。また、緑系の原石ではない。最近、兵庫県香住町の海岸から採取された親指大1個の碧玉様の玉材は貝殻状剥離がみられる緻密な石質で少し青っぽい緑の石材で玉の原材料になると思われる。この玉材の蛍光X線分析の結果では、興部産碧玉に似ているが、ESR信号および比重(2.35)が異なっているため、興部産碧玉と区別ができる。

付表1-3 各原石産地不明碧玉玉類、玉材の遺物群の元素比の平均値と標準偏差値

遺物名	分析回数	Mn/Fe X <sub>av</sub> ±σ	Ti/Fe X <sub>av</sub> ±σ	Nb/Zr X <sub>av</sub> ±σ	比重 X <sub>av</sub> ±σ
女代南B	68	0.011±0.004	0.026±0.009	0.034±0.016	2.554±0.019
未定C	58	0.002±0.001	0.101±0.019	0.019±0.016	2.646±0.023
車塚1	33	0.002±0.001	0.081±0.013	0.033±0.013	2.619±0.019
車塚2	45	0.002±0.001	0.109±0.023	0.028±0.013	2.616±0.019
牟田辺	58	0.008±0.003	0.067±0.008	0.018±0.010	2.1~
長塚(1)	47	0.005±0.001	0.094±0.013	0.022±0.016	2.533±0.016
長塚(2)	45	0.004±0.001	0.047±0.004	0.024±0.013	2.569±0.003
No.200-1	32	0.006±0.001	0.033±0.001	0.006±0.009	2.308
長塚(1)	47	0.005±0.001	0.094±0.013	0.022±0.016	2.533±0.016
No.200-2	28	0.008±0.001	0.038±0.002	0.006±0.010	2.277
No.200-3	28	0.014±0.003	0.058±0.003	0.002±0.005	2.270
No.200-4	32	0.005±0.001	0.068±0.002	0.006±0.008	2.256
No.200-6	32	0.011±0.002	0.082±0.003	0.038±0.026	2.542
梅田1	40	0.001±0.000	0.009±0.001	0.014±0.019	2.579±0.013
梅田2	44	0.005±0.001	0.080±0.011	0.035±0.015	2.531±0.007
梅田3	40	0.005±0.001	0.121±0.005	0.033±0.027	2.511
梅田4	38	0.006±0.001	0.039±0.002	0.039±0.010	2.446
上ノ段1	42	0.006±0.001	0.019±0.001	0.014±0.018	2.636±0.001
梅田東1	51	0.008±0.001	0.095±0.014	0.027±0.018	2.541±0.016
新方1	67	0.050±0.020	0.046±0.006	0.027±0.009	2.290±0.018
新方2	30	0.010±0.003	0.061±0.004	0.032±0.017	2.546±0.011
新方3	39	0.068±0.027	0.057±0.013	0.007±0.007	2.257±0.024
新井1	51	0.084±0.001	0.035±0.001	0.021±0.011	2.482
新井3	41	0.005±0.001	0.022±0.002	0.094±0.020	2.530±0.054
東船2	40	0.001±0.000	0.002±0.000	0.115±0.058	2.190 吸水
山ノ奥1	42	0.010±0.001	0.045±0.002	0.027±0.016	2.461
昼飯3	48	0.002±0.001	0.070±0.002	0.035±0.010	2.501
昼飯4	48	0.005±0.001	0.083±0.002	0.035±0.015	2.579
斉当坊6	45	0.015±0.001	0.070±0.004	0.030±0.033	2.554

X<sub>av</sub>: 平均値、σ: 標準偏差値 比重2.29以下は緑色凝灰岩  
 女代南B: 女代南遺跡(豊岡市)、未定C: 宇木汲田遺跡(唐津市)、車塚1,2: 車塚古墳(交野市)、  
 牟田辺: 牟田辺遺跡(多久市)、長塚(1),(2): 長塚古墳(可児市)、No.200-1~6:  
 多摩ニュータウン遺跡(東京都)、梅田1~4: 梅田古墳(兵庫県和田山町)、梅田東1: 梅田東古墳  
 (兵庫県和田山町)、上ノ段1: 上ノ段遺跡(兵庫県島町)、新方1~3: 新方遺跡(神戸市)、  
 新井1: 新井三丁目遺跡(東京都中野区)、亀川3: 亀川遺跡(阪南市自然田)、東船1: 東船遺跡  
 (島根県今津町)、山ノ奥1: 山ノ奥遺跡(岡山県)、昼飯3,4: 昼飯大塚古墳(大垣市)、  
 斉当坊6: 市田斉当坊(京都府久御山町)で使用されている原石産地不明の玉類で作った群。

### 5. 市田斉当坊遺跡出土の碧玉玉材と国内産碧玉原材との比較

遺跡から出土した玉材は表面の泥を超音波洗浄器で水洗するだけの完全な非破壊分析で行っている。遺物の原材産地の同定をするために、(1)蛍光X線法で求めた原石群と碧玉製遺物の分析結果を数理統計の手法を用いて比較をする定量的な判定法で行う。(2)また、ESR分析法により各産地の原石の信号と遺物のそれを比較して、似た信号の原石産地の原材であると推測する方法も応用した。

### 6. 蛍光X線法による産地分析

これら玉類の比重および管玉の蛍光X線分析から原材料の元素組成比を求めた結果のみを付表2に示す。碧玉と分類した遺物は、緻密で、蛍光X線分析でRb、Sr、Y、Zrの各元素が容易に観測できるなどを条件に分類した。また、グリーンタフ製は比重が2.4に達しない玉材が多い。これら遺物の元素組成比の結果を碧玉原石群(付表1)の結果と比較してみる。分析個数が少なく統計処理ができる群が作れなかった産地については、原石の元素組成比を今回分析した遺物と比較したが一致するものはみられなかった。原石の数が多く分析された原産地については、数理統計のマハラノビスの距離を求めて行うホテリングT<sup>2</sup>乗検定6により同定を行ったところ、分析番号86266~86270・86272~86275・86238~86250・86252・86253・86255・86257~86261番の30

付表2-1 市田齊当坊遺跡出土玉材の分析結果

分析 番号	元 素 比							
	Al/Si	K/Si	Ca/K	Ti/K	K/Fe	Rb/Fe	Fe/Zr	Rb/Zr
86266	0.039	3.079	0.035	0.152	0.176	0.214	3.137	0.672
86267	0.039	2.942	0.036	0.113	0.260	0.254	2.075	0.526
86268	0.046	3.303	0.022	0.117	0.350	0.416	1.415	0.589
86269	0.045	3.267	0.018	0.113	0.258	0.323	2.189	0.707
86270	0.042	3.398	0.027	0.111	0.302	0.317	1.561	0.495
86271	0.045	3.391	0.027	0.091	0.705	0.621	0.885	0.550
86272	0.047	3.633	0.037	0.104	0.380	0.348	1.464	0.509
86273	0.047	3.131	0.030	0.102	0.296	0.285	1.987	0.566
86274	0.037	2.418	0.019	0.102	0.312	0.317	1.662	0.528
86275	0.026	2.573	0.068	0.137	0.167	0.244	2.709	0.662
86238	0.045	3.671	0.019	0.109	0.305	0.392	1.780	0.698
86239	0.039	3.075	0.024	0.102	0.309	0.283	1.982	0.561
86240	0.045	3.334	0.007	0.112	0.370	0.382	1.677	0.640
86241	0.038	2.646	0.034	0.102	0.388	0.354	1.527	0.541
86242	0.050	3.191	0.029	0.073	0.653	0.507	1.196	0.607
86243	0.043	3.335	0.018	0.112	0.335	0.268	2.239	0.600
86244	0.056	3.456	0.013	0.094	0.485	0.382	1.414	0.540
86245	0.040	2.476	0.003	0.100	0.319	0.234	2.751	0.644
86246	0.047	2.724	0.012	0.100	0.382	0.340	1.682	0.572
86247	0.048	3.566	0.014	0.105	0.342	0.330	2.132	0.704
86248	0.078	3.764	0.026	0.127	0.306	0.379	1.549	0.587
86249	0.047	4.126	0.027	0.078	0.469	0.383	1.460	0.559
86250	0.051	3.328	0.018	0.101	0.298	0.289	1.869	0.540
86251	0.055	4.154	0.026	0.091	0.629	0.537	0.981	0.527
86252	0.070	4.095	0.035	0.079	0.346	0.334	1.595	0.533
86253	0.043	3.744	0.024	0.101	0.460	0.405	1.159	0.469
86254	0.045	3.617	0.031	0.098	0.789	0.560	0.969	0.542
86255	0.052	3.177	0.049	0.111	0.527	0.456	1.034	0.472
86256	0.046	3.257	0.030	0.123	0.130	0.173	4.583	0.794
86257	0.046	3.619	0.022	0.109	0.362	0.343	2.033	0.698
86258	0.047	3.127	0.017	0.119	0.245	0.262	2.389	0.625
86259	0.041	3.343	0.008	0.110	0.197	0.177	3.864	0.685
86260	0.039	3.332	0.035	0.113	0.302	0.280	2.298	0.644
86261	0.039	3.100	0.025	0.105	0.275	0.221	2.755	0.610
86262	0.038	2.681	0.020	0.101	0.354	0.328	1.635	0.536
86263	0.035	2.620	0.029	0.144	0.172	0.275	2.614	0.719
JG-1 <sup>a)</sup>	0.067	3.392	0.774	0.237	0.111	0.263	3.795	0.998

個は女代南B遺物群に信頼限界の0.1%以上で帰属され、女代南B遺物群と判定する必要条件は求められた。次に十分条件である他の全ての原石・遺物群(付表1)について、信頼限界の0.1%に達しないなど、一致しないことを全ての群について証明しているが、紙幅の都合上、付表3には原石・遺物群(付表1)の中から高確率で同定された原石・遺物群を抜粋して示した。例示する

付表2-2 市田齊当坊遺跡出土玉材の分析結果

分析 番号	元 素 比					重 量 gr	比 重
	Sr/Zr	Y/Zr	Mn/Fe	Ti/Fe	Nb/Zr		
86266	0.106	0.169	0.010	0.025	0.022	38.65780	2.499
86267	0.176	0.168	0.008	0.029	0.047	12.83799	2.578
86268	0.069	0.132	0.008	0.039	0.024	7.03597	2.553
86269	0.096	0.155	0.008	0.027	0.014	1.37934	2.568
86270	0.123	0.233	0.010	0.032	0.024	0.95001	2.575
86271	0.199	0.647	0.017	0.062	0.010	0.95967	2.554
86272	0.145	0.261	0.016	0.037	0.035	0.98532	2.522
86273	0.120	0.200	0.010	0.028	0.040	0.86828	2.558
86274	0.089	0.157	0.009	0.029	0.048	0.62887	2.581
86275	0.224	0.138	0.010	0.021	0.016	0.05036	2.572
86238	0.088	0.150	0.013	0.031	0.025	0.47285	2.561
86239	0.134	0.193	0.015	0.030	0.021	0.11036	2.579
86240	0.074	0.156	0.015	0.038	0.030	0.27180	2.552
86241	0.166	0.152	0.014	0.036	0.020	0.18037	2.572
86242	0.194	0.184	0.016	0.045	0.032	0.08748	2.490
86243	0.148	0.286	0.019	0.035	0.021	0.04439	2.467
86244	0.173	0.176	0.016	0.043	0.028	0.04099	2.446
86245	0.085	0.177	0.012	0.028	0.022	0.03018	2.505
86246	0.160	0.172	0.016	0.035	0.044	0.03044	2.503
86247	0.083	0.194	0.009	0.033	0.035	0.02461	2.522
86248	0.097	0.161	0.019	0.036	0.044	-0.52521	2.546
86249	0.168	0.298	0.011	0.034	0.067	0.09946	2.481
86250	0.154	0.249	0.014	0.029	0.000	0.06842	2.465
86251	0.152	0.303	0.013	0.052	0.045	0.17116	2.503
86252	0.121	0.255	0.020	0.027	0.038	0.12975	2.489
86253	0.140	0.224	0.026	0.043	0.054	0.16118	2.495
86254	0.187	0.199	0.030	0.069	0.031	0.03986	2.436
86255	0.211	0.301	0.024	0.052	0.051	0.02879	2.450
86256	0.138	0.301	0.020	0.015	0.024	0.23535	2.566
86257	0.077	0.127	0.012	0.036	0.071	0.06735	2.501
86258	0.132	0.138	0.012	0.028	0.027	0.07643	2.541
86259	0.076	0.324	0.018	0.020	0.011	0.08508	2.573
86260	0.083	0.155	0.016	0.031	0.032	0.02747	2.358
86261	0.131	0.169	0.014	0.028	0.025	0.04746	2.516
86262	0.083	0.163	0.014	0.034	0.013	0.07577	2.501
86263	0.108	0.149	0.019	0.023	0.038	0.07425	2.538
JG-1 <sup>a)</sup>	1.345	0.281	0.024	0.024	0.079		

a): 標準試料、Ando, A., Kurasawa, H., Ohmori, T. & Takeda, E. (1974).  
 1974 compilation of data on the GJS geochemical reference  
 samples JG-1 granodiorite and JB-1 basalt.  
*Geochemical Journal*, Vol.8 175-192.

付表3 市田齊当坊遺跡出土玉材の原産地分析結果

分析番号	通番	出土遺構	実測番号	石器名	原石産地(確率)	ESR信号形	総合判定
86266	1	HSC451	16-90	素材石核	女代南B(90%)	遺物過大	女代南B遺物群?
86267	2	HSC451	15-80	素材石核	女代南B(89%)	遺物過大	女代南B遺物群?
86268	3	HSC451	15-82	素材石核	女代南B(0.4%)	遺物過大	女代南B遺物群?
86269	4	HSC451	16-83	角柱体	女代南B(19%)	不明	
86270	5	HSC451	14-69	角柱体	女代南B(16%)	女代南B形	女代南B遺物群
86271	6	HSC451	14-70	角柱体	市田齊当坊6遺物群(8%)	女代南B形	女代南B遺物群
86272	7	HSC451	14-68	角柱体	女代南B(19%),那谷(5%)	女代南B形	女代南B遺物群
86273	8	HSC451	16-87	角柱体	女代南B(94%)	女代南B形	女代南B遺物群
86274	9	HSC451	15-76	角柱体	女代南B(36%)	女代南B形	女代南B遺物群
86275	10	HSC451	13-63	管玉未製品	女代南B(32%)	女代南B形	女代南B遺物群
86238	1	HSC451		素材剥片	女代南B(0.4%),那谷(0.4%)	女代南B形	女代南B遺物群
86239	2	HSC451		素材剥片	女代南B(99%),猿八(0.3%)	女代南B形	女代南B遺物群
86240	3	HSC451		素材剥片	女代南B(18%)	女代南B形	女代南B遺物群
86241	4	HSC451		素材剥片	女代南B(88%),猿八(0.3%)	女代南B形	女代南B遺物群
86242	5	HSC451		素材剥片	女代南B(0.1%)	女代南B形	女代南B遺物群
86243	6	HSC451		素材剥片	女代南B(36%)	齊当坊	女代南B遺物群
86244	7	HSC451		素材剥片	女代南B(35%),那谷(0.6%)	女代南B形	女代南B遺物群
86245	8	HSC451		素材剥片	女代南B(16%)	女代南B形	女代南B遺物群
86246	9	HSC451		素材剥片	女代南B(82%)	女代南B形	女代南B遺物群
86247	10	HSC451		素材剥片	女代南B(20%)	女代南B形	女代南B遺物群
86248	11	HSC451		素材剥片	女代南B(0.2%)	遺物過大	女代南B遺物群?
86249	12	HSC451		素材剥片	女代南B(5%),猿八(0.5%)	女代南B形	女代南B遺物群
86250	13	HSC451		素材剥片	女代南B(74%)	女代南B形	女代南B遺物群
86251	14	HSC451		素材剥片		女代南B形	女代南B遺物群
86252	15	HSC451		素材剥片	女代南B(2%)	女代南B形	女代南B遺物群
86253	16	HSC451		素材剥片	女代南B(6%),那谷(4%)	女代南B形	女代南B遺物群
86254	17	HSC451		素材剥片		女代南B形	女代南B遺物群
86255	18	HSC451		素材剥片	女代南B(0.5%)	女代南B形	女代南B遺物群
86256	19	HSC451		素材剥片		齊当坊	
86257	20	HSC451		素材剥片	女代南B(16%)	齊当坊	
86258	21	HSC451		素材剥片	女代南B(96%)	女代南B形	女代南B遺物群
86259	22	HSC451		素材剥片	女代南B(0.1%)	齊当坊	女代南B遺物群
86260	23	HSC451		素材剥片	女代南B(78%)	女代南B形	女代南B遺物群
86261	24	HSC451		素材剥片	女代南B(95%),猿八(0.1%)	齊当坊	
86262	25	HSC451		素材剥片	女代南B(75%),那谷(0.2%),猿八(0.2%)	齊当坊	
86263	26	HSC451		素材剥片	女代南B(11%)	齊当坊	

ように玉谷、花仙山、未定C、猿八、土岐の各群に一致する玉材はみられず十分条件が満たされている。したがって、これら玉材は女代南B遺物群と同質の管玉であることを、必要条件、十分条件を満たして客観的に証明されている。また、分析番号86271番は玉材も大きく、蛍光X線の分析精度も高いが、何処の産地にも高確率で同定された産地はみられず、佐渡・猿八群に信頼限界の0.1%で同定されているが、猿八産原石ではなく、他の原石産地も推測されることから、この玉材の分析場所を変えて45回分析し、齊当坊6遺物群を作り、この玉材と同じ岩塊で作られた兄弟玉類が他の遺跡で使用されているときに判定できるように、新しく原石・遺物群(付表1)に登録した。元素分析で女代南B群と同定された玉材を、より正確に産地を特定するためにESR分析を併用して総合的に産地分析を行った。

#### 7. ESR法による産地分析(抄)

ESR分析は碧玉原石に含有されているイオンとか、碧玉が自然界からの放射線を受けてできた色中心などの常磁性種を分析し、その信号から碧玉産地間を区別する指標を見つけて、産地分析に利用するものである。ESRの測定は、完全な非破壊分析で、直径が1.1mm以下の管玉なら分析は可能で、小さいものは胡麻粒大で分析ができる場合がある。ESRスペクトルが一致した原石産地および遺物群に玉材の原産地を特定するが、より正確な原石産地を推測するために蛍光

X線分析の結果と組み合わせ総合判定として、両方法でともに同じ原産地に特定された場合は、蛍光X線の元素分析のみで判定した原石・遺物群産地よりも正確に、その原石・遺物群と同じものが使用されているとして総合判定原石産地の欄に結果(付表3)を記した。

## 8. 結論

分析した玉材の比重は2.4~2.5を示し碧玉と推測して矛盾ない。分析番号86266~86270・86272~86275・86238~86250・86252・86253・86255・86257~86261番の20個は蛍光X線分析で女代南B遺物群に同定されている。これら玉材の中でESR分析でも女代南B形と同定された玉材は分析番号86238~86242・86244~86247・86249~86255・86258・86260・86270~86275番の24個で、この玉材の原石産地は女代南B遺物群と同じ産地と判定した。蛍光X線分析で女代南B遺物群でESR信号(Ⅲ)が斉当坊形の分析番号86243・86257・86259・86261番は同じ玉材からできた兄弟剥片の可能性もある。分析番号86271番の斉当坊6遺物群は佐渡・猿八群に似ていて、ESR信号が女代南B形で、この遺物の原石産地が女代南B遺物群か、猿八か特定できなかった。また、分析番号86266~86268・86248番の4個の玉材は、ESR分析ができなかったため、女代南B形か斉当坊形か不明で、厳密な判定とはいえないが、蛍光X線分析で女代南B遺物群に同定されているため、女代南B遺物群の可能性ありとして?を付けて判定した。

市田斉当坊遺跡で使用されている女代南B群は弥生時代を中心に使用された原石で、豊岡市女代南遺跡の中期の玉作り過程の石片、滋賀県の筑摩佃、立花遺跡出土の管玉、神戸市玉津田中遺跡の中期の石片、管玉には玉谷産とともに使用されていた。玉谷産碧玉は、京都府の余部遺跡で剥片が出土している。関東地方では埼玉県蓮田市宿下遺跡、東海地方では、清洲町朝日遺跡、新城市大宮大ノ木遺跡の弥生時代の管玉に、畿内地域では東大阪市の鬼虎川、巨摩、亀井、久宝寺北、久宝寺南遺跡で、また中国地方では、作用町の長尾・沖田遺跡の中期末の管玉、総社市南溝手遺跡出土の弥生前期末~中期初頭の玉材、岡山市の百間川原尾島遺跡出土の管玉、岡山県川上村下郷原和田遺跡の管玉、鳥取県羽合町長瀬高浜遺跡の中期中葉の管玉、米子市の御建山遺跡尾高19号墳第2主体部出土の管玉、東広島市の西本6号遺跡の管玉に使用されている。四国地方では徳島県板野町の蓮華谷古墳群2号墳、3世紀末の管玉、香川県善通寺市彼ノ宗遺跡の末期の管玉に使用され、九州地方では、多久市牟田辺遺跡の中期の管玉、また宇木汲田遺跡の管玉に使用されていた。また、続縄文時代には北海道の上磯町茂別遺跡、余市大川遺跡、千歳市キウス遺跡にまで伝播し、女代南B群の原石は糸魚川産ヒスイに匹敵する広い分布圏を示している。

一方、未だ畿内では使用が確認されていない管玉として、南溝手遺跡の中期前葉の管玉片には、唐津市の宇木汲田遺跡の管玉で作った原石群の未定C群の原石が使用され、この未定C群は坂出市の龍川・五条遺跡の管玉、今治市持田町3丁目遺跡の前期の管玉、大和町の尼寺一本松遺跡の管玉、多久市牟田辺遺跡の中期の管玉、吉野ヶ理遺跡の南西サブトレ出土の管玉に使用されている。また、猿八産原石が弥生時代に使用されている遺跡は、北海道余市町の大川遺跡および茂別遺跡の続縄文時代では女代南B群原石の管玉とともに使用され、江別市の大麻2.2遺跡出土の続

縄文(後北C 1式)の管玉に、七飯町の大中山13遺跡(続縄文)出土の管玉に使用され、佐渡島以北でおもに使用されていることが明らかになっている。

西日本では、鳥取県の高瀬長浜遺跡では女代南B群と同時に猿八産碧玉が使用されているにすぎない。これら佐渡産碧玉、女代南B群の剥片出土遺跡は、豊岡市、米原町、福井県など日本海側で、これら玉類が日本海の玉材原産地地方で作られ、この玉類の使用圏からみて、日本海を交易ルートとし遠距離に伝播したと推測され、伝播には遺跡をリレー式に伝わる場合、また、産地から遠距離の遺跡に直接到達する場合などが考えられる。未定C群は、最近の予備的な実験で朝日遺跡で使用されている可能性が推測されたことから、推測は空論になるが、未定C群の管玉が韓国で作られ、西北九州地方および瀬戸内海ルートを通して伊予、備前、讃岐へ流入し現在の東進の限界になっている。朝日遺跡での使用が確実になれば、播磨、摂津、大和、近江を飛び越え、尾張の朝日遺跡に伝播したことが明らかになり、東進の限界が一気に300kmも延びる可能性がでてくる(図2)。玉類の産地分析の困難さは原石の入手で、産地同定を定量的に行う場合、統計処理の母集団(原石群)を作り、原石群の組成の変動を評価するため多数の原石が必要で、今後、佐渡島猿八産原石が佐渡島以南に本当に伝播していないかを調査し、女代南B群、未定C群、不明の管玉などの原石産地を明らかにし、これら不明の原石群を作ること、また、玉類に使用されている産地の原石が多い方が、その産地地方との文化交流が強いと推測できることから、日本各地の遺跡から出土する貴重な管玉を数多く分析することが重要で、是非とも各地の遺跡の詳細な碧玉製遺物の科学的調査が必要である。

注1 茅原一也「長者ヶ原遺跡産のヒスイ(翡翠)について(概報)」(『長者ヶ原』新潟県糸魚川市教育委員会) 1964 pp.63-73.

注2 藁科哲男・東村武信「ヒスイの産地分析」(『富山市考古資料館紀要』6 富山市考古資料館) 1987 pp.1-18.

注3 藁科哲男・東村武信「奈良県内遺跡出土のヒスイ製玉類の産地分析」(『考古学論攷』橿原考古学研究所紀要14 奈良県立橿原考古学研究所) 1990 pp.95-109.

注4 藁科哲男・東村武信「石器原材の産地分析」(『考古学と自然科学』16 日本文化財科学会) 1983 pp.59-89.

注5 前掲注4文献

注6 Tetsuo Warashina, Allocation of Jasper Archeological Implements By Means of ESR and XRF, *Journal of Archaeological Science*, 19. 1992 pp.357-373.

注7 東村武信「産地推定における統計的手法」(『考古学と自然科学』9 日本文化財科学会) 1976 pp.77-90.

ESRの測定によって得られた分析成果および信号スペクトル線形図については、膨大な資料になることから紙幅の都合のため省略した。ご了承願いたい。全分析結果は、当調査研究センターにて保管している。



## 井戸出土木材による放射性炭素年代測定

## 1. はじめに

市田斉当坊遺跡より検出された木片および炭化材の加速器質量分析法(AMS法)による放射性炭素年代測定を実施した。

## 2. 試料と方法

試料は、S ED31東48から出土した木片1点、C調査区井戸S EC453井戸木枠底最下層から出土した炭化材1点、A調査区竪穴式住居跡S HA74から出土した炭化材1点の併せて3点である。これら試料は、酸・アルカリ・酸洗浄を施して不純物を除去し、石墨(グラファイト)に調整した後、加速器質量分析計(AMS)にて測定した。測定された $\delta^{13}\text{C}$ 濃度について同位体分別効果の補正を行った後、補正した $^{14}\text{C}$ 濃度を用いて $^{14}\text{C}$ 年代を算出した。

## 3. 結果

付表1に、各試料の同位体分別効果の補正值(基準値-25.0‰)、同位体分別効果による測定誤差を補正した $^{14}\text{C}$ 年代、 $^{14}\text{C}$ 年代を暦年代に較正した年代を示す。

$^{14}\text{C}$ 年代値(yrBP)の算出は、 $^{14}\text{C}$ の半減期としてLibbyの半減期5,568年を使用した。また、付記した $^{14}\text{C}$ 年代誤差( $\pm 1\sigma$ )は、計数値の標準偏差 $\sigma$ に基づいて算出し、標準偏差(One sigma)に相当する年代である。これは、試料の $^{14}\text{C}$ 年代が、その $^{14}\text{C}$ 年代誤差範囲内に入る確率が68%であることを意味する。

なお、暦年代較正の詳細は、以下の通りである。

付表1 放射性炭素年代測定および暦年代較正の結果

測定番号 (測定法)	試料データ	$\delta^{13}\text{C}_{\text{PDB}}$ (‰)	$^{14}\text{C}$ 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$ )	$^{14}\text{C}$ 年代を暦年代に較正した年代	
				暦年代較正值	1 $\sigma$ 暦年代範囲
PLD-1212 (AMS)	木片 SE31 東48	-28.1	2200 $\pm 30$	cal BC 350 cal BC 320 cal BC 230 cal BC 220 cal BC 205	cal BC 355 - 290 (61.8%) cal BC 235 - 200 (29.0%)
PLD-1213 (AMS)	炭化材 C-2地区 SE453 井戸枠底最下層	-22.0	2280 $\pm 30$	cal BC 385	cal BC 395 - 360 (71.8%) cal BC 275 - 260 (24.3%)
PLD-1214 (AMS)	炭化材 A-2地区 SH74	-28.0	2220 $\pm 30$	cal BC 355 cal BC 290 cal BC 255 cal BC 250 cal BC 230 cal BC 215	cal BC 360 - 350 (11.3%) cal BC 320 - 270 (42.9%) cal BC 260 - 230 (30.6%) cal BC 220 - 205 (15.3%)

#### 4. 暦年代較正

暦年代較正とは、大気中の<sup>14</sup>C濃度が一定で半減期が5,568年として算出された<sup>14</sup>C年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の<sup>14</sup>C濃度の変動、および半減期の違い(<sup>14</sup>Cの半減期5,730±40年)を較正し、より正確な年代を求めるために、<sup>14</sup>C年代を暦年代に変換することである。具体的には、年代既知の樹木年輪の詳細な測定値を用い、さらに珊瑚のU-Th年代と<sup>14</sup>C年代の比較、および海成堆積物中の縞状の堆積構造を用いて<sup>14</sup>C年代と暦年代の関係を調べたデータにより、較正曲線を作成し、これを用いて<sup>14</sup>C年代を暦年代に較正した年代を算出する。

<sup>14</sup>C年代を暦年代に較正した年代の算出にCALIB 4.3(CALIB 3.0のバージョンアップ版)を使用した。なお、暦年代較正值は<sup>14</sup>C年代値に対応する較正曲線上の暦年代値であり、1 $\sigma$ 暦年代範囲はプログラム中の確率法を使用して算出された<sup>14</sup>C年代誤差に相当する暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値はその1 $\sigma$ 暦年代範囲の確からしさを示す確率であり、10%未満についてはその表示を省略した。1 $\sigma$ 暦年代範囲のうち、その確からしさの確率が最も高い年代範囲については、表中に下線で示した。

#### 5. 考察

各試料は、同位体分別効果の補正および暦年代較正を行った。暦年代較正した1 $\sigma$ 暦年代範囲のうち、その確からしさの確率が最も高い年代範囲に注目すると、それぞれより確かな年代値の範囲として示された。

#### 参考文献

- 中村俊夫「放射性炭素年代測定法の基礎」(『日本先史時代の<sup>14</sup>C年代』 日本第四紀学会) 2000 pp.3-20.
- Stuiver, M. and Reimer, P.J. Extended <sup>14</sup>C Database and Revised CALIB3.0 <sup>14</sup>C Age Calibration Program, Radiocarbon, 35. 1993 pp.215-230.
- Stuiver, M., Reimer, P.J., Bard, E., Beck, J.W., Burr, G.S., Hughen, K.A., Kromer, B., McCormac, F.G., v.d.
- Plicht, J., and Spurk, M., INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration, 24,000-0 cal BP, Radiocarbon, 40. 1998 pp.1041-1083.

**補記** 本分析については、株式会社 パレオ・ラボに委託した。

## 井戸 S E C 4 5 3 における樹種同定

## 1. はじめに

木材は、セルロースを骨格とする木部細胞の集合体であり、解剖学的形質の特徴から概ね属レベルの同定が可能である。木材は花粉などの微化石と比較して移動性が少ないことから、比較的近隣の森林植生の推定が可能であり、遺跡から出土したものについては木材の利用状況や流通を探る手がかりとなる。

## 2. 試料

試料は、市田斉当坊遺跡で検出された井戸 S E C 4 5 3 より出土した井戸枿材 5 点である。

## 3. 方法

カミソリを用いて試料の新鮮な基本的三断面(木材の横断面、放射断面、接線断面)を作製し、生物顕微鏡によって60~600倍で観察した。同定は解剖学的形質および現生標本との対比によって行った。

## 4. 結果

結果を付表 1 に、各断面の顕微鏡写真を図に示す。以下に同定の根拠となった特徴を記す。

ヒノキ *Chamaecyparis obtusa* Endl. ヒノキ科(図 1 上段)

仮道管、樹脂細胞および放射柔細胞から構成される針葉樹材である。

横断面：早材から晩材への移行はゆるやかで、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞がみられる。

放射断面：放射柔細胞の分野壁孔は、ヒノキ型で 1 分野に 2 個存在するものがほとんどである。

接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型で、1~15細胞高である。

以上の形質よりヒノキに同定される。ヒノキは福島県以南の本州、四国、九州、屋久島に分布する。日本特産の常緑高木で、通常高さ40m、径1.5mに達する。材は木理通直、肌目緻密で強

付表 1 市田斉当坊遺跡における樹種同定結果

試料	結果 (学名/和名)
図版228-23 (縦東 5)	<i>Sapindus mukorossi</i> Gaertn./ ムクロジ
図版229-49 (縦西31)	<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis</i> / コナラ属アカガシ亜属
図版229-54 (南内横板)	<i>Celtis</i> / エノキ属
図版230-62 (枿板 1)	<i>Chamaecyparis obtusa</i> Endl./ ヒノキ
図版230-59 (東外横板上 3)	<i>Chamaecyparis obtusa</i> Endl./ ヒノキ

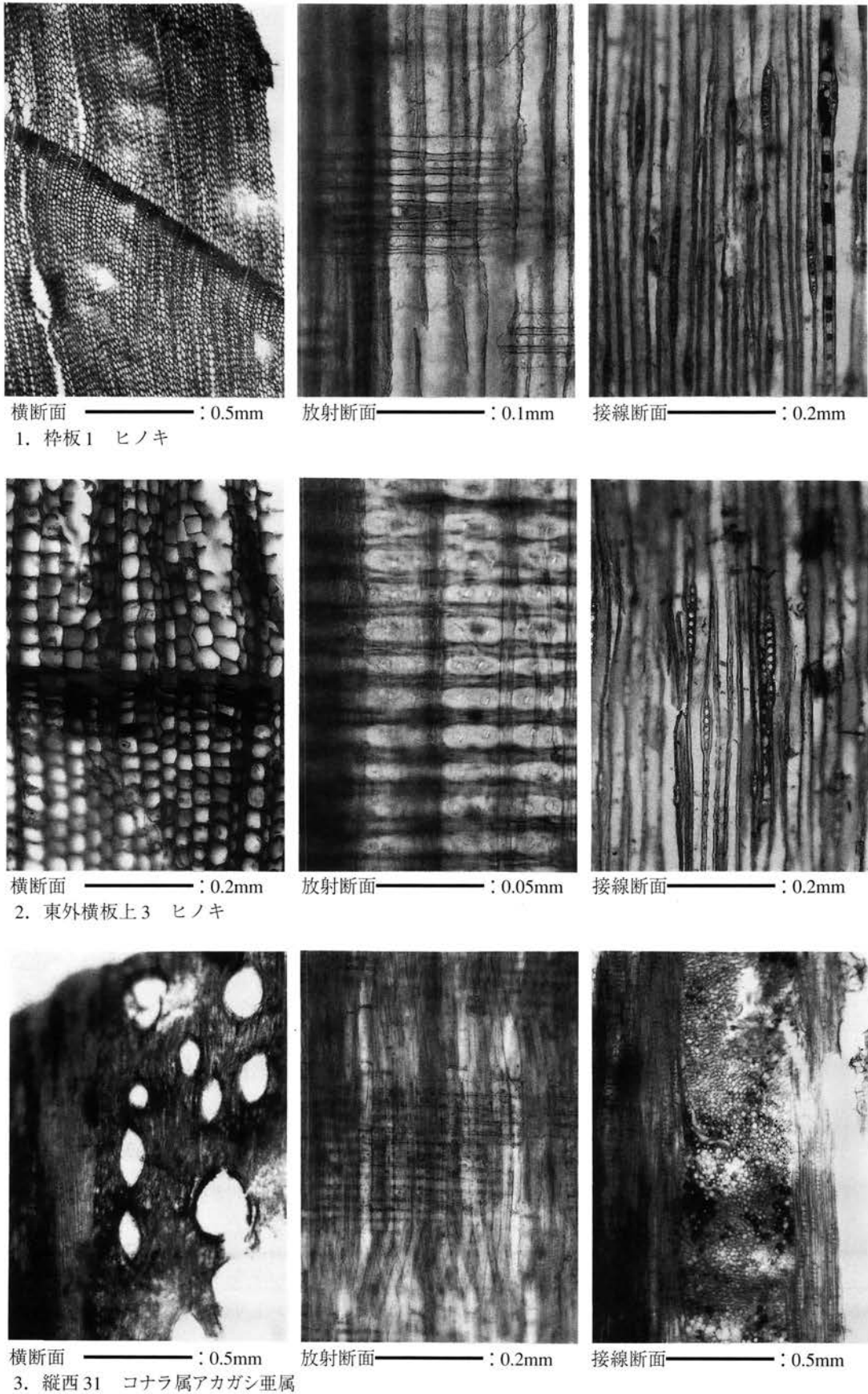


図1 C調査区井戸S EC453出土木材(1)

韌、耐朽、耐湿性も高い。良材であり、建築などに広く用いられる。

**コナラ属アカガシ亜属** *Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis* ブナ科(図1下段)

横断面：中型から大型の道管が、1～数列幅で年輪界に関係なく放射方向に配列する放射孔材である。道管は単独で複合しない。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、放射組織は平伏細胞からなる。

接線断面：放射組織は同性放射組織型で、単列のものと大型の広放射組織からなる複合放射組織である。

以上の形質よりコナラ属アカガシ亜属に同定される。コナラ属アカガシ亜属にはアカガシ、イチガシ、アラカシ、シラカシなどがあり、本州、四国、九州に分布する。常緑高木で、高さ30m、径1.5m以上に達する。材は堅硬で強靱、耐湿性も高い。農耕具の柄に用いられる。

**エノキ属** *Celtis* ニレ科(図2上段)

横断面：年輪のはじめに中型から大型の道管が1～2列配列する環孔材である。孔圏部外の小道管は多数複合して円形、ないし斜線状に配列する。早材から晩材にかけて、道管の径は急激に減少する。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、小道管の内壁にはらせん肥厚が存在する。放射組織はほとんどが平伏細胞であるが、上下の縁辺部に方形細胞がみられる。

接線断面：放射組織は異性放射組織型で、1～2細胞幅の小型のものと、7～10細胞幅ぐらいで鞘細胞をもつ大型のものからなる。

以上の形質よりエノキ属に同定される。エノキ属にはエゾエノキ、エノキなどがあり、北海道、本州、四国、九州、沖縄に分布する。落葉の高木で、高さ25m、径1.5mに達する。材は、建築、器具、薪炭などに用いられる。

**ムクロジ** *Sapindus mukorossi* Gaertn. ムクロジ科(図2下段)

横断面：大型でやや厚壁の道管が単独ときに2個複合して年輪のはじめに1～2列やや疎にならぶ環孔材である。晩材部では小型で薄壁の角張った道管が数個おもに放射方向に複合して散在する。軸方向柔細胞が早材部で周囲状、晩材部では数列幅で帯状となって接線方向に配列する。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔で放射組織は同性である。小道管の内壁にらせん肥厚が存在する。

接線断面：放射組織は、同性放射組織型で1～3細胞幅である。

以上の形質よりムクロジに同定される。ムクロジは本州(茨城県、新潟県以南)、四国、九州、沖縄に分布する。落葉の高木で、高さ2m、径1mに達する。材はやや軽軟で脆弱な材で、器具、家具などに用いられる。

## 5. 所見

市田齊当坊遺跡より出土した井戸枠材は、ヒノキ2点、コナラ属アカガシ亜属1点、エノキ属1点、ムクロジ1点であった。複数の樹種が混在し、針葉樹と広葉樹も混ざることから、転用材の可能性もある。ヒノキは温帯の中下部、コナラ属アカガシ亜属、ムクロジは温帯下部に、エノキ属

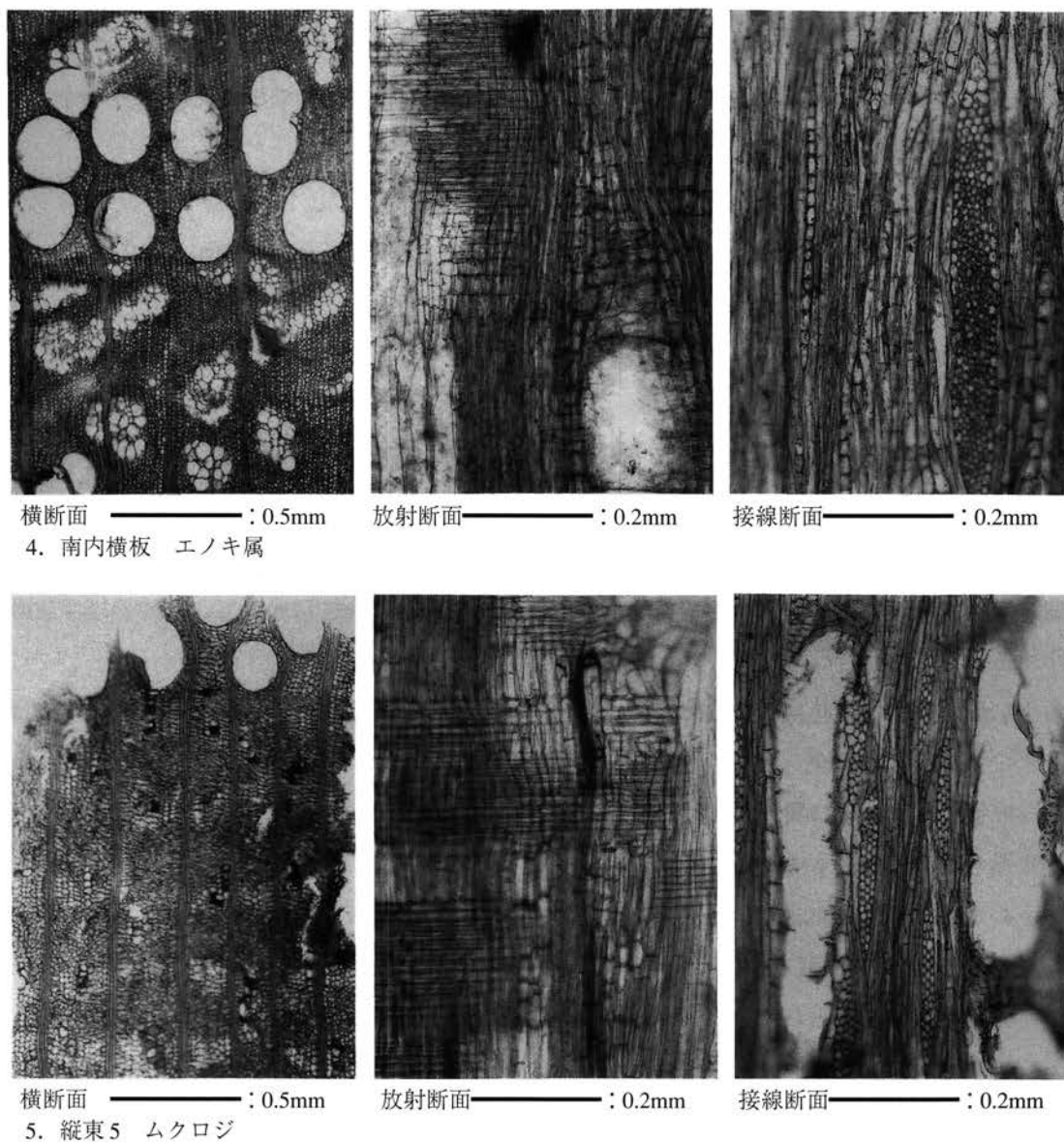


図2 C調査区井戸S EC453出土木材(2)

は温帯に広く分布する。いずれも、当時、遺跡の周辺地域には分布していた樹木と考えられる。

#### 参考文献

佐伯浩・原田浩「針葉樹材の細胞」(『木材の構造』 文永堂出版) 1985 pp.20-100.

島地謙・伊東隆夫(『日本の遺跡出土木製品総覧』 雄山閣出版) 1988 p.296.

山田昌久「日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成」(『植生史研究特別第1号』 植生史研究会) 1993 p.242.

補記 本分析については、株式会社 古環境研究所に委託した。

## 井戸 S E C453有機物包含層における種実同定

### 1. はじめに

植物の種子や果実は比較的強靱なものが多く、堆積物中に残存する。堆積物から種実を検出しその群集の構成や組成を調べることで、過去の植生や群落の構成要素を明らかにし古環境の推定を行うことが可能である。また出土した単体試料などを同定し、栽培植物や固有の植生環境を調べることができる。

### 2. 試料

試料は、市田齊当坊遺跡の井戸 S E C453有機物包含層より採取された選別済みの試料(19点)と堆積物試料(1点)である(図1)。

### 3. 方法

試料(堆積物)に以下の物理処理を施して、抽出および同定を行った。

- (1)試料500cm<sup>3</sup>に水を加え放置し、泥化を行う。
- (2)攪拌した後、沈んだ砂礫を除去しつつ、0.25mmの篩で水洗選別を行う。
- (3)残渣を双眼実体顕微鏡下で観察し、種実の同定計数を行う。

同定は形態的特徴および現生標本との対比で行い、結果は同定レベルによって科、属、種の階級で示した(付表1)。

### 4. 結果

#### (1)分類群

樹木13、草本14の計27が同定された。学名、和名および粒数を付表1に示し、主要な分類群を写真に示す。なお、500cm<sup>3</sup>中の種実数をダイアグラムに示した。以下に同定根拠となる形態的特徴を記す。

#### 〔樹木〕

オニグルミ *Juglans ailanthifolia* Carr. 核 クルミ科

茶褐色で円形～楕円形を呈し、一端がとがる。側面には縦に走る一本の縫合線がめぐる。表面全体に不規則な隆起がある。断面は円形である。

コナラ属アカガシ亜属 *Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis* 幼果 ブナ科

幼果は黒褐色で輪状紋の殻斗に包まれている。上端は花柱が突出している。

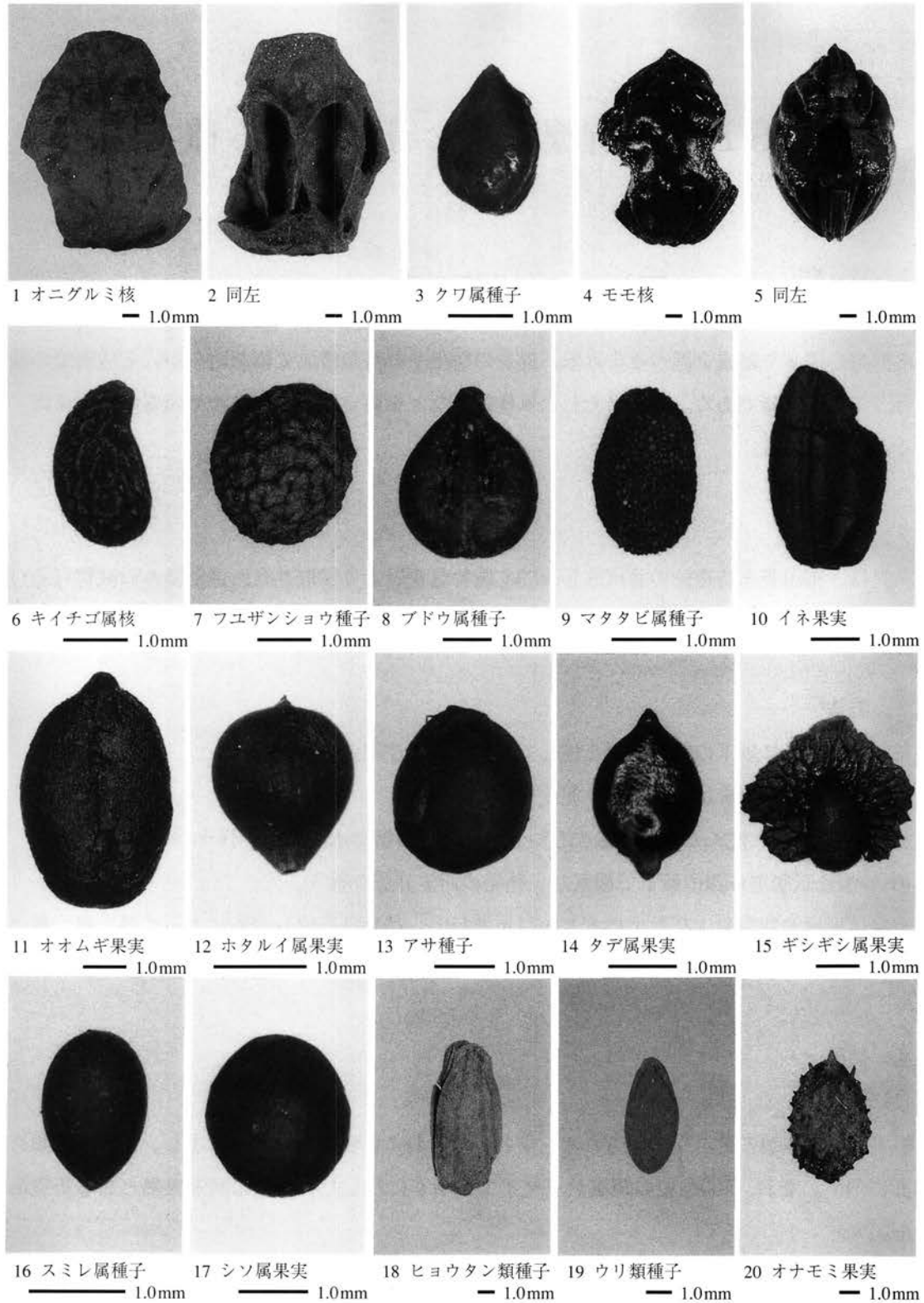


図1 C調査区井戸S EC453有機質包含層の種実

ブナ科 Fagaceae 堅果

黒褐色で表面は平滑である。この分類群は破片であるため、科レベルの同定までである。

エノキ *Celtis sinensis* var. *japonica* 種子 ニレ科



黄褐色ないし淡褐色で球形を呈す。基部に白色の突起をもつ。

カジノキ属 *Broussonetia* L'Herit.ex Vent. 種子 クワ科

茶褐色で広倒卵形を呈し、基部に突起がある。表面にはいぼ状の隆起がある。

クワ属 *Morus* 種子 クワ科

茶褐色で広倒卵形を呈し、基部に突起がある。表面はやや粗い。

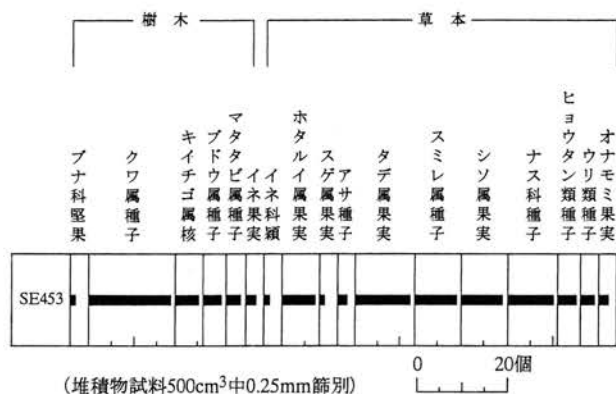


図2 C調査区井戸S EC453における種実ダイアグラム

モモ *Prunus persica* Batsch 核バラ科

黄褐色～黒褐色で楕円形を呈し、側面に縫合線が発達する。表面にはモモ特有の隆起がある。

サクラ属サクラ節 *Prunus seC T. Pudocerasus* 核バラ科

灰褐色で楕円形を呈し、下端が大きくくぼむ。側面に縫合線が走る。表面はやや粗い。

キイチゴ属 *Rubus* 核バラ科

淡褐色でいびつな半円形を呈す。表面には大きな網目模様がある。

フユザンショウ *Zanthoxylum armatum* DC. var *subtrifoliatum* Kitam. 種子ミカン科

黒色で楕円形を呈し、側面に短いへそがある。表面には大きい網目模様がある。

ブドウ属 *Vitis* 種子ブドウ科

茶褐色で卵形を呈し、先端がとがる。腹面には二つの孔があり、背面には先端が楕円形のへそがある。

マタタビ属 *AC Tinidia* 種子マタタビ科

暗褐色～茶褐色で楕円形を呈す。断面は両凸レンズ形、表面には穴が規則的に分布する。種皮はやや厚く堅い。

ガマズミ属 *Viburnum* 核スイカズラ科

茶褐色で楕円形を呈す。腹面に1本と背面に2本の溝が走る。

〔草本〕

イネ *Oryza sativa* L. 果実・穎イネ科

長楕円形を呈し、胚の部分がくぼむ。表面には数本の筋が走る。

穎は黒色で扁平楕円形を呈し、下端に枝梗が残る。表面には微細な顆粒状突起がある。

オオムギ *Hordeum vulgare* L. 果実イネ科

炭化しているため黒色で、楕円形を呈す。腹部の端には胚がある。背面には縦に1本の溝がある。側面の形は曲率が大きく、胚と胚乳との接する輪郭線は山形である。

イネ科 *Gramineae* 穎・果実

穎は茶褐色で紡錘形を呈す。腹面はやや平ら。背面は丸い。表面は滑らかである。

果実は炭化しているため黒色で、楕円形を呈す。

付表1 C調査区井戸SEC453における種実同定結果

学名	分類群	和名	部位	SE453(有機物分析層)																		
				識別済み試料																		
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
Arbor	樹木																					
<i>Juglans edulis</i> (L.) Carr.		オニグルミ	核																		1	
<i>Quercus subgen. Cyclobalanopsis</i>		コナラ属アカガシ亜属	効果																		1	
Fagaceae		ブナ科	堅果				破片+										破片+	破片+		破片+		破片+
<i>Alnus aspera</i> Flanch.		アノキ	核																			2
<i>Broussonetia L'Herit. ex Vent.</i>		カシノキ属	種子							1												
<i>Morus</i>		クワ属	種子							11			1			5	3	8	9		2	2
<i>Prunus persica</i> Batsch		モモ	核			1									1		1	2				
<i>Prunus sect. Pseudoprunus</i>		サクランボ属サクランボ	核																		2	
<i>Rubus</i>		キイチゴ属	核																			5
<i>Zanthoxylum armatum</i> DC. var. <i>subrotundatum</i> Kitam.		フユザンショウ	種子	2	2	1			1			3	2		2	1				3	1	2
<i>Vitis</i>		ブドウ属	種子	1	11	3	1	2	7	1		2	3	2	3	4	4	1			5	4
<i>Actinidia</i>		マタタビ属	種子					1	1			1	1	1	1	1	1	1			2	1
<i>Viburnum</i>		ガマズミ属	核																			2
Herb	草本																					
<i>Oryza sativa</i> L.		イネ	果実(穀)			2				1		1	1			2	3		3		1	2
<i>Hordeum vulgare</i> L.		オオムギ	果実														1					
Gramineae		イネ科	穀																			1
		果実																				1
<i>Scirpus</i>		ホタルイ属	果実			1				2					2		1	1				7
<i>Carex</i>		スゲ属	果実																			1
<i>Cannabis sativa</i> L.		アサ	種子	1								1		1	1	1				1		2
<i>Polygonum</i>		タデ属	果実										1			2					3	1
<i>Rumex</i>		ギンギシ属	果実	1									1									12
<i>Viola</i>		スミレ属	種子														2					9
<i>Perilla</i>		シソ属	果実					1			1					6	3				7	7
Solanaceae		ナス科	種子													5						4
<i>Lagenaria siceraria</i> Standl.		ヒョウタン類	種子					29								7	4	2	6	4	1	3
<i>Cucumis melo</i> L.		ウリ類	種子					22	4	2	1	20	2	1	5						16	14
<i>Xanthium Strumarium</i> L.		オナモミ	果実					1							3						5	2
Total		合計		5	0	70	7	4	5	42	5	3	21	1	10	12	45	45	22	30	41	40
Unknown		不明種実				3																2
Unknown		不明植物遺体								4	1							2		10	8	2
		制		2		8						7	3			2	5	3		3	1	2

ホタルイ属 *Scirpus* 果実 カヤツリグサ科

黒褐色でやや光沢がある。広倒卵形を呈し、断面は両凸レンズ形である。表面には横方向の微細な隆起がある。

スゲ属 *Carex* 果実 カヤツリグサ科

茶褐色で倒卵形、扁平である。果皮は柔らかい。

アサ *Cannabis sativa* L. 種子 クワ科

茶褐色で広卵形を呈す。一端には円形のへそ部がある。

アサは南アジアや中央アジア原産とされる1年草の畑作物である。茎皮の繊維は麻糸になり、種子は油を採ったり食用になる。

タデ属 *Polygonum* 果実 タデ科

黒褐色で先端がとがる卵形を呈す。表面にはやや光沢があり、断面は三角形である。

黒褐色で先端がとがる広卵形を呈す。表面には網目模様があり、断面は両凸レンズ形である。

ギンギシ属 *Rumex* 果実 タデ科

茶褐色で頂端が尖る卵形を呈す。断面は三角形、表面には光沢がある。翼状の花被の残るものもある。

スミレ属 *Viola* 果実 スミレ科

下端が尖る倒卵形を呈す。基部の側面にへそがあり、そこから上端まで筋が走る。

シソ属 *Perilla* 果実 シソ科

茶褐色で円形を呈し、下端にへそがある。表面には大きい網目模様がある。

ナス科 Solanaceae 種子

黄褐色で円形を呈す。表面にはやや大きい網目模様がある。

ヒョウタン類 *Lagenaria siceraria* Standl. 種子 ウリ科

淡褐色で楕円形を呈す。上端にはへそと発芽孔があり、下端は波うつ切形を呈す。表面には縦に2本の低い稜が走る。

ウリ類 *Cucumis melo* L. 種子 ウリ科

淡褐色～黄褐色である。楕円形を呈し、一端には「ハ」字状のへこみがある。

オナモミ *Xanthium strumarium* L. 果実 キク科

黒褐色～黄褐色で長楕円形を呈し、先端は2本の突起が伸びる。表面にかぎ状の突起が全体に分布する。

## (2)種実群集の特徴

### a. 選別済み試料

樹木ではクワ属、フユザンショウ、ブドウ属、草本ではシソ属、ナス科、ヒョウタン類、ウリ類が比較的多く同定された。やや少ないが、樹木のオニグルミ、モモ、草本で栽培植物のイネ、オオムギ、アサが同定された。

### b. 堆積物試料

樹木ではクワ属、キイチゴ属、ブドウ属、マタタビ属、草本ではタデ属、スミレ属、シソ属が多く、ホタルイ属、ヒョウタン類、ウリ類などがともなわれる。

## 5. 種実同定から推定される植生と農耕

### (1)栽培植物と有用植物

栽培植物としては、ヒョウタン類、ウリ類、イネ、オオムギ、アサが同定された。イネを除けばいずれも畑作物であり、水田に加え、多様な畑作が行われていたと推定される。樹木の中でもモモは栽培される果樹であり、クワ属は養蚕に使用される有用な樹木である。オニグルミ、ブドウ属は食用となる有用植物であり、採取されたとみられる。

### (2)周囲の植生と環境

検出数の多いタデ属、ホタルイ属、シソ属は湿地～陽当たりのよい所を好む雑草であり、スミレ属は乾燥した畑地や樹下に生育する。井戸の周囲は湿地を呈して、周囲は畑地などの乾燥地が分布していたと推定される。

## 参考文献

笠原安夫『日本雑草図説』 養賢堂 1985 p.494

笠原安夫「作物および田畑雑草種類」(『弥生文化の研究』第2巻 生業 雄山閣出版) 1988 pp.131-139.

金原正明「古代モモの形態と品種」(『月刊考古学ジャーナル』No.409 ニューサイエンス社) 1966 pp.15-19.

藤下典之「出土種子からみた古代日本のメロンの仲間、その種類、渡来、伝搬、利用について」(『月刊考古学ジャーナル』No.354 ニューサイエンス社) 1992 pp.7-13.

南木睦彦「栽培植物」(『古墳時代の研究』第4巻 生産と流通 I 雄山閣出版) 1991 pp.165-174.

南木睦彦「低湿地遺跡の種実」(『月刊考古学ジャーナル』No.355 ニューサイエンス社) 1992 pp.18-22.

南木睦彦「葉・果実・種子」(日本第四紀学会編『第四紀試料分析法』 東京大学出版会) 1993 pp.276-283.

吉崎昌一「古代雑穀の検出」(『月刊考古学ジャーナル』No.355 ニューサイエンス社) 1992 pp.2-14.

補記 本分析については、株式会社 古環境研究所に委託した。

## 竪穴式住居跡および井戸・大溝における花粉分析

### 1. はじめに

種子植物やシダ植物などが生産する花粉・胞子は、分解されにくく堆積物中に比較的良好に保存される。花粉は、風媒花植物であれば空中に飛散し、虫媒花植物ならば昆虫により運搬され、多くの場合、地表に落下後土壌中あるいは雨水や河川で運搬され水域に堆積する。花粉分析では、堆積物より抽出した花粉の種類構成や相対比率から地層の対比を行ったり、植生や土地条件などの古環境や古気候の推定が行われる。一般には、比較的広域に分布する水成堆積物を対象として、堆積盆単位などのやや広域な植生や環境の復原に用いられるが、考古遺跡では、堆積域の狭い遺構などの堆積物から、局地的な植生や環境の復原にも用いられている。

### 2. 試料

試料は、市田斉当坊遺跡のC調査区およびD調査区より採取された計41点である。C調査区では、井戸S EC453の試料7（図版第43、第8層）、試料9（同第10層）、試料10（同第11層）、試料16（同第17層）、試料17（同第18層）、試料21（同第23層）、試料25（同第27層）、井戸枠内最下層、井戸枠内黄灰色細砂（同第29層）、竪穴式住居跡S HC451の中央土坑、大溝（環濠）S DC25のNo12～15（第8図）、溝S DC114のNo16～20（第8図）、方形周溝墓S TC410西辺周溝S DC434のNo6～11（図版第59、断面図17、第1・2、4～7層）、大溝（環濠）S DC401の2～4層（図版第59、断面図16）、以上6遺構より採取の28点である。D調査区では、方形周溝墓S TD17南溝の試料2～6（図版第61、断面図6の第2～6層）、井戸S ED31の井戸枠内中央畔下層（図版第47、第16層）、井戸枠直上畔サンプル（同第11層）、東南隅最終床面直上最下層（同第17層）、1層、3層、4層、8層、14層（以上、図版第46）、以上2遺構より採取された13点である。

### 3. 方法

花粉粒の分離抽出は、基本的には中村(1973)を参考にして、試料に以下の物理化学処理を施して行った。

- (1) 5%水酸化カリウム溶液を加え15分間湯煎する。
- (2) 水洗した後、0.5mmの篩で礫などの大きな粒子を取り除き、沈澱法を用いて砂粒の除去を行う。
- (3) 25%フッ化水素酸溶液を加えて30分放置する。
- (4) 水洗した後、氷酢酸によって脱水し、アセトリシス処理（無水酢酸9：濃硫酸1のエルドマン氏液を加え1分間湯煎）を施す。

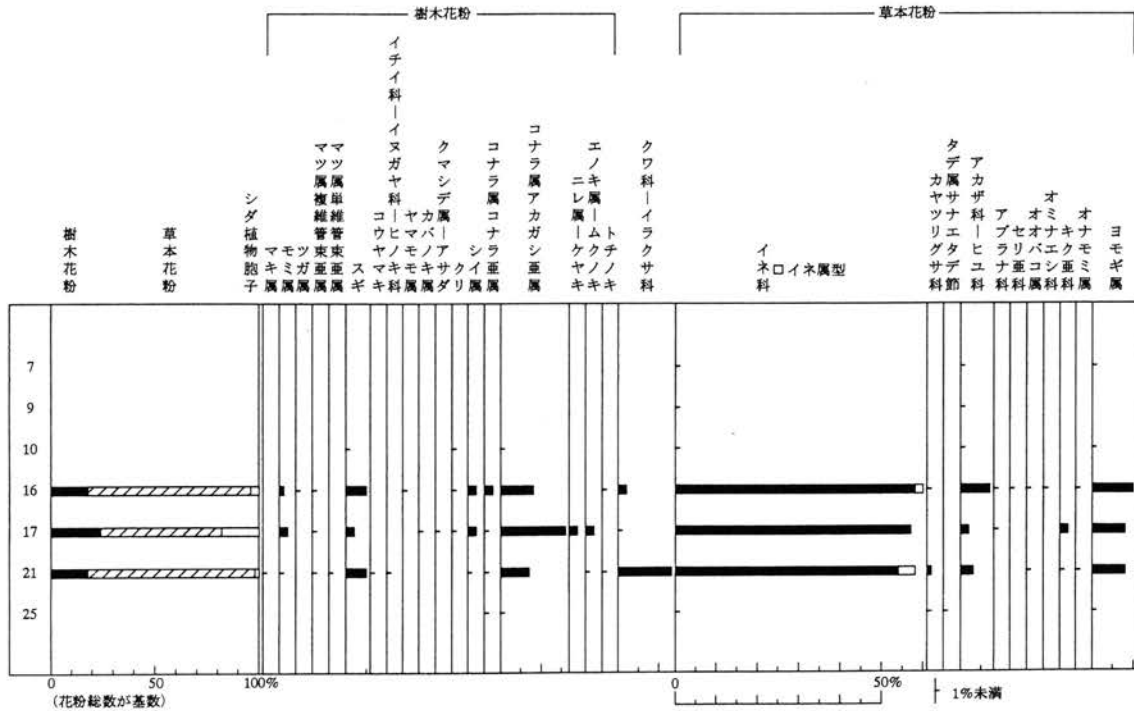


図1 C調査区井戸SEC453における花粉ダイアグラム(1)

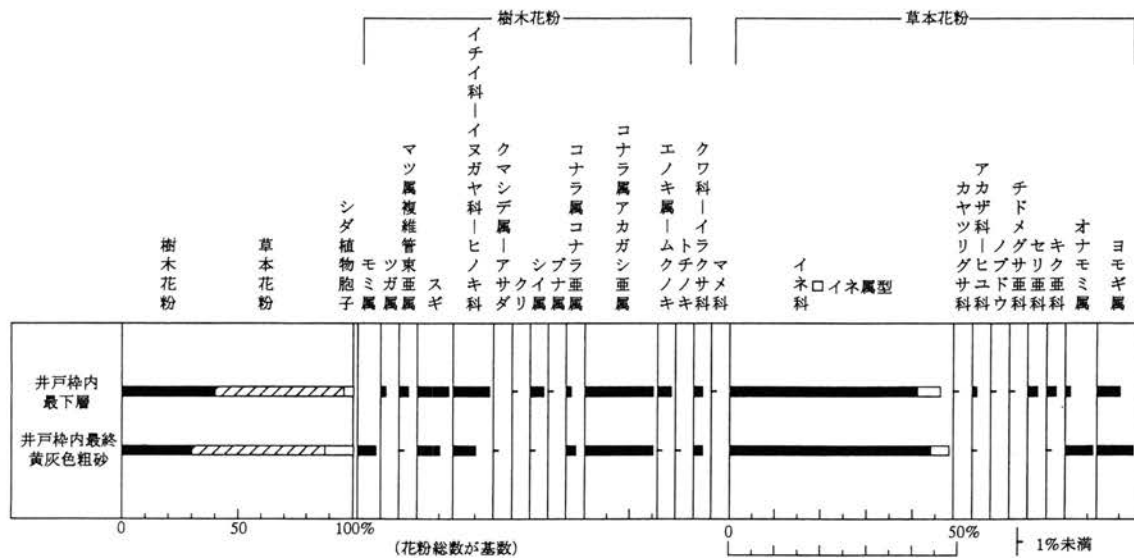


図2 C調査区井戸SEC453における花粉ダイアグラム(2)

- (5) 再び氷酢酸を加えた後、水洗を行う。
  - (6) 沈渣に石炭酸フクシンを加えて染色を行い、グリセリンゼリーで封入しプレパラートを作製する。
- 以上の物理・化学の各処理間の水洗は、遠心分離(1500rpm、2分間)の後、上澄みを捨てるという操作を3回繰り返して行った。
- 検鏡はプレパラート作製後直ちに、生物顕微鏡によって300~1000倍で行った。花粉の同定は、島倉(1973)および中村(1980)をアトラスとして、所有の現生標本との対比で行った。結果は同定レベルによって、科、亜科、属、亜属、節および種の階級で分類した。複数の分類群にまたがる

ものはハイフン(-)で結んで示した。なお、科・亜科や属の階級の分類群で一部が属や節に細分できる場合はそれらを別の分類群とした。イネ属に関しては、中村(1974、1977)を参考にして、現生標本の表面模様・大きさ・孔・表層断面の特徴と対比して分類しているが、個体変化や類似種があることからイネ属型とした。

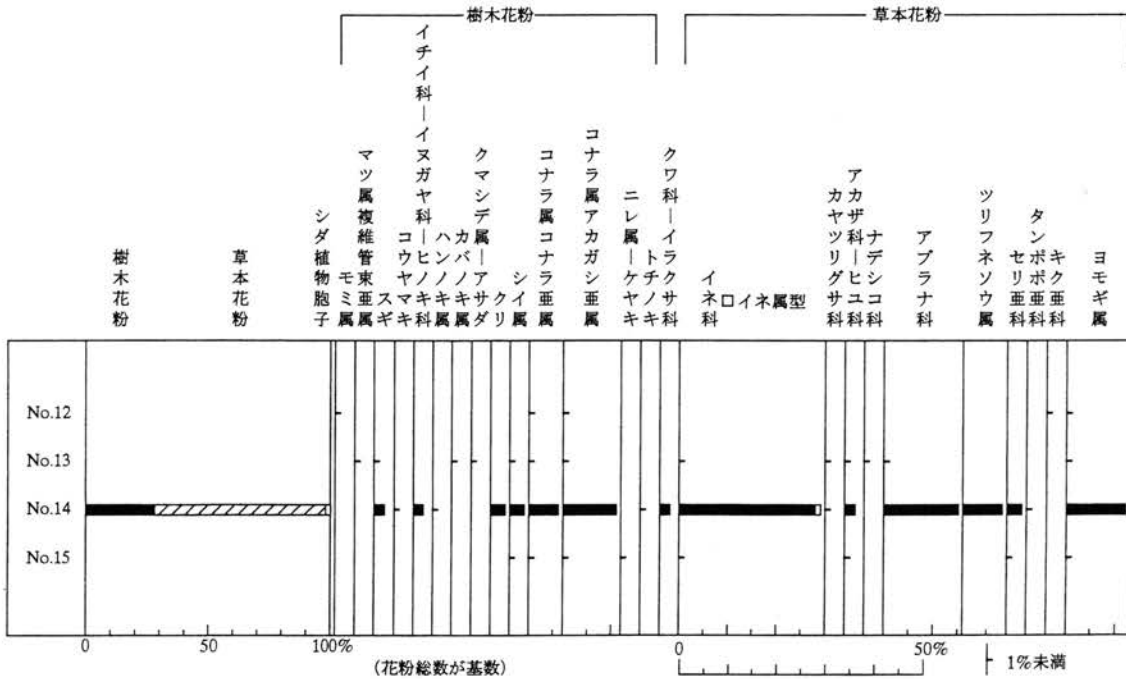


図3 C調査区大溝S DC25における花粉ダイアグラム

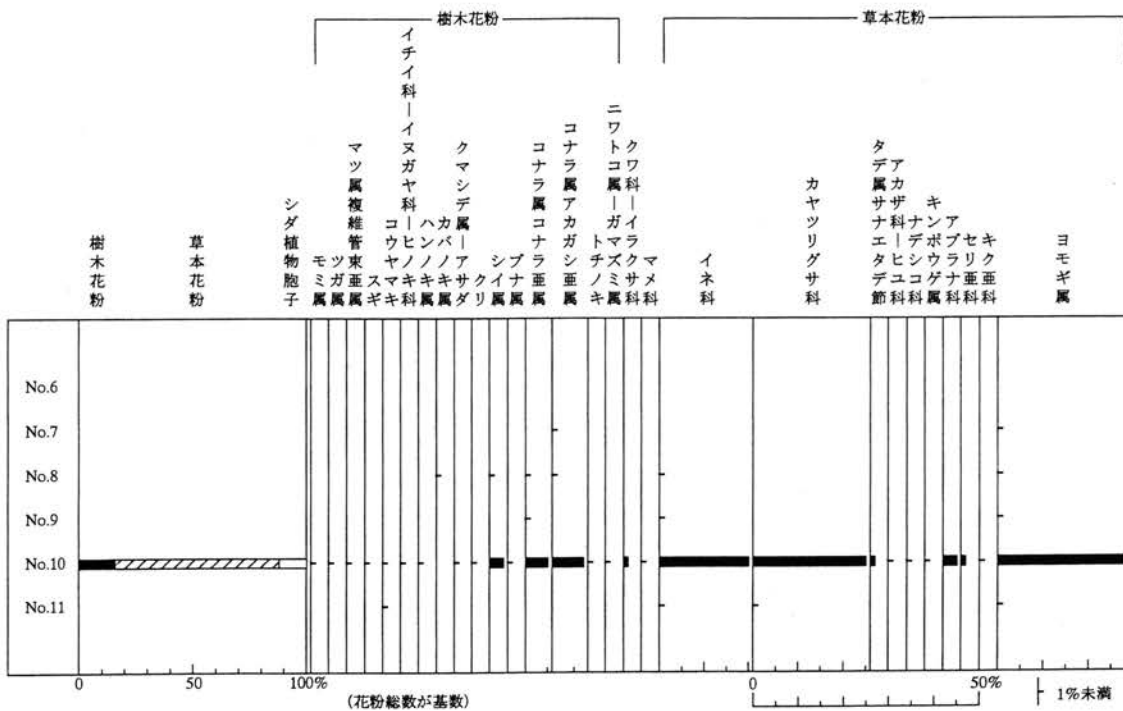


図4 C調査区大溝S DC434における花粉ダイアグラム

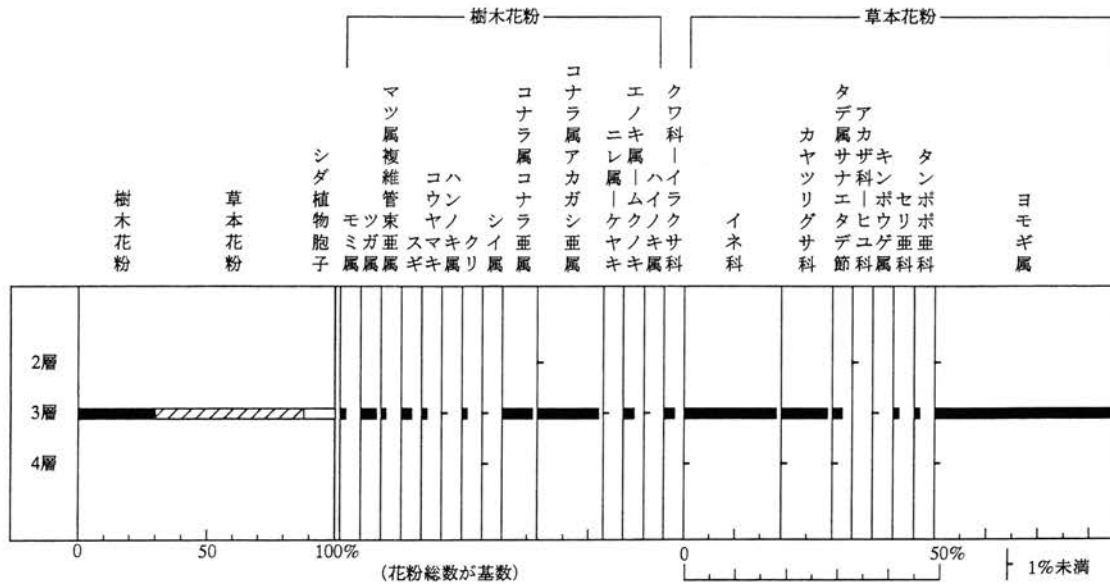


図5 C調査区大溝S DC401における花粉ダイアグラム

#### 4. 結果

##### (1)分類群

出現した分類群は、樹木花粉27、樹木花粉と草本花粉を含むもの3、草本花粉20、シダ植物胞子2形態の計52である。これらの学名と和名および粒数を付表1に示し、主要な分類群を写真に示す。花粉数が200個以上計数できた試料は、花粉総数を基数とする花粉ダイアグラムを示した。200個未満であっても100個以上の試料については傾向をみるため参考に図示した。以下に出現した分類群を記す。

##### 〔樹木花粉〕

マキ属、モミ属、ツガ属、マツ属複維管束亜属、マツ属単維管束亜属、スギ、コウヤマキ、イチイ科ーイヌガヤ科ーヒノキ科、ヤマモモ属、サワグルミ、ハンノキ属、カバノキ属、ハシバミ属、クマシデ属ーアサダ、クリ、シイ属、ブナ属、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属、ニレ属ーケヤキ、エノキ属ームクノキ、カエデ属、トチノキ、ブドウ属、グミ属、ハイノキ属、ニワトコ属ーガマズミ属

##### 〔樹木花粉と草本花粉を含むもの〕

クワ科ーイラクサ科、マメ科、ウコギ科

##### 〔草本花粉〕

ガマ属ーミクリ属、サジオモダカ属、イネ科、イネ属型、カヤツリグサ科、タデ属サナエタデ節、アカザ科ーヒユ科、ナデシコ科、キンボウゲ属、アブラナ科、ツリフネソウ属、ノブドウ、チドメグサ亜科、セリ亜科、オオバコ属、オミナエシ科、タンポポ亜科、キク亜科、オナモミ属、ヨモギ属

##### 〔シダ植物胞子〕

単条溝胞子、三条溝胞子



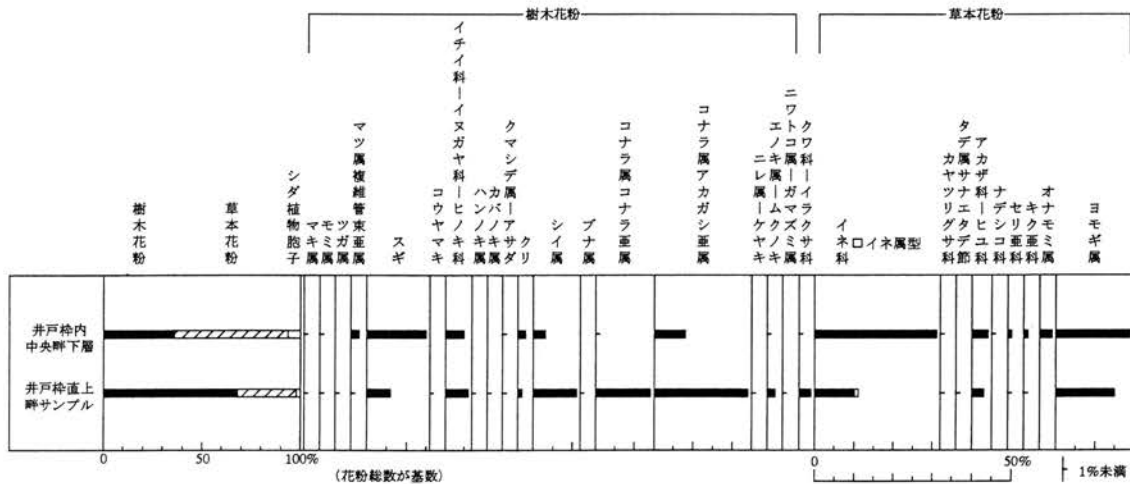


図6 D調査区井戸S ED31における花粉ダイアグラム(1)

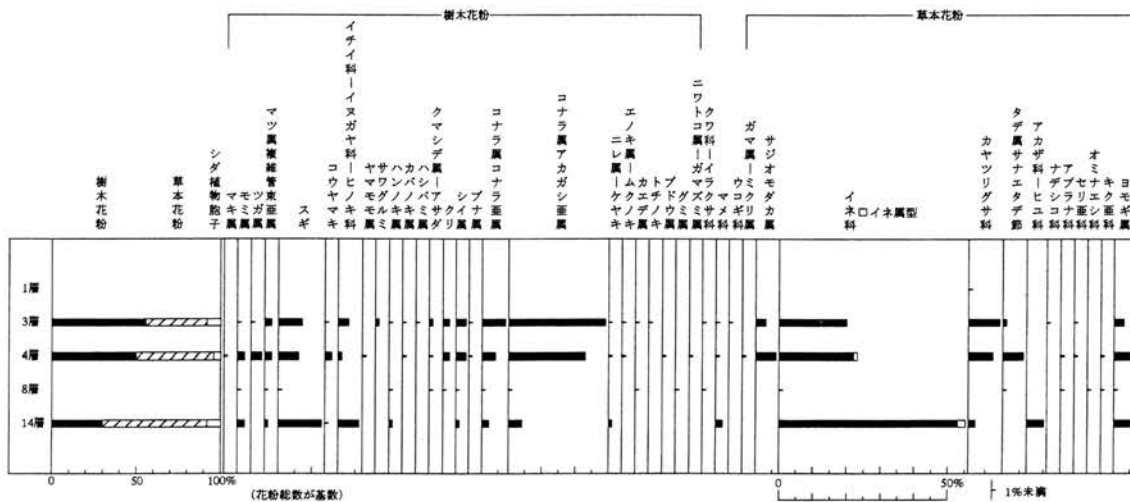


図7 D調査区井戸S ED31における花粉ダイアグラム(2)

(2)花粉群集の特徴

a. 井戸S EC453(図1・2)

試料7、試料9、試料10は、花粉の出現率は非常に低く、イネ科、アカザ科-ヒユ科がわずかに出現する。試料16、試料17、試料21では、草本花粉の出現率が樹木花粉よりも高く、イネ科が極めて優占する。他に、ヨモギ属、アカザ科-ヒユ科が伴われる。樹木花粉では、コナラ属アカガシ亜属がやや多く、スギ、マツ属複雑管束亜属、シイ属などが出現する。とくに、試料17ではコナラ属アカガシ亜属、試料21ではクワ科-イラクサ科が多い。試料25では、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属、イネ科、ヨモギ属などが出現するが、花粉密度は極めて低い。

井戸枠内最下層、井戸枠内黄灰色細砂(29層)では、いずれの試料も草本花粉の占める割合が樹木花粉よりも高く、イネ属型を含むイネ科の出現率が極めて高い。他に、ヨモギ属、オナモミ属、キク亜科などが出現する。樹木花粉では、コナラ属アカガシ亜属が比較的多く検出され、イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科、スギなどが伴われる。

b. 竪穴式住居跡S HC451

付表1 市田齊当坊遺跡C調査区における花粉分析結果

Table showing pollen analysis results for site C. Columns include '分類群' (Group), '学名' (Name), '和名' (Japanese Name), and pollen counts for various samples (SE453, SE453, SE451, SD25, SD214, SD434, SD401). Rows list various plant families and species like Podocarpus, Tsuga, and Quercus.

付表2 市田齊当坊遺跡D調査区における花粉分析結果

Table showing pollen analysis results for site D. Columns include '分類群' (Group), '学名' (Name), '和名' (Japanese Name), and pollen counts for samples ST17南溝, SE31, SE31, and SE31. Rows list various plant families and species like Podocarpus, Tsuga, and Quercus.

中央土坑は花粉が検出されなかった。

**c. 大溝(環濠) S DC25(図3)**

いずれの試料も花粉密度が低い。No12はキク亜科、ヨモギ属、No1とNo15はイネ科、アカザ科ーヒユ科、ヨモギ属などが検出される。No14ではやや多くの花粉が検出された。草本花粉の占める割合が高く、なかでもイネ科の出現率が高い。他に、アブラナ科、ヨモギ属、ツリフネソウ属などが伴われる。樹木花粉ではコナラ属アカガシ亜属、コナラ属コナラ亜属、シイ属、クリ、イチイ科ーイヌガヤ科ーヒノキ科、スギなどが検出される。

**d. 溝 S DC114**

No16ではスギ、アカザ科ーヒユ科、No18とNo19でスギがごく少量検出されたが、他のNo17およびNo20からは花粉が検出されなかった。

**e. 方形周溝墓 S TC410西辺周溝 S DC434(図4)**

No6からは花粉が検出されなかった。No7、No8、No9ではコナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属、イネ科、ヨモギ属が、No11ではコウヤマキ、イネ科、カヤツリグサ科、ヨモギ属などが検出されるが、花粉密度はいずれの試料も極めて低い。No10では草本花粉の出現率が樹木花粉よりも高く、ヨモギ属、カヤツリグサ科、イネ科が比較的多く出現する。樹木花粉は低率で、コナラ属アカガシ亜属、コナラ属コナラ亜属、シイ属が出現する。

**f. 大溝(環濠) S DC401(図5、図版第59、断面図16)**

いずれの試料も花粉密度は低い。2層ではコナラ属アカガシ亜属、イネ科、ヨモギ属が検出される。3層は花粉密度はやや低く、草本花粉の占める割合が高い。ヨモギ属が優占して出現し、続いてイネ科、カヤツリグサ科などが伴われる。樹木花粉では、コナラ属アカガシ亜属が多く、コナラ属コナラ亜属、スギ、ツガ属などが出現する。4層ではイネ科、ヨモギ属、カヤツリグサ科および樹木花粉のシイ属が極めて低率に出現する。

**g. 方形周溝墓 S TD17南辺周溝**

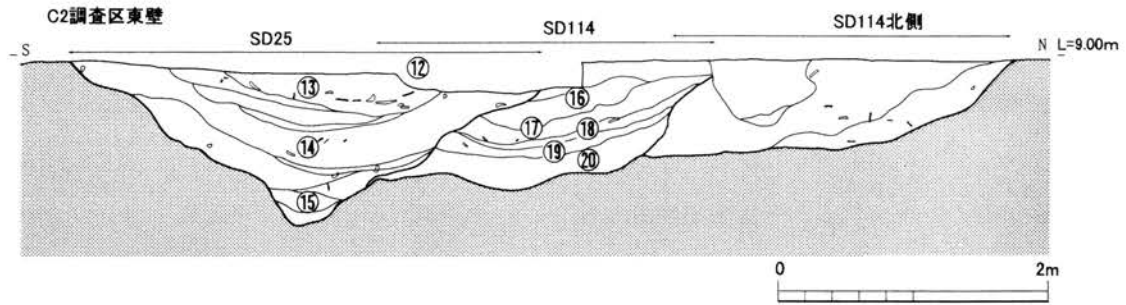
試料2、試料3、試料4、試料5、試料6はいずれも花粉密度が極めて低く、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属やヨモギ属、イネ科、カヤツリグサ科などがわずかに検出される。

**h. 井戸 S ED31(図6・7)**

井戸枠内中央畔下層は草本花粉の占める割合が高く、イネ科、ヨモギ属の出現率が高い。他に、アカザ科ーヒユ科、オナモミ属、キク亜科、セリ亜科などが低率に伴われる。樹木花粉では、スギが比較的多く検出され、コナラ属アカガシ亜属、イチイ科ーイヌガヤ科ーヒノキ科、シイ属、クリ、マツ属複維管束亜属などが出現する。

井戸枠直上畔サンプルは、樹木花粉の占める割合が草本花粉よりも高い。樹木花粉では、コナラ属アカガシ亜属の出現率が比較的高く、続いてコナラ属コナラ亜属、シイ属、スギ、イチイ科ーイヌガヤ科ーヒノキ科などがやや多く出現する。草本花粉では、ヨモギ属、イネ属型を含むイネ科がやや多く、アカザ科ーヒユ科、クワ科ーイラクサ科などが伴われる。

東南隅最終床面直上最下層は、コナラ属アカガシ亜属、イネ科などが検出されるが花粉の出現



第8図 C調査区大溝(環濠) S DC25・S DC114花粉分析サンプル採取地点

数が非常に少ない。

1層はカヤツリグサ科がわずかに検出されるのみである。3層および4層は、樹木花粉の占める割合が草本花粉よりもやや多く、コナラ属アカガシ亜属が優占する。他に、スギ、コナラ属コナラ亜属、シイ属、クリなどが低率に出現する。草本花粉は、イネ科がやや多く出現し、カヤツリグサ科、サジオモダカ属、タデ属サナエタデ節、ヨモギ属などが伴われる。8層も花粉密度は非常に低く、コナラ属アカガシ亜属、スギ、イネ科、ヨモギ属などが出現する。14層では草本花粉の出現率が樹木花粉よりも高い。イネ属型を含むイネ科が非常に優占し、アカザ科-ヒユ科、ヨモギ属、カヤツリグサ科が伴われる。樹木花粉ではスギが比較的多く、イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科、コナラ属アカガシ亜属、コナラ属コナラ亜属、モミ属などが出現する。

## 5. 花粉分析から推定される植生と環境

### (1) C調査区

#### a. 井戸 S EC453

試料7、試料9、試料10および試料25は、花粉の出現率は非常に低く、イネ科、アカザ科-ヒユ科などの比較的乾燥を好む耕地雑草がわずかに出現することから、堆積速度が速いか、埋土などの堆積環境が推定される。試料16、試料17、試料21では、草本花粉の出現率が樹木花粉よりも高く、イネ科が極めて優占する。他に、ヨモギ属、アカザ科-ヒユ科が伴われる。周辺にはイネ科を主としヨモギ属、アカザ科-ヒユ科など比較的乾燥を好む人里植物ないし耕地雑草を多く含む草本が生育し、陽当たりのよいやや乾燥した人為環境が分布していたことが推定される。周辺の森林植生として、コナラ属アカガシ亜属を主とし、スギ、マツ属複維管束亜属、シイ属などを構成要素とする照葉樹林が考えられる。

井戸枠内最下層、井戸枠内最終黄灰色粗砂のいずれの試料も、草本花粉の占める割合が樹木花粉よりも高く、堆積地周辺にはイネ科をおもにヨモギ属、オナモミ属、キク亜科などの草本が繁茂していたと推定される。これらの草本は比較的乾燥を好む人里植物ないし耕地雑草を多く含むことから、周辺はやや乾燥した人為環境の分布が考えられる。森林は、やや遠方にコナラ属アカガシ亜属、イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科、スギなどを主要構成要素とする照葉樹林が分布していたと考えられる。

#### b. 竪穴式住居跡 S HC451

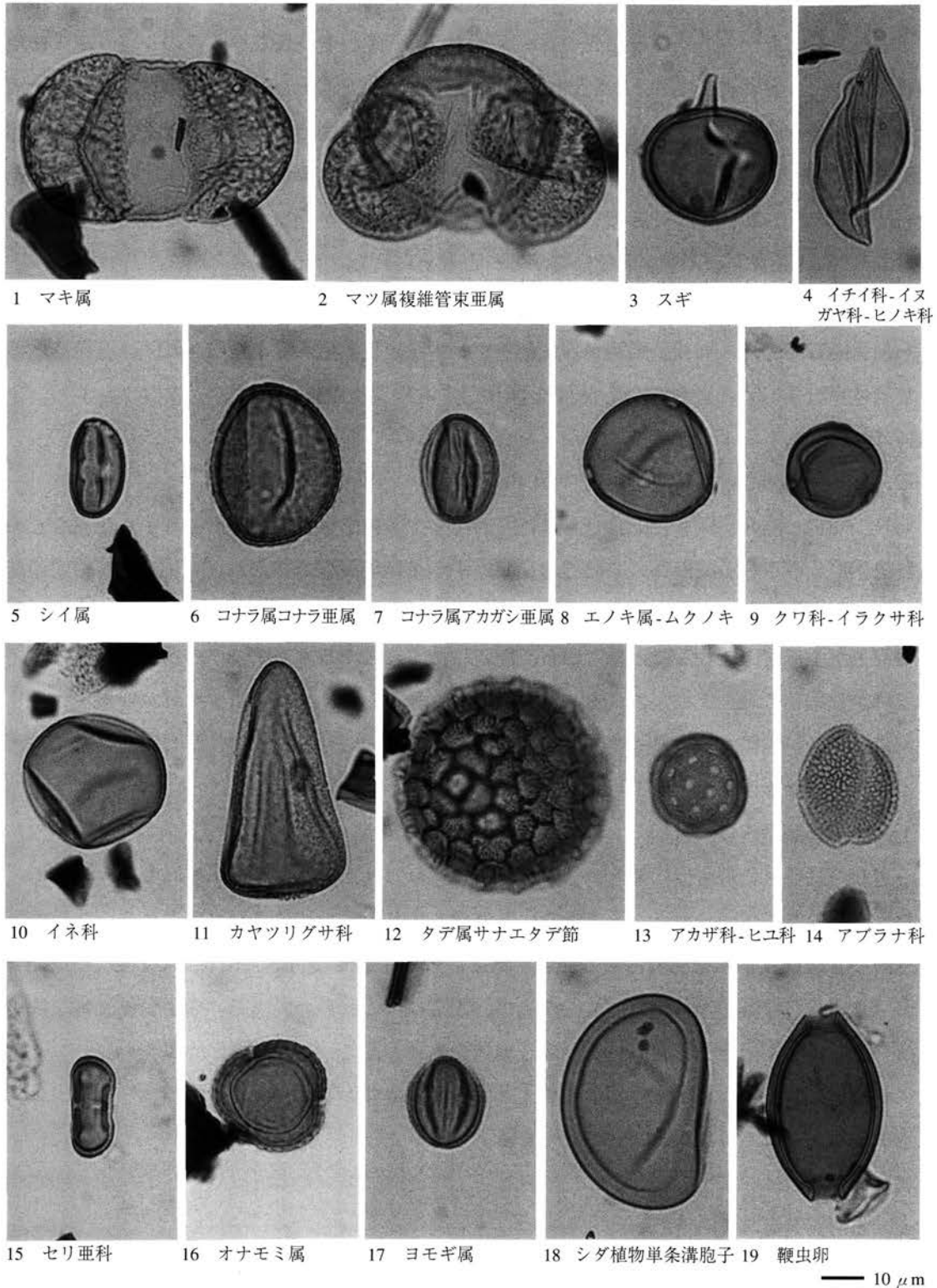


図9 市田齊当坊遺跡の花粉・孢子・寄生虫卵

中央土坑からは花粉が検出されない。したがって、花粉などの有機質遺体が分解される乾燥ないし乾湿を繰り返す堆積環境か堆積速度が極めて速かったとことが考えられる。

c. 大溝(環濠) S DC25

いずれの試料も花粉密度が低く、No12ではキク亜科、ヨモギ属、No13とNo15からは、イネ科、

アカザ科ーヒユ科、ヨモギ属などいずれも比較的乾燥を好む人里植物ないし耕地雑草がわずかに検出された。したがって、花粉などの有機質遺体が分解される乾燥ないし乾湿を繰り返す環境が分布していたことが推定される。Na14ではやや多くの花粉が検出された。イネ属型を含むイネ科、栽培植物を多く含むアブラナ科が多く出現することから、周囲で水田や畑が営まれていた可能性が示唆される。周辺には、コナラ属アカガシ亜属、コナラ属コナラ亜属、シイ属、クリ、イチイ科ーイヌガヤ科ーヒノキ科、スギなどを構成要素とする森林が分布していたと考えられる。なお、S DC25は常時滞水するような溝ではなかったと考えられる。

**d. 溝 S DC114**

Na16、Na17、Na18、Na19、Na20からは花粉がわずかに検出されるか検出されず、花粉などの有機質遺体が分解される乾燥ないし乾湿を繰り返す堆積環境が推定される。このことより、S DC114は常時滞水するような溝ではなかったと考えられる。

**e. 方形周溝墓 S TC410西辺周溝 S DC434**

Na6、Na7、Na8、Na9、Na11からは花粉がごく少量検出されるか検出されず、花粉などの有機質遺体が分解される乾燥ないし乾湿を繰り返す堆積環境が推定される。Na10は花粉密度が高く、草本花粉の出現率が樹木花粉よりも極めて高い。ヨモギ属、カヤツリグサ科、イネ科およびシダ植物胞子が多く検出されることなどから、周辺にはこれらの草本が繁茂する比較的乾燥した開地の環境が分布していたと推定される。周辺地域の森林として、コナラ属アカガシ亜属、コナラ属コナラ亜属、シイ属を主要構成要素とする照葉樹林が考えられる。なお、S DC434は常時滞水するような溝ではなかったと考えられる。

**f. 大溝(環濠) S DC401**

いずれの試料も花粉密度は低く、2層および4層はほとんど花粉が検出されない。よって、花粉などの有機質遺体が分解される乾燥ないし乾湿を繰り返す堆積環境が推定される。花粉密度のやや高い3層は、草本花粉の占める割合が高く、ヨモギ属が優占して出現する。続いてイネ科、カヤツリグサ科などが伴われる。したがって、周辺にはこれらの陽当たりのよい乾燥地を好む人里植物が繁茂していたと考えられる。周辺地域の森林として、コナラ属アカガシ亜属、コナラ属コナラ亜属、スギ、ツガ属を主要構成要素とする照葉樹林が考えられる。なお、S DC401は常時滞水するような溝ではなかったと考えられる。

**(2) D調査区**

**a. 方形周溝墓 S TD17南溝**

試料2、試料3、試料4、試料5、試料6のいずれの試料も花粉密度が極めて低く、ヨモギ属、イネ科、カヤツリグサ科などがわずかに検出されるのみである。こうしたことから、花粉などの有機質遺体が分解される比較的した堆積環境が推定される。

**b. 井戸 S ED31**

井戸枠内中央畔下層は、草本花粉の占める割合が高く、イネ科、ヨモギ属をおもにアカザ科ーヒユ科、オナモミ属、キク亜科、セリ亜科などが多い。こうしたことから、比較的乾燥を好む人

里植物ないし耕地雑草を多く含む草本が生育し、陽当たりのよいやや乾燥した環境が推定される。周辺地域の森林植生としてスギをおもにコナラ属アカガシ亜属、イチイ科―イヌガヤ科―ヒノキ科、シイ属、クリ、マツ属複雑維管束亜属などが森林として遠方に分布していたと考えられる。

井戸枠直上畔サンプルは、樹木花粉の占める割合が草本花粉よりも高く、近隣に森林が分布していたと考えられる。植生として、コナラ属アカガシ亜属をおもにコナラ属コナラ亜属、シイ属、スギ、イチイ科―イヌガヤ科―ヒノキ科などを構成要素とする照葉樹林が考えられる。周辺には、ヨモギ属、イネ科を主とする乾燥地を好む人里植物が生育するやや乾燥した環境が分布していたと推定される。

東南隅最終床面直上最下層は花粉がほとんど検出されず、花粉などの有機質遺体が分解される乾燥ないし乾湿を繰り返す堆積環境が推定される。

下部より、14層では草本花粉の出現率が樹木花粉よりも高く、イネ科が極めて優占する。他に、アカザ科―ヒユ科、ヨモギ属、カヤツリグサ科などの人里植物や耕地雑草が生育していたと考えられ、やや乾燥した人為環境が分布していたと推定される。周辺には、スギをおもにイチイ科―イヌガヤ科―ヒノキ科、コナラ属アカガシ亜属、コナラ属コナラ亜属、モミ属などを構成要素とする森林がやや遠方に分布していたと考えられる。8層は花粉がほとんど検出されないが、これは堆積速度などに起因すると考えられる。3層および4層は、樹木花粉の占める割合が草本花粉よりもやや多く、近隣にコナラ属アカガシ亜属をおもにスギ、コナラ属コナラ亜属、シイ属、クリ、コナラ属コナラ亜属の林が増加して分布していたと考えられる。サジオモダカ属、カヤツリグサ科、タデ属サナエタデ節の水生植物が生育し、井戸S ED31が比較的浅くなり、水生植物が繁茂していたと考えられる。1層は花粉がほとんど検出されず、堆積速度が速かったか、花粉などの有機質遺体が分解される乾燥ないし乾湿を繰り返す堆積環境になったことが推定される。

## 6. まとめ

市田斉当坊遺跡より得られた堆積物について花粉分析を行った結果、以下のことがわかった。

(1) 弥生時代は、遺跡周辺にはイネ科をおもにヨモギ属、アカザ科―ヒユ科などの人里植物ないし耕地雑草の性格をもつ草本が生育し、集落などのやや乾燥した人為環境が分布していた。森林は近接して密度は高く分布していなかったとみなされ、周辺地域の森林植生は、コナラ属アカガシ亜属を主とし、シイ属、スギ、イチイ科―イヌガヤ科―ヒノキ科、コナラ属コナラ亜属などを要素とする照葉樹林が分布していた。

(2) D調査区井戸S ED31では、植生の変遷が認められた。下部ではイネ科をおもに草本が多く、上部はコナラ属アカガシ亜属をおもにシイ属、クリ、コナラ属コナラ亜属の樹木とサジオモダカ属、カヤツリグサ科、タデ属サナエタデ節の水生植物が多くなる。樹木の増加については、シイ属やクリが二次林要素でもあり、コナラ属アカガシ亜属に二次林要素のアラカシが含まれることから、広葉樹の二次林の拡大が考えられる。草本ではサジオモダカ属、カヤツリグサ科、タデ属サナエタデ節の水生植物が繁茂し、上部では井戸S ED31が使用されていなかった可能性が示唆

される。以上から、下部ではイネ科を主とする人里植物が繁茂し集落などの人為環境が広がるが、上部では井戸 S ED31に水生植物が繁茂し、周囲では広葉樹の二次林が拡大し、集落の衰退と二次林化が推定される。

(3) C調査区大溝(環濠) S DC25、溝 S DC114、溝 S DC434、大溝(環濠) S DC401は、花粉密度の低い試料(堆積物)が多かった。試料となった堆積物は、ほとんどが粘土シルトや粘質土の細粒堆積物であることから、花粉などの植物遺体の分解される乾湿を繰り返す堆積環境や土壌の堆積環境であった可能性が考えられる。このことから、これらの大溝(環濠)や溝は、常時滞水するような溝ではなく、農耕に伴って季節的などに水が流れるような溝であったとみなされる。

(4) D調査区方形周溝墓 S TD17南溝では、ヨモギ属、イネ科、カヤツリグサ科などの草本がわずかに検出されたが、花粉密度が極めて低いことから、花粉などの有機質遺体が分解される比較的乾燥した堆積環境が考えられた。このことから、方形周溝墓 S TD17の溝は空堀の状態であったとみられる。

#### 参考文献

中村純『花粉分析』(古今書院) 1973 pp.82-110.

金原正明「花粉分析法による古環境復原」(『新版古代の日本』第10巻 古代資料研究の方法 角川書店) 1993 pp.248-262.

島倉巳三郎「日本植物の花粉形態」(『大阪市立自然科学博物館収蔵目録』第5集 大阪市立自然科学博物館) 1973 p.60.

中村純「日本産花粉の標徴」(『大阪自然史博物館収蔵目録』第13集 大阪市立自然科学博物館) 1980 p.91.

中村純「イネ科花粉について、とくにイネ(*Oryza sativa*)を中心として」(『第四紀研究』13 日本第四期学会) 1974 pp.187-193.

中村純「稲作とイネ花粉」(『考古学と自然科学』第10号 日本文化財科学会) 1977 pp.21-30.

**補記** 本分析については、株式会社 古環境研究所に委託した。各遺構の試料採取層準については、古環境研究所報告の文章を基に、岩松・高野が報告書の記載に合うように調整し、内容の一部を割愛・変更した。



## 井戸および大溝から出土した大型植物化石

### 1. はじめに

市田斉当坊遺跡は、京都府久世郡久御山町市田新珠城に所在する。本遺跡では、これまでの発掘調査により、弥生時代の竪穴式住居跡、方形周溝墓などの遺構や土器、石器などの多量の遺物が検出されている。ここでは、弥生時代および古墳時代の遺跡付近での栽培・利用状況(食生活)および周辺植生を推定する目的で大型植物化石の検討を行った。

### 2. 試料

大型植物化石の検討は、井戸遺構(S EC108、S EC453)および大溝(環濠)遺構(S DC25、S D C90、S DC114、S DC401)の埋土より採取した合計11試料について行った。以下に各試料についての簡単な記載を示す。なお、大溝(環濠)遺構試料については、地質柱状図と試料採取層準を図1に示した。

S EC108(1試料)：井戸側内より採取した。図版第48の第5層で最大径1.5cm程度の礫を多く含む。時代は弥生時代末～古墳時代初頭である。

S EC453(1試料)：井戸側木枠内より採取した。黒褐色有機質粘土で時代は弥生時代中期前半である。図版第43層の第27層に相当する。

S DC25(3試料、試料1～3)：東壁より採取した。図版第58断面図13の試料1(上層)は淡褐色砂質土で最大径3cm程度の礫と炭化物をまばらに含む。試料2(下層)は暗褐色砂質土で炭化物

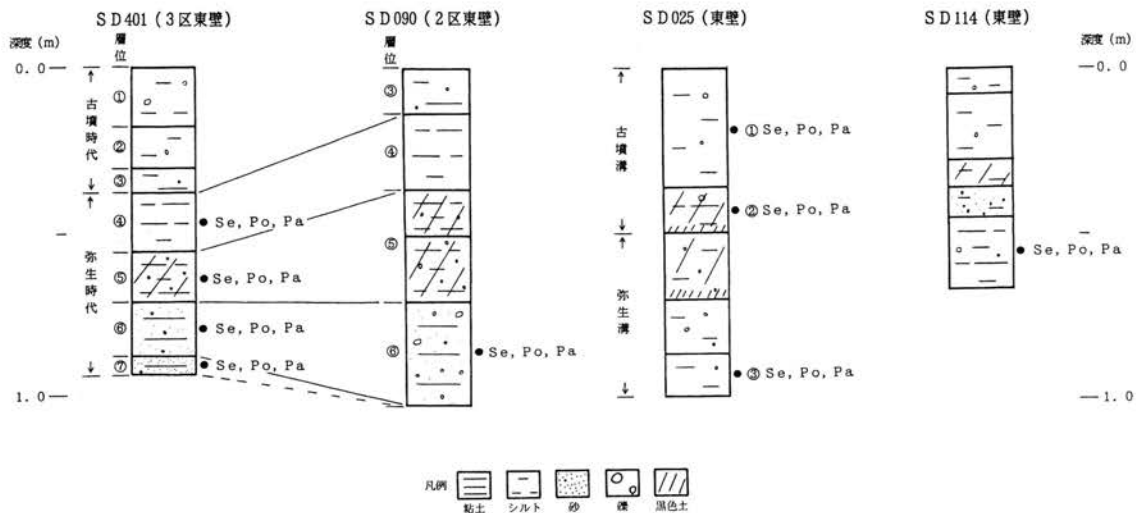


図1 試料採取地点の地質柱状図と試料採取層準

●：試料サンプル、Se：大型植物化石(種実)分析、Po：花粉分析、Pa：寄生虫卵分析

付表1 大型植物化石一覧表

(数字は200cc当りの個数、()内は半分ないし破片の数を示す)

分類群	部位	SE108	SE453
コナラ属	果実		(約10)…1~2個分
クワ属	種子		4(4)
ブドウ属	種子	(1)	1
サルナシ	種子		1
イネ	未炭化穎完形		3
	未炭化穎基部		899
	炭化穎基部		12
	炭化胚乳		1(1)
キビ	未炭化穎		1
	炭化胚乳		1
ヒエ近似種	炭化穎果		(2)
	炭化胚乳		1
アワ	炭化穎果		2
	未炭化穎		2(3)
	炭化穎		(1)
アワまたはエノコログサ属	炭化穎果		1
	炭化穎		(1)
エノコログサ属	未炭化穎		1(1)
イネ科	未炭化穎		(3)
カヤツリグサ属	果実		1
ホタルイ属	果実		1
カラムシ属	種子		1
サナエタデ近似種	果実		1
イヌタデ近似種	果実	1	
ギシギシ属	果実		3
ザクロソウ	種子		2
シロザ近似種	種子	2	7
ナデシコ科	種子		5(1)
カタバミ属	種子		6(3)
シソ属	果実		(1)
メロン仲間	種子		1
ナス科	種子		3(1)
オナモミ	果実		1

と最大径5cm程度の礫をまばらに含む。試料3(弥生溝最下層)は暗灰褐色砂質土で最大径2cm程度の礫をごく僅かに含む。図版第58の断面図11では、1・3・8層に相当する。時代は試料1・2が古墳時代、試料3が弥生時代(中期後半)である。

S DC90(1試料):2区東壁の第10層(最下層)より採取した。図版第59図の断面図13の灰色粘土で最大径6cm程度の礫を非常に多く含み、褐鉄鉱が発達する。時代は弥生時代中期後半である。

S DC114(1試料):東壁の最下層より採取した。図版第58の

断面図11の第16層に相当し、暗褐色礫混砂質土で最大径3cm程度の礫をまばらに含み、炭化物をやや多く含む。時代は、弥生時代中期中葉~中期後半である。

S DC401(4試料、試料1~4):3区東壁より採取した。図版第59の断面図15と対照すると、試料1は第4層の緑灰色シルトないしシルト質粘土で褐鉄鉱が発達する。試料2は第5層の暗褐色粘質土ないしシルト質粘土で最大径1.5cm程度の礫をやや多く含み、褐鉄鉱がやや発達する。試料3は第6層のシルト混粘質土で最大径1.5cm程度の礫をやや多く含む。試料4は第7層の灰緑色砂質土で最大径1.0cm程度の礫を少し含む。時代はいずれの試料も弥生時代中期後半で、第5層は出土遺物がとくに多い。

### 3. 方法

大型植物化石の採集は、堆積物試料を0.25mm目の篩を用いて水洗篩い分けをし、残渣中の大型植物化石を実体顕微鏡下で拾い上げるという方法で行った。処理量はS EC108、S EC453は約200ccでその他は約100cc前後である。

### 4. 出土した大型植物化石

S EC108、S EC453以外の試料は大型植物化石を全く含んでいなかった。以下にS EC108、S EC453から出土した大型植物化石を示す。なお、その一覧を付表1に示した。

[S EC108から出土した大型植物化石(合計3分類群)]

木本(1分類群):ブドウ属(種子)

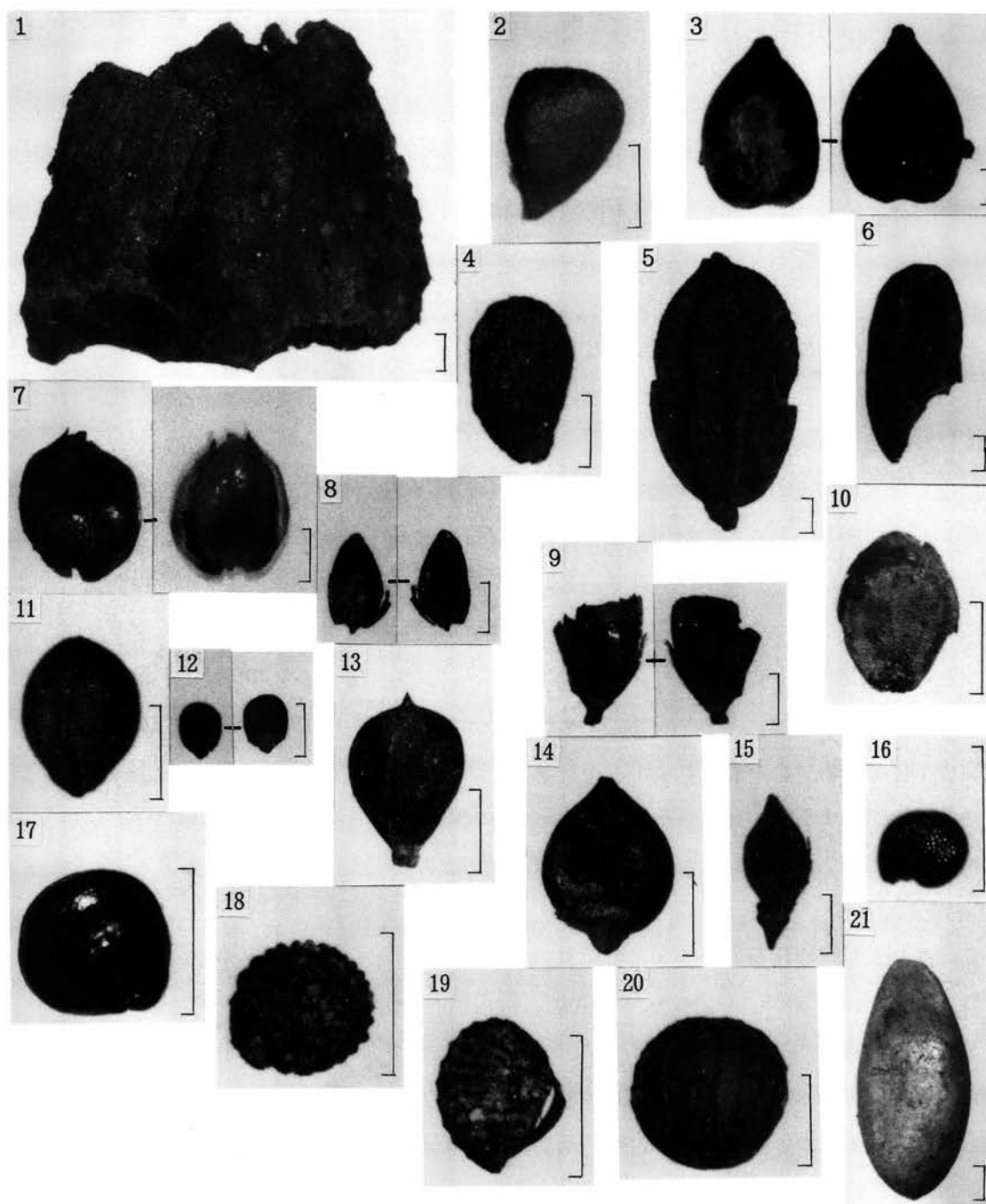


図2 C調査区 井戸S EC453から出土した大型植物化石(Scaleはすべて1mm)

- |             |               |              |                |            |
|-------------|---------------|--------------|----------------|------------|
| 1. コナラ属果実破片 | 2. クワ属種子      | 3. ブドウ属種子    | 4. サルナシ種子      | 5. イネ未炭化穎  |
| 6. イネ炭化胚乳   | 7. キビ未炭化穎     | 8. キビ炭化胚乳    | 9. ヒエ近似種炭化穎果破片 | 10. アワ未炭化穎 |
| 11. アワ炭化穎果  | 12. ヒエ近似種炭化胚乳 | 13. ホタルイ属果実  | 14. サナエタデ近似種果実 |            |
| 15. ギシギシ属果実 | 16. ザクロソウ種子   | 17. シロザ近似種種子 | 18. ナデシコ科種子    |            |
| 19. カタバミ属種子 | 20. シソ属果実     | 21. メロン仲間種子  |                |            |

草本(2分類群)：イヌタデ近似種(果実)、シロザ近似種(種子)

〔S EC453から出土した大型植物化石(合計24分類群)〕

木本(4分類群)：コナラ属(果実)、クワ属(種子)、ブドウ属(種子)、サルナシ(種子)

草本(20分類群)：イネ(未炭化穎、炭化穎、炭化胚乳)、キビ(未炭化穎、炭化胚乳)、ヒエ近似

種(炭化穎果、炭化胚乳)、アワ(炭化穎果、未炭化穎、炭化穎)、アワまたはエノコログサ属(炭化穎果、炭化穎)、エノコログサ属(未炭化穎)、イネ科(未炭化穎)、カヤツリグサ属(果実)、ホタルイ属(果実)、カラムシ属(種子)、サナエタデ近似種(果実)、ギシギシ属(果実)、ザクロソウ(種子)、シロザ近似種(種子)、ナデシコ科(種子)、カタバミ属(種子)、シソ属(果実)、メロン仲間(種子)、ナス科(種子)、オナモミ(果実)

## 5. まとめ

大溝(環濠)遺構の各試料は大型植物化石を全く含んでいなかったため、ここでは井戸遺構、とくにS EC453の試料から出土した大型植物化石から弥生時代中期前半の栽培・利用状況(食生活)および周辺植生の推定をする。

出土したもののうち、栽培植物と考えられるものはイネ、キビ、ヒエ近似種、アワ、シソ属、メロン仲間であり、その可能性のあるものはアワまたはエノコログサ属である。これらが、付近で栽培されていたのか、周辺から持ち込まれたものかは不明であるが、弥生時代中期前半にはすでに食用とされていたことは明らかであろう。井戸周辺にはコナラ属、クワ属、ブドウ属、サルナシといった樹木が生育しており、草本類ではエノコログサ属、カラムシ属、ギシギシ属、ザクロソウ、シロザ近似種、カタバミ属、オナモミなどの乾いた所に生育する分類群が目立ち、乾いた環境が優勢であったと思われるが、ホタルイ属、サナエタデ近似種といった低湿地の雑草もわずかながら出土するので、これらが生育するような湿地も存在していたのであろう。なお、コナラ属、クワ属、ブドウ属、サルナシの果実は食用として利用可能である。

## 6. 主な大型植物化石の形態などの記載

### (1)イネ *Oryza sativa* Linn. 未炭化穎、炭化穎、炭化胚乳

S EC453の埋土中には、非常に多くのイネ穎が含まれており、その大半は炭化しておらず(未炭化)、破片であった。完形のもの3点は全て採取したが、破片は比較的大きなものだけで細かなものは採取しなかった。ただし、穎の基部は完形がどれだけ入っていたかを推定する目安となるので全て採取し、計数した。以上のことから、一覧表中には破片については穎基部の個数のみを示したが、基部のみが出土したというわけではない。

### (2)キビ *Panicum miliaceum* Linn. 未炭化穎、炭化胚乳

炭化胚乳は長さ約2.0mm、幅約1.1mmで先端部は細くなり、尖り気味となる。胚部分の長さは、果実長の約1/2程度。やや細長すぎるように思われるが、長さが長く、先端部が尖り気味であり、果実長に占める胚部分の長さも短いため、ヒエやアワではなく、キビとした。

### (3)ヒエ近似種 *Echinochloa* cf. *crus-galli* P.Beauv. var. *fumentacea* Trin. 炭化穎果、炭化胚乳

炭化穎果は穎の表面に突起がなく、穎果の外形からヒエと思われるが、破片であり、ヒエ近似種とした。炭化胚乳は胚の長さが果実長の約2/3を占め、へそはうちわ形であることからヒエと

思われる。しかし、へその形態は不明瞭で細長い楕円形というよりは、むしろうちわ形という程度なのでヒエ近似種とした。

(4)アワ *Setaria italica* Beauv. 炭化穎果、未炭化穎、炭化穎

穎の表面には、やや規則的に配列するアワ特有の突起があり、横方向の波状の隆起があるように見える。

(5)アワまたはエノコログサ属 *Setaria italica* Beauv. and/or *Setaria* 炭化穎果、炭化穎  
炭化穎果は明らかなアワ炭化穎果とともに出土したが、アワにしてはやや細長いように思われるのでアワまたはエノコログサ属とした。炭化穎は破片であり、アワともエノコログサ属とも区別し得なかった。

(6)イネ科 Gramineae 穎

穎の破片であることから、同定は控えたが、穎の表面から判断して、アワやエノコログサ属ではなく、出土したものの中から判断する限りではキビかヒエの可能性が高いと思われる。

(7)シソ属 *Perilla* 果実

長さが約1.9mmあり、シソ、エゴマの類と考えられる。

(8)メロン仲間 *Cucumis melo* Linn. 種子

側面観はやや先が尖る長楕円形。上面観は薄い両凸レンズ形。長さ約6.8mm、幅約3.2mmで藤下(1984)による長さ6.1~8.0mmの中粒種子(マクワ・シロウリ型)にあたる。

#### 参考文献

吉崎昌一「北海道恵庭市柏木川11遺跡の植物遺体」(『柏木川11遺跡』 北海道恵庭市教育委員会) 1990 pp.104-113

藤下典之「出土遺体よりみたウリ科植物の種類と変遷とその利用法」(『古文化財に関する保存科学と人文・自然科学—総括報告書』 同朋社) 1984 pp.638-654

補記 本分析については、株式会社 パレオ・ラボに委託した。この分析は、トイレ遺構分析として付論8・9と共に報告されたものを、分割して掲載したものである。各遺構の試料採取層準については、パレオ・ラボ報告の文章を基に、岩松が報告書の記載に合うように調整し、内容の一部を割愛・変更した。





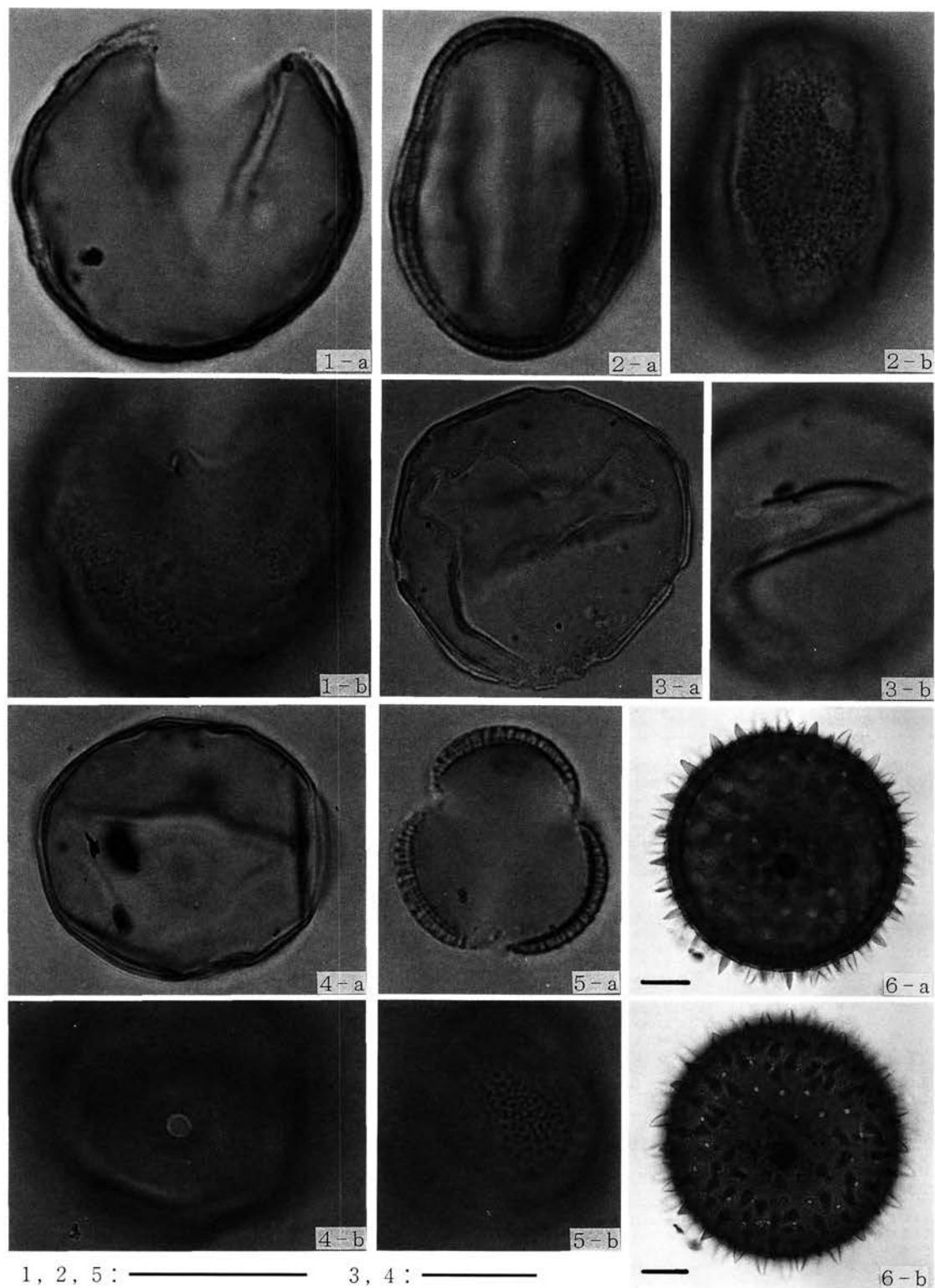


図2 C調査区各遺構の花粉化石(Scale bar=20 $\mu$ m)

- |                                     |                                      |
|-------------------------------------|--------------------------------------|
| 1. スギ PLC.SS 2680 S DC25-①          | 4. イネ科 PLC.SS 2682 S EC108           |
| 2. コナラ属アカガシ亜属 PLC.SS 2678 S DC401-⑥ | 5. アブラナ科 PLC.SS 2681 S EC108         |
| 3. クルミ属 PLC.SS 2677 S DC401-⑥       | 6. タチアオイ属-フヨウ属 PLC.SS 2679 S DC401-⑥ |



した。

## 2. 分析結果

検出された花粉・胞子の分類群数は樹木花粉39、草本花粉23、形態分類を含むシダ植物孢子4の計66である。これら花粉・胞子の一覧を付表1に、また、主要な花粉・胞子の分布を図1に示したが、S DC25の①および③試料においては検出できた花粉数が少ないため参考程度にみていただきたい。なお、分布図は全花粉胞子総数を基数として百分率で示してある。また、図および付表1においてハイフンで結んだ分類群はそれら分類群間の区別が困難なものを示し、クワ科・バラ科・マメ科の花粉は樹木起源と草本起源のものがあるが、各々に分けることが困難なため便宜的に草本花粉に一括して入れてある。

検鏡の結果、樹木類ではコナラ属アカガシ亜属が最も多く、S DC401遺構では10~20%の出現率を示している。コウヤマキ属は出現率については多くが5~10%とそれほど高くはないが、ほぼ安定した出現傾向を示している。エノキ属—ムクノキ属はS DC401遺構の⑥・⑦およびS DC90の⑥においてやや多く検出されており、カエデ属も同様の傾向がみられる。その他、スギ、コナラ属コナラ亜属、シイノキ属などが多くの試料より検出され、トチノキ属、ブドウ属、マタビ属などがわずかに観察される。

草本類はイネ科が最も多く、S EC453では70%に達している。ヨモギ属もイネ科とともに全試料から得られ、5%前後と、ほぼ安定した出現率を示している。アカザ科—ヒユ科は、S DC25の3試料において40%弱と突出した出現率を示し、カヤツリグサ科は、S DC401の5層試料でやや高い出現率を示している。アブラナ科も多くの試料より検出され、S DC25やS EC108試料などでやや高い出現率を示している。また、クワ科も低率ではあるが多くの試料より得られ、水生植物(抽水植物)のサジオモダカ属、オモダカ属、ミズアオイ属、アヤメ科などがわずかに観察される。

## 3. 産出花粉化石の特徴

イネ科花粉が30%前後と高い出現率を示し、その大半がイネ属と同様の表面形態を有している。また、水生植物のサジオモダカ属やオモダカ属、ミズアオイ属など、現在の水田において水田雑草として普通にみられる抽水植物群も検出されている。さらに、大量のイネの部位もS EC453から得られている。このように、植物化石は水田稲作を示す結果となっており、遺跡周辺における水田域の存在が予想される。こうしたなか、大量のイネの部位が検出されたS EC453遺構においてイネ科花粉が70%を占めている。本遺構は井戸あるいはトイレ？(付論9、寄生虫卵分析の項参照)と考えられ、堆積盆としては閉鎖的である。こうした環境下において高い優占率を示すイネ科花粉は大量のイネの部位の検出を考え合わせ、稲藁や稲朶などが廃棄された結果を示していると考えられる。

同様のことがS EC108遺構のアブラナ科にもいえよう。本遺構も井戸と考えられ、堆積盆とし

ては閉鎖的である。また、アブラナ科は虫媒花であり、散布能力は小さく、花粉生産量も少ない。こうした状況のもと S EC108遺構ではアブラナ科花粉が多く検出されており、アブラナ科植物が捨てられたことを示している可能性が考えられよう。ちなみにアブラナ科の栽培種としては縄文時代の遺跡からも見つかったカブ、弥生時代に中国から伝わったダイコンなどが考えられよう。<sup>(注)</sup>

大溝(環濠)試料においては、S DC25の3層試料③でアカザ科-ヒユ科が突出した出現を示している。本試料においては炭化物片が多く認められ、土手などに生育していたアカザ科-ヒユ科が刈られ、炭化物片とともに廃棄されたことが考えられる。一方、本試料においては花粉化石の産出数が少なく、よってアカザ科-ヒユ科は過大に表現されている可能性がある。このように、S DC25の③におけるアカザ科-ヒユ科花粉の高率出現についてはアカザ科-ヒユ科植物の廃棄、あるいは過大表現によることが推察され、現時点ではどちらか判断できないと考える。

以上のように、井戸あるいはトイレ遺構の2試料において、アブラナ科やイネの廃棄が花粉分析結果から推察される。

注 日向康吉「アブラナ、ダイコン」(『週間朝日百科 植物の世界』67 朝日新聞社) 1995 pp.198  
207.

補記 本分析については、株式会社 パレオ・ラボに委託した。この分析は、トイレ遺構分析として付論7・9と共に報告されたものを、分割して掲載したものである。そのため、内容の一部にそれぞれの付論を参照する記述がある。また、各遺構の試料採取層準については、パレオ・ラボ報告の文章を基に、岩松が報告書の記載に合うように調整し、内容の一部を割愛・変更した。

## 市田齊当坊遺跡の寄生虫卵

京都府久世郡久御山町に所在する市田齊当坊遺跡の発掘調査で検出された環濠遺構、井戸遺構について、トイレの可能性や生活汚物の混入などを検討する目的で試料が採取された。以下にはこれらの遺構より採取された土壌試料について寄生虫卵分析を行い、トイレとしての可能性について検討した。

## 1. 試料と分析方法

試料は環濠遺構 S DC401、S DC25、S DC90、S DC114と井戸遺構 S EC108、S EC453より採取された11試料である。各試料について、S DC401は④層から最下層⑦層の4試料で、おおむね灰色系のシルトや粘土で、下部ほど砂や小レキが多く混入している。時代は弥生時代中期後半である。S DC25(東壁)は古墳時代の溝と弥生時代中期後半の溝の複合遺構で、分析試料は古墳の溝①・②層および弥生の溝下層③層の3試料で、炭化物や小レキを含むおおむね黒灰色の砂質粘土～シルトである。弥生時代中期後半のS DC90(2区東壁)は最下部⑥層の黒～黒灰色砂質粘土1試料である。S DC114は最下層より採取された1試料で、土層は炭片や小レキが点在する黒～黒灰色砂質粘土である(弥生時代中期中葉～中期後半)。S EC108は最下部の5層より採取された1試料で、年代はB.C. 3～2世紀後半である。S EC453は井戸枠内より採取された1試料で、時代は弥生時代中期前半(B.C. 2世紀頃)である。試料採取層位の詳細は、付論7を参照されたい。

これら11試料について以下のような手順にしたがって寄生虫卵分析を行った。

堆積を測定した各試料を遠沈管にとり、10%の水酸化カリウム溶液を加え20分間湯煎する。水洗後、0.5mm目の篩にて植物遺体などを取り除き、傾斜法を用いて粗粒砂分を除去する。次に

試料No.	全寄生 虫卵	鞭虫卵	回虫卵
SD401-④	0	0	0
-⑤	0	0	0
-⑥	0	0	0
-⑦	0	0	0
SD025-①	0	0	0
-②	0	0	0
-③	0	0	0
SD090-⑥	0	0	0
SD114	0	0	0
SE108	0	0	0
SE453	1488	1091	397

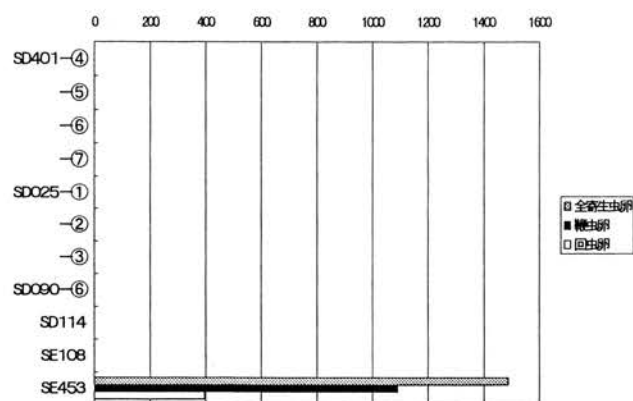


図1 試料1cc中の寄生虫卵個数(左)と寄生虫卵分布図(右)

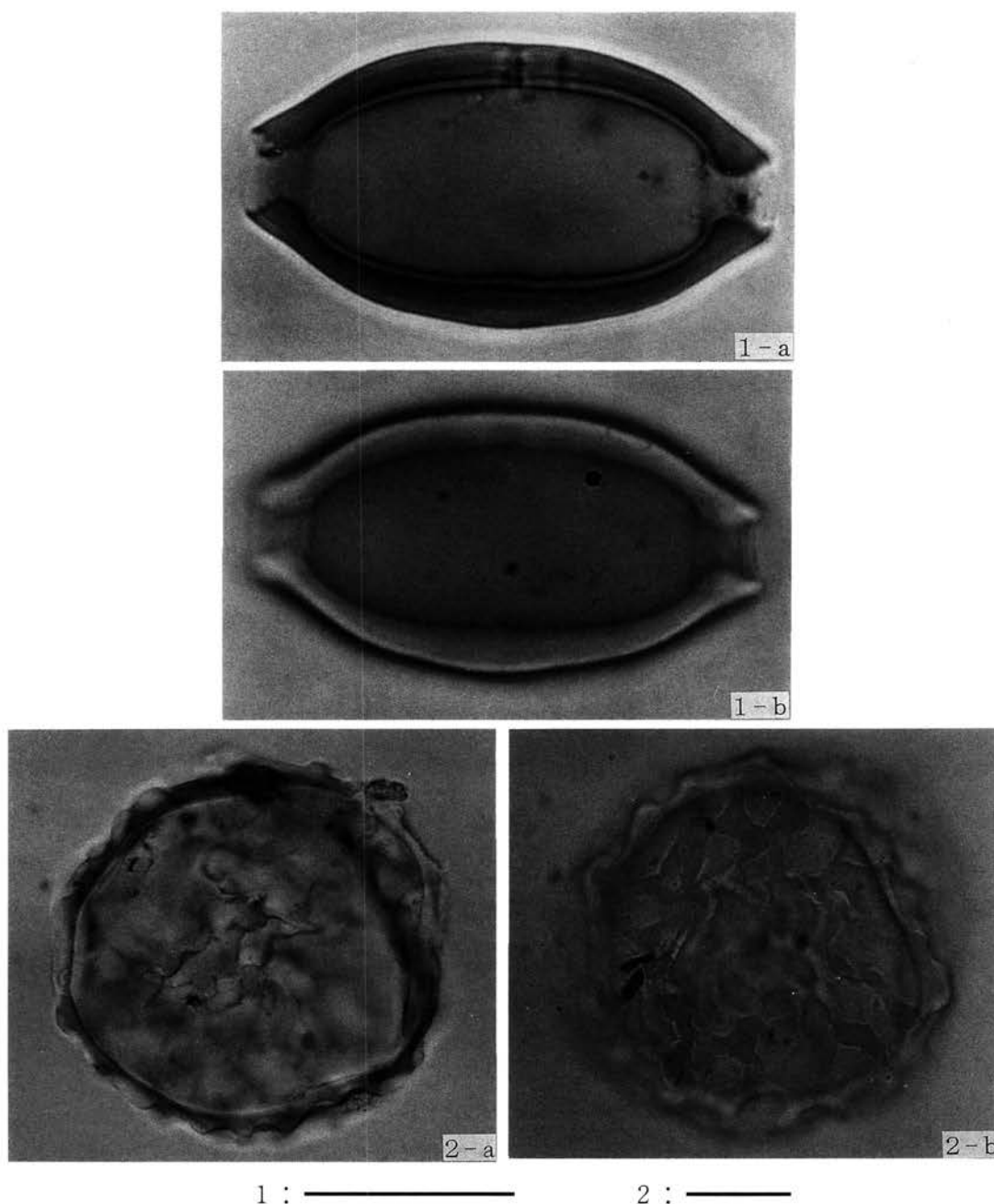


図2 C調査区井戸S EC453の寄生虫卵 (Scale bar=20 $\mu$ m)

1 : 鞭虫卵 PLC.SS 2675      2 : 回虫卵 PLC.SS 2676

46%のフッ化水素酸溶液を加え20分間放置する。水洗後、比重分離(比重2.1に調整した臭化亜鉛溶液を加え遠心分離)を行い、浮遊物を回収し、水洗する。水洗後、酢酸処理を行い、続けてアセトリシス処理(無水酢酸9 : 1濃硫酸の割合の混酸を加え3分間湯煎)を行う。水洗後、残渣にグリセリンを加え保存用とする。検鏡はこの残渣より適宜プレパラートを作成して行い、その際サフラニンにて染色を施した。

## 2. 寄生虫卵分析結果

観察の結果、井戸遺構 S EC453の1試料のみより寄生虫卵が認められた(付表1)。すなわち、試料1cc当たり鞭虫卵が1,091個、回虫卵が397個、合わせて1,488個の寄生虫卵が検出された。その他の試料からは得られず、生活廃棄物が多く混入しているとみられた溝 S DC25においても寄生虫卵は検出されず、炭化物片が多く観察された。

### 3. トイレ遺構について

上記したように井戸遺構 S EC453より比較的多くの寄生虫卵が観察された。ここで寄生虫卵個数について示すと、試料1cc中に1,000個以上の寄生虫卵があれば糞便の可能性があると考えられている。<sup>(注)</sup> 今回の分析ではこれを越える約1,500個の寄生虫卵が検出されており、金原に従えば分析試料は糞便である可能性が高いと判断されよう。よって、遺構としてはトイレ遺構である可能性が示唆された。寄生虫卵分析からは言えよう。しかしながら本遺構は、発掘当初は井戸と考えられていた遺構であることから、トイレか井戸かについては多方面からの検討のうえ判断されたい。

このように、S EC453遺構においては比較的多くの寄生虫卵が検出され、寄生虫卵分析からはトイレ遺構である可能性が示された。しかしながら、同じ井戸遺構と考えられている S EC108遺構においては寄生虫卵は観察されず、糞便に汚染されている可能性は低いと判断される。また、環濠遺構試料についても寄生虫卵が検出されないことから糞便に汚染されている可能性は低いと判断される。

注 金原正明「自然科学的研究からみたトイレ文化」(『トイレの考古学』 大田区立郷土博物館) 1997 pp. 197-216.

補記 本分析については、株式会社 パレオ・ラボに委託した。この分析は、トイレ遺構分析として付論8・9と共に報告されたものを、分割して掲載したものである。そのため、内容の一部にそれぞれの付論を参照する記述がある。また、各遺構の試料採取層準については、パレオ・ラボ報告の文章を基に、岩松が報告書の記載に合うように調整し、内容の一部を割愛・変更した。

付 論 10

## B 調査区土坑 S KB911から出土した 焼土塊について

### 1. はじめに

市田齊当坊遺跡から赤化した焼土塊が多数出土した。これらの焼土塊のうち、7つのブロックで接合が確認されている(図1)。接合した焼土塊は、内部に最大厚さ10cm程度の褐灰色のシルト質粘土部からなる赤化焼土塊であり、熱を受けた面が平坦面をもち、反対側には数条の削り痕をもつ形状を呈す。本報告では、熱を受けた平坦面を「表面」、反対側の数条の削り痕をもつ面を「裏面」として扱っていく。

今回、焼土塊の材料について記載を行い、焼成による生成物の有無を確認するために、薄片を作成し偏光顕微鏡で観察する薄片分析を行った。なお、この焼土塊が青銅器鑄造施設ではないかと推測されたことから、青銅の成分が検出されるか確認する為、蛍光X線分析も行った。また、この焼土塊がどれくらいの温度で焼かれていたのかを検討する為、X線回折分析を行った。

### 2. 試料と方法

分析に先立って、焼土塊の肉眼観察を行った。薄片分析と蛍光X線分析とX線回折分析については分析項目ごとに以下にまとめた。

#### (1) 薄片分析

試料は、大型焼土塊の一部と思われる小塊1点を選び出し、以下に示す方法で薄片を作成した。なお、試料は、面積約3cm<sup>2</sup>程度(1.5×2.0cm)を使用した。

a. 試料は、始めに岩石カッターなどで整形し、恒温乾燥機により乾燥した。乾燥後、全体にエポキシ系樹脂を含浸させ固化処理を行った。これをスライドガラスに接着した後、精密岩石薄片作製機を用いて平面を作成し、同様にしてその平面の固化処理を行った。

b. さらに、研磨機およびガラス板を用いて研磨し、平面を作成した後スライドガラスに接着した。

c. その後、精密岩石薄片作製機を用いて切断し、ガラス板などを用いて研磨し、厚さ0.02mm前後の薄片を作成した。仕上げとして、研磨剤を含ませた布板上で琢磨し、コーティング剤を塗布した。

各薄片試料は、偏光顕微鏡下300倍で分類群ごとに同定・計数する。同定・計数は、100 $\mu$ m格子目盛を用いて任意の位置における約50 $\mu$ m(0.05mm)以上の鉱物や複合鉱物類(岩石片)あるいは微化石類(50 $\mu$ m前後)を対象とし、微化石類と石英・長石類以外の粒子が約100個以上になるまで

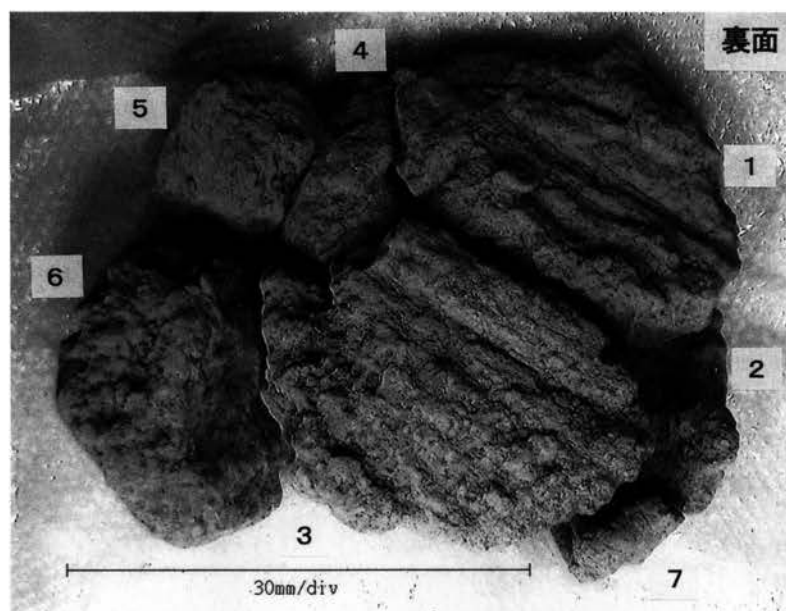
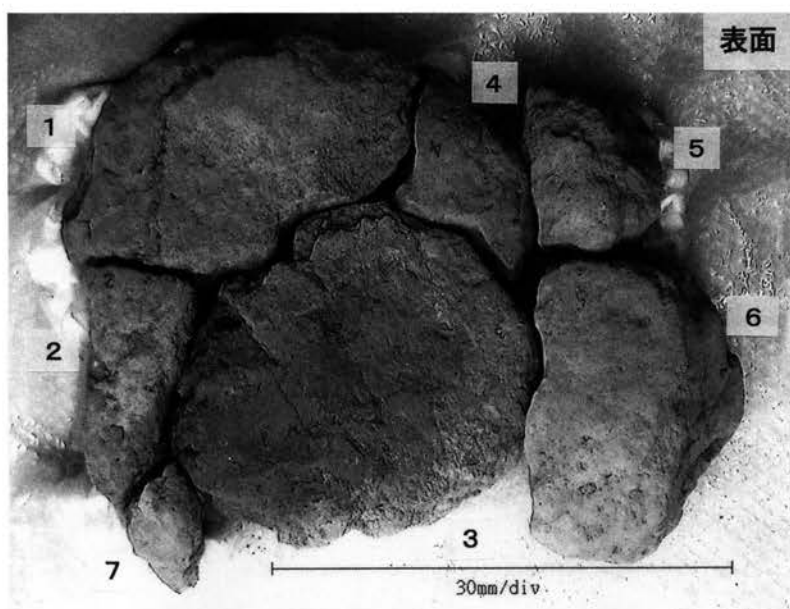


図1 B調査区土坑S KB911出土焼土塊ブロック(1～7：ブロック番号)

行った。また、この計数とは別に薄片全面について、微化石類(珪藻化石、骨針化石、孢子化石)や大型粒子などの特徴についても観察・記載した。

細礫～砂サイズ以下の粒子を偏光顕微鏡により同定する場合、粒子が細粒であるため同定が困難である場合が多い。特に、岩石片については、岩石片中に含まれる鉱物数がきわめて少ないため、岩石名を決定することが事実上不可能である場合が多い。ここでは岩石名を付けず、岩石片を構成する鉱物や構造的な特徴に基づいて分類した(菱田ほか1993)。なお、試料の特徴を抽出するために、鉱物や岩石片以外の生物起源の粒子(微化石類)も同時に計数した。ここで採用した各分類群の記載とその特徴などは以下の通りである。なお、各鉱物の光学的性質についてはその記

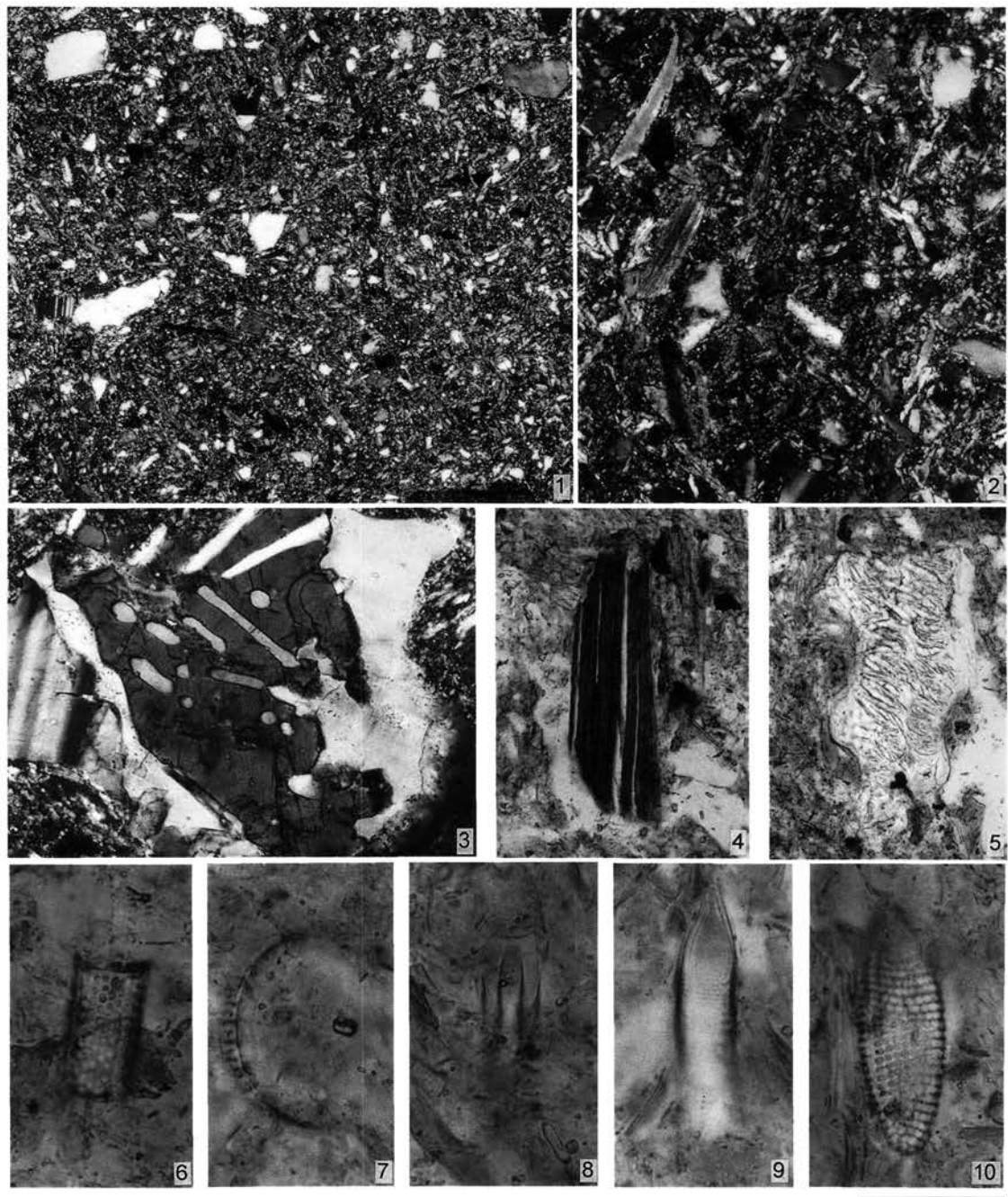


図2 焼土塊中の粒子顕微鏡写真(Scale No 1:1mm、No 2～4:100 $\mu$ m、No 6～10:20 $\mu$ m)

1. 状況写真1(直交ニコル) 2. 状況写真2(直交ニコル) 3. 紋象岩(直交ニコル) 4. 雲母類(解放ニコル)  
 5. イネ類珪酸体化石 6. 湖沼指標種群珪藻化石 *Melosira granulata* 7. 珪藻化石 *Melosira*属  
 8. 骨針化石 9. 陸域指標種群珪藻化石 *Hantzschia amphioxys* 10. 汽水種 *Achnanthes brevipes*

述を省略する。

〔骨針化石〕

海綿動物の骨格を形成する小さな珪質、石灰質の骨片で、細い管状や針状などを呈する。海綿動物は、多くは海産であるが、淡水産としても日本において23種ほどが知られ、湖や池あるいは川の水底に横たわる木や貝殻などに付着して生育する。



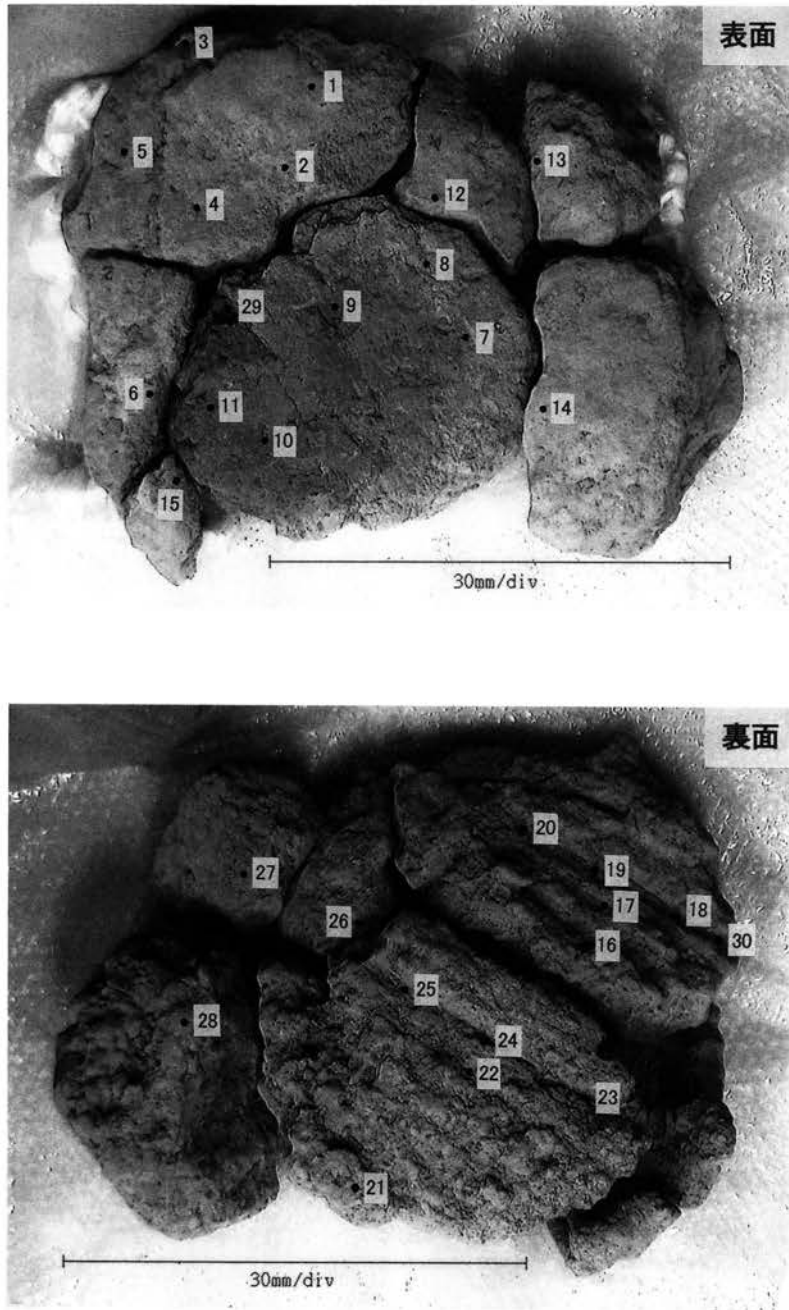


図3 試料採取部(No 1～28：蛍光X線分析用 No29、No30：X線回折用)

### 〔珪藻化石〕

珪酸質の殻をもつ微小な藻類で、その大きさは10～数100 $\mu$ m程度である。珪藻は海水域から淡水域に広く分布し、個々の種類によって特定の生息環境をもつ。最近では、小杉(1988)や安藤(1990)によって環境指標種群が設定され、具体的な環境復原が行われている。ここでは、種あるいは属が同定できるものについて珪藻化石(海水種)・珪藻化石(汽水種)・珪藻化石(淡水種)と分類し、同定できないものは珪藻化石(?)とした。なお、試料中の珪藻化石の詳細については、計数外の特徴とともに記載した。

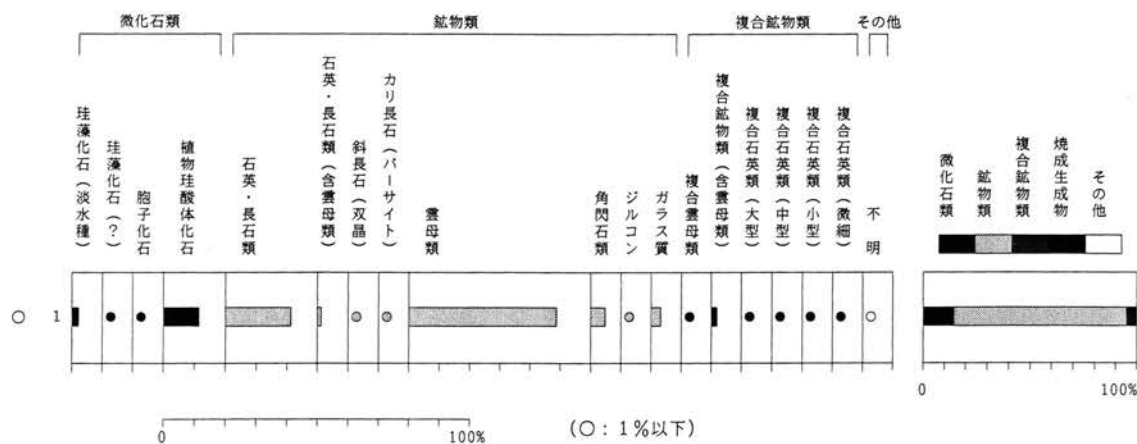


図4 赤化焼土塊中の粒子組成図(全分類群を基数とした百分率)  
 [粘土の区分(試料番号左記号)] ○: 淡水成粘土(淡水種珪藻化石などの出現)

**[植物珪酸体化石]**

植物の細胞組織を充填する非晶質含水珪酸体であり、大きさは種類によっても異なり、主に約10~50 $\mu$ m前後である。一般的にプラント・オパールとも呼ばれ、イネ科草本、スゲ、シダ、トクサ、コケ類などに存在することが知られている。ファン型や垂鈴型あるいは棒状などがあるが、ここでは大型のファン型と棒状を対象とした。

**[孢子化石]**

孢子状粒子は、珪酸質と思われる直径10~30 $\mu$ m程度の小型無色透明の球状粒子である。これらは、水成堆積中で多く見られるが、土壌中にも含まれる。

**[石英・長石類]**

石英あるいは長石類は、いずれも無色透明の鉱物である。長石類のうち後述する双晶などのように光学的に特徴をもたないものは石英と区別するのが困難である場合が多く一括して扱う。なお、石英・長石類(雲母)は、黄色などの細粒雲母類が包含される石英または長石類である。

**[長石類]**

長石は大きく斜長石とカリ長石に分類される。斜長石は、双晶(主として平行な縞)を示すものと累帯構造(同心円状の縞)を示すものに細分される(これらの縞は組成の違いを反映している)。カリ長石は、細かい葉片状の結晶を含むもの(パーサイト構造)と格子状構造(微斜長石構造)を示すものに分類される。また、ミルメカイトは斜長石と虫食い状石英との連晶(微文象構造という)である。累帯構造を示す斜長石は、火山岩中の結晶(斑晶)の斜長石にみられることが多い。パーサイト構造を示すカリ長石はカコウ岩などのSiO<sub>2</sub>%の多い深成岩や低温でできた泥質・砂質の変成岩などに産する。

ミルメカイトあるいは文象岩は火成岩が固結する過程の晩期に生じると考えられている。これら以外の斜長石は、火成岩、堆積岩、変成岩に普通に産する。

**[雲母類]**

一般的には黒雲母が多く、黒色から暗褐色で風化すると金色から白色になる。形は板状で、へ

付表1 蛍光X線分析により各試料から検出された元素

[元素記号]Al:アルミニウム、Si:ケイ素、P:リン、S:イオウ、K:カリウム、Ca:カルシウム、Ti:チタン、Cr:クロム、Mn:マンガン、Fe:鉄、Ni:ニッケル、Cu:銅、Zn:亜鉛、Rb:ルビジウム、Sr:ストロンチウム、Zr:ジルコニウム、Sn:スズ、Pb:鉛、  
[記号]+:検出、-:未検出(+の数が多くほど高く検出されことを表す)

No.	面	ブロックNo.	検出された元素	青銅に関する元素			青銅の有無	
				Cu	Sn	Pb		
1	表面	1	Al,Si,P,S,K,Ca,Ti,Cr,Mn,Fe,Cu,Zn,Sr	+	-	-	無し	
2			Al,Si,P,S,K,Ca,Ti,Cr,Mn,Fe,Ni,Cu,Zn,Rb,Sr,Zr	+	-	-	無し	
3			Al,Si,P,S,K,Ca,Ti,Cr,Mn,Fe,Cu,Zn,Sr,Zr	+	-	-	無し	
4			Al,Si,P,S,K,Ca,Ti,Cr,Mn,Fe,Ni,Cu,Zn	+	-	-	無し	
5			Al,Si,P,S,K,Ca,Ti,Cr,Mn,Fe,Cu,Zn	+	-	-	無し	
6		2	Al,Si,P,S,K,Ca,Ti,Mn,Fe,Ni,Cu,Zn	+	-	-	無し	
7		3	Al,Si,P,S,K,Ca,Ti,Cr,Mn,Fe,Cu,Zn	+	-	-	無し	
8			Al,Si,P,S,K,Ca,Ti,Cr,Mn,Fe,Ni,Cu,Zn,Sr,Zr	+	-	-	無し	
9			Al,Si,S,K,Ca,Ti,Cr,Mn,Fe,Ni,Cu,Zn	+	-	-	無し	
10			Al,Si,S,K,Ca,Ti,Cr,Mn,Fe,Ni,Cu,Zn,Zr	+	-	-	無し	
11			Al,Si,S,K,Ca,Ti,Mn,Fe,Cu,Zn	+	-	-	無し	
12			4	Al,Si,P,S,K,Ca,Ti,Cr,Mn,Fe,Cu,Zn,Rb	+	-	-	無し
13			5	Al,Si,P,S,K,Ca,Ti,Cr,Mn,Fe,Ni,Cu,Zn	+	-	-	無し
14		6	Al,Si,S,K,Ca,Ti,Cr,Mn,Fe,Cu,Zn	+	-	-	無し	
15		7	Al,Si,P,S,K,Ca,Ti,Cr,Mn,Fe,Cu,Zn,Sr	+	-	-	無し	
16	裏面	1	Al,Si,P,S,K,Ca,Ti,Mn,Fe,Ni,Cu,Zn,Zr	+	-	-	無し	
17			Al,Si,P,S,K,Ca,Ti,Cr,Mn,Fe,Ni,Cu,Zn,Rb,Sr,Zr	+	-	-	無し	
18			Al,Si,P,S,K,Ca,Ti,Cr,Mn,Fe,Ni,Cu,Zn	+	-	-	無し	
19			Al,Si,S,K,Ca,Ti,Mn,Fe,Cu,Zn,Zr	+	-	-	無し	
20			Al,Si,P,S,K,Ca,Ti,Cr,Mn,Fe,Cu,Zn,Sr	+	-	-	無し	
21		3	Al,Si,P,S,K,Ca,Ti,Cr,Mn,Fe,Cu,Zn	+	-	-	無し	
22			Al,Si,P,S,K,Ca,Ti,Cr,Mn,Fe,Cu,Zn	+	-	-	無し	
23			Al,Si,P,S,K,Ca,Ti,Cr,Mn,Fe,Cu,Zn	+	-	-	無し	
24			Al,Si,P,S,K,Ca,Ti,Cr,Mn,Fe,Ni,Cu,Zn	+	-	-	無し	
25			Al,Si,P,S,K,Ca,Ti,Cr,Mn,Fe,Ni,Cu,Zn	+	-	-	無し	
26			4	Al,Si,P,S,K,Ca,Ti,Cr,Mn,Fe,Ni,Cu,Zn	+	-	-	無し
27		5	Al,Si,P,S,K,Ca,Ti,Mn,Fe,Cu,Zn,Sr	+	-	-	無し	
28	6	Al,Si,P,S,K,Ca,Ti,Mn,Fe,Cu,Zn,Zr	+	-	-	無し		

分析は熱を受けて溝が多く残っているブロック1とブロック3を中心に行った。  
なお、ブロック2とブロック7は裏面が無かったので分析は行っていない。

き開(規則正しい割れ目)にそって板状には剥がれ易い。薄片上では長柱状や層状に見える場合が多い。カコウ岩などのSiO<sub>2</sub>%の多い火成岩に普遍的に産し、泥質、砂質の変成岩および堆積岩にも含まれる。なお、雲母類のみが複合した粒子を複合雲母類とした。

[輝石類]

主として斜方輝石と単斜輝石とがある。斜方輝石(主に紫蘇輝石)は、肉眼的にビールびんのような淡褐色および淡緑色などの色を呈し、形は長柱状である。SiO<sub>2</sub>%が少ない深成岩、SiO<sub>2</sub>%が中間あるいは少ない火山岩、ホルンフェルスなどのような高温で生じた変成岩に産する。単斜輝石(主に普通輝石)は、肉眼的に緑色から淡緑色を呈し、柱状である。主としてSiO<sub>2</sub>%が中間から少ない火山岩によく見られ、SiO<sub>2</sub>%の最も少ない火成岩や変成岩中にも含まれる。

[角閃石類]

主として普通角閃石であり、色は黒色から黒緑色で、薄片上では黄色から緑褐色などである。形は細長く平たい長柱状である。閃緑岩のようなSiO<sub>2</sub>%が中間的な深成岩をはじめ火成岩や変成岩などに産する。

[ガラス質]

透明の非結晶の物質で、電球のガラス破片のような薄くて湾曲したガラス(バブル・ウォール

型)や小さな泡をたくさんもつガラス(軽石型ガラス)などがある。主に火山の噴火により噴出された噴出物と考える。

#### 【斑晶質・完晶質】

斑晶質は斑晶(鉱物の結晶)状の部分と石基状のガラス質の部分が明瞭に確認できるもの、完晶質は、ほとんどが結晶からなり石基の部分が見られないか、ごくわずかのものをいう。これらの斑晶質、完晶質の粒子は主として玄武岩、安山岩、デイサイト、流紋岩などの火山岩類を起源とする可能性が高い。

#### 【凝灰岩質】

凝灰岩質は、ガラスや鉱物、火山岩片などの火山砕屑物などから構成され、非晶質でモザイクな文様構造を示す。起源となる火山により鉱物組成は変わる。

#### 【複合鉱物類】

構成する鉱物が石英あるいは長石以外に重鉱物を伴う粒子で、雲母類を伴う粒子は複合鉱物類(含雲母類)輝石類を伴う粒子を複合鉱物類(含輝石類)、角閃石類を伴う粒子を複合鉱物類(角閃石類)とした。

#### 【複合石英類】

複合石英類は石英の集合している粒子で、基質(マトリックス)の部分をもたないものである。個々の石英粒子の粒径は粗粒から細粒までさまざまである。ここでは、便宜的に個々の石英粒子の粒径が約0.01mm未満のものを微細、0.01~0.05mmのものを小型、0.05~0.1mmのものを中型、0.1mm以上のものを大型と分類した。また、等粒で小型の長石あるいは石英が複合した粒子は、複合石英類(等粒)として分類した。この複合石英類(等粒)は、ホルンフェルスなどで見られる粒子と考える。

#### 【不透明・不明】

下方ポーラーのみ、直交ポーラーのいずれにおいても不透明なものや、変質して鉱物あるいは岩石片として同定不可能な粒子を不明とする。

#### (2) 蛍光X線分析

試料は接合が確認されたブロック1~7である。肉眼観察では焼土塊に青銅が残存しているような部分は確認されなかった。しかし、肉眼では確認されないレベルで青銅が残存している可能性はあり、微量でも蛍光X線分析で検出できる。

古代の青銅製品には銅(Cu)とスズ(Sn)だけでなく、鉛(Pb)なども含まれる。このため、銅とスズと鉛の3元素が同一試料から検出されるのか調べて、青銅の有無を検討することにした。測定はブロック1とブロック3が大型で測定室に入らなかったため、全ての測定試料は、測定したい箇所にセロハンテープを押し付けて焼土塊の一部を採取することにした。測定箇所は念のため表面と裏面の両面で行った。試料点数は28点(No1~28)である。採取地点については図3に示す。表面については、黒色部を中心に採取している。裏面については、数条の削り痕を中心に採取している。

分析はセイコー電子工業(株)製のエネルギー分散型蛍光X線分析計S E A-2001Lである。装置の仕様は、X線発生部の管球のターゲットはロジウム(Rh)、ベリリウム(Be)窓、X線検出器はSi(Li)半導体検出器である。測定条件は、測定時間300秒、照射径10mm、電流31~59 $\mu$ A、電圧50kV、試料室内は真空である。

### (3) X線回折分析

試料は最も熱を受けているブロック3の表面と裏面の各1か所(No29・30)である。採取箇所は図3に示す。この温度推定をするにあたってSiO<sub>2</sub>に注目する。

SiO<sub>2</sub>という化学組成をもった鉱物には、石英(quartz)、トリディマイト(tridymite)、クリストバライト(cristobalite)、コーサイト(coesite)、ステイショバイト(stishovite)などがある。このような違いは生成される際の温度、圧力などの条件で決まってくる。青銅の熔融温度は約1,050℃とされる(平尾1999)。よって通常圧力下で約1,000℃前後で存在するトリディマイトやクリストバライトが検出されるかに注目した。

採取した量は約1g程度である。試料は石英粒子を多く回収する為、超音波洗浄を繰り返し、粘土鉱物などの微粒子を含んだ上澄み液を取り除く作業を上澄み液が透明になるまで行った。この作業で底に残った石英粒子を含む粗い沈殿物を回収し、これをセラミック乳鉢で粉末にしたものを、プレパラート上にアルコールで薄く展開した。分析装置は、リガク(株)製のX線回折装置MiniFlexである。測定条件は、X線発生部の管球は銅(Cu)、電流15mA、電圧30kV、走査モードは連続、スキャンスピード5.000°/min、サンプリング幅0.020°である。

## 3. 分析結果

### (1)肉眼観察

焼土塊はシルト質粘土が主体で数mm~2cmほどの石が僅かに混じる。断面を観察すると、何層にも重なっているのではなく、シルト質粘土が一度に叩きしめられたように固い。

ブロック3およびブロック7は表面が熱で約20cm円形状に褐灰色に変色していることから、この褐灰色部の位置に何かものがある火を焚いていたと思われる。裏面の数条の削り痕は、土坑を掘ってシルト質粘土を充填したときに転写されたものと考えられる。この裏面の数条の削り痕のうち、幾つかは同間隔で平行であることから、複数の刃先を持った鋤や鍬などの道具で土坑が掘られた可能性がある。

7つのブロックの内、一番大きなブロック3は厚さが約15cmで熱を受けた中心部らしいため、断面で表面から裏面にかけて熱の伝わった状態が分かりやすい。ブロック3の色は、表面から裏面に向かって、にぶい黄、褐灰、浅黄橙、橙の順に大きく4つの色の層階構造が確認された。

両面を観察したが、いわゆる青銅色の錆や金属の一部などは確認されなかった。また、文様の一部や器形の一部の形状など、鑄型とはっきり分かるような部位も確認されなかった。

### (2)薄片分析

試料中の粒子組成は、任意の位置での粒子を分類群別に計数した。図4には、分類群314粒子

を同定・計数した結果を全分類群について百分率で示した。

また、計数されない微化石類や鉱物・岩石片を記載するために、プレパラート全面を精査・観察した。以下では、粒度分布や0.1mm前後以上の鉱物・岩石片の砂粒組成あるいは計数も含めた微化石類などの記載を示す。なお、不等号は、概略の量比を示し、二重不等号は極端に多い場合を示す。

平均粒度50~250 $\mu$ m、最大粒径700 $\mu$ m。砂混じりシルト質粘土。雲母類》石英・長石類》複合雲母類》複合石英類》紋象岩、斜長石(双晶)、カリ長石(パーサイト)、角閃石類、ジルコン、単斜輝石、ガラス質、珪藻化石(汽水種Achnanthes brevipes、湖沼浮遊生指標種群Melosira granulata多い、淡水種Stephanodiscus astrae、Synedra ulna、Melosira属多い、Cymbella属、陸域指標種群Hantzschia amphioxys多い、不明種多い)、骨針化石、孢子化石、植物珪酸体化石(ヨシ属、イネ類)

(3) 蛍光X線分析

検出された元素はアルミニウム(Al)、ケイ素(Si)、リン(P)、イオウ(S)、カリウム(K)、カルシウム(Ca)、チタン(Ti)、クロム(Cr)、マンガン(Mn)、鉄(Fe)、ニッケル(Ni)、銅(Cu)、亜鉛(Zn)、ルビジウム(Rb)、ストロンチウム(Sr)、ジルコニウム(Zr)である。

なお、蛍光X線スペクトル図で検出されたロジウム(Rh)のピークは、X線発生部の管球(ロジウムターゲット)に由来するものであり、試料に含まれる元素とは関係がない。また、イオウ(S)はセロハンテープにも含まれる元素である。銅は全ての試料で僅かに検出された。スズと鉛は全て試料で検出されなかった。

(4) X線回折分析

付表2には試料から検出された鉱物を示す。検出された鉱物は、石英(Quartz)と灰長石(Anorthite)である。トリディマイトやクリストバライトは検出されなかった。

4. 考察

(1) 薄片分析

[微化石類による材料]

検討した試料中には、その薄片全面の観察から、珪藻化石や骨針化石などが検出された。これら微化石類の大きさは、珪藻化石が10~数100 $\mu$ m(実際観察される珪藻化石は大きいもので150 $\mu$ m程度)、骨針化石が10~100 $\mu$ m前後である(植物珪酸体化石が10~50 $\mu$ m前後)。一方、碎屑性堆積物の粒度は、粘土が約3.9 $\mu$ m以下、シルトが約3.9~62.5 $\mu$ m、砂が62.5 $\mu$ m~2mmである(地学

付表2 X線回折分析により各試料から検出された鉱物

No.	面	ブロックNo.	鉱物名	英名	化学式
29	表面	3	石英	Quartz	SiO <sub>2</sub>
			灰長石	Anorthite	mCaAl <sub>2</sub> Si <sub>2</sub> O <sub>8</sub> ·nNaAl <sub>3</sub> O <sub>8</sub>
石英	Quartz		SiO <sub>2</sub>		
灰長石	Anorthite		mCaAl <sub>2</sub> Si <sub>2</sub> O <sub>8</sub> ·nNaAl <sub>3</sub> O <sub>8</sub>		

団体研究会・地学事典編集委員会編、1981)。このことから、植物珪酸体化石を除いた微化石類は、焼土塊の材料となる粘土

中に含まれるものと考えられ、その粘土の起源を知るのに有効な指標になると考える。なお、植物珪酸体化石は、堆積物中に含まれていること、製作場では灰質が多く混入する可能性が高いなど、他の微化石類のように粘土の起源を指標する可能性は低いと思われる。

顕微鏡観察の結果、焼土塊中には湖沼浮遊生指標種群の*Melosira granulata*やこの種の破片と思われる*Melosira*属が多く含まれていた。また、ジメジメとした陸域において生育する陸域指標種群(陸生珪藻)の*Hantzschia amphioxys*が多く見られた。このほかでは汽水種*Achnanthes brevipes*や河口部などで生育する*Stephanodiscus astrae*も見られた(図2参照)。こうしたことから、河口部などの比較的水深のある環境で堆積した堆積物を利用していることが理解された。なお、陸生珪藻の多産は、こうした水深のある環境とは矛盾することから、例えば採取した粘土を一時的に屋外に放置したため繁茂した珪藻種と予想される。

これ以外の粒子としては、イネの穎部に形成される珪酸体化石が薄片1枚中少なくとも10片程度検出されたことから、イネ朶が混入している。なお、イネの葉で形成される植物珪酸体化石は薄片であるため明確に確認できなかった。このイネ朶混入の形跡が確認されたことから、粘土層

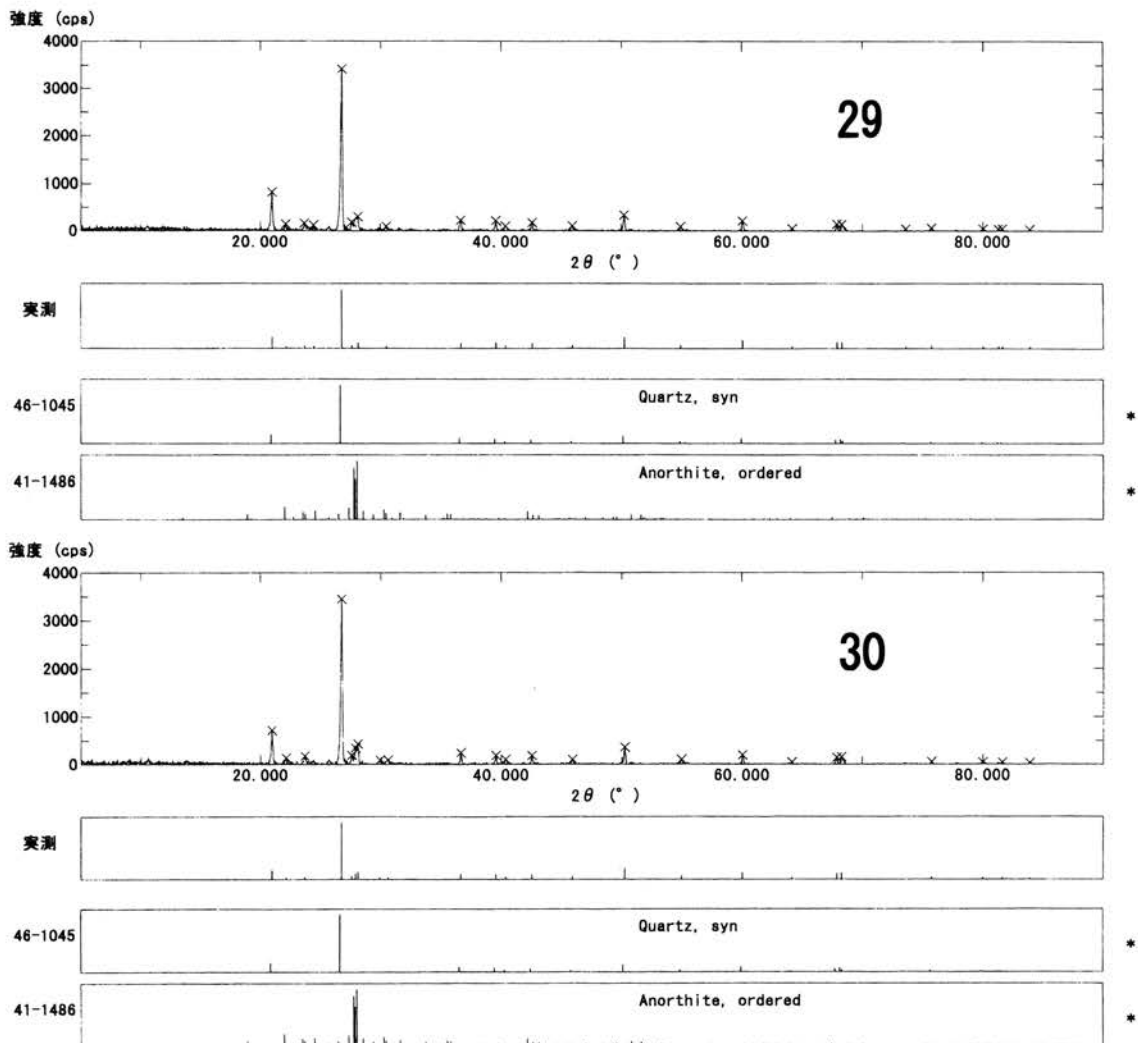


図5 各試料のX線回折スペクトル図  
 [鉱物名] Quartz: 石英 Anorthite: 灰長石

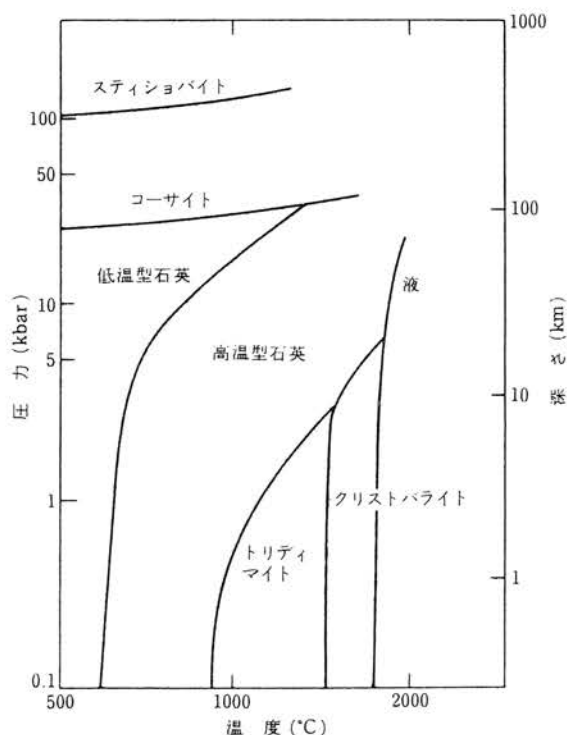


図6 主要なシリカ鉱物の多形の安定関係

から採取された一次的粘土とは異なり人為が加わった粘土質物が利用されたことが分かる。

なお、湿地などに成育するヨシ属の植物珪酸体化石が少ないものの検出された。

【砂粒組成】

任意の薄片位置における鉱物と岩石片の組成は図1に示す。その結果、雲母類が極端に多く検出され、比較的大きな複合雲母類も多い。次いで、石英あるいは長石類と思われる石英・長石類が多い。地域地質を指標する岩石片では、深成岩類を指標する複合石英類(大型)あるいは紋象岩などが少ないもの含まれていた。なお、堆積岩類を指標する複合石英類(微細)は少ない。その他では、花崗岩類に特徴的に多いジルコンや角閃石類が多く、斜長石(双晶)やカリ長石(パーサイト)、テフラ

を指標すると思われるガラス質などの粒子が含まれていた。角閃石類あるいはジルコンを比較的多く伴うことから、深成岩地域の組成と推定される。なお、堆積岩類を示す複合石英類(微細)や砂岩質は少ない。これ以外では、テフラを構成するガラス質を伴う。

遺跡が立地する木津川上流部には、新期あるいは古期の領家花崗岩類が広く分布するほか(尾崎ほか2000)、西側に花崗岩類からなる生駒山が位置することから(宮地ほか2001)、遺跡周辺の地域の砂粒組成と思われる。ただし、利用された粘土質物が、周辺域に広く分布する大阪層群あるいは段丘堆積物から採取されたことが予想されることから、これら地層に随伴する砂層の組成とも言える。

試料中には、雲母類の破片が多量に含まれるが、こうした花崗岩などの深成岩類が分布する周辺地域では、周辺堆積物のシルト質層に雲母類が多量に堆積することがあることから、深成岩類分布地域の同時現象の結果と推定される。

なお、焼成により生成されるムライトや発泡ガラス質は全く含まれていないことから、少なくともこれら焼土塊は須恵器や金属鋳型などのような高温の熱を受けた焼土ではないと言える。

(2) 蛍光X線分析

今回、焼土塊ブロック1～ブロック7の表面、裏面数箇所から測定を行ったが、銅とスズと鉛と一緒に検出された試料はなかった。なお、銅は全ての試料で僅かに検出されている。銅は一般土壌にも数ppm程含まれる元素なので、青銅とは関係がない、自然に焼土ブロック中に含まれていた銅が検出されたと考えられる。

(3) X線回折分析



X線回折分析では、表面と裏面から石英と灰長石が検出された。僅かに検出された灰長石は長石の一種で化学式( $m\text{CaAl}_2\text{Si}_2\text{O}_8 \cdot n\text{NaAl}_3\text{O}_8$ )である。表面と裏面からトリディマイトやクリストバライトは検出されなかった。主要なシリカ鉱物の多形の安定関係を図6(森本1989)に示す。通常の圧力下では、石英は低温型石英と高温型石英に区別され、低温型石英は573℃に達すると高温型石英になる。更に熱すると870℃でトリディマイト、1,470℃でクリストバライトに変化することとなる。なお、コーサイトやステイショバイトは、高圧下で生成されるので、今回の焼土のような通常の圧力下では生成されていないと考えられる。このことからブロック3の温度は、トリディマイトが生成され始める870℃未満で青銅の溶融する温度(約1,050℃)には達していなかったと推定される。

## 5. おわりに

ここで検討した焼土塊は、河口部などの比較的水深のある場所で堆積した粘土質物を利用していることが分かった。こうした材料は、砂粒の岩石学的特徴から概ね周辺地域の組成と予想されことから、周辺地域に分布する大阪層群あるいは段丘堆積物などの粘土質層が利用されたものと推定される。

なお、イネの穎部に形成される珪酸体化石が、薄片1枚中少なくとも10片程度検出されたことから、イネ粃が混入していることが考えられる。ただし、焼土塊の表面状態が良くないことも相まって肉眼観察ではイネ粃は確認されない。

こうした陸生珪藻の多産やイネ粃混入の痕跡があることから、当時生活面となった場所の土壌が焼成されたのではなく、別の場所で採取された粘土質物が焼けていることが理解された。これは、焼成された裏面に相当する面において数条の削り痕が確認されることから、削り痕を残すような道具を用いて掘り起こした土坑状?内に別の場所で採取した粘土質物を充填し焼成したものと推定される。ただし、還元層が発達するなどの高温焼成された焼土塊が検出されていないこと、X線回折分析でトリディマイトやクリストバライトなど1,000℃前後で発生する $\text{SiO}_2$ 鉱物が検出されなかったことから、鋳型などの遺構とは言い難い。こうしたことは、金属遺物が検出されないこと、焼土塊表面の蛍光X線分析において青銅などの顕著な金属成分が検出されなかったことから支持される。

## 引用文献

- 菱田量・車崎正彦・松本完・藤根久「岩石学的方法に基づく胎土分析について—弥生時代後期の土器を例にして—」(『日本文化財科学会第10回大会研究発表要旨集』 日本文化財科学会) 1993 pp.34-35.  
 小杉正人「珪藻の環境指標種群の設定と古環境復原への応用」(『第四紀研究』27 日本第四期学会) 1988 pp.1-20.  
 安藤一男「淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復原への応用」(『東北地理』42-2 東北地理学会) 1990 pp.73-88.  
 平尾良光『古代青銅の流通と鋳造』(株式会社鶴山堂) 1999 p.347.

地学団体研究会・地学事典編集委員会編『増補改訂 地学事典』(平凡社) 1981 p.1612.

尾崎正紀・寒川旭・宮崎一博・西岡芳晴・宮地良典・竹内佳史・田口雄作「奈良地域の地質」(『地域地質研究報告(5万分の1地質図幅)』地質調査所) 2000 p.162.

宮地良典・田結庄良昭・寒川旭「大阪東北部地域の地質」(『地域地質研究報告(5万分の1地質図幅)地質調査所』) 2001 p.130.

森本信男『造岩鉱物学』(東京大学出版会) 1989 p.239.

なお、紙幅の都合上、多数におよぶ各試料の蛍光X線スペクトル図は省略した。ご了承願いたい。全分析結果は当調査研究センターにて保管している。

**補記** 本分析については、株式会社 パレオ・ラボに委託した。

## 市田齊当坊遺跡出土花草双鳥鏡の 鏡箱蓋の塗膜について

市田齊当坊遺跡出土の花草双鳥鏡の鏡箱蓋の塗膜(写真図版366参照)について①成分分析、および②塗膜構造の観察を行った。

### 1. 使用機器および分析条件

(1)フーリエ変換型赤外分光光度計(F T - I R)(日本電子株式会社製JIR-6000)

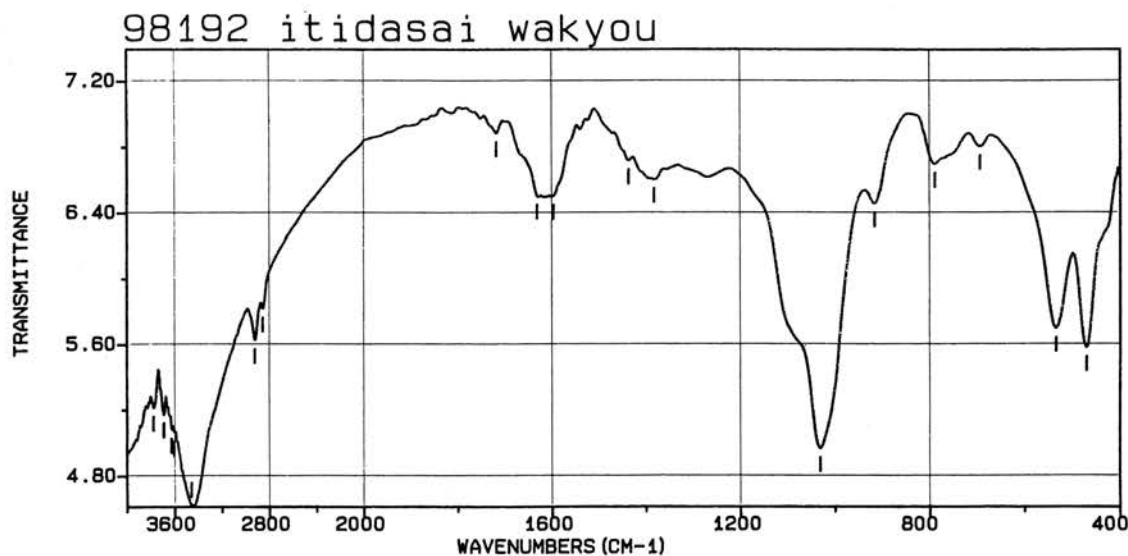
試料に赤外線を照射し、そこから得られる分子の構造に応じた固有の周波数の吸収を解析し、化合物の種類を同定する。

測定条件：K B r 錠剤法\* 分解能  $4\text{ cm}^{-1}$ 、検出器 T G S

(\*K B r(臭化カリウム)錠剤法 試料をK B rと混合、圧縮し錠剤を作製して行う分析法)

(2)金属顕微鏡(株式会社 オリンパス B H 2 - U M A)

(3)生物顕微鏡(株式会社 オリンパス B X - 50)



RESOL	: 4cm-1	3779.84	5.22	1596.79	6.50
SCANS	: 1000	3694.99	5.17	1436.73	6.72
AMP GAIN	: x18	3691.13	5.18	1382.73	6.61
P. INT	: 2cm-1	3627.49	5.08	1031.74	4.97
BEAM	: single	3606.28	5.08	916.03	6.46
S. SPEED	: TGS	3459.71	4.62	788.75	6.70
S. NUMBER	: 827	2925.52	5.63	694.26	6.81
M. DATE	: 5/21/99	2858.02	5.82	534.19	5.70
		1718.28	6.89	470.55	5.58
		1631.50	6.51		

図1 鏡箱蓋塗膜のFT-IRチャート

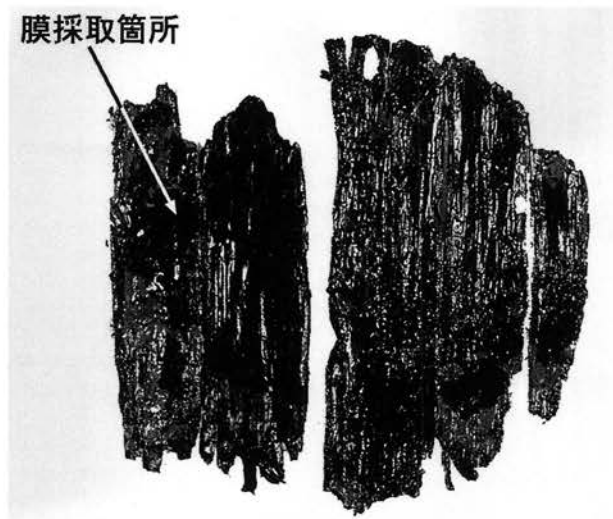


図2 花草双鳥鏡蓋

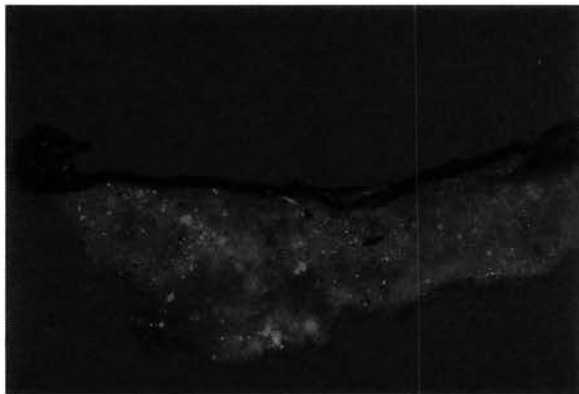


図3 塗膜断面 (約125倍 落射、暗視野)



図4 塗膜断面 (約130倍 透過)

下地については、膜が浮き上がっていたため土壌が入り込んだようである。このため、状態の把握は困難であった。

補記 本分析については、財団法人 元興寺文化財研究所に委託した。

(4)ミクロトーム(株式会社 日本ミクロトーム研究所製S T-201)

## 2. 分析結果

### (1)成分分析

塗膜は剥離が激しく、劣化も著しかった。かろうじて木胎に付着していた極微量の塗膜を採取したが、土壌などの付着物が多かったため、超音波洗浄器で膜の洗浄を行った(30秒の超音波洗浄で黒い微粉末となったため、分析試料は5秒の洗浄にとどめた)。洗浄した膜を、K B r 粉末とよくすりつぶした後、錠剤にしてF T - I R 分析を行った(図1)。

その結果、土壌成分の吸収が強く、典型的な漆の吸収はみられなかったが有機物の吸収が若干あり、漆の存在の可能性は否定できなかった。

### (2)塗膜構造

極微量の塗膜を採取し、樹脂包埋後、ミクロトームを用いて塗膜断面の切片を作製した。スライドガラス上に固定して永久プレパラートとし、金属顕微鏡(暗視野)および生物顕微鏡(透過)で塗膜構造の観察を行った(図3・4)。

その結果、厚さ約 $20\mu\text{m}$ の黒色の塗膜がみられたが、透明性がなく、現時点では松煙や炭粉などが主成分となっている可能性が高いと考えられた。

付表11 竪穴式住居跡一覧

調査区	遺構種別	遺構名	付属遺構			形状	規模(m)	床面遺存深さ(m)	時期	重複関係(古>新)
			中央土坑	柱穴	土坑他					
A	竪穴住居	SHA74		109・110・111		方形	辺4.6~ ×5.6	0.30~ 0.40	市田3期	SHA74>STA59
A	凹形周壁溝	SDA81				凹形	不明			
A	凹形周壁溝	SDA82				凹形	不明			
A	竪穴住居	SHA90				小型方形	2.05	0.4		SHA90>STA68・ SHA90>SHA98
A	竪穴住居	SHA98		79		凹形	復原径 7.0~	0.2	市田3期 以前?	SHA98>STA68
A	竪穴住居	SHA107				凹形	不明	0.15~ 0.20	市田3期	SHA107>STA73
A	竪穴住居	SHA127				方形?	不明	0.25		SHA127>STA68
B	竪穴住居	SHB137	780	891・959	895	方形	辺6.5	0.05~ 0.10	市田6期 前後?	SHB144・145・153・ 690>SHB137
B	竪穴住居	SHB138		938・939・ 940・941・ 943・945・946	1022	凹形	径6.8	0.05~ 0.20	市田3期	
B	竪穴住居	SHB139		784	525・681- 683・684・ 1025-1028・ 1030	凹形	径5.5	0.10~ 0.15	市田5期 前後?	SHB153>SHB139
B	竪穴住居	SHB140				方形	辺4.7× 3.3~	0.15~ 0.20	市田6期	SHB141・B690> SHB140
B	竪穴住居	SHB141				方形	辺3.5	0.10~ 0.15		SHB141>SHB140
B	竪穴住居	SHB144a	1209	781・961・ 962・971・ 970・973・ 974・958		凹形	径8.1	0.10~ 0.25	市田4期	SHB969>SHB144b >SHB144a
B	竪穴住居	SHB144b	1209	781・961・ 962・971・ 970・973・ 974・958		凹形	径8.1	0.05~ 0.10	市田4期	SHB969>SHB144b >SHB144a
B	竪穴住居	SHB145	768・769・ 893		1031	凹形	径5.1~ 5.4	0.15~ 0.25	市田5期	SHB145>SHB153?
B	竪穴住居	SHB146				凹形	不明	0.15	市田5期	SHB642>SHB146
B	竪穴住居	SHB147	1100・1101	760		凹形	径5.0~ 5.5	0.10~ 0.15		SHB709>SHB147
B	竪穴住居	SHB148		1000・1001		凹形	径4.8	0.05		
B	竪穴住居	SHB149	436・985・ 1160	439・605・ 606・608・ 673・674・ 1108		凹形?	辺4.5~ 5.0	0.1		SHA149>SKA712
B	竪穴住居	SHB150				凹形	径8.3	0.10~ 0.20	市田5期	SHB778・528> SHB150>SHB529・ SKB1008
B	竪穴住居	SHB151	1186	486・487・ 488・489・975		凹形	径4.8~ 5.0	0.10~ 0.15	市田4期 以前	SKB822・SHB667> SHB151>SHB150・ 152・528
B	竪穴住居	SHB152	616	609・611・ 613・614・617		凹形	径3.9~ 4.0	0.10~ 0.15	市田4期	SHB151・675・667> SHB152
B	竪穴住居	SHB153		514・516・ 928・929・936	775・776・ 519・925・ 934・937・ 1128b	凹形	径8.2	0.05~ 0.15	市田4期 前後?	SHB1129・145?> SHB153>SHB137・ 139
B	竪穴住居	SHB341	867	857・858・ 859・862・ 864・865・ 866・869・ 870・1056	855・819	方形	辺4.1× 4.8	0.05~ 0.15	市田4期	SHB539>SHB341
B	凹形周壁溝	SHB521				凹形	不明	不明		
B	竪穴住居	SHB528			845	凹形	復原径 9.5~	0.45	市田5期	SHB151>SHB528> SHB150・529

B	竪穴住居	SHB529		1005・1006a・ 1009・1010・ 1011・1012・ 1015・1017		円形	復原径 7.9～ 8.5	0.10～ 0.35	市田 6 期	SHB150・528・530・ 532・778・1008> SHB529
B	竪穴住居	SHB530				方形?	不明	0.05 - 0.10		SHB532>SHB530> SHB529
B	竪穴住居	SHB532				円形	不明	0.25		SHB532>SHB528・ 529・530
B	竪穴住居	SHB535			1021?	不明	不明	0.10～ 0.20	市田 3 期 以降?	
B	竪穴住居	SHB538		826・827・ 828・829・ 847・848・ 849・850・ 851・853・ 1138	823・824・830	円形	径4.8～ 4.9	0.05～ 0.20	市田 4 期 以降?	
B	竪穴住居	SHB539				方形	辺2.1× 2.4	0.15		SHB539>SHB341
B	竪穴住居	SHB542		697・157	SD785・787	方形	辺3.5	0.10～ 0.20	市田 7 期	SKB335>SHB542
B	竪穴住居	SHB543		810		円形	径2.5～ 2.8	0.05～ 0.15	市田 4 期	
B	竪穴住居	SHB642				方形	辺2.8	0.3	市田 5 期 以降?	SHB642>SHB146
B	竪穴住居周 壁溝	SHB667		430・494・ 502・708・ 707・981・ 991・992・ 993・994・ 999?	501・640・705	円形	復原径 7.8～ 9.3	0.05以 下		SHB667>SHB151
B	竪穴住居	SHB675	495?	995・996・ 997・998?		円形	径4.6～	0.05以 下	市田 6 期	
B	竪穴住居	SHB690	846		1034・1036・ 1038・1169	円形	径7.5～ 7.8	0.10～ 0.20	市田 3 期	
B	竪穴住居	SHB691	878	873	・877・1164・ 1171・1173・ 1176	円形	径7.1～ 8.1	0.10～ 0.15		SHB691>SHB1052?
B	竪穴住居	SHB699			1103	隅丸方 形	不明	0.1		SHB699>SKB623
B	竪穴住居	SHB706		428・429・431		円形周 溝	不明	0.1		SHB706>SHB667・ SKB705
B	竪穴住居	SHB709	422?			円形	不明	0.1以下	市田 4 期	SHB709>SHB147・ 667・SKB705
B	竪穴住居	SHB718				方形	辺1.6× 1.8	0.05	市田 6 期 以降?	
B	竪穴住居	SHB724				方形残 欠	不明	0.05		
B	円形周壁溝	SHB742	641	992・993・ 994・995?		円形	不明			
B	竪穴住居	SHB747				円形	径7.7～ 8.1	0.1	市田 4 期	
B	竪穴住居	SHB772		1167		円形	径4.7	0.10～ 0.15	市田 4 期	SHB772>SKB782
B	竪穴住居	SHB773		1094		楕円形	径4.3× 5.3	0.05～ 0.15	市田 5 期	
B	竪穴住居	SHB774				方形	辺2.4	0.05～ 0.15	市田 5 期 以降	
	竪穴住居	SHB778				円形	復原径 8.1	0.25～ 0.30		SHB778>SHB150・ 529
B	竪穴住居	SHB796				方形	辺2.1× 2.2	0.15		
B	竪穴住居	SHB888				円形	不明	0.05	市田 3 期 以前	SHB888>SHB535
B	竪穴住居	SHB910				円形	径8.3～		市田 6 期 前後?	
B	竪穴住居	SHB921				方形	辺3.0～			
B	竪穴住居	SHB969	1065b		972?	円形	不明	0.25～ 0.30		SHB969>SHB144

観 察 表

B	竪穴住居 (円形周溝)	SHB982	1099			不明	不明		市田 3 期	
B	竪穴住居	SHB990				円形	不明			SHB990>SHB642
B	竪穴住居	SHB1008	1006b	1007・1016・ 1018 - 1020		円形	径5.7~ 6.0	0.10~ 0.35	市田 7 期	SHB1008>SHB529
B	竪穴住居	SHB1041				方形?	不明	0.10以 下		SHB1041>SHB773
B	竪穴住居	SHB1052		1042	1051	不明	不明		市田 4 期 前後?	SHB1052>SHB691?
B	竪穴住居	SHB1078				円形	不明	0.1		
B	竪穴住居	SHB1129				円形?	不明	0.10~ 0.20	市田 3 期 以前?	SHB1129>SHB138・ 139・153
C	竪穴住居	SHC68				円形	径6.5~	0.2	市田 5 期	SHC68>SDC62
C	竪穴住居	SHC80				円形	径8.8~ 9.5	0.20~ 0.35	市田 6 期	SHC80>SDC64・65
C	竪穴住居	SHC92		P2・P3・P5-P8	P1・P4	円形?	辺5.4~ 6.1	0.10~ 0.15	市田 6 期	SHC138・SHC168> SHC92
C	竪穴住居	SHC132	152・332		149-150・ 153・SD151	円形	径5.4~ 5.5	0.10~ 0.15	市田 5 期	SHC132>SDC67
C	竪穴住居	SHC135b				隅丸円 形	辺7.8~	0.05~ 0.10	市田 3 期 以前?	SHC135b>SDC90・ SDC94・SDC116・ SDC401
C	竪穴住居	SHC137b				円形	復原径 7.5~	0.05~ 0.10	市田 3 期	SHC137b>SDC114
C	竪穴住居	SHC138	329	295・342-347	142・348	円形	径7.5~ 7.7	0.10~ 0.15	市田 6 期	SHC168・169> SHC138>SHC92・ SDC170
C	竪穴住居	SHC167	256			円形	復原径 6.0前後	0.05~ 0.15	市田 3 期	SHC167>SHC168> SHC92
C	竪穴住居	SHC168		P3・354		円形	復原径 6.0前後		市田 5 期	SHC167>SHC168> SHC169>SHC92
C	竪穴住居	SHC169	338	215・216・ 352・355・362		円形	径5.4~ 6.5		市田 5 期	SHC168>SHC169> SHC138・SDC170・ SKC218
C	竪穴住居	SHC173b		SK336b		円形	不明	0.5	市田 3 期	SHC173b>SHC168・ SDC93
C	竪穴住居	SHC(SXC )340				円形?	不明			
C	竪穴住居	SHC435				方形	辺3.8	0.10~ 0.15		
C	竪穴住居	SHC450	P3・P4	P1・P2・P7	P8	円形	径5.0~	0.15~ 0.25	市田 2 期	SHC450>SDC507・ SDC112
C	竪穴住居	SHC451	SK1	P2・P3・P6・ P10・P15・ P16・P17・ P19・P28	SK7・SK12	円形	復原径 8.0~ 9.0	0.1~ 0.2	市田 3 期?	SHC451>SDC470・ SDC454
C	竪穴住居	SHC460				方形	辺2.5	0.10~ 0.15	市田 2 ~ 3 期?	SHC460>SDC401
C	竪穴住居	SHC479a				円形	復原辺 4.5~ 5.0	0.4	市田 5 期	SHC570>SHC479a
C	竪穴住居	SHC487				円形	不明	0.05		
C	竪穴住居	SHC490				円形	不明	0.05~ 0.10		
C	竪穴住居	SHC492				方形	不明	0.70~ 0.75		SHC492・514・515> SDC67
C	竪穴住居	SHC514				楕円形	不明	0.7		SHC492・514・515> SDC67
C	竪穴住居	SHC515				円形	不明	0.05~ 0.10		SHC492・514・515> SDC67
C	竪穴住居	SHC517				円形	不明	0.10~ 0.15		SHC517>SDC401
C	竪穴住居	SHC570				円形	復原径 7.0~	0.15~ 0.20		SHC572>SHC570> SKC479a
C	竪穴住居	SHC571				円形	不明	0.15~ 0.20		
C	竪穴住居	SHC572				円形	不明	0.15~ 0.20		SHC572>SHC570

C	竪穴住居	SHC573				方形?	不明			SHC573・574 > SDC67
C	竪穴住居	SHC574				方形?	不明			SHC573・574 > SDC67
C	竪穴住居	SHC576				円形?	不明			
D	竪穴住居	SHD23		P1・P2		円形	径2.9～3.1	0.1	市田2期	
D	竪穴住居	SHD39	P1	P2・P3・P4・P5		円形	径4.5～5.0	0.10～0.15		SHD39 > STD42・37・SDD44
D	竪穴住居	SHD40				円形	不明	0.10～0.25		SHD40 > SDD28・SHD41
D	竪穴住居	SHD41				円形	不明	0.15～0.20		SHD40 > SHD41 > SDD28
D	竪穴住居	SHD46				方形	辺3.0～	0.10～0.15	市田2期	SHD46 > SDD33



付表12 土坑ほか一覧

調査区	所属遺構/ 所属関係	遺構名	平面形状	規模 (cm)	遺存最 深 (cm)	時期	重複関係 (古>新)	図版第位置
A		SKA06	不整形	165×110	73	市田 2 期	SKA06>SDA05	図版第 1
A		SKA11	楕円形	72×57	45	市田 1 期		図版第 1
A		SKA12	楕円形	90×90	18	市田 2 期		図版第 1
A		SKA16	扇形	105×75	9	市田 3 期		図版第 1
A		SKA50	不整円形	140×90	33			図版第 1
A		SKA60	不整円形	171×136	32	市田 2 期		図版第 1
A		SKA66	楕円形?	144×102~	53	市田 3 期?		図版第 1
A		SKA69	半円形	420×328	20	市田 5 期	SDA72>SKA69 SDA112>SKA69	図版第 1
A		SKA70	楕円形	100×81	12	市田 2 期	SKA62>SKA70	図版第 1
A		SKA75	舟底形	250×98	52	市田 2 期		図版第 1
A		SKA77	隅丸長方形	114×73	44	市田 2 期		図版第 1
A		SKA78	隅丸長方形	210×95	75	市田 2 期		図版第 1
A		SKA79	隅丸長方形	214×72	68	市田 2 期		図版第 1
A		SKA80	楕円形	130×68	50	市田 2 期		図版第 1
A		SKA100	卵形	116×89	41	市田 4 期		図版第 1
A		SKA101	楕円形	155×90	20			図版第 1
A		SKA102	楕円形	168×126	42	市田 2 期		図版第 1
A		SKA105	楕円形	209×122	50	市田 2 期		図版第 1
A		SKA106	不整楕円形	214×110~	14			図版第 1
A	SHA74	SKA109	円形	64×62	38			図版第 1
A	SHA74	SKA110	円形	75×73	12			図版第 1
A	SHA74	SKA111	円形	82×72	15			図版第 1
A		SKA113	隅丸長方形	134×77	51			図版第 1
A		SKA114	不整円形	182×139	54	市田 4 期		図版第 1
A		SKA115	楕円形	103×134	42	市田 4 期		図版第 1
A		SKA116	長方形	154×97	38	市田 2 期		図版第 1
A		SKA117	楕円形	145×91	15	市田 2 期	SKA117>SDA68	図版第 1
A		SKA124	四角形	50×48	47			図版第 1
A		SKA125	円形	33×30	14			図版第 1
A		SKA126	長方形	111×62	16	市田 2 期	SKA126>SDA68	図版第 1
A		SKA136	円形	65×61	34			図版第 1
A		SKA138	楕円形	63×44	10			図版第 1
B		SKB153	楕円形	65×55	47			図版第 4
B		SKB154	円形	30×28	21			図版第 3
B		SKB155	楕円形	45×33	31			図版第 3・4
B		SKB156	楕円形	23×15	19			図版第 4
B	SHB542	SKB157	卵形	20×13	9			図版第 4
B		SKB158	楕円形	40×23	26			図版第 4
B		SKB159	円形	38×37	9			図版第 3
B		SKB160	楕円形	18×15	34			図版第 4
B		SKB161	長方形	151×60	31			図版第 4
B		SKB162	楕円形	20×20	18			図版第 4
B		SKB164	円形	50×50	58			図版第 3・4
B		SKB165	隅丸方形	113×110	70	市田 4 期		図版第 3
B		SKB168	楕円形	105×50	47			図版第 4
B		SKB169	不整円形	120×105	13	市田 3 期		図版第 4
B		SKB172	楕円形	25×23	19			図版第 4
B		SKB174	不整円形	113×93	36	市田 4 期	SKB174>SKB168・ SKB172・SKB844	図版第 4
B		SKB175	楕円形	37×30	14			図版第 4
B		SKB176	円形	20×18	9			図版第 4
B		SKB177	円形	28×23	8			図版第 4
B		SKB178	卵形	20×15	8			図版第 3
B		SKB179	卵形	18×15	2			図版第 3

B		SKB226	不整形	20×13	17	市田 5期		図版第 4
B		SKB227	不整形	15×15	10	市田 3期		図版第 4
B		SKB180	卵形	28×23	8			図版第 4
B		SKB233	楕円形	24×18	1			図版第 4
B		SKB272	不整形	30×21	15	市田 4期		図版第 4
B		SKB287	円形	23×22	26			図版第 4
B		SKB289	長楕円形	150×80	33	市田 2期		図版第 4
B		SKB293	楕円形	33×25	17			図版第 4
B		SKB294	卵形	43×28	22			図版第 4
B		SKB295	楕円形?	45×25	22			図版第 4
B		SKB296	円形	25×20	16			図版第 4
B		SKB297	楕円形	220×85	39	市田 5期		図版第 3
B		SKB298	楕円形	18×18	21	市田 3期		図版第 3
B		SKB299	円形	28×23	15			図版第 3
B		SKB303	不整形	110×82	16	市田 3期		図版第 4
B		SKB307	円形	93×87	28			図版第 4
B		SKB309	円形	30×25	16			図版第 4
B		SKB310	楕円形	20×18	13			図版第 4
B		SKB311	円形	15×15	13			図版第 4
B		SKB312	円形	18×15	33			図版第 4
B		SKB313	楕円形	33×18	32			図版第 4
B		SKB314	円形	15×15	17			図版第 4
B		SKB319	円形	15×13	7			図版第 4
B		SKB320	円形	13×13	27			図版第 4
B		SKB321	円形	40×38	10			図版第 4
B		SKB322	長方形?	20×15	12			図版第 4
B		SKB327	円形	18×15	15			図版第 4
B		SKB328	楕円形	25×15	15			図版第 4
B		SKB329	楕円形?	75×58	8			図版第 4
B		SKB330	円形	25×20	6			図版第 4
B		SKB331	卵形	25×20	4			図版第 4
B		SKB332	円形	35×30	21			図版第 4
B		SKB335 (838)	楕円形	212×115	64	市田 3期	SKB335>SKB839 SKB335>SHB542	図版第 4
B		SKB337	半円形	58×30	4			図版第 4
B		SKB339	楕円形	90~×67~	32	市田 3期	SKB340>SKB339	図版第 3
B		SKB340	楕円形	255×110	32		SKB340>SK339	図版第 3
B	SHB528	SKB342	円形	25×25	23			図版第 4
B	SHB341	SKB343	円形	105×85	49			図版第 6
B		SKB344	円形	35×35	28			図版第 6
B		SKB345	円形?	25×15	7			図版第 6
B		SKB346	楕円形	60×43	10			図版第 6
B	SHB921	SKB349	楕円形	60×48	19			図版第 6
B		SKB352	半円形	30×15	15			図版第 6
B		SKB353	円形	30×28	10			図版第 6
B		SKB354	楕円形	68×38	8			図版第 6
B		SKB355	フラスコ状	65×51	16			図版第 6
B		SKB356	長方形?	75×58	7			図版第 6
B		SKB357	円形	20×15	19			図版第 6
B		SKB358	卵形	25×20	21			図版第 6
B		SKB359	瓢箪形	140×50	45			図版第 6
B		SKB360	円形	20×18	29			図版第 6
B		SKB361	円形	20×15	25			図版第 6
B		SKB362	楕円形	48×38	18			図版第 6
B		SKB364	円形	28×25	15			図版第 4・6
B		SKB365	円形	25×15	2			図版第 6
B		SKB366	楕円形	78×48	21			図版第 6
B		SKB367	円形	35×30	10			図版第 6
B		SKB371	円形	30×28	7			図版第 4

観 察 表

B		SKB372	楕円形	15×15	12			図版第6
B		SKB373	卵形	18×13	37			図版第6
B		SKB374	円形	18×13	6			図版第6
B		SKB375	楕円形	18×12	12			図版第4
B		SKB376	円形	18×15	12			図版第4
B		SKB377	円形	18×17	12			図版第4
B		SKB378	円形	15×15	12			図版第4
B		SKB385	円形	15×15	12			図版第4
B		SKB386	円形	18×18	6			図版第4
B		SKB387	楕円形	33×28	-			図版第4
B		SKB388	円形	18×15	9			図版第4
B		SKB389	楕円形	23×18	15			図版第4
B		SKB395	卵形	40×31	10			図版第6
B		SKB396	円形	40×40	15			図版第6
B		SKB397	円形	30×25	12			図版第6
B		SKB398	円形	30×25	21			図版第6
B		SKB399	楕円形	40×30	16			図版第6
B		SKB400	長方形	30×25	8			図版第6
B		SKB401	円形	43×40	18			図版第6
B		SKB402	円形	18×18	9			図版第6
B		SKB403	長楕円形	225×113	45	市田4期		図版第6
B		SKB404b	円形	23×18	16			図版第6
B		SKB404a	三日月形	105×35	36			図版第6
B		SKB405	円形	28×25	6			図版第6
B		SKB406	長楕円形?	225×85	37			図版第6
B		SKB408	楕円形	123×83	34			図版第6
B		SKB409	円形	68×60	30			図版第6
B		SKB412	円形	20×15	16			図版第6
B		SKB413	楕円形	28×23	7			図版第6
B		SKB414	卵形	30×25	30			図版第6
B		SKB416	扇形	28×18	7			図版第6
B		SKB417	楕円形	33×20	21			図版第6
B		SKB421	円形	35×38	4			図版第3
B	SHB709?	SKB422	不整形	115×80	37	市田2期		図版第3
B		SKB423	不整形	23×10	10			図版第3
B		SKB424	円形	40×37	28			図版第3
B		SKB425	円形	23×22	11			図版第3
B		SKB426	卵形	35×28	23			図版第3
B	SHB667	SKB427	円形	28×22	14			図版第3
B	SHB706	SKB428	円形	30×30	22			図版第3
B	SHB706	SKB429	半楕円形	30×20	18			図版第3
B	SHB667	SKB430	卵形	40×30	16			図版第3
B	SHB706	SKB431	円形	40×30	16			図版第3
B	SHB667	SKB433	卵形	45×38	31			図版第3
B		SKB434	円形	40×38	29			図版第3
B		SKB435	円形	30×25	12			図版第3
B	SHB149	SKB436	不整形・不明	-	52		SKB436>SKB985	図版第3
B	SHB149	SKB439	円形	33×28	25			図版第3
B		SKB440	楕円形	100×70	48	市田4期		図版第3
B		SKB441	楕円形	33×25	17			図版第3
B		SKB442	楕円形	35×25	23			図版第3
B		SKB444	円形	25×20	16			図版第3
B		SKB445	円形	20×20	3			図版第3
B		SKB446	円形	23×20	13			図版第3
B		SKB447	円形	28×23	25			図版第3
B		SKB448	楕円形	25×18	4			図版第3
B		SKB449	円形	70×60	45	市田3期		図版第3
B		SKB450	長楕円形	140×55	68			図版第3
B		SKB451	円形	58×45	24			図版第3

B		SKB452	円形	18×17	21			図版第3
B		SKB455	円形	25×20	9			図版第3
B		SKB456	円形	25×20	23			図版第3
B		SKB457	円形	15×13	5			図版第3
B		SKB458	円形	30×25	23			図版第3
B		SKB459	半円形	30×23	16			図版第3
B		SKB460	円形	18×15	12			図版第3
B		SKB461	卵形	23×18	6			図版第3
B		SKB462	卵形	20×18	8			図版第3
B		SKB463	円形	10×10	5			図版第3
B		SKB464	楕円形	18×13	8			図版第3
B		SKB465	長楕円形	215×60	22			図版第3
B		SKB468	不整円形	48×45	-			図版第3
B		SKB469	円形	23×20	13			図版第3
B		SKB470	瓢箪形	100×25	21			図版第6
B		SKB472	半円形	20×10	-			図版第6
B		SKB473	楕円形	18×13	7			図版第3
B		SKB474	卵形	33×23	8			図版第3
B		SKB475	円形	30×28	10			図版第3
B		SKB476	楕円形	40×23	19			図版第3
B		SKB477	円形	18×18	14			図版第3
B		SKB478	円形	13×13	12			図版第3
B		SKB479	円形	23×20	12			図版第3
B		SKB480	円形	15×13	5			図版第3
B		SKB481	円形	15×11	8			図版第3
B		SKB482	円形	18×13	2			図版第3
B		SKB483	円形	20×18	9			図版第3
B		SKB484	楕円形	25×15	16			図版第3
B		SKB485	円形	123×100	40	市田6期		図版第3
B	SHB151	SKB486	楕円形	50×38	29			図版第3
B	SHB151	SKB487	円形	35×28	1			図版第3
B	SHB151	SKB488	半円形	23×20	7			図版第3
B	SHB151	SKB489	円形	35×30	27			図版第3
B		SKB490	円形	63×20~	2			図版第3
B		SKB491	円形	20×18	8			図版第3
B		SKB492	円形	20×20	20			図版第3
B	SHB667	SKB494	長方形	25×23	12			図版第3
B	SHB675	SKB495	不整円形	130×80	56	市田6期		図版第3
B		SKB496	半円形	85×50	39			図版第3
B	SHB675?	SKB498	円形	76×60	44			図版第3
B		SKB499	円形	140×120	12	市田5期		図版第3
B		SKB500	楕円形	285×263	88			図版第5
B	SHB667	SKB501	不整円形	135×93	31			図版第3
B	SHB667	SKB502	円形	35×30	20			図版第3
B		SKB503	円形	30×25	22			図版第3
B		SKB505	隅丸長方形	71×35	20			図版第3
B		SKB507	円形	130×120	19		SHB138 > SKB507	図版第3
B		SKB509	楕円形	86×57	32			図版第3
B		SKB510	円形	31×20	16			図版第3
B		SKB512	楕円形	89×69	19			図版第3
B	SHB153	SKB514	円形	35×30	5			図版第3
B	SHB153	SKB515	円形	15×15	3			図版第3
B	SHB153	SKB516	円形	23×20	4			図版第3
B	SHB153	SKB517	円形	33×30	39			図版第3
B	SHB153	SKB519	長方形	90×60	3			図版第3
B		SKB520	不整形・不明	-	-			図版第3
B		SKB521	楕円形	130×105	55			図版第3
B		SKB523	卵形	78×67	23	市田4期		図版第3
B		SKB524	円形	65×28	24			図版第3

観 察 表

B	SHB139	SKB525	楕円形	110×70	66	市田 5 期		図版第 3
B		SKB526	円形	33×22	27			図版第 3
B		SKB527	円形	68×67	7			図版第 3
B		SKB533	円形	40×35	13			図版第 3
B		SKB537	楕円形	100×98	10			図版第 3
B		SKB542	不整円形	58×30	19			図版第 4
B		SKB555	円形	33×28	8			図版第 6
B		SKB556	楕円形	20×18	16			図版第 6
B		SKB557	不整円形	100×50	15			図版第 6
B		SKB558	-	-	19		SKB558 > SKB562・557	図版第 6
B		SKB560	半楕円形	25×23	20			図版第 6
B		SKB561	半円形	90×60	22			図版第 6
B		SKB562	半円形	90×65	19			図版第 6
B		SKB563	円形?	52×50	18	市田 5 期		図版第 6
B		SKB564	不整形・不明	-	-			図版第 6
B		SKB565	円形	58×48	3			図版第 6
B		SKB566	半円形	55×28	11			図版第 6
B		SKB568	半円形	30×20	1			図版第 6
B		SKB569	円形	20×18	20			図版第 6
B		SKB570	不整円形	115×103	59			図版第 6
B		SKB573	円形	45×43	6			図版第 6
B		SKB574	円形	50×45	32			図版第 6
B		SKB578	正三角形	60×60	14			図版第 6
B		SKB582	不整円形	130×105	24			図版第 6
B		SKB587	卵形	23×15	14			図版第 6
B		SKB591	楕円形	38×28	3			図版第 6
B		SKB592	楕円形	50×43	2			図版第 6
B		SKB593	楕円形	113×65	56		SKB577・595 > SKB593	図版第 6
B		SKB595	楕円形	60×48	9			図版第 6
B		SKB596	円形	28×28	7			図版第 6
B		SKB597	円形	25×25	6			図版第 6
B		SKB598	円形	45×45	3			図版第 6
B		SKB601	楕円形	30×25	21			図版第 6
B		SKB602	楕円形	23×18	8			図版第 6
B		SKB604	円形	23×23	10			図版第 6
B	SHB149	SKB605	楕円形	40×30	19			図版第 3
B	SHB149	SKB606	台形	53×43	33			図版第 3
B	SHB152	SKB607	半円形	35×15	-	市田 6 期		図版第 3
B	SHB149	SKB608	不整円形	63×50	20			図版第 3
B	SHB152	SKB609	楕円形	55×20~	40			図版第 3
B	SHB152	SKB611	半楕円形	30×15	12			図版第 3
B	SHB152	SKB613	円形	40×38	14			図版第 3
B	SHB152	SKB614	円形	45×40	17			図版第 3
B	SHB152	SKB616	円形	40×30	32			図版第 3
B		SKB617	円形	30×25	14			図版第 3
B		SKB619	円形不整	55×50	47			図版第 3
B	SHB623	SKB623	卵形	151×150	34		SHB699 > SHB623	図版第 3
B		SKB628	卵形	55×35	26	市田 3 期		図版第 4
B		SKB634	円形	33×28	5			図版第 3
B		SKB635	円形	20×20	5			図版第 3
B	SHB667	SKB640	四角形	50×46	1			図版第 3
B	SHB742	SKB641	長方形	90×42	84		SKB641 > SH152	図版第 3
B		SKB648	円形	50×38	28			図版第 4
B		SKB653	卵形	28×20	61			図版第 6
B		SKB656	楕円形	200×150	22		SKB909 > SKB656	図版第 4・6
B		SKB661	不整形・不明	-	-			図版第 3
B		SKB662	四角形	50×43	27		SHB151 > SHB662 > SHB528	図版第 3
B		SKB663	長楕円形	300×90	23			図版第 3

B		SKB664	三日月形	60×23	-	市田 4 期	SKB665>SKB664	図版第 3
B		SKB665	四角形	60×50	18			図版第 3
B		SKB671	円形	35×28	5			図版第 3
B		SKB672	円形	37×28	7			図版第 3
B	SHB149	SKB673	半円形	30×15	20			図版第 3
B	SHB149	SKB674	円形	30×28	29			図版第 3
B		SKB678	楕円形	45×40	-			図版第 3
B		SKB680	円形	45×45	13			図版第 3
B	SHB139	SKB681	卵形	68×63	34			図版第 3
B	SHB139	SKB682	円形	23×20	14			図版第 3
B	SHB139	SKB683	円形	33×30	12			図版第 3
B	SHB139	SKB684	不整円形	105×85	28			図版第 3
B		SKB685	円形	33×30	37			図版第 3
B		SKB686	楕円形	35×25	30			図版第 6
B		SKB687	円形	20×20	22			図版第 6
B		SKB688	円形	25×23	26			図版第 6
B		SKB689	円形	15×15	13			図版第 6
B	SHB529	SKB693	円形	30×20	2			図版第 3
B	SHB542	SKB697	円形	18×18	5			図版第 4
B		SKB698	不整形・不明	-	-			図版第 4・6
B		SKB700	隅丸長方形	64×50	-			図版第 3
B		SKB701	半卵形	122×87~	40		SKB712>SKB701	図版第 3
B	SHB667	SKB705	楕円形	120×100	11			図版第 3
B	SHB667	SKB707	楕円形	70×50	50			図版第 3
B	SHB667	SKB708	円形	23×25	15			図版第 3
B	SHB719	SKB710	直角三角形	155×80	10			図版第 3
B		SKB711	台形	160×80	8		SHB149>SKB712> SKB701	図版第 3
B		SKB712	半楕円形	185×120	52	市田 3 期		図版第 3
B		SKB721	直角三角形	55×25	19			図版第 4
B		SKB722	楕円形	25×20	11			図版第 4
B		SKB729	長楕円形	108×35	5	市田 3 期		図版第 3
B		SKB731	楕円形	25×13	5			図版第 3
B		SKB733	円形	28×25	16			図版第 3
B		SKB734	円形	35×25	20			図版第 3
B		SKB735	楕円形	20×13	1	市田 6 期		図版第 3
B		SKB736	円形	15×13	12			図版第 3
B		SKB739	不整楕円形	138×92	17			図版第 3
B		SKB741	不整形	180×90	15			図版第 5
B		SKB745	長方形	200×140	32	市田 6 期	SHB150>SKB745	図版第 3
B		SKB750	長方形	125×50	43	市田 5 期		図版第 3
B		SKB751	不整円形	118×93	21	市田 6 期		図版第 6
B		SKB752	円形	20×16	2			図版第 6
B	SHB147	SKB760	楕円形	35×40	17			図版第 3
B		SKB761	円形	45×38	15			図版第 5
B		SKB762	隅丸方形	155×115	19	市田 3 期		図版第 5
B		SKB764	三角形	20×20	19			図版第 5
B		SKB765	円形	33×25	6		SKB800>SKB765	図版第 5
B		SKB766	卵形	33×28	16			図版第 5
B	SHB145	SKB768	円形	95×65	12		SKB768>SKB769	図版第 3
B	SHB145	SKB769	不整楕円形	155×105	62		SKB768>SKB769	図版第 3
B		SKB770	隅丸方形	174×160	48		SKB771>SKB770	図版第 5
B		SKB771	隅丸方形	186~×96	46	市田 3 期	SKB771>SKB770	図版第 5
B	SHB153?	SKB775	長方形	108×78	65	市田 4 期		図版第 3
B	SHB153?	SKB776	楕円形	178×90	28	市田 5 期		図版第 3
B		SKB779	円形	28×25	-			図版第 3
B	SHB137	SKB780	楕円形	85×65	14			図版第 5
B	SHB144	SKB781	円形	65×60	30			図版第 5
B	SHB772	SKB782	楕円形	50×35	7			図版第 5

観 察 表

B		SKB783	円形	28×25	34			図版第5
B	SHB139	SKB784	半円形	38~×50	34			図版第3
B		SKB790	卵形	118×78	30			図版第3
B		SKB791	長楕円形	230×65	16	市田5期	SKB800>SKB791	図版第5
B		SKB800	長方形	155×115	39	市田2期	SKB800>SKB791	図版第5
B		SKB801	円形	65×55	24	市田2期		図版第3
B	SHB543	SKB810		17×20	24	市田4期		図版第4
B		SKB816	長楕円形	190×100	90		SKB816>SDB333	図版第4
B	SHB341	SKB819	楕円形	105×93	62			図版第6
B		SKB821	楕円形	45×33	16			図版第4
B		SKB822	楕円形	170×60	37		SHB151>SKB822> SHB528	図版第3
B	SHB538	SKB823	円形?	113×102	30			図版第3・4
B	SHB538	SKB824	楕円形	150×120	54			図版第4・6
B		SKB825	半円形	40×30	29			図版第4・6
B	SHB538	SKB826	半楕円形	35×30~	30			図版第6
B	SHB538	SKB827	半楕円形	45×35	52			図版第6
B	SHB538	SKB828	円形	36×28	30			図版第5
B	SHB538	SKB829	円形	45×38	28			図版第5
B	SHB538	SKB830	円形	88×85	24			図版第6
B		SKB831	楕円形	30×23	-			図版第4
B		SKB834	楕円形	35×25	-			図版第4
B		SKB836	長楕円形	143×68	21			図版第4
B		SKB839	長方形	210×105	58	市田6期	SKB335>SKB839	図版第4
B		SKB840	長楕円形	145×50	44			図版第4
B		SKB841	楕円形	200×125	32		SKB841>SHB542	図版第4
B		SKB842	半円形	23×20	20			図版第4
B		SKB844	楕円形	40×28	21			図版第4
B	SHB528	SKB845	楕円形	122×90	66	市田5期		図版第3
B	SHB690	SKB846	楕円形	175×113	68	市田3期		図版第5
B	SHB538	SKB847	不整円形	55×50	20			図版第6
B	SHB538	SKB848	卵形	30×23	13			図版第6
B	SHB538	SKB849	円形	28×25	14			図版第6
B	SHB538	SKB850	円形	28×25	24			図版第6
B	SHB538	SKB851	円形	35×28	11			図版第6
B	SHB538	SKB853	楕円形	46×31	-			図版第6
B	SHB341	SKB855	不整円形	143×115	75			図版第6
B	SHB341	SKB857	円形	30×23	7			図版第6
B		SKB858	楕円形	28×18	4			図版第6
B	SHB341	SKB859	円形	25×15	15			図版第6
B	SHB341	SKB862	円形	23×20	20			図版第6
B	SHB341	SKB864	卵形	38×30	14			図版第6
B	SHB341	SKB865	円形	45×43	24			図版第6
B	SHB341	SKB866	円形	30×30	13			図版第6
B	SHB341	SKB867	不整円形	113×95	43			図版第4
B	SHB341	SKB869	円形	25×25	3	市田3期		図版第4・6
B	SHB341	SKB870	円形	35×33	50	市田3期		図版第4
B	SHB724	SKB871	円形	18×15	5			図版第6
B	SHB691	SKB873	円形	33×30	6			図版第6
B		SKB874	卵形	33×26	47			図版第6
B		SKB875	半楕円形	30×20	1			図版第6
B		SKB876	半円形	20×20	1			図版第6
B	SHB691	SKB877	楕円形	135×110	24			図版第6
B	SHB691	SKB878	円形?	210×193	75			図版第6
B	SHB691	SKB879	円形	-	-		SKB879>SKB880	図版第6
B	SHB691	SKB880	円形	63×60	25			図版第6
B	SHB691	SKB881	楕円形	60×50	36			図版第6
B	SHB691	SKB882	円形	-	-		SKB882>SKB881	図版第6
B		SKB883	円形	60×50	32			図版第5

B		SKB884	卵形	110×83	47			図版第5
B		SKB885	楕円形	110×50	48	市田2期	SKB770>SKB885	図版第5
B	SHB691	SKB886	円形	28×25	14			図版第5
B	SHB137	SKB889	不整円形	42×38	16			図版第3
B	SHB137	SKB891	円形	45×40	30			図版第5
B	SHB145	SKB893	不整円形	-	-		SKB893>SKB769	図版第3
B	SHB144	SKB894	楕円形	58×47	34			図版第5
B	SHB137	SKB895	円形	53×40	44			図版第5
B		SKB897	不整円形	160×138	20	市田6期		図版第6
B		SKB899	四角形	85×75	37	市田3期		図版第5
B		SKB900	半円形	33×25	20			図版第5
B		SKB901	不整形・不明	-	44			図版第5
B		SKB902	楕円形	118×100	77			図版第5
B		SKB903	円形	55×33	17			図版第5
B		SKB904	楕円形	180×140	36	市田3期		図版第3・5
B		SKB905	長楕円形	175×70	46	市田2期		図版第3
B		SKB906	円形	25×18	11			図版第3
B		SKB907	円形	33×30	20			図版第3
B		SKB908	不整円形	123×90	39			図版第3
B		SKB909	長方形	310×185	36	市田4期	SKB656>SKB909	図版第6
B		SKB911	隅丸方形	210?×145	20	市田2期	SKB911>SDB333	図版第4
B		SKB912	円形	23×20	6			図版第4
B		SKB913	円形	13×13	16			図版第4
B		SKB914	円形	25×20	13			図版第4
B		SKB915	半円形	25×15	4			図版第4
B		SKB916	円形	23×20	6			図版第4
B		SKB917	楕円形	30×23	7			図版第4
B		SKB918	卵形	23×18	11			図版第4
B		SKB919	半円形	23×20	-			図版第4
B		SKB920	卵形	23×18	4			図版第4
B		SKB922	円形	18×15	31			図版第3
B		SKB923	円形	48×37	10			図版第3
B	SHB153	SKB925	四角形	63×55	13			図版第3
B	SHB153	SKB928	円形	24×22	17			図版第3
B	SHB153	SKB929	楕円形	38×30	15			図版第3
B		SKB930	扇形	170×90	12		SHB1129>SKB930>SHB138	図版第3
B		SKB931	楕円形	220×155	58	市田3期	SKB931>SHB153>SKB932・933	図版第3
B		SKB932	円形	33×30	2			図版第3
B	SHB153	SKB934	不整円形	165×115	29			図版第3
B	SHB153	SKB936	円形	25×23	7			図版第3
B	SHB153	SKB937	楕円形	110×42	26			図版第3
B	SHB138	SKB938	円形	68×65	26			図版第3
B	SHB138	SKB939	長方形	101×58	23	市田3期		図版第3
B	SHB138	SKB940	円形?	55×18~	9			図版第3
B	SHB138	SKB941	円形	23×18	4			図版第3
B	SHB138	SKB943	楕円形	35×25	8			図版第3
B	SHB138	SKB945	楕円形	35×25	24			図版第3
B	SHB138	SKB946	円形	55×50	14	市田3期?		図版第3
B		SKB947	円形	20×18	13			図版第3
B	SHB137	SKB948	半楕円形	18×15	12			図版第3・5
B		SKB949	半楕円形	18×12	9			図版第3
B		SKB950	円形	23×21	25			図版第3
B	SHB137	SKB951	楕円形	20×18	34			図版第3・5
B	SHB137	SKB952	円形	33×28	49			図版第3・5
B	SHB137	SKB953	円形	18×15	14			図版第3・5
B	SHB137	SKB955	円形	28×23	13			図版第5
B	SHB138	SKB956	楕円形	45×40	12			図版第5



観 察 表

B	SHB137	SKB957	円形	38×23	3			図版第5
B	SHB144	SKB958	円形	35×28	20			図版第5
B	SHB137	SKB959	円形	35×30	39			図版第5
B	SHB144	SKB961	楕円形	30×15	14			図版第5
B	SHB144	SKB962	不整円形	120×85	27			図版第5
B		SKB967	円形	33×25	26			図版第5
B	SHB144	SKB970	円形	40×35	11			図版第5
B	SHB144	SKB971	円形	50×50	7			図版第5
B	SHB969?	SKB972	長方形	215×125	43	市田3期		図版第5
B	SHB144	SKB973	円形	15×15	4			図版第5
B	SHB144	SKB974	円形	23×20	5			図版第5
B	SHB151	SKB975	楕円形	30×23	17			図版第3
B		SKB979	半楕円形	46×15	-			図版第3
B	SHB667	SKB981	円形	33×30	26			図版第3
B		SKB983	楕円形	23×18	19			図版第3
B		SKB984	円形	25×25	6			図版第3
B	SHB149	SKB985	半円形	85×50	42		SKB985>SKB436	図版第3
B	SHB667	SKB986	円形	35×40	24			図版第3
B	SHB667	SKB987	円形	40×35	9			図版第3
B	SHB667	SKB988	半円形	35×18	11			図版第3
B	SHB667	SKB989	半円形	33×25	18			図版第3
B	SHB667	SKB991	円形	53×50	33			図版第3
B	SHB742?	SKB992	円形	25×20	13			図版第3
B	SHB742?	SKB993	半円形	30×23~	25			図版第3
B	SHB742?	SKB994	円形	30×30	13			図版第3
B	SHB742?	SKB995	円形	48×35	24			図版第3
B	SHB675	SKB996	円形	48×35	8			図版第3
B	SHB675	SKB997	円形	53×43	28			図版第3
B	SHB675	SKB998	円形	33×31	25			図版第3
B	SHB667	SKB999	円形	55×45	35			図版第3
B	SHB148	SKB1000	円形	33×30	12			図版第3
B	SHB148	SKB1001	不整円形	50×47	25			図版第3
B		SKB1002	円形	23×20	20			図版第3
B		SKB1003	円形	23×15	15			図版第3
B		SKB1004	円形	70×63	8		SHB150>SKB1004	図版第3
B	SHB529	SKB1005	四角形	68×61	2			図版第3
B	SHB529	SKB1006a	楕円形	65×48	26	市田6期		図版第3
B	SHB1008	SKB1006b	楕円形	130×85	48			図版第3
B	SHB1008	SKB1007	円形	40×28	7			図版第3
B	SHB1008 (SHB529?)	SKB1009	円形	55×50	16	市田6期		図版第3
B	SHB529	SKB1010	円形	58×50	18			図版第3
B	SHB529	SKB1011	円形	35×28	17			図版第3
B	SHB529	SKB1012	円形	48×43	14			図版第3
B	SHB529	SKB1013	円形	25×23	7			図版第3
B	SHB529	SKB1015	円形	33×28	17			図版第3
B	SHB1008	SKB1016	円形	38×35	1			図版第3
B	SHB529	SKB1017	円形	43×28	2			図版第3
B	SHB1008	SKB1018	不整円形	50×25	3			図版第3
B	SHB1008	SKB1019	不整円形	60×42	3			図版第3
B	SHB1008 (SHB529?)	SKB1020	円形?	57×37	14	市田4期		図版第3
B	SHB535?	SKB1021	楕円形?	145×135	28	市田3期		図版第3
B	SHB138	SKB1022	楕円形	123×77	7	市田3期		図版第3
B	SHB139	SKB1025	円形	35×35~	16			図版第3
B	SHB139	SKB1026	楕円形	35×25	12			図版第3
B	SHB139	SKB1027	円形	53×20	18			図版第3
B	SHB139	SKB1028	円形	22×20	11			図版第3
B	SHB139	SKB1030	円形	27×25	24			図版第3

B	SHB145	SKB1031	楕円形	100×64	50			図版第3
B		SKB1032	卵形	77×51	15	市田3期		図版第3
B		SKB1033	長楕円形	100×50	5			図版第3・5
B	SHB690	SKB1034	長方形	105×53	16	市田3期		図版第5
B	SHB690	SKB1035	長楕円形	90×20	14			図版第5
B	SHB690	SKB1036	長方形	90×60	28			図版第5
B	SHB690	SKB1038	円形?	115×115	43			図版第5
B		SKB1040	円形	60×60	46			図版第5
B	SHB1052	SKB1042	円形	28×27	20			図版第6
B		SKB1044	円形	40×38	45			図版第6
B		SKB1045	円形	40×35	14			図版第6
B		SKB1046	楕円形	43×35	18			図版第6
B		SKB1048	円形	43×30	31			図版第6
B		SKB1049	円形	25×23	10			図版第6
B	SHB1052	SKB1051	不整楕円形	192×120	44	市田4期		図版第6
B		SKB1052	楕円形	125×75	-			
B		SKB1053	円形	60×55	11			図版第6
B	SHB341	SKB1056	円形	40×30	17			図版第6
B		SKB1057	半長楕円形	45×35	15			図版第6
B		SKB1058	円形	25×20	47			図版第4
B		SKB1059	円形?	50×40	34		SKB1160>SKB1059> SKB436	図版第4
B		SKB1061	円形	40×30	18			図版第4
B		SKB1065a	円形	25×23	7			図版第4
B	SHB969	SKB1065b	円形	125×100	55		SKB1065b>SKB1209	図版第5
B		SKB1066	不整円形	50×45	12			図版第3
B		SKB1067	楕円形	160×108	43	市田3期		図版第3
B		SKB1068	円形?	122×90	37	市田5期		図版第6
B		SKB1069	半円形	20×10	9			図版第5・6
B		SKB1070	長方形	118×95	40			図版第5
B		SKB1073	楕円形	150×68	40			図版第5
B		SKB1074	円形	28×25	24			図版第3
B		SKB1080	長楕円形	240×125	21			図版第4
B	SHB772	SKB1081	長楕円形	150×78	8	市田3期		図版第5
B		SKB1082	正方形	70×70	22			図版第5
B	SHB528	SKB1083	半円形	32×13	24			図版第3
B		SKB1084	楕円形	93×67	29			図版第5
B		SKB1085	円形	70×47	33			図版第5
B		SKB1090	隅丸方形	110×100	41			図版第5
B		SKB1091	円形	38×33	11			図版第6
B		SKB1093	円形	30×28	36			図版第6
B	SHB773	SKB1094	円形	43×35	1			図版第5
B		SKB1097	円形	35×30	6	市田5期		図版第5
B	SHB982	SKB1099	円形	115×98	70	市田6期		図版第3
B	SHB147	SKB1100	円形	73×64	28		SKB1100>SKB1101	図版第3
B	SHB147	SKB1101	半円形	86×53	19		SKB1100>SKB1101	図版第3
B	SHB699	SKB1103	不整円形	88×85	39		SKB1103>SHB699・ SKB710	図版第3
B		SKB1104	楕円形	118×83	15			図版第3
B		SKB1105	不整円形	50×28	19			図版第4
B		SKB1106	円形	40×30	55			図版第6
B	SHB149	SKB1108	円形	35×28	8			図版第3
B		SKB1110	長楕円形	240～×115	24		SKB1110>SKB902	図版第5
B		SKB1112	円形	20×20	12			図版第5
B		SKB1113	円形	30×20	12			図版第5
B		SKB1115	円形	30×26	24			図版第3
B		SKB1116	円形	30×30	27			図版第3
B		SKB1119	円形	20×18	2			図版第4
B		SKB1120	不整円形	25×21	58			図版第4

観 察 表

B		SKB1122	卵形	25×20	5			図版第4
B	SHB690	SKB1124	円形	43×40	23			図版第5
B	SHB709	SKB1128a	円形	28×20	22			図版第3
B	SHB153	SKB1128b	正方形	102×100	52			図版第3
B		SKB1134	不整円形	22×20	26			図版第6
B		SKB1135	楕円形	127×68	22	市田2期		図版第3
B		SKB1136	不整円形	330×230	8			図版第5・6
B		SKB1137	円形	98×97	43			図版第5
B	SHB538	SKB1138	円形	25×23	41			図版第5
B		SKB1141	円形	123×100	40			図版第3
B		SKB1142	円形	35×33	-			図版第3
B		SKB1143	楕円形	165×95	23			図版第4
B		SKB1145	長楕円形	210×102	56		SKB1207>SKB1145> SKB664・665	図版第3
B		SKB1155	長楕円形	110×60	17			図版第3・5
B		SKB1156	楕円形	110×70	20	市田3期		図版第5
B	SHB149	SKB1160	半円形?	85×28	-			図版第3
B		SKB1162	長方形	205×140	24			図版第3・5
B	SHB691	SKB1164	卵形	40×33	41	市田5期		図版第6
B		SKB1165	円形	38×33	23			図版第6
B	SHB772	SKB1167	半円形	100×115	26	市田3期		図版第5
B	SHB690	SKB1168	円形	55×53	22			図版第5
B	SHB690	SKB1169	半円形	50×21~	15	市田4期		図版第5
B	SHB691	SKB1170a	円半形	30×28	25			図版第6
B	SHB137	SKB1170b	四角形	195×143	26			図版第5
B	SHB691	SKB1171	楕円形	103×58	47			図版第6
B		SKB1172	円形?	75×65	35		SKB1173・1162> SKB1172>SHB137・ 153	図版第6
B	SHB691	SKB1173	正三角形	53×52	42	市田5期	SKB1162>SHB137・ 153・SKB1173	図版第6
B		SKB1174	円形?	60×55	39			図版第6
B		SKB1175	円形	33×28	29			図版第6
B	SHB691	SKB1176	長楕円形	138×38	37			図版第6
B		SKB1177	楕円形	103×65	12		SKB1177>SHB138	図版第3
B	SHB691	SKB1178a	円形	65×65	38			図版第6
B	SHB528	SKB1178b	楕円形	90×65	17	市田6期		図版第3
B		SKB1178c	円形	30×28	24			図版第3
B	SHB150?	SKB1179	不整円形	125×50	19	市田5期		図版第3
B	SHB151	SKB1186	不整形・不明	-	-		SHB667>SHB152・ 150・528	図版第3
B		SKB1189	楕円形?	50×35	3			図版第3
B		SKB1191	楕円形	45×38	43			図版第3
B		SKB1194	楕円形	18×13	40		SHB341>SHK1194	図版第4
B		SKB1196	不整円形	121×92	59		SKB1196>SHB543	図版第4
B		SKB1197	楕円形?	105×58	57	市田5期		図版第6
B		SKB1200	長楕円形	137×55	34			図版第6
B		SKB1201	長楕円形	185×75	13	市田4期		図版第6
B		SKB1202	円形	70×68	33			図版第6
B		SKB1203	半円形	110×55	38		SKB1203>SKB878	図版第6
B		SKB1204	円形	220×140~	4	市田2期	SKB1204>SHB149	図版第3
B		SKB1205	円形	70×68	40			図版第6
B		SKB1207	楕円形	145×60	44			図版第3
B	SHB742?	SKB1208	不整楕円形	150×110	66			図版第3
B	SHB144	SKB1209	楕円形	73×58	21	市田4期		図版第5
B		SKB1641	円形	30×30	8			図版第6
C		SKC63	楕円形	195×65	7			図版第9
C		SKC69	円形	63×60	20			図版第9
C		SKC70	長方形	140×90	37			図版第8
C		SKC71	楕円形	95×60~	35			図版第8

C		SKC72	円形	68×63	8	市田 3 期		図版第 8
C		SKC73	円形	30×25	13	市田 4 期		図版第 8
C		SKC74	半楕円形	256×135	20	市田 2 期		図版第 8
C		SKC75	楕円形	150×100	34	市田 3 期		図版第 8
C		SKC76	円形	40×38	14			図版第 8
C		SKC77	楕円形	98×65	13			図版第 8
C		SKC78	楕円形	93×60	20			図版第 8
C		SKC79	円形	68×55	34			図版第 8
C		SKC81	長方形	335×140	49	市田 4 期	SDC65>SKC81	図版第 8
C		SKC82	楕円形	105×75	12		SKC81>SKD65	図版第 9
C		SKC83	円形	80×73	20	市田 5 期		図版第 9
C		SKC84	楕円形	73×45	19	市田 3 期		図版第 9
C		SKC85	楕円形	100×75	5			図版第 9
C		SKC86	楕円形	25×18	1			図版第 9
C		SKC87	楕円形	95×70	41	市田 4 期		図版第 9
C		SKC88	楕円形	70×40	29			図版第 9
C		SKC89	円形	43×40	21			図版第 9
C		SKC104	長楕円形	195×90	15			図版第 9
C		SKC105	楕円形	93×75	18			図版第 8
C		SKC106	楕円形	50×40	7			図版第 9
C		SKC112a	楕円形	100×70	28			図版第 8
C		SKC113	長方形	140×60	25	市田 3 期		図版第 8
C		SKC115	長方形	85×70	15	市田 3 期		図版第 9
C		SKC119	楕円形	145～×70	61			図版第 8
C		SKC121	楕円形	80×35	41	市田 4 期		図版第 9
C		SKC122	楕円形	35×28	-			図版第 9
C		SKC123	円形	21×21	-			図版第 9
C		SKC124	楕円形	70×35	-			図版第 9
C		SKC125	楕円形	28×14	-			図版第 9
C		SKC131	楕円形	203×116	28	市田 2 期		図版第 8
C		SKC135a	楕円形	53×35	28			図版第 8
C		SKC136	楕円形	155～×120	52	市田 4 期		図版第 8
C		SKC139	円形	48×40	16			図版第 11
C		SKC141	不整円形	210×125	86	市田 2 期	SKC141>SDC101	図版第 11
C	SHC138	SKC142	不整円形	190×190	70			図版第 8
C		SKC145	半円形	115×60	18			図版第 8
C		SKC146	不整円形	167×138	46			図版第 8
C		SKC148	不整円形	120×95	39			図版第 8
C	SHC132	SKC149	円形	110×100	28			図版第 8
C	SHC132	SKC150	楕円形	80×63	10			図版第 8
C	SHC132	SKC152	円形	100×75	29			図版第 8
C	SHC132	SKC153	楕円形	135×120	54			図版第 8
C	SHC132	SKC154	楕円形	120×75	17			図版第 9
C		SKC155	不整楕円形	300×190	68	市田 3 期		図版第 9
C		SKC156	円形	75×75	13			図版第 9
C		SKC157	楕円形	75×45	8			図版第 9
C		SKC158	円形	58×58	6	市田 2 期		図版第 9
C		SKC159	楕円形	55×45	10			図版第 9
C		SKC160	円形	45×43	10			図版第 9
C		SKC161	円形	390×380	38			図版第 9
C		SKC162	楕円形	138×60	26	市田 7 期		図版第 9
C		SKC163	楕円形	133×60	50	市田 5 期		図版第 9
C		SKC164	不整円形	165×125	44	市田 3 期	SKC164>SDC65	図版第 9
C		SKC165	円形	150×115	19	市田 5 期		図版第 9
C		SKC166	楕円形	175×75	25			図版第 9
C		SKC171	円形	140×135	46			図版第 9
C		SKC172	不整形・不明	-	-	市田 2 期		図版第 9
C		SKC173a	円形	23×20	7			図版第 8
C		SKC174	楕円形	25×20	13			図版第 8

観 察 表

C		SKC175	円形	23×23	9			図版第8
C		SKC176	円形	23×20	13			図版第8
C		SKC177	半円形	25×20	4			図版第8
C		SKC178	楕円形	30×23	24			図版第8
C		SKC179	円形	28×28	23			図版第8
C		SKC180	楕円形	40×30	5			図版第8
C		SKC181	楕円形	90×30	27			図版第8
C		SKC182	楕円形	23×18	10			図版第8
C		SKC183	円形	25×23	9			図版第8
C		SKC185	円形	20×18	15			図版第8
C		SKC186	円形	20×18	10			図版第8
C		SKC187	円形	15×15	11			図版第8
C		SKC188	円形	28×25	19			図版第8
C		SKC189	楕円形	28×18	8			図版第8
C		SKC190	三角形	35×20	5			図版第8
C		SKC191	円形	18×15	4			図版第8
C		SKC192	円形	20×20	14			図版第8
C		SKC193	楕円形	25×20	7			図版第8
C		SKC194	円形	23×20	6			図版第8
C		SKC195	円形	28×25	2			図版第8
C		SKC196	楕円形	28×20	4			図版第8
C		SKC197	円形	25×20	13			図版第8
C		SKC198	円形	25×20	3			図版第8
C		SKC199	円形	20×18	5			図版第8
C		SKC200	楕円形	20×15	7			図版第8
C		SKC201	不整形・不明	-	-			図版第8
C		SKC203	楕円形	28×23	17			図版第8
C		SKC204	円形	20×18	9			図版第8
C		SKC205	楕円形	65×25	25			図版第8
C		SKC206	円形	33×28	3			図版第8
C		SKC207	楕円形	25×18	4			図版第8
C		SKC208	楕円形	38×25	35			図版第9
C		SKC209	円形	33×28	3			図版第8
C		SKC210	楕円形	23×15	3			図版第8
C		SKC211	楕円形	20×15	3			図版第8
C		SKC212	円形	15×13	8			図版第8
C		SKC214	円形	25×20	2			図版第8
C	SHC169	SKC215	円形	35×30	3			図版第8
C	SHC169	SKC216	円形	50×45	15			図版第8
C		SKC217	円形	40×40	4			図版第8
C		SKC218	楕円形	240×142	-	市田3期		図版第8
C		SKC219	円形	35×33	2			図版第8
C		SKC221	円形	30×30	-			図版第9
C		SKC222	楕円形	20×15	3			図版第9
C		SKC223	楕円形	30×25	7			図版第9
C		SKC228	楕円形	63×35	7			図版第9
C		SKC229	楕円形	170×50	17			図版第9
C		SKC230	楕円形	40×28	6			図版第8
C		SKC231	円形	30×25	22			図版第8
C		SKC232	円形	40×40	10			図版第9
C		SKC234	四角形	100×90	12			図版第9
C		SKC235	円形	20×18	7			図版第9
C		SKC236	楕円形	35×23	7			図版第9
C		SKC237	楕円形	98×18	-			図版第9
C		SKC238	円形	33×33	-			図版第9
C		SKC240	楕円形	80×74	14			図版第9
C		SKC241	楕円形	90×75	5			図版第9
C		SKC242	楕円形	220×135	30	市田4期		図版第9
C		SKC243	楕円形	30×23	-			図版第9

C		SKC245	楕円形	30×23	1		図版第9
C		SKC246	楕円形	53×25	24		図版第9
C		SKC247	楕円形	50×28	36		図版第9
C		SKC249	楕円形	50×35	20		図版第9
C		SKC250	楕円形	38×25	17		図版第9
C		SKC251	円形	75×75	16		図版第9
C		SKC253	円形	43×40	22		図版第9
C		SKC254	円形	25×23	1		図版第8
C		SKC255	半円形	105×60	8		図版第9
C	SHC167	SKC256	不整円形	140×120	48		図版第9
C		SKC257	円形	25×20	-		図版第9
C		SKC258	円形	30×25	10	市田6期	図版第9
C		SKC259	円形	20×20	1		図版第9
C		SKC261	楕円形	30×20	7		図版第9
C		SKC262	楕円形	70×28	11		図版第9
C		SKC263	楕円形	95×65	15		図版第9
C		SKC264	楕円形	28×15	17		図版第9
C		SKC265	楕円形	75×43	38		図版第9
C		SKC266	円形	55×50	12		図版第9
C		SKC267	円形	35×28	5		図版第9
C		SKC268	楕円形	68×58	10		図版第9
C		SKC269	楕円形	103×90	32		図版第9
C		SKC270	楕円形	260×63	6		図版第9
C		SKC271	楕円形	65×55	28		図版第9
C		SKC272	円形	43×38	37		図版第9
C		SKC273	楕円形	35×28	9		図版第8
C		SKC275	楕円形	60×45	16		図版第9
C		SKC276	円形	60×60	4		図版第9
C		SKC277	楕円形	193×108	23		図版第9
C		SKC279	楕円形	170×85	10		図版第9
C		SKC280a	円形	93×93	18		図版第9
C		SKC280b	楕円形	28×20	7		図版第9
C		SKC281	楕円形	143×60	24		図版第11
C		SKC282	楕円形	123×90	40		図版第11
C		SKC283	楕円形	123×95	28		図版第11
C		SKC284	円形	75×75	10		図版第9
C		SKC285	楕円形	120×35~	2		図版第9
C		SKC286	不整楕円形	300×200	27	市田4期	図版第9
C		SKC287a	楕円形	43×33	7		図版第9
C		SKC287b	楕円形	65×30	12		図版第9
C		SKC289	円形	33×33	19		図版第9
C		SKC290	楕円形	103×40	51		図版第9
C		SKC291	楕円形	25×20	36		図版第9
C		SKC292	円形	23×20	19		図版第9
C		SKC293	楕円形	95×50	31		図版第9
C		SKC294	楕円形	33×28	5		図版第8
C	SHC138	SKC295	楕円形	50×40	24		図版第8
C		SKC296	楕円形	196×101	41	市田3期	図版第10
C		SKC297	楕円形	75×50	29		図版第9
C		SKC298a	円形	35×35	23		図版第9
C		SKC298b	楕円形	30×25	10		図版第8
C		SKC300	円形	20×18	11		図版第9
C		SKC301	楕円形	100×85	7		図版第9
C		SKC302	円形	30×25	13		図版第9
C		SKC303	円形	28×25	2		図版第8
C		SKC305 (252)	楕円形	40×25	17		図版第9
C		SKC306	円形	28×28	3		図版第9
C		SKC308	楕円形	110×102	13	市田3期	図版第9

観 察 表

C		SKC309	楕円形	105×95	29	市田 3 期		図版第10
C		SKC310	円形	28×25	3			図版第10
C		SKC311	楕円形	155×55	23			図版第10
C		SKC312	楕円形	118×20	3			図版第10
C		SKC313	楕円形	110×60	19			図版第10
C		SKC314	楕円形	110×55	20			図版第10
C		SKC315	円形	63×58	13			図版第10
C		SKC316	三角形	160×53	12			図版第 8
C		SKC318	円形	25×25	6			図版第10
C		SKC319	円形	35×30	15			図版第10
C		SKC320	円形	20×18	2			図版第10
C		SKC321	楕円形	98×42	25	市田 3 期		図版第 8
C		SKC322	四角形	95×90	5			図版第 8
C		SKC324	円形	55×50	5			図版第 8
C		SKC326	楕円形	70×50	15			図版第 9
C		SKC327	楕円形	125×65	16			図版第 8
C	SHC138	SKC329	半楕円形	115×115	56	市田 6 期		図版第 8
C		SKC330	半円形	45×40	10			図版第 8
C	SHC132	SKC332	円形	44×42	56			図版第 8
C		SKC335	円形	73×71	20	市田 3 期		図版第 8
C	SHC92	SKC336a	卵形	35×28	19			図版第 8
C	SHC173b	SKC336b	不整円形	115×110	50			図版第 9
C		SKC337	楕円形	20×10	5	市田 5 期		図版第 9
C	SHC169	SKC338	円形	75×60	35			図版第 8
C		SKC339	楕円形	128×123	9			図版第 8
C		SKC341	円形	48×43	2			図版第 8
C	SHC138	SKC342	不整形・不明	-	-			図版第 8
C	SHC138	SKC343	楕円形	55×38	5			図版第 8
C	SHC138	SKC344	不整形・不明	-	-			図版第 8
C	SHC138	SKC345	半楕円形	55×20~	20			図版第 8
C	SHC138	SKC346	円形	40×35	1			図版第 8
C	SHC138	SKC347	楕円形	35×18	-			図版第 8
C	SHC138	SKC348	楕円形	65~×100	5			図版第 8
C		SKC349	円形	33×30	14			図版第 8
C		SKC350	円形	50×45	-			図版第 8
C		SKC351	円形	40×40	-			図版第 9
C	SHC169	SKC352	円形	40×38	30			図版第 8
C		SKC353	円形	33×30	20			図版第 8
C	SHC168	SKC354	円形	40×35	27			図版第 8
C	SHC169	SKC355	円形	30×25	-			図版第 8
C		SKC356	円形	40×35	-			図版第 9
C		SKC357	楕円形	43×25	-			図版第 9
C		SKC358	円形	25×25	-			図版第 9
C		SKC360	楕円形	105×33	-			図版第 9
C		SKC361	楕円形	25×20	2			図版第 8
C	SHC169	SKC362	楕円形	131×136	8			図版第 8
C		SKC363	円形	350×350	6			図版第 9
C		SKC365	円形	75×75	13			図版第 8
C		SKC136	不整円形	-	-			図版第 9
C		SKC429	不整形	-	-			図版第10
C		SKC430	楕円形	68×50				図版第10
C		SKC436	楕円形	181×133	20			図版第10
C		SKC439	円形	50×50	15			図版第 8
C		SKC440	楕円形	70×60	11			図版第 8
C		SKC441	楕円形	83×70	20			図版第 8
C		SKC442	楕円形	23×15	1			図版第 8
C		SKC443	楕円形	35×23	21			図版第 8
C		SKC444	楕円形	50×40	36			図版第 8
C		SKC445	楕円形	40×35	35			図版第 8

C	SHC574	SKC446a	三角形	133×53	2			図版第8
C		SKC446b	四角形	180×145	24			図版第10
C		SKC447	不整形	-	-			図版第8
C		SKC448	楕円形	25×20	16			図版第8
C	SEC434上層土坑	SKC449	楕円形	28×20	18			図版第8
C	SEC453最上層	SKC452	楕円形	249×170	-			図版第10
C		SKC458	楕円形	210×150	33			図版第11
C		SKC461	不整円形	135×110	42	市田2期		図版第10
C		SKC462	不整円形	230×125	27			図版第10
C	STC455埋葬施設	SKC463	長方形	305×175	21	市田3期	STC455>SKC463	図版第11
C		SKC471	楕円形?	50×30	15			図版第10
C		SKC472	不整形・不明	-	-			図版第10
C		SKC474	不整形・不明	-	-			図版第10
C		SKC476	半円形	60×40	16			図版第8
C		SKC477	円形	105×135	-	市田5期		図版第8
C		SKC478a	卵形	143×103	39	市田7期	SHC570>SKC478a	図版第8
C		SKC478b	長方形	160×118	52		STC467>SKC478b	図版第10
C		SKC480	楕円形	115×60~	29			図版第8
C		SKC481		105×90	23	市田5期		図版第8
C		SKC482	円形	50×50	15			図版第11
C		SKC484	不整円形	140×145	3			図版第8
C		SKC489	楕円形	55×40	17			図版第10
C		SKC491	不整円形	195×215	10			図版第8
C		SKC493	楕円形	250×135	47		SKC493>SDC401	図版第10
C		SKC494	楕円形	238×168	36		SKC494>SDC456	図版第11
C		SKC495	楕円形	105×40	20			図版第8
C		SKC496	円形	97×73	-			図版第8
C		SKC498	円形	23×20	14			図版第8
C		SKC499	円形	20×20	13			図版第8
C		SKC500	円形	18×15	14			図版第8
C		SKC501	円形	15×15	14			図版第8
C		SKC502	円形	25×23	17			図版第8
C		SKC503	楕円形	23×15	17			図版第8
C		SKC505	楕円形	75×68	24			図版第10
C		SKC508	楕円形	50×50	20			図版第10
C		SKC509	楕円形	100×85	17			図版第10
C		SKC511	楕円形	50×40	27			図版第10
C		SKC516	長方形	200×65	32			図版第11
C		SKC518	半円形	100×80	-	市田2期		図版第11
C		SKC519	円形	100×100	24			図版第11
C		SKC520	楕円形	205×115	50	市田3期		図版第11
C		SKC521	不整円形	95×95	60			図版第11
C		SKC522	楕円形	120×85	26			図版第11
C		SKC523	楕円形	110×50	42			図版第11
C		SKC524	円形	25×20	42			図版第11
C		SKC525	正方形	75×55	30			図版第11
C		SKC526	楕円形	50×40	35			図版第11
C		SKC527	円形	30×20	35			図版第11
C		SKC528	楕円形	90×50	30			図版第11
C		SKC529	楕円形	90×55	36			図版第11
C		SKC530	長方形	100×65	34			図版第11
C		SKC531	長方形	75×40	15			図版第11
C		SKC532	楕円形	45×35	18			図版第11
C		SKC533	楕円形	40×30	20			図版第11
C		SKC534	円形	25×23	23			図版第11
C		SKC535	楕円形	25×20	41			図版第11



観 察 表

C		SKC536	楕円形	33×28	26			図版第11
C		SKC537	楕円形	33×25	25			図版第11
C		SKC538	楕円形	25×20	34			図版第11
C		SKC539	円形	20×18	79			図版第11
C		SKC540	円形	45×40	41			図版第11
C		SKC541	円形	18×18	43			図版第11
C		SKC542	楕円形	30×15	37			図版第11
C		SKC543	楕円形	35×30	21			図版第11
C		SKC544	楕円形	55×40	60			図版第11
C		SKC545	楕円形	30×18	25			図版第11
C		SKC546	円形	20×20	34			図版第11
C		SKC547	楕円形	30×20	24			図版第11
C		SKC548	楕円形	23×15	22			図版第11
C		SKC549	円形	15×15	23			図版第11
C		SKC550	楕円形	25×15	41			図版第11
C		SKC551	楕円形	30×25	46			図版第11
C		SKC552	円形	13×10	44			図版第11
C		SKC553	円形	23×20	45			図版第11
C		SKC554	円形	25×25	46			図版第11
C		SKC555	円形	13×15	42			図版第11
C		SKC556	円形	23×20	41			図版第11
C		SKC557	不整形・不明	-	-			図版第11
C		SKC558	円形	28×23	20			図版第11
C		SKC559	楕円形	30×25	19			図版第11
C		SKC560	楕円形	40×33	46			図版第11
C		SKC561	半円形	-	-			図版第11
C		SKC562	円形	50×45	62			図版第11
C		SKC563	円形	50～×50	62			図版第11
C		SKC564	楕円形	58×53	57			図版第11
C		SKC565	円形	25×23	60			図版第11
C		SKC566	楕円形	40×35	34			図版第11
C		SKC567	円形	25×23	25			図版第11
C		SKC569	楕円形	30×25	23			図版第11
C		SKC575	楕円形	350×160	35	市田2期		図版第10
C		SKC584	半楕円形	45×40	6			図版第8
C		SKC585	半楕円形	38×30	19			図版第8
C		SKC587	不整形・不明	-	-			図版第8
D	STD24埋葬施設	SKD22	長方形	260×74	46			図版第12
D	埋葬施設	SKD38	楕円形	581×180	31			図版第12
D	STD20埋葬施設	SKD43	楕円形	296×146	56			図版第12
D	STD56埋葬施設	SKD45	楕円形	311×134	24		SKD45>SDD57	図版第12
D	SDD44埋葬施設	SKD47	楕円形	249×93	15			図版第12
D	SDD14埋葬施設	SKD49	長楕円形	249×83	22			図版第12
D	SDD33埋葬施設	SKD50	楕円形	130×61	15			図版第12
D	SDD17埋葬施設	SKD51	楕円形	106×54	11			図版第12
	SDD24埋葬施設	SKD52	円形	62×46	18			図版第12
D	SDD20埋葬施設	SKD53	楕円形	-	-			図版第12
D	STD32埋葬施設	SKD54	楕円形	-	-			図版第12
D	STD17埋葬施設	SKD55	円形	114×108	6			図版第12

D	STD34埋葬施設	SKD58	楕円形	-	-			図版第12
D	SDD17埋葬施設	SKD59	長方形	400×114	10		SKC59>SKC60>SKC61	図版第12
	SDD17埋葬施設	SKD60	長方形	400×114	10		SKC59>SKC60>SKC61	図版第12
D	SDD17埋葬施設	SKD61	長方形	400×114	10		SKC59>SKC60>SKC61	図版第12

付表13 方形周溝墓一覧

調査区	墓遺構番号	溝遺構番号	周溝位置	周溝規模(溝心々間(m))	周溝遺存深さ(m)	周溝遺存幅(m)	重複関係(古>新)
A	STA49	SDA49-1区、2区	東辺周溝	不明	1.0~1.3	2.4~3.6	
		上層SDA49-3区・下層SDA49b	北辺周溝		0.35~0.6	1.2~1.3	
A	STA58	SDA01、SDA07	東辺周溝	9.0×8.5	0.8~1.3	1.8~2.0	
		SDA58-1区、2区	北辺周溝		0.8~1.0	3.4~3.5	
		SDA49-1区、2区	西辺周溝		1.0~1.3	2.4~3.6	
A	STA59	SDA59-1区・SDA96・SDA17	北東辺周溝	11.2×10.8	0.1~0.15	1.5~2.45	SDA59>SDA68
		SDA59-1区、2区、3区	北西辺周溝		0.8~0.9	1.6~3.5	SDA95>SDA59
		SDA68-1区、2区	南西辺周溝		1.3~1.4	3.7~4.0	
		SDA14	南東辺周溝		0.4~0.5	2.0~2.6	
A	STA62	SDA62-1区、2区	東辺周溝	9.6×8.7	0.7~0.75	1.4~2.0	
		SDA62	北辺周溝				
		SDA61	西辺周溝				
		SDA62-3区、4区	南辺周溝		0.5~0.6	0.4~0.75	
A	STA68	SDA68-1区、2区	東辺周溝	14.2×13.4	1.3~1.4	3.5~5.0	SDA14>SDA68
		SDA68-3区、4区	北辺周溝		1.05~1.1	1.8~2.1	SDA73>SDA68
		SDA68-5区、6区	西辺周溝		0.3~0.5	1.9~3.8	
		SDA58-1区、2区	南辺周溝		0.8~1.0	3.4~3.5	
A	STA73	SDA73-2区、3区	東辺周溝	11.1×10.9	0.4~0.5	1.0~1.4	SDA73>SDA68・SDA95
		SDA73-1区、7区、8区	北辺周溝		0.5~0.55	1.2~1.5	
		SDA73-5区、6区	西辺周溝		0.75~0.9	1.2~1.3	
		SDA73-4区、5区	南辺周溝		0.9~1.0	3.4~3.6	
A	STA95	SDA95-1区	南西辺周溝	不明	0.5	1.1	
		上層SDA59-1区、2区・下層SDA95-2区	南東辺周溝		0.5~0.8	1.1~1.5	SDA73・SDA95>SDA59
A	STA96	上層SDA59-1区・下層SDA17・下層SDA96	西辺周溝?		0.25~0.65	1.2~1.5	
A	STA97	SDA73-6区上層	東辺周溝	6.0×5.7	0.85	1.0	
		SDA97-1区	北辺周溝		0.3~0.4	0.7	SDA97>SKA69
		SDA97-3区	南辺周溝		0.3~0.4	0.6~0.9	
		SDA97-2区	西辺周溝		0.5~0.7	1.3~1.5	
A	STA104	SDA68-5区	東辺周溝?	不明	0.65~0.7	2.5	SDA97>SDA112>SKA69
		SDA112	北辺周溝?		0.95	1.5~1.8	
		SDA104	南辺周溝?		0.65~0.7	2.5	
C	STC62	SDC62北西溝	北西辺周溝	不明	0.45~0.6	0.9~1.0	
		SDC62南西溝	南西辺周溝		0.45~0.6	0.9~1.0	
C	STC65	SDC65東溝	東辺周溝	12.7×12.3	0.15	0.9~1.0	SHC80>SDC65
		SDC65北溝	北辺周溝		0.1	0.6~0.8	
		SDC65西溝	西辺周溝		0.1	0.65~1.0	
		SDC65南溝	南辺周溝		0.15~0.2	0.8~1.1	
C	STC67	SDC67東溝	東辺周溝	20.04	0.2~0.45	2.1~3.0	
		SDC67北溝	北辺周溝		0.2	3.0	
		SDC67南溝	南辺周溝		0.2~0.4	1.7~2.8	
C	STC94	SDC90	北辺周溝	不明	0.95	3.0	
		SDC94	西辺周溝		0.45~0.55	1.1~1.3	
C	STC95	SDC94	東辺周溝	6.4×9.5	0.45~0.55	1.1~1.3	SHC135b>SDC94
		SDC96・SDC103・SDC116	北辺周溝		0.05~0.35	0.5	
		SDC95	西辺周溝		0.25~0.35	0.9~1.0	
		SDC401	南辺周溝		1.2	4.5	
C	STC96	SDC95	東辺周溝	6.1×8.9	0.25~0.35	0.9~1.0	
		SDC96	北辺周溝		0.3~0.7	1.3~2.4	SHC135b>SDC96>SDC90
		SDC118東溝	西辺周溝		0.1~0.25	0.5	
		SDC401	南辺周溝		1.15	4.1	
C	STC99	SDC109	東辺周溝	13.6×15.3	0.45~0.6	1.2~1.4	
		SDC99北溝	北辺周溝		0.85~1.0	2.6~2.8	
		SDC99西溝・SDC112	西辺周溝		0.65~0.7	4.0~4.7	

		SDC90	南辺周溝		0.6~1.1	2.4~3.0	
C	STC103	SDC103・SDC144	北辺周溝	不明	0.5~0.75	2.2~2.8	
		SDC109	西辺周溝		0.45~0.6	1.2~1.4	
		SDC90	南辺周溝				
C	STC107	SDC107	東辺周溝	9.1×11.9	0.65	1.7~1.9	
		SDC114	北辺周溝		0.85~0.95	2.0~2.7	
		SDC112・SDC331	西辺周溝		0.4~0.5	1.3~1.4	
		SDC99北溝	南辺周溝		0.85~1.0	2.6~2.8	
C	STC110	SDC101	北辺周溝	9.6	0.3~0.55	1.0~1.3	
		SDC110	西辺周溝		0.6~0.75	1.6~1.9	
		SDC90	南辺周溝		0.6~1.1	2.4~3.0	
C	STC118	SDC118東溝	東辺周溝	7.9×9.7	0.25~0.3	0.4	
		SDC118北溝	北辺周溝		0.1~0.2	0.8~1.1	
		SDC118西溝・SDC488	西辺周溝		0.65~0.7	2.4~3.2	
		SDC401	南辺周溝		0.95~1.05	3.8~4.1	
C	STC134	SDC331・SDC112	東辺周溝	13.0×15.5	0.4~0.5	1.3~1.4	SHC450>SDC112
		SDC134	北辺周溝		0.5	1.2~2.0	
		SDC513	西辺周溝		0.65~0.85	2.1~3.0	
		SDC513 (SDC90)	南辺周溝		0.9~1.0	5.8	
C	STC170	SDC170東溝	東辺周溝	8.1	0.05~0.2	0.4~0.9	
		SDC170北溝	北辺周溝		0.15~0.2	0.7~0.8	
C	STC410	SDC401	北辺周溝	14.8	1.1	4.0~4.1	
		SDC434	西辺周溝		0.9~1.05	2.4~4.1	SDC434>SDC401
		SDC410	南辺周溝		0.3~0.7	1.8~3.0	
C	STC437	SDC437北溝	北辺周溝	不明	0.45~0.55	1.3~1.6	
		SDC437西溝	西辺周溝		0.5~0.55	1.0~1.9	
C	STC455	SDC455東溝	東辺周溝	5.9×6.6	0.2~0.3	0.8~1.4	
		SDC455北溝	北辺周溝		0.2~0.3	0.9~1.2	
		SDC455西溝	西辺周溝		0.15~0.3	1.1~1.4	
		SDC455南溝	南辺周溝		0.3	1.2	
C	STC456	SDC456東溝	東辺周溝	5.0×5.2	0.1~0.35	0.7~0.85	
		SDC456北溝	北辺周溝		0.1~0.3	0.8~0.95	
		SDC456西溝・SDC426	西辺周溝		0.1	0.5	SDC456>SDC426
		SDC456南溝	南辺周溝		0.1~0.15	0.5~0.6	
C	STC457	SDC457東溝	東辺周溝	5.3×5.3	0.1~0.15	0.45	SDC469・SDC470> SDC457
		SDC457北溝	北辺周溝		0.1~0.15	0.5~0.55	
		SDC457西溝	西辺周溝		0.1~0.15	0.55~0.6	
		SDC457南溝・SDC467	南辺周溝		0.1~0.15	0.3~0.55	SDC457>SDC467
C	STC464	SDC464東溝	東辺周溝	7.2	0.2	0.7	
		SDC464北溝・SDC454	北辺周溝		0.65	2.0	
		SDC464西溝	西辺周溝		0.15~0.2	0.85	
C	STC467	SDC467東溝	東辺周溝	不明	0.1~0.45	1.15	
		SDC467北溝	北辺周溝		0.4~0.5	0.65~1.55	SDC457>SDC467
C	STC469	SDC426	東辺周溝	12.1×12.0	0.35	2.8~2.9	SDC426>SKC454・ SDC456>SDC426
		SDC401	北辺周溝		0.95~1.0	3.5~4.2	
		SDC469・SDC470	西辺周溝		0.6~0.9	1.9~2.5	SHC451>SDC469・ SDC470>SDC457
		SDC454	南辺周溝		0.55~0.7	2.5~3.5	
C	STC473	SDC454・SDC479b	北辺周溝	不明	0.2~0.85	2.0~3.0	SHC451>SDC454
		SDC479b	西辺周溝		0.2	1.0	SDC479b>SDC454
C	STC486	SDC469・SDC470	東辺周溝	不明	0.6~1.1	1.7~2.5	SDC470>SDC457
		SDC486	南辺周溝		0.55	0.6	SDC469>SDC486
C	STC488	SDC488	東辺周溝	13.7×16.5	0.65~0.7	2.4~3.2	SDC470・488>SDC90
		SD488 (SDC90)	北辺周溝		0.65~1.0	3.8~5.9	
		SDC470	西辺周溝		0.7	3.4	
		SDC401	南辺周溝		0.95~1.05	3.2~4.1	
D	STD01	SDD02	北辺周溝	6.8	0.6~1.0	2.6~2.8	SDD07>SDD02
		SDD07	東辺周溝		0.35~0.4	1.1~1.3	
		SDD01	南辺周溝		0.5~0.7	2.0~2.1	SDD07>SDD01
D	STD07	SDD02	北辺周溝	6.8	0.6~1.0	2.6~2.8	SDD07>SDD02

観 察 表

		SDD07西溝	西辺周溝		0.5~0.6	2.0	
		SDD07南溝	南辺周溝		0.5~0.7	2.0~2.1	SDD07>SDD01
D	STD17	SDD17東溝	東辺周溝	11.3×10.8	0.65~0.85	2.1~2.5	SDD17>SDD03・04
		SDD18	北辺周溝		1.0~1.1	3.3~4.0	
		SDD17西溝	西辺周溝		0.85~1.05	1.9~2.6	
		SDD17南溝	南辺周溝		0.5~0.75	2.8~3.1	SDD17>SDD32
D	STD19	SDD19	東辺周溝	7.9×12.2	0.5~0.65	1.8~2.1	
		SDD33	北辺周溝		0.75~0.8	3.3~3.8	
		SDD35	西辺周溝		0.35~0.45	1.3~1.5	SDD35>SDD33
		SDD18	南辺周溝		0.5~0.75	2.8~3.1	
D	STD20	SDD20東溝	東辺周溝	5.9×7.2	0.6~0.7	1.6~1.9	
		SDD20北溝	北辺周溝		0.45~0.6	1.2~1.4	
		SDD20西溝	西辺周溝		0.35~0.5	1.2~1.3	
		SDD20南溝	南辺周溝		0.1		
D	STD24	SDD24、東1区、東2区	東辺周溝	4.1	0.2~0.45	1.9	SDD30>SDD24>SDD25
		不明	北辺周溝				
		SDD24、1区、2区	西辺周溝		0.45~0.5	1.2~1.4	
		SDD24、南区	南辺周溝		0.5~0.6	1.2~1.4	
D	STD25	SDD25	西辺周溝	不明	0.1~0.3	不明	
D	STD30	SDD30東溝	東辺周溝	不明	0.2	1.6	SDD30>SDD24
		SDD24、南区	北辺周溝		0.5~0.6	1.2~1.4	
		SDD30西溝	西辺周溝		0.2	1.9	
D	STD32	SDD24、1区、2区・SDD30西溝	東辺周溝	11.2	0.3~0.4	1.2~1.6	SDD17>SDD32・SDD30
		SDD17南溝・SDD32	北辺周溝		0.5~0.75	2.8~3.1	
		SDD32西溝	西辺周溝		0.15~0.25	1.0~1.05	
D	STD33	SDD33東溝	東辺周溝	16.2	0.55~0.7		SDD14>SDD33
		SDD14・SDD33西溝	西辺周溝		0.4~0.6	2.1~2.4	SHD46>SDD33
		SDD33南溝	南辺周溝		0.85	3.4~3.8	SKD49>SDD33
D	STD34	SDD14	東辺周溝	6.3×7.0	0.4~0.6	2.4	SDD14>SDD33>SKD08
		SDD37東端部	北辺周溝		0.35~0.5	1.2~1.7	
		SDD34西溝・SDD42東溝	西辺周溝		0.5~0.75	1.6~2.1	SDD42>SDD34>SDD37
		SDD10	南辺周溝		0.25~0.4	1.7	
D	STD42	SDD42東溝・SDD34西溝	東辺周溝	11.3×13.5	0.5~0.75	1.6~2.1	SDD42>SDD10>SDD37
		SDD37・SDD42北溝	北辺周溝		0.35~0.4	1.4~1.9	SDD42>SDD37再掘削
		SDD42西溝	西辺周溝		0.35		
		SDD18	南辺周溝		0.5~0.75	2.8~3.1	
D	STD44	SDD33西溝	東辺周溝	10.6×13.5	0.4~0.6	2.1~2.4	
		SDD28	北辺周溝				
		SKD47・SDD44	西辺周溝		0.45	1.5~1.6	SHD39>SKD44>SDD37
		SDD37	南辺周溝		0.35~0.4	1.4~1.9	SDD42>SDD37再掘削
D	STD56	SDD56	北辺周溝	不明	0.2~0.4	0.2~0.45	
		SDD17東溝	西辺周溝		0.65~0.85	2.1~2.5	SDD17>SDD57
		SDD57	周溝?		150		SKD45>SDD57

付表14 土器観察表(弥生時代)

図版番号	遺物番号	出土遺構	器形	口径(底径)	器高(残存高)	調整内面/外面	色調内面/外面	胎土造岩鉱物	口縁部残存率(底部残存率)	備考
64	1	SHA74	甕	18.8	(9.5)	ヨコハケ・ナデ/磨減	淡褐	1~2.5mm長微量、英、チャ微量	1/3	甕Aa3、頸径15.4cm・最大径18.5cm
64	2	SHA74	甕	14.4	(26.1)	ヨコナデ・ハケ/ヨコナデ・ハケ・ケズリ	暗褐	0.5~1mm長、英、チャ	1/5	頸径12.2cm・最大径15.8cm
64	3	SHA74	壺	45.6	(15.0)	ナデ・ハケ/ヨコナデ・ハケ	淡褐	4mm以下英、チャ、赤	1/2	広口壺A7
64	4	SHA74	壺	19.4	(9.3)	ハケ・ナデ・磨減/磨減	褐/赤茶	3mm以下長、英、チャ	1/6	広口壺Ea1、頸径15.8cm
64	5	SHA74	水差	斜径8.4	(22.3)	ナデ/ナデ・ミガキ	淡灰褐/淡黄褐	5mm以下長、英、チャ、1mm以下赤		外面黒斑
64	6	SHA74	底部	(5.0)	(7.1)	磨減/ハケ	灰/淡黄茶褐	3mm以下長、英、チャ	(1/1)	
64	7	SHA74	底部	(9.3)	(7.6)	磨減/ハケ・磨減	淡橙褐	1~1.5mm英、チャ、1~3.5mm長多量、赤多量	(1/1)	
64	8	SHA74	底部	(7.0)	(11.0)	磨減	淡肌白/淡橙黄褐	3mm以下長、英、チャ、2mm以下赤	(1/1)	
64	9	SHA74	底部	(5.0)	(6.4)	ナデ/ハケ→ミガキ	淡黄褐/淡黄褐-黒褐	3mm以下長、英、チャ、赤	(1/1)	
64	10	SHA74	底部	(5.7)	(2.5)	指痕/ハケ	淡黄褐/黒褐	3mm以下長、英、チャ、赤	(1/1)	木の葉圧痕
64	11	SHA90	蓋		(3.2)	ハケ	暗茶褐	0.5~1mm長、英		ツマミ径2.0cm
64	12	SHA98	甕	18.6	(13.0)	ヨコハケ・磨減/ヨコナデ・ハケ	淡褐	3.5mm以下長、英、チャ	1/2	甕Aa3、頸径15.7cm・最大径19.2cm、外面コゲ・スス
64	13	SHA98	壺底部	(5.4)	(4.0)	板ナデ/ケズリ→ミガキ・磨減	黄褐	0.5~1.5mm英、チャ、1~2.5mm長	(1/1)	
64	14	SHA107	壺	38.0	(12.5)	磨減	淡褐/淡橙褐	5mm以下長、英、チャ	1/5	広口壺A
65	15	SHB137(SKB1171)	壺	15.0	(2.2)	ヨコナデ/ヨコナデ	淡褐	0.5~1mm英、チャ微量、赤微量、長	1/8	
65	16	SHB137(SKB895)	底部	(4.3)	(3.1)	ハケ/ハケ、底面:ハケ	黄褐/暗褐(底部:赤褐)	1~2mm長微量、英多量、チャ多量	(2/3)	
65	17	SHB137	高杯	18.6	(4.0)	ヨコナデ・ミガキ/板ナデ・ケズリ	褐	3.5mm以下英	1/6	高坏A
65	18	SHB138(SKB939)	甕	13.0	(8.0)	ナデ/ハケ	橙褐/黒灰	1~2mm英多量、チャ多量	1/8	頸径11.0cm
65	19	SHB138(SKB939)	高杯脚部	-	(5.0)	ナデ・磨減/ハケ・磨減	淡褐	0.5~1mm長、英、0.5~2mmチャ多量		黒斑
65	20	SHB138(SKB939)	底部	(3.2)	(5.2)	指ナデ・磨減/磨減	黄褐/橙褐	1mm長、0.5~2mm英、0.5~3mmチャ	(1/2)	
65	21	SHB138(SKB939)	底部	(5.6)	(6.0)	指ナデ・磨減/タテハケ・磨減	暗褐/赤褐	0.5~1.5mm長、英微量、0.5~2.5mmチャ多量	(1/2)	
65	22	SHB138(SKB1022)	甕	17.4	(14.3)	ヨコハケ・板ナデ/タテハケ	淡褐	1~2mm長多量、英多量	(2/5)	甕Aa3、内面コゲ、外面スス、頸径16.4cm・最大径18.5cm
65	23	SHB138	甕	18.8	(4.0)	ハケ	暗淡茶褐	2mm以下長、英	1/8	甕D、頸径15.3cm
65	24	SHB138	甕	19.8	(5.9)	ヨコハケ・ナデ/タテハケ・磨減	淡褐	0.5mmチャ多量	1/6	頸径15.5cm
65	25	SHB138	甕	16.9	(3.4)	ヨコハケ→ナデ/ヨコハケ・タテハケ→ナデ	乳褐-淡褐/明淡褐-淡灰褐	1mm長、英、茶色粒	1/6	甕C2、頸径13.0cm

観 察 表

65	26	SHB138	甕	15.4	(4.0)	ヨコハケ/ナデ・ハケ・ケズリ→ナデ	暗茶褐	0.5~1mm長、チャ微量、英微量	(1/6)	頸径12.4cm
65	27	SHB138	甕	14.4	(8.2)	ヨコハケ・ナデ/タテハケ	淡褐-淡灰褐/暗黒褐	2.5mm以下長、英	1/6	甕Aa2、頸径13.5cm
65	28	SHB138	甕	14.6	(5.7)	ヨコナデ・磨減	暗褐	0.5~1.5mm長、英、1~3mmチャ、赤	1/4	外面スス、頸径13.5cm・最大径14.8cm
65	29	SHB138	蓋	(13.4)	4.0	ナデ・磨減/ツマミアゲ・磨減	暗淡褐、ツミ:暗茶褐	2.5mm以下長、英	1/8	穿孔2カ所、ツマミ上2.6cm
65	30	SHB138	蓋	ツミ径1.8	(3.7)	ナデ/磨減	淡桃褐	0.5~1.5mm長、英	?	
65	31	SHB138	壺	13.8	(3.7)	ヨコハケ/磨減	淡褐	0.5~1mm長、英、チャ	1/6	
65	32	SHB138	壺	15.6	(4.2)	ハケ・ナデ/指ナデ・ハケ	明淡褐	3mm以下長、英	1/8	口縁端にスス
65	33	SHB138	壺	19.3	(4.8)	ナデ/タテハケ→ナデ	乳淡褐	2mm以下長、英多量	1/4	広口壺D1
65	34	SHB138	壺	15.0	(3.1)	ナデ/ハケ	淡褐	0.5~1mm長、英	1/5	頸径13.0cm
65	35	SHB138	鉢	28.7	(7.2)	磨減/タテハケ→ナデ	淡橙褐/明淡褐-淡褐	3mm以下長、英	1/8	外面スス
65	36	SHB138	脚部	(4.6)	(9.8)	ケズリ・シボリ痕/ミガキ	褐	0.5~2mm長、角、0.5~1mm英		
65	37	SHB138	台付鉢底部	(7.8)	(5.2)	ヨコハケ→ナデ/指ナデ・磨減	黒灰/明淡褐-淡褐	2.5mm以下長、英多量	(1/1)	
65	38	SHB138	底部	(4.8)	(2.4)	磨減/ハケ・板ナデ、底面:ケズリ	淡褐/暗褐	0.5~1mmチャ多量、長	1/2	
65	39	SHB138	壺底部	(5.3)	(4.0)	板ナデ/ナデ・磨減	赤茶褐	1~2mm長、0.5~1mm英	(1/1)	底面に木の葉圧痕
65	40	SHB138	壺底部	(3.8)	(4.7)	ハケ	淡褐	0.5~3mm長、0.5~2mm英	(1/1)	
65	41	SHB138	壺底部	(5.2)	(3.4)	ナデ/ケズリ→ナデ	淡褐	0.5~2mm長、英、チャ	(1/1)	
65	42	SHB138	壺底部	(5.6)	(2.9)	ナデ	淡褐	1~3mm英、0.5~1.5mm長、チャ	(1/4)	底面に木の葉圧痕
65	43	SHB138	甕底部	(7.8)	(2.6)	ナデ/ハケ	淡橙褐	1~2mm長、0.5mmチャ	(1/3)	底面に木の葉圧痕
65	44	SHB146	壺	9.0	(6.9)	ナデ/ナデ・ハケ	淡褐	1~2mm長、英	1/4	
65	45	SHB150	鉢	8.7	(5.8)	ナデ	淡茶褐	1mm以下長、英	1/4	
65	46	SHB150	高杯	21.6	(3.0)	指ナデ/指ナデ・ケズリ	淡黄褐	1mm以下長、英	1/8	
65	47	SHB144 (SKB1209)	壺	(6.2)	(20.0)	ハケ・磨減/ハケ	淡褐/淡灰		(1/1)	
65	48	SHB140	壺	11.3	(14.1)	ハケ・ナデ/ヨコナデ	淡褐	1~2mm英、チャ微量、1~3.5mm長	1/3	太頸壺
65	49	SHB140	底部	(4.8)	(2.0)	ナデ	淡褐	1~2mm長微量、英、1~3mmチャ多量	(1/2)	
65	50	SHB145	壺	23.7	(5.2)	ヨコハケ/ハケ	淡暗茶褐	2.5mm長、英	1/8	頸径19.8cm
65	51	SHB145	壺	17.6	(3.9)	指ナデ/ハケ・磨減	明淡茶	1.5mm長、英	1/6	広口壺Eb5、頸径14.1cm
65	52	SHB145 (SKB769)	底部	(6.2)	(3.0)	指ナデ/板ナデ→ナデ	淡褐/濃茶褐		(2/3)	底面に木の葉圧痕
65	53	SHB145 (SKB769)	底部	(7.0)	(2.6)	ナデ/ミガキ、底面:ナデ	暗濃茶褐		(1/2)	底面に木の葉圧痕
66	54	SHB341	壺	18.0	(14.9)	ナデ・指痕・磨減/タテハケ・磨減	黄褐	0.5~2mm英多量、赤多量、角、0.5~3mmチャ多量、0.5~1mm黒多量	1/2	広口壺D、頸径11.7cm
66	55	SHB341	壺	18.3	(6.2)	ナデ/指ナデ	明乳褐	2mm以下長、英	1/4	広口壺Eb4、頸径13.5cm
66	56	SHB341	甕	16.5	(6.9)	斜ハケ→ヨコナデ/ナデ・タテハケ	淡褐	1.5mm長、英	1/6	甕Ba1、頸径14.1cm

66	57	SHB341	甕	21.8	(4.1)	ハケ/磨滅	明乳褐	2mm以下長、英多量	1/6	甕C2、頸径18.5cm
66	58	SHB152	甕	18.1	(3.8)	ナデ/ヨコナデ・タテハケ	暗淡褐/淡褐	2mm以下長、英	1/6	甕Ba1、頸径16.4cm
66	59	SHB543	壺	14.2	(3.9)	ヨコハケ・ナデ/ヨコナデ・タテハケ	茶褐	1.5mm以下長、英	1/3	広口壺D4、口縁内部に2個1対の突起
66	60	SHB543	甕	16.7	(4.7)	ヨコハケ・ナデ/ハケ	淡暗桃	2mm以下長、英	1/8	頸径13.6cm
66	61	SHB543	甕	25.5	(5.3)	ヨコハケ・磨滅/指ナデ・ハケ→ナデ	明乳白	2.5mm長、英	1/12	頸径24.0cm
66	62	SHB542	甕	16.3	(3.5)	ヨコナデ/磨滅	淡褐	1~2mm英微量、長微量、角、チャ多量	1/6	頸径12.2cm、359と同一個体
66	63	SHB542	甕	13.1	(4.5)	ナデ	暗茶褐	0.5~2mm長、英	1/6	頸径11.9cm
66	64	SHB675 (SKB495)	壺	14.6	(5.7)	タテハケ→ナデ・磨滅/ナデ・タテハケ・磨滅	黒灰	0.5~1mm長、英少量	1/4	広口壺D6、頸径7.8cm
66	65	SHB675 (SKB495)	甕底部	(7.3)	(4.9)	板ナデ・指痕・ナデ/タテハケ	黒褐/暗茶褐-黒		(1/2)	
66	66	SHB675 (SKB495)	底部	(9.5)	(17.6)	ハケ/ハケ・ケズリ、底面:ケズリ	暗茶褐	1~2mm長、英多量	(1/1)	底面は楕円形
66	67	SHB528	壺	15.4	(6.9)	ハケ/ミガキ		0.5~1mm長、英、チャ、1~2mm雲微量	1/2	広口壺D5、口縁外面に円形浮紋
66	68	SHB528	高杯脚部	(8.3)	(8.6)	ナデ・シボリ痕・ケズリ/ハケ	淡褐	1~2mm英多量、長、1~3mmチャ	(1/1)	
66	69	SHB528	高杯脚部		(5.5)	指ナデ/ハケ	暗褐	0.5~1mm長、英、雲、0.5~2mmチャ多量		脚部最小径5.7cm
66	70	SHB139 (SKB525)	壺	頸径11.6	(32.2)	ナデ/タテハケ	淡褐	0.5~1mm長、英、角多量		胴外面に黒斑、頸径15.3cm
66	71	SHB139 (SKB525)	鉢	39.6	(6.1)	ナデ・ヨコハケ→ナデ/ナデ・タテハケ→ナデ	淡黄灰	2.5mm以下長、英多量		
66	72	SHB139 (SKB525)	壺	12.6	(5.8)	ナデ・ヨコハケ→ナデ/ヨコナデ	淡褐	3mm長、英	1/12	口縁外面に棒状浮文
66	73	SHB139 (SKB525)	壺	17.9	(2.8)	ナデ/指ナデ・タテハケ	黒褐/淡暗褐	1mm長、英	1/5	広口壺D6
66	74	SHB139 (SKB525)	蓋	(13.8)	4.2	ヨコハケ→ナデ/ハケ	明淡褐/明淡褐-暗灰褐	1~3mm長、英、赤	(1/6)	
66	75	SHB139 (SKB525)	底部	(6.5)	(2.8)	指ナデ/ハケ・磨滅	淡茶褐	1~3mm長、英、チャ	(1/1)	底面に木の葉圧痕
66	76	SHB139 (SKB525)	底部	(6.8)	(2.7)	ナデ/ハケ	淡茶褐	1~2mm長、英、チャ	(1/3)	底面に木の葉圧痕
66	77	SHB139	高杯裾部	(14.2)	(4.0)	磨滅	暗褐-黒褐/乳灰-黒褐	2mm以下長、英多量	(1/4)	
66	78	SHB141	高杯脚部				茶褐	1mm英微量、長微量		
67	79	SHB690 (SKB846)	甕	17.0	(5.4)	ヨコハケ・磨滅/タテハケ→ナデ	淡橙褐	2.5mm以下長、英	1/3	甕C1、頸径12.7cm
67	80	SHB690	甕	20.4	(6.2)	ヨコハケ/ハケ	淡褐	1.5mm以下長、英	1/4	甕Ad、頸径16.4cm
67	81	SHB690 (SKB846)	甕	14.4	(13.3)	ハケ・ナデ/ヨコナデ・タテハケ	赤褐	0.5~2mm英、チャ、長、角微量	1/2	甕Aa2、頸径13.0cm
67	82	SHB690	ミチユア土器	3.2	5.5	指痕	淡褐	2.5mm長、英	1/2	内面に突起
67	83	SHB690	鉢	30.4	(14.3)	ナデ・ハケ・磨滅/ナデ・磨滅	淡橙褐	2~4mm長、英	1/8	鉢A
67	84	SHB690 (SKB1034)	甕	18.0	(2.8)	ハケ/ハケ→ヨコナデ	淡褐	0.5~2mm長、英多量、赤、1~2.5mmチャ多量	1/8	甕Aa
67	85	SHB690 (SKB1034)	底部	(4.8)	(1.8)	ナデ/ハケ	黒/淡橙	0.5~2mm長、英、1~3mmチャ	(1/1)	底部穿孔(径0.6cm)
67	86	SHB529	壺	17.6	(12.2)	ハケ・ナデ・指痕/タテハケ→ヨコナデ・タテハケ	明淡褐	3mm以下長、英	1/6	広口壺C、頸径12.6cm



観 察 表

67	87	SHB529	壺	18.6	(8.5)	磨滅/ハケ	淡灰褐	0.5~1mm英多量、長多量、赤微量、角微量	1/5	広口壺C4、頸径13.8cm
67	88	SHB529	壺	14.6	(4.7)	板ナデ/タテハケ	淡茶褐	1.5mm以下長、英	1/6	広口壺Eb3、頸径11.4cm
67	89	SHB529	甕	16.8	(3.2)	ナデ・ヨコハケ/タテハケ	淡橙褐	0.5~1mm英微量、長微量、チャ	1/4	頸径13.7cm
67	90	SHB529	甕	15.6	(5.6)	ヨコナデ/ヨコナデ・ハケ	黒褐/淡褐	0.5mm以下長、英	1/5	甕Bb1、頸径13.5cm
67	91	SHB529	甕	16.1	(4.7)	ヨコナデ/ヨコナデ・磨滅	淡褐	0.5~1mm英、チャ、長微量、雲微量	1/8	頸径13.8cm
67	92	SHB529	甕	16.4	(5.3)	ナデ・ハケ→ナデ/ナデ・ハケ	茶褐	1mm以下長、英	1/8	外面スス、頸径15.4cm
67	93	SHB529	甕	20.2	(3.7)	ナデ・磨滅/ナデ	淡褐	2mm以下長、英	1/8	頸径16.8cm
67	94	SHB529	壺		(12.3)	タテハケ・ナデ/タタキ	淡褐	0.5~1.5mm長、英微量、チャ多量、角微量、雲、赤		頸径15.8cm
67	95	SHB529	鉢	32.4	(6.0)	磨滅/ナデ・ミガキ	暗淡褐-暗灰褐/暗淡茶褐-暗灰褐	3.5mm以下長、英	1/5	鉢A
67	96	SHB529	高杯	内径16.8/ 外径24.2	(2.6)	指ナデ/指ナデ・磨滅	濃灰/淡褐	2mm以下長、英	1/8	
67	97	SHB529	甕	9.8	(7.6)	ヨコハケ・ケズリ/ケズリ・タテハケ・磨滅	淡茶褐/暗茶褐-茶褐	3mm以下長、英	1/4	頸径9.3cm
67	98	SHB529	鉢			ヨコナデ/ナデ	茶褐	0.5~1mm長、英、チャ、雲微量		
67	99	SHB529	破片				淡褐	0.5~2mm長、英、チャ		
67	100	SHB529	器台		(8.6)	ナデ	橙褐	0.5~1.5mm英多量、長、チャ多量、黒微量		
67	101	SHB529	高杯脚部	(8.0)	(3.0)	ケズリ・ナデ/タテナデ・ヨコナデ	暗黄褐	1~2mm長、英少量	(1/5)	底部外面に黒斑
67	102	SHB529	高杯脚部	(15.0)	(5.5)	ケズリ/ミガキ	暗淡褐/淡褐	2.5mm以下長、英	(1/3)	
67	103	SHB529	台付鉢?脚部	(12.4)	(5.1)		淡褐	0.5~1.5mm長、英微量、チャ、雲	(1/8)	
67	104	SHB529	高杯裾部	(15.8)	(4.1)	ケズリ→ナデ/板ナデ	淡褐	2mm以下長、英	(1/8)	
67	105	SHB539	甕	16.6	(5.0)	ヨコハケ・ナデ/ナデ・タテハケ	暗赤褐	0.5~1.5mm長、英、1~3mmチャ	1/3	甕Ab3、頸径14.1cm
67	106	SHB691 (SKB878)	鉢	40.0	(4.4)	ミガキ/ヨコナデ	淡橙褐	0.5~1mm長、英、1~2mmチャ	1/24	
67	107	SHB691 (SKB878)	壺	29.4	(1.6)	磨滅	淡橙茶褐	0.5~1mm長、英、チャ	1/14	
67	108	SHB691	ミチュア土器	(2.4)	(3.4)	ナデ	褐	1mm長微量、0.5mm黒多量	(1/1)	
67	109	SHB691 (SKB878)	鉢	9.5	(4.0)	指ナデ/タテハケ	淡茶褐		1/8	
67	110	SHB691 (SKB878)	壺	(4.1)	(5.5)	ハケ→指ナデ/ケズリ→ナデ	茶褐/褐	0.5~1mm長、英、チャ	(1/6)	
68	111	SHB709 (SKB422)	壺	25.3	(10.3)	ヨコハケ・ナデ/ハケ・ナデ	淡橙褐	0.5~3mm長、英、0.5~2mmチャ多量、シ、赤微量	1/1	広口壺A7、頸径16.8cm、口縁上部に突起
68	112	SHB709	甕	10.2	(4.6)	磨滅	赤茶褐	0.5~1mm長微量、英微量	1/5	口縁内面に黒斑、頸径8.7cm
68	113	SHB709	甕	12.6	(1.6)	ヨコナデ	暗褐	1mm長微量、0.5mmチャ微量	1/6	甕Ba、外面スス、頸径10.5cm
68	114	SHB709	甕	18.4	(4.8)	ハケ・ナデ/ナデ・タテハケ	淡灰褐	1mm以下長、英	1/6	甕Ac3、頸径16.0cm

68	115	SHB709 (SKB422)	蓋	(23.8)	11.9	ハケ・磨減/磨減	淡茶褐	0.5~5mm英多量、0.5~2、5mm長多量、0.5~4mmチャ、1~2mm雲、1~3mmシヤ	1/5	
68	116	SHB709 (SKB422)	甕	19.8	(12.2)	ヨコハケ→ナデ・指頭圧/タテハケ	淡茶褐	3~4mm長	4/5	甕Ad、頸径16.5cm・最大径18.0cm
68	117	SHB747	壺	15.8	(3.6)	磨減/ナデ	淡褐	0.5~1mm長、英	1/8	
68	118	SHB747	壺	21.8	(3.0)	磨減/ナデ	淡灰褐/淡橙	1.5mm長、英	1/8	広口壺
68	119	SHB747	高杯 脚部	(9.8)	(3.8)	ヘラケズリ/ハケ・ヨコナデ	淡褐	1~3mm長、0.5~1mmチャ	(1/5)	
68	120	SHB747	蓋	(17.6)	(2.6)	ナデ/ナデ・指痕	暗赤褐/暗褐	0.5mm英微量、長、チャ	1/6	
68	121	SHB747	壺	19.6	(5.3)	ナデ/ナデ・磨減	淡褐	1~2mm長、英、赤多量	1/6	無頸壺
68	122	SHB747	鉢	30.6	(4.9)	指ナデ・斜ハケ→ナデ/	暗茶褐/明淡褐-黒	1~2mm長、英	1/10	
68	123	SHB772	甕	31.0	(18.5)	ナデ/ハケ	淡褐	2~4mm長、英	1/2	甕Aa4、頸径28.3cm
68	124	SHB772	底部	(8.5)	(9.7)	磨減/ミガキ	黄褐	1~2mm英多量、長多量、チャ	(1/1)	
68	125	SHB772	甕 底部	(6.8)	(9.1)	磨減	淡褐	0.5~1.5mm長、英、チャ	(1/2)	
68	126	SHB772	高杯	20.1	(4.0)	ヨコナデ/ミガキ	茶褐	0.5~1.5mm長微量、チャ	1/10	
68	127	SHB772	水差	7.2	23.8	ヨコナデ・ハケ/ミガキ	橙褐		9/10	頸径8.5cm・最大径20.0cm、底面ヘラケズリ? ナデ?
69	128	SHB1008 (SKB1006b)	壺	20.9	(9.5)	磨減	淡橙褐	0.5~1.5mm英多量、雲、0.5~2.5mmチャ多量	1/3	広口壺C6、黒斑、頸径14.0cm
69	129	SHB1008 (SKB1009)	壺	15.5	(4.3)	板ナデ/ヨコナデ・タテハケ	黄褐/淡黄褐	1.5mm以下長、英、赤	1/8	頸径11.0cm
69	130	SHB1008 (SKB1006b)	壺	13.8	(3.2)	ヨコハケ/タテハケ	暗褐	1mm以下長、英少量	1/8	頸径13.0cm
69	131	SHB1008 (SKB1020)	台形土製品	(21.2)	(8.5)	ヘラケズリ→ナデ/指ナデ	明褐		(1/3)	
69	132	SHB773	甕	35.0	(8.4)	ハケ/ハケ→ナデ・ハケ	明淡褐	2mm以下長、英	1/8	頸径31.0cm
69	133	SHB773	高杯 脚部	(11.2)	(5.6)	ケズリ/指ナデ・ナデ・ミガキ	淡茶褐-暗褐/暗茶褐-灰褐-暗黒	2mm以下長、英	(1/2)	
69	134	SHB1052 (SKB1051)	鉢	13.8	(6.3)	ヨコナデ・ハケ/ヨコナデ	淡褐	0.5~1mm長、英、チャ、赤、雲	1/12	
69	135	SHB1052 (SKB1051)	底部	(6.6)	(3.4)	ヨコナデ・ハケ/ヨコナデ	褐	0.5~1mm長、英、チャ	(1/2)	
69	136	SHB778	蓋	14.6	4.0	ケズリ・板ナデ/ヨコナデ・タテミガキ→ナデ	暗淡褐/茶褐	1.5mm以下長、英、赤	1/4	ツマミ径2.2cm
69	137	SHB910	壺	24.2	(3.4)	ナデ/指ナデ・ハケ	淡橙褐	0.5~1.5mm長、チャ、雲、1~3mm英	1/6	
69	138	SHB910	壺	18.0	(2.5)	ヨコナデ・ハケ/指ナデ・タテハケ	淡橙褐/茶褐	0.5~1mm長、英、チャ	1/8	
69	139	SHB910	高杯	21.0	(4.1)	ヨコハケ・磨減/ナデ・ミガキ・磨減	淡褐	0.5~1mm長、英、チャ	1/10	
69	140	SHB910	甕	24.7	(7.2)	タテハケ→ナデ/タテハケ→ヨコナデ・タテハケ	淡黄褐-淡黄灰/淡黄褐	1.5mm以下長、英、雲	1/8	頸径22.5cm
69	141	SHB910	手焙形土器	19.6	22.0	ハケ/ケズリ→板ナデ	黒褐/淡褐	0.5~2mm長微量、英微量	(1/1)	
69	142	SHB982 (SKB1099)	壺	8.9/ (4.5)	(17.7)	ヨコハケ・タテナデ・磨減/タテハケ	淡橙褐	2mm長、英少量	1/1・ (1/1)	外面黒斑、頸径7.0cm・最大径13.0cm

観 察 表

69	143	SHB982 (SKB1099)	甕	15.6	(7.6)	ヨコハケ・タテ ナデ/ヨコハケ・ ナデ・タテハケ	黒褐	1mm以下長、英多 量	1/8	頸径13.4cm
69	144	SHB982 (SKB1099)	壺	14.9	(9.9)	ヨコナデ/ヨコミ ガキ・タテミガ キ	暗淡褐/ 暗淡茶褐 -黒	2~3mm長、英、雲	1/8	内面コゲ、スス、頸 径13.1cm
69	145	SHB982 (SKB1099)	鉢	6.7	6.4	ナデ・指痕/ヨコ ミガキ・ヨコナ デ	黒/ 暗褐-黒	2mm以下長、英	1/2	
70	146	SHC68	甕	17.2	(5.7)	ハケ/斜ハケ・タ テハケ	黒褐	0.5mm長、チャ多 量	1/4	甕C2
70	147	SHC68	甕	18.0	(4.6)	ハケ/ナデ・ハケ →ナデ・ハケ	淡赤褐	0.5~1.5mm長、 英多量	1/8	
70	148	SHC68	甕	14.6	(8.1)	ナデ・ハケ/ナ デ・タタキ→ハ ケ	淡褐- 黒褐/ 明褐	1mm長、英多量	1/6	甕Bb2、胴外面スス
70	149	SHC68	甕	35.6	(6.5)	ヨコハケ/斜ハケ	乳褐	0.5~1mm長、英 多量	1/10	
70	150	SHC68	壺			ヨコナデ・ナデ/ タテハケ	淡黄	0.5~1mm長微 量、赤?微量、英 微量		
70	151	SHC68	高杯	18.5	19.3	杯:ヨコナデ・ミ ガキ、脚:シボリ 痕・ケズリ/杯: タテミガキ、脚 端:ナデ	褐		2/3・ (3/5)	高杯A、口縁外面に 黒斑
70	152	SHC92	水差	9.7	22.3	ナデ/ヨコナデ・ ハケ・ケズリ→ ミガキ、底面:ナ デ	淡褐			底部外面に黒斑
70	153	SHC92	水差	(9.4)	26.0	ナデ・ハケ・シ ボリ痕・ケズリ/ ヨコミガキ・タ テミガキ	淡褐		4/5	透孔8個
70	154	SHC92	甕	9.9	13.8	ナデ/ハケ・ケズ リ・指ナデ	淡茶- 淡灰褐/ 淡黄褐- 淡橙褐	2~4mm長、英多 量	1/2	甕Bb1、スス
70	155	SHC92	甕	9.8	(11.1)	ヨコナデ・指痕/ ヨコナデ・ハ ケ・ミガキ	橙褐	0.5~1mm長、英	1/6	
70	156	SHC92 (P2)	底部	(5.3)	(6.2)	指痕・磨減/タテ ハケ	桃茶褐	0.5~2mm長多 量、チャ、赤微量	(1/1)	
70	157	SHC92	甕 底部	(5.4)	(3.4)	ナデ/ヨコナデ	淡橙	1~2mm英多量、 1~3mm長多量、 チャ多量	(3/4)	
70	158	SHC92	高杯 脚部	(7.2)	(2.7)	ヘラケズリ・ナ デ/ハケ	淡褐	0.5mmチャ微量	(1/5)	
70	159	SHC92	高杯	18.0	20.0	ミガキ・ケズ リ・磨減/ヨコナ デ・ミガキ・磨 減、脚端:ヨコナ デ	桃赤茶褐			高杯B4、脚に穿孔 5カ所
70	160	SHC138 (SKC329)	壺	16.0	(6.2)	ヨコハケ・ナデ/ ヨコナデ・ハケ	淡橙褐	0.5~1mm英多 量、長、角、赤微 量、1~2mmチャ	1/3	広口壺D4、内面に 瘤状突起
70	161	SHC138 (SKC329)	壺	21.8	(13.4)	ナデ・ハケ/ヨコ ナデ	淡橙褐	0.5~2mm英多 量、長、チャ	1/3	広口壺C5
70	162	SHC138 (SKC329)	壺	21.0	(4.4)	ヨコハケ・ナデ/ ナデ・指痕	茶褐	0.5~2mm長微 量、英微量、チャ 微量、角微量、雲 微量	1/8	
70	163	SHC138 (SKC329)	甕	17.0	(7.6)	ハケ/タタキ→ハ ケ・ナデ	橙褐	0.5~1mm長、 チャ、赤、0.5~ 2mm英	1/3	甕Bb2、外面スス
70	164	SHC138 (SKC142)	甕	13.8	(3.4)	ヨコナデ・斜ハ ケ/ナデ・ハケ	橙褐	0.5~1mm長、 0.5~2mm英	1/4	甕Bb1
70	165	SHC138	甕	18.6	(8.4)	ハケ	淡黄褐/ 暗茶褐	2.5~5mm長、英	1/8	頸径16.6cm
70	166	SHC138 (SKC384)	甕	14.0	(4.3)	指ナデ/ハケ	淡褐/黒 褐-橙褐	0.5~2mm長、 チャ	1/6	甕Aa

71	167	SHC80	壺	20.0	(2.1)	ヨコナデ	淡橙褐/ 茶褐	0.5~1mm長微 量、チャ微量、雲 多量、赤微量	1/8	広口壺
71	168	SHC80	壺	20.0	(8.0)	ナデ	淡橙褐/ 淡橙	2~3mm長、英	1/6	広口壺C5
71	169	SHC80	壺	19.9	(7.9)	ヨコナデ/ヨコナ デ・板ナデ	淡褐- 明淡褐/ 淡褐	2mm以下長、英、 赤	1/8	広口壺C5
71	170	SHC80	壺	21.8	(9.3)	ヨコナデ/ヨコナ デ・磨減	淡褐	0.5~2mm英多 量、長多量、 チャ、赤微量	1/4	広口壺C5
71	171	SHC80	壺	20.2	(18.3)	ヨコナデ・指 痕・シボリ痕/ヨ コナデ・タテハ ケ	淡褐	1~4mm英、1 ~2mm長微量、 1~6mmチャ多量	5/8	広口壺C
71	172	SHC80	蓋	(15.8)	(2.7)	ケズリ/ミガキ	淡褐	0.5~2mm英多 量、長多量、チャ 多量	1/3	
71	173	SHC80	壺	13.0	(6.0)	ヨコナデ/ヨコナ デ・磨減	淡褐	0.5~2mm長、 0.5~1mm英微 量、チャ多量、雲	1/4	広口壺Eb5
71	174	SHC80	壺	16.6	(4.3)	ヨコナデ	淡褐/ 暗茶褐	0.5~1mm長多 量、雲多量	1/4	広口壺Eb3
71	175	SHC80	壺	15.6	(6.5)	ナデ・ハケ・指 痕/ナデ・ハケ	淡褐	1mm長、英多量、 チャ多量	1/8	広口壺
71	176	SHC80	壺	16.8	(5.4)	ナデ	灰褐	1mm長、英多量	1/6	広口壺
71	177	SHC80	壺	14.1	(5.3)	ヨコハケ/ヨコハ ケ・タテハケ	淡灰褐	0.5~1mm英、 チャ多量、雲多 量、長微量、黒微 量	1/6	
71	178	SHC80	鉢	9.1/ (3.4)	8.9	ナデ	淡褐	0.5~1mm長微 量、チャ多量	3/5・ (1/1)	
71	179	SHC80	甕	13.7	(3.9)	ヨコナデ・ケズ リ→ナデ/ヨコナ デ	乳褐/淡 褐-暗褐	1.5mm以下長、英 多量	1/6	甕Ba、外面スス
71	180	SHC80	甕	17.2	(5.2)	ヨコハケ/ナデ・ タタキ	淡茶褐	0.5~1mm英微 量、黒微量、チャ	1/8	
71	181	SHC80	甕	15.0	(6.5)	ヨコナデ・ハ ケ・磨減/ヨコナ デ・タタキ→ハ ケ	淡褐	0.5~1mm長、英 多量	1/8	
71	182	SHC80	甕	18.9	(7.2)	ヨコハケ・ナデ/ ハケ	淡橙褐/ 暗茶褐	0.5~1mm長多 量、チャ多量、雲 多量	1/5	甕C4
71	183	SHC80	高杯 脚部	(10.6)	(3.7)	ヨコナデ・ケズ リ/ヨコナデ・ミ ガキ	淡褐	1~2mm長、英、雲	(1/6)	黒斑
71	184	SHC80	脚部	(7.6)	(5.7)	ナデ・シボリ痕/ ミガキ	淡褐	1~2mm英微量、 チャ微量、1~ 3mm長多量	(1/4)	穿孔
71	185	SHC80	高杯 脚部	(15.0)	(5.3)	ケズリ・ナデ/ミ ガキ・ナデ	明淡褐	0.5~1mm長多 量、チャ多量、雲 微量、赤多量	(1/4)	
71	186	SHC80	器台	(21.2)	(7.2)	ケズリ/ヨコナデ	淡褐	1~2mm長、雲微 量、1~3mmチャ 多量	(1/6)	
71	187	SHC80	高杯	内径 22.2/ 外径 28.8	(6.6)	ナデ/ナデ・ケズ リ→ミガキ	淡茶褐/ 淡褐	1.5mm以下長多 量、英微量、赤多 量、雲微量	1/8	
71	188	SHC80	高杯	内径 15.4/ 外径 22.0	(4.0)	ヨコナデ/ヨコナ デ・ケズリ→ミ ガキ	淡褐	0.5~1mm英多 量、長、雲微量、 赤、1~2mmチャ	1/12	高杯B
71	189	SHC80	高杯	27.2	(5.4)	ミガキ/ナデ	橙褐	1~2mm長、英、黒 多量、チャ、雲	1/16	
71	190	SHC80	高杯	34.8	(5.5)	ナデ・ミガキ→ ナデ/ナデ・ケズ リ→ミガキ	淡褐	0.5~1mm長微 量、英微量、雲微 量、赤微量	1/12	

観 察 表

71	191	SHC80	高杯	38.2	(6.8)	ヨコナデ・ミガキ/ヨコナデ・ミガキ	淡褐/黒	0.5~2mm長、英多量、チャ微量、雲多量	1/8	
71	192	SHC137	壺	20.4	(3.4)	ミガキ/ヨコナデ	暗茶褐/淡褐	1~2.5mm長多量、英多量、チャ、赤微量	1/6	広口壺A7
71	193	SHC137	壺	23.6	(7.4)	ハケ・ナデ	橙褐	0.5~3mm長多量、英多量、チャ多量、赤	1/2	広口壺A7
71	194	SHC137	壺	19.0	(8.0)	指痕/板ナデ・ナデ	淡桃	0.5~3mm長多量、英多量、チャ多量、赤	1/3	広口壺Ea1
71	195	SHC137	底部	(5.0)	(3.8)	磨減	淡白褐/黒	0.5~1mm長多量、チャ多量、雲微量、赤多量	(1/2)	
72	196	SHC132 (SKC332)	壺	20.6	(5.5)	ヨコハケ・磨減/磨減	乳褐/淡褐	0.5~1mm長、0.5~2mmチャ微量、0.5~3英多量	1/6	甕C1、内面コゲ、外面スス
72	197	SHC132	壺	20.0	(7.6)	ヨコハケ・磨減/ヨコナデ・タテハケ	淡褐	1~2.5mm英、0.5~1mm長、雲微量、0.5~3.5mmチャ多量	1/8	
72	198	SHC132 (SKC153)	甕	29.2	(11.3)	ハケ・指痕・ナデ/ハケ→ナデ・ハケ・磨減	黄褐	0.5~1mm長、赤、1~3mmチャ多量	1/4	甕C3、波状口縁、口縁外面スス
72	199	SHC132 (SDC151)	壺	35.8	(3.0)	ハケ→ナデ/斜ハケ→ナデ	淡赤橙/淡赤褐	2~3mm長、英	1/8	
72	200	SHC132 (SKC332)	壺	24.0	(2.8)	ヨコナデ/タテハケ→ナデ	暗褐/淡褐	1~2mm長、英	1/8	内面スス
72	201	SHC132 (SKC332)	甕	19.0	(5.0)	ヨコハケ・ヨコナデ/ヨコナデ	淡褐	0.5mm角多量、1mm英	1/8	
72	202	SHC132	甕	16.3	(8.2)	ヨコナデ/ヨコナデ・タタキ	暗茶褐	0.5~1.5mm英、チャ多量、長微量、雲多量	1/4	甕Bb2
72	203	SHC132	壺	14.0	(7.5)	ナデ/ナデ・ハケ	淡褐	0.5~1mm長微量、雲微量、0.5~2mm英多量、チャ多量	1/5	
72	204	SHC132	底部	(6.4)	(6.3)	ナデ/ミガキ・ナデ	淡褐	0.5~2mm長、英、0.5~1mmチャ多量、雲微量	(1/1)	
72	205	SHC132 (P298)	土製品	(2.2)	(2.5)	ナデ	暗褐	1mm長多量、2mmチャ多量、0.5mm雲微量	5/6	
72	206	SHC132	脚部	(12.5)	(5.7)	ヨコナデ・ケズリ/ヨコナデ	淡褐	0.5~2mm英多量、長、チャ	(1/4)	
72	207	SHC168	壺	(8.6)	(39.8)	指痕・ナデ・磨減/ミガキ	淡黄褐	1~3mm長多量、英多量、1~2mmチャ多量	-	最大腹径31.6cm
72	208	SHC168	高杯	内径19.0/ 外径28.0	(2.7)	磨減	赤茶褐	1~3.5mm長多量、赤、1~2mmチャ多量	1/3	
72	209	SHC168	壺 底部	(9.4)	(10.9)	ナデ/ミガキ	茶褐/ 淡橙褐	1~3mm英微量、1~2mmチャ、黒多量、0.5~1mm赤微量	(1/1)	
72	210	SHC169	甕	31.4	(3.8)	ナデ	淡褐	1.5mm以下長、英、チャ、雲	1/10	
72	211	SHC169	底部	(7.6)	(4.3)	ナデ・指痕/板ナデ	暗褐	1~1.5mm長、赤、0.5mmチャ	(2/3)	
72	212	SHC169	底部	(8.0)	(2.0)	磨減/板ナデ	淡褐	0.5~1mm長、1.5~2mm英	(1/2)	底面に木の葉圧痕
72	213	SHC167	甕	27.4	(5.9)	磨減/ナデ・タテハケ	淡褐	0.5~1mm長、英多量、0.5~2mmチャ・赤微量	1/6	甕Ba1
72	214	SHC167	甕	18.6	(9.0)	磨減/タテハケ・磨減	淡橙褐	0.5~2mm長、チャ、赤少量、0.5~3mm英	1/5	甕Aa2

72	215	SHC173b	甕	18.9	(6.6)	ヨコハケ・ナデ/ タテハケ	橙褐/ 茶褐	0.5~1mm長、 チャ、0.5~2mm 英	1/6	甕Aa
72	216	SHC514	壺	29.0	(4.0)	ヨコハケ/ナデ・ タテハケ・ヨコ ハケ・磨減	黄褐/ 暗灰	1mm長多量、 0.5mm黒多量、雲 多量	1/12	有段広口壺
73	217	SHC451	壺	15.6	(4.3)	ナデ	淡褐	0.5~1mmチャ	1/4	
73	218	SHC451	壺	13.1	(6.8)	ナデ・磨減/	黄灰白	0.5~1mm長、雲	1/5	太頸壺、口縁上部 に円形浮紋
73	219	SHC451	壺	19.8	(5.1)	ヨコナデ・磨減/ タテハケ	橙褐	0.5~2mm長、1mm チャ微量、英微 量	1/5	広口壺Ea2
73	220	SHC451	蓋	(12.6)	2.3	ナデ	淡褐	2mm英微量、 0.5mmチャ	1/16	穿孔
73	221	SHC451	壺	18.8	(4.1)	板ナデ・指痕/板 ナデ	淡褐	0.5mm英微量、 1mm長	1/5	広口壺
73	222	SHC451	底部	(6.6)	(4.6)	ナデ・指痕/ハ ケ・ナデ	橙褐	0.5mm長微量、1 ~1.5mm英	(1/2)	
73	223	SHC451	底部	(8.0)	(9.8)	ナデ/ハケ→ミガ キ	淡褐	0.5~2mm長多 量、1mmチャ、1.5 ~2mm英	(1/1)	
73	224	SHC479a	甕	26.0	(4.2)	ハケ	淡褐	0.5~1mm長、英、 雲、チャ微量	1/4	
73	225	SHC479a	甕	38.5	(17.0)	ヨコハケ・ナデ/ タテハケ	黒灰褐		1/2	甕C2
73	226	SHC479a	壺	10.0	(19.7)	タテケズリ→ヨ コナデ/ナデ	褐灰		1/5	無頸壺
73	227	SHC479a	器台	12.4	10.9	ナデ/ナデ・ケズ リ→ナデ	淡褐	長、英	1/1	透孔4個
73	228	SHC479a	甕 底部	(7.4)	(2.2)	ナデ/タテハケ、 底面:ナデ	灰褐	0.5~1mm長、英 微量、チャ微量	(1/6)	
73	229	SHC479a	甕 底部	(8.0)	(3.6)	ナデ/ハケ・ナ デ、底面:ナデ	褐灰	0.5~1mm長、雲 微量、0.5~2mm チャ、0.5~3mm 英多量	(2/3)	
73	230	SHC572	壺	15.0/ (9.6)	25.1	ハケ→ナデ/ミガ キ	明橙褐		(1/1)	無頸壺、底面に木 の葉圧痕、外面黒 斑
73	231	SHC450	甕	30.0	(5.0)	ハケ	暗褐/ 淡褐	0.5~2.5mm長多 量、チャ、4mm英 微量	1/5	甕Ab
73	232	SHC450	甕	13.0	(2.8)	ハケ/ハケ・磨減	淡褐	0.5~1mm長、英	1/8	
73	233	SHC450 (P4)	甕	15.8	(6.1)	ハケ/ハケ・磨減	暗褐	1~2mm長多量、 チャ	1/6	甕Ab2
73	234	SHC450	壺	22.3	(7.3)	磨減/ハケ・磨減	淡桃褐	0.5~1.5mm長多 量、チャ、英微量	1/4	広口壺A1
73	235	SHC450	高杯	内径 18.2/ 外径 24.3	(3.1)	ヨコナデ/ナデ・ ヘラケズリ	淡褐	0.5mm長、チャ、 1mm英微量	1/6	
74	236	SHD23	甕	19.6	(3.0)	ヨコハケ/ヨコハ ケ・タテハケ	暗褐	0.5~1.5mm長、 チャ微量	1/5	甕Ab
74	237	SHD23	甕	22.2	(2.5)	ヨコハケ/ハケ・ 磨減	暗褐	1mm長、チャ、 0.5mm英	1/6	甕Ad
74	238	SHD23	甕	22.0	(15.5)	ハケ・指ナデ/タ テハケ	暗褐	0.5~1.5mm長、 チャ	1/2	甕Ad
74	239	SHD23	甕 底部	(6.2)	(6.7)	指痕/タテハケ	淡褐	0.5~1.5mm長多 量、チャ多量	(1/1)	
74	240	SHD23	甕	23.0	(9.2)	ヨコハケ→ナデ/ タテハケ	乳褐	2mm以下長、英、 0.5~1mmチャ、 雲微量	1/4	甕Ab2
74	241	SHD23	甕	20.6	(5.8)	ヨコハケ/ハケ	暗褐	0.5~1.5mm長多 量、チャ、英微量	1/2	甕Ab2、スス
74	242	SHD23	甕	18.0	(3.9)	ヨコハケ/タテハ ケ	暗褐	0.5~1.5mm長、 チャ、英多量	1/5	甕Ab
74	243	SHD23	壺	17.4	(7.2)	指痕・磨減/ハ ケ・板ナデ	淡黄褐	0.5~2mm長、 0.5mmチャ微量、 1~1.5mm赤微量	1/3	広口壺Ea1
74	244	SHD23	壺	13.4	(3.2)	ハケ・磨減/タテ ハケ・磨減	淡褐	0.5~1.5mm長、 チャ	1/5	広口壺D

観 察 表

74	245	SHD23	壺		(15.9)	板ナデ・磨減/タテハケ		1~2.5mm長多量、1~1.5mmチャ多量		
74	246	SHD46	甕	28.8	42.7	ハケ・板ナデ・ナデ/ヨコナデ・タテハケ	淡茶褐	0.5~2mm長、英	3/5	甕Ab
75	247	SKA6	甕	12.4	(3.8)	ハケ	茶褐	1~2mm長、英多量、チャ、雲	1/4	甕Ad
75	248	SKA6	甕	16.2	(5.0)	磨減	茶褐	1~2mm長、英多量	1/5	甕Aa、外面スス
75	249	SKA6	甕	18.0	(10.0)	ヨコハケ→ヨコナデ/ヨコナデ・タテケズリ→タテハケ	茶褐	1~3mm長、英、チャ、シヤ	1/2	甕Ab2、内面コゲ、外面全面スス
75	250	SKA6	甕	21.0	(3.6)	ハケ	黒褐	1~5mm英、1~3mmチャ	1/8	
75	251	SKA6	甕	23.8	(5.8)	ヨコハケ/タテハケ	茶褐	2~3mm長、英微量、チャ、長、英、赤	1/4	甕Ab1
75	252	SKA6	甕	30.9	(8.7)	磨減/タテハケ	淡褐	2~3mm長、英多量、雲微量	1/4	甕Ad
75	253	SKA6	壺	24.3	(15.2)	ナデ・ハケ/	濃褐		3/4	広口壺A
75	254	SKA6	壺 底部	(5.3)	(7.0)	タテナデ、底面：指痕・ナデ/タテミガキ・ヨコナデ、底面：ナデ	茶褐	1~2mm長、英、長、英、チャ、雲微量	(1/1)	内面コゲ
75	255	SKA6	壺 底部	(5.5)	(5.4)	ナデ・指痕/タテミガキ、底面：ケズリ	黒褐	1~4mm長、英多量、長、英、チャ	(1/1)	
75	256	SKA6	壺 底部	(8.4)	(12.6)	ナデ・磨減/タテミガキ・斜ミガキ	乳褐	1~3mm長、英多量、英、チャ	(1/1)	
75	257	SKA12	壺	27.4	(14.8)	ナデ・指痕/ヨコナデ・タテハケ	黒褐	2~3mm長、英	1/4	広口壺B、頸内面コゲ状変色
75	258	SKA12	壺	10.1	(10.4)	ナデ・指痕・磨減/ナデ	明褐		1/3	無頸壺
75	259	SKA16	壺	28.2	(15.4)	ハケ・磨減/磨減	淡褐		3/4	広口壺A1、口縁内部に突起
75	260	SKA16	壺	38.0	(15.3)	ハケ→ナデ/ミガキ・ナデ	淡褐	2~4mm長、英、5~10mm長、英	1/4	広口壺A7
75	261	SKA16	水差	9.0	(8.6)	ナデ/ナデ	淡灰褐	3mm以下英、チャ多量	1/2	
75	262	SKA16	壺	22.4	(8.0)	磨減/ヨコナデ・磨減	乳褐	1~2mm長、英多量、チャ	1/4	広口壺Ea1、外面スス
75	263	SKA16	甕	15.6	(8.7)	磨減/磨減	淡褐	2~4mm長、英	1/4	甕Aa3
76	264	SKA11	壺	31.7	(10.9)	ナデ・ハケ/タテハケ	褐	0.5~1.5mm長微量、英、チャ多量	1/4	広口壺
76	265	SKA70	壺	21.0	(7.5)	斜ハケ・磨減/タテハケ・タテナデ	淡褐	0.5~2mm長、英多量、赤、0.5~1mm黒雲微量	1/5	広口壺C
76	266	SKA70	底部	(6.6)	(2.5)	ナデ/タテハケ	暗褐	0.5~1mm長、チャ	(1/2)	
76	267	SKA60	甕	22.0	(6.9)	ナデ・磨減/ハケ	灰褐	4mm以下長、英、チャ	1/4	甕Ad、外面コゲ・スス
76	268	SKA60上層	甕	29.2	(5.3)	ヨコハケ/タテハケ	淡黄褐	3mm以下長、チャ	1/4	甕Aa
76	269	SKA60上層	底部	(10.0)	(15.0)	磨減/ナデ	淡黄褐/淡黄褐-橙褐	5mm以下長、英、チャ、黒茶粒	(1/1)	底面に木の葉圧痕
76	270	SKA60上層	壺	11.0	(8.4)	ナデ/ハケ	淡黄茶褐-淡灰/淡黄褐	4mm以下長、英、チャ	1/2	細頸壺
76	271	SKA60上層	壺	15.8	(7.5)	磨減	淡黄-淡桃/桃褐	4mm以下長、チャ	1/3	広口壺Ea1
76	272	SKA60上層	鉢	20.2	(4.5)	磨減	橙褐	4mm以下長、英、チャ	1/8	
76	273	SKA60上層	鉢	21.0	(9.7)	ナデアゲ/磨減	淡黄褐-茶褐/淡褐-桃	4mm以下長、英、チャ	1/6	

76	274	SKA60上層	底部	(7.6)	(3.8)	磨滅	淡茶褐	5mm以下長、 チャ、褐色粒	(1/2)	
76	275	SKA50	甕 底部	(7.0)	(19.0)	ハケ・ナデア ゲ・磨滅/タテハ ケ・磨滅	桃茶褐・ 桃橙褐	3mm以下長多量、 英多量、チャ多 量	(2/3)	
76	276	SKA105	壺	23.5	(4.0)	磨滅/	橙肌/ 明肌褐	3.5mm以下長、 チャ、赤	1/5	広口壺A
76	277	SKA105	鉢	18.6	16.0	磨滅/ハケ・磨滅	淡茶褐/ 淡黄褐	4mm以下英多量、 長多量、赤微量、 雲微量	1/2	
76	278	SKA105	甕 底部	(6.0)	(4.5)	指痕・磨滅/ハ ケ・ナデ	淡濁褐/ 橙肌	4mm以下長、 チャ、黒	(1/1)	内面は発泡、炭化 物付着
76	279	SKA80	甕	23.8	(4.1)	ヨコハケ/タテハ ケ	暗褐	0.5~1mm長多 量、0.5~2mm英 多量、チャ多量	1/4	甕Ab、口縁歪む
76	280	SKA75	甕	14.0	(5.8)	磨滅/タテハケ	褐	3mm以下長、英、 チャ	1/3	甕Aa1
76	281	SKA100	脚部		(5.7)	ヘラケズリ・シ ボリ痕/ミガキ・ 磨滅	淡茶褐/ 断面:淡 褐灰/淡 茶褐	3mm以下長、英、 チャ、赤		中心に2個1対で 2カ所穿孔
76	282	SKA100	甕 底部	(7.0)	(3.5)	磨滅/ハケ	淡黄褐/ 茶褐	3mm以下長、英、 チャ	(3/4)	
77	283	SKA69	壺	18.4	(6.5)	ナデ・ハケ/ハケ	淡肌茶褐/ 淡茶	1.5mm以下長、 英、チャ、雲、赤	1/8	有段口縁壺
77	284	SKA69	壺	13.0	(6.0)	磨滅	灰褐/ 橙茶	2mm以下長	1/2	広口壺F1、穿孔
77	285	SKA69上層	壺	18.0	(10.5)	ヨコナデ	淡褐-濁 桃/断面: 淡灰-暗 灰/桃褐	3mm以下長、英、 チャ、赤	2/3	広口壺D4
77	286	SKA69	壺	24.5	52.2	ハケ・ナデ/ハケ →ナデ・ヘラミ ガキ	淡褐・褐	4mm以下長、英、 黒	?	近江系広口壺、最 大径38.0cm、内面 に黒斑
77	287	SKA69	鉢	43.0	(7.8)	指痕・ハケ・磨 滅/ヨコナデ・ハ ケ	淡褐/ 黄褐	6.5mm長、英、 チャ	1/16	外面に黒斑
77	288	SKA69	鉢	29.4	(7.2)	ナデ・ハケ/ナデ	淡濁肌	4mm以下長、英、 チャ、赤	1/8	
77	289	SKA69	蓋		(3.0)	ハケ→ナデ/ナ デ・指痕・ハケ	淡褐	2.5mm以下長、 英、チャ、1mm以 下黒	1/1	外面に黒斑、ツマ ミ径3.0cm
77	290	SKA69	脚付 水差	(11.0)	(21.0)	ハケ・指痕・ヘ ラケズリ・シボ リ痕/ヨコミガ キ・タテミガ キ・磨滅	淡黄褐	0.5~3mm長多 量、英多量、0.5 ~2mmチャ		全体の残存率： 7/10、最大腹径 18.5cm、透孔5個
77	291	SKA69 上層	最 甕	20.0	(2.7)	磨滅/ナデ	淡褐/ 暗灰	3mm以下長、英	1/10	
77	292	SKA69	甕	14.6	(5.0)	ハケ・ナデ/ヨコ ナデ・ハケ	淡褐	2.5mm以下長、 英、チャ、黒	1/6	甕Aa2
77	293	SKA69	高杯	内径 16.4/ 外径 22.0	(6.2)	ヘラミガキ/ヨコ ナデ・指痕・ヘ ラミガキ	黄褐/褐	2mm以下長、英、 赤	1/6	
77	294	SKA69	壺 底部	(7.4)	(6.4)	ハケ・ナデ・指 痕/ヘラケズリ・ ナデアゲ・ナデ	肌白/ 淡黄	3.5mm以下長、 英、赤	(1/1)	
77	295	SKA69	壺 底部	(6.8)	(7.3)	磨滅	淡灰褐/ 淡黄褐	4mm以下長、英、 チャ、黒	(4/5)	外面に黒斑
77	296	SKA69	甕 底部	(5.4)	(5.1)	指痕・磨滅/ハ ケ・ナデ	淡肌褐	3mm以下長、英、 チャ	(1/1)	外面に黒斑
77	297	SKA69	壺 底部	(6.2)	(3.4)	ナデアゲ・指痕/ 磨滅	淡肌/ 肌灰	4mm以下長、 チャ、雲微量	(1/2)	外面に黒斑
77	298	SKA69	底部	(5.5)	(3.6)	指痕/タテハケ・ ナデ	褐/ 淡黄褐・ 桃	1mm以下長、英、 チャ、黒	(1/1)	
77	299	SKA69 上層	最 甕 底部	(5.0)	(3.7)	ナデ/タテハケ	淡肌茶褐/ 淡茶	4mm以下長、英、 チャ、赤	(1/4)	
78	300	SKA69	壺	19.0	(4.0)	ヨコハケ/ナデ	淡肌白	3mm以下長、英、 チャ、赤	1/8	広口壺



観 察 表

78	301	SKA69	甕	19.4	(4.2)	ヨコハケ・ヨコナデ・斜ハケ/ヨコナデ・ハケ	褐/濁褐	3.5mm以下長、英、チャ、雲微量	1/8	
78	302	SKA69	壺	14.2	(3.2)	ハケ/タテハケ・磨滅	淡茶褐/淡濁褐	1.5mm以下長、英、雲微量	1/6	広口壺D5
78	303	SKA69	壺	24.0	(6.5)	磨滅/ヨコハケ・磨滅	淡肌/淡肌褐	2mm以下長、英、黒雲微量	1/8	無頸壺
78	304	SKA69 最下層	壺			ナデ	淡褐/淡灰褐	3mm以下長、英、チャ、赤		
78	305	SKA69	壺	14.4	24.6	ナデアゲ・指痕・磨滅/タテハケ・磨滅	淡灰褐/淡灰茶褐	8mm以下長、英、チャ、赤	1/12・(1/1)	広口壺、体部残存率：1/4-1/3、両面に黒斑
78	306	SKA69 最下層	高杯 裾部	(11.6)	(2.4)	磨滅/ハケ	淡灰褐/淡灰-黒灰	2mm以下長、英、雲	(1/4)	内面磨滅
78	307	SKA69	壺 底部	(7.0)	(3.5)	磨滅/ヘラナデ・磨滅	淡褐	2mm以下長、英	(1/3)	底部に黒斑
78	308	SKA69	底部	(6.0)	(2.5)	ナデ/タテハケ	淡黄褐-褐/淡肌褐-暗灰	2mm以下長、英	(1/1)	底面に木の葉圧痕
78	309	SKA69	底部	(6.0)	(5.1)	指痕・磨滅/磨滅	淡肌-暗灰/褐	2mm以下長、英	1/4	
78	310	SKA102	甕	22.0	(9.8)	ヨコハケ・ナデ/ヨコナデ・タテハケ	淡茶褐-焦茶/淡茶褐	2mm以下長、英、チャ、雲微量	1/4	甕Ab2、外面にコゲ
78	311	SKA102	甕	26.3	(8.4)	ヨコハケ・磨滅/タテハケ・磨滅	肌褐/淡褐	5mm以下長、英、チャ、赤	1/5	
78	312	SKA79上層	甕	20.8	(16.8)	ハケ・指痕/タテハケ・斜ハケ	淡桃褐/淡褐	4mm以下長、英、チャ、赤	1/5	甕Ab2
78	313	SKA79	甕	19.6	(12.6)	ヨコハケ・ナデアゲ/ナデ・タテハケ・磨滅	-	5mm以下長、英、チャ	1/16	体部残存率：1/2
78	314	SKA79上層	甕	22.0	(6.5)	ヨコハケ・ナデ/タテハケ	淡褐	0.5~2mm長、英、0.5~1mmチャ	1/4	甕Ac1
78	315	SKA79	甕	20.8	(9.2)	ヨコハケ・ナデ/タテハケ	肌褐	3mm以下長、英、チャ、赤	1/3	甕Ac2、外面にコゲ・スス
78	316	SKA79	甕	19.8	(8.0)	ヨコナデ/タテハケ	淡灰褐-淡橙褐	1~3mm長、英、チャ、1~2mm雲	1/1	甕Ab1、両面にスス
78	317	SKA79上層	甕 底部	(5.8)	(12.1)	指痕/タテハケ	淡褐	0.5~2mm長、英微量、チャ	4/5	
78	318	SKA79上層	甕 底部	(7.8)	(3.0)	ナデ/ナデ・磨滅	暗褐	0.5~2mm長、0.5~1mm英、チャ	(1/1)	
78	319	SKA79上層	甕 底部	(5.8)	(3.9)	ナデ・磨滅/ハケ	黄茶褐	0.5~2mm長、英、チャ、1mm角	(1/1)	
79	320	SKA77	甕	17.2/(5.4)	(22.0)	ヨコハケ・ナデ・磨滅/タテハケ・磨滅	淡肌/褐	4mm以下長、英、チャ、赤		甕Ab3
79	321	SKA77	甕 底部	(5.8)	(6.6)	ナデ・指痕/タテハケ	淡橙褐/淡褐-灰褐	8mm小石、4mm以下長、英、チャ、赤	(1/1)	
79	322	SKA77	壺 底部	(7.0)	(7.5)	磨滅/ハケ・磨滅	茶褐	4mm以下長、英、チャ、黒、赤	(1/1)	
79	323	SKA77	甕	20.2	(19.1)	ヨコハケ・板ナデ・磨滅/タテハケ	淡灰褐	0.5~2mm長、英、0.5~1mmチャ	1/2	甕Ab2
79	324	SKA77	甕	18.5/(6.4)	24.9	ナデ・磨滅/ヨコナデ・タテハケ・磨滅	橙茶褐	0.5~2mm長、英	1/5	甕Aa3
79	325	SKA77	甕	26.6	(20.5)	ヨコハケ・ナデ/タテハケ・斜ハケ	淡黄褐/濁褐	4mm以下長、英、チャ、黒、赤	1/2	甕Ad
79	326	SKA77	甕	25.6	(12.5)	ヨコハケ・ナデ/タテハケ	淡黄褐/褐茶	4mm以下長、英、チャ、赤、雲	1/4	甕Aa3、外面にコゲ・スス
79	327	SKA77	甕	22.0	(9.2)	ハケ・ヘラケズリ・ナデアゲ・指痕/ハケ	肌褐/淡褐	2.5mm以下長、英、チャ、赤	1/4	甕Aa2、SKA78の破片と接合
79	328	SKA114	壺	13.0	(6.5)	ヨコハケ・指痕→ナデ/ナデ・タテハケ	橙茶/茶褐	4.5mm以下長、英、チャ、赤	1/2	直口壺

79	329	SKA114	甕	15.8	(7.9)	ヨコハケ・ナデ/ タテハケ	淡茶	0.5~1.5mm長、 英多量、チャ	1/6	甕Aa4
79	330	SKA117	壺	25.0	(16.0)	ヨコハケ・指 痕・磨減/タテハ ケ	淡肌褐/ 淡黄褐	4mm以下長、 チャ、赤	1/4	広口壺A1
79	331	SKA115	甕	12.8	(22.7)	ハケ・指痕・ナ デ・磨減/指痕・ タテハケ	淡濁茶褐 -暗灰	3mm以下長、英、 赤微量	3/4	甕Aa4
79	332	SKA115	甕	14.0	(17.0)	ナデ・ナデア ゲ・指痕/タテハ ケ・ケズリ	淡褐/ 淡肌茶褐	4mm以下長、英、 チャ、赤	1/2	甕Ab3、内面発泡、 炭化物付着、外面 コゲ・スス
79	333	SKA115	甕	20.0	(5.2)	磨減/タテハケ・ 磨減	淡灰褐	3mm以下長、英、 チャ、赤	1/8	
79	334	SKA115	甕	12.8	(5.8)	ナデ・ヨコハケ/ ヨコナデ・タテ ハケ	暗橙茶褐 /橙褐	4mm以下長、英、 チャ	1/3	甕Aa3
80	335	SKA78	壺	27.1	(14.6)	ヨコミガキ・タ テミガキ・ヨコ ハケ/タテハケ	淡褐/ 暗茶褐	0.5~2mm長、英、 0.5~3mmチャ		
80	336	SKA78	壺	19.8	(9.0)	ハケ・ナデ・磨 減/ハケ・ナデ・ 磨減	橙褐	0.5~2mm長、 0.5~3mm英多量	1/4	広口壺
80	337	SKA78	壺	22.6	(8.0)	磨減	橙	3mm以下長、英、 チャ微量、赤	1/4	
80	338	SKA78	甕	21.8	(3.6)	ヨコハケ/タテハ ケ	淡茶	0.5~3mm長、 チャ、0.5~1mm 英	1/4	甕Ac
80	339	SKA78下層	甕	22.0	(6.2)	ナデ・磨減/指ナ デ・ナデ	淡黄褐/ 淡褐	2.5mm以下長、 英、赤	1/3	甕Aa、外面にコ ゲ・スス
80	340	SKA78	甕	37.7	(5.7)	ハケ・指痕/タテ ハケ	暗灰褐/ 濁灰褐	2mm以下長、英、 赤	1/8	外面口縁端押圧は 2個1対
80	341	SKA78下層	甕	20.0	(11.6)	ヨコハケ・指 痕・ナデ・磨減/ ハケ・磨減	淡黄灰褐/ 淡黄茶褐	3mm以下長、英、 チャ	1/6	甕Ab3
80	342	SKA78	甕	16.8	(7.2)	ヨコハケ・指 痕・ナデアゲ/タ テハケ	橙褐/淡 褐-焦茶	3mm以下長、英、 チャ、赤微量	1/4	甕Aa2
80	343	SKA78	壺 底部	(7.5)	(5.5)	磨減	灰白/ 淡肌	4mm以下長、英、 チャ、礫	(1/1)	
80	344	SKA78	甕 底部	(5.5)	(12.6)	ナデ/ハケ	茶褐/ 橙褐	0.5~2mm長、 0.5~1mm英、 チャ	(1/1)	内面スス、底面に 木の葉圧痕
80	345	SKA78	甕 底部	(5.4)	(3.5)	ナデ/ハケ・ナデ	暗茶褐	0.5~2mm長多 量、0.5~1mm英	(1/1)	底部穿孔
80	346	SKA78下層	甕 底部	(5.4~ 5.9)	(6.5)	ナデ・指痕・磨 減/タテハケ	淡茶褐/ 淡黄褐	2mm以下長、英、 チャ、以下赤	(1/1)	底部は楕円
80	347	SKA78下層	底部	(6.0)	(5.5)	ヨコハケ・ナデ/ ハケ	褐-肌桃	4mm以下長、英、 赤	(1/1)	外面にコゲ・スス
80	348	SKA116	壺	13.8	25.4	ナデ・指痕・板 ナデ/ハケ→ヨコ ナデ・タテハケ	淡濁褐/ 淡黄褐	4mm以下長、英		広口壺、粗雑
80	349	SKA116	甕	12.1	(8.6)	ハケ→板ナデ/ヨ コヘラミガキ・ 板ナデ	灰褐	0.5~1.5mm長多 量、英多量、チャ 多量	胴部： 1/4	
80	350	SKA116	底部	(5.6)	(4.5)	ナデ/タテミガ キ、底面：ケズリ →ナデ	淡褐	0.5mm長、チャ	(1/4)	内面スス
80	351	SKA116	底部	(5.8)	(5.3)	ナデ/ハケ	茶褐	0.5~2mm長、英 多量、1mmチャ	(1/1)	底面に木の葉圧痕
80	352	SKA106	甕			ヨコハケ/タテハ ケ・ナデ	淡肌灰- 暗灰/淡 肌灰-暗 灰	4mm以下長、英、 チャ、赤		口縁破片のみ
80	353	SKA126	甕	22.2	(13.0)	ヨコハケ・指 痕・磨減/タテハ ケ	淡褐/ 淡褐	3mm以下長、英、 チャ、赤	1/5	甕Ab3、両面に黒斑
80	354	SKA126	底部	(5.0)	(2.9)	磨減	濁褐/ 淡黄褐	3mm以下長、英、 チャ、雲、赤	3/4	穿孔
81	355	SKB165	甕	16.2	(3.8)	ヨコハケ・ナデ/ ナデ・ハケ	淡赤褐	1mm英微量、長、 黒微量、0.5~ 2mmチャ多量	1/6	甕Aa

観 察 表

81	356	SKB165	甕	20.6	(4.5)	ヨコハケ/ナデ・タテハケ	淡褐	0.5~1mm長微量、赤多量、雲微量、1~2mmチャ多量	1/2	甕C1
81	357	SKB165	甕	19.0	(8.5)	ナデ・磨減/ハケ・磨減	灰橙	1~2mm長、英、チャ	1/2	甕C2
81	358	SKB165	甕	17.2	(4.2)	ナデ・ヨコハケ/タテハケ	淡橙褐	0.5~1.5mm長、英微量、チャ多量、赤微量	1/8	
81	359	SKB165	甕	16.0	(4.5)	ナデ/ナデ・斜ハケ	淡灰褐	1~2mm長、チャ多量、0.5mm英微量	1/3	甕C5
81	360	SKB165	甕	14.7	(5.5)	磨減	淡褐	0.5~1mm長微量、英微量、雲微量、チャ多量	1/10	
81	361	SKB165	壺	11.0	(5.0)	ケズリ→板ナデ/ナデ・ケズリ→ナデ	赤褐	0.5~1mm長、チャ、0.5~2mm英、	1/3	無頸壺
81	362	SKB165	壺		(4.8)	ナデ/ナデ・磨減	淡褐	1mm長、赤多量、2mmチャ多量、3mm黒		
81	363	SKB165	壺	13.0	(12.8)	ナデ・ハケ・磨減/ナデ・タテハケ・磨減	灰橙褐		7/10	直口壺
81	364	SKB165	甕	26.2	6.0	ナデ・磨減/板ナデ・磨減	淡褐	0.5~1mm長、英、チャ、雲微量	1/5	甕C2
81	365	SKB165	甕	32.4	(8.9)	ナデ・ハケ/磨減	淡褐	1mm英微量、黒、0.5~3mm長多量、チャ多量	1/8	甕Bc
81	366	SKB165	壺	34.2	(8.2)	ナデ・磨減/ナデ・磨減	淡褐	3mm以下長、英、5mm以下チャ多量、0.5mm赤微量	1/10	有段口縁壺
81	367	SKB165	壺		(7.0)	磨減/ハケ	淡褐	1~2mm英多量、長、赤微量、チャ多量		
81	368	SKB227	甕	15.4	(6.6)	磨減	淡褐	2mm以下長、英、赤微量	1/3	甕Aa2
81	369	SKB227	甕	24.2	(2.2)	ハケ	暗濃茶褐	1mm以下長多量、英多量、チャ多量		
81	370	SKB168	壺	18.9	(6.3)	磨減	淡赤褐	1.5mm以下長多量、英多量、チャ多量	1/4	
81	371	SKB168	壺	11.6	(5.4)	磨減/ナデ・指痕	淡褐	4mm以下長多量、2mm以下英多量、チャ	1/4	内面に瘤状突起
81	372	SKB168	高杯脚部		(9.6)	シボリ痕・ナデ/タテハケ	淡灰褐/淡橙褐	2mm以下長多量、0.5~1mm英微量、チャ、赤微量、雲微量		
81	373	SKB168	甕底部	(7.3)	(5.8)	ナデ/タテハケ	黒褐/淡褐	3mm以下長、チャ、1mm以下英	(1/1)	底面に木の葉圧痕
81	374	SKB169	甕	12.0	(9.6)	ナデ・ハケ→ナデ/ハケ	暗茶褐	2mm以下長、英、黒多量		甕Aa3
81	375	SKB174	壺	16.8	(8.2)		淡褐	1~2mm長、英多量、長、英多量	1/8	直口壺
81	376	SKB174	高杯	30.0	(6.5)	ヨコナデ・ナデ/ナデ・ヨコミガキ・タテミガキ	明淡褐	2mm以下長、英	1/8	外面に黒斑
81	377	SKB226	高杯	23.6	(3.1)	ナデ	淡褐	1mm以下長多量、英多量、チャ微量	1/8	
82	378	SKB289	甕	20.0	(11.0)	ナデ/ハケ	赤灰褐、口縁:黒灰	3mm以下長、英多量		甕Ab3、波状口縁、頸径15.4cm・最大径20.0cm
82	379	SKB272	甕	35.7	(8.8)	ヨコハケ・斜ハケ/ナデ・タテハケ	淡橙褐	0.5~2.5mm長、英、チャ	1/12	頸径33.0cm
82	380	SKB297	甕	17.4	(3.4)	ヨコハケ・ナデ/ヨコナデ・タテハケ	淡褐	0.5~2mm英、チャ、赤	1/10	

82	381	SKB297	甕	18.4	(5.3)	ヨコナデ・ハケ・指痕→ヨコナデ/ヨコナデ・指ナデ→ハケ	淡褐	0.5~1.5mm長、堆、チャ	1/3	甕Aa3、頸径15.5cm
82	382	SKB297	甕	18.4	(7.2)	磨滅/ナデ・ハケ	淡褐/暗褐	2~3mm長、チャ	1/6	甕Ac3、頸径15.9cm
82	383	SKB297	甕	19.2	(8.1)	ナデアゲ・磨滅/ナデ・ハケ・磨滅	淡桃褐	1~2.5mm長多量、チャ多量、英	1/4	甕Aa2、頸径16.1cm
82	384	SKB297	鉢	17.8	(8.3)	ヨコハケ/タテハケ	淡黒褐-淡褐	1mm以下長、英	1/6	頸径15.8cm
82	385	SKB297	壺	12.0	(5.5)	ナデ/ハケ→ヨコナデ	淡褐	0.5~1mm長、英	1/4	近江系広口壺、頸径6.2cm
82	386	SKB297	壺	13.4	(4.0)	ナデ・磨滅/ナデ・ハケ・磨滅	淡赤褐-黒褐	1mm以下長、英	1/4	広口壺Eb3、口縁外面-黒、頸径10.3cm
82	387	SKB297	甕	12.8	(9.8)	ヨコナデ・ヨコハケ・タテナデ/ヨコナデ・指痕・ハケ	暗褐	2~5mm長微量	1/4	甕Aa3、頸径11.2cm・最大径13.3cm
82	388	SKB297	甕	13.4	(2.0)	ヨコナデ	暗褐	1mmチャ多量、長	1/3	甕Ba、口縁端にスス、頸径11.0cm
82	389	SKB297	甕	16.7	(9.0)	ナデ・ハケ/ハケ	黒褐	1mm以下長、英	1/4	内面コゲ、頸径15.8cm
82	390	SKB297	壺	20.6	(10.0)	ヨコハケ・磨滅/ナデ・タテハケ	赤褐	1~2mm長、英多量	1/6	有段口縁壺、頸径13.4cm
82	391	SKB297	甕	22.6	(6.5)	ヨコハケ/磨滅	濃黒灰	1mm長、英	1/3	頸径18.3cm
82	392	SKB297	甕	26.0	(5.5)	ナデ・磨滅/ヨコナデ・ハケ	淡黄褐	1mm以下長、0.5~2.5mm英、チャ	1/10	頸径24.2cm
82	393	SKB297	底部	(4.8)	(3.2)	ナデ/ハケ→ミガキ、底面:ナデ	淡茶褐/暗濃茶褐	0.5~1mm長、チャ、1~2mm英	(2/3)	
82	394	SKB297	底部	(10.0)	(3.6)	磨滅	淡褐	0.5~2mm長多量、チャ多量、赤	(5/6)	底面に木の葉圧痕
82	395	SKB303	甕	19.9	(4.4)	ヨコハケ→指ナデ・ヨコハケ・ナデ/指ナデ・タテハケ	暗赤褐/暗淡褐	2mm以下長、英	1/8	頸径17.8cm
82	396	SKB303	甕	18.9	(7.5)	ナデ・ヨコハケ→ナデ/ナデ・タテハケ	暗淡茶褐/暗茶褐-黒	2.5mm以下長、英多量	1/6	甕Aa、外面スス、頸径15.5cm
82	397	SKB335	甕	19.5	(3.9)	ヨコハケ/斜ハケ・タテハケ	淡褐	1~2mm長、英多量	1/2	甕C2
82	398	SKB335	甕	21.2	(4.7)	ヨコハケ/タテハケ	淡褐/暗茶褐	1mm以下長、英少量	1/4	甕Ab1、頸径17.7cm
82	399	SKB298	甕	20.6	(5.5)	ヨコハケ・ナデ/タテハケ	淡褐	1mm以下長、英	1/6	甕Ac、頸径18.3cm
82	400	SKB339	甕	16.0	(2.5)	ヨコハケ/ハケ	淡褐/明茶褐	0.5~2mm英、チャ	1/5	甕C5、外面スス、頸径12.2cm
82	401	SKB339	甕	19.6	(3.4)	ハケ/ヨコハケ・タテハケ	淡褐/黒褐	1mm以下長、英	1/5	甕C2、頸径14.3cm
82	402	SKB377	甕	19.0	(4.6)	ヨコハケ・ハケ→ナデ/タテハケ	暗茶褐	0.5~2.5mm長、英、チャ	1/5	甕D、頸径16.5cm
82	403	SKB440	甕	18.1	(7.8)	ヨコハケ・タテナデ・指痕/タテハケ	淡褐	0.5~1mm長、赤、1~2mm英、チャ	1/6	甕Ac2、頸径15.5cm
82	404	SKB440	甕底部	(6.0)	(5.5)	ナデ・指痕/タテハケ	黒褐/淡褐	0.5~1mm長、1~2mm英、0.5~3mmチャ	(1/1)	木の葉圧痕
82	405	SKB440	壺	18.2	(3.0)	ハケ→ナデ・ハケ/ハケ	暗赤茶褐/暗濃茶褐	0.5~1.5mmチャ多量、英多量	1/8	広口壺、頸径11.4cm
82	406	SKB440	ミニチュア壺	(2.3)	(4.7)	指痕/タタキ	黒褐	0.5~3mm英、1mm雲微量、角微量	(1/1)	頸径1.5cm・最大径3.8cm
82	407	SKB440	高杯	26.8	(6.2)	ヨコミガキ・タテミガキ/ヨコミガキ・タテミガキ	橙褐/暗灰褐	0.5~2mm長、英、チャ多量	1/8	
83	408	SKB403	壺	18.4	(6.8)	ヨコハケ・ナデ/ヨコナデ	淡褐	0.5~3mm英多量、0.5~1mm長、赤多量	1/2	広口壺Ea1

観 察 表

83	409	SKB403	壺	24.2	(6.8)	ナデ	明淡褐	2~3mm長、英	1/8	有段口縁壺
83	410	SKB403	壺	12.8	(5.1)	ヨコハケ/ハケ	淡暗褐/ 淡暗褐- 乳褐	2mm以下長、英	1/6	有段口縁壺
83	411	SKB403	壺	(4.1)	(9.8)	ナデ・指痕・板 ナデ/磨減	暗褐	1~1.5mm長多 量、チャ多量、英	(1/4)	
83	412	SKB403	甕 底部	(6.3)	(4.2)	ナデ/タテハケ	淡褐	1~4mm英多量、 0.5~2mm長、赤、 0.5~3mmチャ多 量	(1/1)	コゲ
83	413	SKB403	甕 底部	(8.8)	(5.3)	ナデ/ハケ・ヨコ ナデ	淡褐	1~2mm長、英、 1~3mmチャ	(3/4)	
83	414	SKB403	甕 底部	(6.4)	(5.0)	ナデ/ハケ・ヨコ ナデ	淡橙褐	1~2mm英多量、 長微量、チャ	(1/1)	スス
83	415	SKB403	蓋	(17.6)	(3.8)	ハケ	淡褐- 焦茶褐- 濃暗茶褐/ 褐- 焦茶褐- 濃暗茶褐	1.5mm以下長、英	(1/6)	
83	416	SKB403	甕	15.8	(6.3)	ヨコナデ・ヨコ ハケ/ヨコナデ	橙褐	1~2mm長、英、 チャ	1/6	甕Aa2、外面全体に スス
83	417	SKB403	甕	17.2	(5.3)	ハケ→ナデ/タテ ハケ→ナデ	暗淡橙褐/ 暗淡褐	1.5~4mm長、英	1/4	甕C1
83	418	SKB403	甕	16.6	(7.9)	ヨコナデ/ハケ	明淡褐- 黄褐/ 暗淡褐- 暗淡茶褐	1.5~4mm長、英	1/2	甕Aa3
83	419	SKB403	甕	17.0	(9.5)	ハケ・ナデ/ハケ	淡褐	0.5~2mm英、 チャ、1mm長、 0.5mm角	2/3	甕Aa4、内面に粘土 痕
83	420	SKB403	甕	21.0	(4.9)	ハケ・ナデ/板ナ デ	茶褐	1~2mm長、チャ、 赤微量	1/4	
83	421	SKB403	甕	21.2	(4.9)	磨減/ヨコナデ・ ハケ	暗淡褐	2.5mm以下長、英	1/6	
83	422	SKB403	甕	22.0	(14.0)	ハケ・指ナデ/ナ デ・ハケ	淡褐/ 茶褐	0.5~2mm長、英、 1~4.5mmチャ	3/4	甕Aa2
83	423	SKB403	甕 底部	(4.8)	(7.3)	ナデ/ハケ	淡茶褐	0.5~1.5mm長、 英、0.5~4mm チャ	(1/1)	422と同一個体
83	424	SKB449	甕	24.4	(3.3)	ハケ	暗灰褐	0.5~1mm長、赤 微量、0.5~ 3.5mm英、チャ	1/12	
83	425	SKB449	壺	15.6	(6.6)	ハケ→ナデ/ハ ケ・ナデ	暗茶褐	0.5~1.5mm長、 英、チャ	1/3	近江系広口壺
83	426	SKB470	台付 壺	12.0	(7.0)	斜ハケ→ナデ	明淡褐- 暗淡褐/ 淡褐	1.5~2mm長、英	1/6	外面にコゲ
83	427	SKB485 (SKB1141)	壺	25.0	(20.1)	ナデ・磨減/ナ デ・タテハケ・ 磨減	明淡褐	3mm以下長、英多 量	1/2	広口壺C5
83	428	SKB499	壺	16.4	(18.5)	ナデ/タテハケ	淡褐	0.5~2mm英、 1~4mm長、チャ、 1mm角微量、赤	1/3	広口壺A5、内面に 瘤状突起
83	429	SKB499	甕	38.0	(12.5)	ヨコナデ・斜ハ ケ/ヨコナデ・磨 減	淡褐	1~6mm英多量、 0.5~1mm長多 量、1~8mmチャ	1/2	甕Ba
83	430	SKB499	甕 底部	(7.4)	(5.9)	磨減/ハケ・ヨコ ナデ	淡褐	1mm英多量、1 ~4mm長多量、 1~3mmチャ	(3/4)	
84	431	SKB523	甕	17.8	(11.5)	ヨコハケ・ハケ →ナデ・磨減/ナ デ・タテハケ	淡褐	1~2mm長、英、 5mm英少量	1/10	頸径14.3cm・最大 径19.2cm
84	432	SKB595	壺	19.8	(6.0)	磨減	淡褐- 濃灰淡褐/ 淡橙褐	2mm以下長、英、 赤	1/8	広口壺
84	433	SKB1172	甕	20.6	(4.0)	ヨコハケ/ヨコハ ケ・タテハケ	淡褐	0.5~1mm長、英、 チャ、赤	1/8	
84	434	SKB712	甕	19.4	(4.3)	ヨコナデ・ナデ/ タテナデ	淡黄褐- 暗黄褐/ 淡茶褐	2mm以下長、英少 量	1/8	頸径16.2cm

84	435	SKB712	甕	18.0	(7.0)	ヨコハケ・磨滅/ ヨコナデ・タテ ハケ・ヨコハ ケ・磨滅	黒灰/ 灰褐- 茶褐	1~2mm長、英多 量	1/3	甕C2、頸径13.4cm
84	436	SKB593 (SKB1054)	壺	18.0	(6.3)	ヨコナデ・指ナ デ/ナデ	赤褐	1~2mm長、0.5 ~2.5mm英多量、 チャ多量	1/10	広口壺A5
84	437	SKB593 (SKB1054)	高杯 脚部	(12.0)	(5.2)	板ナデ/ヨコナデ	淡褐	0.5~2mm長、英、 赤微量、チャ	(1/4)	
84	438	SKB593 (SKB1054)	壺	23.0	(2.5)	ハケ/ナデ	橙褐	0.5~1mm長、 0.5~3mm英、 0.5~5mmチャ、 1~2mm赤	1/4	広口壺
84	439	SKB628	甕	13.5	(2.6)	ハケ	淡黄褐	0.5~1mm長、 チャ	1/8	頸径10.0cm
84	440	SKB628	甕	18	(3.9)	ハケ・板ナデ/板 ナデ・ハケ	茶褐	0.5~1mm英、 チャ	1/10	頸径14.3cm
84	441	SKB628	鉢	25.2	(3.7)	ナデ	淡橙褐	0.5~1mm長、英、 0.5~2.5mmチャ	1/12	
84	442	SKB498	ミ チュ ア 土 器	(3.0)	(3.0)	ナデ	暗濃茶褐	0.5mm長、雲少量	(1/3)	広口壺
84	443	SKB501	鉢or 高杯	14.3	(4.6)	ヨコナデ/磨滅	橙褐	1~2mm長、チャ、 0.5~1mm英、 チャ	1/8	穿孔
84	444	SKB664	甕	30.0	(5.0)	ナデ/ヨコハケ	淡赤褐	1~2mm長、英	1/10	頸径28.3cm
84	445	SKB729	壺	14.2	(4.3)	ナデ・磨滅/磨滅	乳褐/ 淡黄褐- 淡橙褐	2mm以下長、英多 量	1/2	広口壺F1、頸径 8.8cm
84	446	SKB751	壺	19.6	(4.2)	ナデ/ツマミア ゲ・ナデ	暗茶褐/ 淡褐- 暗褐	1mm以下長、英	1/8	
84	447	SKB607	高杯	(7.0)	(10.5)	ハケ・ナデ・ケ ズリ/ナデ・ケズ リ→ナデ	淡黄褐/ 暗黒茶褐	1~2mm長、0.5 ~3mm英、チャ	(1/1)	
84	448	SKB607	甕	13.6	(5.0)	ナデ/ヨコナデ・ ハケ・タタキ	淡橙茶褐	0.5~1mm長、 チャ、0.5~3mm 英	1/3	甕Bb2、頸径11.4cm
84	449	SKB750	甕	13.9	(7.8)	ナデ・斜ハケ/ナ デ・タテハケ	淡黄褐- 暗黄褐/ 淡茶褐	1mm以下長、英	1/6	甕Bb1、頸径11.8cm
84	450	SKB735	壺	15.1	(5.0)	タテハケ→ナデ/ 指ナデ・タテハ ケ→指ナデ	明淡褐/ 明淡黄褐	2mm以下長、英	1/4	広口壺Eb3、頸径 10.0cm
84	451	SKB735	壺	18.6	(2.1)	ナデ/指ナデ・板 ナデ	明淡褐	2mm以下長、英微 量	1/6	広口壺
84	452	SKB735	壺	22.0	(3.6)	磨滅/ヨコナデ・ ミガキ	橙褐	0.5~1mm長、英、 1~2mm赤	1/10	
84	453	SKB735	壺	19.9	(2.8)	板ナデ	淡褐	1mm以下長、英	1/8	広口壺
84	454	SKB735	器台 脚部	(19.6)	(7.6)	タテハケ→ヨコ ナデ・ケズリ	淡褐/ 淡乳褐- 淡茶褐- 淡灰褐	1.5mm以下長、英	(1/8)	
84	455	SKB735	甕	20.4	(5.1)	磨滅/ハケ	淡褐	1mm英多量、長微 量、角微量、赤微 量、1~2mmチャ	1/6	近江系?、頸径 15.4cm
84	456	SKB735	甕	13.8	(3.2)	ナデ/ヨコナデ	淡褐	1mm英多量、 チャ、雲微量、1 ~3mm長	1/8	頸径11.8cm
84	457	SKB735	甕	12.0	(7.3)	ナデ	茶褐	1mm長微量	1/20	頸径10.0cm
84	458	SKB735	壺	14.9	(6.8)	ヨコナデ・板ナ デ/ヨコナデ・ハ ケ	淡褐	2.5mm以下長、英	3/4	無頸壺、穿孔、頸径 13.7cm
84	459	SKB735	底部	(5.4)	(2.6)	ナデ	淡褐	1~3mm英多量、 チャ、1~2mm長	(3/4)	
84	460	SKB735	甕 底部	(5.6)	(2.9)	磨滅	淡褐	1~2mm英多量、 1~3mm長、チャ	(1/3)	
84	461	SKB735	鉢	42.8	(7.1)	ナデ	淡褐	1~2mm英多量、 長多量	1/16	

観 察 表

85	462	SKB770	甕	19.0	(3.4)	ヨコハケ・磨減/ ヨコハケ・タテ ハケ・磨減	淡橙褐	0.5~1mm長、英、 チャ	1/4	甕C3、頸径17.0cm
85	463	SKB770	甕	23.5	(3.5)	ハケ・磨減/ヨコ ナデ・指ナデ→ タテハケ・磨減	淡褐/ 暗茶褐	0.5~2mm長、英、 チャ	1/6	甕Ac、頸径19.5cm
85	464	SKB770	壺	29.4	(3.5)	ヨコナデ	淡褐	1~2mm英	1/12	広口壺
85	465	SKB745	壺	29.4	(16.0)	ナデ	淡赤褐/ 淡褐	0.5~1mm長、赤、 0.5~4mm英多 量、1~5mmチャ 多量	1/6	広口壺D5、頸径 16.0cm
85	466	SKB762	甕	13.6	(4.4)	ヨコナデ・ハケ	淡褐/ 橙茶褐	0.5~1mm長、赤、 0.5~2mm英、 チャ	1/5	甕Aa、頸径12.4cm
85	467	SKB762	甕 底部	(5.6)	(2.2)	ナデ/ハケ	橙茶褐	0.5~1mm長、 0.5~2mm英、 チャ、1~2.5mm 赤	(1/1)	底面に木の葉圧 痕、内面に黒斑
85	468	SKB771	甕	25.9	(8.2)	ヨコハケ・ナデ/ ハケ	淡橙褐	0.5~2.5mm長、 チャ、0.5~ 3.5mm英、0.5~ 1mm赤	1/6	甕Aa2、頸径 22.0cm・最大径 24.5cm
85	469	SKB771	甕	13.5	(6.5)	ヨコハケ・ナデ/ ナデ・タテハケ	暗茶褐	1~2mm英多量、 0.5mm長、1mm チャ微量	1/6	頸径11.7cm・最大 径12.6cm、甕Aa2
85	470	SKB771	甕	15.2	(4.8)	ヨコハケ・ナデ/ タテハケ→ナ デ・タテハケ	暗茶褐	1.5mm以下長、英	1/5	甕Aa2、頸径 13.1cm・最大径 13.9cm
85	471	SKB771	甕	18.0	(6.7)	ヨコハケ・ナデ/ ハケ	淡褐	0.5~1mm長、赤、 0.5~2mm英、1~ 3mmチャ	1/10	甕Aa2、頸径15.0cm
85	472	SKB771	甕	18.2	(7.2)	ヨコハケ・ナデ/ ナデ・タテハケ	暗茶褐	0.5~1mm英多 量、1~2mmチャ	1/4	甕Aa2、頸径 15.6cm・最大径 17.4cm
85	473	SKB771	甕	18.0	21.2	ヨコハケ・ナデ/ ハケ	暗茶褐- 橙褐/淡 褐			甕Aa2、頸径 14.5cm・最大径 16.5cm
85	474	SKB771	甕 底部	(5.5)	(2.2)	ナデ/ハケ	淡橙褐	0.5~1mm英、1 ~3mm長微量、 1~2mmチャ微量	(4/5)	
85	475	SKB771	甕 底部	(4.6)	(2.1)	ナデ/ハケ	暗褐	1~5mm英、0.5mm 長微量、1~2mm チャ	(1/1)	
85	476	SKB771	蓋		(9.4)	ハケ・ナデ/タテ ハケ	淡橙褐	0.5~2mm英多 量、0.5~1mm長、 赤微量、1~5mm チャ微量	-	ツマミ径5.6cm
85	477	SKB771	高杯 脚部	(13.4)	(4.1)	ハケ/ナデ・ハケ	赤褐	0.5~3mm英多 量、1~2mm長、 チャ微量	(1/2)	
85	478	SKB791	甕	33.4/ (11.7)	54.5	ヨコハケ/ヨコナ デ・タテハケ・ ケズリ・ミガキ	淡褐	1~2mm英多量、 1~3mm長、1~ 4mmチャ、0.5~ 1mm赤	14/15・ (1/1)	甕Bc、頸径 29.8cm・最大径 38.8cm
86	479	SKB775	壺	16.2	(2.5)	ヨコナデ	淡褐	0.5~1mm英、雲、 赤、0.5~2mm チャ	1/4	広口壺、口縁内面 に瘤状突起1個
86	480	SKB775	壺	16.4	(2.2)	ケズリ/ヨコナデ	淡黄褐	0.5~1.5mm長、 赤、0.5~2mm英、 チャ	1/8	広口壺
86	481	SKB775	甕	17.0	(2.5)	ナデ・ヨコハケ/ ハケ	淡褐/褐	0.5~1mm長、英、 0.5~2mmチャ	1/10	
86	482	SKB775	甕	15.1	(2.6)	ヨコハケ/ハケ	淡橙	0.5~1mm長、英、 0.5~2mmチャ	1/8	甕C3
86	483	SKB775	鉢	28.0	(3.9)	ナデ	淡黄褐	0.5~1mm長、英、 チャ、赤	1/22	頸径27.2cm
86	484	SKB775	底部	(4.8)	(3.0)	ナデ/ハケ・ナデ	赤茶褐	0.5~3mm長、英、 チャ	(1/2)	木の葉圧痕
86	485	SKB775	底部	(7.0)	(10.8)	ナデ/ケズリ	淡白褐/ 淡黄褐	0.5~1mm長、英、 雲、赤、0.5~ 2.5mmチャ	(1/1)	内面上半にコゲ

86	486	SKB776	壺	11.8	(4.0)	ナデ・ヨコハケ/ ヨコナデ・ナデ	淡橙	1~2mm英多量、 チャ、長微量、 0.5mm角、赤微量	1/4	広口壺F、頸径 8.0cm
86	487	SKB776	壺	20.2	(3.8)	磨減	赤褐	1~1.5mm長多 量、英、0.5mm黒 多量	1/5	広口壺、頸径 13.3cm
86	488	SKB776	壺	21.0	(8.9)	ヨコハケ・ナデ/ ヨコナデ・ハケ	淡桃褐	1~2.5mm長多 量、赤多量、チャ 多量	3/4	広口壺A5、頸径 10.0cm
86	489	SKB776	壺	19.8	(8.0)	ハケ・ナデ/ヨコ ナデ・ハケ	淡褐	1~3mm英多量、 1~2mm長、0.5 ~5mmチャ多量	1/5	広口壺C、頸径 13.2cm
86	490	SKB776	壺	26.8	(14.2)	ヨコハケ・ハケ/ ナデ・ハケ	淡褐	1~2mm長、英微 量、チャ微量、 雲、0.5~1mm角	1/8	有段口緑壺、頸径 21.2cm
86	491	SKB776	甕	20.0	(3.3)	ヨコハケ/ヨコハ ケ・タテハケ	黄褐/ 淡暗褐	0.5mm長、赤、堆 多量	1/4	甕C1、頸径14.5cm
86	492	SKB776	甕	19.4	(4.5)	ヨコハケ・ナデ/ ハケ	暗褐	0.5~1.5mm長、 英、赤、0.5 ~4mmチャ	1/3	甕C2、頸径15.0cm
86	493	SKB776	甕	15.0	(4.3)	ヨコハケ・ナデ/ ハケ	淡褐	0.5~1.5mm長、 チャ、0.5~3mm 英	1/6	甕C1、頸径11.9cm
86	494	SKB776	鉢	20.6 (8.9)	16.8	ナデ/ヨコナデ・ ミガキ	褐	1~5mm英多量、 1mm長、1~3mm チャ	7/12・ (1/1)	
86	495	SKB776	甕	20.2	(9.5)	ヨコハケ・ナデ/ ハケ	灰褐		1/2	甕C3、頸径15.3cm
86	496	SKB776	甕	20.2	(9.8)	ヨコハケ・磨減/ ハケ	淡褐	0.5~1mm長、英 微量、角、チャ多 量	2/3	甕C2、両面にスス、 頸径15.3cm・最大 径18.1cm
86	497	SKB776	甕 底部	(5.3)	(7.6)	ナデ・指痕/ハケ	淡褐	長、英微量	(1/2)	496と同一個体
86	498	SKB776	蓋	(10.0)	(1.9)	ナデ/ヨコナデ・ ナデ	淡褐	1~2mm英、チャ 微量、長微量	1/5	穿孔(2個1対)
86	499	SKB776	底部	(5.6)	(3.6)	ナデ/板ナデ	淡褐	1~3mm英多量、 チャ、1~2mm長 多量、0.5~1mm 角微量	(1/1)	一部被熱赤変
86	500	SKB776	底部	(5.0)	(2.6)	ナデ/ハケ	淡褐	1~2mm長、英、 チャ	(1/4)	木の葉圧痕
86	501	SKB776	器台	30.0	(7.8)	ヨコナデ	淡褐	0.5~1mm英多 量、長多量、雲微 量、角、赤微量、 0.5~6mmチャ微 量	(1/8)	
86	502	SKB800	甕	24.2	(22.2)	ヨコハケ・磨減/ ハケ	黒褐	4mm以下長、英多 量	7/8	甕Ad、頸径 21.0cm・最大径 27.0cm
86	503	SKB800	甕	22.0	(8.1)	ヨコハケ・ナデ/ ナデ・ハケ→ナ デ	暗褐	1~2mm長、英多 量	1/6	甕Ad、頸径19.4cm
86	504	SKB800	鉢	28.0	(10.2)	ナデ・ハケ・磨 減/ナデ・ハケ	淡褐	英	1/8	
87	505	SKB870	壺	23.4	(2.0)	ヨコハケ/ナデ・ ハケ	明乳褐	1mm以下長、英多 量	1/8	広口壺
87	506	SKB841	壺	17.4	(9.5)	ナデ・磨減/ヨコ ナデ・ハケ・磨 減	橙褐	0.5~2mm長、英、 チャ、雲、赤	1/3	広口壺C、頸径 13.1cm
87	507	SKB841	底部	(7.2)	(5.3)	ナデ/ナデ・磨減	淡褐/ 淡橙褐	0.5~2mm長、英 多量、チャ多量	(1/1)	
87	508	SKB841	底部	(5.8)	(4.0)	ナデ/ハケ	淡橙褐/ 淡褐	0.5~3mm長、英、 チャ	(2/3)	黒斑
87	509	SKB841	底部	(5.6)	(3.5)	ナデ・磨減/ハ ケ・磨減、底面： ナデ	淡褐/ 淡橙褐	0.5~2.5mm長、 英、チャ多量	(1/1)	
87	510	SKB841	底部	(7.8)	(5.9)	ハケ/ナデ	淡黄褐	0.5~3mm長、英、 チャ	(1/2)	
87	511	SKB841	蓋	-	(3.9)	ナデ/ナデ・ハケ	暗濃褐/ 濃褐	0.5~2.5mm長、 英、チャ	-	ツマミ径5.0cm



観 察 表

87	512	SKB841	底部	(4.8)	(3.3)	ナデ/ハケ、底面: ナデ	淡灰褐/ 暗褐	0.5~4mm英、 0.5~2.5mmチャ	(1/1)	
87	513	SKB801	壺	37.6	(3.6)	ナデ/ナデ・タテ ハケ→ナデ	明乳褐/ 暗淡褐- 淡褐	2~3mm長、英多 量	1/8	広口壺
87	514	SKB801	甕	10.9	(7.3)	ヨコハケ・ナデ/ ハケ	黒褐	2mm長、英多量	1/1	甕Ab1、径9.4cm・ 最大径9.3cm
87	515	SKB801	甕	15.8	(9.3)	ヨコハケ/ナデ・ ハケ	暗褐	2~3mm長、英	11/12	甕Aa2、頸径 14.0cm・最大径 15.4cm
87	516	SKB801	甕 底部	(5.2)	(4.7)	ハケ	暗褐	2~3mm長、英	11/12	515と同一個体
87	517	SKB897	壺	22.0	(5.7)	ハケ/ハケ・ナデ	淡黄褐	0.5~1mm長、1 ~2.5mmチャ	1/14	広口壺、頸径 17.3cm
87	518	SKB985	鉢	17.0	(4.5)	ヨコハケ・ナデ/ ナデ・ハケ	淡褐	1~1.5mm長、英 多量	1/4	頸径15.5cm・最大 径16.2cm
87	519	SKB822	高杯 脚部	(11.0)	(5.6)	ケズリ→ナデ/ミ ガキ	淡橙褐/ 黒	0.5~1mm長、英、 チャ	(1/5)	
87	520	SKB822	壺	22.8	(2.5)	ナデ	暗褐	0.5~3mm長、 0.5~2mm英多 量、チャ多量	1/8	広口壺
87	521	SKB839	甕	20.0	(3.0)	ヨコハケ・磨滅/ タテハケ・磨滅	淡褐	1mm長、0.5~3mm 英、0.5~5mm チャ多量	1/8	頸径16.5cm
87	522	SKB839	甕	11.0	(6.0)	ナデ/ハケ・磨滅	赤褐	0.5~1mm長、英、 チャ	1/4	甕C5
87	523	SKB869	甕	18.0	(6.7)	ヨコナデ・磨滅/ ナデ・磨滅	橙褐/ 淡橙褐	0.5~1mm長、英、 0.5~4mmチャ	1/6	甕Aa、頸径16.2cm
87	524	SKB869	壺	10.4	(5.7)	指痕・磨滅/ハ ケ・磨滅	橙褐	0.5~1mm長多 量、0.5~2mm チャ	1/4	広口壺、頸径8.5cm
87	525	SKB810	甕	18.0	(6.2)	ヨコハケ→ナ デ・ナデ/ナデ・ ハケ・磨滅	暗淡褐- 黒褐	0.5~3mm長、英	1/6	甕Aa4、頸径15.8cm
87	526	SKB901	甕	14.8	(3.0)	ヨコハケ・ナデ/ タテハケ	暗褐	0.5~2mm英、雲 微量、0.5~3mm チャ	1/4	甕Aa、頸径13.0cm
87	527	SKB908	甕	18.4	(5.8)	ナデ・ハケ/ナ デ・ミガキ	暗淡褐/ 暗淡褐- 明淡褐	2~3.5mm長、英	1/6	甕Aa、頸径16.1cm
87	528	SKB837	甕	16.2	(5.9)	ヨコハケ・磨滅/ ヨコナデ・ハケ	淡黄褐/ 淡橙褐		1/8	頸径14.5cm
87	529	SKB885	甕	18.6	(9.8)	ヨコハケ・ナデ/ タテハケ→ヨコ ナデ・ハケ・磨 滅	淡褐/ 暗淡褐	3mm以下長、英	5/8	甕Aa2、内面コゲ、 頸径16.5cm・最大 径16.4cm
87	530	SKB905	高杯	23.9	(10.3)	ヨコハケ・板ナ デ→ナデ/タテハ ケ→ナデ・ミガ キ	赤褐	1~2mm長、英	2/3	高坏B1、外面黒斑、 頸径19.6cm
87	531	SKB905	甕	16.6	(5.9)	ヨコハケ・ナデ/ ナデタテハケ	灰褐	2~3mm長、英	1/5	甕Aa2、頸径14.3cm
87	532	SKB905	甕	15.2	(14.7)	ヨコハケ・タテ ナデ/ナデ・タテ ハケ	赤灰褐	2~3mm長、英微 量	1/2	甕Aa2、頸径13.3cm
87	533	SKB845	甕	12.0	(5.0)	ヨコナデ・ナデ/ ヨコナデ・タタ キ	赤褐	0.5mm長、英少量	1/4	甕Ba2、外面にス ス、頸径10.6cm
87	534	SKB845	甕 底部	(5.5)	(17.1)	ケズリ・ナデ・ 磨滅/ハケ、底面: ナデ	赤褐	3mm以下長、英多 量	(4/5)	
88	535	SKB899	鉢	15.8	(8.3)	板ナデ/ミガキ	淡褐	1~2mm英、チャ、 1~3mm長	3/4	
88	536	SKB899	甕	14.6	(9.8)	ヨコナデ・ハ ケ・ナデ/ヨコナ デ・タテハケ	暗褐	1~3mm長、英、 チャ微量	1/2	甕Aa2、外面全体に スス、頸径 12.2cm・最大径 13.5cm
88	537	SKB899	甕	15.4	(6.7)	ヨコハケ・ナデ/ ヨコナデ・ハケ	淡黄褐	1~2mm英多量、1 ~4mm長、1~3mm チャ多量	1/4	甕Aa2、頸以下にス ス、頸径15.2cm

88	538	SKB899	甕	17.6	(9.1)	ヨコハケ・ナデ/ハケ	淡橙褐	0.5~3mm英、1~2mm長多量、チャ、0.5~1mm角	1/4	甕A、頸径14.5cm・最大径16.0cm
88	539	SKB899	甕	17.5	(14.0)	ヨコハケ・ナデ/ヨコナデ・ハケ	淡褐	1~3mm英多量、長、チャ多量	1/2	甕Aa2、肩以下にスス、頸径15.0cm・最大径16.2cm
88	540	SKB899	甕底部	(5.8)	(3.5)	ナデ・指痕・磨減/ハケ・磨減	淡褐	1~3mm英多量、チャ多量、1~5mm長、1~2mm角	(1/1)	底部穿孔
88	541	SKB899	底部	(6.2)	(9.2)	指痕・磨減/ナデ・磨減	橙褐	1~3mm英多量、チャ、1~2mm長多量、角微量、赤微量	(1/2)	胴下半にスス、底部穿孔
88	542	SKB899	壺	16.3	(7.7)	磨減/ハケ	暗灰褐	1~2mm英多量、長多量、~8mmチャ	2/3	広口壺、頸径12.4cm
88	543	SKB899	甕	19.6	(4.6)	ヨコナデ・ナデ/ヨコナデ・ハケ	暗褐	0.5~1mm英多量、長、1~3mmチャ	1/8	甕Aa、頸径16.4cm
88	544	SKB899	甕	17.0	(10.0)	ヨコハケ・指痕・磨減/指痕・ハケ・磨減	淡褐	0.5~4mm英多量、0.5~2mm長多量、チャ、0.5~1mm赤多量	1/1	甕Aa3、肩以下にスス、頸径15.0cm
88	545	SKB899	甕	17.6	(12.5)	ヨコハケ・ナデ/ハケ	淡褐	1~2mm英多量、長微量、1~3mmチャ多量	3/4	甕Aa3、頸径15.2cm・最大径17.5cm
88	546	SKB899	甕	17.4	(11.6)	ヨコハケ・板ナデ/ヨコナデ・ハケ	褐	1~3mm英多量、1~2mm長、チャ多量、角微量、雲微量	1/3	甕Ba1、頸径14.8cm・最大径16.5cm
88	547	SKB899	甕	16.0	(7.0)	ヨコハケ・ナデ/ヨコナデ・ハケ	淡褐	0.5~2mm英多量、長、チャ多量	2/3	甕Aa3、頸径13.4cm・最大径15.6cm
88	548	SKB899	底部	(6.0)	(8.3)	ナデ/ハケ・ミガキ	淡褐	1~2mm長、英、チャ微量	(1/1)	
88	549	SKB899	壺	17.4	(8.0)	ハケ/磨減	赤褐	1~5mm英多量、長多量、1~3mmチャ、3~9mmチャ	1/2	広口壺Ea1、頸径13.3cm
88	550	SKB899	壺	18.4	(5.6)	ナデ/磨減	淡橙褐	1~3mm英多量、長多量、チャ多量	1/2	広口壺Ea1、頸径14.3cm
88	551	SKB899	甕	22.0	(8.0)	ヨコハケ・磨減/ハケ・磨減	淡褐	1~4mm英多量、チャ多量、長微量、1mm角微量	1/3	甕Aa3、頸径18.8cm・最大径22.0cm
88	552	SKB899	甕	20.6	(8.7)	磨減	暗褐	1~2mm英多量、長、1~6mmチャ多量	1/5	頸径18.4cm・最大径21.0cm
88	553	SKB899	甕	23.8	(4.8)	磨減/ヨコナデ・ハケ	淡褐	1~3mm英多量、長、チャ	1/6	頸径19.7cm
88	554	SKB899	甕	24.0	(7.2)	ヨコハケ・ナデ/ナデ・磨減	淡褐	0.5~2mm長、英微量、チャ	1/8	頸径20.8cm
88	555	SKB899	甕	26.4	(9.6)	ヨコハケ・ナデ/ヨコナデ・タテハケ	淡褐	1~3mm英多量、1mm長、1~5mmチャ多量	5/12	甕Aa、口縁・胴にスス、頸径22.7cm
88	556	SKB899	底部	(9.0)	(8.1)	ナデ/ミガキ・ハケ	淡褐	0.5~4mm英多量、1mm長、0.5~3mmチャ多量	(1/1)	スス
88	557	SKB909	壺	17.8	(18.4)	ナデ・指痕/ナデ・タテハケ	淡褐	0.5~1.5mm英多量、長、チャ多量、雲微量、角	1/3	広口壺C、頸径14.0cm・最大径28.8cm
88	558	SKB909	鉢	12.6	(6.3)	ナデ	橙褐	2~3mm英	1/3	頸径9.8cm
88	559	SKB909	壺	24.6	(2.9)	ナデ	淡褐	0.5~2mm長、英微量、チャ多量	1/8	広口壺
88	560	SKB909	甕	16.4	(3.1)	ナデ/ナデ・タテハケ	淡灰褐	0.5~1.5mm長、英微量、チャ	1/4	甕C5
88	561	SKB909	底部	(6.8)	(2.7)	ナデ/ハケ→ナデ	橙褐	0.5~2mm長、英多量、赤、0.5~3mmチャ多量	(1/2)	底部穿孔途中

観 察 表

88	562	SKB909	底部	(6.0)	(2.1)	指痕/ハケ・ナデ	淡黄褐	0.5~1.5mm長、 チャ、0.5~4mm 英	(2/3)	底面に布目痕
88	563	SKB909	甕	29.6	(9.8)	ヨコハケ・ナデ/ ヨコナデ・ハケ	淡褐	0.5~4mm英多 量、1mm長、2~ 3mmチャ多量、 0.5~2mm赤多量	1/5	甕Ad、頸径26.8cm
89	564	SKB904	甕	20.6	(8.4)	ヨコハケ・タテ ナデ/ナデ・タテ ハケ・磨減	淡褐	2~4mm長、英	1/4	甕Aa1
89	565	SKB904	甕	17.2	(8.4)	ヨコハケ/指ナ デ・タテハケ	明淡乳茶 /明淡乳 茶-黒	1.5mm以下長、英	1/4	甕Aa1
89	566	SKB904	甕	18.6	(7.5)	ヨコハケ・ナデ/ タテハケ	明乳褐	1.5~3mm長、英	1/4	
89	567	SKB904	壺	11.2	(6.5)	磨減/タテハケ	淡灰褐/ 淡褐	1.5mm以下長、英 多量	1/4	無頸壺
89	568	SKB904	甕	22.0	(2.9)	ヨコハケ/ハケ	明淡褐	1mm長、英	1/10	
89	569	SKB904	甕	22.6	(11.3)	ヨコハケ・タテ ナデ・指痕/ナ デ・タテハケ	淡橙褐	1mm長、英	1/6	甕Aa4
89	570	SKB904	壺	21.2	(6.4)	ヨコハケ/ナデ	淡褐	1~2mm長、英	1/5	広口壺D
89	571	SKB904	壺	21.5	(8.4)	ヨコハケ・ヨコ ハケ→ナデ/ヨコ ナデ・タテハケ →ナデ	明乳褐- 暗乳褐	1.5mm長、英多量	1/4	広口壺Eb2
89	572	SKB1032	甕	17.8	(4.5)	ハケ/ハケ・ナ デ・磨減	暗茶褐	長、英	1/10	
89	573	SKB1032	底部	(6.6)	(3.2)	ナデ・指痕/磨減	淡褐	長、英	(1/4)	底面に木の葉圧痕
89	574	SKB931	甕	17.6	(11.0)	ヨコナデ・ハ ケ・ナデ/ナデ・ ハケ	淡橙褐	0.5~2mm長、 チャ、0.5~ 3.5mm英、赤	1/8	
89	575	SKB931	甕	15.6	(8.5)	ハケ・ナデ/ヨコ ナデ・ハケ	赤茶褐	1~3mm英、チャ、 0.5~1.5mm赤	1/6	甕Aa2
89	576	SKB931	甕	21.3	(18.7)	ハケ・ナデ/タテ ハケ	茶褐	2~3mm長、英	1/4	甕A、胴外面にスス
89	577	SKB931	底部	(6.2)	(3.7)	ナデ	淡橙褐/ 淡褐	0.5~2mm長、赤、 0.5~4mm英、 チャ	(2/3)	外面底面に木の葉 圧痕
89	578	SKB1021	壺	19.4	(3.5)	ヨコナデ・磨減/ ヨコナデ・ハケ	淡褐	0.5~2mm長、英、 チャ多量	1/6	広口壺
89	579	SKB1021	壺	21.2	(6.7)	ハケ・ナデ・磨 減/ハケ・ナデ	橙茶褐	0.5~1mm長、赤、 0.5~3mm英、 チャ	1/6	広口壺
89	580	SKB1021	破片				暗茶褐	2mm長、英		有孔鉢?
89	581	SKB1135	甕	21.4	(4.6)	ヨコハケ/タテハ ケ	淡褐/ 暗褐	1mm以下長、英少 量	1/5	甕Ab1、外面にスス
89	582	SKB1068	甕	16.7	(4.8)	ハケ/斜ハケ	明淡褐	1.5mm以下長、英	1/4	甕C4
89	583	SKB1081	壺	21.2	(3.6)	ハケ→ナデ・磨 減/ナデ・磨減	淡橙褐	長、英	1/4	広口壺
89	584	SKB1156	甕	17.6	(4.0)	ヨコハケ/ヨコハ ケ・タテハケ	淡褐- 暗褐/ 暗褐	2.5mm以下長、英	1/5	甕Ad
89	585	SKB1178	甕	20.0	(4.9)	ナデ・ヨコハケ →ナデ/斜ハケ・ 斜ハケ→ヨコハ ケ	淡褐/ 暗褐	2mm以下長、英	1/4	甕C4
89	586	SKB911	甕	17.4	(5.3)	ヨコハケ・ナデ/ ナデ・タテハケ	淡茶褐	1mm長、英多量	1/8	甕C2
89	587	SKB911	底部	(12.1)	(6.2)	ナデ・磨減/ケズ リ→ナデ・ハケ	淡褐/ 淡橙褐	1~4mm長、英	(1/3)	
89	588	SKB972	甕	20.6	(4.4)	ヨコハケ・磨減/ ハケ・磨減	明乳褐	1~2mm長、英	1/6	甕C2、スス
89	589	SKB972	高杯 脚部	(10.3)	(7.6)	ヨコハケ/タテハ ケ、脚端:ナデ	淡赤褐- 茶褐	2mm長、英	(3/5)	外面にスス
89	590	SKB972	底部	(8.0)	(2.7)	指ナデ/ハケ	淡褐		(1/2)	
89	591	SKB1067	高杯	21.4	(5.0)	ナデ	赤褐	1mm以下長、英	1/8	

89	592	SKB1067	甕	11.4	(10.0)	板ナデ・ナデ/ヨコナデ・タテナデ・ミガキ	黒褐	1mm以下長、英少量	1/4	甕Aa2、波状口縁様、外面にスス
89	593	SKB1067	破片	-	(3.1)	ヨコナデ・ヨコナデ→ヨコミガキ/ミガキ	淡橙褐	0.5~1mm長、英		
90	594	SKB1164	甕	18.6	(3.8)	ヨコナデ・ハケ/ハケ	淡褐	1.5~2mm長、英	1/10	
90	595	SKB1164	甕	14.4	(10.6)	ハケ・斜ハケ・指痕/ハケ・タタキ→ハケ	淡褐	0.5~1mm長、英、チャ	1/10	
90	596	SKB1164	甕	16.0	(9.3)	ヨコナデ・タテハケ→ナデ/ヨコナデ・タタキ→タテハケ	暗淡褐/淡褐	0.5mm以下長、英少量	1/4	外面にスス
90	597	SKB1164	壺	9.8	(5.5)	ヨコハケ・ナデ・磨減/ハケ・磨減	赤灰	1mm以下長、英少量	1/8	広口壺F1
90	598	SKB1164	壺	10.6	(5.9)	板ナデ・指痕・ナデ/板ナデ	暗褐	1~1.5mm長、英、チャ	2/5	広口壺F1
90	599	SKB1164	壺	20.0	(5.6)	ヨコハケ/ナデ・ハケ	淡褐	2mm以下長、英多量	1/4	広口壺Eb5
90	600	SKB1164	壺	30.0	(6.0)	磨減/ヨコナデ・タテハケ	乳淡褐	1.5mm以下長、英	1/6	広口壺A
90	601	SKB1164	蓋		(3.2)	ナデ/ナデ・ヘラケズリ	淡褐	1mm長、英、1.5mmチャ		ツマミ径4.0cm
90	602	SKB1164	高杯脚部	(4.5)	(8.5)	ヘラケズリ・ナデ・指痕/ハケ	淡褐	0.5mm長、1.5mm英	(1/1)	
90	603	SKB1164	高杯脚部	(10.2)	(4.2)	ヘラケズリ・ヨコナデ/ミガキ・ヨコナデ・磨減	淡褐	1~1.5mm長、チャ、英	(1/4)	
90	604	SKB1164	底部	(6.0)	(1.8)	ナデ/ハケ、底面：ハケ	淡褐	1mm長、チャ、1.5mm英	(1/1)	
90	605	SKB1167	甕	37.6	(5.8)	ヨコハケ/ヨコハケ・タテハケ	暗褐	0.5~1.5mm英、チャ、長多量	1/8	
90	606	SKB1201	甕	19.0	(9.4)	ハケ・指ナデ	淡褐	0.5~1mm長、0.5~3mm英多量、チャ、赤	1/14	
90	607	SKB1179	甕	15.6	(15.5)	ハケ・指痕/タテハケ・タテハケ→タテミガキ	淡褐/赤褐	1~6mm英、1~5mmチャ多量、0.5~1mm赤、1~2mm長微量、角微量	2/3	甕Aa4
90	608	SKB1179	甕	18.2	(6.9)	ヨコハケ/タテハケ・板ナデ	黄褐	1~3.5mm英、0.5~1.5mm黒多量	1/4	甕Aa4
90	609	SKB1204	甕	19.4	(15.3)	ヨコハケ・ナデ/タテハケ	淡褐	1mm長、英	1/6	甕A
90	610	SKB1204	鉢	16.0	(6.5)	ヨコハケ/タテハケ	淡褐	1mm以下長、英	1/8	
90	611	SKB1169	壺	13.4	(8.1)	ヨコハケ・ハケ→ナデ/タテハケ→ヨコハケ	明褐		1/1	近江系広口壺
90	612	SKB1173	甕	18.8	(5.1)	ヨコナデ・ハケ/ハケ→ヨコナデ・タタキ	淡褐	0.5~1mm長、英、チャ多量	1/8	
90	613	SKB1173	高杯脚部	(10.4)	(11.7)	ヘラミガキ・シボリ痕・ナデ/ヘラミガキ・タテハケ→ヘラミガキ	淡褐	0.5~1.5mm長多量、赤微量	(1/1)	円盤充填
90	614	SKB1175	底部	(6.6)	(7.5)	ナデ/タテハケ	淡褐	0.5~1.5mm長、英、赤	(3/4)	
90	615	SKB1170	甕	25.7	(3.0)	ヨコハケ/タテハケ	黒褐	1mm長、英	1/6	甕Ac
90	616	SKB1197	甕	12.9	(7.2)	ナデ/ナデ・ハケ	淡黒褐	1~4mm英、0.5~2mmチャ、0.5~1mm雲、赤	1/6	甕Ba1

観 察 表

90	617	SKB1197	壺	17.3	(23.5)	ヨコナデ・ヨコハケ・タテハケ→ナデ/ヨコナデ・タテハケ・タタキ→タテハケ	淡灰褐		3/4	有段口縁壺
91	618	SKC72	壺	21.4	(6.6)	ハケ・ナデ/ハケ→ナデ	橙褐	0.5~1mm長、0.5~2mm英、赤	1/5	広口壺
91	619	SKC72	甕	16.5	(3.2)	磨滅/ナデ・タテハケ	淡褐	0.5~1mm長微量、英微量、チャ	1/5	甕Ba1
91	620	SKC73	甕	13.8	(9.8)	ハケ・ハケ→ナデ/タテハケ・ケズリ→ミガキ	橙褐	0.5mm長微量、チャ微量	1/16	
91	621	SKC121	蓋	(17.3)	4.6	ナデ/ナデ・指痕・磨滅	淡橙褐	1mm長多量、英、チャ多量、1~3mm赤	2/3	口縁内面にスス、穿孔2カ所
91	622	SKC121	甕	17.8	(4.7)	ヨコハケ→ナデ・ハケ→ナデ/ヨコナデ・ハケ	暗灰/橙褐	0.5~1mm長少量、チャ少量	1/4	甕Ba1、口縁外面スス
91	623	SKC74	甕	23.1	(4.1)	ハケ・磨滅/タテハケ	褐	0.5~1mm長、英、黒雲、赤	1/6	甕Ac1
91	624	SKC74	甕	19.6	(7.4)	ヨコハケ・ナデ/タテハケ	淡褐	0.5mm長、英、チャ、赤	1/8	
91	625	SKC81	壺	7.2	(10.4)	ヨコナデ/板ナデ	黄褐	0.5mm長、英、チャ	1/2	細頸壺
91	626	SKC81	甕	15.6	(3.1)	ヨコハケ・タテナデ/ナデ・タテハケ	橙褐	0.5~1mm長	1/12	
91	627	SKC113	甕	20.0	(2.8)	ハケ/ヨコハケ・タテハケ	明褐/黒褐	1mm長、英	1/6	甕C1、外面にスス
91	628	SKC83	高杯脚部	(11.4)	(8.5)	ケズリ→ナデ・ナデ・シボリ痕/ケズリ→ナデ・ハケ	淡褐/橙褐	1~3mm長、0.5~1mm英、チャ、赤微量	(1/4)	
91	629	SKC75	壺	20.3	(5.0)	ハケ・磨滅/タテハケ・ナデ	淡褐	0.5~4mm長、0.5~3mm英、0.5~2mmチャ	1/3	広口壺Ec
91	630	SKC75	鉢	16.6	(7.0)	ヨコハケ/ハケ→ナデ・ミガキ	黄褐	0.5~2mm長、0.5~3mm英、0.5~1mmチャ	1/6	スス
91	631	SKC75	鉢	16.2	(7.1)	ナデ・ケズリ→ナデ/ケズリ	黒褐	0.5~3mm長、0.5~4mm英、0.5~2mmチャ	1/4	
91	632	SKC75	水差	10.7	(14.2)	板ナデ/ケズリ・ハケ→ナデ	黄褐	0.5~2mm長、英、0.5~3mmチャ	1/4	
91	633	SKC87	壺		(5.0)	磨滅	明褐	0.5~3mm長多量、0.5~1mm英、赤		頸径14.5cm
91	634	SKC100	甕	22.8	(3.8)	ヨコハケ/タテハケ	淡褐	1mm長、英、チャ多量、雲微量	1/16	
91	635	SKC100	壺	14.0	(16.0)	ヨコハケ・磨滅/ヨコナデ・ナデ	淡褐	0.5~3mm英多量、チャ多量、0.5~1mm長微量、角、赤	1/10	広口壺F1
91	636	SKC136	壺	15.0	(3.7)	磨滅	暗褐	0.5~3mm長、英、チャ	1/4	広口壺F7
91	637	SKC136	甕	16.4	(2.0)	ナデ	橙褐	0.5~2mm長、英、0.5~1mmチャ	1/4	甕Ba
91	638	SKC136	甕	21.2	(8.4)	ナデ・ケズリ→ナデ/ハケ→ナデ・板ナデ	/暗褐	0.5~2mm長、0.5~1mm英	1/4	甕Ba1、外面にスス
91	639	SKC84	高杯	19.6	(5.0)	磨滅/ハケ→ナデ・タタキ→ハケ	橙褐	0.5~1mm長、英、0.5~2mmチャ	1/6	
91	640	SKC84	甕	15.4	(2.6)	ハケ/ハケ→ナデ・ハケ	橙褐	0.5~1mm長、英、チャ	1/8	
91	641	SKC141	甕	18.6	(7.7)	ハケ・ナデ/タテハケ・磨滅	淡褐/褐	1~2mm長、英多量、3mm小石少量	1/4	甕Ab2、内面口縁端に横からの押圧による突起

92	642	SKC115	甕	14.8	(12.0)	タテハケ・板ナデ/ハケ・板ナデ	黄褐	0.5~3mm英、0.5~2mm長、0.5~1mmチャ	1/16	
92	643	SKC115	甕	18.6	(13.2)	ヨコハケ・ナデ・磨減/タテハケ・磨減	淡橙褐	0.5~2mm英多量、長多量、赤、0.5~3mmチャ多量	1/3	甕Aa2
92	644	SKC115	甕	15.1	(7.4)	ナデ/ナデ・タテハケ	茶褐	1~2mm英微量、0.5mm長微量、0.5~1.5mmチャ	1/4	甕Aa2
92	645	SKC115	甕	16.8	(16.4)	ハケ・ナデ/タテハケ	黄褐	0.5~3mm長、英、0.5~2mmチャ	1/3	甕Aa2
92	646	SKC115	底部	(6.6)	(5.8)	磨減	淡褐	0.5~2.5mm英多量、チャ、長多量	(1/3)	
92	647	SKC115	底部	(3.6)	(5.2)	ハケ/ナデ	褐	0.5~1.5mm英微量、長、チャ、1~1.5mm赤微量	(1/3)	
92	648	SKC115	底部	(7.4)	(17.3)	ヨコナデ・磨減/ナデ→ミガキ・磨減、底面:ナデ	黄褐	0.5~8mmチャ多量、0.5~2mm英微量、赤多量、黒多量、長微量	(1/1)	
92	649	SKC131	鉢	35.0	(13.9)	指痕・磨減/板ナデ	淡桃褐/暗褐	1~1.5mm長、チャ、赤	1/8	
92	650	SKC163	甕	12.4	(5.7)	ナデ・ハケ/ハケ→ナデ・ハケ	橙褐	0.5~1mm長、英	1/4	甕Bb1
92	651	SKC163	甕	11.2	(8.6)	ナデ・ケズリ/ヨコナデ・板ナデ・ケズリ・磨減	淡橙褐/淡黄褐	0.5~1mm長、英多量、チャ少量、雲少量、赤		甕Ba1
92	652	SKC131	甕	39.4	(44.2)	ヨコハケ・ヨコナデ/タテハケ	灰褐	1~2mm長多量、英	1/1	甕Ab
92	653	SKC131	甕	19.8	(8.3)	ヨコハケ・磨減/タテハケ	赤茶褐/黄褐	0.5~2.5mm長多量、1~1.5mmチャ	1/2	甕Ab2
92	654	SKC131	甕	16.6/ (4.6)	18.2	ヨコハケ・ケズリ→指ナデ/タテハケ	淡褐		(3/4)	甕Ab1
92	655	SKC481	高杯 脚部	(14.2)	(9.0)	ナデ・ヨコナデ/ナデ	淡橙褐	0.5~2mm長、英多量、チャ多量、赤多量	(1/1)	外面に黒斑
93	656	SKC155	甕	18.0	(13.9)	ヨコハケ・ナデ/タテハケ	黄褐	0.5~2mm長、チャ、赤、0.5~4mm英	3/4	甕Aa2
93	657	SKC155	壺	20.6	(4.5)	ナデ	橙褐	0.5~2mm英、0.5~3mm長、赤	1/8	広口壺
93	658	SKC155	壺	21.0	(7.8)	ハケ/ナデ	橙褐	0.5~3mm英多量、チャ、赤、0.5~4mm長	1/2	広口壺
93	659	SKC158	壺	18.2	(15.5)	ハケ/ハケ・ナデ	淡茶褐	2~3mm長多量、英多量、チャ多量	1/1	広口壺B
93	660	SKC309	甕	18.0	(11.6)	ヨコハケ・磨減/ナデ・タテハケ	橙褐	0.5~1.5mm英多量、長多量、赤微量、1~2mmチャ	1/6	甕Aa3
93	661	SKC130	壺	15.8	(5.0)	ナデ・ヨコナデ/ハケ	黄褐/暗灰	0.5~1mm長少量、英多量、赤、チャ	1/12	直口壺
93	662	SKC130	甕	16.4	(4.8)	磨減/ヨコナデ・ハケ	暗褐	0.5~1mm長少量、英少量、チャ少量	1/6	甕Ba1、外面口縁付近にスス
93	663	SKC130	壺	26.4	(2.7)	ハケ→ナデ/ヨコナデ・ハケ、口縁端:キザミ	黄褐	0.5~1mm長、英、チャ、赤	1/12	広口壺、突起状粘土貼付
93	664	SKC130	高杯	15.8	(3.7)	ヨコナデ・ハケ/ナデ・ヨコナデ・磨減	暗茶褐	1mm長少量、英少量	1/4	最大径(残存)22.8cm
93	665	SKC164	甕	15.2	(2.3)	ヨコナデ	暗褐	0.5~1mm英、チャ、黒、0.5~2mm長多量	1/8	

観 察 表

93	666	SKC164	甕	17.0	(5.5)	ヨコハケ・ナデ/ ナデ・タテハケ	淡褐	1mm英微量、黒、 0.5~3mm長多 量、0.5~2mm チャ多量、2mm赤 微量	1/5	甕Aa
93	667	SKC164	甕	20.0	(2.3)	ヨコハケ/タテハ ケ	暗褐	1~2mm英微量、 0.5~2mm長多 量、0.5~3mm チャ、0.5mm赤微 量	1/8	甕Ab
93	668	SKC164	甕	40.2	(9.2)	ヨコハケ・磨減/ ナデ・タテハケ	淡橙褐	0.5~1.5mm英、 0.5~3mm長、 0.5~4mmチャ、 2mm赤微量	1/6	甕Aa
93	669	SKC164	壺	22.4	(4.6)	ヨコハケ/タテハ ケ	褐	2mm英微量、 1mm長、チャ	1/4	広口壺
93	670	SKC164	壺	15.4	(3.3)	ヨコハケ/ナデ・ 磨減	暗茶褐	0.5~1mm長、英、 雲微量	1/4	広口壺
93	671	SKC164	壺	15.7	(10.0)	ナデ/ナデ・タテ ハケ	暗褐	0.5~1.5mm長、 英、チャ		頸径15.6cm
93	672	SKC164	底部	(6.0)	(1.5)	ナデ/ハケ・ナデ	赤褐	0.5~2mm長、 0.5~1mm英、 チャ	(1/1)	
93	673	SKC164	底部	(4.1)	(3.3)	ナデ/ハケ	褐	1mm英多量、長多 量	(1/1)	
93	674	SKC164	底部	(6.2)	(4.0)	磨減/ハケ	褐	0.5~1mm英多 量、長多量、赤、1 ~2mmチャ多量	(1/2)	
93	675	SKC164	底部	(6.9)	(3.4)	磨減/ハケ	淡褐	1~2mm英多量、 長多量、雲微量、 0.5~2mm黒微量	(1/1)	
93	676	SKC164	底部	(9.4)	(3.9)	ハケ/磨減	褐	1~2mm英多量、 長多量、チャ多 量、雲微量	(1/1)	
93	677	SKC164	底部	(6.6)	(3.0)	指痕/ハケ	淡橙褐	0.5~2mm英微 量、長多量、チャ 多量、黒	(2/3)	
93	678	SKC164	底部	(5.4)	(2.0)	ナデ/タテハケ	暗茶褐	0.5~1mm長、英	(1/4)	
93	679	SKC172	甕	23.4	25.8	指ナデ・ハケ/ハ ケ・ミガキ→ナ デ・ミガキ	淡黄褐		1/10	
93	680	SKC172	甕	32.1	(4.8)	ナデ・磨減/タテ ハケ→ナデ・磨 減	暗茶褐	0.5~4mm長、英 多量、チャ	1/8	
93	681	SKC172	壺	20.2	(2.7)	ナデ/指ナデ→ハ ケ	淡褐	0.5~1mm長、英 多量、雲、0.5~ 2mmチャ多量	1/8	広口壺
93	682	SKC172	甕	20.2	(5.2)	磨減/ハケ・磨減	赤茶褐	1~2.5mm長多 量、チャ多量	1/5	甕Ab2
93	683	SKC172	底部	(9.2)	(5.8)	磨減/タテハケ・ 磨減	暗茶褐	0.5~1mm長、0.5 ~4mm英多量、 チャ多量	(1/2)	
93	684	SKC172	底部	(12.8)	(4.2)	指痕・磨減/磨減	暗黒褐/ 暗褐	0.5~3mm長、英 多量、0.5~4mm チャ多量、0.5~ 1mm赤微量	(1/2)	
94	685	SKC165	甕	28.4	(6.2)	ヨコナデ・斜ハ ケ/タテハケ	褐	1~2mm英微量、 長多量、チャ、角 微量、雲微量、 0.5mmシヤ微量	1/6	甕Bb1
94	686	SKC165	高杯 脚部	(3.0)	(5.9)	ナデ/タテミガキ	茶褐	0.5mmチャ、雲		
94	687	SKC165	高杯 脚部	(14.0)	(3.7)	ヨコナデ・ケズ リ/ヨコナデ・ナ デ	暗橙褐	1mm英微量、長多 量、角微量、雲微 量、0.5~4mm チャ多量	(1/6)	
94	688	SKC165	壺		(14.1)	指痕→ハケ・ケ ズリ/ハケ	橙褐	0.5~2mm長多 量、英多量、0.5 ~1mmチャ多量		最大径22.0cm
94	689	SKC296	壺	24.0	(33.8)	ハケ・磨減	赤褐	0.5~3mm長、英	1/5	広口壺A、頸径(突 帯径)13.1cm

94	690	SKC296	甕	12.8	(10.5)	指ナデ・磨減/ヨコナデ・タテハケ・磨減	淡黄褐/暗褐	0.5~1mm英多量、1~3mm赤	1/4	甕Aa2
94	691	SKC296	甕	20.2	(13.8)	ハケ・指ナデ・磨減/ハケ・磨減	淡褐/暗褐	2mm英、1.5~3mm角少量、1mm赤、2~3mm長多量	1/3	甕Aa2、外面にス
94	692	SKC296	甕	27.9	(8.0)	ヨコハケ・ナデ・指痕/ヨコナデ・タテハケ	橙褐	1~2mm長多量、チャ、赤多量、6mm長微量	1/6	甕Aa
94	693	SKC296	壺	23.0	(10.7)	板ナデ・磨減/ヨコナデ・タテナデ	淡褐	0.5~2mm長、チャ、赤、英	1/2	広口壺A1
94	694	SKC296	壺	21.0	(10.5)	ヨコナデ・ヨコハケ・ナデ/タテハケ→ナデ・タテハケ	乳褐	1~2mm長、英	1/3	広口壺Ea1
94	695	SKC162	壺	20.0	(30.5)	ヨコナデ・ナデ・指痕/タタキ→ハケ	淡黄褐	1~4mm黒多量、0.5~1.5mmチャ、赤	1/2	有段口縁壺
94	696	SKC162	甕	16.0	(4.6)	ナデ・ケズリ/ヨコナデ・ケズリ	暗褐	0.5~1.5mm長、チャ微量、英微量	1/6	甕Aa
94	697	SKC162	高杯		(4.2)	杯:ナデ/ミガキ・磨減	淡褐	0.5~1mm長、0.5~2mm黒多量		くびれ部径5.0cm
94	698	SKC242	壺	28.6	(1.8)	ヨコナデ	黒灰	0.5~1mm長、英	1/10	広口壺
94	699	SKC242	甕	17.0	(9.2)	ヨコハケ・ハケ・ナデ/ナデ・タテハケ	淡橙褐	0.5~2mm英、チャ微量、長微量、黒多量	1/2	甕Aa3
95	700	SKC286	甕	23.2	(6.7)	ナデ・ヨコハケ・磨減/指ナデ・タテハケ→ナデ	暗淡褐-淡茶褐/淡茶褐	2mm以下長、英	1/5	穿孔あり
95	701	SKC286	甕	30.4	(4.6)	ヨコハケ/指痕→タテハケ・ナデ	明淡灰褐/明乳褐	0.5~1mm長、英、赤、5mm以下長、英	1/4	甕C2
95	702	SKC286	甕	16.1	(5.7)	ヨコナデ・ヨコハケ→ナデ・指痕/タテハケ→指ナデ・タテハケ	赤褐	1.5~3.5mm長、英	1/4	甕Aa
95	703	SKC286	壺	10.6	(7.1)	ナデ/ナデ・タテミガキ→ナデ	明乳褐-明淡橙/淡橙褐-暗淡乳褐	1.5~4mm長、英	1/4	広口壺
95	704	SKC463	甕	17.6	(11.5)	ハケ・指痕/ハケ	暗茶褐	0.5~2mm英、0.5~3mm長、チャ、赤少量	1/6	甕Ac1
95	705	SKC461	甕	19.3	(19.9)	ハケ・ナデ/ハケ	黒褐		1/6	甕Aa
95	706	SKC461	底部	(7.2)	(5.7)	ナデ/タテハケ・ヨコハケ、底面:ナデ	淡褐	0.5~2.5mmチャ多量、1mm英微量	(1/1)	
95	707	SKC461	甕	23.0	(10.0)	ヨコハケ/タテハケ	淡橙褐	0.5~2mm長、英、0.5~1mmチャ	1/8	
95	708	SKC461	甕	27.4	(10.5)	ヨコハケ・磨減/タテハケ	淡褐	0.5~3mm長、チャ、0.5~1mm英	1/2	甕Aa
95	709	SKC461	壺		(12.1)		黄褐	0.5~2mm長、英、0.5~1mmチャ		
95	710	SKC218	壺	7.8	(5.7)	タテナデ・ヨコナデ/ハケ・磨減	灰褐	1mm長多量、英少量	1/4	外面一部に黒斑
95	711	SKC308	鉢	35.4	(16.7)	ナデ	橙褐	0.5~2mm英多量、黒、赤、長多量、1~7mmチャ多量	1/4	鉢B
95	712	SKC478a	甕	14.4	20.7	ナデ/ハケ・タテハケ	明深褐-暗淡褐	1mm以下長、英	1/2	甕C5
95	713	SKC478a	甕	14.2	(16.2)	ヨコナデ・タテハケ・ナデ・指痕/ヨコナデ・タテハケ・ナデ・ケズリ→ミガキ	暗淡茶-暗茶褐/淡茶-黒褐	2~4mm長、英	1/2	甕Ba1、胴外面に著しいコゲ



観 察 表

95	714	SKC478a	甕 底部	(4.2)	(3.5)	ナデ/ハケ		0.5~4mm長、1~2mm英、1~3mmチャ	(1/1)	
95	715	SKC478a	鉢	40.0 (7.6)	17.9	ナデ・ヨコミガキ・タテミガキ・ナデ/ミガキ→ナデ・タテミガキ	淡褐	0.5~2.5mm英、チャ、雲、0.5~1mm赤微量	1/16・ (1/1)	外面に黒斑
96	716	SKC321	甕	20.5	(15.9)	ヨコハケ・タテナデ/ナデ・タテハケ、口縁端:キザミ	淡褐/黒褐-淡褐		3/4	甕Ac2
96	717	SKC335	壺	22.0	(5.9)	ハケ・磨減/磨減	淡橙褐	0.5~4mm長、0.5~2mm英、チャ	1/6	広口壺Eb7
96	718	SKC335	甕	18.6	(10.0)	ヨコハケ・ナデ/ハケ・タテハケ	淡褐	1mm英多量、2mm長、チャ微量	1/4	甕Aa3
96	719	SKC335	甕	16.3	22.0	ハケ・磨減/タテハケ・磨減	淡橙褐	0.5~2mm長、チャ、0.5~3mm英	1/4	甕Aa3
96	720	SKC258	壺	17.4	(19.8)	磨減/ヨコナデ	淡橙褐	0.5~1mm英多量、黒多量、長、チャ、	1/2	広口壺D5
96	721	SKC575	甕	27.0	(7.5)	ハケ/ヨコナデ・ハケ	淡褐	1~3mm長多量、2~4mm英多量、チャ多量	1/6	甕Aa
96	722	SKC520	甕	24.2	(7.5)	ヨコハケ・指痕/ヨコハケ・タテハケ	淡橙褐	0.5mm長多量、英多量、チャ、赤少量	1/3	甕C1
96	723	SKC477	高杯 脚部	(7.6)	(7.7)	ケズリ/ミガキ・ヨコナデ・磨減	灰褐	0.5~1mm長多量、英多量、雲、チャ	(1/1)	透孔6個。脚端に黒斑、脚・杯接合面はナデ・指圧痕
96	724	SKC337 下層	高杯 脚部	(11.4)	(3.3)	ケズリ/板ナデ→ナデ、脚端:ヨコナデ	淡褐-黒褐	1mm長、英	1/5	孔残存上10個、下11個
96	725	SKC518	壺		(15.8)	指痕・磨減/磨減	橙褐	0.5~2mm長多量、チャ、英		頸径11.0cm
96	726	SKC518	甕	20.2	(7.0)	ハケ・ナデ・指痕/ハケ	淡褐	0.5~2mm長、チャ	1/4	甕Aa1
96	727	SKC518 下層	甕	20.2	(13.3)	ナデ・ハケ/ナデ・板ナデ・磨減	赤灰		1/1	甕Aa1
96	728	SKC518	甕	29.8	(6.0)	ナデ・ハケ・タテナデ/ハケ、口縁端:キザミ	淡褐	0.5~4mm長、英、0.5~2mmチャ	1/4	甕Ad
96	729	SKC518	鉢	36.0	(19.8)	ハケ/ヨコナデ・板ナデ	淡褐		1/2	鉢B
96	730	SKC518 下層	底部	(10.2)	(7.3)	磨減/ヨコミガキ	淡褐	1~2mm長多量、1~3mm英多量	(1/2)	内面に黒斑
97	731	SEC453 上層	甕	18.2	(9.0)	ヨコハケ・ナデ/タテハケ	茶褐	2~5mm英、長多量、1~3mmチャ微量、雲、角微量	1/5	甕Ab1、全面にスス
97	732	SEC453 上層	甕	18.8	(10.7)	ヨコハケ・ナデ/タテハケ	淡橙褐		1/4	甕Ab1
97	733	SEC453 上層	甕	19.4	(4.5)	ヨコハケ・ナデ/タテハケ	淡褐	1~2mm英、チャ	1/6	甕Aa
97	734	SEC453 上層	甕	19.2	(6.5)	ヨコハケ・ナデ/ヨコナデ・タテハケ・ヨコハケ	淡褐	1~4mm英多量、1~3mm長多量、2~4mmチャ多量	1/6	甕Ab1
97	735	SEC453 上層	甕	16.4	(4.3)	ナデ・ヨコハケ/ナデ	淡褐	1~2mm長、英、雲微量	1/6	甕Aa
97	736	SEC453 上層	甕	23.0	(5.7)	ハケ/タテハケ→ナデ・タテハケ	淡灰褐	1~2mm長、英、1~3mmチャ	1/4	甕Aa
97	737	SEC453 上層	甕	20.8	(6.2)	ヨコナデ・ヨコハケ・ナデ/ヨコナデ・タテハケ	橙褐	1~2mm長、英多量、チャ微量	1/6	甕Aa
97	738	SEC453 上層	壺	14.0	(6.9)	ナデ/ヨコナデ・タテハケ	暗橙褐	2~3mm英多量、長多量、チャ	1/4	短頸壺

97	739	SEC453 上層	壺	14.6	(11.4)	ナデ/ヨコナデ・ タテハケ・ナ デ・ミガキ	淡褐	0.5~2mm英、角 微量、赤微量、 1~3mm長、チャ 多量	1/8	短頸壺
97	740	SEC453 上層	壺	21.0	(4.3)	ナデ・板ナデ/指 ナデ	暗橙褐	0.5~3mm英、 チャ多量、0.5~ 1mm赤	1/8	広口壺
97	741	SEC453 上層	壺	29.0	(6.2)	磨滅/板ナデ	橙褐	0.5~1mm長、 0.5~6mm英多 量、0.5~4mm チャ	1/6	穿孔あり、内面に 垂下文、広口壺A
97	742	SEC453 上層	壺	11.8	(6.8)	ナデ・ヨコハケ/ ナデ・タテハケ	淡褐	1~2mm英、チャ	1/4	
97	743	SEC453 上層	鉢	9.0	(5.1)	ナデ	淡褐	1~3mm長、英多 量、チャ多量	1/4	鉢A
97	744	SEC453 上層	鉢	21.0	(7.3)	磨滅	橙褐	1~2mm英多量、 長多量、赤、1~ 3mmチャ、5mm 微量	1/4	鉢B
97	745	SEC453 上層	甕	24.4	(4.9)	ヨコハケ/タテハ ケ	淡灰褐	0.5~2mm英多 量、0.5~1mm長、 チャ多量、赤微 量	1/8	
97	746	SEC453 上層	甕	22.8	(3.6)	ヨコハケ/ヨコハ ケ・タテハケ	乳褐	1~3mm英、 ~2mm長、チャ	1/8	
97	747	SEC453 上層	底部	(4.8)	(2.6)	ナデ/タテハケ	橙褐	0.5~4mm英多 量、0.5~2mm長、 チャ多量	(4/5)	底部穿孔
97	748	SEC453 上層	底部	(8.4)	(2.7)	ナデ/ハケ	灰褐	1mm英微量、 チャ、0.5~2mm 長多量	(1/1)	
97	749	SEC453 上層	底部	(5.8)	(4.0)	磨滅/ハケ	淡褐	0.5~1.5mm長、 英多量、チャ多 量、黒微量、雲微 量	(1/1)	
97	750	SEC453 上層	底部	(6.2)	(3.3)	ナデ/タテハケ	淡橙褐	0.5~1.5mm英微 量、長、黒微量、 0.5~4mmチャ多 量	(1/1)	
97	751	SEC453 上層	甕	(5.0)	(2.1)	ナデ/タテハケ	淡褐	0.5~1mm英微 量、1~2mm長、 3mmチャ微量	(1/2)	
97	752	SEC453 上層	底部	(13.8)	(7.4)	磨滅/ミガキ・ハ ケ	黄褐	1~2mm長、英微 量、チャ多量	(1/4)	
97	753	SEC453 上層	底部	(10.6)	(10.2)	ハケ・ナデ/タテ ハケ・ミガキ	淡褐	0.5~1mm英多 量、1~3mm長多 量、チャ多量	(1/1)	
97	754	SEC453 中層	壺	42.6	(17.0)	ヨコハケ・指痕/ タテハケ・ミガ キ	褐		3/4	広口壺A7
97	755	SEC453 中層	壺		(12.5)	ヨコハケ・ナデ/ ナデ	淡褐	1~3mm英多量、 1~2mm長多量、 1~5mmチャ		頸径15.0cm
97	756	SEC453 中層	壺		(7.8)	ナデ/ヨコナデ・ ナデ	淡褐	1~2mm英多量、 チャ、1~3mm長		頸径13.2cm
97	757	SEC453 中層	壺	16.0	(4.4)	ヨコハケ/ヨコナ デ・ナデ	橙褐	1~2mm長、英多 量、チャ多量	1/8	
97	758	SEC453 中層	壺	16.8	(4.1)	磨滅/ヨコナデ・ 磨滅	淡橙褐	2~3mm英、1~ 2mm長多量、 チャ、1~3mm雲 微量	1/8	広口壺
97	759	SEC453 中層	壺	20.8	(6.5)	ヨコハケ・ナデ	淡橙褐	1~3mm英、チャ 多量、長	1/4	広口壺A7
97	760	SEC453 中層	壺	22.2	(3.5)	ヨコハケ/指痕・ ナデ	淡橙褐	0.5~2mm英多 量、長多量、赤多 量、1~4mmチャ	1/6	広口壺
97	761	SEC453 中層	壺	15.7	(4.0)	ナデ・ヨコハケ/ ナデ	淡褐	1~2mm長、英、 赤、2~3mmチャ	1/5	広口壺
98	762	SEC453 中層	甕	15.6	(8.8)	ヨコハケ・ナデ/ ヨコナデ・タテ ハケ	淡褐	1~2mm長、英、 雲、チャ	1/5	甕Aa1

観 察 表

98	763	SEC453 中層	甕	15.3	(7.9)	ヨコハケ/タテハケ	明乳褐/ 明乳褐- 暗淡褐- 黒褐	1.5~3mm長、英	1/2	甕Aa2
98	764	SEC453 中層	甕	18.4	(11.7)	ヨコハケ・ナデ/ ヨコナデ・タテ ハケ・磨減	淡褐	2~3mm英多量、 1~3mm長、チャ 多量、2mm角微量	1/3	甕Aa2、スス付着
98	765	SEC453 中層	甕	18.0	(15.4)	ヨコハケ・ナデ/ ヨコナデ・指 痕・タテハケ	淡褐	1~3mm英多量、 2~3mm長、 2~5mmチャ	3/4	甕Aa2、外面全体に スス、内面下半コ ゲ
98	766	SEC453 中層	甕	17.0	(10.0)	ヨコハケ・ナデ/ ヨコナデ・タテ ハケ	淡褐	2~3mm英微量、 1~3mm長微量、 1~2mmチャ微 量、赤微量	1/4	甕Aa3
98	767	SEC453 中層	甕	19.0	(15.2)	ハケ・板ナデ/ハ ケ	明淡茶- 明淡褐- 暗淡茶	2mm以下長、英	1/1	甕Aa2
98	768	SEC453 中層	甕	18.0	(7.5)	ヨコハケ・ナデ/ ヨコナデ・タテ ハケ	淡褐	1~2mm英微量、 長微量、角、2~ 3mmチャ	3/4	甕Aa3、全面にスス
98	769	SEC453 中層	甕	18.0	(11.0)	ヨコハケ・ナ デ・指痕/ヨコナ デ・タテハケ	淡褐	2~3mm長、英、 チャ	1/4	甕Aa2、胴下半にス ス
98	770	SEC453 中層	甕	22.8	(10.7)	ナデ・磨減/ヨコ ナデ・板ナデ	淡褐	1~4mm英多量、 1~3mm長多量、 チャ、雲微量	1/2	甕Aa2
98	771	SEC453 中層	甕	18.6	(12.8)	ヨコハケ・ナデ/ ナデ・タテハケ	淡褐	1mm長、英	4/5	甕Aa3
98	772	SEC453 中層	甕	22.8	(9.0)	ヨコナデ・ヨコ ハケ・ナデ/ヨコ ナデ・タテハケ	淡褐	2~3mm長、英、 チャ	1/4	甕Aa2
98	773	SEC453 中層	甕 底部	(9.0)	(17.2)	ナデ/タテハケ	淡茶	3~5mm以下長、 英	(1/1)	
98	774	SEC453 中層	甕 底部	(7.6)	(23.0)	指痕・ナデ/タテ ハケ	淡褐	2~3mm英、 2 ~5mm長、 3 ~6mmチャ多量	(1/1)	底部被熱赤変、胴 にスス
98	775	SEC453 中層	甕 底部	(6.0)	(7.7)	指痕/タテハケ	淡茶/ 暗淡茶	4~7mm長、英	(1/1)	
98	776	SEC453 中層	甕 底部	(5.8)	(7.1)	ハケ	黒/ 橙褐	3mm以下長、英	(1/1)	底面に初殻、底部 穿孔
98	777	SEC453 中層	底部	(5.6)	(3.4)	ハケ/タテハケ、 底面:ナデ・指痕	淡茶	2~3mm長、英	(1/2)	
98	778	SEC453 中層	底部	(5.6)	(5.3)	ナデ・指痕/タテ ハケ・ナデ	淡褐	1~2mm英多量、 長、チャ	(1/1)	底面に初圧痕
98	779	SEC453 中層	底部	(6.3)	(4.7)	ナデ/ナデ・ハケ	淡褐	0.5~1mm英、 チャ微量、雲微 量、0.5~2mm長 多量	(1/1)	底面に木の葉圧痕
98	780	SEC453 中層	底部	(7.3)	(18.3)	ナデ/タテハケ	淡褐	1~2mm英多量、 1~3mm長微量、 チャ微量	(1/1)	
98	781	SEC453 中層	底部	(6.8)	(8.8)	ナデ・磨減/ヨコ ミガキ・ハケ・ 指ナデ	淡乳褐- 暗淡褐/ 淡乳褐- 暗淡褐	4mm以下長、英多 量	(1/1)	
98	782	SEC453 中層	底部	(8.0)	(6.9)	ナデ/ミガキ・ハ ケ	淡橙褐	1mm長、1~4mm英 微量、チャ	(1/2)	
98	783	SEC453 中層	底部	(8.6)	(5.2)	ナデ/ナデ・ミガ キ	淡褐	1~3mm英多量、 チャ多量、 2~4mm長多量、 1mm雲微量	(1/1)	
98	784	SEC453 中層	底部	(4.6)	(9.3)	ハケ/ナデ・ミガ キ	淡褐	0.5~3mm長、英 多量、チャ多量、 0.5~1mm雲	(1/1)	
99	785	SEC453 中層	甕	33.0	(8.2)	ヨコハケ・ナデ/ タテハケ・ヨコ ナデ	淡褐	1~2mm英多量、 赤、2~3mm長、 1~3mmチャ多量	1/8	
99	786	SEC453 中層	壺	13.6	(4.9)	ヨコナデ・ヨコ ハケ・指痕/ヨコ ナデ	淡褐	0.5~1mm英多 量、長、チャ、1~ 2mm赤	1/6	

99	787	SEC453 中層	壺	15.0	(3.0)	ヨコナデ	淡褐	1mm長、英、チャ 多量	1/8	無頸壺
99	788	SEC453 中層	高杯 脚部		(7.8)	磨滅	淡褐	0.5~2mm長、英、 チャ多量、雲微 量		
99	789	SEC453 中層	底部	(6.8)	(3.1)	ナデ/タテハケ	淡褐	1~2mm英微量、 チャ、0.5~1mm 長	(1/1)	
99	790	SEC453 中層	底部	(6.3)	(3.4)	ナデ/タテハケ	淡褐	0.5~2mm長、英 多量、チャ多量、 雲微量	(1/1)	
99	791	SEC453 中層	底部	(4.9)	(4.7)	ナデ/タテハケ	淡褐	0.5~1mm英多 量、長、黒微量、 雲微量、1~2mm チャ多量	(1/1)	
99	792	SEC453 中層	底部	(5.2)	(3.5)	ナデ/タテハケ	淡褐	0.5~1mm英、 チャ、2~3mm長	(1/1)	底部穿孔
99	793	SEC453 中層	底部	(10.8)	(5.9)	磨滅/ハケ・ミガ キ	淡褐	1~2mm英多量、 長多量	(1/4)	
99	794	SEC453 下層	甕	24.6	(10.5)	ヨコハケ・ヨコ ハケ→ナデ/ナ デ・ハケ	淡灰褐- 暗灰褐	2mm以下長、英	2/3	甕C1
99	795	SEC453 下層	甕	23.2	(11.7)	ハケ・ナデ/タテ ハケ	乳茶褐- 茶褐	0.5~1mm長、 1.5mm英、赤		甕Ab2
99	796	SEC453 下層	壺	22.0	(8.4)	ハケ→ナデ/斜ハ ケ→ヨコナデ	淡褐- 淡赤/ 明淡茶- 淡赤茶	2.5mm以下長、英 多量	1/2	広口壺A7
99	797	SEC453 下層	甕	17.6	(14.0)	ヨコハケ・ナデ/ ナデ・タテハ ケ・ハケ	淡褐		1/4	甕Aa3
99	798	SEC453 下層	壺	16.4	(11.4)	ハケ・指痕		0.5~2mm英、 0.5~5mmチャ多 量、0.5~1mm赤	1/3	広口壺A7
99	799	SEC453 下層	底部	(6.0)	(4.1)	ナデ・指痕/タテ ハケ・ナデ	淡褐	1~2mm英多量、 1~3mm長、チャ	(4/5)	底面に木の葉圧痕
99	800	SEC453 下層	底部	(4.2)	(4.0)	ナデ・指痕/指 痕・磨滅	淡褐	1~5mm英多量、 1~3mm長、チャ 多量	(1/1)	全体的に被熱赤変
99	801	SEC453 下層	底部	(7.0)	(4.2)	ナデ	淡褐	0.5~2mm英多 量、長多量、チャ 多量	(1/1)	
99	802	SEC453 下層	底部	(9.6)	(8.9)	ナデ/ミガキ・ヨ コナデ	淡褐	1~3mm英多量、 チャ多量、1~2 長多量、雲微量	(1/3)	
99	803	SEC453 下層	底部	(13.6)	(9.7)	磨滅/ハケ・ミガ キ	淡褐	1~3mm英、チャ、 1~2mm長微量、 1mm角多量、赤微 量	(1/1)	
99	804	SEC453 側木枠内 下層	甕	16.3	(3.4)	ヨコハケ・ナデ/ タテハケ	暗茶褐	1~2mm長、英、 1~3mmチャ多量	1/6	甕Ac
99	805	SEC453 側木枠内 27層	甕	17.0	(8.2)	ヨコハケ・ナデ/ タテハケ	暗茶褐	1~2mm長、英、雲 微量	1/5	甕Ac1
99	806	SEC453 側木枠内 下層	甕	22.8	(5.8)	ヨコハケ/タテハ ケ・磨滅	暗茶褐	1~2mm長、英	1/6	甕Ad、外面にスス
99	807	SEC453 側木枠内 30層	壺	25.0	(5.2)	ナデ・ヨコハケ/ タテハケ	黄褐	1~2mm長、英、 チャ、雲微量	1/8	外面に多量のスス
99	808	SEC453 側木枠内 30層	壺	26.0	(5.4)	ナデ	淡褐	1~3mm英、1~ 4mm長、1~2mm チャ微量	1/6	広口壺
99	809	SEC453 側木枠内 下層	壺	22.1	(5.3)	ヨコハケ/ナデ・ 磨滅	橙褐	0.5~1mm英、赤 微量、雲微量、 チャ、0.5~ 2.5mm長多量	1/4	広口壺A7

観 察 表

100	810	SEC453 南東	甕	19.0	(12.5)	ヨコハケ・ナデ アゲ/指痕・タテ ハケ→ヨコナ デ・タテハケ	淡茶褐	2~5mm長、英	3/8	甕Ac2
100	811	SEC453 南東	甕	18.2	(8.2)	ヨコハケ・ナデ/ タテハケ	淡褐	0.5~1.5mm長微 量、英微量	1/16	
100	812	SEC453 南東	甕	21.8	(13.5)	ヨコハケ・ナデ/ ヨコハケ・タテ ハケ	橙褐	1~2mm英多量、 長多量、雲微量	5/8	甕C1
100	813	SEC453 南東	甕	28.0	(17.3)	ヨコハケ・ナ デ・指痕/ヨコナ デ・タテハケ	淡褐	1~2mm英多量、 長、雲微量、1~ 3mmチャ	1/2	甕Aa2
100	814	SEC453 南東	壺	22.4	(2.6)	ヨコハケ/タテハ ケ	淡褐	1~2mm長、英	1/6	広口壺、内面に垂 下文
100	815	SEC453 南東	壺		(10.0)	ナデ/タテハケ・ ナデ・ミガキ	暗茶褐	0.5~4mm長多 量、0.5mm角多 量、0.5~2mm チャ、雲多量		頸径8.7cm、生駒西 麓産
100	816	SEC453 南東	底部	(5.8)	(2.3)	ナデ/ハケ	淡褐	0.5~2mm英多 量、長、0.5~ 3.5mmチャ	(1/1)	
100	817	SEC453 南東	底部	(4.9)	(3.4)	ナデ/タテハケ・ ナデ	淡褐	0.5~2mm英多 量、長多量、チャ 多量	(1/1)	
100	818	SEC453 南東	底部	(7.6)	(3.3)	指痕/磨減	淡褐	1mm英多量、1 ~5mm長多量、 2~3mmチャ	(1/1)	
100	819	SEC453 南東	底部	(5.0)	(3.5)	ナデ・指痕/タテ ハケ	淡褐	1~4mm英多量、 1~3mm長、チャ	(1/1)	底部穿孔
100	820	SEC453 南東	底部	(7.1)	(9.0)	磨減/ハケ	淡茶	2mm以下長、英	(1/1)	内面底部コゲ
100	821	SEC453 南東	底部	(10.2)	(4.2)	ナデ/ヨコナデ	淡褐	1~2mm英多量、 長、チャ	(1/2)	
100	822	SEC453 南東	底部	(7.8)	(4.0)	ナデ・指痕/ヨコ ナデ	淡褐	1mm英多量、1 ~3mm長多量、 1~2mmチャ	(1/1)	
100	823	SEC453 南東	底部	(6.6)	(8.3)	磨減/ナデ・磨減	淡橙褐	0.5~1.5mm英多 量、チャ、0.5~ 2.5mm長多量	(3/4)	
100	824	SEC453	壺	18.0	(6.2)	ヨコナデ・磨減/ ヨコナデ	淡褐	1~3mm英、チャ、 1~2mm長微量、 角多量、赤微量	1/2	広口壺
100	825	SEC453	壺	20.0	(4.1)	ヨコハケ・磨減/ 磨減	淡赤褐	1~4mm英、1 ~3mm長多量、 1~2mmチャ	1/6	広口壺
100	826	SEC453	壺	21.8	(2.8)	ナデ・ハケ/ナデ	淡褐	2~3mm英多量、 0.5~2mm雲多量	1/4	広口壺
100	827	SEC453	甕	23.0	(8.3)	ヨコハケ・ナデ/ タテハケ	淡褐	1~2mm長、英、 角、1~3mmチャ	1/5	甕Ab1
100	828	SEC453	甕 底部	(6.0)	(3.8)	ナデ/タテハケ	淡褐	0.5~1.5mm長、 英多量、チャ多 量、黒微量、雲微 量	(1/1)	
100	829	SEC453	甕 底部	(6.0)	(4.5)	磨減/ハケ	橙褐	1~3mm英、0.5 ~1mm長	(1/1)	
100	830	SEC453	底部	(9.5)	(4.7)	ナデ/タテハケ	淡橙褐	0.5~1.5mm英、 0.5~2.5mm長、 チャ	(1/2)	
100	831	SEC453	底部	(9.1)	(6.4)	磨減	淡橙褐	1~2mm英微量、 長、チャ多量	(4/5)	
100	832	SEC453	壺	(8.3)	(27.0)	ハケ・指ナデ/板 ナデ	暗灰褐	0.5~1mm長、 0.5~4mm英、 0.5~3mmチャ	(1/1)	
101	833	SEC111 中層	壺	26.0	(6.8)	ナデ・ハケ/ハケ	淡黄褐	0.5~2mm英	1/12	広口壺
101	834	SEC111	壺	18.0	(4.3)	ハケ・ナデ/ヨコ ナデ・ハケ	淡橙褐	0.5~2mm長、英	1/6	広口壺D5
101	835	SEC111 中層	壺	22.8	(9.7)	磨減	暗黄褐	0.5~1mm長、 チャ		広口壺D6、孔は4 個1組

101	836	SEC111 中層	甕	13.6	(5.7)	ハケ・ナデ/ナ デ・ハケ→ケズ リ・指痕	淡茶褐	0.5~2mm長	1/6	甕Ac4
101	837	SEC111 中層	甕	17.4	(5.4)	ナデ/ナデ・ケズ リ→ハケ	淡橙褐	0.5~1mm長、英	1/6	甕Aa3
101	838	SEC111	鉢	18.2	(7.6)	ハケ/磨滅	茶/ 淡茶褐	0.5~1mm長、 チャ	1/8	
101	839	SEC111 最下層	甕	13.8	(20.4)	ナデ・ハケ・ケ ズリ/ナデ・ハケ		0.5~1mm長	1/2	甕Bb1
101	840	SEC111 上層	底部	(6.4)	(2.5)	ナデ/ハケ、底面: ナデ	橙褐	0.5~1mm長、英	(1/2)	
101	841	SEC111 下層	ミチュア 土器	(4.2)	(8.1)	ハケ/ケズリ・ナ デ	橙褐	0.5~2mm長、英、 チャ	(1/1)	一部に黒斑
101	842	SEC111 上層	高杯 脚部	(13.2)	(3.1)	磨滅/ハケ・ナデ	淡茶褐	0.5~1mm長、英、 チャ	(1/5)	
101	843	SEC111 上層	甕	22.2	(22.7)	ヨコハケ→タテ ナデ/タテハケ	淡褐- 暗茶褐	6mm以下長、英多 量	1/4	甕Ac2
101	844	SED31 D層	壺	22.6	(12.5)	ミガキ・磨滅/ヨ コナデ・タテナ デ	淡黄褐- 淡桃褐	1~3mm長多量、 英多量	1/2	広口壺B2、口縁に 黒斑、頸にスス
101	845	SED31	壺		(13.0)	ナデ/磨滅	淡黄褐	1~3mm長多量、 チャ多量、赤少 量、0.5~2mm英 微量		最大腹径25.0cm
101	846	SED31	底部	(10.2)	(2.9)	ナデ・磨滅	淡橙褐	1~2mm長、英、 0.5mm赤	(1/4)	
101	847	SED31	底部	(8.0)	(11.5)	ナデ/ミガキ、底 面:ナデ	淡橙褐	1~2mm長、 0.5mmチャ	(1/1)	スス附着
101	848	SED31 C層	底部	(7.6)	(11.5)	磨滅/ハケ→ミガ キ・ミガキ→ヨ コナデ	灰褐/黄 褐-桃褐	0.5~2mm長、英、 0.5~1mmチャ	(1/3)	スス附着
102	849	SDA01	甕	18.0	(10.0)	磨滅	薄茶褐	1~5mm長、英多 量、チャ	1/2	甕A
102	850	SDA01-5区 中層下	底部	(6.2)	(5.9)	ナデ・指痕/タテ ハケ	淡茶褐/ 淡灰褐	3mm以下英、長、 チャ	(3/4)	底面に木の葉圧痕 チャ
102	851	SDA07	甕	17.0	(14.0)	ナデ・磨滅/ヨコ ナデ・タテハ ケ・磨滅	明褐	1~2mm長、英多 量、チャ、雲	1/8	口縁外面にスス
102	852	SDA07	甕	14.8	(10.0)	ヨコハケ・板ナ デ/ヨコナデ・タ テハケ	乳褐	1mm以下長、英	1/2	甕Aa3、胴内面にコ ゲ、外面にスス
102	853	SDA07	甕	16.6	(15.4)	ナデ・磨滅/ヨコ ナデ・タテハケ	明茶褐	1~2mm長、英多 量、	1/4	甕Aa1、外面にスス
102	854	SDA07	底部	(6.0)	(8.4)	ナデ・磨滅/ヨコ ナデ・磨滅	明茶褐	1~2mm長、英多 量、チャ		内面にコゲ
102	855	SDA14	壺	10.7	21.3	ハケ・タテナ デ・磨滅/ヨコナ デ・ミガキ・ヨ コミガキ・タテ ミガキ	淡白褐		7/10	広口壺F
102	856	SDA14	壺	34.4	(9.4)	ヨコハケ・ナデ/ ナデ・タテハケ	淡白褐	0.5~2mm長、赤、 1~2.5mm英、 チャ	1/12	有段口縁壺
102	857	SDA14	壺	13.0	(8.8)	磨滅/ヨコナデ・ 磨滅	乳褐	1~5mm長、英多 量、チャ	1/3	広口壺
102	858	SDA17	壺	16.0	(4.0)	ヨコハケ・ヨコ ミガキ/ハケ→ナ デ・タテハケ→ ミガキ	白褐	0.5~1mm長、英、 0.5~2.5mmチャ	1/6	広口壺D
102	859	SDA49-3区 淡灰褐砂	甕	46	(4.1)	ヨコハケ/ヨコハ ケ・タテハケ	淡黄肌褐/ 淡肌茶褐	1.5mm以下英、 長、チャ	1/4	甕C2、外面にコ ゲ・スス
102	860	SDA49-3区 最上層	甕	30.0	(4.0)	ヨコハケ/ヨコナ デ・タテハケ→ ヨコハケ	淡橙/ 淡黄茶	3mm以下長、 チャ、赤	1/8	
102	861	SDA49-3区	壺	19.5	(2.8)	磨滅/ナデ・タテ ハケ	淡黄褐/ 褐	3mm以下英、長、 チャ、雲	1/8	
102	862	SDA49-3区 中層	壺	16.6	(4.9)	ハケ・磨滅/ハ ケ・磨滅	淡茶/ 淡茶	2mm以下英、長、 チャ、赤少量	1/8	広口壺
102	863	SDA49-3区	壺	17.8	(14.7)	磨滅・ハケ/タテ ハケ	黄褐/ 淡黄茶褐	2.5mm以下英、 長、チャ	1/2	広口壺D

観 察 表

102	864	SDA49-3区 上層	甕	17.4	(3.5)	磨減	濁褐/ 肌茶	2mm以下英、長、 チャ	1/6	甕D
102	865	SDA49-3区 黒灰褐色粘 上層	甕	13.4	(5.4)	ナデ・ハケ・磨 減/ナデ	肌褐/ 暗褐	3mm以下長	3/4	甕Bb1
102	866	SDA49-3区 上層	甕	17.6	(3.9)	ヨコナデ・磨減/ ナデ・磨減	淡茶/ 淡茶褐	2mm以下英、長、 チャ	1/6	甕C5
102	867	SDA49-3区 上層	甕	15.0	(4.1)	磨減/ヨコナデ・ 磨減	淡褐- 暗褐/ 暗灰褐	3mm以下英、長、 チャ	1/6	甕C4
102	868	SDA49-3区 最上層	鉢	13.0	(3.3)	ナデ/磨減	肌灰/ 淡肌茶	2mm以下英、長、 チャ	1/6	
102	869	SDA49-3区 上層	底部	(6.0)	(4.4)	磨減/ハケ	黒灰/ 灰褐	3mm以下英、長、 チャ	(1/3)	
102	870	SDA49-3区 中層	底部	(6.0)	(4.0)	磨減	濁褐/ 濁褐	3mm以下英、長、 チャ	(1/2)	
102	871	SDA49-3区	脚部	(13.0)	(13.4)	シボリ痕・指 痕・ナデ/タテミ ガキ・指痕	橙褐	0.5~1mm長多 量、チャ、1~2mm 英多量	(2/3)	
102	872	SDA49-3区 上層黒灰褐 色粘上層	高杯 脚部	(11.4)	(4.2)	ヘラケズリ/ミガ キ・磨減	橙茶/ 灰茶褐	1.5mm以下英、 長、チャ	(1/3)	穿孔2カ所、外面 に黒斑
102	873	SDA49-3区	底部	(6.4)	(4.0)	指ナデ/ハケ	淡黄褐/ 淡茶褐	2mm以下英、長、 チャ	(1/1)	外面に黒斑
103	874	STA49	甕	20.0	(3.4)	ヨコハケ/タテハ ケ	淡肌/ 暗褐	5mm以下英、長、 チャ	1/8	口縁にスス
103	875	STA49	鉢	22.0	(3.8)	磨減/ヨコナデ・ ハケ	淡茶	2.5mm以下英、 長、チャ	1/12	鉢A
103	876	STA49	壺	7.7	(4.7)	ハケ・磨減/タテ ハケ	淡褐	5mm以下英、長	1/4	
103	877	STA49	底部	(4.6)	(4.4)	ナデ/指痕・磨減	淡茶- 淡肌/ 橙褐	2mm以下長、英、 褐	(1/1)	
103	878	SDA49-2区 最上層	壺	(7.2)	(34.8)	磨減/ハケ・磨減	橙褐	0.5~2mm長、英	(1/1)	
103	879	SDA49-2区 最上層 SDA49-2区 下層	壺	18.2	39.7	ナデ・ハケ/ナ デ・ハケ・ミガ キ	淡褐		1/4	広口壺Ec1
103	880	SDA49-2区 上層	壺	28.0	(10.4)	ヨコハケ・磨減/ 磨減	淡黄茶褐/ 淡褐	4.5mm以下英、 長、チャ、赤	2/3	広口壺A2
103	881	SDA49-1区 中層	壺	24.0	(2.8)	磨減	淡褐/ 淡茶褐	2mm以下英、長、 チャ	1/8	広口壺
103	882	SDA49-2区 中層	壺	12.0	(4.1)	ヨコナデ・指痕/ ナデ	桃褐/ 灰褐	2mm以下長、英、 褐	1/6	直口壺
103	883	SDA49-2区 中層	壺	17.6	(5.5)	磨減/ハケ・磨減	肌灰/ 淡肌茶	5mm以下英、長、 チャ、赤	1/4	広口壺Ea1
103	884	SDA49-2区 中層	甕	17.2	(6.5)	ヨコナデ・タテ ナデ・磨減/ナデ	淡黄褐/ 黒褐	3mm以下英、長、 チャ	1/6	甕Aa
103	885	SDA49-2区 中層	甕	21.0	(5.2)	ヨコハケ・タテ ナデ・磨減/タテ ハケ	淡褐/ 茶褐	2mm以下英、長、 チャ	1/6	外面にコゲ・スス
103	886	SDA49-2区 上層	壺	17.2	(6.4)	ナデ・ハケ・磨 減/ヨコナデ・ハ ケ	淡褐/ 淡茶褐	2mm以下英、長、 チャ	1/4	広口壺Ec3
103	887	SDA49-2区 中層	高杯	内径 20.0/ 外径 27.8	(2.6)	磨減	淡黄褐/ 淡黄茶褐	2mm以下長、 チャ、赤	1/16	高杯B2
103	888	SDA49-2区 中層	高杯	内径 18.6/ 外径 25.6	(2.1)	磨減	淡肌褐	2mm以下英、長、 チャ、赤	1/12	高杯B3
103	889	SDA49-1・2・ 3区/SDA58- 1区	高杯	内径 15.4/ 外径 23.2	(2.4)	磨減	橙茶	2mm以下英、長、 チャ、赤	1/2	高杯B4
103	890	SDA49-2区 中層上面	底部	(6.2)	(4.4)	ナデ/ヘラケズ リ・ナデアゲ・ ナデ	黒/ 淡褐	3mm以下英、長、 チャ	(1/2)	

103	891	SDA49-2区 中層	底部	(5.0)	(4.5)	ハケ・指痕・ナ デ/ハケ・ナデ・ 磨減	灰/ 淡褐	1mm以下英、長	(2/3)	
103	892	SDA49-2区 中層上面	底部	(4.2)	(3.7)	磨減/ハケ・ナデ	淡茶褐/ 淡茶褐	2mm以下英、長、 チャ	(1/1)	
103	893	SDA49-1区	底部	(7.4)	(3.6)	磨減/ハケ	淡橙褐/ 淡橙褐	2mm以下長、チャ	(1/3)	底面に木の葉圧痕
104	894	SDA58-1区 下層・最下 層	壺	11.2	(3.5)	磨減	淡灰褐/ 淡灰褐	2mm以下英、長、 チャ	1/2	広口壺D
104	895	SDA58-2区 中央黒粘上 層	壺	14.5	29.0	ヨコナデ・ハ ケ・ナデアゲ/ 指痕・タテハケ/ ナデ・ナデア ゲ・ヘラケズリ →ミガキ・磨減	淡黄灰褐/ 肌褐	3mm以下英、長、 チャ、黒	1/5・ (1/1)	広口壺D3、外面に 黒斑
104	896	SDA58-2区 中央黒粘上 層	壺	17.2	(4.7)	磨減	淡黄褐/ 淡肌茶褐	4mm以下英、長、 チャ、褐	1/3	広口壺
104	897	SDA58-2区 淡黄灰褐色 中粒砂	甕	18.0	(5.8)	磨減/ヨコナデ・ タテハケ	淡黄褐/ 淡黄茶褐	2mm以下長、 チャ、赤	1/6	
104	898	SDA58-2区	甕	18.4	22.1	指痕・磨減/ヨコ ナデ・タテハ ケ・磨減	肌褐/ 肌-橙褐	4mm以下英、長、 チャ	1/2・ (1/1)	甕Aa2、外面にコ ゲ・スス、底面に 木の葉圧痕
104	899	SDA58-2区 中層	甕	(4.0)	-	磨減/磨減	淡灰褐/ 淡褐	4mm以下英、長、 チャ	(1/1)	
104	900	SDA58-2区 中層	底部	(8.1)	(3.8)	ナデ/板ナデ・ハ ケ	淡濁褐	4mm以下英、長、 チャ、赤	(1/1)	
104	901	SDA58-2区	底部	(6.0)	(2.5)	ナデ/ヘラケズ リ・ナデアゲ	淡灰褐/ 淡黄乳褐	4mm以下英、長、 チャ、赤	(1/1)	
104	902	SDA58-1区 下層	底部	(5.0)	(2.6)	磨減/指痕	淡灰褐/ 淡茶褐	3mm以下英、長、 チャ、赤多量	(1/1)	底面に木の葉圧痕
104	903	SDA59-1区 /SDA59-3区 上層	甕	22.7	(14.2)	ナデ・指痕/ナ デ・ハケ	淡黄肌褐/ 淡肌茶褐	3mm以下長、英、 チャ	1/6	甕C2、外面にコ ゲ・スス
104	904	SDA59-1区	甕	13.5	(14.8)	ナデ・ヨコハケ/ ハケ	濁褐	4mm以下英、長、 チャ、黒	3/4	甕Ab2
104	905	SDA59-1区	底部	(5.0)	(5.3)	ハケ→ナデ/ハ ケ、底面:ナデ	濁褐/ 橙褐	3.5mm以下英、 長、チャ	1/1	内面にコゲ
104	906	SDA59-1区	底部	(7.0)	(4.2)	ヘラケズリ/ハケ	灰褐/ 肌褐	4mm以下長、英、 チャ、黒	1/1	ドーナツ底、外面 に黒斑
104	907	SDA59-1区	底部	(3.2)	(6.8)	ヘラケズリ/ハケ	褐	2mm以下英、 7mm以下長、 チャ、黒	(1/2)	内面にコゲ、外面 にコゲ・スス
104	908	SDA59-1区	底部	(4.8)	(3.3)	磨減/ハケ	褐/ 淡黄褐	3mm以下長、英、 赤	1/1	ドーナツ底に木の 葉圧痕
104	909	SDA59-1区	体部			ナデ	淡肌灰褐	1mm以下長、英、 チャ、褐		
104	910	SDA59-2区 中層	甕	37.4	(6.4)	ハケ	淡灰褐/ 淡黄褐	5mm以下長、英、 チャ、黒	1/8	
104	911	SDA59-2区 中央暗灰褐	脚部		(2.4)	磨減	淡褐/ 断面:灰	4mm以下英、長、 チャ		穿孔8カ所
104	912	SDA59-2区 上中層	脚部	(5.0)	(4.4)	指痕・磨減/ハ ケ、裾端:ナデ	暗褐/ 桃褐	3mm以下長、英、 チャ、雲	(3/4)	外面に黒斑
104	913	SDA59-2区 上層	底部	(9.0)	(2.8)	磨減	淡褐	4mm以下長、赤、 英、黒	1/5	
104	914	SDA59-2区 中層	底部	(8.0)	(6.4)	ナデ/ハケ、底面: ナデ	淡黄肌/ 淡褐	5mm以下英、長、 赤、黒	3/4	
104	915	SDA72-2区 上層	壺	15.0	(10.3)	ヨコナデ・ナ デ・指痕・ナデ アゲ・磨減/磨減	淡橙/ 淡橙褐	4mm以下英、長、 チャ、 3mm以下赤	1/2	広口壺
105	916	SDA59-3区	壺	33.6	(12.0)	ハケ・ヘラミガ キ/ナデ・磨減	黄橙褐/ 橙赤褐	8mm以下英、長、 チャ、赤	1/2	広口壺A2
105	917	SDA59-3区	壺	25.2	(27.0)	ヨコナデ・ナ デ・ハケ/ハケ・ ヘラミガキ・磨 減	明肌茶/ 淡肌茶	3mm以下英、長、 チャ、ク、雲少量	3/4	広口壺C4、外面に 黒斑



観 察 表

105	918	SDA59-3区 下層	壺	22.0	(26.9)	ヨコハケ・斜ハ ケ・指痕・磨滅/ ヨコナデ・タテ ハケ	淡黄肌褐	4mm以下英、長、 チャ、 3mm以下赤	1/3	広口壺D4、外面に 黒斑
105	919	SDA59-3区	壺 底部	(7.0)	(10.3)	/ハケ・ヘラケズ リ・ナデアゲ・ 磨滅	淡肌黄褐	4mm以下長、英、 チャ、赤、 1mm以下雲	(3/4)	918と同一個体
105	920	SDA59-3区	壺	13.0	(4.0)	磨滅/	暗灰褐	3mm以下長、英、 チャ	1/5	広口壺D1
105	921	SDA59-3区	壺	20.0	(11.0)	ヨコナデ・指 痕・ナデ・磨滅/ 磨滅	淡肌橙灰/ 淡橙褐	3mm以下長、英、 チャ、赤、黒	1/8	広口壺
105	922	SDA59-3区 上層	水差	8.0	(10.6)	指痕・磨滅/ミガ キ・磨滅	淡黄	4.5mm以下長、 英、チャ、赤	4/5	外面に黒斑
105	923	SDA59-3区	甕	19.2	(11.0)	ヨコナデ/ヨコナ デ・ハケ	淡褐	2.5mm以下長、 チャ	1/2	外面にコゲ・スス
105	924	SDA59-3区	甕	17.6	(7.0)	ハケ・ナデ/ヨコ ナデ・ハケ・磨 滅	淡黄褐/ 淡灰褐	2mm以下長、英	1/10	
105	925	SDA59-3区	甕	16.4	(4.1)	ハケ・指ナデ/ヨ コナデ・ハケ	淡黄肌褐/ 淡橙	2mm以下英、長	1/5	甕Aa
105	926	SDA59-3区 最下層	蓋	-	(3.5)	ハケ	褐/ 淡肌・褐	2mm以下長、英、 チャ	-	内面にスス、外面 にコゲ・スス
105	927	SDA59-3区 中層	底部	(6.0)	(2.2)	磨滅/ハケ、底面： ナデ	淡黄褐・ 暗灰/ 淡肌	3mm以下長、英、 赤、黒	(1/1)	底部穿孔
105	928	SDA59-3区	底部	(5.0)	(7.8)	磨滅	灰褐/ 肌褐	3mm以下長、英、 チャ	(1/1)	外面に黒斑
105	929	SDA59-3区	底部	(8.6)	(9.5)	ナデ・指痕/ハケ →ミガキ	灰白/ 肌褐- 橙褐	4mm以下長、英	(3/4)	底面に細砂粒痕
106	930	SDA62-2区	壺	19.2	(8.0)	ヨコハケ・磨滅/ 磨滅	褐/ 淡灰褐	3mm以下英、長、 チャ、雲	1/10	広口壺Ea1
106	931	SDA62-2区	壺	23.2	(15.0)	ハケ・磨滅/磨滅	淡黄茶灰/ 淡黄褐	3mm以下英、長、 チャ	1/3	広口壺B
106	932	SDA62-2区	壺	25.0	(3.0)	ヨコハケ/磨滅	暗褐/ 淡黄茶褐	2mm以下英、長、 チャ、赤	1/6	広口壺A2、933と同 一個体
106	933	SDA62-2区	壺	(6.2)	(27.6)	磨滅/ヘラミガ キ・磨滅	暗灰/ 淡褐	7mm以下英、長、 チャ	(1/2)	底面に木の葉圧痕
106	934	SDA62-2区	甕	42.0	(10.5)	ヨコハケ・板ナ デ/タテハケ・磨 滅	淡肌褐	5mm以下英、長、 チャ	1/5	甕Ac
106	935	SDA62-2区	甕	17.8	(8.0)	ヨコハケ・ハケ/ タテハケ・ナデ	淡褐/ 灰褐	4mm以下英、長、 チャ、赤	1/6	
106	936	SDA62-2区	甕	20.0	(4.7)	ヨコハケ/ヨコハ ケ・ハケ→ナ デ・タテハケ	淡茶褐/ 灰茶褐	2mm以下英、長	1/4	甕C2、外面コゲ・ スス
106	937	SDA62-2区	甕	21.6	(4.5)	ハケ・磨滅/ハケ	淡黄茶褐	3mm以下英、長、 チャ、赤	3/4	甕Aa
106	938	SDA62-2区 上層	甕	20.8	(20.5)	ナデ・磨滅/ハケ	桃褐- 暗褐/ 褐-桃褐	4mm以下英、長、 赤	1/3	甕Aa2
106	939	SDA62-2区	高杯 脚部	-	(3.6)	ヘラミガキ、脚： シボリ痕/タテヘ ラミガキ・磨滅	淡茶/ 淡褐	4mm以下長、英、 チャ、雲	-	
106	940	SDA62-2区	壺	10.0	(6.5)	ナデ・指痕/ナ デ・磨滅	灰褐	2.5mm以下英、 長、チャ	1/5	細頸壺
106	941	SDA62-2区	壺	(5.2)	(16.2)	ヨコナデ・ナデ/ ハケ・ナデ	淡黄/ 淡褐	3mm以下英多量、 長多量、チャ 多量、雲少量、赤 少量	(1/1)	底面に木の葉圧痕
106	942	SDA62-2区	甕 底部	(5.8)	(16.0)	ナデ・磨滅/ハケ	淡灰褐 (底面：赤 桃)	4mm以下英、長、 チャ、赤	(1/1)	外面にコゲ・スス
106	943	SDA62-2区 最下層	壺	(7.2)	(29.0)	ナデ・ハケ/ハ ケ・ヘラミガ キ・磨滅	茶褐	4mm以下英、長、 チャ、赤	1/1	底は楕円形、外面 黒斑
106	944	SDA62-2区	底部	(5.5)	(3.8)	磨滅/ハケ	淡灰- 淡茶/ 淡橙褐	4mm以下英、長、 チャ、赤	(1/1)	底面に木の葉圧痕

106	945	SDA62-2区 上層	甕 底部	(5.6)	(4.0)	ナデ/ハケ	淡褐	2mm以下英、長、 赤	(1/1)	底部穿孔
106	946	SDA62-2区	底部	(6.6)	(6.0)	ヘラケズリ・板 ナデ/ヘラミガ キ・ハケ	淡褐/ 淡黄明褐	4mm以下英、長、 チャ、赤	(1/1)	
106	947	SDA62-2区	底部	(8.0)	(7.7)	ナデ/ハケ・磨滅	淡黄灰褐 /淡茶灰褐	5mm以下英、長、 チャ、黒、赤	(1/1)	
106	948	SDA62-2区	甕 底部	(5.0)	(8.2)	ナデ/ハケ	濁褐/ 黄褐	3mm以下英、長、 チャ、赤	(1/1)	底面に木の葉圧 痕、外面にコゲ・ スス
106	949	SDA62-3区	壺	9.6	(8.7)	指痕・ナデ・ハ ケ/磨滅	淡黄乳灰 -淡灰褐	5mm以下英、長、 チャ	1/3	広口壺F1
106	950	SDA62-3区	底部	(4.8)	(2.1)	磨滅	淡褐- 灰褐	8mm以下小石、 3mm以下英、長、 チャ	(1/1)	
107	951	SDA63-4区	甕	15.7	(5.0)	ハケ・斜ハケ/ナ デ・ハケ・磨滅	淡褐/ 淡褐	3mm以下長、英、 チャ、雲少量	1/4	甕D、外面コゲ・ス ス
107	952	SDA63-4区	甕	15.2	(7.3)	ナデ・斜ハケ/ナ デ・タテハケ	橙褐/ 淡黄褐	1mm以下長、英、 チャ、雲	1/4	甕Aa、外面コゲ・ スス
107	953	SDA63-4区	甕	14.8	(3.0)	ナデ・斜ハケ/ナ デ・タテハケ	淡黄褐/ 淡黄褐	2mm以下長、英、 雲少量	1/6	甕Ba1
107	954	SDA63-4区	甕	14.8	(6.7)	ヨコナデ・ナデ アゲ/ヨコナデ・ ハケ→ナデ	淡濁褐/ 淡肌	3mm以下長、英、 チャ	1/3	甕Bb1、外面スス
107	955	SDA63	甕	11.0	(3.0)	ナデ・ハケ/ヨコ ナデ・ナデ	肌褐/ 肌褐	2mm以下長	1/8	外面コゲ・スス
107	956	SDA63	壺	12.8	(9.8)	指痕・ナデ/ヨコ ナデ・ナデ	褐/褐	5mm以下長多量	1/3	無頸壺、口頸部に 穿孔(2個1対)、 外面コゲ・スス
107	957	SDA63-4区	壺	32.8	(8.5)	磨滅/ナデ・斜ハ ケ・ヨコナデ・ タテハケ	濁肌	3mm以下長、 チャ、赤	1/8	有段口縁壺
107	958	SDA63	壺	18.0	(6.0)	ナデ/タテハケ・ 磨滅	橙褐/ 橙灰白	1mm以下長	1/6	広口壺Eb1
107	959	SDA63-4区	壺	14.0	(4.1)	ハケ・磨滅/ハケ	肌茶褐/ 肌褐	2mm以下長	1/8	広口壺
107	960	SDA63-4区	壺	14.6	(4.9)	ヨコナデ・板ナ デ/ハケ→板ナデ	暗灰褐- 黄褐/ 暗灰褐	0.5~1mm長、 0.5~2mm英、 チャ、赤	1/4	
107	961	SDA63-4区	高杯	19.8	(6.7)	ヨコナデ・板ナ デ/ナデ・ヘラケ ズリ	淡黄褐/ 濁肌褐	3mm以下長、英、 雲、赤少量	1/5	凹線文状のナデ
107	962	SDA63-4区	高杯 脚部	(12.2)	(10.3)	シボリ痕・ハ ケ・ヨコナデ/ヘ ラミガキ・磨滅	淡褐	0.5~4mm長、 チャ、赤微量、 0.5~2mm英、雲 微量	(1/1)	外面に黒斑
107	963	SDA63-4区	高杯 脚部	(9.8)	(7.7)	シボリ痕・指 痕・磨滅/タテハ ケ・ナデ	肌灰/断 面:暗灰	2mm以下長、英、 1mm以下赤少量	(1/2)	
107	964	SDA63-4区	底部	(5.0)	(3.2)	指痕・ナデ/ナ デ・磨滅	暗灰/ 濁肌褐	3.5mm以下長、 英、チャ	(1/1)	
107	965	SDA63-4区	底部	(5.4)	(5.4)	ヘラケズリ・ナ デ/ヘラケズリ→ ナデ	黒灰/ 橙褐	2mm以下長、英	(1/2)	外面コゲ・スス
107	966	SDA63-4区	底部	(14.2)	(7.5)	ナデ・磨滅/ヘラ ケズリ	橙褐/ 淡褐	1mm以下長、英、 チャ	(3/4)	
107	967	SDA63西溝 上層	甕	12.2	(6.1)	ナデアゲ/ヨコナ デ・ハケ・タタ キ	淡肌/ 淡肌	3mm以下長、英、 雲少量	1/4	甕Ba2、外面コゲ・ スス
107	968	SDA63西溝	甕	17.0	(2.6)	ヨコナデ	淡茶褐/ 淡茶褐	1.5mm以下長、英	1/8	外面コゲ・スス
107	969	SDA63西溝	壺	18.6	(4.6)	ヨコハケ/ナデ・ 斜ハケ・タテハ ケ	肌橙/ 淡褐?	2mm以下長、赤	1/4	甕C5
107	970	SDA63西溝 中層	甕	30.0	(5.4)	ヨコハケ/斜ハ ケ・タテハケ	肌褐/ 淡褐	3mm以下長、英、 黒雲少量	1/4	甕C2、外面コゲ・ スス
107	971	SDA63西溝 下層	高杯	内径 16.4/ 外径 22.8	(5.7)	ヘラミガキ/ヘラ ケズリ・磨滅	淡褐/ 淡灰肌褐	2mm以下長、英、 チャ、雲	1/6	高杯B3

観 察 表

107	972	SDA63西溝下層	鉢	15.5	(6.3)	ハケ→ナデアゲ・磨滅/ハケ	肌褐/断面:灰/灰褐	3mm以下英、長、チャ、赤	1/6	鉢A、外面に黒斑
107	973	SDA63西溝下層	蓋	-	(2.0)	指痕	肌褐/灰褐	2mm以下英、長、赤		外面に黒斑、ツマミ径2.9cm
107	974	SDA63西溝中層	底部	(7.0)	(7.1)	ナデア・指痕/ヘラミガキ	淡肌褐/淡肌褐・灰褐	4mm以下長、英	(1/3)	
107	975	SDA63西溝	底部	(6.5)	(11.0)	タテハケ/磨滅	淡茶褐-こげ茶/淡褐-桃褐	4mm以下長、英、チャ	(1/1)	
107	976	SDA63東溝	甕	15.5	24.2	ハケ→ナデア・指痕・ナデア、口縁端:キザミ/ハケ・ケズリ→ナデア	淡茶褐・濁褐/淡橙褐-こげ茶	5.5mm以下雲、英、長、チャ、赤		甕D、内面コゲ、外面コゲ・スス
107	977	SDA63東溝	甕	18.6	(7.9)	板ナデア・斜ハケ/口縁端:キザミ・ナデア・タテハケ	淡肌・濁褐/淡肌・濁褐	1mm以下長、英	1/26	甕D
107	978	SDA63東溝	甕	14.0	(6.0)	ハケ/磨滅	淡茶-暗茶/灰褐	2mm以下長	1/5	甕Bb1、外面に黒斑
107	979	SDA63東溝	壺	13.2	(10.8)	磨滅	淡黄褐-桃褐	3mm以下長、英、チャ、赤	4/5	太頸壺
107	980	SDA63東溝	底部	(5.5)	(3.3)	磨滅/タテハケ	灰/淡褐	5mm以下長、チャ、赤少量	(1/1)	外面コゲ・スス
107	981	SDA63東溝	甕底部	(5.2)	(4.7)	ナデア/タテハケ	淡黄褐	3mm以下長、英、チャ	(1/1)	
107	982	SDA63東溝	脚部	(7.7)	(3.7)	ナデア	淡褐	3.5mm以下長、英、3mm以下雲少量、赤	(1/2)	
107	983	SDA63東溝	鉢	19.0	(3.7)	ヨコナデア/ハケ	淡褐-褐/淡褐	2mm以下長、英、黒雲少量	1/10	鉢A、外面コゲ・スス
108	984	SDA68上層	甕	35.2	(10.4)	ナデア・磨滅/磨滅	淡灰褐/褐	3mm以下英、長、チャ	1/8	
108	985	SDA68上層	甕底部	(6.4)	(5.6)	ナデア/ハケ・ナデア	淡黄褐/淡灰褐	3mm以下長、英、チャ、赤少量	(1/2)	炭化物付着
108	986	SDA68上層	底部	(6.2)	(6.5)	磨滅	淡茶褐/淡茶褐	5mm以下英、長、チャ、赤	(1/1)	
108	987	SDA68-1区	壺	22.0	(7.6)	ヨコナデア・磨滅/ナデア・タテハケ	淡黄褐/淡茶褐	3mm以下長、英、赤	1/1	有段口縁壺
108	988	SDA68-2区	高杯	内径14.0/ 外径20.6	(2.5)	ヘラミガキ・磨滅/磨滅	桃褐/桃褐	3mm以下英、長	1/4	高杯B1
108	989	SDA68-1区	高杯脚部	(6.6)	(7.7)	ヘラケズリ/ヘラケズリ・磨滅	淡褐	5mm以下英、長、チャ、雲、褐少量	(1/1)	外面に黒斑
108	990	SDA68-3区	壺	19.0	(9.2)	ヨコハケ・磨滅/ハケ・ヘラミガキ	淡橙茶褐/淡黄褐	4mm以下英、長、チャ、赤	1/3	広口壺Ea1
108	991	SDA68-4区	壺	14.3	(3.5)	ヨコナデア・ハケ	黄褐/断面:暗灰	1mm長、チャ	1/3	広口壺D4、内面に瘤状突起
108	992	SDA68-3区	壺	19.6	(2.1)	磨滅/ナデア	淡橙灰/淡橙	4mm以下長、チャ、赤	1/8	広口壺、内面に瘤状突起
108	993	SDA68-3区	壺	22.4	(8.5)	指痕・ナデアゲ・磨滅/磨滅	淡灰茶/淡茶	3mm以下英、長、チャ	1/6	広口壺C4
108	994	SDA68-4区中層	壺	18.7	(4.9)	ヨコハケ/ハケ	淡褐/断面:灰褐/淡褐	4mm以下英、長、チャ	1/1	広口壺
108	995	SDA68-3区中・下層	壺	16.4	(7.5)	ナデア・ハケ/タテハケ	肌褐	5mm以下英、長、チャ、赤	1/8	
108	996	SDA68-3区	高杯脚部	-	(7.3)	ヘラケズリ・ヘラミガキ・シボリ痕/ヘラケズリ	黄褐	2mm以下英、長、チャ、褐		基部径4.2cm
108	997	SDA68-4区上層	高杯脚部	(11.8)	(7.7)	シボリ痕・ナデア・ハケ/ミガキ・ナデア	淡黄褐	0.5~3mm長多量、0.5~2mmチャ	(1/3)	
108	998	SDA68-4区上層	甕	19.6	(10.0)	ヨコハケ・斜ハケ・磨滅/ハケ・磨滅	淡黄褐-淡桃褐	0.5~2mm長多量、英多量、チャ、0.5mm小石	1/2	甕D

108	999	SDA68-4区 中層	鉢	10.5	(10.6)	ヨコナデ/ヨコナ デ・ハケ	暗茶褐	0.5~1mm長、英	1/1	
108	1000	SDA68-3区 上層	底部	(8.5)	(3.7)	斜ハケ/磨滅	淡黄褐	5mm以下英、長、 チャ、赤	(1/1)	
108	1001	SDA68-3区 中層	底部	(5.2)	(6.6)	磨滅/ハケ・磨滅	褐/ 淡肌褐	3mm以下長、英、 チャ、赤	(2/3)	底部穿孔
108	1002	SDA68-4区 上層	底部	(6.4)	(2.8)	ヘラケズリ/ハケ →ナデ	淡濁褐/ 淡黄褐	3mm以下英、長、 チャ	(1/1)	
108	1003	SDA68-3区	底部	(7.0)	(7.4)	磨滅/ヘラケズ リ・ナデアゲ	褐/ 淡茶褐	3.5mm以下英、 長、チャ	1/3	
108	1004	SDA68-6区 上層	壺	19.6	(10.8)	磨滅	淡茶褐	3mm以下長、英、 チャ、赤	1/2	無頸壺
108	1005	SDA68-6区 上層	壺	11.2	(17.0)	ヨコハケ/タテハ ケ・磨滅	淡褐	0.5~1mm英、 0.5~2mmチャ	1/8	広口壺、内面に瘤 状突起
108	1006	SDA68-6区	甕	17.5	(10.9)	ヨコハケ・ナデ/ ナデ・ハケ	明灰白褐 -暗褐/ 淡茶褐- 暗褐	2mm以下英、長、 チャ、赤	1/1	甕Aa3、スス・コゲ
108	1007	SDA68-6区	甕 底部	(5.0)	(7.1)	ナデ・指頭圧/ハ ケ・ナデ	淡灰褐- 暗褐/灰 褐-黒灰	2mm以下長、 チャ、赤	(1/1)	外面に黒斑
108	1008	SDA68-6区 下層	底部	(9.0)	(8.4)	ナデ・磨滅/ナ デ・ミガキ・磨 滅	淡灰茶褐	3.5mm以下英、 長、チャ、赤	(1/1)	
108	1009	SDA68-6区	壺	9.4	(13.6)	ナデ/ミガキ	灰褐-橙 褐/灰褐- 橙褐	3mm以下長、頁、 チャ、赤	3/8	無頸壺
108	1010	SDA68-6区 下層	壺 底部	(7.2)	(8.4)	ナデ/ナデ・ミガ キ	灰褐-橙 褐/灰褐- 橙褐	3mm以下長、頁、 チャ、赤	(1/1)	1009と同一個体
109	1011	SDA68-5区 中層以下	甕	19.2	11.5	ハケ・ナデ/タテ ハケ	淡褐		1/7	
109	1012	SDA68-5区	甕	17.8	(5.2)	ヨコハケ・ナデ アゲ/ナデ・ハケ	淡灰褐/ 淡黄褐	4mm以下英、長、 チャ	1/5	甕Aa
109	1013	SDA68-5区 上・中層	甕	16.4	(6.2)	ナデ・磨滅/ナ デ・ハケ・磨滅	淡濁灰褐	1.5mm以下英多 量、長多量	1/6	頸径14.4cm
109	1014	SDA68-5区 中・最下層	甕	20.0	(3.5)	ハケ→ヨコナデ/ ヨコナデ・タタ キ	淡黄/ 淡黄褐	1mm以下英、長、 雲、チャ	1/4	外面コゲ・スス
109	1015	SDA68-5区	甕	14.6	(6.6)	ナデ/ヨコナデ・ 斜タタキ→ハ ケ・ケズリ	淡褐	2mm以下英、長、 チャ	1/4	甕Bb2、外面コゲ・ スス
109	1016	SDA68-5区 中層	甕	13.8	(6.0)	ヨコナデ・タテ ハケ/ヨコナデ・ ハケ	淡灰褐	2mm以下英、長、 チャ、雲	1/4	甕Ba1
109	1017	SDA68-5区	甕	21.0	(4.0)	ヨコハケ・板ナ デ/タテハケ→ヨ コハケ	淡褐-桃 褐/淡褐	2mm以下英、長、 チャ	1/8	
109	1018	SDA68-5区	甕	34.0	(4.0)	ハケ	淡灰褐/ 明茶褐	3mm以下英、長、 チャ、雲	1/8	
109	1019	SDA68-5区・ 5区周辺下 層	甕	18.2	(9.4)	ヨコハケ・ナデ アゲ・磨滅/ナ デ・タテハケ	淡茶褐/ 暗褐	3mm以下長、英、 チャ、赤少量	1/4	甕Aa3、外面にコ ゲ・スス
109	1020	SDA68-5区	甕	19.8	(4.0)	ヨコハケ・板ナ デ/ヨコナデ・指 痕・磨滅	橙褐/褐	2mm以下英、長、 チャ	1/8	
109	1021	SDA68-5区	甕	21.0	(5.0)	ヨコハケ・指 痕・ナデアゲ/ナ デ・指痕・タテ ハケ	淡肌褐	3mm以下英、長、 チャ、赤	1/2	外面にコゲ・ス ス、甕Aa
109	1022	SDA68-5区	甕	13.0	(5.0)	ヨコナデ・板ナ デ/磨滅	淡黄褐	1.5mm以下英、 長、チャ、雲、黒 少量	1/6	甕Ba、外面にコ ゲ・スス
109	1023	SDA68-5区	甕	12.8	(5.0)	ヨコナデ・ハケ/ 磨滅	黄褐	2.5mm以下英、 長、チャ、雲	1/6	甕Ba
109	1024	SDA68-5区 中層	甕	20.8	(6.3)	ナデ・磨滅/ヨコ ナデ・タタキ→ ハケ・磨滅	淡黄肌褐/ 淡茶褐	2mm以下英、長、 チャ、雲	1/3	甕Bb2、外面コゲ・ スス
109	1025	SDA68-5区 下層	壺	17.0	(7.5)	ナデ・ハケ・磨 滅/タテハケ・磨 滅	淡茶褐/ 肌茶	3mm以下長、英、 チャ、赤	1/5	広口壺Ec3

観 察 表

109	1026	SDA68-5区	甕	21.6	(4.0)	ヨコハケ/斜ハケ・タテハケ	淡灰褐/淡褐	3mm以下長、雲少量、チャ	1/8	外面コゲ・スス
109	1027	SDA68-5区	甕	23.8	(3.6)	ヨコハケ/ハケ	淡褐	2mm以下長、チャ、赤	1/12	
109	1028	SDA68-5区	壺	18.0	(3.0)	磨滅	淡褐/断面:黒灰/褐	1.5mm以下英、長、チャ	1/8	
109	1029	SDA68-5区	甕	19.8	(9.7)	ナデ	淡褐	2.5mm以下英、長、チャ	3/4	甕C5、外面コゲ・スス
109	1030	SDA68-5区 中層	甕	19.0	(15.1)	ヨコハケ・磨滅/ハケ	淡褐	2mm以下英、長、チャ	3/4	甕C5、外面コゲ・スス
109	1031	SDA68-5区 最下層	甕 底部	(5.8)	(2.3)	磨滅/タテハケ	淡黄褐	3mm以下英、長、チャ	(1/1)	
109	1032	SDA68-5区 最下層	甕 底部	(5.3)	(4.3)	ナデ/タテハケ	淡橙褐/茶	3mm以下長、英、チャ、赤	(1/1)	内面に黒斑?
109	1033	SDA68-5区	甕 底部	(5.8)	(6.3)	指痕・ナデアゲ/ハケ	褐/黄褐	3mm以下英、長、チャ	(1/5)	
109	1034	SDA68-5区 最下層、中層以下	甕 底部	(5.6)	(14.6)	ナデアゲ/タテハケ	濁暗茶褐/橙褐-灰褐	5mm以下英、チャ	(1/1)	
109	1035	SDA68-5区	水差	斜径 9.4/ (7.0)	(24.1)	磨滅/ハケ	淡黄-淡茶褐/淡茶褐	3mm以下英、長、チャ、褐	(1/1)	外面に黒斑
109	1036	SDA68-5区	高杯	内径 18.4/ 外径 26.0	(5.0)	ヨコナデ・ハケ・ミガキ/ヨコナデ・ミガキ・磨滅	淡桃茶褐	3mm以下英、長、チャ	1/5	高杯B1
109	1037	SDA68-5区 下層	高杯	25.2	(4.9)	ナデ・ミガキ/ヘラミガキ・ヘラケズリ→タテミガキ	明茶褐	1mm以下英、長、チャ、雲	1/8	高杯A
109	1038	SDA68-5区	高杯 脚部	(14.0)	(2.9)	磨滅		1mm以下英、長、チャ	(1/4)	
109	1039	SDA68-5区 上・中層	高杯 脚部	(14.2)	(10.0)	シボリ痕・ケズリ/ヨコナデ・タテヘラミガキ・磨滅	肌褐	2mm以下英、長、チャ、赤、雲少量	3/4	穿孔4カ所
109	1040	SDA68-5区	高杯 脚部	(11.0)	(6.0)	磨滅	黄褐-暗褐/褐・橙褐	4mm以下英、長、チャ	1/4	
109	1041	SDA68-5区	高杯 脚部	(11.0)	(7.7)	シボリ痕・ヨコハケ・ナデ/ナデ・磨滅	淡黄褐、断面:灰褐/淡黄褐	2mm以下英、長、雲、チャ、黒少量	(1/4)	
110	1042	SDA68-5区	壺	24.0	(10.5)	磨滅/タテハケ	橙桃-淡灰褐/橙桃	3mm以下長、英、チャ、赤	1/4	広口壺D
110	1043	SDA68-5区	壺	26.8	(3.8)	タテハケ/ヨコナデ・タテハケ	淡黄褐	3mm以下英、長、チャ、赤	1/8	広口壺
110	1044	SDA68-5区	壺	20.0	(6.2)	ハケ・磨滅/ハケ・磨滅	淡黄褐	4mm以下英、長、チャ、赤	1/6	広口壺D2
110	1045	SDA68-5区	壺	22.6	(12.4)	ヨコナデ/ヨコナデ・ハケ	淡茶/淡褐-淡茶	3mm以下英、長、チャ、赤	1/1	広口壺D3
110	1046	SDA68-5区	壺		(10.0)	ヨコハケ・磨滅/タテハケ	淡茶	2mm以下英、長、チャ、赤		頸径14.5cm
110	1047	SDA68-5区	壺	21.2	(6.3)	ヨコナデ・磨滅/ヨコナデ・タテハケ	淡肌褐	3mm以下英、長、チャ	1/3	広口壺
110	1048	SDA68-5区 最下層	壺	15.8	(7.2)	ハケ・磨滅	淡橙灰	4mm以下英、長、チャ	(1/1)	広口壺
110	1049	SDA68-5区	壺	16.4	(13.3)	ヨコナデ/ヨコナデ・タテハケ	淡茶褐	2mm以下英、長、チャ、赤少量	3/4	広口壺C4
110	1050	SDA68-5区	壺	34.6	(5.3)	板ナデ/磨滅	淡黄褐/淡濁肌褐	3mm以下長、チャ、雲、赤	1/6	広口壺
110	1051	SDA68-5区	壺	35.8	(5.8)	ヨコハケ/ヨコハケ→タテハケ	黄褐	4mm以下英、長、チャ	1/6	広口壺
110	1052	SDA68-5区	壺		(13.5)	指痕・ナデ/ヘラミガキ・磨滅	淡黄褐	5mm以下英、長、チャ		最大腹径16.0cm
110	1053	SDA68-5区	壺	11.4	(4.9)	ハケ・磨滅/ナデ・指痕・ハケ	淡肌/明肌褐	2mm以下英、長、チャ	1/8	広口壺

110	1054	SDA68-5区 上・中層	壺	14.3	(3.0)	板ナデ・磨減/ナ デ・ハケ	淡灰褐/ 橙褐	1mm以下英、 3mm長微量	1/10	広口壺、突起2個、 1個は痕跡、外面 スス
110	1055	SDA68-5区 上層	破片							
110	1056	SDA68-5区 最下層	蓋		(2.5)	ナデ/指痕・ハケ	明茶褐	3mm以下長、英、 チャ、赤		ツマミ径5.8cm
110	1057	SDA68-5区 上・中層	蓋		(4.0)	ヘラナデ/指痕・ ハケ	灰褐	4mm以下英、長、 チャ		ツマミ径5.7cm
110	1058	SDA68-5区	壺	11.4	(16.4)	指痕・磨減/ヘラ ミガキ			1/2	広口壺D5
110	1059	SDA68-5区	壺	20.8	(18.2)	ハケ・指痕・磨 減/ナデ	暗灰褐	0.5~2mm長、 チャ、0.5~ 1.5mm英多量	1/1	広口壺C5
111	1060	SDA68-5区	壺	19.4	(10.1)	磨減/指痕	茶褐	4mm以下長、黒、 英、雲	1/6	生駒西麓産
111	1061	SDA68-5区	壺	37.4	(5.8)	ヨコハケ・磨減/ 指痕・ヨコハ ケ・板ナデ	淡茶褐	3mm以下英、長、 チャ、赤	1/10	有段口縁壺
111	1062	SDA68-5区 上・中層	壺	17.6	(8.0)	磨減/ミガキ	淡灰褐/ 淡茶褐	4mm以下英、長、 チャ、赤	1/4	広口壺Ea1
111	1063	SDA68-5区	壺	18.0	39.0	ハケ・ナデ・磨 減/ミガキ・磨減	淡褐/ 淡桃褐	0.5~2.5mm長多 量、英多量、0.5 ~1mmチャ多量	3/4	広口壺Ea1、外面に 黒斑
111	1064	SDA68-5区	壺	16.8	(8.4)	ハケ・磨減/ハケ	淡黄茶/ 橙茶	4mm以下英、長、 チャ、赤	1/1	有段口縁壺
111	1065	SDA68-5区	壺	20.0	(9.0)	磨減/ハケ	淡橙茶褐	4mm以下英、長、 赤、チャ	1/3	短頸壺
111	1066	SDA68-5区 上・中層	壺	22.8	(11.4)	ヨコナデ・磨減/ ヨコナデ	淡黄褐	2mm以下英、長、 チャ、赤、雲	1/2	有段口縁壺
111	1067	SDA68-5区 下層	壺 体部	(8.8)	(30.3)	ケズリ・磨減/ハ ケ・板ナデ	橙茶褐	0.5~5mm長、 0.5~4mm英	(3/4)	
111	1068	SDA68-5区	底部	(6.0)	(19.0)	ナデ・磨減/ケズ リ・板ナデア ゲ・ヘラミガ キ・磨減	淡褐	4mm以下英、長、 チャ、2mm以下赤	(1/1)	両面に黒斑
111	1069	SDA68-5区	底部	(7.0)	(5.0)	ナデ/タテハケ・ ヨコハケ	淡茶褐	3mm以下英、長、 チャ、7mmチャ微 量	(1/1)	外面に黒斑
111	1070	SDA68-5区	底部	(6.8)	(5.0)	ナデ・指痕・磨 減/ヘラケズリ・ 磨減	淡褐/ 淡茶褐	2mm以下英、長、 チャ	(1/1)	外面に黒斑
111	1071	SDA68-5区 中層	底部	(4.7)	(3.6)	ヘラケズリ・ナ デ/ヘラケズリ、 底面:ヘラケズリ →ナデ	暗灰褐/ 淡褐-黒	2mm以下英、長、 チャ、5.5mmチャ 微量	(4/5)	底部~体部に被熱 痕
111	1072	SDA68-5区	底部	(5.6)	(4.7)	ナデアゲ・磨減/ ヘラケズリ・ヨ コナデ	淡橙/ 黒褐	2mm以下英、長、 チャ、光沢片	(1/1)	底部~体部に被熱 痕、スス
111	1073	SDA68-5区	底部	(7.4)	(1.6)	ナデ/板ナデ	淡肌、底 面:黒、断 面:淡灰	7mm以下長、 3mm以下英、チャ	1/3	底面に木の葉圧痕
111	1074	SDA68-5区	底部	(7.2)	(4.2)	磨減/ナデ・磨減	黒灰/ 暗褐	5mm以下英、長、 チャ、7mmチャ微 量	(1/2)	底部穿孔
111	1075	SDA68-5区	底部	(10.0)	(6.5)	磨減/タテハケ・ 磨減	灰褐/褐	4mm以下長、英、 チャ、赤	(1/1)	
111	1076	SDA68-5区	底部	(7.6)	(4.5)	ナデ・指痕/ハケ	淡黄褐	3mm以下英、長、 チャ	(1/2)	底面に木の葉圧 痕、外面に黒斑
112	1077	SDA73-5区	壺	20.0	(10.8)	磨減	黄褐	4mm以下長、英、 チャ、黒	1/6	広口壺A7
112	1078	SDA68-4区- SDA73-5区 交点上層	破片			ハケ/タテハケ	淡灰褐	2mm以下英、長、 チャ		
112	1079	SDA68-4区- SDA73-5区 交点上層	底部	(6.2)	(2.2)	ナデ/ハケ	淡褐/断 面:暗灰/ 淡褐	3mm以下英、長、 チャ	(3/4)	底面に木の葉圧 痕、外面に黒斑
112	1080	SDA73-5区	底部	(7.2)	(6.5)	斜ハケ・ケズリ/ 磨減、底面:ケズ リ	黄褐-黒 褐-濁黒 褐	3mm以下長、英、 チャ、赤	(1/1)	外面にスス、内面 全体にスス

観 察 表

112	1081	SDA73-5区 下層	底部	(6.3)	(4.8)	磨減	淡灰褐- 橙/ 乳灰褐	4mm以下英、長、 ク多量、 7mm以下チャ	(1/1)	
112	1082	SDA97-3区	甕	23.2/ (7.7)	33.0	ヨコハケ・ナデ/ ナデ・ハケ	淡褐		1/1	甕Aa3
112	1083	SDA97-3区 下層	底部	(6.8)	(3.2)	指痕/ハケ	灰褐/ 淡黄褐	3.5mm以下英、 長、チャ	(3/4)	底面に木の葉圧痕
112	1084	SDA97-2区	底部	(7.0)	(3.8)	磨減/板ナデ	淡灰褐/ 淡黄茶褐	4mm以下英、長、 チャ	(1/1)	
112	1085	SDA73-7区 下層	壺	20.0	34.0	ヨコハケ・板ナ デ/板ナデ	淡褐		1/3	広口壺A1
112	1086	STA97	甕	18.6	31.6	ナデ・ハケ・磨 減/タタキ・ケズ リ→ハケ・磨減	淡橙褐		3/5	甕Ba2
112	1087	STA97	壺		(23.1)	ハケ→ナデ・磨 減/ハケ・ミガ キ・ナデ	淡黄褐	1~4mm長、0.5 ~1mm英、チャ	1/2	絵画土器、頸径 21.2cm
113	1088	SDA96	壺	(8.0)	(25.1)	ハケ→指ナデ・ 磨減/ミガキ・磨 減	淡褐	0.5~5mm長多 量、1~2mm英多 量、1~3チャ多 量	(1/1)	
113	1089	SDA96	脚部	(11.0)	(13.2)	ナデ・ケズリ/ナ デ・磨減	赤褐	0.5~1mm長、英、 0.5~2mmチャ多 量、赤	(1/2)	穿孔10カ所
113	1090	SDA96上層	底部	(5.6)	(4.1)	指ナデ・ハケ/ミ ガキ・ケズリ→ ナデ	淡黄褐	1mm長多量、 0.5~1.5mm英、 チャ	(1/1)	広口壺
113	1091	SDA104中層	壺	12.2	(6.7)	指痕・ハケ・ナ デ/ハケ	淡灰褐	3mm以下英、長、 チャ	1/5	広口壺D、内面に瘤 状突起
113	1092	SDA104中層	壺	9.0	(5.9)	ハケ・ナデ/ハケ	淡肌褐/ 断面:灰	2.5mm以下英、 長、チャ、赤	1/5	細頸壺
113	1093	SDA104中層	甕	14.4	(4.2)	ハケ・ナデ/ハ ケ・ナデ	淡桃褐	2mm以下英、長、 赤	1/6	甕Ba1、穿孔
113	1094	SDA104上層	甕	13.4	(2.5)	磨減/ヨコナデ	淡黄褐	2mm以下英、長、 赤	1/6	甕Ba
113	1095	SDA104中層	底部	(5.0)	(2.3)	磨減/ハケ	淡黄褐	3mm以下英、長	(1/1)	
113	1096	SDA104中層	甕	21.0	(4.0)	ヨコハケ・ナデ/ ヨコナデ・ハケ	淡茶褐- 濁肌褐/ 淡肌茶褐	3mm以下英、長、 チャ	1/10	
113	1097	SDA104上層	甕	19.8	(9.0)	ヨコナデ・磨減/ ハケ・指痕	肌/肌褐	4mm以下英、長、 チャ	1/8	外面にコゲ・スス
113	1098	SDA112下層	壺	21.8	(6.7)	ハケ・磨減/ヨコ ナデ	黄褐/ 橙褐	3mm以下英、長、 チャ	1/5	広口壺A7、内面に 帯状黒斑・スス
113	1099	SDA112	壺	13.2	(5.7)	ハケ・ナデ/ハケ	暗灰	0.5~1mm長多 量、英	1/1	広口壺D1、内面に 瘤状突起
113	1100	SDA112下層	壺	13.0	(6.7)	ハケ→ナデ/ヨコ ナデ・ハケ→ナ デ	淡褐	4mm以下英、長、 チャ、赤	1/6	直口壺
113	1101	SDA112上層	甕	26.4	(5.6)	ヨコナデ・磨減	茶褐・淡 肌/茶褐	3mm以下英、長、 チャ、雲、赤	1/12	
113	1102	SDA112上層	甕	18.6	(3.8)	ナデ	淡肌/ 淡肌・褐	2mm以下長、英、 チャ、赤	1/6	甕C5
113	1103	SDA112	甕	18.6	(4.0)	ヨコハケ/タテハ ケ	淡黄褐/ 暗褐	2mm以下長、英、 チャ、雲	1/5	甕Aa、外面にコ ゲ・スス
113	1104	SDA112	甕	17.6	(5.3)	ヨコハケ・ナデ/ ヨコナデ→タテ ハケ	淡肌/ 淡褐	4mm以下英、長、 チャ、赤	1/8	内面端部にスス、 外面にコゲ・スス
113	1105	SDA112上層	底部	(5.4)	(4.8)	磨減	淡灰褐/ 淡灰褐	3mm以下英、長、 チャ	(1/2)	
113	1106	SDA112	底部	(8.0)	(3.0)	磨減/ケズリ・ヨ コナデ、底面:ケ ズリ	淡黄褐	1~2mm長多量、 チャ多量、0.5 ~1mm英、5mm 小石	(2/3)	
113	1107	SDA112	底部	(11.0)	(6.8)	磨減/ケズリ、底 面:ケズリ	淡橙褐	0.5~3mm長多 量、0.5~2mm英、 チャ多量	(1/3)	
113	1108	SDA112上層	脚部	(12.4)	(7.3)	ナデ・磨減	黄褐/ 淡黄茶褐	4mm以下英、長、 チャ、赤	(1/6)	
113	1109	SDA112溝底	壺	15.6	29.3	ハケ・ナデ・磨 減/ミガキ・磨減	淡黄褐	1~3mm長多量、 チャ多量、 1~2mm英	2/3	広口壺Ec2

114	1110	SDC65	壺	16.7	(5.2)	ナデ	淡橙褐	0.5~1mm長微量、雲微量、0.5~2.5mm英、チャ、赤	1/5	広口壺Eb5、口縁端に穿孔2カ所
114	1111	SDC65南溝	甕	17.6	(3.4)	ナデ・ヨコハケ/ナデ・タテハケ	茶褐/黒褐	2mm以下長、英多量	1/6	甕Aa、外面にスス・黒斑
114	1112	SDC65南溝	高杯	内径15.4/ 外径21.6	(2.3)	ナデ・磨滅	淡褐/淡橙	2.5mm以下長、英	1/8	高杯B1
114	1113	SDC96	壺	14.4	(17.5)	ヨコナデ/ミガキ	淡黄褐/淡褐	1mm長、英多量	1/2	無頸壺
114	1114	SDC96	甕	17.0	(5.5)	ハケ・ナデ/ハケ→ナデ・タテハケ	淡褐	2~3mm長、英微量	1/6	甕Ac2
114	1115	SDC96	甕	19.4	(4.5)	ハケ/ヨコハケ・タテハケ	暗灰褐	1.5mm以下長、英多量	1/5	
114	1116	SDC62北溝下層	高杯脚部	(10.4)	(2.7)	ケズリ/ヨコナデ	淡黄褐	1mm長、英、チャ	(1/10)	絵画土器
114	1117	SDC103	壺	23.8	(28.4)	ヨコハケ・ナデ/タテハケ→ナデ	明淡褐	2~4mm小石多量	1/8	広口壺A2
114	1118	SDC103	甕	23.6	(6.7)	ヨコハケ/斜ハケ・タテハケ→ヨコハケ	淡褐	1.5mm長、英	1/3	甕C1
114	1119	SDC103	壺	27.6	(21.6)	ナデ・ヨコハケ・磨滅/ナデ・磨滅	明褐		1/5	広口壺A1、内面に瘤状突起
114	1120	SDC103	壺	(5.5)	(21.0)	ヨコハケ・磨滅/ヨコハケ→ナデ・磨滅	明褐		(1/1)	1119と同一個体
114	1121	SDC144	高杯	25.4	(11.4)	ナデ・ハケ・ミガキ/ハケ・ミガキ	淡黄褐		-	高杯A
114	1122	SDC144	甕	25.6	(4.5)	ヨコナデ・ハケ	濃褐	0.5~1mm長、英多量、チャ、0.5~2mm赤	1/12	甕Ba1
115	1123	SDC107	壺	14.2	(5.9)	磨滅	暗褐/灰褐	0.5mm長、0.5~2mm英、チャ、赤	1/5	直口壺
115	1124	SDC107	壺	22.1	(8.5)	ナデ・ヨコミガキ・タテミガキ/指痕・ハケ→ナデ・ヨコミガキ	暗褐	1~5mm長、英多量	1/5	広口壺A7、生駒西麓産
115	1125	SDC107	甕	17.7	(4.6)	ナデ/ナデ・タテハケ	淡褐-淡橙/明淡橙褐	2~3mm長、英	1/6	甕Aa
115	1126	SDC107	壺	8.4	(5.0)	指ナデ/タテハケ→ナデ	褐/淡褐	1.5~4mm長、英多量	1/4	
115	1127	SDC107	壺	9.8	(4.4)	指ナデ・ヨコハケ→ナデ/ヨコナデ	暗褐/淡褐	1.5~4mm長、英	1/4	
115	1128	SDC107	甕	19.0	(2.9)	ヨコハケ/タテハケ	淡褐-暗茶褐/淡褐	1.5mm以下長、英	1/4	甕C1
115	1129	SDC107	甕	20.8	(3.4)	ハケ	乳褐/暗茶褐	1~5mm長、英	1/4	甕C2
115	1130	SDC107	甕	14.6	(4.9)	ヨコハケ→ナデ/タテハケ・ヨコハケ	淡褐	1.5mm長、英	1/2	甕C2
115	1131	SDC107	甕	19.6	(5.8)	ハケ	明乳褐/乳褐	2mm以下長、英	1/1	甕C3
115	1132	SDC107	甕	17.6	22.5	ヨコハケ・ナデ/ヨコハケ・タテハケ	暗茶褐		1/1	甕C2
115	1133	SDC107	壺	20.5	36.5	ヨコハケ・指痕・磨滅/タテハケ・ミガキ			1/2	広口壺A7
115	1134	SDC107	壺	16.4	30.4	ナデ/ナデ・ヨコミガキ→タテミガキ			1/1	広口壺D5



観 察 表

115	1135	SDC107	壺	(5.5)	(28.4)	ナデ/ヨコナデ・ハケ・ミガキ・ナデ	淡褐	1mm長微量	(1/1)	広口壺D
115	1136	SDC107	水差	(9.4)	(41.6)	ナデ・磨減/ハケ・ミガキ・磨減	褐	0.5~1mm長、英多量	(1/1)	
116	1137	SDC99-3区	甕	13.6	(17.3)	ナデ→ヨコハケ/ナデ・タテハケ・ケズリ	淡褐	0.5~2mm英多量、1~4mm長、チャ	1/4	甕Ac4、肩以下にスス
116	1138	SDC99-3区	甕	12.4	(9.1)	ヨコナデ/ナデ・タテハケ	淡褐	1~2mm英、長、雲、1~3mmチャ	1/3	甕Ba1、全面にスス
116	1139	SDC99-5区	甕	14.4	(3.5)	斜ハケ/ヨコナデ・ハケ	橙褐	0.5mm長、英多量、チャ多量	1/6	甕Ba1、外面にスス
116	1140	SDC99-5区	甕	14.0	(8.5)	ケズリ・磨減/ヨコナデ・ハケ・磨減	暗灰褐/黄褐	0.5~1mm長多量、英多量、チャ多量	1/3	甕Bc
116	1141	SDC99東端	甕	14.4	(9.8)	ナデ・ケズリ・磨減/ナデ・タテハケ	暗黒灰/茶褐	0.5~1mm長、英多量	1/8	胴外面にスス
116	1142	SDC99-3区	甕	14.8	(5.3)	指痕・ナデ/ナデ・ハケ・磨減	淡橙褐	2~6mm英、2mm長、2~5mmチャ	1/2	甕Ba1
116	1143	SDC99	甕	14.0	(8.7)	ヨコナデ/ナデ・ハケ	淡黄褐	0.5~1.5mm長、チャ、英	1/4	甕Ba1、スス付着
116	1144	SDC99	甕	13.7	(11.0)	ナデ/ナデ・ハケ	明橙褐	0.5~2mm長、英、1~4mmチャ多量、0.5~1mm雲微量、赤微量	1/2	甕Ba1、外面にスス
116	1145	SDC99-3区	甕	13.0	25.3	ヨコナデ・ハケ/ヨコナデ・タタキ→ハケ・ケズリ			1/1	甕Bb2
116	1146	SDC99-3区	甕	13.6	(13.1)	ヨコナデ/ヨコナデ・タテハケ	淡褐	1~2mm英微量、角微量、長微量	1/4	甕Bb1、全面にスス、内面下半変色
116	1147	SDC99	甕	14.2	(15.0)	ヨコナデ・ハケ/ケズリ→タタキ	淡黄褐/黄褐	0.5~1mm長多量、英多量、角	1/3	甕Bb2
116	1148	SDC99-5区	甕	14.0	(4.1)	ナデ・ハケ/ヨコナデ・磨減	暗灰褐	0.5mm以下長、英、雲、チャ	1/8	甕Ba、外面にスス
116	1149	SDC99-5区	甕	16.0	(6.3)	ナデ・ハケ・磨減/ヨコナデ・タタキ→ハケ・磨減	暗灰褐	0.5mm長少量、英少量	1/4	甕Bb2
116	1150	SDC99	甕	18.6	(9.3)	ハケ→ナデ/ナデ・タテハケ	明褐	1.5mm長、英少量	1/5	甕Ba1
116	1151	SDC99	甕	29.6	(6.1)	ハケ・磨減/ヨコナデ・タテハケ	淡橙褐	1~2mm長、英多量、チャ多量、赤多量	1/5	甕Ba1
116	1152	SDC99	甕	28.0	(8.5)	ハケ→ナデ・ミガキ/ヨコナデ・ハケ	淡茶褐/茶褐	1mm長少量、英多量、雲	1/4	甕Bb1、口縁外面スス
116	1153	SDC99東溝	甕	27.5	(6.5)	斜ハケ・磨減/ハケ・磨減	淡橙褐	0.5~1mm長多量、英多量、チャ多量、雲多量、赤少量	(1/2)	甕Bc
116	1154	SDC99-3区	甕	26.0	(9.7)	ヨコハケ・指痕・斜ハケ/ヨコハケ・ナデ・タタキ→タテハケ	淡褐	1~3mm英、1~2mm長、雲、2~5mmチャ	1/3	甕D
116	1155	SDC99	甕	23.4	36.1	ヨコハケ・タタキ・斜ハケ・ナデ/ヨコナデ・タテハケ・ケズリ			1/5	甕Ba2、肩部以下にスス、中半コゲ
117	1156	SDC99	壺	34.0	(6.7)	ナデ/ハケ	淡褐	0.5~2mm赤多量、長多量	1/5	広口壺D4、穿孔
117	1157	SDC99	壺	20.9	(4.9)	ヨコナデ/ヨコナデ・磨減	黄褐	1mm長少量、0.5~2mm英多量	1/8	広口壺
117	1158	SDC99	壺	19.4	(11.3)	ナデ・ハケ/ナデ・タテハケ	明赤褐	1mm以下長、英多量	1/2	広口壺C4
117	1159	SDC99 灰色粘砂中層	壺	22.4	(12.3)	ナデ・ヨコハケ/ナデ	暗淡褐/明橙-暗淡褐-黒	1.5~3mm長、英	1/8	広口壺C4

117	1160	SDC99下層	壺	21.4/ (6.6)	35.7	ナデ・タテハケ/ ヨコナデ・ヨコ ミガキ・タテハ ケ			1/1	広口壺C4
117	1161	SDC99	壺	19.6	(6.6)	ハケ→ナデ/指 痕・タテハケ	橙褐	1mm長、英多量、3 ~7mmチャ少量	1/4	広口壺
117	1162	SDC99	壺	19.9	(5.1)	ナデ	淡茶褐	1~3mm長多量、 チャ、1~2mm英	1/4	広口壺C
117	1163	SDC99 灰色粘砂中 層	壺	14.6	(4.7)	ナデ/タテハケ→ ヨコナデ	明淡褐	3~5mm長、英	1/4	広口壺
117	1164	SDC99	壺	15.6	(6.1)	指痕・ナデ/タテ ハケ・磨減	橙褐	0.5~2mm長、英 多量、チャ多量、 赤微量	1/2	広口壺
117	1165	SDC99下層	壺	14.3	(5.5)	ヨコナデ・タテ ナデ・ハケ/タテ ナデ→ヨコナデ	橙褐	1mm長、英、雲、 チャ	5/8	広口壺D6
117	1166	SDC99	壺	24.2	(4.6)	ナデ/ヨコナデ	淡褐- 淡橙褐/ 暗褐- 淡橙褐	2mm以下長、英多 量	1/5	広口壺
117	1167	SDC99下層	壺	20.6	(16.3)	ナデ・ハケ/ハケ	淡褐	1~3mm英多量、 チャ、1~2mm長 多量、角、雲微量	2/5	広口壺C5
117	1168	SDC99	壺	21.6	(18.0)	ハケ→ナデ/ナデ	明淡褐- 淡橙褐/ 明淡褐- 淡橙褐- 暗淡褐	2mm以下長、英多 量、4mm以下赤	1/2	広口壺C5
117	1169	SDC99	壺	23.2	(11.0)	ヨコナデ	淡橙褐	~	-	広口壺C6
118	1170	SDC99下層	甕	17.4	(8.5)	ナデ・ハケ/ハ ケ・磨減	灰褐	1~2mm長少量、 英少量、チャ少 量	2/3	甕Ab2、黒斑
118	1171	SDC99 下層上面	甕	18.4	(9.3)	ハケ・ナデ・磨 減/ハケ	淡褐	2mm以下長、英多 量	1/5	甕C2
118	1172	SDC99	甕	17.2	(8.0)	ハケ・ナデ/ヨコ ハケ・タテハケ	灰褐	1mm長少量、英多 量、雲少量、チャ 多量	1/3	甕C2、外面にスス
118	1173	SDC99-3区	甕	18.0	(6.5)	ヨコハケ/ハケ・ 磨減	淡褐	2mm以下長、英多 量	1/4	甕C4
118	1174	SDC99	甕	17.8	(9.8)	ハケ/タテハケ・ ヨコハケ	暗灰褐	1mm長少量、英多 量、チャ	1/8	外面にスス
118	1175	SDC99-3区	甕	22.2	(5.0)	磨減	灰褐	0.5~2mm長多 量、チャ多量、 0.5~1mm英	3/4	甕C5、スス付着
118	1176	SDC99	甕	13.8	(8.6)	ナデ・指痕/タテ ナデ→ヨコナデ	黒褐	2mm長、英	1/1	甕C5
118	1177	SDC99	甕	15.6	(7.1)	ヨコハケ→ナデ/ 斜ハケ→ナデ	淡灰褐/ 乳褐- 暗茶褐	1~3mm長、英	1/3	甕C5
118	1178	SDC99	壺	17.4	(9.3)	ヨコナデ/磨減	淡褐	1~2mm英、チャ、 雲微量、角、1~ 3mm長多量	1/5	直口壺
118	1179	SDC99	壺	9.6	(14.7)	ナデ/ミガキ→ナ デ・ヨコナデ	暗淡褐/ 茶褐	2.5mm以下長、英 多量	3/4	直口壺
118	1180	SDC99	壺	11.2	(13.4)	タテナデ・ヨコ ナデ/ヨコナデ・ ハケ	橙褐	1~2mm長多量、 0.5~1mm英多量	1/2	広口壺Ec3
118	1181	SDC99-3区	壺	13.8/ (5.8)	推定32.8	ヨコナデ・ハケ/ ヨコナデ・タテ ハケ・ケズリ	橙褐	1~2mm英多量、 長	-	広口壺Eb3
118	1182	SDC99	壺	14.0	(8.5)	ヨコナデ・磨減/ ヨコナデ・タテ ハケ	淡褐	3mm以下長、英	1/4	有段口縁壺
118	1183	SDC99	台形 土器	18.8	(8.0)	指ナデ・タテハ ケ/ナデ	明灰 赤黄褐	2mm以下長、英	1/4	口縁外面にスス
118	1184	SDC99	多孔 鉢	(3.2)	(3.7)	ナデ/ハケ	淡褐	0.5~2mm英多 量、長、チャ微量	(1/1)	

観 察 表

118	1185	SDC99-3区	高杯	内径 15.0/ 外径 20.6	(5.8)	ミガキ/ヨコナ デ・ケズリ・ミ ガキ	暗茶褐	1~3mm英多量、2 ~3mm長多量、1 ~6mmチャ、1mm 角微量	1/1	高杯B3
118	1186	SDC99-4区	高杯	内径 16.0/ 外径 24.8	(2.7)	ミガキ/ミガキ・ ハケ	淡橙褐	1~2mm英多量、 0.5~3mm長多 量、3~5mmチャ 微量	1/6	高杯B3
118	1187	SDC99-3区 中層下部	高杯	内径 20.4/ 外径 28.0	(3.8)	ミガキ・ヨコナ デ/ヨコナデ・ケ ズリ	淡赤褐	1~2mm英多量、 長多量、0.5~ 1mmチャ多量	1/4	高杯B4
118	1188	SDC99 黒灰色粘砂	高杯 脚部	(7.0)	(6.6)	シボリ痕・指痕/ ナデ	淡橙褐	1~3mm英、1~ 2mm長、チャ、赤 多量、角	(1/1)	
118	1189	SDC99-4区 下層	高杯 脚部	(7.0)	(5.6)	シボリ痕・ナデ/ タテハケ	淡褐	1~2mm英、長、 チャ	(1/1)	
118	1190	SDC99-3区 中層下部	高杯 脚部	(10.6)	(10.7)	シボリ痕・ケズ リ/ミガキ	淡褐	1~2mm英微量、 長微量、チャ多 量、角微量、0.5 ~3mmチャ多量	(1/3)	
118	1191	SDC99 下層上面	高杯 脚部	(15.4)	(5.7)	ナデ/指痕・ヨコ ナデ	明淡褐- 淡橙/ 淡褐	3~6mm小石多量	(5/6)	
118	1192	SDC99東溝	高杯 脚部	(14.4)	(5.4)	ケズリ・ヨコナ デ・ハケ/ケズ リ・ミガキ・ヨ コナデ	淡橙褐	1~3mm英多量、1 ~2mm長、赤微 量、雲微量	(3/4)	
118	1193	SDC99-4区	脚部	(11.0)	(8.0)	ナデ・磨滅/磨滅	淡褐	1~3mm英多量、 長多量、チャ多 量	(1/1)	
118	1194	SDC99	脚部	(18.5)	(8.8)	ナデ/板ナデ	淡褐- 赤褐/ 暗淡褐	2mm以下長、英	(1/2)	
118	1195	SDC99 黒灰色粘砂	脚部	(11.2)	(8.5)	ケズリ・ナデ・ シボリ/ヨコナ デ・磨滅	淡赤褐	1~2mm英多量、 長多量、チャ多 量	(1/2)	
118	1196	SDC99 下層上面	底部	(8.0)	(8.0)	指痕・ナデ/タテ ハケ	黒灰/ 明淡褐- 暗淡褐	1~3.5mm長、英		
118	1197	SDC99-3区 中層下部	脚部	(17.0)	(9.5)	ヨコナデ・シボ リ・ハケ/ヨコナ デ・ハケ	橙褐	1~3mm英多量、1 ~7mmチャ、1~ 2mm長多量、赤	(1/4)	
119	1198	SDC488	壺	(6.4)	(28.5)	タテナデ・ハケ/ 板ナデ・ケズリ →ナデ	淡褐	~	(1/1)	底面に木の葉圧 痕、外面に黒斑
119	1199	SDC488	鉢	20.0	(10.7)	ハケ・磨滅/ヨコ ハケ→ハケ・磨 滅	明淡褐- 淡灰褐	2.5mm以下長、 英、赤	1/8	
119	1200	SDC488	壺	10.1	(17.2)	ヨコハケ・ナデ/ ヨコハケ・磨滅	明淡褐	3~7mm小石多量	1/6	広口壺F1
119	1201	SDC110	壺	10.0	(4.2)	ハケ/ヨコハケ→ ナデ・タテハケ	黒灰/ 茶褐	2.5mm以下長、英	1/4	
119	1202	SDC109	壺	20.2	(12.2)	ナデ/ナデ・タテ ハケ	淡橙褐	1~4mmチャ多 量、0.5~1.5 mm赤多量、角微 量、雲微量、黒多 量、英微量	1/1	広口壺D4
119	1203	SDC110	甕	21.0	(8.3)	ハケ・ナデ/タテ ハケ	淡褐/ 黒褐	2mm長、英	1/2	甕C3
119	1204	SDC110	甕 底部	(4.5)	(6.8)	ナデ/タテハケ、 底面:ナデ	淡褐/ 黒褐	2mm長、英	(3/4)	1203と同一個体、 内面にコゲ
119	1205	SDC110	壺	(5.6)	(12.6)	指ナデ/ケズリ→ ミガキ	黄茶褐	0.5~2mm長、 0.5~4mm英多 量、チャ多量	(1/1)	
119	1206	SDC110	壺	20.0/ (7.0)	37.1	ヨコハケ・ナデ/ ナデ・板ナデ	淡褐	2~3mm長、英多 量	9/10	広口壺Ec1
119	1207	SDC109	甕	16.0/ (7.2)	33.25	ヨコハケ・ナ デ・指痕/ヨコナ デ・ハケ・ミガ キ	淡橙褐	1~3mm 小石		広口壺Ec1、底面に 木の葉圧痕

120	1208	SDC118	甕	21.4	(8.0)	ヨコハケ・指ナデ/ヨコナデ・タテハケ	淡褐	0.5~2mm長、英、チャ、0.5~3mm赤	1/12	
120	1209	SDC118	甕	14.6	(3.9)	指ナデ/ナデ・ハケ	淡橙褐	0.5~1mm長、赤、雲、0.5~2mm英、チャ	1/8	
120	1210	SDC118	底部	(5.8)	(6.5)	指ナデ/指痕→タテハケ	淡褐/橙褐	0.5~1mm長、0.5~2.5mm英、チャ多量	(1/1)	底面に木の葉圧痕
120	1211	SDC118	底部	(6.0)	(6.4)	指ナデ・指痕/ハケ、底面:ナデ	黒/橙褐	0.5~2mm長、英、チャ、赤微量	(3/4)	底面に木の葉圧痕
120	1212	SDC331	甕	29.6	(6.9)	ヨコハケ/ナデ・タテハケ	黒褐	2mm長、英	1/8	
120	1213	SDC331	甕	16.2	(4.8)	ナデ/タテハケ→ヨコナデ	橙褐/暗橙褐	3mm以下長、英	1/4	甕Aa
120	1214	SDC331	壺	18.5	(8.1)	ナデ/ヨコナデ・斜ハケ	明赤茶褐	2~3mm長、英	1/2	有段口縁壺
120	1215	SDC112b	鉢	42.0	(13.0)	ケズリ→ナデ/ナデ・ミガキ	橙褐	0.5~2.5mm英、チャ、赤	1/8	鉢B
120	1216	SDC112b	壺	16.2	(43.5)	ハケ・ナデ/ハケ	暗茶灰/暗茶灰褐		1/8	胴外面に黒斑
120	1217	SDC112b	壺	16.8	(5.2)	ナデ・磨滅	乳褐	2~3mm長、英多量	1/4	広口壺Ec1
120	1218	SDC112b 下層	壺	18.6	(5.0)	ヨコハケ/ナデ	淡褐	1~2mm長、英、赤、1~4mmチャ	2/5	広口壺Eb2
120	1219	SDC112b	壺	10.8	(7.9)	ハケ・ナデ/タテハケ	淡橙褐		3/5	広口壺F1
120	1220	SDC112b	壺	11.5	(3.5)	ヨコハケ/ナデ	黒褐	1~2mm長、英	1/6	広口壺
120	1221	SDC112b	壺	14.2	(5.6)	ナデ・指痕/ヨコナデ	淡褐	1mm長、英少量	1/4	広口壺Eb5
120	1222	SDC112b	甕	19.4	(6.7)	ナデ/ナデ・タテハケ・磨滅	橙褐	1mm長、英多量	1/6	甕Bc
120	1223	SDC112b	底部	(5.6)	(3.6)	磨滅/ナデ・磨滅	淡褐、底面:黒	0.5~1mm長、0.5~2.5mm英、赤、1~4mmチャ	(3/4)	底面に木の葉圧痕
120	1224	SDC112b	高杯	内径14.8/ 外径20.4	(2.2)	ナデ/ナデ・ミガキ	淡褐	1mm以下長、英多量	1/8	高杯B1
120	1225	SDC112b	高杯 脚部	(12.5)	(9.2)	ケズリ・ヨコハケ・シボリ痕/ナデ・ハケ	淡橙褐	1mm長、英		
121	1226	SDC134	壺	31.6	(10.1)	ナデ・ハケ/ヨコハケ・タテハケ	淡橙褐	0.5~3mm英、長、赤、雲、チャ	1/4	有段口縁壺
121	1227	SDC134	壺	14.7	(8.3)	ナデ/ナデ・タテハケ	茶褐	1mm長、英	1/10	有段口縁壺
121	1228	SDC134 突出部	壺	10.0	(4.9)	磨滅	黄褐	0.5mm長少量、英少量、赤多量	1/4	有段口縁壺
121	1229	SDC134 突出部	蓋	(17.5)	(3.4)	ナデ・ハケ/ハケ・ヨコナデ	黒灰	0.5mm長、英多量	1/4	
121	1230	SDC134	甕	15.0	(5.3)	ナデ・ケズリ/ナデ	淡茶褐	1.5mm以下長、英多量	1/4	甕Ba1、外面にスス
121	1231	SDC134	壺	21.2	(5.8)	ナデ/ナデ・ハケ	明赤茶褐	2mm長、英	1/8	広口壺
121	1232	SDC134	壺	21.7	(6.3)	ナデ/タテハケ→ナデ	茶褐	1~2mm長、英	1/8	広口壺
121	1233	SDC134	甕	28.2	(13.5)	ヨコハケ・指ナデ/ヨコナデ・タテハケ	淡黄褐	3~4mm長、英	1/6	甕Aa4、胴外面にスス
121	1234	SDC134	甕	27.2	(9.0)	ナデ・ヨコハケ・指痕・磨滅/タテハケ→ヨコハケ・磨滅	明黄褐	1mm長、英	1/6	甕C2、外面口縁端にスス、外面に黒斑
121	1235	SDC134	甕	15.0	(7.7)	ナデ・指痕・磨滅/ナデ・タテハケ・磨滅	明褐	0.5~1mm長、英多量	1/8	口縁外面にスス、胴外面はスス状変色
121	1236	SDC134	甕	13.3	(15.5)	ナデ・ハケ・ケズリ/ナデ・ハケ	茶褐	1~2mm長、英	1/12	外面にスス
121	1237	SDC134	甕	17.0	(8.6)	ナデ・ハケ	淡褐	0.5~1mm長、雲、赤、1~2mm英、チャ	1/8	

観 察 表

121	1238	SDC134	甕	14.2	(10.1)	ナデ・指痕/ハケ →ナデ・タテハ ケ・ケズリ	黒褐	2mm長、英少量	1/6	甕Bb1、外面にスス
121	1239	SDC134	甕	13.6	(3.5)	ヨコハケ→ナデ/ ナデ	淡褐		1/6	
121	1240	SDC134	壺	10.0/ (5.4)	17.5	ハケ→ナデ/タテ ハケ→ナデ・ヨ コミガキ、底面： ナデ	橙褐		1/2	広口壺F1、瘤状突 起は対角線上に2 個ずつ、黒斑
121	1241	SDC134	壺	10.2/ (4.4)	16.4	ヨコナデ・指ナ デ/タテハケ・ハ ラケズリ・指痕	黄白	2.5mm以下長、英	1/2	広口壺D4、胴部穿 孔
121	1242	SDC134	高杯 脚部	-	(8.8)	杯：ヨコミガキ、 脚：シボリ・ナデ /タテミガキ	明褐	長、英	-	外面破損後にスス
121	1243	SDC134	高杯 脚部	(9.1)	(6.5)	杯：ナデ、脚：ケズ リ→ナデ/タテハ ケ→ナデ	赤茶褐	2mm長、英少量	(1/2)	外面にスス
121	1244	SDC437	壺	23.4	(39.2)	ヨコハケ・指 痕・ケズリ→ナ デ/指痕・ハケ→ ナデ・ミガキ	褐		4/5	広口壺A2
122	1245	SDC470 最上層	壺	23.2	(13.2)	ナデ・ハケ/ハケ	淡褐	0.5~1mm英、長、 チャ、雲微量	1/8	広口壺
122	1246	SDC470	底部	(5.5)	(7.0)	ナデ/ハケ・指痕	暗茶褐/ 淡橙褐- 暗茶褐	0.5~2mm長多 量、チャ、1~3mm 英	(1/3)	外面にスス
122	1247	SDC485	甕	17.0	(4.7)	ヨコハケ/ナデ・ タテハケ	淡褐	0.5~1mm長、雲、 0.5~2mm英	1/6	甕Aa
122	1248	SDC469 上層	甕	21.0	(5.6)	ヨコハケ/ナデ・ ハケ	淡灰褐	0.5~1mm英少 量、0.5~2mm チャ	1/4	甕Ab3
122	1249	SDC513	甕	23.0	(5.6)	ハケ	灰褐	0.5~1mm英、長 多量	1/3	甕C2
122	1250	SDC513	甕	18.0	(4.5)	ハケ	灰褐	0.5~1mm長多 量、チャ、赤微 量、1~2mm英	1/4	甕C2
122	1251	SDC513	甕	28.0	(5.4)	ハケ	淡褐	0.5~1mm長、 チャ、赤微量、 0.5~2mm英	1/6	甕C2
122	1252	SDC513	壺	14.6	(7.5)	ナデ/ナデ・タテ ハケ	淡褐	0.8~1mm長、 0.5~2mmチャ多 量、英多量	1/6	直口壺
122	1253	SDC513	壺	13.8	(6.5)	ナデ・ハケ/ナ デ・タテハケ	淡褐	0.5~1mm長、英、 雲、0.5~3mm チャ	1/2	広口壺D3、瘤状突 起
122	1254	SDC513	壺	18.0	(7.2)	ハケ→ナデ・ヨ コハケ/タテハケ	淡褐	長、英多量	1/2	広口壺Eb3
122	1255	SDC513	壺	24.0	(33.7)	ヨコハケ・タテ ハケ→ナデ/タテ ハケ・ナデ・磨 減	明淡黄灰 褐/ 淡褐- 灰褐- 黒灰	3~4.5mm小石、 長、英	1/2	広口壺A7、瘤状突 起、胴外面に黒斑
122	1256	SDC513	蓋	14.7	(3.2)	ナデ・指痕/ナデ	灰褐	1mm長微量、英、 赤微量、0.5~ 5mmチャ	1/3	穿孔2カ所
122	1257	SDC513	壺	15.8/ (4.8)	17.0	ナデ/ハケ→ナ デ・ミガキ・指 痕	淡褐	0.5~2mm長、 チャ、英、赤	1/6・ (1/1)	無頸壺
122	1258	SDC513	甕	15.0	(9.0)	斜ハケ/ナデ・ハ ケ	淡褐	0.5~2mmチャ、 英、雲	1/4	甕D、外面にスス
122	1259	SDC513	甕	13.8	(7.3)	ケズリ→ナデ/タ テハケ→ナデ	褐	0.5~1mm長、雲 微量、赤微量、1 ~3mmチャ、0.5 ~2mm英	1/2	
122	1260	SDC513	甕	13.8	(8.8)	ナデ・磨減/ナ デ・ハケ	赤褐	1~4mmチャ多 量、0.5~3mm英 多量、0.5~ 4mm赤	1/2	

122	1261	SDC513	高杯	内径 20.0/ 外径 28.4	(5.0)	ナデ・ミガキ	橙褐	1~2.5mmチャ、 英、0.5~2mm赤	1/12	高杯B2
122	1262	SDC513	高杯 脚部	(12.4)	(9.1)	タテナデ・ヨコ ナデ/タテハケ・ ナデ	橙褐	0.5~1mm長、英、 雲微量、1~ 3mmチャ	1/3	
122	1263	SDC513	底部	(4.8)	(6.7)	ハケ・ナデ/ナデ	淡褐	0.5~1mm長、英、 雲微量、1~ 3mmチャ	(1/1)	
122	1264	SDC513	壺	37.8	(14.9)	ヨコハケ→ナデ/ ヨコハケ→ナ デ・タテハケ・ 指痕	淡褐	0.5~1mm長微 量、赤、0.5 ~3mmチャ多量、 英多量	1/4	有段口縁壺
123	1265	SDD33	甕	24.4	(20.0)	ヨコハケ・ナデ/ ハケ	灰褐	2mm長少量、 1mm英、チャ	1/6	甕Ab2、口縁端は押 圧で変形、外面ス ス
123	1266	SDD18	壺	29.6	(7.3)	磨滅/ナデ	淡褐	2~5mm英、0.5 ~2mm長多量、角 多量	1/12	広口壺
123	1267	SDD18	底部	(9.0)	(6.1)	磨滅	淡褐・ 淡橙褐/ 淡褐	0.5~1mm英多 量、長多量	(1/1)	
123	1268	SDD18	底部	(5.8)	(2.2)	ナデ・指痕/ハケ	暗褐	1~3mm長、 0.5mm英、チャ	(1/1)	
123	1269	SDD19	壺	25.6/ (6.5)	(41.0)	ハケ・指ナデ・ 磨滅	淡橙褐	0.5~4mm長、 0.5~2mmチャ	1/3	広口壺A1
123	1270	SDD17東溝	手焙 形土 器	鉢部径 16.2	16.8	覆:指痕・ヨコナ デ、鉢:ヨコナ デ・ナデアゲ/ 覆:ハケ→ナデ・ タテハケ→ナデ、 鉢:ヨコナデ・ハ ケ→ナデ	橙褐	5mm長、英微量	鉢部 7/10・覆 部9/10	
123	1271	SDD17	甕	20.4	(7.3)	ナデ・磨滅/ハケ	灰褐	0.5~2mm長多 量、0.5~1mm英、 チャ、赤	1/4	甕Aa2、スス付着
123	1272	SDD42	甕	20.4	(12.2)	ハケ・ナデ/ヨコ ナデ・ハケ	淡茶褐	2mm長少量、英、 チャ	1/3	甕Aa2、内面最大径 付近に黒斑、外面 スス
123	1273	SDD38	壺	21.8	(7.2)	ナデ・ハケ/ヨコ ナデ・指痕・ミ ガキ	淡橙褐	1mm長多量、英、 チャ、 0.5mm赤多量	1-5	広口壺A
123	1274	SDD20東溝	壺	17.5	(19.2)	指痕/タテハケ・ →ナデ		0.5~1mm長、1 ~2.5mmチャ、 0.5~2mm英、赤		広口壺A1
124	1275	SDC25上層	甕	17.6	(3.1)	ハケ	灰褐	0.5~2mm長、英、 チャ多量、0.5~ 1mm赤微量	1/5	甕C2
124	1276	SDC25上半	甕	18.0	(3.5)	ナデ・ハケ/ヨコ ハケ	灰褐	0.5~2mm長多 量、0.5~3mm英、 0.5~1mmチャ	1/5	甕C4
124	1277	SDC25上半	甕	19.0	(4.1)	ハケ	淡褐/ 灰褐	0.5~2mm長多 量、英、チャ、 0.5mm赤微量、雲 微量	1/6	甕C4
124	1278	SDC25上半	甕	13.0	(4.0)	ハケ・ナデ	橙褐	0.5~1mm長、雲、 0.5~2.5mm英、 チャ	1/4	甕Aa
124	1279	SDC25上層	甕	19.8	(5.4)	ヨコナデ・ハケ/ ヨコナデ・磨滅	橙褐	0.5~1.5mm長、 チャ、0.5~ 2.5mm英、赤微量	1/5	甕Ba、頸径17.4cm
124	1280	SDC25上層	壺	22.0	(11.3)	ヨコナデ/ハケ・ ヨコナデ・タテ ハケ	淡茶褐	0.5~1mm長、赤 0.5~3mm英、 0.5~6mmチャ	1/4	有段口縁壺
124	1281	SDC25上半	壺	11.8	(4.0)	ヨコハケ/磨滅	黒灰	0.5~1mm長、 0.5~2.5mm英、 チャ	1/4	広口壺F
124	1282	SDC25上半	壺	12.0	(3.0)	ナデ・ハケ	淡褐	0.5~1mm長、英 多量、0.5~2 mmチャ多量	1/6	広口壺D4

観 察 表

124	1283	SDC25上半	壺	13.0	(5.2)	ナデ/ハケ	淡褐	0.5~1mm長、 チャ、英	1/4	広口壺D4
124	1284	SDC25上半	壺	12.0	(2.3)	ナデ	赤褐	0.5~1mm英、赤、 0.5~2mmチャ	1/6	広口壺D5
124	1285	SDC25上半	壺	20.4	(5.0)	ハケ/ナデ・ハケ	淡橙褐	0.5~1mm長、赤 微量、0.5~2.5 mm英多量、1~ 3mmチャ多量	1/4	広口壺D4
124	1286	SDC25上層	壺	19.2	(8.5)	ヨコナデ	淡褐		1/1	広口壺C4
124	1287	SDC25上半	壺	15.6	(5.2)	ナデ/ヨコナデ・ タテハケ	赤灰褐	0.5~1mm長、 チャ、0.5~2mm 英	1/5	広口壺Ea5
124	1288	SDC25上層	長頸 壺	10.8	(11.9)	ヨコナデ/ナデ	淡橙褐	0.5~2.5mm長、 英、赤微量、チャ	2/3	細頸壺
124	1289	SDC25上層	壺	10.0	(11.2)	ナデ・磨減/タタ キ	淡褐	1~3mm英多量、 1~5長多量、 チャ、1mm角微 量	1/1	
124	1290	SDC25上層	鉢	20.4	(8.4)	ナデ/ミガキ	茶褐	0.5~2mm長、英、 0.5~3mmチャ、 0.5~1mm赤微 量、雲	1/3	鉢A
124	1291	SDC25上層	鉢	13.0	(4.5)	ヨコナデ	淡褐	0.5~1mm長、赤、 0.5~4mm英、 0.5~3mmチャ	1/6	外面に黒斑
124	1292	SDC25上半	器台 脚部	(18.8)	(3.8)	ナデ	淡褐	0.5~2mm英、長、 チャ、1mm雲微量	(1/6)	
124	1293	SDC25上半	ミニチュア 蓋	-	(6.1)	ナデ/板ナデ	淡褐	0.5~1mm長、赤、 0.5~2mm英多量	1/4	ツマミ径3.7cm
124	1294	SDC25上半	脚部	(9.0)	(5.7)	ハケ・ナデ/ミガ キ、脚端:ナデ	暗褐	0.5~4mm英、 0.5~2.5mm チャ、0.5~1mm 長	(1/1)	
124	1295	SDC25上半	高杯 脚部	(13.4)	(8.5)	シボリ痕・ミガ キ・ナデ/ミガ キ・ナデ	赤茶	0.5~2mm長、1 ~5mm英、0.5 ~3mmチャ	(1/4)	
124	1296	SDC25上半	高杯 脚部	(13.0)	(5.5)	ヨコハケ/タテハ ケ、脚端:ナデ	褐	0.5~1.5mm英、 赤、チャ	(1/3)	
124	1297	SDC25上半	高杯 脚部	(13.4)	(3.2)	ケズリ/ミガキ、 脚端:ナデ	濃褐	0.5~1mm長、雲、 0.5~2mm英多 量、チャ多量	(1/4)	
124	1298	SDC25上半	底部	(5.2)	(5.4)	ケズリ・磨減/ハ ケ・磨減	白褐	0.5~2.5mm長、 英多量、チャ多 量	4/5	
124	1299	SDC25上半	底部	(6.2)	(5.9)	ナデ/タテハケ・ ナデ	橙褐	0.5~3mm英多 量、0.5~2mm チャ多量、赤	(1/3)	
124	1300	SDC25上層	底部	(9.2)	(4.7)	ナデ/ケズリ・ナ デ	淡橙褐	0.5~2mm長、 チャ多量、0.5~ 4mm英	1/3	
124	1301	SDC25上半	底部	(15.0)	(4.3)	板ナデ・磨減/ハ ケ→ナデ	淡褐	0.5~1mm長微 量、0.5~3mm英 多量、チャ多量、 0.5~2mm赤	(1/3)	
124	1302	SDC25中層	甕	13.0	(4.2)	ヨコナデ/ヨコナ デ・ハケ	淡褐	1mm長、英微量	1/4	甕Ba1
124	1303	SDC25中層	甕	14.4	(5.6)	ヨコナデ・ハケ/ ハケ→ヨコナデ	淡橙褐	1mm長、英	1/4	甕Ba1
124	1304	SDC25中層	甕	12.8	(7.7)	ヨコナデ・指痕/ ヨコナデ・ハケ	褐/暗褐	1mm長、英微量	1/4	甕Ba2
124	1305	SDC25中層	甕	15.8	(2.4)	ヨコナデ・ハケ/ ヨコナデ	茶褐	0.5mm長、0.5~ 2mm英多量、チャ	1/6	甕Ba
124	1306	SDC25中層	甕	15.8	(6.3)	ヨコナデ/ヨコナ デ・ハケ	暗茶褐	1mm長、英多量	1/5	甕Ba1
124	1307	SDC25中層	甕	16.9	(5.6)	ヨコナデ・ハケ	暗茶褐	1~2mm長、英多 量	1/3	甕C4
124	1308	SDC25中層	甕	20.0	(11.4)	ヨコナデ・ヨコ ハケ/ヨコナデ・ タテハケ	淡褐	1~2mm英多量、 長、1~3mmチャ	1/4	甕Aa3

125	1309	SDC25中層	壺	19.0	(9.2)	ハケ・磨滅/ヨコナデ・ハケ・ミガキ	橙褐	1mm英微量、3mm長	1/5	広口壺Eb1
125	1310	SDC25中層	甕	31.8	(7.2)	ヨコナデ・ナデ	橙褐	1~2mm長、英微量	1/4	甕Ba1
125	1311	SDC25中層	壺	19.2	(4.1)	ナデ/ナデ・ハケ	淡褐	0.5~1mm英、チャ、1~2mm長多量	1/5	広口壺
125	1312	SDC25中層	壺	20.0	(9.2)	ハケ・ヨコナデ/ナデ	淡茶褐	0.5~1mm長、赤微量、0.5~4mm英多量、0.5~2mmチャ多量	1/3	広口壺C4
125	1313	SDC25中層	壺	21.8	(8.3)	ナデ・磨滅/ハケ	淡灰褐	0.5~3mm長、0.5~2mm英多量、赤微量、チャ多量	1/8	広口壺D6、穿孔
125	1314	SDC25中層	壺	26.0	(5.1)	磨滅	淡橙褐	1mm長多量、チャ多量	1/6	広口壺D6
125	1315	SDC25中層	壺	27.6	(4.4)	磨滅/ヨコナデ	橙褐	0.5~1mm英多量、長	1/5	広口壺
125	1316	SDC25中層	壺	36.6	(10.0)	ナデ・ヨコハケ・タテハケ/タテハケ	淡褐	0.5~2mm長、英、赤、チャ	1/8	口縁に穿孔
125	1317	SDC25中層	壺	26.0	(9.8)	ナデ	暗黄茶褐	0.5~1mm英、チャ、1~2mm長多量	1/6	広口壺D4
125	1318	SDC25中層	壺	24.6	(9.1)	磨滅/ハケ・ヨコナデ	橙褐	0.5~2mm長多量、英、チャ、赤多量	1/4	広口壺D
125	1319	SDC25中層	鉢	内径16.2/ 外径19.4	(6.0)	ミガキ・磨滅/磨滅	淡灰褐	0.5~1.5mm英、長、チャ多量	1/4	
125	1320	SDC25中層	高杯	17.8	(5.5)	ミガキ・ナデ/ミガキ	淡褐	1mm英微量、長微量、0.5~2mmチャ多量	1/5	高杯A
125	1321	SDC25中層	壺	8.2	(6.5)	指ナデ/タテハケ	淡褐	0.5~1mm長、赤、1~2.5mm英多量、0.5~2mmチャ多量	2/5	無頸壺、頸に穿孔1カ所
125	1322	SDC25 灰色粘質砂	高杯	内径21.0/ 外径29.0	(5.8)	ミガキ/ミガキ・ヨコナデ	淡褐	0.5~1mm長、0.5~2mm英多量、赤多量、0.5~3mmチャ多量	2/5	高杯B4
125	1323	SDC25中層	高杯	内径14.4/ 外径20.6	(5.9)	ヨコナデ・ミガキ/ナデ・ハケ・ミガキ	赤褐	0.5~1mm英、チャ、1~2mm長多量	1/5	高杯B1
125	1324	SDC25中層	高杯	内径18.8/ 外径27.2	(4.4)	ナデ/ナデ・ケズリ	淡褐	1~1.5mm英、チャ、0.5~1mm長	1/4	高杯B4
125	1325	SDC25中層	底部	(5.8)	(3.5)	ナデ/ケズリ	淡褐	0.5~2.5mm赤多量、1~4mmチャ多量、1~2mm英、長微量、0.5~1mm角微量、黒	(1/1)	
125	1326	SDC25中層	底部	(9.2)	(5.8)	ナデ/タテハケ・ヨコナデ	淡褐	1~7mmチャ、1~2mm英微量、角微量、0.5mm黒多量	(1/1)	
125	1327	SDC25中層	高杯 脚部	(14.0)	(13.2)	ケズリ・ヨコナデ/ミガキ	淡褐	0.5~1mm英多量、チャ、長、雲微量	(1/3)	
125	1328	SDC25中層	高杯 脚部	(16.0)	(7.5)	ケズリ・ヨコナデ/ミガキ・ヨコナデ	淡茶褐	1mm以下英多量	(1/4)	
125	1329	SDC25中層	脚台	(6.2)	(5.8)	指痕/ナデ	淡褐	1~3mm英多量、1~4mm長、1~5mmチャ多量	(1/2)	



観 察 表

126	1330	SDC25下層	甕	13.0	(6.0)	ナデ・ヨコハケ/ ナデ・タテハケ	淡褐	0.5~2mm長、 チャ多量	1/4	甕Ab3
126	1331	SDC25下層	甕	16.0	(4.1)	ナデ・斜ハケ/ナ デ・磨減	淡褐	0.5~1.5mm英微 量、長、チャ多 量、赤	1/4	甕D
126	1332	SDC25下層	甕	19.8	(7.5)	ヨコハケ・斜ハ ケ/ナデ・ハケ	淡褐	1mm英、雲微量、 赤、シヤ、1 ~4mm長多量、 1~2mmチャ多量	1/8	甕D
126	1333	SDC25下層	甕	20.8	(4.1)	ヨコハケ/ナデ・ タテハケ	淡灰褐	0.5~1.5mm英多 量、長多量、チャ 多量、雲	1/6	甕C2
126	1334	SDC25下層	甕	12.8	(5.8)	ナデ・ハケ/ヨコ ナデ・ハケ	淡褐	1~2mm英多量、 チャ多量、1mm長	1/5	外面にスス
126	1335	SDC25下層	甕	12.7	(4.7)	ナデ・磨減/磨減	淡赤褐	1~2mm長、英	1/4	甕Ba
126	1336	SDC25下層	壺	16.0	(7.3)	ヨコナデ・磨減	淡褐	1~2mm英多量、 長多量、雲微量、 黒微量、1~7mm チャ	1/4	広口壺Ec5
126	1337	SDC25下層	壺	14.0	(6.1)	ナデ・斜ハケ/ヨ コナデ	橙褐	1~2mm英多量、 長多量、1~3mm チャ、1mm角微量	1/4	広口壺Ec5
126	1338	SDC25下層	甕	20.2	(5.0)	ヨコナデ・ヨコ ハケ/ヨコナデ・ タテハケ	淡褐	1~2mm英、チャ、 2~3mm長微量	1/8	
126	1339	SDC25下層	壺	17.6	(7.0)	ナデ/タテハケ	灰褐	0.5~1mm長、赤、 雲微量、0.5~ 2.5mm英	1/2	広口壺C4
126	1340	SDC25 最下層	壺	21.2	(6.6)	磨減/ヨコナデ・ タテハケ	橙褐	1~2mm英多量、 1~3mm長多量、 チャ多量	1/8	広口壺C5
126	1341	SDC25下層	壺	19.0	(7.5)	ナデ・磨減/ヨコ ナデ	淡褐	0.5~1mm長、雲 微量、0.5~3.5 mm英、0.5~2 mm チャ	1/3	広口壺C4
126	1342	SDC25下層	壺	18.0	(3.6)	磨減	淡赤褐	1mm長、英微量	1/4	広口壺
126	1343	SDC25下層	壺	20.0	(8.0)	ヨコハケ・指痕/ 指痕・タテハ ケ・ヨコナデ	淡褐	1~3mm英多量、 1~2mm長、チャ	1/2	広口壺D、口縁内面 に瘤状突起
126	1344	SDC25下層	壺	25.7	(6.7)	磨減	淡褐	0.5~1mm英微 量、長微量、チャ 多量、赤多量	2/3	広口壺D
126	1345	SDC25下層	壺	11.3	(5.2)	ヨコナデ・ハケ/ ヨコナデ・タテ ハケ	淡褐	0.5~2mm英、長 多量、0.5~3mm チャ多量、0.5mm 赤微量	1/4	広口壺D1、口縁内 面に貼付突起
126	1346	SDC25下層	壺	12.0	(4.3)	ナデ/ヨコナデ・ タテハケ	淡橙褐	0.5~1mm英、長、 雲微量、0.5~ 2mmチャ多量	1/4	直口壺
126	1347	SDC25下層	壺	16.8	(7.6)	ヨコナデ・ナデ	暗橙褐	0.5~3mm英多 量、0.5~1mm長 多量、0.5~2mm チャ多量	1/4	有段口縁壺
126	1348	SDC25下層	壺 底部	(5.4)	(10.9)	ハケ	淡褐	1~2mm長、英微 量	(1/1)	
126	1349	SDC25下層	壺 底部	(6.0)	(7.5)	ハケ/ミガキ	橙褐	0.5~1mm長、雲 微量、0.5~3.5 mm英、0.5~2mm チャ	(3/4)	
126	1350	SDC25下層	底部	(8.0)	(5.2)	ナデ/ハケ・ヨコ ナデ	淡赤茶	0.5~1mm英、長、 雲微量、0.5~ 2mmチャ多量	(2/3)	
126	1351	SDC25下層	底部	(6.2)	(3.8)	ナデ/ハケ、底面: ナデ	淡褐	0.5~2mm長、1~ 3mm英多量、チャ	(1/2)	
126	1352	SDC25下層	高杯 脚部	(8.4)	(5.7)	ナデ/ミガキ・ナ デ	淡褐	0.5~1mm英微 量、長、チャ	(1/3)	
126	1353	SDC25下層	ミチュ 7土器	5.1/ (3.0)	6.0	ナデ/ナデ・指痕	淡褐	1~2mm英、長、 チャ	(1/1)	口縁内面に瘤状突 起、底面に木の葉 圧痕

126	1354	SDC25下層	高杯	内径 20.0/ 外径 26.8	(6.3)	ミガキ・ハケ→ ナデ・磨滅/ミガ キ・ナデ	赤褐	1~2mm長、英微 量	1/4	高杯B3
126	1355	SDC25下層	高杯 脚部	(11.2)	(11.6)	シボリ痕・ナデ/ ミガキ→ナデ・ 磨滅	淡褐	0.5~1mm長、 チャ多量、雲微 量、0.5~2mm英	(1/16)	
126	1356	SDC25下層	高杯 脚部	(12.8)	(5.6)	ヨコナデ/ミガ キ・ヨコナデ	淡褐	1mm英微量、1 ~2mm長多量、 1~3mmチャ多量	(1/3)	
126	1357	SDC25下層	高杯 脚部	(11.2)	(7.2)	シボリ痕・ケズ リ・ヨコナデ/ヨ コナデ	淡橙褐	1~6mm英、1 ~3mm長、1 ~2mmチャ微量	(1/1)	
126	1358	SDC25下層	高杯 脚部	(12.2)	(4.9)	ナデ/ヨコナデ・ 磨滅	淡褐	0.5~1mm英、長、 チャ、雲微量	(1/4)	
126	1359	SDC25下層	高杯 脚部	(14.8)	(9.0)	ケズリ・ヨコナ デ/ヨコナデ	茶褐	1~2mm英、2 ~3mm長、1 ~3mmチャ多量	(1/6)	
126	1360	SDC25下層	高杯 脚部	(15.6)	(3.0)	ケズリ/ミガキ、 脚端:ナデ	淡褐	0.5~1mm長、英 多量、チャ、赤微 量	(1/3)	内面スス
127	1361	SDC25	甕	14.8	(4.8)	ヨコナデ・磨滅/ ヨコナデ	淡灰褐	0.5~1mm長、英、 雲、0.5~2mm チャ	1/5	甕Bb1
127	1362	SDC25	甕	16.2	(9.0)	ヨコハケ/タタ キ・ハケ	茶褐	0.5~1mm長、1 ~2mm英、0.5~ 3mmチャ、1mm雲 微量	1/5	甕D
127	1363	SDC25	甕	16.2	(17.9)	ハケ・ナデ/ハケ →タタキ	淡橙褐	1~2mm長少量、 英少量、0.5 ~1mm赤	1/8	甕Bb2、口縁にス ス、黒斑
127	1364	SDC25	甕	18.6	(4.5)	ヨコハケ/タテハ ケ	暗灰褐	0.5~2mm長、英、 チャ	1/6	甕C1
127	1365	SDC25	甕	14.4	(5.0)	ヨコハケ・ナデ/ タテハケ	黄茶褐	0.5~1mm長、 チャ、赤、英	1/4	甕C2
127	1366	SDC025	甕	18.8	(3.5)	ナデ	黒褐	0.5~1.0mm長、 チャ、0.5~4mm 英	1/8	甕C5
127	1367	SDC25 暗灰粘砂	壺	24.6	(3.7)	ナデ/ヨコナデ	灰橙褐	0.5~2mm長、英、 チャ、雲	1/5	広口壺
127	1368	SDC25	壺	26.0	(7.5)	ナデ/ヨコナデ・ タテハケ	淡橙褐	0.5~1mm長、1 ~3mm英、チャ、 0.5~2mm赤	1/3	広口壺D6
127	1369	SDC25	壺	24.0	(3.2)	ナデ	淡褐	0.5~2mm長、 0.5~1mm英、 チャ	1/6	広口壺D6
127	1370	SDC25	壺	20.2	(4.6)	ナデ	茶褐	0.5~2mm長微 量、雲、英多量、 赤、チャ多量	1/8	広口壺D6
127	1371	SDC25 淡緑灰粘土	壺	18.4	(3.4)	磨滅	淡橙褐	0.5~1mm長、赤 微量、0.5 ~2.5mm英、0.5 ~3mmチャ	1/3	広口壺
127	1372	SDC025	壺		(8.4)	ナデ	淡褐	0.5~1mm長、 0.5~2.5mm英、 赤、0.5~4mm チャ		口縁内面に瘤状突 起、頸径10.0cm
127	1373	SDC25 暗 灰粘砂	壺	12.0	(4.6)	ヨコナデ	淡褐	1~3mm英、0.5 ~2mm長	1/6	直口壺
127	1374	SDC25	壺	12.8	(6.3)	磨滅/ハケ・磨滅	淡橙褐	0.5~1mm長、 0.5~3mm英、赤 多量、0.5~5.5 mmチャ多量	1/2	広口壺D1
127	1375	SDC25	壺	10.8	(4.1)	ヨコナデ/ナデ・ タテハケ	橙褐	0.5~3mm長、 0.5~1mm英、 チャ、雲微量	1/2	広口壺F4
127	1376	SDC25	壺	20.3	(5.7)	ヨコハケ・磨滅/ ヨコナデ・タテ ハケ	淡黄褐	0.5~1mm長、赤、 1~3mm英、チャ	1/4	広口壺Eb1

観 察 表

127	1377	SDC25	壺	19.8	(6.3)	磨滅	淡褐	0.5~1mm長、雲微量、赤微量、0.5~2.5mm英、チャ	1/5	広口壺C4
127	1378	SDC25	壺	20.4	(7.1)	ナデ・ハケ	淡橙褐	0.5~2mm英、1~2mm長、チャ、1mm雲微量	1/4	広口壺C4
127	1379	SDC25	壺	19.2	(5.4)	ヨコナデ・磨滅/ヨコナデ	淡茶褐	0.5~2.5mm英、チャ、赤	1/4	広口壺D
127	1380	SDC25	脚部	(6.6)	(6.7)	磨滅/ハケ	淡褐	0.5~2.5mm英、チャ、0.5~1mm赤	(4/5)	
127	1381	SDC25 灰色粘質砂	高杯	31.4	(7.1)	ナデ/タテミガキ	茶褐	0.5~1mm長、赤微量、0.5~3mm英多量、0.5~4mmチャ多量、0.5~2mm雲	1/5	高杯A
127	1382	SDC25	高杯	18.4	(8.1)	ナデ・ミガキ/ミガキ	淡橙褐	0.5~1mm長、0.5~2mm英、チャ、赤	1/6	高杯A
127	1383	SDC25	底部	(5.7)	(5.3)	板ナデ/ハケ、底面:板ナデ	暗黒灰褐	1mm長、0.5~3.5mm英、0.5~2mmチャ	(1/1)	底面に黒斑・木の葉圧痕
127	1384	SDC25	底部	(7.2)	(4.0)	ヨコケズリ→ナデ/ハケ、底面:ヨコナデ	灰褐	0.5~1mm長、チャ、0.5~2.5mm英	(1/3)	
127	1385	SDC25	高杯脚部	(12.0)	(8.1)	ナデ/ミガキ・ナデ	明赤茶	1~3mm長、英	3/5	
127	1386	SDC25	高杯脚部	(10.6)	(11.6)	ケズリ/ヨコナデ	淡褐	1~2mm長、英、0.5~3mmチャ、赤	(1/1)	
127	1387	SDC25	高杯脚部	(12.2)	(3.9)	脚底:ケズリ、脚端:ナデ	橙褐	長、英	(1/4)	
127	1388	SDC25	高杯脚部	(13.9)	(10.4)	ケズリ・磨滅/ヨコナデ・ヨコハケ・タテハケ	淡橙褐	0.5~2.5mm英、チャ多量、0.5~1mm赤	(1/4)	
128	1389	SDC90-5区3層	壺	18.4	(12.7)	ヨコハケ→ナデ/ヨコナデ・タテハケ	明赤茶褐	0.5~1mm長、赤、0.5~2.5mm英、1~3mmチャ	3/4	広口壺
128	1390	SDC90南東下層	壺	18.2	(6.9)	ナデ・磨滅/磨滅	淡黄褐	1~2mm長、英、1~3mmチャ	1/5	広口壺C4
128	1391	SDC90	壺	19.8	(8.0)	ハケ・ヨコナデ・磨滅/ヨコナデ	淡橙褐	1mm長多量、チャ多量、赤多量	1/4	広口壺C5
128	1392	SDC90-4区暗灰褐色砂質土	壺	24.0	(8.9)	ヨコナデ・ヨコハケ/ヨコナデ・タテハケ	橙褐	1~3mm英、1~2mm長多量、チャ、雲微量	1/2	広口壺C4
128	1393	SDC90	壺	20.8	(13.5)	ナデ・ハケ・指痕/タテハケ		2mm以下長、英、赤多量		広口壺C4
128	1394	SDC90-5区3層	壺	22.2	(20.2)	ハケ・磨滅/タテハケ・磨滅		0.5~2mm長、英	1/4	広口壺C4
128	1395	SDC90-4区暗褐色粘質土	無頸壺	14.0	(6.2)	ヨコナデ・タテナデ/ハケ→ナデ・磨滅	淡黄褐	0.5~1mm長、チャ、雲多量	1/6	無頸壺
128	1396	SDC90-5区3層	蓋	(16.0)	(3.2)	ケズリ→ミガキ・ケズリ/ミガキ	茶褐	0.5~2mm長、0.5~1mm英、雲	1/4	
128	1397	SDC90南東下層	無頸壺	13.3	(2.8)	ハケ	淡黄灰	0.5~2mm長、英、チャ	1/5	無頸壺、透孔1個現存、欠損部断面に透孔痕跡?
128	1398	SDC90南東下層	壺	17.0	(7.2)	ハケ/磨滅	淡茶褐-淡赤褐	1~2mm長、チャ、1~3mm英多量	1/4	広口壺
128	1399	SDC90	壺	17.8	(6.8)	ナデ・ハケ/ハケ→ナデ	淡黄褐	1~3mm長多量、0.5~1mm英、チャ少量	1/4	広口壺Eb1
128	1400	SDC90-5区3層	壺	15.0	(4.7)	ハケ/ナデ	明白灰褐	0.5~1mm長、0.5~4mm英多量、チャ多量、1~1.5mm赤	1/3	広口壺Eb

128	1401	SDC90南東	壺	12.6	(6.0)	ナデ/指ナデ	淡黄褐	1~3mm長多量、 1~2mm英多量、 チャ多量、0.5~ 1mm赤	1/1	広口壺
128	1402	SDC90-4区	壺	12.4	(4.7)	ナデ/ナデ・板ナ デ	淡橙褐	0.5~2mm長多 量、0.5~1mm英、 赤	1/4	広口壺
128	1403	SDC90南東 下層	壺	15.0	(4.6)	ナデ/ヨコナデ	淡黄褐	0.5~2mm長多 量、0.5~3mm英、 0.5mm赤少量	1/3	広口壺、内面に突 起
128	1404	SDC90-4区	壺	16.0	(4.6)	ハケ/ナデ・ハケ	橙褐	0.5~1mm長、1 ~2mm英	1/6	広口壺D4
128	1405	SDC90-4区 暗褐色粘質 土	壺	19.0	(9.7)	指ナデ・板ナデ/ ヨコナデ・ハケ	淡橙褐	0.5mm長、英、 チャ	1/4	広口壺D4、内面に 瘤状突起
128	1406	SDC90-4区 暗褐色粘質 土	壺	19.8	(3.9)	磨滅/ヨコハケ	淡黄褐	0.5~1mm長多 量、英多量、 0.5~2mmチャ	1/4	広口壺
128	1407	SDC90-4区 暗褐色粘質 土	壺	22.4	(8.1)	ハケ→ナデ/ヨコ ナデ・ハケ	淡黄褐	0.5~1mm長多 量、英多量、雲	1/4	広口壺C5
128	1408	SDC90-4区	壺	20.8	(4.4)	ナデ	淡黄褐	0.5~1mm長、英 少量、チャ	1/4	広口壺C5
128	1409	SDC90	壺	21.1	(24.2)	板ナデ/ハケ→ナ デ・タテハケ・ ミガキ	淡黄褐	0.5~1mm長多 量、英、チャ		広口壺C5
129	1410	SDC90 西拡張 砂質土	甕	19.6	(5.5)	ハケ/板ナデ	淡橙褐- 淡赤褐	1~3mm長、英、 チャ	1/2	甕Aa
129	1411	SDC90-2区	甕	23.0	(5.4)	ハケ→ナデ/ハケ	淡黄褐	0.5~1mm長、 0.5~2mmチャ多 量	1/4	甕Aa、口縁端にス ス、黒斑あり
129	1412	SDC90 西拡張	甕	14.4	(6.5)	板ナデ・タテハ ケ/タテハケ・ヨ コハケ・板ナデ	淡橙褐	0.5~1mm長、英 少量、赤少量	1/4	甕Ba1
129	1413	SDC90南東 下層/SDC90 南西黒色シル ト	甕	31.0	(6.2)	ヨコハケ/ナデ・ ヨコハケ→斜ハ ケ・タテハケ	淡灰褐- 淡橙褐/ 淡灰褐	0.5~1mm長、 チャ、英、赤少 量、雲少量	1/3	甕C2、スス付着
129	1414	SDC90 西拡張 暗褐色砂質 土	甕	23.0	(4.1)	ヨコハケ/斜ハ ケ・タテハケ	淡黄褐	0.5~1mm長、英 多量、チャ	1/6	甕C3
129	1415	SDC90 西拡張	甕	14.2	(3.4)	ハケ→ナデ/口縁 端:ハケ→ナデ・ ハケ	暗灰褐/ 淡黄褐	0.5~1mm長少 量、英少量	1/3	甕C4
129	1416	SDC90-4区 暗褐色粘質 土	甕	20.0	(2.6)	ナデ	淡黄褐	1~2mm長、英少 量	1/6	甕C5
129	1417	SDC90 突出部	甕	21.0	(2.9)	ハケ/ハケ→ナデ	淡灰褐	1~1.5mm長、英、 チャ、雲	1/8	甕C5
129	1418	SDC90 砂質土 暗灰褐色	甕	20.8	(11.6)	ハケ→ナデ/ナデ	淡黄褐	0.5~2mm英	1/5	甕C5
129	1419	SDC90東部	壺	30.0	(4.0)	磨滅	淡褐	0.5~4mm長、 0.5~3mm英、 0.5~2mmチャ	1/6	広口壺A2
129	1420	SDC90東部	壺	(8.6)	31.2	ナデ・磨滅/ナ デ・ミガキ	淡褐	0.5~5mm長、1 ~3mm英、0.5 ~2mmチャ	(3/4)	
129	1421	SDC90 緑灰色シル ト	ミニチュア 壺	(3.2)	(9.0)	ナデ/ナデ・タテ ハケ	淡褐	2~3mm英、長、3 ~4mmチャ	(1/1)	刳圧痕
129	1422	SDC90	ミニチュア 土器	9.7	10.9	ナデ/ハケ	淡褐	1~4mm英、長、1 ~6mmチャ、1~ 2mm雲	2/3・ (1/1)	胴下半に焼成後穿 孔
129	1423	SDC90-5区 3層	高杯 脚部	(12.0)	(5.1)	ケズリ/ミガキ・ ヨコナデ・板ナ デ	淡橙褐	0.5~2mm長、 0.5~1mm英、 チャ	(1/2)	

観 察 表

129	1424	SDC90 西拡張	脚付 水差	(5.6)	(16.9)	指ナデ・ハケ・ シボリ痕・ナ デ・ケズリ・磨 減/ハケ・ミガキ	暗灰褐/ 橙茶褐	0.5mm長少量、英 少量		頸径6.8cm
129	1425	SDC143	壺	18.2	(26.8)	ヨコハケ・タテ ハケ/斜ハケ・タ テハケ・板ナデ	橙褐	2mm以下長、英		直口壺
129	1426	SDC143	壺	18.0	(8.5)	ヨコナデ・ハケ/ タテハケ	淡黄褐/ 茶褐	0.5~1.5mm長、 英多量、チャ多 量、赤	1/4	有段口縁壺
129	1427	SDC143	甕	13.3	(6.5)	ヨコナデ/タテハ ケ・タタキ・ヨ コハケ	暗橙褐/ 淡橙褐	0.5~2mm英、赤、 チャ多量	1/6	
129	1428	SDC143	甕	20.4	(3.8)	ヨコハケ/タテハ ケ	淡褐	1mm長、英	1/6	甕Ab2
130	1429	SDC25- SDC93	壺	14.4	(3.4)	ナデ/ナデ・ハケ	淡白褐	0.5~1mm長、赤 微量、0.5~2mm チャ多量、英	1/4	広口壺
130	1430	SDC25- SDC93	壺	23.4	(9.0)	ヨコハケ・ナデ/ ヨコナデ・ハケ →ナデ	淡褐	0.5~1mm長、英、 0.5~2mmチャ、 赤	1/2	広口壺A2
130	1431	SDC25- SDC93	甕	23.4	(3.9)	ハケ	淡茶褐	0.5~1mm長、英、 0.5~4mmチャ	1/8	甕C2
130	1432	SDC25- SDC93	ミニチュア 壺	(3.8)	(9.3)	板ナデ・ミガキ/ タテハケ・ケズ リ	暗茶褐/ 黒	0.5~1mm長、英、 0.5~2mmチャ多 量	(1/4)	
130	1433	SDC25- SDC93	底部	(9.8)	(6.4)	ナデ/ハケ	褐	0.5~2mm長、赤、 0.5~1mm英、 0.5~3mmチャ	(1/2)	
130	1434	SDC25- SDC93	底部	(5.8)	(1.5)	ナデ	淡黄赤褐	0.5~1mm長、 0.5~4mm英、 0.5~3mmチャ多 量	(1/2)	底部穿孔
130	1435	SDC25- SDC93	底部	(6.2)	(3.4)	指ナデ/ナデ	淡赤褐	0.5~1mm長、赤、 0.5~4mm英、 0.5~2mmチャ	(1/4)	
130	1436	SDC93	甕	11.6	(6.1)	ナデ/ハケ	淡褐	0.5~1mm長、 1 ~2mm英、チャ	1/6	甕Ac2
130	1437	SDC93	甕	17.4	(11.2)	ナデ・指痕/ハケ	淡黄褐	0.5~2mm長、赤	1/6	甕Aa3
130	1438	SDC93	甕	14.2	(18.9)	ハケ→ナデ/ヨコ ナデ・ハケ・ケ ズリ	淡橙褐	0.5~2mm長、英	1/1	甕Aa4、スス付着
130	1439	SDC93	甕	16.8/ (5.8)	29.4	ヨコハケ・タテ ハケ・指痕・指 ナデ/ヨコナデ・ タテハケ・タタ キ・ヘラケズリ	淡黄褐	0.5~2mm長、 0.5~1mmチャ		甕Bb2、外面口縁に スス、黒斑
130	1440	SDC93	鉢	14.2	(4.5)	ヨコナデ・磨減	淡黄褐	1~2mm長多量、 英、0.5~1mm チャ、赤多量	1/4	外面口縁に黒斑
130	1441	SDC93	壺	17.9	(19.7)	ヨコナデ・ハケ/ ヨコナデ・タタ キ→ハケ	淡褐			短頸壺
130	1442	SDC93	壺	21.3	(7.2)	ナデ/ヨコナデ	橙茶褐	0.5~1mm長、雲、 英、1~2mmチャ	1/6	広口壺C4
130	1443	SDC93	壺	18.6	(3.9)	ナデ/ヨコナデ	淡橙褐	0.5~1mm長、 1 ~3mm英、0.5~ 4mmチャ多量、 0.5~2mm赤	1/4	広口壺
130	1444	SDC93	壺	12.0	(4.8)	ナデ/ヨコナデ	黄灰	1mm長少量	1/4	広口壺F1、内面に 瘤状突起1個
130	1445	SDC93	水差	(6.0)	(19.7)	ハケ・磨減/ケズ リ・ヨコナデ・ 磨減	淡灰- 暗灰/ 淡黄褐- 淡肌褐	0.5~1mm長多 量、英少量、チャ 多量、赤多量	(1/1)	最大腹径21.3cm.
130	1446	SDC93	脚部	(6.8)	(6.3)	ナデ・シボリ 痕・磨減/ミガ キ・ナデ	淡灰褐	0.5~2mm長多 量、0.5~1mm英、 雲、チャ	(1/2)	
130	1447	SDC93	高杯 脚部	(12.8)	(11.9)	ケズリ/ミガキ	淡黄茶褐	0.5~1mm長微 量、チャ微量	(4/5)	

130	1448	SDC93	高杯	24.6/ (14.5)	21.4	指ナデ/ヨコナ デ・ケズリ→ミ ガキ・ケズリ→ ナデ	淡灰褐	0.5~2mm長、 0.5~1mm英多 量、チャ、赤	1/8・ (1/2)	高杯A
131	1449	SDC114上層	蓋	(26.4)	(6.3)	ケズリ/ミガキ・ ナデ	淡茶褐	0.5~1mm長、英	1/6	
131	1450	SDC114	壺	21.2	(9.2)	板ナデ・ハケ/ヨ コナデ・タテハ ケ	淡橙褐	0.5~1.5mm長、 英	1/5	広口壺Eb3
131	1451	SDC114	壺	21.4	(5.9)	ナデ・指痕/ハケ	淡褐	0.5~1.5mm長多 量、チャ多量、英 多量	1/4	広口壺Eb4
131	1452	SDC114	壺	22.2	(6.9)	ナデ/ナデ・ハケ	淡茶褐	0.5~1mm長、英、 チャ	1/3	広口壺C4
131	1453	SDC114中層	壺	17.8	(6.6)	ヨコナデ・ハケ/ 磨減・ナデ	淡黄褐	0.5~1mm長	1/6	広口壺C4、スス・ 黒斑あり
131	1454	SDC114	壺	20.0	(8.6)	板ナデ/ヨコナ デ・タテハケ	淡橙褐	0.5~1mm長、英、 赤	1/4	広口壺C4
131	1455	SDC114	壺	20.3	(22.4)	ナデ・ハケ・ケ ズリ/ヨコナデ・ ハケ・ミガキ	淡褐	0.5~2mm英、長、 チャ多量、雲	1/3	広口壺C4
131	1456	SDC114上半	壺	35.4	(16.0)	ハケ→ナデ/ナ デ・タテハケ→ ヨコハケ	灰白- 淡黄褐/ 淡黄褐- 淡橙褐	1~2mm長多量、 チャ多量、0.5mm 英	1/5	有段口縁壺
131	1457	SDC114	壺	29.8	(14.5)	ヨコハケ・斜ハ ケ/ハケ→ナデ	淡橙褐- 橙褐	0.5~1mm長、英	5/12	有段口縁壺
131	1458	SDC114	壺	12.3	(5.9)	ヨコハケ→ヨコ ナデ→ナデ/磨減	明淡褐	3.5mm以下英	3/4	
131	1459	SDC114純層	壺	19.2	(6.3)	ヨコナデ・タテ ハケ/タテハケ	明淡茶	2.5mm以下長、英	1/8	有段口縁壺
131	1460	SDC114	壺	14.2	(3.2)	ハケ→ナデ/ナデ	橙褐	0.5~1mm長、英、 チャ	1/6	広口壺D1
131	1461	SDC114純層	壺	14.8	(5.3)	ナデ/ヨコナデ・ タテハケ	明淡茶	2mm以下長、英	1/6	広口壺Eb1
131	1462	SDC114	壺	16.0	(5.5)	ナデ・ハケ	明橙黄褐	1mm長、英、赤	1/4	広口壺Eb3
131	1463	SDC114純層	壺	19.0	(6.5)	ナデ・ヨコハケ/ タテハケ	暗灰褐- 淡橙褐	2mm以下英	1/3	広口壺A
131	1464	SDC114純層	壺	17.7	(8.0)	ヨコハケ→ナ デ・磨減/タテハ ケ→ヨコナデ	明淡茶	2mm以下長、英、 5mm赤、雲	3/8	広口壺A
131	1465	SDC114	壺	20.0	(8.6)	ハケ・ナデ/ナ デ・タテハケ	淡橙褐	0.5~2mm長、 0.5~1mm英、 チャ	1/3	広口壺D3、口縁端 に黒斑、内面に瘤 状突起
131	1466	SDC114上半	壺		(16.5)	ハケ→指ナデ/ハ ケ		0.5~1mm長、赤、 雲、1~3mm英、 0.5~4mmチャ多 量		スス・黒斑あり、 頸径12.2cm
131	1467	SDC114	蓋	4.4/ (12.0)	3.75	ハケ→指痕・ハ ケ/ナデ・ハケ	淡黄褐	1~3mm長、チャ、 英、1~2mm雲	1/1	
131	1468	SDC114	蓋	5.6/ (12.0)	7.85	ハケ→ナデ・ナ デ/指痕・ハケ→ ナデ	淡黄褐- 淡茶褐	1~3mm長、チャ、 1~2mm英	1/1	
131	1469	SDC114	甕	16.4	(6.2)	ヨコハケ・指ナ デ/ヨコナデ・タ テハケ	暗淡褐- 暗茶/ 淡褐- 暗淡茶- 黒	2.5~7mm長、英	1/4	甕Aa
131	1470	SDC114下層	甕	11.2	(8.1)	ヨコナデ/ヨコナ デ・ヨコハケ	淡褐	2~3mm英、長、 2~4mmチャ多量		頸以外にスス
131	1471	SDC114	甕	17.0	(9.8)	ヨコハケ・ナデ/ タテハケ→ナ デ・斜ナデ・タ テハケ、口縁端： キザミ	淡褐	1~2.5mm長微 量、0.5~1.5mm チャ多量、角、 英、雲微量	1/8	
131	1472	SDC114	甕	26.0	(11.1)	ナデ・ハケ/ナ デ・タタキ・ハ ケ	淡褐	1mm英、チャ多 量、0.5~2mm長 多量	1/3	甕Ba2
131	1473	SDC114	甕	14.7	(6.3)	ナデ・ヨコハ ケ・/ナデ・タテ ハケ	淡褐	1mm英、長多量、 チャ多量、黒微 量、シ微量	1/4	甕C2

観 察 表

131	1474	SDC114	甕	14.4	(4.4)	ハケ→ナデ・タテハケ→ヨコハケ	淡黄褐-淡桃褐	0.5mm雲	1/6	口縁にスス
131	1475	SDC114	鉢	34.4	(9.1)	ナデ	淡黄褐	0.5~2mm長、0.5~1mmチャ	1/5	鉢A
131	1476	SDC114	鉢	27.0	(5.3)	ヨコナデ・ハケ/ナデ	淡橙褐	0.5~3mm長、チャ、英	1/5	鉢A
131	1477	SDC114	水差	8.6/(4.7)	15.7	板ナデ/タテハケ・ケズリ、底面:板ナデ	薄茶褐-薄茶	1~2.5mm英多量、1~1.5mm長多量、雲多量	-	
131	1478	SDC114上半	鉢	15.8	(5.5)	ナデ・ミガキ/ナデ	淡茶褐	0.5~1mm英、チャ	(1/10)	鉢A
131	1479	SDC114上半	鉢	16.6	(5.9)	ヨコナデ→ミガキ・タテナデ→ミガキ/ナデ	黄褐	0.5~1mm長少量、英少量、チャ少量	1/8	鉢A
131	1480	SDC114	鉢	24.8	(6.2)	ハケ/板ナデ→ハケ	赤茶褐	0.5~1mm長微量、英微量	1/16	鉢A
131	1481	SDC114上半	高杯	15.8	(3.8)	ナデ・タテハケ/ナデ・ハケ・磨減	淡茶褐	0.5~1mm英	1/10	高杯A
131	1482	SDC114最下層	高杯	内径16.4/外径23.8	(5.9)	ハケ→ナデ・磨減/ハケ・ナデ	淡茶褐/淡橙褐	0.5~1mm長、英	1/4	高杯B2
131	1483	SDC114最下層	台形土器	17.8	(5.8)	ハケ/ナデ	淡黄褐	1~3mm長多量、チャ、1~2mm英	1/6	
131	1484	SDC114	台付鉢	-	(9.0)	シボリ痕・磨減/磨減	黄褐-淡灰褐	1~3mm長、英微量、チャ、0.5mm赤	-	把手あり、黒斑
131	1485	SDC114上半	高杯脚部	(9.6)	(5.8)	杯:ミガキ、脚:ヨコナデ・シボリ痕/ケズリ・ナデ	淡黄褐	0.5~2mm長、英、0.5~1mmチャ	(1/1)	
131	1486	SDC114中層	高杯脚部	(13.7)	(6.8)	ナデ/ハケ・ナデ	淡茶褐/暗茶褐	0.5~1mm長、英、チャ	(1/1)	
131	1487	SDC114	高杯脚部	(15.4)	(4.2)	ヨコナデ・ケズリ/ヨコナデ・ミガキ	淡褐	1~2mm英、チャ、長微量	(1/6)	
131	1488	SDC114	高杯脚部	(10.2)	(6.9)	ミガキ・ヨコナデ/ケズリ→ミガキ・ヨコナデ	淡褐・黒褐	2~5mm長、英	(1/1)	
131	1489	SDC114	高杯脚部	(12.6)	(2.6)	ケズリ/ナデ		1~2mm長、0.5~1mmチャ、英	(1/5)	
131	1490	SDC114中層	高杯脚部	(14.8)	(5.1)	ナデ/ミガキ→ナデ	淡茶褐	0.5~1mm長、英	(3/4)	
131	1491	SDC114中層	高杯脚部	(16.0)	(2.3)	ケズリ/ミガキ・ナデ	淡橙褐	0.5~1mm英	(1/10)	
131	1492	SDC114	高杯脚部	(13.0)	(10.6)	杯:ハケ、脚:ハケ→ナデ/ハケ・指ナデ	明淡褐-暗灰褐	4~7mm英	(1/4)	
131	1493	SDC114純層	高杯脚部	(17.6)	(11.0)	指ナデ・ヨコハケ→ナデ/ミガキ・タテハケ→ヨコナデ	淡茶褐・淡黒褐(裾)	1mm以下長、英	(1/4)	
131	1494	SDC114	多孔鉢	(3.6)	(2.6)	磨減/ハケ・磨減	淡茶褐	0.5~1mm長、チャ	(1/2)	
131	1495	SDC114	ミチュア土器	4.4/(2.3)	4.7	指痕・ナデ/指痕	白灰-淡黄褐	0.5~2mm長、英、0.5~1mmチャ	1/2・(1/1)	瘤状突起、黒斑
131	1496	SDC114	ミチュア土器	5.0/(3.0)	6.65	ハケ・ナデ/ミガキ	淡黄褐	0.5mmチャ	1/4・(1/2)	胴上半に穿孔1カ所
133	1497	SDC25-SDC114	蓋	15.1	4.7	ナデ/ナデ・指痕・ケズリ	褐	0.5~1mm長、1~2.5mm英、チャ	4/5	
133	1498	SDC25-SDC114	甕	14.6	(5.0)	ヨコハケ・指痕・ナデ/ナデ・ハケ	淡黄褐-赤茶褐-黒褐	1mm長、英	1/3	甕Aa
133	1499	SDC25-SDC114	甕	14.0	(4.6)	ヨコハケ・板ナデ/ハケ	淡茶褐-茶褐	1mm長、英	1/4	甕Aa
133	1500	SDC25-SDC114上層	甕	15.6	(3.9)	ヨコハケ・ナデ/ハケ	淡褐	0.5~1mm長、赤、0.5~2mm英、0.5~3mmチャ	1/6	甕Ac2

133	1501	SDC25- SDC114上層	甕	20.2	(3.0)	ヨコハケ/ヨコナ デ	褐	0.5~4mm長、 0.5~3mm英、 0.5~1mmチャ	1/4	
133	1502	SDC25- SDC114上層	鉢	25.6	(8.9)	ヨコナデ・ハ ケ・板ナデ/タテ ハケ	茶褐	0.5~1.5mm長、 赤、0.5~2.5mm 英、1~3mmチャ 多量	1/4	鉢B、外面にスス
133	1503	SDC25- SDC114	壺	11.6	(7.5)	磨滅	淡黄褐	0.5~2mm長、 チャ、英		広口壺F1
133	1504	SDC25- SDC114	甕	14.2	(4.7)	ナデ・指痕/ナ デ・ハケ	淡黒灰	0.5~2mm長、英、 チャ	1/5	甕Ba1
133	1505	SDC25- SDC114	甕	13.4	(6.8)	磨滅・ナデ/ナ デ・ハケ	暗赤褐	0.5~1mm長、赤、 0.5~4mm英、 0.5~2.5mmチャ	1/6	
133	1506	SDC25- SDC114	壺	23.6	(2.1)	ヨコナデ	淡褐	0.5~1mm長、 0.5~4mm英多 量、チャ微量	1/16	
133	1507	SDC25- SDC114	壺	20.0	(4.6)	ナデ・磨滅/ヨコ ナデ・磨滅	淡褐	0.5~1mm長、 0.5~3mm英、 0.5~2mmチャ	1/4	広口壺D
133	1508	SDC25- SDC114	壺	22.2	(5.2)	磨滅/ナデ	淡橙褐	0.5~1mm長、1 ~3mm英、0.5 ~3.5mmチャ	1/4	広口壺C4
133	1509	SDC25- SDC114	壺	19.2	(4.5)	磨滅/ハケ・磨滅	赤褐	0.5~2.5mm長、 1~2mm英、0.5 ~1.5mmチャ、雲 微量	1/6	広口壺D
133	1510	SDC25- SDC114	壺	22.0	(5.0)	板ナデ	淡褐- 赤茶褐	1.5~4mm赤、英	1/4	広口壺Eb3
133	1511	SDC25- SDC114	高杯 脚部	(11.7)	(8.0)	ハケ/ハケ・ナデ	黄褐- 赤茶褐- 黒褐	2mm以下英	(9/10)	
133	1512	SDC25- SDC114	高杯 脚部	(10.8)	(3.5)	ケズリ/ヨコナ デ・磨滅	暗灰褐	0.5~3mm英、 チャ、0.5~1mm 赤	(1/4)	外面に黒斑、穿孔 あり
133	1513	SDC25- SDC114	高杯 脚部	(13.8)	(3.6)	ナデ/ミガキ・ナ デ	暗赤褐	0.5~1mm長、赤、 雲微量、0.5~2 mm英、チャ	(1/4)	
133	1514	SDC401-4区	甕	17.0	(7.3)	ナデ・ハケ/ヨコ ナデ・ハケ	暗褐	0.5~1.5mm長	1/3	甕Aa4、スス付着
133	1515	SDC401-5区 最下層	甕	17.4	(10.0)	ヨコナデ・板ナ デ/ナデ・ハケ	淡黄褐	0.5mm長、英、 チャ	1/4	甕Bb1
133	1516	SDC401-5区 最下層	甕	17.0	(13.5)	ナデ・ハケ/ナ デ・ハケ・ケズ リ	淡茶褐	0.5~1mm長、英、 チャ	1/4	甕Bb1、復原高 26.0cm
133	1517	SDC401-5区 最下層	甕 底部	(5.7)	(8.5)	ハケ・ナデ/ハケ →ケズリ・ナ デ・指痕	淡茶褐	0.5~1mm長、英、 チャ	(1/1)	1516と同一個体
133	1518	SDC401-5区	壺	21.0	(4.5)	ハケ/ナデ	淡黄褐	0.5~1mm長、 0.5~2mmチャ多 量	1/4	広口壺C5
133	1519	SDC401-4区	壺	18.6	(7.2)	ナデ/ハケ	淡茶褐	1mm長多量、 チャ、英	1/4	広口壺D
133	1520	SDC401-3区	壺	17.4	(4.5)	ハケ	暗灰褐	0.5~2mm長多 量、チャ多量	1/6	広口壺
133	1521	SDC401-3区	壺	13.4	(6.7)	板ナデ/ハケ・ナ デ	淡褐	0.5~2mm長、英、 チャ、赤	1/2	広口壺D1、瘤状突 起
133	1522	SDC401-5区 最下層	壺	28.4	(7.2)	ハケ・ナデ・ヨ コナデ/ナデ・磨 滅	灰褐	1~2mm長多量、 0.5~1mm英多 量、雲、チャ	1/8	有段口縁壺
133	1523	SDC401-2区	高杯	内径 21.8/ 外径 29.0	(9.5)	ハケ・ナデ・ミ ガキ	淡桃褐	1~2mm長、0.5mm チャ、1~1.5mm 英	1/2	高杯B2
133	1524	SDC401-4区	底部	(5.5)	(3.0)	ナデ	淡褐・ 黒褐	0.5mm長多量、英	(1/1)	底部穿孔
133	1525	SDC401-5区 最下層	高杯 脚部	(14.4)	(8.8)	ケズリ・ナデ/ミ ガキ・ヨコナデ	淡橙褐	2mm長、英、チャ、 1mm赤	(1/4)	外面に黒斑
134	1526	SDB333	甕	14.8	(6.7)	ヨコハケ→ナデ/ ナデ・タテハケ	橙褐	0.5~1mm長、英 多量	1/4	甕D



観 察 表

134	1527	SDB333	甕	16.0	(9.6)	ナデ/ハケ	淡褐	1~3mm英多量、 1~2長、雲、 1mmチャ	3/4	甕Aa3、外面全体に スス、内面下半に コゲ
134	1528	SDB333	甕	19.8	(4.6)	ヨコハケ・磨減/ 磨減	灰褐	4mm以下長、英多 量	1/2	甕C2
134	1529	SDB333	甕	18.4	(4.8)	ナデ・磨減/ナ デ・指痕・磨減	赤茶褐	3mm以下長、英多 量	1/2	甕C2
134	1530	SDB333	甕	18.9	(10.3)	ハケ・ナデ・磨 減/ヨコハケ・指 痕→ハケ・タテ ハケ・磨減	淡橙褐	0.5~1mm長、英、 チャ、0.5~2mm 赤多量	1/3	甕C3
134	1531	SDB333	甕	23.0	(5.4)	ヨコハケ・指 痕・磨減/指痕→ ハケ・ナデ→ハ ケ・磨減、口縁 端:ハケ	淡茶褐		1/3	甕C2
134	1532	SDB333	蓋	(17.4)	(3.4)	ヨコナデ・指痕/ 磨減	淡黄褐		1/4	
134	1533	SDB333	甕	22.8	(5.3)	ヨコハケ/ハケ	灰褐	1~2mm長、英多 量	1/6	甕Ad
134	1534	SDB333	甕	17.2	(8.9)	ハケ・指ナデ・ タテナデ/ハケ	黒褐	0.5~1mm長、英	1/4	甕Aa3
134	1535	SDB333	甕	16.2	(5.8)	ハケ・指ナデ/ナ デ・ハケ・磨減	淡褐	~	1/4	甕Aa4
134	1536	SDB333	甕	16.8	(14.4)	ヨコハケ・ナデ/ ナデ・タテハケ	淡褐	2~3mm英、長、 2~6mmチャ	1/3	胴にスス。甕A
134	1537	SDB333	鉢	16.4	7.4	ナデ・磨減/タテ ハケ→ヨコナ デ・磨減	淡橙		1/4	鉢A
134	1538	SDB333	壺	13.0	(5.1)	ヨコハケ/ヨコハ ケ・タテハケ・ ナデ	暗茶褐/ 淡橙褐		1/4	
134	1539	SDB333	壺	12.6	(7.3)	指ナデ・指痕・ ハケ/ナデ・ハケ	淡褐		1/6	穿孔
134	1540	SDB333	鉢	14.8	(5.8)	ヨコナデ/ヨコナ デ・ハケ	淡黄褐	0.5~1mm長、 0.5~3mm英、 0.5~2mmチャ、 赤多量	1/8	
134	1541	SDB333	壺	13.8	(15.0)	ナデ・指痕→ハ ケ/ナデ・タテハ ケ	橙褐・黒/ 橙褐		1/4	
134	1542	SDB333	高杯	内径 16.0/ 外径 21.0	(7.5)	ナデ/ミガキ	橙褐/黒		3/4	高杯B4
134	1543	SDB333	脚部	(9.6)	(3.8)	ナデ/ハケ	淡褐・黒	0.5~1.5mm長、 雲、チャ、 0.5~2mm英	(1/4)	透孔2カ所
134	1544	SDC129	甕	22.5	(8.1)	ハケ・ナデ/ヨコ ハケ・ヨコナ デ・タテハケ・ 磨減	淡橙褐/ 橙褐	2~5mm長、英	1/3	甕C2
134	1545	SDC129	壺	21.6	(6.5)	ヨコハケ→ナデ/ タテハケ→ナデ	明淡褐- 暗灰/ 淡褐	2mm以下長、英	1/4	
134	1546	SDC129	甕	15.1	(5.2)	ヨコハケ・ナデ/ タテハケ・磨減	暗褐- 淡橙褐- 淡橙	1mm以下長、英	1/2	甕Aa
134	1547	SDC129	高杯 脚部	(14.8)	(13.4)	ナデ・ケズリ・ 指ナデ/タテミガ キ・ヨコナデ	淡黄褐	3.5mm以下長、英 多量	(1/2)	
134	1548	SDC147	甕	19.0	(6.5)	ヨコナデ・指ナ デ/ヨコナデ・指 痕→タテハケ	淡褐	0.5~1.5mm長、 1~2mm英、0.5 ~3mmチャ、赤	1/3	甕Aa
134	1549	SDC147	甕	14.2	(9.5)	ナデ・磨減/ヨコ ナデ・タテハ ケ・磨減	淡茶褐/褐	1mm長、英多量	1/4	甕Aa4、内面にコ ゲ・外面にスス
134	1550	SDC147	甕	19.0	(10.8)	ヨコナデ・タテ ナデ/ヨコハケ→ ヨコナデ・タテ ハケ	淡茶褐	0.5~2mm長、英、 チャ	1/2	甕Aa3

134	1551	SDC147	甕	18.0	(6.0)	ヨコハケ・指ナデ・磨減/ヨコナデ・ハケ・磨減	淡橙褐	0.5~1mm長、0.5~3mm英、チャ、0.5~2mm赤	1/4	甕Aa
134	1552	SDC147	甕	12.0	(4.3)	ナデ/ヨコナデ・指ナデ・タテハケ→ナデ	暗淡褐/暗淡褐-黒褐	0.5~1.5mm長、英	1/4	
135	1553	B-包含層	甕	21.2	(10.9)	ハケ・ナデ/ヨコナデ・ハケ	淡橙褐	0.5~1mm長、雲、0.5~3mm英、チャ	1/6	
135	1554	B-包含層	甕	15.4	(6.5)	ヨコハケ/ヨコハケ・タテハケ	淡黄褐/橙褐	0.5~1mm長、英、チャ、雲	1/4	甕C1
135	1555	C-包含層	甕	18.6	(4.5)	ハケ/ハケ・ナデ	淡茶褐	0.5~1mm長、英、チャ	1/2	甕C2
135	1556	B-包含層	甕	18.0	(9.7)	ハケ・ナデ/タテハケ	暗茶褐	0.5~5mm長、0.5~2mm英	2/3	甕C2
135	1557	A-包含層	甕	21.8	(8.2)	ハケ・ナデ/タテハケ	淡茶褐	0.5~1mm長、英、チャ	1/4	甕C2
135	1558		甕	27.0/(6.2)	38.6	ヨコハケ・ナデ/ヨコハケ・タテハケ	淡茶褐	0.5~2mm長、チャ	3/5	甕C3、胴にスス
135	1559	B-包含層	甕	22.2	(15.2)	ヨコハケ・板ナデ/ハケ	淡黄褐/暗茶褐	0.5~4mm長多量、0.5~1mmチャ多量	1/3	甕Ad、口縁残存率は3破片の計
135	1560	B-包含層	甕	20.0	(10.6)	ハケ・指ナデ・磨減/ハケ	淡橙褐	0.5~1mm長、英、チャ	1/5	甕Ac2
135	1561	A-包含層	甕	15.5~15.7/(5.8)	18.3	ヨコハケ・指痕・磨減/タテハケ	淡褐-暗褐	5mm以下長、英、黒	1/2	甕Ab2、外面コゲ・スス
135	1562	B-包含層	甕	18.0	(7.0)	ハケ・ナデ/ハケ・磨減	淡褐	0.5~1mm長、0.5~2mm英、赤、1~3mmチャ	1/4	甕Aa2
135	1563	A-包含層	甕	18.2	(6.1)	ナデ・ハケ	淡黄褐	0.5~1mm長、チャ	1/8	
135	1564	C-包含層	甕	16.0	(10.5)	ナデ・磨減/ハケ・ナデ・磨減	淡茶褐	0.5~1mm長、英	1/3	甕Bb1
135	1565	A-包含層	甕	15.8	(4.8)	ヨコナデ・磨減/ヨコナデ・斜ハケ	淡褐	2mm以下長、英、赤	1/4	甕Bb1
135	1566	B-包含層	甕	15.0	(6.1)	ナデ・指痕/ナデ・ハケ	淡茶褐	2mm以下長、英	1/5	甕Ba1
135	1567	B-包含層	甕	15.8	(4.6)	ナデ・指ナデ/ナデ・ハケ	淡橙褐	0.5~1mm長、英、雲、赤、0.5~2.5mmチャ	1/6	甕Bb1
135	1568	A-包含層	甕	19.0	(8.9)	斜ハケ/ヨコナデ・タテハケ	淡茶/淡黄	2mm以下英、長、チャ、赤	1/6	甕Bc
135	1569	A-包含層	甕	20.8	(19.0)	ヨコナデ・磨減/タテハケ・ヘラケズリ・ヨコナデ	淡褐/淡褐	3mm以下長、英、チャ	1/4	甕Ba1、外面にコゲ・スス
136	1570	C-包含層	壺	15.2	(5.6)	ハケ/タテハケ・タテミガキ	黒灰/淡褐	2mm以下長、英	1/3	
136	1571	B-包含層	壺		(12.5)	ナデ/ミガキ	明淡褐	2~3mm長、英多量		
136	1572	B-包含層	壺	20.4	(7.8)	磨減/タテハケ・ヨコナデ	暗淡黄褐	1mm以下小石	1/3	広口壺
136	1573	C-包含層	壺	23.8	(15.5)	ナデ	淡橙褐		1/4	広口壺A7
136	1574	B-包含層	壺	20.6	(34.3)	ハケ・タテナデ/ハケ・ミガキ	淡橙褐	0.5~1mm英、長	3/5	広口壺
136	1575	A-包含層	壺	11.4	(7.4)	ハケ・磨減/ハケ→板ナデ	淡茶褐/橙茶	3mm以下英、長、チャ	1/4	広口壺
136	1576	B-包含層	壺	10.2/(5.5)	20.2	ナデ/ナデ・磨減	白灰/暗橙	2mm以下長、英微量、雲微量	1/1	
136	1577	A-包含層	壺		(8.5)	ナデ	茶褐	1mm長、1~3mm英多量、チャ		
136	1578	B-包含層	壺	11.0	(5.0)	ヨコナデ・ハケ	暗黄茶褐	0.5~1mm長、雲、赤微量、0.5~2.5mm英	1/5	広口壺

観 察 表

136	1579	A-包含層	壺	16.8	(6.1)	磨減	褐	0.5~2mm長多量、英多量、0.5~1mmチャ、赤	1/3	広口壺
136	1580	B-包含層	壺	17.6	(9.6)	ハケ・ナデ/ナデ	淡褐	0.5~1mm長、1~3mm英、赤、0.5~2mmチャ多量	1/4	広口壺、両面に朱が残存
136	1581	B-包含層	壺	19.8	(10.5)	ハケ・板ナデ・磨減/ヨコナデ・ナデ・ミガキ	淡黄褐	0.5~1.5mm長、チャ、0.5~3mm英	1/6	広口壺
136	1582	B-包含層	壺	22.0	(6.7)	ヨコハケ・タテナデ/磨減	橙褐	2~3mm長、英多量	2/5	広口壺
136	1583	B-包含層	壺	22.0	8.5	ナデ/タテハケ・磨減		~	1/6	広口壺
136	1584	B-包含層	壺	19.6	(4.5)	ナデ	褐	0.5~2mm長、0.5~3mm英、チャ、0.5~1mm赤	1/3	広口壺
136	1585	A-包含層	壺	21.4	(5.6)	磨減/ナデ	淡褐	長、英(極小)多量	1/5	広口壺
136	1586	C-包含層	壺		(26.0)	ナデ・指痕/ナデ・磨減	淡黄褐/灰白	1~3mm長多量、チャ多量、英		黒斑
137	1587	C-包含層	壺	15.4	(6.0)	ナデ/磨減	赤褐	0.5~2mm長、英	1/4	
137	1588	B-包含層	壺	19.8	(12.4)	ハケ・磨減/ハケ	淡灰褐	長、英多量	1/4	有段口縁壺
137	1589	C-包含層	壺	19.0	(8.9)	ハケ	淡黄褐 橙褐	1~2mm長、チャ、英、0.5mm赤	1/5	有段口縁壺
137	1590	B-包含層	壺	10.6	(10.8)	ナデ	淡黄褐	0.5~2mm長、0.5~3mm英、0.5~1mmチャ	1/1	直口壺、黒斑あり
137	1591	B-包含層	水差		(10.3)	ナデ/ハケ・磨減	淡褐	0.5~1mm英多量、チャ、赤、0.5~1.5mm長、0.5mm雲微量		
137	1592	B-包含層	鉢	19.2	(7.9)	ミガキ/ナデ	橙褐/ 淡橙褐・ 褐	0.5~1mm長、英、チャ、赤	1/4	鉢A、口縁周辺に紐孔2個
137	1593	B-包含層	甕	41.4	(24.1)	ハケ・指痕/タテハケ→ヨコナデ・斜ハケ	明淡褐- 淡褐	4.5mm以下小石	1/4	甕Ad
137	1594	B-包含層	鉢	42.0	4.5	ナデ	淡橙褐	0.5mm長、0.5~2mm英	1/16	
137	1595	A-包含層	鉢	32.6	(15.6)	ヨコナデ・ハケ・板ナデ/ミガキ・磨減	淡茶	0.5mm長少量、0.5~2mmチャ、雲少量	1/4	鉢A
137	1596	C-包含層	鉢	16.2	(4.6)	磨減/ヨコナデ・ヨコミガキ	淡黄褐	2~3mm長多量、1mm英多量、チャ、赤多量	1/4	鉢A、外面一部に黒斑
137	1597	B-包含層	鉢	22.0	(8.0)	ナデ・ハケ	淡褐	0.5~5mm長多量、0.5~2mm英	1/5	鉢B
137	1598	C-包含層	高杯 脚部	(10.1)	(7.4)	杯:ナデ、脚:ヨコヘラケズリ・ナデ/タテヘラミガキ、脚端:ナデ	赤褐	1mm長、英	(2/3)	
137	1599	B-包含層	高杯 脚部	(7.2)	(4.7)	ナデ・磨減/ハケ・ナデ	淡橙褐	1mm長、英多量	(1/6)	
137	1600	B-包含層	高杯 脚部	(10.5)	(6.4)	ナデ・シボリ痕/ヨコナデ	明淡茶褐	1.5mm以下長、英	(5/6)	
137	1601	B-包含層	高杯 脚部	(10.5)	(4.0)	ケズリ/ナデ	茶褐	0.5~1mm長、英、雲、0.5~2mmチャ	(1/8)	
137	1602	B-包含層	器台	(29.0)	(19.2)	ケズリ→ナデ/ナデ	淡褐	0.5~3mm長多量、英多量、チャ多量	(1/4)	
137	1603	B-包含層	器台	(29.0)	(19.2)	ケズリ→ナデ/ナデ	淡褐	0.5~2mm長多量、0.5~3mm英多量、0.5~1mmチャ多量	-	1602と同一個体
137	1604		高杯 脚部	(12.4)	(9.3)	ヨコナデ/ケズリ→ナデ	赤褐	0.5~1mm長、0.5~3mm英、0.5~2mmチャ	(1/2)	

137	1605	B-包含層	高杯 脚部	(10.1)	(11.8)	ケズリ→ナデ・ ヨコナデ/ケズリ →ミガキ	淡黄灰	0.5~1mm長、赤、 雲微量、0.5 ~4mm英、0.5 ~2mmチャ	(1/1)	穿孔6カ所
137	1606	B-包含層	高杯 脚部	(11.2)	(5.3)	ケズリ・ナデ/タ テハケ	淡褐	1mm長、英	(1/2)	
137	1607	B-包含層	高杯 脚部	(13.0)	(11.6)	シボリ痕・ヨコ ナデ・ハケ/タテ ミガキ・ヨコナ デ	淡橙褐	0.5~1mm長、 チャ、雲、赤、0.5 ~2mm英	(1/3)	
137	1608	C-包含層	高杯 脚部	(6.3~ 4.4)	(7.9)	ケズリ→ナデ・ シボリ痕/ナデ	明白灰褐	1mm長、英多量		外面に黒斑
137	1609	-	高杯 脚部	(7.6)	(8.1)	ハケ・ナデ・磨 減/ハケ・磨減	淡橙褐	0.5~2mm長、英、 チャ	(1/2)	
137	1610	B-包含層	底部	(3.4)	(4.3)	ハケ/ケズリ→板 ナデ	淡茶褐/ 赤褐	0.5~1mm長、1~ 2.5mm英、0.5~ 2.5mmチャ	(1/1)	
137	1611	B-包含層	ミ フ ア 土 器	8.0/ (4.4)	4.6	ハケ・磨減/指 痕・磨減	淡褐	0.5~1mm長、雲、 0.5~3mm英、0.5 ~2mmチャ	(1/2)	
137	1612		不明		(5.0)	タテハケ・ナデ/ タテハケ	灰褐	1mm長、英多量、 雲		
138	1613	SDC25	甕	18.0	(11.5)	ナデ・ケズリ/ナ デ・タタキ	明橙褐 黄褐	0.5~1mm石、0.5 ~2mm長、 1~2mmチャ	1/4	
138	1614	SDC25	甕	13.5	(10.5)	ナデ・ケズリ/ナ デ・ハケ	明褐	0.5~2mm石、1mm 長微、 0.5~1mmチャ	1/2	外面スス少
138	1615	SDC25	甕	14.2	(13.5)	ケズリ・指・ナ デ/ナデ・ハケ	黄褐 明黄褐	1~2mm石、1~ 2mm長、1~2mm チャ、0.5~1mm 赤微	2/5	外面中位スス少
138	1616	SDC25	甕	15.4	(20.8)	ナデ、ケズリ、指 痕/ナデ、ハケ	明褐	0.5mm石微、0.5 ~3mmチャ、 0.5mm雲	3/4	外面スス少
138	1617	SDC25	甕	15.8	(12.2)	ケズリ・指/タタ キ→ハケ・ナデ	黄褐	0.5mm石微、0.5 ~2mm長、0.5~ 1mmチャ、0.5mm 雲微	1/10	
138	1618	SDC25	甕	17.4	(11.0)	ヨコナデ・ナ デ・ケズリ/ヨコ ナデ・磨減不明	黄褐	0.5~1mm石、0.5 ~2mm長、1~3mm チャ、0.5~2mm 微、0.5~1mm赤 微	1/8	
138	1619	SDC25	甕	15.0	(4.6)	ナデ・ハケ・ケ ズリ/ナデ・タタ キ	明黄褐	0.5~1mm石、1mm 長、1~2mmチャ、 0.5mm赤	(1/4)	
138	1620	SDC25	甕	15.8	(3.6)	ナデ・ケズリ/磨 減	灰褐 黄褐	1~2mm長、1~ 3mmチャ	1/6	
138	1621	SDC25	甕	15.0	(5.3)	ハケ・ケズリ/タ タキ・ハケ・ナ デ	明褐 黄褐	0.5~1mm石、1mm 長微、0.5~1mm チャ微、1mm赤微	1/5	
138	1622	SDC25	甕	15.2	(5.3)	ハケ・磨減/タタ キ・ハケ・ナデ	明橙褐 明黄褐	0.5~1mm石、1~ 2mm長多、0.5~ 1mmチャ、0.5mm 赤微	1/6	内面胴上半ハクリ
138	1623	SDC25	甕	17.2	(4.1)	ナデ	黄褐	1~3mmチャ	1/4	
138	1624	SDC25	甕	13.7	(7.9)	ナデ・ケズリ/ナ デ・ハケ	明褐	0.5mm長、1mm赤、 0.5mm雲	1/4	外面スス
138	1625	SDC25	甕	15.2	(8.3)	ナデ・ケズリ/ナ デ・ハケ	黄褐 明黄褐	1~3mm石、1mm 長、1~2mmチャ、 1mm赤微	1/1	外面等スス、口縁 部内外面一部スス
138	1626	SDC25	甕	14.6	(8.3)	ハケ・ケズリ/ナ デ・ハケ	明褐	1~4mm石、1~ 3mm長、1~5mm チャ	1/2	外面中位スス 内面炭化物
138	1627	SDC25	甕	14.0	(3.6)	ナデ/指	明黄褐	0.5~2mm石多、1 ~2mm長、0.5~ 1mmチャ	1/2	
138	1628	SDC25	甕	14.8	(5.2)	ハケ・ケズリ/ナ デ・タタキ	明黄褐	0.5~1mm石、1~ 2mm長、0.5 ~1mm赤	1/4	

観 察 表

138	1629	SDC25	甕	14.8	(5)	ケズリ・ナデ/タキ・ナデ	明黄褐	1~2mm石、1~2mm長、1~2mmチャ多、1mm赤	1/4	
138	1630	SDC25	甕	18.7	(3.7)	ケズリ・ナデ/ナデ	明黄褐	0.5~1mm石、0.5~1mm長微、0.5~1.5mmチャ多	1/8	
138	1631	SDC25	甕	15	(6.3)	ナデ	明黄褐	1~2mm石、1~2mm長、1~3mmチャ多、0.5mm赤微	1/1	外面全面薄スス
138	1632	SDC25	甕	15.8	(3.5)	ナデ	明褐	0.5~1mm石、0.5~1mm長、1mmチャ微	1/8	
138	1633	SDC25	甕	17.0	(3.7)	ナデ	黄褐	0.5mm石微、1mm長、0.5~3mmチャ、0.5mm赤	1/3	
138	1634	SDC25	甕	13.6	(12.8)	ケズリ/ハケ	明黄褐	0.5~1mm石、1mm長、0.5~3mmチャ、0.5mm赤、1mm雲微	1/1	内面頸部工具痕
138	1635	SDC25	甕	18.0	(5.0)	磨滅(ケズリ?)/磨滅・タキ	明黄褐	0.5~1mm長、0.5mm石微、0.5~1mmチャ、0.5mm赤	1/4	
138	1636	SDC25	壺	16.5	(7.0)	ハケ→ナデ・ケズリ/ハケ→ナデ	黄褐	1mm石、1mm長微、0.5~1mmチャ	1/4	
138	1637	SDC25	壺	18.8	(7.5)	ナデ・指/ハケ・ナデ	明橙褐 明黄褐	1mm石、0.5~1mm長、0.5mm赤多、0.5~1mm雲微	1/4	
138	1638	SDC25	壺	15.8	(6.5)	ナデ/ハケ→ナデ	暗黄褐	0.5~1.0mm長、0.5mm石、0.5~1.0mmチャ	4/5	
138	1639	SDC25	壺	17.4	(6.9)	ハケ・ナデ	黄褐	0.5mm石、0.5~1mm長微、0.5mmチャ	1/6	
138	1640	SDC25	壺	21	(3.7)	ナデ	赤褐	1mm石微、1~2mmチャ	4/5	口縁端部黒斑
139	1641	SDC25	壺	11.0	(8.1)	ナデ・ハケ/ナデ・ハケ・ケズリ	明黄褐	0.5~2mm長、0.5~1mmチャ	1/6	
139	1642	SDC25	壺	16	(10.2)	ハケ・ケズリ/ハケ	明灰褐 明黄褐	0.5~1mm石多、0.5~1mm長、1mmチャ、0.5~1mm赤多	7/8	
139	1643	SDC25	高杯	(10.6)	(11.5)	杯:ナデ/ナデ、脚:ケズリ/磨滅	明黄褐 明橙褐	1~2mm石、1~3mm長、2~4mmチャ、1mm黒微		
139	1644	SDC25	高杯	15.4 (11.4)	12.8	杯:ハケ・ナデ/ハケ・ミガキ、脚:シポリ・ケズリ・ナデ/ミガキ	明橙褐	0.5mm石、0.5~2mm長、1mmチャ、0.5mm赤	9/10	
139	1645	SDC25	高杯	16.0	(5.7)	ナデ	暗黄褐	1~3mm石、1mm長微、0.5~2mmチャ	4/5	
139	1646	SDC25	高杯		(3.2)	ミガキ	褐 赤褐	0.5mm石微、0.5mmチャ微		杯底部刺突痕
139	1647	SDC25	高杯	16.2	12.8	杯:磨滅、脚:ケズリ/ミガキ	明黄褐	0.5~2mm石多、1mm長微、0.5~2mmチャ、0.5~1mm赤	1/4	杯底部刺突痕
139	1648	SDC25	罎	11	7.6	ケズリ・ナデ・指/磨滅	黄褐 明黄褐	1~2mm石微、1~2mm長多、1~3mmチャ、0.5~1mm赤、1~2mm雲	1/1	
139	1649	SDC25	罎	9.8	8.6	ケズリ→ナデ/ハケ・ミガキ	褐	0.5~2mm石、1mm長微、1mmチャ微、0.5~3mm赤多	1/1	
139	1650	SDC25	罎	9.8	7.8	ケズリ・指/ハケ	黄褐 明黄褐	1~2mm石多、1~3mm長多、1~4mmチャ多、1~2mm雲	1/2	内面赤色顔料

139	1651	SDC25	埴	8.1	8.1	ケズリ・ナデ・指/ナデ・ハケ	明黄褐	1~3mm石多、0.5~1mm長、1mmチャ、0.5mm赤微、1~2mm雲微	1/6	
139	1652	SDC25	埴	11.4	(7.1)	ケズリ・ナデ/ナデ(磨滅)	明黄褐	0.5~1.5mm石、0.5~2mm長、0.5~4mmチャ、0.5mm雲微	1/4	黒斑あり
139	1653	SDC25	埴	9	8.4	ミガキ/磨滅	暗橙褐 暗黄褐	2~5mm石、2~5mm長	1/2	
139	1654	SDC25	埴	8.2	8.0	ケズリ・爪圧痕/ハケ・ミガキ	黄褐	1~2mm石、0.5~1mm長、1~2mmチャ	1/2	
139	1655	SDC25	埴	8.2	8.7	ハケ・ケズリ・ナデ/ナデ・ハケ	黄褐	0.5~1mm石微、0.5~1mm長、0.5mm赤、0.5~1mm雲多	2/5	
139	1656	SDC25	埴	頸7.3	(7.1)	ナデ・ケズリ/ナデ・ハケ	明褐 明黄褐	0.5~1mm石、0.5~2mm長、1~2mmチャ多、0.5mm雲	(1/3)	外面スス
139	1657	SDC25	埴	7.8	(5.7)	ナデ・ケズリ	明橙褐 明黄褐	0.5~1mm石多、1mm長微、0.5~1mmチャ微	1/1	
139	1658	SDC25	埴	頸7.5	(4.9)	ケズリ→ナデ/ハケ→ナデ	橙褐	1~2mm石微、1~2mm長微、1~2mmチャ微、0.5mm赤多	頸部1/3	
139	1659	SEC108	甕	18.0	(15.4)	ケズリ・ナデ/ハケ・ナデ	明黄褐 黄褐	1~2mm石、1mm長、0.5~1mmチャ	2/3	外面頸部以外スス
139	1660	SEC108	甕	16.4	(15.5)	ケズリ・ナデ/ハケ・ナデ	暗黄褐 黄褐	0.5~1mm石、0.5~2mm長、0.5~1mmチャ	2/5	外面胴部下半スス
139	1661	SEC108	甕	13.8	19.1	ケズリ・ナデ・指/ハケ・ナデ	明黄褐	0.5mm石微、0.5~2mmチャ、0.5~1mm赤、0.5mm雲微	4/5	外面頸部以外スス
139	1662	SDC93	甕	11.2	(9.9)	ナデ/ハケ→ケズリ→ミガキ	暗黄褐	0.5~2mm石、0.5~1mm長、0.5~1mmチャ、0.5mm赤微	2/3	外面胴部中位スス
139	1663	SKC429	甕	13.8	(10.8)	磨滅	明橙褐 暗黄褐	0.5~1mm石微、1mm長、1mmチャ微、0.5~1mm赤、0.5~1mm雲	1/6	外面胴部中位スス
139	1664	SDC64	甕	13.9	(5.2)	ハラナデ・ケズリ/ナデ	暗黄褐	0.5mm石微、2~3mm長、1~2mmチャ	3/4	内面口縁部黒斑
139	1665	SDC67	甕	16.2	26.6	ケズリ・ハケ/ナデ・ハケ	黄褐 明褐	0.5~3mm石多、0.5~2mm長微、0.5~2mmチャ多、0.5mm赤微	1/2	外面胴部下半スス
139	1666	SDC67	鉢	11.8	5.9	磨滅/ナデ	橙褐	0.5~1mm長微、0.5~1mmチャ、1mm赤微	4/5	内外面赤色顔料
139	1667	SDC67	埴輪	22.0	(13.8)	磨滅/ハケ	明黄褐	1~2mm長、0.5~1mm石微、0.5~1mmチャ、0.5~2mm赤	2/5	

付表15 土器観察表(古墳時代以降)

図版番号	番号	調査区	出土遺構	種類	器種	口径	器高	調整(内面/外面)	色調	口縁部残存率・(底部残存率)	備考
140	1668	A	包含層	須恵器	杯蓋	11.2	(3.8)	ナデ/ケズリ→ナデ	灰	1/4	
140	1669	B	SDB111(18)	須恵器	壺	頸径10.0	(5.6)	頸部:回転ナデ、肩部:指ナデ/頸部:回転ナデ	暗灰		
140	1670	C	SDC67	須恵器	高杯	11.3	10.2	回転ヨコナデ、脚内面:ヨコナデ→スリナデ	灰/暗灰		
140	1671	D	包含層	須恵器	壺L	9.3	(5.5)	ヨコナデ	暗灰	1/5	
140	1672	B	SDB54	須恵器	宝珠	宝珠径3.3	(1.5)	ナデ	灰	宝珠1/1	
140	1673	B	SDB111(18)	須恵器	甕	25.3	(5.6)	口縁部:回転ナデ、頸部:粗雑なナデ/ナデ	濃灰		
140	1674	A	包含層	須恵器	杯身	(10)	(1.9)	ナデ	青灰	(1/8)	
140	1675	A	包含層	須恵器	壺	(11)	(3.1)	ナデ	灰	(1/12)	
140	1676	A	包含層	土師器	杯	(18.4)	(1.3)	不明	桃褐	1/10	
140	1677	B	包含層	須恵器	播鉢	(12.6)	(3.9)	ヨコナデ/未調整	淡赤褐	(1/5)	
140	1678	B	包含層	瓦器	小壺	3.4	(6.5)	ナデ、口縁部:ミガキ/タテミガキ・ヨコミガキ、底部:ナデ	茶灰(黒付着物有り)/黒灰	1/4	
140	1679	B	SDB23	土師器	杯	15.3	3	ナデ、口縁部:ナデ、底部:指頭痕	淡灰褐/淡灰褐-淡褐	1/4	
140	1680	B	SDB23	土師器	皿	15.6	2.4	ヨコナデ/指・ナデ	淡褐	3/4	
140	1681	B	SDB60	土師器	皿	15.8	2	口縁部:ナデ、底部:ナデ・指痕/ナデ・指痕	淡褐	1/8	
140	1682	B	SDB05	土師器	皿	11.8	2.4	ヨコナデ	淡褐	1/4	
140	1683	A	SDA51上層	土師器	皿	8	0.8	ナデ/未調整	明肌茶	1/2	
140	1684	A	SDA52最上層	土師器	皿	10	1.1	ナデ	肌茶	1/4	
140	1685	A	包含層	土師器	皿	8.5	1.5		淡茶		
140	1686	B	SDB111(18)	土師器	皿	6.8	1.0	指ナデ、口縁部:ナデ上げ、底面:指痕	明淡乳褐	1/3	
140	1687	B	SDB41	土師器	皿	7.4	1.0	ナデ/ナデ・指オサエ	淡橙	1/3	
140	1688	A	包含層	土師器	皿	9.6	2.15	ハケ→ナデ/横ナデ・指オサエ	黄褐	1/4	
140	1689	A	包含層	土師器	皿	11.1	2.2	ヨコハケ→ヨコナデ/ヨコナデ・指痕	淡褐		
140	1690	B	SDB05	土師器	皿	9.9	1.8	ナデ、底部:手づくね	淡灰褐-暗灰褐	1/8	
140	1691	B	SDB111(18)	土師器	皿	10.4	1.85	口縁部:ナデ、底部:ユビオサエ/ナデ	明乳橙	1/4	
140	1692	B	SEB500	土師器	皿	11.8	2.0	ナデ、口縁部:ナデ、底部:指痕	淡褐	1/10	
140	1693	B	包含層	土師器	壺	(7.4)	(7.5)	ハケ・ミガキ	淡褐	(1/1)	胴部下半に煤付着
140	1694	C	SDC15	灰釉	皿	13.4	2.4	回転ナデ、底部:糸切り痕	明乳灰	1/4・(1/2)	貼付高台
140	1695	C	SDC05	緑釉	椀	(6.9)	(1.4)	ナデ、底部:ヘラ切り	淡緑灰	(1/4)	緑釉陶器
150	1696	B	SDB54	瀬戸美濃	皿	(4.6)	(1.6)	施釉	暗緑/淡褐	(1/4)	緑釉陶器
150	1697	B	SDB07	青磁	椀	(10)	(2.9)	施釉	暗緑茶	(1/4)	
140	1698	A	SDA02	白磁	壺蓋	5.4	(2.0)	施釉/ヨコナデ	白灰	3/10	
140	1699	B	SDB54	山茶碗	皿	7.9	(1.7)	施釉	濃緑灰	1/8	外面一部煤付着
140	1700	B	包含層	瀬戸美濃	鉄釉皿	10.3	2.4	ナデ/ヨコナデ、口縁:鉄釉	灰/暗赤茶	2/5	上半に鉄釉
140	1701	B	SDB54	白磁	椀	15.4	(2.6)		明淡黄灰	1/4	
140	1702	B	里道交差点付近	白磁	椀	14.4	(4.2)	施釉	淡黄灰	1/10	
140	1703	B	包含層	白磁	椀	15.8	(5.5)	施釉/ヘラケズリ・施釉	淡灰白/淡黄灰	1/5	

140	1704	B	里道交差点付近	瀬戸美濃・天目	椀	12.0	(5.4)	施釉/ナデ・施釉	暗/暗茶、黄褐		
140	1705	A	包含層	青磁	椀	(5.2)	(2.8)	緑釉/ナデ・施釉、底部:ケズリ	緑灰	(1/1)	龍泉窯
140	1706	A	包含層	白磁	椀	(4.2)	(0.9)	施釉、底部:ケズリ高台	白褐	(3/4)	「日」墨書
140	1707	B	包含層	青磁	椀	(5.0)	(3.3)	施釉	淡緑/淡緑、淡灰	(1/3)	龍泉窯
141	1708	A	SDA51・SDA52	瓦器	椀	13.6	3.8	ミガキ/ナデ・指痕・ミガキ	暗灰	1/3	
141	1709	A	SDA51・SDA52	瓦器	椀	13.5	(3.0)	ミガキ/ナデ・指痕・ミガキ	暗灰	1/12	
141	1710	B	SDB05	瓦器	椀	15.2	4.8	ミガキ/ナデ・指痕・ミガキ	灰	2/5	貼り付け高台
141	1711	B	SDB05	瓦器	椀	13.9	(3.1)	ミガキ/ナデ・指痕・ミガキ	暗灰	1/5	
141	1712	B	SDB05	瓦器	椀	14.4	(3.4)	ミガキ/ナデ・指痕・ミガキ	暗灰褐	1/4	
141	1713	B	SDB07	瓦器	椀	11.6	(3.2)	ミガキ・暗文/ナデ・指痕・ミガキ	黒灰	(1/1)	
141	1714	B	SDB07	瓦器	椀	10.8	(3.0)	ミガキ・暗文/ナデ・指痕・ミガキ	黒灰	1/4	
141	1715	B	SDB111(18)	瓦器	椀	12.8	(3.65)	ミガキ・暗文/ナデ・指痕・ミガキ	黒灰	1/4	
141	1716	B	SDB60	瓦器	椀	13.4	4.2	ミガキ/ナデ・指痕・ミガキ	黒灰	1/1	
141	1717	B	SDB54	瓦器	椀	16.6	(2.6)	ミガキ/ナデ・指痕・ミガキ	暗灰	1/8	
141	1718	B	SEB500	瓦器	椀	15	5.6	ミガキ・暗文/ナデ・指痕・ミガキ	濃黒灰	1/10	
141	1719	B	SEB500	瓦器	椀	14.4	5.2	ミガキ・暗文/ナデ・指痕・ミガキ	黒灰	1/3	
141	1720	B	SEB500	瓦器	椀	17.4	(4.7)	ミガキ/ナデ・指痕・ミガキ	黒灰	1/4	
141	1721	B	SEB500	瓦器	椀	15.6	(3.9)	ミガキ/ナデ・指痕・ミガキ	黒灰	1/4	
141	1722	B	SEB500	瓦器	椀	14.3	(3.7)	ミガキ/ナデ・指痕・ミガキ	黒灰	1/4	
141	1723	B	包含層	瓦器	椀	11.8	(4.1)	ミガキ・暗文/ナデ・指痕・ミガキ	黒灰	1/5	
141	1724	C	SDC02	瓦器	椀	12.2	4.2	ミガキ・暗文/ナデ・指痕・ミガキ	淡灰褐	2/3	貼り付け高台
141	1725	C	SDC16	瓦器	椀	15.8	(3.5)	ミガキ/ナデ・指痕・ミガキ	灰褐	1/6	
141	1726	C	SDC22a	瓦器	椀	15.4	(5.1)	ミガキ/ナデ・指痕・ミガキ	銀灰	1/8	
141	1727	D	包含層	瓦器	椀	14.4	5.0	ミガキ・暗文/ナデ・指痕・ミガキ	暗黒	1/3	
141	1728	A	包含層	瓦器	椀	(5.0)	(1.5)	ミガキ・暗文/ナデ・指痕・ミガキ	黒灰	(1/1)	
141	1729	A	包含層	瓦器	椀	(5.1)	(1.2)	ミガキ・暗文/ナデ・指痕・ミガキ	黒灰	(1/3)	
141	1730	A	包含層	瓦器	羽釜	20.5	(7.1)	ヨコハケ/ヨコナデ・指痕	灰褐	1/?	煤付着
141	1731	B	包含層	瓦器	羽釜	24.8	(4.2)	ナデ	灰	1/20	
141	1732	B	SDB111(18)	瓦質	羽釜	31.5	(4.5)	ナデ/ナデ・指痕	淡茶褐	1/12	
141	1733	B	SDB111(18)	瓦質	羽釜	30	(6.3)	ナデ/ヨコナデ・指痕	濃黒灰	1/10	
141	1734	B	SDB41	瓦質	羽釜	27.4	(5.2)	ハケ、口縁部:ヨコナデ	暗灰	1/12	外面一部煤付着
141	1735	C	SDC12・13・14	瓦質	羽釜	17.3	(5.2)	ナデ/ヨコナデ	淡褐	1/8	
141	1736	C	SDC16	瓦質	羽釜	16.7	(5.2)	ナデ/ヨコナデ	淡褐-淡橙	1/5	煤付着、輪積み痕
141	1737	B	包含層	瓦質	塀	25	(2.4)	ナデ/ナデ・指痕	淡灰	1/12	



付表16 石剣観察表

図版番号	番号	調査区	遺構	全長(残存長)(cm)	幅(破片幅)(cm)	厚さ(破片厚)(cm)	重量(g)	石材	備考
142	1	A	SHA74	(3.45)	2.15	0.65	6.88	粘板岩	磨製石剣、先端部、層状剥離発達、石英脈入る
142	2	B	SHB139 (SKB684)	2.10	3.10	1.20	10.72	サヌカイト	打製石剣、先端部未成品
142	3	B	SHB141	(2.70)	(1.20)	0.60	3.04	粘板岩	銅剣形石剣、樋部分
142	4	B	SHB150	(2.30)	2.80	0.30	2.47	粘板岩	磨製石剣、先端部
142	5	B	SHB152	(3.65)	(1.50)	(0.45)	2.21	粘板岩	磨製石剣、石英脈入る、層状剥離
142	6	A	SHA74	(5.50)	(4.05)	(0.75)	18.18	粘板岩	磨製石剣、敲打整形、表裏半截
142	7	B	SHB146	(7.90)	(2.00)	1.20	15.59	粘板岩	磨製石剣、基部折損、鋒、回転擦痕
142	8	B	SHB150	(5.60)	4.10	(0.70)	20.90	粘板岩	磨製石剣、関部、剥離整形、表裏半截
142	9	B	SHB529	(3.00)	1.70	0.40	2.40	粘板岩	磨製石剣、身部分、漆黒色
142	10	B	SHB529	(2.20)	(1.20)	(0.50)	1.25	粘板岩	銅剣形石剣、樋部分
142	11	B	SHB667 (SKB705)	(4.25)	(1.60)	(0.40)	3.87	粘板岩	先端部・基部折損、剥離面研磨、施溝分割痕
142	12	B	SHB642	(4.25)	(2.50)	(0.40)	4.94	粘板岩	磨製石剣、樋痕跡、表裏半截
142	13	B	SHB690	(4.00)	2.80	0.95	11.65	サヌカイト	磨製石剣、剥離後部分研磨
142	14	B	SHB690	(4.00)	2.50	1.10	15.23	サヌカイト	磨製石剣、基部、剥離後部分研磨
142	15	B	SHB691	(7.20)	(3.60)	(0.70)	18.30	粘板岩	磨製石剣、先端部
142	16	B	SHB910	(3.60)	(2.00)	(0.60)	4.70	粘板岩	銅剣形石剣、樋部分
142	17	B	SHB910	(4.60)	(3.00)	(0.50)	8.64	粘板岩	磨製石剣、表裏半截、灰白色
142	18	B	SHB910	(6.00)	(2.70)	(0.55)	10.20	粘板岩	磨製石剣、基部
142	19	B	SHB910	(3.00)	(1.95)	1.35	7.92	サヌカイト	磨製石剣、剥離後部分研磨、側縁部再加工剥離
142	20	C	SHC80	(16.80)	3.50	1.40	115.6	粘板岩	磨製石剣、先端部折損
142	21	C	SHC137b	(8.90)	2.95	0.90	31.50	粘板岩	磨製石剣、先端部折損、再加工品、戈?
142	22	B	SHB1052 (SKB1051)	(7.50)	(3.50)	0.80	27.40	粘板岩	磨製石剣、再加工、表裏半截
142	23	C	SHC479a	(5.10)	(1.55)	(0.60)	4.91	粘板岩	磨製石剣、剣身側縁部、表裏半截、灰白色
142	24	C	SHC492	(5.50)	(2.00)	(0.40)	4.75	粘板岩	磨製石剣、表裏半截、黒色
142	25	C	SHC80	(5.80)	(2.70)	1.85	30.30	サヌカイト	磨製石剣、剥離後部分研磨、再加工
142	26	C	SHC80	(2.20)	(1.30)	(0.65)	1.56	粘板岩	磨製石剣、側縁部
142	27	C	SKC518	(1.00)	1.20	0.40	0.37	粘板岩	磨製石剣、鋒先端部
143	28	A	SKA60	(5.65)	(2.40)	(0.50)	9.68	粘板岩	磨製石剣、表裏半截、灰白色
143	29	B	SKB297	(3.30)	(2.25)	(0.70)	7.13	粘板岩	磨製石剣、身部、側縁調整剥離
143	30	B	SKB735	(5.10)	(2.05)	(0.45)	7.69	粘板岩	磨製石剣、表裏半截、側縁調整剥離
143	31	B	SKB736	(8.20)	(2.20)	(1.00)	13.75	粘板岩	磨製石剣、基部
143	32	B	SKB904	(4.10)	(3.45)	(0.35)	4.57	粘板岩	磨製石剣、先端部
143	33	B	SHB691 (SKB1164)	(5.10)	(2.60)	0.90	16.15	粘板岩	磨製石剣、身部、層状剥離
143	34	B	SKB801	11.30	3.05	1.70	68.7	サヌカイト	石槍(磨製石剣)、完形、部分研磨
143	35	B	SKB1194	(2.30)	(2.40)	(0.40)	3.23	サヌカイト	磨製石剣、表面半截、側縁調整剥離
143	36	B	SKB1116	(3.10)	(3.10)	(1.20)	9.69	サヌカイト	打製石剣、側縁部片
143	37	C	SKC218	(5.30)	2.80	0.60	13.65	粘板岩	磨製石剣、基部、再加工
143	38	C	SKC335	(4.45)	3.75	1.15	13.69	サヌカイト	打製石剣、先端部分割品
144	39	A	SDA49-3区	(4.20)	2.90	(0.35)	3.63	粘板岩	磨製石剣、先端部表裏剥離
144	40	A	SDA49-2区	(5.50)	(2.60)	1.35	24.60	粘板岩	磨製石剣、基部茎尻に擦切施溝分割痕
144	41	A	SDA61	(5.00)	(2.75)	0.45	10.90	粘板岩	磨製石剣、先端部基部折損、剥離再加工
144	42	A	SDA63西溝	(4.50)	3.10	1.10	26.70	粘板岩	磨製石剣、先端部折損、擦切施溝分割痕

144	43	A	SDA63東溝	(8.45)	3.15	1.40	55.1	粘板岩	磨製石剣、剥離整形・研磨途中の 未成品
144	44	A	SDA68	(10.55)	(2.35)	1.35	48.60	粘板岩	銅剣形石剣、穿孔
144	45	A	SDA68-5区	(4.90)	(2.45)	(0.30)	5.53	粘板岩	磨製石剣、表裏半截
144	46	C	SDC25	(5.00)	3.00	0.80	17.1	粘板岩	磨製石剣、先端部折損
144	47	C	SDC25	(6.20)	(1.55)	(0.35)	3.14	粘板岩	磨製石剣、使用時の破損片?
144	48	C	SDC25	(4.80)	(3.20)	0.90	18.90	粘板岩	磨製石剣、茎部端に穿孔痕、石包 丁を転用? 擦切施溝分割痕
144	49	C	SDC25	(4.30)	3.00	0.80	13.10	粘板岩	磨製石剣、剥離再加工
144	50	C	SDC25	(3.60)	(3.05)	(0.30)	3.02	粘板岩	磨製石剣、表裏半截
144	51	C	SDC25- SDC114	(5.70)	(2.20)	(0.35)	5.49	粘板岩	磨製石剣? 表裏半截、石剣以外 の可能性
144	52	C	SDC90	(4.40)	3.40	0.95	12.07	サヌカイト	磨製石剣、先端部分割品
144	53	C	SDC99	(7.30)	(2.30)	1.10	22.00	砂岩	磨製石剣、先端部側縁再加工
144	54	C	SDC114	(6.50)	(2.20)	1.10	18.00	粘板岩	磨製石剣、茎部、剣身斜行の茎部 端面、擦切施溝分割痕
144	55	C	SDC99	(8.30)	4.30	1.30	61.50	粘板岩	磨製石剣、先端部折損、側縁剥離、 再加工?
144	56	C	SDC90	(4.95)	2.55	0.45	12.54	粘板岩	磨製石剣、基部、層状剥離
144	57	C	SDC93	(5.10)	2.70	0.60	13.95	粘板岩	磨製石剣、茎部
144	58	C	SDC144	(4.25)	(3.10)	(1.05)	17.11	粘板岩	銅剣形石剣、表裏とも鎬部を剥離
144	59	C	SDC99	(4.10)	3.40	(0.70)	8.79	粘板岩	磨製石剣、漆黒色
144	60	C	SDC114	(3.55)	(2.90)	0.70	7.56	粘板岩	磨製石剣、擦切施溝分割痕、敲打 痕、再加工
145	61	A	包含層	(4.70)	3.10	0.75	17.69	粘板岩	磨製石剣、灰白色
145	62	A	包含層	(4.90)	(2.65)	(0.55)	8.40	粘板岩	磨製石剣、表裏半截、側縁剥離整 形
145	63	A	包含層	(5.10)	2.75	0.50	13.24	粘板岩	磨製石剣、茎部
145	64	A	包含層	(8.65)	(3.50)	(0.75)	36.50	粘板岩	磨製石剣、表裏半截、側縁剥離整 形
145	65	B	包含層	(13.60)	2.70	0.60	30.70	粘板岩	磨製石剣、先端部、小形
145	66	B	包含層	(3.00)	1.70	0.50	2.60	粘板岩	磨製石剣、先端部
145	67	B	包含層	(3.75)	1.90	(0.20)	2.28	粘板岩	磨製石剣、先端部、表裏半截
145	68	B	包含層	(6.90)	2.25	0.60	9.40	粘板岩	磨製石剣、先端部
145	69	B	包含層	(3.80)	3.00	0.70	10.62	粘板岩	磨製石剣、先端部折損、剣身~茎 部
145	70	B	包含層	(4.80)	2.40	(0.70)	11.06	粘板岩	磨製石剣、表裏剥離、半截?
145	71	B	包含層	(6.70)	2.50	(0.80)	19.32	粘板岩	磨製石剣、上下両端剥離整形、側 縁線状敲打痕、破損破片?
145	72	B	包含層	(4.70)	(2.90)	(0.40)	8.06	粘板岩	磨製石剣、表裏剥離
145	73	B	包含層	(3.80)	(2.70)	(0.75)	7.40	粘板岩	磨製石剣、先端部基部折損、表裏 剥離
145	74	B	包含層	(4.40)	2.95	0.75	15.04	粘板岩	磨製石剣、茎部、剥離面遺存
145	75	B	包含層	(4.95)	2.50	0.75	15.60	粘板岩	磨製石剣、茎部、穿孔
145	76	B	包含層	(3.50)	(3.50)	(0.70)	10.24	サヌカイト	打製石剣、剣身分割品
145	77	B	包含層	(5.10)	(2.90)	(0.70)	14.82	粘板岩	磨製石剣、先端部折損、表裏研磨 面除去、側縁剥離整形
145	78		包含層	(5.30)	4.30	0.65	23.50	粘板岩	磨製石剣、穿孔、茎部端面斜行、石 庖丁再加工?
145	79	B	包含層	(6.80)	(3.50)	(1.10)	26.87	粘板岩	磨製石剣、茎部、穿孔(刃関)
145	80	B	包含層	(6.00)	5.00	1.20	50.5	粘板岩	銅剣形石剣、茎部、樋、穿孔、端面 斜行
146	81	C	包含層	(3.00)	(1.60)	0.45	2.65	粘板岩	磨製石剣、先端部
146	82	C	包含層	(4.00)	(1.70)	0.65	4.57	粘板岩	磨製石剣、先端部、側縁剥離整形
146	83	C	包含層	(4.00)	4.15	1.05	16.27	サヌカイト	磨製石剣、先端部分割品
146	84	C	包含層	(4.35)	(2.25)	(0.90)	4.04	粘板岩	磨製石剣
146	85	C	包含層	(3.10)	(2.70)	0.80	9.15	粘板岩	磨製石剣、上下両端・側縁部剥離 整形
146	86	C	包含層	(13.50)	3.10	0.70	48.80	粘板岩	磨製石剣、基部折損、側縁線状敲 打痕、再加工
146	87	C	包含層	(5.30)	2.60	(0.60)	7.25	粘板岩	磨製石剣、先端部折損、表裏半截

観 察 表

146	88	C	包含層	(4.80)	3.40	0.90	22.10	粘板岩	磨製石剣、剣身分割品
146	89	C	包含層	(5.50)	(3.50)	(0.60)	15.28	粘板岩	磨製石剣、先端部基部折損、表裏半截
146	90	C	包含層	(4.90)	(2.40)	(0.55)	6.26	粘板岩	磨製石剣、側縁部、灰白色、擦切施溝分割痕
146	91	C	包含層	(6.20)	(3.40)	1.10	24.30	粘板岩	磨製石剣、先端部・基部折損、側縁剥離整形
146	92	C	包含層	(6.30)	(3.60)	(0.70)	18.67	粘板岩	磨製石剣、未成品？ 敲打痕
146	93	C	包含層	(9.90)	3.20	0.65	30.48	粘板岩	磨製石剣、灰白色、側縁刃部に敲打痕
146	94	C	包含層	(3.60)	2.55	0.40	5.64	粘板岩	磨製石剣、茎部、灰白色
146	95	C	包含層	(2.90)	2.90	0.75	10.77	粘板岩	磨製石剣、茎部
146	96	C	包含層	(4.20)	2.95	0.95	17.01	サヌカイト	磨製石剣、先端部折損
146	97	C	包含層	(6.10)	3.30	1.20	27.30	サヌカイト	打製石剣、未成品、剥離後部分研磨
146	98	C	包含層	(8.95)	3.00	(0.60)	24.25	変成凝灰岩	磨製石剣、先端部折損
146	99	C	包含層	(2.00)	3.00	0.60	6.17	粘板岩	石庖丁の可能性、双穿孔
146	100	C	包含層	(5.50)	(2.00)	(0.70)	36.90	粘板岩	磨製石剣、先端部・基部折損
146	101	C	包含層	(11.60)	4.60	1.20	84.20	粘板岩	磨製石剣未成品、側縁線状敲打痕

付表17 石鏃観察表

図版 番号	番号	調査 区	遺構	全長(残 存長) (cm)	幅(残存 幅) (cm)	厚さ(最 大厚) (cm)	重量 (g)	石材	備考
147	102	B	SHB140	(3.40)	(1.50)	0.40	2.46	粘板岩	鋒・茎部折損、鏃は片面のみに成形
147	103	B	SHB149	(2.30)	(1.50)	0.30	1.10	粘板岩	鋒折損、両面に鏃
147	104	B	SHB538	(1.60)	(0.90)	0.20	0.33	粘板岩	鋒破片、鏃は片面のみに成形
147	105	B	SHB542	(2.30)	(1.00)	0.35	0.87	サヌカイト	茎部破片
147	106	B	SHB543	2.90	1.90	0.20	1.30	粘板岩	完形
147	107	B	SHB690	(4.10)	1.30	0.20	1.97	粘板岩	茎部折損、剥片を加工・成形
147	108	C	SHC80	(3.60)	1.40	0.30	1.60	粘板岩	茎部折損、鏃は片面のみに成形
147	109	C	SHC168	6.70	2.00	0.35	6.01	粘板岩	茎部折損、未成品?
147	110	B	包含層	(3.90)	1.20	0.25	1.40	粘板岩	茎部折損、剥片を加工・成形
147	111	C	SHC479a	3.40	(2.10)	0.20	1.85	粘板岩	茎部一部折損、剥片を加工・成形
147	112	B	SKB451	(4.90)	1.40	0.30	2.99	粘板岩	鋒折損、剥片を加工・成形
147	113	B	包含層	(4.90)	(1.10)	0.30	2.40	粘板岩	鏃身破片
147	114	C	SDC99	(4.00)	1.50	0.25	2.40	粘板岩	鋒折損、両面に鏃
147	115	C	SDC114	(4.00)	1.00	0.30	1.56	粘板岩	茎部折損、両面に鏃、精良品
147	116	B	SKB741	(3.10)	(1.00)	0.25	1.15	粘板岩	破片
147	117	C	SKC124	(2.90)	1.70	0.20	1.40	粘板岩	茎部折損、剥離面遺存
147	118	B	包含層	(3.30)	1.30	0.25	1.22	粘板岩	茎部折損、剥離面遺存
147	119	B	包含層	(5.30)	1.80	0.40	3.84	粘板岩	鋒・茎部折損、両面に鏃、関部を敲打剥離して成形
147	120	B	包含層	(5.60)	1.70	0.40	5.25	粘板岩	鋒折損、片面一部に鏃、未成品?
147	121	C	包含層	(3.80)	1.75	0.30	2.66	粘板岩	鋒折損、片面に鏃
147	122	B	包含層	(2.90)	1.50	0.30	1.92	粘板岩	鋒折損、剥片を加工・成形
147	123	C	包含層	(3.00)	1.10	0.30	1.54	粘板岩	鋒・茎部折損、側縁縁りに研磨痕、転用品?
147	124	A	SHA98	2.90	2.10	0.40	1.61	サヌカイト	製品、凹基式
147	125	B	SHB138	1.80	1.20	0.30	0.37	サヌカイト	製品、有茎式A技法
147	126	B	SHB138	2.20	1.50	0.40	0.67	サヌカイト	製品、凹基式、基部一部折損
147	127	B	SHB138	2.55	1.40	0.25	0.79	サヌカイト	製品、有茎式A技法
147	128	B	SHB138	3.75	1.80	0.70	4.21	サヌカイト	製品、有茎式A技法、未成品?
147	129	B	SHB140	(2.70)	1.30	0.40	1.31	サヌカイト	製品、鋒・茎部折損
147	130	B	SHB140	3.30	1.80	0.50	2.21	サヌカイト	製品、平基式、基部一部折損
147	131	B	SHB140	(4.10)	1.40	0.60	3.18	サヌカイト	製品、有茎式A技法
147	132	B	SHB149	3.40	1.35	0.40	1.70	サヌカイト	製品、有茎式B技法
147	133	B	SHB149	(2.60)	1.30	0.50	1.75	サヌカイト	製品、凸基Ⅰ式、茎部折損
147	134	B	SHB150	(3.00)	2.35	0.40	4.05	サヌカイト	未成品? 平基式、鋒折損
147	135	B	SHB152	(3.20)	1.00	0.55	1.90	サヌカイト	製品、有茎式B技法、鋒折損
147	136	B	SHB152	2.55	1.20	0.40	1.03	サヌカイト	製品、凸基Ⅱ式
147	137	B	SHB152	2.50	1.50	0.50	1.76	サヌカイト	製品、凸基Ⅰ式
147	138	B	SHB152	(2.20)	1.60	0.45	1.36	サヌカイト	製品、有茎式A技法、茎部折損
147	139	B	SHB152	3.80	1.60	0.55	3.08	サヌカイト	製品、凸基Ⅱ式
147	140	B	SHB152	2.60	2.00	0.75	4.87	サヌカイト	未成品
147	141	B	SHB152	2.20	2.20	0.40	2.74	サヌカイト	未成品
147	142	B	SHB341 (SKB819)	(4.15)	1.60	0.45	3.89	サヌカイト	製品、鋒・茎部折損
147	143	B	SHB528	1.80	1.60	0.20	0.61	サヌカイト	製品、平基式
147	144	B	SHB528	(1.60)	(1.85)	0.50	1.19	サヌカイト	製品、鋒・茎部折損
147	145	B	SHB528 (SKB845)	2.80	1.70	0.30	1.59	サヌカイト	製品、凸基Ⅱ式、自然面あり
147	146	B	SHB529	3.40	1.90	0.55	2.14	サヌカイト	製品、有茎式A技法
147	147	B	SHB538	2.90	2.10	0.50	2.11	サヌカイト	製品、平基式
147	148	B	SHB538	3.20	2.15	0.80	5.59	サヌカイト	未成品、凸基Ⅰ式
147	149	B	SHB538	(1.00)	(0.90)	0.20	0.25	サヌカイト	製品、鋒・基部折損
147	150	B	SHB538	(3.50)	1.20	0.40	1.65	サヌカイト	製品、鋒・基部折損
147	151	B	SHB539	5.90	1.50	0.65	5.50	サヌカイト	製品、有茎式B技法
147	152	B	SHB542	(2.00)	1.50	0.25	0.82	サヌカイト	製品、基部折損

観 察 表

147	153	B	SHB542	3.10	1.55	0.70	2.30	サヌカイト	製品、有茎式A技法
147	154	B	SHB642	(2.15)	1.30	0.20	0.92	サヌカイト	製品、基部折損
147	155	B	SHB642	(1.75)	(1.20)	0.25	0.64	サヌカイト	製品、基部折損
147	156	B	SHB642	(1.75)	1.45	0.25	0.97	サヌカイト	製品、鋒・基部折損
148	157	B	SHB690 (SKB846)	2.30	1.20	0.35	0.90	サヌカイト	製品、有茎式A技法
148	158	B	SHB690 (SKB846)	2.35	1.15	0.45	1.18	サヌカイト	製品、有茎式B技法
148	159	B	SHB690 (SKB846)	2.40	1.20	0.35	1.06	サヌカイト	製品、有茎式B技法
148	160	B	SHB690 (SKB846)	2.50	1.10	0.20	0.73	サヌカイト	製品、有茎式A技法
148	161	B	SHB690 (SKB846)	3.00	1.20	0.35	1.44	サヌカイト	製品、有茎式B技法
148	162	B	SHB690 (SKB846)	2.90	1.45	0.65	2.27	サヌカイト	製品、有茎式B技法
148	163	B	SHB690 (SKB846)	2.25	1.05	0.45	1.07	サヌカイト	製品、凸基Ⅱ式
148	164	B	SHB690	(2.85)	1.30	0.30	1.53	サヌカイト	製品、凸基Ⅱ式、鋒折損
148	165	B	SHB690	3.90	1.20	0.70	3.46	サヌカイト	製品、凸基Ⅱ式、基部一部折損
148	166	B	SHB690 (SKB846)	3.70	1.40	0.50	2.46	サヌカイト	製品、有茎式B技法
148	167	B	SHB690 (SKB846)	3.80	1.20	0.60	2.15	サヌカイト	製品、有茎式B技法
148	168	B	SHB690 (SKB846)	2.80	1.70	0.40	1.98	サヌカイト	製品、凸基Ⅰ式、自然面あり
148	169	B	SHB690 (SKB846)	2.90	1.70	0.55	2.83	サヌカイト	未成品、凸基Ⅰ式
148	170	B	SHB772 (SKB1167)	3.20	0.92	2.75	0.95	サヌカイト	製品、研磨痕あり
148	171	B	SHB706 (SKB428)	1.70	1.10	0.20	0.47	サヌカイト	製品、平基式、235と同一個体？
148	172	B	SHB718	(1.80)	2.00	0.30	1.16	サヌカイト	製品、凹基式、鋒折損
148	173	B	SHB888	(2.50)	1.45	0.45	1.52	サヌカイト	製品、凹基式、鋒折損
148	174	C	SHC80	3.70	2.60	1.00	10.91	サヌカイト	未成品、凸基Ⅰ式、自然面あり
148	175	C	SHC92	(2.80)	1.50	0.40	1.69	サヌカイト	製品、基部折損
148	176	C	SHC92	(2.60)	1.30	0.60	1.95	サヌカイト	製品、基部折損
148	177	C	SHC92	2.00	1.95	0.35	1.30	サヌカイト	製品、凹基式
148	178	C	SHC135b	(1.70)	(1.80)	0.45		サヌカイト	製品、平基式、鋒・基部一部折損
148	179	C	SHC169	3.40	1.65	0.40	1.83	サヌカイト	製品、有茎式A技法
148	180	C	SHC451	2.10	0.70	0.35	0.57	サヌカイト	製品、凸基Ⅰ式
148	181	C	SHC451	2.30	1.35	0.20	0.85	サヌカイト	製品、凸基Ⅰ式
148	182	C	SHC451	2.90	1.10	0.40	0.87	サヌカイト	製品、凸基Ⅱ式
148	183	C	SHC451 中央土坑	3.00	1.30	0.45	1.55	サヌカイト	製品、有茎式A技法
148	184	C	SHC451 (P14)	(2.40)	1.80	0.65	2.12	サヌカイト	製品、凹基式、鋒折損
148	185	C	SHC479a	3.20	2.30	0.55	2.49	サヌカイト	製品、平基式
148	186	C	SHC479a	(4.00)	1.30	0.50	2.33	サヌカイト	製品、凸基Ⅱ式、鋒折損
148	187	C	SHC479a	3.40	1.40	0.50	1.74	サヌカイト	製品、有茎式B技法
148	188	C	SHC479a	1.80	1.15	0.25	0.70	サヌカイト	製品、研磨痕あり、自然面あり
148	189	C	SHC479a	(1.40)	1.20	0.20	0.51	サヌカイト	製品、鋒・基部折損
148	190	C	SHC479a	(2.70)	1.80	0.55	2.78	サヌカイト	製品、鋒・基部折損
148	191	C	SHC479a	(2.30)	1.30	0.50	1.45	サヌカイト	剥片、鋒・基部折損
148	192	C	SHC487	2.00	(1.80)	0.35	1.28	サヌカイト	製品、平基式、基部一部折損
148	193	C	SHC487	(1.70)	1.85	0.30	1.28	サヌカイト	製品、凹基式、鋒折損
148	194	C	SHC487	3.10	1.30	0.45	1.79	サヌカイト	製品、有茎式B技法
148	195	C	SHC492	(1.90)	(2.30)	0.25	1.42	サヌカイト	鋒折損
148	196	C	SHC492	(2.40)	1.50	0.35	1.14	サヌカイト	製品、有茎式A技法、鋒折損
148	197	D	SHD23	2.95	1.90	0.30	2.05	サヌカイト	未成品
148	198	A	SKA06	3.50	2.20	0.40	2.85	サヌカイト	製品、平基式

148	199	A	SKA60	3.05	2.15	0.25	1.86	サヌカイト	製品、平基式
148	200	A	SKA75	(1.95)	1.25	0.30	0.54	サヌカイト	製品、基部折損
148	201	A	SKA78	3.10	1.75	0.55	2.25	サヌカイト	製品、凸基Ⅱ式
148	202	A	SKA78	(2.10)	1.35	0.25	0.70	サヌカイト	製品、平基式、鋒・基部一部折損
148	203	A	SKA80	2.75	1.45	0.30	1.11	サヌカイト	製品、有茎式B技法
148	204	A	SKA102	3.70	1.35	0.60	2.91	サヌカイト	製品、凸基Ⅱ式
148	205	B	SKB172	3.65	2.35	0.65	7.02	サヌカイト	未成品、平基式
148	206	B	SKB165	3.05	1.60	0.30	1.43	サヌカイト	製品、凹基式
148	207	B	SKB521	3.40	1.40	0.50	1.85	サヌカイト	製品、有茎式B技法
148	208	B	SKB735	3.85	2.60	0.80	6.92	サヌカイト	製品
148	209	B	SKB911	3.10	1.65	0.50	2.22	サヌカイト	製品、有茎式B技法
148	210	B	SKB931	(2.85)	1.40	0.25	1.27	サヌカイト	製品、基部折損
148	211	B	SKB1069	(2.00)	1.30	0.45	1.41	サヌカイト	製品、鋒・基部折損
148	212	B	SKB1177	(1.55)	(1.75)	0.25	0.83	サヌカイト	製品、鋒・基部折損
148	213	B	SKB1191	(3.30)	2.10	0.50	3.24	サヌカイト	製品、有茎式A技法、鋒折損
148	214	C	SKC75	(2.60)	(1.40)	0.35	1.63	サヌカイト	製品、基部折損
148	215	C	SKC75	(1.80)	1.45	0.50	0.67	サヌカイト	製品、基部折損
148	216	C	SKC75	(2.10)	(1.40)	0.45	0.80	サヌカイト	製品、基部折損
148	217	C	SKC75	(2.30)	1.60	0.25	1.02	サヌカイト	製品、凸基Ⅰ式、鋒折損
148	218	C	SKC75	2.60	1.90	0.55		サヌカイト	未成品
148	219	C	SKC131	(2.35)	1.15	0.30	1.00	サヌカイト	製品、凸基Ⅰ式、鋒折損
148	220	A	SDA01	3.40	1.40	0.50	2.37	サヌカイト	製品、凸基Ⅱ式
148	221	A	SDA14	2.60	1.60	0.50	2.46	不明	製品、凸基Ⅰ式
149	222	A	SDA14	3.50	1.30	0.50	1.82	サヌカイト	製品、有茎式B技法
149	223	A	SDA49-3区?	3.35	1.40	0.50	2.58	サヌカイト	製品、凸基Ⅰ式
149	224	A	SDA49-1区	(4.50)	1.50	0.35	2.89	サヌカイト	製品、基部折損
149	225	A	SDA59-3区	(4.40)	2.30	0.55	4.13	サヌカイト	製品、基部折損
149	226	B	SDB333	2.55	0.95	0.25	0.80	サヌカイト	製品、凸基Ⅱ式
149	227	C	SDC470	4.30	1.50	0.30	1.92	サヌカイト	製品、有茎式B技法
149	228	C	SDC510	3.85	1.50	0.35	2.13	サヌカイト	製品、凸基Ⅰ式
149	229	C	SDC25	6.20	2.90	0.45	8.42	サヌカイト	製品、凸基Ⅰ式、自然面あり
149	230	C	SDC25中層	3.00	1.70	0.50	2.16	サヌカイト	製品、有茎式B技法
149	231	C	SDC99	5.40	1.40	0.40	3.95	サヌカイト	製品
149	232	C	SDC114中層	4.10	2.15	0.60	3.95	サヌカイト	製品、凸基Ⅱ式
149	233	C	SDC114中層	3.70	1.70	0.60	5.22	サヌカイト	製品、凸基Ⅱ式、鋒・基部折損
149	234	C	SDC114中層	(3.60)	2.10	0.80	3.30	サヌカイト	製品、有茎式A技法、基部折損、自然面あり
149	235	B	包含層	1.70	1.10	0.20	0.47	サヌカイト	製品、171と同一個体?
149	236	A	包含層	(3.30)	1.30	5.01	2.35	サヌカイト	製品、基部折損
149	237	B	包含層	(3.70)	1.60	0.50	2.85	サヌカイト	製品、有茎式A技法、基部折損
149	238	B	包含層	(4.00)	1.30	0.50	2.47	サヌカイト	製品、有茎式A技法、基部折損
149	239	B	包含層	3.10	1.50	0.40	1.83	サヌカイト	製品、有茎式A技法
149	240	B	包含層	4.80	1.85	0.80	4.96	サヌカイト	製品、凸基Ⅱ式
149	241	B	包含層	4.80	2.70	0.50	5.83	サヌカイト	製品、凸基Ⅱ式
149	242	B	包含層	4.00	2.00	0.35	2.77	サヌカイト	製品、凸基Ⅰ式
149	243	B	包含層	(3.05)	1.90	0.40	1.91	サヌカイト	製品、鋒・基部折損
149	244	B	包含層	3.10	1.50	0.55	2.67	サヌカイト	製品、凸基Ⅰ式
149	245	B	包含層	2.90	2.05	0.55	3.42	サヌカイト	製品、平基式
149	246	B	包含層	3.45	2.00	0.55	2.98	サヌカイト	製品、平基式
149	247	B	包含層	5.25	(2.00)	0.45	2.98	サヌカイト	製品、凹基式、基部一部折損
149	248	B	包含層	(3.60)	1.80	0.55	2.61	サヌカイト	製品、有茎式A技法、鋒折損
149	249	B	包含層	(3.15)	1.20	0.25	1.23	サヌカイト	製品、凸基Ⅱ式、鋒折損
149	250	B	包含層	(2.05)	2.00	0.30	1.56	サヌカイト	製品、凸基Ⅰ式、鋒・基部折損
149	251	C	包含層	2.20	1.45	0.40	1.11	サヌカイト	製品、有茎式A技法
149	252		包含層	2.45	1.50	0.30	0.94	サヌカイト	製品、有茎式B技法
149	253	C	包含層	2.70	1.95	0.30	1.16	サヌカイト	製品、凹基式

観 察 表

149	254	C	包含層	(2.55)	1.65	0.45		サヌカイト	製品、凹基式、鋒折損
149	255	C	包含層	(2.60)	1.50	0.30	1.19	サヌカイト	製品、凹基式、鋒折損
149	256		包含層	2.45	1.80	0.40	1.61	サヌカイト	製品、平基式
149	257	C	包含層	3.30	1.90	0.55	2.73	サヌカイト	製品、有茎式A技法
149	258	C	包含層	(3.50)	2.05	0.40	3.01	サヌカイト	製品、茎部折損
149	259	C	包含層	2.90	1.25	0.50	1.59	サヌカイト	製品、有茎式B技法
149	260	C	包含層	2.80	1.80	0.40	1.98	サヌカイト	製品、有茎式A技法
149	261	C	包含層	5.00	1.20	0.60	2.94	サヌカイト	製品、有茎式B技法、研磨痕あり
149	262	C	包含層	(4.00)	2.70	0.40	5.91	サヌカイト	製品、有茎式A技法、鋒折損
149	263	C	包含層	3.75	2.50	0.90	7.55	サヌカイト	未成品
149	264	C	包含層	3.10	2.10	0.40	2.76	サヌカイト	未成品
149	265	C	包含層	2.70	1.30	0.60	2.57	サヌカイト	未成品、1374と同一個体

付表18 石斧観察表

図版番号	番号	調査区	遺構	全長(残存長cm)	幅(残存幅)(cm)	厚さ(最大厚)(cm)	重量(g)	石材	備考
150	266	A	SHA98	4.60	2.55	0.60	14.73	流紋岩	扁平片刃石斧、整形時の敲打剥離痕
150	267	B	SHB529	(2.60)	2.40	(0.30)	2.89	粘板岩	扁平片刃石斧、破片
150	268	B	SHB137	(7.05)	1.95	1.50	30.40	サヌカイト	柱状片刃石斧? 上下両端に剥離痕、線状敲打痕、クサビ?
150	269	B	SHB147 (SKB1100)	4.70	(3.30)	0.65	15.42	粘板岩	扁平片刃石斧、刃部・基部一部折損、片面未研磨
150	270	B	SHB529	(3.40)	(4.45)	0.70	17.93	粘板岩	扁平片刃石斧? 灰白色、層状剥離
150	271	B	SHB529	(4.55)	3.60	(2.50)	83.4	粘板岩	柱状片刃石斧?
150	272	B	SHB529	(4.30)	4.10	(0.60)	23.00	緑泥片岩?	扁平片刃石斧、基部折損、光沢ある研磨、表裏半截
150	273	B	SHB530	5.20	3.70	0.75	24.90	粘板岩	扁平片刃石斧、漆黒色
150	274	B	SHB535	5.50	3.40	0.70	22.60	粘板岩	扁平片刃石斧、片面未研磨、整形時の敲打剥離痕
150	275	B	SHB542 (SDB787)	2.70	2.20	0.50	5.33	粘板岩	扁平片刃石斧、基部割取り、擦切施溝分割痕
150	276	B	SHB690	(2.80)	(1.75)	0.50	3.97	粘板岩	扁平片刃石斧、破片、クサビに転用? 基部折損
150	277	B	SHB1052 (SKB1042)	(3.60)	(6.10)	(1.00)	19.11	蛇紋岩	環状石斧
150	278	B	SHB542 (SKB157)	(7.80)	6.20	4.53	362.00	玄武岩?	大型蛤刃石斧、基部折損、基部破断面に敲打痕、敲石に転用?
150	279	B	SHB772	2.30	2.80	0.60	6.70	安山岩	扁平片刃石斧、刃部折損、石英斑晶多い
150	280	B	SHB1052	4.70	2.50	0.60	10.22	粘板岩	扁平片刃石斧、基部一部折損、石英脈入る層状剥離、断面レンズ状、石剣破片を再加工
150	281	C	SHC92 (P4)	2.50	0.90	0.70	2.84	粘板岩	柱状片刃石斧、黄緑白色
150	282	C	SHC169	(3.00)	(1.10)	(1.45)	8.19	粘板岩	柱状片刃石斧、研磨痕、層状剥離発達
150	283	C	SHC451	3.65	2.35	0.60	9.71	緑泥片岩?	扁平片刃石斧、完形、光沢ある研磨
150	284	C	SHC451 (P16)	5.40	2.70	0.75	21.10	緑泥片岩?	扁平片刃石斧、完形
150	285	C	SHC479a	(3.60)	3.10	0.40	9.00	粘板岩	扁平片刃石斧、擦切施溝分割痕、石剣茎片を再加工?
150	286	C	SHC169	(7.20)	7.40	4.80	342.00	流紋岩	大型蛤刃石斧、刃部基部折損、刃部に敲打痕、敲石に転用?
150	287	C	SHC92	(4.75)	(3.10)	(1.50)	24.90	閃緑岩	大型蛤刃石斧、破片を砥石として利用?
150	288	B	SHB1052 (SKB1042)	(11.20)	6.60	(4.40)	538.00	緑色岩類	大型蛤刃石斧、刃部基部折損、敲石に転用?
150	289	C	SHC479a (P1)	3.90	2.70	0.80	11.14	サヌカイト	扁平片刃石斧
150	290	C	SHC479a	(6.30)	5.90	1.90	122.8	凝灰岩?	大型蛤刃石斧、刃部折損
151	291	A	SKA69	5.00	4.30	0.80	29.40	粘板岩	扁平片刃石斧、基部からの打撃による剥離
151	292	B	SKB436	3.20	(1.90)	0.60	6.70	緑泥片岩	扁平片刃石斧、刃部・側縁部折損
151	293	B	SKB440	3.20	1.70	0.40	3.68	粘板岩	扁平片刃石斧、完形、整形時の剥離痕
151	294	B	SKB297	(6.80)	6.30	(3.50)	224.0	石英閃緑岩	大型蛤刃石斧、刃部折損、基部に敲打痕
151	295	B	SKB501	(4.15)	(3.15)	(0.65)	10.53	粘板岩	扁平片刃石斧、研磨痕、層状剥離発達、石剣茎部を再加工?
151	296	B	SKB750	3.40	2.90	0.60	12.84	粘板岩	扁平片刃石斧、完形、茎部に剥離痕、漆黒色
151	297	B	SKB521	3.60	2.40	0.42	4.70	粘板岩	扁平片刃石斧、完形、磨製石剣を再加工、上下端に刃部形成
151	298	B	SKB735	(4.40)	(2.30)	0.50	7.70	粘板岩	扁平片刃石斧、基部折損、側縁部再加工



観 察 表

151	299	B	SKB440	(6.15)	6.90	(3.10)	145.9	流紋岩	太型蛤刃石斧、基部折損、光沢ある研磨
151	300	B	SKB931	(10.20)	5.40	3.40	300.00	石英閃緑岩	太型蛤刃石斧、基部折損、刃部敲打痕
151	301	B	SKB1104	3.80	2.40	0.50	7.03	粘板岩	扁平片刃石斧、基部折損、扁平片刃石斧を再加工、漆黒色
151	302	C	SKC478a	3.80	1.80	0.40	4.88	粘板岩	扁平片刃石斧、側縁部一部折損、漆黒色
151	303	C	SKC270	(3.30)	5.50	(1.30)	37.90	ひん岩	太型蛤刃石斧、破損破片、片刃石斧として再利用？
151	304	B	SKB816 付近	(4.30)	(3.90)	(1.00)	21.10	砂岩	太型片刃石斧、基部折損、刃部破片、片刃石斧として再利用？
151	305	C	SKC242	(8.30)	(7.70)	4.60	314.00	閃緑岩	太型蛤刃石斧、基部折損
151	306	C	SKC296	(8.50)	6.50	4.60	380.00	閃緑岩	太型蛤刃石斧、基部折損、白色斑晶
151	307	C	SDC140	(7.20)	5.10	1.90	134.0	凝灰岩	扁平片刃石斧、基部折損、刃部・基部に敲打剥離、クサビとして利用？ 緊縛用剥離痕
152	308	A	SDA63西溝	7.10	3.20	0.80	37.70	粘板岩	扁平片刃石斧、完形、石庖丁を再加工、層状剥離顕著
152	309	A	SDA63	4.90	3.15	0.80	18.72	粘板岩	扁平片刃石斧、磨製石剣を再加工、側縁部・基部は剥離整形
152	310	A	SDA73	(11.90)	(6.45)	4.55	494.00	緑泥片岩？	太型蛤刃石斧、刃部折損、整形時の敲打痕、刃部破断面に敲打痕、敲石・磨石に転用？
152	311	A	SDA68-5区	(8.75)	2.10	(1.65)	64.8	粘板岩	柱状片刃石斧
152	312	A	SDA68-4区	(8.50)	(3.05)	(3.45)	100.8	玄武岩	太型蛤刃石斧、基部破片、整形時の敲打痕
152	313	A	SDA68-5区	(11.95)	6.20	4.90	500.00	玄武岩	太型蛤刃石斧、刃部折損
152	314	C	SDC99東端	3.90	3.80	0.85	23.20	粘板岩	扁平片刃石斧、完形、扁平片刃石斧の再加工により刃部形成
152	315	C	SDC144	(7.70)	(4.30)	1.00	58.6	粘板岩	扁平片刃石斧、基部折損、磨製石剣を再加工？ 片面に敲打痕
152	316	C	SDC134	(7.20)	(2.40)	4.90	119.2	玄武岩	太型蛤刃石斧、刃部基部折損、側縁部破片
152	317	C	SDC470	2.80	2.30	1.10	8.27	砂岩	扁平片刃石斧、刃部破片
152	318	C	SDC401	7.80	4.70	1.10	82.00	粘板岩？	扁平片刃石斧、完形
152	319	D	SDD37	(6.80)	3.70	3.10	120.7	砂岩	柱状片刃石斧、基部折損、全面研磨
153	320	C	SDC25	(8.90)	7.10	4.10	440.00	玄武岩	太型蛤刃石斧、基部折損、基部に敲打痕、クサビに転用？
153	321	C	SDC25	(7.70)	7.20	4.80	385.0	閃緑岩	太型蛤刃石斧、基部折損
153	322	C	SDC25	(6.40)	(3.60)	0.50	19.41	粘板岩	扁平片刃石斧、基部折損、層状剥離発達
153	323	C	SDC25	(3.80)	5.70	3.80	155.3	花崗閃緑岩	太型蛤刃石斧、基部破片、基部は未研磨
153	324	C	SDC25	(5.80)	(5.95)	(1.10)	54.9	砂岩	太型蛤刃石斧、表面剥離片
153	325	C	SDC25	(5.70)	(3.80)	(1.20)	36.10	閃緑岩	太型蛤刃石斧、表面剥離片
153	326	C	SDC25	5.90	3.90	0.80	32.00	粘板岩	扁平片刃石斧、刃部一部折損
153	327	C	SDC25	4.10	3.20	0.60	13.77	粘板岩	扁平片刃石斧、基部一部折損、粘板岩剥片を加工？、基部に敲打痕
153	328	C	SDC114	(6.10)	(5.60)	(1.10)	37.70	玄武岩	太型蛤刃石斧、表面剥片
153	329	C	SDC25	3.25	(2.15)	0.95	10.88	粘板岩	扁平片刃石斧、磨製石剣を再加工、側縁部剥離整形、側縁部折損
153	330	C	SDC114	3.90	3.70	0.70	19.14	粘板岩	扁平片刃石斧、刃部折損、漆黒色、擦切施溝分割痕
153	331	C	SDC25	4.40	2.00	0.45	8.07	粘板岩	扁平片刃石斧、完形、整形時の剥離痕、擦切施溝分割痕
153	332	C	SDC90	(2.85)	(5.70)	(0.25)	6.90	粘板岩	環状石斧、研磨痕、灰白色、層状剥離
153	333	C	SDC25	(5.5)	(7.50)	1.80	70.8	緑色岩類？	環状石斧、研磨痕、凝灰岩？
153	334	C	SDC25	(5.25)	(8.90)	2.00	82.00	粘板岩	環状石斧、敲打痕
153	335	C	SDC90	(10.10)	(4.90)	(3.00)	142.0	玄武岩	太型蛤刃石斧、側縁部破片
153	336	C	SDC90	(6.30)	(4.50)	4.50	171.8	閃緑岩	太型蛤刃石斧、刃部破片、刃部に使用による敲打痕、クサビに転用？
153	337	C	SDC90	(6.35)	5.30	3.95	205.15	緑色岩類？	太型蛤刃石斧、基部に敲打痕

153	338	C	SDC90	(2.60)	2.00	1.30	13.95	砂岩	柱状片刃石斧？ 刃部折損、基部に擦痕、砥石の可能性高い
154	339	A	包含層	(9.30)	6.30	(4.00)	320.00	緑泥片岩	大型蛤刃石斧、基部・刃部折損
154	340	A	包含層	(7.20)	5.85	4.90	302.00	玄武岩	大型蛤刃石斧、刃部折損、基部に敲打痕
154	341	A	包含層	(7.80)	5.65	4.55	320.00	緑泥岩	大型蛤刃石斧、刃部・基部折損
154	342	A	包含層	(8.30)	6.45	4.60	404.00	閃緑岩	大型蛤刃石斧、基部折損、刃部・基部破断面に敲打痕・擦痕
154	343	B	包含層	(2.55)	(3.90)	(1.75)	13.08	片岩	扁平片刃石斧、表面剥離面片
154	344	B	包含層	(4.10)	(3.00)	(1.20)	15.96	砂岩？	扁平片刃石斧？ 破片
154	345	B	包含層	(3.00)	(2.40)	(1.20)	15.99	砂岩	柱状片刃石斧、刃部破片
154	346	B	包含層	(3.00)	(2.80)	(1.20)	9.50	緑泥片岩	扁平片刃石斧、刃部破片
154	347	A	包含層	(5.90)	1.40	(2.85)	32.20	粘板岩	柱状片刃石斧、基部折損、漆黒色、側縁部折損、層状剥離発達
154	348	A	包含層	4.30	1.30	0.55	6.37	不明	扁平片刃石斧、基部折損
154	349	B	包含層	2.40	1.70	0.50	4.65	粘板岩	扁平片刃石斧、完形、小形、側面に粗い研磨、擦切施溝分割痕
154	350	B	包含層	6.90	3.50	0.90	37.50	粘板岩	扁平片刃石斧、基部一部破損、層状剥離発達
154	351	B	包含層	(6.00)	4.10	0.90	37.60	粘板岩	扁平片刃石斧、刃部・基部・側縁部に敲打剥離痕顕著
154	352	B	包含層	8.10	1.60	2.40	59.6	粘板岩	挟入柱状片刃石斧、完形、整形時の剥離痕
154	353	B	包含層	3.10	1.10	1.10	6.24	粘板岩	柱状片刃石斧、完形、整形時の剥離痕、漆黒色、擦切施溝分割痕
154	354	B	包含層	1.50	1.00	0.18	0.56	粘板岩	扁平片刃石斧、完形、極小品、両刃に近い
154	355	B	包含層	(6.05)	(6.60)	(3.10)	192.1	流紋岩	大型蛤刃石斧、基部折損、刃部先端は研磨され端面を持つ、破断面に敲打痕、クサビに転用？
154	356	B	包含層	(3.10)	(5.20)	(4.30)	104.2	流紋岩	大型蛤刃石斧、側辺・表面剥離片
154	357	B	包含層	(5.80)	(3.10)	(1.90)	28.00	閃緑岩	大型蛤刃石斧、敲打痕
154	358	B	包含層	(3.10)	(2.40)	0.95	12.00	砂岩	扁平片刃石斧、側縁部破片
154	359	B	包含層	(3.50)	(2.50)	(1.10)	12.26	緑色岩類？	大型蛤刃石斧、表面剥離片
154	360	B	包含層	3.50	2.50	0.60	9.51	粘板岩	扁平片刃石斧、扁平片刃石斧へのリダクション、擦切施溝分割痕
154	361	B	包含層	4.80	2.30	0.60	14.13	粘板岩	扁平片刃石斧、磨製石剣の再加工、片面半截、側面研磨、整形時の剥離痕
155	362	C	包含層	(13.50)	6.40	6.20	718.00	閃緑岩	大型蛤刃石斧、刃部折損、基部に敲打痕
155	363	C	包含層	(8.10)	6.90	4.10	262.0	閃緑岩	大型蛤刃石斧、基部折損
155	364	C	包含層	(7.45)	(6.50)	(1.50)	89.1	輝石安山岩？	大型蛤刃石斧、表面剥離片
155	365	C	包含層	(4.20)	(2.70)	(0.95)	14.86	粘板岩	扁平片刃石斧？ 磨製石剣剣身破片の可能性
155	366	C	包含層	(6.60)	4.80	(3.60)	186.0	閃緑岩	大型蛤刃石斧、側辺部破片、基部に線状敲打痕
155	367	C	包含層	(4.90)	(6.60)	3.10	133.6	粘板岩	扁平片刃石斧？ 線状敲打痕、円礫切除片？
155	368	C	包含層	(8.00)	5.70	(1.90)	132.9	安山岩	大型蛤刃石斧、表面剥離片、基部に線状敲打痕
155	369	C	包含層	(5.70)	(2.00)	0.80	12.63	粘板岩	扁平片刃石斧、磨製石剣を再加工（片面半截、側縁部研磨加工）、側縁部折損
155	370	C	包含層	5.90	1.80	0.60	8.61	粘板岩	扁平片刃石斧
155	371	C	包含層	(8.40)	(7.50)	(1.50)	122.3	粘板岩	石鏃状石斧
155	372	C	包含層	(5.70)	6.80	(3.70)	214.5	玄武岩	大型蛤刃石斧、刃部破片、表面剥離、敲打による剥離加工痕、被熱により赤変
155	373	C	包含層	(7.80)	(3.30)	(0.90)	37.80	安山岩	扁平片刃石斧、表面剥離破片、大型蛤刃石斧を再加工
155	374	C	包含層	(4.40)	4.00	1.00	36.40	流紋岩	扁平片刃石斧、基部折損、光沢のある研磨

観 察 表

155	375	C	包含層	2.60	0.85	0.55	2.55	粘板岩	柱状片刃石斧、完形、極小品、漆黒色
155	376	C	包含層	(3.10)	1.00	0.60	3.08	粘板岩	柱状片刃石斧、極小品、刃部折損
155	377	C	包含層	(4.70)	(1.05)	(0.50)	4.77	片岩	扁平片刃石斧、破片？
155	378	C	包含層	(3.60)	(2.70)	0.50	9.18	粘板岩	扁平片刃石斧、扁平片刃石斧の再加工により刃部形成
155	379	C	包含層	3.90	2.50	0.40	9.18	粘板岩	扁平片刃石斧、整形時の剥離痕、磨製石剣破片を素材？
155	380	C	包含層	(3.80)	(4.65)	0.55	17.03	粘板岩	扁平片刃石斧、灰白色、刃部・側辺部を敲打整形
155	381	C	包含層	4.45	4.60	1.10	46.80	火山岩系	扁平片刃石斧、完形、再加工品？ φ 2~3mmの円形敲打痕
155	382	C	包含層	10.50	2.00	2.80	125.5	粘板岩	柱状片刃石斧、完形

付表19 石庖丁観察表

図版番号	番号	調査区	遺構	全長(残存長)(cm)	幅(残存幅)(cm)	厚さ(最大厚)(cm)	重量(g)	石材	備考
156	383	B	SHB137	(2.10)	(2.40)	0.60	5.08	粘板岩	製品、直刃
156	384	B	SHB146	4.20	2.50	0.30	3.98	粘板岩	製品、直刃、扁平片刃石斧に転用中
156	385	B	SHB1052 (SKB1042)	(8.30)	4.00	0.80	41.40	片岩	製品、弧背直刃、刃縁線状痕、背部線状敲打痕(研磨前)、孔間3.50cm・背孔1.10cm・外径:右6.9mm・内径:右4.4mm
156	386	B	SHB1052 (SKB1051)	8.60	6.10	1.05	89.6	粘板岩	未成品、両面体部一部研磨、弧背直刃、背部線状敲打痕、横長剥片
156	387	B	SHB910	(4.20)	(1.10)	0.40	3.07	粘板岩	製品、弧背
156	388	B	SHB341	(3.10)	(2.70)	(0.40)	4.12	粘板岩	製品、直刃、孔内線状痕
156	389	B	SHB149 (SKB436)	(4.35)	(2.50)	0.45	8.63	粘板岩	製品
156	390	B	SHB529	(4.90)	(5.10)	(0.90)	24.00	粘板岩	大型製品、突出部
156	391	B	SHB709 (SKB422)	(7.10)	4.40	0.40	22.00	粘板岩	製品、弧背直刃、穿孔途中痕1カ所、孔間1.63cm・背孔1.45cm・外径:左6.5mm・内径:左5.3mm
156	392	B	SHB690	(7.10)	(3.90)	(0.50)	19.03	粘板岩	製品、弧背
156	393	B	SHB150	15.50	4.70	1.00	100.4	粘板岩	未成品、弧背直刃、背部敲打痕(研磨前)、背部一部・両面体部研磨
156	394	C	SHC479a	(3.30)	(2.00)	0.60	5.55	粘板岩	製品
156	395	C	SHC479a	(7.25)	(3.85)	0.55	26.50	粘板岩	製品、弧背直刃、刃部摩滅
156	396	C	SHC479a	5.1	5.50	0.55	21.50	粘板岩	未成品? 製品剥離片?
156	397	C	SHC138	(11.90)	4.20	0.55	46.20	粘板岩	製品、弧背弧刃、孔内摩滅、孔間2.31cm・背孔1.05cm・外径:左7.0/7.1mm・右7.5/7.0mm・内径:左4.6mm・右4.4mm
156	398	C	SKC141	(12.00)	5.60	0.50	48.90	粘板岩	製品、弧背弧刃、破損部研磨再生、穿孔途中痕1カ所、孔間1.66cm・背孔1.04cm・外径:左6.8/7.2mm・右7.0/6.0mm・内径:左5.1mm・右5.2mm
157	399	C	SHC92	(2.70)	(2.00)	(0.30)	1.78	粘板岩	製品、孔間1.92cm・背孔1.55cm
157	400	C	SHC80	2.30	2.30	0.30	1.71	粘板岩	未成品、弧背、全面研磨、片面から穿孔中、孔間1.62cm・背孔0.95cm
157	401	C	SHC80	(5.20)	(1.90)	0.82	8.12	粘板岩	製品、直刃、刃縁線状痕
157	402	C	SHC451 中央土坑	(2.50)	(1.30)	(0.20)	1.21	粘板岩	製品、弧背、背孔1.10cm
157	403	C	SHC451 中央土坑	(2.10)	(2.00)	(0.45)	1.82	粘板岩	製品、孔間1.41cm・背孔1.21cm
157	404	C	SHC451	(5.00)	(2.40)	0.40	6.66	粘板岩	製品
157	405	C	SHC451	6.90	1.80	0.80	12.08	粘板岩	未成品、弧背、全面研磨、両面から穿孔中、背孔1.47cm
157	406	C	SHC451	(6.90)	(3.10)	0.50	17.92	粘板岩	製品、弧背直刃、刃部敲打痕(研磨後)、孔間1.30cm
157	407	C	SHC451	(7.20)	(4.70)	0.50	20.70	粘板岩	製品、弧背直刃、擦切施溝分割痕、背孔0.82cm
157	408	C	SHC451	(9.70)	(3.10)	0.50	27.00	粘板岩	製品、弧背直刃、再生又は転用中
157	409	C	SHC451	(4.80)	(3.10)	0.50	12.95	粘板岩	製品、直刃、背部線状敲打痕(研磨前)、刃部線状敲打痕(研磨後)
157	410	C	SHC435	9.50	6.80	0.80	78.1	粘板岩	未成品、片面体部研磨
157	411	C	SHC169	(2.30)	(1.40)	0.30	1.45	粘板岩	製品
157	412	C	SHC169	(2.80)	(2.00)	(0.30)	1.84	粘板岩	製品、直刃
157	413	C	SHC487	(4.40)	(3.10)	0.40	6.48	粘板岩	製品、弧背
157	414	D	SHD23	(9.00)	4.10	0.55	33.30	粘板岩	製品、弧背直刃、体部敲打痕(研磨前)、背部線状敲打痕(研磨後)、孔間1.78cm・背孔1.04cm・外径:左7.9/8.8mm・右7.5/9.0mm・内径:左5.2mm・右5.3mm
157	415	D	SHD23	(8.40)	(3.70)	0.60	22.30	粘板岩	製品、弧背直刃、体部敲打痕(研磨後)、背部線状敲打痕(研磨後)
157	416	D	SHD41	(3.80)	(2.50)	0.40	4.74	粘板岩	製品、直刃
157	417	A	SKA69	(3.90)	(3.80)	(0.60)	10.79	粘板岩	製品、弧背、孔間1.80cm・背孔1.07cm・外径:右10.3mm・内径:右4.6mm

観 察 表

157	418	A	SKA69	(5.00)	(3.55)	0.55	12.99	粘板岩	製品、弧背、孔間2.35cm・背孔1.03cm・外径:左7.7/8.4mm・内径:左5.9mm
157	419	A	SKA69	(6.20)	3.50	0.50	19.61	粘板岩	製品、弧背直刃、背部線状敲打痕(研磨前)、孔間1.52cm・背孔1.00cm・外径:左6.4/6.7mm・内径:左4.3mm
157	420	A	SKA69	(5.90)	3.25	0.35	13.43	粘板岩	製品、弧背、孔上部摩滅、穿孔途中痕1カ所、孔間1.52cm・背孔0.68cm・外径:左6.5/6.9mm、右6.3/6.8mm・内径:左4.5mm・右4.9mm
158	421	A	SKA115	(8.50)	(5.00)	0.50	31.90	粘板岩	製品、弧背弧刃、背部線状敲打痕(研磨後)、刃部敲打痕(研磨後)、孔間1.82cm・背孔1.09cm・外径:左5.8/6.3mm・右5.2/5.4mm・内径:左4.1mm、右3.5mm
158	422	A	SKA115	(6.10)	(3.40)	0.35	14.11	粘板岩	製品、弧背直刃、体部敲打痕(研磨前)
158	423	A	SKA113	11.65	5.60	1.00	94.0	粘板岩	未成品、両面研磨、体部敲打痕(研磨前)、背・刃部を平坦に研磨
158	424	A	SKA113	12.20	7.00	1.05	141.6	粘板岩	未成品、両面研磨、背・刃部を平坦に研磨、片面自然面
158	425	B	SKB841	13.70	4.00	0.60	50.0	粘板岩	製品、弧背直刃、体部敲打痕(研磨後)、刃部摩滅・光沢、孔間1.50cm・背孔0.90cm・外径:左7.5/6.5mm、右8.0/7.5mm・内径:左右4.5mm
158	426	B	SKB403	15.00	10.50	1.40	210.8	粘板岩	大型未成品、両面研磨
158	427	B	SKB1145	(7.70)	(9.35)	0.30	23.70	粘板岩	大型製品、弧背直刃
158	428	B	SKB770	(7.00)	(4.60)	0.50	21.90	粘板岩	製品、直背弧刃? 刃部を平坦に研磨、背孔0.92cm
158	429	B	SKB904	(6.20)	3.45	0.60	18.50	粘板岩	製品、弧背直刃、孔内摩滅、刃部摩滅、孔間1.57cm・背孔1.29cm・外径:左6.4/6.8mm・内径:左4.9mm
159	430	B	SKB297	5.20	3.20	0.40	8.55	粘板岩	製品、直刃、刃部摩滅、刃縁線状痕、再生又は転用中
159	431	B	SKB297	4.00	2.70	0.60	8.08	粘板岩	製品、弧背直刃、背部・刃部線状敲打痕(研磨後)、体部敲打痕(研磨前)、扁平片刃石斧に転用中
159	432	B	SKB771	(3.60)	(2.90)	0.50	7.22	粘板岩	製品、弧背直刃
159	433	B	SKB771	(5.20)	(3.70)	0.50	14.63	粘板岩	製品、弧背直刃、体部敲打痕(研磨前)、背部線状敲打痕(研磨前)
159	434	B	SKB469- SKB483	3.60	4.20	0.50	9.93	粘板岩	製品、転用中
159	435	B	SKB735	(5.30)	(1.50)	(0.50)	3.46	粘板岩	製品、孔内摩滅・線状痕
159	436	B	SKB735	(3.40)	(2.40)	(0.30)	3.02	粘板岩	製品
159	437	B	SKB735	5.90	5.00	0.70	28.70	粘板岩	製品破損品又は未成品転用中?
159	438	B	SKB165	(3.20)	(2.90)	(0.50)	6.78	粘板岩	製品、直刃
159	439	B	SKB165	(4.30)	(3.10)	0.45	9.59	粘板岩	製品、弧背
159	440	B	SKB165	(5.70)	(3.50)	0.60	10.96	粘板岩	製品、弧背直刃、刃部摩滅、破損部研磨再生
159	441	B	SKB165	(7.50)	(5.80)	(0.80)	38.30	粘板岩	大型製品、弧刃、刃部摩滅
159	442	B	SKB656	7.20	2.90	0.40	8.52	粘板岩	直刃、製品又は未成品を磨製石鏃に転用中
159	443	B	SKB656	9.70	5.00	0.85	52.8	粘板岩	未成品、弧背弧刃、背部線状敲打痕、体部敲打痕
159	444	B	SKB307	(9.00)	4.40	0.44	48.0	片岩	製品、弧背直刃、背部線状敲打痕(研磨後)、刃部摩滅・光沢、孔間2.70cm・背孔1.70cm・外径:右8.0/10.4mm・内径:右6.5mm
159	445	C	SKC131	(3.70)	(2.80)	0.50	7.57	粘板岩	製品、弧背
159	446	C	SKC81	(2.70)	(3.20)	0.40	6.29	粘板岩	製品、弧背直刃、体部敲打痕(研磨前)、刃部摩滅
159	447	C	SKC429	(5.00)	(2.90)	0.50	9.37	粘板岩	製品、弧背直刃、刃部敲打痕(研磨後)
159	448	C	SKC286	(3.60)	(3.90)	0.80	19.20	粘板岩	製品、直刃、穿孔途中痕1カ所、孔間3.25cm・背孔0.93cm
159	449	C	SKC461	(5.70)	(4.15)	(0.30)	8.42	粘板岩	製品、弧背直刃、背部摩滅
159	450	C	SKC461	12.75	4.90	0.50	45.80	粘板岩	製品、弧背弧刃、孔間1.65cm・背孔0.95cm・外径:左6.0/6.3mm・右7.0/7.1mm・内径:左4.7mm・右5.1mm
160	451	A	SDA97-3区	(7.10)	(3.65)	0.55	21.90	粘板岩	製品、弧背直刃、背部・刃部線状敲打痕(研磨後)、体部敲打痕(研磨後)
160	452	A	SDA59-3区	(5.50)	(2.60)	0.40	9.02	粘板岩	製品、弧背直刃、体部敲打痕(研磨前)

160	453	A	SDA63西溝	(6.60)	(4.70)	0.40	17.09	粘板岩	製品、弧背直刃、刃部摩滅
160	454	A	SDA63西溝	(3.50)	(4.10)	0.70	13.41	片岩	製品、弧背直刃、体部刃部敲打痕(研磨後)
160	455	A	SDA68-4区	(6.10)	(3.80)	0.60	21.80	粘板岩	製品、弧背直刃、孔内線状痕、刃部摩滅、体部敲打痕(研磨前)、背孔0.95cm
160	456	A	SDA68-6区	(5.30)	(3.70)	0.50	15.12	粘板岩	製品、弧背直刃、刃部摩滅、穿孔途中痕1カ所、背孔1.02cm・内径:右4.3mm
160	457	A	SDA68-5区	(4.60)	4.40	0.50	20.90	粘板岩	製品、弧背直刃、孔内摩滅、刃部摩滅、背孔0.68cm・外径:右6.7/7.0mm・内径右4.5mm
160	458	A	SDA68-5区	(8.40)	3.40	0.65	23.30	粘板岩	製品、弧背直刃、孔内摩滅、体部敲打痕(研磨前後)、背部線状敲打痕(研磨前後)、再生又は転用中、穿孔途中痕2カ所、孔間1.77cm・背孔0.68cm・外径:左6.0/6.1mm・内径:左3.9mm
160	459	A	SDA68	(6.40)	4.20	0.45	22.30	粘板岩	製品、弧背直刃、背部刃部摩滅、孔間1.76cm・背孔1.22cm・外径:右6.9/6.8mm・内径:右5.9mm
160	460	A	SDA68-5区	(8.60)	4.85	0.80	37.60	粘板岩	製品、弧背直刃、刃部摩滅、孔間2.59cm・背孔1.64cm・外径:左8.0/11.3mm・内径:左3.9mm
160	461	A	SDA68	2.75	1.95	0.55	4.87	粘板岩	製品、孔内摩滅、片面より穿孔中、転用中、孔間0.99cm・背孔0.51cm
160	462	A	SDA68-3区	(4.20)	(2.15)	0.45	5.54	粘板岩	製品、直刃、刃縁線状痕
160	463	A	STA49墳丘部	6.85	5.60	1.10	46.90	粘板岩	未成品、背部線状敲打痕
160	464	A	SDA49-3区	(5.20)	(4.05)	0.60	17.09	粘板岩	製品、弧背直刃、背孔1.28cm・外径:右7.3mm・内径:右4.5mm
160	465	A	STA49墳丘部	8.50	5.50	0.95	50.6	粘板岩	未成品、弧背直刃
160	466	A	SDA49-3区	(2.95)	(3.20)	0.45	3.30	粘板岩	製品、直刃
160	467	C	SDC94	(3.55)	(3.80)	0.60	10.56	粘板岩	製品、弧背直刃
160	468	C	SEC453	8.40	5.00	0.85	36.30	粘板岩	未成品、弧背直刃、背部・刃部線状敲打痕、片面自然面
160	469	C	SEC453	(3.50)	(1.80)	(0.30)	2.77	粘板岩	製品、背部線状敲打痕(研磨後)、背孔0.95cm
160	470	C	SEC453	(9.20)	(3.50)	0.70	29.90	片岩	製品、弧背直刃、背部・刃部線状敲打痕(研磨後)、孔間2.01cm・内径:右5.3mm
160	471	C	SEC453	3.80	3.00	0.40	7.47	粘板岩	擦切施溝分割痕、製品を転用中?
161	472	C	SDC25	(11.80)	(3.20)	1.10	66.3	粘板岩	大型製品、2孔、孔間3.00cm
161	473	C	SDC25-SDC114	8.50	5.00	0.75	41.60	粘板岩	未成品、両面体部研磨
161	474	C	SDC25	5.50	3.50	0.50	18.20	粘板岩	製品、弧背直刃、刃部摩滅、扁平片刃石斧に転用中
161	475	C	SDC25	9.20	7.60	0.90	74.8	粘板岩	大型未成品、両面体部・背部研磨、穿孔時破損?
161	476	C	SDC25	(4.50)	(3.90)	(0.35)	5.72	粘板岩	製品
161	477	C	SDC25	(4.40)	(3.60)	0.60	13.37	粘板岩	製品、直刃、刃部摩滅
161	478	C	SDC25	(11.20)	(4.00)	0.90	45.50	粘板岩	製品、弧背直刃、刃部摩滅、円礫素材、孔間1.00cm・背孔1.02cm・外径:左7.5/8.8mm・右7.0/7.5mm・内径:左3.4mm、右4.2mm
161	479	C	SDC25	3.60	2.90	0.60	9.60	粘板岩	製品、直刃、刃縁線状痕、扁平片刃石斧に転用中
161	480	C	SDC25	(3.85)	(3.50)	0.65	10.44	粘板岩	製品、弧背
161	481	C	SDC25	(9.90)	(2.30)	0.50	21.00	粘板岩	製品、直刃
161	482	C	SDC97	6.80	4.20	0.50	43.60	粘板岩	製品、弧背直刃、背部線状敲打痕(研磨後)、破損部線状敲打痕、扁平片刃石斧に転用中、孔間1.53cm・背孔0.76cm・外径:右6/5.8mm・内径:右3.9mm
161	483	C	SDC99	(8.50)	4.30	0.80	39.70	粘板岩	製品、弧背直刃、背部線状敲打痕(研磨後)、孔内摩滅、孔間1.68cm・背孔0.82cm・外径:右6.5/6.4mm・内径右3.8mm
161	484	C	SDC99	(4.50)	(2.40)	(0.50)	11.33	粘板岩	製品、背部縁辺敲打痕(研磨後)、磨製石剣?
161	485	C	SDC99	5.00	2.80	0.20	5.62	粘板岩	製品、石鏃に転用中?
161	486	C	SDC99	16.00	4.80	0.70		粘板岩	製品、弧背直刃、孔内摩滅、刃部摩滅・光沢孔間2.50cm・背孔0.90cm・外径:左右8.0/8.0mm・内径:左6.0mm・右5.5mm
161	487	C	SDC99	(10.60)	(3.90)	0.40		粘板岩	製品、弧背、背部・刃部敲打痕(研磨後)、孔内摩滅、孔間1.90cm・背孔0.80cm・外径:左8.5/9.0mm・内径:左6.0mm
162	488	C	SDC401	(4.75)	(2.70)	(0.30)	6.51	粘板岩	製品、弧背

観 察 表

162	489	C	SDC401	(4.05)	(3.70)	0.60	16.45	片岩	製品、直刃、孔間2.72cm
162	490	C	SDC401	(9.00)	3.55	0.70	38.80	粘板岩	製品、弧背直刃、体部敲打痕(研磨前)、背孔0.92cm・外径:右7.1/7.1mm・内径:右4.1mm
162	491	C	SDC143	(6.10)	(2.80)	0.50	16.00	粘板岩	製品、直刃
162	492	C	SDC143	(8.30)	(3.80)	0.50	34.10	粘板岩	製品、直背弧刃、孔内摩滅、背部摩滅、穿孔途中痕2カ所、孔間3.12cm・背孔1.12cm・外径:左7.8/9.9mm・内径左6.5mm
162	493	C	SDC90	(4.90)	(3.50)	0.40	8.05	粘板岩	製品、弧背弧刃
162	494	C	SDC114	(8.30)	4.00	0.60	29.80	粘板岩	製品、弧背直刃、背部線状敲打痕(研磨前後)、体部敲打痕(研磨前)、孔上部線状痕、刃部摩滅、孔間1.95cm・背孔0.78cm・外径:左5.8/8.0mm・内径:左4.1mm
162	495	C	SDC114	(5.70)	(2.75)	0.60	13.35	粘板岩	製品、弧背直刃、背部・刃部敲打痕(研磨後)
162	496	C	SDC114	11.70	5.20	1.00		粘板岩	未成品、体部・刃部一部研磨、弧背弧刃
162	497	C	SDC114	(9.80)	5.10	0.70	43.40	粘板岩	製品、弧背弧刃、背部線状敲打痕(研磨前)、体部敲打痕(研磨前)、孔内線状痕、孔間2.12cm・背孔1.42cm・外径:左6.6/8.7mm・右7.0/7.4mm・内径:左5.2mm・右5.1mm
162	498	C	SDC114	(5.50)	(3.80)	0.60	18.88	粘板岩	製品、弧背直刃
162	499	C	SDC114	13.80	7.35	0.50	66.6	粘板岩	大型製品、弧刃、端部摩滅、刃部光沢、再生中、穿孔途中痕1カ所
162	500	C	SDC114	(9.60)	(3.00)	0.60		粘板岩	製品、直刃、体部敲打痕(研磨前)、刃部敲打痕(研磨後)、孔内摩滅・線状痕、孔間2.10cm・外径:左6.9mm・内径:左4.5mm
162	501	C	SDC93	(12.40)	(3.40)	0.50	38.10	粘板岩	製品、弧背直刃、背部線状敲打痕(研磨後)、体部敲打痕(研磨前)、刃部敲打痕(研磨後)
162	502	B	SDB333	(3.80)	(3.20)	0.50	12.78	粘板岩	製品、弧背直刃、背部線状敲打痕(研磨前)
163	503	A	包含層	(4.60)	(2.40)	(0.40)	5.15	粘板岩	製品、体部敲打痕(研磨前)
163	504	A	包含層	(3.10)	(2.80)	0.40	4.74	粘板岩	製品
163	505	A	包含層	(3.95)	(2.60)	(0.50)	5.43	粘板岩	製品、弧背
163	506	A	包含層	(7.15)	(3.80)	0.50	22.80	粘板岩	製品、弧背直刃、背部・刃部線状敲打痕(研磨後)、孔内線状痕・摩滅、孔間1.95cm
163	507	A	包含層	(5.80)	(2.90)	0.45	12.69	粘板岩	製品、弧背直刃、体部敲打痕(研磨前)、刃部敲打痕(研磨後)
163	508	A	包含層	(7.85)	3.65	0.30	15.92	粘板岩	製品、弧背直刃、刃部摩滅、孔間1.09cm・背孔0.62cm・外径:左5.0/4.4mm・右5.4/5.0mm・内径:左3.0mm・右2.8mm
163	509	A	包含層	(5.25)	(3.25)	0.70	15.97	粘板岩	製品、直刃
163	510	A	包含層	(5.80)	(4.65)	0.75	30.40	片岩	製品、弧背直刃、孔間1.88cm・背孔1.48cm・外径:左11.7mm・内径:左6.2mm
163	511	A	包含層	(3.50)	(4.10)	0.55	13.42	粘板岩	製品、弧背直刃、刃部摩滅
163	512	A	包含層	(3.50)	(4.00)	(0.30)	4.62	粘板岩	製品、孔間2.31cm・背孔1.45cm
163	513	A	包含層	12.80	6.55	1.30	186.1	粘板岩	未成品、刃部一部・両面体部研磨、円礫素材
163	514	A	包含層	(5.00)	(3.70)	0.60	14.72	粘板岩	製品、直刃
163	515	A	包含層	(4.05)	(2.90)	(0.45)	7.38	片岩	製品、直刃
163	516	A	包含層	(5.85)	(3.95)	0.75	23.70	粘板岩	製品、弧背直刃、背部線状敲打痕(研磨後)
163	517	B	包含層	(5.60)	(1.70)	0.70	10.48	粘板岩	大型製品、弧背
163	518	B	包含層	(4.60)	(2.90)	0.60	14.53	粘板岩	製品、弧背直刃、擦切施溝分割痕
163	519	B	包含層	(5.40)	(4.40)	0.65	20.40	粘板岩	製品
163	520	B	包含層	(3.55)	(2.60)	0.40	5.21	粘板岩	製品、弧背、孔内摩滅・線状痕、孔間2.05cm・背孔0.96cm・外径:左7.4/7.4mm・内径:左4.9mm
163	521	B	包含層	(3.10)	(3.25)	0.60	10.69	粘板岩	製品、弧背、背部縁辺敲打痕(研磨後)、体部敲打痕(研磨前後)、背孔1.08cm
163	522	B	包含層	(5.50)	(3.90)	0.80	27.80	粘板岩	製品、弧背、孔内線状痕、背部線状敲打痕(研磨後)
163	523	B	包含層	(11.40)	3.95	0.70		粘板岩	製品、弧背直刃、体部敲打痕(研磨・穿孔後)、刃部摩滅、孔間2.10cm・背孔1.90cm・外径:左9.9/12.0mm、右10.2/9.0mm・内径:左右5.0mm
163	524	B	包含層	3.30	3.10	0.50	10.98	粘板岩	製品、直刃、孔内摩滅・線状痕、擦切施溝分割痕、扁平片刃石斧に転用中、孔間1.65cm
164	525	B	包含層	(4.40)	(2.50)	(0.40)	3.39	粘板岩	製品
164	526	B	包含層	(3.70)	(2.75)	(0.40)	6.82	粘板岩	製品
164	527	B	包含層	(5.20)	(3.60)	0.40	7.93	粘板岩	製品、弧背、背孔1.33cm

164	528	B	包含層	(5.25)	(2.60)	0.50	8.76	粘板岩	製品、弧背直刃、体部敲打痕(研磨前)、刃部敲打痕(研磨後)
164	529	B	包含層	(2.90)	(1.50)	(0.25)	1.81	粘板岩	製品、弧背
164	530	B	包含層	(3.20)	(2.00)	(0.50)	3.65	粘板岩	製品
164	531	B	包含層	(3.60)	(2.85)	0.55	6.61	粘板岩	製品、弧背直刃
164	532	B	包含層	(3.80)	(3.80)	0.50	12.51	粘板岩	製品、弧背、背部線状敲打痕(研磨後)
164	533	B	包含層	(3.50)	(1.80)	0.60	3.50	粘板岩	製品、弧背、孔内線状痕、背孔1.42cm
164	534	B	包含層	(3.90)	(1.70)	(0.50)	3.67	粘板岩	製品、直刃、刃部摩滅
164	535	B	包含層	(1.90)	(1.60)	(0.40)	1.74	粘板岩	製品、刃部摩滅
164	536	B	包含層	(2.00)	(2.80)	(0.40)	3.33	粘板岩	製品
164	537	B	包含層	2.30	3.10	0.30	3.39	粘板岩	製品、弧背直刃、体部敲打痕(研磨後)、転用中
164	538	B	包含層	(5.90)	(3.20)	0.50	13.92	粘板岩	製品、弧背直刃、刃部摩滅、小剥離
164	539	B	包含層	(8.00)	(3.70)	0.70	28.50	粘板岩	製品、弧背直刃、孔内線状痕、刃部摩滅
164	540	B	包含層	(7.60)	4.00	0.50	26.40	粘板岩	製品、弧背直刃、孔内摩滅、線状痕、孔間1.52cm・背孔1.16cm・外径:右6.3/6.4mm・内径右5.1mm
164	541	B	包含層	(8.60)	3.90	0.55	27.70	粘板岩	製品、弧背直刃、刃部摩滅、背孔0.75cm
164	542	B	包含層	(9.90)	3.50	0.45	30.70	粘板岩	製品、弧背直刃、刃部摩滅、背部線状敲打痕(研磨後)、穿孔途中痕1カ所、孔間2.20cm・背孔1.22cm・外径:左7.2/7.3mm、右7.0/6.8mm・内径:左4.8mm・右5.0mm
164	543	B	包含層	(7.90)	(4.60)	0.50	23.10	片岩	製品、弧背、擦切施溝分割痕、孔間1.62cm・背孔1.25cm・外径:左8.3/8.0mm・内径:左6.0mm
164	544	B	包含層	(5.50)	3.50	0.50	17.34	粘板岩	製品、弧背直刃、体部敲打痕(研磨前)、背部摩滅
164	545	B	包含層	(6.00)	(3.00)	(0.70)	14.16	粘板岩	製品、直刃、体部敲打痕(研磨前)、孔内摩滅、刃部摩滅
164	546	B	包含層	(6.00)	(3.20)	0.50	14.23	粘板岩	製品、弧背直刃、背部線状敲打痕(研磨後)
164	547	B	包含層	(5.10)	(5.20)	0.60	26.20	片岩	製品、弧背直刃、刃部摩滅、自然面あり、剥片素材、背孔1.64cm
164	548	C	包含層	(8.60)	(2.80)	0.50	28.20	粘板岩	製品、弧背直刃、背部・刃部線状敲打痕(研磨後)、体部敲打痕(研磨前後)、孔内摩滅、孔間2.47cm・外径:左6.3/6.8mm・内径:左4.7mm
164	549	C	包含層	(9.45)	(3.80)	0.80	34.00	粘板岩	製品、弧背
165	550	C	包含層	(4.10)	(2.50)	0.45	6.83	粘板岩	製品、弧背、背部線状敲打痕(研磨後)、穿孔途中痕1カ所、孔間2.28cm・背孔1.24cm
165	551	C	包含層	(3.40)	(2.20)	0.50	5.68	粘板岩	製品、弧背、背孔1.08cm
165	552	C	包含層	3.40	3.20	0.35	6.07	粘板岩	擦切施溝分割痕、製品を転用中?
165	553	C	包含層	(5.70)	(2.30)	0.60	12.53	粘板岩	製品、直刃、刃部摩滅、片面擦切施溝分割痕、転用中
165	554	C	包含層	(2.30)	(2.50)	0.35	3.43	粘板岩	製品、刃部摩滅
165	555	C	包含層	(4.20)	(1.90)	(0.40)	4.00	粘板岩	製品
165	556	C	包含層	(4.20)	(3.20)	0.50	11.59	粘板岩	製品、弧背直刃、体部敲打痕(研磨前)
165	557	C	包含層	3.30	3.70	0.30	5.46	粘板岩	製品、弧背直刃、体部敲打痕(研磨前)、転用中
165	558	C	包含層	4.60	3.20	0.25	6.71	粘板岩	製品、直刃、擦切施溝分割痕、転用中
165	559	C	包含層	(4.45)	(3.70)	0.55	13.75	粘板岩	製品、弧背直刃、背部・刃部敲打痕(研磨後)
165	560	C	包含層	(4.20)	(3.50)	0.52	8.61	粘板岩	製品、弧背直刃、刃部敲打痕(研磨後)
165	561	C	包含層	(4.90)	(3.40)	0.40	11.85	粘板岩	製品、弧背直刃、背部線状敲打痕(研磨前)、刃部摩滅、背孔1.55cm
165	562	C	包含層	(5.90)	(3.50)	0.70	17.97	粘板岩	製品、弧背直刃、背部線状敲打痕(研磨前)
165	563	C	包含層	(4.60)	(3.50)	0.70	17.74	塩田石	製品、弧背直刃、体部敲打痕(研磨前後)、背孔1.21cm
165	564	C	包含層	(6.15)	(3.55)	0.60	20.40	粘板岩	製品、弧背直刃、背部線状敲打痕(研磨後)、穿孔途中痕1カ所
165	565	C	包含層	(5.30)	(3.50)	0.50	12.06	粘板岩	製品、弧背直刃、背部線状敲打痕(研磨後)、刃部敲打痕(研磨後)、孔内摩滅、背孔0.95cm・外径:左7.2mm・内径:左3.9mm
165	566	C	包含層	(7.00)	(3.60)	0.55	26.50	粘板岩	製品、弧背直刃、刃部線状敲打痕(研磨後)、体部敲打痕(研磨前)、刃部摩滅
165	567	C	包含層	(5.90)	4.00	0.40	16.69	粘板岩	製品、弧背直刃、背部線状敲打痕(研磨前)、孔内線状痕、刃部摩滅、体部一部研磨、横長剥片、背孔0.92cm
165	568	C	包含層	7.30	4.10	0.65	28.70	粘板岩	製品、弧背直刃、小形品に転用?



観 察 表

165	569	C	包含層	(5.40)	(3.65)	0.70	26.40	閃緑岩	製品、弧背直刃、3孔、穿孔途中痕1カ所、孔間2.12/1.10cm・背孔1.48cm・内径:左4.8mm・右4.5mm
165	570	C	包含層	(7.40)	4.30	0.40	29.30	粘板岩	製品、弧背直刃、背部・刃部線状敲打痕(研磨後)
165	571	C	包含層	(5.60)	(4.30)	0.50	15.00	粘板岩	製品、弧背直刃
165	572	C	包含層	(9.50)	3.60	0.80	35.10	粘板岩	製品、弧背直刃、背部線状敲打痕(研磨前)、刃部摩滅
165	573	C	包含層	(4.65)	(3.60)	0.50	13.69	粘板岩	製品、自然面あり、剥片素材、孔間2.34cm・背孔0.75cm・内径:右4.8mm
166	574	C	包含層	7.90	3.20	0.70	29.40	粘板岩	大型製品、小形品に転用中?、孔間3.70cm、外径:左7.9/8.2mm・内径:左5.6mm
166	575	C	包含層	(5.10)	(3.80)	0.50	13.60	粘板岩	製品、背部摩滅、背孔1.18cm
166	576	C	包含層	12.50	6.00	1.00		粘板岩	未成品、長方形、両面研磨、自然面あり
166	577	C	包含層	11.70	4.90	1.20	80.6	粘板岩	未成品、両面研磨、体部敲打痕(研磨前)
166	578	C	包含層	15.60	4.00	0.60	66.3	粘板岩	製品、弧背直刃、背部線状敲打痕(研磨前)、右面孔上部摩滅、刃部摩滅・線状痕、孔間1.36cm・背孔1.10cm・外径:左6.1/5.0mm・右6.8/5.8mm・内径:左3.4mm・右3.8mm
166	579	C	包含層	(13.10)	4.60	0.50		片岩	製品、弧背直刃、背部線状敲打痕(研磨後)、体部敲打痕(研磨後)、孔内摩滅、刃部小剥離、孔間1.85cm・背孔1.15cm・外径:右7.5/8.1mm・内径:右5.6mm
166	580	C	包含層	(20.50)	(9.20)	0.80	203.5	粘板岩	大型製品、弧刃、刃部摩滅・光沢、2孔、再生中? 外径:左5.8/7.2mm・内径:左3.2mm
166	581	C	包含層	7.45	3.40	0.45	22.40	粘板岩	製品、刃部摩滅、扁平片刃石斧に転用中、孔間2.15cm
166	582	C	包含層	9.50	3.40	0.60	24.80	粘板岩	未成品?、両面体部一部研磨、背部線状敲打痕(未研磨)、円礫素材
166	583	C	包含層	(5.70)	(3.40)	0.70	26.90	粘板岩	製品、背部線状敲打痕(研磨前)
167	584	C	包含層	(7.85)	(2.20)	(0.40)	11.83	粘板岩	製品、弧背、背部線状敲打痕(研磨後)
167	585	C	包含層	(7.50)	(3.70)	0.60	24.50	粘板岩	製品、弧背直刃、背部線状敲打痕(研磨後)、背部・刃部摩滅
167	586	C	包含層	(8.40)	(4.40)	(0.20)	11.93	粘板岩	製品、弧背直刃、刃部敲打痕(研磨後)
167	587	C	包含層	(8.80)	(3.80)	0.40	21.80	粘板岩	製品、弧背直刃
167	588	C	包含層	(4.70)	(2.40)	(0.30)	2.85	粘板岩	製品、孔内・上部摩滅、孔間2.15cm・外径右7.5mm
167	589	C	包含層	4.70	2.60	0.50	8.13	粘板岩	製品、刃部摩滅、転用中
167	590	C	包含層	5.40	4.40	0.70	17.58	粘板岩	製品、弧背、転用中
167	591	C	包含層	(5.40)	(5.10)	(0.80)	31.80	粘板岩	大型製品
167	592	C	包含層	(10.65)	4.60	0.50	32.90	粘板岩	製品、弧背弧刃、刃部敲打痕(研磨後)、刃部摩滅、自然面あり、剥片素材、孔間2.05cm・背孔1.15cm・外径:右8.5mm・内径:右5.0mm
167	593	C	包含層	(10.50)	4.80	0.50	41.80	粘板岩	製品、孔内・周辺摩滅、刃部摩滅、孔間1.73cm・背孔1.12cm・外径:右6.6/6.4mm・内径:右4.2mm
167	594	C	包含層	(4.40)	(2.60)	0.50	4.78	粘板岩	製品
167	595	C	包含層	(4.00)	(2.90)	0.55	7.32	粘板岩	製品、弧背直刃
167	596	C	包含層	(3.50)	(3.90)	0.80	16.16	粘板岩	製品、直刃、背部線状敲打痕(研磨前)
167	597	C	包含層	(2.80)	(3.30)	(0.40)	4.90	粘板岩	製品、弧背、孔間1.93cm・背孔0.98cm
167	598		包含層	10.80	5.30	0.75		粘板岩	未成品、弧背弧刃、片面より穿孔中、両面体部研磨、背孔1.10cm
167	599		包含層	(2.60)	(1.60)	0.50	2.02	粘板岩	製品、弧背、背部線状敲打痕(研磨前)
167	600		包含層	7.20	3.40	0.55	21.10	粘板岩	製品、弧背直刃、背部線状敲打痕(研磨後)、孔内線状痕、刃縁線状痕、扁平片刃石斧に転用中
167	601		包含層	(6.80)	(3.50)	0.80	28.90	粘板岩	製品、直刃、背部線状敲打痕(研磨後)、孔間1.38cm
167	602		包含層	(8.20)	(3.70)	(0.70)	27.30	粘板岩	製品、弧背直刃、背部線状敲打痕(研磨後)、体部敲打痕(研磨前)、自然面あり、剥片素材
167	603		包含層	(3.00)	(2.80)	0.20	2.90	粘板岩	製品、直刃
167	604		包含層	1.90	1.30	0.20	0.80	粘板岩	製品、石鏃に転用中?

孔周は孔の中心間の距離を計測し、外径は各面とも計測して「表面/裏面」と表示した。

付表20 磨製石器不明品観察表

図版 番号	番号	調査 区	遺構	全長(残 存 長)(cm)	幅(残存 幅)(cm)	厚さ(最 大 厚)(cm)	重量 (g)	石材	備考
168	605	A	SHA74	(2.25)	(1.30)	0.40	2.13	粘板岩	製品、裏面敲打痕(研磨前)、刃縁に擦痕、石 庖丁を擦切工具に転用?
168	606	B	SHB152	(2.30)	(1.90)	(0.25)	1.99	粘板岩	製品、磨製石剣?
168	607	B	SHB144	4.60	4.25	0.70	17.77	粘板岩	未成品、表面一部研磨
168	608	B	SHB528	4.10	2.40	0.65	8.06	粘板岩	扁平片刃石斧に転用中
168	609	B	SHB773	4.70	3.55	0.80	12.83	粘板岩	未成品、表面一部研磨
168	610	C	SHC479a	(1.50)	(1.25)	0.30	1.17	粘板岩	製品、磨製石鏃基部?
168	611	C	SHC479a	2.20	0.90	0.25	9.60	粘板岩	擦切施溝分割痕、磨製石鏃基部を扁平片刃 石斧に転用中?
168	612	C	SHC138	6.15	2.55	0.55	9.15	粘板岩	磨製石鏃に転用中?
168	613	C	SHC173b	6.20	11.95	2.30	189.4	粘板岩	未成品、線状敲打痕、表面敲打後両面研磨
168	614	C	SHC80	5.00	3.85	0.75	19.6	粘板岩	擦切施溝分割痕、表面研磨
168	615	C	SEC453	6.50	10.50	1.30	117.0	粘板岩	未成品、線状敲打痕、裏面一部研磨、円礫素 材
168	616	B	SKB711	(3.05)	(2.50)	(0.35)	3.10	粘板岩	製品
168	617	B	SHB153 (SKB775)	4.25	1.95	0.50	4.58	粘板岩	磨製石鏃に転用中?
168	618	B	SKB735	2.80	2.30	0.40	3.58	粘板岩	扁平片刃石斧に転用中
168	619	B	SKB735	(2.85)	(1.65)	0.40	3.44	粘板岩	製品、石庖丁の可能性高い
168	620	B	SKB735	3.20	1.20	0.50	2.33	粘板岩	転用品?
168	621	B	SKB801	3.30	3.50	0.70	7.45	#サイト	一部研磨、自然面あり、剥片素材
168	622	B	SKB1191	(4.40)	(3.00)	(0.50)	9.43	粘板岩	製品
168	623	C	SKC448	(3.70)	(2.30)	(0.35)	4.94	粘板岩	製品、縁辺敲打痕(研磨後)
168	624	A	SDA49-3区	5.10	8.15	0.80	38.50	粘板岩	未成品、両面研磨後、擦切施溝分割痕
168	625	A	SDA58	(3.15)	1.90	1.70	26.40	閃緑岩	製品、柱状片刃石斧基部?
168	626	A	SDA59-3区	(2.40)	(1.40)	(0.85)	4.20	片岩	製品
168	627	A	SDA62-1区	(5.30)	(2.60)	0.50	9.92	粘板岩	製品、刃縁線状痕・敲打痕、石庖丁の可能性 高い
168	628	A	SDA63	(2.70)	(3.10)	(1.05)	11.63	粘板岩	製品、柱状片刃石斧?
168	629	A	SDA63	3.85	1.45	0.45	2.56	粘板岩	製品を転用中?
168	630	A	SDA68-5区	(4.05)	(3.75)	(0.95)	14.93	粘板岩	線状敲打痕、表面自然面、敲石?
168	631	A	SDA68-5区	(4.00)	(3.10)	(0.50)	6.46	粘板岩	製品、1孔、石庖丁の可能性高い
150	632	A	SDA68-1区	5.20	3.70	0.65	17.66	粘板岩	製品、刃部微小剥離、石庖丁を扁平片刃石 斧に転用?
168	633	A	SDA68-5区	6.30	7.25	4.10	229.8	閃緑岩	全面敲打後一部研磨、大型蛤刃石斧未成 品?
168	634	A	SDA68-4区	(2.40)	(3.20)	0.30	2.87	粘板岩	製品、刃部敲打(研磨後)、石庖丁?
168	635	A	SDA68	(6.20)	(4.10)	0.45	21.20	粘板岩	製品、2孔、孔間距離1.5cm
168	636	A	SDA68-5区	(4.80)	(5.10)	(0.75)	29.20	粘板岩	製品
168	637	A	SDA68-6区	(3.50)	(4.30)	(0.65)	7.58	粘板岩	製品、1孔
169	638	C	SDC99	10.10	4.10	0.85	58.1	粘板岩	未成品、表面一部研磨、縦長剥片
169	639	C	SDC99	7.50	2.75	0.55	13.03	粘板岩	両面・一部研磨、磨製石鏃未成品? 転用 品?
169	640	C	SDC454	(5.35)	(2.75)	0.60	13.76	粘板岩	製品
169	641	C	SDC25	(6.30)	(2.10)	(0.40)	6.23	粘板岩	製品、磨製石剣の可能性高い
169	642	C	SDC25	(7.40)	(1.40)	0.80	15.67	粘板岩	製品、大型石庖丁?
169	643	C	SDC25	4.20	3.20	0.40	6.32	粘板岩	表面研磨
169	644	C	SDC25	5.30	3.75	0.55	10.10	粘板岩	表面研磨
169	645	C	SDC25- SDC114	9.00	6.00	2.05	136.9	粘板岩	未成品、側縁一部、両面研磨
169	646	C	SDC114	7.00	3.30	0.75	24.40	粘板岩	未成品、両面一部研磨
169	647	C	SDC90	6.95	1.70	0.60	9.86	粘板岩	表面研磨
169	648	C	SDC25- SDC114	(4.10)	(3.20)	0.50	9.20	砂岩	製品、砥石に転用?
169	649	C	SDC93	13.30	10.10	1.15	156.6	泥岩	未成品、表面一部研磨
169	650	A	包含層	18.80	5.10	0.75	104.1	粘板岩	横長剥片
169	651	A	包含層	3.55	11.30	0.90	50.3	粘板岩	未成品、表面一部研磨、片面自然面、縦長剥 片
169	652	A	包含層	(3.45)	(2.75)	(0.40)	3.60	粘板岩	製品
169	653	A	包含層	(3.65)	1.70	0.50	3.91	粘板岩	製品

観 察 表

169	654	B	包含層	2.80	1.80	0.30	2.19	粘板岩	表面研磨
169	655	B	包含層	8.60	3.90	1.80	90.1	粘板岩	未成品、一部研磨、自然面あり
169	656	C	包含層	4.00	3.05	0.55	9.15	粘板岩	表面一部研磨
169	657	C	包含層	(4.80)	(3.70)	0.30	6.38	粘板岩	製品
169	658	C	包含層	2.55	2.25	0.50	2.71	粘板岩	両面研磨、擦切施溝分割痕
169	659	C	包含層	2.80	2.30	0.20	2.00	粘板岩	表面研磨
169	660	C	包含層	(3.95)	0.55	0.50	144.0	粘板岩	転用品
169	661	C	包含層	5.30	8.20	1.30	64.9	粘板岩	剥離整形、自然面あり、横長剥片
169	662		包含層	(4.30)	(3.40)	(0.50)	6.94	粘板岩	製品

付表21 砥石観察表

図版番号	番号	調査区	遺構	全長(残存長)(cm)	幅(残存幅)(cm)	厚さ(最大厚)(cm)	重量(g)	石材	砥石目	備考
170	663	A	SHA98	(9.70)	2.80	(1.50)	48.40	砂岩	1000	手持砥、自然面あり、敲打痕
170	664	A	SKA79	(8.70)	(6.80)	(8.70)	724	砂岩	100	置砥、自然面あり、被熱により赤変
170	665	B	SHB138	(6.00)	(4.20)	1.50	45.90	砂岩	240	
170	666	B	SHB137	(7.35)	(6.80)	5.00	294.0	砂岩	粗	置砥
170	667	B	SHB153	(4.50)	(2.80)	(1.30)	18.22	砂岩	120	
170	668	B	SHB138	(13.40)	(12.05)	(3.30)	385	砂岩	60	置砥、角礫
170	669	B	SHB538	(4.70)	(6.00)	1.50	45.90	砂岩	1500	
170	670	B	SHB146	15.60	7.15	6.20	420	砂岩	180	敲打痕、V字溝
170	671	B	SHB529	10.65	(6.60)	6.45	380	砂岩	100	角礫、敲打痕
170	672	B	SHB535	(4.30)	(6.20)	(5.10)	171.0	砂岩	60	置砥、角礫
170	673	B	SHB691	(4.70)	(3.60)	(0.60)	14.69	砂岩	60	V字溝、被熱により黒・赤変
170	674	A	SHA74	(33.90)	24.50	7.50	7800	砂岩	100	置砥、自然面あり、敲打痕、被熱により黒・赤変
170	675	B	SHB146	(11.40)	(7.10)	(3.00)	204.2	砂岩	120	置砥、角礫
171	676	B	SHB690	(4.60)	(4.20)	2.10	41.10	砂岩	180	手持砥、U字溝
171	677	B	SHB910	(5.30)	(4.50)	1.80	38.00	砂岩	180	
171	678	B	SHB910	5.40	4.20	1.40	30.80	砂岩	320	手持砥、自然面あり、破損面使用
171	679	B	SHB1041	(6.70)	(4.50)	2.70	97.6	砂岩	100	置砥
171	680	B	SHB1078	(8.50)	7.30	3.60	275.4	砂岩	100	置砥、U字溝、玉砥石の可能性高い
171	681	B	SHB532	(5.70)	4.10	2.40	45.30	砂岩	400	敲打痕、V字溝
171	682	B	SHB772	(8.85)	4.75	1.95	98.9	粘板岩	1200	手持砥、V字溝、破損面使用、2孔、下げ砥石、工具痕
171	683	B	SHB341	(7.10)	(6.40)	(1.50)	100.5	砂岩	60	被熱により黒・赤変
171	684	B	SHB341	(15.75)	(8.10)	(4.40)	372	砂岩	80	置砥、被熱により黒変
171	685	C	SHC435	(14.50)	(7.60)	2.70	285.6	砂岩	60	置砥、U字溝、被熱により黒変
171	686	C	SHC138	(13.80)	7.80	6.10	864	砂岩	60	置砥、角礫、敲打痕、U字溝、円形窪み
171	687	B	SHB341	24.90	(14.30)	12.60	5000	砂岩	80	置砥、角礫
171	688	B	SHB772	(13.50)	(16.80)	8.10	1800	閃緑岩	100	置砥、角礫
171	689	B	SHB772	(18.00)	12.30	8.20	2600	砂岩	100	置砥、角礫、敲打痕、被熱により黒変
172	690	C	SHC92	(14.25)	(10.10)	2.00	346	砂岩	80	置砥、角礫
172	691	C	SHC132	(5.30)	(5.10)	1.80	67.7	砂岩	60	
172	692	C	SHC451	(7.90)	(7.35)	(6.30)	313	砂岩	1000	置砥
172	693	C	SHC479a	(6.80)	3.45	1.50	47.90	砂岩	240	手持砥、V字溝
172	694	C	SHC572	23.50	5.60	3.75	591	砂岩	800	置砥、自然面あり、敲打痕、破損面研磨又は使用
172	695	C	SHC515	(12.90)	(3.80)	3.30	228.1	砂岩	1000	手持砥、円礫
172	696	C	SHC572	(11.65)	5.30	2.25	154.6	砂岩	320	手持砥、自然面あり、敲打痕
172	697	C	SHC451	(30.75)	12.00	10.65	6200	砂岩	粗	置砥、角礫
172	698	C	SHC572	(19.80)	17.40	4.50	1900	砂岩	60	置砥、自然面あり
172	699	C	SHC450	(24.80)	(23.80)	7.50	3800	閃緑岩	120	置砥、自然面あり、敲打痕、台石兼用
173	700	D	SHD23	9.45	4.95	3.65	243.7	砂岩	60	手持砥、自然面あり、U字溝、円形窪み
173	701	A	SKA69	(6.70)	(6.00)	3.30	125.4	砂岩	120	手持砥、自然面あり、敲打痕、V字溝、被熱により黒変
173	702	A	SKA69	(3.75)	3.20	2.80	48.10	砂岩	120	手持砥、敲打痕
173	703	B	SKB939	(4.50)	5.05	0.95	27.90	砂岩	1000	手持砥、敲打痕、U字溝
173	704	B	SKB721	(4.50)	(4.20)	1.90	47.90	砂岩	60	
173	705	D	SHD40	(10.20)	12.90	5.40	585	砂岩	120	置砥、自然面あり、U字溝

観 察 表

173	706	B	SKB403	(4.20)	(3.50)	(0.85)	17.78	砂岩	180	
173	707	B	SKB525	(3.10)	(4.20)	(2.90)	29.80	砂岩	100	円礫、被熱により赤変
173	708	B	SHB542	(11.25)	7.40	3.60	480	砂岩	100	置砥、円礫、U字溝
173	709	B	SKB335	(10.00)	5.30	2.00	140.1	砂岩	600	線状敲打痕
173	710	B	SKB901	(5.50)	5.40	4.80	166.0	砂岩	120	手持砥、円礫、敲打痕
173	711	B	SKB1106	(6.30)	(6.30)	1.80	71.6	砂岩	180	U字溝
173	712	B	SKB521	(14.20)	9.30	5.00	650	砂岩	60	置砥、角礫
173	713	B	SKB858	(11.40)	(9.60)	6.00	820	砂岩	80	置砥、角礫、被熱により赤変
174	714	B	SKB403	4.30	(3.50)	0.90	26.10	砂岩	180	手持砥
174	715	B	SKB1204	(4.40)	(3.65)	1.75	36.00	砂岩	800	
174	716	B	SHB144 (SKB1209)	(10.30)	(6.15)	1.30	60.3	砂岩	1000	手持砥、自然面あり、V字溝多数
174	717	B	SKB736	(3.20)	(4.60)	(2.50)	44.90	砂岩	80	円礫
174	718	B	SKB1137	19.00	7.45	7.10	1400	砂岩	100	置砥、角礫、V字溝、U字溝
174	719	C	SKC300	7.90	8.65	6.10	664	閃緑岩	180	手持砥、円礫、敲打痕、円礫を分割後研磨
174	720	C	SKC161	(4.30)	(4.30)	1.10	26.80	砂岩	60	
174	721	C	SKC164	(6.80)	4.60	3.65	114.3	砂岩	120	手持砥、角礫、U字溝
174	722	C	SKC74	(7.50)	(6.90)	2.25	137.0	砂岩	120	置砥
174	723	C	SKC75	(6.65)	4.60	1.85	62.8	砂岩	60	手持砥、敲打痕
174	724	B	SKB904	(15.70)	13.50	3.00	880	閃緑岩	180	置砥、円礫
174	725	B	SKB1137	(21.60)	(13.80)	10.20	4400	閃緑岩	100	置砥、自然面あり
175	726	A	SDA68-5区	5.40	8.40	4.95	231.3	砂岩	240	手持砥、角礫、破損面研磨又は使用
175	727	A	SDA68-5区	(8.55)	(7.80)	4.20	315	砂岩	粗	置砥、角礫
175	728	A	SDA68-5区	(6.08)	(8.25)	(7.80)	336	砂岩	240	置砥、角礫
175	729	A	SDA68-5区	(9.15)	(5.75)	(2.40)	175.1	砂岩	80	置砥、円礫
175	730	A	SDA68-6区	(7.80)	(6.40)	(4.20)	238.3	砂岩	60	角礫
175	731	A	SDA68-4区	(4.05)	(7.05)	3.65	140.9	砂岩	80	置砥、自然面あり
175	732	A	SDA68	(5.90)	(1.50)	(0.35)	9.00	粘板岩	2000	剥片?
175	733	A	SDA68-5区	(9.75)	(6.00)	(4.80)	285.4	砂岩	400	置砥、自然面あり、V字溝多数、被熱により黒変
175	734	A	SDA68-5区	(7.80)	(9.60)	(3.60)	267.5	砂岩	120	置砥、自然面あり
175	735	A	SDA68-5区	(10.50)	(8.85)	(6.90)	417	砂岩	80	置砥、自然面あり
175	736	A	SDA68-5区	(15.75)	(7.20)	(4.90)	580	砂岩	80	置砥、自然面あり、敲打痕
176	737	A	SDA49-2区	(5.90)	(2.85)	1.50	27.40	砂岩	400	U字溝
176	738	A	SDA49-3区	(6.75)	2.55	0.80	24.10	粘板岩	2000	手持砥、円礫
176	739	A	SDA73-2区	(3.30)	(6.00)	(2.10)	39.70	砂岩	100	
176	740	C	SDC107	(11.30)	(11.10)	4.80	534	砂岩	180	置砥、角礫、敲打痕、被熱により黒変
176	741	C	SDC144	(11.00)	(8.30)	7.00	629	砂岩	120	置砥、角礫、被熱により黒変
176	742	A	SDA59-3区	(17.40)	(12.40)	6.45	1625	砂岩	80	置砥、自然面あり、黒変
176	743	C	SDC103	(10.70)	(6.90)	2.50	218.7	砂岩	120	置砥、自然面あり
176	744	C	SDC457	(7.80)	9.40	2.40	174.0	砂岩	80	置砥、角礫、破損面使用
176	745	C	SDC513	(13.05)	(7.20)	4.10	490	砂岩	粗	置砥、角礫
176	746	C	SDC470	(7.10)	4.10	2.65	80.7	砂岩	240	手持砥
176	747	C	SDC488	43.20	24.00	9.60	10600	砂岩	600	置砥、板石
177	748	C	SEC453	(12.00)	(8.65)	1.70	218.8	砂岩	100	置砥、円礫、被熱により赤変
177	749	C	SEC453	(11.25)	(9.00)	5.10	455	砂岩	180	置砥、角礫、敲打痕、V字溝多数
177	750	C	SEC453	(12.90)	(14.40)	5.85	1010	砂岩	120	置砥、角礫、敲打痕、線状敲打痕、V字溝、U字溝
177	751	C	SEC453	(6.00)	(6.00)	2.40	94.9	砂岩	100	V字溝
177	752	C	SEC453- SDC426 接合部	(12.00)	(5.30)	1.70	160.5	砂岩	180	自然面あり、V字溝
177	753	C	SEC453	(9.60)	5.80	3.10	222.0	砂岩	80	敲打痕

177	754	C	SEC453	12.20	(5.70)	2.40	325	チャート	1500	手持砥、円礫、敲打痕、破損面研磨?
177	755	C	SDC25	(18.40)	(11.7)	10.6	3200	砂岩	120	置砥、角礫、敲打痕
177	756	C	SDC99	(6.30)	(5.85)	(3.90)	118.8	砂岩	80	置砥、円礫
177	757	C	SDC25	(4.90)	(5.00)	5.10	228.4	砂岩	100	置砥、角礫
177	758	C	SDC99	5.10	(6.00)	0.90	32.20	砂岩	400	手持砥、破損面使用
178	759	C	SDC90	(4.10)	2.85	2.05	25.50	砂岩	600	手持砥
178	760	C	SDC90	6.60	5.00	4.00	185.1	砂岩	800	手持砥、円礫
178	761	C	SDC90	(5.70)	(5.40)	(2.25)	58.3	砂岩	400	置砥、敲打痕
178	762	C	SDC90	(4.40)	4.30	2.95	96.9	砂岩	粗	手持砥、敲打痕
178	763	C	SDC114	(5.00)	(4.90)	(2.60)	51.6	砂岩	400	
178	764	C	SDC129	10.60	10.50	5.90	617	砂岩	60	置砥、角礫、敲打痕、円形窪み
178	765	C	SDC93	(8.10)	6.20	3.80	222.7	砂岩	100	円礫、敲打痕
178	766	C	SDC114	(4.95)	(4.80)	2.60	99.1	砂岩	80	被熱により黒・赤変
178	767	C	SDC401	11.10	(8.10)	4.60	411	砂岩	粗	角礫、V字溝、円形窪み
178	768	C	SDC129	(5.10)	(4.80)	(3.80)	84.3	泥岩	320	手持砥
178	769	C	SDC401	(5.55)	(10.20)	6.75	465	砂岩	60	置砥、円礫、敲打痕
178	770	C	SDC401	(7.75)	(7.20)	3.90	301	砂岩	180	置砥、角礫、敲打痕
178	771	D	SDD18-3区	(15.30)	16.65	6.60	2000	砂岩	120	置砥、円礫、敲打痕、円形窪み
179	772	A	包含層	(10.90)	(5.40)	4.50	355	砂岩	1200	置砥、敲打痕、被熱により黒変
179	773	A	包含層	(10.15)	(4.95)	1.80	111.2	砂岩	100	自然面あり
179	774	A	包含層	(8.85)	(7.35)	(2.70)	151.1	砂岩	80	置砥、自然面あり
179	775	A	包含層	(4.40)	4.40	(3.50)	111.9	砂岩	粗	
179	776	A	包含層	(6.50)	(12.30)	(5.75)	413	砂岩	120	置砥
179	777	A	包含層	(8.55)	(7.05)	6.45	515	砂岩	180	置砥、自然面あり
179	778	A	包含層	(9.40)	(6.00)	(8.85)	670	閃緑岩	180	置砥、自然面あり
179	779	A	包含層	(7.10)	(3.40)	(3.20)	77.2	砂岩	80	自然面あり
179	780	A	包含層	(5.10)	2.80	2.10	49.80	砂岩	1200	手持砥
179	781	B	包含層	(6.00)	(4.40)	(3.10)	84.0	閃緑岩	180	置砥
179	782	B	包含層	(7.10)	(7.70)	4.00	205.4	砂岩	60	V字溝、U字溝
179	783	B	包含層	7.70	4.00	3.80	143.2	砂岩	1200	手持砥、敲打痕、V字溝、破損面使用
179	784	B	包含層	(13.00)	(6.30)	(1.20)	113.3	砂岩	320	置砥
179	785	B	包含層	(8.60)	(4.35)	1.60	70.8	砂岩	1500	
179	786	B	包含層	(7.70)	3.30	(1.10)	34.30	泥岩	2000	手持砥、施溝分割後研磨・工具痕
179	787	C	包含層	(8.40)	(5.70)	3.45	158.0	砂岩	100	自然面あり、敲打痕
179	788	C	包含層	(8.75)	(6.00)	4.50	270.8	砂岩	100	置砥
179	789	C	包含層	(7.50)	(7.95)	3.50	287.2	砂岩	粗	置砥、自然面あり
179	790		包含層	(5.80)	(5.00)	0.85	37.40	砂岩	100	自然面あり
179	791	C	包含層	7.70	6.50	1.30	100.8	砂岩	800	手持砥、円礫

付表22 敲石ほか観察表

図版番号	番号	調査区	器種名	遺構	全長(残存長) (cm)	幅(残存幅) (cm)	厚さ(最大厚) (cm)	重量 (g)	石材	備考
180	792	A	敲石	SDA49-2区	6.0	7.2	6.10	315	火山岩?	
180	793	A	凹石	SDA49-3区	8.00	6.80	4.8	301	砂岩	
180	794	A	凹石	SDA68-5区	5.4	10.80	2.70	222.8	閃緑岩	砥石を転用
180	795	B	敲石	包含層	7.2	7.2	4.90	360	閃緑岩	大型蛤刃石斧を転用
180	796	A	凹石	SDA68-5区	13.45	7.60	5.85	940	花崗岩	
180	797	C	擦石	SDC426	5.60	5.40	3.70	140.8	砂岩	
180	798	C	敲石	SEC453	12.6	4.35	3.0	194.2	砂岩	
180	799	C	敲石	SEC453	6.60	5.10	4.60	213.8	火山岩	
180	800	C	敲石	SDC90	13.30	6.20	5.80	700	砂岩	砥石を転用
180	801	C	敲石	SDC469	13.5	7.35	4.65	860	閃緑岩	大型蛤刃石斧を転用
180	802	C	敲石	SKC429	9.15	7.80	5.20	580	閃緑岩	大型蛤刃石斧を転用

付表23 玉砥石観察表

図版番号	番号	調査区	遺構番号	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	石材	備考
181	803	A	SHA74	24.10	11.40	11.50	4200	砂岩	筋溝1条(幅4.0mm)、大形砥石転用
181	804	A	SHA98	4.50	3.75	2.40	35.00	堆積岩?	砥石の可能性高い
181	805	B	SHB535	7.95	6.75	2.00	111.6	砂岩	筋溝6条(幅2.0~3.0mm)
181	806	B	SHB690	(5.25)	2.80	3.40	52.1	砂岩	筋溝1条(幅5.0mm)、砥石使用痕、敲打痕、酸化鉄沈着
181	807	B	SHB691	(5.60)	(5.15)	2.10	82.3	砂岩	筋溝2条(幅4.0mm)、砥石使用痕
181	808	B	SHB982 (SKB1099)	(7.90)	2.70	1.30	33.80	砂岩	筋溝1条(幅6.0mm)、筋溝に円孔2ヶ所(φ8.0~9.0mm)、砥石使用痕
181	809	B	SKB735	(5.55)	(4.35)	2.17	38.60	泥岩	表面4条・側面1条の筋溝(幅6.0mm)、砥石使用痕
181	810	B	SHB529	(9.22)	6.00	3.00	139.1	砂岩	砥石? キズ状の筋溝
181	811	C	SHC167	(9.25)	(3.60)	1.88	73.2	砂岩	筋溝1条(幅8.5mm)、砥石使用痕
181	812	C	SHC169	6.80	7.65	2.40	161.6	砂岩	筋溝2条(幅7.0mm)、砥石使用痕
181	813	C	SHC451	(10.60)	4.35	2.70	132.3	緑色泥岩	左側面2条・右側面3条・裏面2条の筋溝(幅4.0~5.0mm)、全面に砥石使用痕、表面は凹む
181	814	C	SHC451	(7.30)	(3.30)	(5.30)	108.6	砂岩	筋溝4条(幅7.0~8.0mm)、砥石使用痕
181	815	C	SHC451	7.30	10.35	1.80	205.7	砂岩	横方向2条(幅4.0mm)・縦方向9条(幅5.0~6.0mm)の筋溝、全面に砥石使用痕、裏面は凹む
182	816	C	SHC451	24.05	5.85	5.32	807	砂岩	筋溝1条(幅6.0mm)、ほぼ全面に砥石使用痕、中央部分が使用により著しく凹む
182	817	D	SHD23	10.90	6.10	2.80	173.6	砂岩	表面1条(幅5.0mm)・側面1条(幅4.0mm)の筋溝、砥石使用痕
182	818	A	SKA69	(9.50)	7.65	2.40	196.5	砂岩	筋溝2条(幅3.0mm・6.0mm)、砥石使用痕
182	819	A	SKA69	5.78	5.62	1.90	42.50	泥岩	表面2条(幅4.0mm)・左側面2条(幅6.0mm)の筋溝、上側面4条・下側面8条の石針研磨筋溝(幅1.5mm)、砥石使用痕、表裏半截
182	820	A	SKA105	8.40	(7.35)	7.00	350	砂岩	筋溝4条(幅8.0mm)、砥石使用痕
182	821	A	SKA75	7.80	9.07	3.20	199.6	砂岩	表面5条・裏面横方向2条の筋溝(幅7~8mm)、裏面縦方向3条の石針研磨筋溝、砥石使用痕
182	822	A	SDA07	(6.40)	(6.00)	2.60	120.5	砂岩	筋溝2条(幅5mm)、筋溝に円孔(φ10.0mm・中央に凸部)、砥石使用痕
182	823	C	SDC510	(7.20)	6.80	3.20	205.4	砂岩	筋溝5条(幅4.0~5.0mm)、砥石使用痕
182	824	A	SDA58-2区	5.70	6.60	3.45	132.1	砂岩	右側面2(幅7.5mm)・左側面1条(幅10.0mm)の筋溝、砥石使用痕
182	825	A	SDA49-2区	(7.40)	8.17	5.10	530	砂岩	浅い筋溝2条(幅5.0mm)、砥石使用痕、敲打痕
183	826	A	STA68-9区 南端墳丘上面	6.10	9.15	3.60	259.1	砂岩	浅い筋溝2条(幅4.0mm)、砥石使用痕
183	827	A	SDA68-5区	(11.02)	(9.75)	3.45	415	砂岩	筋溝2条(幅3.0~4.0mm)
183	828	C	SDC455	(6.45)	(4.70)	1.40	44.20	砂岩	筋溝2条(幅5.0~6.0mm)、砥石使用痕
183	829	C	SDC90東端南方	(12.05)	(5.48)	2.85	146.6	砂岩	表面2条(幅3.0mm)・側面1条(幅8.0mm)・右下面2条(幅3.0~4.0mm)の筋溝、円孔(φ6.5mm・深さ9.5mm)、砥石使用痕
183	830	C	SDC90 暗褐色粘質土4	6.40	9.60	3.22	197.8	泥岩	筋溝1条(幅7.0mm)、砥石使用痕、敲打痕
183	831	C	SEC453	(8.15)	4.50	4.35	172.7	砂岩	筋溝3条(幅5.5~6.0mm)
183	832	C	SEC453上層	7.10	7.88	5.78	278.8	砂岩	砥石? 浅い筋溝2条(幅1.7mm)、砥石使用痕、敲打痕
183	833	C	SEC31第4層	(2.30)	(6.60)	2.00	53.6	砂岩	筋溝2条(幅2.5mm)、砥石使用痕
183	834	C	SEC453 南東区第9層	(8.40)	(5.00)	(5.00)	284.0	砂岩	筋溝8条(幅4.0~5.0mm)、砥石使用痕
183	835	C	SEC453	(14.55)	(7.30)	4.50	560	砂岩	浅い筋溝1条(幅2.5mm)、砥石使用痕
183	836	C	SDC103	(6.30)	(4.90)	(3.80)	88.4	砂岩	表面4条(幅7.0~8.0mm)・側面1条(幅14.0mm)の筋溝、砥石使用痕
183	837	C	SDC25中層	(3.68)	(4.00)	2.85	30.70	砂岩	砥石? 浅い筋溝1条(幅8.0mm)
183	838	C	SKC340	(7.13)	7.20	3.10	175.1	砂岩	浅い筋溝2条(幅6.0mm)、砥石使用痕

184	839	A	包含層	(9.50)	(11.40)	2.70	326	砂岩	筋溝 1 条(幅7.0mm)、砥石としての使用後施溝し破断、裏面・下側面に溝多数(幅1mm)
184	840	B	包含層	(7.40)	2.70	4.80	140.7	砂岩	筋溝 2 条(幅2.5mm)、砥石使用痕
184	841	B	包含層	(7.00)	5.10	5.60	146	砂岩	筋溝 1 条(幅4.0mm)、砥石使用痕
184	842	B	包含層	(2.10)	(1.60)	0.90	3.38	砂岩	表面 1 条・裏面縦方向 1 条(幅3.0mm)の筋溝、裏面横方向 1 条の石針研磨用筋溝(幅1.0mm)、砥石使用痕、擦切施溝分割痕
184	843	B	包含層	(4.20)	5.15	2.05	53.9	砂岩	表面縦方向 3 条・横方向 3 条・側面 1 条の筋溝(幅4.0~6.0mm)、砥石使用痕
184	844	B	包含層	(3.80)	(2.60)	(1.90)	17.99	砂岩	筋溝 2 条(幅4.0mm)、破片
184	845	B	包含層	(12.55)	(5.25)	(6.60)	285.1	砂岩	筋溝 1 条(幅6.0mm)、砥石使用痕
184	846	B	包含層	11.20	8.10	3.35	347	砂岩	浅い筋溝 1 条(幅6.0mm)、砥石使用痕、敲打痕
184	847	C	包含層	(15.60)	7.60	6.30	695	砂岩	浅い筋溝 2 条(幅1.5mm・6.0mm)、砥石使用痕
184	848		包含層	(7.35)	8.10	2.70	220.0	砂岩	右側面に浅い筋溝 1 条(幅4.5mm)、表面に溝多数(幅1.0mm)、砥石使用痕



付表24 石鋸観察表

図版番号	番号	地区	遺構番号	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	石材	備考
185	849	A	SHA74	6.80	2.55	0.20	8.84	紅簾片岩	下部は使用により摩滅
185	850	A	SDA82(SHA82)	3.35	1.45	0.35	3.48	紅簾片岩	下部は使用により摩滅
185	851	A	SHA98	2.30	1.40	0.50	2.56	紅簾片岩	下部は使用により摩滅
185	852	A	SHA98	8.00	3.00	0.40	17.04	紅簾片岩	下部は使用により摩滅
185	853	A	SHA98	5.55	2.70	0.40	10.99	紅簾片岩	下部は使用により摩滅
185	854	A	SHA98	2.00	1.30	0.35	1.40	紅簾片岩	
185	855	C	SHC451	9.20	4.60	0.25	21.90	紅簾片岩	素材未成品
185	856	C	SHC451	5.20	5.10	0.60	16.81	片岩	上・下部は使用により摩滅、緑色
185	857	C	SHC451	5.20	3.30	0.35	7.94	紅簾片岩	下部は使用により摩滅
185	858	C	SHC451(P14)	6.30	1.75	0.25	5.67	紅簾片岩	下部は使用により摩滅・波状
185	859	D	SHD39	6.80	2.60	0.30	7.10	紅簾片岩	上・下部は使用により摩滅
185	860	D	SHD23	2.80	2.25	0.25	2.60	紅簾片岩	下部は使用により摩滅
185	861	A	SKA66	3.20	2.70	0.20	2.81	紅簾片岩	下部は使用により摩滅
185	862	C	SHC451	2.50	2.00	0.40	2.87	紅簾片岩	下部は使用により摩滅
185	863	C	SHC451中央土坑	3.00	2.15	0.25	2.58	紅簾片岩	下部は使用により摩滅
185	864	C	SHC451(P7)	3.45	2.70	0.35	5.51	紅簾片岩	下部は使用により摩滅
185	865	A	SKA78	5.70	2.10	0.35	6.50	片岩	上・下部は使用により摩滅、緑色
185	866	A	SKA100	4.15	2.20	0.35	5.25	紅簾片岩	上・下部は使用により摩滅、上部波状
185	867	A	SKA60	7.20	5.20	0.70	27.20	紅簾片岩	未成品、敲打痕あり
185	868	A	SKA100	6.10	3.20	0.35	14.98	紅簾片岩	下部は使用により摩滅・波状
185	869	A	SKA101	8.90	4.50	0.70	32.30	紅簾片岩	未成品
185	870	A	SKA69	5.60	1.80	0.35	6.22	紅簾片岩	下部は使用により摩滅・波状
185	871	A	SKA105	7.95	3.20	0.25	8.40	紅簾片岩	下部は使用により摩滅・波状
185	872	B	SKB739	5.65	2.95	0.65	11.51	紅簾片岩	下部は使用により摩滅・波状
185	873	B	SKB739	5.65	1.50	0.30	5.47	紅簾片岩	下部は使用により摩滅・波状
185	874	C	SKC478a	12.50	6.00	0.90	98.98	紅簾片岩	素材未成品、片面一部に研磨痕
185	875	B	SKB1084	21.45	4.10	0.60	67.1	紅簾片岩	素材未成品
185	876	A	SKA75	6.10	3.40	0.50	13.86	紅簾片岩	下部は使用により摩滅
186	877	A	SDA58-2区	6.00	2.35	0.35	9.16	紅簾片岩	下部は使用により摩滅・波状
186	878	A	SDA58-2区	9.00	2.90	0.35	16.14	紅簾片岩	上・下部は使用により摩滅、上部波状
186	879	A	SDA58-2区	3.50	4.00	0.40	5.31	紅簾片岩	
186	880	A	SDA59-3区	5.20	1.95	0.20	3.90	紅簾片岩	下部は使用により摩滅
186	881	A	SDA68-4区	8.50	2.40	0.75	23.70	紅簾片岩	上・下部は使用により摩滅
186	882	A	SDA59-3区	9.35	4.55	0.40	21.20	紅簾片岩	下部は使用により摩滅
186	883	A	SDA68-5区	5.70	4.70	0.55	14.61	紅簾片岩	上・下部は使用により摩滅
186	884	A	SDA68-1区	4.50	1.80	0.30	4.24	紅簾片岩	下部は使用により摩滅
186	885	A	SDA68-5区	2.10	1.40	0.20	1.23	紅簾片岩	下部は使用により摩滅
186	886	A	SDA68-4区	8.40	2.00	0.40	11.76	紅簾片岩	下部は使用により摩滅
186	887	C	SEC453	7.20	3.80	0.30	9.51	紅簾片岩	下部は使用により摩滅
186	888	C	SEC453	7.70	4.30	0.50	25.20	紅簾片岩	上部は使用により摩滅、889と接合
186	889	C	SEC453	4.80	4.30	0.45	16.04	紅簾片岩	上部は使用により摩滅、888と接合
186	890	C	SEC453	8.60	2.10	0.70	18.00	紅簾片岩	
186	891	A	包含層	9.50	4.00	1.15	60.0	紅簾片岩	
186	892	A	包含層	6.50	3.60	0.30	14.74	紅簾片岩	上・下部は使用により摩滅
186	893	A	包含層	12.10	5.35	0.40	40.50	紅簾片岩	上・下部は使用により摩滅
186	894	A	包含層	6.90	3.05	0.45	11.51	紅簾片岩	
186	895	A	包含層	4.95	1.55	0.40	5.21	紅簾片岩	
186	896	A	包含層	1.80	1.70	0.25	1.39	紅簾片岩	下部は使用により摩滅
186	897	A	包含層	2.30	1.60	0.10	0.73	紅簾片岩	下部は使用により摩滅
186	898	B	包含層	2.70	1.70	0.25	2.01	紅簾片岩	下部は使用により摩滅
186	899	A	包含層	11.85	2.65	0.30	14.78	紅簾片岩	下部は使用により摩滅
186	900	A	包含層	5.50	2.15	0.30	7.52	紅簾片岩	下部は使用により摩滅
186	901	A	包含層	5.10	2.40	0.30	4.85	紅簾片岩	下部は使用により摩滅
186	902	A	包含層	3.90	2.10	0.40	5.64	紅簾片岩	下部は使用により摩滅
186	903	B	包含層	5.50	3.50	0.55	18.34	紅簾片岩	上・下部は使用摩滅、両面に研磨痕?
186	904	B	包含層	5.50	2.30	0.30	7.85	紅簾片岩	下部は使用により摩滅
186	905	C	包含層	4.90	4.10	0.40	14.03	紅簾片岩	下部は使用により摩滅

186	906	C	包含層	4.60	2.90	0.50	11.32	紅簾片岩	下部は使用により摩滅、片面に研磨痕
186	907	C	包含層	5.70	1.40	0.50	5.68	紅簾片岩	全体に入念な研磨、転用品?
186	908	D	包含層	4.85	2.40	0.40	7.04	紅簾片岩	下部は使用により摩滅

付表25 穿孔工具ほか観察表

図版番号	番号	調査区	器種名	遺構番号	全長(残存長) (mm)	幅(残存幅) (mm)	厚さ(最大厚) (mm)	重量 (g)	石材	石針類型/ 石針未成品類型(p. 研磨面数)	備考
187	909	C	石核	SHC451	64.0	83.0	11.5	58.2	サスカイト		上端に自然面あり
187	910	C	石核	SHC451	50.0	55.0	10.5	32.4	サスカイト		
187	911	C	石核	SHC451	34.0	60.5	17.5	31.5	サスカイト		自然面あり
188	912	C	石核	SHC451	39.0	25.5	6.0	8.29	サスカイト		
188	913	C	石核	SHC451 中央土坑	39.5	26.0	13.5	12.32	サスカイト		
188	914	C	石核	SHC451	25.0	28.0	9.5	8.80	サスカイト		下端に一部研磨痕
188	915	C	石核	SHC451	28.0	31.0	7.0	6.93	サスカイト		
188	916	C	石核	SHC451 中央土坑	26.0	21.0	12.0	3.80	サスカイト		
188	917	C	石核	SHC451	20.0	27.0	7.0	5.19	サスカイト		
188	918	C	石核	SHC451	18.0	32.5	7.0	4.40	サスカイト		上端に自然面あり
188	919	C	石核	SHC451	23.0	27.0	11.0	6.73	サスカイト		
189	920	C	石核	SHC451	22.5	29.5	9.0	6.18	サスカイト		自然面あり
189	921	C	石核	SHC451 中央土坑	25.0	23.0	7.0	4.83	サスカイト		上端に自然面あり
189	922	C	石核	SHC451 中央土坑	19.0	37.5	10.0	6.03	サスカイト		
189	923	C	石核	SHC451	24.5	19.5	5.5	3.55	サスカイト		
189	924	C	石核	SHC451	25.0	20.0	7.5	2.49	サスカイト		上端に自然面あり
189	925	C	石核	SHC451 中央土坑	21.5	15.5	4.5	1.55	サスカイト		
189	926	C	石核	SHC451	17.0	20.5	6.0	2.22	サスカイト		
189	927	C	石核	SHC451 (P27・34)	26.0	22.0	11.5	6.72	サスカイト		
189	928	C	石核	SHC451	22.5	12.0	4.0	1.47	サスカイト		
189	929	C	石核	SHC451	12.0	19.0	6.5	1.58	サスカイト		
189	930	C	石核	SHC451 (P5)	18.5	11.0	3.5	0.95	サスカイト		
189	931	C	石核	SHC451	29.0	15.0	7.0	2.74	サスカイト		
189	932	C	石核	SHC451 (P2)	17.5	13.0	6.0	1.41	サスカイト		
189	933	C	石核	SHC451 (P6)	18.0	9.5	4.0	1.02	サスカイト		
189	934	C	石核	SHC451	20.5	12.5	5.5	1.96	サスカイト		
190	935	C	未成品	SHC451 中央土坑	31.5	7.0	5.0	1.19	サスカイト	Vd	
190	936	C	未成品	SHC451	31.0	9.5	6.0	1.75	サスカイト	IVc+br.	割取あり
190	937	C	未成品	SHC451	29.0	8.0	3.0	0.97	サスカイト	Va	主要剥離面残る
190	938	C	未成品	SHC451	27.5	8.0	5.5	0.99	サスカイト	I d	
190	939	C	未成品	SHC451 中央土坑 東南	28.0	10.0	4.5	1.12	サスカイト	I (c+d)	先端部に擦痕あり
190	940	C	未成品	SHC451	25.0	16.0	6.0	1.41	サスカイト	II c	
190	941	C	未成品	SHC451	24.0	9.5	4.0	1.30	サスカイト	I (c+d)	上端に自然面あり
190	942	C	未成品	SHC451	25.0	8.5	6.0	0.94	サスカイト	II d'	
190	943	C	未成品	SHC451 (P14)	23.5	7.0	3.5	0.73	サスカイト	II d	
190	944	C	未成品	SHC451 (P21)	22.0	9.5	5.5	1.13	サスカイト	I d	
190	945	C	未成品	SHC451 中央土坑	22.0	10.0	6.0	1.19	サスカイト	I c+le.	未調整面あり
190	946	C	未成品	SHC451 中央土坑	24.5	7.0	5.5	0.94	サスカイト	Vc+br.	割取あり
190	947	C	未成品	SHC451 (P7)	23.5	7.0	2.5	0.57	サスカイト	I (a+c)	
190	948	C	未成品	SHC451	19.5	6.5	6.0	0.92	サスカイト	I d'	
190	949	C	未成品	SHC451	20.0	6.5	4.0	0.49	サスカイト	II d	

190	950	C	未成品	SHC451	20.0	7.5	3.0	0.66	サカイト	V (c+d)+br.	割取あり
190	951	C	未成品	SHC451 中央土坑	21.5	4.5	4.0	0.40	サカイト	I d	
190	952	C	未成品	SHC451	20.0	5.0	2.5	0.40	サカイト	I a	主要剥離面残る
190	953	C	未成品	SHC451	21.5	6.0	3.5	0.52	サカイト	I d	
190	954	C	未成品	SHC451	22.0	6.0	4.5	0.70	サカイト	I (c+d)	主要剥離面残る
190	955	C	未成品	SHC451	19.5	8.5	3.5	0.82	サカイト	V (c+d)	
190	956	C	未成品	SHC451 中央土坑	19.0	8.5	5.0	0.85	サカイト	V c	上端に自然面あり折損した石錐?
190	957	C	未成品	SHC451	22.5	7.0	3.0	0.52	サカイト	II (c+d)	
190	958	C	未成品	SHC451	16.5	9.0	6.5	1.24	サカイト	I (c+d)	
8	959	C	未成品	SHC451	14.0	8.5	4.0	0.66	サカイト	I d	
190	960	C	未成品	SHC451 中央土坑	17.0	6.0	3.5	0.60	サカイト	I c+br.	割取あり
190	961	C	未成品	SHC451 中央土坑	17.0	8.0	4.0	0.62	サカイト	I a	
190	962	C	未成品	SHC451 中央土坑	17.0	8.0	2.5		サカイト		
191	963	C	未成品	SHC451 中央土坑	16.5	6.5	4.0	0.40	サカイト	II c	
191	964	C	未成品	SHC451 (P9)	17.5	6.5	3.0	0.37	サカイト	I c	
191	965	C	未成品	SHC451	18.0	5.0	6.0	0.65	サカイト	I c+p. +br.	研磨痕1面割取あり自然面あり
191	966	C	未成品	SHC451 中央土坑 西北	17.0	6.5	5.0	0.50	サカイト	II a+le.	未調整面あり
191	967	C	未成品	SHC451 (P12)	15.5	7.5	3.5	0.40	サカイト	II (c+d')	
191	968	C	未成品	SHC451	15.0	6.5	4.5	0.52	サカイト	V d	
191	969	C	未成品	SHC451	12.5	8.5	6.0	0.78	サカイト	V d	
191	970	C	未成品	SHC451 (P5)	22.5	4.0	3.0	0.36	サカイト	I d+p.	研磨痕1面
191	971	C	未成品	SHC451 (P9)	19.5	4.5	2.5	0.34	サカイト	I a	
191	972	C	未成品	SHC451	18.5	4.5	2.0	0.24	サカイト	I a	主要剥離面残る
191	973	C	未成品	SHC451	18.0	4.0	2.5	0.24	サカイト	I a	
191	974	C	未成品	SHC451	15.0	5.0	3.5	0.28	サカイト	I a	主要剥離面残る、自然面あり
191	975	C	未成品	SHC451	16.5	5.0	3.0		サカイト		
191	976	C	未成品	SHC451	16.5	5.0	3.0	0.31	サカイト	I b+p.	研磨痕1面、主要剥離面残る
191	977	C	未成品	SHC451	15.0	4.5	3.0	0.31	サカイト	I d'	
191	978	C	未成品	SHC451	18.0	2.5	2.0	0.15	サカイト	I a+le.	未調整面あり
191	979	C	未成品	SHC451 (P5)	15.5	3.5	2.5	0.19	サカイト	I c+p.	研磨痕3面
191	980	C	未成品	SHC451	14.5	4.0	4.0	0.31	サカイト	6角形p5	研磨痕5面
191	981	C	未成品	SHC451	17.0	4.5	3.5	0.35	サカイト	I a+le.	未調整面あり
191	982	C	未成品	SHC451 中央土坑	13.5	3.5	3.0	0.28	サカイト	5角形p4	研磨痕4面
191	983	C	未成品	SHC451	15.5	4.0	3.0	0.25	サカイト		研磨痕2面
191	984	C	未成品	SHC451	15.0	4.5	3.0	0.18	サカイト	I (c+d)	
191	985	C	未成品	SHC451	13.0	3.5	4.0	0.34	サカイト	4角形p3	研磨痕3面
191	986	C	未成品	SHC451	11.5	4.5	3.0	0.19	サカイト	I d	
191	987	C	未成品	SHC451	14.0	4.0	2.5	0.21	サカイト	I c+br.	割取あり
191	988	C	未成品	SHC451	10.0	3.5	2.5	0.13	サカイト	I d+p.	研磨痕2面
191	989	C	未成品	SHC451	8.0	3.5	2.0	0.09	サカイト	II b	
191	990	C	未成品	SHC451 中央土坑	7.0	2.0	2.5	0.05	サカイト	II d+p.	研磨痕2面
191	991	C	未成品	SHC451	8.0	2.0	1.5	0.05	サカイト	4角形p4	角柱体、研磨痕4面
192	992	C	石針	SHC451	(14.8)	2.00		0.09	サカイト	b4	上端折損、端径:上2.00mm/下1.55mm. 使用痕長:5.35mm.
192	993	C	石針	SHC451 (P23-25)	(11.15)	2.25		0.11	サカイト	b1	下端折損、端径:上1.60mm/下1.60mm. 使用痕長:0.55mm.
192	994	C	石針	SHC451	(12.50)	2.40		0.13	サカイト	c2	上端折損、端径:上2.40mm/下2.05mm. 使用痕長:0.30mm.

観 察 表

192	995	C	石針	SHC451 (P23-25)	12.10	1.85		0.07	サカト	a2/b2	端径:上1.65mm/下1.85mm. 使用痕長: 上0.10mm/下0.60mm.
192	996	C	石針	SHC451	(10.80)	1.90		0.07	サカト	c2	上端折損、端径:上1.90mm/下1.70mm. 使用痕長:0.40mm.
192	997	C	石針	SHC451	(10.30)	1.70		0.05	サカト	b3	上端折損、端径:上1.60mm/下1.40mm. 使用痕長:6.70mm.
192	998	C	石針	SHC451	9.50	1.70		0.06	サカト	c3	端径:上1.70mm/下1.60mm. 使用痕 長:2.50mm. 上面に擦痕(使用痕なし). 上面中央やや凹む.
192	999	C	石針	SHC451	9.00	1.85		0.05	サカト	c3	端径:上1.85mm/下1.45mm. 使用痕 長:8.80mm. 下面に擦痕(使用痕なし).
192	1000	C	石針	SHC451	8.55	1.90		0.05	サカト	c4	端径:上1.75mm/下1.60mm. 使用痕 長:7.45mm.
192	1001	C	石針	SHC451	(8.30)	2.05		0.06	サカト	b4	上端折損、端径:上2.00mm/下1.65mm. 使用痕長:1.90mm.
192	1002	C	石針	SHC451	7.4	2.00		0.05	サカト	c1+dp./c2	端径:上1.80mm/下1.85mm. 使用痕長: 上0.20mm/下0.40mm.
192	1003	C	石針	SHC451 (P6)	7.35	1.80		0.04	サカト	c2	端径:上1.45mm/下1.75mm. 使用痕 長:0.50mm. 上面に擦痕(使用痕なし)
192	1004	C	石針	SHC451 中央土坑	7.10	1.65		0.04	サカト	b1	端径:上1.60mm/下1.50mm. 使用痕 長:0.20mm.
192	1005	C	石針	SHC451	6.90	1.35		0.02	サカト	c1	端径:上1.35mm/下1.35mm. 使用痕 長:1.50mm.
192	1006	C	石針	SHC451	5.75	1.55		0.02	サカト	c2	端径:上1.45mm/下1.45mm. 使用痕 長:0.60mm.
192	1007	C	石針	SHC451 (P7)	(13.00)	1.2		0.02	サカト	b1	上端折損、端径:上1.10mm/下1.05mm. 使用痕長:0.20mm.
192	1008	C	石針	SHC451	(10.35)	1.75		0.06	サカト	c3	上端折損、端径:上1.75mm/下1.60mm. 使用痕長:10.35mm.
192	1009	C	石針	SHC451	(10.15)	2.22		0.08	サカト	c3+dp.	上端折損、端径:上2.20mm/下1.80mm. 使用痕長:3.40mm.
192	1010	C	石針	SHC451 (P19)	(10.20)	1.60		0.05	サカト	b3+dp.	上端折損、端径:上1.55mm/下1.35mm. 使用痕長:9.85mm.
192	1011	C	石針	SHC451	(9.80)	2.55		0.09	サカト	b3+dp.	上端折損、端径:上2.55mm/下1.85mm. 使用痕長:1.50mm.
192	1012	C	石針	SHC451	(9.70)	1.6		0.04	サカト	c3+dp.	上端折損、端径:上1.55mm/下1.45mm. 使用痕長:4.90mm.
192	1013	C	石針	SHC451	(8.15)	1.25		0.03	サカト	c3+dp.	上端折損、端径:上1.25mm/下1.10mm. 使用痕長:0.40mm.
192	1014	C	石針	SHC451	9.25	1.95		0.06	サカト	b1	端径:上1.95mm/下1.65mm. 使用痕 長:0.25mm. 上面に擦痕(使用痕なし)
192	1015	C	石針	SHC451	30.00	1.65		0.16	サカト	c3+dp.	端径:上1.65mm/下1.35mm. 使用痕 長:14.80mm. 上面に擦痕(使用痕なし)
192	1016	C	石針	SHC451	22.35	2.20		0.18	サカト	c4+dp.	端径:上2.15mm/下1.85mm. 使用痕 長:14.15mm. 上面に擦痕(使用痕なし)
192	1017	C	石針	SHC451 (P5)	(8.00)	2.30		0.07	サカト	b3+dp.	上端折損、端径:上2.00mm/下1.75mm. 使用痕長:1.55mm.
192	1018	C	石針	SHC451 (P26)	(8.45)	1.85		0.05	サカト	b4	上端折損、端径:上1.80mm/下1.70mm. 使用痕長:2.05mm.
192	1019	C	石針	SHC451	7.05	2.2		0.05	サカト	b3+dp.	端径:上1.65mm/下1.55mm. 使用痕 長:3.30mm. 上面はやや凹む
192	1020	C	石針	SHC451	(8.20)	1.70		0.05	サカト	c3+dp.	上端折損、端径:上1.70mm/下1.70mm. 使用痕長:3.20mm.
192	1021	C	石針	SHC451	7.35	1.70		0.04	サカト	c1+dp.	端径:上1.70mm/下1.50mm. 使用痕 長:0.60mm.
192	1022	C	石針	SHC451	7.35	2.00		0.06	サカト	c1/c3	端径:上2.00mm/下1.80mm. 使用痕長: 上0.30mm/下2.50mm.
192	1023	C	石針	SHC451	7.10	2.20		0.06	サカト	c1/c3+dp.	端径:上1.80mm/下1.40mm. 使用痕長: 上0.70mm/下3.80mm.
192	1024	C	石針	SHC451	(6.95)	1.40		0.03	サカト	c3+dp.	上端折損、端径:上1.35mm/下1.00mm. 使用痕長:2.35mm.
192	1025	C	石針	SHC451	6.60	1.34		0.02	サカト	b2/c2	端径:上1.15mm/下1.05mm. 使用痕長: 上1.00mm/下2.40mm.
192	1026	C	石針	SHC451	6.75	2.15		0.05	サカト	c2/b1+dp.	端径:上2.00mm/下2.15mm. 使用痕長: 上0.90mm/下0.70mm.
192	1027	C	石針	SHC451 (P21)	6.75	1.55		0.04	サカト	c2/c1	端径:上1.30mm/下1.40mm. 使用痕長: 上0.70mm/下0.50mm.
192	1028	C	石針	SHC451 中央土坑	6.00	1.85		0.04	サカト	c3+dp./c2	端径:上1.75mm/下1.85mm. 使用痕長: 上3.00mm/下1.10mm.

192	1029	C	石針	SHC451	(6.00)	1.00		0.03	サスカイト	c1+dp.	上端折損、端径:下1.60mm.使用痕長:0.30mm.
192	1030	C	石針	SHC451	(15.25)	1.75		0.07	サスカイト	b4	上端折損、端径:上1.50mm/下1.45mm.使用痕長:7.55mm.
192	1031	C	石針	SHC451	11.30	2.70		0.04	サスカイト	c4+b1	端径:上1.55mm/下1.30mm.使用痕長:5.85mm.上面に擦痕(使用痕なし).
192	1032	C	石針	SHC451	(9.50)	1.50		0.04	サスカイト	c3+b1	上端折損、端径:上1.50mm/下1.45mm.使用痕長:6.00mm.
192	1033	C	石針	SHC451	7.45	2.20		0.06	サスカイト	b2+c2	端径:上1.85mm/下1.20mm.使用痕長:1.00mm.
192	1034	C	石針	SHC451	6.15	1.80		0.04	サスカイト	b2/c3+b2	端径:上1.75mm/下1.10mm.使用痕長:上1.55mm/下2.45mm.
192	1035	C	石針	SHC451	15.50	2.10		0.12	サスカイト	c4+b1+dp.	端径:上2.10mm/下1.50mm.使用痕長:7.35mm.上面に擦痕(使用痕なし).
192	1036	C	石針	SHC451 中央土坑	8.30	2.05		0.06	サスカイト	b3+b1+dp.	端径:上1.65mm/下1.45mm.使用痕長:1.40mm.上面に擦痕(使用痕なし).
192	1037	C	石針	SHC451	(8.75)	1.55		0.04	サスカイト	c3+c2+dp.	上端折損、端径:上1.55mm/下0.90mm.使用痕長:8.75mm.
192	1038	C	石針	SHC451 (P14)	(14.10)	2.05		0.11	サスカイト	c3?	下端折損、端径:上2.05mm/下1.70mm.使用痕長:6.25mm.上面に擦痕(使用痕なし).
192	1039	C	石針	SHC451 (P25)	(10.95)	1.55		0.05	サスカイト	c3?	下端折損、端径:上1.55mm/下1.10mm.使用痕長:4.55mm.上面に擦痕(使用痕なし).
192	1040	C	石針	SHC451	(10.50)	1.60		0.05	サスカイト	c2+c1	下端折損、端径:上1.50mm/下0.25mm.使用痕長:0.35mm.
192	1041	C	石針	SHC451	(7.00)	1.50		0.03	サスカイト	c1	下端折損、端径:上1.50mm/下1.30mm.
192	1042	C	石針	SHC451	(5.20)	1.30		0.02	サスカイト	c3	上端折損、端径:上1.20mm/下1.30mm.使用痕長:2.40mm.
192	1043	C	石針	SHC451 (P14)	(17.30)	2.10		0.14	サスカイト	c3?	両端折損、端径:上1.95mm/下1.65mm.使用痕長:3.40mm.
192	1044	C	石針	SHC451	(10.50)	1.2		0.03	サスカイト		両端折損、端径:上1.10mm/下1.10mm.
192	1045	C	石針	SHC451	(9.15)	2.6		0.08	サスカイト		両端折損、端径:上2.55mm/下1.55mm.
192	1046	C	石針	SHC451	(8.55)	2.0		0.07	サスカイト		両端折損、端径:上1.95mm/下1.70mm.
192	1047	C	石針	SHC451	(9.75)	2.60		0.09	サスカイト		両端折損、端径:上2.60mm/下2.10mm.
192	1048	C	石針	SHC451	(8.80)	2.40		0.09	サスカイト		両端折損、端径:上2.30mm/下1.40mm.
192	1049	C	ササ	SHC451	21.5	22.5	7.50	3.78	サスカイト		上端に自然面あり
192	1050	C	ササ	SHC451	19.0	9.5	8.5	1.66	サスカイト		
193	1051	A	石核	SHA74	25.5	23.5	7.5	6.43	サスカイト		自然面あり
193	1052	A	石核	SHA74	24.0	34.0	8.0	7.06	サスカイト		
193	1053	A	石核	SHA74	23.00	20.0	7.0	2.89	サスカイト		
193	1054	A	石核	SHA74	21.0	27.0	7.5	6.19	サスカイト		
193	1055	A	未成品	SHA74	38.0	12.0	5.0	2.58	サスカイト	I c	基部折損
193	1056	A	未成品	SHA74	39.5	10.0	5.5	2.21	サスカイト	V (c+d)	
193	1057	A	未成品	SHA74	30.0	12.0	8.0	3.08	サスカイト		自然面あり基部折損
193	1058	A	未成品	SHA74	26.0	11.5	5.0	2.01	サスカイト	V d	基部折損
193	1059	A	未成品	SHA74 (P109)	33.7	6.5	8.00	1.58	サスカイト	V c+p.	研磨痕2面
193	1060	A	未成品	SHA74	22.5	6.5	4.5	0.77	サスカイト	I (c+d)	基部折損
193	1061	A	未成品	SHA74	24.8	7.0	4.8	0.83	サスカイト	II a変形	
193	1062	A	未成品	SHA74	22.2	8.8	4.7	1.25	サスカイト	I c	
193	1063	A	未成品	SHA74 (SKA111)	17.5	12.0	5.5	1.46	サスカイト	I d+le.	自然面あり
193	1064	A	未成品	SHA74	18.3	11.4	4.0	0.97	サスカイト	I d	
193	1065	A	未成品	SHA74	20.0	5.0	3.5	0.92	サスカイト	II a+le.	
193	1066	A	未成品	SHA74	19.5	5.0	4.0	0.65	サスカイト	4角形p4	角柱体.研磨痕4面
193	1067	A	未成品	SHA74 (SKA111)	22.0	3.0	3.5	0.39	サスカイト	9角形p9	研磨痕9面
193	1068	A	未成品	SHA74	19.0	5.0	2.5	0.49	サスカイト	I a	
193	1069	A	未成品	SHA74	18.2	5.0	7.0	0.59	サスカイト	I d+p.	研磨痕1面
193	1070	A	未成品	SHA74	17.8	6.0	3.5	0.53	サスカイト	I b	
193	1071	A	未成品	SHA74	15.0	5.0	3.0	0.40	サスカイト	I a	
193	1072	A	未成品	SHA74	13.0	6.0	4.3	0.51	サスカイト	I c	
193	1073	A	未成品	SHA74	14.0	5.0	3.0	0.29	サスカイト	I a	自然面あり

観 察 表

193	1074	A	未成品	SHA74	16.2	3.8	3.0	0.31	サスカイト	I a	
193	1075	A	未成品	SHA74	13.0	3.5	2.5	0.25	サスカイト	5角形p4	研磨痕4面
193	1076	A	未成品	SHA74	11.7	4.5	2.3	0.18	サスカイト	5角形p3	研磨痕3面
193	1077	A	未成品	SHA74	13.0	3.8	1.5	0.18	サスカイト	5角形p3	研磨痕3面
193	1078	A	未成品	SHA74	11.5	2.9	2.5	0.12	サスカイト	II a	
193	1079	A	未成品	SHA74	6.4	3.3	2.0	0.08	サスカイト		下面摩耗.
194	1080	A	石針	SHA74	(19.10)	1.9		0.16	サスカイト		上端折損、端径:上2.10mm/下1.90mm. 下面に擦痕.
194	1081	A	石針	SHA74	(13.20)	1.9		0.09	サスカイト	c3	上端折損、端径:上1.90mm/下1.40mm. 使用痕長:5.40mm.
194	1082	A	石針	SHA74	(10.50)	2.0		0.08	サスカイト		上端折損、端径:上2.00mm/下2.00mm. 下面に擦痕.
194	1083	A	石針	SHA74	(9.30)	2.0		0.07	サスカイト	c1	上端折損、端径:上2.00mm/下2.00mm.
194	1084	A	石針	SHA74	8.4	2.2		0.07	サスカイト	b2	端径:上2.00mm/下1.60mm. 使用痕長:0.60mm. 下面に擦痕(使用痕なし)
194	1085	A	石針	SHA74	(7.80)	1.8		0.05	サスカイト	c1	上端折損、端径:上1.80mm/下1.80mm. 使用痕長:0.20mm.
194	1086	A	石針	SHA74	8.5	1.8		0.04	サスカイト	b3	端径:上1.50mm/下1.20mm. 使用痕長:2.10mm.
194	1087	A	石針	SHA74	(7.20)	1.2		0.02	サスカイト	b1	上端折損、端径:上1.20mm/下1.00mm. 使用痕長:上2.50mm以上/下0.20mm.
194	1088	A	石針	SHA74	(6.70)	1.5		0.03	サスカイト	c1	上端折損、端径:上1.50mm/下1.30mm. 使用痕長:0.30mm.
194	1089	A	石針	SHA74	6.8	1.2		0.02	サスカイト	c2	端径:上1.20mm/下0.90mm. 使用痕長:0.20mm.
194	1090	A	石針	SHA74	(5.60)	1.5		0.02	サスカイト		上端折損、端径:上1.50mm/下1.30mm. 下面に擦痕.
194	1091	A	石針	SHA74	(5.30)	2.0		0.04	サスカイト		上端折損、端径:上2.00mm/下1.80mm. 下面に擦痕.
194	1092	A	石針	SHA74	(4.50)	1.8		0.02	サスカイト	c1	上端折損、端径:上1.50mm/下1.50mm. 使用痕長:0.10mm.
194	1093	A	石針	SHA74	(4.80)	1.7		0.02	サスカイト	b3	上端折損、端径:上1.70mm/下1.20mm. 使用痕長:2.60mm.
194	1094	A	石針	SHA74	16.8	1.8		0.12	サスカイト	c3+dp.	端径:上1.80mm/下1.60mm. 使用痕長:4.80mm.
194	1095	A	石針	SHA74	(16.30)	2.0		0.11	サスカイト	c3+b2+dp.	上端折損、端径:上1.60mm/下1.05mm. 使用痕長:3.50mm.
194	1096	A	石針	SHA74	15.5	1.7		0.09	サスカイト	c3	端径:上1.70mm/下1.40mm. 使用痕長:2.00mm. 上面に擦痕(使用痕なし).
194	1097	A	石針	SHA74	15.0	2.5		0.16	サスカイト	c3+dp.	端径:上2.50mm/下2.20mm. 使用痕長:2.00mm. 上面に擦痕(使用痕なし).
194	1098	A	石針	SHA74	12.9	2.0		0.11	サスカイト	c2+dp.	端径:上1.80mm/下2.00mm. 使用痕長:1.60mm 上面擦痕(使用痕なし)
194	1099	A	石針	SHA74	12.6	2.0		0.11	サスカイト	b2/b3+dp.	端径:上2.00mm/下1.80mm. 使用痕長:上0.50mm/下4.70mm.
194	1100	A	石針	SHA74	12.5	1.9		0.06	サスカイト	c3+dp.	端径:上1.70mm/下1.60mm. 使用痕長:10.20mm. 上面擦痕(使用痕なし)
194	1101	A	石針	SHA74	(11.90)	2.0		0.09	サスカイト	c3+dp.	上端折損、端径:上2.00mm/下2.00mm. 使用痕長:2.20mm.
194	1102	A	石針	SHA74	10.0	2.0		0.08	サスカイト	c1+dp.	端径:上2.00mm/下2.00mm. 使用痕長:0.30mm. 上面に擦痕(使用痕なし).
194	1103	A	石針	SHA74	(10.00)	2.0		0.09	サスカイト	b3+dp.	上端折損、端径:上2.00mm/下1.80mm. 使用痕長:0.40mm.
194	1104	A	石針	SHA74	(10.00)	1.8		0.06	サスカイト	c3+dp.	上端折損、端径:上1.80mm/下1.80mm. 使用痕長:6.00mm.
194	1105	A	石針	SHA74	(9.90)	2.0		0.08	サスカイト	c3+dp.	上端折損、端径:上2.00mm/下2.00mm. 使用痕長:1.50mm.
194	1106	A	石針	SHA74	9.2	1.9		0.07	サスカイト	b3+dp.	端径:上1.90mm/下1.80mm. 使用痕長:1.50mm. 上面に擦痕(使用痕なし).
194	1107	A	石針	SHA74	7.8	1.9		0.05	サスカイト	c3+dp./ b1+dp	端径:上1.90mm/下1.80mm. 使用痕長:7.80mm.
194	1108	A	石針	SHA74	(7.40)	2.0		0.04	サスカイト	b3+dp.	上端折損、端径:上2.00mm/下1.60mm. 使用痕長:1.50mm.
194	1109	A	石針	SHA74	7.5	2.0		0.06	サスカイト	b2+dp.	端径:上1.70mm/下2.00mm. 使用痕長:1.00mm.
194	1110	A	石針	SHA74	7.5	1.6		0.04	サスカイト	b1+dp./ b3+dp.	端径:上1.60mm/下1.40mm. 使用痕長:上0.20mm/下2.30mm.
194	1111	A	石針	SHA74	(7.20)	1.5		0.04	サスカイト	b3	上端折損、端径:上1.50mm/下1.30mm. 使用痕長:2.00mm.

194	1112	A	石針	SHA74	5.8	1.6		0.04	サスカイト	a1/c3	端径:上1.70mm/下1.80mm. 使用痕長:4.30mm.
194	1113	A	石針	SHA74	(4.80)	1.5		0.02	サスカイト	b3	上端折損、端径:上1.50mm/下1.20mm. 使用痕長:1.50mm.
194	1114	A	石針	SHA74	(3.90)	1.4		0.01	サスカイト	b2+dp.	上端折損、端径:上1.50mm/下1.20mm. 使用痕長:1.00mm.
194	1115	A	石針	SHA74	8.5	1.7		0.05	サスカイト	c2/c3+b4	碧玉192の穿孔に使用した可能性. 端径:上1.70mm/下0.50mm. 使用痕長:上0.60mm/下7.70mm.
194	1116	A	石針	SHA74	(5.00)	2.0		0.03	サスカイト	c2+b2+dp.	上端折損、端径:上2.00mm/下1.30mm. 使用痕長:0.10mm. 下端中央凹部の中心突出.
194	1117	A	石針	SHA74	(16.00)	2.5		0.15	サスカイト		下端折損、端径:上2.10mm/下2.10mm. 上面に擦痕(使用痕なし).
194	1118	A	石針	SHA74	(13.00)	2.0		0.12	サスカイト	c3	上端折損、端径:上2.00mm/下2.00mm. 使用痕長13.00mm.
194	1119	A	石針	SHA74	(13.00)	1.0		0.03	サスカイト		下端折損、端径:上1.00mm/下1.00mm. 上面に擦痕(使用痕なし).
194	1120	A	石針	SHA74	(8.50)	1.9		0.07	サスカイト	c3	下端折損、端径:上1.90mm/下1.80mm. 使用痕長:6.90mm.
194	1121	A	石針	SHA74 (SKA110)	7.7	1.4		0.03	サスカイト	c2/b3+b1	端径:上1.40mm/下1.30mm. 使用痕長:上2.40mm/下1.55mm.
194	1122	A	石針	SHA74 (SKA110)	6.3	1.5		0.02	サスカイト	b2	端径:上1.50mm/下1.30mm. 使用痕長:0.40mm. 上面に擦痕(使用痕なし).
194	1123	A	石針	SHA74	(6.50)	1.5		0.02	サスカイト	c2	上端折損、端径:上1.40mm/下1.40mm. 使用痕長:0.30mm.
194	1124	A	石針	SHA74 (SKA110)	(4.80)	1.4		0.02	サスカイト	c2	下端折損、端径:上1.30mm/下1.00mm. 使用痕長:0.20mm.
194	1125	A	石針	SHA74	4.4	1.3		0.01	サスカイト	c2	下端折損、端径:上1.10mm/下1.10mm. 使用痕長:0.20mm.
194	1126	A	石針	SHA74	(18.30)	2.3		0.15	サスカイト		両端折損、端径:上2.30mm/下1.80mm.
194	1127	A	石針	SHA74	(8.10)	1.6		0.05	サスカイト		両端折損、端径:上1.80mm/下1.80mm.
194	1128	A	石針	SHA74	(7.40)	1.6		0.04	サスカイト		両端折損、端径:上1.60mm/下1.50mm.
194	1129	A	石針	SHA74	(6.20)	1.5		0.02	サスカイト		両端折損、端径:上1.50mm/下1.10mm.
194	1130	A	石針	SHA74	(6.50)	1.7		0.04	サスカイト		両端折損、端径:上1.70mm/下1.60mm.
194	1131	A	石針	SHA74	(6.20)	1.8		0.03	サスカイト		両端折損、端径:上1.60mm/下1.70mm.
194	1132	A	石針	SHA74	(5.70)	2.0		0.05	サスカイト		両端折損、端径:上2.00mm/下2.00mm.
194	1133	A	石針	SHA74	(5.20)	1.8		0.03	サスカイト		両端折損、端径:上1.80mm/下1.70mm.
194	1134	A	石針	SHA74	(4.40)	2.0		0.03	サスカイト		両端折損、端径:上2.00mm/下1.90mm.
194	1135	A	石針	SHA74	(4.00)	2.0		0.03	サスカイト		両端折損、端径:上2.00mm/下2.00mm.
194	1136	A	石針	SHA74	(2.50)	1.8		0.01	サスカイト		両端折損、端径:上1.70mm/下1.70mm.
194	1137	A	石核	SHA98	18.5	25.0	8.5	4.06	サスカイト		
194	1138	A	未成品	SHA98	22.1	4.7	2.2	0.34	サスカイト	I a	
194	1139	A	未成品	SHA98	15.0	7.0	3.5	0.40	サスカイト	II a+le.	
194	1140	A	未成品	SHA98	17.5	6.0	3.5	0.31	サスカイト	II (c+d)	
194	1141	A	未成品	SHA98	16.4	6.3	2.9	0.33	サスカイト	I (b+d)	
194	1142	A	未成品	SHA98	17.2	4.8	2.7	0.28	サスカイト	I (c+d)	
194	1143	A	未成品	SHA98	17.0	5.0	2.5	0.30	サスカイト	I d	
194	1144	A	未成品	SHA98	16.5	5.0	3.2	0.29	サスカイト	I d	
194	1145	A	未成品	SHA98	15.0	4.5	2.9	0.30	サスカイト	I d+p.	研磨痕2面
194	1146	A	未成品	SHA98	14.2	2.8	2.8	0.13	サスカイト	5角形p5	研磨痕5面
194	1147	A	未成品	SHA98	11.2	2.6	2.1	0.10	サスカイト	4角形p2	研磨痕2面
194	1148	A	未成品	SHA98	9.7	3.8	2.5	0.12	サスカイト	I (c+d)	
194	1149	A	石針	SHA98	(7.10)	1.7		0.04	サスカイト	b3	上端折損、端径:上1.70mm/下1.70mm. 使用痕長:1.60mm.
194	1150	A	石針	SHA98	(5.20)	1.8		0.04	サスカイト	b3+dp.	上端折損、端径:上1.80mm/下1.50mm. 使用痕長:1.90mm.
194	1151	A	石針	SHA98	(4.20)	1.5		0.02	サスカイト	b3	上端折損、端径:上1.50mm/下1.50mm. 使用痕長:3.10mm.
194	1152	A	石針	SHA98	(12.00)	1.8		0.07	サスカイト	b3	上端折損、端径:上1.80mm/下1.60mm. 使用痕長:1.70mm.
194	1153	A	石針	SHA98	(9.70)	1.6		0.05	サスカイト	c3+dp.	上端折損、端径:上1.50mm/下1.50mm. 使用痕長:9.70mm.
194	1154	A	石針	SHA98	(9.50)	2.0		0.05	サスカイト	b1	上端折損、端径:上1.80mm/下1.70mm. 使用痕長:0.30mm.



観 察 表

194	1155	A	石針	SHA98	(9.10)	1.5		0.03	サスカイト	b3+dp.	上端折損、端径:上1.50mm/下0.90mm. 使用痕長:4.80mm.
194	1156	A	石針	SHA98	8.5	1.7		0.04	サスカイト	b4+dp./ c3+b1+dp.	端径:上1.50mm/下1.10mm. 使用痕長: 上1.70mm/下4.50mm.
194	1157	A	石針	SHA98	(8.20)	1.3		0.03	サスカイト	c3+dp.	上端折損、端径:上1.20mm/下1.30mm. 使用痕長:7.70mm.
194	1158	A	石針	SHA98	8.00	1.4		0.04	サスカイト	c3+dp.	端径:上1.40mm/下1.30mm. 使用痕 長:4.00mm. 上面に擦痕(使用痕なし).
194	1159	A	石針	SHA98	7.7	1.8		0.05	サスカイト	b1+dp./ b3+dp.	端径:上1.80mm/下1.80mm. 使用痕長: 上1.00mm/下4.00mm.
194	1160	A	石針	SHA98	(7.50)	1.8		0.05	サスカイト	b3+dp.	上端折損、端径:上1.60mm/下1.60mm. 使用痕長:2.20mm.
194	1161	A	石針	SHA98	7.3	1.5		0.04	サスカイト	c1+dp.	端径:上1.50mm/下1.50mm. 使用痕 長:0.10mm. 下面に擦痕.
194	1162	A	石針	SHA98	(7.00)	1.5		0.03	サスカイト	b3	上端折損、端径:上1.40mm/下1.50mm. 使用痕長:4.00mm.
194	1163	A	石針	SHA98	(7.00)	1.4		0.03	サスカイト	c1	上端折損、端径:上1.40mm/下1.20mm. 使用痕長:1.00mm.
194	1164	A	石針	SHA98	(6.70)	1.5		0.03	サスカイト	c1	上端折損、端径:上1.30mm/下1.10mm. 使用痕長:0.10mm.
194	1165	A	石針	SHA98	(6.50)	1.8		0.03	サスカイト	c1	上端折損、端径:上1.50mm/下1.20mm. 使用痕長:0.10mm.
194	1166	A	石針	SHA98	(6.30)	1.5		0.03	サスカイト	b2	上端折損、端径:上1.30mm/下1.00mm. 使用痕長:0.20mm.
194	1167	A	石針	SHA98	(6.00)	1.9		0.04	サスカイト	b3	上端折損、端径:上1.90mm/下1.40mm. 使用痕長:1.40mm.
194	1168	A	石針	SHA98	5.7	1.7		0.04	サスカイト	c3	端径:上1.70mm/下1.60mm. 使用痕 長:3.60mm. 下面に擦痕(使用痕なし).
194	1169	A	石針	SHA98	(5.50)	1.9		0.05	サスカイト	c1+dp.	上端折損、端径:上1.90mm/下1.60mm. 使用痕長:0.20mm.
194	1170	A	石針	SHA98	(5.20)	1.5		0.03	サスカイト	c3+dp.	上端折損、端径:上1.50mm/下1.10mm. 使用痕長:4.00mm.
194	1171	A	石針	SHA98	(5.50)	1.8		0.03	サスカイト	b3+dp.	上端折損、端径:上1.80mm/下1.40mm. 使用痕長:2.40mm.
194	1172	A	石針	SHA98	(5.30)	1.8		0.04	サスカイト	c1+dp.	上端折損、端径:上1.80mm/下1.30mm. 使用痕長:0.50mm.
194	1173	A	石針	SHA98	5.3	1.6		0.03	サスカイト	c3+dp.	端径:上1.60mm/下1.20mm. 使用痕 長:2.90mm. 上面に擦痕(使用痕なし).
194	1174	A	石針	SHA98	(5.00)	1.8		0.03	サスカイト	c3+dp.	上端折損、端径:上1.60mm/下1.60mm. 使用痕長:4.00mm.
194	1175	A	石針	SHA98	(9.70)	2.0		0.07	サスカイト		両端折損、端径:上1.60mm/下1.40mm.
194	1176	A	石針	SHA98	(7.80)	1.8		0.04	サスカイト	c1	上端折損、端径:上1.60mm/下1.40mm. 使用痕長:0.30mm.
194	1177	A	石針	SHA98	(8.00)	1.3		0.02	サスカイト		両端折損、端径:上1.30mm/下1.10mm.
194	1178	A	石針	SHA98	(7.00)	2.2		0.05	サスカイト	b2	下端折損、端径:上2.20mm/下1.90mm. 使用痕長:0.40mm.
194	1179	A	石針	SHA98	(6.80)	1.6		0.03	サスカイト	c2	下端折損、端径:上1.50mm/下1.40mm. 使用痕長:0.40mm.
194	1180	A	石針	SHA98	(6.60)	1.7		0.04	サスカイト	c1	下端折損、端径:上1.50mm/下1.40mm. 使用痕長:0.20mm.
194	1181	A	石針	SHA98	(6.30)	1.7		0.04	サスカイト	c1	下端折損、端径:上1.60mm/下1.50mm. 使用痕長:0.30mm.
194	1182	A	石針	SHA98	(6.00)	1.8		0.04	サスカイト	c3	下端折損、端径:上1.90mm/下2.10mm. 使用痕長:6.00mm.
194	1183	A	石針	SHA98	(5.70)	1.6		0.03	サスカイト	c2	下端折損、端径:上1.50mm/下1.50mm. 使用痕長:0.50mm.
194	1184	A	石針	SHA98	(6.00)	1.6		0.02	サスカイト	c2	下端折損、端径:上1.40mm/下1.30mm. 使用痕長:0.20mm.
194	1185	A	石針	SHA98	(5.50)	1.2		0.01	サスカイト		下端折損、端径:上1.20mm/下1.00mm. 上面に擦痕(使用痕なし).
194	1186	A	石針	SHA98	(5.00)	1.8		0.03	サスカイト	c2	下端折損、端径:上1.60mm/下1.50mm. 使用痕長:0.60mm.
194	1187	A	石針	SHA98	4.7	1.8		0.03	サスカイト	c1	端径:上1.80mm/下1.50mm. 使用痕 長:0.40mm. 下面に擦痕(使用痕なし).
194	1188	A	石針	SHA98	(4.60)	1.8		0.02	サスカイト	c2	下端折損、端径:上1.60mm/下1.80mm. 使用痕長:0.20mm.
194	1189	A	石針	SHA98	(4.20)	1.4		0.02	サスカイト		下端折損、端径:上1.20mm/下1.10mm. 上面に擦痕(使用痕なし).
194	1190	A	石針	SHA98	(12.00)	1.6		0.05	サスカイト		両端折損、端径:上1.50mm/下1.20mm.
194	1191	A	石針	SHA98	(9.00)	1.4		0.03	サスカイト		両端折損、端径:上1.40mm/下1.40mm.

194	1192	A	石針	SHA98	(8.00)	1.7		0.05	サスカイト		上端折損、端径:上1.70mm/下1.50mm. 下面に擦痕(使用痕なし).
194	1193	A	石針	SHA98	(7.20)	1.8		0.04	サスカイト	c1	下端折損、端径:上1.60mm/下1.40mm. 使用痕長:0.10mm.
194	1194	A	石針	SHA98	(7.00)	1.6		0.03	サスカイト		両端折損、端径:上1.30mm/下1.10mm.
194	1195	A	石針	SHA98	(6.50)	1.6		0.03	サスカイト		下端折損、端径:上1.50mm/下1.40mm. 上面に擦痕(使用痕なし).
194	1196	A	石針	SHA98	(6.50)	1.7		0.03	サスカイト		両端折損、端径:上1.50mm/下1.50mm.
194	1197	A	石針	SHA98	(5.50)	1.8		0.03	サスカイト		両端折損、端径:上1.70mm/下1.50mm.
194	1198	A	石針	SHA98	(6.00)	1.6		0.02	サスカイト		両端折損、端径:上1.60mm/下1.10mm.
195	1199	C	石核	SHC479a	41.50	59.0	18.5	35.8	サスカイト		自然面あり
195	1200	C	未成品	SHC479a	39.00	12.5	6.50	3.45	サスカイト	III c	
195	1201	C	石核	SHC479a (P7)	22.5	22.0	6.00	3.89	サスカイト		
195	1202	C	未成品	SHC479a	24.00	10.5	5.0	1.25	サスカイト	I (b+d)	
195	1203	C	未成品	SHC479a	29.4	10.0	5.50	1.87	サスカイト	I a'	
195	1204	C	未成品	SHC479a	19.0	7.0	4.5	0.63	サスカイト	II c	
195	1205	C	未成品	SHC479a (P12)	17.3	6.0	3.50	0.44	サスカイト	I (a+c)	
195	1206	C	未成品	SHC479a	17.5	5.0	4.0	0.45	サスカイト	I (b+d)	上端に自然面あり
195	1207	C	石針	SHC479a (P12)	(12.05)	1.50		0.04	サスカイト	b3	上端折損、端径:上1.50mm/下1.20mm. 使用痕長:9.40mm.
195	1208	C	石針	SHC479a	(10.00)	1.65		0.04	サスカイト	b4	上端折損、端径:上1.55mm/下1.15mm. 使用痕長:5.25mm.
195	1209	C	石針	SHC479a	(6.20)	1.95		0.04	サスカイト	b3	上端折損、端径:上1.95mm/下1.30mm. 使用痕長:3.15mm.
195	1210	C	石針	SHC479a	(11.75)	1.45		0.05	サスカイト	c3+b2	上端折損、端径:上1.45mm/下0.40mm. 使用痕長:11.20mm.
195	1211	C	石針	SHC479a	16.00	2.5			不明		
196	1212	A	石針	SHA90	(12.00)	1.75		0.07	サスカイト	c3+dp.	上端折損、端径:上1.50mm/下1.30mm. 使用痕長:1.90mm.
196	1213	B	石針	SHB138	(13.00)	2.30		0.12	サスカイト	b2+dp.	上端折損、端径:上2.30mm/下2.00mm. 使用痕長:0.30mm.
196	1214	B	石針	SHC138	7.10	2.0		0.03	サスカイト	b2+dp./c2	端径:上1.40mm/下1.40mm. 使用痕長: 上1.05mm/下0.20mm.
196	1215	B	石針	SHB138	(7.50)	1.8		0.03	サスカイト		両端折損、端径:上1.75mm/下1.55mm. 使用痕長:3.30mm.
196	1216	B	石針	SHB139	(4.30)	2.55		0.04	サスカイト		両端折損、端径:上2.50mm/下2.50mm.
196	1217	B	石針	SHB140	(5.85)	1.50		0.02	サスカイト	a2+b1	上端折損、端径:上1.50mm/下0.80mm. 使用痕長:0.10mm.
196	1218	B	石針	SHB146	(6.15)	1.35		0.02	サスカイト	c2	上端折損、端径:上1.35mm/下1.30mm. 使用痕長:0.30mm.
196	1219	B	石針	SHB146	(4.80)	1.30		0.02	サスカイト	c2	上端折損、端径:上1.25mm/下1.30mm. 使用痕長:0.35mm.
196	1220	B	石針	SHB147	(8.40)	1.60		0.04	サスカイト	c2	上端折損、端径:上1.60mm/下1.60mm. 使用痕長:0.20mm.
196	1221	B	石針	SHB147	(6.35)	1.8		0.04	サスカイト		両端折損、端径:上1.75mm/下1.65mm.
196	1222	B	石針	SHB147	(5.85)	1.35		0.02	サスカイト		両端折損、端径:上1.30mm/下1.30mm.
196	1223	B	石針	SHB149	(8.50)	1.55		0.04	サスカイト	c3?	上端折損、端径:上1.50mm/下1.50mm. 使用痕長:4.65mm. 下面に擦痕(使用痕 なし).
196	1224	B	石針	SHB149	(14.65)	2.20		0.10	サスカイト		両端折損、端径:上2.10mm/下1.75mm.
196	1225	B	石針	SHB149	(6.80)	1.30		0.52	サスカイト		両端折損、端径:上1.30mm/下1.20mm.
196	1226	B	石針	SHB152	(10.20)	1.7		0.06	サスカイト	c3?	両端折損、端径:上1.70mm/下1.60mm. 使用痕長:5.80mm.
196	1227	B	石針	SHB152	(8.70)	1.4		0.03	サスカイト		上端折損、端径:上1.40mm/下1.30mm. 下面に擦痕(使用痕なし).
196	1228	B	石針	SHB529	(4.90)	1.2		0.01	サスカイト	b2	上端折損、端径:上1.15mm/下1.05mm. 使用痕長:0.40mm.
196	1229	B	石針	SHB706	(7.65)	1.50		0.02	サスカイト		上端折損、端径:上1.50mm/下1.15mm. 使用痕長:5.10mm. 下面に擦痕.
196	1230	B	石針	SHB742	7.25	1.85		0.04	サスカイト	b2+dp./b3	端径:上1.50mm/下1.60mm. 使用痕長: 上0.20mm/下2.95mm.
196	1231	B	未成品	SHB149	7.5	1.5	1.5	0.03	瑪瑙		7角柱. 研磨痕6面
196	1232	B	未成品	SHB138	25.30	5.80	3.30	0.01	サスカイト		
196	1233	B	未成品	SHB138	15.0	5.5	3.0	0.58	サスカイト	II (a+c)+p.	研磨痕3面

観 察 表

196	1234	B	未成品	SHB139	38.50	6.5	3.50	1.42	サカイト	I d	
196	1235	B	未成品	SHB146	17.0	6.5	3.0	0.33	サカイト	I (a+c)	先端部・基部折損
196	1236	B	未成品	SHB148	27.0	9.0	3.5	1.21	サカイト	I c	先端部折損
196	1237	B	石針	SHB149 (SKB436)	(23.50)	5.2	4.5	0.92	サカイト		両端折損、端径:上4.00mm/下4.75mm. 使用痕長8.25mm. 管玉の穿孔以外に使用した可能性.
196	1238	B	未成品	SHB146	40.0	11.0	8.0	3.73	サカイト	IVd	先端部折損
196	1239	B	未成品	SHB149	18.0	6.6	4.0	0.44	サカイト	II d	
196	1240	B	未成品	SHB341	23.0	10.0	6.5	1.79	サカイト		先端部折損
196	1241	B	未成品	SHB528 (SKB845)	28.5	10.0	3.50	1.40	サカイト	II (a+c)	
196	1242	B	未成品	SHB542	23.5	11.5	5.5	1.17	サカイト	II (c+d)	基部折損
196	1243	B	未成品	SHB667	28.0	6.5	5.0	1.28	サカイト	I (c+d)	基部折損
196	1244	B	未成品	SHB690 (SKB846)	21.0	11.5	5.5	1.01	サカイト	II d	
196	1245	B	未成品	SHB691	36.0	10.5	5.50	3.08	サカイト	II c	自然面あり
196	1246	B	未成品	SHB706	33.0	6.0	5.0	1.18	サカイト	I d	先端部折損
196	1247	B	未成品	SHB709	23.0	8.5	3.5	0.99	サカイト	I c	先端部・基部折損
196	1248	B	未成品	SHB709	23.0	6.5	4.0	0.70	サカイト	I c	
196	1249	B	未成品	SKB450	51.0	9.0	5.0	2.25	サカイト	I c	先端部折損
196	1250	B	未成品	SKB712	41.0	9.0	8.0	3.28	サカイト	IV (c+d)	先端部折損
197	1251	C	未成品	SHC92	26.0	8.0	6.0	1.53	サカイト	I (b+d)	先端部折損
197	1252	C	未成品	SHC167	17.0	9.0	6.5	1.41	サカイト	V c+p.	研磨痕1面
197	1253	C	石針	SHC167	10.85	1.65			サカイト		端径:上1.55mm/下1.30mm. 使用痕長:4.70mm.
197	1254	C	石針	SHC168	(13.40)	1.60			サカイト		上端折損、端径:上1.60mm/下1.40mm. 使用痕長:12.65mm.
197	1255	C	石針	SHC168	10.65	1.60		0.05	サカイト	c3+dp./ c3+dp.	端径:上1.60mm/下1.40mm. 使用痕長: 上4.20mm/下2.90mm.
197	1256	C	石針	SHC168	6.75	1.65		0.03	サカイト	c3+dp./ b3+dp.	端径:上1.50mm/下1.10mm. 使用痕長: 上1.00mm/下0.75mm.
197	1257	C	石針	SHC168	(5.35)	1.5		0.02	サカイト	c2	上端折損、端径:上1.40mm/下1.40mm. 使用痕長:0.40mm.
197	1258	C	石針	SHC168	(5.30)	1.4		0.03	サカイト	c3+b2+dp.	上端折損、端径:上1.60mm/下0.65mm. 使用痕長:5.30mm.
197	1259	C	石針	SHC169	8.20	2.15		0.07	サカイト	c1+dp./b3	端径:上1.85mm/下1.75mm. 使用痕長: 上1.90mm/下1.80mm.
197	1260	C	石針	SHC450	(9.40)	2.15		0.08	サカイト	c3?	両端折損、端径:上2.05mm/下2.10mm. 使用痕長:2.20mm.
197	1261	C	未成品	SHC450	24.4	9.0	4.0	0.98	サカイト	V (a+c)	先端部折損下部側面に擦痕.
197	1262	C	未成品	SHC460	11.5	5.0	3.0	0.17	サカイト	I (b+d)	
197	1263	C	未成品	SHC460	22.5	6.5	2.50	0.35	サカイト	II c+le.	
197	1264	C	石針	SHC487	(15.35)	2.00		0.08	サカイト	c2	上端折損、端径:上2.00mm/下1.15mm. 使用痕長:0.20mm.
197	1265	C	石針	SHC487	(18.85)	2.10		0.16	サカイト		両端折損、端径:上2.10mm/下1.80mm.
197	1266	C	石針	SHC460	(13.25)	1.7		0.06	サカイト		両端折損、端径:上1.60mm/下1.45mm.
197	1267	C	石針	SHC460	(12.10)	1.3		0.03	サカイト	c1	上端折損、端径:上1.25mm/下1.00mm. 使用痕長:0.20mm.
197	1268	C	石針	SHC460	(11.30)	1.60		0.05	サカイト	b3+dp.	上端折損、端径:上1.60mm/下1.55mm. 使用痕長:6.60mm.
197	1269	C	石針	SHC460	(6.25)	1.1		0.01	サカイト	c3+dp.	上端折損、端径:上1.05mm/下0.85mm. 使用痕長:2.60mm.
197	1270	C	石針	SHC460	(5.50)	1.6		0.02	サカイト	b2+dp.	上端折損、端径:上1.55mm/下1.35mm. 使用痕長:0.45mm.
197	1271	C	未成品	SHC487	28.0	10.0	5.0	1.53	サカイト	II c	
197	1272	C	未成品	SHC487	15.0	6.5	3.0	0.35	サカイト	II d	上端折損
197	1273	C	未成品	SHC492	30.0	4.0	4.0	0.62	サカイト	I d+p.	研磨痕1面
197	1274	C	石針	SHC492	9.05	1.6		0.02	サカイト	c4	端径:上1.50mm/下1.30mm. 使用痕長: 5.60mm. 上面に擦痕(使用痕なし).
197	1275	C	石針	SHC492	9.60	2.30		0.09	サカイト	c3+c2+dp.	端径:上2.00mm/下1.30mm. 使用痕長: 1.90mm. c3-c2間に溝1条. 上面に擦痕 (使用痕なし).
197	1276	C	石針	SHC492	(7.70)	2.5		0.07	サカイト	c3+dp.	上端折損、端径:上2.00mm/下2.05mm. 使用痕長:1.95mm.
197	1277	C	未成品	SHC571	22.0	7.0	3.5	0.70	サカイト	V a	

197	1278	C	石針	SHC571	(11.85)	2.9		0.08	サスカイト	c1+dp.	上端折損、端径:上2.85mm/下2.65mm. 使用痕長:0.40mm.
197	1279	C	石針	SHC571	(6.55)	1.4		0.02	サスカイト	b3+dp.	上端折損、端径:上1.20mm/下1.35mm. 使用痕長:1.20mm.
197	1280	C	未成品?	SHC571	5.3	3.5	2.8	0.09	サスカイト?	12角形p12	上端折損下面摩耗.管玉未成品?
197	1281	C	未成品	SHC571	12.5	5.5	2.0	0.16	サスカイト	II a	先端部一部自然面あり
197	1282	C	未成品	SHC571	12.0	4.0	2.5	0.08	サスカイト	I b	上端折損
197	1283	D	石針	SHD23	(9.10)	1.5		0.03	サスカイト	c3	上端折損、端径:上1.45mm/下1.35mm. 使用痕長:6.20mm.
197	1284	D	石針	SHD23	(9.10)	1.45		0.03	サスカイト	c3	上端折損、端径:上1.35mm/下1.30mm. 使用痕長:2.50mm.
197	1285	D	石針	SHD23	(7.10)	1.30		0.02	サスカイト	c1	上端折損、端径:上1.30mm/下1.30mm. 使用痕長:0.20mm.
197	1286	D	石針	SHD23	(6.50)	1.40		0.02	サスカイト	c3+dp.	上端折損、端径:上1.40mm/下1.35mm. 使用痕長:6.55mm.
197	1287	D	石針	SHD23	(6.30)	2.3		0.04	サスカイト	c2	上端折損、端径:上1.95mm/下1.90mm. 使用痕長:0.40mm.
197	1288	D	石針	SHD23	6.40	1.20		0.02	サスカイト	b1/b3+dp.	端径:上1.20mm/下0.95mm. 使用痕長:上0.35mm/下4.25mm.
197	1289	D	石針	SHD23	(5.50)	1.4		0.02	サスカイト	x	上端折損、端径:上1.35mm/下1.20mm. 使用痕長:1.75mm.
197	1290	D	石針	SHD23	(16.45)	3.1		0.22	サスカイト		両端折損、端径:上2.75mm/下2.30mm.
197	1291	D	石針	SHD23	(8.60)	1.50		0.03	サスカイト		両端折損、端径:上1.50mm/下1.30mm.
197	1292	D	石針	SHD23	(7.05)	2.10		0.06	サスカイト		両端折損、端径:上2.10mm/下2.05mm.
197	1293	D	未成品	SHD39	16.0	3.0	3.5	0.17	サスカイト	6角形p6	研磨痕6面
197	1294	D	石針	SHD39	(9.50)	1.30		0.04	サスカイト	c3	上端折損、端径:上1.20mm/下1.30mm. 使用痕長:4.10mm.
197	1295	D	石針	SHD46	(25.20)	2.1		0.17	サスカイト		下端折損、端径:上1.70mm/下1.70mm. 上面に擦痕.
197	1296	A	石針	SKA102	(8.00)	1.6		0.03	サスカイト	b4	上端折損、端径:上1.50mm/下0.60mm. 使用痕長:3.50mm.
197	1297	A	石針	SKA106	3.1	1.8		0.02	サスカイト		両端折損、端径:上1.80mm/下1.80mm.
197	1298	C	石針	SKC75	4.2	1.7		0.02	サスカイト	c3/c1+dp.	端径:上1.70mm/下1.60mm. 使用痕長:4.20mm.
197	1299	C	石針	SKC75	(8.00)	1.2		0.02	サスカイト		両端折損、端径:上1.20mm/下1.10mm.
197	1300	D	未成品	SHD23	14.0	3.5	3.5	0.15	サスカイト	I d	上端折損
197	1301	D	未成品	SHD23	21.0	5.0	4.00	0.28	サスカイト	V (c+d)	
197	1302	C	未成品	SKC75	23.0	7.0	3.5	0.54	サスカイト	II a'	
197	1303	C	未成品	SKC75	24.50	9.0	6.0	0.91	サスカイト	V d	
197	1304	C	未成品	SKC75	9.5	4.0	3.0	0.16	サスカイト	I d	
197	1305	C	未成品	SKC477	17.0	6.5	3.0	0.37	サスカイト	I (b+d)	上端折損
197	1306	C	未成品	SKC484	16.0	4.0	2.50	0.24	サスカイト	I a	
197	1307	A	未成品	SDA59-3区	35.0	7.0	5.0	1.66	サスカイト	III c+p.	研磨痕2面
197	1308	A	未成品	SDA59	30.0	6.5	5.5	0.99	サスカイト	III (c+d)	
197	1309	A	未成品	SDA63西溝	33.0	4.0	3.5	0.89	サスカイト	7角形p7	研磨痕7面
197	1310	A	未成品	包含層	43.0	14.0	7.5	4.82	サスカイト	V (c+d)	自然面あり
197	1311	B	未成品	包含層	27.50	11.0	6.0	2.12	サスカイト	I b+le.	先端部・基部折損、未調整面・自然面あり
197	1312	B	未成品	包含層	18.0	10.0	4.25	0.52	サスカイト	II d'	基部折損
197	1313	C	石針	包含層	(27.80)	2.30		0.27	サスカイト		両端折損、端径:上2.20mm/下2.15mm.
u. i. 1	A	未成品	SHA74	19.5	12.6	4.2	1.33	サスカイト	I a		
u. i. 2	A	未成品	SHA74	9.0	3.6	3.2	0.12	サスカイト	I a	折損	
u. i. 3	A	未成品	SHA74	19.1	6.6	3.3	0.54	サスカイト	I a		
u. i. 4	A	未成品	SHA74	8.5	4.2	2.4	0.13	サスカイト	I a		
u. i. 5	A	未成品	SHA74	24.1	9.2	4.5	1.25	サスカイト	I a+le.	未調整面・自然面(一部)あり	
u. i. 6	A	未成品	SHA74	12.4	6.1	3.2	0.26	サスカイト	I a+le.	未調整面あり	
u. i. 7	A	未成品	SHA74	11.5	4.4	3.1	0.19	サスカイト	I a+le.	未調整面あり	
u. i. 8	A	未成品	SHA74	10.3	4.3	2.7	0.14	サスカイト	I a+le.	未調整面あり	
u. i. 9	A	未成品	SHA74	19.2	8.3	2.2	0.43	サスカイト	I a+le.	未調整面あり	
u. i. 10	A	未成品	SHA74	13.7	3.3	2.0	0.12	サスカイト	I a+le.	未調整面あり	
u. i. 11	A	未成品	SHA74	8.1	7.5	4.1	0.37	サスカイト	I a'		

観 察 表

u. i. 12	A	未成品	SHA74	16.1	6.4	3.1	0.40	サスカイ	I a'+le.	未調整面あり
u. i. 13	A	未成品	SHA74	23.4	12.0	4.0	1.80	サスカイ	I c+le.	未調整面あり
u. i. 14	A	未成品	SHA74	21.1	10.8	6.0	1.40	サスカイ	I c+le.	未調整面あり
u. i. 15	A	未成品	SHA74	20.9	9.1	6.3	1.36	サスカイ	I c+le.	未調整面あり
u. i. 16	A	未成品	SHA74	23.7	8.2	5.9	1.60	サスカイ	I c+le.	未調整面あり
u. i. 17	A	未成品	SHA74	17.9	9.3	6.1	1.08	サスカイ	I c+le.	未調整面あり
u. i. 18	A	未成品	SHA74	13.8	8.2	7.6	0.94	サスカイ	I (a+c)	
u. i. 19	A	未成品	SHA74	12.0	8.8	3.3	0.33	サスカイ	I (a+c)	
u. i. 20	A	未成品	SHA74	11.9	7.2	1.6	0.12	サスカイ	II a	
u. i. 21	A	未成品	SHA74	22.4	7.0	5.1	1.07	サスカイ	II a	
u. i. 22	A	未成品	SHA74	16.2	6.7	4.2	0.38	サスカイ	II a+le.	未調整面あり
u. i. 23	A	未成品	SHA74	17.0	4.2	2.7	0.28	サスカイ	II a+le.	未調整面あり
u. i. 24	A	未成品	SHA74	17.7	9.2	2.4	0.39	サスカイ	II a+le.	未調整面あり
u. i. 25	A	未成品	SHA74	24.6	10.3	4.0	1.18	サスカイ	II c	
u. i. 26	A	未成品	SHA74	23.4	8.5	5.0	0.86	サスカイ	II c+le.	未調整面あり
u. i. 27	A	未成品	SHA74	21.4	8.8	4.0	0.91	サスカイ	III (c+d)	自然面あり
u. i. 28	A	未成品	SHA74 (P109)	19.7	13.9	4.5	1.20	サスカイ	V a+le.	未調整面・自然面あり
u. i. 29	A	未成品	SHA74	31.4	13.8	5.8	2.74	サスカイ	V c+le.	未調整面あり
u. i. 30	A	未成品	SHA74	36.2	10.6	6.5	1.93	サスカイ	V (a+c)	
u. i. 31	A	未成品	SHA74	18.6	13.7	5.3	1.43	サスカイ	V (a+c)	
u. i. 32	A	未成品	SHA74	19.9	7.0	5.0	0.96	サスカイ	4角形	施溝分割痕・調整剥離なし、自然面あり
u. i. 33	A	未成品	SHA74	7.3	3.9	1.8	0.10	サスカイ	4角形	施溝分割痕・調整剥離なし
u. i. 34	A	石針	SHA90	(6.40)	1.50		0.02	サスカイ	a2	上端折損、端径:上1.50mm/下1.40mm. 使用痕長:0.10mm.
u. i. 35	A	石針	SHA90	(6.00)	1.50		0.02	サスカイ	a2	上端折損、端径:上1.50mm/下1.40mm. 使用痕長:0.10mm.
u. i. 36	A	石針	SHA90	(7.50)	1.50		0.03	サスカイ	b1	上端折損、端径:上1.50mm/下1.30mm. 使用痕長:0.20mm.
u. i. 37	A	石針	SHA90	(7.00)	2.00		0.04	サスカイ	b1	上端折損、端径上2.00mm/下1.75mm. 使用痕長:0.30mm
u. i. 38	A	石針	SHA90	(8.00)	1.40		0.03	サスカイ	b1	上端折損、端径:上1.40mm/下1.35mm. 使用痕長:0.20mm.
u. i. 39	A	石針	SHA90	(4.60)	1.30		0.02	サスカイ	b1	上端折損、端径:上1.25mm/下1.30mm. 使用痕長:0.30mm.
u. i. 40	A	石針	SHA90	6.10	1.45		0.03	サスカイ	b1/b2+dp.	端径:上1.30mm/下1.45mm. 使用痕長: 上0.30mm/下0.30mm.
u. i. 41	A	石針	SHA90	4.90	1.90		0.03	サスカイ	b1/c2+c1	端径:上1.80mm/下1.60mm. 使用痕長: 上0.20mm/下0.20mm.
u. i. 42	A	石針	SHA90	(6.30)	1.40		0.02	サスカイ	b1+dp.	上端折損、端径:上1.50mm/下1.35mm. 使用痕長:0.20mm.
u. i. 43	A	石針	SHA90	(3.60)	1.35		0.01	サスカイ	b1+dp.	上端折損、端径:上1.35mm/下1.20mm. 使用痕長:0.20mm.
u. i. 44	A	石針	SHA90	(6.90)	1.70		0.03	サスカイ	b1+dp.	上端折損、端径:上1.65mm/下1.40mm. 使用痕長:0.30mm.
u. i. 45	A	石針	SHA90	(4.50)	1.30		0.02	サスカイ	b1+dp.	上端折損、端径:上1.25mm/下1.30mm. 使用痕長:0.20mm.
u. i. 46	A	石針	SHA90	8.20	1.60		0.04	サスカイ	b1+dp./c3	端径:上1.50mm/下1.60mm. 使用痕長: 上0.30mm/下2.20mm.
u. i. 47	A	石針	SHA90	(5.20)	1.80		0.03	サスカイ	b2	上端折損、端径:上1.80mm/下1.60mm. 使用痕長:0.40mm
u. i. 48	A	石針	SHA90	(7.50)	1.50		0.03	サスカイ	b2	上端折損、端径:上1.50mm/下1.20mm. 使用痕長:0.20mm.
u. i. 49	A	石針	SHA90	7.70	1.50		0.03	サスカイ	b2/c3+b2	端径:上1.50mm/下1.30mm. 使用痕長: 上0.30mm/下1.90mm.
u. i. 50	A	石針	SHA90	(5.30)	1.85		0.02	サスカイ	b2+dp.	上端折損、端径:上1.80mm/下1.75mm. 使用痕長:1.30mm.
u. i. 51	A	石針	SHA90	(6.50)	1.60		0.03	サスカイ	b2+dp.	上端折損、端径:上1.50mm/下1.30mm. 使用痕長:0.70mm.
u. i. 52	A	石針	SHA90	5.30	1.90		0.04	サスカイ	b2+dp./c3	端径:上1.90mm/下1.70mm. 使用痕 長:5.30mm.
u. i. 53	A	石針	SHA90	7.90	1.70		0.04	サスカイ	b2+dp./ c3+dp.	端径:上1.70mm/下1.50mm. 使用痕長: 上0.40mm/下5.20mm.
u. i. 54	A	石針	SHA90	(8.80)	1.40		0.03	サスカイ	b3	上端折損、端径:上1.40mm/下1.30mm. 使用痕長:1.20mm.

u. i. 55	A	石針	SHA90	(3.60)	1.90		0.02	サスカイト	b3	上端折損、端径上1.90mm/下1.65mm。使用痕長:0.90mm
u. i. 56	A	石針	SHA90	(6.40)	1.70		0.03	サスカイト	b3	上端折損、端径:上1.70mm/下1.65mm。使用痕長:1.30mm。
u. i. 57	A	石針	SHA90	5.70	1.50		0.03	サスカイト	b3/c2	端径:上1.30mm/下1.40mm。使用痕長:上1.90mm/下0.90mm。
u. i. 58	A	石針	SHA90	(5.20)	1.60		0.02	サスカイト	b3+dp.	上端折損、端径:上1.60mm/下1.40mm。使用痕長:4.80mm
u. i. 59	A	石針	SHA90	(8.10)	1.65		0.04	サスカイト	b3+dp.	上端折損、端径:上1.65mm/下1.40mm。使用痕長:1.70mm
u. i. 60	A	石針	SHA90	(5.40)	1.70		0.03	サスカイト	b3+dp.	上端折損、端径:上1.65mm/下1.60mm。使用痕長:0.90mm。
u. i. 61	A	石針	SHA90	(5.00)	2.00		0.03	サスカイト	b3+dp.	上端折損、端径:上2.05mm/下1.60mm。使用痕長:1.40mm。
u. i. 62	A	石針	SHA90	(10.20)	1.20		0.01	サスカイト	b4+dp.	上端折損、端径:上1.20mm/下1.10mm。使用痕長:3.50mm。
u. i. 63	A	石針	SHA90	(6.80)	1.60		0.02	サスカイト	c1	上端折損、端径:上1.50mm/下1.60mm。使用痕長:0.20mm
u. i. 64	A	石針	SHA90	(6.20)	1.70		0.03	サスカイト	c1	上端折損、端径:上1.60mm/下1.55mm。使用痕長:0.20mm。
u. i. 65	A	石針	SHA90	(3.60)	1.70		0.02	サスカイト	c1	上端折損、端径:上1.70mm/下1.60mm。使用痕長:0.20mm。
u. i. 66	A	石針	SHA90	(6.20)	1.90		0.04	サスカイト	c1	上端折損、端径:上1.85mm/下1.65mm。使用痕長:0.20mm。
u. i. 67	A	石針	SHA90	(6.20)	1.60		0.02	サスカイト	c1	上端折損、端径:上1.50mm/下1.40mm。使用痕長:0.20mm。
u. i. 68	A	石針	SHA90	(7.25)	1.70		0.03	サスカイト	c2	上端折損、端径:上1.70mm/下1.55mm。使用痕長:0.30mm。
u. i. 69	A	石針	SHA90	(5.20)	1.90		0.03	サスカイト	c2	上端折損、端径:上1.85mm/下1.70mm。
u. i. 70	A	石針	SHA90	(6.80)	1.65		0.03	サスカイト	c2	上端折損、端径:上1.50mm/下1.60mm。使用痕長:0.20mm
u. i. 71	A	石針	SHA90	(5.80)	1.70		0.02	サスカイト	c2	上端折損、端径:上1.70mm/下1.60mm。使用痕長:0.30mm。
u. i. 72	A	石針	SHA90	8.30	1.60		0.04	サスカイト	c2	端径:上1.60mm/下1.45mm。下面使用痕長0.30mm。上面に擦痕(使用痕なし)。
u. i. 73	A	石針	SHA90	(9.10)	1.30		0.03	サスカイト	c2	下端折損、端径:上1.20mm/下1.30mm。使用痕長:0.30mm。
u. i. 74	A	石針	SHA90	(4.60)	1.50		0.02	サスカイト	c2	上端折損、端径:上1.50mm/下1.40mm。使用痕長:0.20mm。
u. i. 75	A	石針	SHA90	5.80	1.45		0.02	サスカイト	c2/c3+c2	端径:上1.45mm/下0.20mm。使用痕長:上0.20mm/下3.30mm。
u. i. 76	A	石針	SHA90	(3.80)	1.90		0.02	サスカイト	c2+dp.	上端折損、端径上1.90mm/下1.75mm。使用痕長:0.20mm。
u. i. 77	A	石針	SHA90	(6.90)	2.10		0.04	サスカイト	c2+dp.	上端折損、端径:上2.10mm/下2.00mm。使用痕長:0.60mm。
u. i. 78	A	石針	SHA90	(4.50)	1.40		0.02	サスカイト	c2+dp.	上端折損、端径:上1.35mm/下1.20mm。使用痕長:0.20mm。
u. i. 79	A	石針	SHA90	(5.40)	1.40		0.02	サスカイト	c2+dp.	上端折損、端径:上1.30mm/下1.20mm。使用痕長:0.20mm。
u. i. 80	A	石針	SHA90	(5.90)	1.60		0.02	サスカイト	c2+dp.	上端折損、端径:上1.50mm/下1.30mm。使用痕長:0.30mm。
u. i. 81	A	石針	SHA90	(6.10)	1.30		0.02	サスカイト	c3	上端折損、端径:上1.30mm/下1.30mm。使用痕長:3.20mm。
u. i. 82	A	石針	SHA90	(6.30)	1.40		0.03	サスカイト	c3	上端折損、端径:上1.40mm/下1.15mm。使用痕長:5.30mm。
u. i. 83	A	石針	SHA90	(4.60)	1.45		0.01	サスカイト	c3	上端折損、端径:上1.45mm/下1.40mm。使用痕長:1.70mm。
u. i. 84	A	石針	SHA90	(7.80)	1.50		0.03	サスカイト	c3	上端折損、端径:上1.45mm/下1.20mm。使用痕長:7.80mm。
u. i. 85	A	石針	SHA90	(5.90)	1.90		0.04	サスカイト	c3	上端折損、端径:上1.90mm/下1.65mm。使用痕長:1.80mm。やや白色味強い。
u. i. 86	A	石針	SHA90	(6.80)	1.55		0.03	サスカイト	c3	上端折損、端径:上1.50mm/下1.40mm。使用痕長:6.80mm以上。
u. i. 87	A	石針	SHA90	(4.60)	1.50		0.03	サスカイト	c3	上端折損、端径:上1.50mm/下1.50mm。使用痕長:3.10mm。
u. i. 88	A	石針	SHA90	(7.40)	1.40		0.03	サスカイト	c3?	両端折損、端径:上1.40mm/下1.30mm。使用痕長:4.50mm以上。
u. i. 89	A	石針	SHA90	(6.00)	1.30		0.02	サスカイト	c3?	両端折損、端径:上1.30mm/下1.20mm。使用痕長:6.00mm以上。

観 察 表

u. i. 90	A	石針	SHA90	(6.80)	1.75		0.03	サスカイト	c3?	両端折損、端径:上1.75mm/下1.25mm。 使用痕長:4.50mm以上。
u. i. 91	A	石針	SHA90	6.10	1.65		0.04	サスカイト	c3/c1	端径:上1.65mm/下1.60mm。使用痕長: 上2.40mm/下0.20mm。
u. i. 92	A	石針	SHA90	(4.60)	1.50		0.02	サスカイト	c3+dp.	上端折損、端径:上1.50mm/下1.45mm。 使用痕長:3.40mm。
u. i. 93	A	石針	SHA90	(3.00)	1.30		0.01	サスカイト	c3+dp.	上端折損、端径:上1.20mm/下1.30mm。 使用痕長:2.30mm。
u. i. 94	A	石針	SHA90	(6.60)	1.20		0.02	サスカイト	c3+dp.	上端折損、端径:上1.20mm/下1.10mm。 使用痕長:1.80mm。
u. i. 95	A	石針	SHA90	(4.50)	1.40		0.01	サスカイト	c3+dp.	上端折損、端径:上1.30mm/下1.30mm。 使用痕長:3.60mm。
u. i. 96	A	石針	SHA90	(8.30)	1.30		0.03	サスカイト	b4+b1	上端折損、端径:上1.30mm/下0.40mm。 使用痕長:3.50mm。
u. i. 97	A	石針	SHA90	(9.20)	1.20		0.03	サスカイト	c3+a2	上端折損、端径:上1.20mm/下0.30mm。 使用痕長:5.40mm。
u. i. 98	A	石針	SHA90	(4.40)	1.50		0.02	サスカイト	c3+b1	上端折損、端径:上1.50mm/下1.45mm。 使用痕長:4.00mm以上。
u. i. 99	A	石針	SHA90	(3.80)	1.20		0.01	サスカイト	c3+b1	上端折損、端径:上1.20mm/下1.20mm。 使用痕長:1.90mm。
u. i. 100	A	石針	SHA90	(4.00)	1.45		0.01	サスカイト	c3+b1	上端折損、端径:上1.35mm/下1.40mm。 使用痕長:4.00mm以上。
u. i. 101	A	石針	SHA90	(4.60)	1.35		0.01	サスカイト	c3+b1	上端折損、端径:上1.35mm/下1.20mm。 使用痕長:4.60mm。
u. i. 102	A	石針	SHA90	(6.60)	1.50		0.03	サスカイト	c3+b2	上端折損、端径:上1.50mm/下0.15mm。 使用痕長:3.90mm。
u. i. 103	A	石針	SHA90	(5.50)	1.60		0.02	サスカイト	c3+c1	上端折損、端径:上1.55mm/下1.40mm。 使用痕長:2.50mm。
u. i. 104	A	石針	SHA90	(6.50)	1.50		0.02	サスカイト	c3+c1	上端折損、端径:上1.50mm/下1.35mm。 使用痕長:3.10mm。
u. i. 105	A	石針	SHA90	(5.20)	1.70		0.03	サスカイト	c3+c2	上端折損、端径:上1.70mm/下0.10mm。 使用痕長:5.20mm。
u. i. 106	A	石針	SHA90	(13.10)	2.00		0.09	サスカイト		両端折損、端径:上2.00mm/下1.90mm。
u. i. 107	A	石針	SHA90	(7.60)	1.10		0.02	サスカイト		両端折損、端径:上1.10mm/下1.10mm。
u. i. 108	A	石針	SHA90	(9.50)	1.40		0.04	サスカイト		両端折損、端径:上1.40mm/下1.30mm。
u. i. 109	A	石針	SHA90	(6.10)	1.50		0.02	サスカイト		両端折損、端径:上1.50mm/下1.50mm。
u. i. 110	A	石針	SHA90	(6.55)	1.40		0.02	サスカイト		両端折損、端径:上1.40mm/下1.30mm。
u. i. 111	A	石針	SHA90	(12.60)	1.80		0.06	サスカイト		両端折損、端径:上1.80mm/下1.40mm。
u. i. 112	A	石針	SHA90	(7.70)	1.80		0.04	サスカイト		両端折損、端径:上1.80mm/下1.60mm。
u. i. 113	A	石針	SHA90	(6.40)	1.90		0.03	サスカイト		両端折損、端径:上1.80mm/下1.90mm。
u. i. 114	A	石針	SHA90	(7.15)	1.70		0.04	サスカイト		上端折損、端径:上1.70mm/下1.60mm。 下面に擦痕(使用痕なし)。
u. i. 115	A	石針	SHA90	(7.40)	1.80		0.04	サスカイト		両端折損、端径:上1.75mm/下1.60mm。
u. i. 116	A	石針	SHA90	(6.10)	1.80		0.04	サスカイト		両端折損、端径:上1.80mm/下1.65mm。
u. i. 117	A	石針	SHA90	(5.40)	1.90		0.03	サスカイト		両端折損、端径:上1.90mm/下1.85mm。
u. i. 118	A	石針	SHA90	(5.60)	1.70		0.03	サスカイト		両端折損、端径:上1.70mm/下1.60mm。
u. i. 119	A	石針	SHA90	(5.20)	1.50		0.02	サスカイト		両端折損、端径:上1.40mm/下1.50mm。
u. i. 120	A	石針	SHA90	(7.05)	1.60		0.03	サスカイト		両端折損、端径:上1.60mm/下1.50mm。
u. i. 121	A	石針	SHA90	(6.40)	1.40		0.03	サスカイト		両端折損、端径:上1.40mm/下1.25mm。
u. i. 122	A	石針	SHA90	(5.40)	1.45		0.02	サスカイト		両端折損、端径:上1.30mm/下1.45mm。
u. i. 123	A	石針	SHA90	(6.00)	1.60		0.03	サスカイト		両端折損、端径:上1.50mm/下1.50mm。
u. i. 124	A	石針	SHA90	(6.20)	1.60		0.03	サスカイト		両端折損、端径:上1.60mm/下1.60mm。
u. i. 125	A	石針	SHA90	(3.30)	1.20		0.01	サスカイト		両端折損、端径:上1.15mm/下1.10mm。
u. i. 126	A	石針	SHA90	(2.50)	1.50		0.01	サスカイト		両端折損、端径:上1.50mm/下1.50mm。
u. i. 127	A	石針	SHA90	(6.60)	1.65		0.03	サスカイト		上端折損、端径:上1.65mm/下1.60mm。 下面に擦痕(使用痕なし)。
u. i. 128	A	石針	SHA90	(8.70)	1.60		0.04	サスカイト		上端折損、端径:上1.60mm/下1.50mm。 下面に擦痕(使用痕なし)。
u. i. 129	A	石針	SHA90	(6.00)	1.40		0.02	サスカイト		両端折損、端径:上1.40mm/下1.30mm。
u. i. 130	A	石針	SHA90	(6.30)	1.45		0.02	サスカイト		両端折損、端径:上1.40mm/下1.30mm。
u. i. 131	A	石針	SHA90	(4.60)	1.60		0.02	サスカイト		両端折損、端径:上1.60mm/下1.50mm。
u. i. 132	A	石針	SHA90	(5.20)	1.20		0.02	サスカイト		両端折損、端径:上1.20mm/下1.20mm。
u. i. 133	A	石針	SHA90	(7.10)	1.40		0.03	サスカイト		両端折損、端径:上1.35mm/下1.25mm。
u. i. 134	A	石針	SHA90	(4.90)	1.70		0.03	サスカイト		両端折損、端径:上1.70mm/下1.60mm。
u. i. 135	A	石針	SHA90	(5.30)	1.50		0.02	サスカイト		両端折損、端径:上1.50mm/下1.40mm。

u. i. 136	A	石針	SHA90	(4.70)	2.00		0.03	サスカイト		両端折損、端径:上1.90mm/下2.00mm.
u. i. 137	A	未成品	SHA98	30.0	13.8	7.8	2.57	サスカイト	II a+1e.	未調整面あり
u. i. 138	A	未成品	SHA98	30.10	13.90	7.75	2.57	サスカイト		未調整面・自然面あり、切除部分?
u. i. 139	A	未成品	SHA98	6.5	1.6	1.4	0.03	サスカイト	8角形p8	研磨痕8面
u. i. 140	A	石針	SHA98	(6.50)	1.65		0.04	サスカイト	a2	上端折損、端径:上1.80mm/下1.65mm. 使用痕長:0.10mm.
u. i. 141	B	石針	SHB147	(3.10)	2.50		0.02	サスカイト	b1	上端折損、端径:上2.50mm/下2.40mm. 使用痕長0.2mm.
u. i. 142	B	石針	SHB147	(3.60)	1.6		0.01	サスカイト		両端折損、端径:上1.45mm/下1.55mm.
u. i. 143	B	石針	SHB529	(6.15)	1.80		0.03	サスカイト	c3	上端折損、端径:上1.65mm/下1.65mm. 使用痕長:1.25mm.
u. i. 144	B	石針	SHB529	6.00	1.60		0.03	サスカイト	c3+dp./ c3+dp.	端径:上1.50mm/下1.40mm. 使用痕長: 上2.10mm/下3.00mm.
u. i. 145	C	石針	SHC138	10.55	1.7		0.04	サスカイト	c3+b1+dp.	端径:上1.40mm/下1.45mm. 使用痕 長:4.00mm.
u. i. 146	C	石針	SHC138	(6.85)	1.70		0.03	サスカイト		両端折損、端径:上1.65mm/下1.50mm. 使用痕長:1.25mm.
u. i. 147	C	石針	SHC168	(7.35)	1.6		0.03	サスカイト	c3+dp.	上端折損、端径:上1.50mm/下1.55mm. 使用痕長:7.35mm.
u. i. 148	C	石針	SHC168	(5.45)	1.60			サスカイト		上端折損、端径:上1.60mm/下1.60mm. 使用痕長:5.45mm.
u. i. 149	C	未成品	SHC451	16.2	6.1	3.4	0.43	サスカイト	I a	
u. i. 150	C	未成品	SHC451(P 29・30・ 31)	8.4	3.0	1.4	0.05	サスカイト	I a	
u. i. 151	C	未成品	SHC451	12.9	7.1	3.1	0.33	サスカイト	I a	
u. i. 152	C	未成品	SHC451	13.0	5.3	2.7	0.29	サスカイト	I a'	
u. i. 153	C	未成品	SHC451	16.7	6.1	2.9	0.38	サスカイト	I a'	
u. i. 154	C	未成品	SHC451 (P7)	8.3	4.2	2.9	0.10	サスカイト	I b	
u. i. 155	C	未成品	SHC451 (P7)	17.4	5.5	3.4	0.33	サスカイト	I c	
u. i. 156	C	未成品	SHC451 中央土坑	15.7	6.6	2.6	0.38	サスカイト	I c	
u. i. 157	C	未成品	SHC451 (P6)	10.0	7.8	2.6	0.27	サスカイト	I c	
u. i. 158	C	未成品	SHC451	19.5	11.4	4.0	1.00	サスカイト	I c	
u. i. 159	C	未成品	SHC451	13.9	5.1	2.7	0.26	サスカイト	I c	
u. i. 160	C	未成品	SHC451	20.8	7.3	2.8	0.66	サスカイト	I c	
u. i. 161	C	未成品	SHC451	18.2	6.8	4.4	0.66	サスカイト	I d	
u. i. 162	C	未成品	SHC451	18.7	4.8	3.9	0.43	サスカイト	I d	
u. i. 163	C	未成品	SHC451	12.9	4.9	2.7	0.20	サスカイト	I d	
u. i. 164	C	未成品	SHC451	12.8	4.9	3.5	0.27	サスカイト	I d	
u. i. 165	C	未成品	SHC451	15.4	5.1	3.3	0.30	サスカイト	I d	
u. i. 166	C	未成品	SHC451 (P5)	11.5	4.5	2.8	0.18	サスカイト	I d	
u. i. 167	C	未成品	SHC451	7.6	4.4	2.5	0.12	サスカイト	I d	
u. i. 168	C	未成品	SHC451	17.8	5.1	4.0	0.44	サスカイト	I d	
u. i. 169	C	未成品	SHC451	16.7	5.0	3.8	0.37	サスカイト	I d	
u. i. 170	C	未成品	SHC451 (P7)	9.4	5.8	2.3	0.12	サスカイト	I d	
u. i. 171	C	未成品	SHC451	16.1	5.6	4.4	0.47	サスカイト	I d	
u. i. 172	C	未成品	SHC451	10.9	5.1	3.2	0.22	サスカイト	I d	
u. i. 173	C	未成品	SHC451	10.7	5.0	3.5	0.24	サスカイト	I d	
u. i. 174	C	未成品	SHC451 (P7)	14.8	6.4	4.2	0.45	サスカイト	I d	
u. i. 175	C	未成品	SHC451	18.0	7.8	4.5	0.72	サスカイト	I d	
u. i. 176	C	未成品	SHC451 中央土坑	20.1	8.6	4.6	0.89	サスカイト	I d'	
u. i. 177	C	未成品	SHC451	13.6	6.6	4.9	0.47	サスカイト	I d'	
u. i. 178	C	未成品	SHC451	18.0	5.4	3.0	0.44	サスカイト	I (a+c)	
u. i. 179	C	未成品	SHC451	19.3	7.0	3.1	0.52	サスカイト	I (a+c)	
u. i. 180	C	未成品	SHC451 (P17)	13.3	5.0	2.3	0.23	サスカイト	I (b+d)	
u. i. 181	C	未成品	SHC451	11.3	5.2	3.5	0.26	サスカイト	I (b+d)	



観 察 表

u. i. 182	C	未成品	SHC451 (P35)	13.1	5.0	2.7	0.20	✂	I (b+d)	
u. i. 183	C	未成品	SHC451	14.5	6.7	3.0	0.30	✂	I (b+d)	
u. i. 184	C	未成品	SHC451 中央土坑	13.3	4.1	2.6	0.16	✂	I (c+d)	
u. i. 185	C	未成品	SHC451 中央土坑	16.0	6.0	2.2	0.28	✂	I (c+d)	
u. i. 186	C	未成品	SHC451 (P21)	16.5	7.9	4.7	0.77	✂	I (c+d)	
u. i. 187	C	未成品	SHC451	16.3	10.4	3.1	0.45	✂	II a+le.	未調整面あり
u. i. 188	C	未成品	SHC451 (P5)	13.6	8.3	2.8	0.34	✂	II b	
u. i. 189	C	未成品	SHC451 中央土坑 西北	24.3	11.9	4.3	1.20	✂	II c	錐未成品?
u. i. 190	C	未成品	SHC451 中央土坑	11.0	4.4	2.4	0.11	✂	II c	
u. i. 191	C	未成品	SHC451 (P6)	12.6	7.0	3.1	0.26	✂	II c	
u. i. 192	C	未成品	SHC451 中央土坑 東南	17.2	7.6	3.2	0.43	✂	II c	
u. i. 193	C	未成品	SHC451	9.1	3.1	2.4	0.09	✂	II c+le.	未調整面あり
u. i. 194	C	未成品	SHC451	11.3	4.5	3.2	0.19	✂	II d	
u. i. 195	C	未成品	SHC451	18.0	5.0	2.7	0.19	✂	II (b+d)	
u. i. 196	C	未成品	SHC451	22.2	8.6	3.9	0.80	✂	II (b+d')	
u. i. 197	C	未成品	SHC451	24.4	13.1	6.2	2.08	✂	Vc	
u. i. 198	C	未成品	SHC451	16.7	5.8	3.9	0.46	✂	Vd	
u. i. 199	C	未成品	SHC451 (P21)	12.1	3.6	2.4	0.17	✂	4角形	施溝分割痕・調整剥離なし
u. i. 200	C	未成品	SHC451	12.5	4.5	2.1	0.13	✂	4角形	施溝分割痕・調整剥離なし
u. i. 201	C	未成品	SHC451	8.3	2.8	2.2	0.06	✂	4角形	施溝分割痕・調整剥離なし
u. i. 202	C	未成品	SHC451	12.9	4.8	2.9	0.27	✂	4角形	施溝分割痕・調整剥離なし
u. i. 203	C	未成品	SHC451	11.5	3.8	2.5	0.13	✂	4角形	施溝分割痕・調整剥離なし
u. i. 204	C	未成品	SHC451	12.3	7.8	3.4	0.39	✂	4角形	施溝分割痕・調整剥離なし
u. i. 205	C	未成品	SHC451	8.9	2.6	2.4	0.07	✂	4角形p1	研磨痕1面
u. i. 206	C	石針	SHC451	(6.20)	1.7		0.03	✂	b1	上端折損、端径:上1.55mm/下1.65mm. 使用痕長:0.60mm.
u. i. 207	C	石針	SHC451	(5.30)	1.70		0.03	✂	b1+dp.	上端折損、端径:上1.65mm/下1.55mm. 使用痕長:0.20mm.
u. i. 208	C	石針	SHC451	(6.75)	1.90		0.04	✂	b1+dp.	上端折損、端径:上1.90mm/下1.85mm. 使用痕長:0.70mm.
u. i. 209	C	石針	SHC451	(6.35)	1.9		0.04	✂	b1+dp.	上端折損、端径:上1.85mm/下1.65mm. 使用痕長:0.30mm.
u. i. 210	C	石針	SHC451	7.20	2.00		0.05	✂	b1+dp./b1	端径:上1.95mm/下1.90mm. 使用痕長: 上0.25mm/下0.35mm.
u. i. 211	C	石針	SHC451	(8.75)	2.3		0.06	✂	b2	下端折損、端径:上0.75mm/下1.75mm. 使用痕長:1.55mm.
u. i. 212	C	石針	SHC451	5.70	1.60		0.03	✂	b2	端径:上1.60mm/下1.50mm. 使用痕 長:0.45mm.
u. i. 213	C	石針	SHC451	(6.90)	2.00		0.04	✂	b2	上端折損、端径:上2.00mm/下1.80mm. 使用痕長:0.40mm.
u. i. 214	C	石針	SHC451	8.00	1.6		0.03	✂	b2/c1	端径:上1.55mm/下1.40mm. 使用痕長: 上0.20mm/下0.10mm.
u. i. 215	C	石針	SHC451	(7.00)	1.6		0.03	✂	b3	上端折損、端径:上1.55mm/下1.20mm. 使用痕長:0.90mm.
u. i. 216	C	石針	SHC451 (P25)	(5.25)	2.00		0.04	✂	b3+dp.	上端折損、端径:上2.00mm/下1.80mm. 使用痕長:上1.20mm/下1.80mm.
u. i. 217	C	石針	SHC451	(7.40)	1.50		0.03	✂	b3+dp.	上端折損、端径:上1.50mm/下1.50mm. 使用痕長:5.25mm.
u. i. 218	C	石針	SHC451	(6.00)	1.8		0.03	✂	c1	上端折損、端径:上1.75mm/下1.75mm. 使用痕長:0.35mm.
u. i. 219	C	石針	SHC451	(3.25)	1.20		0.01	✂	c1	上端折損、端径:上1.20mm/下1.05mm.
u. i. 220	C	石針	SHC451	(5.30)	2.00		0.04	✂	c1	上端折損、端径:上2.00mm/下2.00mm.
u. i. 221	C	石針	SHC451 (P25)	(5.20)	1.80		0.03	✂	c1	上端折損、端径:上1.75mm/下1.80mm. 使用痕長:0.70mm.

u. i. 222	C	石針	SHC451	(8.55)	1.8		0.05	サスカイ	c1	上端折損、端径:上1.55mm/下1.75mm。使用痕長:0.40mm。
u. i. 223	C	石針	SHC451 (P4)	(9.75)	2.40		0.06	サスカイ	c1	上端折損、端径:上2.40mm/下1.75mm。使用痕長:0.70mm。
u. i. 224	C	石針	SHC451	(7.10)	1.8		0.05	サスカイ	c1	上端折損、端径:上1.75mm/下1.50mm。使用痕長:0.90mm。
u. i. 225	C	石針	SHC451	6.50	2.20		0.06	サスカイ	c1/c3+dp.	端径:上2.20mm/下2.10mm。使用痕長:0.35mm/4.30mm。
u. i. 226	C	石針	SHC451	(6.10)	2.10		0.04	サスカイ	c1+dp.	上端折損、端径:上2.10mm/下1.75mm。使用痕長:0.70mm。
u. i. 227	C	石針	SHC451	(7.20)	1.60		0.03	サスカイ	c1+dp.	上端折損、端径:上1.60mm/下1.30mm。使用痕長:5.75mm。
u. i. 228	C	石針	SHC451	(10.10)	2.2		0.06	サスカイ	c1+dp.	上端折損、端径:上1.75mm/下2.15mm。使用痕長:0.40mm。
u. i. 229	C	石針	SHC451	(9.65)	2.00		0.07	サスカイ	c1+dp.	上端折損、端径:上2.00mm/下1.90mm。使用痕長:0.60mm。
u. i. 230	C	石針	SHC451	9.15	1.80		0.05	サスカイ	c1/c1	端径:上1.80mm/下1.60mm。使用痕長:上0.30mm/下0.40mm。
u. i. 231	C	石針	SHC451	(6.25)	1.7		0.04	サスカイ	c2	上端折損、端径:上1.65mm/下1.60mm。使用痕長:0.25mm。
u. i. 232	C	石針	SHC451	(9.35)	2.1		0.07	サスカイ	c2	上端折損、端径:上2.00mm/下1.90mm。
u. i. 233	C	石針	SHC451 中央土坑	(5.45)	2.10		0.04	サスカイ	c2	上端折損、端径:上2.10mm/下1.80mm。使用痕長:0.25mm。
u. i. 234	C	石針	SHC451 (P25)	(8.15)	1.7		0.04	サスカイ	c2	上端折損、端径:上1.65mm/下1.65mm。使用痕長:0.20mm。
u. i. 235	C	石針	SHC451	(7.25)	1.70		0.03	サスカイ	c2	下端折損、端径:上1.70mm/下1.55mm。使用痕長:0.25mm。
u. i. 236	C	石針	SHC451	7.65	1.90		0.05	サスカイ	c2	端径:上1.90mm/下1.75mm。使用痕長0.25mm。上面に擦痕(使用痕なし)。
u. i. 237	C	石針	SHC451	9.65	1.8		0.05	サスカイ	c2	端径:上1.60mm/下1.75mm。使用痕長:2.00mm。上面に擦痕(使用痕なし)。
u. i. 238	C	石針	SHC451	(5.70)	2.3		0.05	サスカイ	c2	上端折損、端径:上2.25mm/下2.10mm。使用痕長:0.40mm。
u. i. 239	C	石針	SHC451	(5.90)	1.7		0.03	サスカイ	c2	上端折損、端径:上1.65mm/下1.60mm。使用痕長:0.70mm。
u. i. 240	C	石針	SHC451	(8.05)	2.00		0.05	サスカイ	c2	上端折損、端径:上2.00mm/下1.55mm。使用痕長:1.70mm。
u. i. 241	C	石針	SHC451	(5.55)	1.90		0.04	サスカイ	c2	上端折損、端径:上1.85mm/下1.90mm。使用痕長:0.55mm。
u. i. 242	C	石針	SHC451 (P7)	7.40	1.9		0.04	サスカイ	c2	端径:上1.80mm/下1.50mm。使用痕長:0.30mm。
u. i. 243	C	石針	SHC451	6.60	2.0		0.05	サスカイ	c2/b1	端径:上1.85mm/下1.95mm。使用痕長:上0.20mm/下0.15mm。
u. i. 244	C	石針	SHC451	5.25	1.7		0.02	サスカイ	c2/c3+b1	端径:上1.55mm/下0.70mm。使用痕長:5.25mm。類型「c3/c3+b1」の可能性。
u. i. 245	C	石針	SHC451 (P27・34)	(8.00)	1.4		0.03	サスカイ	c2+dp.	上端折損、端径:上1.35mm/下1.35mm。使用痕長:0.50mm。
u. i. 246	C	石針	SHC451	(6.70)	2.20		0.06	サスカイ	c2+dp.	上端折損、端径:上2.20mm/下1.30mm。使用痕長:1.05mm。
u. i. 247	C	石針	SHC451	(7.35)	1.3		0.02	サスカイ	c3	上端折損、端径:上1.25mm/下1.15mm。使用痕長:3.15mm。
u. i. 248	C	石針	SHC451 中央土坑	(7.80)	1.9		0.04	サスカイ	c3	上端折損、端径:上1.85mm/下1.60mm。使用痕長:3.45mm。
u. i. 249	C	石針	SHC451	(6.60)	2.0		0.04	サスカイ	c3	下端折損、端径:上1.95mm/下1.60mm。使用痕長:6.60mm。
u. i. 250	C	石針	SHC451	(4.75)	1.4		0.02	サスカイ	c3	上端折損、端径:上1.35mm/下1.35mm。使用痕長:1.40mm。
u. i. 251	C	石針	SHC451	(6.30)	1.50		0.03	サスカイ	c3	上端折損、端径:上1.45mm/下1.50mm。使用痕長:6.30mm。
u. i. 252	C	石針	SHC451	(6.35)	2.00		0.05	サスカイ	c3	上端折損、端径:上2.00mm/下1.90mm。使用痕長:2.55mm。
u. i. 253	C	石針	SHC451	(9.90)	2.00		0.05	サスカイ	c3	上端折損、端径:上2.00mm/下1.55mm。使用痕長:9.90mm。
u. i. 254	C	石針	SHC451 (P2)	(6.15)	1.70		0.03	サスカイ	c3	上端折損、端径:上1.70mm/下1.60mm。使用痕長:2.50mm。
u. i. 255	C	石針	SHC451	(4.70)	1.50		0.02	サスカイ	c3	上端折損、端径:上1.50mm/下1.25mm。使用痕長:4.70mm。
u. i. 256	C	石針	SHC451	(7.10)	1.5		0.03	サスカイ	c3	上端折損、端径:上1.35mm/下1.35mm。使用痕長:2.80mm。

観 察 表

u. i. 257	C	石針	SHC451	(7.90)	1.90		0.05	#スカイト	c3	両端折損、端径:上1.90mm/下1.90mm。 使用痕長:4.25mm.
u. i. 258	C	石針	SHC451	(7.55)	1.90		0.04	#スカイト	c3	上端折損、端径:上1.90mm/下1.55mm。 使用痕長:2.15mm.
u. i. 259	C	石針	SHC451	(8.00)	1.6		0.04	#スカイト	c3	上端折損、端径:上1.55mm/下1.35mm。 使用痕長:5.30mm.
u. i. 260	C	石針	SHC451 (P7)	(9.05)	1.8		0.05	#スカイト	c3	上端折損、端径:上1.75mm/下1.70mm。 使用痕長:0.20mm.
u. i. 261	C	石針	SHC451	(7.55)	2.20		0.05	#スカイト	c3	上端折損、端径:上2.05mm/下2.05mm。 使用痕長:7.55mm.
u. i. 262	C	石針	SHC451	(8.40)	1.70		0.04	#スカイト	c3	上端折損、端径:上1.70mm/下1.60mm。 使用痕長:8.40mm.
u. i. 263	C	石針	SHC451	(9.70)	2.30		0.08	#スカイト	c3	上端折損、端径:上2.30mm/下1.95mm。 使用痕長:3.65mm.
u. i. 264	C	石針	SHC451 (P7)	(7.50)	1.80		0.04	#スカイト	c3	下端折損、端径:上1.80mm/下1.70mm。 使用痕長:7.50mm.
u. i. 265	C	石針	SHC451	(5.25)	1.50		0.02	#スカイト	c3	上端折損、端径:上1.50mm/下1.35mm。 使用痕長:5.25mm.
u. i. 266	C	石針	SHC451	(5.75)	1.7		0.02	#スカイト	c3	上端折損、端径:上1.65mm/下1.35mm。 使用痕長:5.75mm.
u. i. 267	C	石針	SHC451	(6.70)	1.60		0.03	#スカイト	c3?	両端折損、端径:上1.55mm/下1.60mm。 使用痕長:6.70mm.
u. i. 268	C	石針	SHC451	(12.60)	2.10		0.09	#スカイト	c3?	両端折損、端径:上1.95mm/下1.85mm。 使用痕長:4.25mm.
u. i. 269	C	石針	SHC451 (P7)	(6.65)	1.60		0.03	#スカイト	c3?	両端折損、端径:上1.60mm/下1.45mm。 使用痕長1.50mm.
u. i. 270	C	石針	SHC451	(5.55)	1.80		0.03	#スカイト	c3?	両端折損、端径:上1.75mm/下1.80mm。 使用痕長:0.90mm.
u. i. 271	C	石針	SHC451	(9.80)	1.70		0.05	#スカイト	c3?	両端折損、端径:上1.70mm/下1.65mm。 使用痕長:5.60mm.
u. i. 272	C	石針	SHC451 (P7)	(9.75)	2.4		0.10	#スカイト	c3?	両端折損、端径:上2.35mm/下2.25mm。 使用痕長:2.35mm.
u. i. 273	C	石針	SHC451	(10.55)	2.00		0.06	#スカイト	c3?	両端折損、端径:上2.00mm/下1.75mm。 使用痕長:3.40mm.
u. i. 274	C	石針	SHC451	(8.55)	1.9		0.04	#スカイト	c3?	両端折損、端径:上1.80mm/下1.80mm。 使用痕長:2.35mm.
u. i. 275	C	石針	SHC451 (P35)	(8.80)	1.90		0.06	#スカイト	c3?	両端折損、端径:上1.75mm/下1.85mm。 上面に擦痕(使用痕なし)。
u. i. 276	C	石針	SHC451	(7.00)	1.60		0.03	#スカイト	c3?	両端折損、端径:上1.60mm/下1.40mm。 使用痕長:7.00mm.
u. i. 277	C	石針	SHC451	(6.45)	1.60		0.02	#スカイト	c3?	両端折損、端径:上1.50mm/下1.60mm。 使用痕長:2.15mm.
u. i. 278	C	石針	SHC451	(10.00)	2.1		0.06	#スカイト	c3?	下端折損、端径:上2.05mm/下1.65mm。 使用痕長:10.00mm.
u. i. 279	C	石針	SHC451	(3.20)	1.70		0.02	#スカイト	c3?	両端折損、端径:上1.70mm/下1.60mm。 使用痕長:3.20mm.
u. i. 280	C	石針	SHC451	(5.70)	1.60		0.02	#スカイト	c3?	両端折損、端径:上1.60mm/下1.30mm。 使用痕長:3.10mm.
u. i. 281	C	石針	SHC451 (P19)	(9.20)	1.9		0.05	#スカイト	c3?	両端折損、端径:上1.85mm/下1.55mm。 使用痕長:9.20mm.
u. i. 282	C	石針	SHC451	(6.50)	1.90		0.04	#スカイト	c3?	両端折損、端径:上1.90mm/下1.75mm。 使用痕長:3.05mm.
u. i. 283	C	石針	SHC451 (P7)	(9.30)	1.70		0.06	#スカイト	c3?/c2	上端折損、端径:上1.60mm/下1.55mm。 使用痕長:上2.90mm/下0.25mm.
u. i. 284	C	石針	SHC451	(8.60)	2.00		0.06	#スカイト	c3?/ c3	上端折損、端径:上2.00mm/下1.90mm。 使用痕長:上1.35mm/下3.70mm.
u. i. 285	C	石針	SHC451	(9.40)	2.1		0.07	#スカイト	c3+dp.	下端折損、端径:上2.05mm/下1.95mm。 使用痕長:4.30mm.
u. i. 286	C	石針	SHC451	(7.80)	1.5		0.03	#スカイト	c3+dp.	上端折損、端径:上1.40mm/下1.45mm。 使用痕長:上1.15mm/下3.25mm.
u. i. 287	C	石針	SHC451	(7.80)	1.7		0.04	#スカイト	c3+dp.	上端折損、端径:上1.65mm/下1.45mm。 使用痕長:0.90mm.
u. i. 288	C	石針	SHC451	(6.55)	2.00		0.03	#スカイト	c3+dp.	上端折損、端径:上2.00mm/下1.50mm。 使用痕長:6.55mm.
u. i. 289	C	石針	SHC451 (P25)	(6.00)	1.70		0.03	#スカイト	c3+dp.	上端折損、端径:上1.70mm/下1.65mm。 使用痕長:6.00mm.
u. i. 290	C	石針	SHC451	(7.05)	1.30		0.02	#スカイト	c3+dp.	上端折損、端径:上1.30mm/下1.20mm。 使用痕長:3.20mm.
u. i. 291	C	石針	SHC451	(7.80)	1.9		0.05	#スカイト	c3+dp.	下端折損、端径:上1.80mm/下1.70mm。 使用痕長:上0.80mm/下3.75mm.

u. i. 292	C	石針	SHC451 中央土坑	(10.25)	1.7		0.05	サカイト	c3+dp.	上端折損、端径:上1.55mm/下1.60mm. 使用痕長:10.25mm.
u. i. 293	C	石針	SHC451 (P35)	(8.00)	2.00		0.05	サカイト	c3+dp.	上端折損、端径:上1.60mm/下1.75mm. 使用痕長:3.30mm.
u. i. 294	C	石針	SHC451 (P7)	9.20	1.80		0.05	サカイト	c3+dp.	端径:上1.80mm/下1.60mm. 使用痕 長:2.75mm. 上面に擦痕(使用痕なし).
u. i. 295	C	石針	SHC451	(7.50)	1.7		0.04	サカイト	c3+dp.	下端折損、端径:上1.65mm/下1.45mm. 使用痕長:5.50mm.
u. i. 296	C	石針	SHC451 (P7)	(8.00)	1.70		0.05	サカイト	c3+dp.	上端折損、端径:上1.70mm/下1.70mm. 使用痕長:1.50mm.
u. i. 297	C	石針	SHC451	(6.95)	2.20		0.08	サカイト	c3+dp.	上端折損、端径:上2.20mm/下2.05mm. 使用痕長:3.15mm.
u. i. 298	C	石針	SHC451	7.45	1.60		0.03	サカイト	c3+dp.	端径:上1.60mm/下1.35mm. 使用痕 長:3.50mm. 上端に擦痕(使用痕なし).
u. i. 299	C	石針	SHC451	7.10	2.05		0.05	サカイト	c3+dp./c1	端径:上2.05mm/下1.80mm. 使用痕長: 上0.50mm/下2.05mm.
u. i. 300	C	石針	SHC451	(6.60)	1.60		0.03	サカイト	b3+b1	上端折損、端径:上1.45mm/下0.75mm. 使用痕長:4.10mm.
u. i. 301	C	石針	SHC451	(9.70)	1.60		0.04	サカイト	b3+b1	上端折損、端径:上1.60mm/下1.30mm. 使用痕長:9.70mm.
u. i. 302	C	石針	SHC451 (P7)	(10.50)	1.60		0.05	サカイト	b3+b1+dp.	上端折損、端径:上1.60mm/下1.30mm. 使用痕長:7.70mm.
u. i. 303	C	石針	SHC451	(6.30)	1.70		0.03	サカイト	c3+a2	上端折損、端径:上1.70mm/下1.55mm. 使用痕長:3.90mm.
u. i. 304	C	石針	SHC451	(4.35)	1.70		0.02	サカイト	c3+b1	上端折損、端径:上1.70mm/下1.00mm. 使用痕長:4.35mm.
u. i. 305	C	石針	SHC451	(5.65)	1.7		0.03	サカイト	c3+b1	上端折損、端径:上1.65mm/下0.95mm. 使用痕長:2.25mm.
u. i. 306	C	石針	SHC451 中央土坑	(7.35)	1.7		0.04	サカイト	c3+b1	上端折損、端径:上1.65mm/下1.30mm. 使用痕長:7.35mm.
u. i. 307	C	石針	SHC451	(5.25)	1.50		0.02	サカイト	c3+b1	上端折損、端径:上1.50mm/下1.20mm. 使用痕長:5.25mm.
u. i. 308	C	石針	SHC451	(14.80)	2.10		0.09	サカイト	c3+b1+dp.	上端折損、端径:上1.85mm/下1.65mm. 使用痕長:6.80mm.
u. i. 309	C	石針	SHC451	(7.40)	1.7		0.03	サカイト	c3+b1+dp.	上端折損、端径:上1.65mm/下1.35mm. 使用痕長:7.40mm.
u. i. 310	C	石針	SHC451	(6.40)	1.60		0.03	サカイト	c3+b1+dp.	上端折損、端径:上1.60mm/下0.95mm. 使用痕長:2.80mm.
u. i. 311	C	石針	SHC451	(7.95)	2.00		0.06	サカイト	c3+b1+dp.	上端折損、端径:上2.00mm/下1.45mm. 使用痕長:7.95mm.
u. i. 312	C	石針	SHC451	(7.45)	1.70		0.03	サカイト	c3+b1+dp.	上端折損、端径:上1.70mm/下1.20mm. 使用痕長:7.45mm.
u. i. 313	C	石針	SHC451	(7.10)	1.6		0.03	サカイト	c3+b2	上端折損、端径:上1.55mm/下0.15mm. 使用痕長:5.70mm.
u. i. 314	C	石針	SHC451	(6.50)	1.8		0.04	サカイト	c3+b2	上端折損、端径:上1.75mm/下0.70mm. 使用痕長:6.50mm.
u. i. 315	C	石針	SHC451	(7.00)	2.1		0.05	サカイト	c3+b2	上端折損、端径:上2.05mm/下1.10mm. 使用痕長:2.40mm.
u. i. 316	C	石針	SHC451	(7.10)	2.00		0.05	サカイト	c3+c2	上端折損、端径:上2.00mm/下0.40mm. 使用痕長:7.10mm.
u. i. 317	C	石針	SHC451	(9.00)	1.60		0.04	サカイト	c3+c2	上端折損、端径:上1.60mm/下0.60mm. 使用痕長:9.00mm.
u. i. 318	C	石針	SHC451	(4.55)	1.90		0.03	サカイト		両端折損、端径:上1.90mm/下1.80mm.
u. i. 319	C	石針	SHC451	(6.65)	2.05		0.04	サカイト		両端折損、端径:上2.05mm/下1.75mm.
u. i. 320	C	石針	SHC451	(8.50)	1.6		0.04	サカイト		両端折損、端径:上1.55mm/下1.55mm.
u. i. 321	C	石針	SHC451	(10.00)	1.70		0.04	サカイト		両端折損、端径:上1.45mm/下1.55mm. 使用痕長:3.60mm.
u. i. 322	C	石針	SHC451	(7.35)	2.90		0.07	サカイト		両端折損、端径:上2.90mm/下2.30mm.
u. i. 323	C	石針	SHC451	(8.00)	1.70		0.03	サカイト		両端折損、端径:上1.55mm/下1.35mm.
u. i. 324	C	石針	SHC451 中央土坑	(7.10)	2.20		0.05	サカイト		両端折損、端径:上2.20mm/下1.85mm. 使用痕長:1.35mm.
u. i. 325	C	石針	SHC451	(5.45)	2.20		0.04	サカイト		下端折損、端径:上1.95mm/下2.20mm. 上面に擦痕(使用痕なし). 使用痕 長:1.35mm.
u. i. 326	C	石針	SHC451	(7.30)	1.7		0.02	サカイト		両端折損、端径:上1.65mm/下1.65mm.
u. i. 327	C	石針	SHC451	(9.10)	2.00		0.06	サカイト		両端折損、端径:上1.90mm/下1.80mm. 使用痕長:2.65mm.
u. i. 328	C	石針	SHC451	(7.10)	1.8		0.03	サカイト		両端折損、端径:上1.85mm/下1.65mm.

観 察 表

u. i. 329	C	石針	SHC451 (P25)	(7.85)	1.70		0.03	サスカイト		両端折損、端径: 上1.70mm/下1.60mm.
u. i. 330	C	石針	SHC451	(8.35)	1.60		0.04	サスカイト		両端折損、端径: 上1.55mm/下1.60mm.
u. i. 331	C	石針	SHC451	(9.80)	1.40		0.04	サスカイト		下端折損、端径: 上1.40mm/下1.40mm. 上面に擦痕(使用痕なし).
u. i. 332	C	石針	SHC451	(11.30)	2.4		0.10	サスカイト		両端折損、端径: 上2.05mm/下2.35mm.
u. i. 333	C	石針	SHC451	(3.70)	1.7		0.05	サスカイト		上端折損、端径: 上1.55mm/下1.55mm. 下端摩滅.
u. i. 334	C	石針	SHC451	(5.75)	1.8		0.03	サスカイト		両端折損、端径: 上1.70mm/下1.65mm.
u. i. 335	C	石針	SHC451 (P23・24)	(4.15)	2.3		0.02	サスカイト		両端折損、端径: 上2.25mm/下2.10mm.
u. i. 336	C	石針	SHC451 (P27・34)	(5.90)	1.90		0.03	サスカイト		両端折損、端径: 上1.90mm/下1.70mm.
u. i. 337	C	石針	SHC451	(5.25)	1.5		0.02	サスカイト		両端折損、端径: 上1.45mm/下1.40mm. 使用痕長: 5.25mm.
u. i. 338	C	石針	SHC451	(6.55)	2.0		0.03	サスカイト		上端折損、端径: 上1.95mm/下1.75mm. 下面に擦痕(使用痕なし).
u. i. 339	C	石針	SHC451	(8.60)	2.20		0.07	サスカイト		両端折損、端径: 上2.15mm/下2.20mm.
u. i. 340	C	石針	SHC451	(6.20)	1.90		0.04	サスカイト		両端折損、端径: 上1.90mm/下1.90mm.
u. i. 341	C	石針	SHC451	(5.90)	1.40		0.02	サスカイト		両端折損、端径: 上1.40mm/下1.25mm. 使用痕長: 2.25mm.
u. i. 342	C	石針	SHC451	(8.00)	2.10		0.06	サスカイト		上端折損、端径: 上2.10mm/下2.00mm. 下面に擦痕(使用痕なし).
u. i. 343	C	石針	SHC451 (P21)	(6.10)	2.40		0.05	サスカイト		両端折損、端径: 上2.40mm/下2.35mm.
u. i. 344	C	石針	SHC451	(10.10)	2.20		0.08	サスカイト		両端折損、端径: 上1.95mm/下2.20mm.
u. i. 345	C	石針	SHC451	(5.00)	2.5		0.03	サスカイト		下端折損、端径: 上2.40mm/下2.45mm. 上面に擦痕(使用痕なし).
u. i. 346	C	石針	SHC451	(2.75)	1.5		0.01	サスカイト		両端折損、端径: 上1.45mm/下1.40mm.
u. i. 347	C	石針	SHC451	(6.65)	2.5		0.05	サスカイト		両端折損、端径: 上2.45mm/下1.75mm.
u. i. 348	C	石針	SHC451	(6.35)	1.70		0.03	サスカイト		両端折損、端径: 上1.70mm/下1.40mm.
u. i. 349	C	石針	SHC451	(6.50)	2.1		0.04	サスカイト		両端折損、端径: 上2.05mm/下1.85mm. 使用痕長: 1.55mm.
u. i. 350	C	石針	SHC451	(6.00)	1.7		0.03	サスカイト		上端折損、端径: 上1.65mm/下1.60mm. 使用痕長: 1.20mm. 下面に擦痕(使用痕なし).
u. i. 351	C	石針	SHC451	(6.75)	1.8		0.03	サスカイト		両端折損、端径: 上1.55mm/下1.75mm. 使用痕長: 1.05mm.
u. i. 352	C	石針	SHC451	(6.60)	1.7		0.03	サスカイト		両端折損、端径: 上1.60mm/下1.50mm.
u. i. 353	C	石針	SHC451 (P7)	(7.00)	1.50		0.03	サスカイト		両端折損、端径: 上1.45mm/下1.50mm.
u. i. 354	C	石針	SHC451	(4.80)	1.70		0.02	サスカイト		両端折損、端径: 上1.70mm/下1.70mm.
u. i. 355	C	石針	SHC451	(8.75)	1.80		0.05	サスカイト		両端折損、端径: 上1.75mm/下1.80mm.
u. i. 356	C	石針	SHC451 (P12)	(7.80)	1.60		0.03	サスカイト		両端折損、端径: 上1.60mm/下1.55mm. 使用痕長: 2.00mm.
u. i. 357	C	石針	SHC451 (P7)	(5.35)	1.60		0.02	サスカイト		両端折損、端径: 上1.60mm/下1.35mm.
u. i. 358	C	石針	SHC451 (P7)	(8.50)	1.80		0.04	サスカイト		上端折損、端径: 上1.80mm/下1.70mm. 下面に擦痕(使用痕なし).
u. i. 359	C	石針	SHC451 (P4)	(8.95)	2.20		0.07	サスカイト		両端折損、端径: 上2.20mm/下1.90mm.
u. i. 360	C	石針	SHC451	(3.70)	1.8		0.02	サスカイト		両端折損、端径: 上1.75mm/下1.50mm.
u. i. 361	C	石針	SHC451 (P26)	(5.15)	2.00		0.03	サスカイト		上端折損、端径: 上2.00mm/下1.70mm. 使用痕長: 5.15mm.
u. i. 362	C	石針	SHC451 (P5)	(10.75)	2.1		0.07	サスカイト		両端折損、端径: 上2.05mm/下1.80mm.
u. i. 363	C	石針	SHC451 (P5)	(3.20)	1.20		0.01	サスカイト		両端折損、端径: 上1.20mm/下1.20mm.
u. i. 364	C	石針	SHC451 (P3)	(7.85)	2.50		0.08	サスカイト		両端折損、端径: 上2.45mm/下2.50mm.
u. i. 365	C	石針	SHC451 (P12)	(14.20)	2.8		0.13	サスカイト		両端折損、端径: 上2.75mm/下2.05mm.
u. i. 366	C	石針	SHC451	(6.15)	1.4		0.02	サスカイト		両端折損、端径: 上1.35mm/下1.30mm.
u. i. 367	C	石針	SHC451	(6.20)	1.70		0.02	サスカイト		両端折損、端径: 上1.70mm/下1.40mm.
u. i. 368	C	石針	SHC451	(4.50)	2.20		0.03	サスカイト		両端折損、端径: 上2.20mm/下2.05mm.
u. i. 369	C	石針	SHC451	(4.45)	1.50		0.01	サスカイト		両端折損、端径: 上1.50mm/下1.35mm.
u. i. 370	C	石針	SHC451	(5.90)	1.4		0.02	サスカイト		両端折損、端径: 上1.30mm/下1.25mm.

u. i. 371	C	石針	SHC451 (P11)	(6.15)	2.20	0.05	サカイト		上端折損、端径:上2.20mm/下2.00mm. 下面に擦痕(使用痕なし).
u. i. 372	C	石針	SHC451	(4.05)	1.50	0.01	サカイト		両端折損、端径:上1.50mm/下1.25mm.
u. i. 373	C	石針	SHC460	(5.55)	2.3	0.04	サカイト	b2	上端折損、端径:上2.25mm/下2.15mm. 使用痕長:0.70mm.
u. i. 374	C	石針	SHC460	(6.30)	1.70	0.03	サカイト	b2	上端折損、端径:上1.70mm/下1.60mm. 使用痕長:2.90mm.
u. i. 375	C	石針	SHC460	(9.85)	1.9	0.06	サカイト	b2	上端折損、端径:上1.85mm/下1.65mm. 使用痕長:4.00mm.
u. i. 376	C	石針	SHC460	(5.45)	2.60	0.03	サカイト	b2+dp.	上端折損、端径:上2.55mm/下2.60mm. 使用痕長:0.70mm.
u. i. 377	C	石針	SHC460	(5.55)	1.8	0.03	サカイト	c1	上端折損、端径:上1.65mm/下1.50mm. 使用痕長:2.00mm.
u. i. 378	C	石針	SHC460	(4.65)	1.3	0.01	サカイト	c2	上端折損、端径:上1.25mm/下1.15mm. 使用痕長:0.55mm.
u. i. 379	C	石針	SHC460	(4.15)	1.20	0.01	サカイト	c2	上端折損、端径:上1.05mm/下1.20mm. 使用痕長:0.25mm.
u. i. 380	C	石針	SHC460	(6.90)	1.6	0.02	サカイト	c2	上端折損、端径:上1.55mm/下1.35mm. 使用痕長:0.20mm.
u. i. 381	C	石針	SHC460	(5.65)	1.60	0.02	サカイト	c2+dp.	上端折損、端径:上1.60mm/下1.40mm.
u. i. 382	C	石針	SHC460	(8.75)	1.55	0.04	サカイト	c3	上端折損、端径:上1.55mm/下1.40mm. 使用痕長:0.80mm.
u. i. 383	C	石針	SHC460	(3.95)	1.10	0.01	サカイト	c3	上端折損、端径:上1.10mm/下0.95mm. 使用痕長:2.10mm.
u. i. 384	C	石針	SHC460	(6.10)	1.60	0.03	サカイト	c3?	両端折損、端径:上1.50mm/下1.60mm. 使用痕長:4.05mm.
u. i. 385	C	石針	SHC460	7.00	2.00	0.04	サカイト	c1/c1	端径:上2.00mm/下1.80mm. 使用痕長:上1.10mm/下2.95mm.
u. i. 386	C	石針	SHC460	5.55	1.5	0.02	サカイト	c3+dp.	端径:上1.25mm/下1.35mm. 使用痕長:4.15mm. 上面に擦痕(使用痕なし).
u. i. 387	C	石針	SHC460	(7.30)	1.6	0.03	サカイト	c3+b2	上端折損、端径:上1.55mm/下1.40mm. 使用痕長:1.55mm.
u. i. 388	C	石針	SHC460	(3.60)	1.60	0.01	サカイト		両端折損、端径:上1.60mm/下1.60mm.
u. i. 389	C	石針	SHC460	(5.80)	2.10	0.03	サカイト		両端折損、端径:上2.10mm/下2.00mm.
u. i. 390	C	石針	SHC460	(11.00)	1.6	0.05	サカイト		両端折損、端径:上1.50mm/下1.55mm. 使用痕長:4.90mm.
u. i. 391	C	石針	SHC460	(5.30)	2.00	0.04	サカイト		両端折損、端径:上2.00mm/下1.85mm.
u. i. 392	C	石針	SHC460	(4.65)	1.70	0.02	サカイト		上端折損、端径:上1.70mm/下1.55mm. 下面に擦痕(使用痕なし).
u. i. 393	C	石針	SHC460	(11.00)	1.9	0.06	サカイト		両端折損、端径:上1.75mm/下1.85mm. 使用痕長:mm.
u. i. 394	C	石針	SHC460	(12.00)	1.50	0.04	サカイト		両端折損、端径:上1.50mm/下1.00mm. 使用痕長:mm.
u. i. 395	C	石針	SHC479a	(6.85)	1.6	0.02	サカイト	a1	上端折損、端径:上1.35mm/下1.55mm.
u. i. 396	C	石針	SHC479a (P12)	7.10	1.9	0.04	サカイト	b3	端径:上1.65mm/下1.85mm. 使用痕長:1.25mm. 下面に擦痕(使用痕なし).
u. i. 397	C	石針	SHC479a	5.85	1.6	0.02	サカイト	c1	端径:上1.55mm/下1.45mm. 使用痕長:0.50mm. 上面に擦痕(使用痕なし).
u. i. 398	C	石針	SHC479a (P12)	(6.15)	2.00	0.03	サカイト	c1	上端折損、端径:上1.50mm/下2.00mm.
u. i. 399	C	石針	SHC479a (P12)	(4.85)	1.30	0.01	サカイト	c3	上端折損、端径:上1.25mm/下1.30mm.
u. i. 400	C	石針	SHC479a	(8.00)	1.6	0.03	サカイト	c3+dp.	上端折損、端径:上1.55mm/下1.50mm. 使用痕長:4.60mm.
u. i. 401	C	石針	SHC479a	(6.80)	2.10	0.05	サカイト	a2	上端折損、端径:上2.05mm/下1.90mm.
u. i. 402	C	石針	SHC479a	(11.45)	1.8	0.06	サカイト	c3+c2	上端折損、端径:上1.75mm/下1.70mm. 使用痕長:3.85mm.
u. i. 403	C	石針	SHC479a	(12.00)	1.40	0.04	サカイト	c3+c2	上端折損、端径:上1.35mm/下1.25mm. 使用痕長:6.75mm.
u. i. 404	C	石針	SHC479a (P5)	(9.80)	2.1	0.05	サカイト		両端折損、端径:上1.70mm/下1.90mm. 使用痕長:2.40mm.
u. i. 405	C	石針	SHC479a	(6.50)	2.30	0.03	サカイト		上端折損、端径:上2.30mm/下2.05mm. 下面に擦痕(使用痕なし).
u. i. 406	C	石針	SHC479a	(4.70)	2.6	0.04	サカイト		両端折損、端径:上2.55mm/下2.40mm.
u. i. 407	C	石針	SHC479a	(5.50)	2.30	0.04	サカイト		上端折損、端径:上2.30mm/下1.90mm. 下面に擦痕(使用痕なし).
u. i. 408	C	石針	SHC479a	(9.40)	2.70	0.05	サカイト		両端折損、端径:上2.60mm/下2.70mm. 使用痕長:1.20mm.
u. i. 409	C	石針	SHC479a	(6.25)	1.7	0.02	サカイト		両端折損、端径:上1.65mm/下1.45mm.

観 察 表

u. i. 410	C	石針	SHC479a	(7.90)	2.30		0.05	サカイ		両端折損、端径:上2.10mm/下2.20mm.
u. i. 411	C	石針	SHC479a (P12)	(4.85)	1.30		0.01	サカイ		両端折損、端径:上1.20mm/下1.30mm.
u. i. 412	C	石針	SHC487	5.95	1.9		0.04	サカイ	c2/b1+dp.	端径:上1.85mm/下1.25mm. 使用痕長: 上0.20mm/下0.80mm.
u. i. 413	C	石針	SHC487	(7.65)	1.50		0.03	サカイ	c3	上端折損、端径:上1.50mm/下1.25mm.
u. i. 414	C	石針	SHC487	(6.35)	1.60		0.03	サカイ	c3+dp.	上端折損、端径:上1.60mm/下1.40mm. 使用痕長:6.35mm.
u. i. 415	C	石針	SHC487	(8.65)	1.95		0.06	サカイ	c3+dp.	上端折損、端径:上1.95mm/下1.70mm. 使用痕長:0.55mm.
u. i. 416	C	石針	SHC487- SHC490	(6.20)	1.8		0.03	サカイ	b1	上端折損、端径:上1.55mm/下1.75mm.
u. i. 417	C	石針	SHC487- SHC490	(6.10)	2.90		0.04	サカイ		両端折損、端径:上2.85mm/下2.90mm.
u. i. 418	C	石針	SHC487- SHC490	(5.25)	1.3		0.01	サカイ	c3+dp.	上端折損、端径:上1.25mm/下1.20mm. 使用痕長:5.25mm.
u. i. 419	C	石針	SHC492	6.40	1.70		0.03	サカイ	c3+dp./ c3+dp.	端径:上1.50mm/下1.60mm. 使用痕長: 上1.65mm/下2.45mm.
u. i. 420	C	石針	SHC492	(6.35)	2.3		0.05	サカイ		両端折損、端径:上2.25mm/下2.00mm.
u. i. 421	C	石針	SHC571	(8.40)	1.90		0.05	サカイ	c3+dp.	上端折損、端径:上1.90mm/下1.50mm. 使用痕長:8.40mm.
u. i. 422	C	石針	SHC571	(9.25)	2.0		0.06	サカイ	c3+b1	上端折損、端径:上1.95mm/下1.20mm. 使用痕長:2.65mm.
u. i. 423	D	石針	SHD23	(6.10)	1.50		0.02	サカイ	c3	上端折損、端径:上1.50mm/下1.35mm. 使用痕長:3.40mm.
u. i. 424	D	石針	SHD23	(5.35)	1.50		0.02	サカイ	c3	上端折損、端径:上1.50mm/下1.40mm. 使用痕長:5.35mm.
u. i. 425	D	石針	SHD23	(4.45)	1.50		0.02	サカイ		両端折損、端径:上1.50mm/下1.50mm. 使用痕長:mm.
u. i. 426	D	石針	SHD39	(5.90)	1.35		0.02	サカイ	c2	上端折損、端径:上1.25mm/下1.35mm. 使用痕長:0.40mm.
u. i. 427	D	石針	SHD39	(6.65)	1.65		0.03	サカイ	c2	上端折損、端径:上1.65mm/下1.50mm. 使用痕長0.35mm.
u. i. 428	D	石針	SHD39	5.75	1.45		0.02	サカイ	c3+b1	端径:上1.45mm/下0.90mm. 使用痕 長:2.10mm.
u. i. 429	D	石針	SHD39	8.90	1.50		0.03	サカイ	c3+c1+dp.	端径:上1.50mm/下1.10mm. 使用痕 長:1.90mm. 上面に擦痕(使用痕なし).
u. i. 430	D	石針	SHD39	(4.90)	1.45		0.02	サカイ		上端折損、端径:上1.45mm/下1.30mm. 下面に擦痕(使用痕なし).
u. i. 431	D	石針	SHD39	(7.50)	1.60		0.03	サカイ		上端折損、端径:上1.50mm/下1.60mm. 下面に擦痕(使用痕なし).
u. i. 432	D	石針	SHD39	(7.15)	1.60		0.03	サカイ		上端折損、端径:上1.60mm/下1.50mm. 下面に擦痕(使用痕なし).
u. i. 433	D	石針	SHD39	(5.90)	1.45		0.02	サカイ		両端折損、端径:上1.45mm/下1.40mm.
u. i. 434	D	石針	SHD39	(6.40)	1.85		0.05	サカイ		両端折損、端径:上1.85mm/下1.65mm.
u. i. 435	A	石針	SKA66	(5.10)	1.50		0.02	サカイ	a2	上端折損、端径:上1.50mm/下1.50mm.
u. i. 436	A	石針	SKA66	(7.05)	1.40		0.03	サカイ	b2+dp.	上端折損、端径:上1.40mm/下1.40mm. 使用痕長:0.40mm.
u. i. 437	A	石針	SKA66	(5.10)	2.00		0.03	サカイ		両端折損、端径:上2.00mm/下1.90mm.
u. i. 438	A	石針	SKA66	(6.40)	1.30		0.02	サカイ		下端折損、端径:上1.20mm/下1.10mm. 上面に擦痕(使用痕なし).
u. i. 439	A	石針	SKA69	7.0	1.5	1.4	0.03	サカイ	8角形p8	ほぼ円形.
u. i. 440	A	石針	SKA69	(7.45)	1.45		0.03	サカイ	b1+dp.	上端折損、端径:上1.45mm/下1.40mm. 使用痕長:0.40mm.
u. i. 441	A	石針	SKA75	(9.30)	2.00		0.06	サカイ		両端折損、端径:上2.00mm/下1.90mm.
u. i. 442	A	石針	SKA79	11.9	1.4	1.4	0.05	サカイ	円形	
u. i. 443	A	石針	SKA79	11.85	1.55		0.05	サカイ	b2+dp.	端径:上1.55mm/下1.35mm. 使用痕長: 上0.85mm. 上面に擦痕.
u. i. 444	A	石針	SKA102	(10.30)	1.40		0.03	サカイ	c3+b2+dp.	上端折損、端径:上1.40mm/下1.20mm. 使用痕長:3.70mm.
u. i. 445	A	石針	SKA102	(12.20)	1.50		0.02	サカイ		両端折損、端径:上1.40mm/下1.30mm.
u. i. 446	A	石針	SKA102	(6.80)	1.90		0.04	サカイ		両端折損、端径:上1.90mm/下1.70mm.
u. i. 447	A	石針	SKA102	(3.60)	2.00		0.02	サカイ		両端折損、端径:上2.00mm/下1.90mm.
u. i. 448	A	石針	SKA102	(9.80)	1.80		0.05	サカイ		両端折損、端径:上1.80mm/下1.60mm.
u. i. 449	A	石針	SKA102	(5.20)	1.70		0.02	サカイ		上端折損、端径:上1.70mm/下1.50mm. 下端に擦痕(使用痕なし).
u. i. 450	B	石針	SKB911	4.70	1.4		0.01	サカイ	c2	端径:上1.25mm/下1.35mm. 使用痕 長:0.40mm.

u. i. 451	B	石針	SKB911	(4.40)	1.00		0.01	サヌカイト		両端折損、端径:上1.00mm/下1.00mm.
u. i. 452	C	石針	SKC516	5.40	1.45		0.02	サヌカイト	b1+dp./c3	端径:上1.45mm/下1.40mm. 使用痕長: 上0.3mm/下5.40mm.
u. i. 453	C	石針	SDC455	(5.85)	2.00		0.04	サヌカイト	c3	上端折損、端径:上2.00mm/下1.90mm.
u. i. 454	A	石針	不明	(16.10)	1.60		0.08	サヌカイト	b3+dp.	上端折損、端径:上1.60mm/下1.50mm. 使用痕長:2.90mm.
u. i. 455	A	石針	不明	(7.20)	1.75		0.04	サヌカイト	b3+dp.	上端折損、端径:上1.75mm/下1.50mm. 使用痕長:1.60mm.
u. i. 456	A	石針	不明	(4.95)	1.70		0.02	サヌカイト		両端折損、端径:上1.70mm/下1.40mm.
u. i. 457	A	石針	不明	(6.20)	1.70	0.80	0.03	サヌカイト		上端折損、端径:上1.70mm/下1.70mm. 下部はマイクストライパー状で下端に細かい 剥離。上端研磨以前の加工又は工具使用 による剥離の可能性.

石針の下面径について、基本形態は針身と使用痕との境界点で計測し、複合形態は最終使用痕と前使用痕との境界点で計測した。



付表26 石錘・石小刀・打製石器観察表

図版 番号	番号	地区	器種名	遺構	全長(残 存 長)(cm)	幅(残存 幅)(cm)	厚さ(最 大 厚)(cm)	重量(g)	石材	備考
198	1314	A	石錘	SHA98	(2.60)	2.10	0.50	2.67	サヌカイト	先端部折損
198	1315	B	石錘?	SHB138	(2.70)	1.00	0.50	1.43	サヌカイト	先端部折損、石針未成品?
198	1316	B	石錘	SHB138	2.50	2.15	0.60	2.98	サヌカイト	先端部摩耗痕
198	1317	B	石錘未成品?	SHB140	(2.30)	1.95	0.80	3.06	サヌカイト	先端部折損
198	1318	B	石錘	SHB141	(2.80)	1.30	0.30	1.18	サヌカイト	先端部折損
198	1319	B	石錘	SHB148	2.30	1.10	0.60	1.95	サヌカイト	完形品、先端部摩耗痕
198	1320	B	石錘	SHB150	4.80	1.70	1.10	9.13	サヌカイト	完形品、下端に細かい回転 擦痕、上端に摩耗痕
198	1321	B	石錘	SHB341?	(3.40)	3.00	0.80	8.14	サヌカイト	先端部折損、先端側縁部に 摩耗痕
198	1322	B	石錘	SKB735	(3.20)	1.25	0.30	1.32	サヌカイト	先端部折損、縁辺は剥離調 整
198	1323	C	石錘	SHC80	(2.15)	1.10	0.40	1.10	サヌカイト	有茎式石鏃? 先端部折損
198	1324	C	石錘未成品	SHC167	2.00	1.10	0.40	0.95	サヌカイト	先端部・基部折損、未成品?
198	1325	C	石錘	SHC167	(1.75)	2.30	0.50	1.47	サヌカイト	雁又状握部片
198	1326	C	石錘	SHC487	(2.25)	2.50	0.70	2.64	サヌカイト	握部片?
198	1327	C	石錘	SHC492	(1.50)	1.80	0.50	1.20	サヌカイト	先端部折損
198	1328	B	石錘?	SHB538	3.70	1.10	0.90	3.84	サヌカイト	完形品、石針未成品(IVd 類)? 先端部摩耗痕
198	1329	C	石錘	SKC75	(2.05)	2.15	0.55	2.00	サヌカイト	先端部折損
198	1330	A	石錘	SDA14	(3.95)	2.00	0.60	5.24	サヌカイト	先端部折損、先端部側縁に わずかに摩耗痕
198	1331	A	石錘?	SDA14	(3.95)	1.50	0.65	4.36	サヌカイト	先端部折損、石針未成品(IV d類)? 先端部摩耗痕
198	1332	C	石錘?	SDC470	(2.40)	0.80	0.35	0.86	サヌカイト	両端折損?、石針未成品(II d類)? 先端部わずかに摩 耗痕
198	1333	C	石錘	包含層	(2.00)	1.40	0.30	0.88	サヌカイト	先端部折損、縁辺は剥離調 整
198	1334	C	石錘?	包含層	(4.35)	1.40	0.80	3.88	サヌカイト	先端部折損、石針未成品(V c+br.類)?
198	1335	A	石錘	包含層	4.10	1.15	0.75	5.13	サヌカイト	先端部に粗い回転擦痕
198	1336	B	石錘	包含層	(3.20)	1.20	0.55	3.08	サヌカイト	先端部折損、軸部を多面体 に研磨、一部回転擦痕
198	1337	B	石錘	包含層	3.60	1.10	0.50	3.69	サヌカイト	完形品、先端部粗い回転擦 痕
198	1338	C	石錘未成品	包含層	4.25	3.20	1.20	13.15	サヌカイト	先端部折損? 未成品?
198	1339	B	石錘	包含層	(4.05)	2.50	0.55	4.80	サヌカイト	先端部折損、薄い加工剥片 利用
198	1340	C	石錘	包含層	4.00	2.50	0.40	3.74	サヌカイト	先端部摩耗痕、薄い加工剥 片利用
198	1341	B	石小刀	SHB141	2.20	1.35	0.40	1.81	サヌカイト	
198	1342	B	石小刀	SHB148	(2.20)	0.95	0.55	0.79	サヌカイト	先端部折損
198	1343	B	石小刀	SHB528	(1.60)	0.80	0.15	0.18	サヌカイト	先端部折損
198	1344	B	石小刀	SHB910	3.35	1.60	0.55	3.70	サヌカイト	
198	1345	B	石小刀	SKB846	3.30	1.00	0.30	1.19	サヌカイト	
198	1346	C	石小刀	包含層	2.55	1.20	0.25	0.92	サヌカイト	薄い加工剥片利用
198	1347	B	スクレイパー	SHB138 (SKB939)	4.20	5.10	1.40	31.83	サヌカイト	自然面あり
198	1348	B	スクレイパー	SHB138	3.05	4.90	0.75	11.99	サヌカイト	端部折損
198	1349	B	スクレイパー	SHB141	3.00	7.00	0.80	11.77	サヌカイト	完形品
198	1350	B	スクレイパー	SHB341	2.10	(5.40)	0.85	9.27	サヌカイト	先端部折損
198	1351	B	スクレイパー	SHB528	4.35	6.30	0.80	23.14	サヌカイト	端部折損
198	1352	C	スクレイパー	SHC132	2.90	6.20	0.70	14.23	サヌカイト	端部折損
198	1353	C	スクレイパー	SHC135b	1.70	1.80	0.45	1.69	サヌカイト	
198	1354	A	スクレイパー	SKA69	3.20	2.80	8.00	7.82	サヌカイト	
198	1355	A	スクレイパー	SKA69	4.50	6.70	1.20	35.70	サヌカイト	自然面あり
198	1356	A	スクレイパー	SKA69	3.15	5.75	1.25	24.22	サヌカイト	自然面あり
198	1357	A	スクレイパー	SHA90	4.20	4.10	0.60	12.76	サヌカイト	
198	1358	A	石鏃	SKA116	(8.00)	(5.30)	1.00	39.73	サヌカイト	
199	1359	B	スクレイパー	SKB840	6.20	11.20	1.40	34.08	サヌカイト	自然面あり

199	1360	B	スクレイパー	SKB771	5.70	7.90	1.00	51.29	サヌカイト	自然面あり
199	1361	B	スクレイパー	SKB884	2.90	7.50	1.40	32.45	サヌカイト	
199	1362	C	スクレイパー	SKC71	3.20	3.85	0.80	13.20	サヌカイト	
199	1363	C	スクレイパー	SKC164	7.10	10.30	0.75	17.01	サヌカイト	完形品
199	1364	D	スクレイパー	SHD23	6.40	9.00	1.10	96.36	粘板岩	
199	1365	B	スクレイパー	SEC453	3.15	1.20	0.25	99.57	サヌカイト	自然面あり
199	1366	C	スクレイパー	SDC25	3.00	3.60	0.90	10.32	サヌカイト	
199	1367	A	スクレイパー	SDA68	4.00	4.80	1.00	18.17	サヌカイト	自然面あり
199	1368	A	スクレイパー	SDA68-5区	2.70	5.00	1.00	20.42	サヌカイト	自然面あり
199	1369	A	スクレイパー	SDA68-4区	4.70	3.00	1.40	23.65	サヌカイト	自然面あり
199	1370	A	スクレイパー	SDA68	3.20	3.50	1.10	14.48	サヌカイト	
199	1371	C	スクレイパー	SDC95	4.00	4.50	0.90	15.91	サヌカイト	
199	1372	C	スクレイパー	SDC99	3.40	5.20	0.75	20.55	サヌカイト	自然面あり
199	1373	C	磨製石剣 再加工品?	SDC99	8.20	2.90	1.60	41.44	サヌカイト	先端部折損、磨製石剣の転用?
199	1374	C	石鏃未成品?	SDC114	2.70	1.30	0.60	2.57	サヌカイト	265と同一個体
199	1375	C	スクレイパー	SDC114	3.30	3.50	1.20	13.98	サヌカイト	
199	1376	C	スクレイパー	SDC114	4.90	8.60	0.90	39.12	サヌカイト	
200	1377	C	石鏃	SDC401	13.75	7.75	1.00	139.9	粘板岩	研磨痕あり
200	1378	A	不明品	包含層	10.70	7.80	1.90	174.3	サヌカイト	自然面あり
200	1379	B	不明品	包含層	3.00	6.50	1.20	21.63	サヌカイト	
200	1380	B	スクレイパー	包含層	3.20	3.50	0.90	10.09	サヌカイト	完形品
200	1381	B	スクレイパー	包含層	2.40	4.45	0.70	10.83	サヌカイト	自然面あり
200	1382	B	スクレイパー	包含層	3.00	4.00	0.70	8.27	サヌカイト	側部折損
200	1383	B	スクレイパー	包含層	6.20	5.20	1.00	22.74	サヌカイト	
200	1384	B	スクレイパー	包含層	4.20	2.80	0.90	10.58	サヌカイト	
200	1385	B	スクレイパー	包含層	6.80	2.20	1.25	18.09	サヌカイト	先端部折損
200	1386	B	スクレイパー	包含層	4.30	1.90	1.20	7.99	サヌカイト	
200	1387	B	石匙	包含層	6.45	5.90	1.30	40.97	サヌカイト	
200	1388	A	スクレイパー	包含層	4.30	6.40	0.65	26.19	サヌカイト	
200	1389	B	スクレイパー	包含層	3.60	5.40	0.75	18.88	サヌカイト	側部折損
200	1390	B	スクレイパー	包含層	5.70	6.30	1.00	53.25	サヌカイト	自然面あり
200	1391	C	石鏃	包含層	11.00	7.10	1.15	107.8	粘板岩	研磨痕あり
200	1392	C	スクレイパー	包含層	6.60	8.00	0.60	44.04	粘板岩	
201	1393	C	スクレイパー	包含層	2.60	7.50	0.70	13.75	サヌカイト	
201	1394	C	スクレイパー	包含層	3.90	7.70	1.20	38.11	サヌカイト	自然面あり
201	1395	C	不明品	包含層	(4.10)	2.10	0.90	8.13	サヌカイト	先端部折損
201	1396	C	スクレイパー	包含層	3.80	4.90	0.60	15.49	サヌカイト	
201	1397	C	スクレイパー	包含層	3.90	4.50	1.00	15.96	サヌカイト	自然面あり
201	1398	C	スクレイパー	包含層	4.40	4.60	1.00	26.58	サヌカイト	
201	1399	C	スクレイパー?	包含層	3.15	5.10	1.50	28.25	サヌカイト	
201	1400	A	加工剥片	SHA74	2.50	2.60	0.35	1.71	サヌカイト	
150	1401	A	加工剥片	SHA98	2.10	2.45	0.50	2.50	サヌカイト	
201	1402	A	加工剥片	SHA98	3.85	3.40	1.50	18.51	ホルンフェルス	自然面あり
201	1403	A	加工剥片	SHA98	2.80	3.80	0.80	7.09	サヌカイト	自然面あり
201	1404	A	加工剥片	SHA98	2.40	4.60	1.30	15.87	サヌカイト	自然面あり
201	1405	B	加工剥片	SHB138	3.30	5.65	0.90	20.96	サヌカイト	
201	1406	B	加工剥片	SHB528	3.15	1.35	0.45	1.93	サヌカイト	
201	1407	B	未成品	SHB690 (SKB846)	3.65	2.90	0.80	11.35	サヌカイト	
201	1408	B	未成品	SHB690 (SKB846)	3.05	2.45	1.15	12.23	サヌカイト	
201	1409	B	不明品(未成品)	SHB690 (SKB846)	4.50	1.50	0.55	5.58	サヌカイト	自然面あり、石小刀未成品
201	1410	B	未成品	SHB690 (SKB846)	3.50	1.45	0.70	5.08	サヌカイト	
201	1411	C	スクレイパー	SHC132	2.90	5.25	0.65	10.93	サヌカイト	自然面あり
201	1412	C	加工剥片	SHC479a	2.60	2.30	0.75	6.83	サヌカイト	自然面あり
201	1413	A	石錐未成品	SKA69	3.05	2.30	0.70	4.28	サヌカイト	先端部折損
201	1414	A	加工剥片	SKA79	2.55	3.85	0.50	5.57	サヌカイト	
201	1415	A	加工剥片	SKA78	4.60	8.30	0.40	13.55	粘板岩	
201	1416	A	加工剥片	SKA78	3.00	2.55	0.40	2.20	サヌカイト	自然面あり
201	1417	A	加工剥片	SKA78	2.85	3.50	0.50	4.64	サヌカイト	

観 察 表

201	1418	B	不明品(未成品)	SKB819	4.15	1.60	0.45		サヌカイト	
201	1419	C	未成品	SKC75	2.60	1.90	0.55	2.71	サヌカイト	
201	1420	C	未成品	SKC163	7.70	2.15	0.75	11.67	粘板岩	研磨痕あり
202	1421	C	石槍未成品?	SEC453	9.95	5.00	2.75	132.4	サヌカイト	自然面あり
202	1422	C	未成品	SEC453	4.10	1.90	0.95	8.28	サヌカイト	石錐未成品?
202	1423	A	加工剥片	SDA49	5.55	6.00	1.05	44.39	粘板岩	自然面あり
202	1424	A	加工剥片	SDA49-3区	4.10	4.00	1.15	13.43	サヌカイト	
202	1425	A	加工剥片	SDA49-3区	3.30	4.65	0.85	12.28	サヌカイト	自然面あり
202	1426	A	加工剥片	SDA58	2.50	3.75	0.30	4.00	サヌカイト	
202	1427	A	未成品	SDA68-5区	6.00	5.50	1.15	46.62	サヌカイト	自然面あり
202	1428	A	加工剥片	SDA68-5区	4.25	5.50	1.25	30.81	サヌカイト	
202	1429	A	加工剥片	SDA68-5区	3.90	4.00	0.55	7.26	サヌカイト	
202	1430	C	加工剥片	SDC25	4.65	4.15	0.70	16.44	サヌカイト	
202	1431	C	加工剥片	SDC401	5.80	2.60	1.25	21.32	サヌカイト	
202	1432	A	加工剥片	包含層	2.90	3.35	0.45	3.32	粘板岩	
202	1433	A	スクレイパー未 成品?	包含層	3.60	4.20	0.70	16.15	サヌカイト	

付表27 石材観察表

図版番号	番号	調査区	遺構	全長(残存長)(cm)	幅(残存幅)(cm)	厚さ(最大厚)(cm)	重量(g)	石材	備考
203	1434	A	SDA68-5区	7.30	8.40	4.65	290.8	チャート(黄)	打割分割品
203	1435	A	SDA68-5区	6.45	8.70	2.70	113.9	粘板岩	打割分割品
203	1436	A	SDA68-5区	9.45	6.55	6.40	490	チャート(赤)	打割分割品、剥離成形
203	1437	A	SDA68-5区	11.40	6.75	5.80	485	頁岩	打割分割品
203	1438	A	SDA68-5区	9.15	9.30	3.00	205.0	砂岩	剥片
203	1439	A	SDA68-5区	22.20	6.30	5.55	870	粘板岩	転石打割分割品
203	1440	A	SDA68-5区	9.00	8.60	4.65	450	砂岩	砥石破片?
203	1441	A	SDA68-5区	7.20	9.90	4.95	410	砂岩	破片
203	1442	A	SDA68-5区	6.30	10.50	5.25	510	砂岩	打割分割品、わずかな敲打痕
203	1443	A	SDA68-5区	12.45	7.35	6.65	750	砂岩	打割分割品
204	1444	A	SDA68-5区	12.00	7.05	4.50	320	砂岩	剥片
204	1445	A	SDA68-5区	10.15	5.25	4.65	385	閃緑岩	擦痕あり、打割分割品
204	1446	A	SDA68-5区	12.30	8.85	3.50	410	砂岩	表面破片
204	1447	A	SDA68-5区	9.45	4.80	3.10	193.8	頁岩	破片
204	1448	A	SDA68-5区	14.25	7.65	6.75	830	頁岩	打割分割品
204	1449	A	SDA68-5区	8.95	6.35	5.70	320	砂岩	破片
204	1450	A	SDA68-5区	17.25	7.45	6.15	1100	砂岩	打割分割品
204	1451	A	SDA68-5区	10.65	14.25	7.80	1100	砂岩	打割分割品
204	1452	A	SDA68-5区	11.40	10.20	4.60	440	砂岩	剥片
204	1453	A	SDA68-5区	7.95	8.65	10.35	650	頁岩	打割分割品
205	1454	B	SKB816 付近	8.85	12.00	2.70	1000	粘板岩	打割分割品、研磨痕あり
205	1455	B	SKB1171	10.60	12.90	3.30	630	粘板岩	打割分割品
205	1456	C	包含層	6.70	5.20	4.30	242.4	碧玉	打割石核状、研磨痕あり
205	1457	A	包含層	4.80	13.05	1.30	101.5	粘板岩	研磨痕あり
205	1458	B	包含層	5.20	9.00	2.70	144.2	粘板岩	研磨痕あり
205	1459	A	包含層	11.10	9.20	7.80	315	粘板岩	研磨痕あり
205	1460	A	包含層	4.05	5.20	0.65	27.50	紅簾片岩	
205	1461	A	包含層	7.05	12.75	2.75	305	粘板岩	研磨痕あり
205	1462	C	包含層	19.50	15.00	2.70	1200	紅簾片岩	直方体状母岩
205	1463	A	包含層	14.50	6.70	4.85	650	安山岩	研磨痕あり

付表28 台石ほか観察表

図版番号	番号	器種名	調査区	遺構	全長(残存長)(cm)	幅(残存幅)(cm)	厚さ(最大厚)(cm)	重量(g)	石材	備考
206	1464	台石	C	SHC450	18.90	20.80	8.8	4400	砂岩	
206	1465	台石	C	SHC451-2区	20.5	13.4	7.5	2400	砂岩	
206	1466	空風輪	A	SDA51-SDA52	16.90	11.20	-	2600	花崗岩	
206	1467	石鍋	C	包含層	22.40(口径)	-	-	97.8	滑石	両方から穿孔、全体を研磨、破損後3片に分割
206	1468	紡錘車	B	包含層	6.2(径)	-	1.5	150	粘板岩	
206	1469	紡錘車	D	包含層	2.90(径)	3.00	0.45	6.0	砂岩?	
206	1470	硯	C	包含層	(4.70)	(6.30)	1.50	52.0	粘板岩	

付表29 玉観察表

図版 番号	番号	調 査 区	種 類	遺 構 番 号	全長(残 存 長)(mm)	幅(残存 幅)(mm)	厚さ(最 大 厚)(mm)	重量(g)	石材	備 考
207	1	C	素材石核	SHC451 中央土坑	38.00	52.50	30.00	38.70	碧玉	素材選択時の切除部分
207	2	C	素材石核	SHC451	36.50	54.50	29.00	43.00	碧玉	素材選択時の切除部分
208	3	C	素材石核	SHC451 中央土坑	64.50	55.00	32.00	68.6	碧玉	素材選択時の切除部分
208	4	C	形割未成品	SHC451	31.00	15.50	17.00	7.04	碧玉	施溝痕2カ所(平行)、被熱により変色
208	5	C	形割未成品	SHC451 (P5)	39.50	23.50	17.00	15.00	碧玉	施溝痕1カ所
208	6	C	形割未成品	SHC451 中央土坑	29.50	22.50	16.00	12.13	碧玉	施溝痕2カ所(平行)、一部自然面残る
209	7	C	形割未成品	SHC451	28.50	20.00	17.00	12.84	碧玉	施溝痕2カ所(直交)
209	8	C	形割未成品	SHC451 中央土坑	28.00	9.50	12.50	5.01	碧玉	施溝痕3カ所(平行)
209	9	C	形割未成品	SHC451	22.50	11.50	10.50	2.91	碧玉	施溝痕1カ所、研磨痕1面、自然面残る、製作時折損
209	10	C	形割未成品	SHC451	22.50	11.50	9.50	2.85	碧玉	施溝痕1カ所、研磨痕4面
209	11	C	形割未成品	SHC451 中央土坑 西北	20.50	11.00	9.50	2.33	碧玉	施溝痕4カ所(直交)、研磨痕1面、被熱により変色?
209	12	C	形割未成品	SHC451	20.50	11.50	5.50	1.63	碧玉	施溝痕1カ所、上面に研磨痕
209	13	C	形割未成品	SHC451 中央土坑	17.50	15.00	11.00	3.91	碧玉	施溝痕1カ所、研磨痕1面
209	14	C	形割未成品	SHC451	21.00	11.00	10.00	1.82	碧玉	施溝痕1カ所、上面に研磨痕、自然面残る
209	15	C	形割未成品	SHC451 (P21)	19.00	10.50	7.50	2.00	碧玉	施溝痕1カ所、施溝途中の溝3カ所(平行)
210	16	C	形割未成品	SHC451	15.00	10.50	13.50	2.40	碧玉	施溝痕1カ所、自然面残る
210	17	C	形割未成品	SHC451	17.50	9.00	9.50	1.71	碧玉	施溝痕1カ所、研磨痕1面
210	18	C	形割未成品	SHC451 (P12)	15.50	8.00	10.50	1.33	碧玉	施溝痕1カ所
210	19	C	形割未成品	SHC451	18.00	6.50	7.50	1.01	碧玉	施溝痕2カ所(直交)、自然面残る
210	20	C	形割未成品	SHC451	19.50	7.00	7.00	1.38	碧玉	上・側面に研磨痕3面(うち1面は研磨後調整剥離)
210	21	C	形割未成品	SHC451	15.50	9.50	6.00	1.61	碧玉	施溝痕2カ所(平行)、研磨痕4面
210	22	C	形割未成品	SHC451	16.00	7.50	8.50	1.30	碧玉	施溝痕2カ所(直交)、研磨痕2面、上面は調整剥離後研磨
210	23	C	形割未成品	SHC451	14.00	11.00	6.00	1.32	碧玉	施溝痕2カ所(直交)、下面は研磨後剥離
210	24	C	形割未成品	SHC451	15.00	7.50	6.00	1.10	碧玉	施溝痕1カ所、研磨痕2面
210	25	C	形割未成品	SHC451	17.50	9.50	4.50	0.91	碧玉	施溝痕2カ所(直交)、研磨痕2面
210	26	C	形割未成品	SHC451 中央土坑	18.50	10.50	7.50	1.59	碧玉	施溝痕3カ所(平行)、研磨痕1面、施溝を意図した擦痕、施溝箇所から割れていない面が1面
210	27	C	形割未成品	SHC451	13.50	6.50	8.00	0.78	碧玉	施溝痕2カ所(平行)、研磨痕1面
210	28	C	形割未成品	SHC451	15.00	5.50	6.00	0.95	碧玉	施溝痕2カ所(直交)
210	29	C	形割未成品	SHC451	14.00	7.50	5.00	0.77	碧玉	施溝痕3カ所(平行・直交)
210	30	C	形割未成品	SHC451	15.00	7.50	7.50	1.11	碧玉	施溝痕2カ所(平行)
210	31	C	形割未成品	SHC451	12.50	7.00	5.50	0.81	碧玉	施溝痕2カ所(平行)
210	32	C	形割未成品	SHC451 中央土坑	12.50	8.00	6.50	0.75	碧玉	施溝痕2カ所(平行)
210	33	C	形割未成品	SHC451	14.50	7.00	5.50	0.86	碧玉	施溝痕1カ所、研磨痕2面
210	34	C	形割未成品	SHC451	14.00	6.00	5.00	0.63	碧玉	施溝痕3カ所(平行)
210	35	C	形割未成品	SHC451	8.50	13.00	6.50	0.45	碧玉	施溝痕3カ所(平行・直交、うち1カ所は二重施溝)、下部折損
211	36	C	形割未成品	SHC451	13.00	7.50	8.00	0.87	碧玉	施溝痕3カ所(平行・斜行)
211	37	C	形割未成品	SHC451 中央土坑	14.50	7.00	8.50	0.85	碧玉	施溝痕3カ所(平行)

211	38	C	形割未成品	SHC451 (P5)	9.50	14.00	10.00	0.79	碧玉	施溝痕2カ所(平行)
211	39	C	管玉未成品	SHC451	13.00	6.00	8.00	0.76	碧玉	施溝痕1カ所、多角柱、研磨痕4面
211	40	C	形割未成品	SHC451	13.00	7.00	6.50	0.96	碧玉	施溝痕1カ所
211	41	C	形割未成品	SHC451	9.50	7.00	9.00	0.96	碧玉	施溝痕2カ所(平行)、研磨痕1面
211	42	C	形割未成品	SHC451	16.00	6.50	6.00	0.49	碧玉	施溝痕1カ所、上・側面に研磨痕、折損
211	43	C	形割未成品	SHC451	12.50	5.50	6.50	0.80	碧玉	施溝痕2カ所(直交)、研磨痕1面
211	44	C	形割未成品	SHC451 (P6)	8.50	7.50	6.50	0.54	碧玉	施溝痕1カ所、一部調整剥離後研磨
211	45	C	形割未成品	SHC451	12.50	6.50	4.00	0.41	碧玉	1面を除き調整剥離痕、研磨痕1面
211	46	C	形割未成品	SHC451	7.50	9.50	5.50	0.52	碧玉	施溝痕3カ所(平行・直交)、下面に研磨痕
211	47	C	形割未成品	SHC451	9.50	5.50	5.50	0.38	碧玉	研磨痕1面
211	48	C	形割未成品	SHC451	9.50	5.50	5.00	0.39	碧玉	施溝痕1カ所
211	49	C	形割未成品	SHC451	9.50	6.00	4.50	0.24	碧玉	一部研磨痕
211	50	C	形割未成品	SHC451	5.00	5.00	7.50	0.27	碧玉	施溝痕3カ所(平行)
211	51	C	形割未成品	SHC451 (P7)	8.50	6.00	3.50	0.19	碧玉	施溝痕2カ所(直交)、上面に研磨痕
211	52	C	形割未成品	SHC451	10.50	4.50	2.00	0.13	碧玉	1面のみ研磨
211	53	C	形割未成品	SHC451	7.50	5.50	8.00	0.33	碧玉	施溝痕1カ所
211	54	C	形割未成品	SHC451 (P5)	6.00	4.00	5.00	0.12	碧玉	施溝痕2カ所(直交)
212	55	C	形割未成品	SHC451	24.00	10.00	8.50	3.01	碧玉	五角柱、施溝痕1カ所、研磨痕4面、うち1面は研磨後調整剥離
212	56	C	形割未成品	SHC451	18.50	4.50	4.50	0.99	碧玉	六角柱(うち2面は施溝箇所を面取り)、全面に研磨痕
212	57	C	形割未成品	SHC451	12.41	6.76	7.10	0.98	碧玉	八角柱、1面を除き右上方方向研磨痕
212	58	C	管玉未成品	SHC451	23.50	5.57	5.36	1.16	碧玉	12角柱、全面に右上方方向研磨痕
212	59	C	管玉未成品	SHC451	16.60	6.13	5.82	1.10	碧玉	多角柱、側面に縦・左上方向研磨痕
212	60	C	管玉未成品	SHC451 中央土坑 周辺	14.50	6.98	7.02	0.65	碧玉	多角柱、側面に縦方向研磨痕、下部折損、やや軟
212	61	C	形割未成品	SHC451	4.75	4.88	3.56	0.14	碧玉	7角柱、二重の施溝痕1カ所、上・側面4面に研磨痕
212	62	C	管玉未成品	SHC451	5.10	4.28	4.13	0.13	碧玉	円柱に近い多角柱、側面に縦方向研磨痕、上部折損、やや軟
212	63	C	管玉未成品	SHC451 中央土坑	5.50	3.25	2.32	0.05	碧玉	11角柱、側面に縦方向研磨痕
212	64	C	管玉未成品	SHC451	4.66	3.68	3.45	0.08	碧玉	8角柱、側面に縦方向研磨痕、下部折損
212	65	C	管玉未成品	SHC451 (P14)	2.80	4.39	4.25	0.06	碧玉	円柱に近い多角柱、側面に縦方向研磨痕、長さ調節?
212	66	C	管玉未成品	SHC451 (P6)	2.02	4.55	3.66	0.05	碧玉	円柱に近い多角柱、側面に縦方向研磨痕、長さ調節?
212	67	C	管玉	SHC451	18.35	3.66	3.49	0.34	碧玉	研磨痕残らず、断面やや楕円形、両面穿孔(径1.98mm・1.98mm)
212	68	C	管玉未成品	SHC451 (P6)	7.51	4.20	1.47	0.07	碧玉	多角柱、側面に左上方向研磨痕、穿孔後に両端折損、穿孔部(径1.40mm)に回転研磨痕
212	69	C	管玉未成品	SHC451	7.00	4.25	4.00	0.18	碧玉	多角柱、上面に穿孔痕(未貫通)
212	70	C	管玉未成品 破片	SHC451	12.50	8.00	3.75	0.55	碧玉	ほぼ全面に研磨痕、穿孔部に回転研磨痕、製作時に破損?
212	71	C	管玉未成品 破片	SHC451	5.09	3.55	2.00	0.05	碧玉	多角柱、側面に左上方向研磨痕、半截後下部折損、穿孔部に回転研磨痕・中央突出、穿孔時破損? 下面折損部にも穿孔痕、先端は同心円状に突出あり
212	72	C	管玉未成品 破片	SHC451	4.23	5.02	2.57	0.05	碧玉	研磨痕残らず、大部分を折損
212	73	C	管玉未成品 破片	SHC451	5.96	4.24	2.42	0.07	碧玉	研磨痕残らず、半截後下部折損、穿孔部(径2.29mm)に回転研磨痕、下部研磨痕はとくに強い

観 察 表

212	74	C	管玉未成品 破片	SHC451	8.35	4.76	2.78	0.12	碧玉	側面に縦方向研磨痕、穿孔部(径1.86mm)に回転研磨痕、使用時に破損?
213	75	A	素材石核	SHA74	51.50	27.50	20.50	29.10	碧玉	素材選択時の切除部分?
213	76	A	素材石核	SHA74	44.50	21.00	5.00	5.38	碧玉	やや軟
213	77	A	形割未成品	SHA74	31.50	20.00	25.00	16.38	碧玉	施溝痕1カ所
213	78	A	形割未成品	SHA74	37.00	20.00	20.00	15.82	碧玉	施溝痕5カ所(平行・直交・斜行)、上面に研磨痕
213	79	A	形割未成品	SHA74	30.50	29.50	20.50	16.51	碧玉	施溝痕1カ所、製作時折損
214	80	A	形割未成品	SHA74	41.00	18.00	14.00	14.01	碧玉	施溝痕2カ所(直交)、自然面残る
214	81	A	形割未成品	SHA74	25.50	13.50	18.00	7.73	碧玉	施溝痕2カ所(直交)、研磨痕1面、施溝を意図した痕跡、自然面残る
214	82	A	形割未成品	SHA74	32.00	14.00	13.50	8.86	碧玉	施溝痕1カ所、横方向に平行して2本のV字状切込み、自然面残る
214	83	A	形割未成品	SHA74	21.50	21.00	12.00	7.07	碧玉	施溝痕2カ所(平行)、自然面残る、やや軟
214	84	A	形割未成品	SHA74	22.00	11.00	12.00	4.13	碧玉	施溝痕3カ所(平行)、研磨痕1面
214	85	A	形割未成品	SHA74	19.00	12.00	12.00	3.95	碧玉	施溝痕3カ所(平行)
214	86	A	形割未成品	SHA74 (SKA110)	25.00	10.50	9.00	4.23	碧玉	施溝痕1カ所
214	87	A	形割未成品	SHA74	25.50	12.00	10.25	2.21	碧玉	施溝痕2カ所(平行)、研磨痕1面、製作時折損
214	88	A	形割未成品	SHA74	25.00	8.50	19.00	4.41	碧玉	施溝痕2カ所(平行)、研磨痕1面、自然面残る、製作時折損
215	89	A	形割未成品	SHA74	20.50	21.00	8.50	2.77	碧玉	施溝痕2カ所(平行)、製作時折損
215	90	A	形割未成品	SHA74 (SDA59)	19.00	10.50	8.50	2.25	碧玉	やや軟
215	91	A	形割未成品	SHA74	16.00	18.00	5.50	1.52	碧玉	施溝痕1カ所・やや軟
215	92	A	形割未成品	SHA74	15.50	16.50	10.00	3.63	碧玉	施溝痕1カ所、研磨面2面、うち1面は研磨後に調整剥離
215	93	A	形割未成品	SHA74 (SKA110)	22.00	9.00	8.00	3.48	碧玉	施溝痕1カ所
215	94	A	形割未成品	SHA74 (SKA110)	22.00	10.00	10.00	3.40	碧玉	施溝痕2カ所(平行)
215	95	A	形割未成品	SHA74 (SKA110)	13.00	8.00	15.50	3.34	碧玉	施溝痕2カ所(平行)、研磨痕5面、やや軟
215	96	A	形割未成品	SHA74	16.50	13.50	6.00	0.87	碧玉	施溝痕2カ所(平行)、研磨痕1面、製作時折損
215	97	A	形割未成品	SHA74	17.00	9.50	8.50	1.91	碧玉	施溝痕3カ所(平行)、研磨面1面、製作時折損
215	98	A	形割未成品	SHA74	21.00	12.50	7.50	0.63	碧玉	施溝痕2カ所(直交)、製作時折損
215	99	A	形割未成品	SHA74	19.00	6.50	12.00	1.27	碧玉	施溝痕1カ所、大部分を折損、施溝部研磨・丸みを帯びる
215	100	A	形割未成品	SHA74	19.50	8.00	8.00	1.86	碧玉	施溝痕1カ所
215	101	A	形割未成品	SHA74	15.50	9.50	3.50	0.37	碧玉	施溝痕1カ所(二重施溝)、被熱により変色?
215	102	A	形割未成品	SHA74	15.00	8.00	11.00	2.08	碧玉	施溝痕2カ所(直交)
215	103	A	形割未成品	SHA74	16.50	9.00	8.30	1.30	碧玉	施溝痕1カ所、製作時折損
215	104	A	形割未成品	SHA74	15.00	8.00	6.00	0.81	碧玉	施溝痕2カ所(直交)、製作時折損
215	105	A	形割未成品	SHA74	20.50	5.80	6.00	0.76	碧玉	施溝痕2カ所(平行)、研磨痕1面
215	106	A	形割未成品	SHA74	13.50	10.50	10.00	1.19	碧玉	施溝痕1カ所、研磨痕1面、自然面残る、製作時折損
215	107	A	形割未成品	SHA74 (SKA110)	17.00	6.50	7.00	1.27	碧玉	施溝痕2カ所(平行)、研磨痕2面
215	108	A	形割未成品	SHA74	10.50	9.50	7.50	0.65	碧玉	施溝痕2カ所(平行)、うち1カ所は二重施溝、研磨痕1面、製作時折損
216	109	A	管玉未成品	SHA74	22.14	7.49	7.52	2.36	碧玉	13角柱、全面に右上方向研磨痕
216	110	A	管玉未成品	SHA74	14.92	4.62	3.20	0.58	碧玉	12角柱、全面に縦方向研磨痕、うち2面は幅広く調整剥離痕やや残る
216	111	A	管玉未成品 破片	SHA74	4.49	8.64	8.62	0.38	碧玉	稜が甘い4角柱、全側面に縦方向研磨痕、下部の大部分を折損、長さ調節?
216	112	A	管玉未成品 破片	SHA74	1.82	7.23	6.76	0.09	碧玉	多角柱、上・側面に縦方向研磨痕、上端一部のみ残存、長さ調節?

216	113	A	管玉未成品 破片	SHA74	6.72	5.35	2.10	0.07	碧玉	稜の甘い多角柱、全側面に縦方向研磨痕、大部分を折損
216	114	A	管玉	SHA74	6.31	2.78	2.90	0.09	碧玉	研磨痕残らず、両面穿孔(径1.17mm・1.11mm)
216	115	A	管玉	SHA74	4.76	2.12	2.12	0.03	碧玉	研磨痕残らず、両面穿孔(径1.16mm・1.16mm)
216	116	A	管玉未成品 破片	SHA74	2.33	4.15	3.62	0.05	碧玉	8角柱、上面・全側面に縦方向研磨痕、長さ調節?
216	117	A	管玉未成品	SHA74	3.05	3.36	2.18	0.02	碧玉	多角柱、全面に右上方向研磨痕、回転研磨痕残る、穿孔部(径1.35mm)先端は折損
216	118	A	形割未成品	SHA98	28.00	22.00	12.50	8.46	碧玉	施溝痕1カ所、製作時折損、自然面残る
216	119	A	形割未成品	SHA98	31.00	16.40	8.70	4.43	碧玉	施溝痕1カ所
216	120	A	形割未成品	SHA98	20.00	7.00	14.00	2.05	碧玉	施溝痕1カ所、研磨痕1面、自然面残る
216	121	A	形割未成品	SHA98	20.50	17.00	16.00	6.85	碧玉	6角柱、研磨痕2面、上部折損
216	122	A	形割未成品	SHA98	4.00	15.00	6.00	0.29	碧玉	施溝痕1カ所、上下部折損
216	123	A	形割未成品	SHA98	11.00	8.50	3.00	0.29	碧玉	施溝痕1カ所、大部分を折損
216	124	A	形割未成品	SHA98	18.00	8.50	6.00	0.75	碧玉	施溝痕1カ所、研磨痕1面、製作時折損
216	125	A	形割未成品	SHA98	4.00	10.00	9.00	0.27	碧玉	施溝痕2カ所(直交)、研磨痕1面、大部分を折損
216	126	A	形割未成品	SHA98	13.00	9.00	6.50	0.95	碧玉	施溝痕1カ所
216	127	A	管玉未成品	SHA98	10.09	5.24	4.14	0.39	碧玉	8角柱、全面に縦方向研磨痕(うち2カ所は施溝後面取り?)、研磨後下面折損、やや軟
216	128	A	管玉未成品 破片	SHA98	4.77	5.34	5.08	0.18	碧玉	円柱に近い9角柱、上・側面に縦方向研磨痕、下部折損、長さ調節?
216	129	A	管玉未成品 破片	SHA98	5.83	5.65	3.24	0.09	碧玉	円柱に近い多角柱、半截後、下部折損、穿孔中に折損? 穿孔部に回転研磨痕
216	130	C	形割未成品	SHC479a (P1)	23.00	13.50	15.00	4.46	碧玉	研磨痕1面
216	131	C	形割未成品	SHC479a	14.00	14.50	10.10	1.65	碧玉	施溝痕2カ所(平行)、大部分を折損
216	132	C	形割未成品	SHC479a 東住居群	12.00	8.50	6.00	1.14	碧玉	施溝痕2カ所(平行)、施溝途中4カ所(平行)、研磨痕2面
216	133	C	形割未成品	SHC479a	16.50	6.00	3.00	0.56	碧玉	施溝痕1カ所、1/2折損
216	134	C	形割未成品	SHC479a	14.60	6.05	3.45	0.44	碧玉	施溝痕1カ所、下部折損
216	135	C	管玉未成品	SHC479a	7.52	2.24	2.26	0.06	碧玉	9角柱、上面以外を研磨、下半部に回転研磨痕、石針(c3)?
216	136	C	管玉未成品	SHC479a	4.76	2.33	2.25	0.05	碧玉	11角柱、全面に右上方向研磨痕
216	137	C	管玉未成品	SHC479a	4.87	2.94	2.93	0.09	碧玉	6角柱(うち2カ所は施溝後面取り?)、側面に縦方向研磨痕、下部折損
216	138	C	管玉	SHC479a	8.02	1.98	1.98	0.05	碧玉	両面穿孔、孔径0.85mm・0.98mm、研磨痕残らず、上下面とも研磨後細かい剥離(使用による?)
216	139	C	管玉	SHC479a	5.00	2.10	2.09	0.04	碧玉	研磨痕残らず、片面から穿孔(径1.02mm・0.81mm)
216	140	C	白玉	SHC479a	4.40	4.64	4.56	0.11	滑石	上下・側面に研磨痕、中央やや膨らみ研磨方向変化、片面穿孔(径2.24mm・1.76mm)
216	141	C	白玉	SHC479a	4.00	5.00	2.50	0.09	滑石	ほぼ全面に研磨痕、片面穿孔(径1.81mm・1.51mm)? 穿孔部に回転研磨痕
217	142	A	形割未成品	SHA107	28.00	9.50	8.00	3.04	碧玉	施溝痕2カ所(平行)
217	143	B	形割未成品	SHB137	16.50	15.00	3.00	1.30	碧玉	節理により板石状
217	144	B	管玉未成品	SHB137	20.10	4.50	4.50	0.75	碧玉	円柱に近い9角柱、側面に縦方向研磨痕
217	145	B	管玉未成品	SHB137	13.50	3.00	3.00	0.30	碧玉	施溝痕2カ所、研磨痕1面
217	146	B	管玉未成品	SHB137	6.00	2.60	2.40	0.07	碧玉	13角柱、側面全面に縦方向研磨痕
217	147	B	管玉未成品	SHB137	5.00	2.50	2.50	0.06	碧玉	10角柱、側面全面に縦方向研磨痕
217	148	B	管玉	SHB137	4.50	2.60	2.60	0.05	碧玉	研磨痕残らず、上面から穿孔、貫通直前に下面からも穿孔(向かい穴程度)



観 察 表

217	149	B	形割未成品	SHB138	16.50	7.00	11.00	1.52	碧玉	施溝痕2カ所(斜交)、研磨痕1面、自然面残る、やや軟
217	150	B	形割未成品	SHB138	17.50	9.50	9.00	1.96	碧玉	施溝痕1カ所
217	151	B	管玉未成品	SHB138	6.80	3.10	3.00	0.10	碧玉	11角柱、側面に縦・右上方向研磨痕、両面穿孔(径1.28mm・1.22mm)、一部折損
217	152	B	管玉	SHB138	6.30	2.10	2.10	0.05	碧玉	研磨痕残らず、両面穿孔(径0.80mm・0.70mm)
217	153	B	形割未成品	SHB139	13.00	15.00	6.00	2.10	碧玉	施溝痕1カ所、研磨痕1面
217	154	B	形割未成品	SHB141	22.50	32.50	15.00	13.00	碧玉	施溝痕1カ所、上・側面に研磨痕、一部研磨後に調整剥離
217	155	B	管玉	SHB146	2.90	1.80	1.80	0.01	碧玉	研磨痕残らず、片面穿孔(径1.14mm・0.85mm)
217	156	B	管玉未成品	SHB147	13.10	5.30	5.20	0.63	碧玉	12角柱、側面に右上方向研磨痕、両端から穿孔中に石針折損(径1.98mm・1.78mm)、孔内に石針残る、穿孔部に回転研磨痕
217	157	B	勾玉破片	SHB147	4.00	2.50	2.00	0.04	翡翠	1面以外研磨痕、勾玉の一部、162と接合
217	158	B	管玉未成品	SHB148	5.00	2.50	2.50		碧玉	多角柱、未穿孔
217	159	B	形割未成品	SHB149	12.50	6.50	6.00	0.80	碧玉	施溝痕2カ所(平行)
217	160	B	管玉未成品破片	SHB149	4.50	5.00	4.00	0.10	碧玉	5角柱、側面に縦方向研磨痕、製作時下部折損、長さ調節?
217	161	B	管玉未成品	SHB149	14.60	3.10	3.00	0.21	碧玉	12角柱、上面・全側面に縦方向研磨痕
217	162	B	勾玉	SHB149	12.70	8.20	3.20	0.50	翡翠	157と接合、片面穿孔(径2.72mm・1.05mm)
217	163	B	形割未成品	SHB152	9.50	4.00	2.50	0.11	碧玉	3角柱
217	164	B	管玉	SHB152	5.60	2.30	2.30	0.05	碧玉	研磨痕残らず、片面穿孔(径1.02mm・0.85mm)、上下面の細かい剥離痕は使用時のもの?
217	165	B	管玉	SHB152	4.40	2.80	2.70	0.05	碧玉	研磨痕残らず、両面穿孔(径1.41mm・1.35mm)
217	166	B	形割未成品	SHB528	11.00	3.00	3.50	0.15	碧玉	施溝痕2カ所(平行)、研磨面1面、自然面残る
217	167	B	形割未成品	SHB538	16.50	12.00	11.50	2.65	碧玉	施溝痕1カ所、自然面残る、製作時折損
217	168	B	形割未成品	SHB539	33.50	26.50	22.50	22.40	青チャート	施溝痕1カ所、上面に自然面残る
217	169	B	形割未成品	SHB539	36.00	14.50	20.00	11.13	碧玉	施溝痕1カ所に平行して施溝仕損ね痕
217	170	B	管玉	SHB542	3.80	1.80	1.80	0.02	碧玉	研磨痕残らず、上下面はややいびつ、片面穿孔(径0.86mm・0.63mm)
217	171	B	管玉	SHB742	3.90	2.00	1.40	0.01	碧玉	研磨痕残らず、両面穿孔(径0.88mm)、孔内に回転研磨痕、使用時破損?
218	172	B	素材石核	SHB690	45.50	34.50	21.50	29.30	碧玉	施溝痕1カ所、浅い施溝痕が3カ所平行
218	173	B	形割未成品	SHB691	27.50	14.50	14.50	6.60	碧玉	施溝痕1カ所、研磨痕1面
218	174	B	形割未成品	SHB709	11.50	6.00	8.50	0.67	碧玉	施溝痕2カ所(平行)、研磨痕1面、下部折損
218	175	B	形割未成品	SHB690	28.00	31.50	18.00	26.70	碧玉	施溝痕2カ所(直交)、研磨痕1面
218	176	B	形割未成品	SHB706	32.00	35.00	24.50	31.10	碧玉	施溝痕2カ所(直交)、うち1カ所は二重施溝、一部に石英付着
219	177	C	形割未成品	SHC135b (SKC139)	22.00	19.00	16.00	10.07	碧玉	施溝痕3カ所(平行・直交)
219	178	C	形割未成品	SHC135b	18.50	20.00	12.50	5.19	碧玉	施溝痕2カ所(直交)、うち1カ所は二重施溝、多方向の研磨痕1面
219	179	C	形割未成品	SHC168	30.50	16.00	13.50	7.51	碧玉	施溝痕2カ所(平行)、研磨痕1面
219	180	C	管玉未成品	SHC167	15.40	5.90	5.70	0.82	碧玉	稜のあまい10角柱、側面に縦・左上方向研磨痕
219	181	C	形割未成品	SHC168	14.50	9.50	9.40	1.27	碧玉	施溝痕2カ所(平行)
219	182	C	管玉未成品破片	SHC168	1.20	4.90	5.20	0.04	碧玉	上・側面に縦方向研磨痕、稜のあまい多角柱を打割、長さ調節?

219	183	C	管玉未成品 破片	SHC168	4.00	5.50	3.00	0.08	碧玉	側面は円柱に近い多角柱、研磨方向は縦、上部折損
219	184	C	形割未成品	SHC169	14.50	11.50	10.00	2.44	碧玉	施溝痕1カ所、研磨痕1面
219	185	C	形割未成品	SHC173b	23.50	7.50	14.30	2.42	碧玉	施溝痕2カ所(平行)、うち1カ所は二重施溝、一部研磨痕
219	186	C	形割未成品	SHC450	20.00	11.00	12.50	2.30	碧玉	施溝痕2カ所(直交)
219	187	C	管玉未成品 破片	SHC450 (P4)	3.40	2.50	1.20	0.02	碧玉	多角柱、上・側面に右方向研磨、両面から穿孔(未貫通)、孔内に回転研磨痕、半截後下部折損
219	188	C	形割未成品	SHC460	29.50	62.00	23.00	60.1	碧玉	打割により直方体状に整形
219	189	C	形割未成品	SHC460	9.00	8.00	5.50	0.38	碧玉	施溝痕2カ所(平行)、研磨痕1面、下部折損
219	190	C	管玉未成品	SHC460	11.00	4.80	3.50	0.23	碧玉	稜のあまい多角柱、上・側面に研磨痕(側面は左上方向研磨)、半截後折損
219	191	C	管玉未成品 破片	SHC460	10.00	4.50	2.00	0.10	碧玉	多角柱、側面に左上方向研磨痕、大部分を折損
219	192	C	管玉未成品	SHC460	4.20	2.40	2.20	0.04	碧玉	12角柱、全面に研磨痕(側面は縦・右上方向研磨)、上面から穿孔途中(径1.08mm)、孔内に回転研磨痕
219	193	C	管玉未成品 破片	SHC460	4.70	5.70	4.50	0.12	碧玉	稜のあまい多角柱、上・側面に研磨痕(側面は縦方向研磨)、穿孔時破損(径1.67mm)、回転研磨痕残る
219	194	C	管玉	SHC460	9.50	2.70	2.70	0.10	碧玉	研磨痕残らず、両面穿孔(径1.20mm・1.08mm)、白味が強い
219	195	C	形割未成品	SHC487	19.00	4.00	3.00	0.35	碧玉	施溝痕1カ所、研磨痕2面
219	196	C	管玉未成品 破片	SHC487	10.30	2.80	11.40	0.55	碧玉	全面に研磨痕、研磨が重複する面あり、長さ調節? 剥離後の研磨あり、SHC479出土の可能性あり
219	197	C	管玉未成品 破片	SHC487	5.00	4.70	4.40	0.19	碧玉	15角柱、側・下面に右上方向研磨痕、上部角に施溝痕4カ所(直交)、長さ調節?
220	198	C	形割未成品	SHC492	21.50	9.00	9.00	1.75	碧玉	施溝痕1カ所
220	199	C	形割未成品	SHC492	14.50	9.50	6.00	1.05	碧玉	施溝痕2カ所(平行)
220	200	C	管玉未成品	SHC492	8.90	2.60	2.70	0.10	碧玉	12角柱、側面に縦方向研磨痕、両面穿孔(径1.18mm・1.05mm)、やや灰色味強い
220	201	C	形割未成品	SHC571	11.00	8.00	7.00	0.60	碧玉	施溝痕2カ所(平行)、下部折損
220	202	C	管玉未成品	SHC571	8.80	2.90	2.90		碧玉	14角柱、側面に右上方向研磨痕、上面から穿孔途中に石針が折損し孔内に残る、孔径1.32mm、石針径は1.22mm
220	203	C	素材石核	SHC572	33.25	42.00	34.80	87.4	碧玉	施溝痕1カ所
220	204	C	形割品(クサビ?)	SHC572	14.00	10.00	5.50	0.97	碧玉	施溝痕2カ所(直交)、一部研磨後に剥離した面あり、楔状工具か
220	205	C	形割未成品	SHC572	13.00	12.00	9.50	1.25	碧玉	施溝痕5カ所(平行・直交)、うち1カ所は施溝途中、研磨痕1面、下部折損
220	206	D	素材石核	SHD23	62.50	51.50	22.50	105.4	碧玉	研磨痕2面、研磨方向は3方向、やや軟、節理発達、層状に割れやすい、砥石に転用
220	207	D	形割未成品 中央土坑	SHD23	22.50	16.00	14.00	4.23	碧玉	施溝痕1カ所、研磨痕1面、折損
220	208	D	形割未成品	SHD23	23.50	11.00	12.50	3.24	碧玉	施溝痕2カ所(直交)、上面に研磨痕
220	209	D	形割未成品	SHD23	12.00	9.00	5.50	1.14	碧玉	施溝痕1カ所
220	210	D	形割未成品	SHD39	8.50	5.50	6.50	0.29	碧玉	施溝痕1カ所
220	211	D	形割未成品	SHD39	12.50	7.00	8.00	1.08	碧玉	施溝痕3カ所(平行)、研磨痕2面
221	212	A	管玉	SKA16	5.60	2.10	2.10	0.04	碧玉	研磨痕残らず、片面穿孔(径1.40mm・0.47mm)
221	213	A	管玉	SKA16	3.70	2.30	2.30	0.03	碧玉	研磨痕残らず、両面穿孔(径1.03mm・1.03mm)
221	214	A	勾玉	SKA16	6.40	3.70	0.70	0.07	翡翠	表面はやや稜があまいが裏面は稜をあまり研磨せず、片面穿孔(径1.71mm・0.92mm)
221	215	A	形割未成品	SKA66	20.00	25.00	25.00	15.06	碧玉	施溝痕2カ所(平行)、自然面残る
221	216	A	形割未成品	SKA69	27.00	18.00	15.00	9.44	碧玉	施溝痕2カ所(平行)、研磨痕3面、自然面残る

観 察 表

221	217	B	素材石核	SKB663	70.00	48.00	34.50	125.3	碧玉	軟質、碧玉質の部分が薄く残存、素材獲得時の切除部分
221	218	B	形割未成品	SKB771	22.50	8.50	3.50	0.64	碧玉	施溝痕2カ所(直交)、いずれも二重に施溝、一部研磨痕残る、遺棄部分?
221	219	B	管玉未成品	SKB771	6.60	3.20	1.80	0.07	碧玉	側面に縦方向研磨痕、ほぼ円柱状、両面穿孔(径1.19mm・1.16mm)、孔内に回転研磨痕、穿孔時に半截
221	220	B	形割未成品	SKB775	17.00	7.00	8.50	1.30	碧玉	施溝痕3カ所(平行・直交)、2カ所は施溝痕上に直交して施溝途中、研磨痕2面、石英質の自然面残る
221	221	B	形割未成品	SHB528 (SKB845)	8.50	9.00	9.00	0.74	碧玉	施溝痕3カ所(平行)、下部折損
221	222	B	管玉	SKB884	28.60	9.40	9.40	4.54	碧玉	研磨痕残らず、両面穿孔(径2.50mm・2.56mm)、端部の細かい剥離は使用時?
221	223	B	管玉未成品	SHB667 (SKB994)	2.30	5.60	5.30	0.06	碧玉	多角柱、上・側面に研磨痕(側面は縦方向研磨)、上面に穿孔途中の窪み(径1.93mm、回転研磨痕)、穿孔部先端は盛上がった後やや窪む、下面打割、長さ調節?
221	224	B	形割未成品	SKB1136	26.00	14.50	13.00	3.81	碧玉	施溝痕1カ所、自然面残る
221	225	B	管玉未成品	SKB1136	22.90	10.50	9.70	3.90	碧玉	稜のあまい14角柱、側面は縦方向研磨、下半部に最大径
222	226	B	素材石核	SKB901	48.00	29.00	29.00	33.20	碧玉	施溝痕1カ所、素材選択時の切除部分
222	227	B	形割未成品	SKB801	41.00	23.00	27.50	27.30	碧玉	施溝痕1カ所
222	228	C	形割未成品	SKC75	18.00	13.00	15.50	7.24	碧玉	施溝痕2カ所(平行)、一部除き研磨痕
222	229	C	形割未成品	SKC75	14.00	8.00	7.00	0.82	碧玉	施溝痕2カ所(直交)、研磨痕1面
222	230	C	形割未成品	SKC75	7.50	8.50	8.50	0.72	碧玉	施溝痕4カ所(平行・直交)、上面研磨後2本目施溝中に破損さらに折損
222	231	C	管玉未成品	SKC75	5.95	3.67	4.51	0.14	碧玉	施溝痕3カ所(平行)、上下面を研磨、側面に研磨痕なし
222	232	C	形割未成品	SKC75	7.00	2.50	2.50	0.11	碧玉	施溝痕1カ所、研磨痕1面
222	233	C	管玉	SKC75	5.72	1.64	1.64	0.01	碧玉	研磨痕残らず、両面穿孔(径1.11mm・0.97mm)
222	234	C	管玉	SHC132 (SKC152)	4.31	2.11	2.11	0.03	碧玉	側面に縦方向研磨痕がやや残る、両面穿孔(径0.82mm・1.13mm)
222	235	C	形割未成品	SKC218	21.00	8.50	9.50	2.11	碧玉	施溝痕1カ所、一部自然面残る
222	236	C	形割未成品	SKC461	32.00	42.00	22.50	34.90	碧玉	施溝痕2カ所(平行)、うち1カ所は施溝途中、一部研磨痕
222	237	C	形割未成品	SKC484	11.50	7.50	6.75	0.61	碧玉	施溝痕4カ所(平行・直交)、研磨痕1面
222	238	C	形割未成品	SKC478a	15.00	8.00	7.75	0.89	碧玉	施溝痕1カ所、研磨痕1面、下部折損
222	239	C	形割未成品	SKC478a	20.50	15.00	17.00	5.30	碧玉	施溝痕3カ所(直交)、自然面残る
222	240	C	形割未成品	SEC453	23.00	14.50	26.50	7.58	碧玉	施溝痕1カ所、研磨痕1面、石材は層状に変色部分が巡る
222	241	C	素材石核	SEC453	21.00	29.50	13.50	9.86	碧玉	施溝痕1カ所、素材選択時の切除部分、ほぼ全面に自然面残る
222	242	C	形割未成品	SEC453	20.50	7.50	10.00	2.10	碧玉	下部打割、研磨痕1面
223	243	A	形割未成品	SDA59-3区	17.00	13.00	8.00	1.79	碧玉	施溝痕2カ所(直交)、製作時に破損?
223	244	A	形割未成品	SDA59-3区	20.20	15.00	10.20	4.06	碧玉	施溝痕1カ所、上部折損
223	245	A	形割未成品	SDA68-5区	44.75	40.50	24.25	39.60	碧玉	施溝痕2カ所(直交)、一部研磨痕
223	246	A	素材石核	SDA68-5区	53.00	35.50	17.00	34.20	碧玉	素材選択時の切除部分、やや軟
223	247	A	形割未成品	SDA68-1区	29.00	16.00	17.00	5.24	碧玉	施溝痕1カ所、下部折損
223	248	C	形割未成品	SDC110	12.00	4.00	6.00	0.32	碧玉	施溝痕1カ所、一部に研磨痕
223	249	C	形割未成品	SDC469- SDC470	14.50	15.50	9.00	2.23	碧玉	施溝痕2カ所、1カ所は施溝後研磨
223	250	B	素材石核	SDB333	28.00	27.00	24.50	23.50	碧玉	素材選択時の切除部分
224	251	A	形割未成品	SDA63	23.73	13.08	12.60	4.65	碧玉	施溝痕2カ所(直交)、一部自然面残る
224	252	C	形割未成品	SDC426	23.50	25.50	7.00	3.97	碧玉	剥片
224	253	A	形割未成品	SDA49?	26.00	12.00	9.00	4.28	碧玉	研磨面2面、白味強い、自然面残る
224	254	B	形割未成品	包含層	23.50	16.50	12.00	4.79	碧玉	施溝痕2カ所(直交)、自然面残る
224	255	A	形割未成品	包含層	26.00	19.25	12.00	5.73	碧玉	施溝痕2カ所(平行)、1カ所は下部折損後二重施溝、白味強い、自然面残る
224	256	C	形割未成品	包含層	22.65	14.50	9.00	4.24	碧玉	施溝痕1カ所、研磨痕4面

224	257	C	形割未成品	包含層	19.50	14.35	10.00	3.36	碧玉	施溝痕2カ所(直交)、一部研磨痕
225	258	A	形割未成品	包含層	37.00	29.00	26.50	28.80	碧玉	施溝痕2カ所(直交)
225	259	A	形割未成品	包含層	27.00	8.00	6.55	2.16	碧玉	施溝痕2カ所(平行)、研磨痕1面
225	260	A	素材石核	包含層	35.50	28.25	5.00	4.68	碧玉	素材選択時の切除部分、自然面多い
225	261	A	形割未成品	包含層	24.25	6.00	10.00	2.46	碧玉	施溝痕3カ所(平行・直交)、研磨痕2面
225	262	A	管玉未成品	包含層	23.00	7.00	6.50	2.04	碧玉	8角柱、うち3カ所は施溝痕を残す、全面に縦方向研磨痕
225	263	A	形割未成品	包含層	22.00	11.00	9.00	3.90	碧玉	施溝痕3カ所(平行・直交)、研磨痕3面
225	264	A	素材石核	包含層	46.70	57.40	40.70	145.3	碧玉	施溝痕1カ所、素材選択時の切除部分、一部に自然面残る
226	265	B	素材石核	包含層	46.50	16.50	31.00	21.60	碧玉	施溝痕2カ所(直交)、劣質、切除部分?
226	266	C	形割未成品	包含層	13.50	27.50	5.75	2.42	碧玉	研磨痕2面
226	267	B	形割未成品	包含層	24.50	34.00	19.50	25.50	碧玉	施溝痕3カ所(直交・斜交)、下面に浅い穿孔痕(径1.61mm)、孔中央突出
226	268	B	形割未成品	包含層	23.00	24.50	14.50	12.95	碧玉	施溝痕2カ所(平行)、白味強い、自然面残る
226	269	B	素材石核	包含層	60.00	16.50	6.50	7.68	碧玉	節理により板石状
226	270	B	形割未成品	包含層	18.00	7.00	6.00	1.27	碧玉	施溝痕1カ所、上下・側面に縦方向研磨痕4面
226	271		形割未成品	包含層	23.50	9.50	5.50	1.52	碧玉	施溝痕2カ所(平行)、研磨痕2面
226	272	B	素材石核	包含層	45.50	50.50	40.50	128.4	碧玉	施溝痕1カ所、ほぼ全面に剥離痕

報告書抄録

ふりがな	いちださいとうほういせき							
書名	市田斉当坊遺跡							
副書名								
巻次								
シリーズ名	京都府遺跡調査報告書							
シリーズ番号	第36冊							
編著者名	奥村清一郎・岩松保・森島康雄・野島永・高野陽子							
編集機関	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター							
所在地	〒617-0002 京都府向日市寺戸町南垣内40-3			Phone 075(933)3877				
発行年月日	西暦 2004 年 3 月 26 日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° ' "	° ' "		m <sup>2</sup>	
いちださいとうほういせき	きょうとふくせぐんくみやまちょうおおあざいちだこあざさいとうほう							
市田斉当坊遺跡	京都府久世郡久御山町大字市田小字斉当坊	26322		34° 53' 10"	135° 44' 58"	19981021 ～ 20010629	10,600	道路建設
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
市田斉当坊遺跡	集落・墓  条里制地割	弥生時代中期  平安～室町時代		竪穴式住居跡・土坑・方形周溝墓  土坑・井戸・溝		弥生土器・石器(石剣・石鏃・石斧・石庖丁・砥石・玉砥石・石鋸・石錐・石小刀・スクレイパーほか)・碧玉玉材・管玉未成品・管玉・井戸側木材 土師器・瓦器・羽釜・和鏡・五輪塔空風輪		山城地域弥生土器編年石器リダクシオン 玉作り集落遺跡 管玉未成品から錐糞を検出 花草双鳥鏡

備考：北緯・東経の値は世界測地系に基づく。

京都府遺跡調査報告書 第36冊〈本文編〉

平成16年3月26日

発行 (財)京都府埋蔵文化財調査研究  
センター

〒617-0002 向日市寺戸町南垣内40番の3  
Phone (075)933-3877 (代)

印刷 三星商事印刷株式会社

〒604-0093 京都市中京区新町通竹屋町下ル  
Phone (075)256-0961 (代)

『京都府遺跡調査報告書』第36冊正誤表

本文編

頁	場所	誤	正							
II	14行目	0～50 g までは1 mg単位(小数点第2位)	0～50 g までは10mg単位(小数点第2位)							
	16行目	(⑭新光電子DJM-300)	((株)新光電子DJM-300)							
89	9行目	竪穴式住居跡 S HC479	竪穴式住居跡 S HC479a							
118	32行目	水晶未成品(第46図)滑石製白玉2点(140・141)	水晶未成品(第46図)、滑石製白玉2点(140・141)							
119	28・29・30行目	大形	大型							
123	32行目	1648～658は、埴である。	1648～1658は、埴である。							
167	付表9 最下段	<table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr> <td>時期別総数</td> <td>14</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	時期別総数	14				<table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr> <td>時期別総数</td> <td>14</td> </tr> </table>	時期別総数	14
時期別総数	14									
時期別総数	14									
176	7行目	北部九州では、北部九州では、佐賀県に集中しており、	北部九州では、佐賀県に集中しており、							
203	31行目	当面久御山町教育委員会に保管される	早晚久御山町教育委員会に保管される							
204	9行目	岩松保・竹原一彦・野々口陽子	岩松保・竹原一彦・森島康雄ほか							
210	23行目	大半が溝や包含層出土資料がである。	大半が溝や包含層出土資料である。							
217	18～19行目	石井清司編『下植野南遺跡遺跡』Ⅱ(『京都府遺跡調査報告書』第35冊 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター) 2000	石井清司編『下植野南遺跡』Ⅱ(『京都府遺跡調査報告書』第35冊 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター) 2004							
233	14行目	ホテリングT 2乗検定6により	(注7) ホテリングT 2乗検定により							
236	13行目	直径が1.1mm以下の管玉	直径が11mm以下の管玉							
237	6行目	86257～86261の20個は蛍光X線分析で	86257～86261の30個は蛍光X線分析で							
	32行目	吉野ヶ里遺跡の南西サブトレ出土	吉野ヶ里遺跡の南西サブトレ出土							
	34行目	江別市の大麻2.2遺跡出土の	江別市の大麻22遺跡出土の							
238	28行目	Alloction of Jasper Archeological	Allocation of Jasper Archaeological							
239	9行目	測定されたgetaC濃度について	測定された <sup>14</sup> C濃度について							
247	12行目	Prunus seCT, Pudocerasus	Prunus sect, Pseudocerasus							
	21行目	マタタビ属 ACTinidia	マタタビ属 Actinidia							
248	22行目	Lagenaria siceraria Standl.	Lagenaria siceraria Standl.							
249	30行目	No.409 ニューサイエンス社) 1966	No.409 ニューサイエンス社) 1996							
260	32行目	比較的した堆積環境	比較的乾燥した堆積環境							
264	19行目	(4 試料、試料1～4)	(4 試料、試料4～7)							
	20行目	試料1は第4層の緑灰色シルト	試料4は第4層の緑灰色シルト							

264	20行目	試料2は第5層の暗褐色粘質土	試料5は第5層の暗褐色粘質土
	22行目	試料3は第6層のシルト混粘質土	試料6は第6層のシルト混粘質土
	22行目	試料4は第7層の灰緑色砂質土	試料7は第7層の灰緑色砂質土
268	8行目	採取層準や土相記載は	採取層準や土層記載は
271	17~18行目	S DC25の3試料において	S DC25の試料③において
	18行目	S DC401の5層試料で	S DC401の試料⑤で
272	6行目	S DC25の3層試料③で	S DC25の試料③で
	10行目	S DC25の③における	S DC25の試料③における
273	8行目	S DC401は④層から最下層⑦層の4試料で	S DC401は試料④から試料⑦の4試料で
	10~11行目	古墳の溝①・②層および弥生の溝下層③層の3試料で、	古墳の溝試料①・②および弥生の溝試料③の3試料で、
	15行目	年代はB. C. 3~2世紀後半である	年代はA. D. 3世紀後半である
275	21行目	付論8・9と共に報告されたものを	付論7・8と共に報告されたものを
277	図1中	30mm/div	30cm/div
279	図3中	30mm/div	30cm/div
280	19行目	SiO <sup>2</sup> %	SiO <sub>2</sub> %
281	2・6・8・9・ 12行目	SiO <sup>2</sup> %	SiO <sub>2</sub> %
282	13行目	(含雲母類)輝石類を伴う	(含雲母類)、輝石類を伴う
286	7行目	図1に示す。	図4に示す。
287	12~13行目	予想されことから、	予想されたことから、
	23行目	SiO <sup>2</sup>	SiO <sub>2</sub>
289	図1	鏡箱蓋塗膜のFT-IRチャート	鏡箱蓋塗膜のFT-IRチャート
316~380	付表14 土器観察 表(弥生土器)	項目「胎土造岩鉱物」の凡例追加 英=石英、長=長石、角=角セン石、雲=雲母、結=結晶片岩、チャ=チャート、赤=赤色斑粒の略	
320	遺物番号131	台形土製品	台形土器
348	遺物番号844	広口壺B2、口縁に黒斑、頸にスス	広口壺B、口縁に黒斑、頸にスス
361	遺物番号1203	甕C3	甕C2

図版編

図版番号	場所	誤	正
図版第87	下段	S K B 845 : 530・533・534 S K B 905 : 531・532	S K B 845 : 533・534 S K B 905 : 530・531・532
図版第213	遺物番号75	石器実測図内の横線をとる	



## 追悼

市田斉当坊遺跡の現地調査と整理作業を行っている間に、私達はかけがえのない先生と友人を失いました。

平成12年2月17日8時頃、京都大学大学院生遠山昭登君は、市田斉当坊遺跡の発掘現場へバイクで出勤途中、交通事故に会い、若くして還らぬ人となりました。享年24歳という、あまりにも短い人生でした。遠山君は千葉県船橋市に生まれ、平成7年に京都大学文学部に進み、11年の春に修士課程に進学したばかりでした。遠山君は大学で考古学を専攻し、卒業論文では古墳時代の玉類を扱っていました。遠山君には市田斉当坊遺跡の整理作業を通して、専門的な知識を生かした作業をしていただくつもりでした。遠山君も自身の研究テーマの幅を広げるために、積極的に作業を進めている矢先でした。遠山君が逝ってから、はや4年が経ちましたが、遠山君と過ごした日々は、今も私たちの記憶の中に鮮やかに刻まれています。木訥な口調、少しはにかんだような笑顔、バイクで颯爽と走る姿……。

平成14年7月10日に、当調査研究センター理事であられた佐原眞先生が逝去されました。佐原先生には昭和56年、当調査研究センター発足以来、理事としてご指導いただきました。平成14年2月15日には、市田斉当坊遺跡の整理報告作業にもご指導いただきましたが、それが当調査研究センターでの最後のご指導の場となりました。弥生土器の編年を考えるときは現地調査で行うこと、その際、近くの土手に階段をつくって、そこに先後関係を確かめた遺構から出土した土器を並べて比較検討していくものであることをお伺いしました。市田斉当坊遺跡の現地調査では、土器や石器を取り上げるだけで精一杯であったことが恥ずかしくも思われました。

市田斉当坊遺跡の現地作業や室内整理作業には、佐原先生と遠山君が在籍されていた京都大学文学部考古学研究室からも多くの学生に参加していただきました。佐原先生の弥生土器研究には遠く及びませんが、山城地域の弥生時代中期の土器資料を提示させていただきました。本来なら玉作りの考察に遠山君の名前も連なっているはずでした。私たちは、市田斉当坊遺跡の報告書を佐原先生と遠山君の御霊前に捧げることを目標にして、日々の仕事に邁進してきました。拙いながらもその目標を何とか達成することができました。

これからも佐原先生と遠山君の存在を心に留めて、調査と研究に励んでいきたいと思ひます。

心から謹んで、佐原眞先生と遠山昭登君のご冥福をお祈り申し上げます。

平成16年3月 現地調査および整理報告作業に携わった職員を代表して

石井清司・岩松 保・柴 暁彦・高野陽子・竹原一彦・辻本和美・野島 永・森島康雄